

デベロッパーガイド

AWS SDK for .NET (V3)



AWS SDK for .NET (V3): デベロッパーガイド

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは、Amazon のものではない製品またはサービスにも関連して、お客様に混乱を招いたり Amazon の信用を傷つけたり失わせたりするいかなる形においても使用することはできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

.....	xiii
AWS SDK for .NET とは	1
このバージョンについて	1
SDK メジャーバージョンのメンテナンスとサポート	2
一般的なユースケース	2
このセクションのその他のトピック	2
関連する AWS ツール	3
Tools for Windows PowerShell と Tools for PowerShell Core	3
Toolkit for VS Code	3
Toolkit for Visual Studio	3
Toolkit for Azure DevOps	4
サポートされているプラットフォーム	4
.NET Core	4
.NET Standard 2.0	4
.NET Framework 4.5	5
.NET Framework 3.5	5
ポータブルクラスライブラリと Xamarin	6
Unity のサポート	6
詳細情報	6
SDK とツールのリファレンス	6
改訂履歴	6
最新情報	7
その他のリソース	9
はじめに	12
ツールチェーンのインストールと設定	12
クロスプラットフォーム開発	13
Visual Studio と .NET Core を使用する Windows 環境	13
次のステップ	14
SDK 認証の設定	14
コンソール認証情報を使用してログインする	14
IAM Identity Center の有効化と設定	15
IAM Identity Center を使用するように SDK を構成します。	16
AWS アクセスポータルセッションを開始する	17
追加情報	18

クイックツアーに参加する	18
シンプルなクロスプラットフォームアプリ	19
シンプルな Windows ベースのアプリ	24
次のステップ	30
新しいプロジェクトを開始する	30
AWS リージョンを設定する	32
特定のリージョンを使用してサービスクライアントを作成する	32
すべてのサービスクライアント用にリージョンを指定する	33
リージョン解像度	34
中国 (北京) リージョンに関する特別な情報	35
新しい AWS サービスに関する新しい特別な情報	35
NuGet を使用して AWSSDK パッケージをインストールする	35
コマンドプロンプトまたはターミナルからの NuGet の使用	36
Visual Studio ソリューションエクスプローラーからの NuGet の使用	36
パッケージマネージャーコンソールからの NuGet の使用	37
NuGet を使用せずに AWSSDK アセンブリをインストールする	38
認証情報とプロファイルの解決	39
プロファイルの解決	40
フェデレーティッドユーザーアカウントの認証情報の使用	41
ロールまたは一時認証情報の指定	41
プロキシ認証情報の使用	42
ユーザーとロール	42
ユーザーとアクセス許可セット	43
サービスロール	43
高度な設定	44
AWSSDK.Extensions.NETCore.Setup および IConfiguration	45
他のアプリケーションパラメータの設定	49
AWS SDK for .NET の設定ファイルリファレンス	57
レガシー認証情報の使用	70
認証情報に関する重要な警告とガイダンス	71
共有 AWS 認証情報ファイルの使用	72
SDK ストアの使用 (Windows のみ)	75
SDK の機能	80
非同期 API	80
再試行とタイムアウト	82
再試行	82

タイムアウト	84
ページネーター	86
ページネーターの使用の可否	87
ページネーターを使用するメリット	87
同期と非同期のページ分割	87
例	88
ページネーターに関する追加の考慮事項	91
オブザーバビリティ	92
その他のリソース	93
TelemetryProvider の設定	93
メトリクス	95
テレメトリプロバイダー	96
その他のツール	98
AWSデプロイツール	98
AWS Message Processing Framework for .NET	98
.NET Aspire との統合	98
高度な認証	99
シングルサインオン	99
前提条件	100
SSO プロファイルのセットアップ	100
SSO トークンの生成と使用	102
その他のリソース	106
チュートリアル	107
チュートリアル: .NET アプリケーションのみ	107
チュートリアル: AWS CLI および .NET アプリケーション	116
AWS へのデプロイ	125
.NET CLI からデプロイする	125
IDE ツールキットからデプロイする	125
ユースケース	126
ASP.NET Core Apps	126
.NET コンソールアプリ	127
Blazor WebAssembly アプリ	128
AWS Lambda プロジェクト	129
前提条件	129
使用できる Lambda コマンド	129
デプロイ手順	130

プロジェクトを移行する	132
バージョン 3 への移行	132
AWS SDK for .NET のバージョンについて	132
SDK のアーキテクチャの再設計	132
破壊的変更	132
バージョン 3.5 への移行	134
バージョン 3.5 の変更点	134
同期コードの移行	136
バージョン 3.7 への移行	137
.NET Standard 1.3 からの移行	137
AWS サービスの使用	139
ガイダンス付きのコード例	139
CloudFormation	140
Amazon Cognito	144
DynamoDB	152
Amazon EC2	182
IAM	244
Amazon S3	264
Amazon SNS	274
Amazon SQS	278
AWS Lambda	311
API	311
前提条件	311
追加情報	312
トピック	312
Lambda Annotations	312
高レベルライブラリとフレームワーク	314
Message Processing Framework	314
AWS と .NET Aspire との統合	334
他のサービスと設定	335
コードの例	337
ACM	339
アクション	339
API ゲートウェイ	343
シナリオ	344
AWS コミュニティへの貢献	345

Aurora	345
シナリオ	344
Auto Scaling	346
アクション	339
シナリオ	344
Amazon Bedrock ランタイム	398
シナリオ	344
Amazon Nova	414
Amazon Nova Canvas	434
Anthropic Claude	436
Cohere Command	438
Meta Llama	442
Mistral AI	446
CloudWatch ログ	450
アクション	339
Amazon Cognito ID プロバイダー	464
アクション	339
シナリオ	344
Amazon Comprehend	488
アクション	339
シナリオ	344
Amazon DocumentDB	500
サーバーレスサンプル	501
DynamoDB	504
アクション	339
シナリオ	344
サーバーレスサンプル	501
AWS コミュニティへの貢献	345
Amazon EC2	571
基本	571
アクション	339
シナリオ	344
Amazon ECS	695
アクション	339
シナリオ	344
Elastic Load Balancing - バージョン 2	706

アクション	339
シナリオ	344
EventBridge	764
はじめに	764
基本	571
アクション	339
EventBridge スケジューラ	805
はじめに	764
アクション	339
シナリオ	344
Amazon Glacier	835
はじめに	764
アクション	339
AWS Glue	845
はじめに	764
基本	571
アクション	339
IAM	877
はじめに	764
基本	571
アクション	339
シナリオ	344
Amazon Keyspaces	974
はじめに	764
基本	571
アクション	339
Kinesis	1002
アクション	339
サーバーレスサンプル	501
AWS KMS	1020
アクション	339
Lambda	1032
はじめに	764
基本	571
アクション	339
シナリオ	344

サーバーレスサンプル	501
AWS コミュニティへの貢献	345
MediaConvert	1084
はじめに	764
アクション	339
Amazon MSK	1094
サーバーレスサンプル	501
組織	1096
アクション	339
パートナーセントラル	1115
アクション	339
Amazon Pinpoint	1121
アクション	339
Amazon Polly	1128
アクション	339
シナリオ	344
Amazon RDS	1141
はじめに	764
基本	571
アクション	339
シナリオ	344
サーバーレスサンプル	501
Amazon RDS データサービス	1180
シナリオ	344
Amazon Rekognition	1181
アクション	339
シナリオ	344
Route 53 ドメイン登録	1213
はじめに	764
基本	571
アクション	339
Amazon S3	1240
アクション	339
シナリオ	344
サーバーレスサンプル	501
SageMaker AI	1382

はじめに	764
アクション	339
シナリオ	344
Secrets Manager	1417
アクション	339
Amazon SES	1420
アクション	339
シナリオ	344
Amazon SES API v2	1435
アクション	339
シナリオ	344
Amazon SNS	1474
はじめに	764
アクション	339
シナリオ	344
サーバーレスサンプル	501
Amazon SQS	1520
はじめに	764
アクション	339
シナリオ	344
サーバーレスサンプル	501
ステップ関数	1564
はじめに	764
基本	571
アクション	339
AWS STS	1591
アクション	339
サポート	1594
はじめに	764
基本	571
アクション	339
Amazon Textract	1622
シナリオ	344
Amazon Transcribe	1623
アクション	339
Amazon Translate	1635

アクション	339
シナリオ	344
セキュリティ	1649
データ保護	1649
Identity and Access Management	1651
オーディエンス	1651
アイデンティティを使用した認証	1652
ポリシーを使用したアクセスの管理	1653
IAM AWS のサービス の操作方法	1655
AWS ID とアクセスのトラブルシューティング	1655
コンプライアンス検証	1657
耐障害性	1658
インフラストラクチャセキュリティ	1658
最小 TLS バージョンの適用	1659
.NET Core	1659
特定のランタイムライブラリまたは .NET Framework の最小バージョンが必要です。	1660
AWS Tools for PowerShell	1661
Xamarin	1662
Unity	1663
ブラウザ (Blazor WebAssembly 用)	1663
S3 暗号化クライアントの移行 (V1 から V2)	1663
移行の概要	1664
既存のクライアントを V1 移行用クライアントに更新して、新しい形式を読み取るようにする	1665
V1 移行用クライアントを V2 クライアントに移行して、新しい形式を書き込むようにする	1665
V2 クライアントを更新して V1 形式を読み取らないようにする	1669
S3 暗号化クライアントの移行 (V2 から V4)	1669
V4 の概念について	1670
既存のクライアントを更新して V4 形式を読み取る	1671
V4 クライアントへの移行	1672
その他の設定例	1676
特別な考慮事項	1679
AWSSDK アセンブリを入手する	1679
ZIP ファイルをダウンロードして抽出する	1679
アプリケーションでの認証情報とプロファイルへのアクセス	1680

クラス CredentialProfileStoreChain の例	1681
クラス SharedCredentialsFile と AWSCredentialsFactory の例	1682
Unity のサポート	1683
Xamarin のサポート	1684
API リファレンス	1685
API リファレンスのバージョンについて	1685
ドキュメント履歴	1688

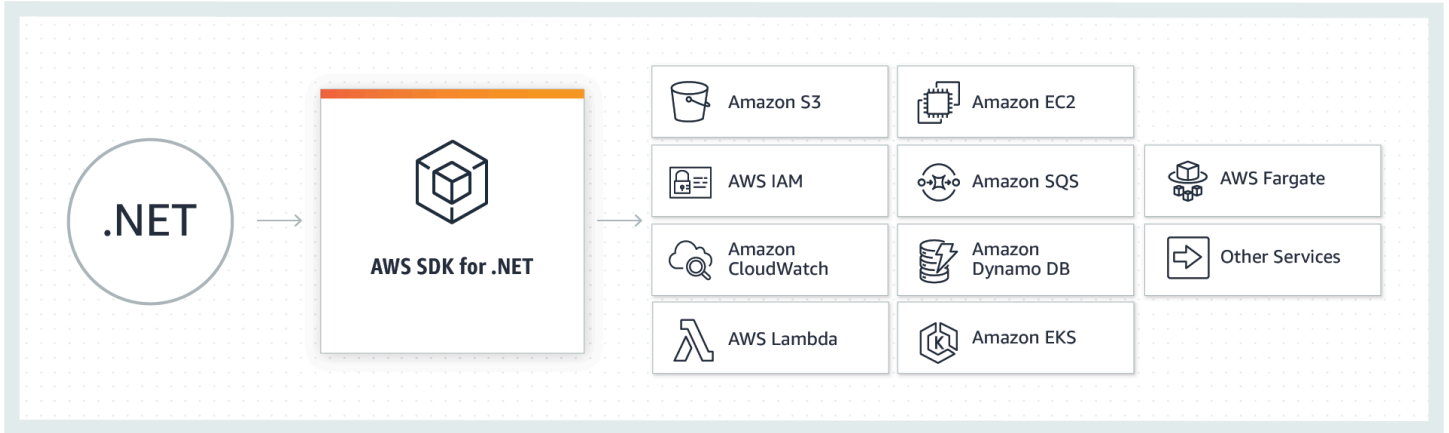
AWS SDK for .NET V3 がメンテナンスモードになりました。

[AWS SDK for .NET V4](#) に移行することをお勧めします。移行方法の詳細と情報については、[メンテナンスモードのお知らせ](#)を参照してください。

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。

AWS SDK for .NET とは

AWS SDK for .NET を利用すると、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) や Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) など、費用効果の高い、スケーラブルで信頼できる AWS サービスを利用する .NET アプリケーションを構築できます。SDK は、一貫性があり、.NET 開発者にとって使い慣れた一連のライブラリを提供することによって、AWS サービスの使用を簡素化します。



(OK、わかりました。[セットアップ](#)して[クイックツアーに参加する](#)準備が整いました。)

このバージョンについて

現在および過去のドキュメント

このドキュメントは AWS SDK for .NET のバージョン 3 (V3) 専用です。V3 は SDK の最新バージョンではありません。SDK の最新バージョンについては、「[AWS SDK for .NET \(V4\) デベロッパーガイド](#)」を参照してください。

このドキュメントでは、主に .NET Core と ASP.NET Core に焦点を当てていますが、.NET Framework および ASP.NET 4.x に関する情報についても説明します。Windows と Visual Studio に加えて、クロスプラットフォーム開発についても同等の考慮事項を提供します。SDK の以前のバージョンからの移行については、「[プロジェクトを移行する](#)」を参照してください。

以前のバージョンの SDK の廃止された内容を見つけるには、以下の項目を参照してください。

- [AWS SDK for .NET \(バージョン 2、廃止\) 開発者ガイド](#)

- [AWS SDK for .NET の廃止された API リファレンス](#)

SDK メジャーバージョンのメンテナンスとサポート

SDK メジャーバージョンのメンテナンスとサポート、およびその基礎的な依存関係については、[AWS SDK とツール共有設定および認証情報リファレンスガイド](#) で以下を参照してください。

- [AWS SDK とツールのメンテナンスポリシー](#)
- [AWS SDK とツールのバージョンサポートマトリクス](#)

一般的なユースケース

AWS SDK for .NET は、以下のような魅力的なユースケースを実現するのに役立ちます。

- [AWS Identity and Access Management \(IAM\)](#) を使用してユーザーおよびロールの管理します。
- [Amazon Simple Storage Service \(Amazon S3\)](#) にアクセスしてバケットを作成し、オブジェクトを格納します。
- トピックの [Amazon Simple Notification Service \(Amazon SNS\)](#) HTTP サブスクリプションを管理します。
- [S3 転送ユーティリティ](#) を使用して、Xamarin アプリケーションから Amazon S3 にファイルを転送します。
- [Amazon Simple Queue Service \(Amazon SQS\)](#) を使用して、システム内のコンポーネント間のメッセージとワークフローを処理します。
- SQL ステートメントを [Amazon S3 Select](#) に送信して、効率的な Amazon S3 転送操作を実行します。
- [Amazon EC2](#) インスタンスを作成および起動して、Amazon EC2 [スポットインスタンス](#) を設定およびリクエストします。

このセクションのその他のトピック

- [AWS SDK for .NET に関連する AWS ツール](#)
- [AWS SDK for .NET でサポートされているプラットフォーム](#)

- [AWS SDK とツールのリファレンスガイド](#)
- [改訂履歴](#)
- [AWS SDK for .NET の最新情報](#)
- [その他のリソース](#)

AWS SDK for .NET に関連する AWS ツール

Tools for Windows PowerShell と Tools for PowerShell Core

AWS Tools for Windows PowerShell と AWS Tools for PowerShell Core は、AWS SDK for .NET が公開している機能に基づいて構築された PowerShell モジュールです。AWS PowerShell ツールを使用すると、PowerShell プロンプトから AWS リソースへの操作を実行するスクリプトを作成できます。コマンドレットの実装には SDK のサービスクライアントとメソッドが使用されていますが、コマンドでは PowerShell の慣用的な方法に従ってパラメータを指定し、結果を処理できます。

開始するには、「[AWS Tools for Windows PowerShell](#)」を参照してください。

Toolkit for VS Code

[AWS Toolkit for Visual Studio Code](#) は、Visual Studio Code (VS Code) エディタ用のプラグインです。このツールキットを使用すると、AWS を使用するアプリケーションの開発、デバッグ、およびデプロイが容易になります。

このツールキットでは、次のような操作ができます。

- AWS Lambda 関数を含むサーバーレスアプリケーションを作成し、これらのアプリケーションを AWS CloudFormation スタックにデプロイする。
- Amazon EventBridge スキーマを使用する。
- IntelliSense を使用して Amazon ECS タスク定義ファイルを操作する。
- AWS Cloud Development Kit (AWS CDK) アプリケーションを視覚化する。

Toolkit for Visual Studio

AWS Toolkit for Visual Studio は、Amazon Web Services を使用した .NET アプリケーションの開発、デバッグ、デプロイを容易にする、Visual Studio IDE 用プラグインです。Toolkit for Visual Studio は、Lambda などのサービス用の Visual Studio テンプレートと、ウェブアプリケーション

やサーバーレスアプリケーション用のデプロイウィザードを提供します。AWS Explorer を使用して、Amazon EC2 インスタンスの管理、Amazon DynamoDB テーブルの操作、Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) キューへのメッセージの発行などのすべての操作を Visual Studio 内で実行できます。

開始するには、「[AWS Toolkit for Visual Studio のセットアップ](#)」を参照してください。

Toolkit for Azure DevOps

AWS Toolkit for Microsoft Azure DevOps は、Azure DevOps および Azure DevOps Server のビルドパイプラインとリリースパイプラインで AWS のサービスを簡単に使用するためのタスクを追加します。Amazon S3、AWS Elastic Beanstalk、AWS CodeDeploy、Lambda、AWS CloudFormation、Amazon Simple Queue Service (Amazon SQS)、および Amazon SNS を使用できます。Windows PowerShell モジュールと AWS Command Line Interface (AWS CLI) を使用してコマンドを実行することもできます。

AWS Toolkit for Azure DevOps の使用を開始するには、[AWS Toolkit for Microsoft Azure DevOps ユーザーガイド](#)を参照してください。

AWS SDK for .NET でサポートされているプラットフォーム

AWS SDK for .NET には、さまざまなプラットフォームを対象とする開発者向けに、異なるアセンブリのグループが用意されています。ただし、SDK のすべての機能がそれぞれのプラットフォームで同一というわけではありません。このトピックでは、各プラットフォームでのサポートの違いについて説明します。

.NET Core

AWS SDK for .NET は、.NET Core (.NET Core 3.1、.NET 5、.NET 6 など) 用に作成されたアプリケーションをサポートします。AWS サービス クライアントは、.NET Core の非同期呼び出しパターンのみをサポートします。これは、.NET Core 環境で非同期呼び出しのみをサポートしている Amazon S3 の TransferUtility のようなサービスクライアントの環境で構築された高レベルの抽象化の多くにも影響します。

.NET Standard 2.0

AWS SDK for .NET の非 Framework バリエーションは [.NET Standard 2.0](#) に準拠しています。AWS SDK for .NET は、.NET Standard に対して作成されたアプリケーションに対して非同期メソッドのみを提供します。

.NET Framework 4.5

Warning

2024 年 8 月 15 日以降、AWS SDK for .NET は .NET Framework 3.5 のサポートを終了し、.NET Framework の最小バージョンを 4.7.2 に変更します。詳細については、ブログ記事「[Important changes coming for .NET Framework 3.5 and 4.5 targets of the AWS SDK for .NET](#)」を参照してください。

このバージョンの AWS SDK for .NET は、.NET Framework 4.5 でコンパイルされ、.NET 4.0 ランタイムで実行されます。AWS サービスクライアントは、同期または非同期の呼び出しパターンをサポートし、[C# 5.0](#) で導入された [async および await](#) キーワードを使用します。

.NET Framework 3.5

Warning

2024 年 8 月 15 日以降、AWS SDK for .NET は .NET Framework 3.5 のサポートを終了し、.NET Framework の最小バージョンを 4.7.2 に変更します。詳細については、ブログ記事「[Important changes coming for .NET Framework 3.5 and 4.5 targets of the AWS SDK for .NET](#)」を参照してください。

このバージョンの AWS SDK for .NET は、.NET Framework 3.5 でコンパイルされ、.NET 2.0 または .NET 4.0 ランタイムで実行されます。AWS サービスクライアントは、同期または非同期の呼び出しパターンをサポートし、従来の Begin および End パターンを使用します。

Note

AWS SDK for .NET は、CLR のバージョン 2.0 でビルドされたアプリケーションで使用する場合には、連邦情報処理規格 (FIPS) に準拠していません。このような環境で FIPS 準拠の実装を代用する方法の詳細については、Microsoft のブログの「[CryptoConfig](#)」と、[CLR Security](#) チームの Security.Cryptography.dll の HMACSHA256 クラス (HMACSHA256Cng) を参照してください。

ポータブルクラスライブラリと Xamarin

AWS SDK for .NET には、ポータブルクラスライブラリの実装も含まれています。ポータブルクラスライブラリの実装では、ユニバーサル Windows プラットフォーム (UWP) や、Android と iOS の Xamarin など、複数のプラットフォームを対象にすることができます。詳細については、[Mobile SDK for .NET and Xamarin](#) を参照してください。AWS サービスクライアントは、非同期の呼び出しパターンのみをサポートしています。

Unity のサポート

Unity のサポートについては、「[Unity のサポートに関する特別な考慮事項](#)」を参照してください。

詳細情報

[バージョン 3.5 の AWS SDK for .NET への移行](#)

AWS SDK とツールのリファレンスガイド

「[AWS SDK およびツールリファレンスガイド](#)」には、多くの AWS SDK、ツールキット、および AWS CLI に関連し重要な情報が含まれています。以下は、リファレンスに含まれる情報のいくつかの例です。

- [共有 AWSconfig ファイルと credentials ファイルとその場所](#)に関する情報。
- [AWS アカウント、ユーザー、ロールの設定](#)
- [設定と認証設定のリファレンス](#)
- [AWS Common Runtime \(CRT\) ライブラリ](#)
- [AWS SDK とツールのメンテナンスポリシー](#)
- [AWS SDK とツールのバージョンサポートマトリクス](#)

改訂履歴

さまざまなリリースでの変更点については、以下を参照してください。

- [SDK 変更ログ](#)
- [AWS SDK for .NET の最新情報](#)
- [ドキュメント履歴](#)

AWS SDK for .NET の最新情報

AWS SDK for .NET に関連する新しい開発についてのハイレベルな情報については、<https://aws.amazon.com/sdk-for-net/> の製品ページと [SDK 変更ログ](#) を参照してください。

AWS SDK for .NET の最新情報は次のとおりです。

2025 年 10 月 17 日: AWS デプロイツールのバージョン 2.0

AWS Deploy Tool for .NET CLI のバージョン 2.0 がリリースされました。Deploy Tool については、「[アプリケーションのAWSへのデプロイ](#)」を参照してください。Deploy Tool のバージョン 2.0 の詳細については、ブログ記事「[What's New in the AWS Deploy Tool for .NET](#)」を参照してください。

2025 年 8 月 21 日: AWS SDK for .NET のバージョン 3 の今後のサポート終了

AWS SDK for .NET のこのバージョン (V3) のサポート終了が発表されました。V3 アプリケーションを移行し、中断を回避するには、「[V4 移行ガイド](#)」を参照してください。詳細については、ブログ記事「[Announcing the end-of-support for the AWS SDK for .NET v3](#)」を参照してください。

2025 年 5 月 5 日: AWS Message Processing Framework for .NET の一般公開

[AWS Message Processing Framework for .NET](#) が一般公開されました。フレームワークは、AWS ネイティブなフレームワークであり、Amazon Simple Queue Service (SQS)、Amazon Simple Notification Service (SNS)、Amazon EventBridge などの AWS サービスを使用する .NET メッセージ処理アプリケーションの開発を簡素化します。

2025 年 4 月 28 日: AWS SDK for .NET のバージョン 4

AWS SDK for .NET のバージョン 4 が一般公開されました。詳細については、「[AWS SDK for .NET \(V4\) デベロッパーガイド](#)」、特に「[バージョン 4 への移行](#)」に関するトピックを参照してください。

2025 年 2 月 15 日: .NET Aspire との統合

内部開発ループを改善するための .NET Aspire との統合がリリースされました。詳細については、「[AWS SDK for .NET での AWS と .NET Aspire との統合](#)」を参照してください。

2025 年 2 月 10 日: オブザーバビリティのための GA リリース

オブザーバビリティとは、システムが出力するデータから現在の状態をどの程度推論できるかを示します。テレメトリプロバイダーの実装など、オブザーバビリティが AWS SDK for .NET に追

加されました。詳細については、このガイドの「[オブザーバビリティ](#)」とブログ記事「[AWS .NET OpenTelemetry ライブラリの一般公開のお知らせ](#)」を参照してください。

2025 年 1 月 15 日: 整合性保護のための新しいデフォルト動作

AWS SDK for .NET のバージョン 3.7.412.0 以降、SDK はアップロードの CRC32 チェックサムを自動的に計算することで、デフォルトの整合性保護を提供します。詳細については、<https://github.com/aws/aws-sdk-net/issues/3610> の GitHub のお知らせを参照してください。SDK には、外部で設定できるデータ整合性保護のグローバル設定も用意されています。詳細については、「[AWS SDK および ツール リファレンス ガイド](#)」の「[データ整合性保護](#)」を参照してください。

2024 年 11 月 15 日: バージョン 4 のプレビュー 4 リリースのブログ投稿

AWS SDK for .NET バージョン 4 のプレビュー 4 は、2024 年 11 月 15 日にリリースされました。このプレビューの詳細については、ブログ記事「[AWS SDK for .NET V4 のプレビュー 4](#)」を参照してください。

2024 年 8 月 16 日: バージョン 4 のプレビュー 1 リリースのブログ記事

AWS SDK for .NET バージョン 4 は、2024 年 8 月 16 日に最初のプレビューとしてリリースされました。このプレビューの詳細については、ブログ記事「[AWS SDK for .NET V4 のプレビュー 1](#)」を参照してください。

2024 年 2 月 23 日: .NET 8 のサポートを追加

.NET 8 のサポートが AWS SDK for .NET に追加されました。最新の [NuGet パッケージ](#) または [.NET 8 以降をサポートするアセンブリ](#) を使用します。[Lambda のサポート](#) など、このサポートの詳細については、ブログ記事「[AWS での .NET 8 サポート](#)」を参照してください。

2024 年 2 月 18 日: .NET Framework サポートの今後の変更

2024 年 8 月 15 日以降、AWS SDK for .NET は .NET Framework 3.5 のサポートを終了し、.NET Framework の最小バージョンを 4.7.2 に変更します。詳細については、ブログ記事「[Important changes coming for .NET Framework 3.5 and 4.5 targets of the AWS SDK for .NET](#)」を参照してください。

2023-07-17: AWS Lambda アノテーションフレームワークが一般公開のために、リリースされました

[AWS Lambda アノテーションフレームワーク](#) では、C# ソースジェネレーターテクノロジーを使用することで、.NET 開発者が C# で Lambda 関数を記述するのがより自然に感じられるようになります。一般提供が開始されました。

2023-07-15: DynamoDB の分散キャッシュプロバイダーがプレビュー版でリリースされました

分散キャッシュプロバイダーライブラリにより、Amazon DynamoDB を ASP.NET Core の分散キャッシュフレームワークのストレージとして使用できます。詳細については、ブログ記事「[DynamoDB 用 AWS .NET 分散キャッシュプロバイダーの紹介 \(プレビュー\)](#)」と [GitHub](#) リポジトリを参照してください。

2022-07-13: AWS デプロイツールがリリースされました

AWS デプロイツールがリリースされました。このツールは、.NET CLI および AWS Toolkit for Visual Studio 用の対話型ツールであり、最小限の AWS の知識と最小限のクリックまたはコマンドで .NET アプリケーションを展開するのに役立ちます。詳細については、「[アプリケーションの AWS へのデプロイ](#)」を参照してください。

2020-08-24: バージョン 3.5 の SDK がリリースされました

- SDK のすべての非 Framework バリエーションに対するサポートを .NET Standard 2.0 に移行することで、.NET エクスペリエンスの標準化を進めました。詳細については「[バージョン 3.5 への移行](#)」を参照してください。
- 多くのサービスクライアントにページネーターが追加され、API の結果のページ分割がより便利になりました。詳細については、「[ページネーター](#)」を参照してください。

その他のリソース

サポートされる サービス

AWS SDK for .NET は、AWS インフラストラクチャ製品のほとんどをサポートしており、サービスの追加も頻繁に行っています。SDK によってサポートされている AWS のサービスの一覧については、[SDK README ファイル](#)を参照してください。

のホームページAWS SDK for .NET

AWS SDK for .NET の詳細については、SDK のホームページ (<https://aws.amazon.com/sdk-for-net/>) を参照してください。

SDK リファレンスドキュメント

SDK リファレンスドキュメントでは、SDK に付属するすべてのコードを参照して検索できます。詳細なドキュメントと使用例を確認できます。詳細については、「[AWS SDK for .NET API リファレンス](#)」を参照してください。

AWSre: POST (以前のAWSフォーラム)

AWS に関する質問やフィードバックを提供するには、[AWSre: BB Post](#) (特に [AWS SDK for .NET のトピック](#)) にアクセスしてください。各ドキュメント ページの下部には、関連する re:Post トピックに移動できる「Try AWS re:Post」リンクがあります。AWS エンジニアはトピックを監視し、質問、フィードバック、問題に対応します。

re: POST にログインしていれば、トピックをフォローすることもできます。AWS SDK for .NET のトピックをフォローするには、「[すべてのトピック](#)」ページに移動し、「.NET on AWS」を見つけて、「フォロー」ボタンを選択します。

ツールキット

- AWS Toolkit for Visual Studio : Microsoft Visual Studio IDE を使用する場合は、[AWS Toolkit for Visual Studio ユーザーガイド](#)を確認いただく必要があります。
- AWS Toolkit for Visual Studio Code : Microsoft Visual Studio IDE を使用する場合は、[AWS Toolkit for Visual Studio Code ユーザーガイド](#)を確認いただく必要があります。

便利なライブラリ、拡張機能、およびツール

Github ウェブサイトの [aws/dotnet](#) と [aws/aws-sdk-net](#) リポジトリには、AWS で .NET アプリケーションとサービスを構築するために役立つライブラリ、ツール、およびリソースへのリンクが用意されています。

次に例をいくつか示します。

- [AWS .NET Configuration Extension for Systems Manager](#)
- [AWS Extensions .NET Core セットアップ](#)
- [AWS Logging .NET](#)
- [Amazon Cognito Authentication 拡張ライブラリ](#)
- [AWS X-Ray SDK for .NET](#)

その他のリソース

役に立つと思われるその他のリソースは次のとおりです。

- [デベロッパーネット](#)
- [AWSクラウド上の .NET 開発環境-クイックスタートリファレンスデプロイ](#)

- [こんにちは、クラウド！ブログ](#)
- AWSホワイトペーパー:[AWSでの.NET アプリケーションの開発とデプロイ](#)
- [AWS Microservice Extractor for .NET](#)
- [Porting Assistant for .NET](#)
- [AWSSDK とツールのリファレンスガイド](#)

AWS SDK for .NET の開始方法

AWS SDK for .NETを使用するには、ツールチェーンをインストールし、アプリケーションがAWS サービスにアクセスするために必要ないくつかの重要な項目を設定する必要があります。具体的には次のとおりです。

- 適切なユーザーアカウントまたはロール
- そのユーザーアカウントの、またはそのロールを引き受けるための認証情報
- AWS リージョンの仕様
- AWSSDK パッケージまたはアセンブリ

このセクションのいくつかのトピックでは、これらの重要な項目の設定方法について説明します。

このセクションの他のトピックおよび他のセクションでは、プロジェクトを設定するさらに高度な方法について説明します。

トピック

- [ツールチェーンのインストールと設定](#)
- [を使用して SDK 認証を設定する AWS](#)
- [AWS SDK for .NET のクイックツアーに参加してください](#)
- [新しいプロジェクトを開始する](#)
- [AWS リージョンを設定する](#)
- [NuGet を使用して AWSSDK パッケージをインストールする](#)
- [NuGet を使用せずに AWSSDK アセンブリをインストールする](#)
- [認証情報とプロファイルの解決](#)
- [ユーザーとロールに関する追加情報](#)
- [AWS SDK for .NET プロジェクトの高度な設定](#)
- [レガシー認証情報の使用](#)

ツールチェーンのインストールと設定

AWS SDK for .NET を使用するには、特定の開発ツールがインストールされている必要があります。

クロスプラットフォーム開発

Windows、Linux、または macOS でのクロスプラットフォームの .NET 開発では以下が必要です。

- Microsoft [.NET Core SDK](#)、バージョン 2.1、3.1 以降。 .NET コマンドラインインターフェイス (CLI) (**dotnet**) および .NET Core ランタイムを含むものとします。
- 使用しているオペレーティングシステムと要件に適したコードエディタまたは統合開発環境 (IDE)。これは通常、.NET Core のサポートを含むものです。

例として、[Microsoft Visual Studio Code \(VS Code\)](#)、[JetBrains Rider](#)、[Microsoft Visual Studio](#) があります。

- (オプション) AWS ツールキット (選択したエディタとお使いのオペレーティングシステムで使用できる場合)。

例として [AWS Toolkit for Visual Studio Code](#)、[AWS Toolkit for JetBrains](#)、[AWS Toolkit for Visual Studio](#) があります。

Visual Studio と .NET Core を使用する Windows 環境

Visual Studio および .NET Core を使用した Windows での開発では以下が必要です。

- [Microsoft Visual Studio](#)
- Microsoft .NET Core 2.1, 3.1 以降

これは通常、Visual Studio の最新バージョンをインストールするとデフォルトで追加されます。

- (オプション) AWS Toolkit for Visual Studio。これは、Visual Studio から AWS リソースとローカルプロファイルを管理するためのユーザーインターフェイスを提供するプラグインです。ツールキットをインストールするには、「[AWS Toolkit for Visual Studio のセットアップ](#)」を参照してください。

詳細については、[AWS Toolkit for Visual Studio ユーザーガイド](#)を参照してください。

次のステップ

[を使用して SDK 認証を設定する AWS](#)

を使用して SDK 認証を設定する AWS

開発 AWS 時にコードが で認証される方法を確認する必要があります AWS のサービス。環境と利用可能なアクセスに応じて、AWS リソースへのプログラムによる AWS アクセスを設定する方法はさまざまです。

SDK のさまざまな認証方法を確認するには、「AWS SDK およびツール リファレンス ガイド」の「[認証とアクセス](#)」を参照してください。

このトピックでは、新しいユーザーがローカルで開発中であり、雇用主から認証方法が与えられておらず、AWS IAM Identity Center を使用して一時的な認証情報を取得することを前提としています。ご使用の環境がこれらの前提条件に当てはまらない場合、このトピックの情報の一部はお客様に該当しない場合や、既に提供されている可能性があります。

この環境を構成するにはいくつかのステップが必要で、その概要は以下のとおりです。

1. [コンソール認証情報を使用してログインする](#)
2. [IAM Identity Center の有効化と設定](#)
3. [IAM Identity Center を使用するように SDK を構成します。](#)
4. [AWS アクセスポータルセッションを開始する](#)

コンソール認証情報を使用してログインする

既存の AWS マネジメントコンソールのサインイン認証情報を使用して、AWS サービスにプログラムでアクセスできます。ブラウザベースの認証フローの後、は CLI AWS Tools for PowerShell や AWS SDK for AWS .NET v3 などのローカル開発ツールで動作する一時的な認証情報 AWS を生成します。

このプロセスでは、最初のアカунツ設定時に作成されたルート認証情報、IAM ユーザー、または ID プロバイダーからのフェデレーティッド ID を使用して認証でき、CLI AWS または AWS Tools for PowerShell が自動的に一時的な認証情報を管理します。このアプローチにより、長期的な認証情報をローカルに保存する必要がなくなるため、セキュリティが強化されます。

AWS CLI から `aws login` コマンドを実行すると、アクティブなコンソールセッションから選択することも、ブラウザベースの認証フローを通じてサインインすることもできます。これにより、一

時的な認証情報が自動的に生成されます。一時的な認証情報トークンは 15 分で期限切れになります。AWS SDK for .NET v3 はリクエスト中に必要に応じてトークンを自動的に更新します。

 Warning

この機能は .NET Framework ターゲットではサポートされていません。

 Important

認証にコンソール認証情報を使用している場合、AWS サインイン解決が機能するように、アプリケーションは次の NuGet パッケージを参照する必要があります。

- AWSSDK.Signin

これらのパッケージを参照しないと、ランタイム 例外が発生します。

- [CLI AWS を使用してコンソール認証情報を使用してログインします。](#)

AWS CLI の上記の手順に従ってログインすると、configファイルは次のようになります。

```
[default]
login_session = arn:aws:iam::0123456789012:user/username
region = us-east-1

[my-dev-profile]
login_session = arn:aws:iam::0123456789012:user/username
region = us-east-1
```

IAM Identity Center の有効化と設定

IAM Identity Center を使用するには、まず IAM Identity Center を有効にして構成する必要があります。SDK でこれを行う方法の詳細については、「AWS SDK およびツール リファレンス ガイド」の [IAM Identity Center 認証](#) に関するトピックのステップ 1 を参照してください。具体的には、「IAM Identity Center 経由のアクセスを確立していません」にある必要な指示に従ってください。

IAM Identity Center を使用するように SDK を構成します。

IAM Identity Center を使用するように SDK を設定する方法に関する情報は、「AWS SDK および ツールリファレンスガイド」の [IAM Identity Center 認証](#) に関するトピックのステップ 2 に記載されています。この設定を完了すると、システムには以下の要素が含まれるようになります。

- アプリケーションを実行する前に AWS アクセスポータルセッションを開始 AWS CLI するために使用する。
- SDK から参照できる設定値のセットを持つ [\[default\] プロファイル](#) を含む共有 AWS config ファイル。このファイルの場所を確認するには、「AWS SDK とツールのリファレンスガイド」の「[共有ファイルの場所](#)」を参照してください。AWS SDK for .NET は、リクエストを送信する前に、プロファイルの SSO トークンプロバイダーを使用して認証情報を取得します AWS。IAM Identity Center 許可セットに接続された IAM ロールである `sso_role_name` 値により、アプリケーションで使用されている AWS のサービス にアクセスできます。

次のサンプル config ファイルは、SSO トークンプロバイダーで設定されたデフォルトプロファイルを示しています。プロファイルの `sso_session` 設定は、指定された `sso-session` セクションを参照します。`sso-session` セクションには、AWS アクセスポータルセッションを開始するための設定が含まれています。

```
[default]
sso_session = my-sso
sso_account_id = 111122223333
sso_role_name = SampleRole
region = us-east-1
output = json

[sso-session my-sso]
sso_region = us-east-1
sso_start_url = https://provided-domain.awsapps.com/start
sso_registration_scopes = sso:account:access
```

Important

認証 AWS IAM Identity Center に を使用している場合、アプリケーションは SSO 解決が機能するように、次の NuGet パッケージを参照する必要があります。

- `AWSSDK.SSO`

- `AWSSDK.SS00IDC`

これらのパッケージを参照しないと、ランタイム 例外が発生します。

AWS アクセスポータルセッションを開始する

アクセスするアプリケーションを実行する前に AWS のサービス、SDK が IAM Identity Center 認証を使用して認証情報を解決するためのアクティブな AWS アクセスポータルセッションが必要です。設定したセッションの長さによっては、アクセスが最終的に期限切れになり、SDK で認証エラーが発生します。AWS アクセスポータルにサインインするには、で次のコマンドを実行します AWS CLI。

```
aws sso login
```

デフォルトのプロファイルを設定している場合は、`--profile` オプションを指定してコマンドを呼び出す必要はありません。SSO トークンプロバイダー設定で名前付きプロファイルを使用している場合、コマンドは `aws sso login --profile named-profile` です。

アクティブなセッションが既にあるかどうかをテストするには、次の AWS CLI コマンドを実行します。

```
aws sts get-caller-identity
```

このコマンドへの応答により、共有 config ファイルに設定されている IAM Identity Center アカウントとアクセス許可のセットが報告されます。

Note

既にアクティブな AWS アクセスポータルセッションがあり、 を実行している場合は `aws sso login`、認証情報を指定する必要はありません。

サインインプロセスにより、データ AWS CLI へのアクセスを許可するように求められる場合があります。AWS CLI は SDK for Python 上に構築されているため、アクセス許可メッセージには `botocore` 名前のバリエーションが含まれている可能性があります。

追加情報

- 開発環境での IAM Identity Center と SSO の使用に関する追加情報については、[高度な認証](#) セクションの [シングルサインオン](#) を参照してください。この情報には、代替方法やより高度な方法、そしてこれらの方法の使い方を紹介するチュートリアルが含まれています。
- プロファイルや環境変数の使用など、SDK の認証に関するその他のオプションについては、「AWS SDK およびツールリファレンスガイド」の [設定](#) に関する章を参照してください。
- ベストプラクティスの詳細については、IAM ユーザーガイドの「[IAM でのセキュリティのベストプラクティス](#)」を参照してください。
- 短期 AWS 認証情報を作成するには、IAM ユーザーガイドの「[一時的なセキュリティ認証情報](#)」を参照してください。
- その他の認証情報プロバイダーについては、「AWS SDK とツールのリファレンスガイド」の「[標準化された認証情報プロバイダー](#)」を参照してください。

AWS SDK for .NET のクイックツアーに参加してください

このセクションでは、AWS SDK for .NET を初めて使用する開発者向けの基本的なチュートリアルを提供します。

Note

これらのチュートリアルを使用する前に、まず [ツールチェーンをインストール](#) し、[SDK 認証を設定](#) しておく必要があります。

特定の AWS のサービス向けのソフトウェア開発とコード例については、「[AWS サービスの使用](#)」を参照してください。その他のコード例については、「[SDK for .NET コード例](#)」を参照してください。

トピック

- [AWS SDK for .NET を使用したシンプルなクロスプラットフォームアプリケーション](#)
- [AWS SDK for .NET を使用したシンプルな Windows ベースのアプリケーション](#)
- [次のステップ](#)

AWS SDK for .NET を使用したシンプルなクロスプラットフォームアプリケーション

このチュートリアルでは、AWS SDK for .NET と .NET Core を使用して、クロスプラットフォーム開発を行います。また、SDK を使用して、所有する [Amazon S3 バケット](#) を一覧表示し、必要に応じてバケットを作成する方法を説明します。

このチュートリアルは、.NET コマンドラインインターフェイス (CLI) などのクロスプラットフォームツールを使用して実行します。開発環境を設定するその他の方法については、「[ツールチェーンのインストールと設定](#)」を参照してください。

Windows、Linux、または macOS でのクロスプラットフォームの .NET 開発では必須:

- Microsoft [.NET Core SDK](#)、バージョン 2.1、3.1 以降。.NET コマンドラインインターフェイス (CLI) (**dotnet**) および .NET Core ランタイムを含むものとします。
- 使用しているオペレーティングシステムと要件に適したコードエディタまたは統合開発環境 (IDE)。これは通常、.NET Core のサポートを含むものです。

例として、[Microsoft Visual Studio Code \(VS Code\)](#)、[JetBrains Rider](#)、[Microsoft Visual Studio](#) があります。

Note

これらのチュートリアルを使用する前に、まず[ツールチェーンをインストール](#)し、[SDK 認証を設定しておく](#)必要があります。

ステップ

- [プロジェクトの作成](#)
- [コードの作成](#)
- [アプリケーションを実行する](#)
- [クリーンアップ](#)

プロジェクトの作成

1. コマンドプロンプトまたはターミナルを開きます。.NET プロジェクトを作成できるオペレーティングシステムフォルダを検索するか作成します。
2. そのフォルダで、次のコマンドを実行して .NET プロジェクトを作成します。

```
dotnet new console --name S3CreateAndList
```

3. 新しく作成した S3CreateAndList フォルダに移動し、次のコマンドを実行します。

```
dotnet add package AWSSDK.S3
dotnet add package AWSSDK.SecurityToken
dotnet add package AWSSDK.SSO
dotnet add package AWSSDK.SSO0IDC
```

上記のコマンドは、[NuGet パッケージ マネージャー](#)から NuGet パッケージをインストールします。このチュートリアルに必要な NuGet パッケージは正確にわかっているため、ここでこのステップを実行できます。また、開発中に必要なパッケージが判明することは一般的なことです。その場合は、その時点で同様のコマンドを実行できます。

コードの作成

1. S3CreateAndList フォルダで、Program.cs を見つけてコードエディタで開きます。
2. 内容を次のコードに置き換えて、ファイルを保存します。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;

// NuGet packages: AWSSDK.S3, AWSSDK.SecurityToken, AWSSDK.SSO, AWSSDK.SSO0IDC
using Amazon.Runtime;
using Amazon.Runtime.CredentialManagement;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;
using Amazon.SecurityToken;
using Amazon.SecurityToken.Model;

namespace S3CreateAndList
{
    class Program
    {
```

```

        // This code is part of the quick tour in the developer guide.
        // See https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-net/v3/developer-guide/quick-
start.html
        // for complete steps.
        // Requirements:
        // - An SSO profile in the SSO user's shared config file with sufficient
privileges for
        //   STS and S3 buckets.
        // - An active SSO Token.
        //   If an active SSO token isn't available, the SSO user should do the
following:
        //   In a terminal, the SSO user must call "aws sso login".

        // Class members.
        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Get SSO credentials from the information in the shared config file.
            // For this tutorial, the information is in the [default] profile.
            var ssoCreds = LoadSsoCredentials("default");

            // Display the caller's identity.
            var ssoProfileClient = new AmazonSecurityTokenServiceClient(ssoCreds);
            Console.WriteLine($"\\nSSO Profile:\\n {await
ssoProfileClient.GetCallerIdentityArn()}");

            // Create the S3 client is by using the SSO credentials obtained
earlier.
            var s3Client = new AmazonS3Client(ssoCreds);

            // Parse the command line arguments for the bucket name.
            if (GetBucketName(args, out String bucketName))
            {
                // If a bucket name was supplied, create the bucket.
                // Call the API method directly
                try
                {
                    Console.WriteLine($"\\nCreating bucket {bucketName}...");
                    var createResponse = await s3Client.PutBucketAsync(bucketName);
                    Console.WriteLine($"Result:
{createResponse.HttpStatusCode.ToString()}");
                }
                catch (Exception e)
                {
                    Console.WriteLine("Caught exception when creating a bucket:");

```

```
        Console.WriteLine(e.Message);
    }
}

// Display a list of the account's S3 buckets.
Console.WriteLine("\nGetting a list of your buckets...");
var listResponse = await s3Client.ListBucketsAsync();
Console.WriteLine($"Number of buckets: {listResponse.Buckets.Count}");
foreach (S3Bucket b in listResponse.Buckets)
{
    Console.WriteLine(b.BucketName);
}
Console.WriteLine();
}

//
// Method to parse the command line.
private static Boolean GetBucketName(string[] args, out String bucketName)
{
    Boolean retval = false;
    bucketName = String.Empty;
    if (args.Length == 0)
    {
        Console.WriteLine("\nNo arguments specified. Will simply list your
Amazon S3 buckets." +
            "\nIf you wish to create a bucket, supply a valid, globally
unique bucket name.");
        bucketName = String.Empty;
        retval = false;
    }
    else if (args.Length == 1)
    {
        bucketName = args[0];
        retval = true;
    }
    else
    {
        Console.WriteLine("\nToo many arguments specified." +
            "\n\n dotnet_tutorials - A utility to list your Amazon S3 buckets
and optionally create a new one." +
            "\n\n Usage: S3CreateAndList [bucket_name]" +
            "\n - bucket_name: A valid, globally unique bucket name." +
            "\n - If bucket_name isn't supplied, this utility simply lists
your buckets.");
    }
}
```

```
        Environment.Exit(1);
    }
    return retval;
}

//
// Method to get SSO credentials from the information in the shared config
file.
static AWSCredentials LoadSsoCredentials(string profile)
{
    var chain = new CredentialProfileStoreChain();
    if (!chain.TryGetAWSCredentials(profile, out var credentials))
        throw new Exception($"Failed to find the {profile} profile");
    return credentials;
}

// Class to read the caller's identity.
public static class Extensions
{
    public static async Task<string> GetCallerIdentityArn(this
IAmazonSecurityTokenService stsClient)
    {
        var response = await stsClient.GetCallerIdentityAsync(new
GetCallerIdentityRequest());
        return response.Arn;
    }
}
}
```

アプリケーションを実行する

1. 以下のコマンドを実行してください。

```
dotnet run
```

2. 出力を調べ、所有している Amazon S3 バケットの数 (存在する場合) とその名前を確認します。
3. 新しい Amazon S3 バケットの名前を選択します。「dotnet-quicktour-s3-1-cross-」をベースとして使用し、GUID や名前などのような一意のものを追加します。「[Amazon S3 ユーザーガイド](#)」の「[バケット命名規則](#)」で説明されているように、バケット名のルールに従ってください。

4. 次のコマンドを実行し、`amzn-s3-demo-bucket` を、選択したバケットの名前に置き換えます。

```
dotnet run amzn-s3-demo-bucket
```

5. 出力を調べて、作成された新しいバケットを確認します。

クリーンアップ

このチュートリアルでは、この時点でクリーンアップを選択できるいくつかのリソースを作成しました。

- 前のステップでアプリケーションが作成したバケットを保持しない場合は、<https://console.aws.amazon.com/s3/> の Amazon S3 コンソールを使用してバケットを削除します。
- .NET プロジェクトを保持しない場合は、開発環境から S3CreateAndList フォルダを削除します。

次の段階

[クイックツアーメニュー](#)に戻るか、[このクイックツアーの最後](#)までスキップします。

AWS SDK for .NET を使用したシンプルな Windows ベースのアプリケーション

このチュートリアルでは、Windows 上の AWS SDK for .NET と Visual Studio および .NET Core を使用します。また、SDK を使用して、所有する [Amazon S3 バケット](#) を一覧表示し、必要に応じてバケットを作成する方法を説明します。

このチュートリアルは、Visual Studio と .NET Core を使用して Windows で実行します。開発環境を設定するその他の方法については、「[ツールチェーンのインストールと設定](#)」を参照してください。

Visual Studio および .NET Core を使用した Windows での開発では必須:

- [Microsoft Visual Studio](#)
- Microsoft .NET Core 2.1, 3.1 以降

これは通常、Visual Studio の最新バージョンをインストールするとデフォルトで追加されます。

Note

これらのチュートリアルを使用する前に、まず[ツールチェーンをインストール](#)し、[SDK 認証を設定](#)しておく必要があります。

ステップ

- [プロジェクトの作成](#)
- [コードの作成](#)
- [アプリケーションを実行する](#)
- [クリーンアップ](#)

プロジェクトの作成

1. Visual Studio を開き、C# バージョンの Console App テンプレート (説明文に 「...for creating a command-line application that can run on .NET...」 と記載されているもの) を使用する新しいプロジェクトを作成します。プロジェクトに S3CreateAndList という名前を付けます。

Note

.NET Framework バージョンのコンソールアプリケーションテンプレートを選択しないでください。選択する場合は、必ず .NET Framework 4.7.2 以降を使用してください。

2. 新しく作成したプロジェクトを読み込んだら、[ツール]、[NuGet パッケージマネージャー]、[ソリューションの NuGet パッケージの管理] の順に選択します。
3. 次の NuGet パッケージをブラウズし、プロジェクト
AWSSDK.S3、AWSSDK.SecurityToken、AWSSDK.SSO、AWSSDK.SSO0IDC にインストールします。

このプロセスでは、[NuGet パッケージ マネージャー](#)から NuGet パッケージをインストールします。このチュートリアルに必要な NuGet パッケージは正確にわかっているため、ここでこのステップを実行できます。また、開発中に必要なパッケージが判明することは一般的なことです。その場合は、その時点で同様の手順に従ってインストールしてください。

4. コマンドプロンプトからアプリケーションを実行する場合は、ここでコマンドプロンプトを開き、ビルド出力を含むフォルダに移動します。通常は `S3CreateAndList\S3CreateAndList\bin\Debug\net6.0` のようになりますが、環境によって異なります。

コードの作成

1. `S3CreateAndList` プロジェクトで、`Program.cs` を探して IDE で開きます。
2. 内容を次のコードに置き換えて、ファイルを保存します。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;

// NuGet packages: AWSSDK.S3, AWSSDK.SecurityToken, AWSSDK.SSO, AWSSDK.SSO0IDC
using Amazon.Runtime;
using Amazon.Runtime.CredentialManagement;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;
using Amazon.SecurityToken;
using Amazon.SecurityToken.Model;

namespace S3CreateAndList
{
    class Program
    {
        // This code is part of the quick tour in the developer guide.
        // See https://docs.aws.amazon.com/sdk-for-net/v3/developer-guide/quick-start.html
        // for complete steps.
        // Requirements:
        // - An SSO profile in the SSO user's shared config file with sufficient
        //   privileges for
        //   STS and S3 buckets.
        // - An active SSO Token.
        //   If an active SSO token isn't available, the SSO user should do the
        //   following:
        //   In a terminal, the SSO user must call "aws sso login".

        // Class members.
        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Get SSO credentials from the information in the shared config file.
            // For this tutorial, the information is in the [default] profile.
```

```

        var ssoCreds = LoadSsoCredentials("default");

        // Display the caller's identity.
        var ssoProfileClient = new AmazonSecurityTokenServiceClient(ssoCreds);
        Console.WriteLine($"\\nSSO Profile:\\n {await
ssoProfileClient.GetCallerIdentityArn()}");

        // Create the S3 client is by using the SSO credentials obtained
earlier.
        var s3Client = new AmazonS3Client(ssoCreds);

        // Parse the command line arguments for the bucket name.
        if (GetBucketName(args, out String bucketName))
        {
            // If a bucket name was supplied, create the bucket.
            // Call the API method directly
            try
            {
                Console.WriteLine($"\\nCreating bucket {bucketName}...");
                var createResponse = await s3Client.PutBucketAsync(bucketName);
                Console.WriteLine($"Result:
{createResponse.HttpStatusCode.ToString()}");
            }
            catch (Exception e)
            {
                Console.WriteLine("Caught exception when creating a bucket:");
                Console.WriteLine(e.Message);
            }
        }

        // Display a list of the account's S3 buckets.
        Console.WriteLine("\\nGetting a list of your buckets...");
        var listResponse = await s3Client.ListBucketsAsync();
        Console.WriteLine($"Number of buckets: {listResponse.Buckets.Count}");
        foreach (S3Bucket b in listResponse.Buckets)
        {
            Console.WriteLine(b.BucketName);
        }
        Console.WriteLine();
    }

    //
    // Method to parse the command line.
    private static Boolean GetBucketName(string[] args, out String bucketName)

```



```

    {
        Boolean retval = false;
        bucketName = String.Empty;
        if (args.Length == 0)
        {
            Console.WriteLine("\nNo arguments specified. Will simply list your
Amazon S3 buckets." +
                "\nIf you wish to create a bucket, supply a valid, globally
unique bucket name.");
            bucketName = String.Empty;
            retval = false;
        }
        else if (args.Length == 1)
        {
            bucketName = args[0];
            retval = true;
        }
        else
        {
            Console.WriteLine("\nToo many arguments specified." +
                "\n\ndotnet_tutorials - A utility to list your Amazon S3 buckets
and optionally create a new one." +
                "\n\nUsage: S3CreateAndList [bucket_name]" +
                "\n - bucket_name: A valid, globally unique bucket name." +
                "\n - If bucket_name isn't supplied, this utility simply lists
your buckets.");
            Environment.Exit(1);
        }
        return retval;
    }

    //
    // Method to get SSO credentials from the information in the shared config
    file.
    static AWSCredentials LoadSsoCredentials(string profile)
    {
        var chain = new CredentialProfileStoreChain();
        if (!chain.TryGetAWSCredentials(profile, out var credentials))
            throw new Exception($"Failed to find the {profile} profile");
        return credentials;
    }
}

// Class to read the caller's identity.

```

```
public static class Extensions
{
    public static async Task<string> GetCallerIdentityArn(this
IAmazonSecurityTokenService stsClient)
    {
        var response = await stsClient.GetCallerIdentityAsync(new
GetCallerIdentityRequest());
        return response.Arn;
    }
}
```

3. アプリケーションをビルドします。

Note

古いバージョンの Visual Studio を使用している場合は、次のようなビルドエラーが発生することがあります。

"Feature 'async main' is not available in C# 7.0. Please use language version 7.1 or greater." (C# 7.0 では async main 機能を使用できません。言語バージョン 7.1 以降を使用してください。)

このエラーが発生した場合は、新しいバージョンの言語を使用するようにプロジェクトをセットアップします。これは通常、プロジェクトのプロパティ (Build、Advanced) で実行します。

アプリケーションを実行する

1. コマンドライン引数なしでアプリケーションを実行します。これは、コマンドプロンプト (すでに開いている場合) または IDE から行います。
2. 出力を調べ、所有している Amazon S3 バケットの数 (存在する場合) とその名前を確認します。
3. 新しい Amazon S3 バケットの名前を選択します。「dotnet-quicktour-s3-1-winvs-」をベースとして使用し、GUID や名前などのような一意のものを追加します。「[Amazon S3 ユーザーガイド](#)」の「[バケット命名規則](#)」で説明されているように、バケット名のルールに従ってください。
4. アプリケーションを再度実行します。今回はバケット名を指定します。

コマンドラインで、次のコマンドの *amzn-s3-demo-bucket* を、選択したバケットの名前に置き換えます。

```
S3CreateAndList amzn-s3-demo-bucket
```

または、IDE でアプリケーションを実行している場合は、[プロジェクト]、[S3CreateAndList プロパティ]、[デバッグ] の順に選択し、そこにバケット名を入力します。

5. 出力を調べて、作成された新しいバケットを確認します。

クリーンアップ

このチュートリアルでは、この時点でクリーンアップを選択できるいくつかのリソースを作成しました。

- 前のステップでアプリケーションが作成したバケットを保持しない場合は、<https://console.aws.amazon.com/s3/> の Amazon S3 コンソールを使用してバケットを削除します。
- .NET プロジェクトを保持しない場合は、開発環境から S3CreateAndList フォルダを削除します。

次の段階

[クイックツアーメニュー](#)に戻るか、[このクイックツアーの最後](#)までスキップします。

次のステップ

これらのチュートリアルの実行中に作成した残りのリソースは必ずすべてクリーンアップしてください。これらは、AWS のリソースまたは開発環境内のリソース (ファイルやフォルダなど) である可能性があります。

AWS SDK for .NET のツアーが完了したので、[プロジェクトを開始したい](#)とお考えかもしれません。

新しいプロジェクトを開始する

新しいプロジェクトを開始して AWS のサービスにアクセスするには、いくつかのテクニックを使用できます。これらのテクニックの一部を次に示します。

- AWS で .NET 開発を初めて行う場合や、AWS SDK for .NET を初めて使用する場合は、[クイックツアーに参加する](#)で完全な例をご確認ください。SDK についてわかりやすく説明しています。

- 基本的なプロジェクトは、.NET CLI を使用して開始できます。この例を表示するには、コマンドプロンプトまたはターミナルを開き、フォルダまたはディレクトリを作成してそこに移動し、次のように入力します。

```
dotnet new console --name [SOME-NAME]
```

空のプロジェクトが作成されます。これにコードと NuGet パッケージを追加できます。詳細については、[.NET Core ガイド](#)を参照してください。

プロジェクトテンプレートのリストを表示するには、以下を使用します。dotnet new --list

- AWS Toolkit for Visual Studio には、さまざまな AWS サービスの C# プロジェクトテンプレートが含まれています。Visual Studio で[ツールキットをインストール](#)すると、これらのテンプレートにアクセスして新しいプロジェクトを作成できます。

これを確認する方法については、[AWS Toolkit for Visual Studio ユーザーガイド](#)の「[AWS サービスでの作業](#)」を参照してください。このセクションに、新しいプロジェクトの作成例がいくつか含まれています。

- AWS Toolkit for Visual Studio を使用せずに Visual Studio を使用して Windows で開発する場合、一般的なテクニックを使用して新しいプロジェクトを作成します。

例を確認するには、Visual Studio を開き、[File] (ファイル)、[New] (新規作成)、[Project] (プロジェクト) の順に選択します。「.net core」を検索し、コンソールアプリ (.NET Core) または WPF アプリ (.NET Core) テンプレートを選択します。空のプロジェクトが作成されます。これにコードと NuGet パッケージを追加できます。

AWS での作業方法の例については、「[ガイダンス付きのコード例](#)」を参照してください。

Important

AWS IAM Identity Center を認証に使用している場合は、SSO 解決が機能するようにアプリケーションが次の NuGet パッケージを参照する必要があります。

- AWSSDK.SSO
- AWSSDK.SSO0IDC

これらのパッケージを参照しないと、ランタイム例外が発生します。

AWS リージョンを設定する

AWS リージョンにより、特定の地理的リージョンに物理的に存在する AWS サービスにアクセスすることができます。これは、冗長性と、ユーザーがアクセスする場所の近くでのデータとアプリケーションの実行を維持するために有効です。

各 AWS サービスでサポートされているすべてのリージョンとエンドポイントの現在のリストを表示するには、AWS 全般のリファレンスの「[DD のサービス エンドポイントとクォータ](#)」を参照してください。既存のリージョンエンドポイントのリストを表示するには、[AWS サービスエンドポイント](#)を参照してください。リージョンの詳細については、「[アカウントで利用できる AWS リージョンを指定する](#)」を参照してください。

[特定のリージョン](#)にアクセスする AWS サービスクライアントを作成できます。また、[すべての AWS サービスクライアント](#)に使用されるリージョンを使用してアプリケーションを設定することもできます。次に、この 2 つのケースについて説明します。

特定のリージョンを使用してサービスクライアントを作成する

アプリケーションのいずれかの AWS サービスクライアント用にリージョンを指定できます。この方法でのリージョンの設定は、特定のサービスクライアントのグローバル設定よりも優先されます。

既存のリージョン

この例では、既存のリージョンで [Amazon EC2 クライアント](#) をインスタンス化する方法を示します。ここでは、定義済み [RegionEndpoint](#) フィールドを使用します。

```
using (AmazonEC2Client ec2Client = new AmazonEC2Client(RegionEndpoint.USWest2))
{
    // Make a request to EC2 in the us-west-2 Region using ec2Client
}
```

RegionEndpoint クラスを使用した新しいリージョン

この例では、[RegionEndpoint.GetBySystemName](#) を使用して新しいリージョンエンドポイントを作成する方法を示しています。

```
var newRegion = RegionEndpoint.GetBySystemName("us-west-new");
using (var ec2Client = new AmazonEC2Client(newRegion))
{
    // Make a request to EC2 in the new Region using ec2Client
}
```

サービスクライアント設定クラスを使用した新しいリージョン

この例では、サービスクライアント設定クラスの ServiceURL プロパティを使用してリージョンを指定する方法を示しています (この例では、[AmazonEC2Config](#) クラスを使用)。

この手法は、エンドポイントリージョンが通常のエンドポイントパターンに従っていない場合でも有効です。

```
var ec2ClientConfig = new AmazonEC2Config
{
    // Specify the endpoint explicitly
    ServiceURL = "https://ec2.us-west-new.amazonaws.com"
};

using (var ec2Client = new AmazonEC2Client(ec2ClientConfig))
{
    // Make a request to EC2 in the new Region using ec2Client
}
```

すべてのサービスクライアント用にリージョンを指定する

アプリケーションによって作成されるすべての AWS サービスクライアント用にリージョンを指定する方法は複数あります。このリージョンは、特定のリージョンを使用して作成されていないサービスクライアントに使用されます。

AWS SDK for .NET は、以下の順序でリージョン値を検索します。

プロファイル

アプリケーションまたは SDK によってロードされたプロファイルを設定します。詳細については、「[認証情報とプロファイルの解決](#)」を参照してください。

環境変数

以下のように AWS_REGION 環境変数を設定します。

Linux または macOS の場合:

```
export AWS_REGION='us-west-2'
```

Windows の場合:

```
set AWS_REGION=us-west-2
```

Note

この環境変数をシステム全体に設定すると (export または setx を使用)、AWS SDK for .NET だけではなく、すべての SDK とツールキットが影響を受けます。

AWSConfigs クラス

以下のように [AWSConfigs.AWSRegion](#) プロパティとして設定します。

```
AWSConfigs.AWSRegion = "us-west-2";  
using (var ec2Client = new AmazonEC2Client())  
{  
    // Make request to Amazon EC2 in us-west-2 Region using ec2Client  
}
```

リージョン解像度

AWS リージョン の指定に上記のいずれの方法も使用されない場合、AWS SDK for .NET は AWS サービス クライアントが動作するリージョンを見つけようとします。

リージョン解像度オーダー

1. app.configやweb.configなどのアプリケーション設定ファイル。
2. 環境変数 (AWS_REGIONおよびAWS_DEFAULT_REGION)
3. AWSConfigs.AWSProfileName の値で指定された名前のプロファイル。
4. AWS_PROFILE 環境変数で指定された名前を持つプロファイル。
5. [default] のプロファイル。
6. Amazon EC2 インスタンスのメタデータ (EC2 インスタンスで実行されている場合)。

リージョンが見つからない場合、SDKは、AWS サービスクライアントにリージョンが設定されていないことを示す例外を投げます。

中国 (北京) リージョンに関する特別な情報

中国 (北京) リージョンでサービスを使用するには、中国 (北京) リージョン固有のアカウントと認証情報が必要です。他の AWS リージョンのアカウントと認証情報は、中国 (北京) リージョンでは使用できません。同様に、中国 (北京) リージョンのアカウントと認証情報は他の AWS リージョンでは使用できません。中国 (北京) リージョンで利用可能なエンドポイントとプロトコルの詳細については、「[北京リージョンのエンドポイント](#)」を参照してください。

新しい AWS サービスに関する新しい特別な情報

新しい AWS のサービスは、最初にいくつかのリージョンで開始された後で、他のリージョンでサポートされます。このような場合、そのサービス用の新しいリージョンにアクセスするために最新の SDK をインストールする必要はありません。新しく追加されたリージョンは、前述したように、クライアントごと、またはグローバルに指定できます。

NuGet を使用して AWSSDK パッケージをインストールする

[NuGet](#) は .NET プラットフォームのパッケージ管理システムです。NuGet を使用すると、[AWSSDK パッケージ](#)とその他のいくつかの拡張機能をプロジェクトにインストールできます。詳細については、GitHub ウェブサイトの [aws/dotnet](#) リポジトリを参照してください。

NuGet には常に AWSSDK パッケージの最新バージョンと以前のバージョンが含まれています。NuGet はパッケージ間の依存関係を認識し、必要なすべてのパッケージを自動的にインストールします。

Warning

NuGet パッケージのリストには、単に「AWSSDK」という名前の (識別子が付加されていない) パッケージが含まれていることがあります。この NuGet パッケージはインストールしないでください。これはレガシーであるため、新しいプロジェクトには使用できません。

NuGet を使用してインストールしたパッケージは、一元的な場所ではなく、プロジェクトと一緒に場所に保存されます。これにより、その他のアプリケーションの互換性問題を発生させることなく、特定のアプリケーションに固有のアセンブリバージョンをインストールすることができます。NuGet の詳細については、[NuGet のドキュメント](#)を参照してください。

Note

プロジェクトベースで NuGet パッケージをダウンロードしてインストールできない、または許可されていない場合は、AWSSDK アセンブリを入手して、ローカル (またはオンプレミス) に保存できます。

これが該当し、AWSSDK アセンブリをまだ入手していない場合は、「[AWSSDK アセンブリを入手する](#)」を参照してください。ローカルに保存されたアセンブリの使用方法については、「[NuGet を使用せずに AWSSDK アセンブリをインストールする](#)」を参照してください。

コマンドプロンプトまたはターミナルからの NuGet の使用

1. [NuGet の AWSSDK パッケージ](#)に移動し、プロジェクトに必要なパッケージ ([AWSSDK.S3](#)など) を決定します。
2. そのパッケージのウェブページから .NET CLI コマンドをコピーします。以下に例を示します。

```
dotnet add package AWSSDK.S3 --version 3.3.110.19
```

3. プロジェクトのディレクトリで、その .NET CLI コマンドを実行します。NuGet は、[AWSSDK.Core](#) などの依存関係があるものもすべてインストールします。

Note

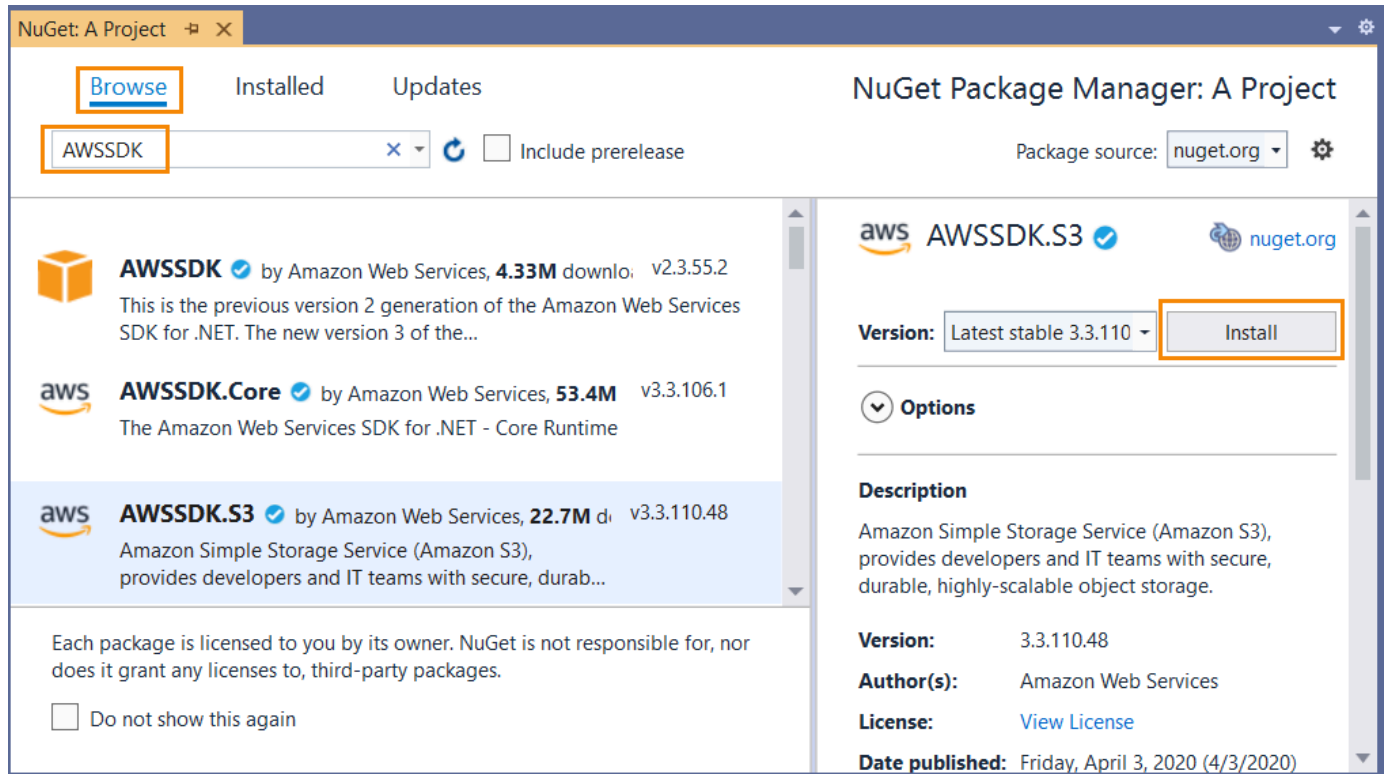
最新バージョンの NuGet パッケージのみが必要な場合は、以下の例に示すように、コマンドからバージョン情報を除外できます。

```
dotnet add package AWSSDK.S3
```

Visual Studio ソリューションエクスプローラーからの NuGet の使用

1. ソリューションエクスプローラーで、プロジェクトを右クリックして、コンテキストメニューの [NuGet パッケージの管理] を選択します。
2. NuGet パッケージマネージャーの左側のペインで、[参照] を選択します。検索ボックスを使用して、インストールするパッケージを検索できます。NuGet は、[AWSSDK.Core](#) などの依存関係があるものもすべてインストールします。

次の図は、AWSSDK.S3 パッケージのインストールを示しています。



パッケージマネージャーコンソールからの NuGet の使用

Visual Studio で [Tools] (ツール) メニューから、[Package Manager Console] (NuGet パッケージマネージャー)、[Package Manager Console] (パッケージマネージャーコンソール) を選択します。

パッケージマネージャーコンソールで **Install-Package** コマンドを使用して、必要な AWSSDK パッケージをインストールできます。たとえば、[AWSSDK.S3](#) をインストールするには、次のコマンドを使用します。

```
PM> Install-Package AWSSDK.S3
```

NuGet は、[AWSSDK.Core](#) などの依存関係があるものもすべてインストールします。

以前のバージョンのパッケージをインストールする必要がある場合は、**-Version** オプションを使用して希望するパッケージのバージョンを指定します。以下に例を示します。

```
PM> Install-Package AWSSDK.S3 -Version 3.3.106.6
```

Package Manager コンソールのコマンドの詳細については、Microsoft の [NuGet のドキュメント](#) の「[PowerShell リファレンス](#)」を参照してください。

NuGet を使用せずに AWSSDK アセンブリをインストールする

このトピックでは、「[AWSSDK アセンブリを入手する](#)」の説明に従って入手し、ローカル (または オンプレミス) に保存した AWSSDK アセンブリの使用方法について説明します。この方法は、SDK リファレンスの処理には推奨されませんが、一部の環境では必須です。

Note

SDK リファレンスを処理するには、各プロジェクトで必要とされる NuGet パッケージのみをダウンロードしてインストールする方法が推奨されます。その方法については、「[NuGet を使用して AWSSDK パッケージをインストールする](#)」を参照してください。

AWSSDK アセンブリをインストールするには

1. 必要な AWSSDK アセンブリのプロジェクト領域にフォルダを作成します。この例では、フォルダに `AwsAssemblies` と名前を付けます。
2. AWSSDK アセンブリをまだ入手していない場合は、[AWSSDK アセンブリを入手します](#)。アセンブリは、ローカルのダウンロードフォルダまたはインストールフォルダに保存されます。必要なアセンブリの DLL ファイルを、そのダウンロードフォルダからプロジェクト (この例の場合、`AwsAssemblies` フォルダ) にコピーします。

必ず依存関係もコピーします。依存関係については、[GitHub](#) ウェブサイトを参照してください。

3. 次のように、必要なアセンブリを参照します。

Cross-platform development

1. プロジェクトの `.csproj` ファイルを開き、`<ItemGroup>` 要素を追加します。
2. `<ItemGroup>` 要素では、必要なアセンブリごとに `Include` 属性を持つ `<Reference>` 要素を追加します。

たとえば、Amazon S3 の場合は、次の行をプロジェクトの `.csproj` ファイルに追加します。

Linux および macOS の場合:

```
<ItemGroup>
  <Reference Include="./AwsAssemblies/AWSSDK.Core.dll" />
  <Reference Include="./AwsAssemblies/AWSSDK.S3.dll" />
</ItemGroup>
```

Windows の場合:

```
<ItemGroup>
  <Reference Include="AwsAssemblies\AWSSDK.Core.dll" />
  <Reference Include="AwsAssemblies\AWSSDK.S3.dll" />
</ItemGroup>
```

3. プロジェクトの .csproj ファイルを保存します。

Windows with Visual Studio and .NET Core

1. Visual Studio で、プロジェクトをロードして、プロジェクトを開き、リファレンスを追加します。
2. ダイアログボックスの下部にある [Browse] (参照) ボタンをクリックします。プロジェクトのフォルダと必要な DLL ファイルをコピーしたサブフォルダ (AwsAssemblies など) に移動します。
3. すべての DLL ファイルを選択し、[Add] (追加)、[OK] の順に選択します。
4. プロジェクトを保存します。

認証情報とプロファイルの解決

AWS SDK for .NET は定められた順序で認証情報を検索し、最初に利用できるセットを現在のアプリケーションで使用します。

認証情報の検索順序

1. [アプリケーションでの認証情報とプロファイルへのアクセス](#) での記載に従い、AWS サービスクライアントで明示的に設定されている認証情報。

Note

このトピックは推奨される認証情報の指定方法ではないため、[特別な考慮事項](#) セクションに記載されています。

2. [AWSConfigs.AWSProfileName](#) の値で指定された名前を持つ認証情報プロファイル。
3. AWS_PROFILE 環境変数で指定された名前を持つ認証情報プロファイル。
4. [default] 認証情報プロファイル。
5. AWS_ACCESS_KEY_ID、AWS_SECRET_ACCESS_KEY および AWS_SESSION_TOKEN 環境変数がすべて空でない場合に変数を使用して生成される [SessionAWSCredentials](#)。
6. AWS_ACCESS_KEY_ID、AWS_SECRET_ACCESS_KEY 環境変数が両方とも空でない場合に変数を使用して作成される [BasicAWSCredentials](#)。
7. [コンテナ認証情報プロバイダー](#)。
8. Amazon EC2 インスタンスメタデータ。

アプリケーションが本番環境などの Amazon EC2 インスタンスで実行されている場合は、「[IAM ロールを使用したアクセス権の付与](#)」の説明に従って IAM ロールを使用します。それ以外の場合 (プレリリーステストなど) は、ウェブアプリケーションがサーバー上でアクセス可能な、AWS 認証情報ファイル形式を使用したファイルに認証情報を保存します。

プロファイルの解決

2 つの異なる認証情報ストレージメカニズムがあるため、それを使用するように AWS SDK for .NET を設定する方法を理解することが重要です。[AWSConfigs.AWSProfilesLocation](#) プロパティは、AWS SDK for .NET が認証情報プロファイルを検索する方法を制御します。

AWSProfilesLocation	プロファイルの解決動作
null (未設定) または空	プラットフォームでサポートされていれば SDK ストアを検索し、次に デフォルトの場所 にある共有 AWS 認証情報ファイルを検索します。プロファイルがいずれの場所にもない場合は、~/aws/config (Linux または macOS) または %USERPROFILE%\aws\config (Windows) を検索します。

AWSProfilesLocation	プロファイルの解決動作
AWS 認証情報ファイル形式のファイルへのパス	指定されたファイルのみを対象に、指定された名前のプロファイルを検索します。

フェデレーティッドユーザーアカウントの認証情報の使用

AWS SDK for .NET ([AWSSDK.Core](#) バージョン 3.1.6.0 以降) を使用するアプリケーションでは、Active Directory Federation Services (AD FS) を通じてフェデレーティッドユーザーアカウントを使用し、Security Assertion Markup Language (SAML) を使用することによって AWS サービスにアクセスできます。

フェデレーティッドアクセスサポートでは、ユーザーは Active Directory を使用して認証できます。一時的な認証情報は、自動的にユーザーに許可されます。これらの一時的な認証情報は 1 時間有効であり、アプリケーションで AWS サービスを呼び出す際に使用されます。一時的な認証情報の管理は SDK によって処理します。ドメイン結合されたユーザーアカウントでは、アプリケーションが呼び出しを行ったときに資格情報の有効期限が切れている場合に、そのユーザーは自動的に再認証され、新しい認証情報が付与されます (ドメイン結合されていないアカウントでは、ユーザーは再認証の前に認証情報の入力を求められます)。

このサポートを .NET アプリケーションで使用するには、まず PowerShell コマンドレットを使用してロールプロファイルを設定アップする必要があります。方法については、[AWS Tools for Windows PowerShell のドキュメント](#)を参照してください。

ロールプロファイルを設定したら、アプリケーションでプロファイルを参照します。そのための方法はいくつかありますが、その 1 つとして [AWSConfigs.AWSProfileName](#) プロパティを他の認証情報プロファイルと同じように設定する方法があります。

AWS Security Token Service アセンブリ ([AWSSDK.SecurityToken](#)) は、AWS 認証情報を取得するための SAML サポートを提供します。フェデレーティッドユーザーアカウントの認証情報を使用するには、アプリケーションでこのアセンブリが使用できることを確認してください。

ロールまたは一時認証情報の指定

Amazon EC2 インスタンスで実行されるアプリケーションの場合、認証情報を管理する最も安全な方法は、「[IAM ロールを使用したアクセス権の付与](#)」での説明に従って IAM ロールを使用することです。

組織外部のユーザーに対してソフトウェア実行可能ファイルが利用可能になるアプリケーションシナリオでは、一時的なセキュリティ認証情報を使用するようにソフトウェアを設計することをお勧めします。これらの認証情報は、AWS リソースへの制限されたアクセスの提供に加えて、指定された期間後に失効するという利点があります。一時的なセキュリティ認証情報の使用方法の詳細については、以下を参照してください。

- [一時的な認証情報](#)
- [Amazon Cognito アイデンティティプール](#)

プロキシ認証情報の使用

ソフトウェアがプロキシを介して AWS と通信する場合、サービスの Config クラスの ProxyCredentials プロパティを使用して、プロキシの認証情報を指定できます。サービスの Config クラスは通常、サービスのプライマリ名前空間の一部です。例として、[Amazon.CloudDirectory](#) 名前空間の [AmazonCloudDirectoryConfig](#) や [Amazon.GameLift](#) 名前空間の [AmazonGameLiftConfig](#) などがあります。

たとえば、[Amazon S3](#) の場合は、次のようなコードを使用できます。SecurelyStoredUserName と SecurelyStoredPassword は、[NetworkCredential](#) オブジェクトで指定されたプロキシ ユーザー名とパスワードです。

```
AmazonS3Config config = new AmazonS3Config();
config.ProxyCredentials = new NetworkCredential(SecurelyStoredUserName,
    SecurelyStoredPassword);
```

Note

SDK の以前のバージョンでは ProxyUsername および ProxyPassword が使用されていましたが、これらのプロパティは非推奨になりました。

ユーザーとロールに関する追加情報

AWS で .NET 開発を行ったり、AWS で NET アプリケーションを実行したりするには、これらのタスクに適したユーザー、アクセス許可セットとサービスロールの組み合わせが必要です。

作成する特定のユーザー、権限セット、サービス ロール、それらの使用法は、アプリケーションの要件によって異なります。それらが使用される理由とその作成方法について、以下でさらに説明します。

ユーザーとアクセス許可セット

長期的な認証情報を持つ IAM ユーザーアカウントを使用して AWS のサービスにアクセスすることは可能ですが、これはもはやベストプラクティスではなく、避ける必要があります。開発中であっても、AWS IAM Identity Center でユーザーとアクセス許可セットを作成し、ID ソースから提供される一時的な認証情報を使用するのがベストプラクティスです。

開発には、自分で作成したユーザー、または [SDK 認証の設定](#) で付与されたユーザーを使用できます。適切な AWS マネジメントコンソール アクセス許可があれば、そのユーザー用の最小特権のアクセス許可で別のアクセス許可セットを作成するか、開発プロジェクト専用の新しいユーザーを作成して、最小特権のアクセス許可セットを提供できます。選択する行動方針 (ある場合) は、状況によって異なります。

これらのユーザーとアクセス許可セット、および作成方法の詳細については、「AWS SDK とツールリファレンスガイド」の「[認証とアクセス](#)」と、「AWS IAM Identity Center ユーザーガイド」の「[はじめに](#)」を参照してください。

サービスロール

AWS サービスロールを作成すると、ユーザーに代わって AWS サービスにアクセスできます。このタイプのアクセスは、複数のユーザーがアプリケーションをリモートで実行する場合 (たとえば、この目的のために作成した Amazon EC2 インスタンス上で実行する場合など) に適しています。

サービスロールを作成するプロセスは状況によって異なりますが、基本的に次のプロセスを実行します。

1. AWS マネジメントコンソール にサインインして、IAM コンソール <https://console.aws.amazon.com/iam/> を開きます。
2. [ロール]、[ロールの作成] の順に選択します。
3. [AWS サービス] を選択して、[EC2] (この例の場合) を選択し、[EC2] ユースケース (この例の場合) を選択します。
4. [Next: Permissions] (次へ: アクセス権限) を選択し、アプリケーションが使用する AWS サービスに [適切なポリシー](#) を選択します。

⚠ Warning

AdministratorAccess ポリシーは選択しないでください。このポリシーを選択すると、お使いのアカウント内のほぼすべての情報の読み取りと書き込みのアクセス許可が有効になります。

5. [Next: Tags] (次へ: タグ) を選択して、必要なタグをすべて入力します。

タグに関する情報については、[IAM ユーザーガイド](#)の「[AWS リソースタグを使用したアクセスコントロール](#)」を参照してください。

6. [Next: Review] (次の手順: 確認) を選択し、ロール名とロールの説明を入力します。次に、[Create role (ロールの作成)] を選択します。

IAM ロールに関する概要については、[IAM ユーザーガイド](#)の「[ID \(\(ユーザー、グループ、ロール\)\)](#)」を参照してください。ロールの詳細については、同ガイドの「[IAM ロール](#)」トピックを参照してください。

ロールに関する追加情報

- Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) タスクで、[タスク用の IAM ロール](#)を使用します。
- Amazon EC2 インスタンスで実行中のアプリケーションに対して、[IAM ロール](#)を使用します。

AWS SDK for .NET プロジェクトの高度な設定

このセクションのトピックでは、お客様が関心を持つ可能性のある追加の設定タスクやメソッドについて説明します。

トピック

- [AWSSDK.Extensions.NETCore.Setup および IConfiguration インターフェイスの使用](#)
- [他のアプリケーションパラメータの設定](#)
- [AWS SDK for .NET の設定ファイルリファレンス](#)

AWSSDK.Extensions.NETCore.Setup および IConfiguration インターフェイスの使用

(このトピックは、以前は「.NET Core AWS SDK for .NET で を設定する」というタイトルでした)

.NET Core における最も大きな変更の 1 つは、ConfigurationManager と標準の app.config および web.config ファイルが削除されたことです。これらは .NET Framework および ASP.NET アプリケーションで使用されていました。

.NET Core での設定は、設定プロバイダーによって定められたキーと値のペアに基づいて行われます。設定プロバイダーは、コマンドライン引数、ディレクトリファイル、環境変数、設定ファイルなど、さまざまな設定ソースから設定データをキーと値のペアに読み込みます。

Note

詳細については、「[ASP.NET Core の構成](#)」を参照してください。

.NET Core AWS SDK for .NET で を簡単に使用するために、[AWSSDK.Extensions.NETCore.Setup](#) NuGet パッケージを使用できます。多くの .NET Core ライブラリと同様に、インターフェイスに拡張機能メソッドを追加して、AWS 設定をシームレスにIConfigurationします。

このパッケージのソースコードは GitHub の <https://github.com/aws/aws-sdk-net/tree/aws-sdk-net-v3.7/extensions/src/AWSSDK.Extensions.NETCore.Setup> にあります。

AWSSDK.Extensions.NETCore.Setup の使用

ASP.NET コアモデル-ビューコントローラー (MVC) アプリケーションを作成するとします。このアプリケーションは、Visual Studio で ASP.NET Core ウェブアプリケーションテンプレートを使用するか、または .NET Core CLI で `dotnet new mvc ...` を実行することにより作成できます。アプリケーションを作成すると、Startup.cs のコンストラクタは appsettings.json などの設定プロバイダーからさまざまな入力ソースを読み取ることによって設定を処理します。

```
public Startup(IConfiguration configuration)
{
    Configuration = configuration;
}
```

Configuration オブジェクトを使用して AWS のオプションを取得するには、まず `AWSSDK.Extensions.NETCore.Setup` NuGet パッケージを追加します。次に、以下の記載に従って設定ファイルにオプションを追加します。

プロジェクトに追加されたファイルの 1 つに、`appsettings.Development.json` があります。このファイルは、`EnvironmentName` が `Development` に設定された場合に対応します。開発時にこのファイルに設定を入力すると、ローカルテスト中にのみ読み取られます。を `Production` に `EnvironmentName` 設定した Amazon EC2 インスタンスをデプロイすると、このファイルは無視され、は Amazon EC2 インスタンス用に設定された IAM 認証情報とリージョンに AWS SDK for .NET フォールバックされます。

次の設定は、`appsettings.Development.json` 設定を指定するためにプロジェクトの AWS ファイルに追加できる値の例を示しています。

```
{
  "AWS": {
    "Profile": "local-test-profile",
    "Region": "us-west-2"
  },
  "SupportEmail": "TechSupport@example.com"
}
```

CSHTML ファイルの設定にアクセスするには、`Configuration` ディレクティブを使用します。

```
@using Microsoft.Extensions.Configuration
@inject IConfiguration Configuration

<h1>Contact</h1>

<p>
  <strong>Support:</strong> <a
    href='mailto:@Configuration["SupportEmail"]'>@Configuration["SupportEmail"]</a><br />
</p>
```

コードから ファイルで設定された AWS オプションにアクセスするには、に追加された `GetAWSOptions` 拡張メソッドを呼び出します `IConfiguration`。

これらのオプションからサービスクライアントを構築するには、`CreateServiceClient` を呼び出します。次の例は、Amazon S3 サービスクライアントを作成する方法を示しています。(必ず [AWSSDK.S3](#) NuGet パッケージをプロジェクトに追加してください)

```
var options = Configuration.GetAWSOptions();  
IAmazonS3 client = options.CreateServiceClient<IAmazonS3>();
```

appsettings.Development.json ファイルで複数のエントリを使用して、互換性のない設定を持つ複数のサービスクライアントを作成することもできます。次の例に示すように、service1 の設定には us-west-2 リージョンが含まれ、service2 の設定には特殊なエンドポイント URL が含まれています。

```
{  
  "service1": {  
    "Profile": "default",  
    "Region": "us-west-2"  
  },  
  "service2": {  
    "Profile": "default",  
    "ServiceURL": "URL"  
  }  
}
```

その後、JSON ファイルのエントリを使用することで、特定のサービスのオプションを取得できます。例えば、service1 の設定を取得するには以下を使用します。

```
var options = Configuration.GetAWSOptions("service1");
```

appsettings ファイルで指定できる値

appsettings.Development.json ファイルには次のアプリケーション設定値を設定できます。フィールド名は、記載された大文字小文字を区別して使用する必要があります。これらの設定の詳細については、「[AWS.Runtime.ClientConfig](#)」クラスを参照してください。

- Region
- Profile
- ProfilesLocation
- SignatureVersion
- RegionEndpoint
- UseHttp
- ServiceURL
- AuthenticationRegion

- AuthenticationServiceName
- MaxErrorRetry
- LogResponse
- BufferSize
- ProgressUpdateInterval
- ResignRetries
- AllowAutoRedirect
- LogMetrics
- DisableLogging
- UseDualstackEndpoint

ASP.NET Core の依存関係インジェクション

AWSSDK.Extensions.NETCore.Setup NuGet パッケージには、ASP.NET Core の新しい依存関係インジェクションシステムも組み込まれています。アプリケーションの Startup クラスの ConfigureServices メソッドは、MVC サービスが追加される場所です。アプリケーションが Entity Framework を使用している場合は、これが初期化される場所でもあります。

```
public void ConfigureServices(IServiceCollection services)
{
    // Add framework services.
    services.AddMvc();
}
```

Note

.NET Core の依存関係インジェクションの背景については、[.NET Core のドキュメントサイト](#)を参照してください。

AWSSDK.Extensions.NETCore.Setup NuGet パッケージは、依存関係インジェクションに AWS サービスを追加するために IServiceCollection 使用できる新しい拡張機能メソッドを に追加します。次のコードは、読み取り元の AWS オプションを追加して Amazon S3 と DynamoDB をサービスのリスト IConfiguration に追加する方法を示しています。(必ず [AWSSDK.S3](#) および [AWSSDK.DynamoDBv2](#) NuGet パッケージをプロジェクトに追加してください)

```
public void ConfigureServices(IServiceCollection services)
{
    // Add framework services.
    services.AddMvc();

    services.AddDefaultAWSOptions(Configuration.GetAWSOptions());
    services.AddAWSService<IAmazonS3>();
    services.AddAWSService<IAmazonDynamoDB>();
}
```

ここで、MVC コントローラーがコンストラクタで `IAmazonS3` または `IAmazonDynamoDB` のいずれかをパラメータとして使用している場合、依存関係インジェクションシステムはこれらのサービスを渡します。

```
public class HomeController : Controller
{
    IAmazonS3 S3Client { get; set; }

    public HomeController(IAmazonS3 s3Client)
    {
        this.S3Client = s3Client;
    }

    ...
}
```

他のアプリケーションパラメータの設定

Note

このトピックの情報は、.NET Framework に基づくプロジェクトに固有のものです。.NET Core に基づくプロジェクトでは、デフォルトでは `App.config` および `Web.config` ファイルは存在しません。

開いて .NET Framework のコンテンツを表示する

設定可能なアプリケーションパラメータは多数あります。

- [AWSLogging](#)

- [AWSLogMetrics](#)
- [AWSRegion](#)
- [AWSResponseLogging](#)
- [AWS.DynamoDBContext.TableNamePrefix](#)
- [AWS.S3.UseSignatureVersion4](#)
- [AWSEndpointDefinition](#)
- [AWS サービス生成エンドポイント](#)

これらのパラメータは、アプリケーションの App.config ファイルまたは Web.config ファイルで設定できます。AWS SDK for .NET API を使用してこれらを設定することもできますが、アプリケーションの .config ファイルを使用することをお勧めします。ここでは、両方のアプローチについて説明します。

このトピックで後ほど説明する <aws> エレメントの使用方法的詳細については、「[AWS SDK for .NET の設定ファイルリファレンス](#)」を参照してください。

AWSLogging

SDK でイベントを記録する方法を設定します。例えば、推奨される方法としては <aws> 要素の子要素である <logging> 要素の使用があります。

```
<aws>
  <logging logTo="Log4Net"/>
</aws>
```

または:

```
<add key="AWSLogging" value="log4net"/>
```

指定できる値は以下のとおりです。

None

イベントのログ記録を無効にします。これがデフォルトです。

log4net

log4net を使用してログを記録します。

SystemDiagnostics

System.Diagnostics クラスを使用してログを記録します。

コンマで区切ることで、logTo 属性に複数の値を設定できます。次の例では、.config ファイルを使用して log4net ログと System.Diagnostics ログの両方を設定します。

```
<logging logTo="Log4Net, SystemDiagnostics"/>
```

または:

```
<add key="AWSLogging" value="log4net, SystemDiagnostics"/>
```

または、AWS SDK for .NET API を使用して、[LoggingOptions](#) 列挙の値を組み合わせ、[AWSConfigs.Logging](#) プロパティを設定します。

```
AWSConfigs.Logging = LoggingOptions.Log4Net | LoggingOptions.SystemDiagnostics;
```

この設定の変更は、新しい AWS クライアントインスタンスに対してのみ有効になります。

AWSLogMetrics

SDK でパフォーマンスメトリクスを記録するかどうかを指定します。.config ファイルでメトリクスのログを設定するには、<logging> 要素の logMetrics 属性値を設定します。これは、<aws> 要素の子要素です。

```
<aws>
  <logging logMetrics="true"/>
</aws>
```

または、<appSettings> セクションで AWSLogMetrics キーを設定します。

```
<add key="AWSLogMetrics" value="true">
```

または、AWS SDK for .NET API でメトリクスのログ記録を設定するには、[AWSConfigs.LogMetrics](#) プロパティを設定します。

```
AWSConfigs.LogMetrics = true;
```


この設定では、すべてのクライアント/設定のデフォルトの LogMetrics プロパティを設定します。この設定の変更は、新しい AWS クライアントインスタンスに対してのみ有効になります。

AWSRegion

AWS リージョンを明示的に指定していないクライアントのデフォルトリージョンを設定します。.config ファイルでリージョンを設定する推奨される方法は、aws 要素の region 属性値を設定することです。

```
<aws region="us-west-2"/>
```

または、<appSettings> セクションで AWSRegion キーを設定します。

```
<add key="AWSRegion" value="us-west-2"/>
```

または、AWS SDK for .NET API を使用してリージョンを設定するには、[AWSConfigs.AWSRegion](#) プロパティを設定します。

```
AWSConfigs.AWSRegion = "us-west-2";
```

特定のリージョンの AWS クライアントの作成の詳細については、[AWS 「リージョンの選択」](#) を参照してください。この設定の変更は、新しい AWS クライアントインスタンスに対してのみ有効になります。

AWSResponseLogging

SDK がサービス応答を記録するタイミングを設定します。指定できる値は以下のとおりです。

Never

サービス応答を記録しません。これがデフォルトです。

Always

常にサービス応答を記録します。

OnError

エラーが発生したときのみサービス応答を記録します。

.config ファイルでサービス ログを設定する推奨される方法は、<logging> 要素の logResponses 属性値を設定することです。これは、<aws> 要素の子要素です。

```
<aws>
  <logging logResponses="OnError"/>
</aws>
```

または、<appSettings> セクションで `AWSResponseLogging` キーを設定します。

```
<add key="AWSResponseLogging" value="OnError"/>
```

または、AWS SDK for .NET API でサービスログ記録を設定するには、[AWSConfigs.ResponseLogging](#) プロパティを [ResponseLoggingOption](#) 列挙のいずれかの値に設定します。

```
AWSConfigs.ResponseLogging = ResponseLoggingOption.OnError;
```

この設定に対する変更はすぐに反映されます。

AWS.DynamoDBContext.TableNamePrefix

手動で設定しなかった場合に `DynamoDBContext` で使用されるデフォルトの `TableNamePrefix` を設定します。

.config ファイルでテーブル名プレフィックスを設定する際の推奨される方法は、<dynamoDBContext> 要素の `tableNamePrefix` 属性値を設定することです。この要素は <dynamoDB> 要素の子要素であり、これ自体は <aws> 要素の子要素です。

```
<dynamoDBContext tableNamePrefix="Test-"/>
```

または、<appSettings> セクションで `AWS.DynamoDBContext.TableNamePrefix` キーを設定します。

```
<add key="AWS.DynamoDBContext.TableNamePrefix" value="Test-"/>
```

または、AWS SDK for .NET API でテーブル名のプレフィックスを設定するには、[AWSConfigs.DynamoDBContextTableNamePrefix](#) プロパティを設定します。

```
AWSConfigs.DynamoDBContextTableNamePrefix = "Test-";
```

この設定への変更は、`DynamoDBContextConfig` および `DynamoDBContext` の新しく構築されたインスタンスのみに有効です。

AWS.S3.UseSignatureVersion4

Amazon S3 クライアントがリクエストへの署名で署名バージョン 4 を使用するかどうかを設定します。

Amazon S3 の署名バージョン 4 での署名を .config ファイルで設定する際に推奨される方法は、<s3> 要素の useSignatureVersion4 属性を設定することです。これは、<aws> 要素の子要素です。

```
<aws>
  <s3 useSignatureVersion4="true"/>
</aws>
```

または、AWS.S3.UseSignatureVersion4 セクションで true キーを <appSettings> に設定します。

```
<add key="AWS.S3.UseSignatureVersion4" value="true"/>
```

または、AWS SDK for .NET API で署名バージョン 4 の署名を設定するには、[AWSConfigs.S3UseSignatureVersion4](#) プロパティを に設定しますtrue。

```
AWSConfigs.S3UseSignatureVersion4 = true;
```

デフォルトでは、この設定は false ですが、一部のケースまたは一部のリージョンではデフォルトで署名バージョン 4 が使用される場合があります。設定が true の場合、すべてのリクエストに署名バージョン 4 が使用されます。この設定の変更は新しい Amazon S3 クライアントインスタンスに対してのみ有効です。

AWS.EndpointDefinition

SDK がリージョンとエンドポイントを定義するカスタム設定ファイルを使用するかどうかを設定します。

.config ファイルでエンドポイント定義ファイルを設定するには、<aws> 要素の endpointDefinition 属性値を設定することをお勧めします。

```
<aws endpointDefinition="c:\config\endpoints.json"/>
```

または、<appSettings> セクションで AWS.EndpointDefinition キーを設定できます。

```
<add key="AWSEndpointDefinition" value="c:\config\endpoints.json"/>
```

または、AWS SDK for .NET API を使用してエンドポイント定義ファイルを設定するには、[AWSConfigs.EndpointDefinition](#) プロパティを設定します。

```
AWSConfigs.EndpointDefinition = @"c:\config\endpoints.json";
```

ファイル名が指定されていない場合、カスタム設定ファイルは使用されません。この設定の変更は、新しい AWS クライアントインスタンスに対してのみ有効になります。endpoint.json ファイルは、<https://github.com/aws/aws-sdk-net/blob/aws-sdk-net-v3.7/sdk/src/Core/endpoints.json> から入手できます。

AWS サービス生成エンドポイント

一部の AWS サービスは、リージョンエンドポイントを使用する代わりに独自のエンドポイントを生成します。これらのサービスのクライアントは、そのサービスおよびリソースに固有のサービス URL を使用します。これらのサービスの 2 つの例は、Amazon CloudSearch と です AWS IoT。次の例は、これらのサービスのエンドポイントを取得する方法を示しています。

Amazon CloudSearch エンドポイントの例

Amazon CloudSearch クライアントは、Amazon CloudSearch 設定サービスにアクセスするために使用されます。Amazon CloudSearch 設定サービスを使用して、検索ドメインを作成、設定、管理します。検索ドメインを作成するには、[CreateDomainRequest](#) オブジェクトを作成し、DomainName プロパティを指定します。リクエストオブジェクトを使用して [AmazonCloudSearchClient](#) オブジェクトを作成します。[CreateDomain](#) メソッドを呼び出します。呼び出しから返される [CreateDomainResponse](#) オブジェクトには、DocService および SearchService エンドポイントの両方を持つ DomainStatus プロパティが含まれます。[AmazonCloudSearchDomainConfig](#) オブジェクトを作成し、それを使用して [AmazonCloudSearchDomainClient](#) クラスの DocService および SearchService インスタンスを初期化します。

```
// Create domain and retrieve DocService and SearchService endpoints
DomainStatus domainStatus;
using (var searchClient = new AmazonCloudSearchClient())
{
    var request = new CreateDomainRequest
    {
        DomainName = "testdomain"
    };
    domainStatus = searchClient.CreateDomain(request).DomainStatus;
```

```
        Console.WriteLine(domainStatus.DomainName + " created");
    }

    // Test the DocService endpoint
    var docServiceConfig = new AmazonCloudSearchDomainConfig
    {
        ServiceURL = "https://" + domainStatus.DocService.Endpoint
    };
    using (var domainDocService = new AmazonCloudSearchDomainClient(docServiceConfig))
    {
        Console.WriteLine("Amazon CloudSearchDomain DocService client instantiated using
the DocService endpoint");
        Console.WriteLine("DocService endpoint = " + domainStatus.DocService.Endpoint);

        using (var docStream = new FileStream(@"C:\doc_source\XMLFile4.xml",
        FileMode.Open))
        {
            var upload = new UploadDocumentsRequest
            {
                ContentType = ContentType.ApplicationXml,
                Documents = docStream
            };
            domainDocService.UploadDocuments(upload);
        }
    }

    // Test the SearchService endpoint
    var searchServiceConfig = new AmazonCloudSearchDomainConfig
    {
        ServiceURL = "https://" + domainStatus.SearchService.Endpoint
    };
    using (var domainSearchService = new
    AmazonCloudSearchDomainClient(searchServiceConfig))
    {
        Console.WriteLine("Amazon CloudSearchDomain SearchService client instantiated using
the SearchService endpoint");
        Console.WriteLine("SearchService endpoint = " +
        domainStatus.SearchService.Endpoint);

        var searchReq = new SearchRequest
        {
            Query = "Gambardella",
            Sort = "_score desc",
            QueryParser = QueryParser.Simple
```

```
};  
var searchResp = domainSearchService.Search(searchReq);  
}
```

AWS IoT エンドポイントの例

のエンドポイントを取得するには AWS IoT、[AmazonIoTClient](#) オブジェクトを作成し、[DescribeEndPoint](#) メソッドを呼び出します。返される [DescribeEndPointResponse](#) オブジェクトには、EndpointAddress が含まれます。[AmazonIotDataConfig](#) オブジェクトを作成し、ServiceURL プロパティを設定します。次に、このオブジェクトを使用して [AmazonIotDataClient](#) クラスをインスタンス化します。

```
string iotEndpointAddress;  
using (var iotClient = new AmazonIoTClient())  
{  
    var endPointResponse = iotClient.DescribeEndpoint();  
    iotEndpointAddress = endPointResponse.EndpointAddress;  
}  
  
var iotDocServiceConfig = new AmazonIotDataConfig  
{  
    ServiceURL = "https://" + iotEndpointAddress  
};  
using (var dataClient = new AmazonIotDataClient(iotDocServiceConfig))  
{  
    Console.WriteLine("AWS IoTData client instantiated using the endpoint from the  
    IotClient");  
}
```

AWS SDK for .NET の設定ファイルリファレンス

Note

このトピックの情報は、.NET Framework に基づくプロジェクトに固有のものです。.NET Core に基づくプロジェクトでは、デフォルトでは App.config および Web.config ファイルは存在しません。

開いて .NET Framework のコンテンツを表示する

.NET プロジェクトの App.config ファイルまたは Web.config ファイルを使用すると、AWS の認証情報、ログオプション、AWS サービスエンドポイント、AWS リージョンなどの AWS の設定や、Amazon DynamoDB、Amazon EC2、Amazon S3 などの AWS サービスの一部の設定を指定できます。以下では、適切な形式の App.config ファイルまたは Web.config ファイルを使用してこれらの設定を指定する方法について説明します。

Note

App.config ファイルまたは Web.config ファイルの <appSettings> 要素を引き続き使用して AWS の設定を指定することもできますが、このトピックで後ほど説明するように <configSections> 要素および <aws> 要素を使用することをお勧めします。<appSettings> エレメントの詳細については、「[AWS SDK for .NET アプリケーションの設定](#)」の <appSettings> エレメントの例を参照してください。

Note

以下の [AWSConfigs](#) クラスプロパティをコードファイルで使用して AWS の設定を指定することはできますが、以下のプロパティは非推奨であり、将来のリリースではサポートされなくなる可能性があります。

- DynamoDBContextTableNamePrefix
- EC2UseSignatureVersion4
- LoggingOptions
- LogMetrics
- ResponseLoggingOption
- S3UseSignatureVersion4

一般に、このトピックでこれから説明するように、コードファイルで AWSConfigs クラスのプロパティを使用して AWS の設定を指定するのではなく、App.config ファイルまたは Web.config ファイルの <configSections> 要素および <aws> 要素を使用して AWS の設定を指定することをお勧めします。上記のプロパティの詳細については、「[AWS SDK for .NET アプリケーションの設定](#)」の AWSConfigs コード例を参照してください。

トピック

- [AWS 設定セクションの宣言](#)
- [使用できる要素](#)
- [要素のリファレンス](#)

AWS 設定セクションの宣言

AWS の設定は、App.config または Web.config ファイルの <aws> 要素内で指定します。<aws> 要素の使用を始める前に、次の例で示すように <section> 要素 (<configSections> 要素の子要素) を作成し、その name 属性を aws に、type 属性を Amazon.AWSSection, AWSSDK.Core に設定する必要があります。

```
<?xml version="1.0"?>
<configuration>
  ...
  <configSections>
    <section name="aws" type="Amazon.AWSSection, AWSSDK.Core"/>
  </configSections>
  <aws>
    <!-- Add your desired AWS settings declarations here. -->
  </aws>
  ...
</configuration>
```

Visual Studio のエディタでは、<aws> 要素またはその子要素の自動コード補完機能 (IntelliSense) は提供されていません。

<aws> 要素を正しくフォーマットするには、Amazon.AWSConfigs.GenerateConfigTemplate メソッドを呼び出してください。このメソッドは <aws> 要素の正規バージョンを適切な文字列として出力するので、それを利用できます。以下のセクションでは、<aws> 要素の属性と子要素について説明します。

使用できる要素

AWS 設定セクションで使用できる要素の間の論理的な関係を次に示します。このリストの最新バージョンは Amazon.AWSConfigs.GenerateConfigTemplate メソッドを呼び出すことによって生成できます。このメソッドは、<aws> 要素の正規バージョンをそのまま使用できる文字列として出力します。

```
<aws
```



```
endpointDefinition="string value"
region="string value"
profileName="string value"
profilesLocation="string value">
<logging
  logTo="None, Log4Net, SystemDiagnostics"
  logResponses="Never | OnError | Always"
  logMetrics="true | false"
  logMetricsFormat="Standard | JSON"
  logMetricsCustomFormatter="Namespace.Class, Assembly" />
<dynamoDB
  conversionSchema="V1 | V2">
<dynamoDBContext
  tableNamePrefix="string value">
  <tableAliases>
    <alias
      fromTable="string value"
      toTable="string value" />
  </tableAliases>
  <map
    type="Namespace.Class, Assembly"
    targetTable="string value">
    <property
      name="string value"
      attribute="string value"
      ignore="true | false"
      version="true | false"
      converter="Namespace.Class, Assembly" />
  </map>
</dynamoDBContext>
</dynamoDB>
<s3
  useSignatureVersion4="true | false" />
<ec2
  useSignatureVersion4="true | false" />
<proxy
  host="string value"
  port="1234"
  username="string value"
  password="string value" />
</aws>
```

要素のリファレンス

AWS 設定セクションで可以使用する要素のリストを次に示します。各要素について、使用できる属性と親子要素が示されています。

トピック

- [alias](#)
- [aws](#)
- [dynamoDB](#)
- [dynamoDBContext](#)
- [Ec2](#)
- [ログ記録](#)
- [マップ](#)
- [property](#)
- [proxy](#)
- [s3](#)

alias

<alias> 要素は、1 つ以上のテーブル間マッピングのコレクションに含まれる、タイプに対して設定されているものとは異なるテーブルを指定する単一の項目を表します この要素は、Amazon.Util.TableAlias の Amazon.AWSConfigs.DynamoDBConfig.Context.TableAliases プロパティから AWS SDK for .NET クラスのインスタンスにマッピングされます。テーブル名のプレフィックスを適用する前に再マッピングが行われます。

この要素は次の属性を含むことができます:

fromTable

マップ元テーブルからマップ先テーブルへのマッピングのマップ元テーブル部分です。この属性は、Amazon.Util.TableAlias.FromTable の AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

toTable

マップ元テーブルからマップ先テーブルへのマッピングのマップ先テーブル部分です。この属性は、Amazon.Util.TableAlias.ToTable の AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

<alias> 要素の親は、<tableAliases> 要素です。

<alias> 要素には子要素は含まれません。

次に <alias> 要素の使用例を示します。

```
<alias
  fromTable="Studio"
  toTable="Studios" />
```

aws

<aws> 要素は、AWS 設定セクションの最上位要素を表します。この要素は次の属性を含むことができます：

endpointDefinition

使用する AWS のリージョンとエンドポイントを定義するカスタム設定ファイルの絶対パスです。この属性は、Amazon.AWSConfigs.EndpointDefinition の AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

profileName

サービスの呼び出しに使用される、保存された AWS 認証情報のプロファイル名です。この属性は、Amazon.AWSConfigs.AWSProfileName の AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

profilesLocation

他の AWS SDK に共有される認証情報ファイルの場所の絶対パスです。デフォルトでは、認証情報ファイルは現在のユーザーのホームディレクトリにある .aws ディレクトリに格納されます。この属性は、Amazon.AWSConfigs.AWSProfilesLocation の AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

region

明示的にリージョンを指定していないクライアントで使用されるデフォルトの AWS リージョン ID です。この属性は、Amazon.AWSConfigs.AWSRegion の AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

<aws> 要素に親要素はありません。

<aws> 要素は次の子要素を含むことができます。

- <dynamoDB>
- <ec2>
- <logging>
- <proxy>
- <s3>

次に <aws> 要素の使用例を示します。

```
<aws
  endpointDefinition="C:\Configs\endpoints.xml"
  region="us-west-2"
  profileName="development"
  profilesLocation="C:\Configs">
  <!-- ... -->
</aws>
```

dynamoDB

<dynamoDB> 要素は、Amazon DynamoDB の設定のコレクションを表します。この要素は、conversionSchema 属性を含むことができます。この属性は、.NET と DynamoDB オブジェクトの間の変換に使用するバージョンを表します。使用できる値は、V1 および V2 です。この属性は、Amazon.DynamoDBv2.DynamoDBEntryConversion の AWS SDK for .NET クラスにマッピングされます。詳細については、「[DynamoDB Series - Conversion Schemas](#)」を参照してください。

<dynamoDB> 要素の親は、<aws> 要素です。

<dynamoDB> 要素は、<dynamoDBContext> 子要素を含むことができます。

次に <dynamoDB> 要素の使用例を示します。

```
<dynamoDB
  conversionSchema="V2">
  <!-- ... -->
</dynamoDB>
```

dynamoDBContext

<dynamoDBContext> 要素は、Amazon DynamoDB コンテキスト固有の設定のコレクションを表します。この要素は tableNamePrefix 属性を含むことができます。この属性は、テーブル名プレフィックスが手動で設定されていない場合に DynamoDB コンテキストが使用するデフォルトのプレフィックスを表します。この属性は、Amazon.Util.DynamoDBContextConfig.TableNamePrefix の Amazon.AWSConfigs.DynamoDBConfig.Context.TableNamePrefix プロパティから AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。詳細については、「[Enhancements to the DynamoDB SDK](#)」を参照してください。

<dynamoDBContext> 要素の親は、<dynamoDB> 要素です。

<dynamoDBContext> 要素は次の子要素を含むことができます。

- <alias> (1 つまたは複数のインスタンス)
- <map> (1 つまたは複数のインスタンス)

次に <dynamoDBContext> 要素の使用例を示します。

```
<dynamoDBContext
  tableNamePrefix="Test-">
  <!-- ... -->
</dynamoDBContext>
```

Ec2

<ec2> 要素は、Amazon EC2 の設定のコレクションを表します。この要素は、useSignatureVersion4 属性を含むことができます。この属性は、署名バージョン 4 の署名をすべての要求に対して使用すること (true)、または署名バージョン 4 の署名をすべての要求に対して使用しないこと (false、デフォルト) を指定します。この属性は、Amazon.Util.EC2Config.UseSignatureVersion4 の Amazon.AWSConfigs.EC2Config.UseSignatureVersion4 プロパティから AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

<ec2> 要素の親は、要素です。

<ec2> 要素には子要素は含まれません。

次に <ec2> 要素の使用例を示します。

```
<ec2
  useSignatureVersion4="true" />
```

ログ記録

<logging> 要素は、応答ログおよびパフォーマンスメトリクスログの設定のコレクションを表します。この要素は次の属性を含むことができます:

logMetrics

パフォーマンスメトリクスをすべてのクライアントおよび設定に対して記録するか (true)、または記録しないか (false) を示します。

この属性は、Amazon.Util.LoggingConfig.LogMetrics の Amazon.AWSConfigs.LoggingConfig.LogMetrics プロパティから AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

logMetricsCustomFormatter

ログ記録メトリクスのカスタムフォーマッターのデータ型およびアセンブリ名です。この属性は、Amazon.Util.LoggingConfig.LogMetricsCustomFormatter の Amazon.AWSConfigs.LoggingConfig.LogMetricsCustomFormatter プロパティから AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

logMetricsFormat

ログ記録メトリクスを示す形式です (Amazon.Util.LoggingConfig.LogMetricsFormat の Amazon.AWSConfigs.LoggingConfig.LogMetricsFormat プロパティから AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます)。

使用できる値は次のとおりです。

JSON

JSON 形式を使用します。

Standard

デフォルトの形式を使用します。

logResponses

サービス応答をいつログに記録するかを示します

(Amazon.Util.LoggingConfig.LogResponses の

Amazon.AWSConfigs.LoggingConfig.LogResponses プロパティから AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます)。

使用できる値は次のとおりです。

Always

常にサービス応答を記録します。

Never

サービス応答を記録しません。

OnError

エラーがあるときにのみサービス応答を記録します。

logTo

ログを記録する場所を示します (LogTo の Amazon.AWSConfigs.LoggingConfig.LogTo プロパティから AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます)。

使用できる値は次のとおりです。

Log4Net

log4net にログを記録します。

None

ログを無効にします。

SystemDiagnostics

System.Diagnostics にログを記録します。

<logging> 要素の親は、<aws> 要素です。

<logging> 要素には子要素は含まれません。

次に <logging> 要素の使用例を示します。

```
<logging
  logTo="SystemDiagnostics"
  logResponses="OnError"
  logMetrics="true"
  logMetricsFormat="JSON"
  logMetricsCustomFormatter="MyLib.Util.MyMetricsFormatter, MyLib" />
```

マップ

`<map>` 要素は、.NET の型から DynamoDB のテーブルへのマッピングのコレクション内の 1 つの項目を表します (TypeMapping の `Amazon.AWSConfigs.DynamoDBConfig.Context.TypeMappings` プロパティから AWS SDK for .NET クラスのインスタンスにマッピングされます)。詳細については、「[Enhancements to the DynamoDB SDK](#)」を参照してください。

この要素は次の属性を含むことができます:

targetTable

マッピングが適用される DynamoDB のテーブルです。この属性は、`Amazon.Util.TypeMapping.TargetTable` の AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

type

マッピングが適用される型とアセンブリ名です。この属性は、`Amazon.Util.TypeMapping.Type` の AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

`<map>` 要素の親は、`<dynamoDBContext>` 要素です。

`<map>` 要素は、`<property>` 子要素の 1 つまたは複数のインスタンスを含むことができます。

次に `<map>` 要素の使用例を示します。

```
<map
  type="SampleApp.Models.Movie, SampleDLL"
  targetTable="Movies">
  <!-- ... -->
</map>
```


property

<property> 要素は DynamoDB のプロパティを表します。(この要素は、AWS SDK for .NET の AddProperty メソッドから Amazon.Util.PropertyConfig クラスのインスタンスにマッピングされます) 詳細については、「[DynamoDB SDK の機能強化](#)」および「[DynamoDB の属性](#)」を参照してください。

この要素は次の属性を含むことができます:

attribute

範囲キーの名前など、プロパティの属性の名前です。この属性は、Amazon.Util.PropertyConfig.Attribute の AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

converter

このプロパティに使用する必要があるコンバーターの種類です この属性は、Amazon.Util.PropertyConfig.Converter の AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

ignore

関連付けられているプロパティを無視する必要があるか (true)、またはないか (false) を示します。この属性は、Amazon.Util.PropertyConfig.Ignore の AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

name

プロパティの名前。この属性は、Amazon.Util.PropertyConfig.Name の AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

version

このプロパティが項目のバージョン番号を格納する必要があるか (true)、またはないか (false) を示します。この属性は、Amazon.Util.PropertyConfig.Version の AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

<property> 要素の親は、<map> 要素です。

<property> 要素には子要素は含まれません。

次に <property> 要素の使用例を示します。

```
<property
  name="Rating"
  converter="SampleApp.Models.RatingConverter, SampleDLL" />
```

proxy

<proxy> 要素は、AWS SDK for .NET で使用するプロキシの設定を表します。この要素は次の属性を含むことができます:

ホスト

プロキシサーバーのホスト名または IP アドレスです。この属性は、Amazon.Util.ProxyConfig.Host の Amazon.AWSConfigs.ProxyConfig.Host プロパティから AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

password

プロキシサーバーで認証するためのパスワードです。この属性は、Amazon.Util.ProxyConfig.Password の Amazon.AWSConfigs.ProxyConfig.Password プロパティから AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

ポート

プロキシのポート番号です。この属性は、Amazon.Util.ProxyConfig.Port の Amazon.AWSConfigs.ProxyConfig.Port プロパティから AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

username

プロキシサーバーで認証するユーザー名です。この属性は、Amazon.Util.ProxyConfig.Username の Amazon.AWSConfigs.ProxyConfig.Username プロパティから AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

<proxy> 要素の親は、<aws> 要素です。

<proxy> 要素には子要素は含まれません。

次に <proxy> 要素の使用例を示します。

```
<proxy
```

```
host="192.0.2.0"  
port="1234"  
username="My-Username-Here"  
password="My-Password-Here" />
```

s3

<s3> 要素は、Amazon S3 の設定のコレクションを表します。この要素は、useSignatureVersion4 属性を含むことができます。この属性は、署名バージョン 4 の署名をすべての要求に対して使用すること (true)、または署名バージョン 4 の署名をすべての要求に対して使用しないこと (false、デフォルト) を指定します。この属性は、Amazon.AWSConfigs.S3Config.UseSignatureVersion4 の AWS SDK for .NET プロパティにマッピングされます。

<s3> 要素の親は、<aws> 要素です。

<s3> 要素には子要素は含まれません。

次に <s3> 要素の使用例を示します。

```
<s3 useSignatureVersion4="true" />
```

レガシー認証情報の使用

このセクションのトピックでは、AWS IAM Identity Centerを使用せずに長期または短期認証情報を使用する方法について説明します。

Warning

セキュリティリスクを避けるため、専用ソフトウェアを開発するときや実際のデータを扱うときは、IAM ユーザーを認証に使用しないでください。代わりに、[AWS IAM Identity Center](#) などの ID プロバイダーとのフェデレーションを使用してください。

Note

このトピックの情報は、短期または長期認証情報を手動で取得および管理する必要がある場合を対象としています。短期認証情報と長期認証情報に関する追加情報については、「AWS SDK およびツールリファレンスガイド」の「[その他の認証方法](#)」を参照してください。

セキュリティのベストプラクティスについては、AWS IAM Identity Center「」の説明に従って [SDK 認証の設定](#) を使用します。

認証情報に関する重要な警告とガイダンス

認証情報に関する警告

- アカウントのルート認証情報を使用して AWS リソースにアクセスしないでください。これらの認証情報は無制限のアカウントアクセスを提供し、取り消すのが困難です。
- アプリケーションファイルにリテラルアクセスキーや認証情報を配置しないでください。これを行うと、パブリックリポジトリにプロジェクトをアップロードするなど、誤って認証情報が公開されるリスクが発生します。
- プロジェクト領域に認証情報を含むファイルを含めないでください。
- 共有 AWS credentials ファイルに保存されている認証情報はすべてプレーンテキストで保存されることに注意してください。

認証情報を安全に管理するための追加のガイダンス

AWS 認証情報を安全に管理する方法の一般的な説明については、「」の [AWS「セキュリティ認証情報AWS 全般のリファレンス」](#) および [「IAM ユーザーガイド」の「セキュリティのベストプラクティスとユースケース」](#) を参照してください。これらの説明に加えて、以下の点を考慮してください。

- IAM Identity Center のユーザーなど、追加ユーザーを作成し、AWS ルートユーザー認証情報を使用する代わりにそのユーザー認証情報を使用します。他のユーザーの認証情報は、必要に応じて取り消すこともできますが、本質的に一時的なものです。さらに、各ユーザーに対して、特定のリソースとアクションにアクセスするためのポリシーを適用できます。これにより、最小特権のアクセス許可になります。
- Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) タスクで、[タスク用の IAM ロール](#) を使用します。
- Amazon EC2 インスタンスで実行中のアプリケーションに対して、[IAM ロール](#) を使用します。

- 組織外部のユーザーが利用できるアプリケーションでは、[一時的な認証情報](#)または環境変数を使用します。

トピック

- [共有 AWS 認証情報ファイルの使用](#)
- [SDK ストアの使用 \(Windows のみ\)](#)

共有 AWS 認証情報ファイルの使用

([認証情報に関する重要な警告とガイダンス](#)を必ずご確認ください)

アプリケーションに認証情報を提供する方法の 1 つは、共有 AWS 認証情報ファイルにプロファイルを作成し、そのプロファイルに認証情報を保存することです。このファイルは、他の AWS SDKs で使用できます。また、[AWS Tools for Windows PowerShell](#)、および [Visual StudioAWS CLI](#)、[JetBrains](#)、[VS Code](#) の AWS ツールキットでも使用できます。

Warning

セキュリティリスクを避けるため、専用ソフトウェアを開発するときや実際のデータを扱うときは、IAM ユーザーを認証に使用しないでください。代わりに、[AWS IAM Identity Center](#) などの ID プロバイダーとのフェデレーションを使用してください。

Note

このトピックの情報は、短期または長期認証情報を手動で取得および管理する必要がある場合を対象としています。短期認証情報と長期認証情報に関する追加情報については、「AWS SDK およびツールリファレンスガイド」の「[その他の認証方法](#)」を参照してください。セキュリティのベストプラクティスについては、AWS IAM Identity Center「」の説明に従って [SDK 認証の設定](#)を使用します。

一般的な情報

デフォルトでは、共有 AWS 認証情報ファイルはホーム.awsディレクトリ内の ディレクトリにありcredentials、(Linux または macOS) または ~/.aws/credentials (%USERPROFILE%

\.aws\credentialsWindows) という名前が付けられます。別の保存場所に関する詳細については、[AWS SDK とツールのリファレンスガイド](#)の「[共有ファイルの場所](#)」を参照してください。また、「[アプリケーションでの認証情報とプロファイルへのアクセス](#)」も参照してください。

共有 AWS 認証情報ファイルはプレーンテキストファイルであり、特定の形式に従います。AWS 認証情報ファイルの形式については、SDK およびツールリファレンスガイドの「[認証情報ファイルの形式](#)」を参照してください。AWS SDKs

共有 AWS 認証情報ファイルのプロファイルは、いくつかの方法で管理できます。

- 任意のテキストエディタを使用して、共有 AWS 認証情報ファイルを作成および更新します。
- このトピックで後述するように、AWS SDK for .NET API の [Amazon.Runtime.CredentialManagement](#) 名前空間を使用します。
- および [Visual Studio](#)、[JetBrains](#)、VS Code の [AWS Tools for PowerShell](#) AWS ツールキットのコマンドと手順を使用します。 <https://docs.aws.amazon.com/toolkit-for-vscode/latest/userguide/setup-credentials.html>
- [AWS CLI](#) コマンドを使用します (例えば `aws configure set aws_access_key_id` および `aws configure set aws_secret_access_key`)。

プロファイル管理の例

以下のセクションでは、共有 AWS 認証情報ファイルのプロファイルの例を示します。いくつかの例では、前述の認証情報管理方法のいずれかを使用して取得できる結果が示されています。その他の例では、特定のメソッドの使用方法を示しています。

デフォルトのプロファイル

共有 AWS 認証情報ファイルには、ほとんどの場合、default という名前のプロファイルがあります。これは、他のプロファイルが定義されていない場合に、認証情報 AWS SDK for .NET を検索する場所です。

[default] プロファイルは通常、以下のようになっています。

```
[default]
aws_access_key_id = AKIAIOSFODNN7EXAMPLE
aws_secret_access_key = wJalrXUtnFEMI/K7MDENG/bPxRfiCYEXAMPLEKEY
```

プログラムでのプロファイルの作成

この例では、プロファイルを作成し、それをプログラムで共有 AWS 認証情報ファイルに保存する方法を示します。[Amazon.Runtime.CredentialManagement](#) 名前空間の次のクラスを使用します：[CredentialProfileOptions](#)、[CredentialProfile](#)、[SharedCredentialsFile](#)。

```
using Amazon.Runtime.CredentialManagement;
...

// Do not include credentials in your code.
WriteProfile("my_new_profile", SecurelyStoredKeyId, SecurelyStoredSecretAccessKey);
...

void WriteProfile(string profileName, string keyId, string secret)
{
    Console.WriteLine($"Create the [{profileName}] profile...");
    var options = new CredentialProfileOptions
    {
        AccessKey = keyId,
        SecretKey = secret
    };
    var profile = new CredentialProfile(profileName, options);
    var sharedFile = new SharedCredentialsFile();
    sharedFile.RegisterProfile(profile);
}
```

Warning

このようなコードは、通常、アプリケーションに含めるべきではありません。アプリケーションに組み込む場合は、プレーンテキストキーがコード内、ネットワーク経由、またはコンピュータのメモリ内で見えないように適切な予防措置を講じてください。

この例で作成されたプロファイルを以下に示します。

```
[my_new_profile]
aws_access_key_id=AKIAIOSFODNN7EXAMPLE
aws_secret_access_key=wJalrXUtnFEMI/K7MDENG/bPxRfiCYEXAMPLEKEY
```

既存のプロファイルのプログラムでの更新

この例では、前の手順で作成したプロファイルをプログラムで更新する方法を示します。[Amazon.Runtime.CredentialManagement](#) 名前空間の次のクラスを使用します:
[CredentialProfile](#)、[SharedCredentialsFile](#)。また、[Amazon](#) 名前空間の [RegionEndpoint](#) クラスも使用します。

```
using Amazon.Runtime.CredentialManagement;
...

AddRegion("my_new_profile", RegionEndpoint.USWest2);
...

void AddRegion(string profileName, RegionEndpoint region)
{
    var sharedFile = new SharedCredentialsFile();
    CredentialProfile profile;
    if (sharedFile.TryGetProfile(profileName, out profile))
    {
        profile.Region = region;
        sharedFile.RegisterProfile(profile);
    }
}
```

更新されたプロファイルを以下に示します。

```
[my_new_profile]
aws_access_key_id=AKIAIOSFODNN7EXAMPLE
aws_secret_access_key=wJalrXUtnFEMI/K7MDENG/bPxrFiCYEXAMPLEKEY
region=us-west-2
```

Note

AWS リージョンは、他の場所や他の方法を使用して設定することもできます。詳細については、「[AWS リージョンを設定する](#)」を参照してください。

SDK ストアの使用 (Windows のみ)

([重要な警告とガイドライン](#)を必ずご確認ください)

Windows では、SDK ストアは AWS SDK for .NET、アプリケーションのプロファイルを作成し、暗号化された認証情報を保存するもう 1 つの場所です。%USERPROFILE%\AppData\Local\AWS\Toolkit\RegisteredAccounts.json にあります。開発時に、[共有 AWS 認証情報ファイル](#)の代わりとして SDK ストアを使用できます。

Warning

セキュリティリスクを避けるため、専用ソフトウェアを開発するときや実際のデータを扱うときは、IAM ユーザーを認証に使用しないでください。代わりに、[AWS IAM Identity Center](#)などの ID プロバイダーとのフェデレーションを使用してください。

Note

このトピックの情報は、短期または長期認証情報を手動で取得および管理する必要がある場合を対象としています。短期認証情報と長期認証情報に関する追加情報については、「AWS SDK およびツールリファレンスガイド」の「[その他の認証方法](#)」を参照してください。セキュリティのベストプラクティスについては、AWS IAM Identity Center「」の説明に従って [SDK 認証の設定](#)を使用します。

一般的な情報

SDK ストアには次の利点があります。

- SDK ストア内の認証情報が暗号化された状態で、ユーザーのホームディレクトリに SDK ストアが配置されます。これにより、認証情報が誤って公開されるリスクが制限されます。
- SDK ストアは、[AWS Tools for Windows PowerShell](#) および [AWS Toolkit for Visual Studio](#) にも認証情報を提供します。

SDK ストアのプロファイルは、特定のホスト上の特定ユーザーに固有です。これらは他のホストや他のユーザーにコピーすることはできません。そのため、開発用マシンの SDK ストアにあるプロファイルを、他のホストや他のデベロッパーのマシンで再利用することはできません。また、本番稼働用のアプリケーションで SDK ストアのプロファイルを使用できないということでもあります。

SDK ストアのプロファイルは、以下に示すいくつかの方法で管理できます。

- [AWS Toolkit for Visual Studio](#) のグラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) を使用します。

- このトピックで後述するように、AWS SDK for .NET API の [Amazon.Runtime.CredentialManagement](#) 名前空間を使用します。
- [AWS Tools for Windows PowerShell](#) のコマンドを使用します (例えば Set-AWSCredential および Remove-AWSCredentialProfile)。

プロファイル管理の例

以下の例では、プログラムで SDK ストア内にプロファイルを作成して更新する方法を示します。

プログラムでのプロファイルの作成

この例では、プログラムを使用してプロファイルを作成し、SDK ストアに保存する方法を説明します。 [Amazon.Runtime.CredentialManagement](#) 名前空間の次のクラスを使用します: [CredentialProfileOptions](#)、[CredentialProfile](#)、[NetSDKCredentialsFile](#)。

```
using Amazon.Runtime.CredentialManagement;
...

// Do not include credentials in your code.
WriteProfile("my_new_profile", SecurelyStoredKeyId, SecurelyStoredSecretAccessKey);
...

void WriteProfile(string profileName, string keyId, string secret)
{
    Console.WriteLine($"Create the [{profileName}] profile...");
    var options = new CredentialProfileOptions
    {
        AccessKey = keyId,
        SecretKey = secret
    };
    var profile = new CredentialProfile(profileName, options);
    var netSdkStore = new NetSDKCredentialsFile();
    netSdkStore.RegisterProfile(profile);
}
```

Warning

このようなコードは、通常、アプリケーションに含めるべきではありません。アプリケーションに含まれる場合は、プレーンテキストキーがコード内、ネットワーク経由、またはコンピュータのメモリ内で見えないように適切な予防措置を講じてください。

この例で作成されたプロファイルを以下に示します。

```
"[generated GUID]" : {  
  "AWSAccessKey" : "01000000D08...[etc., encrypted access key ID]",  
  "AWSSecretKey" : "01000000D08...[etc., encrypted secret access key]",  
  "ProfileType" : "AWS",  
  "DisplayName" : "my_new_profile",  
}
```

既存のプロファイルのプログラムでの更新

この例では、前の手順で作成したプロファイルをプログラムで更新する方法を示します。[Amazon.Runtime.CredentialManagement](#) 名前空間の次のクラスを使用します: [CredentialProfile](#)、[NetSDKCredentialsFile](#)。また、[Amazon](#) 名前空間の [RegionEndpoint](#) クラスも使用します。

```
using Amazon.Runtime.CredentialManagement;  
...  
  
AddRegion("my_new_profile", RegionEndpoint.USWest2);  
...  
  
void AddRegion(string profileName, RegionEndpoint region)  
{  
    var netSdkStore = new NetSDKCredentialsFile();  
    CredentialProfile profile;  
    if (netSdkStore.TryGetProfile(profileName, out profile))  
    {  
        profile.Region = region;  
        netSdkStore.RegisterProfile(profile);  
    }  
}
```

更新されたプロファイルを以下に示します。

```
"[generated GUID]" : {  
  "AWSAccessKey" : "01000000D08...[etc., encrypted access key ID]",  
  "AWSSecretKey" : "01000000D08...[etc., encrypted secret access key]",  
  "ProfileType" : "AWS",  
  "DisplayName" : "my_new_profile",  
  "Region" : "us-west-2"  
}
```

 Note

AWS リージョンは、他の場所や他の方法を使用して設定することもできます。詳細については、「[AWS リージョンを設定する](#)」を参照してください。

AWS SDK for .NET の機能

このセクションでは、アプリケーションを作成する際に考慮する必要がある場合がある AWS SDK for .NET の機能について説明します。

まず、[プロジェクトがセットアップされていることを](#)確認します。

特定の AWS のサービス向けのソフトウェア開発とコード例については、「[AWS サービスの使用](#)」を参照してください。その他のコード例については、「[SDK for .NET コード例](#)」を参照してください。

トピック

- [AWS.NET の 非同期 API](#)
- [再試行とタイムアウト](#)
- [ページネーター](#)
- [オブザーバビリティ](#)
- [その他のツール](#)

AWS.NET の 非同期 API

AWS SDK for .NET では、非同期処理の実装のためにタスクベースの非同期パターン (TAP) を使用します。TAP の詳細については、docs.microsoft.com の「[タスクベースの非同期パターン \(TAP\)](#)」を参照してください。

このトピックでは AWS サービスクライアントに対する呼び出しで TAP を使用方法の概要を説明します。

AWS SDK for .NET API の非同期メソッドは、Task クラスまたは Task<TResult> クラスに基づいた処理です。[Task class](#) クラスおよび [Task<TResult> class](#) クラスの詳細については、docs.microsoft.com を参照してください。

これらの API メソッドがコードで呼び出される場合、次の例に示すように、async キーワードで宣言された関数内で呼び出される必要があります。

```
static async Task Main(string[] args)
{
```

```
...
// Call the function that contains the asynchronous API method.
// Could also call the asynchronous API method directly from Main
// because Main is declared async
var response = await ListBucketsAsync();
Console.WriteLine($"Number of buckets: {response.Buckets.Count}");
...
}

// Async method to get a list of Amazon S3 buckets.
private static async Task<ListBucketsResponse> ListBucketsAsync()
{
    ...
    var response = await s3Client.ListBucketsAsync();
    return response;
}
```

前述のコードスニペットに示されているように、`async` 宣言の推奨スコープは `Main` 関数です。この `async` スコープを設定する場合、AWS サービスクライアントに対するすべての呼び出しが非同期である必要があります。何らかの理由で `Main` を非同期として宣言できない場合は、次の例に示すように、`Main` 以外の関数で `async` キーワードを使用して、そこから API メソッドを呼び出します。

```
static void Main(string[] args)
{
    ...
    Task<ListBucketsResponse> response = ListBucketsAsync();
    Console.WriteLine($"Number of buckets: {response.Result.Buckets.Count}");
    ...
}

// Async method to get a list of Amazon S3 buckets.
private static async Task<ListBucketsResponse> ListBucketsAsync()
{
    ...
    var response = await s3Client.ListBucketsAsync();
    return response;
}
```

このパターンを使用する場合、`Main` で必要とされる特殊な `Task<>` 構文に注意してください。また、レスポンスの **Result** メンバーを使用してデータを取得する必要があります。

AWS サービスクライアントに対する非同期呼び出しの完全な例については、[クイックツアーに参加する](#)のセクション (「[シンプルなクロスプラットフォームアプリ](#)」および「[シンプルな Windows ベースのアプリ](#)」) と「[ガイダンス付きのコード例](#)」を参照してください。

再試行とタイムアウト

AWS SDK for .NET では、AWS サービスへの HTTP リクエストの再試行回数とタイムアウト値を設定できます。再試行とタイムアウトのデフォルト値がアプリケーションで適切でない場合は、特定の要件に対してそれらの値を調整できますが、それによってアプリケーションの動作にどのように影響するかを理解しておくことが重要です。

再試行とタイムアウトに使用する値を決定するには、以下の点を検討します。

- ネットワーク接続が低下したり、AWS サービスにアクセスできない場合、AWS SDK for .NET とアプリケーションはどのように応答する必要がありますか？ 呼び出しがすぐに失敗するか、またはユーザーに代わって呼び出しが再試行され続けるか、どちらが適切か。
- 応答性が必要なユーザー対応アプリケーションまたはウェブサイトであるか、またはレイテンシーの増加に耐性があるバックグラウンド処理ジョブであるか。
- アプリケーションが低レイテンシーの信頼性の高いネットワークでデプロイされているか、または信頼性が低い接続でリモートの場所にデプロイされているか。

再試行

概要:

AWS SDK for .NET は、サーバー側のスロットリングまたは接続の切断が原因で失敗したリクエストを再試行できます。サービス設定クラスの 2 つのプロパティを使用して、サービスクライアントの再試行動作を指定します。サービス設定クラスは、[AWS SDK for .NET API リファレンス](#)の抽象 [Amazon.Runtime.ClientConfig](#) クラスからこれらのプロパティを継承します。

- RetryMode では、[Amazon.Runtime.RequestRetryMode](#) 列挙で定義される 3 つの再試行モードのいずれかを指定します。

アプリケーションのデフォルト値は、AWS_RETRY_MODE環境変数または共有設定ファイルの retry_mode AWS 設定を使用して制御できます。

- `MaxErrorRetry` では、サービスクライアントレベルで許可される再試行の回数を指定します。SDK では、指定した回数だけ操作が再試行された後に、失敗となり、例外がスローされます。

アプリケーションのデフォルト値は、`AWS_MAX_ATTEMPTS` 環境変数または共有設定ファイルの `max_attempts` AWS 設定を使用して制御できます。

これらのプロパティの詳細な説明は、[AWS SDK for .NET API リファレンス](#)の抽象 [Amazon.Runtime.ClientConfig](#) クラスに記載されています。RetryMode の各値は、次の表に示すように、デフォルトでは `MaxErrorRetry` の特定の値に対応します。

RetryMode	Corresponding MaxErrorRetry (Amazon DynamoDB)	Corresponding MaxErrorRetry (all others)
Legacy	10	4
Standard	10	2
Adaptive (experimental)	10	2

行動

アプリケーションの起動時

アプリケーションの起動時に、`RetryMode` および `MaxErrorRetry` のデフォルト値が SDK によって設定されます。これらのデフォルト値は、他の値を指定しない限り、サービスクライアントを作成するときに使用されます。

- 環境でプロパティが設定されていない場合は、`RetryMode` のデフォルトが `Legacy` として設定され、`MaxErrorRetry` のデフォルトが上記の表の対応する値で設定されます。
- 環境で再試行モードが設定されている場合は、その値が `RetryMode` のデフォルトとして使用されます。`MaxErrorRetry` のデフォルトは、最大エラー数の値も環境で設定されていない限り、上記の表の対応する値で設定されます (次の説明を参照)。
- 環境で最大エラー数の値が設定されている場合は、その値が `MaxErrorRetry` のデフォルトとして使用されます。Amazon DynamoDB はこのルールの例外です。`MaxErrorRetry` のデフォルトの DynamoDB 値は、常に上記の表の値になります。

アプリケーションの実行時

サービスクライアントを作成すると、RetryMode および MaxErrorRetry の次のデフォルト値を使用できます。または、前述したように、他の値を指定することもできます。他の値を指定するには、サービスクライアントを作成する際に、[AmazonDynamoDBConfig](#) や [AmazonSQSConfig](#) など、サービス設定オブジェクトを作成して含めます。

サービスクライアントの作成後にこれらの値を変更することはできません。

考慮事項

再試行が発生すると、リクエストのレイテンシーが増加します。アプリケーションでのリクエストレイテンシーの合計とエラー発生率の制限に基づいて、再試行回数を設定する必要があります。

タイムアウト

AWS SDK for .NET では、サービスクライアントレベルおよびメソッド呼び出しごとにリクエストタイムアウトを設定できます。タイムアウトを設定するには 2 つのメカニズムがあり、以降のセクションで説明します。

- [非同期呼び出し](#)を使用している場合は、メソッドの CancellationToken パラメータを使用できます。
- [.NET Framework で同期呼び出し](#)を使用している場合は、抽象 [Amazon.Runtime.ClientConfig](#) クラスの Timeout および ReadWriteTimeout プロパティを使用できます。

タイムアウトに CancellationToken パラメータを使用する

AWS SDK for .NET を使用すると、CancellationToken パラメータを使用して非同期呼び出しのリクエストタイムアウトを設定できます。次のコードスニペットは例を示しています。リクエストが 10 秒以内に完了しなかった場合、コードは System.Threading.Tasks.TaskCanceledException をスローします。

```
string bucketName = "amzn-s3-demo-bucket";
string path = "pathToBucket";
using (var amazonS3Client = new AmazonS3Client(new AmazonS3Config()))
{
    // Cancel request after 10 seconds
    CancellationTokensource cancellationTokensource = new
    CancellationTokensource(TimeSpan.FromMilliseconds(10000));
    CancellationTokens cancellationTokens = cancellationTokensource.Token;
```

```
ListObjectsV2Request listRequestV2 = new()
{
    BucketName = bucketName,
    Prefix = path,
};

ListObjectsV2Response listResponseV2 = await
amazonS3Client.ListObjectsV2Async(listRequestV2, cancellationToken);
}
```

タイムアウトに **Timeout** および **ReadWriteTimeout** プロパティを使用する

Note

Timeout プロパティは非同期呼び出しには影響しません。非同期呼び出しを使用している場合は、代わりに「[タイムアウトに CancellationToken パラメータを使用する](#)」を参照してください。

AWS SDK for .NET では、リクエストタイムアウトとソケットの読み取り/書き込みタイムアウト値をサービスクライアントレベルで設定できます。これらの値は、抽象 [Amazon.Runtime.ClientConfig](#) クラスの Timeout および ReadWriteTimeout プロパティで指定されます。これらの値は、AWS サービスクライアントオブジェクトによって作成された [HttpWebRequest](#) オブジェクトの Timeout および ReadWriteTimeout プロパティとして渡されます。デフォルトでは、Timeout の値は 100 秒であり、ReadWriteTimeout の値は 300 秒です。

ネットワークのレイテンシーが大きい場合、または操作が再試行される条件が存在する場合に、長いタイムアウト値と大きい再試行回数を使用すると、一部の SDK 操作が応答していないように見えることがあります。

Note

ポータブルクラスライブラリ (PCL) をターゲット AWS SDK for .NET とする のバージョンは、クラスではなく [HttpClient](#) HttpWebRequest クラスを使用し、[タイムアウト](#) プロパティのみをサポートします。

デフォルトのタイムアウト値の例外を次に示します。これらの値は、タイムアウト値を明示的に設定するとオーバーライドされます。

- [AmazonS3Client.PutObjectAsync\(\)](#)、[AmazonS3Client.UploadPartAsync\(\)](#)、[AmazonGlacierClient.UploadPartAsync\(\)](#) など、呼び出されるメソッドによってストリームがアップロードされると、Timeout および ReadWriteTimeout は最大値に設定されます。
- .NET Framework をターゲット AWS SDK for .NET とする のバージョンはTimeout、すべての [AmazonS3Client](#) および [AmazonGlacierClient](#) オブジェクトの最大値ReadWriteTimeoutに と を 設定します。
- ポータブルクラスライブラリ (PCL) と .NET Core をターゲット AWS SDK for .NET とする のバージョンは、すべての [AmazonS3Client](#) および [AmazonGlacierClient](#) オブジェクトの最大値Timeoutに設定されます。

次の例では、標準再試行モード、3 回の最大再試行、10 秒のタイムアウト、および 10 秒の読み取り/書き込みタイムアウト (該当する場合) を指定する方法を示しています。[AmazonS3Client](#) コンストラクタには [AmazonS3Config](#) オブジェクトが指定されています。

```
var s3Client = new AmazonS3Client(  
    new AmazonS3Config  
    {  
        Timeout = TimeSpan.FromSeconds(10),  
        // NOTE: The following property is obsolete for  
        // versions of the AWS SDK for .NET that target .NET Core.  
        ReadWriteTimeout = TimeSpan.FromSeconds(10),  
        RetryMode = RequestRetryMode.Standard,  
        MaxErrorRetry = 3  
    });
```

ページネーター

一部の AWS サービスでは大量のデータを収集して格納します。このデータは、AWS SDK for .NET の API コールを使用して取得できます。取得するデータ量が 1 回の API コールとしては多すぎる場合、ページ分割を使用して、より管理しやすい大きさに結果を分割できます。

ページ分割を実行するには、SDK 内の多くのサービスクライアントのリクエストオブジェクトとレスポンスオブジェクトによって提供される 継続トークン (通常は NextToken) を使用します。また、このようなサービスクライアントの一部では、ページネーターも使用できます。

ページネーターを使用することで、ループ、状態変数、複数の API コールなどが影響を受ける場合がある継続トークンのオーバーヘッドを回避できます。ページネーターを使用すると、1 行のコー

ド、すなわち `foreach` ループの宣言によって AWS からデータを取得できます。データを取得するために複数の API コールが必要な場合は、ページネーターがこれを処理します。

ページネーターの使用の可否

すべてのサービスでページネーターを使用できるわけではありません。サービスで特定の API 向けのページネーターを提供しているかどうかを判断する 1 つの方法は、[AWS SDK for .NET API リファレンス](#)でサービスクライアントクラスの定義を確認します。

たとえば、[AmazonCloudWatchLogsClient](#) クラスの定義を調べると、`Paginate` プロパティが見つかります。これは、Amazon CloudWatch Logs 用のページネーターを提供するプロパティです。

ページネーターを使用するメリット

ページネーターには、完全なレスポンスを表示するプロパティが含まれています。また、通常、主な結果であるレスポンスの最も興味深い部分へのアクセスを有効にする 1 つ以上のプロパティも含まれています。。

たとえば、前述の `AmazonCloudWatchLogsClient` では、`Paginator` オブジェクトに `Responses` プロパティと、API コールによる完全な [DescribeLogGroupsResponse](#) オブジェクトが含まれています。特に、この `Responses` プロパティには、ロググループのコレクションが含まれています。

また、ページネーターオブジェクトにも、`LogGroups` という名前の主な結果が 1 つ含まれています。このプロパティにはレスポンスのロググループ部分のみが格納されています。この主な結果が含まれていることで、多くの状況でコードを減らして簡素化できます。

同期と非同期のページ分割

ページネーターでは、ページ分割の同期と非同期の両方の仕組みを利用できます。.NET Framework 4.7.2 (またはそれ以降) のプロジェクトでは、同期ページ分割を使用できます。非同期ページ分割は、.NET Core プロジェクト (.NET Core 3.1、.NET 5 など) で使用できます。

非同期操作と .NET Core が推奨されているため、次の例では非同期ページ分割について説明します。同期ページネーションと .NET Framework 4.7.2 (またはそれ以降) を使用して同じタスクを実行する方法については、例の後の [ページネーターに関する追加の考慮事項](#) で説明します。

例

次の例では、AWS SDK for .NET を使用してロググループのリストを表示する方法を示します。比較のために、この例では、ページネーターを使用した方法と、使用しない方法の両方を示します。後で示す完全なコードを確認する前に、次のスニペットを検討してください。

ページネーターを使用せずに CloudWatch ロググループを取得する

```
// Loop as many times as needed to get all the log groups
var request = new DescribeLogGroupsRequest{Limit = LogGroupLimit};
do
{
    Console.WriteLine($"Getting up to {LogGroupLimit} log groups...");
    var response = await cwClient.DescribeLogGroupsAsync(request);
    foreach(var logGroup in response.LogGroups)
    {
        Console.WriteLine($"{logGroup.LogGroupName}");
    }
    request.NextToken = response.NextToken;
} while(!string.IsNullOrEmpty(request.NextToken));
```

ページネーターを使用して CloudWatch ロググループを取得する

```
// No need to loop to get all the log groups--the SDK does it for us behind the
scenes
var paginatorForLogGroups =
    cwClient.Paginators.DescribeLogGroups(new DescribeLogGroupsRequest());
await foreach(var logGroup in paginatorForLogGroups.LogGroups)
{
    Console.WriteLine(logGroup.LogGroupName);
}
```

これら 2 つのスニペットの結果はまったく同じであるため、ページネータを使用する利点が明確になります。

Note

完全なコードをビルドして実行する前に、[環境とプロジェクトがセットアップされている](#)ことを確認してください。

非同期ページネーターでは `IAsyncEnumerable` インターフェイスが使用されるため、[Microsoft.Bcl.AsyncInterfaces](#) NuGet パッケージが必要となる場合もあります。

コード全文

このセクションでは、例に関連する参考資料とコードの全文を示します。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [AWSSDK.CloudWatch](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.CloudWatch](#)
 - クラス [AmazonCloudWatchLogsClient](#)
- 名前空間 [Amazon.CloudWatchLogs.Model](#)
 - クラス [DescribeLogGroupsRequest](#)
 - クラス [DescribeLogGroupsResponse](#)
 - クラス [LogGroup](#)

完全なコード

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.CloudWatchLogs;
using Amazon.CloudWatchLogs.Model;

namespace CWGetLogGroups
{
    class Program
    {
        // A small limit for demonstration purposes
        private const int LogGroupLimit = 3;
```

```

//
// Main method
static async Task Main(string[] args)
{
    var cwClient = new AmazonCloudWatchLogsClient();
    await DisplayLogGroupsWithoutPaginators(cwClient);
    await DisplayLogGroupsWithPaginators(cwClient);
}

//
// Method to get CloudWatch log groups without paginators
private static async Task DisplayLogGroupsWithoutPaginators(IAmazonCloudWatchLogs
cwClient)
{
    Console.WriteLine("\nGetting list of CloudWatch log groups without using
paginators...");

    Console.WriteLine("-----");

    // Loop as many times as needed to get all the log groups
    var request = new DescribeLogGroupsRequest{Limit = LogGroupLimit};
    do
    {
        Console.WriteLine($"Getting up to {LogGroupLimit} log groups...");
        DescribeLogGroupsResponse response = await
cwClient.DescribeLogGroupsAsync(request);
        foreach(LogGroup logGroup in response.LogGroups)
        {
            Console.WriteLine($"{logGroup.LogGroupName}");
        }
        request.NextToken = response.NextToken;
    } while(!string.IsNullOrEmpty(request.NextToken));
}

//
// Method to get CloudWatch log groups by using paginators
private static async Task DisplayLogGroupsWithPaginators(IAmazonCloudWatchLogs
cwClient)
{
    Console.WriteLine("\nGetting list of CloudWatch log groups by using
paginators...");

```

```

Console.WriteLine("-----");

// Access the key results; i.e., the log groups
// No need to loop to get all the log groups--the SDK does it for us behind the
scenes
Console.WriteLine("\nFrom the key results...");
Console.WriteLine("-----");
IDescribeLogGroupsPaginator paginatorForLogGroups =
    cwClient.Paginators.DescribeLogGroups(new DescribeLogGroupsRequest());
await foreach(LogGroup logGroup in paginatorForLogGroups.LogGroups)
{
    Console.WriteLine(logGroup.LogGroupName);
}

// Access the full response
// Create a new paginator, do NOT reuse the one from above
Console.WriteLine("\nFrom the full response...");
Console.WriteLine("-----");
IDescribeLogGroupsPaginator paginatorForResponses =
    cwClient.Paginators.DescribeLogGroups(new DescribeLogGroupsRequest());
await foreach(DescribeLogGroupsResponse response in
paginatorForResponses.Responses)
{
    Console.WriteLine($"Content length: {response.ContentLength}");
    Console.WriteLine($"HTTP result: {response.HttpStatusCode}");
    Console.WriteLine($"Metadata: {response.ResponseMetadata}");
    Console.WriteLine("Log groups:");
    foreach(LogGroup logGroup in response.LogGroups)
    {
        Console.WriteLine($"  {logGroup.LogGroupName}");
    }
}
}
}
}
}

```

ページネーターに関する追加の考慮事項

- ページネーターは複数回使用できない

コード内の複数の場所で特定の AWS ページネーターの結果が必要な場合でも、ページネーターオブジェクトを複数回使用することはできません。代わりに、使用する必要があるたびに新しい

ページネーターを作成してください。この概念は、前の `DisplayLogGroupsWithPaginators` メソッドの例のコードに示されています。

- 同期ページ分割

.NET Framework 4.7.2 (またはそれ以降) のプロジェクトでは、同期ページ分割を使用できます。

⚠ Warning

2024 年 8 月 15 日以降、AWS SDK for .NET は .NET Framework 3.5 のサポートを終了し、.NET Framework の最小バージョンを 4.7.2 に変更します。詳細については、ブログ記事「[Important changes coming for .NET Framework 3.5 and 4.5 targets of the AWS SDK for .NET](#)」を参照してください。

これを確認するには、.NET Framework 4.7.2 (またはそれ以降) のプロジェクトを作成して、上記のコードをコピーします。次に、次の例に示すように、2 つの `foreach` ページネーターコールから `await` キーワードのみを削除します。

```
/*await*/ foreach(var logGroup in paginatorForLogGroups.LogGroups)
{
    Console.WriteLine(logGroup.LogGroupName);
}
```

プロジェクトをビルドして実行し、非同期ページ分割の結果と同じ結果が生成されることを確認します。

オブザーバビリティ

オブザーバビリティとは、システムが出力するデータから、そのシステムの現在の状態をどの程度推測できるかという指標のことです。出力されるデータは、一般的にテレメトリと呼ばれます。

は、2 つの一般的なテレメトリシグナル、メトリクスとトレース、およびログ記録を提供 AWS SDK for .NET できます。[TelemetryProvider](#) をワイヤアップして、テレメトリデータをオブザーバビリティバックエンド ([AWS X-Ray](#) や [Amazon CloudWatch](#) など) に送信し、それに対応できます。

デフォルトでは、テレメトリ信号は SDK で無効になっています。このトピックでは、テレメトリ出力を有効にして設定する方法について説明します。

その他のリソース

オブザーバビリティの有効化と使用の詳細については、以下のリソースを参照してください。

- [OpenTelemetry](#)
- ブログ記事[OpenTelemetry AWS SDK for .NET を使用した のオブザーバビリティの強化](#)。
- このブログ記事では、[AWS .NET OpenTelemetry ライブラリの一般提供を発表しています](#)。
- [OpenTelemetry のエクスポーター](#)
- のオブザーバビリティの例については AWS Tools for PowerShell、[「Tools for PowerShell ユーザーガイド」の「オブザーバビリティ」](#)を参照してください。

TelemetryProvider の設定

次の例に示すように、すべてのサービスクライアントまたは個々のクライアントについて、アプリケーションで TelemetryProvider をグローバルに設定できます。[the section called “テレメトリプロバイダー”](#) セクションには、SDK で提供される実装に関する情報など、テレメトリの実装に関する情報が含まれています。

デフォルトのグローバルテレメトリプロバイダーを設定する

デフォルトでは、すべてのサービスクライアントはグローバルに利用可能なテレメトリプロバイダーの使用を試みます。これにより、プロバイダーを 1 回設定でき、すべてのクライアントがそれを使用します。これは、サービスクライアントを作成する前に 1 回だけ行う必要があります。

次のコードスニペットは、グローバルテレメトリプロバイダーを設定する方法を示しています。次に、Amazon S3 サーマスクライアントを作成し、オペレーションの実行を試みますが、失敗します。このコードは、トレースとメトリクスの両方をアプリケーションに追加します。このコードは、OpenTelemetry.Exporter.Console および OpenTelemetry.Instrumentation.AWS の NuGet パッケージを使用します。

Note

認証 AWS IAM Identity Center に を使用している場合は、必ず `AWSSDK.SSO` と も追加してください `AWSSDK.SSO0IDC`。

```
using Amazon.S3;  
using OpenTelemetry;
```

```
using OpenTelemetry.Metrics;
using OpenTelemetry.Resources;
using OpenTelemetry.Trace;

Sdk.CreateTracerProviderBuilder()
    .ConfigureResource(e => e.AddService("Demo0tel"))
    .AddAWSInstrumentation()
    .AddConsoleExporter()
    .Build();

Sdk.CreateMeterProviderBuilder()
    .ConfigureResource(e => e.AddService("Demo0tel"))
    .AddAWSInstrumentation()
    .AddConsoleExporter()
    .Build();

var s3Client = new AmazonS3Client();

try
{
    var listBucketsResponse = await s3Client.ListBucketsAsync();
    // Attempt to delete a bucket that doesn't exist.
    var deleteBucketResponse = await s3Client.DeleteBucketAsync("amzn-s3-demo-bucket");
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine(ex.Message);
}

Console.Read();
```

特定のサービスクライアントのテレメトリプロバイダーを設定する

個々のサービスクライアントは、特定のテレメトリプロバイダー (グローバルプロバイダーを除く) で設定できます。これを行うには、サービスクライアントコンストラクタの Config オブジェクトの TelemetryProvider クラスを使用します。例えば、[AmazonS3Config](#) を参照して、TelemetryProvider プロパティを探します。カスタムテレメトリの実装については、「[the section called “テレメトリプロバイダー”](#)」を参照してください。

トピック

- [メトリクス](#)
- [テレメトリプロバイダー](#)

メトリクス

次の表に、SDK が出力するテレメトリメトリクスを示します。[テレメトリプロバイダーを設定して](#)、メトリクスを観測可能にします。

どのようなメトリクスが出力されますか？

メトリクス名	単位	タイプ	属性	説明
client.call.duration	s	ヒストグラム	rpc.service、rpc.method	全体的な通話時間 (再試行とリクエストとレスポンス本文の送受信時間を含む)
client.uptime	s	ヒストグラム	rpc.service	クライアントが作成されてからの時間
client.call.attempts	{attempt}	Monoton Counter	rpc.service、rpc.method	個々のオペレーションの試行回数
client.call.errors	{error}	Monoton Counter	rpc.service、rpc.method、exception.type	オペレーションのエラーの数
client.call.attempt_duration	s	ヒストグラム	rpc.service、rpc.method	サービスへの接続、リクエストの送信、HTTP ステータスコードとヘッダーの取得にかかる時間 (キューに入られた送信待機時間を含む)
client.call.resolve_endpoint_duration	s	ヒストグラム	rpc.service、rpc.method	リクエストのエンドポイント (DNS ではなくエンドポイントリゾルバー) の解決にかかる時間
client.call.serialization_duration	s	ヒストグラム	rpc.service、rpc.method	メッセージ本文のシリアル化にかかる時間
client.call.deserialization_duration	s	ヒストグラム	rpc.service、rpc.method	メッセージ本文の逆シリアル化にかかる時間

メトリクス名	単位	タイプ	属性	説明
client.call.auth.signing_duration	s	ヒストグラム	rpc.service、rpc.method	リクエストへの署名にかかる時間
client.call.auth.resolve_id_entity_duration	s	ヒストグラム	rpc.service、rpc.method	ID プロバイダーから ID (AWS 認証情報やベアラートークンなど) の取得にかかる時間
client.http.bytes_sent	方法	Monoton Counter	server.address	HTTP クライアントによって送信された総バイト数
client.http.bytes_received	方法	Monoton Counter	server.address	HTTP クライアントによって受信された合計バイト数

以下に示しているのは列の説明です。

- **メトリクス名** – 発行されたメトリクスの名前。
- **単位** – メトリクスの測定単位。単位は、[UCUM](#) の大文字と小文字を区別する (「c/s」) 表記で指定されます。
- **タイプ** – メトリクスのキャプチャに使用される計測器のタイプ。
- **属性** – メトリクスで出力される属性 (ディメンション) のセット。
- **説明** – メトリクスが測定している対象の説明。

テレメトリプロバイダー

SDK は、[OpenTelemetry](#) の実装をテレメトリプロバイダーとして提供します。これについては、[次のセクション](#)で説明します。

特定のテレメトリ要件があり、テレメトリソリューションがすでに考慮されている場合、またはテレメトリデータのキャプチャと処理の方法をきめ細かく制御する必要がある場合は、独自のテレメトリプロバイダーを実装することもできます。

[TelemetryProvider](#) クラスに独自の実装を登録します。以下は、独自の TracerProvider と MeterProvider を登録する方法の簡単な例です。

```
using Amazon;
```

```
using Amazon.Runtime.Telemetry;
using Amazon.Runtime.Telemetry.Metrics;
using Amazon.Runtime.Telemetry.Tracing;

public class CustomTracerProvider : TracerProvider
{
    // Implement custom tracing logic here
}

public class CustomMeterProvider : MeterProvider
{
    // Implement custom metrics logic here
}

// Register custom implementations
AWSConfigs.TelemetryProvider.RegisterTracerProvider(new CustomTracerProvider());
AWSConfigs.TelemetryProvider.RegisterMeterProvider(new CustomMeterProvider());
```

トピック

- [OpenTelemetry ベースのテレメトリプロバイダーを設定する](#)

OpenTelemetry ベースのテレメトリプロバイダーを設定する

には、OpenTelemetry ベースのテレメトリプロバイダーの実装 AWS SDK for .NET が含まれています。このプロバイダーをグローバルテレメトリプロバイダーとして設定する方法の詳細については、「[TelemetryProvider の設定](#)」を参照してください。このテレメトリプロバイダーを使用するには、プロジェクトに次のリソースが必要です。

- [OpenTelemetry.Instrumentation.AWS](#) NuGet パッケージ。
- OTLP やコンソールなどのテレメトリエクスポーター。詳細については、OpenTelemetry ドキュメントの「[エクスポーター](#)」を参照してください。

SDK に含まれる OpenTelemetry 実装は、HTTPS リクエスト、認証情報、および圧縮のトレース量を減らすように設定できます。これを行うには、次のように、`SuppressDownstreamInstrumentation` オプションを `true` に設定します。

```
Sdk.CreateTracerProviderBuilder()
    .ConfigureResource(e => e.AddService("DemoOtel"))
    .AddAWSInstrumentation(options => options.SuppressDownstreamInstrumentation = true)
    .AddConsoleExporter()
```

```
.Build();
```

このプロバイダーの詳細については、[OpenTelemetry AWS SDK for .NET を使用した のブログ記事「Enhancing Observability」](#)を参照してください。

その他のツール

.NET アプリケーションの開発、デプロイ、および保守の作業を容易にするために使用できる追加のツールを次に示します。

AWSデプロイツール

開発マシンでクラウドネイティブ .NET Core アプリケーションを開発したら、.NET CLI 用の AWS デプロイツールを使用して、より簡単にアプリケーションを AWS にデプロイできます。

詳細については、「[アプリケーションのAWSへのデプロイ](#)」を参照してください。

AWS Message Processing Framework for .NET

Amazon SQS、Amazon SNS、Amazon EventBridge などのサービスを使用している場合は、AWS Message Processing Framework for .NET の利点を活用できる可能性があります。詳細については、「[AWS Message Processing Framework for .NET](#)」を参照してください。

.NET Aspire との統合

.NET Aspire との統合を活用して、内部の開発ループを改善できます。詳細については、「[AWS SDK for .NET での AWS と .NET Aspire との統合](#)」を参照してください。

AWS SDK for .NET による高度な認証と認可

このセクションのトピックでは、AWS SDK for .NET アプリケーションでの認証と認可の高度な手法について説明します。

トピック

- [AWS SDK for .NET でのシングルサインオン \(SSO\)](#)

AWS SDK for .NET でのシングルサインオン (SSO)

AWS IAM Identity Center は、AWS アカウント とクラウドアプリケーションへの SSO アクセスの一元管理を容易にするクラウドベースのシングルサインオン (SSO) サービスです。詳細については、[IAM Identity Center ユーザーガイド](#)を参照してください。

SDK が IAM Identity Center とどのように相互作用するのかがよくわからない場合は、以下の情報を参照してください。

高レベルインタラクションステップ

高レベルでは、SDK は次のパターンと同様の方法で IAM Identity Center と相互作用します。

1. IAM Identity Center は通常 [IAM Identity Center コンソール](#) を使用して設定され、SSO ユーザーは参加するよう招待されます。
2. AWSconfig ユーザーのコンピュータ上の共有ファイルが SSO 情報で更新されます。
3. ユーザーは IAM Identity Center からサインインすると、設定されている AWS Identity and Access Management (IAM) 権限の短期認証情報が与えられます。このサインインは、AWS CLI のような非 SDK ツールを使って開始することも、.NET アプリケーションを通じてプログラム的に開始することもできます。
4. ユーザーは作業を続行します。SSO を使用している他のアプリケーションを実行する場合、アプリケーションを開くために再度サインインする必要はありません。

このトピックの残りの部分では、設定と AWS IAM Identity Center の使用に関する参考情報を提供します。[SDK 認証の設定](#)での基本的な SSO 設定よりも補足的な情報やより高度な情報を提供します。AWS で SSO を初めて使用する場合は、まずそのトピックで基本的な情報を確認し、次に次のチュートリアルで SSO の動作を確認するとよいでしょう。

- [チュートリアル: .NET アプリケーションのみ](#)

- [チュートリアル: AWS CLI および .NET アプリケーション](#)

このトピックには、次のセクションが含まれています。

- [前提条件](#)
- [SSO プロファイルのセットアップ](#)
- [SSO トークンの生成と使用](#)
- [その他のリソース](#)
- [チュートリアル](#)

前提条件

IAM Identity Center を使用する前に、ID ソースの選択や関連するAWS アカウントやアプリケーションの設定など、特定のタスクを実行する必要があります。詳細については、以下を参照してください。

- IAM Identity Center の設定の詳細については、「IAM Identity Center ユーザーガイド」の「[Getting Started](#)」(使用開始)を参照してください。
- 具体的なタスクの例については、このトピックの最後にあるチュートリアルのリストを参照してください。ただし、チュートリアルを試す前に、このトピックの情報を必ず確認してください。

SSO プロファイルのセットアップ

関連するAWS アカウント で、IAM Identity Center を [設定](#) したら、SSO 用の名前付きプロファイル をユーザーの共有 AWSconfig ファイルに追加する必要があります。このプロファイルは、[AWS アクセス ポータル](#)に接続するために使用され、ユーザーに対して構成された IAM 権限の短期認証情報を返します。

共有 config ファイルの名前は通常、Windows では %USERPROFILE%\aws\config、Linux および macOS では ~/.aws/config です。任意のテキストエディタを使用して SSO 用の新しいプロファイルを追加できます。または、aws configure sso コマンドを使用できます。このコマンドの詳細については、「AWS Command Line Interfaceユーザーガイド」の「[IAM Identity Center を使用するための AWS CLI の設定](#)」を参照してください。

新しいプロファイルは、次のようになります。

```
[profile my-sso-profile]
```

```
sso_start_url = https://my-sso-portal.awsapps.com/start
sso_region = us-west-2
sso_account_id = 123456789012
sso_role_name = SSOReadOnlyRole
```

新しいプロファイルの設定は以下で定義されています。最初の 2 つの設定は AWS アクセスポータルを定義します。他の 2 つの設定はペアになっており、これらを組み合わせてユーザーに設定された権限を定義します。4 つの設定すべてが必須です。

sso_start_url

組織の [AWS アクセスポータル](#) を指す URL この値を確認するには、[IAM Identity Center コンソール](#) を開いて、[設定] を選択し、[ポータル URL] を探します。

sso_region

アクセスポータルホストが含まれる AWS リージョン。これは IAM Identity Center を有効にしたときに選択されたリージョンです。他のタスクに使用するリージョンとは異なる場合があります。

AWS リージョン の完全なリストとそれらのコードについては、Amazon Web Services 全般のリファレンスの「[リージョナルエンドポイント](#)」を参照してください。

sso_account_id

AWS Organizations サービスを通じて追加された AWS アカウントの ID。使用可能なアカウントのリストを確認するには、[IAM Identity Center コンソール](#) に移動して AWS アカウントページを開きます。この設定で選択するアカウント ID は、次に示す sso_role_name 設定に指定する予定の値に対応します。

sso_role_name

IAM Identity Center の権限セットの名前。この権限セットは、IAM Identity Center を通じてユーザーに付与される権限を定義します。

以下の手順は、この設定の値を確認する方法の 1 つです。

1. [IAM Identity Center コンソール](#) に移動し、AWS アカウントページを開きます。
2. 詳細を表示するアカウントを選択します。選択するアカウントは、SSO 権限を付与したい SSO ユーザーまたはグループを含むアカウントになります。
3. アカウントに割り当てられているユーザーとグループのリストを見て、対象のユーザーまたはグループを探します。sso_role_name 設定で指定する権限セットは、このユーザーまたはグループに関連付けられている権限セットの 1 つです。

この設定の値を指定するときは、Amazon リソースネーム (ARN) ではなく、権限セットの名前を使用してください。

権限セットには IAM ポリシーとカスタムアクセス権限ポリシーがアタッチされています。詳細については、「IAM Identity Center ユーザーガイド」の「[権限セット](#)」を参照してください。

SSO トークンの生成と使用

SSO を使用するには、ユーザーはまず一時トークンを生成し、次にそのトークンを使用して適切な AWS アプリケーションやリソースにアクセスする必要があります。.NET アプリケーションでは、次の方法を使用してこれらの一時トークンを生成して使用できます。

- 必要に応じて最初にトークンを生成し、そのトークンを使用する .NET アプリケーションを作成します。
- AWS CLI を使用してトークンを生成し、そのトークンを .NET アプリケーションで使用します。

これらの方法については、以下のセクションで説明し、[チュートリアル](#)で実演しています。

Important

SSO 解決が機能するには、アプリケーションが次の NuGet パッケージを参照する必要があります。

- AWSSDK.SSO
- AWSSDK.SSO0IDC

これらのパッケージを参照しないと、ランタイム例外が発生します。

.NET アプリケーションのみ

このセクションでは、必要に応じて一時的な SSO トークンを生成し、そのトークンを使用する .NET アプリケーションを作成する方法を説明します。このプロセスの詳細なチュートリアルについては、[.NET アプリケーションのみを使用する SSO のチュートリアル](#)を参照してください。

SSO トークンをプログラムで生成して使用する。

AWS CLI を使用するほかに、SSO トークンをプログラムでも生成できます。

そのために、アプリケーションは SSO プロファイル用の [AWSCredentials](#) オブジェクトを作成します。このオブジェクトは、一時的な認証情報があればそれをロードします。次に、アプリケーションはその [AWSCredentials](#) オブジェクトを [SSOAWSCredentials](#) オブジェクトにキャストし、必要に応じてユーザーにサインイン情報の入力を求めるコールバックメソッドなど、いくつかの [Options](#) プロパティを設定する必要があります。

次のコードスニペットは、このメソッドを示しています。

Important

SSO 解決が機能するには、アプリケーションが次の NuGet パッケージを参照する必要があります。

- AWSSDK.SSO
- AWSSDK.SSO0IDC

これらのパッケージを参照しないと、ランタイム例外が発生します。

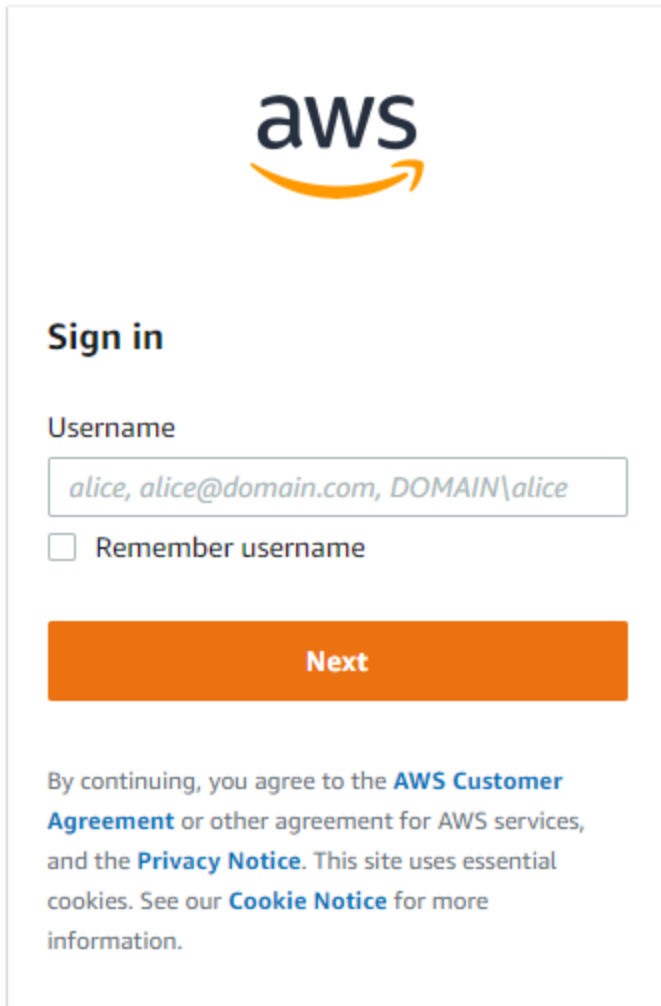
```
static AWSCredentials LoadSsoCredentials()
{
    var chain = new CredentialProfileStoreChain();
    if (!chain.TryGetAWSCredentials("my-sso-profile", out var credentials))
        throw new Exception("Failed to find the my-sso-profile profile");

    var ssoCredentials = credentials as SSOAWSCredentials;

    ssoCredentials.Options.ClientName = "Example-SSO-App";
    ssoCredentials.Options.SsoVerificationCallback = args =>
    {
        // Launch a browser window that prompts the SSO user to complete an SSO sign-
in.
        // This method is only invoked if the session doesn't already have a valid SSO
token.
        // NOTE: Process.Start might not support launching a browser on macOS or Linux.
If not,
        //      use an appropriate mechanism on those systems instead.
        Process.Start(new ProcessStartInfo
        {
            FileName = args.VerificationUriComplete,
            UseShellExecute = true
        });
    };
}
```

```
    });  
};  
  
    return ssoCredentials;  
}
```

適切な SSO トークンがない場合は、既定のブラウザーウィンドウが起動し、適切なサインインページが開きます。たとえば、IAM Identity Center を ID ソースとして使用している場合、ユーザーには次のようなサインインページが表示されます。



The image shows the AWS Sign in page. At the top is the AWS logo. Below it is the heading "Sign in". Under the heading is the label "Username". Below the label is a text input field containing the placeholder text "alice, alice@domain.com, DOMAIN\alice". Below the input field is a checkbox labeled "Remember username". Below the checkbox is an orange button labeled "Next". At the bottom of the page, there is a paragraph of text: "By continuing, you agree to the [AWS Customer Agreement](#) or other agreement for AWS services, and the [Privacy Notice](#). This site uses essential cookies. See our [Cookie Notice](#) for more information."

Note

`SSOAWSCredentials.Options.ClientName`に入力するテキスト文字列には、スペースを含めることはできません。文字列にスペースが含まれていると、ランタイム例外が発生します。

[.NET アプリケーションのみを使用する SSO のチュートリアル](#)

AWS CLIおよび.NET アプリケーション

このセクションでは、AWS CLIを使用して一時的な SSO トークンを生成する方法と、そのトークンをアプリケーションで使用方法について説明します。このプロセスの詳細なチュートリアルについては、[AWS CLI および .NET アプリケーションを使用した SSO のチュートリアル](#)を参照してください。

AWS CLIを使用して SSO トークンを生成します。

一時的な SSO トークンをプログラムで生成するだけでなく、AWS CLIを使用してトークンを生成します。次の情報は、その方法を示しています。

[前のセクション](#)で説明したように、ユーザは SSO 対応プロファイルを作成したら、AWS CLIから `aws sso login` コマンドを実行します。SSO 対応プロファイルの名前には必ず `--profile` パラメータを含める必要があります。これを次の例で示します:

```
aws sso login --profile my-sso-profile
```

現在のトークンの有効期限が切れた後に新しい一時トークンを生成したい場合は、同じコマンドをもう一度実行できます。

生成された SSO トークンを.NET アプリケーションで使用します。

次の情報は、すでに生成されている一時トークンの使用方法を示しています。

Important

SSO 解決が機能するには、アプリケーションが次の NuGet パッケージを参照する必要があります。

- `AWSSDK.SSO`
- `AWSSDK.SSO0IDC`

これらのパッケージを参照しないと、ランタイム例外が発生します。

アプリケーションが SSO プロファイル用の [AWSCredentials](#) オブジェクトを作成し、AWS CLI によって以前に生成された一時的な認証情報が読み込まれます。これは [アプリケーションでの認証情報とプロファイルへのアクセス](#) に示した方法と似ており、形式は次のとおりです。

```
static AWSCredentials LoadSsoCredentials()
{
    var chain = new CredentialProfileStoreChain();
    if (!chain.TryGetAWSCredentials("my-ssoprofile", out var credentials))
        throw new Exception("Failed to find the my-ssoprofile profile");

    return credentials;
}
```

その後、AWSCredentials オブジェクトはサービスクライアントのコンストラクターに渡されます。例:

```
var S3Client_SS0 = new AmazonS3Client(LoadSsoCredentials());
```

Note

アプリケーションが SSO 用の [default] プロファイルを使用するように構築されている場合は、AWSCredentials を使用して一時的な認証情報を読み込む必要はありません。その場合、アプリケーションは、「var client = new AmazonS3Client();」と同様に、パラメーターなしで AWS サービスクライアントを作成できます。

[AWS CLI および .NET アプリケーションを使用した SSO のチュートリアル](#)

その他のリソース

その他のヘルプについては、以下の資料を参照してください。

- [IAM Identity Center とは何ですか？](#)
- [IAM Identity Center を使用するための AWS CLI の設定](#)
- [で IAM Identity Center の認証情報を使用する AWS Toolkit for Visual Studio](#)

チュートリアル

トピック

- [.NET アプリケーションのみを使用する SSO のチュートリアル](#)
- [AWS CLI および .NET アプリケーションを使用した SSO のチュートリアル](#)

.NET アプリケーションのみを使用する SSO のチュートリアル

このチュートリアルでは、基本アプリケーションとテスト SSO ユーザーの SSO を有効にする方法を示します。[AWS CLI](#) を使用する代わりにプログラムで一時的な SSO トークンを生成するようにアプリケーションを設定します。

このチュートリアルでは、の SSO 機能のごく一部について説明します AWS SDK for .NET。での IAM Identity Center の使用の詳細については AWS SDK for .NET、トピックの[背景情報](#)を参照してください。そのトピックでは、特に [.NET アプリケーションのみ](#) というサブセクションにあるこのシナリオの概要説明を参照してください。

Note

このチュートリアルのいくつかのステップは、AWS Organizations や IAM Identity Center などのサービスを設定するのに役立ちます。その設定をすでに実行している場合や、コードのみに関心がある場合は、[サンプルコード](#)のセクションまでスキップできます。

前提条件

- まだの場合は、開発環境を設定します。これについては、[ツールチェーンのインストールと設定](#)や [はじめに](#) などのセクションで説明しています。
- SSO AWS アカウント のテストに使用できる 1 つ以上の を特定または作成します。このチュートリアルでは、これをテスト AWS アカウント、または単にテストアカウントと呼びます。
- SSO をテストしてくれる SSO ユーザーを指定します。これは SSO と、作成した基本的なアプリケーションを使用するユーザーです。このチュートリアルでは、あなた (開発者) でも他のユーザーでもかまいません。また、SSO ユーザーが開発環境外のコンピュータで作業するような設定もお勧めします。ただし、これは厳密には必須ではありません。
- SSO ユーザーのコンピュータには、開発環境の設定に使用したものと互換性のある .NET Framework がインストールされている必要があります。

セットアップ AWS

このセクションでは、このチュートリアルของさまざまな AWS サービスをセットアップする方法について説明します。

この設定を実行するには、まず管理者 AWS アカウント としてテストにサインインします。次に、以下の操作を実行します。

Amazon S3

[Amazon S3 コンソール](#) に移動し、無害なバケットをいくつか追加します。このチュートリアルの後半では、SSO ユーザーがこれらのバケットのリストを取得します。

AWS IAM

[IAM コンソール](#) に移動し、IAM ユーザーを数人追加します。IAM ユーザーにアクセス権限を付与する場合は、その権限をいくつかの無害な読み取り専用権限に制限してください。このチュートリアルの後半では、SSO ユーザーがこれらの IAM ユーザーのリストを取得します。

AWS Organizations

[AWS Organizations コンソール](#) に移動し、組織を有効にします。詳細については、「[AWS Organizations ユーザーガイド](#)」で「[組織を作成する](#)」を参照してください。

このアクションは、テスト AWS アカウント を管理アカウントとして組織に追加します。テストアカウントが他にもある場合は、そのアカウントを組織に招待できますが、このチュートリアルでは必須ではありません。

IAM アイデンティティセンター

[IAM アイデンティティセンターコンソール](#) に移動してSSO を有効にします。必要に応じて E メール認証を行います。詳細については、「[IAM アイデンティティセンターユーザーガイド](#)」の「[IAM アイデンティティセンターを有効化する](#)」を参照してください。

次に、以下の設定を行います。

IAM アイデンティティセンター を設定する

1. [設定] ページに移動します。「アクセスポータル URL」を探し、その値を後で使用できるように `sso_start_url` 設定に記録します。

2. のバナーで AWS マネジメントコンソール、SSO を有効にしたときに AWS リージョン 設定された を探します。これは AWS アカウント ID の左側にあるドロップダウンメニューです。後でできるようにリージョンコードを sso_region 設定に記録しておきます。このコードは us-east-1 のようになります。
3. 次のように SSO ユーザーを作成します。
 - a. [ユーザー]ページに移動します。
 - b. [ユーザーを追加] を選択し、ユーザーの ユーザー名、 メールアドレス、 名、 姓 を入力します。その後、[Next] を選択します。
 - c. グループのページで [次へ] を選択し、情報を確認して [ユーザーを追加] を選択します。
4. 次のようにグループを作成します。
 - a. [グループ]ページに移動します。
 - b. [グループを作成] を選択し、グループの [グループ名] と [説明] を入力します。
 - c. [ユーザーをグループに追加] セクションで、先ほど作成したテスト SSO ユーザーを選択します。次に、[Create group] (グループを作成) を選択します。
5. 次のようにアクセス権限セットを作成します。
 - a. [権限セット] ページに移動し、[権限セットの作成] を選択します。
 - b. [権限セットの種類] で [カスタム権限セット] を選択し、[次へ] を選択します。
 - c. [インラインポリシー] を開き、次のポリシーを入力します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "s3:ListAllMyBuckets",
        "iam:ListUsers"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

```
}
```

- d. このチュートリアルでは、権限セット名として `SSOReadOnlyRole` を入力します。必要に応じて説明を追加し、[次へ] を選択します。
 - e. 情報を確認してから、[Create] (作成) を選択します。
 - f. 後で使えるように権限セットの名前を `sso_role_name` 設定に記録します。
6. AWS アカウントページに移動し、以前に組織に追加した AWS アカウントを選択します。
 7. そのページの「概要」セクションで アカウント ID を探し、後で使えるように `sso_account_id` 設定に記録しておきます。
 8. [ユーザーとグループ] タブを選択し、[ユーザーまたはグループの割り当て]を選択します。
 9. [ユーザーとグループの割り当て]ページで [グループ] タブを選択し、先ほど作成したグループを選択して、[次へ] を選択します。
 10. 前に作成した権限セットを選択し、[次へ] を選択してから [送信] を選択します。設定には少し時間がかかります。

サンプルアプリケーションを作成する

以下のアプリケーションを作成します。それらは、SSO ユーザーのコンピューター上で実行されます。

Amazon S3 バケットを一覧表示する

AWSSDK.S3、AWSSDK.SecurityToken に加えて NuGet パッケージ AWSSDK.SSO、AWSSDK.SSO0IDC も含めます。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using System.Diagnostics;

// NuGet packages: AWSSDK.S3, AWSSDK.SecurityToken, AWSSDK.SSO, AWSSDK.SSO0IDC
using Amazon.Runtime;
using Amazon.Runtime.CredentialManagement;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;
using Amazon.SecurityToken;
using Amazon.SecurityToken.Model;

namespace SSOExample.S3.Programmatic_login
```

```

{
    class Program
    {
        // Requirements:
        // - An SSO profile in the SSO user's shared config file.

        // Class members.
        private static string profile = "my-sso-profile";

        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Get SSO credentials from the information in the shared config file.
            var ssoCreds = LoadSsoCredentials(profile);

            // Display the caller's identity.
            var ssoProfileClient = new AmazonSecurityTokenServiceClient(ssoCreds);
            Console.WriteLine($"\\nSSO Profile:\\n {await
ssoProfileClient.GetCallerIdentityArn()}");

            // Display a list of the account's S3 buckets.
            // The S3 client is created using the SSO credentials obtained earlier.
            var s3Client = new AmazonS3Client(ssoCreds);
            Console.WriteLine("\\nGetting a list of your buckets...");
            var listResponse = await s3Client.ListBucketsAsync();
            Console.WriteLine($"Number of buckets: {listResponse.Buckets.Count}");
            foreach (S3Bucket b in listResponse.Buckets)
            {
                Console.WriteLine(b.BucketName);
            }
            Console.WriteLine();
        }

        // Method to get SSO credentials from the information in the shared config
        file.
        static AWSCredentials LoadSsoCredentials(string profile)
        {
            var chain = new CredentialProfileStoreChain();
            if (!chain.TryGetAWSCredentials(profile, out var credentials))
                throw new Exception($"Failed to find the {profile} profile");

            var ssoCredentials = credentials as SSOAWSCredentials;

            ssoCredentials.Options.ClientName = "Example-SSO-App";
            ssoCredentials.Options.SsoVerificationCallback = args =>

```

```

        {
            // Launch a browser window that prompts the SSO user to complete an SSO
login.
            // This method is only invoked if the session doesn't already have a
valid SSO token.
            // NOTE: Process.Start might not support launching a browser on macOS
or Linux. If not,
            //      use an appropriate mechanism on those systems instead.
            Process.Start(new ProcessStartInfo
            {
                FileName = args.VerificationUriComplete,
                UseShellExecute = true
            });
        };

        return ssoCredentials;
    }

}

// Class to read the caller's identity.
public static class Extensions
{
    public static async Task<string> GetCallerIdentityArn(this
IAmazonSecurityTokenService stsClient)
    {
        var response = await stsClient.GetCallerIdentityAsync(new
GetCallerIdentityRequest());
        return response.Arn;
    }
}
}

```

IAM ユーザーのリストを取得する

AWSSDK.IdentityManagement、AWSSDK.SecurityToken に加えて NuGet パッケージ AWSSDK.SSO、AWSSDK.SSO0IDC も含めます。

```

using System;
using System.Threading.Tasks;
using System.Diagnostics;

```

```
// NuGet packages: AWSSDK.IdentityManagement, AWSSDK.SecurityToken, AWSSDK.SSO,
// AWSSDK.SSO0IDC
using Amazon.Runtime;
using Amazon.Runtime.CredentialManagement;
using Amazon.IdentityManagement;
using Amazon.IdentityManagement.Model;
using Amazon.SecurityToken;
using Amazon.SecurityToken.Model;

namespace SSOExample.IAM.Programmatic_login
{
    class Program
    {
        // Requirements:
        // - An SSO profile in the SSO user's shared config file.

        // Class members.
        private static string profile = "my-sso-profile";

        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Get SSO credentials from the information in the shared config file.
            var ssoCreds = LoadSsoCredentials(profile);

            // Display the caller's identity.
            var ssoProfileClient = new AmazonSecurityTokenServiceClient(ssoCreds);
            Console.WriteLine($"\\nSSO Profile:\\n {await
ssoProfileClient.GetCallerIdentityArn()}");

            // Display a list of the account's IAM users.
            // The IAM client is created using the SSO credentials obtained earlier.
            var iamClient = new AmazonIdentityManagementServiceClient(ssoCreds);
            Console.WriteLine("\\nGetting a list of IAM users...");
            var listResponse = await iamClient.ListUsersAsync();
            Console.WriteLine($"Number of IAM users: {listResponse.Users.Count}");
            foreach (User u in listResponse.Users)
            {
                Console.WriteLine(u.UserName);
            }
            Console.WriteLine();
        }

        // Method to get SSO credentials from the information in the shared config
        file.
```

```

static AWSCredentials LoadSsoCredentials(string profile)
{
    var chain = new CredentialProfileStoreChain();
    if (!chain.TryGetAWSCredentials(profile, out var credentials))
        throw new Exception($"Failed to find the {profile} profile");

    var ssoCredentials = credentials as SS0AWSCredentials;

    ssoCredentials.Options.ClientName = "Example-SS0-App";
    ssoCredentials.Options.SsoVerificationCallback = args =>
    {
        // Launch a browser window that prompts the SS0 user to complete an SS0
login.
        // This method is only invoked if the session doesn't already have a
valid SS0 token.
        // NOTE: Process.Start might not support launching a browser on macOS
or Linux. If not,
        //      use an appropriate mechanism on those systems instead.
        Process.Start(new ProcessStartInfo
        {
            FileName = args.VerificationUriComplete,
            UseShellExecute = true
        });
    };

    return ssoCredentials;
}

}

// Class to read the caller's identity.
public static class Extensions
{
    public static async Task<string> GetCallerIdentityArn(this
IAmazonSecurityTokenService stsClient)
    {
        var response = await stsClient.GetCallerIdentityAsync(new
GetCallerIdentityRequest());
        return response.Arn;
    }
}
}

```

これらのアプリケーションは、Amazon S3 バケットと IAM ユーザーのリストを表示するだけでなく、SSO 対応プロファイル (このチュートリアルでは my-sso-profile) のユーザー ID ARN を表示します。

これらのアプリケーションは、[SSOAwsCredentials](#) オブジェクトの [Options](#) プロパティにコールバックメソッドを指定することで SSO サインインタスクを実行します。

SSO ユーザーに指示します。

SSO ユーザーに E メールを確認し、SSO の招待を受け入れるように依頼します。パスワードの設定を求められます。メッセージが SSO ユーザーの受信トレイに届くまでに数分かかる場合があります。

先ほど作成したアプリケーションを SSO ユーザーに提供します。

次に、SSO ユーザーに次の操作を行わせます。

1. 共有 AWS config ファイルを含むフォルダが存在しない場合は、作成します。フォルダが存在し、.sso という名前のサブフォルダがある場合は、そのサブフォルダを削除します。

このフォルダの場所は通常、Windows では %USERPROFILE%\aws、Linux および macOS では ~/.aws です。

2. 必要に応じて、そのフォルダに共有 AWS config ファイルを作成し、次のようにプロファイルを追加します。

```
[default]
region = <default Region>

[profile my-sso-profile]
sso_start_url = <user portal URL recorded earlier>
sso_region = <Region code recorded earlier>
sso_account_id = <account ID recorded earlier>
sso_role_name = SSOReadOnlyRole
```

3. Amazon S3 アプリケーションを実行します。
4. 表示される Web サインインページで、サインインします。招待メッセージに記載されているユーザー名と、メッセージに応じて作成されたパスワードを使用します。
5. サインインが完了すると、アプリケーションには S3 バケットのリストが表示されます。

6. IAMアプリケーションを実行します。アプリケーションは IAM ユーザーのリストを表示します。これは、2 回目のサインインが行われなかった場合でも同様です。IAM アプリケーションは以前に作成された一時トークンを使用します。

クリーンアップ

このチュートリアルで作成したリソースを保持しない場合は、リソースをクリーンアップします。これらは、ファイル AWS やフォルダなどの開発環境のリソースである場合があります。

AWS CLI および .NET アプリケーションを使用した SSO のチュートリアル

このチュートリアルでは、基本的な .NET アプリケーションとテスト SSO ユーザーに対して SSO を有効化する方法を示します。プログラム AWS CLI で生成するのではなく、を使用して一時的な SSO トークン [を生成します](#)。

このチュートリアルでは、の SSO 機能のごく一部について説明します AWS SDK for .NET。での IAM Identity Center の使用の詳細については AWS SDK for .NET、「」トピックの[背景情報](#)を参照してください。そのトピックでは、特に [AWS CLI および .NET アプリケーション](#) というサブセクションにあるこのシナリオの概要説明を参照してください。

Note

このチュートリアルのいくつかのステップは、AWS Organizations や IAM Identity Center などのサービスを設定するのに役立ちます。これらの設定をすでに実行している場合、またはコードのみに関心がある場合は、[サンプルコード](#) のセクションまでスキップできます。

前提条件

- まだの場合は、開発環境を設定します。これについては、[ツールチェーンのインストールと設定](#) や [はじめに](#) などのセクションで説明しています。
- SSO AWS アカウント のテストに使用できる 1 つ以上の を特定または作成します。このチュートリアルでは、これをテスト AWS アカウント、または単にテストアカウントと呼びます。
- SSO をテストしてくれる SSO ユーザーを指定します。これは SSO と、作成した基本的なアプリケーションを使用するユーザーです。このチュートリアルでは、あなた (開発者) でも他のユーザーでもかまいません。また、SSO ユーザーが開発環境外のコンピューターで作業するような設定もお勧めします。ただし、これは厳密には必須ではありません。

- SSO ユーザーのコンピューターには、開発環境の設定に使用したものと互換性のある .NET Framework がインストールされている必要があります。
- AWS CLI バージョン 2 が SSO ユーザーのコンピューターに [インストール](#) されていることを確認します。これは、コマンドプロンプトまたはターミナルで `aws --version` を実行して確認できます。

セットアップ AWS

このセクションでは、このチュートリアル of のさまざまな AWS サービスをセットアップする方法について説明します。

この設定を実行するには、まず管理者 AWS アカウント としてテストにサインインします。次に、以下の操作を実行します。

Amazon S3

[Amazon S3 コンソール](#) に移動し、無害なバケットをいくつか追加します。このチュートリアルの後半では、SSO ユーザーがこれらのバケットのリストを取得します。

AWS IAM

[IAM コンソール](#) に移動し、IAM ユーザーを数人追加します。IAM ユーザーにアクセス権限を付与する場合は、その権限をいくつかの無害な読み取り専用権限に制限してください。このチュートリアルの後半では、SSO ユーザーがこれらの IAM ユーザーのリストを取得します。

AWS Organizations

[AWS Organizations コンソール](#) に移動し、組織を有効にします。詳細については、「[AWS Organizations ユーザーガイド](#)」で「[組織を作成する](#)」を参照してください。

このアクションは、テスト AWS アカウント を管理アカウントとして組織に追加します。テストアカウントが他にもある場合は、そのアカウントを組織に招待できますが、このチュートリアルでは必須ではありません。

IAM アイデンティティセンター

[IAM アイデンティティセンターコンソール](#) に移動して SSO を有効にします。必要に応じて E メール認証を行います。詳細については、「[IAM アイデンティティセンターユーザーガイド](#)」の「[IAM アイデンティティセンターを有効化する](#)」を参照してください。

次に、以下の設定を行います。

IAM アイデンティティセンター を設定する

1. [設定] ページに移動します。「アクセスポータル URL」を探し、その値を後で使用できるように `sso_start_url` 設定に記録します。
2. のバナーで AWS マネジメントコンソール、SSO を有効にしたときに AWS リージョン 設定された を探します。これは AWS アカウント ID の左側にあるドロップダウンメニューです。後で使用できるようにリージョンコードを `sso_region` 設定に記録しておきます。このコードは `us-east-1` のようになります。
3. 次のように SSO ユーザーを作成します。
 - a. [ユーザー]ページに移動します。
 - b. [ユーザーを追加] を選択し、ユーザーの ユーザー名、 メールアドレス、 名、 姓 を入力します。その後、[Next] を選択します。
 - c. グループのページで [次へ] を選択し、情報を確認して [ユーザーを追加] を選択します。
4. 次のようにグループを作成します。
 - a. [グループ]ページに移動します。
 - b. [グループを作成] を選択し、グループの [グループ名] と [説明] を入力します。
 - c. [ユーザーをグループに追加] セクションで、先ほど作成したテスト SSO ユーザーを選択します。次に、[Create group] (グループを作成) を選択します。
5. 次のようにアクセス権限セットを作成します。
 - a. [権限セット] ページに移動し、[権限セットの作成] を選択します。
 - b. [権限セットの種類] で [カスタム権限セット] を選択し、[次へ] を選択します。
 - c. [インラインポリシー] を開き、次のポリシーを入力します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
```

```

        "s3:ListAllMyBuckets",
        "iam:ListUsers"
    ],
    "Resource": "*"
}
]
}

```

- d. このチュートリアルでは、権限セット名として `SSOReadOnlyRole` を入力します。必要に応じて説明を追加し、[次へ] を選択します。
- e. 情報を確認してから、[Create] (作成) を選択します。
- f. 後でできるように権限セットの名前を `sso_role_name` 設定に記録します。
6. AWS アカウントページに移動し、以前に組織に追加した AWS アカウントを選択します。
7. そのページの「概要」セクションでアカウント ID を探し、後でできるように `sso_account_id` 設定に記録しておきます。
8. [ユーザーとグループ] タブを選択し、[ユーザーまたはグループの割り当て] を選択します。
9. [ユーザーとグループの割り当て] ページで [グループ] タブを選択し、先ほど作成したグループを選択して、[次へ] を選択します。
10. 前に作成した権限セットを選択し、[次へ] を選択してから [送信] を選択します。設定には少し時間がかかります。

サンプルアプリケーションを作成する

以下のアプリケーションを作成します。それらは、SSO ユーザーのコンピューター上で実行されます。

Amazon S3 バケットを一覧表示する

AWSSDK.S3、AWSSDK.SecurityToken に加えて NuGet パッケージ AWSSDK.SSO、AWSSDK.SSO0IDC も含めます。

```

using System;
using System.Threading.Tasks;

// NuGet packages: AWSSDK.S3, AWSSDK.SecurityToken, AWSSDK.SSO, AWSSDK.SSO0IDC
using Amazon.Runtime;
using Amazon.Runtime.CredentialManagement;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;

```

```
using Amazon.SecurityToken;
using Amazon.SecurityToken.Model;

namespace SS0Example.S3.CLI_login
{
    class Program
    {
        // Requirements:
        // - An SS0 profile in the SS0 user's shared config file.
        // - An active SS0 Token.
        //   If an active SS0 token isn't available, the SS0 user should do the
following:
        //   In a terminal, the SS0 user must call "aws sso login --profile my-sso-
profile".

        // Class members.
        private static string profile = "my-sso-profile";
        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Get SS0 credentials from the information in the shared config file.
            var ssoCreds = LoadSsoCredentials(profile);

            // Display the caller's identity.
            var ssoProfileClient = new AmazonSecurityTokenServiceClient(ssoCreds);
            Console.WriteLine($"\\nSS0 Profile:\\n {await
ssoProfileClient.GetCallerIdentityArn()}");

            // Display a list of the account's S3 buckets.
            // The S3 client is created using the SS0 credentials obtained earlier.
            var s3Client = new AmazonS3Client(ssoCreds);
            Console.WriteLine("\\nGetting a list of your buckets...");
            var listResponse = await s3Client.ListBucketsAsync();
            Console.WriteLine($"Number of buckets: {listResponse.Buckets.Count}");
            foreach (S3Bucket b in listResponse.Buckets)
            {
                Console.WriteLine(b.BucketName);
            }
            Console.WriteLine();
        }

        // Method to get SS0 credentials from the information in the shared config
file.
        static AWSCredentials LoadSsoCredentials(string profile)
        {
```

```

        var chain = new CredentialProfileStoreChain();
        if (!chain.TryGetAWSCredentials(profile, out var credentials))
            throw new Exception($"Failed to find the {profile} profile");
        return credentials;
    }
}

// Class to read the caller's identity.
public static class Extensions
{
    public static async Task<string> GetCallerIdentityArn(this
IAmazonSecurityTokenService stsClient)
    {
        var response = await stsClient.GetCallerIdentityAsync(new
GetCallerIdentityRequest());
        return response.Arn;
    }
}
}

```

IAM ユーザーのリストを取得する

AWSSDK.IdentityManagement、AWSSDK.SecurityToken に加えて NuGet パッケージ AWSSDK.SSO、AWSSDK.SSO0IDC も含めます。

```

using System;
using System.Threading.Tasks;

// NuGet packages: AWSSDK.IdentityManagement, AWSSDK.SecurityToken, AWSSDK.SSO,
AWSSDK.SSO0IDC
using Amazon.Runtime;
using Amazon.Runtime.CredentialManagement;
using Amazon.IdentityManagement;
using Amazon.IdentityManagement.Model;
using Amazon.SecurityToken;
using Amazon.SecurityToken.Model;

namespace SSOExample.IAM.CLI_login
{
    class Program
    {
        // Requirements:
        // - An SSO profile in the SSO user's shared config file.
    }
}

```

```

        // - An active SSO Token.
        //     If an active SSO token isn't available, the SSO user should do the
following:
        //     In a terminal, the SSO user must call "aws sso login --profile my-sso-
profile".

// Class members.
private static string profile = "my-sso-profile";
static async Task Main(string[] args)
{
    // Get SSO credentials from the information in the shared config file.
    var ssoCreds = LoadSsoCredentials(profile);

    // Display the caller's identity.
    var ssoProfileClient = new AmazonSecurityTokenServiceClient(ssoCreds);
    Console.WriteLine($"\\nSSO Profile:\\n {await
ssoProfileClient.GetCallerIdentityArn()}");

    // Display a list of the account's IAM users.
    // The IAM client is created using the SSO credentials obtained earlier.
    var iamClient = new AmazonIdentityManagementServiceClient(ssoCreds);
    Console.WriteLine("\\nGetting a list of IAM users...");
    var listResponse = await iamClient.ListUsersAsync();
    Console.WriteLine($"Number of IAM users: {listResponse.Users.Count}");
    foreach (User u in listResponse.Users)
    {
        Console.WriteLine(u.UserName);
    }
    Console.WriteLine();
}

// Method to get SSO credentials from the information in the shared config
file.
static AWSCredentials LoadSsoCredentials(string profile)
{
    var chain = new CredentialProfileStoreChain();
    if (!chain.TryGetAWSCredentials(profile, out var credentials))
        throw new Exception($"Failed to find the {profile} profile");
    return credentials;
}

// Class to read the caller's identity.
public static class Extensions

```

```
{  
    public static async Task<string> GetCallerIdentityArn(this  
    IAmazonSecurityTokenService stsClient)  
    {  
        var response = await stsClient.GetCallerIdentityAsync(new  
        GetCallerIdentityRequest());  
        return response.Arn;  
    }  
}
```

これらのアプリケーションは、Amazon S3 バケットと IAM ユーザーのリストを表示するだけでなく、SSO 対応プロファイル (このチュートリアルでは my-sso-profile) のユーザー ID ARN を表示します。

SSO ユーザーに指示します。

SSO ユーザーに E メールを確認し、SSO の招待を受け入れるように依頼します。パスワードの設定を求められます。メッセージが SSO ユーザーの受信トレイに届くまでに数分かかる場合があります。

先ほど作成したアプリケーションを SSO ユーザーに提供します。

次に、SSO ユーザーに次の操作を行わせます。

1. 共有 AWS config ファイルを含むフォルダが存在しない場合は、作成します。フォルダーが存在し、.sso という名前のサブフォルダーがある場合は、そのサブフォルダーを削除します。

このフォルダーの場所は通常、Windows では %USERPROFILE%\aws、Linux および macOS では ~/.aws です。

2. 必要に応じて、そのフォルダに共有 AWS config ファイルを作成し、次のようにプロファイルを追加します。

```
[default]  
region = <default Region>  
  
[profile my-sso-profile]  
sso_start_url = <user portal URL recorded earlier>  
sso_region = <Region code recorded earlier>  
sso_account_id = <account ID recorded earlier>  
sso_role_name = SSOReadOnlyRole
```


3. Amazon S3 アプリケーションを実行します。ランタイム例外が表示されます。
4. 次の AWS CLI コマンドを実行します。

```
aws sso login --profile my-sso-profile
```

5. 表示される Web サインインページで、サインインします。招待メッセージに記載されているユーザー名と、メッセージに応じて作成されたパスワードを使用します。
6. Amazon S3 アプリケーションを再実行します。これで、アプリケーションに S3 バケットのリストが表示されます。
7. IAMアプリケーションを実行します。アプリケーションは IAM ユーザーのリストを表示します。これは、2 回目のサインインが行われなかった場合でも同様です。IAM アプリケーションは以前に作成された一時トークンを使用します。

クリーンアップ

このチュートリアルで作成したリソースを保持しない場合は、リソースをクリーンアップします。これらは、ファイル AWS やフォルダなどの開発環境のリソースである場合があります。

アプリケーションのAWSへのデプロイ

開発マシン上でクラウド ネイティブ .NET Core アプリケーションまたはサービスを開発した後、それを AWS にデプロイする必要があります。これは、AWS マネジメントコンソールまたは CloudFormation や AWS Cloud Development Kit (AWS CDK) などの特定のサービスを使用して行うことができます。また、デプロイメント用に作成された AWS ツールを使用することもできます。これらのツールを使用すると、次のことを実行できます。

.NET CLI からデプロイする

.NET CLI 用の次の AWS ツールを使用して、アプリケーションを AWS にデプロイできます。

- [.NET CLI 用の AWS デプロイツール](#) - [AWS App Runner](#)、[Amazon Elastic Container Service \(Amazon ECS\)](#)、および [AWS Elastic Beanstalk](#) へのデプロイをサポートします。
- [.NET CLI 用 AWS Lambda ツール](#) - AWS Lambda プロジェクトのデプロイをサポートします。

IDE ツールキットからデプロイする

AWS ツールキットを使用して、任意の IDE から直接アプリケーションをデプロイできます。

- [AWS Toolkit for Visual Studio](#)

Note

ツールキットの「AWS に公開」機能は、.NET CLI の AWS Deploy Tool と同じ機能を公開します。詳細については、AWS Toolkit for Visual StudioDD ユーザー ガイドの「[AWS に公開](#)」を参照してください。

- [AWS Toolkit for JetBrains](#)

「[AWS サーバーレス アプリケーションの操作](#)」および「[AWS App Runner の操作](#)」を参照してください。

- [AWS Toolkit for VS Code](#)

「[サーバーレス アプリケーションの操作](#)」および「[AWS App RunnerBB の使用](#)」を参照してください。

- [AWS Toolkit for Azure DevOps](#)

ユースケース

以下のセクションでは、.NET CLI を使用してそれらのアプリケーションをデプロイする方法など、特定の種類のアプリケーションのユースケースシナリオについて説明します。

- [ASP.NET Core Apps](#)
- [.NET コンソールアプリ](#)
- [Blazor WebAssembly アプリ](#)
- [AWS Lambda プロジェクト](#)

ASP.NET Core Apps

.NET CLI [AWS 展開ツール](#) は、ASP.NET アプリケーションの展開に役立ち、展開プロセスをガイドします。.NET CLI 用のインタラクティブなツールで、最小限の AWS の知識で .NET アプリケーションをデプロイできます。

デプロイツールには、次の機能があります。

- アプリケーションに適したコンピューティングの推奨事項 - コンピューティングに関する推奨事項を確認して、どの AWS コンピューティングがアプリケーションに最も適しているかを調べてください。
- Dockerfile 生成 - このツールは、必要に応じて Dockerfile を生成するか、既存の Dockerfile を使用します。
- 自動パッケージングとデプロイ — ツールはデプロイアーティファクトを構築し、生成された AWS CDK デプロイプロジェクトを使用してインフラストラクチャーをプロビジョニングし、選択した AWS コンピュートにアプリケーションをデプロイします。
- 繰り返し可能で共有可能なデプロイ — 特定のユースケースに合わせて AWS CDK デプロイプロジェクトを生成および変更できます。プロジェクトをバージョン管理し、チームと共有して反復可能なデプロイメントを行うこともできます。
- .NET のための AWS CDK 学習を支援 - このツールは、AWS CDK など、その基盤となる AWS ツール を少しずつ学習できます。

[AWS デプロイ ツール](#) は、次の AWS サービスへの ASP.NET Core アプリケーションのデプロイをサポートしています。

- [AWS Fargate](#) を使用した [Amazon ECS サービス](#) - AWS Fargate サーバーレス コンピューティング エンジンによって管理されるコンピューティング能力を使用して、Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) への Web アプリケーションのデプロイをサポートします。
- [AWS App Runner](#) - フルマネージド型サービスへのデプロイをサポートします。これにより、コンテナ化されたウェブアプリケーションや API を大規模にデプロイできます。インフラストラクチャの経験は必要ありません。
- [AWS Elastic Beanstalk](#) - デベロッパーが Web アプリケーションと API をフルマネージド環境に大規模に展開することが容易なサービスへの展開をサポートします。インフラストラクチャの経験は必要ありません。

詳細については、[ツールの概要](#) をご覧ください。そこから始めるには、[ドキュメンテーション]、[はじめに] に移動し、[インストール方法](#) を選択してインストール手順を確認してください。

.NET コンソールアプリ

.NET CLI 用の [AWS Deploy Tool](#) では、.NET コンソールアプリケーションをサービスとして、またはスケジュールされたタスクをコンテナイメージとして Linux にデプロイする方法を確認できます。アプリケーションに Dockerfile がない場合は、ツールが自動的に生成します。それ以外の場合は、既存の Dockerfile が使用されます。

デプロイツールには、次の機能があります。

- アプリケーションに適したコンピューティングの推奨事項 - コンピューティングに関する推奨事項を確認して、どの AWS コンピューティングがアプリケーションに最も適しているかを調べてください。
- Dockerfile 生成 - このツールは、必要に応じて Dockerfile を生成するか、既存の Dockerfile を使用します。
- 自動パッケージングとデプロイ — ツールはデプロイアーティファクトを構築し、生成されたAWS CDK デプロイプロジェクトを使用してインフラストラクチャーをプロビジョニングし、選択した AWS コンピュートにアプリケーションをデプロイします。
- 繰り返し可能で共有可能なデプロイ — 特定のユースケースに合わせてAWS CDK デプロイプロジェクトを生成および変更できます。プロジェクトをバージョン管理し、チームと共有して反復可能なデプロイメントを行うこともできます。
- .NETのための AWS CDK 学習を支援 - このツールは、AWS CDK など、その基盤となる AWS ツール を少しずつ学習できます。

[AWS Deploy Tool](#) では、.NET コンソールアプリケーションを以下の AWS サービスにデプロイできます。

- [AWS Fargate](#) を使用した [Amazon ECS サービス](#) - AWS Fargate サーバーレス コンピューティング エンジンによって管理されるコンピューティング能力を使用して、Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) へのサービス (バックグラウンド プロセッサなど) としての .NET アプリケーションのデプロイをサポートします。
- [AWS Fargate](#) を使用した [Amazon ECS のスケジュールされたタスク](#) - AWS Fargate サーバーレス コンピューティング エンジンによって管理されるコンピューティング能力を使用して、Amazon ECS へのスケジュールされたタスク (1 日の終わりのプロセスなど) として .NET アプリケーションのデプロイをサポートします。

詳細については、[ツールの概要](#)をご覧ください。そこから始めるには、[ドキュメンテーション]、[はじめに] に移動し、[インストール方法](#) を選択してインストール手順を確認してください。

Blazor WebAssembly アプリ

.NET CLI 用の[AWS デプロイツール](#) を使用すると、Amazon CloudFront を使用してコンテンツネットワーク配信に Blazor WebAssembly アプリケーションを Amazon S3 でホストできます。アプリケーションはウェブホスティング用の S3 バケットにデプロイされます。このツールは S3 バケットを作成して設定し、Blazor アプリケーションをそのバケットにアップロードします。

デプロイツールには、次の機能があります。

- 自動パッケージングとデプロイ — ツールはデプロイアーティファクトを構築し、生成されたAWS CDKデプロイプロジェクトを使用してインフラストラクチャーをプロビジョニングし、選択したAWSコンピュートにアプリケーションをデプロイします。
- 繰り返し可能で共有可能なデプロイ — 特定のユースケースに合わせてAWS CDK デプロイプロジェクトを生成および変更できます。プロジェクトをバージョン管理し、チームと共有して反復可能なデプロイメントを行うこともできます。
- .NETのための AWS CDK 学習を支援 - このツールは、AWS CDK など、その基盤となる AWS ツール を少しずつ学習できます。

詳細については、[ツールの概要](#)をご覧ください。そこから始めるには、[ドキュメンテーション]、[はじめに] に移動し、[インストール方法](#) を選択してインストール手順を確認してください。

AWS Lambda プロジェクト

AWS Lambda は、サーバーのプロビジョニングや管理を行わずにコードを実行できるようにするコンピューティングサービスです。可用性の高いコンピューティングインフラストラクチャでコードを実行し、コンピューティングリソースの管理をすべて担当します。Lambda の詳細については、「AWS Lambda デベロッパーガイド」の[AWS 「Lambda とは」](#)を参照してください。

.NET コアコマンドラインインターフェイス (CLI) を使用して、Lambda 関数をデプロイできます。

トピック

- [前提条件](#)
- [使用できる Lambda コマンド](#)
- [デプロイ手順](#)

前提条件

.NET CLI を使用して Lambda 関数をデプロイする前に、次の前提条件を満たす必要があります。

- .NET CLI がインストールされていることを確認します。例: `dotnet --version`。必要に応じて <https://dotnet.microsoft.com/download> にアクセスしてインストールしてください。
- .NET CLI をセットアップして Lambda を操作します。その方法の説明については、「AWS Lambda デベロッパーガイド」の「[.NET Lambda Global CLI を使用する](#)」を参照してください。その手順に含まれるデプロイコマンドは次のとおりです。

```
dotnet lambda deploy-function MyFunction --function-role role
```

この演習で IAM ロールを作成する方法がわからない場合、`--function-role role` 部分は含めなくてください。このツールを使用すると、新しいロールの作成に役立ちます。

使用できる Lambda コマンド

.NET CLI で使用できる Lambda コマンドを一覧表示するには、コマンドプロンプトまたはターミナルを開いて、`dotnet lambda --help` を入力します。そのコマンドの出力は、次のようになります。

```
Amazon Lambda Tools for .NET applications
```

```
Project Home: https://github.com/aws/aws-extensions-for-dotnet-cli, https://github.com/
aws/aws-lambda-dotnet
```

Commands to deploy and manage AWS Lambda functions:

```
    deploy-function      Command to deploy the project to AWS Lambda
    ...
    (etc.)
```

To get help on individual commands execute:

```
dotnet lambda help <command>
```

出力には、現在使用できるコマンドがすべて表示されます。

デプロイ手順

次の手順では、AWS Lambda .NET プロジェクトを作成したことを前提としています。この手順では、プロジェクトに `DotNetCoreLambdaTest` という名前を付けます。

1. コマンド プロンプトまたはターミナルを開き、.NET Lambda プロジェクト ファイルが含まれるフォルダーに移動します。
2. `dotnet lambda deploy-function` と入力します。
3. プロンプトが表示されたら、AWS リージョン (Lambda 関数がデプロイされるリージョン) を入力します。
4. プロンプトされたら、デプロイする関数の名前を入力します。例: `DotNetCoreLambdaTest`。これは、AWS アカウント に既に存在する関数の名前、またはまだそこにデプロイされていない関数の名前である可能性があります。
5. プロンプトがされたら、関数が実行されるときに Lambda が継承する IAM ロールを選択または作成します。

正常に完了すると、[New Lambda function created (新しい Lambda 関数が作成されました)] のメッセージが表示されます。

```
Executing publish command
...
(etc.)
New Lambda function created
```

アカウントに既に存在する関数をデプロイする場合、デプロイ機能は AWS リージョンのみを求めます (必要な場合)。この場合、コマンド出力は Updating code for existing function で終わります。

デプロイされた Lambda 関数は、すぐに使用できる状態になっています。詳細については、「[AWS Lambda の使用例](#)」を参照してください。

Lambda は Lambda 関数を自動的にモニタリングし、Amazon CloudWatch からメトリクスを報告します。。Lambda 関数のモニタリングおよびトラブルシューティングについては、「Lambda アプリケーションのモニタリングとトラブルシューティング」を参照してください。

AWS SDK for .NET 用にプロジェクトを移行する

このセクションでは、ユーザーに適用される可能性のある移行タスクと、それらのタスクの実行方法について説明します。

トピック

- [バージョン 3 の AWS SDK for .NET への移行](#)
- [バージョン 3.5 の AWS SDK for .NET への移行](#)
- [バージョン 3.7 の AWS SDK for .NET への移行](#)
- [.NET Standard 1.3 からの移行](#)

バージョン 3 の AWS SDK for .NET への移行

このトピックでは、AWS SDK for .NET のバージョン 3 での変更点、およびこのバージョンの SDK へのコードの移行方法について説明します。

AWS SDK for .NET のバージョンについて

当初、AWS SDK for .NET は 2009 年 11 月にリリースされ、.NET Framework 2.0 向けに設計されていました。このリリース以降、.NET は .NET Framework 4.0 および .NET Framework 4.5 で改善され、新しい対象プラットフォームとして WinRT と Windows Phone が追加されています。

AWS SDK for .NET バージョン 2 では、.NET プラットフォームの新機能を利用するように更新され、WinRT と Windows Phone も対象プラットフォームとして追加されました。

AWS SDK for .NET バージョン 3 ではアセンブリがモジュール化されました。

SDK のアーキテクチャの再設計

バージョン 3 の AWS SDK for .NET 全体がモジュラー式に再設計されています。1 つの大きなアセンブリとしてではなく、各サービスが個別のアセンブリとして実装されます。AWS SDK for .NET 全体をアプリケーションに追加する必要はなくなりました。アプリケーションで使用する AWS サービスのアセンブリだけを追加できます。

破壊的変更

以下のセクションでは、バージョン 3 の AWS SDK for .NET への変更点について説明します。

AWSClientFactory の削除

Amazon.AWSClientFactory クラスは削除されました。現在、サービスクライアントを作成するには、サービスクライアントのコンストラクタを使用します。たとえば、AmazonEC2Client を作成するには:

```
var ec2Client = new Amazon.EC2.AmazonEC2Client();
```

Amazon.Runtime.AssumeRoleAWSCredentials の削除

Amazon.Runtime.AssumeRoleAWSCredentials クラスは、コア名前空間内にありながら AWS Security Token Service に依存していたこと、および長い間 SDK で使用されていなかったことから、削除されました。代わりに、Amazon.SecurityToken.AssumeRoleAWSCredentials クラスを使用してください。

S3Link からの SetACL メソッドの削除

S3Link クラスは Amazon.DynamoDBv2 パッケージの一部であり、DynamoDB 項目内の参照であるオブジェクトを Amazon S3 に保存するために使用されています。これは便利な機能ですが、Amazon.S3 パッケージに DynamoDB に対するコンパイル依存関係を作成するのは好ましくありませんでした。結果として、Amazon.S3 クラスで公開されている S3Link メソッドを簡素化し、SetACL メソッドを MakeS3ObjectPublic メソッドに置き換えました。オブジェクトでアクセスコントロールリスト (ACL) を細かく制御する場合は、Amazon.S3 パッケージを使用します。

サポートされなくなった結果クラスの削除

AWS SDK for .NET のほとんどのサービスでは、操作は、リクエスト ID や結果オブジェクトなどの操作のメタデータを含む応答オブジェクトを返します。応答クラスと結果クラスを分けておくと、冗長であり、開発者は余分な入力が必要でした。AWS SDK for .NET のバージョン 2 では、結果クラスのすべての情報をレスポンスクラス内に移しました。また、結果クラスをサポート対象外として、その使用を非推奨にしました。AWS SDK for .NET のバージョン 3 では、これらのサポートされなくなった結果クラスを削除して SDK のサイズを減らしました。

AWS Config セクションの変更

AWS SDK for .NET または App.config ファイルを使用して、Web.config の詳細設定を行うことができます。これは、SDK アセンブリ名を参照する、次のような <aws> config セクションを通じて行います。

```
<configuration>
```

```
<configSections>
  <section name="aws" type="Amazon.AWSSection, AWSSDK"/>
</configSections>
<aws region="us-west-2">
  <logging logTo="Log4Net"/>
</aws>
</configuration>
```

AWS SDK for .NET のバージョン 3 では、AWSSDK アセンブリは存在しなくなりました。共通コードは AWSSDK.Core に格納しました。そのため、AWSSDK ファイルまたは App.config ファイルでの Web.config アセンブリへの参照を、次のように AWSSDK.Core アセンブリを参照するように変更する必要があります。

```
<configuration>
  <configSections>
    <section name="aws" type="Amazon.AWSSection, AWSSDK.Core"/>
  </configSections>
  <aws region="us-west-2">
    <logging logTo="Log4Net"/>
  </aws>
</configuration>
```

また、Amazon.AWSConfigs クラスで構成設定を操作できます。AWS SDK for .NET のバージョン 3 では、DynamoDB の構成設定を Amazon.AWSConfigs クラスから Amazon.AWSConfigsDynamoDB クラスに移しました。

バージョン 3.5 の AWS SDK for .NET への移行

バージョン 3.5 の AWS SDK for .NET は、SDK のすべての非 Framework バリエーションに対するサポートを [.NET Standard 2.0](#) に移行することで、.NET エクスペリエンスの標準化を進めます。環境とコードベースによっては、バージョン 3.5 の機能を利用するために、特定の移行作業が必要になる場合があります。

このトピックでは、バージョン 3.5 の変更点と、環境やコードをバージョン 3 から移行するために必要な作業について説明します。

バージョン 3.5 の変更点

AWS SDK for .NET バージョン 3.5 で変更された点と変更されていない点について以下に説明します。

.NET Framework と .NET Core

.NET Framework と .NET Core に対するサポートは変更されていません。

Xamarin

Xamarin プロジェクト (新規および既存) は、.NET Standard 2.0 を対象とする必要があります。

「[Xamarin.Forms での .NET Standard 2.0 のサポート](#)」および「[.NET 実装サポート](#)」を参照してください。

Unity

Unity アプリは、Unity 2018.1 以降を使用する .NET Standard 2.0 または .NET 4.x プロファイルを対象とする必要があります。詳細については、「[.NET profile support](#)」を参照してください。さらに、IL2CPP を使用してビルドする場合は、link.xml ファイルを追加してコードストリッピングを無効にする必要があります。詳細については、「[Referencing the AWS SDK for .NET Standard 2.0 from Unity, Xamarin, or UWP](#)」を参照してください。推奨されているコードベースのいずれかにコードを移植すると、SDK が提供するすべてのサービスに Unity アプリからアクセスできます。

Unity は .NET Standard 2.0 をサポートするため、SDK バージョン 3.5 の AWSSDK.Core パッケージから Unity 固有のコードが除外されました。一部の上位レベルの機能も除外されました。すべてのレガシー Unity コードは [aws/aws-sdk-unity-net](#) GitHub リポジトリで参照可能であり、移行に役立てることができます。Unity での AWS の使用に関連する機能が不足している場合は、<https://github.com/aws/dotnet/issues> で機能のリクエストを申請できます。

また、「[Unity のサポートに関する特別な考慮事項](#)」も参照してください。

ユニバーサル Windows プラットフォーム (UWP)

UWP アプリケーションの対象は[バージョン 16299 以降](#) (2017 年 10 月リリースの Fall Creators Update、バージョン 1709) とします。

Windows Phone と Silverlight

これらのプラットフォームは、Microsoft で現在開発されていないため、バージョン 3.5 の AWS SDK for .NET ではサポートされません。詳細については次を参照してください:

- [Windows 10 Mobile のサポート終了](#)
- [Silverlight のサポート終了](#)

レガシーポータブルクラスライブラリ (プロファイルベースの PCL)

ライブラリを .NET Standard に再ターゲットすることを検討します。詳細については、「[ポータブルクラスライブラリとの比較](#)」を参照してください。

Amazon Cognito Sync マネージャーと Amazon Mobile Analytics マネージャー

Amazon Cognito Sync と Amazon Mobile Analytics の使用を容易にする高レベルの抽象化は、バージョン 3.5 の AWS SDK for .NET から削除されています。Amazon Cognito Sync の代わりに AWS AppSync の使用が推奨されます。Amazon Mobile Analytics の代わりに Amazon Pinpoint の使用が推奨されています。

AWS AppSync および Amazon Pinpoint の上位レベルのライブラリコードの欠如によってコードが影響を受ける場合は、GitHub 問題 (<https://github.com/aws/dotnet/issues/20> と <https://github.com/aws/dotnet/issues/19>) のいずれかまたは両方で報告できます。また、Amazon Cognito Sync マネージャーと Amazon Mobile Analytics マネージャーのライブラリは、GitHub リポジトリ ([aws/amazon-cognito-sync-manager-net](#) と [aws/aws-mobile-analytics-manager-net](#)) から入手できます。

同期コードの移行

AWS SDK for .NET のバージョン 3.5 は、.NET フレームワークと .Net Standard (.NET Core 3.1、.NET 5 などの .NET Core バージョンによる) の両方をサポートしています。.Net Standard に準拠する SDK のバリエーションでは、非同期メソッドしか提供されないため、.NET Standard を利用するには、同期コードを変更して非同期で実行する必要があります。

次のコードスニペットは、同期コードを非同期コードに変更する方法を示しています。これらのスニペットのコードでは、Amazon S3 バケットの数を表示します。

元のコードは [ListBuckets](#) を呼び出します。

```
private static ListBucketsResponse MyListBuckets()
{
    var s3Client = new AmazonS3Client();
    var response = s3Client.ListBuckets();
    return response;
}

// From the calling function
ListBucketsResponse response = MyListBuckets();
Console.WriteLine($"Number of buckets: {response.Buckets.Count}");
```

バージョン 3.5 の SDK を使用するには、代わりに [ListBucketsAsync](#) を呼び出します。

```
private static async Task<ListBucketsResponse> MyListBuckets()
{
    var s3Client = new AmazonS3Client();
    var response = await s3Client.ListBucketsAsync();
    return response;
}

// From an **asynchronous** calling function
ListBucketsResponse response = await MyListBuckets();
Console.WriteLine($"Number of buckets: {response.Buckets.Count}");

// OR From a **synchronous** calling function
Task<ListBucketsResponse> response = MyListBuckets();
Console.WriteLine($"Number of buckets: {response.Result.Buckets.Count}");
```

バージョン 3.7 の AWS SDK for .NET への移行

バージョン 3.7 より、AWS SDK for .NET は .NET Standard 1.3 をサポートしなくなりました。

.NET Standard 1.3 からの移行については、「[.NET Standard 1.3 からの移行](#)」を参照してください。

.NET Standard 1.3 からの移行

2019 年 6 月 27 日に、Microsoft は .NET Core 1.0 および .NET Core 1.1 バージョンの[サポートを終了](#)しました。この発表に従い、AWS は 2020 年 12 月 31 日に、AWS SDK for .NET での .NET Standard 1.3 のサポートを終了しました。

AWS では 2020 年 10 月 1 日まで、.NET Standard 1.3 を対象とした AWS SDK for .NET のサービス更新プログラムとセキュリティ修正プログラムの提供を継続してきました。この日以降、.NET Standard 1.3 を対象とする製品はメンテナンスモードに入り、新しい更新プログラムはリリースされなくなりました。AWS は重大なバグ修正とセキュリティパッチの適用のみを行いました。

2020 年 12 月 31 日に、AWS SDK for .NET での .NET Standard 1.3 のサポートが終了しました。この日以降、バグ修正やセキュリティパッチは適用されなくなりました。同バージョンを対象として構築されたアーティファクトは、NuGet で引き続きダウンロードできます。

必要な作業

- .NET Framework を使用してアプリケーションを実行している場合、これによる影響はありません。
- .NET Core 2.0 以降を使用してアプリケーションを実行している場合、これによる影響はありません。
- .NET Core 1.0 または .NET Core 1.1 を使用してアプリケーションを実行している場合は、[Microsoft の移行手順](#)に従ってアプリケーションを新しいバージョンの .NET Core に移行してください。 .NET Core 3.1 以降を推奨します。
- 現時点ではアップグレードできないビジネスクリティカルなアプリケーションを実行している場合は、AWS SDK for .NET の現在のバージョンを引き続き使用できます。

ご質問やご不明な点がある場合は、[AWS サポートにお問い合わせ](#)ください。

で AWS のサービス进行操作する AWS SDK for .NET

以下のセクションには、を使用して AWS サービス AWS SDK for .NET を操作する方法を示す例、チュートリアル、タスク、ガイドが含まれています。これらの例とチュートリアルは、AWS SDK for .NET が提供する API に基づいています。API で使用できるクラスとメソッドを確認するには、[AWS SDK for .NET API リファレンス](#)を参照してください。

を初めて使用する場合は AWS SDK for .NET、まず[クイックツアーに参加する](#)トピックを確認してください。SDK についてわかりやすく説明しています。

その他のコード例については、GitHub の [AWS コード例リポジトリ](#) と [awslabs リポジトリ](#)で見つけることができます。

開始する前に、[環境とプロジェクトがセットアップされている](#) ことを必ず確認してください。また、「[SDK の機能](#)」の情報を確認してください。

トピック

- [のガイダンスを含むコード例 AWS SDK for .NET](#)
- [コンピュートサービスでAWS Lambdaを使用する](#)
- [AWS SDK for .NET の高レベルライブラリとフレームワーク](#)
- [他の AWS サービスと設定のサポート](#)

のガイダンスを含むコード例 AWS SDK for .NET

以下のセクションにはコード例が含まれ、その例に関するガイダンスを提供します。これらは、を使用して AWS サービス AWS SDK for .NET を操作する方法を学ぶのに役立ちます。

を初めて使用する場合は AWS SDK for .NET、まず[クイックツアーに参加する](#)トピックを確認してください。SDK についてわかりやすく説明しています。

開始する前に、[環境とプロジェクトがセットアップされている](#) ことを必ず確認してください。また、「[SDK の機能](#)」の情報を確認してください。

トピック

- [CloudFormation を使用した へのアクセス AWS SDK for .NET](#)
- [Amazon Cognito を使用したユーザー認証](#)
- [Amazon DynamoDB NoSQL データベースの使用](#)

- [Amazon EC2 の使用](#)
- [を使用した AWS Identity and Access Management \(IAM\) へのアクセス AWS SDK for .NET](#)
- [Amazon Simple Storage Service インターネットストレージの使用](#)
- [Amazon Simple Notification Service を使用したクラウドからの通知の送信](#)
- [Amazon SQS を使用したメッセージング](#)

CloudFormation を使用した へのアクセス AWS SDK for .NET

は[AWS CloudFormation](#)、AWS インフラストラクチャのデプロイを予測どおりに繰り返し作成およびプロビジョニングする AWS SDK for .NET をサポートします。

API

AWS SDK for .NET はAPIs を提供します。CloudFormation APIs を使用すると、テンプレートやスタックなどの CloudFormation 機能を実行できます。このセクションでは、これらの API を操作する際に活用できるパターンを示すいくつかの例を紹介します。API の完全なセットを確認するには、[AWS SDK for .NET API リファレンス](#)を参照してください(「Amazon.CloudFormation」までスクロールします)。

AWS CloudFormation APIs は [AWSSDK.CloudFormation](#) パッケージによって提供されます。

前提条件

開始する前に、[環境とプロジェクトがセットアップされている](#)ことを必ず確認してください。また、「[SDK の機能](#)」の情報を確認してください。

トピック

トピック

- [を使用した AWS リソースの一覧表示 AWS CloudFormation](#)

を使用した AWS リソースの一覧表示 AWS CloudFormation

この例では、AWS SDK for .NET を使用して CloudFormation スタック内のリソースを一覧表示する方法を示します。この例では、低レベル API を使用します。アプリケーションは引数を取らず、ユーザーの認証情報にアクセスできるすべてのスタックの情報を単に収集して、それらのスタックに関する情報を表示します。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [AWSSDK.CloudFormation](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.CloudFormation](#)

クラス [AmazonCloudFormationClient](#)

- 名前空間 [Amazon.CloudFormation.Model](#)

クラス [ICloudFormationPaginatorFactory.DescribeStacks](#)

クラス [DescribeStackResourcesRequest](#)

クラス [DescribeStackResourcesResponse](#)

クラス [Stack](#)

クラス [StackResource](#)

クラス [Tag](#)

```
using Amazon.CloudFormation;
using Amazon.CloudFormation.Model;
using Amazon.Runtime;

namespace CloudFormationActions;

public static class HelloCloudFormation
{
    public static IAmazonCloudFormation _amazonCloudFormation;

    static async Task Main(string[] args)
    {
        // Create the CloudFormation client
        _amazonCloudFormation = new AmazonCloudFormationClient();
        Console.WriteLine($"In Region:
{_amazonCloudFormation.Config.RegionEndpoint}");
    }
}
```

```

        // List the resources for each stack
        await ListResources();
    }

    /// <summary>
    /// Method to list stack resources and other information.
    /// </summary>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public static async Task<bool> ListResources()
    {
        try
        {
            Console.WriteLine("Getting CloudFormation stack information...");

            // Get all stacks using the stack paginator.
            var paginatorForDescribeStacks =
                _amazonCloudFormation.Paginators.DescribeStacks(
                    new DescribeStacksRequest());
            await foreach (Stack stack in paginatorForDescribeStacks.Stacks)
            {
                // Basic information for each stack

                Console.WriteLine("\n-----");
                Console.WriteLine($"Stack: {stack.StackName}");
                Console.WriteLine($"  Status: {stack.StackStatus.Value}");
                Console.WriteLine($"  Created: {stack.CreationTime}");

                // The tags of each stack (etc.)
                if (stack.Tags.Count > 0)
                {
                    Console.WriteLine("  Tags:");
                    foreach (Tag tag in stack.Tags)
                        Console.WriteLine($"    {tag.Key}, {tag.Value}");
                }

                // The resources of each stack
                DescribeStackResourcesResponse responseDescribeResources =
                    await _amazonCloudFormation.DescribeStackResourcesAsync(
                        new DescribeStackResourcesRequest
                        {
                            StackName = stack.StackName
                        });
                if (responseDescribeResources.StackResources.Count > 0)

```

```

        {
            Console.WriteLine("  Resources:");
            foreach (StackResource resource in responseDescribeResources
                .StackResources)
            {
                Console.WriteLine(
                    $"    {resource.LogicalResourceId}:
{resource.ResourceStatus}");
            }
        }

        Console.WriteLine("\n-----");
        return true;
    }
    catch (AmazonCloudFormationException ex)
    {
        Console.WriteLine("Unable to get stack information:\n" + ex.Message);
        return false;
    }
    catch (AmazonServiceException ex)
    {
        if (ex.Message.Contains("Unable to get IAM security credentials"))
        {
            Console.WriteLine(ex.Message);
            Console.WriteLine("If you are usnig SS0, be sure to install" +
                " the AWSSDK.SS0 and AWSSDK.SS00IDC packages.");
        }
        else
        {
            Console.WriteLine(ex.Message);
            Console.WriteLine(ex.StackTrace);
        }

        return false;
    }
    catch (ArgumentNullException ex)
    {
        if (ex.Message.Contains("Options property cannot be empty: ClientName"))
        {
            Console.WriteLine(ex.Message);
            Console.WriteLine("If you are using SS0, have you logged in?");
        }
        else
        {
            Console.WriteLine(ex.Message);

```

```
        Console.WriteLine(ex.StackTrace);
    }

    return false;
}
}
```

Amazon Cognito を使用したユーザー認証

Note

このトピックの情報は、.NET Framework および AWS SDK for .NET バージョン 3.3 以前のプロジェクトに固有のものです。

Amazon Cognito Identity を使用すると、ユーザーの一意の ID を作成し、Amazon S3 や Amazon DynamoDB などの AWS リソースへの安全なアクセスのために認証できます。Amazon Cognito ID では、公開 ID プロバイダー (Amazon、Facebook、Twitter/Digits、Google、あるいは OpenID Connect と互換性のあるプロバイダーなど) および未認証 ID がサポートされています。また Cognito では、[デベロッパーが認証した ID](#) もサポートされており、Amazon Cognito Sync を使用したユーザーデータの同期と AWS リソースへのアクセスを活用しながら、独自のバックエンド認証プロセスを通じてユーザー登録や認証ができます。

[Amazon Cognito](#) の詳細については、[Amazon Cognito デベロッパーガイド](#) を参照してください。

以下のコード例では、Amazon Cognito ID を簡単に使用方法を示しています。[認証情報プロバイダー](#) の例では、ユーザー ID を作成して認証する方法を示しています。[CognitoAuthentication 拡張ライブラリ](#) の例では、CognitoAuthentication 拡張ライブラリを使用して Amazon Cognito ユーザープールの認証を行う方法を示しています。

トピック

- [Amazon Cognito 認証情報プロバイダー](#)
- [Amazon CognitoAuthentication 拡張ライブラリの例](#)

Amazon Cognito 認証情報プロバイダー

Note

このトピックの情報は、.NET Framework および AWS SDK for .NET バージョン 3.3 以前のプロジェクトに固有のものです。

`Amazon.CognitoIdentity.CognitoAWSCredentials` [AWSSDK.CognitoIdentity](#) NuGet パッケージにある `は`、Amazon Cognito と AWS Security Token Service (AWS STS) を使用して AWS 呼び出しを行う認証情報を取得する認証情報オブジェクトです。

`CognitoAWSCredentials` の設定での最初のステップは「ID プール」を作成することです。(アイデンティティプールとは、お客様のアカウントに固有のユーザー ID 情報のストアです。) 情報はクライアントプラットフォーム、デバイス、およびオペレーティングシステム間で取得可能です。これにより、ユーザーが電話でアプリの使用を開始して、後でタブレットに切り替えた場合でも、保持されたアプリ情報はそのユーザーに対して引き続き利用可能になります。Amazon Cognito コンソールから新しい ID プールを作成できます。コンソールを使用している場合は、必要なその他の情報も提供します。

- アカウント番号 - 123456789012 などの、アカウントに一意な 12 桁の数字。
- 認証されていないロール ARN - 認証されていないユーザーが引き受けるロール。たとえば、このロールは、データへの読み取り専用アクセス許可を提供できます。
- 認証されたロール ARN - 認証されたユーザーが引き受けるロール。このロールは、データへのより広範なアクセス許可を提供できます。

`CognitoAWSCredentials` をセットアップする

次のコード例では、認証されていないユーザーとして Amazon S3 を呼び出すことを可能にする `CognitoAWSCredentials` のセットアップ方法を示しています。これにより、ユーザーを認証するのに必要な最小量のデータだけで呼び出すことができます。ユーザーアクセス許可はロールによって制御されるため、必要に応じてアクセスを設定することもできます。

```
CognitoAWSCredentials credentials = new CognitoAWSCredentials(  
    accountId,           // Account number  
    identityPoolId,      // Identity pool ID  
    unAuthRoleArn,       // Role for unauthenticated users  
    null,                // Role for authenticated users, not set  
    region);
```

```
using (var s3Client = new AmazonS3Client(credentials))
{
    s3Client.ListBuckets();
}
```

認証されていないユーザー AWS として を使用する

次のコード例は、認証されていないユーザー AWS として の使用を開始し、Facebook を介して認証し、Facebook 認証情報を使用するように認証情報を更新する方法を示しています。この方法を使用すると、認証されたロールを通じて、認証されたユーザーにさまざまな機能を付与できるようになります。たとえば、ユーザーが匿名でコンテンツを表示することを許可するものの、1 つ以上の設定済みプロバイダーでログオンしている場合に投稿を許可する電話アプリケーションがあります。

```
CognitoAWSCredentials credentials = new CognitoAWSCredentials(
    accountId, identityPoolId,
    unAuthRoleArn,    // Role for unauthenticated users
    authRoleArn,      // Role for authenticated users
    region);
using (var s3Client = new AmazonS3Client(credentials))
{
    // Initial use will be unauthenticated
    s3Client.ListBuckets();

    // Authenticate user through Facebook
    string facebookToken = GetFacebookAuthToken();

    // Add Facebook login to credentials. This clears the current AWS credentials
    // and retrieves new AWS credentials using the authenticated role.
    credentials.AddLogin("graph.facebook.com", facebookAccessToken);

    // This call is performed with the authenticated role and credentials
    s3Client.ListBuckets();
}
```

CognitoAWSCredentials オブジェクトは、AWS SDK for .NETの一部である AmazonCognitoSyncClient で使用した場合、さらに多くの機能を提供します。AmazonCognitoSyncClient と CognitoAWSCredentials の両方を使用している場合は、AmazonCognitoSyncClient を使用して呼び出しを行うときに IdentityPoolId と IdentityId のプロパティを指定する必要はありません。これらのプロパティは CognitoAWSCredentials から自動的に入力されます。次のコード例では、これとともに、IdentityId の CognitoAWSCredentials が変更されるたびに通知するイベントを示しま

す。IdentityId は、たとえば、認証されていないユーザーから認証されたユーザーに変更する際など、場合によって変更されます。

```
CognitoAWSCredentials credentials = GetCognitoAWSCredentials();

// Log identity changes
credentials.IdentityChangedEvent += (sender, args) =>
{
    Console.WriteLine("Identity changed: [{0}] => [{1}]", args.OldIdentityId,
        args.NewIdentityId);
};

using (var syncClient = new AmazonCognitoSyncClient(credentials))
{
    var result = syncClient.ListRecords(new ListRecordsRequest
    {
        DatasetName = datasetName
        // No need to specify these properties
        //IdentityId = "...",
        //IdentityPoolId = "..."
    });
}
```

Amazon CognitoAuthentication 拡張ライブラリの例

Note

このトピックの情報は、.NET Framework および AWS SDK for .NET バージョン 3.3 以前のプロジェクトに固有のものです。

CognitoAuthentication 拡張ライブラリは、.NET Core および Xamarin デベロッパーによる Amazon Cognito ユーザープールの認証プロセスを簡素化するもので、[Amazon.Extensions.CognitoAuthentication](#) NuGet パッケージで提供されています。このライブラリは、Amazon Cognito ID プロバイダー API に基づいて構築されており、ユーザー認証 API コールを作成して送信します。

CognitoAuthentication 拡張ライブラリの使用

Amazon Cognito には、Secure Remote Password (SRP) を通じてユーザー名とパスワードを検証する標準的な認証フローのための、組み込みの AuthFlow 値と ChallengeName 値がいくつかありま

す。認証フローの詳細については、「[Amazon Cognito ユーザープール認証フロー](#)」を参照してください。

以下の例では、これらの using ステートメントが必要になります。

```
// Required for all examples
using System;
using Amazon;
using Amazon.CognitoIdentity;
using Amazon.CognitoIdentityProvider;
using Amazon.Extensions.CognitoAuthentication;
using Amazon.Runtime;
// Required for the GetS3BucketsAsync example
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;
```

基本的な認証の使用

[AnonymousAWSCredentials](#) を使用して、署名付きリクエストを必要としない [AmazonCognitoIdentityProviderClient](#) を作成します。リージョンを指定する必要はありませんが、基盤となるコードはリージョンが提供されない場合 `FallbackRegionFactory.GetRegionEndpoint()` を呼び出します。 `CognitoUserPool` および `CognitoUser` オブジェクトを作成します。ユーザーパスワードを含む `StartWithSrpAuthAsync` で `InitiateSrpAuthRequest` メソッドを呼び出します。

```
public static async void GetCredsAsync()
{
    AmazonCognitoIdentityProviderClient provider =
        new AmazonCognitoIdentityProviderClient(new
        Amazon.Runtime.AnonymousAWSCredentials());
    CognitoUserPool userPool = new CognitoUserPool("poolID", "clientID", provider);
    CognitoUser user = new CognitoUser("username", "clientID", userPool, provider);
    InitiateSrpAuthRequest authRequest = new InitiateSrpAuthRequest()
    {
        Password = "userPassword"
    };

    AuthFlowResponse authResponse = await
    user.StartWithSrpAuthAsync(authRequest).ConfigureAwait(false);
    accessToken = authResponse.AuthenticationResult.AccessToken;
}
```

チャレンジを使用した認証

NewPasswordRequired や多要素認証 (MFA) などのチャレンジを使用して認証フローを継続することも、より簡単な方法です。唯一の要件は、CognitoAuthentication オブジェクト、SRP 用のユーザーパスワード、およびユーザーが入力することにより取得される、次のチャレンジに必要な情報です。次のコードは、チャレンジタイプを確認し、認証フロー中の MFA および NewPasswordRequired チャレンジに対する適切な応答を取得する方法の 1 つを示しています。

前と同じように、基本的な認証リクエストと await および AuthFlowResponse を実行します。レスポンスを受信すると、返された AuthenticationResult オブジェクトをループします。ChallengeName タイプが NEW_PASSWORD_REQUIRED の場合は、RespondToNewPasswordRequiredAsync メソッドを呼び出します。

```
public static async void GetCredsChallengesAsync()
{
    AmazonCognitoIdentityProviderClient provider =
        new AmazonCognitoIdentityProviderClient(new
    Amazon.Runtime.AnonymousAWSCredentials());
    CognitoUserPool userPool = new CognitoUserPool("poolID", "clientID", provider);
    CognitoUser user = new CognitoUser("username", "clientID", userPool, provider);
    InitiateSrpAuthRequest authRequest = new InitiateSrpAuthRequest(){
        Password = "userPassword"
    };

    AuthFlowResponse authResponse = await
    user.StartWithSrpAuthAsync(authRequest).ConfigureAwait(false);

    while (authResponse.AuthenticationResult == null)
    {
        if (authResponse.ChallengeName == ChallengeNameType.NEW_PASSWORD_REQUIRED)
        {
            Console.WriteLine("Enter your desired new password:");
            string newPassword = Console.ReadLine();

            authResponse = await user.RespondToNewPasswordRequiredAsync(new
    RespondToNewPasswordRequiredRequest()
            {
                SessionID = authResponse.SessionID,
                NewPassword = newPassword
            });
            accessToken = authResponse.AuthenticationResult.AccessToken;
        }
    }
}
```

```
        else if (authResponse.ChallengeName == ChallengeNameType.SMS_MFA)
        {
            Console.WriteLine("Enter the MFA Code sent to your device:");
            string mfaCode = Console.ReadLine();

            AuthFlowResponse mfaResponse = await user.RespondToSmsMfaAuthAsync(new
RespondToSmsMfaRequest()
            {
                SessionID = authResponse.SessionID,
                MfaCode = mfaCode

            }).ConfigureAwait(false);
            accessToken = authResponse.AuthenticationResult.AccessToken;
        }
        else
        {
            Console.WriteLine("Unrecognized authentication challenge.");
            accessToken = "";
            break;
        }
    }

    if (authResponse.AuthenticationResult != null)
    {
        Console.WriteLine("User successfully authenticated.");
    }
    else
    {
        Console.WriteLine("Error in authentication process.");
    }
}
}
```

認証後に AWS リソースを使用する

CognitoAuthentication ライブラリを使用してユーザーが認証されたら、次のステップは、ユーザーに適切な AWS リソースへのアクセスを許可することです。そのためには、Amazon Cognito フェデレーテッド ID コンソールを通じて ID プールを作成する必要があります。プロバイダーとして作成した Amazon Cognito ユーザープールを、その poolID および clientID を使用して指定することにより、Amazon Cognito ユーザープールのユーザーがアカウントに接続された AWS リソースにアクセスすることを許可できます。異なるロールを指定して、認証されていないユーザーと認証されたユーザーの両方が異なるリソースにアクセスするようにもできます。IAM コンソールでこれらのルール

を変更できます。ロールのアタッチされたポリシーの [アクション] フィールドで、アクセス許可を追加または削除できます。次に、適切な ID プール、ユーザープール、Amazon Cognito ユーザー情報を使用して、さまざまな AWS リソースを呼び出すことができます。次の例は、SRP で認証されたユーザーが、関連付けられた ID プールのロールによって許可された異なる Amazon S3 バケットにアクセスする方法を示しています。

```
public async void GetS3BucketsAsync()
{
    var provider = new AmazonCognitoIdentityProviderClient(new
    AnonymousAWSCredentials());
    CognitoUserPool userPool = new CognitoUserPool("poolID", "clientID", provider);
    CognitoUser user = new CognitoUser("username", "clientID", userPool, provider);

    string password = "userPassword";

    AuthFlowResponse context = await user.StartWithSrpAuthAsync(new
    InitiateSrpAuthRequest()
    {
        Password = password
    }).ConfigureAwait(false);

    CognitoAWSCredentials credentials =
        user.GetCognitoAWSCredentials("identityPoolID", RegionEndpoint.<
    YourIdentityPoolRegion >);

    using (var client = new AmazonS3Client(credentials))
    {
        ListBucketsResponse response =
            await client.ListBucketsAsync(new
    ListBucketsRequest()).ConfigureAwait(false);

        foreach (S3Bucket bucket in response.Buckets)
        {
            Console.WriteLine(bucket.BucketName);
        }
    }
}
```

その他の認証オプション

SRP に加えて、NewPasswordRequired、MFA、CognitoAuthentication 拡張ライブラリは、以下の簡単な認証フローを提供しています。

- Custom - `StartWithCustomAuthAsync(InitiateCustomAuthRequest customRequest)` を呼び出すことで開始する
- RefreshToken - `StartWithRefreshTokenAuthAsync(InitiateRefreshTokenAuthRequest refreshTokenRequest)` を呼び出すことで開始する
- RefreshTokenSRP - `StartWithRefreshTokenAuthAsync(InitiateRefreshTokenAuthRequest refreshTokenRequest)` を呼び出すことで開始する
- AdminNoSRP - `StartWithAdminNoSrpAuthAsync(InitiateAdminNoSrpAuthRequest adminAuthRequest)` を呼び出すことで開始する

フローに応じて適切なメソッドを呼び出します。その後、各メソッド呼び出しの `AuthFlowResponse` オブジェクトで示されるように、ユーザーにチャレンジを表示し続けます。また、MFA チャレンジには `RespondToSmsMfaAuthAsync`、カスタムチャレンジには `RespondToCustomAuthAsync` など、適切なレスポンスメソッドを呼び出します。

Amazon DynamoDB NoSQL データベースの使用

Note

これらのトピックのプログラミングモデルは .NET Framework と .NET (Core) の両方に存在しますが、呼び出し規則は同期か非同期かで異なります。

は、 が提供する高速 NoSQL データベースサービスである Amazon DynamoDB AWS SDK for .NET をサポートしています AWS。SDK では、DynamoDB との通信用に 3 つのプログラムモデルが提供されています。低レベルモデル、ドキュメントモデル、オブジェクト永続性モデルです。

以下では、これらのモデルとその API について紹介し、それぞれの使用方法と用途の例を示します。また、AWS SDK for .NETでの追加の DynamoDB プログラミングリソースへのリンクも提供します。

低レベルモデル

低レベルプログラミングモデルは、DynamoDB サービスの直接呼び出しをラップします。このモデルには、[Amazon.DynamoDBv2](#) 名前空間からアクセスします。

低レベルモデルは、3つのモデルの中で最も多くのコードを記述する必要があります。例えば、.NET データ型を DynamoDB の同等の型に変換する必要があります。ただし、このモデルを使用するとほとんどの機能にアクセスできます。

以下の例では、低レベルモデルを使用して DynamoDB でのテーブルの作成、テーブルの変更、テーブルへの項目の挿入を行う方法を示します。

テーブルの作成

次の例では、CreateTable クラスの AmazonDynamoDBClient メソッドを使用してテーブルを作成します。CreateTable メソッドでは、必要な項目属性名、プライマリキーの定義、スループット容量などの特性を含む CreateTableRequest クラスのインスタンスを使用します。CreateTable メソッドは、CreateTableResponse クラスのインスタンスを返します。

```
// using Amazon.DynamoDBv2;
// using Amazon.DynamoDBv2.Model;

var client = new AmazonDynamoDBClient();

Console.WriteLine("Getting list of tables");
List<string> currentTables = client.ListTables().TableNames;
Console.WriteLine("Number of tables: " + currentTables.Count);
if (!currentTables.Contains("AnimalsInventory"))
{
    var request = new CreateTableRequest
    {
        TableName = "AnimalsInventory",
        AttributeDefinitions = new List<AttributeDefinition>
        {
            new AttributeDefinition
            {
                AttributeName = "Id",
                // "S" = string, "N" = number, and so on.
                AttributeType = "N"
            },
            new AttributeDefinition
            {
                AttributeName = "Type",
                AttributeType = "S"
            }
        },
        KeySchema = new List<KeySchemaElement>
        {
```

```

        new KeySchemaElement
        {
            AttributeName = "Id",
            // "HASH" = hash key, "RANGE" = range key.
            KeyType = "HASH"
        },
        new KeySchemaElement
        {
            AttributeName = "Type",
            KeyType = "RANGE"
        },
    },
    ProvisionedThroughput = new ProvisionedThroughput
    {
        ReadCapacityUnits = 10,
        WriteCapacityUnits = 5
    },
};

var response = client.CreateTable(request);

Console.WriteLine("Table created with request ID: " +
    response.ResponseMetadata.RequestId);
}

```

テーブルを変更する準備が整っていることの確認

テーブルを変更または修正する前に、テーブルを変更する準備が整っていることを確認する必要があります。次の例では、低レベルモデルを使用して DynamoDB のテーブルの準備が整っていることを確認する方法を示します。この例では、チェック対象のテーブルは `DescribeTable` クラスの `AmazonDynamoDBClient` メソッドを使用して参照されています。5 秒ごとに、コードはテーブルの `TableStatus` プロパティの値を調べます。ステータスが `ACTIVE` に設定されると、テーブルは変更できる状態です。

```

// using Amazon.DynamoDBv2;
// using Amazon.DynamoDBv2.Model;

var client = new AmazonDynamoDBClient();
var status = "";

do
{
    // Wait 5 seconds before checking (again).

```

```
System.Threading.Thread.Sleep(TimeSpan.FromSeconds(5));

try
{
    var response = client.DescribeTable(new DescribeTableRequest
    {
        TableName = "AnimalsInventory"
    });

    Console.WriteLine("Table = {0}, Status = {1}",
        response.Table.TableName,
        response.Table.TableStatus);

    status = response.Table.TableStatus;
}
catch (ResourceNotFoundException)
{
    // DescribeTable is eventually consistent. So you might
    // get resource not found.
}

} while (status != TableStatus.ACTIVE);
```

テーブルへの項目の挿入

次の例では、低レベルモデルを使用して DynamoDB のテーブルに 2 つの項目を挿入します。各項目は、PutItem クラスのインスタンスを使用して、AmazonDynamoDBClient クラスの PutItemRequest メソッドによって挿入されます。PutItemRequest クラスの 2 つのインスタンスはそれぞれ、項目を挿入するテーブルの名前と一連の項目属性値を取得します。

```
// using Amazon.DynamoDBv2;
// using Amazon.DynamoDBv2.Model;

var client = new AmazonDynamoDBClient();

var request1 = new PutItemRequest
{
    TableName = "AnimalsInventory",
    Item = new Dictionary<string, AttributeValue>
    {
        { "Id", new AttributeValue { N = "1" } },
        { "Type", new AttributeValue { S = "Dog" } },
        { "Name", new AttributeValue { S = "Fido" } }
```



```
    }  
};  
  
var request2 = new PutItemRequest  
{  
    TableName = "AnimalsInventory",  
    Item = new Dictionary<string, AttributeValue>  
    {  
        { "Id", new AttributeValue { N = "2" } },  
        { "Type", new AttributeValue { S = "Cat" } },  
        { "Name", new AttributeValue { S = "Patches" } }  
    }  
};  
  
client.PutItem(request1);  
client.PutItem(request2);
```

ドキュメントモデル

ドキュメントプログラミングモデルは、DynamoDB のデータを操作する簡単な手段を提供します。このモデルは、特にテーブルおよびテーブル内の項目にアクセスすることを目的に作られています。このモデルには、[Amazon.DynamoDBv2.DocumentModel](#) 名前空間からアクセスします。

低レベルプログラミングモデルと比べると、ドキュメントモデルの方が DynamoDB データに対するコーディングが容易です。例えば、多くの .NET データ型を DynamoDB の同等のデータ型に変換する必要はありません。ただし、このモデルでは、低レベルプログラミングモデルほど多くの機能にはアクセスできません。例えば、このモデルを使用して、テーブルの項目を作成、取得、更新、削除することはできます。しかし、テーブルを作成するには、低レベルモデルを使用する必要があります。オブジェクト永続性モデルと比較すると、このモデルの方が .NET オブジェクトを保存、ロード、クエリするために多くのコードを作成する必要があります。

DynamoDB ドキュメントプログラミングモデルの詳細については、[Amazon DynamoDB デベロッパーガイド](#)の「[.NET: ドキュメントモデル](#)」を参照してください。

以下のセクションでは、目的の DynamoDB テーブルの表現を作成する方法と、ドキュメントモデルを使用してテーブルに項目を挿入し、テーブルから項目を取得する方法の例を示します。

表の表現の作成

ドキュメントモデルを使用してデータオペレーションを実行するには、最初に メソッドを呼び出して、特定のテーブルを表す Table クラスのインスタンスを作成します。これには、主に 2 つの方法があります。

LoadTable (メソッド)

1 つ目のメカニズムは、次の例のように、[Table](#) クラスの静的 LoadTable メソッドの 1 つを使用することです。

```
var client = new AmazonDynamoDBClient();
Table table = Table.LoadTable(client, "Reply");
```

Note

このメカニズムは機能しますが、特定の条件下では、コールドスタートやスレッドプールの動作が原因で、レイテンシーが増えたり、デッドロックが発生したりすることがあります。これらの動作の詳細については、ブログ記事「[AWS SDK for .NET の DynamoDB 初期化パターンの改善](#)」を参照してください。

テーブルビルダー

代替メカニズムである [TableBuilder](#) クラスは、[AWSSDK.DynamoDBV2 NuGet パッケージのバージョン 3.7.203](#) で導入されました。このメカニズムでは、特定の暗黙的なメソッド呼び出し (具体的には DescribeTable メソッド) を削除することで、上記の動作に対処できます。このメカニズムは、次の例のような方法で使用されます。

```
var client = new AmazonDynamoDBClient();
var table = new TableBuilder(client, "Reply")
    .AddHashKey("Id", DynamoDBEntryType.String)
    .AddRangeKey("ReplyDateTime", DynamoDBEntryType.String)
    .AddGlobalSecondaryIndex("PostedBy-Message-index", "Author",
        DynamoDBEntryType.String, "Message", DynamoDBEntryType.String)
    .Build();
```

この代替メカニズムの詳細については、ブログ記事「AWS SDK for .NET の [DynamoDB 初期化パターンの改善](#)」をもう一度参照してください。

テーブルへの項目の挿入

次の例では、PutItemAsync クラスの Table メソッドを使用してテーブルにリプライを挿入しています。PutItemAsync メソッドは、Document クラスのインスタンスを受け取ります。Document クラスは、初期化された属性の単純なコレクションです。

```
using Amazon.DynamoDBv2;
using Amazon.DynamoDBv2.DocumentModel;

// Create a representation of the "Reply" table
// by using one of the mechanisms described previously.

// Then, add a reply to the table.
var newReply = new Document();
newReply["Id"] = Guid.NewGuid().ToString();
newReply["ReplyDateTime"] = DateTime.UtcNow;
newReply["PostedBy"] = "Author1";
newReply["Message"] = "Thank you!";

await table.PutItemAsync(newReply);
```

テーブルからの項目の取得

次の例では、GetItemAsync クラスの Table メソッドを使用してリプライを取得しています。取得するリプライを特定するために、GetItemAsync メソッドでは対象リプライのハッシュおよび範囲プライマリキーを使用しています。

```
using Amazon.DynamoDBv2;
using Amazon.DynamoDBv2.DocumentModel;

// Create a representation of the "Reply" table
// by using one of the mechanisms described previously.

// Then, get a reply from the table
// where "guid" is the hash key and "datetime" is the range key.
var reply = await table.GetItemAsync(guid, datetime);
Console.WriteLine("Id = " + reply["Id"]);
Console.WriteLine("ReplyDateTime = " + reply["ReplyDateTime"]);
Console.WriteLine("PostedBy = " + reply["PostedBy"]);
Console.WriteLine("Message = " + reply["Message"]);
```

前述の例では、テーブル値を WriteLine メソッドの文字列に暗黙的に変換しています。DynamoDBEntry クラスのさまざまな「As[type]」メソッドを使用すると、明示的に変換できます。たとえば、AsGuid() メソッドを使用して、Id の値を Primitive データ型から GUID に明示的に変換できます。

```
var guid = reply["Id"].AsGuid();
```

オブジェクト永続性モデル

オブジェクト永続性プログラミングは、特に DynamoDB での .NET オブジェクトの保存、ロード、クエリを目的として作られています。このモデルには、[Amazon.DynamoDBv2.DataModel](#) 名前空間からアクセスします。

3 つのモデルの中で、オブジェクト永続性モデルは、DynamoDB データの保存、ロード、クエリに関してはコーディングが最も簡単です。例えば、DynamoDB のデータ型を直接操作できます。ただし、このモデルでアクセスできるのは、DynamoDB に .NET オブジェクトを保存、ロード、クエリする操作だけです。例えば、このモデルを使用して、テーブルの項目を作成、取得、更新、削除することはできます。ただし、最初に低レベルモデルを使用してテーブルを作成してから、このモデルを使用して .NET クラスをテーブルにマッピングする必要があります。

DynamoDB オブジェクト永続性プログラミングモデルの詳細については、「[Amazon DynamoDB デベロッパーガイド](#)」の「[.NET: オブジェクト永続性モデル](#)」を参照してください。

次の例は、DynamoDB 項目を表す .NET クラスを定義する方法、.NET クラスのインスタンスを使用して項目を DynamoDB テーブルに挿入する方法、.NET クラスのインスタンスを使用してテーブルから項目を取得する方法を示しています。

テーブルで項目を表す .NET クラスの定義

次のクラス定義の例では、DynamoDBTable 属性はテーブル名を指定し、DynamoDBHashKey 属性と DynamoDBRangeKey 属性はテーブルのハッシュと範囲のプライマリキーをモデル化します。DynamoDBGlobalSecondaryIndexHashKey 属性は、特定の作成者による返信のクエリを作成できるように定義されています。

```
using Amazon.DynamoDBv2;
using Amazon.DynamoDBv2.DataModel;

[DynamoDBTable("Reply")]
public class Reply
{
    [DynamoDBHashKey]
    public string Id { get; set; }

    [DynamoDBRangeKey(StoreAsEpoch = false)]
    public DateTime ReplyDateTime { get; set; }

    [DynamoDBGlobalSecondaryIndexHashKey("PostedBy-Message-Index",
        AttributeName = "PostedBy")]
```

```
public string Author { get; set; }

[DynamoDBGlobalSecondaryIndexRangeKey("PostedBy-Message-Index")]
public string Message { get; set; }
}
```

オブジェクト永続性モデルのコンテキストを作成します。

DynamoDB のオブジェクト永続プログラミングモデルを使用するには、コンテキストを作成する必要があります。このクラスから DynamoDB に接続して、テーブルにアクセスし、各種のオペレーションとクエリを実行することができます。

基本コンテキスト

次の例は、最も基本的なコンテキストを作成する方法を示しています。

```
using Amazon.DynamoDBv2;
using Amazon.DynamoDBv2.DataModel;

var client = new AmazonDynamoDBClient();
var context = new DynamoDBContext(client);
```

DisableFetchingTableMetadata プロパティによるコンテキスト

次の例は、DescribeTable メソッドが暗黙的に呼び出されないように、DynamoDBContextConfig クラスの DisableFetchingTableMetadata プロパティを追加で設定する方法を示しています。

```
using Amazon.DynamoDBv2;
using Amazon.DynamoDBv2.DataModel;

var client = new AmazonDynamoDBClient();
var context = new DynamoDBContext(client, new DynamoDBContextConfig
{
    DisableFetchingTableMetadata = true
});
```

最初の例のように DisableFetchingTableMetadata プロパティが false (デフォルト) に設定されている場合は、テーブル項目のキーとインデックスの構造を記述する属性を Reply クラスから省略できます。代わりに、これらの属性は DescribeTable メソッドを暗黙的に呼び出すことで推測され

ます。2 番目の例に示すように、DisableFetchingTableMetadata が true に設定されている場合、SaveAsync や QueryAsync などのオブジェクト永続モデルのメソッドは、Reply クラスで定義された属性に完全に依存します。この場合、DescribeTableメソッドの呼び出しは行われません。

Note

特定の条件下では、コールドスタートやスレッドプールの動作が原因で、DescribeTableメソッドを呼び出すとレイテンシーが増えたり、デッドロックが発生したりすることがあります。このため、そのメソッドの呼び出しは避けたほうが有利な場合があります。

これらの動作の詳細については、ブログ記事「AWS SDK for .NETの[DynamoDB 初期化パターンの改善](#)」を参照してください。

.NET クラスのインスタンスの使用によるテーブルへの項目の挿入

上の例では、項目は DynamoDBContext クラスの SaveAsync メソッドによって挿入されます。このメソッドは、項目を表す .NET クラスの初期化されたインスタンスを受け取ります

```
using Amazon.DynamoDBv2;
using Amazon.DynamoDBv2.DataModel;

// Create an appropriate context for the object persistence programming model,
// examples of which have been described earlier.

// Create an object that represents the new item.
var reply = new Reply()
{
    Id = Guid.NewGuid().ToString(),
    ReplyDateTime = DateTime.UtcNow,
    Author = "Author1",
    Message = "Thank you!"
};

// Insert the item into the table.
await context.SaveAsync<Reply>(reply, new DynamoDBOperationConfig
{
    IndexName = "PostedBy-Message-index"
});
```

.NET クラスのインスタンスを使用してテーブルから項目を取得する

この例では、DynamoDBContextクラスのQueryAsyncメソッドを使用して「Author1」のすべてのレコードを検索するクエリを作成します。次に、クエリのGetNextSetAsyncメソッドを使用して項目が取得されます。

```
using Amazon.DynamoDBv2;
using Amazon.DynamoDBv2.DataModel;

// Create an appropriate context for the object persistence programming model,
// examples of which have been described earlier.

// Construct a query that finds all replies by a specific author.
var query = context.QueryAsync<Reply>("Author1", new DynamoDBOperationConfig
{
    IndexName = "PostedBy-Message-index"
});

// Display the result.
var set = await query.GetNextSetAsync();
foreach (var item in set)
{
    Console.WriteLine("Id = " + item.Id);
    Console.WriteLine("ReplyDateTime = " + item.ReplyDateTime);
    Console.WriteLine("PostedBy = " + item.Author);
    Console.WriteLine("Message = " + item.Message);
}
```

オブジェクト永続モデルに関する追加情報

上記の例と説明には、DisableFetchingTableMetadataというDynamoDBContextクラスのプロパティが含まれている場合があります。[awsSDK.DynamoDBV2 NuGet パッケージのバージョン 3.7.203](#)で導入されたこのプロパティを使用すると、コールドスタートやスレッドプールの動作が原因で、追加のレイテンシーやデッドロックが発生する可能性のある特定の条件を回避できます。詳細については、ブログ記事「AWS SDK for .NETの[DynamoDB 初期化パターンの改善](#)」を参照してください。

このプロパティに関する追加情報は次のとおりです。

- .NET Framework を使用している場合は、このプロパティをapp.configまたはweb.configファイルにグローバルに設定できます。

- このプロパティは、次の例に示すように、[AWSConfigsDynamoDB](#)クラスを使用してグローバルに設定できます。

```
// Set the DisableFetchingTableMetadata property globally
// before constructing any context objects.
AWSConfigsDynamoDB.Context.DisableFetchingTableMetadata = true;

var client = new AmazonDynamoDBClient();
var context = new DynamoDBContext(client);
```

- クラスが依存関係で定義されている場合など、DynamoDB 属性を.NET クラスに追加できない場合があります。このような場合でも、DisableFetchingTableMetadataプロパティを利用することは可能です。そのためには、DisableFetchingTableMetadataプロパティに加えて[TableBuilder](#)クラスも使用します。TableBuilderクラスは、[AWSSDK.DynamoDBV2 NuGet パッケージのバージョン 3.7.203](#)でも導入されました。

```
// Set the DisableFetchingTableMetadata property globally
// before constructing any context objects.
AWSConfigsDynamoDB.Context.DisableFetchingTableMetadata = true;

var client = new AmazonDynamoDBClient();
var context = new DynamoDBContext(client);

var table = new TableBuilder(client, "Reply")
    .AddHashKey("Id", DynamoDBEntryType.String)
    .AddRangeKey("ReplyDateTime", DynamoDBEntryType.String)
    .AddGlobalSecondaryIndex("PostedBy-Message-index", "Author",
        DynamoDBEntryType.String,
        "Message", DynamoDBEntryType.String)
    .Build();

// This registers the "Reply" table we constructed via the builder.
context.RegisterTableDefinition(table);

// Now operations like this will work,
// even if the Reply class was not annotated with this index.
var query = context.QueryAsync<Reply>("Author1", new DynamoDBOperationConfig()
{
    IndexName = "PostedBy-Message-index"
});
```


詳細情報

AWS SDK for .NET を使用して DynamoDB をプログラムする、情報と例

- [DynamoDB API](#)
- [DynamoDB Series Kickoff](#)
- [DynamoDB Series - Document Model](#)
- [DynamoDB Series - Conversion Schemas](#)
- [DynamoDB Series - Object Persistence Model](#)
- [DynamoDB Series - Expressions](#)
- [Amazon DynamoDB と の式の使用 AWS SDK for .NET](#)
- [Amazon DynamoDB での JSON のサポート](#)

低レベルモデル、情報および例

- [AWS SDK for .NET 低レベル API を使用したテーブルの操作](#)
- [AWS SDK for .NET 低レベル API を使用したアイテムの操作](#)
- [AWS SDK for .NET 低レベル API を使用したテーブルのクエリ](#)
- [AWS SDK for .NET 低レベル API を使用したテーブルのスキャン](#)
- [AWS SDK for .NET 低レベル API を使用したローカルセカンダリインデックスの操作](#)
- [AWS SDK for .NET 低レベル API を使用したグローバルセカンダリインデックスの使用](#)

ドキュメントモデル、情報および例

- [DynamoDB データ型](#)
- [DynamoDBEntry](#)
- [.NET ドキュメントモデル](#)

オブジェクト永続性モデル、情報および例

- [.NET: オブジェクト永続性モデル](#)

その他の有用な情報

- .NET Aspire を通じた Amazon DynamoDB Local での開発については、「[AWS と .NET Aspire との統合](#)」を参照してください。

トピック

- [Amazon DynamoDB と での式の使用 AWS SDK for .NET](#)
- [Amazon DynamoDB での JSON のサポート](#)

Amazon DynamoDB と での式の使用 AWS SDK for .NET

Note

このトピックの情報は、.NET Framework および AWS SDK for .NET バージョン 3.3 以前のプロジェクトに固有のものです。

次のコード例は、を使用して式で DynamoDB AWS SDK for .NET をプログラムする方法を示しています。式は、DynamoDB テーブルの項目から読み取る属性を示します。また、項目を書き込むときも式を使用して、満たす必要がある条件 (条件付き更新とも呼ばれます) と、属性を更新する方法を示します。更新の例として、属性を新しい値で置き換えたり、新しいデータをリストやマップに追加したりします。詳細については、「[式を使用した項目の読み取りと書き込み](#)」を参照してください。

トピック

- [サンプルデータ](#)
- [式と項目のプライマリキーを使用して単一の項目を取得する](#)
- [式およびテーブルのプライマリキーを使用して複数の項目を取得する](#)
- [式および他の項目属性を使って複数の項目を取得する](#)
- [項目の出力](#)
- [式を使用して項目を作成または置換する](#)
- [式を使用して項目を更新する](#)
- [式を使用して項目を削除する](#)
- [詳細情報](#)

サンプルデータ

このトピックのコード例では、ProductCatalog という名前の DynamoDB テーブルに存在する以下の 2 つの項目を例として使用します。これらの項目は、架空の自転車店のカタログの製品エントリに関する情報を示します。これらの項目は、「[導入事例: ProductCatalog 項目](#)」で提供されている例に基づきます。BOOL、L、M、N、NS、S、SS などのデータ型記述子は、[JSON データ形式](#)でのデータ型に対応します。

```
{
  "Id": {
    "N": "205"
  },
  "Title": {
    "S": "20-Bicycle 205"
  },
  "Description": {
    "S": "205 description"
  },
  "BicycleType": {
    "S": "Hybrid"
  },
  "Brand": {
    "S": "Brand-Company C"
  },
  "Price": {
    "N": "500"
  },
  "Gender": {
    "S": "B"
  },
  "Color": {
    "SS": [
      "Red",
      "Black"
    ]
  },
  "ProductCategory": {
    "S": "Bike"
  },
  "InStock": {
    "BOOL": true
  },
  "QuantityOnHand": {
```

```
"N": "1"
},
"RelatedItems": {
  "NS": [
    "341",
    "472",
    "649"
  ]
},
"Pictures": {
  "L": [
    {
      "M": {
        "FrontView": {
          "S": "http://example/products/205_front.jpg"
        }
      }
    },
    {
      "M": {
        "RearView": {
          "S": "http://example/products/205_rear.jpg"
        }
      }
    },
    {
      "M": {
        "SideView": {
          "S": "http://example/products/205_left_side.jpg"
        }
      }
    }
  ]
},
"ProductReviews": {
  "M": {
    "FiveStar": {
      "SS": [
        "Excellent! Can't recommend it highly enough! Buy it!",
        "Do yourself a favor and buy this."
      ]
    },
    "OneStar": {
      "SS": [
```

```
        "Terrible product! Do not buy this."
    ]
}
}
},
{
    "Id": {
        "N": "301"
    },
    "Title": {
        "S": "18-Bicycle 301"
    },
    "Description": {
        "S": "301 description"
    },
    "BicycleType": {
        "S": "Road"
    },
    "Brand": {
        "S": "Brand-Company C"
    },
    "Price": {
        "N": "185"
    },
    "Gender": {
        "S": "F"
    },
    "Color": {
        "SS": [
            "Blue",
            "Silver"
        ]
    },
    "ProductCategory": {
        "S": "Bike"
    },
    "InStock": {
        "BOOL": true
    },
    "QuantityOnHand": {
        "N": "3"
    },
    "RelatedItems": {
```

```

    "NS": [
      "801",
      "822",
      "979"
    ]
  },
  "Pictures": {
    "L": [
      {
        "M": {
          "FrontView": {
            "S": "http://example/products/301_front.jpg"
          }
        }
      },
      {
        "M": {
          "RearView": {
            "S": "http://example/products/301_rear.jpg"
          }
        }
      },
      {
        "M": {
          "SideView": {
            "S": "http://example/products/301_left_side.jpg"
          }
        }
      }
    ]
  },
  "ProductReviews": {
    "M": {
      "FiveStar": {
        "SS": [
          "My daughter really enjoyed this bike!"
        ]
      },
      "ThreeStar": {
        "SS": [
          "This bike was okay, but I would have preferred it in my color.",
          "Fun to ride."
        ]
      }
    }
  }
}

```

```
    }  
  }  
}
```

式と項目のプライマリキーを使用して単一の項目を取得する

次の例では、Amazon.DynamoDBv2.AmazonDynamoDBClient.GetItem メソッドと一連の式を使用して、Id が 205 である項目を取得して出力します。項目の属性のうち返されるものは、Id、Title、Description、Color、RelatedItems、Pictures、ProductReviews だけです。

```
// using Amazon.DynamoDBv2;  
// using Amazon.DynamoDBv2.Model;  
  
var client = new AmazonDynamoDBClient();  
var request = new GetItemRequest  
{  
    TableName = "ProductCatalog",  
    ProjectionExpression = "Id, Title, Description, Color, #ri, Pictures, #pr",  
    ExpressionAttributeNames = new Dictionary<string, string>  
    {  
        { "#pr", "ProductReviews" },  
        { "#ri", "RelatedItems" }  
    },  
    Key = new Dictionary<string, AttributeValue>  
    {  
        { "Id", new AttributeValue { N = "205" } }  
    },  
};  
var response = client.GetItem(request);  
  
// PrintItem() is a custom function.  
PrintItem(response.Item);
```

前の例で、ProjectionExpression プロパティは返される属性を指定しています。ExpressionAttributeNames プロパティで、プレースホルダー #pr は ProductReviews 属性を表し、プレースホルダー #ri は RelatedItems 属性を表します。PrintItem の呼び出しは、「[項目の出力](#)」で説明されているようにカスタム関数を参照します。

式およびテーブルのプライマリキーを使用して複数の項目を取得する

次の例では、Amazon.DynamoDBv2.AmazonDynamoDBClient.Query メソッドと一連の式を使用して、Id が 301 で Price の値が 150 より大きい項目を取得して出力します。返される項目の属性は、Id、Title、および ThreeStar のすべての ProductReviews 属性だけです。

```
// using Amazon.DynamoDBv2;
// using Amazon.DynamoDBv2.Model;

var client = new AmazonDynamoDBClient();
var request = new QueryRequest
{
    TableName = "ProductCatalog",
    KeyConditions = new Dictionary<string, Condition>
    {
        { "Id", new Condition()
            {
                ComparisonOperator = ComparisonOperator.EQ,
                AttributeValueList = new List<AttributeValue>
                {
                    new AttributeValue { N = "301" }
                }
            }
        },
    },
    ProjectionExpression = "Id, Title, #pr.ThreeStar",
    ExpressionAttributeNames = new Dictionary<string, string>
    {
        { "#pr", "ProductReviews" },
        { "#p", "Price" }
    },
    ExpressionAttributeValues = new Dictionary<string, AttributeValue>
    {
        { ":val", new AttributeValue { N = "150" } }
    },
    FilterExpression = "#p > :val"
};
var response = client.Query(request);

foreach (var item in response.Items)
{
    // Write out the first page of an item's attribute keys and values.
    // PrintItem() is a custom function.
```



```
PrintItem(item);
Console.WriteLine("====");
}
```

前の例で、ProjectionExpression プロパティは返される属性を指定しています。ExpressionAttributeNames プロパティで、プレースホルダー #pr は ProductReviews 属性を表し、プレースホルダー #p は Price 属性を表します。#pr.ThreeStar は、ThreeStar 属性だけを返すように指定します。ExpressionAttributeValues プロパティは、プレースホルダー :val が値 150 を表すことを指定します。FilterExpression プロパティは、#p (Price) が :val (150) より大きくなければならないことを指定します。PrintItem の呼び出しは、「[項目の出力](#)」で説明されているようにカスタム関数を参照します。

式および他の項目属性を使って複数の項目を取得する

次の例では、Amazon.DynamoDBv2.AmazonDynamoDBClient.Scan メソッドと一連の式を使用して、ProductCategory が Bike であるすべての項目を取得して出力します。返される項目の属性は、Id、Title、および ProductReviews のすべての属性だけです。

```
// using Amazon.DynamoDBv2;
// using Amazon.DynamoDBv2.Model;

var client = new AmazonDynamoDBClient();
var request = new ScanRequest
{
    TableName = "ProductCatalog",
    ProjectionExpression = "Id, Title, #pr",
    ExpressionAttributeValues = new Dictionary<string, AttributeValue>
    {
        { ":catg", new AttributeValue { S = "Bike" } }
    },
    ExpressionAttributeNames = new Dictionary<string, string>
    {
        { "#pr", "ProductReviews" },
        { "#pc", "ProductCategory" }
    },
    FilterExpression = "#pc = :catg",
};
var response = client.Scan(request);

foreach (var item in response.Items)
{
    // Write out the first page/scan of an item's attribute keys and values.
}
```

```
// PrintItem() is a custom function.
PrintItem(item);
Console.WriteLine("====");
}
```

前の例で、ProjectionExpression プロパティは返される属性を指定しています。ExpressionAttributeNames プロパティで、プレースホルダー #pr は ProductReviews 属性を表し、プレースホルダー #pc は ProductCategory 属性を表します。ExpressionAttributeValues プロパティは、プレースホルダー :catg が値 Bike を表すことを指定します。FilterExpression プロパティは、#pc (ProductCategory) が :catg (Bike) と等しくなければならないことを示します。PrintItem の呼び出しは、「[項目の出力](#)」で説明されているようにカスタム関数を参照します。

項目の出力

次の例では、項目の属性と値を出力する方法を示します。この例は、「[式と項目のプライマリキーを使用して単一の項目を取得する](#)」、「[式およびテーブルのプライマリキーを使用して複数の項目を取得する](#)」、「[式および他の項目属性を使って複数の項目を取得する](#)」の各方法に関する前述の例で使用されています。

```
// using Amazon.DynamoDBv2.Model;

// Writes out an item's attribute keys and values.
public static void PrintItem(Dictionary<string, AttributeValue> attrs)
{
    foreach (KeyValuePair<string, AttributeValue> kvp in attrs)
    {
        Console.Write(kvp.Key + " = ");
        PrintValue(kvp.Value);
    }
}

// Writes out just an attribute's value.
public static void PrintValue(AttributeValue value)
{
    // Binary attribute value.
    if (value.B != null)
    {
        Console.WriteLine("Binary data");
    }
    // Binary set attribute value.
    else if (value.BS.Count > 0)
```

```
{
    foreach (var bValue in value.BS)
    {
        Console.WriteLine("\n  Binary data");
    }
}
// List attribute value.
else if (value.L.Count > 0)
{
    foreach (AttributeValue attr in value.L)
    {
        PrintValue(attr);
    }
}
// Map attribute value.
else if (value.M.Count > 0)
{
    Console.WriteLine("\n");
    PrintItem(value.M);
}
// Number attribute value.
else if (value.N != null)
{
    Console.WriteLine(value.N);
}
// Number set attribute value.
else if (value.NS.Count > 0)
{
    Console.WriteLine("{0}", string.Join("\n", value.NS.ToArray()));
}
// Null attribute value.
else if (value.NULL)
{
    Console.WriteLine("Null");
}
// String attribute value.
else if (value.S != null)
{
    Console.WriteLine(value.S);
}
// String set attribute value.
else if (value.SS.Count > 0)
{
    Console.WriteLine("{0}", string.Join("\n", value.SS.ToArray()));
}
```

```

    }
    // Otherwise, boolean value.
    else
    {
        Console.Write(value.BOOL);
    }

    Console.Write("\n");
}

```

前の例では、各属性値に含まれる複数のデータ型固有のプロパティを評価して、属性を出力する正しい形式を決定しています。このようなプロパティとしては B、BOOL、BS、L、M、N、NS、NULL、S、SS などがあり、これらは [JSON データ形式](#) に対応しています。B、N、NULL、S などのプロパティでは、対応するプロパティが null ではない場合、属性は対応する null ではないデータ型になります。BS、L、M、NS、SS などのプロパティでは、Count がゼロより大きい場合、属性は対応するゼロ値ではないデータ型になります。属性のすべてのデータ型固有プロパティが null であるか、または Count がゼロに等しい場合、属性は BOOL データ型に対応します。

式を使用して項目を作成または置換する

次の例では、Amazon.DynamoDBv2.AmazonDynamoDBClient.PutItem メソッドと一連の式を使用して、Title が 18-Bicycle 301 である項目を更新します。項目が存在しない場合、新しい項目が追加されます。

```

// using Amazon.DynamoDBv2;
// using Amazon.DynamoDBv2.Model;

var client = new AmazonDynamoDBClient();
var request = new PutItemRequest
{
    TableName = "ProductCatalog",
    ExpressionAttributeNames = new Dictionary<string, string>
    {
        { "#title", "Title" }
    },
    ExpressionAttributeValues = new Dictionary<string, AttributeValue>
    {
        { ":product", new AttributeValue { S = "18-Bicycle 301" } }
    },
    ConditionExpression = "#title = :product",
    // CreateItemData() is a custom function.
}

```

```

    Item = CreateItemData()
};
client.PutItem(request);

```

前の例で、ExpressionAttributeNames プロパティは、プレースホルダー #title が Title 属性を表すことを指定します。ExpressionAttributeValues プロパティは、プレースホルダー :product が値 18-Bicycle 301 を表すことを指定します。ConditionExpression プロパティは、#title (Title) が :product (18-Bicycle 301) と等しくなければならないことを示します。CreateItemData の呼び出しは、次のカスタム関数を参照します。

```

// using Amazon.DynamoDBv2.Model;

// Provides a sample item that can be added to a table.
public static Dictionary<string, AttributeValue> CreateItemData()
{
    var itemData = new Dictionary<string, AttributeValue>
    {
        { "Id", new AttributeValue { N = "301" } },
        { "Title", new AttributeValue { S = "18\" Girl's Bike" } },
        { "BicycleType", new AttributeValue { S = "Road" } },
        { "Brand" , new AttributeValue { S = "Brand-Company C" } },
        { "Color", new AttributeValue { SS = new List<string>{ "Blue", "Silver" } } },
        { "Description", new AttributeValue { S = "301 description" } },
        { "Gender", new AttributeValue { S = "F" } },
        { "InStock", new AttributeValue { BOOL = true } },
        { "Pictures", new AttributeValue { L = new List<AttributeValue>{
            { new AttributeValue { M = new Dictionary<string,AttributeValue>{
                { "FrontView", new AttributeValue { S = "http://example/
products/301_front.jpg" } } } } },
            { new AttributeValue { M = new Dictionary<string,AttributeValue>{
                { "RearView", new AttributeValue { S = "http://example/
products/301_rear.jpg" } } } } },
            { new AttributeValue { M = new Dictionary<string,AttributeValue>{
                { "SideView", new AttributeValue { S = "http://example/
products/301_left_side.jpg" } } } } }
        } } },
        { "Price", new AttributeValue { N = "185" } },
        { "ProductCategory", new AttributeValue { S = "Bike" } },
        { "ProductReviews", new AttributeValue { M = new Dictionary<string,AttributeValue>{
            { "FiveStar", new AttributeValue { SS = new List<string>{
                "My daughter really enjoyed this bike!" } } },
            { "OneStar", new AttributeValue { SS = new List<string>{
                "Fun to ride.",

```

```

        "This bike was okay, but I would have preferred it in my color." } } }
    } } },
    { "QuantityOnHand", new AttributeValue { N = "3" } },
    { "RelatedItems", new AttributeValue { NS = new List<string>{ "979", "822",
"801" } } }
};

return itemData;
}

```

前の例では、サンプルデータを含む項目の例が呼び出し元に返されます。一連の属性と対応する値は、BOOL、L、M、N、NS、S、SS のようなデータ型を使用して構成されます。これらは [JSON データ形式](#) 内のものと対応しています。

式を使用して項目を更新する

次の例では、Amazon.DynamoDBv2.AmazonDynamoDBClient.UpdateItem メソッドと一連の式を使用して、Title が 18" Girl's Bike である項目の Id を 301 に変更します。

```

// using Amazon.DynamoDBv2;
// using Amazon.DynamoDBv2.Model;

var client = new AmazonDynamoDBClient();
var request = new UpdateItemRequest
{
    TableName = "ProductCatalog",
    Key = new Dictionary<string, AttributeValue>
    {
        { "Id", new AttributeValue { N = "301" } }
    },
    ExpressionAttributeNames = new Dictionary<string, string>
    {
        { "#title", "Title" }
    },
    ExpressionAttributeValues = new Dictionary<string, AttributeValue>
    {
        { ":newproduct", new AttributeValue { S = "18\" Girl's Bike" } }
    },
    UpdateExpression = "SET #title = :newproduct"
};
client.UpdateItem(request);

```

前の例で、`ExpressionAttributeNames` プロパティは、プレースホルダー `#title` が `Title` 属性を表すことを指定します。`ExpressionAttributeValues` プロパティは、プレースホルダー `:newproduct` が値 `18" Girl's Bike` を表すことを指定します。`UpdateExpression` プロパティは、`#title ( Title )` を `:newproduct ( 18" Girl's Bike )` に変更することを指定します。

式を使用して項目を削除する

次の例では、`Amazon.DynamoDBv2.AmazonDynamoDBClient.DeleteItem` メソッドと一連の式を使用して、`Id` が `301` で `Title` が `18-Bicycle 301` である項目を削除します。

```
// using Amazon.DynamoDBv2;
// using Amazon.DynamoDBv2.Model;

var client = new AmazonDynamoDBClient();
var request = new DeleteItemRequest
{
    TableName = "ProductCatalog",
    Key = new Dictionary<string,AttributeValue>
    {
        { "Id", new AttributeValue { N = "301" } }
    },
    ExpressionAttributeNames = new Dictionary<string, string>
    {
        { "#title", "Title" }
    },
    ExpressionAttributeValues = new Dictionary<string, AttributeValue>
    {
        { ":product", new AttributeValue { S = "18-Bicycle 301" } }
    },
    ConditionExpression = "#title = :product"
};
client.DeleteItem(request);
```

前の例で、`ExpressionAttributeNames` プロパティは、プレースホルダー `#title` が `Title` 属性を表すことを指定します。`ExpressionAttributeValues` プロパティは、プレースホルダー `:product` が値 `18-Bicycle 301` を表すことを指定します。`ConditionExpression` プロパティは、`#title ( Title )` が `:product ( 18-Bicycle 301 )` と等しくなければならないことを示します。

詳細情報

詳細な説明とコード例については、以下を参照してください。

- [DynamoDB Series - Expressions](#)
- [プロジェクト式を使用した項目属性へのアクセス](#)
- [属性の名前および値でのプレースホルダーの使用](#)
- [条件式を使用した条件の指定](#)
- [更新式を使用した項目および属性の変更](#)
- [AWS SDK for .NET 低レベル API を使用したアイテムの操作](#)
- [AWS SDK for .NET 低レベル API を使用したテーブルのクエリ](#)
- [AWS SDK for .NET 低レベル API を使用したテーブルのスキャン](#)
- [AWS SDK for .NET 低レベル API を使用したローカルセカンダリインデックスの操作](#)
- [AWS SDK for .NET 低レベル API を使用したグローバルセカンダリインデックスの使用](#)

Amazon DynamoDB での JSON のサポート

Note

このトピックの情報は、.NET Framework および AWS SDK for .NET バージョン 3.3 以前のプロジェクトに固有のものです。

は、Amazon DynamoDB を使用する際に JSON データ AWS SDK for .NET をサポートします。そのため、DynamoDB テーブルから JSON 形式のデータを取得したり、テーブルに JSON ドキュメントを挿入したりする操作を簡単に行えます。

トピック

- [DynamoDB テーブルから JSON 形式のデータを取得する](#)
- [DynamoDB テーブルに JSON 形式のデータを挿入する](#)
- [DynamoDB データ型の JSON への変換](#)
- [詳細情報](#)

DynamoDB テーブルから JSON 形式のデータを取得する

次の例では、DynamoDB テーブルから JSON 形式のデータを取得する方法を示します。

```
// using Amazon.DynamoDBv2;
// using Amazon.DynamoDBv2.DocumentModel;

var client = new AmazonDynamoDBClient();
var table = Table.LoadTable(client, "AnimalsInventory");
var item = table.GetItem(3, "Horse");

var jsonText = item.ToJson();
Console.Write(jsonText);

// Output:
// {"Name":"Shadow","Type":"Horse","Id":3}

var jsonPrettyText = item.ToJsonPretty();
Console.WriteLine(jsonPrettyText);

// Output:
// {
//     "Name" : "Shadow",
//     "Type" : "Horse",
//     "Id"   : 3
// }
```

この例では、Document クラスの ToJson メソッドを使用してテーブルの項目を JSON 形式の文字列に変換しています。項目を取得するには、Table クラスの GetItem メソッドを使用します。取得する項目を特定するには、この例では、対象項目のハッシュおよび範囲プライマリキーを GetItem メソッドで使用しています。項目を取得するテーブルを特定するために、Table クラスの LoadTable メソッドで AmazonDynamoDBClient クラスのインスタンスと DynamoDB の対象テーブルの名前を使用しています。

DynamoDB テーブルに JSON 形式のデータを挿入する

次の例では、JSON 形式を使用して DynamoDB テーブルに項目を挿入する方法を示します。

```
// using Amazon.DynamoDBv2;
// using Amazon.DynamoDBv2.DocumentModel;

var client = new AmazonDynamoDBClient();
```

```
var table = Table.LoadTable(client, "AnimalsInventory");
var jsonText = "{\"Id\":6,\"Type\":\"Bird\",\"Name\":\"Tweety\"}";
var item = Document.FromJson(jsonText);

table.PutItem(item);
```

この例では、Document クラスの FromJson メソッドを使用して JSON 形式の文字列を項目に変換しています。項目は、PutItem クラスの Table メソッドによってテーブルに挿入されます。このメソッドは、項目を含む Document クラスのインスタンスを使用します。項目を挿入するテーブルを特定するために、Table クラスの LoadTable メソッドが呼び出され、AmazonDynamoDBClient クラスのインスタンスと DynamoDB の対象テーブルの名前を指定しています。

DynamoDB データ型の JSON への変換

Document クラスの ToJson メソッドを呼び出す場合、および結果の JSON データで FromJson メソッドを呼び出して JSON データを Document クラスのインスタンスに変換する場合、一部の DynamoDB データ型は意図したとおりには変換されません。具体的には次のとおりです。

- DynamoDB のセット (SS、NS、BS 型) は、JSON の配列に変換されます。
- DynamoDB のバイナリスカラーおよびセット (B、BS 型) は、base64 でエンコードされた JSON 文字列または文字列のリストに変換されます。

この場合は、Document クラスの DecodeBase64Attributes メソッドを呼び出して、base64 でエンコードされた JSON データを正しいバイナリ表現に置き換える必要があります。次の例では、Document クラスのインスタンスの Picture という名前の base64 でエンコードされたバイナリスカラー項目属性を、正しいバイナリ表現で置き換えています。また、この例では、Document クラスの同じインスタンスの RelatedPictures という名前の base64 でエンコードされたバイナリセット項目属性に対しても同じことを行っています。

```
item.DecodeBase64Attributes("Picture", "RelatedPictures");
```

詳細情報

を使用して DynamoDB で JSON をプログラミングする詳細と例については AWS SDK for .NET、以下を参照してください。

- [DynamoDB JSON Support](#)
- [Amazon DynamoDB Update - JSON, Expanded Free Tier, Flexible Scaling, Larger Items](#)

Amazon EC2 の使用

は、サイズ変更可能なコンピューティング容量を提供するウェブサービスである [Amazon EC2](#) AWS SDK for .NET をサポートしています。このコンピューティング性能を使用して、ソフトウェアシステムの構築とホストを行います。

API

AWS SDK for .NET はAPIs を提供します。Amazon EC2 API を通じて、セキュリティグループやキーペアなどの EC2 の機能を使用できます。API により、Amazon EC2 インスタンスを制御することもできます。このセクションでは、これらの API を操作する際に活用できるパターンを示すいくつかの例を紹介します。API の完全なセットを確認するには、[AWS SDK for .NET API リファレンス](#)を参照してください (「Amazon.EC2」までスクロールします)。

Amazon EC2 API は、[AWSSDK.EC2](#) NuGet パッケージによって提供されます。

前提条件

開始する前に、[環境とプロジェクトがセットアップされている](#)ことを必ず確認してください。また、「[SDK の機能](#)」の情報を確認してください。

の例について

このセクションの例では、Amazon EC2 クライアントの使用方法和、Amazon EC2 インスタンスを管理する方法について説明します。

[EC2 スポットインスタンスのチュートリアル](#)では、Amazon EC2 スポットインスタンスをリクエストする方法について説明します。スポットインスタンスを使用すると、未使用の EC2 性能にオンデマンド料金よりも低価格でアクセスできます。

トピック

- [Amazon EC2 でのセキュリティグループの使用](#)
- [Amazon EC2 のキーペアの使用](#)
- [Amazon EC2 のリージョンとアベイラビリティーゾーンの確認](#)
- [Amazon EC2 インスタンスの使用](#)
- [Amazon EC2 スポットインスタンスのチュートリアル](#)

Amazon EC2 でのセキュリティグループの使用

Amazon EC2 では、セキュリティグループは 1 つ以上の EC2 インスタンスのネットワークトラフィックを制御する仮想ファイアウォールとして機能します。デフォルトでは EC2 は、インバウンドトラフィックを許可しないセキュリティグループにインスタンスを関連付けます。EC2 インスタンスが特定のトラフィックを受け付けるようにするセキュリティグループを作成できます。例えば、EC2 Windows インスタンスに接続する必要がある場合は、RDP トラフィックを許可するようにセキュリティグループを設定する必要があります。

セキュリティグループの詳細については、「[Amazon EC2 ユーザーガイド](#)」の「[Amazon EC2 セキュリティグループ](#)」を参照してください。

Warning

EC2-Classic は 2022 年 8 月 15 日に廃止されました。EC2-Classic は、VPC への移行をお勧めします。詳細については、ブログ記事「[EC2-Classic Networking is Retiring - Here's How to Prepare](#)」を参照してください。

API の詳細と前提条件については、親セクション ([Amazon EC2 の使用](#)) を参照してください。

トピック

- [セキュリティグループの列挙](#)
- [セキュリティグループの作成](#)
- [セキュリティグループの更新](#)

セキュリティグループの列挙

この例では、を使用してセキュリティグループ AWS SDK for .NET を列挙する方法を示します。[Amazon Virtual Private Cloud](#) ID を指定した場合、アプリケーションは指定された VPC のセキュリティグループを列挙します。指定しなかった場合、アプリケーションは単に使用可能なすべてのセキュリティグループを一覧表示します。

以下のセクションでは、この例のスニペットを確認できます。その下には、[この例のコードの全文](#)が示されており、そのままビルドして実行できます。

トピック

- [セキュリティグループの列挙](#)

- [コード全文](#)
- [その他の考慮事項](#)

セキュリティグループの列挙

次のスニペットでは、セキュリティグループを列挙します。すべてのグループ、または特定の VPC が指定されている場合にはその VPC のグループを列挙します。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//
// Method to enumerate the security groups
private static async Task EnumerateGroups(IAmazonEC2 ec2Client, string vpcID)
{
    // A request object, in case we need it.
    var request = new DescribeSecurityGroupsRequest();

    // Put together the properties, if needed
    if(!string.IsNullOrEmpty(vpcID))
    {
        // We have a VPC ID. Find the security groups for just that VPC.
        Console.WriteLine($"\\nGetting security groups for VPC {vpcID}...\\n");
        request.Filters.Add(new Filter
        {
            Name = "vpc-id",
            Values = new List<string>() { vpcID }
        });
    }

    // Get the list of security groups
    DescribeSecurityGroupsResponse response =
        await ec2Client.DescribeSecurityGroupsAsync(request);

    // Display the list of security groups.
    foreach (SecurityGroup item in response.SecurityGroups)
    {
        Console.WriteLine("Security group: " + item.GroupId);
        Console.WriteLine("\\tGroupId: " + item.GroupId);
        Console.WriteLine("\\tGroupName: " + item.GroupName);
        Console.WriteLine("\\tVpcId: " + item.VpcId);
        Console.WriteLine();
    }
}
```

```
}
```

コード全文

このセクションでは、例に関連する参考資料とコードの全文を示します。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [AWSSDK.EC2](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.EC2](#)

クラス [AmazonEC2Client](#)

- 名前空間 [Amazon.EC2.Model](#)

クラス [DescribeSecurityGroupsRequest](#)

クラス [DescribeSecurityGroupsResponse](#)

クラス [Filter](#)

クラス [SecurityGroup](#)

コード

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using System.Collections.Generic;
using Amazon.EC2;
using Amazon.EC2.Model;

namespace EC2EnumerateSecGroups
{
    class Program
    {
        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Parse the command line
```

```

        string vpcID = string.Empty;
        if(args.Length == 0)
        {
            Console.WriteLine("\nEC2EnumerateSecGroups [vpc_id]");
            Console.WriteLine("  vpc_id - The ID of the VPC for which you want to see
security groups.");
            Console.WriteLine("\nSince you specified no arguments, showing all available
security groups.");
        }
        else
        {
            vpcID = args[0];
        }

        if(vpcID.StartsWith("vpc-") || string.IsNullOrEmpty(vpcID))
        {
            // Create an EC2 client object
            var ec2Client = new AmazonEC2Client();

            // Enumerate the security groups
            await EnumerateGroups(ec2Client, vpcID);
        }
        else
        {
            Console.WriteLine("Could not find a valid VPC ID in the command-line
arguments:");
            Console.WriteLine($"{args[0]}");
        }
    }

    //
    // Method to enumerate the security groups
    private static async Task EnumerateGroups(IAmazonEC2 ec2Client, string vpcID)
    {
        // A request object, in case we need it.
        var request = new DescribeSecurityGroupsRequest();

        // Put together the properties, if needed
        if(!string.IsNullOrEmpty(vpcID))
        {
            // We have a VPC ID. Find the security groups for just that VPC.
            Console.WriteLine($"{vpcID}\nGetting security groups for VPC {vpcID}...\n");
            request.Filters.Add(new Filter

```

```
{
    Name = "vpc-id",
    Values = new List<string>() { vpcID }
});
}

// Get the list of security groups
DescribeSecurityGroupsResponse response =
    await ec2Client.DescribeSecurityGroupsAsync(request);

// Display the list of security groups.
foreach (SecurityGroup item in response.SecurityGroups)
{
    Console.WriteLine("Security group: " + item.GroupId);
    Console.WriteLine("\tGroupId: " + item.GroupId);
    Console.WriteLine("\tGroupName: " + item.GroupName);
    Console.WriteLine("\tVpcId: " + item.VpcId);
    Console.WriteLine();
}
}
}
```

その他の考慮事項

- VPC の場合、フィルターの名前と値のペアの Name の部分が「vpc-id」に設定されている点に注目してください。この名前は、[DescribeSecurityGroupsRequest](#) クラスの Filters プロパティの記述に由来しています。
- セキュリティグループの完全なリストを取得するには、[DescribeSecurityGroupsAsync](#) を [パラメータなしで](#) 使用することもできます。
- [Amazon EC2 コンソール](#) でセキュリティグループのリストを確認することにより、結果を検証できます。

セキュリティグループの作成

この例では、AWS SDK for .NET を使用してセキュリティグループを作成する方法を示します。既存の VPC の ID を指定して、VPC 内の EC2 用のセキュリティグループを作成できます。このよう

な ID を指定しない場合、AWS アカウントがこれをサポートしている場合、新しいセキュリティグループは EC2-Classic 用になります。

VPC ID を指定せず、AWS アカウントが EC2-Classic をサポートしていない場合、新しいセキュリティグループはアカウントのデフォルト VPC に属します。

⚠ Warning

EC2-Classic は 2022 年 8 月 15 日に廃止されました。EC2-Classic は、VPC への移行をお勧めします。詳細については、ブログ記事「[EC2-Classic Networking is Retiring - Here's How to Prepare](#)」を参照してください。

以下のセクションでは、この例のスニペットを確認できます。その下には、[この例のコードの全文](#)が示されており、そのままビルドして実行できます。

トピック

- [既存のセキュリティグループを検索する](#)
- [セキュリティグループを作成する](#)
- [コード全文](#)

既存のセキュリティグループを検索する

次のスニペットでは、指定された名前を持つ既存のセキュリティグループを指定された VPC 内で検索します。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//  
// Method to determine if a security group with the specified name  
// already exists in the VPC  
private static async Task<List<SecurityGroup>> FindSecurityGroups(  
    IAmazonEC2 ec2Client, string groupName, string vpcID)  
{  
    var request = new DescribeSecurityGroupsRequest();  
    request.Filters.Add(new Filter{  
        Name = "group-name",  
        Values = new List<string>() { groupName }  
    });
```

```

if(!string.IsNullOrEmpty(vpcID))
    request.Filters.Add(new Filter{
        Name = "vpc-id",
        Values = new List<string>() { vpcID }
    });

var response = await ec2Client.DescribeSecurityGroupsAsync(request);
return response.SecurityGroups;
}

```

セキュリティグループを作成する

次のスニペットでは、指定された名前のグループが指定された VPC に存在しない場合に、新しいセキュリティグループを作成します。VPC が指定されず、指定された名前のグループが 1 つ以上存在する場合、スニペットは単にグループのリストを返します。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```

//
// Method to create a new security group (either EC2-Classic or EC2-VPC)
// If vpcID is empty, the security group will be for EC2-Classic
private static async Task<List<SecurityGroup>> CreateSecurityGroup(
    IAmazonEC2 ec2Client, string groupName, string vpcID)
{
    // See if one or more security groups with that name
    // already exist in the given VPC. If so, return the list of them.
    var securityGroups = await FindSecurityGroups(ec2Client, groupName, vpcID);
    if (securityGroups.Count > 0)
    {
        Console.WriteLine(
            $"One or more security groups with name {groupName} already exist.\n");
        return securityGroups;
    }

    // If the security group doesn't already exist, create it.
    var createRequest = new CreateSecurityGroupRequest{
        GroupName = groupName
    };
    if(string.IsNullOrEmpty(vpcID))
    {
        createRequest.Description = "My .NET example security group for EC2-Classic";
    }
    else

```

```
{
    createRequest.VpcId = vpcID;
    createRequest.Description = "My .NET example security group for EC2-VPC";
}
CreateSecurityGroupResponse createResponse =
    await ec2Client.CreateSecurityGroupAsync(createRequest);

// Return the new security group
DescribeSecurityGroupsResponse describeResponse =
    await ec2Client.DescribeSecurityGroupsAsync(new DescribeSecurityGroupsRequest{
        GroupIds = new List<string>() { createResponse.GroupId }
    });
return describeResponse.SecurityGroups;
}
```

コード全文

このセクションでは、例に関連する参考資料とコードの全文を示します。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [AWSSDK.EC2](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.EC2](#)

クラス [AmazonEC2Client](#)

- 名前空間 [Amazon.EC2.Model](#)

クラス [CreateSecurityGroupRequest](#)

クラス [CreateSecurityGroupResponse](#)

クラス [DescribeSecurityGroupsRequest](#)

クラス [DescribeSecurityGroupsResponse](#)

クラス [Filter](#)

クラス [SecurityGroup](#)

コード

```

using System;
using System.Threading.Tasks;
using System.Collections.Generic;
using Amazon.EC2;
using Amazon.EC2.Model;

namespace EC2CreateSecGroup
{
    // = = = = =
    // Class to create a security group
    class Program
    {
        private const int MaxArgs = 2;

        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Parse the command line and show help if necessary
            var parsedArgs = CommandLine.Parse(args);
            if(parsedArgs.Count == 0)
            {
                PrintHelp();
                return;
            }
            if(parsedArgs.Count > MaxArgs)
                CommandLine.ErrorExit("\nThe number of command-line arguments is incorrect." +
                    "\nRun the command with no arguments to see help.");

            // Get the application arguments from the parsed list
            var groupName = CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-g", "--group-name");
            var vpcID = CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-v", "--vpc-id");
            if(string.IsNullOrEmpty(groupName))
                CommandLine.ErrorExit("\nYou must supply a name for the new group." +
                    "\nRun the command with no arguments to see help.");
            if(!string.IsNullOrEmpty(vpcID) && !vpcID.StartsWith("vpc-"))
                CommandLine.ErrorExit($"Not a valid VPC ID: {vpcID}");

            // groupName has a value and vpcID either has a value or is null (which is fine)
            // Create the new security group and display information about it
            var securityGroups =
                await CreateSecurityGroup(new AmazonEC2Client(), groupName, vpcID);
            Console.WriteLine("Information about the security group(s):");

```

```

        foreach(var group in securityGroups)
        {
            Console.WriteLine($"\\nGroupName: {group.GroupName}");
            Console.WriteLine($"GroupId: {group.GroupId}");
            Console.WriteLine($"Description: {group.Description}");
            Console.WriteLine($"VpcId (if any): {group.VpcId}");
        }
    }

    //
    // Method to create a new security group (either EC2-Classic or EC2-VPC)
    // If vpcID is empty, the security group will be for EC2-Classic
    private static async Task<List<SecurityGroup>> CreateSecurityGroup(
        IAmazonEC2 ec2Client, string groupName, string vpcID)
    {
        // See if one or more security groups with that name
        // already exist in the given VPC. If so, return the list of them.
        var securityGroups = await FindSecurityGroups(ec2Client, groupName, vpcID);
        if (securityGroups.Count > 0)
        {
            Console.WriteLine(
                $"\\nOne or more security groups with name {groupName} already exist.\\n");
            return securityGroups;
        }

        // If the security group doesn't already exists, create it.
        var createRequest = new CreateSecurityGroupRequest{
            GroupName = groupName
        };
        if(string.IsNullOrEmpty(vpcID))
        {
            createRequest.Description = "Security group for .NET code example (no VPC
specified)";
        }
        else
        {
            createRequest.VpcId = vpcID;
            createRequest.Description = "Security group for .NET code example (VPC: " +
vpcID + ")";
        }
        CreateSecurityGroupResponse createResponse =
            await ec2Client.CreateSecurityGroupAsync(createRequest);
    }

```

```

    // Return the new security group
    DescribeSecurityGroupsResponse describeResponse =
        await ec2Client.DescribeSecurityGroupsAsync(new DescribeSecurityGroupsRequest{
            GroupIds = new List<string>() { createResponse.GroupId }
        });
    return describeResponse.SecurityGroups;
}

//
// Method to determine if a security group with the specified name
// already exists in the VPC
private static async Task<List<SecurityGroup>> FindSecurityGroups(
    IAmazonEC2 ec2Client, string groupName, string vpcID)
{
    var request = new DescribeSecurityGroupsRequest();
    request.Filters.Add(new Filter{
        Name = "group-name",
        Values = new List<string>() { groupName }
    });
    if(!string.IsNullOrEmpty(vpcID))
        request.Filters.Add(new Filter{
            Name = "vpc-id",
            Values = new List<string>() { vpcID }
        });

    var response = await ec2Client.DescribeSecurityGroupsAsync(request);
    return response.SecurityGroups;
}

//
// Command-line help
private static void PrintHelp()
{
    Console.WriteLine(
        "\nUsage: EC2CreateSecGroup -g <group-name> [-v <vpc-id>]" +
        "\n  -g, --group-name: The name you would like the new security group to have."
    +
        "\n  -v, --vpc-id: The ID of a VPC to which the new security group will
    belong." +
        "\n      If vpc-id isn't present, the security group will be" +
        "\n      for EC2-Classic (if your AWS account supports this)" +
        "\n      or will use the default VCP for EC2-VPC.");
}

```

```

    }
}

// =====
// Class that represents a command line on the console or terminal.
// (This is the same for all examples. When you have seen it once, you can ignore it.)
static class CommandLine
{
    //
    // Method to parse a command line of the form: "--key value" or "-k value".
    //
    // Parameters:
    // - args: The command-line arguments passed into the application by the system.
    //
    // Returns:
    // A Dictionary with string Keys and Values.
    //
    // If a key is found without a matching value, Dictionary.Value is set to the key
    // (including the dashes).
    // If a value is found without a matching key, Dictionary.Key is set to "--NoKeyN",
    // where "N" represents sequential numbers.
    public static Dictionary<string,string> Parse(string[] args)
    {
        var parsedArgs = new Dictionary<string,string>();
        int i = 0, n = 0;
        while(i < args.Length)
        {
            // If the first argument in this iteration starts with a dash it's an option.
            if(args[i].StartsWith("-"))
            {
                var key = args[i++];
                var value = key;

                // Check to see if there's a value that goes with this option?
                if((i < args.Length) && (!args[i].StartsWith("-"))) value = args[i++];
                parsedArgs.Add(key, value);
            }

            // If the first argument in this iteration doesn't start with a dash, it's a
value
            else

```

```

        {
            parsedArgs.Add("--NoKey" + n.ToString(), args[i++]);
            n++;
        }
    }

    return parsedArgs;
}

//
// Method to get an argument from the parsed command-line arguments
//
// Parameters:
// - parsedArgs: The Dictionary object returned from the Parse() method (shown
above).
// - defaultValue: The default string to return if the specified key isn't in
parsedArgs.
// - keys: An array of keys to look for in parsedArgs.
public static string GetArgument(
    Dictionary<string,string> parsedArgs, string defaultReturn, params string[] keys)
{
    string retval = null;
    foreach(var key in keys)
        if(parsedArgs.TryGetValue(key, out retval)) break;
    return retval ?? defaultReturn;
}

//
// Method to exit the application with an error.
public static void ErrorExit(string msg, int code=1)
{
    Console.WriteLine("\nError");
    Console.WriteLine(msg);
    Environment.Exit(code);
}
}
}
}

```

セキュリティグループの更新

この例では、AWS SDK for .NET を使用してセキュリティグループにルールを追加する方法を示します。特にこの例では、特定の TCP ポートでインバウンドトラフィックを許可するルールを追加し

ます。これは、EC2 インスタンスへのリモート接続などに使用できます。アプリケーションは、既存のセキュリティグループの ID、CIDR 形式の IP アドレス (またはアドレス範囲)、およびオプションで TCP ポート番号を取得します。アプリケーションは次に、指定されたセキュリティグループにインバウンドルールを追加します。

Note

この例を使用するには、CIDR 形式の IP アドレス (またはアドレス範囲) が必要です。お使いのローカルコンピュータの IP アドレスを取得する方法については、このトピックの最後にある追加の考慮事項を参照してください。

以下のセクションでは、この例のスニペットを確認できます。その下には、[この例のコードの全文](#)が示されており、そのままビルドして実行できます。

トピック

- [インバウンドルールの追加](#)
- [コード全文](#)
- [その他の考慮事項](#)

インバウンドルールの追加

次のスニペットでは、セキュリティグループに特定の IP アドレス (または範囲) および TCP ポートのインバウンドルールを追加します。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//  
// Method that adds a TCP ingress rule to a security group  
private static async Task AddIngressRule(  
    IAmazonEC2 eC2Client, string groupID, string ipAddress, int port)  
{  
    // Create an object to hold the request information for the rule.  
    // It uses an IpPermission object to hold the IP information for the rule.  
    var ingressRequest = new AuthorizeSecurityGroupIngressRequest{  
        GroupId = groupID};  
    ingressRequest.IpPermissions.Add(new IpPermission{  
        IpProtocol = "tcp",  
        FromPort = port,  
        ToPort = port,  
    });  
}
```

```
        Ipv4Ranges = new List<IpRange>() { new IpRange { CidrIp = ipAddress } }  
    });  
  
    // Create the inbound rule for the security group  
    AuthorizeSecurityGroupIngressResponse responseIngress =  
        await eC2Client.AuthorizeSecurityGroupIngressAsync(ingressRequest);  
    Console.WriteLine($"\\nNew RDP rule was written in {groupID} for {ipAddress}.");  
    Console.WriteLine($"Result: {responseIngress.HttpStatusCode}");  
}
```

コード全文

このセクションでは、例に関連する参考資料とコードの全文を示します。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [AWSSDK.EC2](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.EC2](#)

クラス [AmazonEC2Client](#)

- 名前空間 [Amazon.EC2.Model](#)

クラス [AuthorizeSecurityGroupIngressRequest](#)

クラス [AuthorizeSecurityGroupIngressResponse](#)

クラス [IpPermission](#)

クラス [IpRange](#)

コード

```
using System;  
using System.Threading.Tasks;  
using System.Collections.Generic;  
using Amazon.EC2;  
using Amazon.EC2.Model;
```

```

namespace EC2AddRuleForRDP
{
    // = = = = =
    // Class to add a rule that allows inbound traffic on TCP a port
    class Program
    {
        private const int DefaultPort = 3389;

        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Parse the command line and show help if necessary
            var parsedArgs = CommandLine.Parse(args);
            if(parsedArgs.Count == 0)
            {
                PrintHelp();
                return;
            }

            // Get the application arguments from the parsed list
            var groupId = CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-g", "--group-id");
            var ipAddress = CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-i", "--ip-address");
            var portStr = CommandLine.GetArgument(parsedArgs, DefaultPort.ToString(), "-p",
            "--port");
            if(string.IsNullOrEmpty(ipAddress))
                CommandLine.ErrorExit("\nYou must supply an IP address in CIDR format.");
            if(string.IsNullOrEmpty(groupId) || !groupId.StartsWith("sg-"))
                CommandLine.ErrorExit("\nThe ID for a security group is missing or
incorrect.");
            if(int.Parse(portStr) == 0)
                CommandLine.ErrorExit($"The given TCP port number, {portStr}, isn't
allowed.");

            // Add a rule to the given security group that allows
            // inbound traffic on a TCP port
            await AddIngressRule(
                new AmazonEC2Client(), groupId, ipAddress, int.Parse(portStr));
        }

        //
        // Method that adds a TCP ingress rule to a security group
        private static async Task AddIngressRule(

```

```

    IAmazonEC2 eC2Client, string groupID, string ipAddress, int port)
{
    // Create an object to hold the request information for the rule.
    // It uses an IpPermission object to hold the IP information for the rule.
    var ingressRequest = new AuthorizeSecurityGroupIngressRequest{
        GroupId = groupID};
    ingressRequest.IpPermissions.Add(new IpPermission{
        IpProtocol = "tcp",
        FromPort = port,
        ToPort = port,
        Ipv4Ranges = new List<IpRange>() { new IpRange { CidrIp = ipAddress } }
    });

    // Create the inbound rule for the security group
    AuthorizeSecurityGroupIngressResponse responseIngress =
        await eC2Client.AuthorizeSecurityGroupIngressAsync(ingressRequest);
    Console.WriteLine($"New RDP rule was written in {groupID} for {ipAddress}.");
    Console.WriteLine($"Result: {responseIngress.HttpStatusCode}");
}

//
// Command-line help
private static void PrintHelp()
{
    Console.WriteLine(
        "\nUsage: EC2AddRuleForRDP -g <group-id> -i <ip-address> [-p <port>]" +
        "\n -g, --group-id: The ID of the security group to which you want to add the
inbound rule." +
        "\n -i, --ip-address: An IP address or address range in CIDR format." +
        "\n -p, --port: The TCP port number. Defaults to 3389.");
}

// =====
//
// Class that represents a command line on the console or terminal.
// (This is the same for all examples. When you have seen it once, you can ignore
it.)
static class CommandLine
{
    //
    // Method to parse a command line of the form: "--key value" or "-k value".

```

```

//
// Parameters:
// - args: The command-line arguments passed into the application by the system.
//
// Returns:
// A Dictionary with string Keys and Values.
//
// If a key is found without a matching value, Dictionary.Value is set to the key
// (including the dashes).
// If a value is found without a matching key, Dictionary.Key is set to "--NoKeyN",
// where "N" represents sequential numbers.
public static Dictionary<string,string> Parse(string[] args)
{
    var parsedArgs = new Dictionary<string,string>();
    int i = 0, n = 0;
    while(i < args.Length)
    {
        // If the first argument in this iteration starts with a dash it's an option.
        if(args[i].StartsWith("-"))
        {
            var key = args[i++];
            var value = key;

            // Check to see if there's a value that goes with this option?
            if((i < args.Length) && (!args[i].StartsWith("-"))) value = args[i++];
            parsedArgs.Add(key, value);
        }

        // If the first argument in this iteration doesn't start with a dash, it's a
value
        else
        {
            parsedArgs.Add("--NoKey" + n.ToString(), args[i++]);
            n++;
        }
    }

    return parsedArgs;
}

//
// Method to get an argument from the parsed command-line arguments
//
// Parameters:

```

```
// - parsedArgs: The Dictionary object returned from the Parse() method (shown
above).
// - defaultValue: The default string to return if the specified key isn't in
parsedArgs.
// - keys: An array of keys to look for in parsedArgs.
public static string GetArgument(
    Dictionary<string,string> parsedArgs, string defaultReturn, params string[] keys)
{
    string retval = null;
    foreach(var key in keys)
        if(parsedArgs.TryGetValue(key, out retval)) break;
    return retval ?? defaultReturn;
}

//
// Method to exit the application with an error.
public static void ErrorExit(string msg, int code=1)
{
    Console.WriteLine("\nError");
    Console.WriteLine(msg);
    Environment.Exit(code);
}
}

}
```

その他の考慮事項

- ポート番号を指定しない場合、アプリケーションはデフォルトでポート 3389 を使用します。これは Windows RDP 用のポートで、Windows が動作している EC2 インスタンスに接続できるようになります。Linux が動作している EC2 インスタンスを起動する場合は、代わりに TCP ポート 22 (SSH) を使用できます。
- 例では `IpProtocol` が「tcp」にセットされている点に注目してください。`IpProtocol` の値は、[IpPermission](#) クラスの `IpProtocol` プロパティに記述されています。
- この例を使用する際に、お使いのローカルコンピュータの IP アドレスを確認する必要があるかもしれません。アドレスを取得する方法を以下にいくつか示します。
 - EC2 インスタンスに接続するローカルコンピュータが静的パブリック IP アドレスを持っている場合は、サービスを使用してそのアドレスを取得できます。サービスの一例としては <http://>

checkip.amazonaws.com/ があります。インバウンドトラフィックの承認の詳細については、「[Amazon EC2 ユーザーガイド](#)」の「[セキュリティグループにルールを追加する](#)」と「[さまざまなユースケースのセキュリティグループルール](#)」を参照してください。

- ローカルコンピュータの IP アドレスを取得する別の方法として、[Amazon EC2 コンソール](#)を使用できます。

いずれかのセキュリティグループを選択し、[Inbound rules] (インバウンドルール) タブをクリックして [Edit inbound rules] (インバウンドのルールの編集) を選択します。インバウンドルールで [Source] (送信元) 列にあるドロップダウンメニューを開き、[My IP] (マイ IP) を選択して、ローカルコンピュータの IP アドレスを CIDR 形式で表示します。必ず操作を [Cancel] (キャンセル) するようにしてください。

- [Amazon EC2 コンソール](#)でセキュリティグループのリストを確認することにより、この例の結果を検証できます。

Amazon EC2 のキーペアの使用

Amazon EC2 は公開キー暗号化を使用し、ログイン情報の暗号化と復号を行います。パブリックキー暗号ではパブリックキーを使用してデータを暗号化し、受信者はプライベートキーを使用してデータを復号します。パブリックキーとプライベートキーは、キーペアと呼ばれます。EC2 インスタンスにログインする場合、インスタンスの起動時にキーペアを指定し、接続時にキーペアのプライベートキーを指定する必要があります。

EC2 インスタンスを起動する際、キーペアを作成することもできますし、他のインスタンスの起動時に既に使用済みのキーペアを使用することもできます。Amazon EC2 キーペアについては、「[Amazon EC2 ユーザーガイド](#)」の「[Amazon EC2 キーペアの操作](#)」を参照してください。

API の詳細と前提条件については、親セクション ([Amazon EC2 の使用](#)) を参照してください。

トピック

- [キーペアの作成と表示](#)
- [キーペアの削除](#)

キーペアの作成と表示

この例では、AWS SDK for .NET を使用してキーペアを作成する方法を示します。アプリケーションは、新しいキーペア名と PEM ファイル名 (拡張子は「.pem」) を受け取ります。そしてキーペア

を作成し、プライベートキーを PEM ファイルに書き込み、使用可能なすべてのキーペアを表示します。コマンドライン引数を指定しない場合、アプリケーションは単に使用可能なすべてのキーペアを表示します。

以下のセクションでは、この例のスニペットを確認できます。その下には、[この例のコードの全文](#)が示されており、そのままビルドして実行できます。

トピック

- [キーペアを作成する](#)
- [使用可能なキーペアの表示](#)
- [コード全文](#)
- [その他の考慮事項](#)

キーペアを作成する

次のスニペットではキーペアが作成され、指定された PEM ファイルにプライベートキーが保存されます。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//
// Method to create a key pair and save the key material in a PEM file
private static async Task CreateKeyPair(
    IAmazonEC2 ec2Client, string keyPairName, string pemFileName)
{
    // Create the key pair
    CreateKeyPairResponse response =
        await ec2Client.CreateKeyPairAsync(new CreateKeyPairRequest{
            KeyName = keyPairName
        });
    Console.WriteLine($"Created new key pair: {response.KeyPair.KeyName}");

    // Save the private key in a PEM file
    using (var s = new FileStream(pemFileName, FileMode.Create))
    using (var writer = new StreamWriter(s))
    {
        writer.WriteLine(response.KeyPair.KeyMaterial);
    }
}
```


使用可能なキーペアの表示

次のスニペットでは、利用可能なキーペアのリストが表示されます。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//  
// Method to show the key pairs that are available  
private static async Task EnumerateKeyPairs(IAmazonEC2 ec2Client)  
{  
    DescribeKeyPairsResponse response = await ec2Client.DescribeKeyPairsAsync();  
    Console.WriteLine("Available key pairs:");  
    foreach (KeyValuePair item in response.KeyPairs)  
        Console.WriteLine($" {item.KeyName}");  
}
```

コード全文

このセクションでは、例に関連する参考資料とコードの全文を示します。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [AWSSDK.EC2](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.EC2](#)

クラス [AmazonEC2Client](#)

- 名前空間 [Amazon.EC2.Model](#)

クラス [CreateKeyPairRequest](#)

クラス [CreateKeyPairResponse](#)

クラス [DescribeKeyPairsResponse](#)

クラス [KeyPairInfo](#)

コード

```

using System;
using System.Threading.Tasks;
using System.IO;
using Amazon.EC2;
using Amazon.EC2.Model;
using System.Collections.Generic;

namespace EC2CreateKeyPair
{
    // = = = = =
    // Class to create and store a key pair
    class Program
    {
        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Create the EC2 client
            var ec2Client = new AmazonEC2Client();

            // Parse the command line and show help if necessary
            var parsedArgs = CommandLine.Parse(args);
            if(parsedArgs.Count == 0)
            {
                // In the case of no command-line arguments,
                // just show help and the existing key pairs
                PrintHelp();
                Console.WriteLine("\nNo arguments specified.");
                Console.Write(
                    "Do you want to see a list of the existing key pairs? ((y) or n): ");
                string response = Console.ReadLine();
                if((string.IsNullOrEmpty(response)) || (response.ToLower() == "y"))
                    await EnumerateKeyPairs(ec2Client);
                return;
            }

            // Get the application arguments from the parsed list
            string keyPairName =
                CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-k", "--keypair-name");
            string pemFileName =
                CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-p", "--pem-filename");
            if(string.IsNullOrEmpty(keyPairName))
                CommandLine.ErrorExit("\nNo key pair name specified." +

```

```

        "\nRun the command with no arguments to see help.");
    if(string.IsNullOrEmpty(pemFileName) || !pemFileName.EndsWith(".pem"))
        CommandLine.ErrorExit("\nThe PEM filename is missing or incorrect." +
            "\nRun the command with no arguments to see help.");

    // Create the key pair
    await CreateKeyPair(ec2Client, keyPairName, pemFileName);
    await EnumerateKeyPairs(ec2Client);
}

//
// Method to create a key pair and save the key material in a PEM file
private static async Task CreateKeyPair(
    IAmazonEC2 ec2Client, string keyPairName, string pemFileName)
{
    // Create the key pair
    CreateKeyPairResponse response =
        await ec2Client.CreateKeyPairAsync(new CreateKeyPairRequest{
            KeyName = keyPairName
        });
    Console.WriteLine($"Created new key pair: {response.KeyPair.KeyName}");

    // Save the private key in a PEM file
    using (var s = new FileStream(pemFileName, FileMode.Create))
    using (var writer = new StreamWriter(s))
    {
        writer.WriteLine(response.KeyPair.KeyMaterial);
    }
}

//
// Method to show the key pairs that are available
private static async Task EnumerateKeyPairs(IAmazonEC2 ec2Client)
{
    DescribeKeyPairsResponse response = await ec2Client.DescribeKeyPairsAsync();
    Console.WriteLine("Available key pairs:");
    foreach (KeyValuePair item in response.KeyPairs)
        Console.WriteLine($" {item.KeyName}");
}

//

```

```

// Command-line help
private static void PrintHelp()
{
    Console.WriteLine(
        "\nUsage: EC2CreateKeyPair -k <keypair-name> -p <pem-filename>" +
        "\n  -k, --keypair-name: The name you want to assign to the key pair." +
        "\n  -p, --pem-filename: The name of the PEM file to create, with a \".pem\"
extension.");
}
}

// = = = = =
// Class that represents a command line on the console or terminal.
// (This is the same for all examples. When you have seen it once, you can ignore
it.)
static class CommandLine
{
    //
    // Method to parse a command line of the form: "--key value" or "-k value".
    //
    // Parameters:
    // - args: The command-line arguments passed into the application by the system.
    //
    // Returns:
    // A Dictionary with string Keys and Values.
    //
    // If a key is found without a matching value, Dictionary.Value is set to the key
    // (including the dashes).
    // If a value is found without a matching key, Dictionary.Key is set to "--NoKeyN",
    // where "N" represents sequential numbers.
    public static Dictionary<string,string> Parse(string[] args)
    {
        var parsedArgs = new Dictionary<string,string>();
        int i = 0, n = 0;
        while(i < args.Length)
        {
            // If the first argument in this iteration starts with a dash it's an option.
            if(args[i].StartsWith("-"))
            {
                var key = args[i++];
                var value = key;
            }
        }
    }
}

```

```

        // Check to see if there's a value that goes with this option?
        if((i < args.Length) && (!args[i].StartsWith("-"))) value = args[i++];
        parsedArgs.Add(key, value);
    }

    // If the first argument in this iteration doesn't start with a dash, it's a
value
    else
    {
        parsedArgs.Add("--NoKey" + n.ToString(), args[i++]);
        n++;
    }
}

return parsedArgs;
}

//
// Method to get an argument from the parsed command-line arguments
//
// Parameters:
// - parsedArgs: The Dictionary object returned from the Parse() method (shown
above).
// - defaultValue: The default string to return if the specified key isn't in
parsedArgs.
// - keys: An array of keys to look for in parsedArgs.
public static string GetArgument(
    Dictionary<string,string> parsedArgs, string defaultReturn, params string[] keys)
{
    string retval = null;
    foreach(var key in keys)
        if(parsedArgs.TryGetValue(key, out retval)) break;
    return retval ?? defaultReturn;
}

//
// Method to exit the application with an error.
public static void ErrorExit(string msg, int code=1)
{
    Console.WriteLine("\nError");
    Console.WriteLine(msg);
    Environment.Exit(code);
}
}

```

```
}
```

その他の考慮事項

- この例を実行した後、[Amazon EC2 コンソール](#)で新しいキーペアを確認できます。
- キーペアの作成時に、返されたプライベートキーを必ず保存する必要があります。後でプライベートキーを取得することはできないためです。

キーペアの削除

この例では、AWS SDK for .NET を使用してキーペアを削除する方法を示します。アプリケーションはキーペア名を受け取ります。そのキーペアが削除された後に、使用可能なすべてのキーペアが表示されます。コマンドライン引数を指定しない場合、アプリケーションは単に使用可能なすべてのキーペアを表示します。

以下のセクションでは、この例のスニペットを確認できます。その下には、[この例のコードの全文](#)が表示されており、そのままビルドして実行できます。

トピック

- [キーペアの削除](#)
- [使用可能なキーペアの表示](#)
- [コード全文](#)

キーペアの削除

次のスニペットでは、キーペアが削除されます。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//  
// Method to delete a key pair  
private static async Task DeleteKeyPair(IAmazonEC2 ec2Client, string keyName)  
{  
    await ec2Client.DeleteKeyPairAsync(new DeleteKeyPairRequest{  
        KeyName = keyName});  
    Console.WriteLine($"\\nKey pair {keyName} has been deleted (if it existed).");  
}
```

使用可能なキーペアの表示

次のスニペットでは、利用可能なキーペアのリストが表示されます。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//  
// Method to show the key pairs that are available  
private static async Task EnumerateKeyPairs(IAmazonEC2 ec2Client)  
{  
    DescribeKeyPairsResponse response = await ec2Client.DescribeKeyPairsAsync();  
    Console.WriteLine("Available key pairs:");  
    foreach (KeyValuePair item in response.KeyPairs)  
        Console.WriteLine($" {item.KeyName}");  
}
```

コード全文

このセクションでは、例に関連する参考資料とコードの全文を示します。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [AWSSDK.EC2](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.EC2](#)
 - クラス [AmazonEC2Client](#)
- 名前空間 [Amazon.EC2.Model](#)
 - クラス [DeleteKeyPairRequest](#)
 - クラス [DescribeKeyPairsResponse](#)
 - クラス [KeyValuePair](#)

コード

```
using System;
```

```
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.EC2;
using Amazon.EC2.Model;

namespace EC2DeleteKeyPair
{
    class Program
    {
        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Create the EC2 client
            var ec2Client = new AmazonEC2Client();

            if(args.Length == 1)
            {
                // Delete a key pair (if it exists)
                await DeleteKeyPair(ec2Client, args[0]);

                // Display the key pairs that are left
                await EnumerateKeyPairs(ec2Client);
            }
            else
            {
                Console.WriteLine("\nUsage: EC2DeleteKeyPair keypair-name");
                Console.WriteLine("  keypair-name - The name of the key pair you want to
delete.");
                Console.WriteLine("\nNo arguments specified.");
                Console.Write(
                    "Do you want to see a list of the existing key pairs? ((y) or n): ");
                string response = Console.ReadLine();
                if((string.IsNullOrEmpty(response)) || (response.ToLower() == "y"))
                    await EnumerateKeyPairs(ec2Client);
            }
        }

        //
        // Method to delete a key pair
        private static async Task DeleteKeyPair(IAmazonEC2 ec2Client, string keyName)
        {
            await ec2Client.DeleteKeyPairAsync(new DeleteKeyPairRequest{
                KeyName = keyName});
            Console.WriteLine($"Key pair {keyName} has been deleted (if it existed).");
        }
    }
}
```



```
//  
// Method to show the key pairs that are available  
private static async Task EnumerateKeyPairs(IAmazonEC2 ec2Client)  
{  
    DescribeKeyPairsResponse response = await ec2Client.DescribeKeyPairsAsync();  
    Console.WriteLine("Available key pairs:");  
    foreach (KeyValuePair item in response.KeyPairs)  
        Console.WriteLine($" {item.KeyName}");  
}  
}  
}
```

Amazon EC2 のリージョンとアベイラビリティーゾーンの確認

Amazon EC2 は、世界中の複数のロケーションでホスティングされています。これらの場所は、リージョンとアベイラビリティーゾーンで構成されています。それぞれのリージョンは地理別に区別された地域であり、アベイラビリティーゾーンと呼ばれる複数の独立したロケーションを持っています。

リージョンとアベイラビリティーゾーンの詳細については、「[Amazon EC2 ユーザーガイド](#)」の「[リージョンとゾーン](#)」を参照してください。

この例では、を使用して EC2 クライアントに関連するリージョンとアベイラビリティーゾーンの詳細 AWS SDK for .NET を取得する方法を示します。アプリケーションは、EC2 クライアントで使用する可能なリージョンとアベイラビリティーゾーンのリストを表示します。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [AWSSDK.EC2](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.EC2](#)

クラス [AmazonEC2Client](#)

- 名前空間 [Amazon.EC2.Model](#)

クラス [DescribeAvailabilityZonesResponse](#)

クラス [DescribeRegionsResponse](#)

クラス [AvailabilityZone](#)

クラス [Region](#)

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.EC2;
using Amazon.EC2.Model;

namespace EC2RegionsAndZones
{
    class Program
    {
        static async Task Main(string[] args)
        {
            Console.WriteLine(
                "Finding the Regions and Availability Zones available to an EC2 client...");

            // Create the EC2 client
            var ec2Client = new AmazonEC2Client();

            // Display the Regions and Availability Zones
            await DescribeRegions(ec2Client);
            await DescribeAvailabilityZones(ec2Client);
        }

        //
        // Method to display Regions
        private static async Task DescribeRegions(IAmazonEC2 ec2Client)
        {
            Console.WriteLine("\nRegions that are enabled for the EC2 client:");
            DescribeRegionsResponse response = await ec2Client.DescribeRegionsAsync();
            foreach (Region region in response.Regions)
                Console.WriteLine(region.RegionName);
        }

        //
        // Method to display Availability Zones
```

```
private static async Task DescribeAvailabilityZones(IAmazonEC2 ec2Client)
{
    Console.WriteLine("\nAvailability Zones for the EC2 client's region:");
    DescribeAvailabilityZonesResponse response =
        await ec2Client.DescribeAvailabilityZonesAsync();
    foreach (AvailabilityZone az in response.AvailabilityZones)
        Console.WriteLine(az.ZoneName);
}
}
```

Amazon EC2 インスタンスの使用

を使用して AWS SDK for .NET、作成、開始、終了などのオペレーションで Amazon EC2 インスタンスを制御できます。このセクションのトピックでは、その方法についての例をいくつか示します。EC2 インスタンスの詳細については、「[Amazon EC2 ユーザーガイド](#)」の「[Amazon EC2 インスタンス](#)」を参照してください。

API の詳細と前提条件については、親セクション ([Amazon EC2 の使用](#)) を参照してください。

トピック

- [Amazon EC2 インスタンスの起動](#)
- [Amazon EC2 インスタンスの終了](#)

Amazon EC2 インスタンスの起動

この例では、を使用して AWS SDK for .NET、同じ Amazon マシンイメージ (AMI) から 1 つ以上の同一の設定の Amazon EC2 インスタンスを起動する方法を示します。アプリケーションは指定された[複数の入力](#)を使用して EC2 インスタンスを起動し、インスタンスが「Pending」状態でなくなるまでインスタンスを監視します。

EC2 インスタンスが実行中の場合、「[\(オプション\) インスタンスへの接続](#)」の説明に従ってインスタンスにリモートで接続できます。

Warning

EC2-Classic は 2022 年 8 月 15 日に廃止されました。EC2-Classic は、VPC への移行をお勧めします。詳細については、ブログ記事「[EC2-Classic Networking is Retiring - Here's How to Prepare](#)」を参照してください。

以下のセクションでは、この例のスニペットとその他の情報を確認できます。スニペットの下には、[この例のコードの全文](#)が示されており、そのままビルドして実行できます。

トピック

- [必要な要素を集める](#)
- [インスタンスの起動](#)
- [インスタンスのモニタリング](#)
- [コード全文](#)
- [その他の考慮事項](#)
- [\(オプション\) インスタンスへの接続](#)
- [クリーンアップ](#)

必要な要素を集める

EC2 インスタンスを起動するには、いくつかの要素が必要です。

- インスタンスを起動する場所である [VPC](#)。Windows インスタンスに RDP 経由で接続する場合、VPC にはインターネットゲートウェイが添付され、そのルートテーブル内にインターネットゲートウェイへのエントリを持つ必要があるのが普通です。詳細については、Amazon VPC ユーザーガイドの「[インターネットゲートウェイ](#)」を参照してください。
- インスタンスを起動する VPC 内の既存サブネットの ID。これを簡単に検索または作成するには、[Amazon VPC コンソール](#)にサインインします。または、[CreateSubnetAsync](#)および[DescribeSubnetsAsync](#)メソッドを使用してプログラムで取得することもできます。

Note

このパラメータを指定しなかった場合、アカウントのデフォルト VPC で新しいインスタンスが起動されます。

- インスタンスを起動する VPC に属する既存のセキュリティグループの ID。詳細については、「[Amazon EC2 でのセキュリティグループの使用](#)」を参照してください。
- 新しいインスタンスに接続する場合は、前述のセキュリティグループにポート 22 で SSH トラフィックを許可する (Linux インスタンス) か、またはポート 3389 で RDP トラフィックを許可す

る (Windows インスタンス) 適切なインバウンドルールが設定されている必要があります。設定の方法については、「[セキュリティグループの更新](#)」を参照してください (トピックの最後近くにある「[その他の考慮事項](#)」を含む)。

- インスタンスの作成に使用する Amazon マシンイメージ (AMI)。AMI の詳細については、「[Amazon EC2 ユーザーガイド](#)」の「[Amazon マシンイメージ \(AMI\)](#)」を参照してください。特に、「[AMI の検索](#)」と「[共有 AMI](#)」を参照してください。
- 既存の EC2 キーペア名。これは新しいインスタンスへの接続に使用されます。詳細については、「[Amazon EC2 のキーペアの使用](#)」を参照してください。
- 前述の EC2 キーペアのプライベートキーを含む PEM ファイルの名前。PEM ファイルは、インスタンスに[リモートで接続する](#)場合に使用されます。

インスタンスの起動

次のスニペットでは、EC2 インスタンスが起動します。

[このトピックの最後付近](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//  
// Method to launch the instances  
// Returns a list with the launched instance IDs  
private static async Task<List<string>> LaunchInstances(  
    IAmazonEC2 ec2Client, RunInstancesRequest requestLaunch)  
{  
    var instanceIds = new List<string>();  
    RunInstancesResponse responseLaunch =  
        await ec2Client.RunInstancesAsync(requestLaunch);  
  
    Console.WriteLine("\nNew instances have been created.");  
    foreach (Instance item in responseLaunch.Reservation.Instances)  
    {  
        instanceIds.Add(item.InstanceId);  
        Console.WriteLine($"  New instance: {item.InstanceId}");  
    }  
  
    return instanceIds;  
}
```

インスタンスのモニタリング

次のスニペットでは、インスタンスが「Pending」状態でなくなるまでインスタンスを監視します。

[このトピックの最後あたり](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

Instance.State.Code プロパティの有効な値については、[InstanceState](#) クラスを参照してください。

```
//
// Method to wait until the instances are running (or at least not pending)
private static async Task CheckState(IAmazonEC2 ec2Client, List<string>
instanceIds)
{
    Console.WriteLine(
        "\nWaiting for the instances to start." +
        "\nPress any key to stop waiting. (Response might be slightly delayed.)");

    int numberRunning;
    DescribeInstancesResponse responseDescribe;
    var requestDescribe = new DescribeInstancesRequest{
        InstanceIds = instanceIds};

    // Check every couple of seconds
    int wait = 2000;
    while(true)
    {
        // Get and check the status for each of the instances to see if it's past
        pending.
        // Once all instances are past pending, break out.
        // (For this example, we are assuming that there is only one reservation.)
        Console.Write(".");
        numberRunning = 0;
        responseDescribe = await ec2Client.DescribeInstancesAsync(requestDescribe);
        foreach(Instance i in responseDescribe.Reservations[0].Instances)
        {
            // Check the lower byte of State.Code property
            // Code == 0 is the pending state
            if((i.State.Code & 255) > 0) numberRunning++;
        }
        if(numberRunning == responseDescribe.Reservations[0].Instances.Count)
            break;

        // Wait a bit and try again (unless the user wants to stop waiting)
```

```
        Thread.Sleep(wait);
        if(Console.KeyAvailable)
            break;
    }

    Console.WriteLine("\nNo more instances are pending.");
    foreach (Instance i in responseDescribe.Reservations[0].Instances)
    {
        Console.WriteLine($"For {i.InstanceId}:");
        Console.WriteLine($"  VPC ID: {i.VpcId}");
        Console.WriteLine($"  Instance state: {i.State.Name}");
        Console.WriteLine($"  Public IP address: {i.PublicIpAddress}");
        Console.WriteLine($"  Public DNS name: {i.PublicDnsName}");
        Console.WriteLine($"  Key pair name: {i.KeyName}");
    }
}
```

コード全文

このセクションでは、例に関連する参考資料とコードの全文を示します。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [AWSSDK.EC2](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.EC2](#)

クラス [AmazonEC2Client](#)

クラス [InstanceType](#)

- 名前空間 [Amazon.EC2.Model](#)

クラス [DescribeInstancesRequest](#)

クラス [DescribeInstancesResponse](#)

クラス [Instance](#)

クラス [InstanceNetworkInterfaceSpecification](#)

クラス [RunInstancesRequest](#)

クラス [RunInstancesResponse](#)

コード

```
using System;
using System.Threading;
using System.Threading.Tasks;
using System.Collections.Generic;
using Amazon.EC2;
using Amazon.EC2.Model;

namespace EC2LaunchInstance
{
    // = = = = =
    // Class to launch an EC2 instance
    class Program
    {
        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Parse the command line and show help if necessary
            var parsedArgs = CommandLine.Parse(args);
            if(parsedArgs.Count == 0)
            {
                PrintHelp();
                return;
            }

            // Get the application arguments from the parsed list
            string groupID =
                CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-g", "--group-id");
            string ami =
                CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-a", "--ami-id");
            string keyPairName =
                CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-k", "--keypair-name");
            string subnetID =
                CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-s", "--subnet-id");
            if( (string.IsNullOrEmpty(groupID) || !groupID.StartsWith("sg-"))
                || (string.IsNullOrEmpty(ami) || !ami.StartsWith("ami-"))
                || (string.IsNullOrEmpty(keyPairName))
            )
            {
                PrintHelp();
                return;
            }

            // Launch the EC2 instance
            var request = new RunInstancesRequest
            {
                GroupId = groupID,
                ImageId = ami,
                KeyPairName = keyPairName,
                SubnetId = subnetID,
                MinCount = 1,
                MaxCount = 1,
            };

            var client = new AmazonEC2Client();
            var response = await client.RunInstancesAsync(request);
        }
    }
}
```



```

        || (!string.IsNullOrEmpty(subnetID) && !subnetID.StartsWith("subnet-")))
        CommandLine.ErrorExit(
            "\nOne or more of the required arguments is missing or incorrect." +
            "\nRun the command with no arguments to see help.");

// Create an EC2 client
var ec2Client = new AmazonEC2Client();

// Create an object with the necessary properties
RunInstancesRequest request = GetRequestData(groupID, ami, keyPairName,
subnetID);

// Launch the instances and wait for them to start running
var instanceIds = await LaunchInstances(ec2Client, request);
await CheckState(ec2Client, instanceIds);
}

//
// Method to put together the properties needed to launch the instance.
private static RunInstancesRequest GetRequestData(
    string groupID, string ami, string keyPairName, string subnetID)
{
    // Common properties
    var groupIDs = new List<string>() { groupID };
    var request = new RunInstancesRequest()
    {
        // The first three of these would be additional command-line arguments or
similar.
        InstanceType = InstanceType.T1Micro,
        MinCount = 1,
        MaxCount = 1,
        ImageId = ami,
        KeyName = keyPairName
    };

    // Properties specifically for EC2 in a VPC.
    if(!string.IsNullOrEmpty(subnetID))
    {
        request.NetworkInterfaces =
            new List<InstanceNetworkInterfaceSpecification>() {
                new InstanceNetworkInterfaceSpecification() {
                    DeviceIndex = 0,
                    SubnetId = subnetID,

```

```

        Groups = groupIDs,
        AssociatePublicIpAddress = true
    }
};
}

// Properties specifically for EC2-Classic
else
{
    request.SecurityGroupIds = groupIDs;
}
return request;
}

//
// Method to launch the instances
// Returns a list with the launched instance IDs
private static async Task<List<string>> LaunchInstances(
    IAmazonEC2 ec2Client, RunInstancesRequest requestLaunch)
{
    var instanceIds = new List<string>();
    RunInstancesResponse responseLaunch =
        await ec2Client.RunInstancesAsync(requestLaunch);

    Console.WriteLine("\nNew instances have been created.");
    foreach (Instance item in responseLaunch.Reservation.Instances)
    {
        instanceIds.Add(item.InstanceId);
        Console.WriteLine($"  New instance: {item.InstanceId}");
    }

    return instanceIds;
}

//
// Method to wait until the instances are running (or at least not pending)
private static async Task CheckState(IAmazonEC2 ec2Client, List<string>
instanceIds)
{
    Console.WriteLine(
        "\nWaiting for the instances to start." +
        "\nPress any key to stop waiting. (Response might be slightly delayed.)");
}

```

```
int numberRunning;
DescribeInstancesResponse responseDescribe;
var requestDescribe = new DescribeInstancesRequest{
    InstanceIds = instanceIds};

// Check every couple of seconds
int wait = 2000;
while(true)
{
    // Get and check the status for each of the instances to see if it's past
    pending.
    // Once all instances are past pending, break out.
    // (For this example, we are assuming that there is only one reservation.)
    Console.WriteLine(".");
    numberRunning = 0;
    responseDescribe = await ec2Client.DescribeInstancesAsync(requestDescribe);
    foreach(Instance i in responseDescribe.Reservations[0].Instances)
    {
        // Check the lower byte of State.Code property
        // Code == 0 is the pending state
        if((i.State.Code & 255) > 0) numberRunning++;
    }
    if(numberRunning == responseDescribe.Reservations[0].Instances.Count)
        break;

    // Wait a bit and try again (unless the user wants to stop waiting)
    Thread.Sleep(wait);
    if(Console.KeyAvailable)
        break;
}

Console.WriteLine("\nNo more instances are pending.");
foreach(Instance i in responseDescribe.Reservations[0].Instances)
{
    Console.WriteLine($"For {i.InstanceId}:");
    Console.WriteLine($"  VPC ID: {i.VpcId}");
    Console.WriteLine($"  Instance state: {i.State.Name}");
    Console.WriteLine($"  Public IP address: {i.PublicIpAddress}");
    Console.WriteLine($"  Public DNS name: {i.PublicDnsName}");
    Console.WriteLine($"  Key pair name: {i.KeyName}");
}
}
```

```

//
// Command-line help
private static void PrintHelp()
{
    Console.WriteLine(
        "\nUsage: EC2LaunchInstance -g <group-id> -a <ami-id> -k <keypair-name> [-s
<subnet-id>]" +
        "\n  -g, --group-id: The ID of the security group." +
        "\n  -a, --ami-id: The ID of an Amazon Machine Image." +
        "\n  -k, --keypair-name - The name of a key pair." +
        "\n  -s, --subnet-id: The ID of a subnet. Required only for EC2 in a VPC.");
}
}

// = = = = =
// Class that represents a command line on the console or terminal.
// (This is the same for all examples. When you have seen it once, you can ignore
it.)
static class CommandLine
{
    //
    // Method to parse a command line of the form: "--key value" or "-k value".
    //
    // Parameters:
    // - args: The command-line arguments passed into the application by the system.
    //
    // Returns:
    // A Dictionary with string Keys and Values.
    //
    // If a key is found without a matching value, Dictionary.Value is set to the key
    // (including the dashes).
    // If a value is found without a matching key, Dictionary.Key is set to "--NoKeyN",
    // where "N" represents sequential numbers.
    public static Dictionary<string,string> Parse(string[] args)
    {
        var parsedArgs = new Dictionary<string,string>();
        int i = 0, n = 0;
        while(i < args.Length)
        {
            // If the first argument in this iteration starts with a dash it's an option.
            if(args[i].StartsWith("-"))

```

```

        {
            var key = args[i++];
            var value = key;

            // Check to see if there's a value that goes with this option?
            if((i < args.Length) && (!args[i].StartsWith("-"))) value = args[i++];
            parsedArgs.Add(key, value);
        }

        // If the first argument in this iteration doesn't start with a dash, it's a
value
        else
        {
            parsedArgs.Add("--NoKey" + n.ToString(), args[i++]);
            n++;
        }
    }

    return parsedArgs;
}

//
// Method to get an argument from the parsed command-line arguments
//
// Parameters:
// - parsedArgs: The Dictionary object returned from the Parse() method (shown
above).
// - defaultValue: The default string to return if the specified key isn't in
parsedArgs.
// - keys: An array of keys to look for in parsedArgs.
public static string GetArgument(
    Dictionary<string,string> parsedArgs, string defaultReturn, params string[] keys)
{
    string retval = null;
    foreach(var key in keys)
        if(parsedArgs.TryGetValue(key, out retval)) break;
    return retval ?? defaultReturn;
}

//
// Method to exit the application with an error.
public static void ErrorExit(string msg, int code=1)
{
    Console.WriteLine("\nError");
}

```

```
        Console.WriteLine(msg);
        Environment.Exit(code);
    }
}
```

その他の考慮事項

- EC2 インスタンスの状態をチェックするときに、[DescribeInstancesRequest](#) オブジェクトの `Filter` プロパティにフィルターを追加できます。この方法を使用すると、リクエストを特定のインスタンス (ユーザーが指定した特定のタグを持つインスタンスなど) に制限できます。
- 時間短縮のために、いくつかのプロパティには代表的な値が与えられています。これらのプロパティの一部またはすべてを、プログラムまたはユーザー入力で置き換えることができます。
- [RunInstancesRequest](#) オブジェクトの `MinCount` と `MaxCount` プロパティに使用できる値は、ターゲットのアベイラビリティゾーンと、対象のインスタンスタイプに対して許可されているインスタンスの最大数によって決まります。詳細については、「Amazon EC2 よくある質問」の「[Amazon EC2 ではいくつのインスタンスを実行できますか?](#)」を参照してください。
- この例とは異なるインスタンスタイプを使用する場合は、いくつかのインスタンスタイプから選択できます。詳細については、「[Amazon EC2 ユーザーガイド](#)」の「[Amazon EC2 インスタンスタイプ](#)」を参照してください。「[インスタンスタイプの詳細](#)」と「[インスタンスタイプエクスプローラー](#)」も参照してください。
- インスタンスの起動時に、インスタンスに [IAM ロール](#) をアタッチすることもできます。そのためには、`Name` プロパティに IAM ロールの名前が設定された [IamInstanceProfileSpecification](#) オブジェクトを作成します。次に、そのオブジェクトを [RunInstancesRequest](#) オブジェクトの `IamInstanceProfile` プロパティに追加します。

Note

IAM ロールが添付された EC2 インスタンスを起動するには、IAM ユーザーの設定に特定のアクセス許可が含まれている必要があります。必要なアクセス許可の詳細については、

「[Amazon EC2 ユーザーガイド](#)」の「[IAM ロールをインスタンスに渡すアクセス許可をユーザーに付与する](#)」を参照してください。

(オプション) インスタンスへの接続

インスタンスが実行状態になったら、適切なリモートクライアントを使用してインスタンスにリモート接続できます。Linux インスタンスと Windows インスタンスのいずれの場合も、インスタンスのパブリック IP アドレスまたは公開 DNS 名が必要です。また、以下も必要になります。

Linux インスタンスの場合

SSH クライアントを使用して Linux インスタンスに接続できます。「[セキュリティグループの更新](#)」の説明に従って、インスタンスの起動時に使用したセキュリティグループで、ポート 22 での SSH トラフィックが許可されていることを確認します。

また、インスタンスの起動に使用したキーペアのプライベート部分、すなわち PEM ファイルも必要です。

詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「[Linux インスタンスへの接続](#)」を参照してください。

Windows インスタンスの場合

RDP クライアントを使用してお使いのインスタンスに接続できます。「[セキュリティグループの更新](#)」の説明に従って、インスタンスの起動時に使用したセキュリティグループで、ポート 3389 での RDP トラフィックが許可されていることを確認します。

また、管理者パスワードも必要です。取得するには、以下のコード例を使用します。その際、インスタンス ID とインスタンスの起動に使用されたキーペアのプライベート部分、すなわち PEM ファイルが必要です。

詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「[Windows インスタンスに接続する](#)」を参照してください。

Warning

このサンプルコードは、インスタンスの管理者パスワードをプレーンテキストで返します。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [AWSSDK.EC2](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.EC2](#)

クラス [AmazonEC2Client](#)

- 名前空間 [Amazon.EC2.Model](#)

クラス [GetPasswordDataRequest](#)

クラス [GetPasswordDataResponse](#)

コード

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.IO;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.EC2;
using Amazon.EC2.Model;

namespace EC2GetWindowsPassword
{
    // = = = = =
    // Class to get the Administrator password of a Windows EC2 instance
    class Program
    {
        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Parse the command line and show help if necessary
            var parsedArgs = CommandLine.Parse(args);
            if(parsedArgs.Count == 0)
            {
                PrintHelp();
                return;
            }
        }
    }
}
```



```

// Get the application arguments from the parsed list
string instanceID =
    CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-i", "--instance-id");
string pemFileName =
    CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-p", "--pem-filename");
if( (string.IsNullOrEmpty(instanceID) || !instanceID.StartsWith("i-"))
    || (string.IsNullOrEmpty(pemFileName) || !pemFileName.EndsWith(".pem")))
    CommandLine.ErrorExit(
        "\nOne or more of the required arguments is missing or incorrect." +
        "\nRun the command with no arguments to see help.");

// Create the EC2 client
var ec2Client = new AmazonEC2Client();

// Get and display the password
string password = await GetPassword(ec2Client, instanceID, pemFileName);
Console.WriteLine($"Password: {password}");
}

//
// Method to get the administrator password of a Windows EC2 instance
private static async Task<string> GetPassword(
    IAmazonEC2 ec2Client, string instanceID, string pemFilename)
{
    string password = string.Empty;
    GetPasswordDataResponse response =
        await ec2Client.GetPasswordDataAsync(new GetPasswordDataRequest{
            InstanceId = instanceID});
    if(response.PasswordData != null)
    {
        password = response.GetDecryptedPassword(File.ReadAllText(pemFilename));
    }
    else
    {
        Console.WriteLine($"The password is not available for instance
{instanceID}.");
        Console.WriteLine($"If this is a Windows instance, the password might not be
ready.");
    }
    return password;
}

```

```

//
// Command-line help
private static void PrintHelp()
{
    Console.WriteLine(
        "\nUsage: EC2GetWindowsPassword -i <instance-id> -p pem-filename" +
        "\n  -i, --instance-id: The name of the EC2 instance." +
        "\n  -p, --pem-filename: The name of the PEM file with the private key.");
}
}

// = = = = =
// Class that represents a command line on the console or terminal.
// (This is the same for all examples. When you have seen it once, you can ignore it.)
static class CommandLine
{
    //
    // Method to parse a command line of the form: "--key value" or "-k value".
    //
    // Parameters:
    // - args: The command-line arguments passed into the application by the system.
    //
    // Returns:
    // A Dictionary with string Keys and Values.
    //
    // If a key is found without a matching value, Dictionary.Value is set to the key
    // (including the dashes).
    // If a value is found without a matching key, Dictionary.Key is set to "--NoKeyN",
    // where "N" represents sequential numbers.
    public static Dictionary<string,string> Parse(string[] args)
    {
        var parsedArgs = new Dictionary<string,string>();
        int i = 0, n = 0;
        while(i < args.Length)
        {
            // If the first argument in this iteration starts with a dash it's an option.
            if(args[i].StartsWith("-"))
            {
                var key = args[i++];
                var value = key;
            }
        }
    }
}

```

```

        // Check to see if there's a value that goes with this option?
        if((i < args.Length) && (!args[i].StartsWith("-"))) value = args[i++];
        parsedArgs.Add(key, value);
    }

    // If the first argument in this iteration doesn't start with a dash, it's a
value
    else
    {
        parsedArgs.Add("--NoKey" + n.ToString(), args[i++]);
        n++;
    }
}

return parsedArgs;
}

//
// Method to get an argument from the parsed command-line arguments
//
// Parameters:
// - parsedArgs: The Dictionary object returned from the Parse() method (shown
above).
// - defaultValue: The default string to return if the specified key isn't in
parsedArgs.
// - keys: An array of keys to look for in parsedArgs.
public static string GetArgument(
    Dictionary<string,string> parsedArgs, string defaultReturn, params string[] keys)
{
    string retval = null;
    foreach(var key in keys)
        if(parsedArgs.TryGetValue(key, out retval)) break;
    return retval ?? defaultReturn;
}

//
// Method to exit the application with an error.
public static void ErrorExit(string msg, int code=1)
{
    Console.WriteLine("\nError");
    Console.WriteLine(msg);
    Environment.Exit(code);
}
}

```

```
}
```

クリーンアップ

EC2 インスタンスが不要になった場合は、「[Amazon EC2 インスタンスの終了](#)」の説明に従って必ずインスタンスを終了してください。

Amazon EC2 インスタンスの終了

Amazon EC2 インスタンスがなくなったときは、それらを終了できます。

この例では、AWS SDK for .NET を使用して EC2 インスタンスを終了する方法を示します。アプリケーションは入力としてインスタンス ID を受け取ります。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [AWSSDK.EC2](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.EC2](#)

クラス [AmazonEC2Client](#)

- 名前空間 [Amazon.EC2.Model](#)

クラス [TerminateInstancesRequest](#)

クラス [TerminateInstancesResponse](#)

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using System.Collections.Generic;
using Amazon.EC2;
using Amazon.EC2.Model;

namespace EC2TerminateInstance
{
```

```
class Program
{
    static async Task Main(string[] args)
    {
        if((args.Length == 1) && (args[0].StartsWith("i-")))
        {
            // Terminate the instance
            var ec2Client = new AmazonEC2Client();
            await TerminateInstance(ec2Client, args[0]);
        }
        else
        {
            Console.WriteLine("\nCommand-line argument missing or incorrect.");
            Console.WriteLine("\nUsage: EC2TerminateInstance instance-ID");
            Console.WriteLine("  instance-ID - The EC2 instance you want to terminate.");
            return;
        }
    }

    //
    // Method to terminate an EC2 instance
    private static async Task TerminateInstance(IAmazonEC2 ec2Client, string
instanceID)
    {
        var request = new TerminateInstancesRequest{
            InstanceIds = new List<string>() { instanceID }};
        TerminateInstancesResponse response =
            await ec2Client.TerminateInstancesAsync(new TerminateInstancesRequest{
                InstanceIds = new List<string>() { instanceID }
            });
        foreach (InstanceStateChange item in response.TerminatingInstances)
        {
            Console.WriteLine("Terminated instance: " + item.InstanceId);
            Console.WriteLine("Instance state: " + item.CurrentState.Name);
        }
    }
}
}
```

この例を実行した後、[Amazon EC2 コンソール](#)にサインインして [EC2 インスタンス](#)の終了を確認することをお勧めします。

Amazon EC2 スポットインスタンスのチュートリアル

このチュートリアルでは、AWS SDK for .NET を使用して Amazon EC2 スポットインスタンスを管理する方法を示します。

概要:

スポットインスタンスでは、未使用の Amazon EC2 コンピューティング性能をオンデマンド料金よりも低価格でリクエストできます。これにより、中断が可能なアプリケーションの EC2 コストを大幅に削減できます。

スポットインスタンスのリクエスト方法と使用方法の概要は次のとおりです。

1. 支払う上限価格を指定して、スポットインスタンスリクエストを作成します。
2. リクエストが受理されたら、他の Amazon EC2 インスタンスと同様にインスタンスを実行します。
3. スポット料金の変更によってインスタンスが自動的に終了しない限り、必要な期間インスタンスを実行し、終了します。
4. 不要になったスポットインスタンスリクエストをクリーンアップして、スポットインスタンスがそれ以上作成されないようにします。

以上が、スポットインスタンスに関する非常に大まかな概要です。スポットインスタンスの詳細については、「[Amazon EC2 ユーザーガイド](#)」の「[スポットインスタンス](#)」を参照してください。

このチュートリアルの内容

このチュートリアルでは、AWS SDK for .NET を使用して以下を実行します。

- スポットインスタンスリクエストを作成する
- スポットインスタンスリクエストが受理されたかどうかを判断する
- スポットインスタンスリクエストをキャンセルする
- 関連するインスタンスを終了させる

以下のセクションでは、この例のスニペットとその他の情報を確認できます。スニペットの下には、[この例のコードの全文](#)が示されており、そのままビルドして実行できます。

トピック

- [前提条件](#)
- [必要な要素を集める](#)
- [スポットインスタンスリクエストの作成](#)
- [スポットインスタンスリクエストの状態を判断する](#)
- [スポットインスタンスリクエストのクリーンアップ](#)
- [スポットインスタンスのクリーンアップ](#)
- [コード全文](#)
- [その他の考慮事項](#)

前提条件

API の詳細と前提条件については、親セクション ([Amazon EC2 の使用](#)) を参照してください。

必要な要素を集める

スポットインスタンスリクエストを作成するには、いくつかの要素が必要です。

- インスタンスの数とそのインスタンスタイプ。選択できるインスタンスタイプは複数あります。詳細については、「[Amazon EC2 ユーザーガイド](#)」の「[Amazon EC2 インスタンスタイプ](#)」を参照してください。「[インスタンスタイプの詳細](#)」と「[インスタンスタイプエクスプローラー](#)」も参照してください。

このチュートリアルでは、デフォルトの数は 1 です。

- インスタンスの作成に使用する Amazon マシンイメージ (AMI)。AMI の詳細については、「[Amazon EC2 ユーザーガイド](#)」の「[Amazon マシンイメージ \(AMI\)](#)」を参照してください。特に、「[AMI の検索](#)」と「[共有 AMI](#)」を参照してください。
- インスタンス時間あたりに支払う上限価格。すべてのインスタンスタイプ (オンデマンドインスタンスとスポットインスタンスの両方) の料金は、[Amazon EC2 の料金ページ](#)で確認いただけます。このチュートリアルのデフォルト料金については、後で説明します。
- インスタンスにリモートで接続する場合は、適切な構成とリソースを持つセキュリティグループ。この詳細については「[Amazon EC2 でのセキュリティグループの使用](#)」で説明されており、[必要な要素の収集](#)と[インスタンスへの接続](#)に関する情報は「[Amazon EC2 インスタンスの起動](#)」で説

明されています。簡単にするために、このチュートリアルではすべての新しい AWS アカウントに存在する default という名前のセキュリティグループを使用します。

スポットインスタンスをリクエストするには複数の方法があります。一般的な戦略は以下のとおりです。

- オンデマンド料金を明確に下回るようにリクエストを作成します。
- 計算結果の価値に基づいてリクエストを作成します。
- コンピューティング性能をできるだけ早く獲得するようにリクエストを作成します。

以下の説明は、「[Amazon EC2 ユーザーガイド](#)」の「[スポットインスタンスの料金履歴](#)」を示しています。

コストをオンデマンドよりも削減する

実行完了までに何時間も、あるいは何日間もかかるバッチ処理ジョブがあるとしします。ただし、いつ開始していつ終了するかについては、特に決められていないものとしします。このジョブを完了するためのコストを、オンデマンドインスタンスを使用する場合よりも低くできるかどうかを考えます。

Amazon EC2 コンソールまたは Amazon EC2 API を使用して、インスタンスタイプ別のスポット料金の履歴を調べます。使用したいインスタンスタイプの、特定のアベイラビリティーゾーンでの価格履歴を分析した後は、リクエストのアプローチとして次の 2 つも考えられます。

- スポット料金の範囲の上限 (ただしオンデマンド料金よりは下) でリクエストを指定します。こうすることで、この 1 回限りのスポットリクエストが受理されて、ジョブが完了するまで連続して実行される可能性が高くなります。
- 価格範囲の下限でリクエストを指定し、1 つの永続リクエストで次々とインスタンスを起動するよう計画を立てます。これらのインスタンスの実行時間を合計すると、ジョブを完了するのに十分な長さとなり、合計コストも低くなります。

結果の価値以上は支払わない

データ処理ジョブを実行するとしします。このジョブの結果が持つ価値は判明しており、計算コストに換算してどれくらいになるかもわかっています。

使用するインスタンスタイプのスポット料金履歴の分析が完了したら、計算時間のコストがこのジョブの結果の価値を上回ることはないように料金を選択します。永続リクエストを作成し、スポット料金がリクエスト以下となったときに断続的に実行するよう設定します。

コンピューティング性能をすぐに獲得する

追加のコンピューティング性能が突然、短期間だけ必要になり、オンデマンドインスタンスではそのコンピューティング性能を確保できないとします。使用するインスタンスタイプのスポット料金履歴の分析が完了したら、履歴での最高料金を超える料金を選択します。こうすることで、リクエストがすぐに受理され、計算が完了するまで連続して計算できる可能性が飛躍的に高まります。

必要な要素を集めて戦略を選択したら、スポットインスタンスをリクエストする準備ができました。このチュートリアルでは、デフォルトの最大スポットインスタンス料金をオンデマンド料金と同額 (このチュートリアルでは 0.003 ドル) に設定します。このように料金を設定すると、リクエストが達成される可能性が最大になります。

スポットインスタンスリクエストの作成

次のスニペットでは、上記で集めた要素を使用してスポットインスタンスリクエストを作成する方法を示しています。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//  
// Method to create a Spot Instance request  
private static async Task<SpotInstanceRequest> CreateSpotInstanceRequest(  
    IAmazonEC2 ec2Client, string amiId, string securityGroupName,  
    InstanceType instanceType, string spotPrice, int instanceCount)  
{  
    var launchSpecification = new LaunchSpecification{  
        ImageId = amiId,  
        InstanceType = instanceType  
    };  
    launchSpecification.SecurityGroups.Add(securityGroupName);  
    var request = new RequestSpotInstancesRequest{  
        SpotPrice = spotPrice,  
        InstanceCount = instanceCount,  
        LaunchSpecification = launchSpecification  
    };  
  
    RequestSpotInstancesResponse result =  
        await ec2Client.RequestSpotInstancesAsync(request);  
    return result.SpotInstanceRequests[0];  
}
```

このメソッドから返される重要な値は、スポットインスタンスリクエスト ID です。これは返された [SpotInstanceRequest](#) オブジェクトの `SpotInstanceRequestId` メンバーに含まれています。

Note

起動したすべてのスポットインスタンスに対して料金が発生します。不要なコストを回避するには、[リクエストをキャンセル](#)して[インスタンスを削除](#)するようにしてください。

スポットインスタンスリクエストの状態を判断する

次のスニペットでは、スポットインスタンスリクエストに関する情報を取得する方法を示しています。この情報を使用して、スポットインスタンスリクエストが受理されるのを待つかどうかといった特定の決定をコード内で下すことができます。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//  
// Method to get information about a Spot Instance request, including the status,  
// instance ID, etc.  
// It gets the information for a specific request (as opposed to all requests).  
private static async Task<SpotInstanceRequest> GetSpotInstanceRequestInfo(  
    IAmazonEC2 ec2Client, string requestId)  
{  
    var describeRequest = new DescribeSpotInstanceRequestsRequest();  
    describeRequest.SpotInstanceRequestIds.Add(requestId);  
  
    DescribeSpotInstanceRequestsResponse describeResponse =  
        await ec2Client.DescribeSpotInstanceRequestsAsync(describeRequest);  
    return describeResponse.SpotInstanceRequests[0];  
}
```

このメソッドでは、スポットインスタンスリクエストに関する情報 (インスタンス ID、状態、ステータスコードなど) が返されます。スポットインスタンスリクエストのステータスコードの詳細については、「[Amazon EC2 ユーザーガイド](#)」の「[スポットリクエストのステータス](#)」を参照してください。

スポットインスタンスリクエストのクリーンアップ

スポットインスタンスをリクエストする必要がなくなった場合、未処理のリクエストをキャンセルして、リクエストが再び受理されないようにすることが重要です。次のスニペットでは、スポットインスタンスリクエストをキャンセルする方法を示しています。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//
// Method to cancel a Spot Instance request
private static async Task CancelSpotInstanceRequest(
    IAmazonEC2 ec2Client, string requestId)
{
    var cancelRequest = new CancelSpotInstanceRequestsRequest();
    cancelRequest.SpotInstanceRequestIds.Add(requestId);

    await ec2Client.CancelSpotInstanceRequestsAsync(cancelRequest);
}
```

スポットインスタンスのクリーンアップ

不要なコストを回避するには、スポットインスタンスリクエストから起動したインスタンスをすべて終了させることが重要です。単にスポットインスタンスリクエストをキャンセルするだけではインスタンスは終了しないので、引き続きインスタンスに対して料金が発生することになります。次のスニペットでは、アクティブなスポットインスタンスのインスタンス識別子を取得した後にインスタンスを終了する方法を示しています。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//
// Method to terminate a Spot Instance
private static async Task TerminateSpotInstance(
    IAmazonEC2 ec2Client, string requestId)
{
    var describeRequest = new DescribeSpotInstanceRequestsRequest();
    describeRequest.SpotInstanceRequestIds.Add(requestId);

    // Retrieve the Spot Instance request to check for running instances.
    DescribeSpotInstanceRequestsResponse describeResponse =
        await ec2Client.DescribeSpotInstanceRequestsAsync(describeRequest);

    // If there are any running instances, terminate them
    if( (describeResponse.SpotInstanceRequests[0].Status.Code
```

```

        == "request-canceled-and-instance-running")
        || (describeResponse.SpotInstanceRequests[0].State ==
SpotInstanceState.Active))
    {
        TerminateInstancesResponse response =
            await ec2Client.TerminateInstancesAsync(new TerminateInstancesRequest{
                InstanceIds = new List<string>(){
                    describeResponse.SpotInstanceRequests[0].InstanceId } });
        foreach (InstanceStateChange item in response.TerminatingInstances)
        {
            Console.WriteLine($"\\n  Terminated instance: {item.InstanceId}");
            Console.WriteLine($"  Instance state: {item.CurrentState.Name}\\n");
        }
    }
}

```

コード全文

次のコード例では、前述のメソッドを呼び出して、スポットインスタンスリクエストを作成およびキャンセルし、スポットインスタンスを終了しています。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [AWSSDK.EC2](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.EC2](#)

クラス [AmazonEC2Client](#)

クラス [InstanceType](#)

- 名前空間 [Amazon.EC2.Model](#)

クラス [CancelSpotInstanceRequestsRequest](#)

クラス [DescribeSpotInstanceRequestsRequest](#)

クラス [DescribeSpotInstanceRequestsResponse](#)

クラス [InstanceStateChange](#)

クラス [LaunchSpecification](#)

クラス [RequestSpotInstancesRequest](#)

クラス [RequestSpotInstancesResponse](#)

クラス [SpotInstanceRequest](#)

クラス [TerminateInstancesRequest](#)

クラス [TerminateInstancesResponse](#)

コード

```
using System;
using System.Threading;
using System.Threading.Tasks;
using System.Collections.Generic;
using Amazon.EC2;
using Amazon.EC2.Model;

namespace EC2SpotInstanceRequests
{
    class Program
    {
        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Some default values.
            // These could be made into command-line arguments instead.
            var instanceType = InstanceType.T1Micro;
            string securityGroupName = "default";
            string spotPrice = "0.003";
            int instanceCount = 1;

            // Parse the command line arguments
            if((args.Length != 1) || (!args[0].StartsWith("ami-")))
            {
                Console.WriteLine("\nUsage: EC2SpotInstanceRequests ami");
                Console.WriteLine("  ami: the Amazon Machine Image to use for the Spot Instances.");
            }
        }
    }
}
```

```
        return;
    }

    // Create the Amazon EC2 client.
    var ec2Client = new AmazonEC2Client();

    // Create the Spot Instance request and record its ID
    Console.WriteLine("\nCreating spot instance request...");
    var req = await CreateSpotInstanceRequest(
        ec2Client, args[0], securityGroupName, instanceType, spotPrice, instanceCount);
    string requestId = req.SpotInstanceRequestId;

    // Wait for an EC2 Spot Instance to become active
    Console.WriteLine(
        $"Waiting for Spot Instance request with ID {requestId} to become active...");
    int wait = 1;
    var start = DateTime.Now;
    while(true)
    {
        Console.Write(".");

        // Get and check the status to see if the request has been fulfilled.
        var requestInfo = await GetSpotInstanceRequestInfo(ec2Client, requestId);
        if(requestInfo.Status.Code == "fulfilled")
        {
            Console.WriteLine($"Spot Instance request {requestId} " +
                $"has been fulfilled by instance {requestInfo.InstanceId}.\n");
            break;
        }

        // Wait a bit and try again, longer each time (1, 2, 4, ...)
        Thread.Sleep(wait);
        wait = wait * 2;
    }

    // Show the user how long it took to fulfill the Spot Instance request.
    TimeSpan span = DateTime.Now.Subtract(start);
    Console.WriteLine($"That took {span.TotalMilliseconds} milliseconds");

    // Perform actions here as needed.
    // For this example, simply wait for the user to hit a key.
    // That gives them a chance to look at the EC2 console to see
    // the running instance if they want to.
    Console.WriteLine("Press any key to start the cleanup...");
```

```

    Console.ReadKey(true);

    // Cancel the request.
    // Do this first to make sure that the request can't be re-fulfilled
    // once the Spot Instance has been terminated.
    Console.WriteLine("Canceling Spot Instance request...");
    await CancelSpotInstanceRequest(ec2Client, requestId);

    // Terminate the Spot Instance that's running.
    Console.WriteLine("Terminating the running Spot Instance...");
    await TerminateSpotInstance(ec2Client, requestId);

    Console.WriteLine("Done. Press any key to exit...");
    Console.ReadKey(true);
}

//
// Method to create a Spot Instance request
private static async Task<SpotInstanceRequest> CreateSpotInstanceRequest(
    IAmazonEC2 ec2Client, string amiId, string securityGroupName,
    InstanceType instanceType, string spotPrice, int instanceCount)
{
    var launchSpecification = new LaunchSpecification{
        ImageId = amiId,
        InstanceType = instanceType
    };
    launchSpecification.SecurityGroups.Add(securityGroupName);
    var request = new RequestSpotInstancesRequest{
        SpotPrice = spotPrice,
        InstanceCount = instanceCount,
        LaunchSpecification = launchSpecification
    };

    RequestSpotInstancesResponse result =
        await ec2Client.RequestSpotInstancesAsync(request);
    return result.SpotInstanceRequests[0];
}

//
// Method to get information about a Spot Instance request, including the status,
// instance ID, etc.
// It gets the information for a specific request (as opposed to all requests).

```

```

private static async Task<SpotInstanceRequest> GetSpotInstanceRequestInfo(
    IAmazonEC2 ec2Client, string requestId)
{
    var describeRequest = new DescribeSpotInstanceRequestsRequest();
    describeRequest.SpotInstanceRequestIds.Add(requestId);

    DescribeSpotInstanceRequestsResponse describeResponse =
        await ec2Client.DescribeSpotInstanceRequestsAsync(describeRequest);
    return describeResponse.SpotInstanceRequests[0];
}

//
// Method to cancel a Spot Instance request
private static async Task CancelSpotInstanceRequest(
    IAmazonEC2 ec2Client, string requestId)
{
    var cancelRequest = new CancelSpotInstanceRequestsRequest();
    cancelRequest.SpotInstanceRequestIds.Add(requestId);

    await ec2Client.CancelSpotInstanceRequestsAsync(cancelRequest);
}

//
// Method to terminate a Spot Instance
private static async Task TerminateSpotInstance(
    IAmazonEC2 ec2Client, string requestId)
{
    var describeRequest = new DescribeSpotInstanceRequestsRequest();
    describeRequest.SpotInstanceRequestIds.Add(requestId);

    // Retrieve the Spot Instance request to check for running instances.
    DescribeSpotInstanceRequestsResponse describeResponse =
        await ec2Client.DescribeSpotInstanceRequestsAsync(describeRequest);

    // If there are any running instances, terminate them
    if( (describeResponse.SpotInstanceRequests[0].Status.Code
        == "request-canceled-and-instance-running")
        || (describeResponse.SpotInstanceRequests[0].State ==
SpotInstanceState.Active))
    {
        TerminateInstancesResponse response =
            await ec2Client.TerminateInstancesAsync(new TerminateInstancesRequest{

```



```
        InstanceIds = new List<string>(){
            describeResponse.SpotInstanceRequests[0].InstanceId } });
    foreach (InstanceStateChange item in response.TerminatingInstances)
    {
        Console.WriteLine($"\\n  Terminated instance: {item.InstanceId}");
        Console.WriteLine($"  Instance state: {item.CurrentState.Name}\\n");
    }
}
}
}
```

その他の考慮事項

- チュートリアルを実行したら、[Amazon EC2 コンソール](#)にサインインして、[スポットインスタンスリクエスト](#)がキャンセル済みで[スポットインスタンス](#)が終了していることを確認するようお勧めします。

を使用した AWS Identity and Access Management (IAM) へのアクセス AWS SDK for .NET

は AWS SDK for .NET をサポートしています。これは[AWS Identity and Access Management](#)、AWS お客様がユーザーとユーザーのアクセス許可を管理できるようにするウェブサービスです AWS。

AWS Identity and Access Management (IAM) ユーザーは、ユーザーが作成するエンティティです AWS。エンティティは、 がやり取りする人またはアプリケーションを表します AWS。IAM ユーザーの詳細については、IAM ユーザーガイドの「[IAM ユーザー](#)」および「[IAM と STS の制限](#)」を参照してください。

IAM ポリシーを作成することによって、ユーザーにアクセス許可を付与します。ポリシーには、ユーザーが実行できるアクションと、そのアクションによって影響を受けるリソースの一覧が記載されたポリシードキュメントが含まれています。IAM ポリシーの詳細については、IAM ユーザーガイドの「[ポリシーとアクセス許可](#)」を参照してください。

Warning

セキュリティリスクを避けるため、専用ソフトウェアを開発するときや実際のデータを扱うときは、IAM ユーザーを認証に使用しないでください。代わりに、[AWS IAM Identity Center](#) などの ID プロバイダーとのフェデレーションを使用してください。

API

AWS SDK for .NET には、IAM クライアント用の APIs。API を使用すると、ユーザー、ロール、アクセスキーなどの IAM の機能を実行できます。

このセクションでは、これらの API を操作する際に活用できるパターンを示すいくつかの例を紹介します。API の完全なセットを確認するには、[AWS SDK for .NET API リファレンス](#)を参照してください (「Amazon.IdentityManagement」までスクロールします)。

このセクションには、認証情報の管理を容易にするために IAM ロールを Amazon EC2 インスタンスにアタッチする方法を示す[例](#)も含まれています。

IAM API は、[AWSSDK.IdentityManagement](#) NuGet パッケージで提供されます。

前提条件

開始する前に、[環境とプロジェクトがセットアップされている](#)ことを必ず確認してください。また、「[SDK の機能](#)」の情報を確認してください。

トピック

トピック

- [JSON からの IAM マネージドポリシーの作成](#)
- [IAM マネージドポリシーのポリシードキュメントの表示](#)
- [IAM ロールを使用したアクセス権の付与](#)

JSON からの IAM マネージドポリシーの作成

この例では、AWS SDK for .NET を使用して、JSON の特定の[ポリシードキュメントから IAM 管理](#)ポリシーを作成する方法を示します。アプリケーションは IAM クライアントオブジェクトを作成し、ファイルからポリシードキュメントを読み取ってポリシーを作成します。

Note

JSON 形式のポリシードキュメントの例については、このトピックの最後にある [その他の考慮事項](#) を参照してください。

以下のセクションでは、この例のスニペットを確認できます。その下には、[この例のコードの全文](#) が示されており、そのままビルドして実行できます。

トピック

- [ポリシーの作成](#)
- [コード全文](#)
- [その他の考慮事項](#)

ポリシーの作成

次のスニペットでは、指定された名前とポリシードキュメントを使用して IAM マネージドポリシーを作成します。

[このトピックの最後](#) で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//  
// Method to create an IAM policy from a JSON file  
private static async Task<CreatePolicyResponse> CreateManagedPolicy(  
    IAmazonIdentityManagementService iamClient, string policyName, string  
    jsonFilename)  
{  
    return await iamClient.CreatePolicyAsync(new CreatePolicyRequest{  
        PolicyName = policyName,  
        PolicyDocument = File.ReadAllText(jsonFilename)});  
}
```

コード全文

このセクションでは、例に関連する参考資料とコードの全文を示します。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [AWSSDK.IdentityManagement](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.IdentityManagement](#)

クラス [AmazonIdentityManagementServiceClient](#)

- 名前空間 [Amazon.IdentityManagement.Model](#)

クラス [CreatePolicyRequest](#)

クラス [CreatePolicyResponse](#)

コード

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.IO;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.IdentityManagement;
using Amazon.IdentityManagement.Model;

namespace IamCreatePolicyFromJson
{
    // = = = = =
    // Class to create an IAM policy with a given policy document
    class Program
    {
        private const int MaxArgs = 2;

        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Parse the command line and show help if necessary
            var parsedArgs = CommandLine.Parse(args);
            if((parsedArgs.Count == 0) || (parsedArgs.Count > MaxArgs))
            {
                PrintHelp();
                return;
            }

            // Get the application arguments from the parsed list
```

```

    string policyName =
        CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-p", "--policy-name");
    string policyFilename =
        CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-j", "--json-filename");
    if(    string.IsNullOrEmpty(policyName)
        || (string.IsNullOrEmpty(policyFilename) || !
policyFilename.EndsWith(".json")))
        CommandLine.ErrorExit(
            "\nOne or more of the required arguments is missing or incorrect." +
            "\nRun the command with no arguments to see help.");

    // Create an IAM service client
    var iamClient = new AmazonIdentityManagementServiceClient();

    // Create the new policy
    var response = await CreateManagedPolicy(iamClient, policyName, policyFilename);
    Console.WriteLine($"Policy {response.Policy.PolicyName} has been created.");
    Console.WriteLine($"  Arn: {response.Policy.Arn}");
}

//
// Method to create an IAM policy from a JSON file
private static async Task<CreatePolicyResponse> CreateManagedPolicy(
    IAmazonIdentityManagementService iamClient, string policyName, string
jsonFilename)
{
    return await iamClient.CreatePolicyAsync(new CreatePolicyRequest{
        PolicyName = policyName,
        PolicyDocument = File.ReadAllText(jsonFilename)});
}

//
// Command-line help
private static void PrintHelp()
{
    Console.WriteLine(
        "\nUsage: IamCreatePolicyFromJson -p <policy-name> -j <json-filename>" +
        "\n  -p, --policy-name: The name you want the new policy to have." +
        "\n  -j, --json-filename: The name of the JSON file with the policy
document.");
}
}

```

```
// =====
//
// Class that represents a command line on the console or terminal.
// (This is the same for all examples. When you have seen it once, you can ignore
it.)
static class CommandLine
{
    //
    // Method to parse a command line of the form: "--key value" or "-k value".
    //
    // Parameters:
    // - args: The command-line arguments passed into the application by the system.
    //
    // Returns:
    // A Dictionary with string Keys and Values.
    //
    // If a key is found without a matching value, Dictionary.Value is set to the key
    // (including the dashes).
    // If a value is found without a matching key, Dictionary.Key is set to "--NoKeyN",
    // where "N" represents sequential numbers.
    public static Dictionary<string,string> Parse(string[] args)
    {
        var parsedArgs = new Dictionary<string,string>();
        int i = 0, n = 0;
        while(i < args.Length)
        {
            // If the first argument in this iteration starts with a dash it's an option.
            if(args[i].StartsWith("-"))
            {
                var key = args[i++];
                var value = key;

                // Check to see if there's a value that goes with this option?
                if((i < args.Length) && (!args[i].StartsWith("-"))) value = args[i++];
                parsedArgs.Add(key, value);
            }

            // If the first argument in this iteration doesn't start with a dash, it's a
value
            else
            {
                parsedArgs.Add("--NoKey" + n.ToString(), args[i++]);
            }
        }
    }
}
```

```

        n++;
    }
}

return parsedArgs;
}

//
// Method to get an argument from the parsed command-line arguments
//
// Parameters:
// - parsedArgs: The Dictionary object returned from the Parse() method (shown
above).
// - defaultValue: The default string to return if the specified key isn't in
parsedArgs.
// - keys: An array of keys to look for in parsedArgs.
public static string GetArgument(
    Dictionary<string,string> parsedArgs, string defaultReturn, params string[] keys)
{
    string retval = null;
    foreach(var key in keys)
        if(parsedArgs.TryGetValue(key, out retval)) break;
    return retval ?? defaultReturn;
}

//
// Method to exit the application with an error.
public static void ErrorExit(string msg, int code=1)
{
    Console.WriteLine("\nError");
    Console.WriteLine(msg);
    Environment.Exit(code);
}
}
}

```

その他の考慮事項

- 次に示すポリシードキュメントの例を JSON ファイルにコピーして、このアプリケーションの入力として使用できます。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Id" : "DotnetTutorialPolicy",
  "Statement" : [
    {
      "Sid" : "DotnetTutorialPolicyS3",
      "Effect" : "Allow",
      "Action" : [
        "s3:Get*",
        "s3:List*"
      ],
      "Resource" : "*"
    },
    {
      "Sid" : "DotnetTutorialPolicyPolly",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "polly:DescribeVoices",
        "polly:SynthesizeSpeech"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

- ポリシーが作成されたことを [IAM コンソール](#) で確認できます。[Filter policies] (フィルターポリシー) ドロップダウンリストで、[Customer managed] (カスタマー管理) を選択します。ポリシーが不要になった場合は削除します。
- ポリシー作成の詳細については、[IAM ユーザーガイド](#) の「[IAM ポリシーの作成](#)」と「[IAM JSON ポリシーリファレンス](#)」を参照してください。

IAM マネージドポリシーのポリシードキュメントの表示

この例では、AWS SDK for .NET を使用してポリシードキュメントを表示する方法を示します。アプリケーションは IAM クライアントオブジェクトを作成し、指定された IAM マネージドポリシーのデフォルトバージョンを検索して、JSON 形式のポリシードキュメントを表示します。

以下のセクションでは、この例のスニペットを確認できます。その下には、[この例のコードの全文](#)が示されており、そのままビルドして実行できます。

トピック

- [デフォルトバージョンの検索](#)
- [ポリシードキュメントの表示](#)
- [コード全文](#)

デフォルトバージョンの検索

次のスニペットでは、指定された IAM ポリシーのデフォルトバージョンを検索します。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//
// Method to determine the default version of an IAM policy
// Returns a string with the version
private static async Task<string> GetDefaultVersion(
    IAmazonIdentityManagementService iamClient, string policyArn)
{
    // Retrieve all the versions of this policy
    string defaultVersion = string.Empty;
    ListPolicyVersionsResponse reponseVersions =
        await iamClient.ListPolicyVersionsAsync(new ListPolicyVersionsRequest{
            PolicyArn = policyArn});

    // Find the default version
    foreach(PolicyVersion version in reponseVersions.Versions)
    {
        if(version.IsDefaultVersion)
        {
            defaultVersion = version.VersionId;
            break;
        }
    }

    return defaultVersion;
}
```

ポリシードキュメントの表示

次のスニペットでは、指定された IAM ポリシーの JSON 形式のポリシードキュメントを表示します。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//
// Method to retrieve and display the policy document of an IAM policy
private static async Task ShowPolicyDocument(
    IAmazonIdentityManagementService iamClient, string policyArn, string
    defaultVersion)
{
    // Retrieve the policy document of the default version
    GetPolicyVersionResponse responsePolicy =
        await iamClient.GetPolicyVersionAsync(new GetPolicyVersionRequest{
            PolicyArn = policyArn,
            VersionId = defaultVersion});

    // Display the policy document (in JSON)
    Console.WriteLine($"Version {defaultVersion} of the policy (in JSON format:");
    Console.WriteLine(
        $"{{HttpUtility.UrlDecode(responsePolicy.PolicyVersion.Document)}}");
}
```

コード全文

このセクションでは、例に関連する参考資料とコードの全文を示します。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [AWSSDK.IdentityManagement](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.IdentityManagement](#)

クラス [AmazonIdentityManagementServiceClient](#)

- 名前空間 [Amazon.IdentityManagement.Model](#)

クラス [GetPolicyVersionRequest](#)

クラス [GetPolicyVersionResponse](#)

クラス [ListPolicyVersionsRequest](#)

クラス [ListPolicyVersionsResponse](#)

クラス [PolicyVersion](#)

コード

```
using System;
using System.Web;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.IdentityManagement;
using Amazon.IdentityManagement.Model;

namespace IamDisplayPolicyJson
{
    class Program
    {
        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Parse the command line and show help if necessary
            if(args.Length != 1)
            {
                Console.WriteLine("\nUsage: IamDisplayPolicyJson policy-arn");
                Console.WriteLine("    policy-arn: The ARN of the policy to retrieve.");
                return;
            }
            if(!args[0].StartsWith("arn:"))
            {
                Console.WriteLine("\nCould not find policy ARN in the command-line arguments:");
                Console.WriteLine($"{args[0]}");
                return;
            }

            // Create an IAM service client
            var iamClient = new AmazonIdentityManagementServiceClient();
```

```

    // Retrieve and display the policy document of the given policy
    string defaultVersion = await GetDefaultVersion(iamClient, args[0]);
    if(string.IsNullOrEmpty(defaultVersion))
        Console.WriteLine($"Could not find the default version for policy {args[0]}.");
    else
        await ShowPolicyDocument(iamClient, args[0], defaultVersion);
}

//
// Method to determine the default version of an IAM policy
// Returns a string with the version
private static async Task<string> GetDefaultVersion(
    IAmazonIdentityManagementService iamClient, string policyArn)
{
    // Retrieve all the versions of this policy
    string defaultVersion = string.Empty;
    ListPolicyVersionsResponse reponseVersions =
        await iamClient.ListPolicyVersionsAsync(new ListPolicyVersionsRequest{
            PolicyArn = policyArn});

    // Find the default version
    foreach(PolicyVersion version in reponseVersions.Versions)
    {
        if(version.IsDefaultVersion)
        {
            defaultVersion = version.VersionId;
            break;
        }
    }

    return defaultVersion;
}

//
// Method to retrieve and display the policy document of an IAM policy
private static async Task ShowPolicyDocument(
    IAmazonIdentityManagementService iamClient, string policyArn, string
defaultVersion)
{
    // Retrieve the policy document of the default version
    GetPolicyVersionResponse responsePolicy =
        await iamClient.GetPolicyVersionAsync(new GetPolicyVersionRequest{

```

```
        PolicyArn = policyArn,
        VersionId = defaultVersion});

    // Display the policy document (in JSON)
    Console.WriteLine($"Version {defaultVersion} of the policy (in JSON format):");
    Console.WriteLine(
        $"{HttpUtility.UrlDecode(responsePolicy.PolicyVersion.Document)}");
    }
}
}
```

IAM ロールを使用したアクセス権の付与

このチュートリアルでは、AWS SDK for .NET を使用して Amazon EC2 インスタンスで IAM ロールを有効にする方法を示します。

概要:

へのすべてのリクエストは、によって発行された認証情報を使用して暗号化して署名 AWS する必要があります AWS。したがって、Amazon EC2 インスタンスで実行するアプリケーション用の認証情報を管理するための戦略が必要です。これらの認証情報を、アプリケーションからのアクセスを維持したまま安全に配信、保存、ローテーションする必要があります。

IAM ロールを使用すると、認証情報を効果的に管理できます。IAM ロールを作成し、アプリケーションに必要なアクセス許可を使用して設定を行った後で、そのロールを EC2 インスタンスにアタッチします。IAM ロールを使用する利点の詳細については、「[Amazon EC2 ユーザーガイド](#)」の「[Amazon EC2 の IAM ロール](#)」を参照してください。また、IAM ユーザーガイドの「[IAM ロール](#)」の情報も参照してください。

を使用して構築されたアプリケーションの場合 AWS SDK for .NET、アプリケーションが AWS サービスのクライアントオブジェクトを構築すると、オブジェクトはいくつかの潜在的なソースから認証情報を検索します。検索の順序は、「[認証情報とプロファイルの解決](#)」に示されています。

クライアントオブジェクトが他のソースから認証情報を見つけられなかった場合、クライアントオブジェクトは IAM ロールに設定された、EC2 インスタンスのメタデータにあるものと同じアクセス許可を持つ一時的な認証情報を取得します。これらの認証情報は、クライアントオブジェクト AWS から を呼び出すために使用されます。

このチュートリアルの内容

このチュートリアルでは、AWS SDK for .NET (およびその他のツール) を使用して IAM ロールがアタッチされた Amazon EC2 インスタンスを起動し、IAM ロールのアクセス許可を使用してインスタンス上のアプリケーションを確認します。

トピック

- [サンプルの Amazon S3 アプリケーションの作成](#)
- [IAM ロールの作成](#)
- [EC2 インスタンスの起動と IAM ロールのアタッチ](#)
- [EC2 インスタンスへの接続](#)
- [EC2 インスタンスでのサンプルアプリケーションの実行](#)
- [クリーンアップ](#)

サンプルの Amazon S3 アプリケーションの作成

このサンプルアプリケーションは、Amazon S3 からオブジェクトを取得します。アプリケーションを実行するには、以下が必要です。

- テキストファイルを含む Amazon S3 バケット。
- AWS バケットへのアクセスを許可する開発マシンの 認証情報。

Amazon S3 バケットの作成およびオブジェクトのアップロードの詳細については、「[Amazon Simple Storage Service ユーザーガイド](#)」を参照してください。AWS 認証情報の詳細については、「[を使用して SDK 認証を設定する AWS](#)」を参照してください。

以下のコードを使用して、.NET Core プロジェクトを作成します。次に、開発マシンでアプリケーションをテストします。

Note

開発マシンには .NET Core Runtime がインストールされており、アプリケーションを公開しなくても実行できます。このチュートリアルの後半で EC2 インスタンスを作成するときに、インスタンスに .NET Core Runtime をインストールすることができます。こうすることで同様のエクスペリエンスを実現でき、ファイル転送量が小さくなります。

ただし、インスタンスに .NET Core Runtime をインストールしない選択も可能です。この場合は、インスタンスを転送するときにすべての依存関係が含まれるようにアプリケーションを公開する必要があります。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [AWSSDK.S3](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.S3](#)

クラス [AmazonS3Client](#)

- 名前空間 [Amazon.S3.Model](#)

クラス [GetObjectResponse](#)

コード

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.IO;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;

namespace S3GetTextItem
{
    // = = = = =
    // Class to retrieve a text file from an S3 bucket and write it to a local file
    class Program
    {
        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Parse the command line and show help if necessary
            var parsedArgs = CommandLine.Parse(args);
            if(parsedArgs.Count == 0)
```

```

    {
        PrintHelp();
        return;
    }

    // Get the application arguments from the parsed list
    string bucket =
        CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-b", "--bucket-name");
    string item =
        CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-t", "--text-object");
    string outFile =
        CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-o", "--output-filename");
    if(    string.IsNullOrEmpty(bucket)
        || string.IsNullOrEmpty(item)
        || string.IsNullOrEmpty(outFile))
        CommandLine.ErrorExit(
            "\nOne or more of the required arguments is missing or incorrect." +
            "\nRun the command with no arguments to see help.");

    // Create the S3 client object and get the file object from the bucket.
    var response = await GetObject(new AmazonS3Client(), bucket, item);

    // Write the contents of the file object to the given output file.
    var reader = new StreamReader(response.ResponseStream);
    string contents = reader.ReadToEnd();
    using (var s = new FileStream(outFile, FileMode.Create))
    using (var writer = new StreamWriter(s))
        writer.WriteLine(contents);
}

//
// Method to get an object from an S3 bucket.
private static async Task<GetObjectResponse> GetObject(
    IAmazonS3 s3Client, string bucket, string item)
{
    Console.WriteLine($"Retrieving {item} from bucket {bucket}.");
    return await s3Client.GetObjectAsync(bucket, item);
}

//
// Command-line help
private static void PrintHelp()

```



```

    {
        Console.WriteLine(
            "\nUsage: S3GetTextItem -b <bucket-name> -t <text-object> -o <output-filename>"
+
            "\n  -b, --bucket-name: The name of the S3 bucket." +
            "\n  -t, --text-object: The name of the text object in the bucket." +
            "\n  -o, --output-filename: The name of the file to write the text to.");
    }
}

// = = = = =
// Class that represents a command line on the console or terminal.
// (This is the same for all examples. When you have seen it once, you can ignore
it.)
static class CommandLine
{
    //
    // Method to parse a command line of the form: "--key value" or "-k value".
    //
    // Parameters:
    // - args: The command-line arguments passed into the application by the system.
    //
    // Returns:
    // A Dictionary with string Keys and Values.
    //
    // If a key is found without a matching value, Dictionary.Value is set to the key
    // (including the dashes).
    // If a value is found without a matching key, Dictionary.Key is set to "--NoKeyN",
    // where "N" represents sequential numbers.
    public static Dictionary<string,string> Parse(string[] args)
    {
        var parsedArgs = new Dictionary<string,string>();
        int i = 0, n = 0;
        while(i < args.Length)
        {
            // If the first argument in this iteration starts with a dash it's an option.
            if(args[i].StartsWith("-"))
            {
                var key = args[i++];
                var value = key;

                // Check to see if there's a value that goes with this option?

```

```

        if((i < args.Length) && (!args[i].StartsWith("-"))) value = args[i++];
        parsedArgs.Add(key, value);
    }

    // If the first argument in this iteration doesn't start with a dash, it's a
value
    else
    {
        parsedArgs.Add("--NoKey" + n.ToString(), args[i++]);
        n++;
    }
}

return parsedArgs;
}

//
// Method to get an argument from the parsed command-line arguments
//
// Parameters:
// - parsedArgs: The Dictionary object returned from the Parse() method (shown
above).
// - defaultValue: The default string to return if the specified key isn't in
parsedArgs.
// - keys: An array of keys to look for in parsedArgs.
public static string GetArgument(
    Dictionary<string,string> parsedArgs, string defaultReturn, params string[] keys)
{
    string retval = null;
    foreach(var key in keys)
        if(parsedArgs.TryGetValue(key, out retval)) break;
    return retval ?? defaultReturn;
}

//
// Method to exit the application with an error.
public static void ErrorExit(string msg, int code=1)
{
    Console.WriteLine("\nError");
    Console.WriteLine(msg);
    Environment.Exit(code);
}
}

```

```
}
```

必要に応じて、開発マシンで使用している認証情報を一時的に削除して、アプリケーションの応答を確認できます。(ただし、完了したら認証情報を忘れずに復元してください)

IAM ロールの作成

Amazon S3 にアクセスするための適切なアクセス許可を持つ IAM ロールを作成します。

1. [\[IAM コンソール\]](#) を開きます。
2. ナビゲーションペインで [Roles] (ロール) を選択し、続いて [Create Role] (ロールの作成) を選択します。
3. [AWS サービス] を選択し、[EC2] を見つけて選択して、[次へ: アクセス許可] を選択します。
4. [Attach permissions policies] (アクセス許可ポリシーの添付) をクリックし、[AmazonS3ReadOnlyAccess] を見つけて選択します。必要に応じてポリシーを確認し、[Next: Tags] (次へ: タグ) を選択します。
5. 必要に応じてタグを追加し、[Next: Review] (次へ: レビュー) を選択します。
6. ロールの名前と説明を入力し、[Create role] (ロールの作成) を選択します。この名前は EC2 インスタンスを起動するときに必要になるため、忘れないでください。

EC2 インスタンスの起動と IAM ロールのアタッチ

先ほど作成した IAM ロールを使用して EC2 インスタンスを起動します。これは以下の方法で実行できます。

• EC2 コンソールの使用

EC2 コンソールを使用してインスタンスを起動するには、「[Amazon EC2 ユーザーガイド](#)」の「[新しいインスタンス起動ウィザードを使用してインスタンスを起動する](#)」を参照してください。

起動ページを見ながら、少なくとも [詳細] ペインを展開して、[IAM インスタンスプロファイル] で以前に作成した IAM ロールを指定できます。

• の使用 AWS SDK for .NET

詳細については、「[Amazon EC2 インスタンスの起動](#)」を参照してください (トピックの最後近くにある「[その他の考慮事項](#)」を含む)。

IAM ロールが添付された EC2 インスタンスを起動するには、IAM ユーザーの設定に特定のアクセス許可が含まれている必要があります。必要なアクセス許可の詳細については、「[Amazon EC2 ユーザーガイド](#)」の「[IAM ロールをインスタンスに渡すアクセス許可をユーザーに付与する](#)」を参照してください。

EC2 インスタンスへの接続

EC2 インスタンスに接続することで、サンプルアプリケーションをそのインスタンスに転送して、アプリケーションを実行できるようにします。また、インスタンスの起動に使用したキーペアのプライベート部分を含むファイル、すなわち PEM ファイルも必要です。

Linux インスタンスに接続する方法については、「[Amazon EC2 ユーザーガイド](#)」の「[Linux インスタンスに接続する](#)」または「[Windows インスタンスに接続する](#)」を参照してください。接続する際は、開発マシンからインスタンスにファイルを転送できるように接続してください。

Windows で Visual Studio を使用している場合は、Toolkit for Visual Studio を使用してインスタンスに接続することもできます。詳細については、「[AWS Toolkit for Visual Studio ユーザーガイド](#)」の「[Amazon EC2 インスタンスへの接続](#)」を参照してください。

EC2 インスタンスでのサンプルアプリケーションの実行

1. ローカルドライブからインスタンスにアプリケーションファイルをコピーします。

転送するファイルは、アプリケーションのビルド方法と、インスタンスに .NET Core Runtime がインストールされているかどうかによって異なります。インスタンスにファイルを転送する方法については、「[Amazon EC2 ユーザーガイド](#)」の「[Linux インスタンスに接続する](#)」(該当するサブセクションを参照) または「[Windows インスタンスにファイルを転送する](#)」を参照してください。

2. アプリケーションを起動し、開発マシンと同じ実行結果が得られることを確認します。
3. アプリケーションで、IAM ロールによって提供されている認証情報が使用されていることを確認します。
 - a. [Amazon EC2 コンソール](#)を開きます。
 - b. インスタンスを選択し、[Actions] (アクション)、[Instance Settings] (インスタンスの設定)、[Attach/Replace IAM Role] (IAM ロールの添付/置換) を使用して IAM ロールをデタッチします。
 - c. アプリケーションを再度実行して、認可エラーが返されることを確認します。

クリーンアップ

チュートリアルが終了し、作成した EC2 インスタンスが不要になった場合は、不要な料金が発生しないようにインスタンスを終了してください。この操作は [Amazon EC2 コンソール](#) で、または [Amazon EC2 インスタンスの終了](#) の説明に従ってプログラムを使用して実行できます。必要に応じて、このチュートリアル用に作成した他のリソースも削除できます。削除可能なリソースには、IAM ロール、EC2 キーペアと PEM ファイル、セキュリティグループなどがあります。

Amazon Simple Storage Service インターネットストレージの使用

は、インターネット用のストレージである [Amazon S3](#) AWS SDK for .NET をサポートしています。Web スケールのコンピューティングを開発者が容易にできるように設計されています。

API

AWS SDK for .NET はAPIs Amazon S3を提供します。API を使用すると、バケットやアイテムなどの Amazon S3 リソースを操作できます。Amazon S3 向け API の完全なセットを表示するには、以下を参照してください。

- [AWS SDK for .NET API リファレンス](#) (「Amazon.S3」までスクロールします)。
- [Amazon.Extensions.S3.Encryption](#) のドキュメント

Amazon S3 API は、以下の NuGet パッケージによって提供されます。

- [AWSSDK.S3](#)
- [Amazon.Extensions.S3.Encryption](#)

前提条件

開始する前に、[環境とプロジェクトがセットアップされている](#)ことを必ず確認してください。また、「[SDK の機能](#)」の情報を確認してください。

このドキュメントで取り上げる例

このドキュメントの以下のトピックでは、AWS SDK for .NET を使用して Amazon S3 を操作する方法について説明します。

- [S3 暗号化用 KMS キーの使用](#)

他のドキュメントで取り上げられている例

以下の [Amazon S3 デベロッパーガイドへのリンク](#) は、 を使用して Amazon S3 AWS SDK for .NET を操作する方法の追加の例を示しています。

Note

これらの例と追加のプログラミング上の考慮事項は、.NET Framework AWS SDK for .NET を使用する のバージョン 3 用に作成されていますが、.NET Core AWS SDK for .NET を使用する のそれ以降のバージョンでも実行可能です。コードの軽微な修正が必要になる場合があります。

Amazon S3 プログラミングの例

- [ACL の管理](#)
- [バケットの作成](#)
- [オブジェクトのアップロード](#)
- [高レベル API でのマルチパートアップロード \(Amazon.S3.Transfer.TransferUtility\)](#)
- [低レベル API でのマルチパートアップロード](#)
- [オブジェクトのリスト作成](#)
- [キーのリスト表示](#)
- [オブジェクトの取得](#)
- [オブジェクトのコピー](#)
- [マルチパートアップロード API を使用したオブジェクトのコピー](#)
- [オブジェクトの削除](#)
- [複数のオブジェクトの削除](#)
- [オブジェクトの復元](#)
- [通知用のバケットの設定](#)
- [オブジェクトのライフサイクルを管理する](#)
- [署名付きオブジェクト URL の生成](#)
- [ウェブサイトの管理](#)
- [Cross-Origin Resource Sharing \(CORS\) の有効化](#)

プログラミングに関するその他の考慮事項

- [Amazon S3 プログラミングでの AWS SDK for .NET の使用](#)
- [IAM ユーザーの一時的な認証情報を使用したリクエストの実行](#)
- [フェデレーションユーザーの一時的な認証情報を使用したリクエストの実行](#)
- [サーバー側暗号化の指定](#)
- [お客様が用意した暗号化キーを使用したサーバー側暗号化の指定](#)

での Amazon S3 暗号化の AWS KMS キーの使用 AWS SDK for .NET

この例では、AWS Key Management Service キーを使用して Amazon S3 オブジェクトを暗号化する方法を示します。アプリケーションはカスタマーマスターキー (CMK) を作成し、これを使用してクライアント側の暗号化に使用する [AmazonS3EncryptionClientV2](#) オブジェクトを作成します。アプリケーションはそのクライアントを使用して、既存の Amazon S3 バケット内の所定のテキストファイルから暗号化されたオブジェクトを作成します。次にオブジェクトを復号化して、その内容を表示します。

Warning

AmazonS3EncryptionClient という類似のクラスは AmazonS3EncryptionClientV2 クラスよりも安全性が低く、非推奨です。AmazonS3EncryptionClient を使用している既存のコードを移行するには、「[S3 暗号化クライアントの移行 \(V1 から V2\)](#)」を参照してください。

トピック

- [暗号化マテリアルの作成](#)
- [Amazon S3 オブジェクトの作成と暗号化](#)
- [コード全文](#)
- [その他の考慮事項](#)

暗号化マテリアルの作成

次のスニペットでは、KMS キー ID を含む EncryptionMaterials オブジェクトを作成します。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
// Create a customer master key (CMK) and store the result
CreateKeyResponse createKeyResponse =
    await new AmazonKeyManagementServiceClient().CreateKeyAsync(new
CreateKeyRequest());
var kmsEncryptionContext = new Dictionary<string, string>();
var kmsEncryptionMaterials = new EncryptionMaterialsV2(
    createKeyResponse.KeyMetadata.KeyId, KmsType.KmsContext, kmsEncryptionContext);
```

Amazon S3 オブジェクトの作成と暗号化

次のスニペットでは、先ほど作成した暗号化マテリアルを使用する

AmazonS3EncryptionClientV2 オブジェクトを作成します。次に、クライアントを使用して新しい Amazon S3 オブジェクトを作成し、暗号化します。

[このトピックの最後](#) で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//
// Method to create and encrypt an object in an S3 bucket
static async Task<GetObjectResponse> CreateAndRetrieveObjectAsync(
    EncryptionMaterialsV2 materials, string bucketName,
    string fileName, string itemName)
{
    // CryptoStorageMode.ObjectMetadata is required for KMS EncryptionMaterials
    var config = new AmazonS3CryptoConfigurationV2(SecurityProfile.V2AndLegacy)
    {
        StorageMode = CryptoStorageMode.ObjectMetadata
    };
    var s3EncClient = new AmazonS3EncryptionClientV2(config, materials);

    // Create, encrypt, and put the object
    await s3EncClient.PutObjectAsync(new PutObjectRequest
    {
        BucketName = bucketName,
        Key = itemName,
        ContentBody = File.ReadAllText(fileName)
    });

    // Get, decrypt, and return the object
    return await s3EncClient.GetObjectAsync(new GetObjectRequest
    {
        BucketName = bucketName,
        Key = itemName
    });
}
```



```
}
```

コード全文

このセクションでは、例に関連する参考資料とコードの全文を示します。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [Amazon.Extensions.S3.Encryption](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.Extensions.S3.Encryption](#)

クラス [AmazonS3EncryptionClientV2](#)

クラス [AmazonS3CryptoConfigurationV2](#)

クラス [CryptoStorageMode](#)

クラス [EncryptionMaterialsV2](#)

- 名前空間 [Amazon.Extensions.S3.Encryption.Primitives](#)

クラス [KmsType](#)

- 名前空間 [Amazon.S3.Model](#)

クラス [GetObjectRequest](#)

クラス [GetObjectResponse](#)

クラス [PutObjectRequest](#)

- 名前空間 [Amazon.KeyManagementService](#)

クラス [AmazonKeyManagementServiceClient](#)

- 名前空間 [Amazon.KeyManagementService.Model](#)

クラス [CreateKeyRequest](#)

クラス [CreateKeyResponse](#)

コード

```

using System;
using System.Collections.Generic;
using System.IO;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Extensions.S3.Encryption;
using Amazon.Extensions.S3.Encryption.Primitives;
using Amazon.S3.Model;
using Amazon.KeyManagementService;
using Amazon.KeyManagementService.Model;

namespace KmsS3Encryption
{
    // =====
    // Class to store text in an encrypted S3 object.
    class Program
    {
        private const int MaxArgs = 3;

        public static async Task Main(string[] args)
        {
            // Parse the command line and show help if necessary
            var parsedArgs = CommandLine.Parse(args);
            if((parsedArgs.Count == 0) || (parsedArgs.Count > MaxArgs))
            {
                PrintHelp();
                return;
            }

            // Get the application arguments from the parsed list
            string bucketName =
                CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-b", "--bucket-name");
            string fileName =
                CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-f", "--file-name");
            string itemName =
                CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-i", "--item-name");
            if(string.IsNullOrEmpty(bucketName) || (string.IsNullOrEmpty(fileName)))
                CommandLine.ErrorExit(
                    "\nOne or more of the required arguments is missing or incorrect." +
                    "\nRun the command with no arguments to see help.");
            if(!File.Exists(fileName))
                CommandLine.ErrorExit($" \n\nThe given file {fileName} doesn't exist.");
        }
    }
}

```

```

        if(string.IsNullOrEmpty(itemName))
            itemName = Path.GetFileName(fileName);

        // Create a customer master key (CMK) and store the result
        CreateKeyResponse createKeyResponse =
            await new AmazonKeyManagementServiceClient().CreateKeyAsync(new
CreateKeyRequest());
        var kmsEncryptionContext = new Dictionary<string, string>();
        var kmsEncryptionMaterials = new EncryptionMaterialsV2(
            createKeyResponse.KeyMetadata.KeyId, KmsType.KmsContext, kmsEncryptionContext);

        // Create the object in the bucket, then display the content of the object
        var putObjectResponse =
            await CreateAndRetrieveObjectAsync(kmsEncryptionMaterials, bucketName,
fileName, itemName);
        Stream stream = putObjectResponse.ResponseStream;
        StreamReader reader = new StreamReader(stream);
        Console.WriteLine(reader.ReadToEnd());
    }

    //
    // Method to create and encrypt an object in an S3 bucket
    static async Task<GetObjectResponse> CreateAndRetrieveObjectAsync(
        EncryptionMaterialsV2 materials, string bucketName,
        string fileName, string itemName)
    {
        // CryptoStorageMode.ObjectMetadata is required for KMS EncryptionMaterials
        var config = new AmazonS3CryptoConfigurationV2(SecurityProfile.V2AndLegacy)
        {
            StorageMode = CryptoStorageMode.ObjectMetadata
        };
        var s3EncClient = new AmazonS3EncryptionClientV2(config, materials);

        // Create, encrypt, and put the object
        await s3EncClient.PutObjectAsync(new PutObjectRequest
        {
            BucketName = bucketName,
            Key = itemName,
            ContentBody = File.ReadAllText(fileName)
        });

        // Get, decrypt, and return the object
        return await s3EncClient.GetObjectAsync(new GetObjectRequest

```

```

    {
        BucketName = bucketName,
        Key = itemName
    });
}

//
// Command-line help
private static void PrintHelp()
{
    Console.WriteLine(
        "\nUsage: KmsS3Encryption -b <bucket-name> -f <file-name> [-i <item-name>]" +
        "\n  -b, --bucket-name: The name of an existing S3 bucket." +
        "\n  -f, --file-name: The name of a text file with content to encrypt and store
in S3." +
        "\n  -i, --item-name: The name you want to use for the item." +
        "\n          If item-name isn't given, file-name will be used.");
}

}

// = = = = =
// Class that represents a command line on the console or terminal.
// (This is the same for all examples. When you have seen it once, you can ignore
it.)
static class CommandLine
{
    //
    // Method to parse a command line of the form: "--key value" or "-k value".
    //
    // Parameters:
    // - args: The command-line arguments passed into the application by the system.
    //
    // Returns:
    // A Dictionary with string Keys and Values.
    //
    // If a key is found without a matching value, Dictionary.Value is set to the key
    // (including the dashes).
    // If a value is found without a matching key, Dictionary.Key is set to "--NoKeyN",
    // where "N" represents sequential numbers.
    public static Dictionary<string,string> Parse(string[] args)
    {

```

```

var parsedArgs = new Dictionary<string,string>();
int i = 0, n = 0;
while(i < args.Length)
{
    // If the first argument in this iteration starts with a dash it's an option.
    if(args[i].StartsWith("-"))
    {
        var key = args[i++];
        var value = key;

        // Check to see if there's a value that goes with this option?
        if((i < args.Length) && (!args[i].StartsWith("-"))) value = args[i++];
        parsedArgs.Add(key, value);
    }

    // If the first argument in this iteration doesn't start with a dash, it's a
value
    else
    {
        parsedArgs.Add("--NoKey" + n.ToString(), args[i++]);
        n++;
    }
}

return parsedArgs;
}

//
// Method to get an argument from the parsed command-line arguments
//
// Parameters:
// - parsedArgs: The Dictionary object returned from the Parse() method (shown
above).
// - defaultValue: The default string to return if the specified key isn't in
parsedArgs.
// - keys: An array of keys to look for in parsedArgs.
public static string GetArgument(
    Dictionary<string,string> parsedArgs, string defaultReturn, params string[] keys)
{
    string retval = null;
    foreach(var key in keys)
        if(parsedArgs.TryGetValue(key, out retval)) break;
    return retval ?? defaultReturn;
}

```

```
//  
// Method to exit the application with an error.  
public static void ErrorExit(string msg, int code=1)  
{  
    Console.WriteLine("\nError");  
    Console.WriteLine(msg);  
    Environment.Exit(code);  
}  
}  
  
}
```

その他の考慮事項

- この例の結果を確認できます。そのためには [Amazon S3 コンソール](#) に移動し、アプリケーションに対して指定したバケットを開きます。次に、新しいオブジェクトを見つけてダウンロードし、テキストエディタで開きます。
- [AmazonS3EncryptionClientV2](#) クラスでは、標準の `AmazonS3Client` クラスと同じインターフェイスが実装されています。そのため、暗号化と復号化がクライアント側で自動的かつ透過的に行われるよう、コードを `AmazonS3EncryptionClientV2` クラスに移植するのが容易になります。
- キーをマスター AWS KMS キーとして使用する利点の 1 つは、独自のマスターキーを保存および管理する必要がないことです。これは `byAws` によって行われます AWS。もう 1 つの利点は、`AmazonS3EncryptionClientV2` クラス AWS SDK for .NET が `AmazonS3EncryptionClientV2` クラスと相互運用できることです AWS SDK for Java。つまり、`byAws` で暗号化 AWS SDK for Java し AWS SDK for .NET、`byJava` で復号できます。逆も同様です。

Note

`AmazonS3EncryptionClientV2` クラスは、メタデータモードで実行されている場合にのみ KMS マスターキー AWS SDK for .NET をサポートします。`AmazonS3EncryptionClientV2` クラスの命令ファイルモード AWS SDK for .NET は、`AmazonS3EncryptionClientV2` クラスの `byJava` と互換性がありません AWS SDK for Java。

- AmazonS3EncryptionClientV2 クラスによるクライアント側の暗号化、およびエンベロープ暗号化の仕組みの詳細については、「[AWS SDK for .NET および Amazon S3 によるクライアント側のデータ暗号化](#)」を参照してください。

Amazon Simple Notification Service を使用したクラウドからの通知の送信

Note

このトピックの情報は、.NET Framework および AWS SDK for .NET バージョン 3.3 以前のプロジェクトに固有のものです。

は、Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) AWS SDK for .NET をサポートしています。Amazon SNS は、アプリケーション、エンドユーザー、デバイスがクラウドから通知を即座に送信できるようにするウェブサービスです。詳細については、「[Amazon SNS](#)」を参照してください。

Amazon SNS トピックの一覧表示

次の例では、Amazon SNS トピック、各トピックのサブスクリプション、および各トピックの属性を一覧表示する方法を示します。この例では、デフォルトのオペレーティングシステムである [AmazonSimpleNotificationServiceClient](#) を使用します。

```
// using Amazon.SimpleNotificationService;
// using Amazon.SimpleNotificationService.Model;

var client = new AmazonSimpleNotificationServiceClient();
var request = new ListTopicsRequest();
var response = new ListTopicsResponse();

do
{
    response = client.ListTopics(request);

    foreach (var topic in response.Topics)
    {
        Console.WriteLine("Topic: {0}", topic.TopicArn);

        var subs = client.ListSubscriptionsByTopic(
            new ListSubscriptionsByTopicRequest
```

```
{
    TopicArn = topic.TopicArn
});

var ss = subs.Subscriptions;

if (ss.Any())
{
    Console.WriteLine("  Subscriptions:");

    foreach (var sub in ss)
    {
        Console.WriteLine("    {0}", sub.SubscriptionArn);
    }
}

var attrs = client.GetTopicAttributes(
    new GetTopicAttributesRequest
    {
        TopicArn = topic.TopicArn
    }).Attributes;

if (attrs.Any())
{
    Console.WriteLine("  Attributes:");

    foreach (var attr in attrs)
    {
        Console.WriteLine("    {0} = {1}", attr.Key, attr.Value);
    }
}

Console.WriteLine();
}

request.NextToken = response.NextToken;
} while (!string.IsNullOrEmpty(response.NextToken));
```

Amazon SNS トピックへのメッセージの送信

次の例は、Amazon SNS トピックにメッセージを送信する方法を示します。この例では、1 つの引数 (Amazon SNS トピックの ARN) を取ります。


```
using System;
using System.Linq;
using System.Threading.Tasks;

using Amazon;
using Amazon.SimpleNotificationService;
using Amazon.SimpleNotificationService.Model;

namespace SnsSendMessage
{
    class Program
    {
        static void Main(string[] args)
        {
            /* Topic ARNs must be in the correct format:
             *   arn:aws:sns:REGION:ACCOUNT_ID:NAME
             *
             *   where:
             *   REGION      is the region in which the topic is created, such as us-
west-2
             *   ACCOUNT_ID is your (typically) 12-character account ID
             *   NAME        is the name of the topic
             */
            string topicArn = args[0];
            string message = "Hello at " + DateTime.Now.ToShortTimeString();

            var client = new AmazonSimpleNotificationServiceClient(region:
Amazon.RegionEndpoint.USSouth2);

            var request = new PublishRequest
            {
                Message = message,
                TopicArn = topicArn
            };

            try
            {
                var response = client.Publish(request);

                Console.WriteLine("Message sent to topic:");
                Console.WriteLine(message);
            }
            catch (Exception ex)
```

```
        {
            Console.WriteLine("Caught exception publishing request:");
            Console.WriteLine(ex.Message);
        }
    }
}
```

GitHub で、コマンドラインからサンプルをビルドして実行する方法に関する情報を含む、[完全な例](#)を参照してください。

1 つの電話番号に SMS メッセージを送信する

次の例は、電話番号に SMS メッセージを送信する方法を示します。この例では、1 つの引数 (電話番号) を取ります。この引数は、コメントに記載されている 2 つの形式のいずれかである必要があります。

```
using System;
using System.Linq;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon;
using Amazon.SimpleNotificationService;
using Amazon.SimpleNotificationService.Model;

namespace SnsPublish
{
    class Program
    {
        static void Main(string[] args)
        {
            // US phone numbers must be in the correct format:
            // +1 (nnn) nnn-nnnn OR +1nnnnnnnnnnn
            string number = args[0];
            string message = "Hello at " + DateTime.Now.ToShortTimeString();

            var client = new AmazonSimpleNotificationServiceClient(region:
Amazon.RegionEndpoint.USWest2);
            var request = new PublishRequest
            {
                Message = message,
                PhoneNumber = number
            };
        }
    }
}
```

```
try
{
    var response = client.Publish(request);

    Console.WriteLine("Message sent to " + number + ":");
    Console.WriteLine(message);
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine("Caught exception publishing request:");
    Console.WriteLine(ex.Message);
}
}
```

GitHub で、コマンドラインからサンプルをビルドして実行する方法に関する情報を含む、[完全な例](#)を参照してください。

Amazon SQS を使用したメッセージング

は、[Amazon Simple Queue Service \(Amazon SQS\)](#) AWS SDK for .NET をサポートします。これは、システム内のコンポーネント間のメッセージまたはワークフローを処理するメッセージキューイングサービスです。

Amazon SQS キューは、マイクロサービス、分散システム、サーバーレスアプリケーションなどのソフトウェアコンポーネント間でメッセージを送信、保存、受信できる仕組みを提供します。その結果、こうしたコンポーネントを切り離すことができるようになり、独自のメッセージングシステムを設計および運用する必要がなくなります。Amazon SQS でのキューとメッセージの仕組みに関する詳細については、[Amazon SQS のチュートリアル](#)および「[Amazon Simple Queue Service デベロッパーガイド](#)」の「[Amazon SQS の基本的なアーキテクチャ](#)」を参照してください。

Important

キューが持つ分散的な性質のため、Amazon SQS ではメッセージを送信された順序で受信することは保証できません。メッセージの順序を保持する必要がある場合は、[Amazon SQS FIFO キュー](#)を使用してください。

API

AWS SDK for .NET はAPIs Amazon SQS を提供します。API を使用すると、キューやメッセージなどの Amazon SQS 機能を実行できます。このセクションでは、これらの API を操作する際に活用できるパターンを示すいくつかの例を紹介します。API の完全なセットを確認するには、[AWS SDK for .NET API リファレンス](#)を参照してください (「Amazon.SQS」までスクロールします)。

Amazon SQS API は、[AWSSDK.SQS](#) NuGet パッケージによって提供されます。

前提条件

開始する前に、[環境とプロジェクトがセットアップされている](#)ことを必ず確認してください。また、「[SDK の機能](#)」の情報を確認してください。

トピック

トピック

- [Amazon SQS キューの作成](#)
- [Amazon SQS キューの更新](#)
- [Amazon SQS キューの削除](#)
- [Amazon SQS メッセージの送信](#)
- [Amazon SQS メッセージの受信](#)

Amazon SQS キューの作成

この例では、AWS SDK for .NET を使用して Amazon SQS キューを作成する方法を示します。ユーザーがデッドレターキューの ARN を指定しない場合、アプリケーションは[デッドレターキュー](#)を作成します。次に、デッドレターキュー (ユーザーが指定したもの、または作成されたもの) を含む標準メッセージキューを作成します。

コマンドライン引数を何も指定しない場合、アプリケーションは単に既存のすべてのキューに関する情報を表示します。

以下のセクションでは、この例のスニペットを確認できます。その下には、[この例のコードの全文](#)が表示されており、そのままビルドして実行できます。

トピック

- [既存のキューの表示](#)

- [キューの作成](#)
- [キューの ARN の取得](#)
- [コード全文](#)
- [その他の考慮事項](#)

既存のキューの表示

次のスニペットでは、SQS クライアントのリージョンにある既存のキューのリストと、各キューの属性を表示します。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//
// Method to show a list of the existing queues
private static async Task ShowQueues(IAmazonSQS sqsClient)
{
    ListQueuesResponse responseList = await sqsClient.ListQueuesAsync("");
    Console.WriteLine();
    foreach(string qUrl in responseList.QueueUrls)
    {
        // Get and show all attributes. Could also get a subset.
        await ShowAllAttributes(sqsClient, qUrl);
    }
}

//
// Method to show all attributes of a queue
private static async Task ShowAllAttributes(IAmazonSQS sqsClient, string qUrl)
{
    var attributes = new List<string>{ QueueAttributeName.All };
    GetQueueAttributesResponse responseGetAtt =
        await sqsClient.GetQueueAttributesAsync(qUrl, attributes);
    Console.WriteLine($"Queue: {qUrl}");
    foreach(var att in responseGetAtt.Attributes)
        Console.WriteLine($"{att.Key}: {att.Value}");
}
```

キューの作成

次のスニペットでは、キューが作成されます。このスニペットにはデッドレターキューの使用が含まれていますが、デッドレターキューは必ずしもキューに必要ではありません。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//
// Method to create a queue. Returns the queue URL.
private static async Task<string> CreateQueue(
    IAmazonSQS sqsClient, string qName, string deadLetterQueueUrl=null,
    string maxReceiveCount=null, string receiveWaitTime=null)
{
    var attrs = new Dictionary<string, string>();

    // If a dead-letter queue is given, create a message queue
    if(!string.IsNullOrEmpty(deadLetterQueueUrl))
    {
        attrs.Add(QueueAttributeName.ReceiveMessageWaitTimeSeconds, receiveWaitTime);
        attrs.Add(QueueAttributeName.RedrivePolicy,
            $"{{\"deadLetterTargetArn\": \"{await GetQueueArn(sqsClient,
deadLetterQueueUrl)}\", \" +
            $\"\"maxReceiveCount\": \"{maxReceiveCount}\"}}");
        // Add other attributes for the message queue such as VisibilityTimeout
    }

    // If no dead-letter queue is given, create one of those instead
    //else
    //{
    // // Add attributes for the dead-letter queue as needed
    // attrs.Add();
    //}

    // Create the queue
    CreateQueueResponse responseCreate = await sqsClient.CreateQueueAsync(
        new CreateQueueRequest{QueueName = qName, Attributes = attrs});
    return responseCreate.QueueUrl;
}
```

キューの ARN の取得

次のスニペットでは、指定されたキュー URL で特定されるキューの ARN を取得します。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//
// Method to get the ARN of a queue
private static async Task<string> GetQueueArn(IAmazonSQS sqsClient, string qUrl)
```

```
{
    GetQueueAttributesResponse responseGetAtt = await
sqsClient.GetQueueAttributesAsync(
    qUrl, new List<string>{QueueAttributeName.QueueArn});
    return responseGetAtt.QueueARN;
}
```

コード全文

このセクションでは、例に関連する参考資料とコードの全文を示します。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [AWSSDK.SQS](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.SQS](#)

クラス [AmazonSQSClient](#)

クラス [QueueAttributeName](#)

- 名前空間 [Amazon.SQS.Model](#)

クラス [CreateQueueRequest](#)

クラス [CreateQueueResponse](#)

クラス [GetQueueAttributesResponse](#)

クラス [ListQueuesResponse](#)

コード

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using System.Collections.Generic;
using Amazon.SQS;
using Amazon.SQS.Model;
```

```

namespace SQSCreateQueue
{
    // = = = = =
    // Class to create a queue
    class Program
    {
        private const string MaxReceiveCount = "10";
        private const string ReceiveMessageWaitTime = "2";
        private const int MaxArgs = 3;

        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Parse the command line and show help if necessary
            var parsedArgs = CommandLine.Parse(args);
            if(parsedArgs.Count > MaxArgs)
                CommandLine.ErrorExit(
                    "\nToo many command-line arguments.\nRun the command with no arguments to see
help.");

            // Create the Amazon SQS client
            var sqsClient = new AmazonSQSClient();

            // In the case of no command-line arguments, just show help and the existing
            queues
            if(parsedArgs.Count == 0)
            {
                PrintHelp();
                Console.WriteLine("\nNo arguments specified.");
                Console.Write("Do you want to see a list of the existing queues? ((y) or n):
");

                string response = Console.ReadLine();
                if((string.IsNullOrEmpty(response)) || (response.ToLower() == "y"))
                    await ShowQueues(sqsClient);
                return;
            }

            // Get the application arguments from the parsed list
            string queueName =
                CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-q", "--queue-name");
            string deadLetterQueueUrl =
                CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-d", "--dead-letter-queue");
            string maxReceiveCount =

```



```

        CommandLine.GetArgument(parsedArgs, MaxReceiveCount, "-m", "--max-receive-
count");
        string receiveWaitTime =
            CommandLine.GetArgument(parsedArgs, ReceiveMessageWaitTime, "-w", "--wait-
time");

        if(string.IsNullOrEmpty(queueName))
            CommandLine.ErrorExit(
                "\nYou must supply a queue name.\nRun the command with no arguments to see
help.");

        // If a dead-letter queue wasn't given, create one
        if(string.IsNullOrEmpty(deadLetterQueueUrl))
        {
            Console.WriteLine("\nNo dead-letter queue was specified. Creating one...");
            deadLetterQueueUrl = await CreateQueue(sqsClient, queueName + "__dlq");
            Console.WriteLine($"Your new dead-letter queue:");
            await ShowAllAttributes(sqsClient, deadLetterQueueUrl);
        }

        // Create the message queue
        string messageQueueUrl = await CreateQueue(
            sqsClient, queueName, deadLetterQueueUrl, maxReceiveCount, receiveWaitTime);
        Console.WriteLine($"Your new message queue:");
        await ShowAllAttributes(sqsClient, messageQueueUrl);
    }

    //
    // Method to show a list of the existing queues
    private static async Task ShowQueues(IAmazonSQS sqsClient)
    {
        ListQueuesResponse responseList = await sqsClient.ListQueuesAsync("");
        Console.WriteLine();
        foreach(string qUrl in responseList.QueueUrls)
        {
            // Get and show all attributes. Could also get a subset.
            await ShowAllAttributes(sqsClient, qUrl);
        }
    }

    //
    // Method to create a queue. Returns the queue URL.

```

```

private static async Task<string> CreateQueue(
    IAmazonSQS sqsClient, string qName, string deadLetterQueueUrl=null,
    string maxReceiveCount=null, string receiveWaitTime=null)
{
    var attrs = new Dictionary<string, string>();

    // If a dead-letter queue is given, create a message queue
    if(!string.IsNullOrEmpty(deadLetterQueueUrl))
    {
        attrs.Add(QueueAttributeName.ReceiveMessageWaitTimeSeconds, receiveWaitTime);
        attrs.Add(QueueAttributeName.RedrivePolicy,
            $"{{\"deadLetterTargetArn\": \"{await GetQueueArn(sqsClient,
deadLetterQueueUrl)}\", \" +
            \"$\" \"maxReceiveCount\": \"{maxReceiveCount}\"}}");
        // Add other attributes for the message queue such as VisibilityTimeout
    }

    // If no dead-letter queue is given, create one of those instead
    //else
    //{
    // // Add attributes for the dead-letter queue as needed
    // attrs.Add();
    //}

    // Create the queue
    CreateQueueResponse responseCreate = await sqsClient.CreateQueueAsync(
        new CreateQueueRequest{QueueName = qName, Attributes = attrs});
    return responseCreate.QueueUrl;
}

//
// Method to get the ARN of a queue
private static async Task<string> GetQueueArn(IAmazonSQS sqsClient, string qUrl)
{
    GetQueueAttributesResponse responseGetAtt = await
sqsClient.GetQueueAttributesAsync(
    qUrl, new List<string>{QueueAttributeName.QueueArn});
    return responseGetAtt.QueueARN;
}

//
// Method to show all attributes of a queue

```

```

private static async Task ShowAllAttributes(IAmazonSQS sqsClient, string qUrl)
{
    var attributes = new List<string>{ QueueAttributeName.All };
    GetQueueAttributesResponse responseGetAtt =
        await sqsClient.GetQueueAttributesAsync(qUrl, attributes);
    Console.WriteLine($"Queue: {qUrl}");
    foreach(var att in responseGetAtt.Attributes)
        Console.WriteLine($"\\t{att.Key}: {att.Value}");
}

//
// Command-line help
private static void PrintHelp()
{
    Console.WriteLine(
        "\\nUsage: SQSCreateQueue -q <queue-name> [-d <dead-letter-queue>]" +
        " [-m <max-receive-count>] [-w <wait-time>]" +
        "\\n  -q, --queue-name: The name of the queue you want to create." +
        "\\n  -d, --dead-letter-queue: The URL of an existing queue to be used as the
dead-letter queue."+
        "\\n      If this argument isn't supplied, a new dead-letter queue will be
created." +
        "\\n  -m, --max-receive-count: The value for maxReceiveCount in the RedrivePolicy
of the queue." +
        $"\\n      Default is {MaxReceiveCount}." +
        "\\n  -w, --wait-time: The value for ReceiveMessageWaitTimeSeconds of the queue
for long polling." +
        $"\\n      Default is {ReceiveMessageWaitTime}.");
}
}

// = = = = =
// Class that represents a command line on the console or terminal.
// (This is the same for all examples. When you have seen it once, you can ignore
it.)
static class CommandLine
{
    //
    // Method to parse a command line of the form: "--key value" or "-k value".
    //
    // Parameters:

```

```

// - args: The command-line arguments passed into the application by the system.
//
// Returns:
// A Dictionary with string Keys and Values.
//
// If a key is found without a matching value, Dictionary.Value is set to the key
// (including the dashes).
// If a value is found without a matching key, Dictionary.Key is set to "--NoKeyN",
// where "N" represents sequential numbers.
public static Dictionary<string,string> Parse(string[] args)
{
    var parsedArgs = new Dictionary<string,string>();
    int i = 0, n = 0;
    while(i < args.Length)
    {
        // If the first argument in this iteration starts with a dash it's an option.
        if(args[i].StartsWith("-"))
        {
            var key = args[i++];
            var value = key;

            // Check to see if there's a value that goes with this option?
            if((i < args.Length) && (!args[i].StartsWith("-"))) value = args[i++];
            parsedArgs.Add(key, value);
        }

        // If the first argument in this iteration doesn't start with a dash, it's a
value
        else
        {
            parsedArgs.Add("--NoKey" + n.ToString(), args[i++]);
            n++;
        }
    }

    return parsedArgs;
}

//
// Method to get an argument from the parsed command-line arguments
//
// Parameters:
// - parsedArgs: The Dictionary object returned from the Parse() method (shown
above).

```

```
// - defaultValue: The default string to return if the specified key isn't in
// parsedArgs.
// - keys: An array of keys to look for in parsedArgs.
public static string GetArgument(
    Dictionary<string,string> parsedArgs, string defaultReturn, params string[] keys)
{
    string retval = null;
    foreach(var key in keys)
        if(parsedArgs.TryGetValue(key, out retval)) break;
    return retval ?? defaultReturn;
}

//
// Method to exit the application with an error.
public static void ErrorExit(string msg, int code=1)
{
    Console.WriteLine("\nError");
    Console.WriteLine(msg);
    Environment.Exit(code);
}
}
```

その他の考慮事項

- キュー名は、英数字、ハイフン、およびアンダースコアで構成する必要があります。
- キュー名とキュー URL では大文字と小文字が区別されます。
- キュー URL が必要なときにキュー名しかない場合には、`AmazonSQSClient.GetQueueUrlAsync` メソッドのいずれかを使用してください。
- 設定できるさまざまなキュー属性の詳細については、[AWS SDK for .NET API リファレンス](#)の「[CreateQueueRequest](#)」か、または [Amazon Simple Queue Service API リファレンス](#)の「[SetQueueAttributes](#)」を参照してください。
- この例では、作成するキュー上のすべてのメッセージに対してロングポーリングを指定します。これは `ReceiveMessageWaitTimeSeconds` 属性を使用して行われます。

[AmazonSQSClient](#) クラスの `ReceiveMessageAsync` メソッドの呼び出し中にロングポーリングを指定することもできます。詳細については、「[Amazon SQS メッセージの受信](#)」を参照してください。

ショートポーリングとロングポーリングの違いに関する詳細については、Amazon Simple Queue Service デベロッパーガイドの「[ショートポーリングとロングポーリング](#)」を参照してください。

- デッドレターキューとは、他の (送信元) キューが正常に処理されないメッセージの送信先として使用できるキューのことです。詳細については、Amazon Simple Queue Service デベロッパーガイドの「[Amazon SQS デッドレターキュー](#)」を参照してください。
- キューのリストとこの例の結果は、[Amazon SQS コンソール](#)でも確認できます。

Amazon SQS キューの更新

この例では、AWS SDK for .NET を使用して Amazon SQS キューを更新する方法を示します。アプリケーションはいくつかのチェックを行った後、指定された属性を指定された値で更新し、キューのすべての属性を表示します。

コマンドライン引数にキュー URL のみを含めた場合、アプリケーションは単にキューのすべての属性を表示します。

以下のセクションでは、この例のスニペットを確認できます。その下には、[この例のコードの全文](#)が示されており、そのままビルドして実行できます。

トピック

- [キュー属性の表示](#)
- [属性名の検証](#)
- [キュー属性の更新](#)
- [コード全文](#)
- [その他の考慮事項](#)

キュー属性の表示

次のスニペットでは、指定されたキュー URL で特定されるキューの属性を表示します。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//  
// Method to show all attributes of a queue  
private static async Task ShowAllAttributes(IAmazonSQS sqsClient, string qUrl)  
{  
    GetQueueAttributesResponse responseGetAtt =  
        await sqsClient.GetQueueAttributesAsync(qUrl,  
            new List<string>{ QueueAttributeName.All });  
    Console.WriteLine($"Queue: {qUrl}");  
    foreach(var att in responseGetAtt.Attributes)  
        Console.WriteLine($"\\t{att.Key}: {att.Value}");  
}
```

属性名の検証

次のスニペットでは、更新される属性の名前を検証します。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//  
// Method to check the name of the attribute  
private static bool ValidAttribute(string attribute)  
{  
    var attOk = false;  
    var qAttNameType = typeof(QueueAttributeName);  
    List<string> qAttNamefields = new List<string>();  
    foreach(var field in qAttNameType.GetFields())  
        qAttNamefields.Add(field.Name);  
    foreach(var name in qAttNamefields)  
        if(attribute == name) { attOk = true; break; }  
    return attOk;  
}
```

キュー属性の更新

次のスニペットでは、指定されたキュー URL で特定されるキューの属性を更新します。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//  
// Method to update a queue attribute  
private static async Task UpdateAttribute(  

```

```

    IAmazonSQS sqsClient, string qUrl, string attribute, string value)
    {
        await sqsClient.SetQueueAttributesAsync(qUrl,
            new Dictionary<string, string>{{attribute, value}});
    }

```

コード全文

このセクションでは、例に関連する参考資料とコードの全文を示します。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [AWSSDK.SQS](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.SQS](#)

クラス [AmazonSQSClient](#)

クラス [QueueAttributeName](#)

- 名前空間 [Amazon.SQS.Model](#)

クラス [GetQueueAttributesResponse](#)

コード

```

using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.SQS;
using Amazon.SQS.Model;

namespace SQSUpdateQueue
{
    // = = = = =
    // Class to update a queue
    class Program
    {

```



```
private const int MaxArgs = 3;
private const int InvalidArgCount = 2;

static async Task Main(string[] args)
{
    // Parse the command line and show help if necessary
    var parsedArgs = CommandLine.Parse(args);
    if(parsedArgs.Count == 0)
    {
        PrintHelp();
        return;
    }
    if((parsedArgs.Count > MaxArgs) || (parsedArgs.Count == InvalidArgCount))
        CommandLine.ErrorExit("\nThe number of command-line arguments is incorrect." +
            "\nRun the command with no arguments to see help.");

    // Get the application arguments from the parsed list
    var qUrl = CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-q");
    var attribute = CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-a");
    var value = CommandLine.GetArgument(parsedArgs, null, "-v", "--value");

    if(string.IsNullOrEmpty(qUrl))
        CommandLine.ErrorExit("\nYou must supply at least a queue URL." +
            "\nRun the command with no arguments to see help.");

    // Create the Amazon SQS client
    var sqsClient = new AmazonSQSClient();

    // In the case of one command-line argument, just show the attributes for the
    queue
    if(parsedArgs.Count == 1)
        await ShowAllAttributes(sqsClient, qUrl);

    // Otherwise, attempt to update the given queue attribute with the given value
    else
    {
        // Check to see if the attribute is valid
        if(ValidAttribute(attribute))
        {
            // Perform the update and then show all the attributes of the queue
            await UpdateAttribute(sqsClient, qUrl, attribute, value);
            await ShowAllAttributes(sqsClient, qUrl);
        }
        else
    }
```

```
        {
            Console.WriteLine($"\\nThe given attribute name, {attribute}, isn't valid.");
        }
    }
}

//
// Method to show all attributes of a queue
private static async Task ShowAllAttributes(IAmazonSQS sqsClient, string qUrl)
{
    GetQueueAttributesResponse responseGetAtt =
        await sqsClient.GetQueueAttributesAsync(qUrl,
            new List<string>{ QueueAttributeName.All });
    Console.WriteLine($"Queue: {qUrl}");
    foreach(var att in responseGetAtt.Attributes)
        Console.WriteLine($"\\t{att.Key}: {att.Value}");
}

//
// Method to check the name of the attribute
private static bool ValidAttribute(string attribute)
{
    var attOk = false;
    var qAttNameType = typeof(QueueAttributeName);
    List<string> qAttNamefields = new List<string>();
    foreach(var field in qAttNameType.GetFields())
        qAttNamefields.Add(field.Name);
    foreach(var name in qAttNamefields)
        if(attribute == name) { attOk = true; break; }
    return attOk;
}

//
// Method to update a queue attribute
private static async Task UpdateAttribute(
    IAmazonSQS sqsClient, string qUrl, string attribute, string value)
{
    await sqsClient.SetQueueAttributesAsync(qUrl,
        new Dictionary<string, string>{{attribute, value}});
}
```

```

//
// Command-line help
private static void PrintHelp()
{
    Console.WriteLine("\nUsage: SQSUpdateQueue -q queue_url [-a attribute -v
value]");
    Console.WriteLine("  -q: The URL of the queue you want to update.");
    Console.WriteLine("  -a: The name of the attribute to update.");
    Console.WriteLine("  -v, --value: The value to assign to the attribute.");
}
}

// = = = = =
// Class that represents a command line on the console or terminal.
// (This is the same for all examples. When you have seen it once, you can ignore
it.)
static class CommandLine
{
    //
    // Method to parse a command line of the form: "--key value" or "-k value".
    //
    // Parameters:
    // - args: The command-line arguments passed into the application by the system.
    //
    // Returns:
    // A Dictionary with string Keys and Values.
    //
    // If a key is found without a matching value, Dictionary.Value is set to the key
    // (including the dashes).
    // If a value is found without a matching key, Dictionary.Key is set to "--NoKeyN",
    // where "N" represents sequential numbers.
    public static Dictionary<string,string> Parse(string[] args)
    {
        var parsedArgs = new Dictionary<string,string>();
        int i = 0, n = 0;
        while(i < args.Length)
        {
            // If the first argument in this iteration starts with a dash it's an option.
            if(args[i].StartsWith("-"))
            {
                var key = args[i++];

```

```

        var value = key;

        // Check to see if there's a value that goes with this option?
        if((i < args.Length) && (!args[i].StartsWith("-"))) value = args[i++];
        parsedArgs.Add(key, value);
    }

    // If the first argument in this iteration doesn't start with a dash, it's a
value
    else
    {
        parsedArgs.Add("--NoKey" + n.ToString(), args[i++]);
        n++;
    }
}

return parsedArgs;
}

//
// Method to get an argument from the parsed command-line arguments
//
// Parameters:
// - parsedArgs: The Dictionary object returned from the Parse() method (shown
above).
// - defaultValue: The default string to return if the specified key isn't in
parsedArgs.
// - keys: An array of keys to look for in parsedArgs.
public static string GetArgument(
    Dictionary<string,string> parsedArgs, string defaultReturn, params string[] keys)
{
    string retval = null;
    foreach(var key in keys)
        if(parsedArgs.TryGetValue(key, out retval)) break;
    return retval ?? defaultReturn;
}

//
// Method to exit the application with an error.
public static void ErrorExit(string msg, int code=1)
{
    Console.WriteLine("\nError");
    Console.WriteLine(msg);
    Environment.Exit(code);
}

```

```
    }  
  }  
  
}
```

その他の考慮事項

- RedrivePolicy 属性を更新するには、値全体を引用符で囲み、キーと値のペアの引用符をお使いのオペレーティングシステムに応じた適切な方法でエスケープする必要があります。

例えば Windows では、値は次のような形で構成されます。

```
"{\"deadLetterTargetArn\":\"DEAD_LETTER-QUEUE-ARN\", \"maxReceiveCount\":\"10\"}"
```

Amazon SQS キューの削除

この例では、AWS SDK for .NET を使用して Amazon SQS キューを削除する方法を示します。アプリケーションはキューを削除し、キューがなくなるまで一定時間待ってから、残っているキューのリストを表示します。

コマンドライン引数を何も指定しない場合、アプリケーションは単に既存のキューのリストを表示します。

以下のセクションでは、この例のスニペットを確認できます。その下には、[この例のコードの全文](#)が示されており、そのままビルドして実行できます。

トピック

- [キューの削除](#)
- [キューがなくなるまで待機](#)
- [既存のキューのリストの表示](#)
- [コード全文](#)
- [その他の考慮事項](#)

キューの削除

次のスニペットでは、指定されたキュー URL で特定されるキューを削除します。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//  
// Method to delete an SQS queue  
private static async Task DeleteQueue(IAmazonSQS sqsClient, string qUrl)  
{  
    Console.WriteLine($"Deleting queue {qUrl}...");  
    await sqsClient.DeleteQueueAsync(qUrl);  
    Console.WriteLine($"Queue {qUrl} has been deleted.");  
}
```

キューがなくなるまで待機

次のスニペットでは、削除プロセスが完了するまで待機します。この処理には 60 秒かかる場合があります。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//  
// Method to wait up to a given number of seconds  
private static async Task Wait(  
    IAmazonSQS sqsClient, int numSeconds, string qUrl)  
{  
    Console.WriteLine($"Waiting for up to {numSeconds} seconds.");  
    Console.WriteLine("Press any key to stop waiting. (Response might be slightly  
delayed.)");  
    for(int i=0; i<numSeconds; i++)  
    {  
        Console.Write(".");  
        Thread.Sleep(1000);  
        if(Console.KeyAvailable) break;  
  
        // Check to see if the queue is gone yet  
        var found = false;  
        ListQueuesResponse responseList = await sqsClient.ListQueuesAsync("");  
        foreach(var url in responseList.QueueUrls)  
        {  
            if(url == qUrl)  
            {  
                found = true;  
                break;  
            }  
        }  
        if(!found) break;  
    }  
}
```

```
}
```

既存のキューのリストの表示

次のスニペットでは、SQS クライアントのリージョンにある既存のキューのリストを表示します。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//  
// Method to show a list of the existing queues  
private static async Task ListQueues(IAmazonSQS sqsClient)  
{  
    ListQueuesResponse responseList = await sqsClient.ListQueuesAsync("");  
    Console.WriteLine("\nList of queues:");  
    foreach(var qUrl in responseList.QueueUrls)  
        Console.WriteLine($"- {qUrl}");  
}
```

コード全文

このセクションでは、例に関連する参考資料とコードの全文を示します。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [AWSSDK.SQS](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.SQS](#)
 クラス [AmazonSQSClient](#)
- 名前空間 [Amazon.SQS.Model](#)
 クラス [ListQueuesResponse](#)

コード

```
using System;  
using System.Threading;  
using System.Threading.Tasks;
```

```

using Amazon.SQS;
using Amazon.SQS.Model;

namespace SQSDeleteQueue
{
    // = = = = =
    // Class to update a queue
    class Program
    {
        private const int TimeToWait = 60;

        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Create the Amazon SQS client
            var sqsClient = new AmazonSQSClient();

            // If no command-line arguments, just show a list of the queues
            if(args.Length == 0)
            {
                Console.WriteLine("\nUsage: SQSCreateQueue queue_url");
                Console.WriteLine("    queue_url - The URL of the queue you want to delete.");
                Console.WriteLine("\nNo arguments specified.");
                Console.Write("Do you want to see a list of the existing queues? ((y) or n):");
                var response = Console.ReadLine();
                if((string.IsNullOrEmpty(response)) || (response.ToLower() == "y"))
                {
                    await ListQueues(sqsClient);
                    return;
                }

                // If given a queue URL, delete that queue
                if(args[0].StartsWith("https://sqs."))
                {
                    // Delete the queue
                    await DeleteQueue(sqsClient, args[0]);
                    // Wait for a little while because it takes a while for the queue to disappear
                    await Wait(sqsClient, TimeToWait, args[0]);
                    // Show a list of the remaining queues
                    await ListQueues(sqsClient);
                }
                else
                {
                    Console.WriteLine("The command-line argument isn't a queue URL:");
                }
            }
        }
    }
}

```



```
        Console.WriteLine($"{args[0]}");
    }
}

//
// Method to delete an SQS queue
private static async Task DeleteQueue(IAmazonSQS sqsClient, string qUrl)
{
    Console.WriteLine($"Deleting queue {qUrl}...");
    await sqsClient.DeleteQueueAsync(qUrl);
    Console.WriteLine($"Queue {qUrl} has been deleted.");
}

//
// Method to wait up to a given number of seconds
private static async Task Wait(
    IAmazonSQS sqsClient, int numSeconds, string qUrl)
{
    Console.WriteLine($"Waiting for up to {numSeconds} seconds.");
    Console.WriteLine("Press any key to stop waiting. (Response might be slightly
delayed.)");
    for(int i=0; i<numSeconds; i++)
    {
        Console.Write(".");
        Thread.Sleep(1000);
        if(Console.KeyAvailable) break;

        // Check to see if the queue is gone yet
        var found = false;
        ListQueuesResponse responseList = await sqsClient.ListQueuesAsync("");
        foreach(var url in responseList.QueueUrls)
        {
            if(url == qUrl)
            {
                found = true;
                break;
            }
        }
        if(!found) break;
    }
}
```

```
//  
// Method to show a list of the existing queues  
private static async Task ListQueues(IAmazonSQS sqsClient)  
{  
    ListQueuesResponse responseList = await sqsClient.ListQueuesAsync("");  
    Console.WriteLine("\nList of queues:");  
    foreach(var qUrl in responseList.QueueUrls)  
        Console.WriteLine($"- {qUrl}");  
}  
}  
}
```

その他の考慮事項

- DeleteQueueAsync API コールでは、削除しようとしているキューがデッドレターキューとして使用されているかどうかはチェックされません。チェックするには、より高度な手順が必要になります。
- キューのリストとこの例の結果は、[Amazon SQS コンソール](#)でも確認できます。

Amazon SQS メッセージの送信

この例では、を使用して Amazon SQS キューに AWS SDK for .NET メッセージを送信する方法を示します。このキューは、[プログラムで](#)作成することも、[Amazon SQS コンソール](#)を使用して作成することもできます。アプリケーションは 1 つのメッセージをキューに送信し、次にメッセージのバッチを送信します。その後、アプリケーションはユーザーからの入力を待ちます。入力としては、キューに送信する追加メッセージや、アプリケーションの終了要求などが考えられます。

この例と、[次のメッセージの受信に関する例](#)を一緒に使用して、Amazon SQS のメッセージフローを確認できます。

以下のセクションでは、この例のスニペットを確認できます。その下には、[この例のコードの全文](#)が示されており、そのままビルドして実行できます。

トピック

- [メッセージの送信](#)
- [メッセージのバッチの送信](#)
- [キューからのすべてのメッセージの削除](#)

- [コード全文](#)
- [その他の考慮事項](#)

メッセージの送信

次のスニペットでは、指定されたキュー URL で特定されるキューにメッセージを送信します。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//
// Method to put a message on a queue
// Could be expanded to include message attributes, etc., in a SendMessageRequest
private static async Task SendMessage(
    IAmazonSQS sqsClient, string qUrl, string messageBody)
{
    SendMessageResponse responseSendMsg =
        await sqsClient.SendMessageAsync(qUrl, messageBody);
    Console.WriteLine($"Message added to queue\n {qUrl}");
    Console.WriteLine($"HttpStatusCode: {responseSendMsg.HttpStatusCode}");
}
```

メッセージのバッチの送信

次のスニペットでは、指定されたキュー URL で特定されるキューにメッセージのバッチを送信します。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//
// Method to put a batch of messages on a queue
// Could be expanded to include message attributes, etc.,
// in the SendMessageBatchRequestEntry objects
private static async Task SendMessageBatch(
    IAmazonSQS sqsClient, string qUrl, List<SendMessageBatchRequestEntry> messages)
{
    Console.WriteLine($"Sending a batch of messages to queue\n {qUrl}");
    SendMessageBatchResponse responseSendBatch =
        await sqsClient.SendMessageBatchAsync(qUrl, messages);
    // Could test responseSendBatch.Failed here
    foreach (SendMessageBatchResultEntry entry in responseSendBatch.Successful)
        Console.WriteLine($"Message {entry.Id} successfully queued.");
}
```

キューからのすべてのメッセージの削除

次のスニペットでは、指定されたキュー URL で特定されるキューからすべてのメッセージを削除します。この操作は、キューの消去とも呼ばれます。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//  
// Method to delete all messages from the queue  
private static async Task DeleteAllMessages(IAmazonSQS sqsClient, string qUrl)  
{  
    Console.WriteLine($"\\nPurging messages from queue\\n {qUrl}...");  
    PurgeQueueResponse responsePurge = await sqsClient.PurgeQueueAsync(qUrl);  
    Console.WriteLine($"HttpStatusCode: {responsePurge.HttpStatusCode}");  
}
```

コード全文

このセクションでは、例に関連する参考資料とコードの全文を示します。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [AWSSDK.SQS](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.SQS](#)

クラス [AmazonSQSClient](#)

- 名前空間 [Amazon.SQS.Model](#)

クラス [PurgeQueueResponse](#)

クラス [SendMessageBatchResponse](#)

クラス [SendMessageResponse](#)

クラス [SendMessageBatchRequestEntry](#)

クラス [SendMessageBatchResultEntry](#)

コード

```

using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.SQS;
using Amazon.SQS.Model;

namespace SQSSendMessages
{
    // =====
    // Class to send messages to a queue
    class Program
    {
        // Some example messages to send to the queue
        private const string JsonMessage = "{\\"product\\": [{\\"name\\":\\"Product A\\",\\"price\\": \\"32\\"},{\\"name\\": \\"Product B\\",\\"price\\": \\"27\\"}]}";
        private const string XmlMessage = "<products><product name=\\"Product A\\" price=\\"32\\" /><product name=\\"Product B\\" price=\\"27\\" /></products>";
        private const string CustomMessage = "||product|Product A|32||product|Product B|27||";
        private const string TextMessage = "Just a plain text message.";

        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Do some checks on the command-line
            if(args.Length == 0)
            {
                Console.WriteLine("\nUsage: SQSSendMessages queue_url");
                Console.WriteLine("    queue_url - The URL of an existing SQS queue.");
                return;
            }
            if(!args[0].StartsWith("https://sqs."))
            {
                Console.WriteLine("\nThe command-line argument isn't a queue URL:");
                Console.WriteLine($"{args[0]}");
                return;
            }

            // Create the Amazon SQS client
            var sqsClient = new AmazonSQSClient();

            // (could verify that the queue exists)

```

```

// Send some example messages to the given queue
// A single message
await SendMessage(sqsClient, args[0], JsonMessage);

// A batch of messages
var batchMessages = new List<SendMessageBatchRequestEntry>{
    new SendMessageBatchRequestEntry("xmlMsg", XmlMessage),
    new SendMessageBatchRequestEntry("customeMsg", CustomMessage),
    new SendMessageBatchRequestEntry("textMsg", TextMessage)};
await SendMessageBatch(sqsClient, args[0], batchMessages);

// Let the user send their own messages or quit
await InteractWithUser(sqsClient, args[0]);

// Delete all messages that are still in the queue
await DeleteAllMessages(sqsClient, args[0]);
}

//
// Method to put a message on a queue
// Could be expanded to include message attributes, etc., in a SendMessageRequest
private static async Task SendMessage(
    IAmazonSQS sqsClient, string qUrl, string messageBody)
{
    SendMessageResponse responseSendMsg =
        await sqsClient.SendMessageAsync(qUrl, messageBody);
    Console.WriteLine($"Message added to queue\n {qUrl}");
    Console.WriteLine($"HttpStatusCode: {responseSendMsg.HttpStatusCode}");
}

//
// Method to put a batch of messages on a queue
// Could be expanded to include message attributes, etc.,
// in the SendMessageBatchRequestEntry objects
private static async Task SendMessageBatch(
    IAmazonSQS sqsClient, string qUrl, List<SendMessageBatchRequestEntry> messages)
{
    Console.WriteLine($"Sending a batch of messages to queue\n {qUrl}");
    SendMessageBatchResponse responseSendBatch =
        await sqsClient.SendMessageBatchAsync(qUrl, messages);
    // Could test responseSendBatch.Failed here
    foreach(SendMessageBatchResultEntry entry in responseSendBatch.Successful)

```

```
        Console.WriteLine($"Message {entry.Id} successfully queued.");
    }

    //
    // Method to get input from the user
    // They can provide messages to put in the queue or exit the application
    private static async Task InteractWithUser(IAmazonSQS sqsClient, string qUrl)
    {
        string response;
        while (true)
        {
            // Get the user's input
            Console.WriteLine("\nType a message for the queue or \"exit\" to quit:");
            response = Console.ReadLine();
            if(response.ToLower() == "exit") break;

            // Put the user's message in the queue
            await SendMessage(sqsClient, qUrl, response);
        }
    }

    //
    // Method to delete all messages from the queue
    private static async Task DeleteAllMessages(IAmazonSQS sqsClient, string qUrl)
    {
        Console.WriteLine($"Purging messages from queue\n {qUrl}...");
        PurgeQueueResponse responsePurge = await sqsClient.PurgeQueueAsync(qUrl);
        Console.WriteLine($"HttpStatusCode: {responsePurge.HttpStatusCode}");
    }
}
}
```

その他の考慮事項

- 許可される文字など、メッセージのさまざまな制限については、[Amazon Simple Queue Service デベロッパーガイド](#)の「[メッセージに関連するクォータ](#)」を参照してください。
- メッセージは削除されるか、またはキューが消去されるまでキューに残ります。アプリケーションがメッセージを受信すると、そのメッセージはキュー内にまだ存在していたとしてもキューで表

示されなくなります。可視性タイムアウトの詳細については、「[Amazon SQS 可視性タイムアウト](#)」を参照してください。

- メッセージ本文に加えて、メッセージに属性を追加することもできます。詳細については、「[メッセージメタデータ](#)」を参照してください。

Amazon SQS メッセージの受信

この例では、を使用して Amazon SQS キューからメッセージ AWS SDK for .NET を受信する方法を示します。このキューは、[プログラムまたは Amazon SQS コンソール](#)を使用して作成できます。アプリケーションはキューから 1 つのメッセージを読み取り、メッセージを処理 (この例ではコンソールにメッセージ本文を表示) した後で、キューからメッセージを削除します。アプリケーションは、ユーザーがキーボードでキーを入力するまで、これらの手順を繰り返します。

この例と、[前のメッセージの送信に関する例](#)を一緒に使用して、Amazon SQS のメッセージフローを確認できます。

以下のセクションでは、この例のスニペットを確認できます。その下には、[この例のコードの全文](#)が示されており、そのままビルドして実行できます。

トピック

- [メッセージの受信](#)
- [メッセージの削除](#)
- [コード全文](#)
- [その他の考慮事項](#)

メッセージの受信

次のスニペットでは、指定されたキュー URL で特定されるキューからメッセージを受信します。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//  
// Method to read a message from the given queue  
// In this example, it gets one message at a time  
private static async Task<ReceiveMessageResponse> GetMessage(  
    IAmazonSQS sqsClient, string qUrl, int waitTime=0)  
{
```



```
return await sqsClient.ReceiveMessageAsync(new ReceiveMessageRequest{
    QueueUrl=qUrl,
    MaxNumberOfMessages=MaxMessages,
    WaitTimeSeconds=waitTime
    // (Could also request attributes, set visibility timeout, etc.)
});
}
```

メッセージの削除

次のスニペットでは、指定されたキュー URL で特定されるキューからメッセージを削除します。

[このトピックの最後](#)で、スニペットが実際に使用されている例を確認できます。

```
//
// Method to delete a message from a queue
private static async Task DeleteMessage(
    IAmazonSQS sqsClient, Message message, string qUrl)
{
    Console.WriteLine($"Deleting message {message.MessageId} from queue...");
    await sqsClient.DeleteMessageAsync(qUrl, message.ReceiptHandle);
}
```

コード全文

このセクションでは、例に関連する参考資料とコードの全文を示します。

SDK リファレンス

NuGet パッケージ:

- [AWSSDK.SQS](#)

プログラミング要素:

- 名前空間 [Amazon.SQS](#)
 - クラス [AmazonSQSClient](#)
- 名前空間 [Amazon.SQS.Model](#)
 - クラス [ReceiveMessageRequest](#)
 - クラス [ReceiveMessageResponse](#)

コード

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.SQS;
using Amazon.SQS.Model;

namespace SQSReceiveMessages
{
    class Program
    {
        private const int MaxMessages = 1;
        private const int WaitTime = 2;
        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Do some checks on the command-line
            if(args.Length == 0)
            {
                Console.WriteLine("\nUsage: SQSReceiveMessages queue_url");
                Console.WriteLine("    queue_url - The URL of an existing SQS queue.");
                return;
            }
            if(!args[0].StartsWith("https://sqs."))
            {
                Console.WriteLine("\nThe command-line argument isn't a queue URL:");
                Console.WriteLine($"{args[0]}");
                return;
            }

            // Create the Amazon SQS client
            var sqsClient = new AmazonSQSClient();

            // (could verify that the queue exists)
            // Read messages from the queue and perform appropriate actions
            Console.WriteLine($"Reading messages from queue\n {args[0]}");
            Console.WriteLine("Press any key to stop. (Response might be slightly
            delayed.)");
            do
            {
                var msg = await GetMessage(sqsClient, args[0], WaitTime);
                if(msg.Messages.Count != 0)
                {
                    if(ProcessMessage(msg.Messages[0]))
                        await DeleteMessage(sqsClient, msg.Messages[0], args[0]);
                }
            }
        }
    }
}
```

```
    }
    } while(!Console.KeyAvailable);
}

//
// Method to read a message from the given queue
// In this example, it gets one message at a time
private static async Task<ReceiveMessageResponse> GetMessage(
    IAmazonSQS sqsClient, string qUrl, int waitTime=0)
{
    return await sqsClient.ReceiveMessageAsync(new ReceiveMessageRequest{
        QueueUrl=qUrl,
        MaxNumberOfMessages=MaxMessages,
        WaitTimeSeconds=waitTime
        // (Could also request attributes, set visibility timeout, etc.)
    });
}

//
// Method to process a message
// In this example, it simply prints the message
private static bool ProcessMessage(Message message)
{
    Console.WriteLine($"\\nMessage body of {message.MessageId}:");
    Console.WriteLine($"{message.Body}");
    return true;
}

//
// Method to delete a message from a queue
private static async Task DeleteMessage(
    IAmazonSQS sqsClient, Message message, string qUrl)
{
    Console.WriteLine($"\\nDeleting message {message.MessageId} from queue...");
    await sqsClient.DeleteMessageAsync(qUrl, message.ReceiptHandle);
}
}
```

その他の考慮事項

- ロングポーリングを指定するために、この例では `ReceiveMessageAsync` メソッドへの各呼び出しで `WaitTimeSeconds` プロパティを使用しています。

キューの[作成時](#)または[更新時](#)に `ReceiveMessageWaitTimeSeconds` 属性を使用して、キューのすべてのメッセージにロングポーリングを指定することもできます。

ショートポーリングとロングポーリングの違いに関する詳細については、Amazon Simple Queue Service デベロッパーガイドの「[ショートポーリングとロングポーリング](#)」を参照してください。

- メッセージの処理中に受信ハンドルを使用して、メッセージの可視性タイムアウトを変更できます。その方法については、[AmazonSQSClient](#) クラスの `ChangeMessageVisibilityAsync` メソッドを参照してください。
- `DeleteMessageAsync` メソッドを無条件で呼び出すと、可視性タイムアウトの設定にかかわらず、メッセージがキューから削除されます。

コンピューターサービスでAWS Lambdaを使用する

AWS SDK for .NET は AWS Lambda をサポートしているため、サーバーのプロビジョニングや管理を行わずにコードを実行できます。詳細については、[AWS Lambda製品ページ](#)と[AWS Lambdaデベロッパーガイド](#)、特に [C# での作業](#)に関するセクションを参照してください。

API

AWS SDK for .NET は、AWS Lambda 用の API を提供しています。API を使用すると、[関数](#)、[トリガー](#)、[イベント](#)などの Lambda 機能进行操作できます。API の全セットを確認するには、「[AWS SDK for .NET API リファレンス](#)」の「[Lambda](#)」を参照してください。

Lambda API は [NuGet/パッケージ](#)によって提供されます。

前提条件

開始する前に、[環境とプロジェクトがセットアップされている](#)ことを必ず確認してください。また、「[SDK の機能](#)」の情報を確認してください。

追加情報

.NET Aspire を使用した AWS Lambda の開発については、「[AWS と .NET Aspire との統合](#)」を参照してください。

トピック

トピック

- [アノテーションを使用してAWS Lambda関数を記述する](#)

アノテーションを使用してAWS Lambda関数を記述する

Lambda 関数を作成する場合、大量のハンドラーコードの記述やAWS CloudFormationテンプレートの更新などのタスクが必要になることがあります。Lambda アノテーションは、.NET 6 Lambda 関数にかかるこうした負担を軽減するためのフレームワークです。これにより、C# で Lambda をより自然に記述できるようになります。

Lambda Annotations フレームワークを使用する利点の例として、2 つの数値を加算する以下のコードスニペットを考えてみましょう。

Lambda Annotations なし

```
public class Functions
{
    public APIGatewayProxyResponse LambdaMathPlus(APIGatewayProxyRequest request,
        ILambdaContext context)
    {
        if (!request.PathParameters.TryGetValue("x", out var xs))
        {
            return new APIGatewayProxyResponse
            {
                StatusCode = (int)HttpStatusCode.BadRequest
            };
        }
        if (!request.PathParameters.TryGetValue("y", out var ys))
        {
            return new APIGatewayProxyResponse
            {
                StatusCode = (int)HttpStatusCode.BadRequest
            };
        }
    }
}
```

```
    }

    var x = int.Parse(xs);
    var y = int.Parse(ys);

    return new APIGatewayProxyResponse
    {
        StatusCode = (int)HttpStatusCode.OK,
        Body = (x + y).ToString(),
        Headers = new Dictionary<string, string> { { "Content-Type", "text/
plain" } }
    };
}
```

Lambda Annotations あり

```
public class Functions
{
    [LambdaFunction]
    [RestApi("/plus/{x}/{y}")]
    public int Plus(int x, int y)
    {
        return x + y;
    }
}
```

例に示されているように、Lambda Annotations を使用すると特定のボイラープレートコードが不要になります。

フレームワークの使用方法の詳細については、次のリソースを参照してください。

- Lambda アノテーションのAPIと属性に関するドキュメントについては、[GitHub のREADME](#)を参照してください。
- Lambda Annotations の[ブログ投稿](#)。
- [Amazon.Lambda.Annotations](#) NuGet パッケージ。
- GitHubの [写真アセット管理プロジェクト](#)。具体的には、[PamapiAnnotations](#) フォルダーとプロジェクト [README](#) の Lambda アノテーションへのリファレンスを参照してください。

AWS SDK for .NET の高レベルライブラリとフレームワーク

以下のセクションには、SDK のコア機能には含まれない高レベルライブラリとフレームワークに関する情報が含まれています。これらのライブラリとフレームワークは、SDK のコア機能を使用して特定のタスクを容易にする機能を作成します。

AWS SDK for .NET を初めて使用する場合は、まず [クイックツアーに参加する](#) トピックを確認する必要があります。SDK についてわかりやすく説明しています。

開始する前に、[環境とプロジェクトがセットアップされている](#) ことを必ず確認してください。また、「[SDK の機能](#)」の情報を確認してください。

トピック

- [AWS Message Processing Framework for .NET](#)
- [AWS SDK for .NET での AWS と .NET Aspire との統合](#)

AWS Message Processing Framework for .NET

AWS Message Processing Framework for .NET は、Amazon Simple Queue Service (SQS)、Amazon Simple Notification Service (SNS)、Amazon EventBridge などの AWS のサービスを使用した .NET メッセージ処理アプリケーションの開発を簡素化する、AWS ネイティブフレームワークです。このフレームワークにより、デベロッパーが記述する必要のある定型コードの量が減り、メッセージを公開または使用する際にビジネスロジックに集中できるようになります。フレームワークが開発を簡素化する方法の詳細については、ブログ記事「[Introducing the AWS Message Processing Framework for .NET \(Preview\)](#)」を参照してください。特に最初の部分には、低レベルの API コールの使用とフレームワークの使用の違いを示すデモンストレーションがあります。

メッセージ処理フレームワークは、次のアクティビティと機能をサポートしています。

- SQS へのメッセージの送信と、SNS と EventBridge へのイベントの発行。
- 通常、バックグラウンドサービスで使用する長時間実行されるポーラーを使用した、SQS からのメッセージの受信と処理。これには、他のクライアントがメッセージを処理できないように、メッセージの処理中に可視性タイムアウトを管理することが含まれます。
- AWS Lambda 関数でのメッセージの処理。
- FIFO (first-in-first-out) SQS キューと SNS トピック。
- ログ記録用の OpenTelemetry。

これらのアクティビティと機能の詳細については、[ブログ記事](#)の「Features」セクションと以下に記載されているトピックを参照してください。

開始する前に、[環境とプロジェクトがセットアップされている](#)ことを必ず確認してください。また、「[SDK の機能](#)」の情報を確認してください。

その他のリソース

- [NuGet.org](#) の [AWS.Messaging](#) パッケージ。
- [API リファレンス](#)。
- <https://github.com/aws/aws-dotnet-messaging/> の GitHub リポジトリの README ファイル
- Microsoft からの [.NET 依存関係インジェクション](#)。
- Microsoft からの [.NET 汎用ホスト](#)。

トピック

- [AWS Message Processing Framework for .NET の使用を開始する](#)
- [AWS Message Processing Framework for .NET を使用してメッセージを発行する](#)
- [AWS Message Processing Framework for .NET でメッセージを使用する](#)
- [AWS Message Processing Framework for .NET で FIFO を使用する](#)
- [AWS Message Processing Framework for .NET のログ記録と Open Telemetry](#)
- [AWS Message Processing Framework for .NET をカスタマイズします](#)
- [AWS Message Processing Framework for .NET のセキュリティ](#)

AWS Message Processing Framework for .NET の使用を開始する

開始する前に、[環境とプロジェクトがセットアップされている](#)ことを必ず確認してください。また、「[SDK の機能](#)」の情報を確認してください。

このトピックでは、メッセージ処理フレームワークの使用を開始するのに役立つ情報を提供します。前提条件と設定情報に加えて、一般的なシナリオの実装方法を示すチュートリアルが用意されています。

設定の前提条件

- アプリケーションに提供する認証情報には、使用するメッセージングサービスとオペレーションに対する適切なアクセス許可が必要です。詳細については、それぞれのデベロッパーガイドの

[SQS](#)、[SNS](#)、および [EventBridge](#) のセキュリティトピックを参照してください。また、特定の[アクセス許可](#)について説明する GitHub の [README](#) ファイルの部分も参照してください。

- AWS Message Processing Framework for .NET を使用するには、[AWS.Messaging](#) NuGet パッケージをプロジェクトに追加する必要があります。例:

```
dotnet add package AWS.Messaging
```

- フレームワークは、.NET の[依存関係インジェクション \(DI\) サービスコンテナ](#)と統合されています。アプリケーションの起動時に `AddAWSMessageBus` を呼び出して DI コンテナに追加することによって、フレームワークを設定できます。

```
var builder = WebApplication.CreateBuilder(args);

// Register the AWS Message Processing Framework for .NET
builder.Services.AddAWSMessageBus(builder =>
{
    // Register that you'll publish messages of type ChatMessage to an existing queue
    builder.AddSQSPublisher<ChatMessage>("https://sqs.us-west-2.amazonaws.com/012345678910/MyAppProd");
});
```

チュートリアル

このチュートリアルでは、AWS Message Processing Framework for .NET の使用方法を示します。2つのアプリケーションを作成します。API エンドポイントでリクエストを受信したときに Amazon SQS キューにメッセージを送信する ASP.NET Core Minimal API と、これらのメッセージをポーリングして処理する長時間実行されるコンソールアプリケーションです。

- このチュートリアルの手順では .NET CLI を中心に説明していますが、.NET CLI や Microsoft Visual Studio などのクロスプラットフォームツールを使用してこのチュートリアルを実行できます。これらのツールの詳細については、「[ツールチェーンのインストールと設定](#)」を参照してください。
- このチュートリアルでは、認証情報に [default] プロファイルを使用していることを前提としています。また、Amazon SQS メッセージを送受信するための適切なアクセス許可を持つ短期認証情報が利用可能であることを前提としています。詳細については、「[を使用して SDK 認証を設定する AWS](#)」と「[SQS のセキュリティ](#)」のトピックを参照してください。

Note

このチュートリアルを実行すると、SQS メッセージングのコストが発生する可能性があります。

ステップ

- [SQS キューを作成します](#)
- [公開アプリケーションを作成して実行する](#)
- [処理アプリケーションの作成と実行](#)
- [クリーンアップ](#)

SQS キューを作成します

このチュートリアルでは、メッセージを送受信するために SQS キューが必要です。キューは、AWS CLI または AWS Tools for PowerShell に次のいずれかのコマンドを使用して作成できます。返されるキュー URL を書き留めておき、次のフレームワーク設定で指定できるようにします。

AWS CLI

```
aws sqs create-queue --queue-name DemoQueue
```

AWS Tools for PowerShell

```
New-SQSQueue -QueueName DemoQueue
```

公開アプリケーションを作成して実行する

公開アプリケーションを作成して実行するには、次の手順に従います。

1. コマンドプロンプトまたはターミナルを開きます。.NET プロジェクトを作成できるオペレーティングシステムフォルダを検索するか作成します。
2. そのフォルダで、次のコマンドを実行して .NET プロジェクトを作成します。

```
dotnet new webapi --name Publisher
```

3. 新しいプロジェクトのフォルダに移動します。AWS Message Processing Framework for .NET への依存関係を追加します。

```
cd Publisher
dotnet add package AWS.Messaging
```

 Note

認証に AWS IAM Identity Center を使用している場合は、必ず `AWSSDK.SSO` と `AWSSDK.SSO0IDC` も追加してください。

4. `Program.cs` のコードを、以下のコードに置き換えます。

```
using AWS.Messaging;
using Microsoft.AspNetCore.Mvc;
using Publisher;

var builder = WebApplication.CreateBuilder(args);

// Add services to the container.
// Learn more about configuring Swagger/OpenAPI at https://aka.ms/aspnetcore/
// swashbuckle.
builder.Services.AddEndpointsApiExplorer();
builder.Services.AddSwaggerGen();

// Configure the AWS Message Processing Framework for .NET.
builder.Services.AddAWSMessageBus(builder =>
{
    // Check for input SQS URL.
    // The SQS URL should be passed as a command line argument or set in the Debug
    // launch profile.
    if ((args.Length == 1) && (args[0].Contains("https://sqs.")))
    {
        // Register that you'll publish messages of type GreetingMessage:
        // 1. To a specified queue.
        // 2. Using the message identifier "greetingMessage", which will be used
        //    by handlers to route the message to the appropriate handler.
        builder.AddSQSPublisher<GreetingMessage>(args[0], "greetingMessage");
    }
    // You can map additional message types to queues or topics here as well.
});
```

```
var app = builder.Build();

// Configure the HTTP request pipeline.
if (app.Environment.IsDevelopment())
{
    app.UseSwagger();
    app.UseSwaggerUI();
}

app.UseHttpsRedirection();

// Create an API Endpoint that receives GreetingMessage objects
// from the caller and then sends them as an SQS message.
app.MapPost("/greeting", async ([FromServices] IMessagePublisher publisher,
    Publisher.GreetingMessage message) =>
    {
        return await PostGreeting(message, publisher);
    })
    .WithName("SendGreeting")
    .WithOpenApi();

app.Run();

public partial class Program
{
    /// <summary>
    /// Endpoint for posting a greeting message.
    /// </summary>
    /// <param name="greetingMessage">The greeting message.</param>
    /// <param name="messagePublisher">The message publisher.</param>
    /// <returns>Async task result.</returns>
    public static async Task<IResult> PostGreeting(GreetingMessage greetingMessage,
        IMessagePublisher messagePublisher)
    {
        if (greetingMessage.SenderName == null || greetingMessage.Greeting == null)
        {
            return Results.BadRequest();
        }

        // Publish the message to the queue configured above.
        await messagePublisher.PublishAsync(greetingMessage);

        return Results.Ok();
    }
}
```

```
    }  
}  
  
namespace Publisher  
{  
    /// <summary>  
    /// This class represents the message contents.  
    /// </summary>  
    public class GreetingMessage  
    {  
        public string? SenderName { get; set; }  
        public string? Greeting { get; set; }  
    }  
}
```

5. 以下のコマンドを実行してください。これにより、Swagger UI でブラウザウィンドウが開き、API を探索してテストできます。

```
dotnet watch run <queue URL created earlier>
```

6. /greeting エンドポイントを開き、[試す] を選択します。
7. メッセージの senderName 値と greeting 値を指定し、[実行] を選択します。これにより、SQS メッセージを送信する API が呼び出されます。

処理アプリケーションの作成と実行

処理アプリケーションを作成して実行するには、次の手順に従います。

1. コマンドプロンプトまたはターミナルを開きます。.NET プロジェクトを作成できるオペレーティングシステムフォルダを検索するか作成します。
2. そのフォルダで、次のコマンドを実行して .NET プロジェクトを作成します。

```
dotnet new console --name Handler
```

3. 新しいプロジェクトのフォルダに移動します。AWS Message Processing Framework for .NET への依存関係を追加します。また、Microsoft.Extensions.Hosting パッケージを追加します。これにより、[.NET 汎用ホスト](#)を介してフレームワークを設定できます。

```
cd Handler  
dotnet add package AWS.Messaging
```

```
dotnet add package Microsoft.Extensions.Hosting
```

Note

認証に AWS IAM Identity Center を使用している場合は、必ず `AWSSDK.SSO` と `AWSSDK.SSO0IDC` も追加してください。

4. Program.cs のコードを、以下のコードに置き換えます。

```
using AWS.Messaging;
using Handler;
using Microsoft.Extensions.DependencyInjection;
using Microsoft.Extensions.Hosting;

var builder = Host.CreateDefaultBuilder(args);

builder.ConfigureServices(services =>
{
    // Register the AWS Message Processing Framework for .NET.
    services.AddAWSMessageBus(builder =>
    {
        // Check for input SQS URL.
        // The SQS URL should be passed as a command line argument or set in the
        Debug launch profile.
        if ((args.Length == 1) && (args[0].Contains("https://sqs.")))
        {
            // Register you'll poll the following queue.
            builder.AddSQSPoller(args[0]);

            // And that messages of type "greetingMessage" should be:
            // 1. Deserialized as GreetingMessage objects.
            // 2. Which are then passed to GreetingMessageHandler.
            builder.AddMessageHandler<GreetingMessageHandler,
            GreetingMessage>("greetingMessage");

        }
        // You can add additional message handlers here, using different message
        types.
    });
});
```

```
var host = builder.Build();
await host.RunAsync();

namespace Handler
{
    /// <summary>
    /// This class represents the message contents.
    /// </summary>
    public class GreetingMessage
    {
        public string? SenderName { get; set; }
        public string? Greeting { get; set; }
    }

    /// <summary>
    /// This handler is invoked each time you receive the message.
    /// </summary>
    public class GreetingMessageHandler : IMessageHandler<GreetingMessage>
    {
        public Task<MessageProcessStatus> HandleAsync(
            MessageEnvelope<GreetingMessage> messageEnvelope,
            CancellationToken token = default)
        {
            Console.WriteLine(
                $"Received message {messageEnvelope.Message.Greeting} from {messageEnvelope.Message.SenderName}");
            return Task.FromResult(MessageProcessStatus.Success());
        }
    }
}
```

5. 以下のコマンドを実行してください。これにより、長時間実行されるポーラーが開始されます。

```
dotnet run <queue URL created earlier>
```

起動直後に、アプリケーションはこのチュートリアル最初の部分で送信されたメッセージを受信し、次のメッセージをログに記録します。

```
Received message {greeting} from {senderName}
```

6. Ctrl+C キーを押してポーラーを停止します。

クリーンアップ

キューを削除するには、AWS CLI または AWS Tools for PowerShell の次のいずれかのコマンドを使用します。

AWS CLI

```
aws sqs delete-queue --queue-url "<queue URL created earlier>"
```

AWS Tools for PowerShell

```
Remove-SQSQueue -QueueUrl "<queue URL created earlier>"
```

AWS Message Processing Framework for .NET を使用してメッセージを発行する

AWS Message Processing Framework for .NET は、1 つ以上のメッセージタイプの発行、1 つ以上のメッセージタイプの処理、または同じアプリケーションでの両方の実行をサポートしています。

次のコードは、異なる AWS サービスに異なるメッセージタイプを発行するアプリケーションの設定を示しています。

```
var builder = WebApplication.CreateBuilder(args);

// Register the AWS Message Processing Framework for .NET
builder.Services.AddAWSMessageBus(builder =>
{
    // Register that you'll send messages of type ChatMessage to an existing queue
    builder.AddSQSPublisher<ChatMessage>("https://sqs.us-west-2.amazonaws.com/012345678910/MyAppProd");

    // Register that you'll publish messages of type OrderInfo to an existing SNS topic
    builder.AddSNSPublisher<OrderInfo>("arn:aws:sns:us-west-2:012345678910:MyAppProd");

    // Register that you'll publish messages of type FoodItem to an existing
    EventBridge bus
    builder.AddEventBridgePublisher<FoodItem>("arn:aws:events:us-west-2:012345678910:event-bus/default");
});
```


起動時にフレームワークを登録したら、汎用 `IMessagePublisher` をコードに挿入します。PublishAsync メソッドを呼び出して、上記で設定されたメッセージタイプを発行します。汎用パブリッシャーは、メッセージをルーティングする送信先をそのタイプに基づいて決定します。

次の例では、ASP.NET MVC コントローラーがユーザーから ChatMessage メッセージと OrderInfo イベントの両方を受信し、それぞれ Amazon SQS と Amazon SNS に発行します。どちらのメッセージタイプも、上記で設定された汎用パブリッシャーを使用して発行できます。

```
[ApiController]
[Route("[controller]")]
public class PublisherController : ControllerBase
{
    private readonly IMessagePublisher _messagePublisher;

    public PublisherController(IMessagePublisher messagePublisher)
    {
        _messagePublisher = messagePublisher;
    }

    [HttpPost("chatmessage", Name = "Chat Message")]
    public async Task<IActionResult> PublishChatMessage([FromBody] ChatMessage message)
    {
        // Perform business and validation logic on the ChatMessage here.
        if (message == null)
        {
            return BadRequest("A chat message was not submitted. Unable to forward to the message queue.");
        }
        if (string.IsNullOrEmpty(message.MessageDescription))
        {
            return BadRequest("The MessageDescription cannot be null or empty.");
        }

        // Send the ChatMessage to SQS, using the generic publisher.
        await _messagePublisher.PublishAsync(message);

        return Ok();
    }

    [HttpPost("order", Name = "Order")]
    public async Task<IActionResult> PublishOrder([FromBody] OrderInfo message)
    {
        if (message == null)
```

```
{
    return BadRequest("An order was not submitted.");
}

// Publish the OrderInfo to SNS, using the generic publisher.
await _messagePublisher.PublishAsync(message);

return Ok();
}
```

メッセージを適切な処理ロジックにルーティングするために、フレームワークはメッセージタイプ識別子と呼ばれるメタデータを使用します。デフォルトでは、これはアセンブリ名を含むメッセージの .NET タイプのフルネームです。メッセージの送信と処理の両方を行う場合、メッセージオブジェクトの定義をプロジェクト間で共有すると、このメカニズムはうまく機能します。ただし、メッセージが別の名前空間で再定義されている場合、または他のフレームワークやプログラミング言語とメッセージを交換する場合は、メッセージタイプ識別子を上書きする必要がある場合があります。

```
var builder = Host.CreateDefaultBuilder(args);

builder.ConfigureServices(services =>
{
    // Register the AWS Message Processing Framework for .NET
    services.AddAWSMessageBus(builder =>
    {
        // Register that you'll publish messages of type GreetingMessage to an existing
        queue
        builder.AddSQSPublisher<GreetingMessage>("https://sqs.us-
west-2.amazonaws.com/012345678910/MyAppProd", "greetingMessage");
    });
});
```

サービス固有のパブリッシャー

上記の例では、汎用 `IMessagePublisher` を使用しています。これは、設定されたメッセージタイプに基づいて、サポートされている任意の AWS サービスに発行できます。このフレームワークは、Amazon SQS、Amazon SNS、および Amazon EventBridge のサービス固有のパブリッシャーも提供します。これらの固有パブリッシャーは、そのサービスにのみ適用され、タイプ `ISQSPublisher`、`ISNSPublisher`、`IEventBridgePublisher` を使用して挿入できるオプションを公開します。

例えば、SQS FIFO キューにメッセージを送信する場合は、適切な[メッセージグループ ID](#)を設定する必要があります。次のコードは、ChatMessage の例を再び示していますが、今度は ISQSPublisher を使用して SQS 固有のオプションを設定しています。

```
public class PublisherController : ControllerBase
{
    private readonly ISQSPublisher _sqsPublisher;

    public PublisherController(ISQSPublisher sqsPublisher)
    {
        _sqsPublisher = sqsPublisher;
    }

    [HttpPost("chatmessage", Name = "Chat Message")]
    public async Task<IActionResult> PublishChatMessage([FromBody] ChatMessage message)
    {
        // Perform business and validation logic on the ChatMessage here
        if (message == null)
        {
            return BadRequest("A chat message was not submitted. Unable to forward to the message queue.");
        }
        if (string.IsNullOrEmpty(message.MessageDescription))
        {
            return BadRequest("The MessageDescription cannot be null or empty.");
        }

        // Send the ChatMessage to SQS using the injected ISQSPublisher, with SQS-specific options
        await _sqsPublisher.SendAsync(message, new SQSOptions
        {
            DelaySeconds = <delay-in-seconds>,
            MessageAttributes = <message-attributes>,
            MessageDeduplicationId = <message-deduplication-id>,
            MessageGroupId = <message-group-id>
        });

        return Ok();
    }
}
```

それぞれ ISNSPublisher と IEventBridgePublisher を使用して、SNS と EventBridge でも同じことができます。

```
await _snsPublisher.PublishAsync(message, new SNSOptions
{
    Subject = <subject>,
    MessageAttributes = <message-attributes>,
    MessageDeduplicationId = <message-deduplication-id>,
    MessageGroupId = <message-group-id>
});
```

```
await _eventBridgePublisher.PublishAsync(message, new EventBridgeOptions
{
    DetailType = <detail-type>,
    Resources = <resources>,
    Source = <source>,
    Time = <time>,
    TraceHeader = <trace-header>
});
```

デフォルトでは、特定のタイプのメッセージは、事前に設定された送信先に送信されます。ただし、メッセージ固有のパブリッシャーを使用して、1つのメッセージの送信先を上書きできます。また、メッセージの発行に使用される基盤となる AWS SDK for .NET クライアントを上書きすることもできます。これは、送信先に応じてロールまたは認証情報を変更する必要があるマルチテナントアプリケーションで役立ちます。

```
await _sqsPublisher.SendAsync(message, new SQSOptions
{
    OverrideClient = <override IAmazonSQS client>,
    QueueUrl = <override queue URL>
});
```

AWS Message Processing Framework for .NET でメッセージを使用する

AWS Message Processing Framework for .NET では、フレームワークまたはいずれかのメッセージングサービスを使用することによって[発行された](#)メッセージを使用できます。メッセージはさまざまな方法で使用でき、その一部を以下に示します。

メッセージハンドラー

メッセージを使用するには、処理するメッセージタイプごとに `IMessageHandler` インターフェイスを使用してメッセージハンドラーを実装します。メッセージタイプとメッセージハンドラー間のマッピングは、プロジェクトの起動時に設定されます。

```
await Host.CreateDefaultBuilder(args)
    .ConfigureServices(services =>
    {
        // Register the AWS Message Processing Framework for .NET
        services.AddAWSMessageBus(builder =>
        {
            // Register an SQS Queue that the framework will poll for messages.
            // NOTE: The URL given below is an example. Use the appropriate URL for
            your SQS Queue.
            builder.AddSQSPoller("https://sqs.us-west-2.amazonaws.com/012345678910/
MyAppProd");

            // Register all IMessageHandler implementations with the message type they
            should process.
            // Here messages that match our ChatMessage .NET type will be handled by
            our ChatMessageHandler
            builder.AddMessageHandler<ChatMessageHandler, ChatMessage>();
        });
    })
    .Build()
    .RunAsync();
```

次のコードは、ChatMessage メッセージのサンプルのメッセージハンドラーを示しています。

```
public class ChatMessageHandler : IMessageHandler<ChatMessage>
{
    public Task<MessageProcessStatus> HandleAsync(MessageEnvelope<ChatMessage>
messageEnvelope, CancellationToken token = default)
    {
        // Add business and validation logic here.
        if (messageEnvelope == null)
        {
            return Task.FromResult(MessageProcessStatus.Failed());
        }

        if (messageEnvelope.Message == null)
        {
            return Task.FromResult(MessageProcessStatus.Failed());
        }

        ChatMessage message = messageEnvelope.Message;

        Console.WriteLine($"Message Description: {message.MessageDescription}");
    }
}
```

```
        // Return success so the framework will delete the message from the queue.
        return Task.FromResult(MessageProcessStatus.Success());
    }
}
```

外部の `MessageEnvelope` には、フレームワークによって使用されるメタデータが含まれています。その `message` プロパティはメッセージタイプです (この場合は `ChatMessage`)。

`MessageProcessStatus.Success()` に戻って、メッセージが正常に処理され、フレームワークが Amazon SQS キューからメッセージを削除することを示すことができます。`MessageProcessStatus.Failed()` を返すと、メッセージはキューに残るため、再度処理したり、設定されている場合は [デッドレターキュー](#) に移動したりできます。

長時間実行されるプロセスでのメッセージの処理

SQS キュー URL を使用して `AddSQSPoller` を呼び出し、キューおよびプロセスメッセージを継続的にポーリングする長時間実行 [BackgroundService](#) を開始できます。

```
await Host.CreateDefaultBuilder(args)
    .ConfigureServices(services =>
    {
        // Register the AWS Message Processing Framework for .NET
        services.AddAWSMessageBus(builder =>
        {
            // Register an SQS Queue that the framework will poll for messages.
            // NOTE: The URL given below is an example. Use the appropriate URL for
            // your SQS Queue.
            builder.AddSQSPoller("https://sqs.us-west-2.amazonaws.com/012345678910/MyAppProd", options =>
            {
                // The maximum number of messages from this queue that the framework
                // will process concurrently on this client.
                options.MaxNumberOfConcurrentMessages = 10;

                // The duration each call to SQS will wait for new messages.
                options.WaitTimeSeconds = 20;
            });

            // Register all IMessageHandler implementations with the message type they
            // should process.
            builder.AddMessageHandler<ChatMessageHandler, ChatMessage>();
        });
    });
```

```
});  
})  
.Build()  
.RunAsync();
```

SQS メッセージポーラーの設定

SQS メッセージポーラーは、AddSQSPoller を呼び出すときに SQSMessagePollerOptions によって設定できます。

- `MaxNumberOfConcurrentMessages` - キューから同時に処理するメッセージの最大数。デフォルト値は 10 です。
- `WaitTimeSeconds` - `ReceiveMessage` SQS 呼び出しがキューへのメッセージの到着を待機してから戻るまでの時間 (秒単位)。メッセージが利用可能である場合、呼び出しは `WaitTimeSeconds` より早く返されます。デフォルト値は 20 です。

メッセージ可視性タイムアウト処理

SQS メッセージには [可視性タイムアウト](#) 期間があります。あるコンシューマーが特定のメッセージの処理を開始すると、そのコンシューマーはキューに残りますが、複数回処理されないように他のコンシューマーからは非表示になります。再度表示される前にメッセージが処理および削除されない場合、別のコンシューマーが同じメッセージの処理を試みる可能性があります。

フレームワークは、現在処理中のメッセージの可視性タイムアウトを追跡して延長しようとします。この動作は、AddSQSPoller を呼び出すときに SQSMessagePollerOptions で設定できます。

- `VisibilityTimeout` - メッセージを受信した秒単位の時間は、後続の取得リクエストから非表示になります。デフォルト値は 30 です。
- `VisibilityTimeoutExtensionThreshold` - メッセージの可視性タイムアウトが期限切れのこの数秒以内になると、フレームワークは可視性タイムアウトを (さらに `VisibilityTimeout` 秒だけ) 延長します。デフォルト値は 5 です。
- `VisibilityTimeoutExtensionHeartbeatInterval` - 有効期限が切れてから `VisibilityTimeoutExtensionThreshold` 秒以内にフレームワークがメッセージをチェックし、可視性タイムアウトを延長する秒単位の頻度。デフォルト値は 1 です。

次の例では、フレームワークは 1 秒ごとに、まだ処理中のメッセージをチェックします。再表示されてから 5 秒以内のメッセージの場合、フレームワークは各メッセージの可視性タイムアウトをさらに 30 秒自動的に延長します。

```
// NOTE: The URL given below is an example. Use the appropriate URL for your SQS Queue.
builder.AddSQSPoller("https://sqs.us-west-2.amazonaws.com/012345678910/MyAppProd",
    options =>
    {
        options.VisibilityTimeout = 30;
        options.VisibilityTimeoutExtensionThreshold = 5;
        options.VisibilityTimeoutExtensionHeartbeatInterval = 1;
    });
```

AWS Lambda関数でのメッセージの処理

AWS Message Processing Framework for .NET は、[SQS と Lambda の統合](#)で使用できます。これは AWS.Messaging.Lambda パッケージによって提供されます。開始するには、「[README](#)」を参照してください。

AWS Message Processing Framework for .NET で FIFO を使用する

メッセージの順序付けとメッセージの重複排除が重要なユースケースでは、AWS Message Processing Framework for .NET は first-in-first-out (FIFO) の [Amazon SQS キュー](#)と [Amazon SNS トピック](#)をサポートします。

公開

FIFO キューまたはトピックにメッセージを発行するときには、メッセージが属するグループを指定するメッセージグループ ID を設定する必要があります。グループ内のメッセージは順番に処理されます。これは、SQS 固有および SNS 固有のメッセージパブリッシャーで設定できます。

```
await _sqsPublisher.PublishAsync(message, new SQSOptions
{
    MessageDeduplicationId = <message-deduplication-id>,
    MessageGroupId = <message-group-id>
});
```

登録中

FIFO キューからのメッセージを処理する場合、フレームワークは、ReceiveMessages 呼び出しごとに受信された順序で特定のメッセージグループ内のメッセージを処理します。フレームワークは、.fifo で終わるキューで設定すると、このオペレーションモードに自動的に入ります。

```
await Host.CreateDefaultBuilder(args)
```



```
.ConfigureServices(services =>
{
    // Register the AWS Message Processing Framework for .NET.
    services.AddAWSMessageBus(builder =>
    {
        // Because this is a FIFO queue, the framework automatically handles these
        messages in order.
        builder.AddSQSPoller("https://sqs.us-west-2.amazonaws.com/012345678910/
MPF.fifo");
        builder.AddMessageHandler<OrderMessageHandler, OrderMessage>();
    });
})
.Build()
.RunAsync();
```

AWS Message Processing Framework for .NET のログ記録と Open Telemetry

AWS Message Processing Framework for .NET は、フレームワークによって発行または処理される各メッセージについて [トレース](#) をログに記録するように OpenTelemetry が計測されます。これは [AWS.Messaging.Telemetry.OpenTelemetry](#) パッケージによって提供されます。開始するには、「[README](#)」を参照してください。

Note

ログ記録に関するセキュリティ情報については、「[AWS Message Processing Framework for .NET のセキュリティ](#)」を参照してください。

AWS Message Processing Framework for .NET をカスタマイズします

AWS Message Processing Framework for .NET は、3 つの異なる「レイヤー」でメッセージを構築、送信、処理します。

1. 最外部レイヤーで、フレームワークはサービスに固有の AWS ネイティブリクエストまたはレスポンスを構築します。例えば、Amazon SQS では、[SendMessage](#) リクエストを構築し、サービスによって定義された [Message](#) オブジェクトと連携します。
2. SQS リクエストおよびレスポンス内で、フレームワークは MessageBody 要素 (Amazon SNS の場合は Message、Amazon EventBridge の場合は Detail) を [JSON 形式の CloudEvent](#) に設定します。これには、メッセージを処理するときに MessageEnvelope オブジェクトでアクセスできるフレームワークによって設定されたメタデータが含まれます。

3. 最も内側のレイヤーでは、CloudEvent JSON オブジェクト内の data 属性に、メッセージとして送受信された .NET オブジェクトの JSON シリアル化が含まれています。

```
{
  "id": "b02f156b-0f02-48cf-ae54-4fbbe05cfffba",
  "source": "/aws/messaging",
  "specversion": "1.0",
  "type": "Publisher.Models.ChatMessage",
  "time": "2023-11-21T16:36:02.8957126+00:00",
  "data": "<the ChatMessage object serialized as JSON>"
}
```

メッセージエンベロープの設定方法と読み取り方法をカスタマイズできます。

- "id" はメッセージを一意的に識別します。デフォルトでは新しい GUID に設定されますが、独自の IMessageIdGenerator を実装して DI コンテナに挿入することで上書きできます。
- "type" は、メッセージをハンドラーにルーティングする方法を制御します。
デフォルトでは、メッセージに対応する .NET タイプのフルネームが使用されます。AddSQSPublisher、AddSNSPublisher、または AddEventBridgePublisher を介してメッセージタイプを送信先にマッピングするときに、messageTypeIdentifier パラメータを使用してこれを上書きできます。
- "source" は、メッセージを送信したシステムまたはサーバーを示します。
 - これは、AWS Lambda から発行する場合は関数名であり、Amazon ECS の場合はクラスター名とタスク ARN であり、Amazon EC2 の場合はインスタンス ID であり、それ以外の場合は /aws/messaging のフォールバック値です。
 - これは、MessageBusBuilder での AddMessageSource または AddMessageSourceSuffix で上書きできます。
- UTC での現在の DateTime に設定された "time"。これは、独自の IDateTimeHandler を実装し、DI コンテナに挿入することで上書きできます。
- "data" には、メッセージとして送受信された .NET オブジェクトの JSON 表現が含まれます。
 - MessageBusBuilder に対する ConfigureSerializationOptions により、メッセージをシリアル化および逆シリアル化するときに使用される [System.Text.Json.JsonSerializerOptions](#) を設定できます。
 - フレームワークが構築したら、追加の属性を挿入したり、メッセージエンベロープを変換したりするには、ISerializationCallback を実装して、それを MessageBusBuilder に対する AddSerializationCallback を介して登録できます。

AWS Message Processing Framework for .NET のセキュリティ

AWS Message Processing Framework for .NET は、AWS との通信を AWS SDK for .NET に依存しています。AWS SDK for .NET のセキュリティの詳細については、「[この AWS 製品またはサービスのセキュリティ](#)」を参照してください。

セキュリティ上の理由から、フレームワークはユーザーによって送信されたデータメッセージをログに記録しません。デバッグ目的でこの機能を有効にする場合は、メッセージバスで次のように `EnableDataMessageLogging()` を呼び出す必要があります。

```
builder.Services.AddAWSMessageBus(bus =>
{
    builder.EnableDataMessageLogging();
});
```

潜在的なセキュリティ問題を発見した場合は、情報の報告に関する「[セキュリティポリシー](#)」を参照してください。

AWS SDK for .NET での AWS と .NET Aspire との統合

.NET Aspire は、クラウド対応アプリケーションを構築する新しい方法です。特に、分散アプリケーションのコンポーネントを実行、接続、デバッグするローカル環境のオーケストレーションを提供します。クラウド対応アプリケーションの内部開発ループを改善するために、.NET アプリケーションを AWS リソースに接続するための .NET Aspire との統合が作成されました。これらの統合は、[Aspire.Hosting.AWS](#) NuGet パッケージを通じて利用できます。

次の .NET Aspire 統合を使用できます。

- [CloudFormation](#) を通じて AWS リソースをプロビジョニングする機能。この統合は、.NET Aspire AppHost プロジェクト内で使用されます。

詳細については、ブログ記事「[Integrating AWS with .NET Aspire](#)」を参照してください。

- AWS SDK for .NET のインストール、設定、および [Amazon DynamoDB local](#) への接続。この統合は、.NET Aspire AppHost プロジェクト内で使用されます。

詳細については、ブログ記事「[Integrating AWS with .NET Aspire](#)」を参照してください。

- [AWS Lambda](#) 関数のローカル開発環境を有効にします。この統合は、.NET Aspire AppHost プロジェクト内で使用されます。

詳細については、ブログ記事「[Building and Debugging .NET Lambda applications with .NET Aspire \(Part 1\)](#)」および「[Building and Debugging .NET Lambda applications with .NET Aspire \(Part 2\)](#)」を参照してください。

 Note

これはプレビューリリースの機能に関するプレリリースドキュメントです。このドキュメントは変更される可能性があります。

この機能はプレビュー版であるため、プレビュー機能をオプトインする必要があります。このプレビュー機能とオプトイン方法の詳細については、[GitHub の開発トラッカーの問題](#)に関するページを参照してください。

追加情報

[Aspire.Hosting.AWS](#) で利用可能な統合の使用方法に関する追加情報と詳細については、以下のリソースを参照してください。

- ブログ記事「[Integrating AWS with .NET Aspire](#)」。
- ブログ記事「[Building and Debugging .NET Lambda applications with .NET Aspire \(Part 1\)](#)」および「[Building and Debugging .NET Lambda applications with .NET Aspire \(Part 2\)](#)」。
- GitHub の [integrations-on-dotnet-aspire-for-aws](#) リポジトリ。
- [Aspire.Hosting.AWS](#) NuGet パッケージの詳細な [README](#)。

他の AWS サービスと設定のサポート

AWS SDK for .NET は、前のセクションで説明したサービス以外の AWS サービスもサポートしています。サポートされているすべてのサービスの API については、[AWS SDK for .NET API リファレンス](#)を参照してください。

個別の AWS のサービス用の名前空間に加えて、AWS SDK for .NET では以下の API も提供されています。

面グラフ	説明	リソース
AWS サポート	AWS サポートケースおよび Trusted Advisor 機能へのプログラムによるアクセス。	「 Amazon.AWSSupport 」および「 Amazon.AWSSupport.Model 」を参照してください。
全般	ヘルパークラスおよび列挙。	「 Amazon 」および「 Amazon.Util 」を参照してください。

SDK for .NET コード例

このトピックのコード例は、AWS SDK for .NET で 使用方法を示しています AWS。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

一部のサービスには、サービス固有のライブラリや関数の活用方法を示す追加のカテゴリ例が含まれています。

サービス

- [を使用した ACM の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した API Gateway の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Aurora の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Auto Scaling の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon Bedrock ランタイムの例 SDK for .NET](#)
- [を使用した CloudWatch Logs の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon Cognito ID プロバイダーの例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon Comprehend の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon DocumentDB の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した DynamoDB の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon EC2 の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon ECS の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Elastic Load Balancing - バージョン 2 の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した EventBridge の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した EventBridge スケジューラの例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon Glacier の例 SDK for .NET](#)

- [AWS Glue を使用した の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した IAM の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon Keyspaces の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Kinesis の例 SDK for .NET](#)
- [AWS KMS を使用した の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Lambda の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した MediaConvert の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon MSK の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Organizations の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Partner Central の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon Pinpoint の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon Polly の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon RDS の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon RDS Data Service の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon Rekognition の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Route 53 ドメイン登録の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon S3 の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した SageMaker AI の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Secrets Manager の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon SES の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon SES API v2 の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon SNS の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon SQS の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Step Functions の例 SDK for .NET](#)
- [AWS STS を使用した の例 SDK for .NET](#)
- [サポート を使用した の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon Textract の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon Transcribe の例 SDK for .NET](#)
- [を使用した Amazon Translate の例 SDK for .NET](#)

を使用した ACM の例 SDK for .NET

次のコード例は、ACM AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)

アクション

DescribeCertificate

次のコード例は、DescribeCertificate を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon;
using Amazon.CertificateManager;
using Amazon.CertificateManager.Model;

namespace DescribeCertificate
{
    class DescribeCertificate
    {
        // The following example retrieves and displays the metadata for a
```



```

// certificate using the AWS Certificate Manager (ACM) service.

// Specify your AWS Region (an example Region is shown).
private static readonly RegionEndpoint ACMRegion = RegionEndpoint.USEast1;
private static AmazonCertificateManagerClient _client;

static void Main(string[] args)
{
    _client = new
Amazon.CertificateManager.AmazonCertificateManagerClient(ACMRegion);

    var describeCertificateReq = new DescribeCertificateRequest();
    // The ARN used here is just an example. Replace it with the ARN of
    // a certificate that exists on your account.
    describeCertificateReq.CertificateArn =
        "arn:aws:acm:us-
east-1:123456789012:certificate/8cfd7dae-9b6a-2d07-92bc-1c309EXAMPLE";

    var certificateDetailResp =
        DescribeCertificateResponseAsync(client: _client, request:
describeCertificateReq);
    var certificateDetail = certificateDetailResp.Result.Certificate;

    if (certificateDetail is not null)
    {
        DisplayCertificateDetails(certificateDetail);
    }
}

/// <summary>
/// Displays detailed metadata about a certificate retrieved
/// using the ACM service.
/// </summary>
/// <param name="certificateDetail">The object that contains details
/// returned from the call to DescribeCertificateAsync.</param>
static void DisplayCertificateDetails(CertificateDetail certificateDetail)
{
    Console.WriteLine("\nCertificate Details: ");
    Console.WriteLine($"Certificate Domain:
{certificateDetail.DomainName}");
    Console.WriteLine($"Certificate Arn:
{certificateDetail.CertificateArn}");
    Console.WriteLine($"Certificate Subject: {certificateDetail.Subject}");
    Console.WriteLine($"Certificate Status: {certificateDetail.Status}");
}

```

```
        foreach (var san in certificateDetail.SubjectAlternativeNames)
        {
            Console.WriteLine($"Certificate SubjectAlternativeName: {san}");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Retrieves the metadata associated with the ACM service certificate.
    /// </summary>
    /// <param name="client">An AmazonCertificateManagerClient object
    /// used to call DescribeCertificateResponse.</param>
    /// <param name="request">The DescribeCertificateRequest object that
    /// will be passed to the method call.</param>
    /// <returns></returns>
    static async Task<DescribeCertificateResponse>
DescribeCertificateResponseAsync(
    AmazonCertificateManagerClient client, DescribeCertificateRequest
request)
    {
        var response = new DescribeCertificateResponse();

        try
        {
            response = await client.DescribeCertificateAsync(request);
        }
        catch (InvalidArnException)
        {
            Console.WriteLine($"Error: The ARN specified is invalid.");
        }
        catch (ResourceNotFoundException)
        {
            Console.WriteLine($"Error: The specified certificate could not be
found.");
        }

        return response;
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DescribeCertificate](#)」を参照してください。

ListCertificates

次のコード例は、ListCertificates を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon;
using Amazon.CertificateManager;
using Amazon.CertificateManager.Model;

namespace ListCertificates
{
    // The following example retrieves and displays a list of the
    // certificates defined for the default account using the AWS
    // Certificate Manager (ACM) service.
    class ListCertificates
    {
        // Specify your AWS Region (an example Region is shown).

        private static readonly RegionEndpoint ACMRegion = RegionEndpoint.USEast1;
        private static AmazonCertificateManagerClient _client;

        static void Main(string[] args)
        {
            _client = new AmazonCertificateManagerClient(ACMRegion);
            var certificateList = ListCertificatesResponseAsync(client: _client);

            Console.WriteLine("Certificate Summary List\n");
        }
    }
}
```

```

        foreach (var certificate in
certificateList.Result.CertificateSummaryList)
        {
            Console.WriteLine($"Certificate Domain: {certificate.DomainName}");
            Console.WriteLine($"Certificate ARN:
{certificate.CertificateArn}\n");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Retrieves a list of the certificates defined in this Region.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The ACM client object passed to the
    /// ListCertificateResAsync method call.</param>
    /// <param name="request"></param>
    /// <returns>The ListCertificatesResponse.</returns>
    static async Task<ListCertificatesResponse> ListCertificatesResponseAsync(
        AmazonCertificateManagerClient client)
    {
        var request = new ListCertificatesRequest();

        var response = await client.ListCertificatesAsync(request);
        return response;
    }
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListCertificates](#)」を参照してください。

を使用した API Gateway の例 SDK for .NET

次のコード例は、API Gateway AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

AWS コミュニティへの貢献は、複数のチームによって作成され、維持されている例です AWS。フィードバックを提供するには、リンクされたリポジトリで提供されているメカニズムを使用します。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [シナリオ](#)
- [AWS コミュニティへの貢献](#)

シナリオ

サーバーレスアプリケーションを作成して写真を管理する

次のコード例では、ユーザーがラベルを使用して写真を管理できるサーバーレスアプリケーションを作成する方法について示しています。

SDK for .NET

Amazon Rekognition を使用して画像内のラベルを検出し、保存して後で取得できるようにする写真アセット管理アプリケーションの開発方法を示します。

完全なソースコードと設定および実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例のソースについて詳しくは、[AWS コミュニティ](#)でブログ投稿を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda
- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SNS

AWS コミュニティへの貢献

サーバーレスアプリケーションの構築とテスト

次のコード例は、Lambda および DynamoDB を備えた API Gateway を使用してサーバーレスアプリケーションを構築およびテストする方法を示しています。

SDK for .NET

.NET SDK を使用し、Lambda および DynamoDB を備えた API Gateway で構成されるサーバーレスアプリケーションを構築およびテストする方法を示します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda

を使用した Aurora の例 SDK for .NET

次のコード例は、Aurora AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [シナリオ](#)

シナリオ

Aurora Serverless 作業項目トラッカーの作成

次のコード例は、Amazon Aurora Serverless データベースの作業項目を追跡し、Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用してレポートを送信するウェブアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for .NET

を使用して AWS SDK for .NET 、Amazon Aurora データベース内の作業項目を追跡し、Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用してレポートを E メールで送信するウェブアプリケーションを作成する方法を示します。この例では、React.js で構築されたフロントエンドを使用して RESTful .NET バックエンドと対話します。

- React ウェブアプリケーションを AWS サービスに統合します。
- Aurora テーブルの項目を一覧表示、更新、削除します。
- Amazon SES を使用して、フィルター処理された作業項目の E メールレポートを送信します。
- 含まれている AWS CloudFormation スクリプトを使用してサンプルリソースをデプロイおよび管理します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Aurora
- Amazon RDS
- Amazon RDS データサービス
- Amazon SES

を使用した Auto Scaling の例 SDK for .NET

次のコード例は、Auto Scaling AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)
- [シナリオ](#)

アクション

AttachLoadBalancerTargetGroups

次のコード例は、AttachLoadBalancerTargetGroups を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Attaches an Elastic Load Balancing (ELB) target group to this EC2 Auto
Scaling group.
/// The
/// </summary>
/// <param name="autoScalingGroupName">The name of the Auto Scaling group.</
param>
/// <param name="targetGroupArn">The Arn for the target group.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task AttachLoadBalancerToGroup(string autoScalingGroupName, string
targetGroupArn)
{
    await _amazonAutoScaling.AttachLoadBalancerTargetGroupsAsync(
        new AttachLoadBalancerTargetGroupsRequest()
        {
            AutoScalingGroupName = autoScalingGroupName,
```



```
        TargetGroupARNs = new List<string>() { targetGroupArn }  
    });  
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[AttachLoadBalancerTargetGroups](#)」を参照してください。

DeleteAutoScalingGroup

次のコード例は、DeleteAutoScalingGroup を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

Auto Scaling グループの最小サイズをゼロに更新し、グループ内のすべてのインスタンスを終了して、グループを削除します。

```
/// <summary>  
/// Try to terminate an instance by its Id.  
/// </summary>  
/// <param name="instanceId">The Id of the instance to terminate.</param>  
/// <returns>Async task.</returns>  
public async Task TryTerminateInstanceById(string instanceId)  
{  
    var stopping = false;  
    Console.WriteLine($"Stopping {instanceId}...");  
    while (!stopping)  
    {  
        try  
        {  
            await _amazonAutoScaling.TerminateInstanceInAutoScalingGroupAsync(  
                new TerminateInstanceInAutoScalingGroupRequest()  
                {  
                    InstanceId = instanceId,  
                    ShouldDecrementDesiredCapacity = false  
                })  
            ;  
        }  
    }  
}
```

```

        stopping = true;
    }
    catch (ScalingActivityInProgressException)
    {
        Console.WriteLine($"Scaling activity in progress for {instanceId}.
Waiting...");
        Thread.Sleep(10000);
    }
}

/// <summary>
/// Tries to delete the EC2 Auto Scaling group. If the group is in use or in
progress,
/// waits and retries until the group is successfully deleted.
/// </summary>
/// <param name="groupName">The name of the group to try to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task TryDeleteGroupByName(string groupName)
{
    var stopped = false;
    while (!stopped)
    {
        try
        {
            await _amazonAutoScaling.DeleteAutoScalingGroupAsync(
                new DeleteAutoScalingGroupRequest()
                {
                    AutoScalingGroupName = groupName
                });
            stopped = true;
        }
        catch (Exception e)
            when ((e is ScalingActivityInProgressException)
                || (e is Amazon.AutoScaling.Model.ResourceInUseException))
        {
            Console.WriteLine($"Some instances are still running. Waiting...");
            Thread.Sleep(10000);
        }
    }
}

/// <summary>
/// Terminate instances and delete the Auto Scaling group by name.

```

```

    /// </summary>
    /// <param name="groupName">The name of the group to delete.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task TerminateAndDeleteAutoScalingGroupWithName(string groupName)
    {
        var describeGroupsResponse = await
        _amazonAutoScaling.DescribeAutoScalingGroupsAsync(
            new DescribeAutoScalingGroupsRequest()
            {
                AutoScalingGroupNames = new List<string>() { groupName }
            });
        if (describeGroupsResponse.AutoScalingGroups.Any())
        {
            // Update the size to 0.
            await _amazonAutoScaling.UpdateAutoScalingGroupAsync(
                new UpdateAutoScalingGroupRequest()
                {
                    AutoScalingGroupName = groupName,
                    MinSize = 0
                });
            var group = describeGroupsResponse.AutoScalingGroups[0];
            foreach (var instance in group.Instances)
            {
                await TryTerminateInstanceById(instance.InstanceId);
            }

            await TryDeleteGroupByName(groupName);
        }
        else
        {
            Console.WriteLine($"No groups found with name {groupName}.");
        }
    }
}

```

```

    /// <summary>
    /// Delete an Auto Scaling group.
    /// </summary>
    /// <param name="groupName">The name of the Amazon EC2 Auto Scaling group.</
param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> DeleteAutoScalingGroupAsync(

```

```
string groupName)
{
    var deleteAutoScalingGroupRequest = new DeleteAutoScalingGroupRequest
    {
        AutoScalingGroupName = groupName,
        ForceDelete = true,
    };

    var response = await
        _amazonAutoScaling.DeleteAutoScalingGroupAsync(deleteAutoScalingGroupRequest);
    if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
    {
        Console.WriteLine($"You successfully deleted {groupName}");
        return true;
    }

    Console.WriteLine($"Couldn't delete {groupName}.");
    return false;
}
```

- 詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeleteAutoScalingGroup](#)」を参照してください。

シナリオ

レジリエントなサービスの構築と管理

次のコード例は、本、映画、曲のレコメンデーションを返す負荷分散型ウェブサービスの作成方法を示しています。この例は、障害に対するサービスの対応方法と、障害発生時の耐障害性を高めるためにサービスを再構築する方法を示しています。

- Amazon EC2 Auto Scaling グループを使用して、起動テンプレートに基づいて Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスを作成し、インスタンス数を所定の範囲内に維持します。
- Elastic Load Balancing で HTTP リクエストを処理して配信します。
- Auto Scaling グループ内のインスタンスの状態を監視し、正常なインスタンスにのみリクエストを転送します。

- 各 EC2 インスタンスで Python ウェブサーバーを実行して HTTP リクエストを処理します。ウェブサーバーはレコメンデーションとヘルスチェックを返します。
- Amazon DynamoDB テーブルを使用してレコメンデーションサービスをシミュレートできます。
- AWS Systems Manager パラメータを更新して、リクエストとヘルスチェックに対するウェブサーバーの応答を制御します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

コマンドプロンプトからインタラクティブなシナリオを実行します。

```
static async Task Main(string[] args)
{
    _configuration = new ConfigurationBuilder()
        .SetBasePath(Directory.GetCurrentDirectory())
        .AddJsonFile("settings.json") // Load settings from .json file.
        .AddJsonFile("settings.local.json",
            true) // Optionally, load local settings.
        .Build();

    // Set up dependency injection for the AWS services.
    using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
        .ConfigureLogging(logging =>
            logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
                .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
                    LogLevel.Information)
                .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
        .ConfigureServices((_, services) =>
            services.AddAWSService<IAmazonIdentityManagementService>()
                .AddAWSService<IAmazonDynamoDB>()
                .AddAWSService<IAmazonElasticLoadBalancingV2>()
                .AddAWSService<IAmazonSimpleSystemsManagement>()
                .AddAWSService<IAmazonAutoScaling>()
                .AddAWSService<IAmazonEC2>()
                .AddTransient<AutoScalerWrapper>()
```

```

        .AddTransient<ElasticLoadBalancerWrapper>()
        .AddTransient<SmParameterWrapper>()
        .AddTransient<Recommendations>()
        .AddSingleton<IConfiguration>(_configuration)
    )
    .Build();

    ServicesSetup(host);
    ResourcesSetup();

    try
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Welcome to the Resilient Architecture Example
Scenario.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        await Deploy(true);

        Console.WriteLine("Now let's begin the scenario.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        await Demo(true);

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Finally, let's clean up our resources.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        await DestroyResources(true);

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Resilient Architecture Example Scenario is
complete.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"There was a problem running the scenario:
{ex.Message}");
        await DestroyResources(true);
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
}

/// <summary>

```

```

    /// Setup any common resources, also used for integration testing.
    /// </summary>
    public static void ResourcesSetup()
    {
        _httpClient = new HttpClient();
    }

    /// <summary>
    /// Populate the services for use within the console application.
    /// </summary>
    /// <param name="host">The services host.</param>
    private static void ServicesSetup(IHost host)
    {
        _elasticLoadBalancerWrapper =
host.Services.GetRequiredService<ElasticLoadBalancerWrapper>();
        _iamClient =
host.Services.GetRequiredService<IAmazonIdentityManagementService>();
        _recommendations = host.Services.GetRequiredService<Recommendations>();
        _autoScalerWrapper = host.Services.GetRequiredService<AutoScalerWrapper>();
        _smParameterWrapper =
host.Services.GetRequiredService<SmParameterWrapper>();
    }

    /// <summary>
    /// Deploy necessary resources for the scenario.
    /// </summary>
    /// <param name="interactive">True to run as interactive.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public static async Task<bool> Deploy(bool interactive)
    {
        var protocol = "HTTP";
        var port = 80;
        var sshPort = 22;

        Console.WriteLine(
            "\nFor this demo, we'll use the AWS SDK for .NET to create several AWS
resources\n" +
            "to set up a load-balanced web service endpoint and explore some ways to
make it resilient\n" +
            "against various kinds of failures.\n\n" +
            "Some of the resources create by this demo are:\n");

        Console.WriteLine(

```

```

        "\t* A DynamoDB table that the web service depends on to provide book,
movie, and song recommendations.");
        Console.WriteLine(
            "\t* An EC2 launch template that defines EC2 instances that each contain
a Python web server.");
        Console.WriteLine(
            "\t* An EC2 Auto Scaling group that manages EC2 instances across several
Availability Zones.");
        Console.WriteLine(
            "\t* An Elastic Load Balancing (ELB) load balancer that targets the Auto
Scaling group to distribute requests.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Press Enter when you're ready to start deploying
resources.");
        if (interactive)
            Console.ReadLine();

        // Create and populate the DynamoDB table.
        var databaseTableName = _configuration["databaseName"];
        var recommendationsPath = Path.Join(_configuration["resourcePath"],
            "recommendations_objects.json");
        Console.WriteLine($"Creating and populating a DynamoDB table named
{databaseTableName}.");
        await _recommendations.CreateDatabaseWithName(databaseTableName);
        await _recommendations.PopulateDatabase(databaseTableName,
recommendationsPath);
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        // Create the EC2 Launch Template.

        Console.WriteLine(
            $"Creating an EC2 launch template that runs 'server_startup_script.sh'
when an instance starts.\n"
            + "\nThis script starts a Python web server defined in the `server.py`
script. The web server\n"
            + "listens to HTTP requests on port 80 and responds to requests to '/'
and to '/healthcheck'.\n"
            + "For demo purposes, this server is run as the root user. In
production, the best practice is to\n"
            + "run a web server, such as Apache, with least-privileged
credentials.");
        Console.WriteLine(
            "\n\nThe template also defines an IAM policy that each instance uses to
assume a role that grants\n"

```



```

        + "permissions to access the DynamoDB recommendation table and Systems
Manager parameters\n"
        + "that control the flow of the demo.");

    var startupScriptPath = Path.Join(_configuration["resourcePath"],
        "server_startup_script.sh");
    var instancePolicyPath = Path.Join(_configuration["resourcePath"],
        "instance_policy.json");
    await _autoScalerWrapper.CreateTemplate(startupScriptPath,
instancePolicyPath);
    Console.WriteLine(new string('-', 80));

    Console.WriteLine(
        "Creating an EC2 Auto Scaling group that maintains three EC2 instances,
each in a different\n"
        + "Availability Zone.\n");
    var zones = await _autoScalerWrapper.DescribeAvailabilityZones();
    await _autoScalerWrapper.CreateGroupOfSize(3, _autoScalerWrapper.GroupName,
zones);
    Console.WriteLine(new string('-', 80));

    Console.WriteLine(
        "At this point, you have EC2 instances created. Once each instance
starts, it listens for\n"
        + "HTTP requests. You can see these instances in the console or continue
with the demo.\n");

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("Press Enter when you're ready to continue.");
    if (interactive)
        Console.ReadLine();

    Console.WriteLine("Creating variables that control the flow of the demo.");
    await _smParameterWrapper.Reset();

    Console.WriteLine(
        "\nCreating an Elastic Load Balancing target group and load balancer.
The target group\n"
        + "defines how the load balancer connects to instances. The load
balancer provides a\n"
        + "single endpoint where clients connect and dispatches requests to
instances in the group.");

    var defaultVpc = await _autoScalerWrapper.GetDefaultVpc();

```

```

        var subnets = await
_autoScalerWrapper.GetAllVpcSubnetsForZones(defaultVpc.VpcId, zones);
        var subnetIds = subnets.Select(s => s.SubnetId).ToList();
        var targetGroup = await
_elasticLoadBalancerWrapper.CreateTargetGroupOnVpc(_elasticLoadBalancerWrapper.TargetGroupM
protocol, port, defaultVpc.VpcId);

        await
_elasticLoadBalancerWrapper.CreateLoadBalancerAndListener(_elasticLoadBalancerWrapper.Lo
subnetIds, targetGroup);
        await
_autoScalerWrapper.AttachLoadBalancerToGroup(_autoScalerWrapper.GroupName,
targetGroup.TargetGroupArn);
        Console.WriteLine("\nVerifying access to the load balancer endpoint...");
        var endPoint = await
_elasticLoadBalancerWrapper.GetEndpointForLoadBalancerByName(_elasticLoadBalancerWrapper.Lo
        var loadBalancerAccess = await
_elasticLoadBalancerWrapper.VerifyLoadBalancerEndpoint(endPoint);

        if (!loadBalancerAccess)
        {
            Console.WriteLine("\nCouldn't connect to the load balancer, verifying
that the port is open...");

            var ipString = await _httpClient.GetStringAsync("https://
checkip.amazonaws.com");
            ipString = ipString.Trim();

            var defaultSecurityGroup = await
_autoScalerWrapper.GetDefaultSecurityGroupForVpc(defaultVpc);
            var portIsOpen =
_autoScalerWrapper.VerifyInboundPortForGroup(defaultSecurityGroup, port, ipString);
            var sshPortIsOpen =
_autoScalerWrapper.VerifyInboundPortForGroup(defaultSecurityGroup, sshPort,
ipString);

            if (!portIsOpen)
            {
                Console.WriteLine(
                    "\nFor this example to work, the default security group for your
default VPC must\n"
                    + "allows access from this computer. You can either add it
automatically from this\n"

```

```

        + "example or add it yourself using the AWS Management Console.
\n");

        if (!interactive || GetYesNoResponse(
            "Do you want to add a rule to the security group to allow
inbound traffic from your computer's IP address?"))
        {
            await
_autoScalerWrapper.OpenInboundPort(defaultSecurityGroup.GroupId, port, ipString);
        }

        if (!sshPortIsOpen)
        {
            if (!interactive || GetYesNoResponse(
                "Do you want to add a rule to the security group to allow
inbound SSH traffic for debugging from your computer's IP address?"))
            {
                await
_autoScalerWrapper.OpenInboundPort(defaultSecurityGroup.GroupId, sshPort,
ipString);
            }
        }

        loadBalancerAccess = await
_elasticLoadBalancerWrapper.VerifyLoadBalancerEndpoint(endPoint);
    }

    if (loadBalancerAccess)
    {
        Console.WriteLine("Your load balancer is ready. You can access it by
browsing to:");
        Console.WriteLine($"http://{endPoint}\n");
    }
    else
    {
        Console.WriteLine(
            "\nCouldn't get a successful response from the load balancer
endpoint. Troubleshoot by\n"
            + "manually verifying that your VPC and security group are
configured correctly and that\n"
            + "you can successfully make a GET request to the load balancer
endpoint:\n");
        Console.WriteLine($"http://{endPoint}\n");
    }
}

```

```

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Press Enter when you're ready to continue with the
demo.");
        if (interactive)
            Console.ReadLine();
        return true;
    }

    /// <summary>
    /// Demonstrate the steps of the scenario.
    /// </summary>
    /// <param name="interactive">True to run as an interactive scenario.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public static async Task<bool> Demo(bool interactive)
    {
        var ssmOnlyPolicy = Path.Join(_configuration["resourcePath"],
            "ssm_only_policy.json");

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Resetting parameters to starting values for demo.");
        await _smParameterWrapper.Reset();

        Console.WriteLine("\nThis part of the demonstration shows how to toggle
different parts of the system\n" +
            "to create situations where the web service fails, and
shows how using a resilient\n" +
            "architecture can keep the web service running in spite of
these failures.");
        Console.WriteLine(new string('-', 88));
        Console.WriteLine("At the start, the load balancer endpoint returns
recommendations and reports that all targets are healthy.");
        if (interactive)
            await DemoActionChoices();

        Console.WriteLine($"The web service running on the EC2 instances gets
recommendations by querying a DynamoDB table.\n" +
            $"The table name is contained in a Systems Manager
parameter named '{_smParameterWrapper.TableParameter}'.\n" +
            $"To simulate a failure of the recommendation service,
let's set this parameter to name a non-existent table.\n");
        await
            _smParameterWrapper.PutParameterByName(_smParameterWrapper.TableParameter, "this-
is-not-a-table");
    }

```

```

        Console.WriteLine("\nNow, sending a GET request to the load balancer
endpoint returns a failure code. But, the service reports as\n" +
            "healthy to the load balancer because shallow health
checks don't check for failure of the recommendation service.");
        if (interactive)
            await DemoActionChoices();

        Console.WriteLine("Instead of failing when the recommendation service fails,
the web service can return a static response.");
        Console.WriteLine("While this is not a perfect solution, it presents the
customer with a somewhat better experience than failure.");

        await
_smParameterWrapper.PutParameterByName(_smParameterWrapper.FailureResponseParameter,
"static");

        Console.WriteLine("\nNow, sending a GET request to the load balancer
endpoint returns a static response.");
        Console.WriteLine("The service still reports as healthy because health
checks are still shallow.");
        if (interactive)
            await DemoActionChoices();

        Console.WriteLine("Let's reinstate the recommendation service.\n");
        await
_smParameterWrapper.PutParameterByName(_smParameterWrapper.TableParameter,
_smParameterWrapper.TableName);
        Console.WriteLine(
            "\nLet's also substitute bad credentials for one of the instances in the
target group so that it can't\n" +
            "access the DynamoDB recommendation table.\n"
        );
        await _autoScalerWrapper.CreateInstanceProfileWithName(
            _autoScalerWrapper.BadCredsPolicyName,
            _autoScalerWrapper.BadCredsRoleName,
            _autoScalerWrapper.BadCredsProfileName,
            ssmOnlyPolicy,
            new List<string> { "AmazonSSMManagedInstanceCore" }
        );
        var instances = await
_autoScalerWrapper.GetInstancesByGroupName(_autoScalerWrapper.GroupName);
        var badInstanceId = instances.First();
        var instanceProfile = await
_autoScalerWrapper.GetInstanceProfile(badInstanceId);

```

```

        Console.WriteLine(
            $"Replacing the profile for instance {badInstanceId} with a profile that
contains\n" +
            "bad credentials...\n"
        );
        await _autoScalerWrapper.ReplaceInstanceProfile(
            badInstanceId,
            _autoScalerWrapper.BadCredsProfileName,
            instanceProfile.AssociationId
        );
        Console.WriteLine(
            "Now, sending a GET request to the load balancer endpoint returns either
a recommendation or a static response,\n" +
            "depending on which instance is selected by the load balancer.\n"
        );
        if (interactive)
            await DemoActionChoices();

        Console.WriteLine("\nLet's implement a deep health check. For this demo, a
deep health check tests whether");
        Console.WriteLine("the web service can access the DynamoDB table that it
depends on for recommendations. Note that");
        Console.WriteLine("the deep health check is only for ELB routing and not for
Auto Scaling instance health.");
        Console.WriteLine("This kind of deep health check is not recommended for
Auto Scaling instance health, because it");
        Console.WriteLine("risks accidental termination of all instances in the Auto
Scaling group when a dependent service fails.");

        Console.WriteLine("\nBy implementing deep health checks, the load balancer
can detect when one of the instances is failing");
        Console.WriteLine("and take that instance out of rotation.");

        await
_smParameterWrapper.PutParameterByName(_smParameterWrapper.HealthCheckParameter,
"deep");

        Console.WriteLine($"Now, checking target health indicates that the
instance with bad credentials ({badInstanceId})");
        Console.WriteLine("is unhealthy. Note that it might take a minute or two for
the load balancer to detect the unhealthy");
        Console.WriteLine("instance. Sending a GET request to the load balancer
endpoint always returns a recommendation, because");

```

```
        Console.WriteLine("the load balancer takes unhealthy instances out of its
rotation.");

        if (interactive)
            await DemoActionChoices();

        Console.WriteLine("\nBecause the instances in this demo are controlled by an
auto scaler, the simplest way to fix an unhealthy");
        Console.WriteLine("instance is to terminate it and let the auto scaler start
a new instance to replace it.");

        await _autoScalerWrapper.TryTerminateInstanceById(badInstanceId);

        Console.WriteLine($"Even while the instance is terminating and the new
instance is starting, sending a GET");
        Console.WriteLine("request to the web service continues to get a successful
recommendation response because");
        Console.WriteLine("starts and reports as healthy, it is included in the load
balancing rotation.");
        Console.WriteLine("Note that terminating and replacing an instance typically
takes several minutes, during which time you");
        Console.WriteLine("can see the changing health check status until the new
instance is running and healthy.");

        if (interactive)
            await DemoActionChoices();

        Console.WriteLine("\nIf the recommendation service fails now, deep health
checks mean all instances report as unhealthy.");

        await
            _smParameterWrapper.PutParameterByName(_smParameterWrapper.TableParameter, "this-
is-not-a-table");

        Console.WriteLine($"When all instances are unhealthy, the load balancer
continues to route requests even to");
        Console.WriteLine("unhealthy instances, allowing them to fail open and
return a static response rather than fail");
        Console.WriteLine("closed and report failure to the customer.");

        if (interactive)
            await DemoActionChoices();
        await _smParameterWrapper.Reset();
```

```

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        return true;
    }

    /// <summary>
    /// Clean up the resources from the scenario.
    /// </summary>
    /// <param name="interactive">True to ask the user for cleanup.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public static async Task<bool> DestroyResources(bool interactive)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine(
            "To keep things tidy and to avoid unwanted charges on your account, we
can clean up all AWS resources\n" +
            "that were created for this demo."
        );

        if (!interactive || GetYesNoResponse("Do you want to clean up all demo
resources? (y/n) "))
        {
            await
            _elasticLoadBalancerWrapper.DeleteLoadBalancerByName(_elasticLoadBalancerWrapper.LoadBalancerName);
            await
            _elasticLoadBalancerWrapper.DeleteTargetGroupByName(_elasticLoadBalancerWrapper.TargetGroupName);
            await
            _autoScalerWrapper.TerminateAndDeleteAutoScalingGroupWithName(_autoScalerWrapper.GroupName);
            await
            _autoScalerWrapper.DeleteKeyPairByName(_autoScalerWrapper.KeyPairName);
            await
            _autoScalerWrapper.DeleteTemplateByName(_autoScalerWrapper.LaunchTemplateName);
            await _autoScalerWrapper.DeleteInstanceProfile(
                _autoScalerWrapper.BadCredsProfileName,
                _autoScalerWrapper.BadCredsRoleName
            );
            await
            _recommendations.DestroyDatabaseByName(_recommendations.TableName);
        }
        else
        {
            Console.WriteLine(
                "Ok, we'll leave the resources intact.\n" +
                "Don't forget to delete them when you're done with them or you might
incur unexpected charges."
            );
        }
    }

```



```

        );
    }

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    return true;
}

```

Auto Scaling と Amazon EC2 のアクションをラップするクラスを作成します。

```

/// <summary>
/// Encapsulates Amazon EC2 Auto Scaling and EC2 management methods.
/// </summary>
public class AutoScalerWrapper
{
    private readonly IAmazonAutoScaling _amazonAutoScaling;
    private readonly IAmazonEC2 _amazonEc2;
    private readonly IAmazonSimpleSystemsManagement _amazonSsm;
    private readonly IAmazonIdentityManagementService _amazonIam;
    private readonly ILogger<AutoScalerWrapper> _logger;

    private readonly string _instanceType = "";
    private readonly string _amiParam = "";
    private readonly string _launchTemplateName = "";
    private readonly string _groupName = "";
    private readonly string _instancePolicyName = "";
    private readonly string _instanceRoleName = "";
    private readonly string _instanceProfileName = "";
    private readonly string _badCredsProfileName = "";
    private readonly string _badCredsRoleName = "";
    private readonly string _badCredsPolicyName = "";
    private readonly string _keyPairName = "";

    public string GroupName => _groupName;
    public string KeyPairName => _keyPairName;
    public string LaunchTemplateName => _launchTemplateName;
    public string InstancePolicyName => _instancePolicyName;
    public string BadCredsProfileName => _badCredsProfileName;
    public string BadCredsRoleName => _badCredsRoleName;
    public string BadCredsPolicyName => _badCredsPolicyName;

    /// <summary>
    /// Constructor for the AutoScalerWrapper.

```

```

    /// </summary>
    /// <param name="amazonAutoScaling">The injected AutoScaling client.</param>
    /// <param name="amazonEc2">The injected EC2 client.</param>
    /// <param name="amazonIam">The injected IAM client.</param>
    /// <param name="amazonSsm">The injected SSM client.</param>
    public AutoScalerWrapper(
        IAmazonAutoScaling amazonAutoScaling,
        IAmazonEC2 amazonEc2,
        IAmazonSimpleSystemsManagement amazonSsm,
        IAmazonIdentityManagementService amazonIam,
        IConfiguration configuration,
        ILogger<AutoScalerWrapper> logger)
    {
        _amazonAutoScaling = amazonAutoScaling;
        _amazonEc2 = amazonEc2;
        _amazonSsm = amazonSsm;
        _amazonIam = amazonIam;
        _logger = logger;

        var prefix = configuration["resourcePrefix"];
        _instanceType = configuration["instanceType"];
        _amiParam = configuration["amiParam"];

        _launchTemplateName = prefix + "-template";
        _groupName = prefix + "-group";
        _instancePolicyName = prefix + "-pol";
        _instanceRoleName = prefix + "-role";
        _instanceProfileName = prefix + "-prof";
        _badCredsPolicyName = prefix + "-bc-pol";
        _badCredsRoleName = prefix + "-bc-role";
        _badCredsProfileName = prefix + "-bc-prof";
        _keyPairName = prefix + "-key-pair";
    }

    /// <summary>
    /// Create a policy, role, and profile that is associated with instances with a
    specified name.
    /// An instance's associated profile defines a role that is assumed by the
    /// instance. The role has attached policies that specify the AWS permissions
    granted to
    /// clients that run on the instance.
    /// </summary>
    /// <param name="policyName">Name to use for the policy.</param>
    /// <param name="roleName">Name to use for the role.</param>

```

```

    /// <param name="profileName">Name to use for the profile.</param>
    /// <param name="ssmOnlyPolicyFile">Path to a policy file for SSM.</param>
    /// <param name="awsManagedPolicies">AWS Managed policies to be attached to the
role.</param>
    /// <returns>The Arn of the profile.</returns>
    public async Task<string> CreateInstanceProfileWithName(
        string policyName,
        string roleName,
        string profileName,
        string ssmOnlyPolicyFile,
        List<string>? awsManagedPolicies = null)
    {

        var assumeRoleDoc = "{" +
            "\"Version\": \"2012-10-17\", " +
            "\"Statement\": [{" +
                "\"Effect\": \"Allow\", " +
                "\"Principal\": { " +
                "\"Service\": [ " +
                    "\"ec2.amazonaws.com\" " +
                "]" +
                }, " +
            "\"Action\": \"sts:AssumeRole\" " +
            "}] " +
            "};

        var policyDocument = await File.ReadAllTextAsync(ssmOnlyPolicyFile);

        var policyArn = "";

        try
        {
            var createPolicyResult = await _amazonIam.CreatePolicyAsync(
                new CreatePolicyRequest
                {
                    PolicyName = policyName,
                    PolicyDocument = policyDocument
                });
            policyArn = createPolicyResult.Policy.Arn;
        }
        catch (EntityAlreadyExistsException)
        {
            // The policy already exists, so we look it up to get the Arn.
            var policiesPaginator = _amazonIam.Paginators.ListPolicies(

```

```

        new ListPoliciesRequest()
        {
            Scope = PolicyScopeType.Local
        });
// Get the entire list using the paginator.
await foreach (var policy in policiesPaginator.Policies)
{
    if (policy.PolicyName.Equals(policyName))
    {
        policyArn = policy.Arn;
    }
}

if (policyArn == null)
{
    throw new InvalidOperationException("Policy not found");
}
}

try
{
    await _amazonIam.CreateRoleAsync(new CreateRoleRequest()
    {
        RoleName = roleName,
        AssumeRolePolicyDocument = assumeRoleDoc,
    });
    await _amazonIam.AttachRolePolicyAsync(new AttachRolePolicyRequest()
    {
        RoleName = roleName,
        PolicyArn = policyArn
    });
    if (awsManagedPolicies != null)
    {
        foreach (var awsPolicy in awsManagedPolicies)
        {
            await _amazonIam.AttachRolePolicyAsync(new
AttachRolePolicyRequest()
            {
                PolicyArn = $"arn:aws:iam::aws:policy/{awsPolicy}",
                RoleName = roleName
            });
        }
    }
}
}

```

```

        catch (EntityAlreadyExistsException)
        {
            Console.WriteLine("Role already exists.");
        }

        string profileArn = "";
        try
        {
            var profileCreateResponse = await _amazonIam.CreateInstanceProfileAsync(
                new CreateInstanceProfileRequest()
                {
                    InstanceProfileName = profileName
                });
            // Allow time for the profile to be ready.
            profileArn = profileCreateResponse.InstanceProfile.Arn;
            Thread.Sleep(10000);
            await _amazonIam.AddRoleToInstanceProfileAsync(
                new AddRoleToInstanceProfileRequest()
                {
                    InstanceProfileName = profileName,
                    RoleName = roleName
                });
        }
        catch (EntityAlreadyExistsException)
        {
            Console.WriteLine("Policy already exists.");
            var profileGetResponse = await _amazonIam.GetInstanceProfileAsync(
                new GetInstanceProfileRequest()
                {
                    InstanceProfileName = profileName
                });
            profileArn = profileGetResponse.InstanceProfile.Arn;
        }
        return profileArn;
    }

    /// <summary>
    /// Create a new key pair and save the file.
    /// </summary>
    /// <param name="newKeyPairName">The name of the new key pair.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task CreateKeyPair(string newKeyPairName)
    {

```

```

        try
        {
            var keyResponse = await _amazonEc2.CreateKeyPairAsync(
                new CreateKeyPairRequest() { KeyName = newKeyPairName });
            await File.WriteAllTextAsync($"{newKeyPairName}.pem",
                keyResponse.KeyPair.KeyMaterial);
            Console.WriteLine($"Created key pair {newKeyPairName}.");
        }
        catch (AlreadyExistsException)
        {
            Console.WriteLine("Key pair already exists.");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Delete the key pair and file by name.
    /// </summary>
    /// <param name="deleteKeyPairName">The key pair to delete.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task DeleteKeyPairByName(string deleteKeyPairName)
    {
        try
        {
            await _amazonEc2.DeleteKeyPairAsync(
                new DeleteKeyPairRequest() { KeyName = deleteKeyPairName });
            File.Delete($"{deleteKeyPairName}.pem");
        }
        catch (FileNotFoundException)
        {
            Console.WriteLine($"Key pair {deleteKeyPairName} not found.");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Creates an Amazon EC2 launch template to use with Amazon EC2 Auto Scaling.
    /// The launch template specifies a Bash script in its user data field that runs
    after
    /// the instance is started. This script installs the Python packages and starts
    a Python
    /// web server on the instance.
    /// </summary>
    /// <param name="startupScriptPath">The path to a Bash script file that is
    run.</param>

```

```

    /// <param name="instancePolicyPath">The path to a permissions policy to create
    and attach to the profile.</param>
    /// <returns>The template object.</returns>
    public async Task<Amazon.EC2.Model.LaunchTemplate> CreateTemplate(string
    startupScriptPath, string instancePolicyPath)
    {
        try
        {
            await CreateKeyPair(_keyPairName);
            await CreateInstanceProfileWithName(_instancePolicyName,
            _instanceRoleName,
                _instanceProfileName, instancePolicyPath);

            var startServerText = await File.ReadAllTextAsync(startupScriptPath);
            var plainTextBytes =
            System.Text.Encoding.UTF8.GetBytes(startServerText);

            var amiLatest = await _amazonSsm.GetParameterAsync(
                new GetParameterRequest() { Name = _amiParam });
            var amiId = amiLatest.Parameter.Value;
            var launchTemplateResponse = await _amazonEc2.CreateLaunchTemplateAsync(
                new CreateLaunchTemplateRequest()
                {
                    LaunchTemplateName = _launchTemplateName,
                    LaunchTemplateData = new RequestLaunchTemplateData()
                    {
                        InstanceType = _instanceType,
                        ImageId = amiId,
                        IamInstanceProfile =
                            new
LaunchTemplateIamInstanceProfileSpecificationRequest()
                            {
                                Name = _instanceProfileName
                            },
                        KeyName = _keyPairName,
                        UserData = System.Convert.ToBase64String(plainTextBytes)
                    }
                });
            return launchTemplateResponse.LaunchTemplate;
        }
        catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
        {

```

```

        if (ec2Exception.ErrorCode ==
"InvalidLaunchTemplateName.AlreadyExistsException")
        {
            _logger.LogError($"Could not create the template, the name
{_launchTemplateName} already exists. " +
                $"Please try again with a unique name.");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError($"An error occurred while creating the template.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Get a list of Availability Zones in the AWS Region of the Amazon EC2 Client.
/// </summary>
/// <returns>A list of availability zones.</returns>
public async Task<List<string>> DescribeAvailabilityZones()
{
    try
    {
        var zoneResponse = await _amazonEc2.DescribeAvailabilityZonesAsync(
            new DescribeAvailabilityZonesRequest());
        return zoneResponse.AvailabilityZones.Select(z => z.ZoneName).ToList();
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        _logger.LogError($"An Amazon EC2 error occurred while listing
availability zones.: {ec2Exception.Message}");
        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError($"An error occurred while listing availability zones.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}

```



```

    /// <summary>
    /// Create an EC2 Auto Scaling group of a specified size and name.
    /// </summary>
    /// <param name="groupSize">The size for the group.</param>
    /// <param name="groupName">The name for the group.</param>
    /// <param name="availabilityZones">The availability zones for the group.</
param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task CreateGroupOfSize(int groupSize, string groupName,
    List<string> availabilityZones)
    {
        try
        {
            await _amazonAutoScaling.CreateAutoScalingGroupAsync(
                new CreateAutoScalingGroupRequest()
                {
                    AutoScalingGroupName = groupName,
                    AvailabilityZones = availabilityZones,
                    LaunchTemplate =
                        new Amazon.AutoScaling.Model.LaunchTemplateSpecification()
                        {
                            LaunchTemplateName = _launchTemplateName,
                            Version = "$Default"
                        },
                    MaxSize = groupSize,
                    MinSize = groupSize
                });
            Console.WriteLine($"Created EC2 Auto Scaling group {groupName} with size
{groupSize}.");
        }
        catch (EntityAlreadyExistsException)
        {
            Console.WriteLine($"EC2 Auto Scaling group {groupName} already
exists.");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Get the default VPC for the account.
    /// </summary>
    /// <returns>The default VPC object.</returns>
    public async Task<Vpc> GetDefaultVpc()
    {
        try

```

```

    {
        var vpcResponse = await _amazonEc2.DescribeVpcsAsync(
            new DescribeVpcsRequest()
            {
                Filters = new List<Amazon.EC2.Model.Filter>()
                {
                    new("is-default", new List<string>() { "true" })
                }
            });
        return vpcResponse.Vpcs[0];
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "UnauthorizedOperation")
        {
            _logger.LogError(ec2Exception, $"You do not have the necessary
permissions to describe VPCs.");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(ex, $"An error occurred while describing the vpcs.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Get all the subnets for a Vpc in a set of availability zones.
/// </summary>
/// <param name="vpcId">The Id of the Vpc.</param>
/// <param name="availabilityZones">The list of availability zones.</param>
/// <returns>The collection of subnet objects.</returns>
public async Task<List<Subnet>> GetAllVpcSubnetsForZones(string vpcId,
List<string> availabilityZones)
{
    try
    {
        var subnets = new List<Subnet>();
        var subnetPaginator = _amazonEc2.Paginators.DescribeSubnets(
            new DescribeSubnetsRequest()
            {

```

```

        Filters = new List<Amazon.EC2.Model.Filter>()
        {
            new("vpc-id", new List<string>() { vpcId }),
            new("availability-zone", availabilityZones),
            new("default-for-az", new List<string>() { "true" })
        }
    });

    // Get the entire list using the paginator.
    await foreach (var subnet in subnetPaginator.Subnets)
    {
        subnets.Add(subnet);
    }

    return subnets;
}
catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
{
    if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidVpcID.NotFound")
    {
        _logger.LogError(ec2Exception, $"The specified VPC ID {vpcId} does
not exist.");
    }

    throw;
}
catch (Exception ex)
{
    _logger.LogError(ex, $"An error occurred while describing the subnets.:
{ex.Message}");
    throw;
}
}

/// <summary>
/// Delete a launch template by name.
/// </summary>
/// <param name="templateName">The name of the template to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task DeleteTemplateByName(string templateName)
{
    try
    {
        await _amazonEc2.DeleteLaunchTemplateAsync(

```

```

        new DeleteLaunchTemplateRequest()
        {
            LaunchTemplateName = templateName
        });
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode ==
            "InvalidLaunchTemplateName.NotFoundException")
        {
            _logger.LogError(
                $"Could not delete the template, the name {_launchTemplateName}
was not found.");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError($"An error occurred while deleting the template.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Detaches a role from an instance profile, detaches policies from the role,
/// and deletes all the resources.
/// </summary>
/// <param name="profileName">The name of the profile to delete.</param>
/// <param name="roleName">The name of the role to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task DeleteInstanceProfile(string profileName, string roleName)
{
    try
    {
        await _amazonIam.RemoveRoleFromInstanceProfileAsync(
            new RemoveRoleFromInstanceProfileRequest()
            {
                InstanceProfileName = profileName,
                RoleName = roleName
            });
        await _amazonIam.DeleteInstanceProfileAsync(

```

```

        new DeleteInstanceProfileRequest() { InstanceProfileName =
profileName });
        var attachedPolicies = await _amazonIam.ListAttachedRolePoliciesAsync(
            new ListAttachedRolePoliciesRequest() { RoleName = roleName });
        foreach (var policy in attachedPolicies.AttachedPolicies)
        {
            await _amazonIam.DetachRolePolicyAsync(
                new DetachRolePolicyRequest()
                {
                    RoleName = roleName,
                    PolicyArn = policy.PolicyArn
                });
            // Delete the custom policies only.
            if (!policy.PolicyArn.StartsWith("arn:aws:iam::aws"))
            {
                await _amazonIam.DeletePolicyAsync(
                    new Amazon.IdentityManagement.Model.DeletePolicyRequest()
                    {
                        PolicyArn = policy.PolicyArn
                    });
            }
        }

        await _amazonIam.DeleteRoleAsync(
            new DeleteRoleRequest() { RoleName = roleName });
    }
    catch (NoSuchEntityException)
    {
        Console.WriteLine($"Instance profile {profileName} does not exist.");
    }
}

/// <summary>
/// Gets data about the instances in an EC2 Auto Scaling group by its group
name.
/// </summary>
/// <param name="group">The name of the auto scaling group.</param>
/// <returns>A collection of instance Ids.</returns>
public async Task<IEnumerable<string>> GetInstancesByGroupName(string group)
{
    var instanceResponse = await
_amazonAutoScaling.DescribeAutoScalingGroupsAsync(
        new DescribeAutoScalingGroupsRequest()
        {

```

```

        AutoScalingGroupNames = new List<string>() { group }
    });
    var instanceIds = instanceResponse.AutoScalingGroups.SelectMany(
        g => g.Instances.Select(i => i.InstanceId));
    return instanceIds;
}

/// <summary>
/// Get the instance profile association data for an instance.
/// </summary>
/// <param name="instanceId">The Id of the instance.</param>
/// <returns>Instance profile associations data.</returns>
public async Task<IamInstanceProfileAssociation> GetInstanceProfile(string
instanceId)
{
    try
    {
        var response = await
        _amazonEc2.DescribeIamInstanceProfileAssociationsAsync(
            new DescribeIamInstanceProfileAssociationsRequest()
            {
                Filters = new List<Amazon.EC2.Model.Filter>()
                {
                    new("instance-id", new List<string>() { instanceId })
                },
            });
        return response.IamInstanceProfileAssociations[0];
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceID.NotFound")
        {
            _logger.LogError(ec2Exception, $"Instance {instanceId} not found");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(ex, $"An error occurred while creating the template.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}
}

```

```

    /// <summary>
    /// Replace the profile associated with a running instance. After the profile is
    replaced, the instance
    /// is rebooted to ensure that it uses the new profile. When the instance is
    ready, Systems Manager is
    /// used to restart the Python web server.
    /// </summary>
    /// <param name="instanceId">The Id of the instance to update.</param>
    /// <param name="credsProfileName">The name of the new profile to associate with
    the specified instance.</param>
    /// <param name="associationId">The Id of the existing profile association for
    the instance.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task ReplaceInstanceProfile(string instanceId, string
    credsProfileName, string associationId)
    {
        try
        {
            await _amazonEc2.ReplaceIamInstanceProfileAssociationAsync(
                new ReplaceIamInstanceProfileAssociationRequest()
                {
                    AssociationId = associationId,
                    IamInstanceProfile = new IamInstanceProfileSpecification()
                    {
                        Name = credsProfileName
                    }
                });
            // Allow time before resetting.
            Thread.Sleep(25000);

            await _amazonEc2.RebootInstancesAsync(
                new RebootInstancesRequest(new List<string>() { instanceId }));
            Thread.Sleep(25000);
            var instanceReady = false;
            var retries = 5;
            while (retries-- > 0 && !instanceReady)
            {
                var instancesPaginator =
                    _amazonSsm.Paginators.DescribeInstanceInformation(
                        new DescribeInstanceInformationRequest());
                // Get the entire list using the paginator.
                await foreach (var instance in
                    instancesPaginator.InstanceInformationList)

```

```

        {
            instanceReady = instance.InstanceId == instanceId;
            if (instanceReady)
            {
                break;
            }
        }
    }
    Console.WriteLine("Waiting for instance to be running.");
    await WaitForInstanceState(instanceId, InstanceStateName.Running);
    Console.WriteLine("Instance ready.");
    Console.WriteLine($"Sending restart command to instance {instanceId}");
    await _amazonSsm.SendCommandAsync(
        new SendCommandRequest()
        {
            InstanceIds = new List<string>() { instanceId },
            DocumentName = "AWS-RunShellScript",
            Parameters = new Dictionary<string, List<string>>()
            {
                {
                    "commands",
                    new List<string>() { "cd / && sudo python3 server.py"
80" }
                }
            }
        });
    Console.WriteLine($"Restarted the web server on instance {instanceId}");
}
catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
{
    if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceID.NotFound")
    {
        _logger.LogError(ec2Exception, $"Instance {instanceId} not found");
    }

    throw;
}
catch (Exception ex)
{
    _logger.LogError(ex, $"An error occurred while replacing the template.:
{ex.Message}");
    throw;
}
}

```



```

    /// <summary>
    /// Try to terminate an instance by its Id.
    /// </summary>
    /// <param name="instanceId">The Id of the instance to terminate.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task TryTerminateInstanceById(string instanceId)
    {
        var stopping = false;
        Console.WriteLine($"Stopping {instanceId}...");
        while (!stopping)
        {
            try
            {
                await _amazonAutoScaling.TerminateInstanceInAutoScalingGroupAsync(
                    new TerminateInstanceInAutoScalingGroupRequest()
                    {
                        InstanceId = instanceId,
                        ShouldDecrementDesiredCapacity = false
                    });
                stopping = true;
            }
            catch (ScalingActivityInProgressException)
            {
                Console.WriteLine($"Scaling activity in progress for {instanceId}.
Waiting...");
                Thread.Sleep(10000);
            }
        }
    }

    /// <summary>
    /// Tries to delete the EC2 Auto Scaling group. If the group is in use or in
    progress,
    /// waits and retries until the group is successfully deleted.
    /// </summary>
    /// <param name="groupName">The name of the group to try to delete.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task TryDeleteGroupByName(string groupName)
    {
        var stopped = false;
        while (!stopped)
        {
            try

```

```

        {
            await _amazonAutoScaling.DeleteAutoScalingGroupAsync(
                new DeleteAutoScalingGroupRequest()
                {
                    AutoScalingGroupName = groupName
                });
            stopped = true;
        }
        catch (Exception e)
            when ((e is ScalingActivityInProgressException)
                || (e is Amazon.AutoScaling.Model.ResourceInUseException))
        {
            Console.WriteLine($"Some instances are still running. Waiting...");
            Thread.Sleep(10000);
        }
    }
}

/// <summary>
/// Terminate instances and delete the Auto Scaling group by name.
/// </summary>
/// <param name="groupName">The name of the group to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task TerminateAndDeleteAutoScalingGroupWithName(string groupName)
{
    var describeGroupsResponse = await
        _amazonAutoScaling.DescribeAutoScalingGroupsAsync(
            new DescribeAutoScalingGroupsRequest()
            {
                AutoScalingGroupNames = new List<string>() { groupName }
            });
    if (describeGroupsResponse.AutoScalingGroups.Any())
    {
        // Update the size to 0.
        await _amazonAutoScaling.UpdateAutoScalingGroupAsync(
            new UpdateAutoScalingGroupRequest()
            {
                AutoScalingGroupName = groupName,
                MinSize = 0
            });
        var group = describeGroupsResponse.AutoScalingGroups[0];
        foreach (var instance in group.Instances)
        {
            await TryTerminateInstanceById(instance.InstanceId);
        }
    }
}

```

```

    }

    await TryDeleteGroupByName(groupName);
}
else
{
    Console.WriteLine($"No groups found with name {groupName}.");
}
}

/// <summary>
/// Get the default security group for a specified Vpc.
/// </summary>
/// <param name="vpc">The Vpc to search.</param>
/// <returns>The default security group.</returns>
public async Task<SecurityGroup> GetDefaultSecurityGroupForVpc(Vpc vpc)
{
    var groupResponse = await _amazonEc2.DescribeSecurityGroupsAsync(
        new DescribeSecurityGroupsRequest()
        {
            Filters = new List<Amazon.EC2.Model.Filter>()
            {
                new ("group-name", new List<string>() { "default" }),
                new ("vpc-id", new List<string>() { vpc.VpcId })
            }
        });
    return groupResponse.SecurityGroups[0];
}

/// <summary>
/// Verify the default security group of a Vpc allows ingress from the calling
computer.
/// This can be done by allowing ingress from this computer's IP address.
/// In some situations, such as connecting from a corporate network, you must
instead specify
/// a prefix list Id. You can also temporarily open the port to any IP address
while running this example.
/// If you do, be sure to remove public access when you're done.
/// </summary>
/// <param name="vpc">The group to check.</param>
/// <param name="port">The port to verify.</param>
/// <param name="ipAddress">This computer's IP address.</param>
/// <returns>True if the ip address is allowed on the group.</returns>

```

```

    public bool VerifyInboundPortForGroup(SecurityGroup group, int port, string
ipAddress)
    {
        var portIsOpen = false;
        foreach (var ipPermission in group.IpPermissions)
        {
            if (ipPermission.FromPort == port)
            {
                foreach (var ipRange in ipPermission.Ipv4Ranges)
                {
                    var cidr = ipRange.CidrIp;
                    if (cidr.StartsWith(ipAddress) || cidr == "0.0.0.0/0")
                    {
                        portIsOpen = true;
                    }
                }

                if (ipPermission.PrefixListIds.Any())
                {
                    portIsOpen = true;
                }

                if (!portIsOpen)
                {
                    Console.WriteLine("The inbound rule does not appear to be open
to either this computer's IP\n" +
                                     "address, to all IP addresses (0.0.0.0/0), or
to a prefix list ID.");
                }
                else
                {
                    break;
                }
            }
        }

        return portIsOpen;
    }

    /// <summary>
    /// Add an ingress rule to the specified security group that allows access on
the
    /// specified port from the specified IP address.
    /// </summary>

```

```

    /// <param name="groupId">The Id of the security group to modify.</param>
    /// <param name="port">The port to open.</param>
    /// <param name="ipAddress">The IP address to allow access.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task OpenInboundPort(string groupId, int port, string ipAddress)
    {
        await _amazonEc2.AuthorizeSecurityGroupIngressAsync(
            new AuthorizeSecurityGroupIngressRequest()
            {
                GroupId = groupId,
                IpPermissions = new List<IpPermission>()
                {
                    new IpPermission()
                    {
                        FromPort = port,
                        ToPort = port,
                        IpProtocol = "tcp",
                        Ipv4Ranges = new List<IpRange>()
                        {
                            new IpRange() { CidrIp = $"{ipAddress}/32" }
                        }
                    }
                }
            });
    }

    /// <summary>
    /// Attaches an Elastic Load Balancing (ELB) target group to this EC2 Auto
    Scaling group.
    /// The
    /// </summary>
    /// <param name="autoScalingGroupName">The name of the Auto Scaling group.</
param>
    /// <param name="targetGroupArn">The Arn for the target group.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task AttachLoadBalancerToGroup(string autoScalingGroupName, string
targetGroupArn)
    {
        await _amazonAutoScaling.AttachLoadBalancerTargetGroupsAsync(
            new AttachLoadBalancerTargetGroupsRequest()
            {
                AutoScalingGroupName = autoScalingGroupName,
                TargetGroupARNs = new List<string>() { targetGroupArn }
            });
    }

```

```

    }

    /// <summary>
    /// Wait until an EC2 instance is in a specified state.
    /// </summary>
    /// <param name="instanceId">The instance Id.</param>
    /// <param name="stateName">The state to wait for.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> WaitForInstanceState(string instanceId,
InstanceStateName stateName)
    {
        var request = new DescribeInstancesRequest
        {
            InstanceIds = new List<string> { instanceId }
        };

        // Wait until the instance is in the specified state.
        var hasState = false;
        do
        {
            // Wait 5 seconds.
            Thread.Sleep(5000);

            // Check for the desired state.
            var response = await _amazonEc2.DescribeInstancesAsync(request);
            var instance = response.Reservations[0].Instances[0];
            hasState = instance.State.Name == stateName;
            Console.WriteLine(". ");
        } while (!hasState);

        return hasState;
    }
}

```

Elastic Load Balancing のアクションをラップするクラスを作成します。

```

/// <summary>
/// Encapsulates Elastic Load Balancer actions.
/// </summary>
public class ElasticLoadBalancerWrapper
{

```

```

private readonly IAmazonElasticLoadBalancingV2 _amazonElasticLoadBalancingV2;
private string? _endpoint = null;
private readonly string _targetGroupName = "";
private readonly string _loadBalancerName = "";
HttpClient _httpClient = new();

public string TargetGroupName => _targetGroupName;
public string LoadBalancerName => _loadBalancerName;

/// <summary>
/// Constructor for the Elastic Load Balancer wrapper.
/// </summary>
/// <param name="amazonElasticLoadBalancingV2">The injected load balancing v2
client.</param>
/// <param name="configuration">The injected configuration.</param>
public ElasticLoadBalancerWrapper(
    IAmazonElasticLoadBalancingV2 amazonElasticLoadBalancingV2,
    IConfiguration configuration)
{
    _amazonElasticLoadBalancingV2 = amazonElasticLoadBalancingV2;
    var prefix = configuration["resourcePrefix"];
    _targetGroupName = prefix + "-tg";
    _loadBalancerName = prefix + "-lb";
}

/// <summary>
/// Get the HTTP Endpoint of a load balancer by its name.
/// </summary>
/// <param name="loadBalancerName">The name of the load balancer.</param>
/// <returns>The HTTP endpoint.</returns>
public async Task<string> GetEndpointForLoadBalancerByName(string
loadBalancerName)
{
    if (_endpoint == null)
    {
        var endpointResponse =
            await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeLoadBalancersAsync(
                new DescribeLoadBalancersRequest()
                {
                    Names = new List<string>() { loadBalancerName }
                });
        _endpoint = endpointResponse.LoadBalancers[0].DNSName;
    }
}

```

```

        return _endpoint;
    }

    /// <summary>
    /// Return the GET response for an endpoint as text.
    /// </summary>
    /// <param name="endpoint">The endpoint for the request.</param>
    /// <returns>The request response.</returns>
    public async Task<string> GetEndPointResponse(string endpoint)
    {
        var endpointResponse = await _httpClient.GetAsync($"http://{endpoint}");
        var textResponse = await endpointResponse.Content.ReadAsStringAsync();
        return textResponse!;
    }

    /// <summary>
    /// Get the target health for a group by name.
    /// </summary>
    /// <param name="groupName">The name of the group.</param>
    /// <returns>The collection of health descriptions.</returns>
    public async Task<List<TargetHealthDescription>>
    CheckTargetHealthForGroup(string groupName)
    {
        List<TargetHealthDescription> result = null!;
        try
        {
            var groupResponse =
                await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeTargetGroupsAsync(
                    new DescribeTargetGroupsRequest()
                    {
                        Names = new List<string>() { groupName }
                    });
            var healthResponse =
                await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeTargetHealthAsync(
                    new DescribeTargetHealthRequest()
                    {
                        TargetGroupArn =
groupResponse.TargetGroups[0].TargetGroupArn
                    });
            ;
            result = healthResponse.TargetHealthDescriptions;
        }
        catch (TargetGroupNotFoundException)
        {

```



```

        Console.WriteLine($"Target group {groupName} not found.");
    }
    return result;
}

/// <summary>
/// Create an Elastic Load Balancing target group. The target group specifies
how the load balancer forwards
/// requests to instances in the group and how instance health is checked.
///
/// To speed up this demo, the health check is configured with shortened times
and lower thresholds. In production,
/// you might want to decrease the sensitivity of your health checks to avoid
unwanted failures.
/// </summary>
/// <param name="groupName">The name for the group.</param>
/// <param name="protocol">The protocol, such as HTTP.</param>
/// <param name="port">The port to use to forward requests, such as 80.</param>
/// <param name="vpcId">The Id of the Vpc in which the load balancer exists.</
param>
/// <returns>The new TargetGroup object.</returns>
public async Task<TargetGroup> CreateTargetGroupOnVpc(string groupName,
ProtocolEnum protocol, int port, string vpcId)
{
    var createResponse = await
_amazonElasticLoadBalancingV2.CreateTargetGroupAsync(
    new CreateTargetGroupRequest()
    {
        Name = groupName,
        Protocol = protocol,
        Port = port,
        HealthCheckPath = "/healthcheck",
        HealthCheckIntervalSeconds = 10,
        HealthCheckTimeoutSeconds = 5,
        HealthyThresholdCount = 2,
        UnhealthyThresholdCount = 2,
        VpcId = vpcId
    });
    var targetGroup = createResponse.TargetGroups[0];
    return targetGroup;
}

/// <summary>

```

```

    /// Create an Elastic Load Balancing load balancer that uses the specified
    subnets
    /// and forwards requests to the specified target group.
    /// </summary>
    /// <param name="name">The name for the new load balancer.</param>
    /// <param name="subnetIds">Subnets for the load balancer.</param>
    /// <param name="targetGroup">Target group for forwarded requests.</param>
    /// <returns>The new LoadBalancer object.</returns>
    public async Task<LoadBalancer> CreateLoadBalancerAndListener(string name,
        List<string> subnetIds, TargetGroup targetGroup)
    {
        var createLbResponse = await
        _amazonElasticLoadBalancingV2.CreateLoadBalancerAsync(
            new CreateLoadBalancerRequest()
            {
                Name = name,
                Subnets = subnetIds
            });
        var loadBalancerArn = createLbResponse.LoadBalancers[0].LoadBalancerArn;

        // Wait for load balancer to be available.
        var loadBalancerReady = false;
        while (!loadBalancerReady)
        {
            try
            {
                var describeResponse =
                    await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeLoadBalancersAsync(
                        new DescribeLoadBalancersRequest()
                        {
                            Names = new List<string>() { name }
                        });

                var loadBalancerState =
                    describeResponse.LoadBalancers[0].State.Code;

                loadBalancerReady = loadBalancerState ==
                    LoadBalancerStateEnum.Active;
            }
            catch (LoadBalancerNotFoundException)
            {
                loadBalancerReady = false;
            }
            Thread.Sleep(10000);
        }
    }

```

```

    }
    // Create the listener.
    await _amazonElasticLoadBalancingV2.CreateListenerAsync(
        new CreateListenerRequest()
        {
            LoadBalancerArn = loadBalancerArn,
            Protocol = targetGroup.Protocol,
            Port = targetGroup.Port,
            DefaultActions = new List<Action>()
            {
                new Action()
                {
                    Type = ActionTypeEnum.Forward,
                    TargetGroupArn = targetGroup.TargetGroupArn
                }
            }
        });
    return createLbResponse.LoadBalancers[0];
}

/// <summary>
/// Verify this computer can successfully send a GET request to the
/// load balancer endpoint.
/// </summary>
/// <param name="endpoint">The endpoint to check.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> VerifyLoadBalancerEndpoint(string endpoint)
{
    var success = false;
    var retries = 3;
    while (!success && retries > 0)
    {
        try
        {
            var endpointResponse = await _httpClient.GetAsync($"http://{
{endpoint}");
            Console.WriteLine($"Response: {endpointResponse.StatusCode}.");

            if (endpointResponse.IsSuccessStatusCode)
            {
                success = true;
            }
            else
            {

```

```

        retries = 0;
    }
}
catch (HttpRequestException)
{
    Console.WriteLine("Connection error, retrying...");
    retries--;
    Thread.Sleep(10000);
}
}

return success;
}

/// <summary>
/// Delete a load balancer by its specified name.
/// </summary>
/// <param name="name">The name of the load balancer to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task DeleteLoadBalancerByName(string name)
{
    try
    {
        var describeLoadBalancerResponse =
            await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeLoadBalancersAsync(
                new DescribeLoadBalancersRequest()
                {
                    Names = new List<string>() { name }
                });
        var lbArn =
            describeLoadBalancerResponse.LoadBalancers[0].LoadBalancerArn;
        await _amazonElasticLoadBalancingV2.DeleteLoadBalancerAsync(
            new DeleteLoadBalancerRequest()
            {
                LoadBalancerArn = lbArn
            }
        );
    }
    catch (LoadBalancerNotFoundException)
    {
        Console.WriteLine($"Load balancer {name} not found.");
    }
}

```

```

    /// <summary>
    /// Delete a TargetGroup by its specified name.
    /// </summary>
    /// <param name="groupName">Name of the group to delete.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task DeleteTargetGroupByName(string groupName)
    {
        var done = false;
        while (!done)
        {
            try
            {
                var groupResponse =
                    await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeTargetGroupsAsync(
                        new DescribeTargetGroupsRequest()
                        {
                            Names = new List<string>() { groupName }
                        });

                var targetArn = groupResponse.TargetGroups[0].TargetGroupArn;
                await _amazonElasticLoadBalancingV2.DeleteTargetGroupAsync(
                    new DeleteTargetGroupRequest() { TargetGroupArn = targetArn });
                Console.WriteLine($"Deleted load balancing target group
{groupName}.");
                done = true;
            }
            catch (TargetGroupNotFoundException)
            {
                Console.WriteLine(
                    $"Target group {groupName} not found, could not delete.");
                done = true;
            }
            catch (ResourceInUseException)
            {
                Console.WriteLine("Target group not yet released, waiting...");
                Thread.Sleep(10000);
            }
        }
    }
}

```

DynamoDB を使用してレコメンデーションサービスをシミュレートするクラスを作成します。

```

/// <summary>
/// Encapsulates a DynamoDB table to use as a service that recommends books, movies,
/// and songs.
/// </summary>
public class Recommendations
{
    private readonly IAmazonDynamoDB _amazonDynamoDb;
    private readonly DynamoDBContext _context;
    private readonly string _tableName;

    public string TableName => _tableName;

    /// <summary>
    /// Constructor for the Recommendations service.
    /// </summary>
    /// <param name="amazonDynamoDb">The injected DynamoDb client.</param>
    /// <param name="configuration">The injected configuration.</param>
    public Recommendations(IAmazonDynamoDB amazonDynamoDb, IConfiguration
configuration)
    {
        _amazonDynamoDb = amazonDynamoDb;
        _context = new DynamoDBContext(_amazonDynamoDb);
        _tableName = configuration["databaseName"]!;
    }

    /// <summary>
    /// Create the DynamoDb table with a specified name.
    /// </summary>
    /// <param name="tableName">The name for the table.</param>
    /// <returns>True when ready.</returns>
    public async Task<bool> CreateDatabaseWithName(string tableName)
    {
        try
        {
            Console.WriteLine($"Creating table {tableName}...");
            var createRequest = new CreateTableRequest()
            {
                TableName = tableName,
                AttributeDefinitions = new List<AttributeDefinition>()
                {
                    new AttributeDefinition()
                    {
                        AttributeName = "MediaType",

```

```

        AttributeType = ScalarAttributeType.S
    },
    new AttributeDefinition()
    {
        AttributeName = "ItemId",
        AttributeType = ScalarAttributeType.N
    }
},
KeySchema = new List<KeySchemaElement>()
{
    new KeySchemaElement()
    {
        AttributeName = "MediaTypeId",
        KeyType = KeyType.HASH
    },
    new KeySchemaElement()
    {
        AttributeName = "ItemId",
        KeyType = KeyType.RANGE
    }
},
ProvisionedThroughput = new ProvisionedThroughput()
{
    ReadCapacityUnits = 5,
    WriteCapacityUnits = 5
}
};

await _amazonDynamoDb.CreateTableAsync(createRequest);

// Wait until the table is ACTIVE and then report success.
Console.WriteLine("\nWaiting for table to become active...");

var request = new DescribeTableRequest
{
    TableName = tableName
};

TableStatus status;
do
{
    Thread.Sleep(2000);

    var describeTableResponse = await
        _amazonDynamoDb.DescribeTableAsync(request);

```

```

        status = describeTableResponse.Table.TableStatus;

        Console.Write(".");
    }
    while (status != "ACTIVE");

    return status == TableStatus.ACTIVE;
}
catch (ResourceInUseException)
{
    Console.WriteLine($"Table {tableName} already exists.");
    return false;
}
}

/// <summary>
/// Populate the database table with data from a specified path.
/// </summary>
/// <param name="databaseTableName">The name of the table.</param>
/// <param name="recommendationsPath">The path of the recommendations data.</
param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task PopulateDatabase(string databaseTableName, string
recommendationsPath)
{
    var recommendationsText = await File.ReadAllTextAsync(recommendationsPath);
    var records =
        JsonSerializer.Deserialize<RecommendationModel[]>(recommendationsText);
    var batchWrite = _context.CreateBatchWrite<RecommendationModel>();

    foreach (var record in records!)
    {
        batchWrite.AddPutItem(record);
    }

    await batchWrite.ExecuteAsync();
}

/// <summary>
/// Delete the recommendation table by name.
/// </summary>
/// <param name="tableName">The name of the recommendation table.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task DestroyDatabaseByName(string tableName)

```



```

    {
        try
        {
            await _amazonDynamoDb.DeleteTableAsync(
                new DeleteTableRequest() { TableName = tableName });
            Console.WriteLine($"Table {tableName} was deleted.");
        }
        catch (ResourceNotFoundException)
        {
            Console.WriteLine($"Table {tableName} not found");
        }
    }
}

```

Systems Manager のアクションをラップするクラスを作成します。

```

/// <summary>
/// Encapsulates Systems Manager parameter operations. This example uses these
/// parameters
/// to drive the demonstration of resilient architecture, such as failure of a
/// dependency or
/// how the service responds to a health check.
/// </summary>
public class SmParameterWrapper
{
    private readonly IAmazonSimpleSystemsManagement _amazonSimpleSystemsManagement;

    private readonly string _tableParameter = "doc-example-resilient-architecture-
table";
    private readonly string _failureResponseParameter = "doc-example-resilient-
architecture-failure-response";
    private readonly string _healthCheckParameter = "doc-example-resilient-
architecture-health-check";
    private readonly string _tableName = "";

    public string TableParameter => _tableParameter;
    public string TableName => _tableName;
    public string HealthCheckParameter => _healthCheckParameter;
    public string FailureResponseParameter => _failureResponseParameter;

    /// <summary>
    /// Constructor for the SmParameterWrapper.

```

```

    /// </summary>
    /// <param name="amazonSimpleSystemsManagement">The injected Simple Systems
Management client.</param>
    /// <param name="configuration">The injected configuration.</param>
    public SmParameterWrapper(IAmazonSimpleSystemsManagement
amazonSimpleSystemsManagement, IConfiguration configuration)
    {
        _amazonSimpleSystemsManagement = amazonSimpleSystemsManagement;
        _tableName = configuration["databaseName"]!;
    }

    /// <summary>
    /// Reset the Systems Manager parameters to starting values for the demo.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task Reset()
    {
        await this.PutParameterByName(_tableParameter, _tableName);
        await this.PutParameterByName(_failureResponseParameter, "none");
        await this.PutParameterByName(_healthCheckParameter, "shallow");
    }

    /// <summary>
    /// Set the value of a named Systems Manager parameter.
    /// </summary>
    /// <param name="name">The name of the parameter.</param>
    /// <param name="value">The value to set.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task PutParameterByName(string name, string value)
    {
        await _amazonSimpleSystemsManagement.PutParameterAsync(
            new PutParameterRequest() { Name = name, Value = value, Overwrite =
true });
    }
}

```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
 - [AttachLoadBalancerTargetGroups](#)
 - [CreateAutoScalingGroup](#)
 - [CreateInstanceProfile](#)

- [CreateLaunchTemplate](#)
- [CreateListener](#)
- [CreateLoadBalancer](#)
- [CreateTargetGroup](#)
- [DeleteAutoScalingGroup](#)
- [DeleteInstanceProfile](#)
- [DeleteLaunchTemplate](#)
- [DeleteLoadBalancer](#)
- [DeleteTargetGroup](#)
- [DescribeAutoScalingGroups](#)
- [DescribeAvailabilityZones](#)
- [DescribeIamInstanceProfileAssociations](#)
- [DescribeInstances](#)
- [DescribeLoadBalancers](#)
- [DescribeSubnets](#)
- [DescribeTargetGroups](#)
- [DescribeTargetHealth](#)
- [DescribeVpcs](#)
- [RebootInstances](#)
- [ReplaceIamInstanceProfileAssociation](#)
- [TerminateInstanceInAutoScalingGroup](#)
- [UpdateAutoScalingGroup](#)

を使用した Amazon Bedrock ランタイムの例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon Bedrock ランタイム AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [シナリオ](#)
- [Amazon Nova](#)
- [Amazon Nova Canvas](#)
- [Anthropic Claude](#)
- [Cohere Command](#)
- [Meta Llama](#)
- [Mistral AI](#)

シナリオ

Amazon Bedrock 基盤モデルとやりとりするためのプレイグラウンドアプリケーションを作成します。

次のコード例は、さまざまな方法で Amazon Bedrock 基盤モデルと相互作用するプレイグラウンドを作成する方法を示しています。

SDK for .NET

.NET 基盤モデル (FM) プレイグラウンドは、C# コードから Amazon Bedrock を使用する方法を紹介する .NET MAUI Blazor サンプルアプリケーションです。この例は、.NET 開発者と C# 開発者が Amazon Bedrock を使用して生成 AI 対応アプリケーションを構築する方法を示しています。次の 4 つのプレイグラウンドを使用して Amazon Bedrock 基盤モデルをテストしたり操作したりできます。

- テキストプレイグラウンド。
- チャットプレイグラウンド。
- ボイスチャットプレイグラウンド。
- イメージプレイグラウンド。

この例には、アクセスできる基盤モデルとその特性も一覧表示されています。ソースコードとデプロイ手順については、[GitHub](#) のプロジェクトを参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Bedrock ランタイム

Converse API でのツールの使用

次のコード例は、アプリケーション、生成 AI モデル、接続されたツールまたは API 間の一般的なインタラクションを構築し、AI と外部世界のインタラクションを仲介する方法を示しています。外部気象 API を AI モデルに接続する例を使用して、ユーザー入力に基づいてリアルタイムの気象情報を提供します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

シナリオフローのプライマリ実行。このシナリオはユーザー、Amazon Bedrock Converse API、気象ツールの間の会話を調整します。

```
using Amazon;
using Amazon.BedrockRuntime;
using Amazon.BedrockRuntime.Model;
using Amazon.Runtime.Documents;
using Microsoft.Extensions.DependencyInjection;
using Microsoft.Extensions.DependencyInjection.Extensions;
using Microsoft.Extensions.Hosting;
using Microsoft.Extensions.Http;
using Microsoft.Extensions.Logging;
using Microsoft.Extensions.Logging.Console;

namespace ConverseToolScenario;

public static class ConverseToolScenario
{
    /*
        Before running this .NET code example, set up your development environment,
        including your credentials.

        This demo illustrates a tool use scenario using Amazon Bedrock's Converse API
        and a weather tool.

        The script interacts with a foundation model on Amazon Bedrock to provide
        weather information based on user
```

input. It uses the Open-Meteo API (<https://open-meteo.com>) to retrieve current weather data for a given location.

```
*/
```

```
public static BedrockActionsWrapper _bedrockActionsWrapper = null!;  
public static WeatherTool _weatherTool = null!;  
public static bool _interactive = true;
```

```
// Change this string to use a different model with Converse API.  
private static string model_id = "amazon.nova-lite-v1:0";
```

```
private static string system_prompt = @"
```

You are a weather assistant that provides current weather data for user-specified locations using only

the Weather_Tool, which expects latitude and longitude. Infer the coordinates from the location yourself.

If the user specifies a state, country, or region, infer the locations of cities within that state.

If the user provides coordinates, infer the approximate location and refer to it in your response.

To use the tool, you strictly apply the provided tool specification.

- Explain your step-by-step process, and give brief updates before each step.

- Only use the Weather_Tool for data. Never guess or make up information.

- Repeat the tool use for subsequent requests if necessary.

- If the tool errors, apologize, explain weather is unavailable, and suggest other options.

- Report temperatures in °C (°F) and wind in km/h (mph). Keep weather reports concise. Sparingly use emojis where appropriate.

- Only respond to weather queries. Remind off-topic users of your purpose.

- Never claim to search online, access external data, or use tools besides Weather_Tool.

- Complete the entire process until you have all required data before sending the complete response.

```
"
```

```
;
```

```
private static string default_prompt = "What is the weather like in Seattle?";
```

```
// The maximum number of recursive calls allowed in the tool use function.
```

```
// This helps prevent infinite loops and potential performance issues.
```

```
private static int max_recursions = 5;
```

```

public static async Task Main(string[] args)
{
    // Set up dependency injection for the Amazon service.
    using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
        .ConfigureLogging(logging =>
            logging.AddFilter("System", LogLevel.Error)
                .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
        .ConfigureServices((_, services) =>
            services.AddHttpClient()
                .AddSingleton<IAmazonBedrockRuntime>(_ => new
AmazonBedrockRuntimeClient(RegionEndpoint.USEast1)) // Specify a region that has
access to the chosen model.
                .AddTransient<BedrockActionsWrapper>()
                .AddTransient<WeatherTool>()
                .RemoveAll<IHttpMessageHandlerBuilderFilter>()
            )
        .Build();

    ServicesSetup(host);

    try
    {
        await RunConversationAsync();
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"There was a problem running the scenario:
{ex.Message}");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
    finally
    {
        Console.WriteLine(
            "Amazon Bedrock Converse API with Tool Use Feature Scenario is
complete.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
}

/// <summary>
/// Populate the services for use within the console application.

```

```
/// </summary>
/// <param name="host">The services host.</param>
private static void ServicesSetup(IHost host)
{
    _bedrockActionsWrapper =
host.Services.GetRequiredService<BedrockActionsWrapper>();
    _weatherTool = host.Services.GetRequiredService<WeatherTool>();
}

/// <summary>
/// Starts the conversation with the user and handles the interaction with
Bedrock.
/// </summary>
/// <returns>The conversation array.</returns>
public static async Task<List<Message>> RunConversationAsync()
{
    // Print the greeting and a short user guide
    PrintHeader();

    // Start with an empty conversation
    var conversation = new List<Message>();

    // Get the first user input
    var userInput = await GetUserInputAsync();

    while (userInput != null)
    {
        // Create a new message with the user input and append it to the
conversation
        var message = new Message { Role = ConversationRole.User, Content = new
List<ContentBlock> { new ContentBlock { Text = userInput } } };
        conversation.Add(message);

        // Send the conversation to Amazon Bedrock
        var bedrockResponse = await SendConversationToBedrock(conversation);

        // Recursively handle the model's response until the model has returned
its final response or the recursion counter has reached 0
        await ProcessModelResponseAsync(bedrockResponse, conversation,
max_recurions);

        // Repeat the loop until the user decides to exit the application
        userInput = await GetUserInputAsync();
    }
}
```



```

        PrintFooter();
        return conversation;
    }

    /// <summary>
    /// Sends the conversation, the system prompt, and the tool spec to Amazon
    Bedrock, and returns the response.
    /// </summary>
    /// <param name="conversation">The conversation history including the next
    message to send.</param>
    /// <returns>The response from Amazon Bedrock.</returns>
    private static async Task<ConverseResponse>
    SendConversationToBedrock(List<Message> conversation)
    {
        Console.WriteLine("\tCalling Bedrock...");

        // Send the conversation, system prompt, and tool configuration, and return
        the response
        return await _bedrockActionsWrapper.SendConverseRequestAsync(model_id,
            system_prompt, conversation, _weatherTool.GetToolSpec());
    }

    /// <summary>
    /// Processes the response received via Amazon Bedrock and performs the
    necessary actions based on the stop reason.
    /// </summary>
    /// <param name="modelResponse">The model's response returned via Amazon
    Bedrock.</param>
    /// <param name="conversation">The conversation history.</param>
    /// <param name="maxRecursion">The maximum number of recursive calls allowed.</
    param>
    private static async Task ProcessModelResponseAsync(ConverseResponse
    modelResponse, List<Message> conversation, int maxRecursion)
    {
        if (maxRecursion <= 0)
        {
            // Stop the process, the number of recursive calls could indicate an
            infinite loop
            Console.WriteLine("\tWarning: Maximum number of recursions reached.
            Please try again.");
        }

        // Append the model's response to the ongoing conversation
    }

```

```

        conversation.Add(modelResponse.Output.Message);

        if (modelResponse.StopReason == "tool_use")
        {
            // If the stop reason is "tool_use", forward everything to the tool use
handler
            await HandleToolUseAsync(modelResponse.Output, conversation,
maxRecursion - 1);
        }

        if (modelResponse.StopReason == "end_turn")
        {
            // If the stop reason is "end_turn", print the model's response text,
and finish the process
            PrintModelResponse(modelResponse.Output.Message.Content[0].Text);
            if (!_interactive)
            {
                default_prompt = "x";
            }
        }
    }

    /// <summary>
    /// Handles the tool use case by invoking the specified tool and sending the
tool's response back to Bedrock.
    /// The tool response is appended to the conversation, and the conversation is
sent back to Amazon Bedrock for further processing.
    /// </summary>
    /// <param name="modelResponse">The model's response containing the tool use
request.</param>
    /// <param name="conversation">The conversation history.</param>
    /// <param name="maxRecursion">The maximum number of recursive calls allowed.</
param>
    public static async Task HandleToolUseAsync(ConverseOutput modelResponse,
List<Message> conversation, int maxRecursion)
    {
        // Initialize an empty list of tool results
        var toolResults = new List<ContentBlock>();

        // The model's response can consist of multiple content blocks
        foreach (var contentBlock in modelResponse.Message.Content)
        {
            if (!String.IsNullOrEmpty(contentBlock.Text))
            {

```

```

        // If the content block contains text, print it to the console
        PrintModelResponse(contentBlock.Text);
    }

    if (contentBlock.ToolUse != null)
    {
        // If the content block is a tool use request, forward it to the
tool
        var toolResponse = await InvokeTool(contentBlock.ToolUse);

        // Add the tool use ID and the tool's response to the list of
results
        toolResults.Add(new ContentBlock
        {
            ToolResult = new ToolResultBlock()
            {
                ToolUseId = toolResponse.ToolUseId,
                Content = new List<ToolResultContentBlock>()
                { new ToolResultContentBlock { Json =
toolResponse.Content } }
            }
        });
    }
}

// Embed the tool results in a new user message
var message = new Message() { Role = ConversationRole.User, Content =
toolResults };

// Append the new message to the ongoing conversation
conversation.Add(message);

// Send the conversation to Amazon Bedrock
var response = await SendConversationToBedrock(conversation);

// Recursively handle the model's response until the model has returned its
final response or the recursion counter has reached 0
await ProcessModelResponseAsync(response, conversation, maxRecursion);
}

/// <summary>
/// Invokes the specified tool with the given payload and returns the tool's
response.
/// If the requested tool does not exist, an error message is returned.

```

```

    /// </summary>
    /// <param name="payload">The payload containing the tool name and input data.</param>
    /// <returns>The tool's response or an error message.</returns>
    public static async Task<ToolResponse> InvokeTool(ToolUseBlock payload)
    {
        var toolName = payload.Name;

        if (toolName == "Weather_Tool")
        {
            var inputData = payload.Input.AsDictionary();
            PrintToolUse(toolName, inputData);

            // Invoke the weather tool with the input data provided
            var weatherResponse = await
_weatherTool.FetchWeatherDataAsync(inputData["latitude"].ToString(),
inputData["longitude"].ToString());
            return new ToolResponse { ToolUseId = payload.ToolUseId, Content =
weatherResponse };
        }
        else
        {
            var errorMessage = $"\\tThe requested tool with name '{toolName}' does
not exist.";
            return new ToolResponse { ToolUseId = payload.ToolUseId, Content = new
{ error = true, message = errorMessage } };
        }
    }

    /// <summary>
    /// Prompts the user for input and returns the user's response.
    /// Returns null if the user enters 'x' to exit.
    /// </summary>
    /// <param name="prompt">The prompt to display to the user.</param>
    /// <returns>The user's input or null if the user chooses to exit.</returns>
    private static async Task<string?> Get userInputAsync(string prompt = "\\tYour
weather info request:")
    {
        var userInput = default_prompt;
        if (_interactive)
        {
            Console.WriteLine(new string('*', 80));
            Console.WriteLine($"{prompt} (x to exit): \\n\\t");

```

```

        userInput = Console.ReadLine();
    }

    if (string.IsNullOrEmpty(userInput))
    {
        prompt = "\tPlease enter your weather info request, e.g. the name of a
city";
        return await GetUserInfoAsync(prompt);
    }

    if (userInput.ToLowerInvariant() == "x")
    {
        return null;
    }

    return userInput;
}

/// <summary>
/// Logs the welcome message and usage guide for the tool use demo.
/// </summary>
public static void PrintHeader()
{
    Console.WriteLine(@"
=====
Welcome to the Amazon Bedrock Tool Use demo!
=====

This assistant provides current weather information for user-specified
locations.
You can ask for weather details by providing the location name or
coordinates. Weather information
will be provided using a custom Tool and open-meteo API.

Example queries:
- What's the weather like in New York?
- Current weather for latitude 40.70, longitude -74.01
- Is it warmer in Rome or Barcelona today?

To exit the program, simply type 'x' and press Enter.

P.S.: You're not limited to single locations, or even to using English!
Have fun and experiment with the app!
");

```

```

    }

    /// <summary>
    /// Logs the footer information for the tool use demo.
    /// </summary>
    public static void PrintFooter()
    {
        Console.WriteLine(@"
=====

Thank you for checking out the Amazon Bedrock Tool Use demo. We hope you
learned something new, or got some inspiration for your own apps today!

For more Bedrock examples in different programming languages, have a look
at:
    https://docs.aws.amazon.com/bedrock/latest/userguide/
service_code_examples.html
=====
");
    }

    /// <summary>
    /// Logs information about the tool use.
    /// </summary>
    /// <param name="toolName">The name of the tool being used.</param>
    /// <param name="inputData">The input data for the tool.</param>
    public static void PrintToolUse(string toolName, Dictionary<string, Document>
inputData)
    {
        Console.WriteLine($"\\n\\tInvoking tool: {toolName} with input:
{inputData["latitude"].ToString()}, {inputData["longitude"].ToString()}...\\n");
    }

    /// <summary>
    /// Logs the model's response.
    /// </summary>
    /// <param name="message">The model's response message.</param>
    public static void PrintModelResponse(string message)
    {
        Console.WriteLine("\\tThe model's response:\\n");
        Console.WriteLine(message);
        Console.WriteLine();
    }
}

```

デモで使用する気象ツール。このファイルはツールの仕様を定義し、Open-Meteo API を使用して気象データを取得するロジックを実装します。

```
using Amazon.BedrockRuntime.Model;
using Amazon.Runtime.Documents;
using Microsoft.Extensions.Logging;

namespace ConverseToolScenario;

/// <summary>
/// Weather tool that will be invoked when requested by the Bedrock response.
/// </summary>
public class WeatherTool
{
    private readonly ILogger<WeatherTool> _logger;
    private readonly IHttpClientFactory _httpClientFactory;

    public WeatherTool(ILogger<WeatherTool> logger, IHttpClientFactory
httpClientFactory)
    {
        _logger = logger;
        _httpClientFactory = httpClientFactory;
    }

    /// <summary>
    /// Returns the JSON Schema specification for the Weather tool. The tool
specification
    /// defines the input schema and describes the tool's functionality.
    /// For more information, see https://json-schema.org/understanding-json-schema/
reference.
    /// </summary>
    /// <returns>The tool specification for the Weather tool.</returns>
    public ToolSpecification GetToolSpec()
    {
        ToolSpecification toolSpecification = new ToolSpecification();

        toolSpecification.Name = "Weather_Tool";
        toolSpecification.Description = "Get the current weather for a given
location, based on its WGS84 coordinates.";
    }
}
```

```

        Document toolSpecDocument = Document.FromObject(
            new
            {
                type = "object",
                properties = new
                {
                    latitude = new
                    {
                        type = "string",
                        description = "Geographical WGS84 latitude of the location."
                    },
                    longitude = new
                    {
                        type = "string",
                        description = "Geographical WGS84 longitude of the
location."
                    }
                },
                required = new[] { "latitude", "longitude" }
            });

        toolSpecification.InputSchema = new ToolInputSchema() { Json =
toolSpecDocument };
        return toolSpecification;
    }

    /// <summary>
    /// Fetches weather data for the given latitude and longitude using the Open-
Meteo API.
    /// Returns the weather data or an error message if the request fails.
    /// </summary>
    /// <param name="latitude">The latitude of the location.</param>
    /// <param name="longitude">The longitude of the location.</param>
    /// <returns>The weather data or an error message.</returns>
    public async Task<Document> FetchWeatherDataAsync(string latitude, string
longitude)
    {
        string endpoint = "https://api.open-meteo.com/v1/forecast";

        try
        {
            var httpClient = _httpClientFactory.CreateClient();
            var response = await httpClient.GetAsync($"{endpoint}?
latitude={latitude}&longitude={longitude}&current_weather=True");

```



```

        response.EnsureSuccessStatusCode();
        var weatherData = await response.Content.ReadAsStringAsync();

        Document weatherDocument = Document.FromObject(
            new { weather_data = weatherData });

        return weatherDocument;
    }
    catch (HttpRequestException e)
    {
        _logger.LogError(e, "Error fetching weather data: {Message}",
            e.Message);
        throw;
    }
    catch (Exception e)
    {
        _logger.LogError(e, "Unexpected error fetching weather data: {Message}",
            e.Message);
        throw;
    }
}
}

```

ツール設定を使用する Converse API アクション。

```

/// <summary>
/// Wrapper class for interacting with the Amazon Bedrock Converse API.
/// </summary>
public class BedrockActionsWrapper
{
    private readonly IAmazonBedrockRuntime _bedrockClient;
    private readonly ILogger<BedrockActionsWrapper> _logger;

    /// <summary>
    /// Initializes a new instance of the <see cref="BedrockActionsWrapper"/> class.
    /// </summary>
    /// <param name="bedrockClient">The Bedrock Converse API client.</param>
    /// <param name="logger">The logger instance.</param>
    public BedrockActionsWrapper(IAmazonBedrockRuntime bedrockClient,
        ILogger<BedrockActionsWrapper> logger)
    {

```

```

        _bedrockClient = bedrockClient;
        _logger = logger;
    }

    /// <summary>
    /// Sends a Converse request to the Amazon Bedrock Converse API.
    /// </summary>
    /// <param name="modelId">The Bedrock Model Id.</param>
    /// <param name="systemPrompt">A system prompt instruction.</param>
    /// <param name="conversation">The array of messages in the conversation.</
param>
    /// <param name="toolSpec">The specification for a tool.</param>
    /// <returns>The response of the model.</returns>
    public async Task<ConverseResponse> SendConverseRequestAsync(string modelId,
string systemPrompt, List<Message> conversation, ToolSpecification toolSpec)
    {
        try
        {
            var request = new ConverseRequest()
            {
                ModelId = modelId,
                System = new List<SystemContentBlock>()
                {
                    new SystemContentBlock()
                    {
                        Text = systemPrompt
                    }
                },
                Messages = conversation,
                ToolConfig = new ToolConfiguration()
                {
                    Tools = new List<Tool>()
                    {
                        new Tool()
                        {
                            ToolSpec = toolSpec
                        }
                    }
                }
            };

            var response = await _bedrockClient.ConverseAsync(request);

            return response;
        }
    }

```

```
    }  
    catch (ModelNotReadyException ex)  
    {  
        _logger.LogError(ex, "Model not ready, please wait and try again.");  
        throw;  
    }  
    catch (AmazonBedrockRuntimeException ex)  
    {  
        _logger.LogError(ex, "Error occurred while sending Converse request.");  
        throw;  
    }  
}  
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[Converse](#)」を参照してください。

Amazon Nova

Converse

次のコード例は、Bedrock の Converse API を使用して Amazon Nova にテキストメッセージを送信する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

Bedrock の Converse API を使用して Amazon Nova にテキストメッセージを送信します。

```
// Use the Converse API to send a text message to Amazon Nova.  
  
using System;  
using System.Collections.Generic;  
using Amazon;  
using Amazon.BedrockRuntime;
```

```
using Amazon.BedrockRuntime.Model;

// Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
var client = new AmazonBedrockRuntimeClient(RegionEndpoint.USEast1);

// Set the model ID, e.g., Amazon Nova Lite.
var modelId = "amazon.nova-lite-v1:0";

// Define the user message.
var userMessage = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one line.";

// Create a request with the model ID, the user message, and an inference
// configuration.
var request = new ConverseRequest
{
    ModelId = modelId,
    Messages = new List<Message>
    {
        new Message
        {
            Role = ConversationRole.User,
            Content = new List<ContentBlock> { new ContentBlock { Text =
userMessage } }
        }
    },
    InferenceConfig = new InferenceConfiguration()
    {
        MaxTokens = 512,
        Temperature = 0.5F,
        TopP = 0.9F
    }
};

try
{
    // Send the request to the Bedrock Runtime and wait for the result.
    var response = await client.ConverseAsync(request);

    // Extract and print the response text.
    string responseText = response?.Output?.Message?.Content?[0]?.Text ?? "";
    Console.WriteLine(responseText);
}
catch (AmazonBedrockRuntimeException e)
{
}
```

```

        Console.WriteLine($"ERROR: Can't invoke '{modelId}'. Reason: {e.Message}");
        throw;
    }

```

ツール設定を含む Bedrock の Converse API を使用して Amazon Nova にメッセージの会話を送信します。

```

/// <summary>
/// Wrapper class for interacting with the Amazon Bedrock Converse API.
/// </summary>
public class BedrockActionsWrapper
{
    private readonly IAmazonBedrockRuntime _bedrockClient;
    private readonly ILogger<BedrockActionsWrapper> _logger;

    /// <summary>
    /// Initializes a new instance of the <see cref="BedrockActionsWrapper"/> class.
    /// </summary>
    /// <param name="bedrockClient">The Bedrock Converse API client.</param>
    /// <param name="logger">The logger instance.</param>
    public BedrockActionsWrapper(IAmazonBedrockRuntime bedrockClient,
    ILogger<BedrockActionsWrapper> logger)
    {
        _bedrockClient = bedrockClient;
        _logger = logger;
    }

    /// <summary>
    /// Sends a Converse request to the Amazon Bedrock Converse API.
    /// </summary>
    /// <param name="modelId">The Bedrock Model Id.</param>
    /// <param name="systemPrompt">A system prompt instruction.</param>
    /// <param name="conversation">The array of messages in the conversation.</param>
    /// <param name="toolSpec">The specification for a tool.</param>
    /// <returns>The response of the model.</returns>
    public async Task<ConverseResponse> SendConverseRequestAsync(string modelId,
    string systemPrompt, List<Message> conversation, ToolSpecification toolSpec)
    {
        try

```

```
{
    var request = new ConverseRequest()
    {
        ModelId = modelId,
        System = new List<SystemContentBlock>()
        {
            new SystemContentBlock()
            {
                Text = systemPrompt
            }
        },
        Messages = conversation,
        ToolConfig = new ToolConfiguration()
        {
            Tools = new List<Tool>()
            {
                new Tool()
                {
                    ToolSpec = toolSpec
                }
            }
        }
    };

    var response = await _bedrockClient.ConverseAsync(request);

    return response;
}
catch (ModelNotReadyException ex)
{
    _logger.LogError(ex, "Model not ready, please wait and try again.");
    throw;
}
catch (AmazonBedrockRuntimeException ex)
{
    _logger.LogError(ex, "Error occurred while sending Converse request.");
    throw;
}
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[Converse](#)」を参照してください。

ConverseStream

次のコード例は、Bedrock の Converse API を使用して Amazon Nova にテキストメッセージを送信し、レスポンスストリームをリアルタイムで処理する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

Bedrock の Converse API を使用して Amazon Nova にテキストメッセージを送信し、レスポンスストリームをリアルタイムで処理します。

```
// Use the Converse API to send a text message to Amazon Nova
// and print the response stream.

using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Linq;
using Amazon;
using Amazon.BedrockRuntime;
using Amazon.BedrockRuntime.Model;

// Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
var client = new AmazonBedrockRuntimeClient(RegionEndpoint.USEast1);

// Set the model ID, e.g., Amazon Nova Lite.
var modelId = "amazon.nova-lite-v1:0";

// Define the user message.
var userMessage = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one line.";

// Create a request with the model ID, the user message, and an inference
// configuration.
var request = new ConverseStreamRequest
```

```
{
    ModelId = modelId,
    Messages = new List<Message>
    {
        new Message
        {
            Role = ConversationRole.User,
            Content = new List<ContentBlock> { new ContentBlock { Text =
userMessage } }
        }
    },
    InferenceConfig = new InferenceConfiguration()
    {
        MaxTokens = 512,
        Temperature = 0.5F,
        TopP = 0.9F
    }
};

try
{
    // Send the request to the Bedrock Runtime and wait for the result.
    var response = await client.ConverseStreamAsync(request);

    // Extract and print the streamed response text in real-time.
    foreach (var chunk in response.Stream.AsEnumerable())
    {
        if (chunk is ContentBlockDeltaEvent)
        {
            Console.Write((chunk as ContentBlockDeltaEvent).Delta.Text);
        }
    }
}
catch (AmazonBedrockRuntimeException e)
{
    Console.WriteLine($"ERROR: Can't invoke '{modelId}'. Reason: {e.Message}");
    throw;
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ConverseStream](#)」を参照してください。

シナリオ: Converse API でのツールの使用

次のコード例は、アプリケーション、生成 AI モデル、接続されたツールまたは API 間の一般的なインタラクションを構築し、AI と外部世界のインタラクションを仲介する方法を示しています。外部気象 API を AI モデルに接続する例を使用して、ユーザー入力に基づいてリアルタイムの気象情報を提供します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

シナリオフローのプライマリ実行。このシナリオはユーザー、Amazon Bedrock Converse API、気象ツールの間の会話を調整します。

```
using Amazon;
using Amazon.BedrockRuntime;
using Amazon.BedrockRuntime.Model;
using Amazon.Runtime.Documents;
using Microsoft.Extensions.DependencyInjection;
using Microsoft.Extensions.DependencyInjection.Extensions;
using Microsoft.Extensions.Hosting;
using Microsoft.Extensions.Http;
using Microsoft.Extensions.Logging;
using Microsoft.Extensions.Logging.Console;

namespace ConverseToolScenario;

public static class ConverseToolScenario
{
    /*
        Before running this .NET code example, set up your development environment,
        including your credentials.

        This demo illustrates a tool use scenario using Amazon Bedrock's Converse API
        and a weather tool.

        The script interacts with a foundation model on Amazon Bedrock to provide
        weather information based on user
```

input. It uses the Open-Meteo API (<https://open-meteo.com>) to retrieve current weather data for a given location.

```
*/
```

```
public static BedrockActionsWrapper _bedrockActionsWrapper = null!;  
public static WeatherTool _weatherTool = null!;  
public static bool _interactive = true;
```

```
// Change this string to use a different model with Converse API.  
private static string model_id = "amazon.nova-lite-v1:0";
```

```
private static string system_prompt = @"
```

You are a weather assistant that provides current weather data for user-specified locations using only

the Weather_Tool, which expects latitude and longitude. Infer the coordinates from the location yourself.

If the user specifies a state, country, or region, infer the locations of cities within that state.

If the user provides coordinates, infer the approximate location and refer to it in your response.

To use the tool, you strictly apply the provided tool specification.

- Explain your step-by-step process, and give brief updates before each step.

- Only use the Weather_Tool for data. Never guess or make up information.

- Repeat the tool use for subsequent requests if necessary.

- If the tool errors, apologize, explain weather is unavailable, and suggest other options.

- Report temperatures in °C (°F) and wind in km/h (mph). Keep weather reports concise. Sparingly use emojis where appropriate.

- Only respond to weather queries. Remind off-topic users of your purpose.

- Never claim to search online, access external data, or use tools besides Weather_Tool.

- Complete the entire process until you have all required data before sending the complete response.

```
"
```

```
;
```

```
private static string default_prompt = "What is the weather like in Seattle?";
```

```
// The maximum number of recursive calls allowed in the tool use function.
```

```
// This helps prevent infinite loops and potential performance issues.
```

```
private static int max_recursions = 5;
```

```

public static async Task Main(string[] args)
{
    // Set up dependency injection for the Amazon service.
    using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
        .ConfigureLogging(logging =>
            logging.AddFilter("System", LogLevel.Error)
                .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
        .ConfigureServices((_, services) =>
            services.AddHttpClient()
                .AddSingleton<IAmazonBedrockRuntime>(_ => new
AmazonBedrockRuntimeClient(RegionEndpoint.USEast1)) // Specify a region that has
access to the chosen model.
                .AddTransient<BedrockActionsWrapper>()
                .AddTransient<WeatherTool>()
                .RemoveAll<IHttpMessageHandlerBuilderFilter>()
            )
        .Build();

    ServicesSetup(host);

    try
    {
        await RunConversationAsync();
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"There was a problem running the scenario:
{ex.Message}");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
    finally
    {
        Console.WriteLine(
            "Amazon Bedrock Converse API with Tool Use Feature Scenario is
complete.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
}

/// <summary>
/// Populate the services for use within the console application.

```

```

    /// </summary>
    /// <param name="host">The services host.</param>
    private static void ServicesSetup(IHost host)
    {
        _bedrockActionsWrapper =
host.Services.GetRequiredService<BedrockActionsWrapper>();
        _weatherTool = host.Services.GetRequiredService<WeatherTool>();
    }

    /// <summary>
    /// Starts the conversation with the user and handles the interaction with
    Bedrock.
    /// </summary>
    /// <returns>The conversation array.</returns>
    public static async Task<List<Message>> RunConversationAsync()
    {
        // Print the greeting and a short user guide
        PrintHeader();

        // Start with an empty conversation
        var conversation = new List<Message>();

        // Get the first user input
        var userInput = await GetUserInputAsync();

        while (userInput != null)
        {
            // Create a new message with the user input and append it to the
            conversation
            var message = new Message { Role = ConversationRole.User, Content = new
            List<ContentBlock> { new ContentBlock { Text = userInput } } };
            conversation.Add(message);

            // Send the conversation to Amazon Bedrock
            var bedrockResponse = await SendConversationToBedrock(conversation);

            // Recursively handle the model's response until the model has returned
            its final response or the recursion counter has reached 0
            await ProcessModelResponseAsync(bedrockResponse, conversation,
            max_recursions);

            // Repeat the loop until the user decides to exit the application
            userInput = await GetUserInputAsync();
        }
    }

```

```

        PrintFooter();
        return conversation;
    }

    /// <summary>
    /// Sends the conversation, the system prompt, and the tool spec to Amazon
    Bedrock, and returns the response.
    /// </summary>
    /// <param name="conversation">The conversation history including the next
    message to send.</param>
    /// <returns>The response from Amazon Bedrock.</returns>
    private static async Task<ConverseResponse>
    SendConversationToBedrock(List<Message> conversation)
    {
        Console.WriteLine("\tCalling Bedrock...");

        // Send the conversation, system prompt, and tool configuration, and return
        the response
        return await _bedrockActionsWrapper.SendConverseRequestAsync(model_id,
            system_prompt, conversation, _weatherTool.GetToolSpec());
    }

    /// <summary>
    /// Processes the response received via Amazon Bedrock and performs the
    necessary actions based on the stop reason.
    /// </summary>
    /// <param name="modelResponse">The model's response returned via Amazon
    Bedrock.</param>
    /// <param name="conversation">The conversation history.</param>
    /// <param name="maxRecursion">The maximum number of recursive calls allowed.</
    param>
    private static async Task ProcessModelResponseAsync(ConverseResponse
    modelResponse, List<Message> conversation, int maxRecursion)
    {
        if (maxRecursion <= 0)
        {
            // Stop the process, the number of recursive calls could indicate an
            infinite loop
            Console.WriteLine("\tWarning: Maximum number of recursions reached.
            Please try again.");
        }

        // Append the model's response to the ongoing conversation
    }

```

```

        conversation.Add(modelResponse.Output.Message);

        if (modelResponse.StopReason == "tool_use")
        {
            // If the stop reason is "tool_use", forward everything to the tool use
handler
            await HandleToolUseAsync(modelResponse.Output, conversation,
maxRecursion - 1);
        }

        if (modelResponse.StopReason == "end_turn")
        {
            // If the stop reason is "end_turn", print the model's response text,
and finish the process
            PrintModelResponse(modelResponse.Output.Message.Content[0].Text);
            if (!_interactive)
            {
                default_prompt = "x";
            }
        }
    }

    /// <summary>
    /// Handles the tool use case by invoking the specified tool and sending the
tool's response back to Bedrock.
    /// The tool response is appended to the conversation, and the conversation is
sent back to Amazon Bedrock for further processing.
    /// </summary>
    /// <param name="modelResponse">The model's response containing the tool use
request.</param>
    /// <param name="conversation">The conversation history.</param>
    /// <param name="maxRecursion">The maximum number of recursive calls allowed.</
param>
    public static async Task HandleToolUseAsync(ConverseOutput modelResponse,
List<Message> conversation, int maxRecursion)
    {
        // Initialize an empty list of tool results
        var toolResults = new List<ContentBlock>();

        // The model's response can consist of multiple content blocks
        foreach (var contentBlock in modelResponse.Message.Content)
        {
            if (!String.IsNullOrEmpty(contentBlock.Text))
            {

```

```

        // If the content block contains text, print it to the console
        PrintModelResponse(contentBlock.Text);
    }

    if (contentBlock.ToolUse != null)
    {
        // If the content block is a tool use request, forward it to the
tool
        var toolResponse = await InvokeTool(contentBlock.ToolUse);

        // Add the tool use ID and the tool's response to the list of
results
        toolResults.Add(new ContentBlock
        {
            ToolResult = new ToolResultBlock()
            {
                ToolUseId = toolResponse.ToolUseId,
                Content = new List<ToolResultContentBlock>()
                { new ToolResultContentBlock { Json =
toolResponse.Content } }
            }
        });
    }
}

// Embed the tool results in a new user message
var message = new Message() { Role = ConversationRole.User, Content =
toolResults };

// Append the new message to the ongoing conversation
conversation.Add(message);

// Send the conversation to Amazon Bedrock
var response = await SendConversationToBedrock(conversation);

// Recursively handle the model's response until the model has returned its
final response or the recursion counter has reached 0
await ProcessModelResponseAsync(response, conversation, maxRecursion);
}

/// <summary>
/// Invokes the specified tool with the given payload and returns the tool's
response.
/// If the requested tool does not exist, an error message is returned.

```

```

    /// </summary>
    /// <param name="payload">The payload containing the tool name and input data.</param>
    /// <returns>The tool's response or an error message.</returns>
    public static async Task<ToolResponse> InvokeTool(ToolUseBlock payload)
    {
        var toolName = payload.Name;

        if (toolName == "Weather_Tool")
        {
            var inputData = payload.Input.AsDictionary();
            PrintToolUse(toolName, inputData);

            // Invoke the weather tool with the input data provided
            var weatherResponse = await
_weatherTool.FetchWeatherDataAsync(inputData["latitude"].ToString(),
inputData["longitude"].ToString());
            return new ToolResponse { ToolUseId = payload.ToolUseId, Content =
weatherResponse };
        }
        else
        {
            var errorMessage = $"\\tThe requested tool with name '{toolName}' does
not exist.";
            return new ToolResponse { ToolUseId = payload.ToolUseId, Content = new
{ error = true, message = errorMessage } };
        }
    }

    /// <summary>
    /// Prompts the user for input and returns the user's response.
    /// Returns null if the user enters 'x' to exit.
    /// </summary>
    /// <param name="prompt">The prompt to display to the user.</param>
    /// <returns>The user's input or null if the user chooses to exit.</returns>
    private static async Task<string?> Get userInputAsync(string prompt = "\\tYour
weather info request:")
    {
        var userInput = default_prompt;
        if (_interactive)
        {
            Console.WriteLine(new string('*', 80));
            Console.WriteLine($"{prompt} (x to exit): \\n\\t");
        }
    }

```



```

        userInput = Console.ReadLine();
    }

    if (string.IsNullOrEmpty(userInput))
    {
        prompt = "\tPlease enter your weather info request, e.g. the name of a
city";
        return await Get userInputAsync(prompt);
    }

    if (userInput.ToLowerInvariant() == "x")
    {
        return null;
    }

    return userInput;
}

/// <summary>
/// Logs the welcome message and usage guide for the tool use demo.
/// </summary>
public static void PrintHeader()
{
    Console.WriteLine(@"
=====
Welcome to the Amazon Bedrock Tool Use demo!
=====

This assistant provides current weather information for user-specified
locations.
You can ask for weather details by providing the location name or
coordinates. Weather information
will be provided using a custom Tool and open-meteo API.

Example queries:
- What's the weather like in New York?
- Current weather for latitude 40.70, longitude -74.01
- Is it warmer in Rome or Barcelona today?

To exit the program, simply type 'x' and press Enter.

P.S.: You're not limited to single locations, or even to using English!
Have fun and experiment with the app!
");

```

```

    }

    /// <summary>
    /// Logs the footer information for the tool use demo.
    /// </summary>
    public static void PrintFooter()
    {
        Console.WriteLine(@"
=====

Thank you for checking out the Amazon Bedrock Tool Use demo. We hope you
learned something new, or got some inspiration for your own apps today!

For more Bedrock examples in different programming languages, have a look
at:
    https://docs.aws.amazon.com/bedrock/latest/userguide/
service_code_examples.html
=====
");
    }

    /// <summary>
    /// Logs information about the tool use.
    /// </summary>
    /// <param name="toolName">The name of the tool being used.</param>
    /// <param name="inputData">The input data for the tool.</param>
    public static void PrintToolUse(string toolName, Dictionary<string, Document>
inputData)
    {
        Console.WriteLine($"\\n\\tInvoking tool: {toolName} with input:
{inputData["latitude"].ToString()}, {inputData["longitude"].ToString()}...\\n");
    }

    /// <summary>
    /// Logs the model's response.
    /// </summary>
    /// <param name="message">The model's response message.</param>
    public static void PrintModelResponse(string message)
    {
        Console.WriteLine("\\tThe model's response:\\n");
        Console.WriteLine(message);
        Console.WriteLine();
    }
}

```

デモで使用する気象ツール。このファイルはツールの仕様を定義し、Open-Meteo API を使用して気象データを取得するロジックを実装します。

```
using Amazon.BedrockRuntime.Model;
using Amazon.Runtime.Documents;
using Microsoft.Extensions.Logging;

namespace ConverseToolScenario;

/// <summary>
/// Weather tool that will be invoked when requested by the Bedrock response.
/// </summary>
public class WeatherTool
{
    private readonly ILogger<WeatherTool> _logger;
    private readonly IHttpClientFactory _httpClientFactory;

    public WeatherTool(ILogger<WeatherTool> logger, IHttpClientFactory
httpClientFactory)
    {
        _logger = logger;
        _httpClientFactory = httpClientFactory;
    }

    /// <summary>
    /// Returns the JSON Schema specification for the Weather tool. The tool
specification
    /// defines the input schema and describes the tool's functionality.
    /// For more information, see https://json-schema.org/understanding-json-schema/
reference.
    /// </summary>
    /// <returns>The tool specification for the Weather tool.</returns>
    public ToolSpecification GetToolSpec()
    {
        ToolSpecification toolSpecification = new ToolSpecification();

        toolSpecification.Name = "Weather_Tool";
        toolSpecification.Description = "Get the current weather for a given
location, based on its WGS84 coordinates.";
    }
}
```

```

        Document toolSpecDocument = Document.FromObject(
            new
            {
                type = "object",
                properties = new
                {
                    latitude = new
                    {
                        type = "string",
                        description = "Geographical WGS84 latitude of the location."
                    },
                    longitude = new
                    {
                        type = "string",
                        description = "Geographical WGS84 longitude of the
location."
                    }
                },
                required = new[] { "latitude", "longitude" }
            });

        toolSpecification.InputSchema = new ToolInputSchema() { Json =
toolSpecDocument };
        return toolSpecification;
    }

    /// <summary>
    /// Fetches weather data for the given latitude and longitude using the Open-
Meteo API.
    /// Returns the weather data or an error message if the request fails.
    /// </summary>
    /// <param name="latitude">The latitude of the location.</param>
    /// <param name="longitude">The longitude of the location.</param>
    /// <returns>The weather data or an error message.</returns>
    public async Task<Document> FetchWeatherDataAsync(string latitude, string
longitude)
    {
        string endpoint = "https://api.open-meteo.com/v1/forecast";

        try
        {
            var httpClient = _httpClientFactory.CreateClient();
            var response = await httpClient.GetAsync($"{endpoint}?
latitude={latitude}&longitude={longitude}&current_weather=True");

```

```

        response.EnsureSuccessStatusCode();
        var weatherData = await response.Content.ReadAsStringAsync();

        Document weatherDocument = Document.FromObject(
            new { weather_data = weatherData });

        return weatherDocument;
    }
    catch (HttpRequestException e)
    {
        _logger.LogError(e, "Error fetching weather data: {Message}",
            e.Message);
        throw;
    }
    catch (Exception e)
    {
        _logger.LogError(e, "Unexpected error fetching weather data: {Message}",
            e.Message);
        throw;
    }
}
}

```

ツール設定を使用する Converse API アクション。

```

/// <summary>
/// Wrapper class for interacting with the Amazon Bedrock Converse API.
/// </summary>
public class BedrockActionsWrapper
{
    private readonly IAmazonBedrockRuntime _bedrockClient;
    private readonly ILogger<BedrockActionsWrapper> _logger;

    /// <summary>
    /// Initializes a new instance of the <see cref="BedrockActionsWrapper"/> class.
    /// </summary>
    /// <param name="bedrockClient">The Bedrock Converse API client.</param>
    /// <param name="logger">The logger instance.</param>
    public BedrockActionsWrapper(IAmazonBedrockRuntime bedrockClient,
        ILogger<BedrockActionsWrapper> logger)
    {

```

```

        _bedrockClient = bedrockClient;
        _logger = logger;
    }

    /// <summary>
    /// Sends a Converse request to the Amazon Bedrock Converse API.
    /// </summary>
    /// <param name="modelId">The Bedrock Model Id.</param>
    /// <param name="systemPrompt">A system prompt instruction.</param>
    /// <param name="conversation">The array of messages in the conversation.</
param>
    /// <param name="toolSpec">The specification for a tool.</param>
    /// <returns>The response of the model.</returns>
    public async Task<ConverseResponse> SendConverseRequestAsync(string modelId,
string systemPrompt, List<Message> conversation, ToolSpecification toolSpec)
    {
        try
        {
            var request = new ConverseRequest()
            {
                ModelId = modelId,
                System = new List<SystemContentBlock>()
                {
                    new SystemContentBlock()
                    {
                        Text = systemPrompt
                    }
                },
                Messages = conversation,
                ToolConfig = new ToolConfiguration()
                {
                    Tools = new List<Tool>()
                    {
                        new Tool()
                        {
                            ToolSpec = toolSpec
                        }
                    }
                }
            };

            var response = await _bedrockClient.ConverseAsync(request);

            return response;
        }
    }

```

```
    }  
    catch (ModelNotReadyException ex)  
    {  
        _logger.LogError(ex, "Model not ready, please wait and try again.");  
        throw;  
    }  
    catch (AmazonBedrockRuntimeException ex)  
    {  
        _logger.LogError(ex, "Error occurred while sending Converse request.");  
        throw;  
    }  
}  
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[Converse](#)」を参照してください。

Amazon Nova Canvas

InvokeModel

以下のコード例は、Amazon Bedrock で Amazon Nova Canvas を呼び出して画像を生成する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

Amazon Nova Canvas で画像を作成します。

```
// Use the native inference API to create an image with Amazon Nova Canvas.  
  
using System;  
using System.IO;  
using System.Text.Json;  
using System.Text.Json.Nodes;
```

```
using Amazon;
using Amazon.BedrockRuntime;
using Amazon.BedrockRuntime.Model;

// Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
var client = new AmazonBedrockRuntimeClient(RegionEndpoint.USEast1);

// Set the model ID.
var modelId = "amazon.nova-canvas-v1:0";

// Define the image generation prompt for the model.
var prompt = "A stylized picture of a cute old steampunk robot.";

// Create a random seed between 0 and 858,993,459
int seed = new Random().Next(0, 858993460);

//Format the request payload using the model's native structure.
var nativeRequest = JsonSerializer.Serialize(new
{
    taskType = "TEXT_IMAGE",
    textToImageParams = new
    {
        text = prompt
    },
    imageGenerationConfig = new
    {
        seed,
        quality = "standard",
        width = 512,
        height = 512,
        numberOfImages = 1
    }
});

// Create a request with the model ID and the model's native request payload.
var request = new InvokeModelRequest()
{
    ModelId = modelId,
    Body = new MemoryStream(System.Text.Encoding.UTF8.GetBytes(nativeRequest)),
    ContentType = "application/json"
};

try
{

```



```
// Send the request to the Bedrock Runtime and wait for the response.
var response = await client.InvokeModelAsync(request);

// Decode the response body.
var modelResponse = await JsonNode.ParseAsync(response.Body);

// Extract the image data.
var base64Image = modelResponse["images"]?[0].ToString() ?? "";

// Save the image in a local folder
string savedPath = AmazonNovaCanvas.InvokeModel.SaveBase64Image(base64Image);
Console.WriteLine($"Image saved to: {savedPath}");
}
catch (AmazonBedrockRuntimeException e)
{
    Console.WriteLine($"ERROR: Can't invoke '{modelId}'. Reason: {e.Message}");
    throw;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[InvokeModel](#)」を参照してください。

Anthropic Claude

InvokeModelWithResponseStream

次のコード例は、Invoke Model API を使用して Anthropic Claude モデルにテキストメッセージを送信し、レスポンスストリームを出力する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

Invoke Model API を使用してテキストメッセージを送信し、レスポンスストリームをリアルタイムで処理します。

```
// Use the native inference API to send a text message to Anthropic Claude
// and print the response stream.

using System;
using System.IO;
using System.Text.Json;
using System.Text.Json.Nodes;
using Amazon;
using Amazon.BedrockRuntime;
using Amazon.BedrockRuntime.Model;

// Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
var client = new AmazonBedrockRuntimeClient(RegionEndpoint.USEast1);

// Set the model ID, e.g., Claude 3 Haiku.
var modelId = "anthropic.claude-3-haiku-20240307-v1:0";

// Define the user message.
var userMessage = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one line.";

//Format the request payload using the model's native structure.
var nativeRequest = JsonSerializer.Serialize(new
{
    anthropic_version = "bedrock-2023-05-31",
    max_tokens = 512,
    temperature = 0.5,
    messages = new[]
    {
        new { role = "user", content = userMessage }
    }
});

// Create a request with the model ID, the user message, and an inference
// configuration.
var request = new InvokeModelWithResponseStreamRequest()
{
    ModelId = modelId,
    Body = new MemoryStream(System.Text.Encoding.UTF8.GetBytes(nativeRequest)),
    ContentType = "application/json"
};

try
{

```

```
// Send the request to the Bedrock Runtime and wait for the response.
var streamingResponse = await
client.InvokeModelWithResponseStreamAsync(request);

// Extract and print the streamed response text in real-time.
foreach (var item in streamingResponse.Body)
{
    var chunk = JsonSerializer.Deserialize<JsonObject>((item as
PayloadPart).Bytes);
    var text = chunk["delta"]?["text"] ?? "";
    Console.Write(text);
}
}
catch (AmazonBedrockRuntimeException e)
{
    Console.WriteLine($"ERROR: Can't invoke '{modelId}'. Reason: {e.Message}");
    throw;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[InvokeModelWithResponseStream](#)」を参照してください。

Cohere Command

InvokeModel: コマンド R および R+

次のコード例は、Invoke Model API を使用して Cohere Command R および R+ にテキストメッセージを送信する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

Invoke Model API を使用してテキストメッセージを送信します。

```
// Use the native inference API to send a text message to Cohere Command R.

using System;
using System.IO;
using System.Text.Json;
using System.Text.Json.Nodes;
using Amazon;
using Amazon.BedrockRuntime;
using Amazon.BedrockRuntime.Model;

// Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
var client = new AmazonBedrockRuntimeClient(RegionEndpoint.USEast1);

// Set the model ID, e.g., Command R.
var modelId = "cohere.command-r-v1:0";

// Define the user message.
var userMessage = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one line.";

//Format the request payload using the model's native structure.
var nativeRequest = JsonSerializer.Serialize(new
{
    message = userMessage,
    max_tokens = 512,
    temperature = 0.5
});

// Create a request with the model ID and the model's native request payload.
var request = new InvokeModelRequest()
{
    ModelId = modelId,
    Body = new MemoryStream(System.Text.Encoding.UTF8.GetBytes(nativeRequest)),
    ContentType = "application/json"
};

try
{
    // Send the request to the Bedrock Runtime and wait for the response.
    var response = await client.InvokeModelAsync(request);

    // Decode the response body.
    var modelResponse = await JsonNode.ParseAsync(response.Body);
}
```

```
// Extract and print the response text.
var responseText = modelResponse["text"] ?? "";
Console.WriteLine(responseText);
}
catch (AmazonBedrockRuntimeException e)
{
    Console.WriteLine($"ERROR: Can't invoke '{modelId}'. Reason: {e.Message}");
    throw;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[InvokeModel](#)」を参照してください。

InvokeModelWithResponseStream: コマンド R および R+

次のコード例は、レスポンスストリームで Invoke Model API を使用して、Cohere Command にテキストメッセージを送信する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

Invoke Model API を使用してテキストメッセージを送信し、レスポンスストリームをリアルタイムで処理します。

```
// Use the native inference API to send a text message to Cohere Command R
// and print the response stream.

using System;
using System.IO;
using System.Text.Json;
using System.Text.Json.Nodes;
using Amazon;
using Amazon.BedrockRuntime;
using Amazon.BedrockRuntime.Model;
```

```
// Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
var client = new AmazonBedrockRuntimeClient(RegionEndpoint.USEast1);

// Set the model ID, e.g., Command R.
var modelId = "cohere.command-r-v1:0";

// Define the user message.
var userMessage = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one line.";

//Format the request payload using the model's native structure.
var nativeRequest = JsonSerializer.Serialize(new
{
    message = userMessage,
    max_tokens = 512,
    temperature = 0.5
});

// Create a request with the model ID and the model's native request payload.
var request = new InvokeModelWithResponseStreamRequest()
{
    ModelId = modelId,
    Body = new MemoryStream(System.Text.Encoding.UTF8.GetBytes(nativeRequest)),
    ContentType = "application/json"
};

try
{
    // Send the request to the Bedrock Runtime and wait for the response.
    var streamingResponse = await
client.InvokeModelWithResponseStreamAsync(request);

    // Extract and print the streamed response text in real-time.
    foreach (var item in streamingResponse.Body)
    {
        var chunk = JsonSerializer.Deserialize<JsonObject>((item as
PayloadPart).Bytes);
        var text = chunk["text"] ?? "";
        Console.Write(text);
    }
}
catch (AmazonBedrockRuntimeException e)
{
    Console.WriteLine($"ERROR: Can't invoke '{modelId}'. Reason: {e.Message}");
}
```

```
        throw;  
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[InvokeModel](#)」を参照してください。

Meta Llama

InvokeModel

次のコード例は、Invoke Model API を使用して Meta Llama にテキストメッセージを送信する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

Invoke Model API を使用してテキストメッセージを送信します。

```
// Use the native inference API to send a text message to Meta Llama 3.  
  
using System;  
using System.IO;  
using System.Text.Json;  
using System.Text.Json.Nodes;  
using Amazon;  
using Amazon.BedrockRuntime;  
using Amazon.BedrockRuntime.Model;  
  
// Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.  
var client = new AmazonBedrockRuntimeClient(RegionEndpoint.USSouth1);  
  
// Set the model ID, e.g., Llama 3 70b Instruct.  
var modelId = "meta.llama3-70b-instruct-v1:0";
```

```
// Define the prompt for the model.
var prompt = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one line.";

// Embed the prompt in Llama 2's instruction format.
var formattedPrompt = $"
<|begin_of_text|><|start_header_id|>user<|end_header_id|>
{prompt}
<|eot_id|>
<|start_header_id|>assistant<|end_header_id|>
";

//Format the request payload using the model's native structure.
var nativeRequest = JsonSerializer.Serialize(new
{
    prompt = formattedPrompt,
    max_gen_len = 512,
    temperature = 0.5
});

// Create a request with the model ID and the model's native request payload.
var request = new InvokeModelRequest()
{
    ModelId = modelId,
    Body = new MemoryStream(System.Text.Encoding.UTF8.GetBytes(nativeRequest)),
    ContentType = "application/json"
};

try
{
    // Send the request to the Bedrock Runtime and wait for the response.
    var response = await client.InvokeModelAsync(request);

    // Decode the response body.
    var modelResponse = await JsonNode.ParseAsync(response.Body);

    // Extract and print the response text.
    var responseText = modelResponse["generation"] ?? "";
    Console.WriteLine(responseText);
}
catch (AmazonBedrockRuntimeException e)
{
    Console.WriteLine($"ERROR: Can't invoke '{modelId}'. Reason: {e.Message}");
    throw;
}
```


- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[InvokeModel](#)」を参照してください。

InvokeModelWithResponseStream

次のコード例は、Invoke Model API を使用して Meta Llama にテキストメッセージを送信し、レスポンスストリームを出力する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

Invoke Model API を使用してテキストメッセージを送信し、レスポンスストリームをリアルタイムで処理します。

```
// Use the native inference API to send a text message to Meta Llama 3
// and print the response stream.

using System;
using System.IO;
using System.Text.Json;
using System.Text.Json.Nodes;
using Amazon;
using Amazon.BedrockRuntime;
using Amazon.BedrockRuntime.Model;

// Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
var client = new AmazonBedrockRuntimeClient(RegionEndpoint.USWest2);

// Set the model ID, e.g., Llama 3 70b Instruct.
var modelId = "meta.llama3-70b-instruct-v1:0";

// Define the prompt for the model.
var prompt = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one line.";
```

```
// Embed the prompt in Llama 2's instruction format.
var formattedPrompt = $"
<|begin_of_text|><|start_header_id|>user<|end_header_id|>
{prompt}
<|eot_id|>
<|start_header_id|>assistant<|end_header_id|>
";

//Format the request payload using the model's native structure.
var nativeRequest = JsonSerializer.Serialize(new
{
    prompt = formattedPrompt,
    max_gen_len = 512,
    temperature = 0.5
});

// Create a request with the model ID and the model's native request payload.
var request = new InvokeModelWithResponseStreamRequest()
{
    ModelId = modelId,
    Body = new MemoryStream(System.Text.Encoding.UTF8.GetBytes(nativeRequest)),
    ContentType = "application/json"
};

try
{
    // Send the request to the Bedrock Runtime and wait for the response.
    var streamingResponse = await
client.InvokeModelWithResponseStreamAsync(request);

    // Extract and print the streamed response text in real-time.
    foreach (var item in streamingResponse.Body)
    {
        var chunk = JsonSerializer.Deserialize<JsonObject>((item as
PayloadPart).Bytes);
        var text = chunk["generation"] ?? "";
        Console.Write(text);
    }
}
catch (AmazonBedrockRuntimeException e)
{
    Console.WriteLine($"ERROR: Can't invoke '{modelId}'. Reason: {e.Message}");
    throw;
}
```

```
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[InvokeModelWithResponseStream](#)」を参照してください。

Mistral AI

InvokeModel

次のコード例は、Invoke Model API を使用して Mistral モデルにテキストメッセージを送信する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

Invoke Model API を使用してテキストメッセージを送信します。

```
// Use the native inference API to send a text message to Mistral.

using System;
using System.IO;
using System.Text.Json;
using System.Text.Json.Nodes;
using Amazon;
using Amazon.BedrockRuntime;
using Amazon.BedrockRuntime.Model;

// Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
var client = new AmazonBedrockRuntimeClient(RegionEndpoint.USEast1);

// Set the model ID, e.g., Mistral Large.
var modelId = "mistral.mistral-large-2402-v1:0";

// Define the prompt for the model.
```

```
var prompt = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one line.";

// Embed the prompt in Mistral's instruction format.
var formattedPrompt = $"<s>[INST] {prompt} [/INST]";

//Format the request payload using the model's native structure.
var nativeRequest = JsonSerializer.Serialize(new
{
    prompt = formattedPrompt,
    max_tokens = 512,
    temperature = 0.5
});

// Create a request with the model ID and the model's native request payload.
var request = new InvokeModelRequest()
{
    ModelId = modelId,
    Body = new MemoryStream(System.Text.Encoding.UTF8.GetBytes(nativeRequest)),
    ContentType = "application/json"
};

try
{
    // Send the request to the Bedrock Runtime and wait for the response.
    var response = await client.InvokeModelAsync(request);

    // Decode the response body.
    var modelResponse = await JsonNode.ParseAsync(response.Body);

    // Extract and print the response text.
    var responseText = modelResponse["outputs"]?[0]?["text"] ?? "";
    Console.WriteLine(responseText);
}
catch (AmazonBedrockRuntimeException e)
{
    Console.WriteLine($"ERROR: Can't invoke '{modelId}'. Reason: {e.Message}");
    throw;
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[InvokeModel](#)」を参照してください。

InvokeModelWithResponseStream

次のコード例は、Invoke Model API を使用して Mistral AI モデルにテキストメッセージを送信し、レスポンスストリームを出力する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

Invoke Model API を使用してテキストメッセージを送信し、レスポンスストリームをリアルタイムで処理します。

```
// Use the native inference API to send a text message to Mistral
// and print the response stream.

using System;
using System.IO;
using System.Text.Json;
using System.Text.Json.Nodes;
using Amazon;
using Amazon.BedrockRuntime;
using Amazon.BedrockRuntime.Model;

// Create a Bedrock Runtime client in the AWS Region you want to use.
var client = new AmazonBedrockRuntimeClient(RegionEndpoint.USEast1);

// Set the model ID, e.g., Mistral Large.
var modelId = "mistral.mistral-large-2402-v1:0";

// Define the prompt for the model.
var prompt = "Describe the purpose of a 'hello world' program in one line.";

// Embed the prompt in Mistral's instruction format.
var formattedPrompt = $"<s>[INST] {prompt} [/INST]";

//Format the request payload using the model's native structure.
var nativeRequest = JsonSerializer.Serialize(new
{
```

```
        prompt = formattedPrompt,
        max_tokens = 512,
        temperature = 0.5
    });

    // Create a request with the model ID and the model's native request payload.
    var request = new InvokeModelWithResponseStreamRequest()
    {
        ModelId = modelId,
        Body = new MemoryStream(System.Text.Encoding.UTF8.GetBytes(nativeRequest)),
        ContentType = "application/json"
    };

    try
    {
        // Send the request to the Bedrock Runtime and wait for the response.
        var streamingResponse = await
            client.InvokeModelWithResponseStreamAsync(request);

        // Extract and print the streamed response text in real-time.
        foreach (var item in streamingResponse.Body)
        {
            var chunk = JsonSerializer.Deserialize<JsonObject>((item as
                PayloadPart).Bytes);
            var text = chunk["outputs"]?[0]?["text"] ?? "";
            Console.Write(text);
        }
    }
    catch (AmazonBedrockRuntimeException e)
    {
        Console.WriteLine($"ERROR: Can't invoke '{modelId}'. Reason: {e.Message}");
        throw;
    }
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[InvokeModelWithResponseStream](#)」を参照してください。

を使用した CloudWatch Logs の例 SDK for .NET

次のコード例は、CloudWatch Logs AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)

アクション

AssociateKmsKey

次のコード例は、AssociateKmsKey を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.CloudWatchLogs;
using Amazon.CloudWatchLogs.Model;

/// <summary>
/// Shows how to associate an AWS Key Management Service (AWS KMS) key with
/// an Amazon CloudWatch Logs log group.
/// </summary>
public class AssociateKmsKey
```

```
{
    public static async Task Main()
    {
        // This client object will be associated with the same AWS Region
        // as the default user on this system. If you need to use a
        // different AWS Region, pass it as a parameter to the client
        // constructor.
        var client = new AmazonCloudWatchLogsClient();

        string kmsKeyId = "arn:aws:kms:us-west-2:<account-
number>:key/7c9eccc2-38cb-4c4f-9db3-766ee8dd3ad4";
        string groupName = "cloudwatchlogs-example-loggroup";

        var request = new AssociateKmsKeyRequest
        {
            KmsKeyId = kmsKeyId,
            LogGroupName = groupName,
        };

        var response = await client.AssociateKmsKeyAsync(request);

        if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
        {
            Console.WriteLine($"Successfully associated KMS key ID: {kmsKeyId}
with log group: {groupName}.");
        }
        else
        {
            Console.WriteLine("Could not make the association between:
{kmsKeyId} and {groupName}.");
        }
    }
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」にある「[AssociateKmsKey](#)」を参照してください。

CancelExportTask

次のコード例は、CancelExportTask を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.CloudWatchLogs;
using Amazon.CloudWatchLogs.Model;

/// <summary>
/// Shows how to cancel an Amazon CloudWatch Logs export task.
/// </summary>
public class CancelExportTask
{
    public static async Task Main()
    {
        // This client object will be associated with the same AWS Region
        // as the default user on this system. If you need to use a
        // different AWS Region, pass it as a parameter to the client
        // constructor.
        var client = new AmazonCloudWatchLogsClient();
        string taskId = "exampleTaskId";

        var request = new CancelExportTaskRequest
        {
            TaskId = taskId,
        };

        var response = await client.CancelExportTaskAsync(request);

        if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
        {
            Console.WriteLine($"{taskId} successfully canceled.");
        }
        else
        {
            Console.WriteLine($"{taskId} could not be canceled.");
        }
    }
}
```

```
}  
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CancelExportTask](#)」を参照してください。

CreateExportTask

次のコード例は、CreateExportTask を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;  
using System.Threading.Tasks;  
using Amazon.CloudWatchLogs;  
using Amazon.CloudWatchLogs.Model;  
  
/// <summary>  
/// Shows how to create an Export Task to export the contents of the Amazon  
/// CloudWatch Logs to the specified Amazon Simple Storage Service (Amazon S3)  
/// bucket.  
/// </summary>  
public class CreateExportTask  
{  
    public static async Task Main()  
    {  
        // This client object will be associated with the same AWS Region  
        // as the default user on this system. If you need to use a  
        // different AWS Region, pass it as a parameter to the client  
        // constructor.  
        var client = new AmazonCloudWatchLogsClient();  
        string taskName = "export-task-example";  
        string logGroupName = "cloudwatchlogs-example-loggroup";
```

```
string destination = "amzn-s3-demo-bucket";
var fromTime = 1437584472382;
var toTime = 1437584472833;

var request = new CreateExportTaskRequest
{
    From = fromTime,
    To = toTime,
    TaskName = taskName,
    LogGroupName = logGroupName,
    Destination = destination,
};

var response = await client.CreateExportTaskAsync(request);

if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
{
    Console.WriteLine($"The task, {taskName} with ID: " +
        $"{response.TaskId} has been created
successfully.");
}
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CreateExportTask](#)」を参照してください。

CreateLogGroup

次のコード例は、CreateLogGroup を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.CloudWatchLogs;
using Amazon.CloudWatchLogs.Model;

/// <summary>
/// Shows how to create an Amazon CloudWatch Logs log group.
/// </summary>
public class CreateLogGroup
{
    public static async Task Main()
    {
        // This client object will be associated with the same AWS Region
        // as the default user on this system. If you need to use a
        // different AWS Region, pass it as a parameter to the client
        // constructor.
        var client = new AmazonCloudWatchLogsClient();

        string logGroupName = "cloudwatchlogs-example-loggroup";

        var request = new CreateLogGroupRequest
        {
            LogGroupName = logGroupName,
        };

        var response = await client.CreateLogGroupAsync(request);

        if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
        {
            Console.WriteLine($"Successfully create log group with ID:
{logGroupName}.");
        }
        else
        {
            Console.WriteLine("Could not create log group.");
        }
    }
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateLogGroup](#)」を参照してください。

CreateLogStream

次のコード例は、CreateLogStream を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.CloudWatchLogs;
using Amazon.CloudWatchLogs.Model;

/// <summary>
/// Shows how to create an Amazon CloudWatch Logs stream for a CloudWatch
/// log group.
/// </summary>
public class CreateLogStream
{
    public static async Task Main()
    {
        // This client object will be associated with the same AWS Region
        // as the default user on this system. If you need to use a
        // different AWS Region, pass it as a parameter to the client
        // constructor.
        var client = new AmazonCloudWatchLogsClient();
        string logGroupName = "cloudwatchlogs-example-loggroup";
        string logStreamName = "cloudwatchlogs-example-logstream";

        var request = new CreateLogStreamRequest
        {
            LogGroupName = logGroupName,
            LogStreamName = logStreamName,
        };

        var response = await client.CreateLogStreamAsync(request);

        if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
        {

```

```
        Console.WriteLine($"{logStreamName} successfully created for  
{logGroupName}.");  
    }  
    else  
    {  
        Console.WriteLine("Could not create stream.");  
    }  
}  
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CreateLogStream](#)」を参照してください。

DeleteLogGroup

次のコード例は、DeleteLogGroup を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;  
using System.Threading.Tasks;  
using Amazon.CloudWatchLogs;  
using Amazon.CloudWatchLogs.Model;  
  
/// <summary>  
/// Uses the Amazon CloudWatch Logs Service to delete an existing  
/// CloudWatch Logs log group.  
/// </summary>  
public class DeleteLogGroup  
{  
    public static async Task Main()  
    {  
        var client = new AmazonCloudWatchLogsClient();
```

```
string logGroupName = "cloudwatchlogs-example-loggroup";

var request = new DeleteLogGroupRequest
{
    LogGroupName = logGroupName,
};

var response = await client.DeleteLogGroupAsync(request);

if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
{
    Console.WriteLine($"Successfully deleted CloudWatch log group,
{logGroupName}.");
}
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteLogGroup](#)」を参照してください。

DescribeExportTasks

次のコード例は、DescribeExportTasks を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.CloudWatchLogs;
using Amazon.CloudWatchLogs.Model;

/// <summary>
/// Shows how to retrieve a list of information about Amazon CloudWatch
```

```
/// Logs export tasks.
/// </summary>
public class DescribeExportTasks
{
    public static async Task Main()
    {
        // This client object will be associated with the same AWS Region
        // as the default user on this system. If you need to use a
        // different AWS Region, pass it as a parameter to the client
        // constructor.
        var client = new AmazonCloudWatchLogsClient();

        var request = new DescribeExportTasksRequest
        {
            Limit = 5,
        };

        var response = new DescribeExportTasksResponse();

        do
        {
            response = await client.DescribeExportTasksAsync(request);
            response.ExportTasks.ForEach(t =>
            {
                Console.WriteLine($"{t.TaskName} with ID: {t.TaskId} has status:
{t.Status}");
            });
        }
        while (response.NextToken is not null);
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DescribeExportTasks](#)」を参照してください。

DescribeLogGroups

次のコード例は、DescribeLogGroups を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.CloudWatchLogs;
using Amazon.CloudWatchLogs.Model;

/// <summary>
/// Retrieves information about existing Amazon CloudWatch Logs log groups
/// and displays the information on the console.
/// </summary>
public class DescribeLogGroups
{
    public static async Task Main()
    {
        // Creates a CloudWatch Logs client using the default
        // user. If you need to work with resources in another
        // AWS Region than the one defined for the default user,
        // pass the AWS Region as a parameter to the client constructor.
        var client = new AmazonCloudWatchLogsClient();

        bool done = false;
        string newToken = null;

        var request = new DescribeLogGroupsRequest
        {
            Limit = 5,
        };

        DescribeLogGroupsResponse response;

        do
        {
            if (newToken is not null)
            {
                request.NextToken = newToken;
            }
        }
    }
}
```

```
    }

    response = await client.DescribeLogGroupsAsync(request);

    response.LogGroups.ForEach(lg =>
    {
        Console.WriteLine($"{lg.LogGroupName} is associated with the
key: {lg.KmsKeyId}.");
        Console.WriteLine($"Created on: {lg.CreationTime.Date.Date}");
        Console.WriteLine($"Date for this group will be stored for:
{lg.RetentionInDays} days.\n");
    });

    if (response.NextToken is null)
    {
        done = true;
    }
    else
    {
        newToken = response.NextToken;
    }
}
while (!done);
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeLogGroups](#)」を参照してください。

StartLiveTail

次のコード例は、StartLiveTail を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

必要なファイルを含めます。

```
using Amazon;
using Amazon.CloudWatchLogs;
using Amazon.CloudWatchLogs.Model;
```

Live Tail セッションを開始します。

```
var client = new AmazonCloudWatchLogsClient();
var request = new StartLiveTailRequest
{
    LogGroupIdentifiers = logGroupIdentifiers,
    LogStreamNames = logStreamNames,
    LogEventFilterPattern = filterPattern,
};

var response = await client.StartLiveTailAsync(request);

// Catch if request fails
if (response.HttpStatusCode != System.Net.HttpStatusCode.OK)
{
    Console.WriteLine("Failed to start live tail session");
    return;
}
```

Live Tail セッションのイベントは 2 つの方法で処理できます。

```
/* Method 1
 * 1). Asynchronously loop through the event stream
 * 2). Set a timer to dispose the stream and stop the Live Tail session
at the end.
*/
var eventStream = response.ResponseStream;
var task = Task.Run(() =>
{
    foreach (var item in eventStream)
    {
        if (item is LiveTailSessionUpdate liveTailSessionUpdate)
        {
            foreach (var sessionResult in
liveTailSessionUpdate.SessionResults)
            {
                Console.WriteLine("Message : {0}",
sessionResult.Message);
            }
        }
    }
}
```

```

        if (item is LiveTailSessionStart)
        {
            Console.WriteLine("Live Tail session started");
        }
        // On-stream exceptions are processed here
        if (item is CloudWatchLogsEventStreamException)
        {
            Console.WriteLine($"ERROR: {item}");
        }
    }
});
// Close the stream to stop the session after a timeout
if (!task.Wait(TimeSpan.FromSeconds(10))){
    eventStream.Dispose();
    Console.WriteLine("End of line");
}

```

```

/* Method 2
 * 1). Add event handlers to each event variable
 * 2). Start processing the stream and wait for a timeout using
AutoResetEvent
*/
AutoResetEvent endEvent = new AutoResetEvent(false);
var eventStream = response.ResponseStream;
using (eventStream) // automatically disposes the stream to stop the
session after execution finishes
{
    eventStream.SessionStartReceived += (sender, e) =>
    {
        Console.WriteLine("LiveTail session started");
    };
    eventStream.SessionUpdateReceived += (sender, e) =>
    {
        foreach (LiveTailSessionLogEvent logEvent in
e.EventStreamEvent.SessionResults){
            Console.WriteLine("Message: {0}", logEvent.Message);
        }
    };
    // On-stream exceptions are captured here
    eventStream.ExceptionReceived += (sender, e) =>
    {
        Console.WriteLine($"ERROR: {e.EventStreamException.Message}");
    };
}

```

```
};

eventStream.StartProcessing();
// Stream events for this amount of time.
endEvent.WaitOne(TimeSpan.FromSeconds(10));
Console.WriteLine("End of line");
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[StartLiveTail](#)」を参照してください。

を使用した Amazon Cognito ID プロバイダーの例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon Cognito ID プロバイダー AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)
- [シナリオ](#)

アクション

AdminGetUser

次のコード例は、AdminGetUser を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get the specified user from an Amazon Cognito user pool with administrator
access.
/// </summary>
/// <param name="userName">The name of the user.</param>
/// <param name="poolId">The Id of the Amazon Cognito user pool.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task<UserStatusType> GetAdminUserAsync(string userName, string
poolId)
{
    AdminGetUserRequest userRequest = new AdminGetUserRequest
    {
        Username = userName,
        UserPoolId = poolId,
    };

    var response = await _cognitoService.AdminGetUserAsync(userRequest);

    Console.WriteLine($"User status {response.UserStatus}");
    return response.UserStatus;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[AdminGetUser](#)」を参照してください。

AdminInitiateAuth

次のコード例は、AdminInitiateAuth を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Initiate an admin auth request.
/// </summary>
/// <param name="clientId">The client ID to use.</param>
/// <param name="userPoolId">The ID of the user pool.</param>
/// <param name="userName">The username to authenticate.</param>
/// <param name="password">The user's password.</param>
/// <returns>The session to use in challenge-response.</returns>
public async Task<string> AdminInitiateAuthAsync(string clientId, string
userPoolId, string userName, string password)
{
    var authParameters = new Dictionary<string, string>();
    authParameters.Add("USERNAME", userName);
    authParameters.Add("PASSWORD", password);

    var request = new AdminInitiateAuthRequest
    {
        ClientId = clientId,
        UserPoolId = userPoolId,
        AuthParameters = authParameters,
        AuthFlow = AuthFlowType.ADMIN_USER_PASSWORD_AUTH,
    };

    var response = await _cognitoService.AdminInitiateAuthAsync(request);
    return response.Session;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[AdminInitiateAuth](#)」を参照してください。

AdminRespondToAuthChallenge

次のコード例は、AdminRespondToAuthChallenge を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Respond to an admin authentication challenge.
/// </summary>
/// <param name="userName">The name of the user.</param>
/// <param name="clientId">The client ID.</param>
/// <param name="mfaCode">The multi-factor authentication code.</param>
/// <param name="session">The current application session.</param>
/// <param name="clientId">The user pool ID.</param>
/// <returns>The result of the authentication response.</returns>
public async Task<AuthenticationResultType> AdminRespondToAuthChallengeAsync(
    string userName,
    string clientId,
    string mfaCode,
    string session,
    string userPoolId)
{
    Console.WriteLine("SOFTWARE_TOKEN_MFA challenge is generated");

    var challengeResponses = new Dictionary<string, string>();
    challengeResponses.Add("USERNAME", userName);
    challengeResponses.Add("SOFTWARE_TOKEN_MFA_CODE", mfaCode);

    var respondToAuthChallengeRequest = new AdminRespondToAuthChallengeRequest
    {
        ChallengeName = ChallengeNameType.SOFTWARE_TOKEN_MFA,
        ClientId = clientId,
        ChallengeResponses = challengeResponses,
        Session = session,
        UserPoolId = userPoolId,
    };
};
```



```
var response = await
_cognitoService.AdminRespondToAuthChallengeAsync(respondToAuthChallengeRequest);
Console.WriteLine($"Response to Authentication
{response.AuthenticationResult.TokenType}");
return response.AuthenticationResult;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[AdminRespondToAuthChallenge](#)」を参照してください。

AssociateSoftwareToken

次のコード例は、AssociateSoftwareToken を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get an MFA token to authenticate the user with the authenticator.
/// </summary>
/// <param name="session">The session name.</param>
/// <returns>The session name.</returns>
public async Task<string> AssociateSoftwareTokenAsync(string session)
{
    var softwareTokenRequest = new AssociateSoftwareTokenRequest
    {
        Session = session,
    };

    var tokenResponse = await
_cognitoService.AssociateSoftwareTokenAsync(softwareTokenRequest);
    var secretCode = tokenResponse.SecretCode;
```

```
        Console.WriteLine($"Use the following secret code to set up the  
        authenticator: {secretCode}");  
  
        return tokenResponse.Session;  
    }  
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[AssociateSoftwareToken](#)」を参照してください。

ConfirmDevice

次のコード例は、ConfirmDevice を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>  
/// Initiates and confirms tracking of the device.  
/// </summary>  
/// <param name="accessToken">The user's access token.</param>  
/// <param name="deviceKey">The key of the device from Amazon Cognito.</param>  
/// <param name="deviceName">The device name.</param>  
/// <returns></returns>  
public async Task<bool> ConfirmDeviceAsync(string accessToken, string deviceKey,  
string deviceName)  
{  
    var request = new ConfirmDeviceRequest  
    {  
        AccessToken = accessToken,  
        DeviceKey = deviceKey,  
        DeviceName = deviceName  
    };  
  
    var response = await _cognitoService.ConfirmDeviceAsync(request);  
}
```

```
        return response.UserConfirmationNecessary;  
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ConfirmDevice](#)」を参照してください。

ConfirmSignUp

次のコード例は、ConfirmSignUp を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>  
/// Confirm that the user has signed up.  
/// </summary>  
/// <param name="clientId">The Id of this application.</param>  
/// <param name="code">The confirmation code sent to the user.</param>  
/// <param name="userName">The username.</param>  
/// <returns>True if successful.</returns>  
public async Task<bool> ConfirmSignUpAsync(string clientId, string code, string  
userName)  
{  
    var signUpRequest = new ConfirmSignUpRequest  
    {  
        ClientId = clientId,  
        ConfirmationCode = code,  
        Username = userName,  
    };  
  
    var response = await _cognitoService.ConfirmSignUpAsync(signUpRequest);  
    if (response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK)  
    {  
        Console.WriteLine($"{userName} was confirmed");  
    }  
}
```

```
        return true;
    }
    return false;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ConfirmSignUp](#)」を参照してください。

InitiateAuth

次のコード例は、InitiateAuth を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Initiate authorization.
/// </summary>
/// <param name="clientId">The client Id of the application.</param>
/// <param name="userName">The name of the user who is authenticating.</param>
/// <param name="password">The password for the user who is authenticating.</
param>
/// <returns>The response from the initiate auth request.</returns>
public async Task<InitiateAuthResponse> InitiateAuthAsync(string clientId,
string userName, string password)
{
    var authParameters = new Dictionary<string, string>();
    authParameters.Add("USERNAME", userName);
    authParameters.Add("PASSWORD", password);

    var authRequest = new InitiateAuthRequest

    {
        ClientId = clientId,
```

```

        AuthParameters = authParameters,
        AuthFlow = AuthFlowType.USER_PASSWORD_AUTH,
    };

    var response = await _cognitoService.InitiateAuthAsync(authRequest);
    Console.WriteLine($"Result Challenge is : {response.ChallengeName}");

    return response;
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[InitiateAuth](#)」を参照してください。

ListUsers

次のコード例は、ListUsers を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

/// <summary>
/// Get a list of users for the Amazon Cognito user pool.
/// </summary>
/// <param name="userPoolId">The user pool ID.</param>
/// <returns>A list of users.</returns>
public async Task<List<UserType>> ListUsersAsync(string userPoolId)
{
    var request = new ListUsersRequest
    {
        UserPoolId = userPoolId
    };

    var users = new List<UserType>();

    var usersPaginator = _cognitoService.Paginators.ListUsers(request);
}

```

```
        await foreach (var response in usersPaginator.Responses)
        {
            users.AddRange(response.Users);
        }

        return users;
    }
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListUsers](#)」を参照してください。

ResendConfirmationCode

次のコード例は、ResendConfirmationCode を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Send a new confirmation code to a user.
/// </summary>
/// <param name="clientId">The Id of the client application.</param>
/// <param name="userName">The username of user who will receive the code.</
param>
/// <returns>The delivery details.</returns>
public async Task<CodeDeliveryDetailsType> ResendConfirmationCodeAsync(string
clientId, string userName)
{
    var codeRequest = new ResendConfirmationCodeRequest
    {
        ClientId = clientId,
        Username = userName,
    };
}
```

```
var response = await
_cognitoService.ResendConfirmationCodeAsync(codeRequest);

Console.WriteLine($"Method of delivery is
{response.CodeDeliveryDetails.DeliveryMedium}");

return response.CodeDeliveryDetails;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ResendConfirmationCode](#)」を参照してください。

SignUp

次のコード例は、SignUp を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Sign up a new user.
/// </summary>
/// <param name="clientId">The client Id of the application.</param>
/// <param name="userName">The username to use.</param>
/// <param name="password">The user's password.</param>
/// <param name="email">The email address of the user.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating whether the user was confirmed.</
returns>
public async Task<bool> SignUpAsync(string clientId, string userName, string
password, string email)
{
    var userAttrs = new AttributeType
    {
        Name = "email",
```

```
        Value = email,
    };

    var userAttrsList = new List<AttributeType>();

    userAttrsList.Add(userAttrs);

    var signUpRequest = new SignUpRequest
    {
        UserAttributes = userAttrsList,
        Username = userName,
        ClientId = clientId,
        Password = password
    };

    var response = await _cognitoService.SignUpAsync(signUpRequest);
    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[SignUp](#)」を参照してください。

VerifySoftwareToken

次のコード例は、VerifySoftwareToken を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Verify the TOTP and register for MFA.
/// </summary>
/// <param name="session">The name of the session.</param>
/// <param name="code">The MFA code.</param>
```



```
/// <returns>The status of the software token.</returns>
public async Task<VerifySoftwareTokenType>
VerifySoftwareTokenAsync(string session, string code)
{
    var tokenRequest = new VerifySoftwareTokenRequest
    {
        UserCode = code,
        Session = session,
    };

    var verifyResponse = await
_cognitoService.VerifySoftwareTokenAsync(tokenRequest);

    return verifyResponse.Status;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[VerifySoftwareToken](#)」を参照してください。

シナリオ

MFA を必要とするユーザープールでユーザーをサインアップする

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- ユーザー名、パスワード、E メールアドレスでサインアップしてユーザーを確認します。
- MFA アプリケーションをユーザーに関連付けて、多要素認証を設定します。
- パスワードと MFA コードを使用してサインインします。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
namespace CognitoBasics;
```

```

public class CognitoBasics
{
    private static ILogger logger = null!;

    static async Task Main(string[] args)
    {
        // Set up dependency injection for Amazon Cognito.
        using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
            .ConfigureLogging(logging =>
                logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
                    .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
LogLevel.Information)
                    .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
            .ConfigureServices((_, services) =>
                services.AddAWSService<IAmazonCognitoIdentityProvider>()
                    .AddTransient<CognitoWrapper>()
                )
            .Build();

        logger = LoggerFactory.Create(builder => { builder.AddConsole(); })
            .CreateLogger<CognitoBasics>();

        var configuration = new ConfigurationBuilder()
            .SetBasePath(Directory.GetCurrentDirectory())
            .AddJsonFile("settings.json") // Load settings from .json file.
            .AddJsonFile("settings.local.json",
                true) // Optionally load local settings.
            .Build();

        var cognitoWrapper = host.Services.GetRequiredService<CognitoWrapper>();

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        UiMethods.DisplayOverview();
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        // clientId - The app client Id value that you get from the AWS CDK script.
        var clientId = configuration["ClientId"]; // "**** REPLACE WITH CLIENT ID
VALUE FROM CDK SCRIPT";

        // poolId - The pool Id that you get from the AWS CDK script.
        var poolId = configuration["PoolId"]!; // "**** REPLACE WITH POOL ID VALUE
FROM CDK SCRIPT";
        var userName = configuration["UserName"];
    }
}

```

```
var password = configuration["Password"];
var email = configuration["Email"];

// If the username wasn't set in the configuration file,
// get it from the user now.
if (userName is null)
{
    do
    {
        Console.Write("Username: ");
        userName = Console.ReadLine();
    }
    while (string.IsNullOrEmpty(userName));
}
Console.WriteLine($"\\nUsername: {userName}");

// If the password wasn't set in the configuration file,
// get it from the user now.
if (password is null)
{
    do
    {
        Console.Write("Password: ");
        password = Console.ReadLine();
    }
    while (string.IsNullOrEmpty(password));
}

// If the email address wasn't set in the configuration file,
// get it from the user now.
if (email is null)
{
    do
    {
        Console.Write("Email: ");
        email = Console.ReadLine();
    } while (string.IsNullOrEmpty(email));
}

// Now sign up the user.
Console.WriteLine($"\\nSigning up {userName} with email address: {email}");
await cognitoWrapper.SignUpAsync(clientId, userName, password, email);

// Add the user to the user pool.
```

```
Console.WriteLine($"Adding {userName} to the user pool");
await cognitoWrapper.GetAdminUserAsync(userName, poolId);

UiMethods.DisplayTitle("Get confirmation code");
Console.WriteLine($"Conformation code sent to {userName}.");
Console.Write("Would you like to send a new code? (Y/N) ");
var answer = Console.ReadLine();

if (answer!.ToLower() == "y")
{
    await cognitoWrapper.ResendConfirmationCodeAsync(clientId, userName);
    Console.WriteLine("Sending a new confirmation code");
}

Console.Write("Enter confirmation code (from Email): ");
var code = Console.ReadLine();

await cognitoWrapper.ConfirmSignupAsync(clientId, code, userName);

UiMethods.DisplayTitle("Checking status");
Console.WriteLine($"Rechecking the status of {userName} in the user pool");
await cognitoWrapper.GetAdminUserAsync(userName, poolId);

Console.WriteLine($"Setting up authenticator for {userName} in the user
pool");
var setupResponse = await cognitoWrapper.InitiateAuthAsync(clientId,
userName, password);

var setupSession = await
cognitoWrapper.AssociateSoftwareTokenAsync(setupResponse.Session);
Console.Write("Enter the 6-digit code displayed in Google Authenticator: ");
var setupCode = Console.ReadLine();

var setupResult = await
cognitoWrapper.VerifySoftwareTokenAsync(setupSession, setupCode);
Console.WriteLine($"Setup status: {setupResult}");

Console.WriteLine($"Now logging in {userName} in the user pool");
var authSession = await cognitoWrapper.AdminInitiateAuthAsync(clientId,
poolId, userName, password);

Console.Write("Enter a new 6-digit code displayed in Google Authenticator:
");
var authCode = Console.ReadLine();
```

```

        var authResult = await
cognitoWrapper.AdminRespondToAuthChallengeAsync(userName, clientId, authCode,
authSession, poolId);
        Console.WriteLine($"Authenticated and received access token:
{authResult.AccessToken}");

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Cognito scenario is complete.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
}

using System.Net;

namespace CognitoActions;

/// <summary>
/// Methods to perform Amazon Cognito Identity Provider actions.
/// </summary>
public class CognitoWrapper
{
    private readonly IAmazonCognitoIdentityProvider _cognitoService;

    /// <summary>
    /// Constructor for the wrapper class containing Amazon Cognito actions.
    /// </summary>
    /// <param name="cognitoService">The Amazon Cognito client object.</param>
    public CognitoWrapper(IAmazonCognitoIdentityProvider cognitoService)
    {
        _cognitoService = cognitoService;
    }

    /// <summary>
    /// List the Amazon Cognito user pools for an account.
    /// </summary>
    /// <returns>A list of UserPoolDescriptionType objects.</returns>
    public async Task<List<UserPoolDescriptionType>> ListUserPoolsAsync()
    {
        var userPools = new List<UserPoolDescriptionType>();

        var userPoolsPaginator = _cognitoService.Paginators.ListUserPools(new
ListUserPoolsRequest());

```

```

        await foreach (var response in userPoolsPaginator.Responses)
        {
            userPools.AddRange(response.UserPools);
        }

        return userPools;
    }

    /// <summary>
    /// Get a list of users for the Amazon Cognito user pool.
    /// </summary>
    /// <param name="userPoolId">The user pool ID.</param>
    /// <returns>A list of users.</returns>
    public async Task<List<UserType>> ListUsersAsync(string userPoolId)
    {
        var request = new ListUsersRequest
        {
            UserPoolId = userPoolId
        };

        var users = new List<UserType>();

        var usersPaginator = _cognitoService.Paginators.ListUsers(request);
        await foreach (var response in usersPaginator.Responses)
        {
            users.AddRange(response.Users);
        }

        return users;
    }

    /// <summary>
    /// Respond to an admin authentication challenge.
    /// </summary>
    /// <param name="userName">The name of the user.</param>
    /// <param name="clientId">The client ID.</param>
    /// <param name="mfaCode">The multi-factor authentication code.</param>
    /// <param name="session">The current application session.</param>
    /// <param name="clientId">The user pool ID.</param>
    /// <returns>The result of the authentication response.</returns>
    public async Task<AuthenticationResultType> AdminRespondToAuthChallengeAsync(

```

```

        string userName,
        string clientId,
        string mfaCode,
        string session,
        string userPoolId)
    {
        Console.WriteLine("SOFTWARE_TOKEN_MFA challenge is generated");

        var challengeResponses = new Dictionary<string, string>();
        challengeResponses.Add("USERNAME", userName);
        challengeResponses.Add("SOFTWARE_TOKEN_MFA_CODE", mfaCode);

        var respondToAuthChallengeRequest = new AdminRespondToAuthChallengeRequest
        {
            ChallengeName = ChallengeNameType.SOFTWARE_TOKEN_MFA,
            ClientId = clientId,
            ChallengeResponses = challengeResponses,
            Session = session,
            UserPoolId = userPoolId,
        };

        var response = await
_cognitoService.AdminRespondToAuthChallengeAsync(respondToAuthChallengeRequest);
        Console.WriteLine($"Response to Authentication
{response.AuthenticationResult.TokenType}");
        return response.AuthenticationResult;
    }

    /// <summary>
    /// Verify the TOTP and register for MFA.
    /// </summary>
    /// <param name="session">The name of the session.</param>
    /// <param name="code">The MFA code.</param>
    /// <returns>The status of the software token.</returns>
    public async Task<VerifySoftwareTokenResponseType>
VerifySoftwareTokenAsync(string session, string code)
    {
        var tokenRequest = new VerifySoftwareTokenRequest
        {
            UserCode = code,
            Session = session,
        };
    }

```

```

        var verifyResponse = await
_cognitoService.VerifySoftwareTokenAsync(tokenRequest);

        return verifyResponse.Status;
    }

    /// <summary>
    /// Get an MFA token to authenticate the user with the authenticator.
    /// </summary>
    /// <param name="session">The session name.</param>
    /// <returns>The session name.</returns>
    public async Task<string> AssociateSoftwareTokenAsync(string session)
    {
        var softwareTokenRequest = new AssociateSoftwareTokenRequest
        {
            Session = session,
        };

        var tokenResponse = await
_cognitoService.AssociateSoftwareTokenAsync(softwareTokenRequest);
        var secretCode = tokenResponse.SecretCode;

        Console.WriteLine($"Use the following secret code to set up the
authenticator: {secretCode}");

        return tokenResponse.Session;
    }

    /// <summary>
    /// Initiate an admin auth request.
    /// </summary>
    /// <param name="clientId">The client ID to use.</param>
    /// <param name="userPoolId">The ID of the user pool.</param>
    /// <param name="userName">The username to authenticate.</param>
    /// <param name="password">The user's password.</param>
    /// <returns>The session to use in challenge-response.</returns>
    public async Task<string> AdminInitiateAuthAsync(string clientId, string
userPoolId, string userName, string password)
    {
        var authParameters = new Dictionary<string, string>();
        authParameters.Add("USERNAME", userName);
        authParameters.Add("PASSWORD", password);
    }

```



```

        var request = new AdminInitiateAuthRequest
        {
            ClientId = clientId,
            UserPoolId = userPoolId,
            AuthParameters = authParameters,
            AuthFlow = AuthFlowType.ADMIN_USER_PASSWORD_AUTH,
        };

        var response = await _cognitoService.AdminInitiateAuthAsync(request);
        return response.Session;
    }

    /// <summary>
    /// Initiate authorization.
    /// </summary>
    /// <param name="clientId">The client Id of the application.</param>
    /// <param name="userName">The name of the user who is authenticating.</param>
    /// <param name="password">The password for the user who is authenticating.</
param>
    /// <returns>The response from the initiate auth request.</returns>
    public async Task<InitiateAuthResponse> InitiateAuthAsync(string clientId,
string userName, string password)
    {
        var authParameters = new Dictionary<string, string>();
        authParameters.Add("USERNAME", userName);
        authParameters.Add("PASSWORD", password);

        var authRequest = new InitiateAuthRequest

        {
            ClientId = clientId,
            AuthParameters = authParameters,
            AuthFlow = AuthFlowType.USER_PASSWORD_AUTH,
        };

        var response = await _cognitoService.InitiateAuthAsync(authRequest);
        Console.WriteLine($"Result Challenge is : {response.ChallengeName}");

        return response;
    }

    /// <summary>
    /// Confirm that the user has signed up.

```

```
/// </summary>
/// <param name="clientId">The Id of this application.</param>
/// <param name="code">The confirmation code sent to the user.</param>
/// <param name="userName">The username.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> ConfirmSignupAsync(string clientId, string code, string
userName)
{
    var signUpRequest = new ConfirmSignUpRequest
    {
        ClientId = clientId,
        ConfirmationCode = code,
        Username = userName,
    };

    var response = await _cognitoService.ConfirmSignUpAsync(signUpRequest);
    if (response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK)
    {
        Console.WriteLine($"{userName} was confirmed");
        return true;
    }
    return false;
}

/// <summary>
/// Initiates and confirms tracking of the device.
/// </summary>
/// <param name="accessToken">The user's access token.</param>
/// <param name="deviceKey">The key of the device from Amazon Cognito.</param>
/// <param name="deviceName">The device name.</param>
/// <returns></returns>
public async Task<bool> ConfirmDeviceAsync(string accessToken, string deviceKey,
string deviceName)
{
    var request = new ConfirmDeviceRequest
    {
        AccessToken = accessToken,
        DeviceKey = deviceKey,
        DeviceName = deviceName
    };

    var response = await _cognitoService.ConfirmDeviceAsync(request);
    return response.UserConfirmationNecessary;
```

```

    }

    /// <summary>
    /// Send a new confirmation code to a user.
    /// </summary>
    /// <param name="clientId">The Id of the client application.</param>
    /// <param name="userName">The username of user who will receive the code.</
param>
    /// <returns>The delivery details.</returns>
    public async Task<CodeDeliveryDetailsType> ResendConfirmationCodeAsync(string
clientId, string userName)
    {
        var codeRequest = new ResendConfirmationCodeRequest
        {
            ClientId = clientId,
            Username = userName,
        };

        var response = await
_cognitoService.ResendConfirmationCodeAsync(codeRequest);

        Console.WriteLine($"Method of delivery is
{response.CodeDeliveryDetails.DeliveryMedium}");

        return response.CodeDeliveryDetails;
    }

    /// <summary>
    /// Get the specified user from an Amazon Cognito user pool with administrator
access.
    /// </summary>
    /// <param name="userName">The name of the user.</param>
    /// <param name="poolId">The Id of the Amazon Cognito user pool.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task<UserStatusType> GetAdminUserAsync(string userName, string
poolId)
    {
        AdminGetUserRequest userRequest = new AdminGetUserRequest
        {
            Username = userName,
            UserPoolId = poolId,
        };
    }

```

```

        var response = await _cognitoService.AdminGetUserAsync(userRequest);

        Console.WriteLine($"User status {response.UserStatus}");
        return response.UserStatus;
    }

    /// <summary>
    /// Sign up a new user.
    /// </summary>
    /// <param name="clientId">The client Id of the application.</param>
    /// <param name="userName">The username to use.</param>
    /// <param name="password">The user's password.</param>
    /// <param name="email">The email address of the user.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating whether the user was confirmed.</
returns>
    public async Task<bool> SignUpAsync(string clientId, string userName, string
password, string email)
    {
        var userAttrs = new AttributeType
        {
            Name = "email",
            Value = email,
        };

        var userAttrsList = new List<AttributeType>();

        userAttrsList.Add(userAttrs);

        var signUpRequest = new SignUpRequest
        {
            UserAttributes = userAttrsList,
            Username = userName,
            ClientId = clientId,
            Password = password
        };

        var response = await _cognitoService.SignUpAsync(signUpRequest);
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
}

```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
 - [AdminGetUser](#)
 - [AdminInitiateAuth](#)
 - [AdminRespondToAuthChallenge](#)
 - [AssociateSoftwareToken](#)
 - [ConfirmDevice](#)
 - [ConfirmSignUp](#)
 - [InitiateAuth](#)
 - [ListUsers](#)
 - [ResendConfirmationCode](#)
 - [RespondToAuthChallenge](#)
 - [SignUp](#)
 - [VerifySoftwareToken](#)

を使用した Amazon Comprehend の例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon Comprehend AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)
- [シナリオ](#)

アクション

DetectDominantLanguage

次のコード例は、DetectDominantLanguage を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Comprehend;
using Amazon.Comprehend.Model;

/// <summary>
/// This example calls the Amazon Comprehend service to determine the
/// dominant language.
/// </summary>
public static class DetectDominantLanguage
{
    /// <summary>
    /// Calls Amazon Comprehend to determine the dominant language used in
    /// the sample text.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        string text = "It is raining today in Seattle.";

        var comprehendClient = new
AmazonComprehendClient(Amazon.RegionEndpoint.USWest2);

        Console.WriteLine("Calling DetectDominantLanguage\n");
        var detectDominantLanguageRequest = new DetectDominantLanguageRequest()
        {
            Text = text,
        };
    }
}
```

```
var detectDominantLanguageResponse = await
comprehendClient.DetectDominantLanguageAsync(detectDominantLanguageRequest);
foreach (var dl in detectDominantLanguageResponse.Languages)
{
    Console.WriteLine($"Language Code: {dl.LanguageCode}, Score:
{dl.Score}");
}

Console.WriteLine("Done");
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DetectDominantLanguage](#)」を参照してください。

DetectEntities

次のコード例は、DetectEntities を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Comprehend;
using Amazon.Comprehend.Model;

/// <summary>
/// This example shows how to use the AmazonComprehend service detect any
/// entities in submitted text.
/// </summary>
public static class DetectEntities
{
    /// <summary>
```

```
/// The main method calls the DetectEntitiesAsync method to find any
/// entities in the sample code.
/// </summary>
public static async Task Main()
{
    string text = "It is raining today in Seattle";

    var comprehendClient = new AmazonComprehendClient();

    Console.WriteLine("Calling DetectEntities\n");
    var detectEntitiesRequest = new DetectEntitiesRequest()
    {
        Text = text,
        LanguageCode = "en",
    };
    var detectEntitiesResponse = await
comprehendClient.DetectEntitiesAsync(detectEntitiesRequest);

    foreach (var e in detectEntitiesResponse.Entities)
    {
        Console.WriteLine($"Text: {e.Text}, Type: {e.Type}, Score:
{e.Score}, BeginOffset: {e.BeginOffset}, EndOffset: {e.EndOffset}");
    }

    Console.WriteLine("Done");
}
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DetectEntities](#)」を参照してください。

DetectKeyPhrases

次のコード例は、DetectKeyPhrases を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Comprehend;
using Amazon.Comprehend.Model;

/// <summary>
/// This example shows how to use the Amazon Comprehend service to
/// search text for key phrases.
/// </summary>
public static class DetectKeyPhrase
{
    /// <summary>
    /// This method calls the Amazon Comprehend method DetectKeyPhrasesAsync
    /// to detect any key phrases in the sample text.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        string text = "It is raining today in Seattle";

        var comprehendClient = new
AmazonComprehendClient(Amazon.RegionEndpoint.USWest2);

        // Call DetectKeyPhrases API
        Console.WriteLine("Calling DetectKeyPhrases");
        var detectKeyPhrasesRequest = new DetectKeyPhrasesRequest()
        {
            Text = text,
            LanguageCode = "en",
        };
        var detectKeyPhrasesResponse = await
comprehendClient.DetectKeyPhrasesAsync(detectKeyPhrasesRequest);
        foreach (var kp in detectKeyPhrasesResponse.KeyPhrases)
        {
```

```
        Console.WriteLine($"Text: {kp.Text}, Score: {kp.Score}, BeginOffset: {kp.BeginOffset}, EndOffset: {kp.EndOffset}");
    }

    Console.WriteLine("Done");
}
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DetectKeyPhrases](#)」を参照してください。

DetectPiiEntities

次のコード例は、DetectPiiEntities を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Comprehend;
using Amazon.Comprehend.Model;

/// <summary>
/// This example shows how to use the Amazon Comprehend service to find
/// personally identifiable information (PII) within text submitted to the
/// DetectPiiEntitiesAsync method.
/// </summary>
public class DetectingPII
{
    /// <summary>
    /// This method calls the DetectPiiEntitiesAsync method to locate any
    /// personally identifiable information within the supplied text.
    /// </summary>
```

```
public static async Task Main()
{
    var comprehendClient = new AmazonComprehendClient();
    var text = @"Hello Paul Santos. The latest statement for your
                credit card account 1111-0000-1111-0000 was
                mailed to 123 Any Street, Seattle, WA 98109.";

    var request = new DetectPiiEntitiesRequest
    {
        Text = text,
        LanguageCode = "EN",
    };

    var response = await comprehendClient.DetectPiiEntitiesAsync(request);

    if (response.Entities.Count > 0)
    {
        foreach (var entity in response.Entities)
        {
            var entityValue = text.Substring(entity.BeginOffset,
entity.EndOffset - entity.BeginOffset);
            Console.WriteLine($"{entity.Type}: {entityValue}");
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DetectPiiEntities](#)」を参照してください。

DetectSentiment

次のコード例は、DetectSentiment を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Comprehend;
using Amazon.Comprehend.Model;

/// <summary>
/// This example shows how to detect the overall sentiment of the supplied
/// text using the Amazon Comprehend service.
/// </summary>
public static class DetectSentiment
{
    /// <summary>
    /// This method calls the DetectSentimentAsync method to analyze the
    /// supplied text and determine the overall sentiment.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        string text = "It is raining today in Seattle";

        var comprehendClient = new
AmazonComprehendClient(Amazon.RegionEndpoint.USWest2);

        // Call DetectKeyPhrases API
        Console.WriteLine("Calling DetectSentiment");
        var detectSentimentRequest = new DetectSentimentRequest()
        {
            Text = text,
            LanguageCode = "en",
        };
        var detectSentimentResponse = await
comprehendClient.DetectSentimentAsync(detectSentimentRequest);
        Console.WriteLine($"Sentiment: {detectSentimentResponse.Sentiment}");
        Console.WriteLine("Done");
    }
}
```

```
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DetectSentiment](#)」を参照してください。

DetectSyntax

次のコード例は、DetectSyntax を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Comprehend;
using Amazon.Comprehend.Model;

/// <summary>
/// This example shows how to use Amazon Comprehend to detect syntax
/// elements by calling the DetectSyntaxAsync method.
/// </summary>
public class DetectingSyntax
{
    /// <summary>
    /// This method calls DetectSynaxAsync to identify the syntax elements
    /// in the sample text.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        string text = "It is raining today in Seattle";

        var comprehendClient = new AmazonComprehendClient();

        // Call DetectSyntax API
```

```
Console.WriteLine("Calling DetectSyntaxAsync\n");
var detectSyntaxRequest = new DetectSyntaxRequest()
{
    Text = text,
    LanguageCode = "en",
};
DetectSyntaxResponse detectSyntaxResponse = await
comprehendClient.DetectSyntaxAsync(detectSyntaxRequest);
foreach (SyntaxToken s in detectSyntaxResponse.SyntaxTokens)
{
    Console.WriteLine($"Text: {s.Text}, PartOfSpeech:
{s.PartOfSpeech.Tag}, BeginOffset: {s.BeginOffset}, EndOffset: {s.EndOffset}");
}

Console.WriteLine("Done");
}
```

- API の詳細については、「[AWS SDK for .NET API リファレンス](#)」の「DetectSyntax」を参照してください。

StartTopicsDetectionJob

次のコード例は、StartTopicsDetectionJob を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Comprehend;
using Amazon.Comprehend.Model;

/// <summary>
```

```

/// This example scans the documents in an Amazon Simple Storage Service
/// (Amazon S3) bucket and analyzes it for topics. The results are stored
/// in another bucket and then the resulting job properties are displayed
/// on the screen. This example was created using the AWS SDK for .NET
/// version 3.7 and .NET Core version 5.0.
/// </summary>
public static class TopicModeling
{
    /// <summary>
    /// This method calls a topic detection job by calling the Amazon
    /// Comprehend StartTopicsDetectionJobRequest.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        var comprehendClient = new AmazonComprehendClient();

        string inputS3Uri = "s3://input bucket/input path";
        InputFormat inputDocFormat = InputFormat.ONE_DOC_PER_FILE;
        string outputS3Uri = "s3://output bucket/output path";
        string dataAccessRoleArn = "arn:aws:iam::account ID:role/data access
role";

        int numberOfTopics = 10;

        var startTopicsDetectionJobRequest = new
StartTopicsDetectionJobRequest()
        {
            InputDataConfig = new InputDataConfig()
            {
                S3Uri = inputS3Uri,
                InputFormat = inputDocFormat,
            },
            OutputDataConfig = new OutputDataConfig()
            {
                S3Uri = outputS3Uri,
            },
            DataAccessRoleArn = dataAccessRoleArn,
            NumberOfTopics = numberOfTopics,
        };

        var startTopicsDetectionJobResponse = await
comprehendClient.StartTopicsDetectionJobAsync(startTopicsDetectionJobRequest);

        var jobId = startTopicsDetectionJobResponse.JobId;
        Console.WriteLine("JobId: " + jobId);
    }
}

```

```

        var describeTopicsDetectionJobRequest = new
DescribeTopicsDetectionJobRequest()
        {
            JobId = jobId,
        };

        var describeTopicsDetectionJobResponse = await
comprehendClient.DescribeTopicsDetectionJobAsync(describeTopicsDetectionJobRequest);

PrintJobProperties(describeTopicsDetectionJobResponse.TopicsDetectionJobProperties);

        var listTopicsDetectionJobsResponse = await
comprehendClient.ListTopicsDetectionJobsAsync(new
ListTopicsDetectionJobsRequest());
        foreach (var props in
listTopicsDetectionJobsResponse.TopicsDetectionJobPropertiesList)
        {
            PrintJobProperties(props);
        }
    }

    /// <summary>
    /// This method is a helper method that displays the job properties
    /// from the call to StartTopicsDetectionJobRequest.
    /// </summary>
    /// <param name="props">A list of properties from the call to
    /// StartTopicsDetectionJobRequest.</param>
    private static void PrintJobProperties(TopicsDetectionJobProperties props)
    {
        Console.WriteLine($"JobId: {props.JobId}, JobName: {props.JobName},
JobStatus: {props.JobStatus}");
        Console.WriteLine($"NumberOfTopics: {props.NumberOfTopics}\nInputS3Uri:
{props.InputDataConfig.S3Uri}");
        Console.WriteLine($"InputFormat: {props.InputDataConfig.InputFormat},
OutputS3Uri: {props.OutputDataConfig.S3Uri}");
    }
}

```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[StartTopicsDetectionJob](#)」を参照してください。

シナリオ

顧客からのフィードバックを分析するアプリケーションの作成

次のコード例は、顧客のコメントカードを分析し、元の言語から翻訳し、顧客の感情を判断して、翻訳されたテキストから音声ファイルを生成するアプリケーションの作成方法を示しています。

SDK for .NET

このサンプルアプリケーションは、顧客フィードバックカードを分析し、保存します。具体的には、ニューヨーク市の架空のホテルのニーズを満たします。このホテルでは、お客様からのフィードバックをさまざまな言語で書かれた実際のコメントカードの形で受け取ります。そのフィードバックは、ウェブクライアントを通じてアプリにアップロードされます。コメントカードの画像をアップロードされると、次の手順が発生します。

- テキストは Amazon Textract を使用して、画像から抽出されます。
- Amazon Comprehend は、抽出したテキストの感情とその言語を分析します。
- 抽出されたテキストは、Amazon Translate を使用して英語に翻訳されます。
- Amazon Polly は抽出したテキストから音声ファイルを合成します。

完全なアプリは AWS CDK を使用してデプロイすることができます。ソースコードとデプロイ手順については、[GitHub](#) のプロジェクトを参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Comprehend
- Lambda
- Amazon Polly
- Amazon Textract
- Amazon Translate

を使用した Amazon DocumentDB の例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon DocumentDB AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [サーバーレスサンプル](#)

サーバーレスサンプル

Amazon DocumentDB トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコードの例は、DocumentDB 変更ストリームからレコードを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る、Lambda 関数の実装方法を示しています。関数は DocumentDB ペイロードを取得し、レコードの内容をログ記録します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

.NET を使用した Lambda での Amazon DocumentDB イベントの消費。

```
using Amazon.Lambda.Core;
using System.Text.Json;
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Text.Json.Serialization;
//Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted into
//a .NET class.
[assembly:
    LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace LambdaDocDb;

public class Function
{
    /// <summary>
    /// Lambda function entry point to process Amazon DocumentDB events.
    /// </summary>
    /// <param name="event">The Amazon DocumentDB event.</param>
    /// <param name="context">The Lambda context object.</param>
```

```
/// <returns>A string to indicate successful processing.</returns>
public string FunctionHandler(Event evnt, ILambdaContext context)
{
    foreach (var record in evnt.Events)
    {
        ProcessDocumentDBEvent(record, context);
    }

    return "OK";
}

private void ProcessDocumentDBEvent(DocumentDBEventRecord record,
ILambdaContext context)
{
    var eventData = record.Event;
    var operationType = eventData.OperationType;
    var databaseName = eventData.Ns.Db;
    var collectionName = eventData.Ns.Coll;
    var fullDocument = JsonSerializer.Serialize(eventData.FullDocument, new
JsonSerializerOptions { WriteIndented = true });

    context.Logger.LogLine($"Operation type: {operationType}");
    context.Logger.LogLine($"Database: {databaseName}");
    context.Logger.LogLine($"Collection: {collectionName}");
    context.Logger.LogLine($"Full document:\n{fullDocument}");
}

public class Event
{
    [JsonPropertyName("eventSourceArn")]
    public string EventSourceArn { get; set; }

    [JsonPropertyName("events")]
    public List<DocumentDBEventRecord> Events { get; set; }

    [JsonPropertyName("eventSource")]
    public string EventSource { get; set; }
}

public class DocumentDBEventRecord
```

```
{
    [JsonPropertyName("event")]
    public EventData Event { get; set; }
}

public class EventData
{
    [JsonPropertyName("_id")]
    public IdData Id { get; set; }

    [JsonPropertyName("clusterTime")]
    public ClusterTime ClusterTime { get; set; }

    [JsonPropertyName("documentKey")]
    public DocumentKey DocumentKey { get; set; }

    [JsonPropertyName("fullDocument")]
    public Dictionary<string, object> FullDocument { get; set; }

    [JsonPropertyName("ns")]
    public Namespace Ns { get; set; }

    [JsonPropertyName("operationType")]
    public string OperationType { get; set; }
}

public class IdData
{
    [JsonPropertyName("_data")]
    public string Data { get; set; }
}

public class ClusterTime
{
    [JsonPropertyName("$timestamp")]
    public Timestamp Timestamp { get; set; }
}

public class Timestamp
{
    [JsonPropertyName("t")]
    public long T { get; set; }

    [JsonPropertyName("i")]
```

```
        public int I { get; set; }
    }

    public class DocumentKey
    {
        [JsonPropertyName("_id")]
        public Id Id { get; set; }
    }

    public class Id
    {
        [JsonPropertyName("$oid")]
        public string Oid { get; set; }
    }

    public class Namespace
    {
        [JsonPropertyName("db")]
        public string Db { get; set; }

        [JsonPropertyName("coll")]
        public string Coll { get; set; }
    }
}
```

を使用した DynamoDB の例 SDK for .NET

次のコード例は、DynamoDB AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

AWS コミュニティへの貢献は、複数のチームが作成し、維持している例です AWS。フィードバックを提供するには、リンクされたリポジトリで提供されているメカニズムを使用します。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)
- [シナリオ](#)
- [サーバーレスサンプル](#)
- [AWS コミュニティへの貢献](#)

アクション

BatchExecuteStatement

次のコード例は、BatchExecuteStatement を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

INSERT ステートメントのバッチを使用して項目を追加します。

```
/// <summary>
/// Inserts movies imported from a JSON file into the movie table by
/// using an Amazon DynamoDB PartiQL INSERT statement.
/// </summary>
/// <param name="tableName">The name of the table into which the movie
/// information will be inserted.</param>
/// <param name="movieFileName">The name of the JSON file that contains
/// movie information.</param>
/// <returns>A Boolean value that indicates the success or failure of
/// the insert operation.</returns>
public static async Task<bool> InsertMovies(string tableName, string
movieFileName)
{
    // Get the list of movies from the JSON file.
    var movies = ImportMovies(movieFileName);
```

```

var success = false;

if (movies is not null)
{
    // Insert the movies in a batch using PartiQL. Because the
    // batch can contain a maximum of 25 items, insert 25 movies
    // at a time.
    string insertBatch = $"INSERT INTO {tableName} VALUE {{'title': ?,
'year': ?}}";
    var statements = new List<BatchStatementRequest>();

    try
    {
        for (var indexOffset = 0; indexOffset < 250; indexOffset += 25)
        {
            for (var i = indexOffset; i < indexOffset + 25; i++)
            {
                statements.Add(new BatchStatementRequest
                {
                    Statement = insertBatch,
                    Parameters = new List<AttributeValue>
                    {
                        new AttributeValue { S = movies[i].Title },
                        new AttributeValue { N =
movies[i].Year.ToString() },
                    },
                });
            }

            var response = await Client.BatchExecuteStatementAsync(new
BatchExecuteStatementRequest
            {
                Statements = statements,
            });

            // Wait between batches for movies to be successfully added.
            System.Threading.Thread.Sleep(3000);

            success = response.HttpStatusCode ==
System.Net.HttpStatusCode.OK;

            // Clear the list of statements for the next batch.
            statements.Clear();

```

```

        }
    }
    catch (AmazonDynamoDBException ex)
    {
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
}

return success;
}

/// <summary>
/// Loads the contents of a JSON file into a list of movies to be
/// added to the DynamoDB table.
/// </summary>
/// <param name="movieFileName">The full path to the JSON file.</param>
/// <returns>A generic list of movie objects.</returns>
public static List<Movie> ImportMovies(string movieFileName)
{
    if (!File.Exists(movieFileName))
    {
        return null!;
    }

    using var sr = new StreamReader(movieFileName);
    string json = sr.ReadToEnd();
    var allMovies = JsonConvert.DeserializeObject<List<Movie>>(json);

    if (allMovies is not null)
    {
        // Return the first 250 entries.
        return allMovies.GetRange(0, 250);
    }
    else
    {
        return null!;
    }
}
}

```

SELECT ステートメントのバッチを使用して項目を取得します。

```
/// <summary>
```



```

    /// Gets movies from the movie table by
    /// using an Amazon DynamoDB PartiQL SELECT statement.
    /// </summary>
    /// <param name="tableName">The name of the table.</param>
    /// <param name="title1">The title of the first movie.</param>
    /// <param name="title2">The title of the second movie.</param>
    /// <param name="year1">The year of the first movie.</param>
    /// <param name="year2">The year of the second movie.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public static async Task<bool> GetBatch(
        string tableName,
        string title1,
        string title2,
        int year1,
        int year2)
    {
        var getBatch = $"SELECT * FROM {tableName} WHERE title = ? AND year
= ?";

        var statements = new List<BatchStatementRequest>
        {
            new BatchStatementRequest
            {
                Statement = getBatch,
                Parameters = new List<AttributeValue>
                {
                    new AttributeValue { S = title1 },
                    new AttributeValue { N = year1.ToString() },
                },
            },

            new BatchStatementRequest
            {
                Statement = getBatch,
                Parameters = new List<AttributeValue>
                {
                    new AttributeValue { S = title2 },
                    new AttributeValue { N = year2.ToString() },
                },
            }
        };

        var response = await Client.BatchExecuteStatementAsync(new
BatchExecuteStatementRequest
        {

```

```

        Statements = statements,
    });

    if (response.Responses.Count > 0)
    {
        response.Responses.ForEach(r =>
        {
            if (r.Item.Any())
            {
                Console.WriteLine($"{r.Item["title"]}\t{r.Item["year"]}");
            }
        });
        return true;
    }
    else
    {
        Console.WriteLine($"Couldn't find either {title1} or {title2}.");
        return false;
    }
}

```

UPDATE ステートメントのバッチを使用して項目を更新します。

```

/// <summary>
/// Updates information for multiple movies.
/// </summary>
/// <param name="tableName">The name of the table containing the
/// movies to be updated.</param>
/// <param name="producer1">The producer name for the first movie
/// to update.</param>
/// <param name="title1">The title of the first movie.</param>
/// <param name="year1">The year that the first movie was released.</param>
/// <param name="producer2">The producer name for the second
/// movie to update.</param>
/// <param name="title2">The title of the second movie.</param>
/// <param name="year2">The year that the second movie was released.</param>
/// <returns>A Boolean value that indicates the success of the update.</
returns>
    public static async Task<bool> UpdateBatch(
        string tableName,
        string producer1,

```

```
        string title1,
        int year1,
        string producer2,
        string title2,
        int year2)
    {
        string updateBatch = $"UPDATE {tableName} SET Producer=? WHERE title = ?
AND year = ?";
        var statements = new List<BatchStatementRequest>
        {
            new BatchStatementRequest
            {
                Statement = updateBatch,
                Parameters = new List<AttributeValue>
                {
                    new AttributeValue { S = producer1 },
                    new AttributeValue { S = title1 },
                    new AttributeValue { N = year1.ToString() },
                },
            },
            new BatchStatementRequest
            {
                Statement = updateBatch,
                Parameters = new List<AttributeValue>
                {
                    new AttributeValue { S = producer2 },
                    new AttributeValue { S = title2 },
                    new AttributeValue { N = year2.ToString() },
                },
            }
        };

        var response = await Client.BatchExecuteStatementAsync(new
BatchExecuteStatementRequest
        {
            Statements = statements,
        });

        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }
```

DELETE ステートメントのバッチを使用して項目を削除します。

```

    /// <summary>
    /// Deletes multiple movies using a PartiQL BatchExecuteAsync
    /// statement.
    /// </summary>
    /// <param name="tableName">The name of the table containing the
    /// moves that will be deleted.</param>
    /// <param name="title1">The title of the first movie.</param>
    /// <param name="year1">The year the first movie was released.</param>
    /// <param name="title2">The title of the second movie.</param>
    /// <param name="year2">The year the second movie was released.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the operation.</
returns>
    public static async Task<bool> DeleteBatch(
        string tableName,
        string title1,
        int year1,
        string title2,
        int year2)
    {

        string updateBatch = $"DELETE FROM {tableName} WHERE title = ? AND year
= ?";

        var statements = new List<BatchStatementRequest>
        {
            new BatchStatementRequest
            {
                Statement = updateBatch,
                Parameters = new List<AttributeValue>
                {
                    new AttributeValue { S = title1 },
                    new AttributeValue { N = year1.ToString() },
                },
            },
            new BatchStatementRequest
            {
                Statement = updateBatch,
                Parameters = new List<AttributeValue>
                {
                    new AttributeValue { S = title2 },
                    new AttributeValue { N = year2.ToString() },
                },
            },
        }
    }

```

```
        }  
    };  
  
    var response = await Client.BatchExecuteStatementAsync(new  
BatchExecuteStatementRequest  
    {  
        Statements = statements,  
    });  
  
    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;  
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[BatchExecuteStatement](#)」を参照してください。

BatchGetItem

次のコード例は、BatchGetItem を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;  
using System.Collections.Generic;  
using Amazon.DynamoDBv2;  
using Amazon.DynamoDBv2.Model;  
  
namespace LowLevelBatchGet  
{  
    public class LowLevelBatchGet  
    {  
        private static readonly string _table1Name = "Forum";  
        private static readonly string _table2Name = "Thread";  
    }  
}
```

```

    public static async void RetrieveMultipleItemsBatchGet(AmazonDynamoDBClient
client)
    {
        var request = new BatchGetItemRequest
        {
            RequestItems = new Dictionary<string, KeysAndAttributes>()
            {
                { _table1Name,
                    new KeysAndAttributes
                    {
                        Keys = new List<Dictionary<string, AttributeValue> >()
                        {
                            new Dictionary<string, AttributeValue>()
                            {
                                { "Name", new AttributeValue {
                                    S = "Amazon DynamoDB"
                                } }
                            },
                            new Dictionary<string, AttributeValue>()
                            {
                                { "Name", new AttributeValue {
                                    S = "Amazon S3"
                                } }
                            }
                        }
                    }
                },
                {
                    _table2Name,
                    new KeysAndAttributes
                    {
                        Keys = new List<Dictionary<string, AttributeValue> >()
                        {
                            new Dictionary<string, AttributeValue>()
                            {
                                { "ForumName", new AttributeValue {
                                    S = "Amazon DynamoDB"
                                } },
                                { "Subject", new AttributeValue {
                                    S = "DynamoDB Thread 1"
                                } }
                            },
                            new Dictionary<string, AttributeValue>()
                            {
                                { "ForumName", new AttributeValue {

```

```

        S = "Amazon DynamoDB"
    } },
    { "Subject", new AttributeValue {
        S = "DynamoDB Thread 2"
    } }
},
new Dictionary<string, AttributeValue>()
{
    { "ForumName", new AttributeValue {
        S = "Amazon S3"
    } },
    { "Subject", new AttributeValue {
        S = "S3 Thread 1"
    } }
}
}
}
}
};

BatchGetItemResponse response;
do
{
    Console.WriteLine("Making request");
    response = await client.BatchGetItemAsync(request);

    // Check the response.
    var responses = response.Responses; // Attribute list in the
response.

    foreach (var tableResponse in responses)
    {
        var tableResults = tableResponse.Value;
        Console.WriteLine("Items retrieved from table {0}",
tableResponse.Key);
        foreach (var item1 in tableResults)
        {
            PrintItem(item1);
        }
    }

    // Any unprocessed keys? could happen if you exceed
ProvisionedThroughput or some other error.

```

```

        Dictionary<string, KeysAndAttributes> unprocessedKeys =
response.UnprocessedKeys;
        foreach (var unprocessedTableKeys in unprocessedKeys)
        {
            // Print table name.
            Console.WriteLine(unprocessedTableKeys.Key);
            // Print unprocessed primary keys.
            foreach (var key in unprocessedTableKeys.Value.Keys)
            {
                PrintItem(key);
            }
        }

        request.RequestItems = unprocessedKeys;
    } while (response.UnprocessedKeys.Count > 0);
}

private static void PrintItem(Dictionary<string, AttributeValue>
attributeList)
{
    foreach (KeyValuePair<string, AttributeValue> kvp in attributeList)
    {
        string attributeName = kvp.Key;
        AttributeValue value = kvp.Value;

        Console.WriteLine(
            attributeName + " " +
            (value.S == null ? "" : "S=[" + value.S + "]") +
            (value.N == null ? "" : "N=[" + value.N + "]") +
            (value.SS == null ? "" : "SS=[" + string.Join(",",
value.SS.ToArray()) + "]") +
            (value.NS == null ? "" : "NS=[" + string.Join(",",
value.NS.ToArray()) + "]")
            );
    }
    Console.WriteLine("*****");
}

static void Main()
{
    var client = new AmazonDynamoDBClient();

    RetrieveMultipleItemsBatchGet(client);
}

```



```
}  
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[BatchGetItem](#)」を参照してください。

DescribeTable

次のコード例は、DescribeTable を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
private static async Task GetTableInformation()  
{  
    Console.WriteLine("\n*** Retrieving table information ***");  
  
    var response = await Client.DescribeTableAsync(new DescribeTableRequest  
    {  
        TableName = ExampleTableName  
    });  
  
    var table = response.Table;  
    Console.WriteLine($"Name: {table.TableName}");  
    Console.WriteLine($"# of items: {table.ItemCount}");  
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeTable](#)」を参照してください。

ExecuteStatement

次のコード例は、ExecuteStatement を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

INSERT ステートメントを使用して項目を追加します。

```
/// <summary>
/// Inserts a single movie into the movies table.
/// </summary>
/// <param name="tableName">The name of the table.</param>
/// <param name="movieTitle">The title of the movie to insert.</param>
/// <param name="year">The year that the movie was released.</param>
/// <returns>A Boolean value that indicates the success or failure of
/// the INSERT operation.</returns>
public static async Task<bool> InsertSingleMovie(string tableName, string
movieTitle, int year)
{
    string insertBatch = $"INSERT INTO {tableName} VALUE {{'title': ?,
'year': ?}}";

    var response = await Client.ExecuteStatementAsync(new
ExecuteStatementRequest
    {
        Statement = insertBatch,
        Parameters = new List<AttributeValue>
        {
            new AttributeValue { S = movieTitle },
            new AttributeValue { N = year.ToString() },
        },
    });

    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}
```

SELECT ステートメントを使用して項目を取得します。

```
/// <summary>
/// Uses a PartiQL SELECT statement to retrieve a single movie from the
/// movie database.
/// </summary>
/// <param name="tableName">The name of the movie table.</param>
/// <param name="movieTitle">The title of the movie to retrieve.</param>
/// <returns>A list of movie data. If no movie matches the supplied
/// title, the list is empty.</returns>
public static async Task<List<Dictionary<string, AttributeValue>>>
GetSingleMovie(string tableName, string movieTitle)
{
    string selectSingle = $"SELECT * FROM {tableName} WHERE title = ?";
    var parameters = new List<AttributeValue>
    {
        new AttributeValue { S = movieTitle },
    };

    var response = await Client.ExecuteStatementAsync(new
ExecuteStatementRequest
    {
        Statement = selectSingle,
        Parameters = parameters,
    });

    return response.Items;
}
```

SELECT ステートメントを使用して項目の一覧を取得します。

```
/// <summary>
/// Retrieve multiple movies by year using a SELECT statement.
/// </summary>
/// <param name="tableName">The name of the movie table.</param>
/// <param name="year">The year the movies were released.</param>
/// <returns></returns>
```

```

        public static async Task<List<Dictionary<string, AttributeValue>>>
GetMovies(string tableName, int year)
    {
        string selectSingle = $"SELECT * FROM {tableName} WHERE year = ?";
        var parameters = new List<AttributeValue>
        {
            new AttributeValue { N = year.ToString() },
        };

        var response = await Client.ExecuteStatementAsync(new
ExecuteStatementRequest
        {
            Statement = selectSingle,
            Parameters = parameters,
        });

        return response.Items;
    }

```

UPDATE ステートメントを使用して項目を更新します。

```

/// <summary>
/// Updates a single movie in the table, adding information for the
/// producer.
/// </summary>
/// <param name="tableName">the name of the table.</param>
/// <param name="producer">The name of the producer.</param>
/// <param name="movieTitle">The movie title.</param>
/// <param name="year">The year the movie was released.</param>
/// <returns>A Boolean value that indicates the success of the
/// UPDATE operation.</returns>
public static async Task<bool> UpdateSingleMovie(string tableName, string
producer, string movieTitle, int year)
    {
        string insertSingle = $"UPDATE {tableName} SET Producer=? WHERE title
= ? AND year = ?";

        var response = await Client.ExecuteStatementAsync(new
ExecuteStatementRequest
        {
            Statement = insertSingle,

```

```

        Parameters = new List<AttributeValue>
        {
            new AttributeValue { S = producer },
            new AttributeValue { S = movieTitle },
            new AttributeValue { N = year.ToString() },
        },
    });

    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}

```

DELETE ステートメントを使用して映画を 1 つ削除します。

```

/// <summary>
/// Deletes a single movie from the table.
/// </summary>
/// <param name="tableName">The name of the table.</param>
/// <param name="movieTitle">The title of the movie to delete.</param>
/// <param name="year">The year that the movie was released.</param>
/// <returns>A Boolean value that indicates the success of the
/// DELETE operation.</returns>
public static async Task<bool> DeleteSingleMovie(string tableName, string
movieTitle, int year)
{
    var deleteSingle = $"DELETE FROM {tableName} WHERE title = ? AND year
= ?";

    var response = await Client.ExecuteStatementAsync(new
ExecuteStatementRequest
    {
        Statement = deleteSingle,
        Parameters = new List<AttributeValue>
        {
            new AttributeValue { S = movieTitle },
            new AttributeValue { N = year.ToString() },
        },
    });

    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ExecuteStatement](#)」を参照してください。

ListTables

次のコード例は、ListTables を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
private static async Task ListMyTables()
{
    Console.WriteLine("\n*** Listing tables ***");

    string lastTableNameEvaluated = null;
    do
    {
        var response = await Client.ListTablesAsync(new ListTablesRequest
        {
            Limit = 2,
            ExclusiveStartTableName = lastTableNameEvaluated
        });

        foreach (var name in response.TableNames)
        {
            Console.WriteLine(name);
        }

        lastTableNameEvaluated = response.LastEvaluatedTableName;
    } while (lastTableNameEvaluated != null);
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListTables](#)」を参照してください。

シナリオ

サーバーレスアプリケーションを作成して写真を管理する

次のコード例では、ユーザーがラベルを使用して写真を管理できるサーバーレスアプリケーションを作成する方法について示しています。

SDK for .NET

Amazon Rekognition を使用して画像内のラベルを検出し、保存して後で取得できるようにする写真アセット管理アプリケーションの開発方法を示します。

完全なソースコードと設定および実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例のソースについて詳しくは、[AWS コミュニティ](#)でブログ投稿を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda
- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SNS

DynamoDB データを追跡するウェブアプリケーションを作成する

次のコード例は、Amazon DynamoDB テーブルの作業項目を追跡し、Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用してレポートを送信するウェブアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for .NET

Amazon DynamoDB .NET API を使用して、DynamoDB 作業データを追跡する動的ウェブアプリケーションを作成する方法を示しています。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- DynamoDB
- Amazon SES

PartiQL ステートメントのバッチを使用してテーブルに対してクエリを実行する

次のコードサンプルは、以下の操作方法を示しています。

- 複数の SELECT ステートメントを実行して、項目のバッチを取得します。
- 複数の INSERT ステートメントを実行して、項目のバッチを追加する。
- 複数の UPDATE ステートメントを実行して、項目のバッチを更新する。
- 複数の DELETE ステートメントを実行して、項目のバッチを削除します。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
// Before you run this example, download 'movies.json' from
// https://docs.aws.amazon.com/amazondynamodb/latest/developerguide/
// GettingStarted.Js.02.html,
// and put it in the same folder as the example.

// Separator for the console display.
var SepBar = new string('-', 80);
const string tableName = "movie_table";
const string movieFileName = @"..\..\..\resources\sample_files
\movies.json";

DisplayInstructions();

// Create the table and wait for it to be active.
```



```
Console.WriteLine($"Creating the movie table: {tableName}");

var success = await DynamoDBMethods.CreateMovieTableAsync(tableName);
if (success)
{
    Console.WriteLine($"Successfully created table: {tableName}.");
}

WaitForEnter();

// Add movie information to the table from moviedata.json. See the
// instructions at the top of this file to download the JSON file.
Console.WriteLine($"Inserting movies into the new table. Please wait...");
success = await PartiQLBatchMethods.InsertMovies(tableName, movieFileName);
if (success)
{
    Console.WriteLine("Movies successfully added to the table.");
}
else
{
    Console.WriteLine("Movies could not be added to the table.");
}

WaitForEnter();

// Update multiple movies by using the BatchExecute statement.
var title1 = "Star Wars";
var year1 = 1977;
var title2 = "Wizard of Oz";
var year2 = 1939;

Console.WriteLine($"Updating two movies with producer information: {title1} and
{title2}.");
success = await PartiQLBatchMethods.GetBatch(tableName, title1, title2, year1,
year2);
if (success)
{
    Console.WriteLine($"Successfully retrieved {title1} and {title2}.");
}
else
{
    Console.WriteLine("Select statement failed.");
}
```

```
WaitForEnter();

// Update multiple movies by using the BatchExecute statement.
var producer1 = "LucasFilm";
var producer2 = "MGM";

Console.WriteLine($"Updating two movies with producer information: {title1} and
{title2}.");
success = await PartiQLBatchMethods.UpdateBatch(tableName, producer1, title1, year1,
producer2, title2, year2);
if (success)
{
    Console.WriteLine($"Successfully updated {title1} and {title2}.");
}
else
{
    Console.WriteLine("Update failed.");
}

WaitForEnter();

// Delete multiple movies by using the BatchExecute statement.
Console.WriteLine($"Now we will delete {title1} and {title2} from the table.");
success = await PartiQLBatchMethods.DeleteBatch(tableName, title1, year1, title2,
year2);

if (success)
{
    Console.WriteLine($"Deleted {title1} and {title2}");
}
else
{
    Console.WriteLine($"could not delete {title1} or {title2}");
}

WaitForEnter();

// DNow that the PartiQL Batch scenario is complete, delete the movie table.
success = await DynamoDBMethods.DeleteTableAsync(tableName);

if (success)
{
    Console.WriteLine($"Successfully deleted {tableName}");
}
```

```

else
{
    Console.WriteLine($"Could not delete {tableName}");
}

/// <summary>
/// Displays the description of the application on the console.
/// </summary>
void DisplayInstructions()
{
    Console.Clear();
    Console.WriteLine();
    Console.Write(new string(' ', 24));
    Console.WriteLine("DynamoDB PartiQL Basics Example");
    Console.WriteLine(SepBar);
    Console.WriteLine("This demo application shows the basics of using Amazon
DynamoDB with the AWS SDK for");
    Console.WriteLine(".NET version 3.7 and .NET 6.");
    Console.WriteLine(SepBar);
    Console.WriteLine("Creates a table by using the CreateTable method.");
    Console.WriteLine("Gets multiple movies by using a PartiQL SELECT statement.");
    Console.WriteLine("Updates multiple movies by using the ExecuteBatch method.");
    Console.WriteLine("Deletes multiple movies by using a PartiQL DELETE
statement.");
    Console.WriteLine("Cleans up the resources created for the demo by deleting the
table.");
    Console.WriteLine(SepBar);

    WaitForEnter();
}

/// <summary>
/// Simple method to wait for the <Enter> key to be pressed.
/// </summary>
void WaitForEnter()
{
    Console.WriteLine("\nPress <Enter> to continue.");
    Console.WriteLine(SepBar);
    _ = Console.ReadLine();
}

    /// <summary>
    /// Gets movies from the movie table by

```

```

    /// using an Amazon DynamoDB PartiQL SELECT statement.
    /// </summary>
    /// <param name="tableName">The name of the table.</param>
    /// <param name="title1">The title of the first movie.</param>
    /// <param name="title2">The title of the second movie.</param>
    /// <param name="year1">The year of the first movie.</param>
    /// <param name="year2">The year of the second movie.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public static async Task<bool> GetBatch(
        string tableName,
        string title1,
        string title2,
        int year1,
        int year2)
    {
        var getBatch = $"SELECT * FROM {tableName} WHERE title = ? AND year
= ?";

        var statements = new List<BatchStatementRequest>
        {
            new BatchStatementRequest
            {
                Statement = getBatch,
                Parameters = new List<AttributeValue>
                {
                    new AttributeValue { S = title1 },
                    new AttributeValue { N = year1.ToString() },
                },
            },

            new BatchStatementRequest
            {
                Statement = getBatch,
                Parameters = new List<AttributeValue>
                {
                    new AttributeValue { S = title2 },
                    new AttributeValue { N = year2.ToString() },
                },
            }
        };

        var response = await Client.BatchExecuteStatementAsync(new
BatchExecuteStatementRequest
        {
            Statements = statements,

```

```

    });

    if (response.Responses.Count > 0)
    {
        response.Responses.ForEach(r =>
        {
            if (r.Item.Any())
            {
                Console.WriteLine($"{r.Item["title"]}\t{r.Item["year"]}");
            }
        });
        return true;
    }
    else
    {
        Console.WriteLine($"Couldn't find either {title1} or {title2}.");
        return false;
    }
}

/// <summary>
/// Inserts movies imported from a JSON file into the movie table by
/// using an Amazon DynamoDB PartiQL INSERT statement.
/// </summary>
/// <param name="tableName">The name of the table into which the movie
/// information will be inserted.</param>
/// <param name="movieFileName">The name of the JSON file that contains
/// movie information.</param>
/// <returns>A Boolean value that indicates the success or failure of
/// the insert operation.</returns>
public static async Task<bool> InsertMovies(string tableName, string
movieFileName)
{
    // Get the list of movies from the JSON file.
    var movies = ImportMovies(movieFileName);

    var success = false;

    if (movies is not null)
    {
        // Insert the movies in a batch using PartiQL. Because the
        // batch can contain a maximum of 25 items, insert 25 movies
        // at a time.

```

```

        string insertBatch = $"INSERT INTO {tableName} VALUE {'title': ?,
'year': ?}";
        var statements = new List<BatchStatementRequest>();

        try
        {
            for (var indexOffset = 0; indexOffset < 250; indexOffset += 25)
            {
                for (var i = indexOffset; i < indexOffset + 25; i++)
                {
                    statements.Add(new BatchStatementRequest
                    {
                        Statement = insertBatch,
                        Parameters = new List<AttributeValue>
                        {
                            new AttributeValue { S = movies[i].Title },
                            new AttributeValue { N =
movies[i].Year.ToString() },
                        },
                    });
                }

                var response = await Client.BatchExecuteStatementAsync(new
BatchExecuteStatementRequest
                {
                    Statements = statements,
                });

                // Wait between batches for movies to be successfully added.
                System.Threading.Thread.Sleep(3000);

                success = response.HttpStatusCode ==
System.Net.HttpStatusCode.OK;

                // Clear the list of statements for the next batch.
                statements.Clear();
            }
        }
        catch (AmazonDynamoDBException ex)
        {
            Console.WriteLine(ex.Message);
        }
    }
}

```

```

        return success;
    }

    /// <summary>
    /// Loads the contents of a JSON file into a list of movies to be
    /// added to the DynamoDB table.
    /// </summary>
    /// <param name="movieFileName">The full path to the JSON file.</param>
    /// <returns>A generic list of movie objects.</returns>
    public static List<Movie> ImportMovies(string movieFileName)
    {
        if (!File.Exists(movieFileName))
        {
            return null!;
        }

        using var sr = new StreamReader(movieFileName);
        string json = sr.ReadToEnd();
        var allMovies = JsonConvert.DeserializeObject<List<Movie>>(json);

        if (allMovies is not null)
        {
            // Return the first 250 entries.
            return allMovies.GetRange(0, 250);
        }
        else
        {
            return null!;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Updates information for multiple movies.
    /// </summary>
    /// <param name="tableName">The name of the table containing the
    /// movies to be updated.</param>
    /// <param name="producer1">The producer name for the first movie
    /// to update.</param>
    /// <param name="title1">The title of the first movie.</param>
    /// <param name="year1">The year that the first movie was released.</param>
    /// <param name="producer2">The producer name for the second
    /// movie to update.</param>
    /// <param name="title2">The title of the second movie.</param>
    /// <param name="year2">The year that the second movie was released.</param>

```

```

    /// <returns>A Boolean value that indicates the success of the update.</
returns>
    public static async Task<bool> UpdateBatch(
        string tableName,
        string producer1,
        string title1,
        int year1,
        string producer2,
        string title2,
        int year2)
    {
        string updateBatch = $"UPDATE {tableName} SET Producer=? WHERE title = ?
AND year = ?";
        var statements = new List<BatchStatementRequest>
        {
            new BatchStatementRequest
            {
                Statement = updateBatch,
                Parameters = new List<AttributeValue>
                {
                    new AttributeValue { S = producer1 },
                    new AttributeValue { S = title1 },
                    new AttributeValue { N = year1.ToString() },
                },
            },
            new BatchStatementRequest
            {
                Statement = updateBatch,
                Parameters = new List<AttributeValue>
                {
                    new AttributeValue { S = producer2 },
                    new AttributeValue { S = title2 },
                    new AttributeValue { N = year2.ToString() },
                },
            }
        };

        var response = await Client.BatchExecuteStatementAsync(new
BatchExecuteStatementRequest
        {
            Statements = statements,
        });
    }

```



```

        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }

    /// <summary>
    /// Deletes multiple movies using a PartiQL BatchExecuteAsync
    /// statement.
    /// </summary>
    /// <param name="tableName">The name of the table containing the
    /// moves that will be deleted.</param>
    /// <param name="title1">The title of the first movie.</param>
    /// <param name="year1">The year the first movie was released.</param>
    /// <param name="title2">The title of the second movie.</param>
    /// <param name="year2">The year the second movie was released.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the operation.</
returns>
    public static async Task<bool> DeleteBatch(
        string tableName,
        string title1,
        int year1,
        string title2,
        int year2)
    {

        string updateBatch = $"DELETE FROM {tableName} WHERE title = ? AND year
= ?";

        var statements = new List<BatchStatementRequest>
        {
            new BatchStatementRequest
            {
                Statement = updateBatch,
                Parameters = new List<AttributeValue>
                {
                    new AttributeValue { S = title1 },
                    new AttributeValue { N = year1.ToString() },
                },
            },

            new BatchStatementRequest
            {
                Statement = updateBatch,
                Parameters = new List<AttributeValue>
                {
                    new AttributeValue { S = title2 },

```

```

        new AttributeValue { N = year2.ToString() },
    },
}
};

var response = await Client.BatchExecuteStatementAsync(new
BatchExecuteStatementRequest
{
    Statements = statements,
});

return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}

```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[BatchExecuteStatement](#)」を参照してください。

PartiQL を使用してテーブルに対してクエリを実行する

次のコードサンプルは、以下の操作方法を示しています。

- SELECT ステートメントを実行して項目を取得します。
- INSERT 文を実行して項目を追加する。
- UPDATE ステートメントを使用して項目を更新する。
- DELETE ステートメントを実行して項目を削除します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

namespace PartiQL_Basics_Scenario
{
    public class PartiQLMethods
    {

```

```

    private static readonly AmazonDynamoDBClient Client = new
AmazonDynamoDBClient();

    /// <summary>
    /// Inserts movies imported from a JSON file into the movie table by
    /// using an Amazon DynamoDB PartiQL INSERT statement.
    /// </summary>
    /// <param name="tableName">The name of the table where the movie
    /// information will be inserted.</param>
    /// <param name="movieFileName">The name of the JSON file that contains
    /// movie information.</param>
    /// <returns>A Boolean value that indicates the success or failure of
    /// the insert operation.</returns>
    public static async Task<bool> InsertMovies(string tableName, string
movieFileName)
    {
        // Get the list of movies from the JSON file.
        var movies = ImportMovies(movieFileName);

        var success = false;

        if (movies is not null)
        {
            // Insert the movies in a batch using PartiQL. Because the
            // batch can contain a maximum of 25 items, insert 25 movies
            // at a time.
            string insertBatch = $"INSERT INTO {tableName} VALUE {{'title': ?,
'year': ?}}";
            var statements = new List<BatchStatementRequest>();

            try
            {
                for (var indexOffset = 0; indexOffset < 250; indexOffset += 25)
                {
                    for (var i = indexOffset; i < indexOffset + 25; i++)
                    {
                        statements.Add(new BatchStatementRequest
                        {
                            Statement = insertBatch,
                            Parameters = new List<AttributeValue>
                            {
                                new AttributeValue { S = movies[i].Title },

```

```

                                new AttributeValue { N =
movies[i].Year.ToString() },
                                },
                                });
                                }

                                var response = await Client.BatchExecuteStatementAsync(new
BatchExecuteStatementRequest
                                {
                                    Statements = statements,
                                });

                                // Wait between batches for movies to be successfully added.
                                System.Threading.Thread.Sleep(3000);

                                success = response.HttpStatusCode ==
System.Net.HttpStatusCode.OK;

                                // Clear the list of statements for the next batch.
                                statements.Clear();
                                }
                                }
                                catch (AmazonDynamoDBException ex)
                                {
                                    Console.WriteLine(ex.Message);
                                }
                                }

                                return success;
                                }

                                /// <summary>
                                /// Loads the contents of a JSON file into a list of movies to be
                                /// added to the DynamoDB table.
                                /// </summary>
                                /// <param name="movieFileName">The full path to the JSON file.</param>
                                /// <returns>A generic list of movie objects.</returns>
                                public static List<Movie> ImportMovies(string movieFileName)
                                {
                                    if (!File.Exists(movieFileName))
                                    {
                                        return null!;
                                    }
                                }

```

```

        using var sr = new StreamReader(movieFileName);
        string json = sr.ReadToEnd();
        var allMovies = JsonConvert.DeserializeObject<List<Movie>>(json);

        if (allMovies is not null)
        {
            // Return the first 250 entries.
            return allMovies.GetRange(0, 250);
        }
        else
        {
            return null!;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Uses a PartiQL SELECT statement to retrieve a single movie from the
    /// movie database.
    /// </summary>
    /// <param name="tableName">The name of the movie table.</param>
    /// <param name="movieTitle">The title of the movie to retrieve.</param>
    /// <returns>A list of movie data. If no movie matches the supplied
    /// title, the list is empty.</returns>
    public static async Task<List<Dictionary<string, AttributeValue>>>
    GetSingleMovie(string tableName, string movieTitle)
    {
        string selectSingle = $"SELECT * FROM {tableName} WHERE title = ?";
        var parameters = new List<AttributeValue>
        {
            new AttributeValue { S = movieTitle },
        };

        var response = await Client.ExecuteStatementAsync(new
    ExecuteStatementRequest
    {
        Statement = selectSingle,
        Parameters = parameters,
    });

        return response.Items;
    }

```

```

    /// <summary>
    /// Retrieve multiple movies by year using a SELECT statement.
    /// </summary>
    /// <param name="tableName">The name of the movie table.</param>
    /// <param name="year">The year the movies were released.</param>
    /// <returns></returns>
    public static async Task<List<Dictionary<string, AttributeValue>>>
GetMovies(string tableName, int year)
    {
        string selectSingle = $"SELECT * FROM {tableName} WHERE year = ?";
        var parameters = new List<AttributeValue>
        {
            new AttributeValue { N = year.ToString() },
        };

        var response = await Client.ExecuteStatementAsync(new
ExecuteStatementRequest
        {
            Statement = selectSingle,
            Parameters = parameters,
        });

        return response.Items;
    }

    /// <summary>
    /// Inserts a single movie into the movies table.
    /// </summary>
    /// <param name="tableName">The name of the table.</param>
    /// <param name="movieTitle">The title of the movie to insert.</param>
    /// <param name="year">The year that the movie was released.</param>
    /// <returns>A Boolean value that indicates the success or failure of
    /// the INSERT operation.</returns>
    public static async Task<bool> InsertSingleMovie(string tableName, string
movieTitle, int year)
    {
        string insertBatch = $"INSERT INTO {tableName} VALUE {{'title': ?,
'year': ?}}";

        var response = await Client.ExecuteStatementAsync(new
ExecuteStatementRequest

```

```

        {
            Statement = insertBatch,
            Parameters = new List<AttributeValue>
            {
                new AttributeValue { S = movieTitle },
                new AttributeValue { N = year.ToString() },
            },
        });

    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}

/// <summary>
/// Updates a single movie in the table, adding information for the
/// producer.
/// </summary>
/// <param name="tableName">the name of the table.</param>
/// <param name="producer">The name of the producer.</param>
/// <param name="movieTitle">The movie title.</param>
/// <param name="year">The year the movie was released.</param>
/// <returns>A Boolean value that indicates the success of the
/// UPDATE operation.</returns>
public static async Task<bool> UpdateSingleMovie(string tableName, string
producer, string movieTitle, int year)
{
    string insertSingle = $"UPDATE {tableName} SET Producer=? WHERE title
= ? AND year = ?";

    var response = await Client.ExecuteStatementAsync(new
ExecuteStatementRequest
    {
        Statement = insertSingle,
        Parameters = new List<AttributeValue>
        {
            new AttributeValue { S = producer },
            new AttributeValue { S = movieTitle },
            new AttributeValue { N = year.ToString() },
        },
    });

    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}

```

```

    /// <summary>
    /// Deletes a single movie from the table.
    /// </summary>
    /// <param name="tableName">The name of the table.</param>
    /// <param name="movieTitle">The title of the movie to delete.</param>
    /// <param name="year">The year that the movie was released.</param>
    /// <returns>A Boolean value that indicates the success of the
    /// DELETE operation.</returns>
    public static async Task<bool> DeleteSingleMovie(string tableName, string
movieTitle, int year)
    {
        var deleteSingle = $"DELETE FROM {tableName} WHERE title = ? AND year
= ?";

        var response = await Client.ExecuteStatementAsync(new
ExecuteStatementRequest
        {
            Statement = deleteSingle,
            Parameters = new List<AttributeValue>
            {
                new AttributeValue { S = movieTitle },
                new AttributeValue { N = year.ToString() },
            },
        });

        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }

    /// <summary>
    /// Displays the list of movies returned from a database query.
    /// </summary>
    /// <param name="items">The list of movie information to display.</param>
    private static void DisplayMovies(List<Dictionary<string, AttributeValue>>
items)
    {
        if (items.Count > 0)
        {
            Console.WriteLine($"Found {items.Count} movies.");
            items.ForEach(item =>
Console.WriteLine($"{item["year"].N}\t{item["title"].S}"));

```



```

        }
        else
        {
            Console.WriteLine($"Didn't find a movie that matched the supplied
criteria.");
        }
    }

}

}

/// <summary>
/// Uses a PartiQL SELECT statement to retrieve a single movie from the
/// movie database.
/// </summary>
/// <param name="tableName">The name of the movie table.</param>
/// <param name="movieTitle">The title of the movie to retrieve.</param>
/// <returns>A list of movie data. If no movie matches the supplied
/// title, the list is empty.</returns>
public static async Task<List<Dictionary<string, AttributeValue>>>
GetSingleMovie(string tableName, string movieTitle)
{
    string selectSingle = $"SELECT * FROM {tableName} WHERE title = ?";
    var parameters = new List<AttributeValue>
    {
        new AttributeValue { S = movieTitle },
    };

    var response = await Client.ExecuteStatementAsync(new
ExecuteStatementRequest
    {
        Statement = selectSingle,
        Parameters = parameters,
    });

    return response.Items;
}

/// <summary>

```

```

    /// Inserts a single movie into the movies table.
    /// </summary>
    /// <param name="tableName">The name of the table.</param>
    /// <param name="movieTitle">The title of the movie to insert.</param>
    /// <param name="year">The year that the movie was released.</param>
    /// <returns>A Boolean value that indicates the success or failure of
    /// the INSERT operation.</returns>
    public static async Task<bool> InsertSingleMovie(string tableName, string
movieTitle, int year)
    {
        string insertBatch = $"INSERT INTO {tableName} VALUE {{'title': ?,
'year': ?}}";

        var response = await Client.ExecuteStatementAsync(new
ExecuteStatementRequest
        {
            Statement = insertBatch,
            Parameters = new List<AttributeValue>
            {
                new AttributeValue { S = movieTitle },
                new AttributeValue { N = year.ToString() },
            },
        });

        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }

    /// <summary>
    /// Updates a single movie in the table, adding information for the
    /// producer.
    /// </summary>
    /// <param name="tableName">the name of the table.</param>
    /// <param name="producer">The name of the producer.</param>
    /// <param name="movieTitle">The movie title.</param>
    /// <param name="year">The year the movie was released.</param>
    /// <returns>A Boolean value that indicates the success of the
    /// UPDATE operation.</returns>
    public static async Task<bool> UpdateSingleMovie(string tableName, string
producer, string movieTitle, int year)
    {
        string insertSingle = $"UPDATE {tableName} SET Producer=? WHERE title
= ? AND year = ?";

```

```

        var response = await Client.ExecuteStatementAsync(new
ExecuteStatementRequest
        {
            Statement = insertSingle,
            Parameters = new List<AttributeValue>
            {
                new AttributeValue { S = producer },
                new AttributeValue { S = movieTitle },
                new AttributeValue { N = year.ToString() },
            },
        });

        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }

```

```

/// <summary>
/// Deletes a single movie from the table.
/// </summary>
/// <param name="tableName">The name of the table.</param>
/// <param name="movieTitle">The title of the movie to delete.</param>
/// <param name="year">The year that the movie was released.</param>
/// <returns>A Boolean value that indicates the success of the
/// DELETE operation.</returns>
public static async Task<bool> DeleteSingleMovie(string tableName, string
movieTitle, int year)
{
    var deleteSingle = $"DELETE FROM {tableName} WHERE title = ? AND year
= ?";

    var response = await Client.ExecuteStatementAsync(new
ExecuteStatementRequest
    {
        Statement = deleteSingle,
        Parameters = new List<AttributeValue>
        {
            new AttributeValue { S = movieTitle },
            new AttributeValue { N = year.ToString() },
        },
    });

    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}

```

```
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ExecuteStatement](#)」を参照してください。

ドキュメントモデルを使用する

次のコード例は、DynamoDB と AWS SDK のドキュメントモデルを使用して、作成、読み取り、更新、削除 (CRUD) およびバッチオペレーションを実行する方法を示しています。

詳細については、「[ドキュメントモデル](#)」を参照してください。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

ドキュメントモデルを使用して CRUD オペレーションを実行します。

```
/// <summary>
/// Performs CRUD operations on an Amazon DynamoDB table.
/// </summary>
public class MidlevelItemCRUD
{
    public static async Task Main()
    {
        var tableName = "ProductCatalog";
        var sampleBookId = 555;

        var client = new AmazonDynamoDBClient();
        var productCatalog = LoadTable(client, tableName);

        await CreateBookItem(productCatalog, sampleBookId);
        RetrieveBook(productCatalog, sampleBookId);

        // Couple of sample updates.
```

```

        UpdateMultipleAttributes(productCatalog, sampleBookId);
        UpdateBookPriceConditionally(productCatalog, sampleBookId);

        // Delete.
        await DeleteBook(productCatalog, sampleBookId);
    }

    /// <summary>
    /// Loads the contents of a DynamoDB table.
    /// </summary>
    /// <param name="client">An initialized DynamoDB client object.</param>
    /// <param name="tableName">The name of the table to load.</param>
    /// <returns>A DynamoDB table object.</returns>
    public static Table LoadTable(IAmazonDynamoDB client, string tableName)
    {
        Table productCatalog = Table.LoadTable(client, tableName);
        return productCatalog;
    }

    /// <summary>
    /// Creates an example book item and adds it to the DynamoDB table
    /// ProductCatalog.
    /// </summary>
    /// <param name="productCatalog">A DynamoDB table object.</param>
    /// <param name="sampleBookId">An integer value representing the book's
ID.</param>
    public static async Task CreateBookItem(Table productCatalog, int
sampleBookId)
    {
        Console.WriteLine("\n*** Executing CreateBookItem() ***");
        var book = new Document
        {
            ["Id"] = sampleBookId,
            ["Title"] = "Book " + sampleBookId,
            ["Price"] = 19.99,
            ["ISBN"] = "111-1111111111",
            ["Authors"] = new List<string> { "Author 1", "Author 2", "Author
3" },
            ["PageCount"] = 500,
            ["Dimensions"] = "8.5x11x.5",
            ["InPublication"] = new DynamoDBBool(true),
            ["InStock"] = new DynamoDBBool(false),
            ["QuantityOnHand"] = 0,
        };
    }

```

```

        // Adds the book to the ProductCatalog table.
        await productCatalog.PutItemAsync(book);
    }

    /// <summary>
    /// Retrieves an item, a book, from the DynamoDB ProductCatalog table.
    /// </summary>
    /// <param name="productCatalog">A DynamoDB table object.</param>
    /// <param name="sampleBookId">An integer value representing the book's
ID.</param>
    public static async void RetrieveBook(
        Table productCatalog,
        int sampleBookId)
    {
        Console.WriteLine("\n*** Executing RetrieveBook() ***");

        // Optional configuration.
        var config = new GetItemOperationConfig
        {
            AttributesToGet = new List<string> { "Id", "ISBN", "Title",
"Authors", "Price" },
            ConsistentRead = true,
        };

        Document document = await productCatalog.GetItemAsync(sampleBookId,
config);

        Console.WriteLine("RetrieveBook: Printing book retrieved...");
        PrintDocument(document);
    }

    /// <summary>
    /// Updates multiple attributes for a book and writes the changes to the
    /// DynamoDB table ProductCatalog.
    /// </summary>
    /// <param name="productCatalog">A DynamoDB table object.</param>
    /// <param name="sampleBookId">An integer value representing the book's
ID.</param>
    public static async void UpdateMultipleAttributes(
        Table productCatalog,
        int sampleBookId)
    {
        Console.WriteLine("\nUpdating multiple attributes....");
        int partitionKey = sampleBookId;

```

```

        var book = new Document
        {
            ["Id"] = partitionKey,

            // List of attribute updates.
            // The following replaces the existing authors list.
            ["Authors"] = new List<string> { "Author x", "Author y" },
            ["newAttribute"] = "New Value",
            ["ISBN"] = null, // Remove it.
        };

        // Optional parameters.
        var config = new UpdateItemOperationConfig
        {
            // Gets updated item in response.
            ReturnValues = ReturnValues.AllNewAttributes,
        };

        Document updatedBook = await productCatalog.UpdateItemAsync(book,
config);
        Console.WriteLine("UpdateMultipleAttributes: Printing item after
updates ...");
        PrintDocument(updatedBook);
    }

    /// <summary>
    /// Updates a book item if it meets the specified criteria.
    /// </summary>
    /// <param name="productCatalog">A DynamoDB table object.</param>
    /// <param name="sampleBookId">An integer value representing the book's
ID.</param>
    public static async void UpdateBookPriceConditionally(
        Table productCatalog,
        int sampleBookId)
    {
        Console.WriteLine("\n*** Executing UpdateBookPriceConditionally() ***");

        int partitionKey = sampleBookId;

        var book = new Document
        {
            ["Id"] = partitionKey,
            ["Price"] = 29.99,

```

```

    };

    // For conditional price update, creating a condition expression.
    var expr = new Expression
    {
        ExpressionStatement = "Price = :val",
    };
    expr.ExpressionAttributeValues[":val"] = 19.00;

    // Optional parameters.
    var config = new UpdateItemOperationConfig
    {
        ConditionalExpression = expr,
        ReturnValues = ReturnValues.AllNewAttributes,
    };

    Document updatedBook = await productCatalog.UpdateItemAsync(book,
config);
    Console.WriteLine("UpdateBookPriceConditionally: Printing item whose
price was conditionally updated");
    PrintDocument(updatedBook);
}

/// <summary>
/// Deletes the book with the supplied Id value from the DynamoDB table
/// ProductCatalog.
/// </summary>
/// <param name="productCatalog">A DynamoDB table object.</param>
/// <param name="sampleBookId">An integer value representing the book's
ID.</param>
public static async Task DeleteBook(
    Table productCatalog,
    int sampleBookId)
{
    Console.WriteLine("\n*** Executing DeleteBook() ***");

    // Optional configuration.
    var config = new DeleteItemOperationConfig
    {
        // Returns the deleted item.
        ReturnValues = ReturnValues.AllOldAttributes,
    };
    Document document = await productCatalog.DeleteItemAsync(sampleBookId,
config);

```



```

        Console.WriteLine("DeleteBook: Printing deleted just deleted...");

        PrintDocument(document);
    }

    /// <summary>
    /// Prints the information for the supplied DynamoDB document.
    /// </summary>
    /// <param name="updatedDocument">A DynamoDB document object.</param>
    public static void PrintDocument(Document updatedDocument)
    {
        if (updatedDocument is null)
        {
            return;
        }

        foreach (var attribute in updatedDocument.GetAttributeNames())
        {
            string stringValue = null;
            var value = updatedDocument[attribute];

            if (value is null)
            {
                continue;
            }

            if (value is Primitive)
            {
                stringValue = value.AsPrimitive().Value.ToString();
            }
            else if (value is PrimitiveList)
            {
                stringValue = string.Join(",", (from primitive
                                                  in value.AsPrimitiveList().Entries
                                                  select
primitive.Value).ToArray());
            }

            Console.WriteLine($"{attribute} - {stringValue}", attribute,
stringValue);
        }
    }
}

```

ドキュメントモデルを使用してバッチ書き込みオペレーションを実行します。

```
/// <summary>
/// Shows how to use mid-level Amazon DynamoDB API calls to perform batch
/// operations.
/// </summary>
public class MidLevelBatchWriteItem
{
    public static async Task Main()
    {
        IAmazonDynamoDB client = new AmazonDynamoDBClient();

        await SingleTableBatchWrite(client);
        await MultiTableBatchWrite(client);
    }

    /// <summary>
    /// Perform a batch operation on a single DynamoDB table.
    /// </summary>
    /// <param name="client">An initialized DynamoDB object.</param>
    public static async Task SingleTableBatchWrite(IAmazonDynamoDB client)
    {
        Table productCatalog = Table.LoadTable(client, "ProductCatalog");
        var batchWrite = productCatalog.CreateBatchWrite();

        var book1 = new Document
        {
            ["Id"] = 902,
            ["Title"] = "My book1 in batch write using .NET helper classes",
            ["ISBN"] = "902-11-11-1111",
            ["Price"] = 10,
            ["ProductCategory"] = "Book",
            ["Authors"] = new List<string> { "Author 1", "Author 2", "Author
3" },
            ["Dimensions"] = "8.5x11x.5",
            ["InStock"] = new DynamoDBBool(true),
            ["QuantityOnHand"] = new DynamoDBNull(), // Quantity is unknown at
this time.
        };
    }
}
```

```
        batchWrite.AddDocumentToPut(book1);

        // Specify delete item using overload that takes PK.
        batchWrite.AddKeyToDelete(12345);
        Console.WriteLine("Performing batch write in SingleTableBatchWrite()");
        await batchWrite.ExecuteAsync();
    }

    /// <summary>
    /// Perform a batch operation involving multiple DynamoDB tables.
    /// </summary>
    /// <param name="client">An initialized DynamoDB client object.</param>
    public static async Task MultiTableBatchWrite(IAmazonDynamoDB client)
    {
        // Specify item to add in the Forum table.
        Table forum = Table.LoadTable(client, "Forum");
        var forumBatchWrite = forum.CreateBatchWrite();

        var forum1 = new Document
        {
            ["Name"] = "Test BatchWrite Forum",
            ["Threads"] = 0,
        };
        forumBatchWrite.AddDocumentToPut(forum1);

        // Specify item to add in the Thread table.
        Table thread = Table.LoadTable(client, "Thread");
        var threadBatchWrite = thread.CreateBatchWrite();

        var thread1 = new Document
        {
            ["ForumName"] = "S3 forum",
            ["Subject"] = "My sample question",
            ["Message"] = "Message text",
            ["KeywordTags"] = new List<string> { "S3", "Bucket" },
        };
        threadBatchWrite.AddDocumentToPut(thread1);

        // Specify item to delete from the Thread table.
        threadBatchWrite.AddKeyToDelete("someForumName", "someSubject");

        // Create multi-table batch.
        var superBatch = new MultiTableDocumentBatchWrite();
        superBatch.AddBatch(forumBatchWrite);
    }
}
```

```

        superBatch.AddBatch(threadBatchWrite);
        Console.WriteLine("Performing batch write in MultiTableBatchWrite()");

        // Execute the batch.
        await superBatch.ExecuteAsync();
    }
}

```

ドキュメントモデルを使用してテーブルをスキャンします。

```

/// <summary>
/// Shows how to use mid-level Amazon DynamoDB API calls to scan a DynamoDB
/// table for values.
/// </summary>
public class MidLevelScanOnly
{
    public static async Task Main()
    {
        IAmazonDynamoDB client = new AmazonDynamoDBClient();

        Table productCatalogTable = Table.LoadTable(client, "ProductCatalog");

        await FindProductsWithNegativePrice(productCatalogTable);
        await FindProductsWithNegativePriceWithConfig(productCatalogTable);
    }

    /// <summary>
    /// Retrieves any products that have a negative price in a DynamoDB table.
    /// </summary>
    /// <param name="productCatalogTable">A DynamoDB table object.</param>
    public static async Task FindProductsWithNegativePrice(
        Table productCatalogTable)
    {
        // Assume there is a price error. So we scan to find items priced < 0.
        var scanFilter = new ScanFilter();
        scanFilter.AddCondition("Price", ScanOperator.LessThan, 0);

        Search search = productCatalogTable.Scan(scanFilter);

        do

```

```

        {
            var documentList = await search.GetNextSetAsync();
            Console.WriteLine("\nFindProductsWithNegativePrice:
printing .....");

            foreach (var document in documentList)
            {
                PrintDocument(document);
            }
        }
        while (!search.IsDone);
    }

    /// <summary>
    /// Finds any items in the ProductCatalog table using a DynamoDB
    /// configuration object.
    /// </summary>
    /// <param name="productCatalogTable">A DynamoDB table object.</param>
    public static async Task FindProductsWithNegativePriceWithConfig(
        Table productCatalogTable)
    {
        // Assume there is a price error. So we scan to find items priced < 0.
        var scanFilter = new ScanFilter();
        scanFilter.AddCondition("Price", ScanOperator.LessThan, 0);

        var config = new ScanOperationConfig()
        {
            Filter = scanFilter,
            Select = SelectValues.SpecificAttributes,
            AttributesToGet = new List<string> { "Title", "Id" },
        };

        Search search = productCatalogTable.Scan(config);

        do
        {
            var documentList = await search.GetNextSetAsync();
            Console.WriteLine("\nFindProductsWithNegativePriceWithConfig:
printing .....");

            foreach (var document in documentList)
            {
                PrintDocument(document);
            }
        }
    }

```

```

    }
    while (!search.IsDone);
}

/// <summary>
/// Displays the details of the passed DynamoDB document object on the
/// console.
/// </summary>
/// <param name="document">A DynamoDB document object.</param>
public static void PrintDocument(Document document)
{
    Console.WriteLine();
    foreach (var attribute in document.GetAttributeNames())
    {
        string stringValue = null;
        var value = document[attribute];
        if (value is Primitive)
        {
            stringValue = value.AsPrimitive().Value.ToString();
        }
        else if (value is PrimitiveList)
        {
            stringValue = string.Join(",", (from primitive
                                             in value.AsPrimitiveList().Entries
                                             select
primitive.Value).ToArray());
        }

        Console.WriteLine($"{attribute} - {stringValue}");
    }
}
}

```

ドキュメントモデルを使用して、テーブルをクエリおよびスキャンする。

```

/// <summary>
/// Shows how to perform mid-level query procedures on an Amazon DynamoDB
/// table.
/// </summary>
public class MidLevelQueryAndScan

```

```

{
    public static async Task Main()
    {
        IAmazonDynamoDB client = new AmazonDynamoDBClient();

        // Query examples.
        Table replyTable = Table.LoadTable(client, "Reply");
        string forumName = "Amazon DynamoDB";
        string threadSubject = "DynamoDB Thread 2";

        await FindRepliesInLast15Days(replyTable);
        await FindRepliesInLast15DaysWithConfig(replyTable, forumName,
threadSubject);
        await FindRepliesPostedWithinTimePeriod(replyTable, forumName,
threadSubject);

        // Get Example.
        Table productCatalogTable = Table.LoadTable(client, "ProductCatalog");
        int productId = 101;

        await GetProduct(productCatalogTable, productId);
    }

    /// <summary>
    /// Retrieves information about a product from the DynamoDB table
    /// ProductCatalog based on the product ID and displays the information
    /// on the console.
    /// </summary>
    /// <param name="tableName">The name of the table from which to retrieve
    /// product information.</param>
    /// <param name="productId">The ID of the product to retrieve.</param>
    public static async Task GetProduct(Table tableName, int productId)
    {
        Console.WriteLine("*** Executing GetProduct() ***");
        Document productDocument = await tableName.GetItemAsync(productId);
        if (productDocument != null)
        {
            PrintDocument(productDocument);
        }
        else
        {
            Console.WriteLine("Error: product " + productId + " does not
exist");
        }
    }
}

```

```

    }

    /// <summary>
    /// Retrieves replies from the passed DynamoDB table object.
    /// </summary>
    /// <param name="table">The table we want to query.</param>
    public static async Task FindRepliesInLast15Days(
        Table table)
    {
        DateTime twoWeeksAgoDate = DateTime.UtcNow - TimeSpan.FromDays(15);
        var filter = new QueryFilter("Id", QueryOperator.Equal, "Id");
        filter.AddCondition("ReplyDateTime", QueryOperator.GreaterThan,
twoWeeksAgoDate);

        // Use Query overloads that take the minimum required query parameters.
        Search search = table.Query(filter);

        do
        {
            var documentSet = await search.GetNextSetAsync();
            Console.WriteLine("\nFindRepliesInLast15Days:
printing .....");

            foreach (var document in documentSet)
            {
                PrintDocument(document);
            }
        }
        while (!search.IsDone);
    }

    /// <summary>
    /// Retrieve replies made during a specific time period.
    /// </summary>
    /// <param name="table">The table we want to query.</param>
    /// <param name="forumName">The name of the forum that we're interested
in.</param>
    /// <param name="threadSubject">The subject of the thread, which we are
    /// searching for replies.</param>
    public static async Task FindRepliesPostedWithinTimePeriod(
        Table table,
        string forumName,
        string threadSubject)
    {

```



```

        DateTime startDate = DateTime.UtcNow.Subtract(new TimeSpan(21, 0, 0,
0));
        DateTime endDate = DateTime.UtcNow.Subtract(new TimeSpan(1, 0, 0, 0));

        var filter = new QueryFilter("Id", QueryOperator.Equal, forumName + "#"
+ threadSubject);
        filter.AddCondition("ReplyDateTime", QueryOperator.Between, startDate,
endDate);

        var config = new QueryOperationConfig()
        {
            Limit = 2, // 2 items/page.
            Select = SelectValues.SpecificAttributes,
            AttributesToGet = new List<string>
        {
            "Message",
            "ReplyDateTime",
            "PostedBy",
        },
            ConsistentRead = true,
            Filter = filter,
        };

        Search search = table.Query(config);

        do
        {
            var documentList = await search.GetNextSetAsync();
            Console.WriteLine("\nFindRepliesPostedWithinTimePeriod: printing
replies posted within dates: {0} and {1} .....", startDate, endDate);

            foreach (var document in documentList)
            {
                PrintDocument(document);
            }
        }
        while (!search.IsDone);
    }

    /// <summary>
    /// Perform a query for replies made in the last 15 days using a DynamoDB
    /// QueryOperationConfig object.
    /// </summary>
    /// <param name="table">The table we want to query.</param>

```

```

    /// <param name="forumName">The name of the forum that we're interested
in.</param>
    /// <param name="threadName">The bane of the thread that we are searching
    /// for replies.</param>
    public static async Task FindRepliesInLast15DaysWithConfig(
        Table table,
        string forumName,
        string threadName)
    {
        DateTime twoWeeksAgoDate = DateTime.UtcNow - TimeSpan.FromDays(15);
        var filter = new QueryFilter("Id", QueryOperator.Equal, forumName + "#"
+ threadName);
        filter.AddCondition("ReplyDateTime", QueryOperator.GreaterThan,
twoWeeksAgoDate);

        var config = new QueryOperationConfig()
        {
            Filter = filter,

            // Optional parameters.
            Select = SelectValues.SpecificAttributes,
            AttributesToGet = new List<string>
            {
                "Message",
                "ReplyDateTime",
                "PostedBy",
            },
            ConsistentRead = true,
        };

        Search search = table.Query(config);

        do
        {
            var documentSet = await search.GetNextSetAsync();
            Console.WriteLine("\nFindRepliesInLast15DaysWithConfig:
printing .....");

            foreach (var document in documentSet)
            {
                PrintDocument(document);
            }
        }
        while (!search.IsDone);
    }

```

```

    }

    /// <summary>
    /// Displays the contents of the passed DynamoDB document on the console.
    /// </summary>
    /// <param name="document">A DynamoDB document to display.</param>
    public static void PrintDocument(Document document)
    {
        Console.WriteLine();
        foreach (var attribute in document.GetAttributeNames())
        {
            string stringValue = null;
            var value = document[attribute];

            if (value is Primitive)
            {
                stringValue = value.AsPrimitive().Value.ToString();
            }
            else if (value is PrimitiveList)
            {
                stringValue = string.Join(",", (from primitive
                                                  in value.AsPrimitiveList().Entries
                                                  select
primitive.Value).ToArray());
            }

            Console.WriteLine($"{attribute} - {stringValue}");
        }
    }
}

```

高レベルのオブジェクト永続性モデルを使用する

次のコード例は、DynamoDB と AWS SDK のオブジェクト永続性モデルを使用して、作成、読み取り、更新、削除 (CRUD) およびバッチオペレーションを実行する方法を示しています。

詳細については、「[オブジェクト永続性モデル](#)」を参照してください。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

高レベルのオブジェクト永続性モデルを使用して CRUD オペレーションを実行します。

```
/// <summary>
/// Shows how to perform high-level CRUD operations on an Amazon DynamoDB
/// table.
/// </summary>
public class HighLevelItemCrud
{
    public static async Task Main()
    {
        var client = new AmazonDynamoDBClient();
        DynamoDBContext context = new DynamoDBContext(client);
        await PerformCRUDOperations(context);
    }

    public static async Task PerformCRUDOperations(IDynamoDBContext context)
    {
        int bookId = 1001; // Some unique value.
        Book myBook = new Book
        {
            Id = bookId,
            Title = "object persistence-AWS SDK for.NET SDK-Book 1001",
            Isbn = "111-1111111001",
            BookAuthors = new List<string> { "Author 1", "Author 2" },
        };

        // Save the book to the ProductCatalog table.
        await context.SaveAsync(myBook);

        // Retrieve the book from the ProductCatalog table.
        Book bookRetrieved = await context.LoadAsync<Book>(bookId);

        // Update some properties.
        bookRetrieved.Isbn = "222-2222221001";
    }
}
```

```

        // Update existing authors list with the following values.
        bookRetrieved.BookAuthors = new List<string> { " Author 1", "Author
x" };

        await context.SaveChangesAsync(bookRetrieved);

        // Retrieve the updated book. This time, add the optional
        // ConsistentRead parameter using DynamoDBContextConfig object.
        await context.LoadAsync<Book>(bookId, new DynamoDBContextConfig
        {
            ConsistentRead = true,
        });

        // Delete the book.
        await context.DeleteAsync<Book>(bookId);

        // Try to retrieve deleted book. It should return null.
        Book deletedBook = await context.LoadAsync<Book>(bookId, new
DynamoDBContextConfig
        {
            ConsistentRead = true,
        });

        if (deletedBook == null)
        {
            Console.WriteLine("Book is deleted");
        }
    }
}

```

高レベルのオブジェクト永続性モデルを使用してバッチ書き込みオペレーションを実行します。

```

/// <summary>
/// Performs high-level batch write operations to an Amazon DynamoDB table.
/// This example was written using the AWS SDK for .NET version 3.7 and .NET
/// Core 5.0.
/// </summary>
public class HighLevelBatchWriteItem
{
    public static async Task SingleTableBatchWrite(IDynamoDBContext context)

```

```
{
    Book book1 = new Book
    {
        Id = 902,
        InPublication = true,
        Isbn = "902-11-11-1111",
        PageCount = "100",
        Price = 10,
        ProductCategory = "Book",
        Title = "My book3 in batch write",
    };

    Book book2 = new Book
    {
        Id = 903,
        InPublication = true,
        Isbn = "903-11-11-1111",
        PageCount = "200",
        Price = 10,
        ProductCategory = "Book",
        Title = "My book4 in batch write",
    };

    var bookBatch = context.CreateBatchWrite<Book>();
    bookBatch.AddPutItems(new List<Book> { book1, book2 });

    Console.WriteLine("Adding two books to ProductCatalog table.");
    await bookBatch.ExecuteAsync();
}

public static async Task MultiTableBatchWrite(IDynamoDBContext context)
{
    // New Forum item.
    Forum newForum = new Forum
    {
        Name = "Test BatchWrite Forum",
        Threads = 0,
    };
    var forumBatch = context.CreateBatchWrite<Forum>();
    forumBatch.AddPutItem(newForum);

    // New Thread item.
    Thread newThread = new Thread
    {
```

```

        ForumName = "S3 forum",
        Subject = "My sample question",
        KeywordTags = new List<string> { "S3", "Bucket" },
        Message = "Message text",
    };

    DynamoDBOperationConfig config = new DynamoDBOperationConfig();
    config.SkipVersionCheck = true;
    var threadBatch = context.CreateBatchWrite<Thread>(config);
    threadBatch.AddPutItem(newThread);
    threadBatch.AddDeleteKey("some partition key value", "some sort key
value");

    var superBatch = new MultiTableBatchWrite(forumBatch, threadBatch);

    Console.WriteLine("Performing batch write in MultiTableBatchWrite().");
    await superBatch.ExecuteAsync();
}

public static async Task Main()
{
    AmazonDynamoDBClient client = new AmazonDynamoDBClient();
    DynamoDBContext context = new DynamoDBContext(client);

    await SingleTableBatchWrite(context);
    await MultiTableBatchWrite(context);
}
}

```

オブジェクト永続性モデルを使用して、任意のデータをテーブルにマッピングします。

```

/// <summary>
/// Shows how to map arbitrary data to an Amazon DynamoDB table.
/// </summary>
public class HighLevelMappingArbitraryData
{
    /// <summary>
    /// Creates a book, adds it to the DynamoDB ProductCatalog table, retrieves
    /// the new book from the table, updates the dimensions and writes the
    /// changed item back to the table.

```

```

    /// </summary>
    /// <param name="context">The DynamoDB context object used to write and
    /// read data from the table.</param>
    public static async Task AddRetrieveUpdateBook(IDynamoDBContext context)
    {
        // Create a book.
        DimensionType myBookDimensions = new DimensionType()
        {
            Length = 8M,
            Height = 11M,
            Thickness = 0.5M,
        };

        Book myBook = new Book
        {
            Id = 501,
            Title = "AWS SDK for .NET Object Persistence Model Handling
Arbitrary Data",
            Isbn = "999-9999999999",
            BookAuthors = new List<string> { "Author 1", "Author 2" },
            Dimensions = myBookDimensions,
        };

        // Add the book to the DynamoDB table ProductCatalog.
        await context.SaveAsync(myBook);

        // Retrieve the book.
        Book bookRetrieved = await context.LoadAsync<Book>(501);

        // Update the book dimensions property.
        bookRetrieved.Dimensions.Height += 1;
        bookRetrieved.Dimensions.Length += 1;
        bookRetrieved.Dimensions.Thickness += 0.2M;

        // Write the changed item to the table.
        await context.SaveAsync(bookRetrieved);
    }

    public static async Task Main()
    {
        var client = new AmazonDynamoDBClient();
        DynamoDBContext context = new DynamoDBContext(client);
        await AddRetrieveUpdateBook(context);
    }

```



```
}
```

高レベルのオブジェクト永続性モデルを使用してテーブルをクエリおよびスキャンします。

```
/// <summary>
/// Shows how to perform high-level query and scan operations to Amazon
/// DynamoDB tables.
/// </summary>
public class HighLevelQueryAndScan
{
    public static async Task Main()
    {
        var client = new AmazonDynamoDBClient();

        DynamoDBContext context = new DynamoDBContext(client);

        // Get an item.
        await GetBook(context, 101);

        // Sample forum and thread to test queries.
        string forumName = "Amazon DynamoDB";
        string threadSubject = "DynamoDB Thread 1";

        // Sample queries.
        await FindRepliesInLast15Days(context, forumName, threadSubject);
        await FindRepliesPostedWithinTimePeriod(context, forumName,
threadSubject);

        // Scan table.
        await FindProductsPricedLessThanZero(context);
    }

    public static async Task GetBook(IDynamoDBContext context, int productId)
    {
        Book bookItem = await context.LoadAsync<Book>(productId);

        Console.WriteLine("\nGetBook: Printing result.....");
        Console.WriteLine($"Title: {bookItem.Title} \n ISBN:{bookItem.Isbn} \n
No. of pages: {bookItem.PageCount}");
    }
}
```

```

    /// <summary>
    /// Queries a DynamoDB table to find replies posted within the last 15 days.
    /// </summary>
    /// <param name="context">The DynamoDB context used to perform the query.</
param>
    /// <param name="forumName">The name of the forum that we're interested
in.</param>
    /// <param name="threadSubject">The thread object containing the query
parameters.</param>
    public static async Task FindRepliesInLast15Days(
        IDynamoDBContext context,
        string forumName,
        string threadSubject)
    {
        string replyId = $"{forumName} #{threadSubject}";
        DateTime twoWeeksAgoDate = DateTime.UtcNow - TimeSpan.FromDays(15);

        List<object> times = new List<object>();
        times.Add(twoWeeksAgoDate);

        List<ScanCondition> scs = new List<ScanCondition>();
        var sc = new ScanCondition("PostedBy", ScanOperator.GreaterThan,
times.ToArray());
        scs.Add(sc);

        var cfg = new DynamoDBOperationConfig
        {
            QueryFilter = scs,
        };

        AsyncSearch<Reply> response = context.QueryAsync<Reply>(replyId, cfg);
        IEnumerable<Reply> latestReplies = await response.GetRemainingAsync();

        Console.WriteLine("\nReplies in last 15 days:");

        foreach (Reply r in latestReplies)
        {
            Console.WriteLine($"{r.Id}\t{r.PostedBy}\t{r.Message}\t{r.ReplyDateTime}");
        }
    }

    /// <summary>

```

```

    /// Queries for replies posted within a specific time period.
    /// </summary>
    /// <param name="context">The DynamoDB context used to perform the query.</
param>
    /// <param name="forumName">The name of the forum that we're interested
in.</param>
    /// <param name="threadSubject">Information about the subject that we're
    /// interested in.</param>
    public static async Task FindRepliesPostedWithinTimePeriod(
        IDynamoDBContext context,
        string forumName,
        string threadSubject)
    {
        string forumId = forumName + "#" + threadSubject;
        Console.WriteLine("\nReplies posted within time period:");

        DateTime startDate = DateTime.UtcNow - TimeSpan.FromDays(30);
        DateTime endDate = DateTime.UtcNow - TimeSpan.FromDays(1);

        List<object> times = new List<object>();
        times.Add(startDate);
        times.Add(endDate);

        List<ScanCondition> scs = new List<ScanCondition>();
        var sc = new ScanCondition("LastPostedBy", ScanOperator.Between,
times.ToArray());
        scs.Add(sc);

        var cfg = new DynamoDBOperationConfig
        {
            QueryFilter = scs,
        };

        AsyncSearch<Reply> response = context.QueryAsync<Reply>(forumId, cfg);
        IEnumerable<Reply> repliesInAPeriod = await
response.GetRemainingAsync();

        foreach (Reply r in repliesInAPeriod)
        {
            Console.WriteLine("{r.Id}\t{r.PostedBy}\t{r.Message}\t{r.ReplyDateTime}");
        }
    }
}

```

```

    /// <summary>
    /// Queries the DynamoDB ProductCatalog table for products costing less
    /// than zero.
    /// </summary>
    /// <param name="context">The DynamoDB context object used to perform the
    /// query.</param>
    public static async Task FindProductsPricedLessThanZero(IDynamoDBContext
context)
    {
        int price = 0;

        List<ScanCondition> scs = new List<ScanCondition>();
        var sc1 = new ScanCondition("Price", ScanOperator.LessThan, price);
        var sc2 = new ScanCondition("ProductCategory", ScanOperator.Equal,
"Book");

        scs.Add(sc1);
        scs.Add(sc2);

        AsyncSearch<Book> response = context.ScanAsync<Book>(scs);

        IEnumerable<Book> itemsWithWrongPrice = await
response.GetRemainingAsync();

        Console.WriteLine("\nFindProductsPricedLessThanZero: Printing
result.....");

        foreach (Book r in itemsWithWrongPrice)
        {
            Console.WriteLine($"{r.Id}\t{r.Title}\t{r.Price}\t{r.Isbn}");
        }
    }
}

```

サーバーレスサンプル

DynamoDB トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、DynamoDB ストリームからレコードを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る、Lambda 関数の実装方法を示しています。関数は DynamoDB ペイロードを取得し、レコードの内容をログ記録します。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

.NET を使用した Lambda での DynamoDB イベントの消費。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
using System.Text.Json;
using System.Text;
using Amazon.Lambda.Core;
using Amazon.Lambda.DynamoDBEvents;

// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
// into a .NET class.
[assembly:
    LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace AWSLambda_DDB;

public class Function
{
    public void FunctionHandler(DynamoDBEvent dynamoEvent, ILambdaContext context)
    {
        context.Logger.LogInformation($"Beginning to process
        {dynamoEvent.Records.Count} records...");

        foreach (var record in dynamoEvent.Records)
        {
            context.Logger.LogInformation($"Event ID: {record.EventID}");
            context.Logger.LogInformation($"Event Name: {record.EventName}");

            context.Logger.LogInformation(JsonSerializer.Serialize(record));
        }

        context.Logger.LogInformation("Stream processing complete.");
    }
}
```

DynamoDB トリガーで Lambda 関数のバッチアイテムの失敗をレポートする

次のコード例は、DynamoDB ストリームからイベントを受け取る Lambda 関数の部分的なバッチレスポンスの実装方法を示しています。この関数は、レスポンスとしてバッチアイテムの失敗を報告し、対象のメッセージを後で再試行するよう Lambda に伝えます。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

.NET を使用した Lambda での DynamoDB のバッチアイテム失敗のレポート。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
using System.Text.Json;
using System.Text;
using Amazon.Lambda.Core;
using Amazon.Lambda.DynamoDBEvents;

// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
// into a .NET class.
[assembly: LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace AWSLambda_DDB;

public class Function
{
    public StreamsEventResponse FunctionHandler(DynamoDBEvent dynamoEvent,
        ILambdaContext context)
    {
        context.Logger.LogInformation($"Beginning to process
        {dynamoEvent.Records.Count} records...");
    }
}
```

```

        List<StreamsEventResponse.BatchItemFailure> batchItemFailures = new
List<StreamsEventResponse.BatchItemFailure>();
        StreamsEventResponse streamsEventResponse = new StreamsEventResponse();

        foreach (var record in dynamoEvent.Records)
        {
            try
            {
                var sequenceNumber = record.Dynamodb.SequenceNumber;
                context.Logger.LogInformation(sequenceNumber);
            }
            catch (Exception ex)
            {
                context.Logger.LogError(ex.Message);
                batchItemFailures.Add(new StreamsEventResponse.BatchItemFailure()
{ ItemIdentifier = record.Dynamodb.SequenceNumber });
            }
        }

        if (batchItemFailures.Count > 0)
        {
            streamsEventResponse.BatchItemFailures = batchItemFailures;
        }

        context.Logger.LogInformation("Stream processing complete.");
        return streamsEventResponse;
    }
}

```

AWS コミュニティへの貢献

サーバーレスアプリケーションの構築とテスト

次のコード例は、Lambda および DynamoDB を備えた API Gateway を使用してサーバーレスアプリケーションを構築およびテストする方法を示しています。

SDK for .NET

.NET SDK を使用し、Lambda および DynamoDB を備えた API Gateway で構成されるサーバーレスアプリケーションを構築およびテストする方法を示します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda

を使用した Amazon EC2 の例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon EC2 AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には、完全なソースコードへのリンクが含まれており、そこからコードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [基本](#)
- [アクション](#)
- [シナリオ](#)

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- キーペアとセキュリティグループを作成します。

- Amazon マシンイメージ (AMI)と互換性のあるインスタンスタイプを選択し、インスタンスを作成します。
- インスタンスを停止し、再起動します。
- Elastic IP アドレスをインスタンスに関連付けます。
- SSH を使用してインスタンスに接続し、リソースをクリーンアップします。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

コマンドプロンプトでシナリオを実行します。

```
/// <summary>
/// Show Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) Basics actions.
/// </summary>
public class EC2Basics
{
    public static ILogger<EC2Basics> _logger = null!;
    public static EC2Wrapper _ec2Wrapper = null!;
    public static SsmWrapper _ssmWrapper = null!;
    public static UiMethods _uiMethods = null!;

    public static string associationId = null!;
    public static string allocationId = null!;
    public static string instanceId = null!;
    public static string keyPairName = null!;
    public static string groupName = null!;
    public static string tempFileName = null!;
    public static string secGroupId = null!;
    public static bool isInteractive = true;

    /// <summary>
    /// Perform the actions defined for the Amazon EC2 Basics scenario.
    /// </summary>
    /// <param name="args">Command line arguments.</param>
    /// <returns>A Task object.</returns>
```

```

public static async Task Main(string[] args)
{
    // Set up dependency injection for Amazon EC2 and Amazon Simple Systems
    // Management (Amazon SSM) Service.
    using var host =
        Microsoft.Extensions.Hosting.Host.CreateDefaultBuilder(args)
            .ConfigureServices((_, services) =>
                services.AddAWSService<IAmazonEC2>()
                    .AddAWSService<IAmazonSimpleSystemsManagement>()
                    .AddTransient<EC2Wrapper>()
                    .AddTransient<SsmWrapper>()
            )
            .Build();

    SetUpServices(host);

    var uniqueName = Guid.NewGuid().ToString();
    keyPairName = "mvp-example-key-pair" + uniqueName;
    groupName = "ec2-scenario-group" + uniqueName;
    var groupDescription = "A security group created for the EC2 Basics
scenario.";

    try
    {
        // Start the scenario.
        _uiMethods.DisplayOverview();
        _uiMethods.PressEnter(isInteractive);

        // Create the key pair.
        _uiMethods.DisplayTitle("Create RSA key pair");
        Console.Write("Let's create an RSA key pair that you can be use to ");
        Console.WriteLine("securely connect to your EC2 instance.");
        var keyPair = await _ec2Wrapper.CreateKeyPair(keyPairName);

        // Save key pair information to a temporary file.
        tempFileName = _ec2Wrapper.SaveKeyPair(keyPair);

        Console.WriteLine(
            $"Created the key pair: {keyPair.KeyName} and saved it to:
{tempFileName}");
        string? answer = "";
        if (isInteractive)
        {
            do

```

```

        {
            Console.Write("Would you like to list your existing key pairs?
");
            answer = Console.ReadLine();
        } while (answer!.ToLower() != "y" && answer.ToLower() != "n");
    }

    if (!isInteractive || answer == "y")
    {
        // List existing key pairs.
        _uiMethods.DisplayTitle("Existing key pairs");

        // Passing an empty string to the DescribeKeyPairs method will
return
        // a list of all existing key pairs.
        var keyPairs = await _ec2Wrapper.DescribeKeyPairs("");
        keyPairs.ForEach(kp =>
        {
            Console.WriteLine(
                $"{kp.KeyName} created at: {kp.CreateTime} Fingerprint:
{kp.KeyFingerprint}");
        });
    }

    _uiMethods.PressEnter(isInteractive);

    // Create the security group.
    Console.WriteLine(
        "Let's create a security group to manage access to your instance.");
    secGroupId = await _ec2Wrapper.CreateSecurityGroup(groupName,
groupDescription);
    Console.WriteLine(
        "Let's add rules to allow all HTTP and HTTPS inbound traffic and to
allow SSH only from your current IP address.");

    _uiMethods.DisplayTitle("Security group information");
    var secGroups = await _ec2Wrapper.DescribeSecurityGroups(secGroupId);

    Console.WriteLine($"Created security group {groupName} in your default
VPC.");
    secGroups.ForEach(group =>
    {
        _ec2Wrapper.DisplaySecurityGroupInfoAsync(group);
    });

```

```
_uiMethods.PressEnter(isInteractive);

Console.WriteLine(
    "Now we'll authorize the security group we just created so that it  
can");

Console.WriteLine("access the EC2 instances you create.");
await _ec2Wrapper.AuthorizeSecurityGroupIngress(groupName);

secGroups = await _ec2Wrapper.DescribeSecurityGroups(secGroupId);
Console.WriteLine($"Now let's look at the permissions again.");
secGroups.ForEach(group =>
{
    _ec2Wrapper.DisplaySecurityGroupInfoAsync(group);
});
_uiMethods.PressEnter(isInteractive);

// Get list of available Amazon Linux 2 Amazon Machine Images (AMIs).
var parameters =
    await _ssmWrapper.GetParametersByPath(
        "/aws/service/ami-amazon-linux-latest");

List<string> imageIds = parameters.Select(param =>
param.Value).ToList();

var images = await _ec2Wrapper.DescribeImages(imageIds);

var i = 1;
images.ForEach(image =>
{
    Console.WriteLine($"{i++}\t\t{image.Description}");
});

int choice = 1;
bool validNumber = false;
if (isInteractive)
{
    do
    {
        Console.Write("Please select an image: ");
        var selImage = Console.ReadLine();
        validNumber = int.TryParse(selImage, out choice);
    } while (!validNumber);
}
```

```
var selectedImage = images[choice - 1];

// Display available instance types.
_uiMethods.DisplayTitle("Instance Types");
var instanceTypes =
    await _ec2Wrapper.DescribeInstanceTypes(selectedImage.Architecture);

i = 1;
instanceTypes.ForEach(instanceType =>
{
    Console.WriteLine($"{i++}\t{instanceType.InstanceType}");
});
if (isInteractive)
{
    do
    {
        Console.Write("Please select an instance type: ");
        var selImage = Console.ReadLine();
        validNumber = int.TryParse(selImage, out choice);
    } while (!validNumber);
}

var selectedInstanceType = instanceTypes[choice - 1].InstanceType;

// Create an EC2 instance.
_uiMethods.DisplayTitle("Creating an EC2 Instance");
instanceId = await _ec2Wrapper.RunInstances(selectedImage.ImageId,
    selectedInstanceType, keyPairName, secGroupId);

_uiMethods.PressEnter(isInteractive);

var instance = await _ec2Wrapper.DescribeInstance(instanceId);
_uiMethods.DisplayTitle("New Instance Information");
_ec2Wrapper.DisplayInstanceInformation(instance);

Console.WriteLine(
    "\nYou can use SSH to connect to your instance. For example:");
Console.WriteLine(
    $"{i}\tssh -i {tempFileName} ec2-user@{instance.PublicIpAddress}");

_uiMethods.PressEnter(isInteractive);

Console.WriteLine(
```

```
changed.");

await _ec2Wrapper.StopInstances(instanceId);

Console.WriteLine("Now let's start it up again.");
await _ec2Wrapper.StartInstances(instanceId);

Console.WriteLine("\nLet's see what changed.");

instance = await _ec2Wrapper.DescribeInstance(instanceId);
_uiMethods.DisplayTitle("New Instance Information");
_ec2Wrapper.DisplayInstanceInformation(instance);

Console.WriteLine("\nNotice the change in the SSH information:");
Console.WriteLine(
    $"\\tssh -i {tempFileName} ec2-user@{instance.PublicIpAddress}");

_uiMethods.PressEnter(isInteractive);

Console.WriteLine(
    "Now we will stop the instance again. Then we will create and
associate an");
Console.WriteLine("Elastic IP address to use with our instance.");

await _ec2Wrapper.StopInstances(instanceId);
_uiMethods.PressEnter(isInteractive);

_uiMethods.DisplayTitle("Allocate Elastic IP address");
Console.WriteLine(
    "You can allocate an Elastic IP address and associate it with your
instance\\nto keep a consistent IP address even when your instance restarts.");
var allocationResponse = await _ec2Wrapper.AllocateAddress();
allocationId = allocationResponse.AllocationId;
Console.WriteLine(
    "Now we will associate the Elastic IP address with our instance.");
associationId = await _ec2Wrapper.AssociateAddress(allocationId,
instanceId);

// Start the instance again.
Console.WriteLine("Now let's start the instance again.");
await _ec2Wrapper.StartInstances(instanceId);

Console.WriteLine("\nLet's see what changed.");
```

```

        instance = await _ec2Wrapper.DescribeInstance(instanceId);
        _uiMethods.DisplayTitle("Instance information");
        _ec2Wrapper.DisplayInstanceInformation(instance);

        Console.WriteLine("\nHere is the SSH information:");
        Console.WriteLine(
            $"\"tssh -i {tempFileName} ec2-user@{instance.PublicIpAddress}\"");

        Console.WriteLine("Let's stop and start the instance again.");
        _uiMethods.PressEnter(isInteractive);

        await _ec2Wrapper.StopInstances(instanceId);

        Console.WriteLine("\nThe instance has stopped.");

        Console.WriteLine("Now let's start it up again.");
        await _ec2Wrapper.StartInstances(instanceId);

        instance = await _ec2Wrapper.DescribeInstance(instanceId);
        _uiMethods.DisplayTitle("New Instance Information");
        _ec2Wrapper.DisplayInstanceInformation(instance);
        Console.WriteLine("Note that the IP address did not change this time.");
        _uiMethods.PressEnter(isInteractive);

        await Cleanup();
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(ex, "There was a problem with the scenario, starting cleanup.");
        await Cleanup();
    }

    _uiMethods.DisplayTitle("EC2 Basics Scenario completed.");
    _uiMethods.PressEnter(isInteractive);
}

/// <summary>
/// Set up the services and logging.
/// </summary>
/// <param name="host"></param>
public static void SetUpServices(IHost host)
{

```

```

        var loggerFactory = LoggerFactory.Create(builder =>
        {
            builder.AddConsole();
        });
        _logger = new Logger<EC2Basics>(loggerFactory);

        // Now the client is available for injection.
        _ec2Wrapper = host.Services.GetRequiredService<EC2Wrapper>();
        _ssmWrapper = host.Services.GetRequiredService<SsmWrapper>();
        _uiMethods = new UiMethods();
    }

    /// <summary>
    /// Clean up any resources from the scenario.
    /// </summary>
    /// <returns></returns>
    public static async Task Cleanup()
    {
        _uiMethods.DisplayTitle("Clean up resources");
        Console.WriteLine("Now let's clean up the resources we created.");

        Console.WriteLine("Disassociate the Elastic IP address and release it.");
        // Disassociate the Elastic IP address.
        await _ec2Wrapper.DisassociateIp(associationId);

        // Delete the Elastic IP address.
        await _ec2Wrapper.ReleaseAddress(allocationId);

        // Terminate the instance.
        Console.WriteLine("Terminating the instance we created.");
        await _ec2Wrapper.TerminateInstances(instanceId);

        // Delete the security group.
        Console.WriteLine($"Deleting the Security Group: {groupName}.");
        await _ec2Wrapper.DeleteSecurityGroup(secGroupId);

        // Delete the RSA key pair.
        Console.WriteLine($"Deleting the key pair: {keyPairName}");
        await _ec2Wrapper.DeleteKeyPair(keyPairName);
        Console.WriteLine("Deleting the temporary file with the key information.");
        _ec2Wrapper.DeleteTempFile(tempFileName);
        _uiMethods.PressEnter(isInteractive);
    }
}

```


EC2 アクションをラップするクラスを定義します。

```
/// <summary>
/// Methods of this class perform Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2).
/// </summary>
public class EC2Wrapper
{
    private readonly IAmazonEC2 _amazonEC2;
    private readonly ILogger<EC2Wrapper> _logger;

    /// <summary>
    /// Constructor for the EC2Wrapper class.
    /// </summary>
    /// <param name="amazonScheduler">The injected EC2 client.</param>
    /// <param name="logger">The injected logger.</param>
    public EC2Wrapper(IAmazonEC2 amazonService, ILogger<EC2Wrapper> logger)
    {
        _amazonEC2 = amazonService;
        _logger = logger;
    }

    /// <summary>
    /// Allocates an Elastic IP address that can be associated with an Amazon EC2
    /// instance. By using an Elastic IP address, you can keep the public IP address
    /// constant even when you restart the associated instance.
    /// </summary>
    /// <returns>The response object for the allocated address.</returns>
    public async Task<AllocateAddressResponse> AllocateAddress()
    {
        var request = new AllocateAddressRequest();

        try
        {
            var response = await _amazonEC2.AllocateAddressAsync(request);
            Console.WriteLine($"Allocated IP: {response.PublicIp} with allocation ID {response.AllocationId}.");
            return response;
        }
        catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
        {
            if (ec2Exception.ErrorCode == "AddressLimitExceeded")
```

```

        {
            // For more information on Elastic IP address quotas, see:
            // https://docs.aws.amazon.com/AWSEC2/latest/UserGuide/elastic-ip-
addresses-eip.html#using-instance-addressing-limit
            _logger.LogError($"Unable to allocate Elastic IP, address limit
exceeded. {ec2Exception.Message}");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError($"An error occurred while allocating Elastic IP.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Associates an Elastic IP address with an instance. When this association is
/// created, the Elastic IP's public IP address is immediately used as the
public
/// IP address of the associated instance.
/// </summary>
/// <param name="allocationId">The allocation Id of an Elastic IP address.</
param>
/// <param name="instanceId">The instance Id of the EC2 instance to
/// associate the address with.</param>
/// <returns>The association Id that represents
/// the association of the Elastic IP address with an instance.</returns>
public async Task<string> AssociateAddress(string allocationId, string
instanceId)
{
    try
    {
        var request = new AssociateAddressRequest
        {
            AllocationId = allocationId,
            InstanceId = instanceId
        };

        var response = await _amazonEC2.AssociateAddressAsync(request);
        return response.AssociationId;
    }
}

```

```

        catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
        {
            if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceId")
            {
                _logger.LogError(
                    $"InstanceId is invalid, unable to associate address.
{ec2Exception.Message}");
            }

            throw;
        }
        catch (Exception ex)
        {
            _logger.LogError(
                $"An error occurred while associating the Elastic IP.:
{ex.Message}");
            throw;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Authorize the local computer ingress to EC2 instances associated
    /// with the virtual private cloud (VPC) security group.
    /// </summary>
    /// <param name="groupName">The name of the security group.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> AuthorizeSecurityGroupIngress(string groupName)
    {
        try
        {
            // Get the IP address for the local computer.
            var ipAddress = await GetIpAddress();
            Console.WriteLine($"Your IP address is: {ipAddress}");
            var ipRanges =
                new List<IpRange> { new IpRange { CidrIp = $"{ipAddress}/32" } };
            var permission = new IpPermission
            {
                Ipv4Ranges = ipRanges,
                IpProtocol = "tcp",
                FromPort = 22,
                ToPort = 22
            };
            var permissions = new List<IpPermission> { permission };
            var response = await _amazonEC2.AuthorizeSecurityGroupIngressAsync(

```

```

        new AuthorizeSecurityGroupIngressRequest(groupName, permissions));
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidPermission.Duplicate")
        {
            _logger.LogError(
                $"The ingress rule already exists. {ec2Exception.Message}");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(
            $"An error occurred while authorizing ingress.: {ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Authorize the local computer for ingress to
/// the Amazon EC2 SecurityGroup.
/// </summary>
/// <returns>The IPv4 address of the computer running the scenario.</returns>
private static async Task<string> GetIpAddress()
{
    var httpClient = new HttpClient();
    var ipString = await httpClient.GetStringAsync("https://
checkip.amazonaws.com");

    // The IP address is returned with a new line
    // character on the end. Trim off the whitespace and
    // return the value to the caller.
    return ipString.Trim();
}

/// <summary>
/// Create an Amazon EC2 key pair with a specified name.
/// </summary>
/// <param name="keyPairName">The name for the new key pair.</param>
/// <returns>The Amazon EC2 key pair created.</returns>
public async Task<KeyPair?> CreateKeyPair(string keyPairName)

```

```
{
    try
    {
        var request = new CreateKeyPairRequest { KeyName = keyPairName, };

        var response = await _amazonEC2.CreateKeyPairAsync(request);

        var kp = response.KeyPair;
        // Return the key pair so it can be saved if needed.

        // Wait until the key pair exists.
        int retries = 5;
        while (retries-- > 0)
        {
            Console.WriteLine($"Checking for new KeyPair {keyPairName}...");
            var keyPairs = await DescribeKeyPairs(keyPairName);
            if (keyPairs.Any())
            {
                return kp;
            }

            Thread.Sleep(5000);
            retries--;
        }
        _logger.LogError($"Unable to find newly created KeyPair {keyPairName}.");
        throw new DoesNotExistException("KeyPair not found");
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidKeyPair.Duplicate")
        {
            _logger.LogError(
                $"A key pair called {keyPairName} already exists.");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(
            $"An error occurred while creating the key pair.: {ex.Message}");
        throw;
    }
}
```

```

    }

    /// <summary>
    /// Save KeyPair information to a temporary file.
    /// </summary>
    /// <param name="keyPair">The name of the key pair.</param>
    /// <returns>The full path to the temporary file.</returns>
    public string SaveKeyPair(KeyPair keyPair)
    {
        var tempPath = Path.GetTempPath();
        var tempFileName = $"{tempPath}\\{Path.GetRandomFileName()}";
        var pemFileName = Path.ChangeExtension(tempFileName, "pem");

        // Save the key pair to a file in a temporary folder.
        using var stream = new FileStream(pemFileName, FileMode.Create);
        using var writer = new StreamWriter(stream);
        writer.WriteLine(keyPair.KeyMaterial);

        return pemFileName;
    }

    /// <summary>
    /// Create an Amazon EC2 security group with a specified name and description.
    /// </summary>
    /// <param name="groupName">The name for the new security group.</param>
    /// <param name="groupDescription">A description of the new security group.</
param>
    /// <returns>The group Id of the new security group.</returns>
    public async Task<string> CreateSecurityGroup(string groupName, string
groupDescription)
    {
        try
        {
            var response = await _amazonEC2.CreateSecurityGroupAsync(
                new CreateSecurityGroupRequest(groupName, groupDescription));

            // Wait until the security group exists.
            int retries = 5;
            while (retries-- > 0)
            {
                var groups = await DescribeSecurityGroups(response.GroupId);
                if (groups.Any())
                {
                    return response.GroupId;
                }
            }
        }
    }

```

```

        }

        Thread.Sleep(5000);
        retries--;
    }
    _logger.LogError($"Unable to find newly created group {groupName}.");
    throw new DoesNotExistException("security group not found");
}
catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
{
    if (ec2Exception.ErrorCode == "ResourceAlreadyExists")
    {
        _logger.LogError(
            $"A security group with the name {groupName} already exists.
{ec2Exception.Message}");
    }
    throw;
}
catch (Exception ex)
{
    _logger.LogError(
        $"An error occurred while creating the security group.:
{ex.Message}");
    throw;
}
}

}

/// <summary>
/// Create a new Amazon EC2 VPC.
/// </summary>
/// <param name="cidrBlock">The CIDR block for the new security group.</param>
/// <returns>The VPC Id of the new VPC.</returns>
public async Task<string?> CreateVPC(string cidrBlock)
{
    try
    {
        var response = await _amazonEC2.CreateVpcAsync(new CreateVpcRequest
        {
            CidrBlock = cidrBlock,
        });

        Vpc vpc = response.Vpc;
    }
}

```

```

        Console.WriteLine($"Created VPC with ID: {vpc.VpcId}.");
        return vpc.VpcId;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"Couldn't create VPC because: {ex.Message}");
        return null;
    }
}

/// <summary>
/// Delete an Amazon EC2 key pair.
/// </summary>
/// <param name="keyPairName">The name of the key pair to delete.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteKeyPair(string keyPairName)
{
    try
    {
        await _amazonEC2.DeleteKeyPairAsync(new
DeleteKeyPairRequest(keyPairName)).ConfigureAwait(false);
        return true;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidKeyPair.NotFound")
        {
            _logger.LogError($"KeyPair {keyPairName} does not exist and cannot
be deleted. Please verify the key pair name and try again.");
        }

        return false;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"Couldn't delete the key pair because:
{ex.Message}");
        return false;
    }
}

/// <summary>
/// Delete the temporary file where the key pair information was saved.
/// </summary>

```



```
/// <param name="tempFileName">The path to the temporary file.</param>
public void DeleteTempFile(string tempFileName)
{
    if (File.Exists(tempFileName))
    {
        File.Delete(tempFileName);
    }
}

/// <summary>
/// Delete an Amazon EC2 security group.
/// </summary>
/// <param name="groupName">The name of the group to delete.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteSecurityGroup(string groupId)
{
    try
    {
        var response =
            await _amazonEC2.DeleteSecurityGroupAsync(
                new DeleteSecurityGroupRequest { GroupId = groupId });
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidGroup.NotFound")
        {
            _logger.LogError(
                $"Security Group {groupId} does not exist and cannot be deleted.
Please verify the ID and try again.");
        }

        return false;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"Couldn't delete the security group because:
{ex.Message}");
        return false;
    }
}

/// <summary>
/// Delete an Amazon EC2 VPC.
```

```
/// </summary>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteVpc(string vpcId)
{
    var request = new DeleteVpcRequest
    {
        VpcId = vpcId,
    };

    var response = await _amazonEC2.DeleteVpcAsync(request);

    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}

/// <summary>
/// Get information about existing Amazon EC2 images.
/// </summary>
/// <returns>A list of image information.</returns>
public async Task<List<Image>> DescribeImages(List<string>? imageIds)
{
    var request = new DescribeImagesRequest();
    if (imageIds is not null)
    {
        // If the imageIds list is not null, add the list
        // to the request object.
        request.ImageIds = imageIds;
    }

    var response = await _amazonEC2.DescribeImagesAsync(request);
    return response.Images;
}

/// <summary>
/// Display the information returned by DescribeImages.
/// </summary>
/// <param name="images">The list of image information to display.</param>
public void DisplayImageInfo(List<Image> images)
{
    images.ForEach(image =>
    {
        Console.WriteLine($"{image.Name} Created on: {image.CreationDate}");
    });
}
```

```
/// <summary>
/// Get information about an Amazon EC2 instance.
/// </summary>
/// <param name="instanceId">The instance Id of the EC2 instance.</param>
/// <returns>An EC2 instance.</returns>
public async Task<Instance> DescribeInstance(string instanceId)
{
    var response = await _amazonEC2.DescribeInstancesAsync(
        new DescribeInstancesRequest { InstanceIds = new List<string>
{ instanceId } });
    return response.Reservations[0].Instances[0];
}

/// <summary>
/// Display EC2 instance information.
/// </summary>
/// <param name="instance">The instance Id of the EC2 instance.</param>
public void DisplayInstanceInformation(Instance instance)
{
    Console.WriteLine($"ID: {instance.InstanceId}");
    Console.WriteLine($"Image ID: {instance.ImageId}");
    Console.WriteLine($"InstanceType: {instance.InstanceType}");
    Console.WriteLine($"Key Name: {instance.KeyName}");
    Console.WriteLine($"VPC ID: {instance.VpcId}");
    Console.WriteLine($"Public IP: {instance.PublicIpAddress}");
    Console.WriteLine($"State: {instance.State.Name}");
}

/// <summary>
/// Get information about EC2 instances with a particular state.
/// </summary>
/// <param name="tagName">The name of the tag to filter on.</param>
/// <param name="tagValue">The value of the tag to look for.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> GetInstancesWithState(string state)
{
    try
    {
        // Filters the results of the instance list.
        var filters = new List<Filter>
        {
            new Filter
            {

```

```

        Name = $"instance-state-name",
        Values = new List<string> { state, },
    },
};
var request = new DescribeInstancesRequest { Filters = filters, };

Console.WriteLine($"\\nShowing instances with state {state}");
var paginator = _amazonEC2.Paginators.DescribeInstances(request);

await foreach (var response in paginator.Responses)
{
    foreach (var reservation in response.Reservations)
    {
        foreach (var instance in reservation.Instances)
        {
            Console.Write($"Instance ID: {instance.InstanceId} ");
            Console.WriteLine($"\\tCurrent State:
{instance.State.Name}");
        }
    }
}

return true;
}
catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
{
    if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidParameterValue")
    {
        _logger.LogError(
            $"Invalid parameter value for filtering instances.");
    }

    return false;
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine($"Couldn't list instances because: {ex.Message}");
    return false;
}
}

/// <summary>
/// Describe the instance types available.
/// </summary>

```

```

    /// <returns>A list of instance type information.</returns>
    public async Task<List<InstanceTypeInfo>>
DescribeInstanceTypes(ArchitectureValues architecture)
    {
        try
        {
            var request = new DescribeInstanceTypesRequest();

            var filters = new List<Filter>
            {
                new Filter("processor-info.supported-architecture",
                    new List<string> { architecture.ToString() })
            };
            filters.Add(new Filter("instance-type", new() { "*.micro",
                "*.small" }));

            request.Filters = filters;
            var instanceTypes = new List<InstanceTypeInfo>();

            var paginator = _amazonEC2.Paginators.DescribeInstanceTypes(request);
            await foreach (var instanceType in paginator.InstanceTypes)
            {
                instanceTypes.Add(instanceType);
            }

            return instanceTypes;
        }
        catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
        {
            if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidParameterValue")
            {
                _logger.LogError(
                    $"Parameters are invalid. Ensure architecture and size strings
conform to DescribeInstanceTypes API reference.");
            }

            throw;
        }
        catch (Exception ex)
        {
            Console.WriteLine($"Couldn't delete the security group because:
{ex.Message}");
            throw;
        }
    }

```

```

    }

    /// <summary>
    /// Get information about an Amazon EC2 key pair.
    /// </summary>
    /// <param name="keyPairName">The name of the key pair.</param>
    /// <returns>A list of key pair information.</returns>
    public async Task<List<KeyPairInfo>> DescribeKeyPairs(string keyPairName)
    {
        try
        {
            var request = new DescribeKeyPairsRequest();
            if (!string.IsNullOrEmpty(keyPairName))
            {
                request = new DescribeKeyPairsRequest
                {
                    KeyNames = new List<string> { keyPairName }
                };
            }

            var response = await _amazonEC2.DescribeKeyPairsAsync(request);
            return response.KeyPairs.ToList();
        }
        catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
        {
            if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidKeyPair.NotFound")
            {
                _logger.LogError(
                    $"A key pair called {keyPairName} does not exist.");
            }

            throw;
        }
        catch (Exception ex)
        {
            _logger.LogError(
                $"An error occurred while describing the key pair.: {ex.Message}");
            throw;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Retrieve information for one or all Amazon EC2 security group.

```

```
/// </summary>
/// <param name="groupId">The optional Id of a specific Amazon EC2 security
group.</param>
/// <returns>A list of security group information.</returns>
public async Task<List<SecurityGroup>> DescribeSecurityGroups(string groupId)
{
    try
    {
        var securityGroups = new List<SecurityGroup>();
        var request = new DescribeSecurityGroupsRequest();

        if (!string.IsNullOrEmpty(groupId))
        {
            var groupIds = new List<string> { groupId };
            request.GroupIds = groupIds;
        }

        var paginatorForSecurityGroups =
            _amazonEC2.Paginators.DescribeSecurityGroups(request);

        await foreach (var securityGroup in
paginatorForSecurityGroups.SecurityGroups)
        {
            securityGroups.Add(securityGroup);
        }

        return securityGroups;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidGroup.NotFound")
        {
            _logger.LogError(
                $"A security group {groupId} does not exist.");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(
            $"An error occurred while listing security groups. {ex.Message}");
        throw;
    }
}
```

```

    }
}

/// <summary>
/// Display the information returned by the call to
/// DescribeSecurityGroupsAsync.
/// </summary>
/// <param name="securityGroup">A list of security group information.</param>
public void DisplaySecurityGroupInfoAsync(SecurityGroup securityGroup)
{
    Console.WriteLine($"{securityGroup.GroupName}");
    Console.WriteLine("Ingress permissions:");
    securityGroup.IpPermissions.ForEach(permission =>
    {
        Console.WriteLine($"  \tFromPort: {permission.FromPort}");
        Console.WriteLine($"  \tIpProtocol: {permission.IpProtocol}");

        Console.WriteLine($"  \tIpv4Ranges: ");
        permission.Ipv4Ranges.ForEach(range => { Console.Write($"{range.CidrIp}

"); });

        Console.WriteLine($"  \n\tIpv6Ranges:");
        permission.Ipv6Ranges.ForEach(range =>
        { Console.Write($"{range.CidrIpv6} "); });

        Console.WriteLine($"  \n\tPrefixListIds: ");
        permission.PrefixListIds.ForEach(id => Console.Write($"{id.Id} "));

        Console.WriteLine($"  \n\tTo Port: {permission.ToPort}");
    });
    Console.WriteLine("Egress permissions:");
    securityGroup.IpPermissionsEgress.ForEach(permission =>
    {
        Console.WriteLine($"  \tFromPort: {permission.FromPort}");
        Console.WriteLine($"  \tIpProtocol: {permission.IpProtocol}");

        Console.WriteLine($"  \tIpv4Ranges: ");
        permission.Ipv4Ranges.ForEach(range => { Console.Write($"{range.CidrIp}

"); });

        Console.WriteLine($"  \n\tIpv6Ranges:");
        permission.Ipv6Ranges.ForEach(range =>
        { Console.Write($"{range.CidrIpv6} "); });
    });
}

```



```

        Console.WriteLine($"{Environment.NewLine}PrefixListIds: ");
        permission.PrefixListIds.ForEach(id => Console.WriteLine($"{id.Id} "));

        Console.WriteLine($"{Environment.NewLine}To Port: {permission.ToPort}");
    });
}

/// <summary>
/// Disassociate an Elastic IP address from an EC2 instance.
/// </summary>
/// <param name="associationId">The association Id.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DisassociateIp(string associationId)
{
    try
    {
        var response = await _amazonEC2.DisassociateAddressAsync(
            new DisassociateAddressRequest { AssociationId = associationId });
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidAssociationID.NotFound")
        {
            _logger.LogError(
                $"{ec2Exception.Message}AssociationId is invalid, unable to disassociate address. {ec2Exception.Message}");
        }

        return false;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(
            $"{ex.Message}An error occurred while disassociating the Elastic IP.: {ex.Message}");
        return false;
    }
}

/// <summary>
/// Reboot a specific EC2 instance.
/// </summary>

```

```
/// <param name="ec2InstanceId">The instance Id of the instance that will be
rebooted.</param>
/// <returns>Async Task.</returns>
public async Task<bool> RebootInstances(string ec2InstanceId)
{
    try
    {
        var request = new RebootInstancesRequest
        {
            InstanceIds = new List<string> { ec2InstanceId },
        };

        await _amazonEC2.RebootInstancesAsync(request);

        // Wait for the instance to be running.
        Console.WriteLine("Waiting for the instance to start.");
        await WaitForInstanceState(ec2InstanceId, InstanceStateName.Running);

        return true;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceId")
        {
            _logger.LogError(
                $"InstanceId {ec2InstanceId} is invalid, unable to reboot.
{ec2Exception.Message}");
        }
        return false;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(
            $"An error occurred while rebooting the instance {ec2InstanceId}.:
{ex.Message}");
        return false;
    }
}

/// <summary>
/// Release an Elastic IP address. After the Elastic IP address is released,
/// it can no longer be used.
/// </summary>
```

```

    /// <param name="allocationId">The allocation Id of the Elastic IP address.</
param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public async Task<bool> ReleaseAddress(string allocationId)
    {
        try
        {
            var request = new ReleaseAddressRequest { AllocationId = allocationId };

            var response = await _amazonEC2.ReleaseAddressAsync(request);
            return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
        }
        catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
        {
            if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidAllocationID.NotFound")
            {
                _logger.LogError(
                    $"AllocationId {allocationId} was not found.
{ec2Exception.Message}");
            }

            return false;
        }
        catch (Exception ex)
        {
            _logger.LogError(
                $"An error occurred while releasing the AllocationId
{allocationId}.: {ex.Message}");
            return false;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Create and run an EC2 instance.
    /// </summary>
    /// <param name="ImageId">The image Id of the image used as a basis for the
    /// EC2 instance.</param>
    /// <param name="instanceType">The instance type of the EC2 instance to
    create.</param>
    /// <param name="keyName">The name of the key pair to associate with the
    /// instance.</param>
    /// <param name="groupId">The Id of the Amazon EC2 security group that will be
    /// allowed to interact with the new EC2 instance.</param>
    /// <returns>The instance Id of the new EC2 instance.</returns>

```

```
public async Task<string> RunInstances(string imageId, string instanceType,
string keyName, string groupId)
{
    try
    {
        var request = new RunInstancesRequest
        {
            ImageId = imageId,
            InstanceType = instanceType,
            KeyName = keyName,
            MinCount = 1,
            MaxCount = 1,
            SecurityGroupIds = new List<string> { groupId }
        };
        var response = await _amazonEC2.RunInstancesAsync(request);
        var instanceId = response.Reservation.Instances[0].InstanceId;

        Console.WriteLine("Waiting for the instance to start.");
        await WaitForInstanceState(instanceId, InstanceStateName.Running);

        return instanceId;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidGroupId.NotFound")
        {
            _logger.LogError(
                $"GroupId {groupId} was not found. {ec2Exception.Message}");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(
            $"An error occurred while running the instance.: {ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Start an EC2 instance.
/// </summary>
```

```

    /// <param name="ec2InstanceId">The instance Id of the Amazon EC2 instance
    /// to start.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task StartInstances(string ec2InstanceId)
    {
        try
        {
            var request = new StartInstancesRequest
            {
                InstanceIds = new List<string> { ec2InstanceId },
            };

            await _amazonEC2.StartInstancesAsync(request);

            Console.WriteLine("Waiting for instance to start. ");
            await WaitForInstanceState(ec2InstanceId, InstanceStateName.Running);
        }
        catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
        {
            if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceId")
            {
                _logger.LogError(
                    $"InstanceId is invalid, unable to start.
{ec2Exception.Message}");
            }

            throw;
        }
        catch (Exception ex)
        {
            _logger.LogError(
                $"An error occurred while starting the instance.: {ex.Message}");
            throw;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Stop an EC2 instance.
    /// </summary>
    /// <param name="ec2InstanceId">The instance Id of the EC2 instance to
    /// stop.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task StopInstances(string ec2InstanceId)
    {

```

```

        try
        {
            var request = new StopInstancesRequest
            {
                InstanceIds = new List<string> { ec2InstanceId },
            };

            await _amazonEC2.StopInstancesAsync(request);
            Console.WriteLine("Waiting for the instance to stop.");
            await WaitForInstanceState(ec2InstanceId, InstanceStateName.Stopped);

            Console.WriteLine("\nThe instance has stopped.");
        }
        catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
        {
            if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceId")
            {
                _logger.LogError(
                    $"InstanceId is invalid, unable to stop. {ec2Exception.Message}");
            }

            throw;
        }
        catch (Exception ex)
        {
            _logger.LogError(
                $"An error occurred while stopping the instance.: {ex.Message}");
            throw;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Terminate an EC2 instance.
    /// </summary>
    /// <param name="ec2InstanceId">The instance Id of the EC2 instance
    /// to terminate.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task<List<InstanceStateChange>> TerminateInstances(string
ec2InstanceId)
    {
        try
        {
            var request = new TerminateInstancesRequest

```

```

        {
            InstanceIds = new List<string> { ec2InstanceId }
        };

        var response = await _amazonEC2.TerminateInstancesAsync(request);
        Console.WriteLine("Waiting for the instance to terminate.");
        await WaitForInstanceState(ec2InstanceId, InstanceStateName.Terminated);

        Console.WriteLine($"\\nThe instance {ec2InstanceId} has been
terminated.");
        return response.TerminatingInstances;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceId")
        {
            _logger.LogError(
                $"InstanceId is invalid, unable to terminate.
{ec2Exception.Message}");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(
            $"An error occurred while terminating the instance.: {ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Wait until an EC2 instance is in a specified state.
/// </summary>
/// <param name="instanceId">The instance Id.</param>
/// <param name="stateName">The state to wait for.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> WaitForInstanceState(string instanceId,
InstanceStateName stateName)
{
    var request = new DescribeInstancesRequest
    {
        InstanceIds = new List<string> { instanceId }
    };
};

```

```
// Wait until the instance is in the specified state.
var hasState = false;
do
{
    // Wait 5 seconds.
    Thread.Sleep(5000);

    // Check for the desired state.
    var response = await _amazonEC2.DescribeInstancesAsync(request);
    var instance = response.Reservations[0].Instances[0];
    hasState = instance.State.Name == stateName;
    Console.WriteLine(". ");
} while (!hasState);

return hasState;
}
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。

- [AllocateAddress](#)
- [AssociateAddress](#)
- [AuthorizeSecurityGroupIngress](#)
- [CreateKeyPair](#)
- [CreateSecurityGroup](#)
- [DeleteKeyPair](#)
- [DeleteSecurityGroup](#)
- [DescribeImages](#)
- [DescribeInstanceTypes](#)
- [DescribeInstances](#)
- [DescribeKeyPairs](#)
- [DescribeSecurityGroups](#)
- [DisassociateAddress](#)
- [ReleaseAddress](#)

- [RunInstances](#)
- [StartInstances](#)
- [StopInstances](#)
- [TerminateInstances](#)
- [UnmonitorInstances](#)

アクション

AllocateAddress

次のコード例は、AllocateAddress を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Allocates an Elastic IP address that can be associated with an Amazon EC2
/// instance. By using an Elastic IP address, you can keep the public IP address
/// constant even when you restart the associated instance.
/// </summary>
/// <returns>The response object for the allocated address.</returns>
public async Task<AllocateAddressResponse> AllocateAddress()
{
    var request = new AllocateAddressRequest();

    try
    {
        var response = await _amazonEC2.AllocateAddressAsync(request);
        Console.WriteLine($"Allocated IP: {response.PublicIp} with allocation ID
{response.AllocationId}.");
        return response;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {

```

```

        if (ec2Exception.ErrorCode == "AddressLimitExceeded")
        {
            // For more information on Elastic IP address quotas, see:
            // https://docs.aws.amazon.com/AWSEC2/latest/UserGuide/elastic-ip-addresses-eip.html#using-instance-addressing-limit
            _logger.LogError($"Unable to allocate Elastic IP, address limit exceeded. {ec2Exception.Message}");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError($"An error occurred while allocating Elastic IP.: {ex.Message}");
        throw;
    }
}

```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[AllocateAddress](#)」を参照してください。

AssociateAddress

次のコード例は、AssociateAddress を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

/// <summary>
/// Associates an Elastic IP address with an instance. When this association is
/// created, the Elastic IP's public IP address is immediately used as the
public
/// IP address of the associated instance.
/// </summary>

```

```
    /// <param name="allocationId">The allocation Id of an Elastic IP address.</param>
    /// <param name="instanceId">The instance Id of the EC2 instance to
    /// associate the address with.</param>
    /// <returns>The association Id that represents
    /// the association of the Elastic IP address with an instance.</returns>
    public async Task<string> AssociateAddress(string allocationId, string
instanceId)
    {
        try
        {
            var request = new AssociateAddressRequest
            {
                AllocationId = allocationId,
                InstanceId = instanceId
            };

            var response = await _amazonEC2.AssociateAddressAsync(request);
            return response.AssociationId;
        }
        catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
        {
            if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceId")
            {
                _logger.LogError(
                    $"InstanceId is invalid, unable to associate address.
{ec2Exception.Message}");
            }

            throw;
        }
        catch (Exception ex)
        {
            _logger.LogError(
                $"An error occurred while associating the Elastic IP.:
{ex.Message}");
            throw;
        }
    }
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[AssociateAddress](#)」を参照してください。

AuthorizeSecurityGroupIngress

次のコード例は、AuthorizeSecurityGroupIngress を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Authorize the local computer ingress to EC2 instances associated
/// with the virtual private cloud (VPC) security group.
/// </summary>
/// <param name="groupName">The name of the security group.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> AuthorizeSecurityGroupIngress(string groupName)
{
    try
    {
        // Get the IP address for the local computer.
        var ipAddress = await GetIpAddress();
        Console.WriteLine($"Your IP address is: {ipAddress}");
        var ipRanges =
            new List<IpRange> { new IpRange { CidrIp = $"{ipAddress}/32" } };
        var permission = new IpPermission
        {
            Ipv4Ranges = ipRanges,
            IpProtocol = "tcp",
            FromPort = 22,
            ToPort = 22
        };
        var permissions = new List<IpPermission> { permission };
        var response = await _amazonEC2.AuthorizeSecurityGroupIngressAsync(
            new AuthorizeSecurityGroupIngressRequest(groupName, permissions));
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidPermission.Duplicate")
        {

```

```

        _logger.LogError(
            $"The ingress rule already exists. {ec2Exception.Message}");
    }

    throw;
}
catch (Exception ex)
{
    _logger.LogError(
        $"An error occurred while authorizing ingress.: {ex.Message}");
    throw;
}
}

/// <summary>
/// Authorize the local computer for ingress to
/// the Amazon EC2 SecurityGroup.
/// </summary>
/// <returns>The IPv4 address of the computer running the scenario.</returns>
private static async Task<string> GetIpAddress()
{
    var httpClient = new HttpClient();
    var ipString = await httpClient.GetStringAsync("https://
checkip.amazonaws.com");

    // The IP address is returned with a new line
    // character on the end. Trim off the whitespace and
    // return the value to the caller.
    return ipString.Trim();
}

```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[AuthorizeSecurityGroupIngress](#)」を参照してください。

CreateKeyPair

次のコード例は、CreateKeyPair を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Create an Amazon EC2 key pair with a specified name.
/// </summary>
/// <param name="keyPairName">The name for the new key pair.</param>
/// <returns>The Amazon EC2 key pair created.</returns>
public async Task<KeyPair?> CreateKeyPair(string keyPairName)
{
    try
    {
        var request = new CreateKeyPairRequest { KeyName = keyPairName, };

        var response = await _amazonEC2.CreateKeyPairAsync(request);

        var kp = response.KeyPair;
        // Return the key pair so it can be saved if needed.

        // Wait until the key pair exists.
        int retries = 5;
        while (retries-- > 0)
        {
            Console.WriteLine($"Checking for new KeyPair {keyPairName}...");
            var keyPairs = await DescribeKeyPairs(keyPairName);
            if (keyPairs.Any())
            {
                return kp;
            }

            Thread.Sleep(5000);
            retries--;
        }
        _logger.LogError($"Unable to find newly created KeyPair {keyPairName}.");
        throw new DoesNotExistException("KeyPair not found");
    }
}
```

```

        catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
        {
            if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidKeyPair.Duplicate")
            {
                _logger.LogError(
                    $"A key pair called {keyPairName} already exists.");
            }

            throw;
        }
        catch (Exception ex)
        {
            _logger.LogError(
                $"An error occurred while creating the key pair.: {ex.Message}");
            throw;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Save KeyPair information to a temporary file.
    /// </summary>
    /// <param name="keyPair">The name of the key pair.</param>
    /// <returns>The full path to the temporary file.</returns>
    public string SaveKeyPair(KeyPair keyPair)
    {
        var tempPath = Path.GetTempPath();
        var tempFileName = $"{tempPath}\\{Path.GetRandomFileName()}";
        var pemFileName = Path.ChangeExtension(tempFileName, "pem");

        // Save the key pair to a file in a temporary folder.
        using var stream = new FileStream(pemFileName, FileMode.Create);
        using var writer = new StreamWriter(stream);
        writer.WriteLine(keyPair.KeyMaterial);

        return pemFileName;
    }

```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateKeyPair](#)」を参照してください。

CreateLaunchTemplate

次のコード例は、CreateLaunchTemplate を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Creates an Amazon EC2 launch template to use with Amazon EC2 Auto Scaling.
/// The launch template specifies a Bash script in its user data field that runs
after
/// the instance is started. This script installs the Python packages and starts
a Python
/// web server on the instance.
/// </summary>
/// <param name="startupScriptPath">The path to a Bash script file that is
run.</param>
/// <param name="instancePolicyPath">The path to a permissions policy to create
and attach to the profile.</param>
/// <returns>The template object.</returns>
public async Task<Amazon.EC2.Model.LaunchTemplate> CreateTemplate(string
startupScriptPath, string instancePolicyPath)
{
    try
    {
        await CreateKeyPair(_keyPairName);
        await CreateInstanceProfileWithName(_instancePolicyName,
_instanceRoleName,
_instanceProfileName, instancePolicyPath);

        var startServerText = await File.ReadAllTextAsync(startupScriptPath);
        var plainTextBytes =
System.Text.Encoding.UTF8.GetBytes(startServerText);

        var amiLatest = await _amazonSsm.GetParameterAsync(
            new GetParameterRequest() { Name = _amiParam });
        var amiId = amiLatest.Parameter.Value;
        var launchTemplateResponse = await _amazonEc2.CreateLaunchTemplateAsync(
```



```

        new CreateLaunchTemplateRequest()
        {
            LaunchTemplateName = _launchTemplateName,
            LaunchTemplateData = new RequestLaunchTemplateData()
            {
                InstanceType = _instanceType,
                ImageId = amiId,
                IamInstanceProfile =
                    new
LaunchTemplateIamInstanceProfileSpecificationRequest()
                    {
                        Name = _instanceProfileName
                    },
                KeyName = _keyPairName,
                UserData = System.Convert.ToBase64String(plainTextBytes)
            }
        });
        return launchTemplateResponse.LaunchTemplate;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode ==
            "InvalidLaunchTemplateName.AlreadyExistsException")
        {
            _logger.LogError($"Could not create the template, the name
{_launchTemplateName} already exists. " +
                $"Please try again with a unique name.");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError($"An error occurred while creating the template.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}

```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CreateLaunchTemplate](#)」を参照してください。

CreateSecurityGroup

次のコード例は、CreateSecurityGroup を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Create an Amazon EC2 security group with a specified name and description.
/// </summary>
/// <param name="groupName">The name for the new security group.</param>
/// <param name="groupDescription">A description of the new security group.</
param>
/// <returns>The group Id of the new security group.</returns>
public async Task<string> CreateSecurityGroup(string groupName, string
groupDescription)
{
    try
    {
        var response = await _amazonEC2.CreateSecurityGroupAsync(
            new CreateSecurityGroupRequest(groupName, groupDescription));

        // Wait until the security group exists.
        int retries = 5;
        while (retries-- > 0)
        {
            var groups = await DescribeSecurityGroups(response.GroupId);
            if (groups.Any())
            {
                return response.GroupId;
            }

            Thread.Sleep(5000);
            retries--;
        }
        _logger.LogError($"Unable to find newly created group {groupName}.");
        throw new DoesNotExistException("security group not found");
    }
}
```

```
        catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
        {
            if (ec2Exception.ErrorCode == "ResourceAlreadyExists")
            {
                _logger.LogError(
                    $"A security group with the name {groupName} already exists.
{ec2Exception.Message}");
            }
            throw;
        }
        catch (Exception ex)
        {
            _logger.LogError(
                $"An error occurred while creating the security group.:
{ex.Message}");
            throw;
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateSecurityGroup](#)」を参照してください。

DeleteKeyPair

次のコード例は、DeleteKeyPair を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete an Amazon EC2 key pair.
/// </summary>
/// <param name="keyPairName">The name of the key pair to delete.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
```

```
public async Task<bool> DeleteKeyPair(string keyPairName)
{
    try
    {
        await _amazonEC2.DeleteKeyPairAsync(new
DeleteKeyPairRequest(keyPairName)).ConfigureAwait(false);
        return true;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidKeyPair.NotFound")
        {
            _logger.LogError($"KeyPair {keyPairName} does not exist and cannot
be deleted. Please verify the key pair name and try again.");
        }

        return false;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"Couldn't delete the key pair because:
{ex.Message}");
        return false;
    }
}

/// <summary>
/// Delete the temporary file where the key pair information was saved.
/// </summary>
/// <param name="tempFileName">The path to the temporary file.</param>
public void DeleteTempFile(string tempFileName)
{
    if (File.Exists(tempFileName))
    {
        File.Delete(tempFileName);
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteKeyPair](#)」を参照してください。

DeleteLaunchTemplate

次のコード例は、DeleteLaunchTemplate を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete a launch template by name.
/// </summary>
/// <param name="templateName">The name of the template to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task DeleteTemplateByName(string templateName)
{
    try
    {
        await _amazonEc2.DeleteLaunchTemplateAsync(
            new DeleteLaunchTemplateRequest()
            {
                LaunchTemplateName = templateName
            });
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode ==
            "InvalidLaunchTemplateName.NotFoundException")
        {
            _logger.LogError(
                $"Could not delete the template, the name {_launchTemplateName}
was not found.");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError($"An error occurred while deleting the template.:
{ex.Message}");
    }
}
```

```
        throw;  
    }  
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeleteLaunchTemplate](#)」を参照してください。

DeleteSecurityGroup

次のコード例は、DeleteSecurityGroup を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>  
/// Delete an Amazon EC2 security group.  
/// </summary>  
/// <param name="groupName">The name of the group to delete.</param>  
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>  
public async Task<bool> DeleteSecurityGroup(string groupId)  
{  
    try  
    {  
        var response =  
            await _amazonEC2.DeleteSecurityGroupAsync(  
                new DeleteSecurityGroupRequest { GroupId = groupId });  
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;  
    }  
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)  
    {  
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidGroup.NotFound")  
        {  
            _logger.LogError(  
                $"Security Group {groupId} does not exist and cannot be deleted.  
                Please verify the ID and try again.");  
        }  
    }  
}
```

```

    }

    return false;
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine($"Couldn't delete the security group because:
{ex.Message}");
    return false;
}
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteSecurityGroup](#)」を参照してください。

DescribeAvailabilityZones

次のコード例は、DescribeAvailabilityZones を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

/// <summary>
/// Get a list of Availability Zones in the AWS Region of the Amazon EC2 Client.
/// </summary>
/// <returns>A list of availability zones.</returns>
public async Task<List<string>> DescribeAvailabilityZones()
{
    try
    {
        var zoneResponse = await _amazonEc2.DescribeAvailabilityZonesAsync(
            new DescribeAvailabilityZonesRequest());
        return zoneResponse.AvailabilityZones.Select(z => z.ZoneName).ToList();
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)

```

```

    {
        _logger.LogError($"An Amazon EC2 error occurred while listing
availability zones.: {ec2Exception.Message}");
        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError($"An error occurred while listing availability zones.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeAvailabilityZones](#)」を参照してください。

DescribeIamInstanceProfileAssociations

次のコード例は、DescribeIamInstanceProfileAssociations を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

/// <summary>
/// Get the instance profile association data for an instance.
/// </summary>
/// <param name="instanceId">The Id of the instance.</param>
/// <returns>Instance profile associations data.</returns>
public async Task<IamInstanceProfileAssociation> GetInstanceProfile(string
instanceId)
{
    try
    {

```



```
var response = await
_amazonEc2.DescribeIamInstanceProfileAssociationsAsync(
    new DescribeIamInstanceProfileAssociationsRequest()
    {
        Filters = new List<Amazon.EC2.Model.Filter>()
        {
            new("instance-id", new List<string>() { instanceId })
        },
    });
return response.IamInstanceProfileAssociations[0];
}
catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
{
    if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceID.NotFound")
    {
        _logger.LogError(ec2Exception, $"Instance {instanceId} not found");
    }

    throw;
}
catch (Exception ex)
{
    _logger.LogError(ex, $"An error occurred while creating the template.:
{ex.Message}");
    throw;
}
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DescribeIamInstanceProfileAssociations](#)」を参照してください。

DescribeInstanceTypes

次のコード例は、DescribeInstanceTypes を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Describe the instance types available.
/// </summary>
/// <returns>A list of instance type information.</returns>
public async Task<List<InstanceTypeInfo>>
DescribeInstanceTypes(ArchitectureValues architecture)
{
    try
    {
        var request = new DescribeInstanceTypesRequest();

        var filters = new List<Filter>
        {
            new Filter("processor-info.supported-architecture",
                new List<string> { architecture.ToString() })
        };
        filters.Add(new Filter("instance-type", new() { "*.micro",
            "*.small" }));

        request.Filters = filters;
        var instanceTypes = new List<InstanceTypeInfo>();

        var paginator = _amazonEC2.Paginators.DescribeInstanceTypes(request);
        await foreach (var instanceType in paginator.InstanceTypes)
        {
            instanceTypes.Add(instanceType);
        }

        return instanceTypes;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidParameterValue")
        {

```

```

        _logger.LogError(
            $"Parameters are invalid. Ensure architecture and size strings
conform to DescribeInstanceTypes API reference.");
    }

    throw;
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine($"Couldn't delete the security group because:
{ex.Message}");
    throw;
}
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeInstanceTypes](#)」を参照してください。

DescribeInstances

次のコード例は、DescribeInstances を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

/// <summary>
/// Get information about EC2 instances with a particular state.
/// </summary>
/// <param name="tagName">The name of the tag to filter on.</param>
/// <param name="tagValue">The value of the tag to look for.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> GetInstancesWithState(string state)
{
    try
    {

```

```
// Filters the results of the instance list.
var filters = new List<Filter>
{
    new Filter
    {
        Name = $"instance-state-name",
        Values = new List<string> { state, },
    },
};
var request = new DescribeInstancesRequest { Filters = filters, };

Console.WriteLine($"\\nShowing instances with state {state}");
var paginator = _amazonEC2.Paginators.DescribeInstances(request);

await foreach (var response in paginator.Responses)
{
    foreach (var reservation in response.Reservations)
    {
        foreach (var instance in reservation.Instances)
        {
            Console.Write($"Instance ID: {instance.InstanceId} ");
            Console.WriteLine($"\\tCurrent State:
{instance.State.Name}");
        }
    }
}

return true;
}
catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
{
    if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidParameterValue")
    {
        _logger.LogError(
            $"Invalid parameter value for filtering instances.");
    }

    return false;
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine($"Couldn't list instances because: {ex.Message}");
    return false;
}
```

```
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeInstances](#)」を参照してください。

DescribeKeyPairs

次のコード例は、DescribeKeyPairs を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get information about an Amazon EC2 key pair.
/// </summary>
/// <param name="keyPairName">The name of the key pair.</param>
/// <returns>A list of key pair information.</returns>
public async Task<List<KeyPairInfo>> DescribeKeyPairs(string keyPairName)
{
    try
    {
        var request = new DescribeKeyPairsRequest();
        if (!string.IsNullOrEmpty(keyPairName))
        {
            request = new DescribeKeyPairsRequest
            {
                KeyNames = new List<string> { keyPairName }
            };
        }

        var response = await _amazonEC2.DescribeKeyPairsAsync(request);
        return response.KeyPairs.ToList();
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {

```

```
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidKeyPair.NotFound")
        {
            _logger.LogError(
                $"A key pair called {keyPairName} does not exist.");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(
            $"An error occurred while describing the key pair.: {ex.Message}");
        throw;
    }
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeKeyPairs](#)」を参照してください。

DescribeSecurityGroups

次のコード例は、DescribeSecurityGroups を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Retrieve information for one or all Amazon EC2 security group.
/// </summary>
/// <param name="groupId">The optional Id of a specific Amazon EC2 security
group.</param>
/// <returns>A list of security group information.</returns>
public async Task<List<SecurityGroup>> DescribeSecurityGroups(string groupId)
{
```

```
try
{
    var securityGroups = new List<SecurityGroup>();
    var request = new DescribeSecurityGroupsRequest();

    if (!string.IsNullOrEmpty(groupId))
    {
        var groupIds = new List<string> { groupId };
        request.GroupIds = groupIds;
    }

    var paginatorForSecurityGroups =
        _amazonEC2.Paginators.DescribeSecurityGroups(request);

    await foreach (var securityGroup in
paginatorForSecurityGroups.SecurityGroups)
    {
        securityGroups.Add(securityGroup);
    }

    return securityGroups;
}
catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
{
    if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidGroup.NotFound")
    {
        _logger.LogError(
            $"A security group {groupId} does not exist.");
    }

    throw;
}
catch (Exception ex)
{
    _logger.LogError(
        $"An error occurred while listing security groups. {ex.Message}");
    throw;
}
}

/// <summary>
/// Display the information returned by the call to
/// DescribeSecurityGroupsAsync.
```

```

/// </summary>
/// <param name="securityGroup">A list of security group information.</param>
public void DisplaySecurityGroupInfoAsync(SecurityGroup securityGroup)
{
    Console.WriteLine($"{securityGroup.GroupName}");
    Console.WriteLine("Ingress permissions:");
    securityGroup.IpPermissions.ForEach(permission =>
    {
        Console.WriteLine($"  \tFromPort: {permission.FromPort}");
        Console.WriteLine($"  \tIpProtocol: {permission.IpProtocol}");

        Console.WriteLine($"  \tIpv4Ranges: ");
        permission.Ipv4Ranges.ForEach(range => { Console.Write($"{range.CidrIp}
"); });

        Console.WriteLine($"  \n\tIpv6Ranges:");
        permission.Ipv6Ranges.ForEach(range =>
        { Console.Write($"{range.CidrIpv6} "); });

        Console.WriteLine($"  \n\tPrefixListIds: ");
        permission.PrefixListIds.ForEach(id => Console.Write($"{id.Id} "));

        Console.WriteLine($"  \n\tTo Port: {permission.ToPort}");
    });
    Console.WriteLine("Egress permissions:");
    securityGroup.IpPermissionsEgress.ForEach(permission =>
    {
        Console.WriteLine($"  \tFromPort: {permission.FromPort}");
        Console.WriteLine($"  \tIpProtocol: {permission.IpProtocol}");

        Console.WriteLine($"  \tIpv4Ranges: ");
        permission.Ipv4Ranges.ForEach(range => { Console.Write($"{range.CidrIp}
"); });

        Console.WriteLine($"  \n\tIpv6Ranges:");
        permission.Ipv6Ranges.ForEach(range =>
        { Console.Write($"{range.CidrIpv6} "); });

        Console.WriteLine($"  \n\tPrefixListIds: ");
        permission.PrefixListIds.ForEach(id => Console.Write($"{id.Id} "));

        Console.WriteLine($"  \n\tTo Port: {permission.ToPort}");
    });
}

```


- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeSecurityGroups](#)」を参照してください。

DescribeSubnets

次のコード例は、DescribeSubnets を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get all the subnets for a Vpc in a set of availability zones.
/// </summary>
/// <param name="vpcId">The Id of the Vpc.</param>
/// <param name="availabilityZones">The list of availability zones.</param>
/// <returns>The collection of subnet objects.</returns>
public async Task<List<Subnet>> GetAllVpcSubnetsForZones(string vpcId,
List<string> availabilityZones)
{
    try
    {
        var subnets = new List<Subnet>();
        var subnetPaginator = _amazonEc2.Paginators.DescribeSubnets(
            new DescribeSubnetsRequest()
            {
                Filters = new List<Amazon.EC2.Model.Filter>()
                {
                    new("vpc-id", new List<string>() { vpcId }),
                    new("availability-zone", availabilityZones),
                    new("default-for-az", new List<string>() { "true" })
                }
            }
        );
    }
}
```

```
// Get the entire list using the paginator.
await foreach (var subnet in subnetPaginator.Subnets)
{
    subnets.Add(subnet);
}

return subnets;
}
catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
{
    if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidVpcID.NotFound")
    {
        _logger.LogError(ec2Exception, $"The specified VPC ID {vpcId} does
not exist.");
    }

    throw;
}
catch (Exception ex)
{
    _logger.LogError(ex, $"An error occurred while describing the subnets.:
{ex.Message}");
    throw;
}
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DescribeSubnets](#)」を参照してください。

DescribeVpcs

次のコード例は、DescribeVpcs を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get the default VPC for the account.
/// </summary>
/// <returns>The default VPC object.</returns>
public async Task<Vpc> GetDefaultVpc()
{
    try
    {
        var vpcResponse = await _amazonEc2.DescribeVpcsAsync(
            new DescribeVpcsRequest()
            {
                Filters = new List<Amazon.EC2.Model.Filter>()
                {
                    new("is-default", new List<string>() { "true" })
                }
            });
        return vpcResponse.Vpcs[0];
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "UnauthorizedOperation")
        {
            _logger.LogError(ec2Exception, $"You do not have the necessary
permissions to describe VPCs.");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(ex, $"An error occurred while describing the vpcs.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DescribeVpcs](#)」を参照してください。

DisassociateAddress

次のコード例は、DisassociateAddress を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Disassociate an Elastic IP address from an EC2 instance.
/// </summary>
/// <param name="associationId">The association Id.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DisassociateIp(string associationId)
{
    try
    {
        var response = await _amazonEC2.DisassociateAddressAsync(
            new DisassociateAddressRequest { AssociationId = associationId });
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidAssociationID.NotFound")
        {
            _logger.LogError(
                $"AssociationId is invalid, unable to disassociate address.
{ec2Exception.Message}");
        }

        return false;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(
            $"An error occurred while disassociating the Elastic IP.:
{ex.Message}");
        return false;
    }
}
```

```
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DisassociateAddress](#)」を参照してください。

RebootInstances

次のコード例は、RebootInstances を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

ID でインスタンスを再起動します。

```
/// <summary>
/// Reboot a specific EC2 instance.
/// </summary>
/// <param name="ec2InstanceId">The instance Id of the instance that will be
rebooted.</param>
/// <returns>Async Task.</returns>
public async Task<bool> RebootInstances(string ec2InstanceId)
{
    try
    {
        var request = new RebootInstancesRequest
        {
            InstanceIds = new List<string> { ec2InstanceId },
        };

        await _amazonEC2.RebootInstancesAsync(request);

        // Wait for the instance to be running.
        Console.WriteLine("Waiting for the instance to start.");
        await WaitForInstanceState(ec2InstanceId, InstanceStateName.Running);

        return true;
    }
}
```

```

    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceId")
        {
            _logger.LogError(
                $"InstanceId {ec2InstanceId} is invalid, unable to reboot.
{ec2Exception.Message}");
        }
        return false;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(
            $"An error occurred while rebooting the instance {ec2InstanceId}.:
{ex.Message}");
        return false;
    }
}

/// <summary>
/// Wait until an EC2 instance is in a specified state.
/// </summary>
/// <param name="instanceId">The instance Id.</param>
/// <param name="stateName">The state to wait for.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> WaitForInstanceState(string instanceId,
InstanceStateName stateName)
{
    var request = new DescribeInstancesRequest
    {
        InstanceIds = new List<string> { instanceId }
    };

    // Wait until the instance is in the specified state.
    var hasState = false;
    do
    {
        // Wait 5 seconds.
        Thread.Sleep(5000);

        // Check for the desired state.
        var response = await _amazonEC2.DescribeInstancesAsync(request);
        var instance = response.Reservations[0].Instances[0];

```

```

        hasState = instance.State.Name == stateName;
        Console.WriteLine(". ");
    } while (!hasState);

    return hasState;
}

```

インスタンスのプロファイルを置き換えて再起動し、ウェブサーバーを再起動します。

```

    /// <summary>
    /// Replace the profile associated with a running instance. After the profile is
    /// replaced, the instance
    /// is rebooted to ensure that it uses the new profile. When the instance is
    /// ready, Systems Manager is
    /// used to restart the Python web server.
    /// </summary>
    /// <param name="instanceId">The Id of the instance to update.</param>
    /// <param name="credsProfileName">The name of the new profile to associate with
    /// the specified instance.</param>
    /// <param name="associationId">The Id of the existing profile association for
    /// the instance.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task ReplaceInstanceProfile(string instanceId, string
    credsProfileName, string associationId)
    {
        try
        {
            await _amazonEc2.ReplaceIamInstanceProfileAssociationAsync(
                new ReplaceIamInstanceProfileAssociationRequest()
                {
                    AssociationId = associationId,
                    IamInstanceProfile = new IamInstanceProfileSpecification()
                    {
                        Name = credsProfileName
                    }
                });
            // Allow time before resetting.
            Thread.Sleep(25000);

            await _amazonEc2.RebootInstancesAsync(
                new RebootInstancesRequest(new List<string>() { instanceId }));

```

```

        Thread.Sleep(25000);
        var instanceReady = false;
        var retries = 5;
        while (retries-- > 0 && !instanceReady)
        {
            var instancesPaginator =
                _amazonSsm.Paginators.DescribeInstanceInformation(
                    new DescribeInstanceInformationRequest());
            // Get the entire list using the paginator.
            await foreach (var instance in
instancesPaginator.InstanceInformationList)
            {
                instanceReady = instance.InstanceId == instanceId;
                if (instanceReady)
                {
                    break;
                }
            }
        }
        Console.WriteLine("Waiting for instance to be running.");
        await WaitForInstanceState(instanceId, InstanceStateName.Running);
        Console.WriteLine("Instance ready.");
        Console.WriteLine($"Sending restart command to instance {instanceId}");
        await _amazonSsm.SendCommandAsync(
            new SendCommandRequest()
            {
                InstanceIds = new List<string>() { instanceId },
                DocumentName = "AWS-RunShellScript",
                Parameters = new Dictionary<string, List<string>>()
                {
                    {
                        "commands",
                        new List<string>() { "cd / && sudo python3 server.py
80" }
                    }
                }
            });
        Console.WriteLine($"Restarted the web server on instance {instanceId}");
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceID.NotFound")
        {
            _logger.LogError(ec2Exception, $"Instance {instanceId} not found");

```



```
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(ex, $"An error occurred while replacing the template.: {ex.Message}");
        throw;
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[RebootInstances](#)」を参照してください。

ReleaseAddress

次のコード例は、ReleaseAddress を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Release an Elastic IP address. After the Elastic IP address is released,
/// it can no longer be used.
/// </summary>
/// <param name="allocationId">The allocation Id of the Elastic IP address.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> ReleaseAddress(string allocationId)
{
    try
    {
        var request = new ReleaseAddressRequest { AllocationId = allocationId };
    }
}
```

```
        var response = await _amazonEC2.ReleaseAddressAsync(request);
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidAllocationID.NotFound")
        {
            _logger.LogError(
                $"AllocationId {allocationId} was not found.
{ec2Exception.Message}");
        }

        return false;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(
            $"An error occurred while releasing the AllocationId
{allocationId}.: {ex.Message}");
        return false;
    }
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ReleaseAddress](#)」を参照してください。

ReplaceIamInstanceProfileAssociation

次のコード例は、ReplaceIamInstanceProfileAssociation を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
///  
/// <summary>
```

```

    /// Replace the profile associated with a running instance. After the profile is
    /// replaced, the instance
    /// is rebooted to ensure that it uses the new profile. When the instance is
    /// ready, Systems Manager is
    /// used to restart the Python web server.
    /// </summary>
    /// <param name="instanceId">The Id of the instance to update.</param>
    /// <param name="credsProfileName">The name of the new profile to associate with
    the specified instance.</param>
    /// <param name="associationId">The Id of the existing profile association for
    the instance.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task ReplaceInstanceProfile(string instanceId, string
    credsProfileName, string associationId)
    {
        try
        {
            await _amazonEc2.ReplaceIamInstanceProfileAssociationAsync(
                new ReplaceIamInstanceProfileAssociationRequest()
                {
                    AssociationId = associationId,
                    IamInstanceProfile = new IamInstanceProfileSpecification()
                    {
                        Name = credsProfileName
                    }
                });
            // Allow time before resetting.
            Thread.Sleep(25000);

            await _amazonEc2.RebootInstancesAsync(
                new RebootInstancesRequest(new List<string>() { instanceId }));
            Thread.Sleep(25000);
            var instanceReady = false;
            var retries = 5;
            while (retries-- > 0 && !instanceReady)
            {
                var instancesPaginator =
                    _amazonSsm.Paginators.DescribeInstanceInformation(
                        new DescribeInstanceInformationRequest());
                // Get the entire list using the paginator.
                await foreach (var instance in
instancesPaginator.InstanceInformationList)
                {
                    instanceReady = instance.InstanceId == instanceId;
                }
            }
        }
    }

```

```

        if (instanceReady)
        {
            break;
        }
    }
}
Console.WriteLine("Waiting for instance to be running.");
await WaitForInstanceState(instanceId, InstanceStateName.Running);
Console.WriteLine("Instance ready.");
Console.WriteLine($"Sending restart command to instance {instanceId}");
await _amazonSsm.SendCommandAsync(
    new SendCommandRequest()
    {
        InstanceIds = new List<string>() { instanceId },
        DocumentName = "AWS-RunShellScript",
        Parameters = new Dictionary<string, List<string>>()
        {
            {
                "commands",
                new List<string>() { "cd / && sudo python3 server.py"
80" }
            }
        }
    });
Console.WriteLine($"Restarted the web server on instance {instanceId}");
}
catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
{
    if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceID.NotFound")
    {
        _logger.LogError(ec2Exception, $"Instance {instanceId} not found");
    }

    throw;
}
catch (Exception ex)
{
    _logger.LogError(ex, $"An error occurred while replacing the template.:
{ex.Message}");
    throw;
}
}

```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ReplacelamInstanceProfileAssociation](#)」を参照してください。

RunInstances

次のコード例は、RunInstances を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Create and run an EC2 instance.
/// </summary>
/// <param name="ImageId">The image Id of the image used as a basis for the
/// EC2 instance.</param>
/// <param name="instanceType">The instance type of the EC2 instance to
create.</param>
/// <param name="keyName">The name of the key pair to associate with the
/// instance.</param>
/// <param name="groupId">The Id of the Amazon EC2 security group that will be
/// allowed to interact with the new EC2 instance.</param>
/// <returns>The instance Id of the new EC2 instance.</returns>
public async Task<string> RunInstances(string imageId, string instanceType,
string keyName, string groupId)
{
    try
    {
        var request = new RunInstancesRequest
        {
            ImageId = imageId,
            InstanceType = instanceType,
            KeyName = keyName,
            MinCount = 1,
            MaxCount = 1,
            SecurityGroupIds = new List<string> { groupId }
        };
        var response = await _amazonEC2.RunInstancesAsync(request);
    }
}
```

```
        var instanceId = response.Reservation.Instances[0].InstanceId;

        Console.WriteLine("Waiting for the instance to start.");
        await WaitForInstanceState(instanceId, InstanceStateName.Running);

        return instanceId;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidGroupId.NotFound")
        {
            _logger.LogError(
                $"GroupId {groupId} was not found. {ec2Exception.Message}");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(
            $"An error occurred while running the instance.: {ex.Message}");
        throw;
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[RunInstances](#)」を参照してください。

StartInstances

次のコード例は、StartInstances を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

    /// <summary>
    /// Start an EC2 instance.
    /// </summary>
    /// <param name="ec2InstanceId">The instance Id of the Amazon EC2 instance
    /// to start.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task StartInstances(string ec2InstanceId)
    {
        try
        {
            var request = new StartInstancesRequest
            {
                InstanceIds = new List<string> { ec2InstanceId },
            };

            await _amazonEC2.StartInstancesAsync(request);

            Console.WriteLine("Waiting for instance to start. ");
            await WaitForInstanceState(ec2InstanceId, InstanceStateName.Running);
        }
        catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
        {
            if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceId")
            {
                _logger.LogError(
                    $"InstanceId is invalid, unable to start.
{ec2Exception.Message}");
            }

            throw;
        }
        catch (Exception ex)
        {
            _logger.LogError(
                $"An error occurred while starting the instance.: {ex.Message}");
            throw;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Wait until an EC2 instance is in a specified state.
    /// </summary>
    /// <param name="instanceId">The instance Id.</param>

```

```
/// <param name="stateName">The state to wait for.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> WaitForInstanceState(string instanceId,
InstanceStateName stateName)
{
    var request = new DescribeInstancesRequest
    {
        InstanceIds = new List<string> { instanceId }
    };

    // Wait until the instance is in the specified state.
    var hasState = false;
    do
    {
        // Wait 5 seconds.
        Thread.Sleep(5000);

        // Check for the desired state.
        var response = await _amazonEC2.DescribeInstancesAsync(request);
        var instance = response.Reservations[0].Instances[0];
        hasState = instance.State.Name == stateName;
        Console.WriteLine(". ");
    } while (!hasState);

    return hasState;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[StartInstances](#)」を参照してください。

StopInstances

次のコード例は、StopInstances を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Stop an EC2 instance.
/// </summary>
/// <param name="ec2InstanceId">The instance Id of the EC2 instance to
/// stop.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task StopInstances(string ec2InstanceId)
{
    try
    {
        var request = new StopInstancesRequest
        {
            InstanceIds = new List<string> { ec2InstanceId },
        };

        await _amazonEC2.StopInstancesAsync(request);
        Console.WriteLine("Waiting for the instance to stop.");
        await WaitForInstanceState(ec2InstanceId, InstanceStateName.Stopped);

        Console.WriteLine("\nThe instance has stopped.");
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceId")
        {
            _logger.LogError(
                $"InstanceId is invalid, unable to stop.
{ec2Exception.Message}");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {

```

```

        _logger.LogError(
            $"An error occurred while stopping the instance.: {ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Wait until an EC2 instance is in a specified state.
/// </summary>
/// <param name="instanceId">The instance Id.</param>
/// <param name="stateName">The state to wait for.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> WaitForInstanceState(string instanceId,
InstanceStateName stateName)
{
    var request = new DescribeInstancesRequest
    {
        InstanceIds = new List<string> { instanceId }
    };

    // Wait until the instance is in the specified state.
    var hasState = false;
    do
    {
        // Wait 5 seconds.
        Thread.Sleep(5000);

        // Check for the desired state.
        var response = await _amazonEC2.DescribeInstancesAsync(request);
        var instance = response.Reservations[0].Instances[0];
        hasState = instance.State.Name == stateName;
        Console.WriteLine(". ");
    } while (!hasState);

    return hasState;
}

```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[StopInstances](#)」を参照してください。

TerminateInstances

次のコード例は、TerminateInstances を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Terminate an EC2 instance.
/// </summary>
/// <param name="ec2InstanceId">The instance Id of the EC2 instance
/// to terminate.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task<List<InstanceStateChange>> TerminateInstances(string
ec2InstanceId)
{
    try
    {
        var request = new TerminateInstancesRequest
        {
            InstanceIds = new List<string> { ec2InstanceId }
        };

        var response = await _amazonEC2.TerminateInstancesAsync(request);
        Console.WriteLine("Waiting for the instance to terminate.");
        await WaitForInstanceState(ec2InstanceId, InstanceStateName.Terminated);

        Console.WriteLine($"\\nThe instance {ec2InstanceId} has been
terminated.");
        return response.TerminatingInstances;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceId")
        {
            _logger.LogError(
                $"InstanceId is invalid, unable to terminate.
{ec2Exception.Message}");
        }
    }
}
```

```

        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(
            $"An error occurred while terminating the instance.: {ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Wait until an EC2 instance is in a specified state.
/// </summary>
/// <param name="instanceId">The instance Id.</param>
/// <param name="stateName">The state to wait for.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> WaitForInstanceState(string instanceId,
InstanceStateName stateName)
{
    var request = new DescribeInstancesRequest
    {
        InstanceIds = new List<string> { instanceId }
    };

    // Wait until the instance is in the specified state.
    var hasState = false;
    do
    {
        // Wait 5 seconds.
        Thread.Sleep(5000);

        // Check for the desired state.
        var response = await _amazonEC2.DescribeInstancesAsync(request);
        var instance = response.Reservations[0].Instances[0];
        hasState = instance.State.Name == stateName;
        Console.WriteLine(". ");
    } while (!hasState);

    return hasState;
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[TerminateInstances](#)」を参照してください。

シナリオ

レジリエントなサービスの構築と管理

次のコード例は、本、映画、曲のレコメンデーションを返す負荷分散型ウェブサービスの作成方法を示しています。この例は、障害に対するサービスの対応方法と、障害発生時の耐障害性を高めるためにサービスを再構築する方法を示しています。

- Amazon EC2 Auto Scaling グループを使用して、起動テンプレートに基づいて Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスを作成し、インスタンス数を所定の範囲内に維持します。
- Elastic Load Balancing で HTTP リクエストを処理して配信します。
- Auto Scaling グループ内のインスタンスの状態を監視し、正常なインスタンスにのみリクエストを転送します。
- 各 EC2 インスタンスで Python ウェブサーバーを実行して HTTP リクエストを処理します。ウェブサーバーはレコメンデーションとヘルスチェックを返します。
- Amazon DynamoDB テーブルを使用してレコメンデーションサービスをシミュレートできます。
- AWS Systems Manager パラメータを更新して、リクエストとヘルスチェックに対するウェブサーバーの応答を制御します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

コマンドプロンプトからインタラクティブなシナリオを実行します。

```
static async Task Main(string[] args)
{
```

```

        _configuration = new ConfigurationBuilder()
            .SetBasePath(Directory.GetCurrentDirectory())
            .AddJsonFile("settings.json") // Load settings from .json file.
            .AddJsonFile("settings.local.json",
                true) // Optionally, load local settings.
            .Build();

// Set up dependency injection for the AWS services.
using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
    .ConfigureLogging(logging =>
        logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
            .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
LogLevel.Information)
            .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
    .ConfigureServices((_, services) =>
        services.AddAWSService<IAmazonIdentityManagementService>()
            .AddAWSService<IAmazonDynamoDB>()
            .AddAWSService<IAmazonElasticLoadBalancingV2>()
            .AddAWSService<IAmazonSimpleSystemsManagement>()
            .AddAWSService<IAmazonAutoScaling>()
            .AddAWSService<IAmazonEC2>()
            .AddTransient<AutoScalerWrapper>()
            .AddTransient<ElasticLoadBalancerWrapper>()
            .AddTransient<SmParameterWrapper>()
            .AddTransient<Recommendations>()
            .AddSingleton<IConfiguration>(_configuration)
        )
    .Build();

ServicesSetup(host);
ResourcesSetup();

try
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("Welcome to the Resilient Architecture Example
Scenario.");
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    await Deploy(true);

    Console.WriteLine("Now let's begin the scenario.");
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    await Demo(true);
}

```

```

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Finally, let's clean up our resources.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        await DestroyResources(true);

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Resilient Architecture Example Scenario is
complete.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"There was a problem running the scenario:
{ex.Message}");
        await DestroyResources(true);
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
}

/// <summary>
/// Setup any common resources, also used for integration testing.
/// </summary>
public static void ResourcesSetup()
{
    _httpClient = new HttpClient();
}

/// <summary>
/// Populate the services for use within the console application.
/// </summary>
/// <param name="host">The services host.</param>
private static void ServicesSetup(IHost host)
{
    _elasticLoadBalancerWrapper =
host.Services.GetRequiredService<ElasticLoadBalancerWrapper>();
    _iamClient =
host.Services.GetRequiredService<IAmazonIdentityManagementService>();
    _recommendations = host.Services.GetRequiredService<Recommendations>();
    _autoScalerWrapper = host.Services.GetRequiredService<AutoScalerWrapper>();
    _smParameterWrapper =
host.Services.GetRequiredService<SmParameterWrapper>();
}

```

```

    }

    /// <summary>
    /// Deploy necessary resources for the scenario.
    /// </summary>
    /// <param name="interactive">True to run as interactive.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public static async Task<bool> Deploy(bool interactive)
    {
        var protocol = "HTTP";
        var port = 80;
        var sshPort = 22;

        Console.WriteLine(
            "\nFor this demo, we'll use the AWS SDK for .NET to create several AWS
resources\n" +
            "to set up a load-balanced web service endpoint and explore some ways to
make it resilient\n" +
            "against various kinds of failures.\n\n" +
            "Some of the resources create by this demo are:\n");

        Console.WriteLine(
            "\t* A DynamoDB table that the web service depends on to provide book,
movie, and song recommendations.");
        Console.WriteLine(
            "\t* An EC2 launch template that defines EC2 instances that each contain
a Python web server.");
        Console.WriteLine(
            "\t* An EC2 Auto Scaling group that manages EC2 instances across several
Availability Zones.");
        Console.WriteLine(
            "\t* An Elastic Load Balancing (ELB) load balancer that targets the Auto
Scaling group to distribute requests.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Press Enter when you're ready to start deploying
resources.");
        if (interactive)
            Console.ReadLine();

        // Create and populate the DynamoDB table.
        var databaseTableName = _configuration["databaseName"];
        var recommendationsPath = Path.Join(_configuration["resourcePath"],
            "recommendations_objects.json");

```



```

        Console.WriteLine($"Creating and populating a DynamoDB table named
{databaseTableName}.");
        await _recommendations.CreateDatabaseWithName(databaseTableName);
        await _recommendations.PopulateDatabase(databaseTableName,
recommendationsPath);
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        // Create the EC2 Launch Template.

        Console.WriteLine(
            $"Creating an EC2 launch template that runs 'server_startup_script.sh'
when an instance starts.\n"
            + "\nThis script starts a Python web server defined in the `server.py`
script. The web server\n"
            + "listens to HTTP requests on port 80 and responds to requests to '/'
and to '/healthcheck'.\n"
            + "For demo purposes, this server is run as the root user. In
production, the best practice is to\n"
            + "run a web server, such as Apache, with least-privileged
credentials.");
        Console.WriteLine(
            "\nThe template also defines an IAM policy that each instance uses to
assume a role that grants\n"
            + "permissions to access the DynamoDB recommendation table and Systems
Manager parameters\n"
            + "that control the flow of the demo.");

        var startupScriptPath = Path.Join(_configuration["resourcePath"],
            "server_startup_script.sh");
        var instancePolicyPath = Path.Join(_configuration["resourcePath"],
            "instance_policy.json");
        await _autoScalerWrapper.CreateTemplate(startupScriptPath,
instancePolicyPath);
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        Console.WriteLine(
            "Creating an EC2 Auto Scaling group that maintains three EC2 instances,
each in a different\n"
            + "Availability Zone.\n");
        var zones = await _autoScalerWrapper.DescribeAvailabilityZones();
        await _autoScalerWrapper.CreateGroupOfSize(3, _autoScalerWrapper.GroupName,
zones);
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

```

```

        Console.WriteLine(
            "At this point, you have EC2 instances created. Once each instance
starts, it listens for\n"
            + "HTTP requests. You can see these instances in the console or continue
with the demo.\n");

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Press Enter when you're ready to continue.");
        if (interactive)
            Console.ReadLine();

        Console.WriteLine("Creating variables that control the flow of the demo.");
        await _smParameterWrapper.Reset();

        Console.WriteLine(
            "\nCreating an Elastic Load Balancing target group and load balancer.
The target group\n"
            + "defines how the load balancer connects to instances. The load
balancer provides a\n"
            + "single endpoint where clients connect and dispatches requests to
instances in the group.");

        var defaultVpc = await _autoScalerWrapper.GetDefaultVpc();
        var subnets = await
            _autoScalerWrapper.GetAllVpcSubnetsForZones(defaultVpc.VpcId, zones);
        var subnetIds = subnets.Select(s => s.SubnetId).ToList();
        var targetGroup = await
            _elasticLoadBalancerWrapper.CreateTargetGroupOnVpc(_elasticLoadBalancerWrapper.TargetGroupN
protocol, port, defaultVpc.VpcId);

        await
            _elasticLoadBalancerWrapper.CreateLoadBalancerAndListener(_elasticLoadBalancerWrapper.LoadB
subnetIds, targetGroup);
        await
            _autoScalerWrapper.AttachLoadBalancerToGroup(_autoScalerWrapper.GroupName,
targetGroup.TargetGroupArn);
        Console.WriteLine("\nVerifying access to the load balancer endpoint...");
        var endPoint = await
            _elasticLoadBalancerWrapper.GetEndpointForLoadBalancerByName(_elasticLoadBalancerWrapper.Lo
        var loadBalancerAccess = await
            _elasticLoadBalancerWrapper.VerifyLoadBalancerEndpoint(endPoint);

        if (!loadBalancerAccess)
        {

```

```

        Console.WriteLine("\nCouldn't connect to the load balancer, verifying
that the port is open...");

        var ipString = await _httpClient.GetStringAsync("https://
checkip.amazonaws.com");
        ipString = ipString.Trim();

        var defaultSecurityGroup = await
_autoScalerWrapper.GetDefaultSecurityGroupForVpc(defaultVpc);
        var portIsOpen =
_autoScalerWrapper.VerifyInboundPortForGroup(defaultSecurityGroup, port, ipString);
        var sshPortIsOpen =
_autoScalerWrapper.VerifyInboundPortForGroup(defaultSecurityGroup, sshPort,
ipString);

        if (!portIsOpen)
        {
            Console.WriteLine(
                "\nFor this example to work, the default security group for your
default VPC must\n"
                + "allows access from this computer. You can either add it
automatically from this\n"
                + "example or add it yourself using the AWS Management Console.
\n");

            if (!interactive || GetYesNoResponse(
                "Do you want to add a rule to the security group to allow
inbound traffic from your computer's IP address?"))
            {
                await
_autoScalerWrapper.OpenInboundPort(defaultSecurityGroup.GroupId, port, ipString);
            }

            if (!sshPortIsOpen)
            {
                if (!interactive || GetYesNoResponse(
                    "Do you want to add a rule to the security group to allow
inbound SSH traffic for debugging from your computer's IP address?"))
                {
                    await
_autoScalerWrapper.OpenInboundPort(defaultSecurityGroup.GroupId, sshPort,
ipString);
                }
            }
        }

```

```

        }
        loadBalancerAccess = await
_elasticLoadBalancerWrapper.VerifyLoadBalancerEndpoint(endPoint);
    }

    if (loadBalancerAccess)
    {
        Console.WriteLine("Your load balancer is ready. You can access it by
browsing to:");
        Console.WriteLine($"http://{endPoint}\n");
    }
    else
    {
        Console.WriteLine(
            "\nCouldn't get a successful response from the load balancer
endpoint. Troubleshoot by\n"
            + "manually verifying that your VPC and security group are
configured correctly and that\n"
            + "you can successfully make a GET request to the load balancer
endpoint:\n");
        Console.WriteLine($"http://{endPoint}\n");
    }
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("Press Enter when you're ready to continue with the
demo.");
    if (interactive)
        Console.ReadLine();
    return true;
}

/// <summary>
/// Demonstrate the steps of the scenario.
/// </summary>
/// <param name="interactive">True to run as an interactive scenario.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public static async Task<bool> Demo(bool interactive)
{
    var ssmOnlyPolicy = Path.Join(_configuration["resourcePath"],
        "ssm_only_policy.json");

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("Resetting parameters to starting values for demo.");
    await _smParameterWrapper.Reset();

```

```

        Console.WriteLine("\nThis part of the demonstration shows how to toggle
different parts of the system\n" +
                        "to create situations where the web service fails, and
shows how using a resilient\n" +
                        "architecture can keep the web service running in spite of
these failures.");
        Console.WriteLine(new string('-', 88));
        Console.WriteLine("At the start, the load balancer endpoint returns
recommendations and reports that all targets are healthy.");
        if (interactive)
            await DemoActionChoices();

        Console.WriteLine($"The web service running on the EC2 instances gets
recommendations by querying a DynamoDB table.\n" +
                        $"The table name is contained in a Systems Manager
parameter named '{_smParameterWrapper.TableParameter}'.\n" +
                        $"To simulate a failure of the recommendation service,
let's set this parameter to name a non-existent table.\n");
        await
        _smParameterWrapper.PutParameterByName(_smParameterWrapper.TableParameter, "this-
is-not-a-table");

        Console.WriteLine("\nNow, sending a GET request to the load balancer
endpoint returns a failure code. But, the service reports as\n" +
                        "healthy to the load balancer because shallow health
checks don't check for failure of the recommendation service.");
        if (interactive)
            await DemoActionChoices();

        Console.WriteLine("Instead of failing when the recommendation service fails,
the web service can return a static response.");
        Console.WriteLine("While this is not a perfect solution, it presents the
customer with a somewhat better experience than failure.");

        await
        _smParameterWrapper.PutParameterByName(_smParameterWrapper.FailureResponseParameter,
        "static");

        Console.WriteLine("\nNow, sending a GET request to the load balancer
endpoint returns a static response.");
        Console.WriteLine("The service still reports as healthy because health
checks are still shallow.");
        if (interactive)
            await DemoActionChoices();

```

```

        Console.WriteLine("Let's reinstate the recommendation service.\n");
        await
        _smParameterWrapper.PutParameterByName(_smParameterWrapper.TableParameter,
        _smParameterWrapper.TableName);
        Console.WriteLine(
            "\nLet's also substitute bad credentials for one of the instances in the
target group so that it can't\n" +
            "access the DynamoDB recommendation table.\n"
        );
        await _autoScalerWrapper.CreateInstanceProfileWithName(
            _autoScalerWrapper.BadCredsPolicyName,
            _autoScalerWrapper.BadCredsRoleName,
            _autoScalerWrapper.BadCredsProfileName,
            ssmOnlyPolicy,
            new List<string> { "AmazonSSMManagedInstanceCore" }
        );
        var instances = await
        _autoScalerWrapper.GetInstancesByGroupName(_autoScalerWrapper.GroupName);
        var badInstanceId = instances.First();
        var instanceProfile = await
        _autoScalerWrapper.GetInstanceProfile(badInstanceId);
        Console.WriteLine(
            $"Replacing the profile for instance {badInstanceId} with a profile that
contains\n" +
            "bad credentials...\n"
        );
        await _autoScalerWrapper.ReplaceInstanceProfile(
            badInstanceId,
            _autoScalerWrapper.BadCredsProfileName,
            instanceProfile.AssociationId
        );
        Console.WriteLine(
            "Now, sending a GET request to the load balancer endpoint returns either
a recommendation or a static response,\n" +
            "depending on which instance is selected by the load balancer.\n"
        );
        if (interactive)
            await DemoActionChoices();

        Console.WriteLine("\nLet's implement a deep health check. For this demo, a
deep health check tests whether");
        Console.WriteLine("the web service can access the DynamoDB table that it
depends on for recommendations. Note that");

```

```
        Console.WriteLine("the deep health check is only for ELB routing and not for
Auto Scaling instance health.");
        Console.WriteLine("This kind of deep health check is not recommended for
Auto Scaling instance health, because it");
        Console.WriteLine("risks accidental termination of all instances in the Auto
Scaling group when a dependent service fails.");

        Console.WriteLine("\nBy implementing deep health checks, the load balancer
can detect when one of the instances is failing");
        Console.WriteLine("and take that instance out of rotation.");

        await
_smParameterWrapper.PutParameterByName(_smParameterWrapper.HealthCheckParameter,
"deep");

        Console.WriteLine($"Now, checking target health indicates that the
instance with bad credentials ({badInstanceId})");
        Console.WriteLine("is unhealthy. Note that it might take a minute or two for
the load balancer to detect the unhealthy");
        Console.WriteLine("instance. Sending a GET request to the load balancer
endpoint always returns a recommendation, because");
        Console.WriteLine("the load balancer takes unhealthy instances out of its
rotation.");

        if (interactive)
            await DemoActionChoices();

        Console.WriteLine("\nBecause the instances in this demo are controlled by an
auto scaler, the simplest way to fix an unhealthy");
        Console.WriteLine("instance is to terminate it and let the auto scaler start
a new instance to replace it.");

        await _autoScalerWrapper.TryTerminateInstanceById(badInstanceId);

        Console.WriteLine($"Even while the instance is terminating and the new
instance is starting, sending a GET");
        Console.WriteLine("request to the web service continues to get a successful
recommendation response because");
        Console.WriteLine("starts and reports as healthy, it is included in the load
balancing rotation.");
        Console.WriteLine("Note that terminating and replacing an instance typically
takes several minutes, during which time you");
        Console.WriteLine("can see the changing health check status until the new
instance is running and healthy.");
```

```

        if (interactive)
            await DemoActionChoices();

        Console.WriteLine("\nIf the recommendation service fails now, deep health
checks mean all instances report as unhealthy.");

        await
            _smParameterWrapper.PutParameterByName(_smParameterWrapper.TableParameter, "this-
is-not-a-table");

        Console.WriteLine($"When all instances are unhealthy, the load balancer
continues to route requests even to");
        Console.WriteLine("unhealthy instances, allowing them to fail open and
return a static response rather than fail");
        Console.WriteLine("closed and report failure to the customer.");

        if (interactive)
            await DemoActionChoices();
        await _smParameterWrapper.Reset();

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        return true;
    }

    /// <summary>
    /// Clean up the resources from the scenario.
    /// </summary>
    /// <param name="interactive">True to ask the user for cleanup.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public static async Task<bool> DestroyResources(bool interactive)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine(
            "To keep things tidy and to avoid unwanted charges on your account, we
can clean up all AWS resources\n" +
            "that were created for this demo."
        );

        if (!interactive || GetYesNoResponse("Do you want to clean up all demo
resources? (y/n) "))
        {
            await
                _elasticLoadBalancerWrapper.DeleteLoadBalancerByName(_elasticLoadBalancerWrapper.LoadBalancerName);
        }
    }

```



```

        await
        _elasticLoadBalancerWrapper.DeleteTargetGroupByName(_elasticLoadBalancerWrapper.TargetGroup
        await
        _autoScalerWrapper.TerminateAndDeleteAutoScalingGroupWithName(_autoScalerWrapper.GroupName)
        await
        _autoScalerWrapper.DeleteKeyPairByName(_autoScalerWrapper.KeyPairName);
        await
        _autoScalerWrapper.DeleteTemplateByName(_autoScalerWrapper.LaunchTemplateName);
        await _autoScalerWrapper.DeleteInstanceProfile(
            _autoScalerWrapper.BadCredsProfileName,
            _autoScalerWrapper.BadCredsRoleName
        );
        await
        _recommendations.DestroyDatabaseByName(_recommendations.TableName);
    }
    else
    {
        Console.WriteLine(
            "Ok, we'll leave the resources intact.\n" +
            "Don't forget to delete them when you're done with them or you might
incur unexpected charges."
        );
    }

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    return true;
}

```

Auto Scaling と Amazon EC2 のアクションをラップするクラスを作成します。

```

/// <summary>
/// Encapsulates Amazon EC2 Auto Scaling and EC2 management methods.
/// </summary>
public class AutoScalerWrapper
{
    private readonly IAmazonAutoScaling _amazonAutoScaling;
    private readonly IAmazonEC2 _amazonEc2;
    private readonly IAmazonSimpleSystemsManagement _amazonSsm;
    private readonly IAmazonIdentityManagementService _amazonIam;
    private readonly ILogger<AutoScalerWrapper> _logger;

    private readonly string _instanceType = "";

```

```

private readonly string _amiParam = "";
private readonly string _launchTemplateName = "";
private readonly string _groupName = "";
private readonly string _instancePolicyName = "";
private readonly string _instanceRoleName = "";
private readonly string _instanceProfileName = "";
private readonly string _badCredsProfileName = "";
private readonly string _badCredsRoleName = "";
private readonly string _badCredsPolicyName = "";
private readonly string _keyPairName = "";

public string GroupName => _groupName;
public string KeyPairName => _keyPairName;
public string LaunchTemplateName => _launchTemplateName;
public string InstancePolicyName => _instancePolicyName;
public string BadCredsProfileName => _badCredsProfileName;
public string BadCredsRoleName => _badCredsRoleName;
public string BadCredsPolicyName => _badCredsPolicyName;

/// <summary>
/// Constructor for the AutoScalerWrapper.
/// </summary>
/// <param name="amazonAutoScaling">The injected AutoScaling client.</param>
/// <param name="amazonEc2">The injected EC2 client.</param>
/// <param name="amazonIam">The injected IAM client.</param>
/// <param name="amazonSsm">The injected SSM client.</param>
public AutoScalerWrapper(
    IAmazonAutoScaling amazonAutoScaling,
    IAmazonEC2 amazonEc2,
    IAmazonSimpleSystemsManagement amazonSsm,
    IAmazonIdentityManagementService amazonIam,
    IConfiguration configuration,
    ILogger<AutoScalerWrapper> logger)
{
    _amazonAutoScaling = amazonAutoScaling;
    _amazonEc2 = amazonEc2;
    _amazonSsm = amazonSsm;
    _amazonIam = amazonIam;
    _logger = logger;

    var prefix = configuration["resourcePrefix"];
    _instanceType = configuration["instanceType"];
    _amiParam = configuration["amiParam"];

```

```

        _launchTemplateName = prefix + "-template";
        _groupName = prefix + "-group";
        _instancePolicyName = prefix + "-pol";
        _instanceRoleName = prefix + "-role";
        _instanceProfileName = prefix + "-prof";
        _badCredsPolicyName = prefix + "-bc-pol";
        _badCredsRoleName = prefix + "-bc-role";
        _badCredsProfileName = prefix + "-bc-prof";
        _keyPairName = prefix + "-key-pair";
    }

    /// <summary>
    /// Create a policy, role, and profile that is associated with instances with a
    specified name.
    /// An instance's associated profile defines a role that is assumed by the
    /// instance. The role has attached policies that specify the AWS permissions
    granted to
    /// clients that run on the instance.
    /// </summary>
    /// <param name="policyName">Name to use for the policy.</param>
    /// <param name="roleName">Name to use for the role.</param>
    /// <param name="profileName">Name to use for the profile.</param>
    /// <param name="ssmOnlyPolicyFile">Path to a policy file for SSM.</param>
    /// <param name="awsManagedPolicies">AWS Managed policies to be attached to the
    role.</param>
    /// <returns>The Arn of the profile.</returns>
    public async Task<string> CreateInstanceProfileWithName(
        string policyName,
        string roleName,
        string profileName,
        string ssmOnlyPolicyFile,
        List<string>? awsManagedPolicies = null)
    {
        var assumeRoleDoc = "{" +
            "\"Version\": \"2012-10-17\", " +
            "\"Statement\": [{" +
                "\"Effect\": \"Allow\", " +
                "\"Principal\": { " +
                "\"Service\": [ " +
                    "\"ec2.amazonaws.com\"" +
                "]" +
                "}, " +
            "\"Action\": \"sts:AssumeRole\"" +

```

```
        "}]" +
        "};";

var policyDocument = await File.ReadAllTextAsync(ssmOnlyPolicyFile);

var policyArn = "";

try
{
    var createPolicyResult = await _amazonIam.CreatePolicyAsync(
        new CreatePolicyRequest
        {
            PolicyName = policyName,
            PolicyDocument = policyDocument
        });
    policyArn = createPolicyResult.Policy.Arn;
}
catch (EntityAlreadyExistsException)
{
    // The policy already exists, so we look it up to get the Arn.
    var policiesPaginator = _amazonIam.Paginators.ListPolicies(
        new ListPoliciesRequest()
        {
            Scope = PolicyScopeType.Local
        });
    // Get the entire list using the paginator.
    await foreach (var policy in policiesPaginator.Policies)
    {
        if (policy.PolicyName.Equals(policyName))
        {
            policyArn = policy.Arn;
        }
    }

    if (policyArn == null)
    {
        throw new InvalidOperationException("Policy not found");
    }
}

try
{
    await _amazonIam.CreateRoleAsync(new CreateRoleRequest()
    {
```

```
        RoleName = roleName,
        AssumeRolePolicyDocument = assumeRoleDoc,
    });
    await _amazonIam.AttachRolePolicyAsync(new AttachRolePolicyRequest()
    {
        RoleName = roleName,
        PolicyArn = policyArn
    });
    if (awsManagedPolicies != null)
    {
        foreach (var awsPolicy in awsManagedPolicies)
        {
            await _amazonIam.AttachRolePolicyAsync(new
AttachRolePolicyRequest()
            {
                PolicyArn = $"arn:aws:iam::aws:policy/{awsPolicy}",
                RoleName = roleName
            });
        }
    }
}
catch (EntityAlreadyExistsException)
{
    Console.WriteLine("Role already exists.");
}

string profileArn = "";
try
{
    var profileCreateResponse = await _amazonIam.CreateInstanceProfileAsync(
        new CreateInstanceProfileRequest()
        {
            InstanceProfileName = profileName
        });
    // Allow time for the profile to be ready.
    profileArn = profileCreateResponse.InstanceProfile.Arn;
    Thread.Sleep(10000);
    await _amazonIam.AddRoleToInstanceProfileAsync(
        new AddRoleToInstanceProfileRequest()
        {
            InstanceProfileName = profileName,
            RoleName = roleName
        });
}
```

```

    }
    catch (EntityAlreadyExistsException)
    {
        Console.WriteLine("Policy already exists.");
        var profileGetResponse = await _amazonIam.GetInstanceProfileAsync(
            new GetInstanceProfileRequest()
            {
                InstanceProfileName = profileName
            });
        profileArn = profileGetResponse.InstanceProfile.Arn;
    }
    return profileArn;
}

/// <summary>
/// Create a new key pair and save the file.
/// </summary>
/// <param name="newKeyPairName">The name of the new key pair.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task CreateKeyPair(string newKeyPairName)
{
    try
    {
        var keyResponse = await _amazonEc2.CreateKeyPairAsync(
            new CreateKeyPairRequest() { KeyName = newKeyPairName });
        await File.WriteAllTextAsync($"{newKeyPairName}.pem",
            keyResponse.KeyPair.KeyMaterial);
        Console.WriteLine($"Created key pair {newKeyPairName}.");
    }
    catch (AlreadyExistsException)
    {
        Console.WriteLine("Key pair already exists.");
    }
}

/// <summary>
/// Delete the key pair and file by name.
/// </summary>
/// <param name="deleteKeyPairName">The key pair to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task DeleteKeyPairByName(string deleteKeyPairName)
{
    try
    {

```

```

        await _amazonEc2.DeleteKeyPairAsync(
            new DeleteKeyPairRequest() { KeyName = deleteKeyPairName });
        File.Delete($"{deleteKeyPairName}.pem");
    }
    catch (FileNotFoundException)
    {
        Console.WriteLine($"Key pair {deleteKeyPairName} not found.");
    }
}

/// <summary>
/// Creates an Amazon EC2 launch template to use with Amazon EC2 Auto Scaling.
/// The launch template specifies a Bash script in its user data field that runs
after
/// the instance is started. This script installs the Python packages and starts
a Python
/// web server on the instance.
/// </summary>
/// <param name="startupScriptPath">The path to a Bash script file that is
run.</param>
/// <param name="instancePolicyPath">The path to a permissions policy to create
and attach to the profile.</param>
/// <returns>The template object.</returns>
public async Task<Amazon.EC2.Model.LaunchTemplate> CreateTemplate(string
startupScriptPath, string instancePolicyPath)
{
    try
    {
        await CreateKeyPair(_keyPairName);
        await CreateInstanceProfileWithName(_instancePolicyName,
            _instanceRoleName,
            _instanceProfileName, instancePolicyPath);

        var startServerText = await File.ReadAllTextAsync(startupScriptPath);
        var plainTextBytes =
            System.Text.Encoding.UTF8.GetBytes(startServerText);

        var amiLatest = await _amazonSsm.GetParameterAsync(
            new GetParameterRequest() { Name = _amiParam });
        var amiId = amiLatest.Parameter.Value;
        var launchTemplateResponse = await _amazonEc2.CreateLaunchTemplateAsync(
            new CreateLaunchTemplateRequest()
            {
                LaunchTemplateName = _launchTemplateName,

```

```

        LaunchTemplateData = new RequestLaunchTemplateData()
        {
            InstanceType = _instanceType,
            ImageId = amiId,
            IamInstanceProfile =
                new

LaunchTemplateIamInstanceProfileSpecificationRequest()
            {
                Name = _instanceProfileName
            },
            KeyName = _keyPairName,
            UserData = System.Convert.ToBase64String(plainTextBytes)
        }
    });
    return launchTemplateResponse.LaunchTemplate;
}
catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
{
    if (ec2Exception.ErrorCode ==
"InvalidLaunchTemplateName.AlreadyExistsException")
    {
        _logger.LogError($"Could not create the template, the name
{_launchTemplateName} already exists. " +
            $"Please try again with a unique name.");
    }

    throw;
}
catch (Exception ex)
{
    _logger.LogError($"An error occurred while creating the template.:
{ex.Message}");
    throw;
}
}

/// <summary>
/// Get a list of Availability Zones in the AWS Region of the Amazon EC2 Client.
/// </summary>
/// <returns>A list of availability zones.</returns>
public async Task<List<string>> DescribeAvailabilityZones()
{
    try

```



```

    {
        var zoneResponse = await _amazonEc2.DescribeAvailabilityZonesAsync(
            new DescribeAvailabilityZonesRequest());
        return zoneResponse.AvailabilityZones.Select(z => z.ZoneName).ToList();
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        _logger.LogError($"An Amazon EC2 error occurred while listing
availability zones.: {ec2Exception.Message}");
        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError($"An error occurred while listing availability zones.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Create an EC2 Auto Scaling group of a specified size and name.
/// </summary>
/// <param name="groupSize">The size for the group.</param>
/// <param name="groupName">The name for the group.</param>
/// <param name="availabilityZones">The availability zones for the group.</
param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task CreateGroupOfSize(int groupSize, string groupName,
List<string> availabilityZones)
{
    try
    {
        await _amazonAutoScaling.CreateAutoScalingGroupAsync(
            new CreateAutoScalingGroupRequest()
            {
                AutoScalingGroupName = groupName,
                AvailabilityZones = availabilityZones,
                LaunchTemplate =
                    new Amazon.AutoScaling.Model.LaunchTemplateSpecification()
                    {
                        LaunchTemplateName = _launchTemplateName,
                        Version = "$Default"
                    },
                MaxSize = groupSize,
            }
        );
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError($"An error occurred while creating an EC2 Auto Scaling
group.: {ex.Message}");
        throw;
    }
}

```

```

        MinSize = groupSize
    });
    Console.WriteLine($"Created EC2 Auto Scaling group {groupName} with size
{groupSize}.");
}
catch (EntityAlreadyExistsException)
{
    Console.WriteLine($"EC2 Auto Scaling group {groupName} already
exists.");
}
}

/// <summary>
/// Get the default VPC for the account.
/// </summary>
/// <returns>The default VPC object.</returns>
public async Task<Vpc> GetDefaultVpc()
{
    try
    {
        var vpcResponse = await _amazonEc2.DescribeVpcsAsync(
            new DescribeVpcsRequest()
            {
                Filters = new List<Amazon.EC2.Model.Filter>()
                {
                    new("is-default", new List<string>() { "true" })
                }
            });
        return vpcResponse.Vpcs[0];
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "UnauthorizedOperation")
        {
            _logger.LogError(ec2Exception, $"You do not have the necessary
permissions to describe VPCs.");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(ex, $"An error occurred while describing the vpcs.:
{ex.Message}");
    }
}

```

```

        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Get all the subnets for a Vpc in a set of availability zones.
/// </summary>
/// <param name="vpcId">The Id of the Vpc.</param>
/// <param name="availabilityZones">The list of availability zones.</param>
/// <returns>The collection of subnet objects.</returns>
public async Task<List<Subnet>> GetAllVpcSubnetsForZones(string vpcId,
List<string> availabilityZones)
{
    try
    {
        var subnets = new List<Subnet>();
        var subnetPaginator = _amazonEc2.Paginators.DescribeSubnets(
            new DescribeSubnetsRequest()
            {
                Filters = new List<Amazon.EC2.Model.Filter>()
                {
                    new("vpc-id", new List<string>() { vpcId }),
                    new("availability-zone", availabilityZones),
                    new("default-for-az", new List<string>() { "true" })
                }
            });

        // Get the entire list using the paginator.
        await foreach (var subnet in subnetPaginator.Subnets)
        {
            subnets.Add(subnet);
        }

        return subnets;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidVpcID.NotFound")
        {
            _logger.LogError(ec2Exception, $"The specified VPC ID {vpcId} does
not exist.");
        }

        throw;
    }
}

```

```

    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(ex, $"An error occurred while describing the subnets.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Delete a launch template by name.
/// </summary>
/// <param name="templateName">The name of the template to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task DeleteTemplateByName(string templateName)
{
    try
    {
        await _amazonEc2.DeleteLaunchTemplateAsync(
            new DeleteLaunchTemplateRequest()
            {
                LaunchTemplateName = templateName
            });
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode ==
"InvalidLaunchTemplateName.NotFoundException")
        {
            _logger.LogError(
                $"Could not delete the template, the name {_launchTemplateName}
was not found.");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError($"An error occurred while deleting the template.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}

```

```

/// <summary>
/// Detaches a role from an instance profile, detaches policies from the role,
/// and deletes all the resources.
/// </summary>
/// <param name="profileName">The name of the profile to delete.</param>
/// <param name="roleName">The name of the role to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task DeleteInstanceProfile(string profileName, string roleName)
{
    try
    {
        await _amazonIam.RemoveRoleFromInstanceProfileAsync(
            new RemoveRoleFromInstanceProfileRequest()
            {
                InstanceProfileName = profileName,
                RoleName = roleName
            });
        await _amazonIam.DeleteInstanceProfileAsync(
            new DeleteInstanceProfileRequest() { InstanceProfileName =
profileName });
        var attachedPolicies = await _amazonIam.ListAttachedRolePoliciesAsync(
            new ListAttachedRolePoliciesRequest() { RoleName = roleName });
        foreach (var policy in attachedPolicies.AttachedPolicies)
        {
            await _amazonIam.DetachRolePolicyAsync(
                new DetachRolePolicyRequest()
                {
                    RoleName = roleName,
                    PolicyArn = policy.PolicyArn
                });
            // Delete the custom policies only.
            if (!policy.PolicyArn.StartsWith("arn:aws:iam::aws"))
            {
                await _amazonIam.DeletePolicyAsync(
                    new Amazon.IdentityManagement.Model.DeletePolicyRequest()
                    {
                        PolicyArn = policy.PolicyArn
                    });
            }
        }

        await _amazonIam.DeleteRoleAsync(
            new DeleteRoleRequest() { RoleName = roleName });
    }
}

```

```

        catch (NoSuchEntityException)
        {
            Console.WriteLine($"Instance profile {profileName} does not exist.");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Gets data about the instances in an EC2 Auto Scaling group by its group
    name.
    /// </summary>
    /// <param name="group">The name of the auto scaling group.</param>
    /// <returns>A collection of instance Ids.</returns>
    public async Task<IEnumerable<string>> GetInstancesByGroupName(string group)
    {
        var instanceResponse = await
        _amazonAutoScaling.DescribeAutoScalingGroupsAsync(
            new DescribeAutoScalingGroupsRequest()
            {
                AutoScalingGroupNames = new List<string>() { group }
            });
        var instanceIds = instanceResponse.AutoScalingGroups.SelectMany(
            g => g.Instances.Select(i => i.InstanceId));
        return instanceIds;
    }

    /// <summary>
    /// Get the instance profile association data for an instance.
    /// </summary>
    /// <param name="instanceId">The Id of the instance.</param>
    /// <returns>Instance profile associations data.</returns>
    public async Task<IamInstanceProfileAssociation> GetInstanceProfile(string
    instanceId)
    {
        try
        {
            var response = await
            _amazonEc2.DescribeIamInstanceProfileAssociationsAsync(
                new DescribeIamInstanceProfileAssociationsRequest()
                {
                    Filters = new List<Amazon.EC2.Model.Filter>()
                    {
                        new("instance-id", new List<string>() { instanceId })
                    },
                });
        }
    }

```

```

        return response.IamInstanceProfileAssociations[0];
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceID.NotFound")
        {
            _logger.LogError(ec2Exception, $"Instance {instanceId} not found");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(ex, $"An error occurred while creating the template.: {ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Replace the profile associated with a running instance. After the profile is
replaced, the instance
/// is rebooted to ensure that it uses the new profile. When the instance is
ready, Systems Manager is
/// used to restart the Python web server.
/// </summary>
/// <param name="instanceId">The Id of the instance to update.</param>
/// <param name="credsProfileName">The name of the new profile to associate with
the specified instance.</param>
/// <param name="associationId">The Id of the existing profile association for
the instance.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task ReplaceInstanceProfile(string instanceId, string
credsProfileName, string associationId)
{
    try
    {
        await _amazonEc2.ReplaceIamInstanceProfileAssociationAsync(
            new ReplaceIamInstanceProfileAssociationRequest()
            {
                AssociationId = associationId,
                IamInstanceProfile = new IamInstanceProfileSpecification()
                {
                    Name = credsProfileName
                }
            }
        );
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(ex, $"An error occurred while replacing the profile.: {ex.Message}");
        throw;
    }
}

```

```

        }
    });
    // Allow time before resetting.
    Thread.Sleep(25000);

    await _amazonEc2.RebootInstancesAsync(
        new RebootInstancesRequest(new List<string>() { instanceId }));
    Thread.Sleep(25000);
    var instanceReady = false;
    var retries = 5;
    while (retries-- > 0 && !instanceReady)
    {
        var instancesPaginator =
            _amazonSsm.Paginators.DescribeInstanceInformation(
                new DescribeInstanceInformationRequest());
        // Get the entire list using the paginator.
        await foreach (var instance in
instancesPaginator.InstanceInformationList)
        {
            instanceReady = instance.InstanceId == instanceId;
            if (instanceReady)
            {
                break;
            }
        }
    }
    Console.WriteLine("Waiting for instance to be running.");
    await WaitForInstanceState(instanceId, InstanceStateName.Running);
    Console.WriteLine("Instance ready.");
    Console.WriteLine($"Sending restart command to instance {instanceId}");
    await _amazonSsm.SendCommandAsync(
        new SendCommandRequest()
        {
            InstanceIds = new List<string>() { instanceId },
            DocumentName = "AWS-RunShellScript",
            Parameters = new Dictionary<string, List<string>>()
            {
                {
                    "commands",
                    new List<string>() { "cd / && sudo python3 server.py
80" }
                }
            }
        }
    });

```



```

        Console.WriteLine($"Restarted the web server on instance {instanceId}");
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceID.NotFound")
        {
            _logger.LogError(ec2Exception, $"Instance {instanceId} not found");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(ex, $"An error occurred while replacing the template.: {ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Try to terminate an instance by its Id.
/// </summary>
/// <param name="instanceId">The Id of the instance to terminate.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task TryTerminateInstanceById(string instanceId)
{
    var stopping = false;
    Console.WriteLine($"Stopping {instanceId}...");
    while (!stopping)
    {
        try
        {
            await _amazonAutoScaling.TerminateInstanceInAutoScalingGroupAsync(
                new TerminateInstanceInAutoScalingGroupRequest()
                {
                    InstanceId = instanceId,
                    ShouldDecrementDesiredCapacity = false
                });
            stopping = true;
        }
        catch (ScalingActivityInProgressException)
        {
            Console.WriteLine($"Scaling activity in progress for {instanceId}. Waiting...");
        }
    }
}

```

```

        Thread.Sleep(10000);
    }
}

/// <summary>
/// Tries to delete the EC2 Auto Scaling group. If the group is in use or in
progress,
/// waits and retries until the group is successfully deleted.
/// </summary>
/// <param name="groupName">The name of the group to try to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task TryDeleteGroupByName(string groupName)
{
    var stopped = false;
    while (!stopped)
    {
        try
        {
            await _amazonAutoScaling.DeleteAutoScalingGroupAsync(
                new DeleteAutoScalingGroupRequest()
                {
                    AutoScalingGroupName = groupName
                });
            stopped = true;
        }
        catch (Exception e)
            when ((e is ScalingActivityInProgressException)
                || (e is Amazon.AutoScaling.Model.ResourceInUseException))
        {
            Console.WriteLine($"Some instances are still running. Waiting...");
            Thread.Sleep(10000);
        }
    }
}

/// <summary>
/// Terminate instances and delete the Auto Scaling group by name.
/// </summary>
/// <param name="groupName">The name of the group to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task TerminateAndDeleteAutoScalingGroupWithName(string groupName)
{

```

```

        var describeGroupsResponse = await
        _amazonAutoScaling.DescribeAutoScalingGroupsAsync(
            new DescribeAutoScalingGroupsRequest()
            {
                AutoScalingGroupNames = new List<string>() { groupName }
            });
        if (describeGroupsResponse.AutoScalingGroups.Any())
        {
            // Update the size to 0.
            await _amazonAutoScaling.UpdateAutoScalingGroupAsync(
                new UpdateAutoScalingGroupRequest()
                {
                    AutoScalingGroupName = groupName,
                    MinSize = 0
                });
            var group = describeGroupsResponse.AutoScalingGroups[0];
            foreach (var instance in group.Instances)
            {
                await TryTerminateInstanceById(instance.InstanceId);
            }

            await TryDeleteGroupByName(groupName);
        }
        else
        {
            Console.WriteLine($"No groups found with name {groupName}.");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Get the default security group for a specified Vpc.
    /// </summary>
    /// <param name="vpc">The Vpc to search.</param>
    /// <returns>The default security group.</returns>
    public async Task<SecurityGroup> GetDefaultSecurityGroupForVpc(Vpc vpc)
    {
        var groupResponse = await _amazonEc2.DescribeSecurityGroupsAsync(
            new DescribeSecurityGroupsRequest()
            {
                Filters = new List<Amazon.EC2.Model.Filter>()
                {
                    new ("group-name", new List<string>() { "default" }),
                    new ("vpc-id", new List<string>() { vpc.VpcId })
                }
            }
        );
    }

```

```

    }
    });
    return groupResponse.SecurityGroups[0];
}

/// <summary>
/// Verify the default security group of a Vpc allows ingress from the calling
computer.
/// This can be done by allowing ingress from this computer's IP address.
/// In some situations, such as connecting from a corporate network, you must
instead specify
/// a prefix list Id. You can also temporarily open the port to any IP address
while running this example.
/// If you do, be sure to remove public access when you're done.
/// </summary>
/// <param name="vpc">The group to check.</param>
/// <param name="port">The port to verify.</param>
/// <param name="ipAddress">This computer's IP address.</param>
/// <returns>True if the ip address is allowed on the group.</returns>
public bool VerifyInboundPortForGroup(SecurityGroup group, int port, string
ipAddress)
{
    var portIsOpen = false;
    foreach (var ipPermission in group.IpPermissions)
    {
        if (ipPermission.FromPort == port)
        {
            foreach (var ipRange in ipPermission.Ipv4Ranges)
            {
                var cidr = ipRange.CidrIp;
                if (cidr.StartsWith(ipAddress) || cidr == "0.0.0.0/0")
                {
                    portIsOpen = true;
                }
            }

            if (ipPermission.PrefixListIds.Any())
            {
                portIsOpen = true;
            }

            if (!portIsOpen)
            {

```

```

        Console.WriteLine("The inbound rule does not appear to be open
to either this computer's IP\n" +
                           "address, to all IP addresses (0.0.0.0/0), or
to a prefix list ID.");
    }
    else
    {
        break;
    }
}

return portIsOpen;
}

/// <summary>
/// Add an ingress rule to the specified security group that allows access on
the
/// specified port from the specified IP address.
/// </summary>
/// <param name="groupId">The Id of the security group to modify.</param>
/// <param name="port">The port to open.</param>
/// <param name="ipAddress">The IP address to allow access.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task OpenInboundPort(string groupId, int port, string ipAddress)
{
    await _amazonEc2.AuthorizeSecurityGroupIngressAsync(
        new AuthorizeSecurityGroupIngressRequest()
        {
            GroupId = groupId,
            IpPermissions = new List<IpPermission>()
            {
                new IpPermission()
                {
                    FromPort = port,
                    ToPort = port,
                    IpProtocol = "tcp",
                    Ipv4Ranges = new List<IpRange>()
                    {
                        new IpRange() { CidrIp = $"{ipAddress}/32" }
                    }
                }
            }
        });
}

```

```

    }

    /// <summary>
    /// Attaches an Elastic Load Balancing (ELB) target group to this EC2 Auto
    Scaling group.
    /// The
    /// </summary>
    /// <param name="autoScalingGroupName">The name of the Auto Scaling group.</
param>
    /// <param name="targetGroupArn">The Arn for the target group.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task AttachLoadBalancerToGroup(string autoScalingGroupName, string
targetGroupArn)
    {
        await _amazonAutoScaling.AttachLoadBalancerTargetGroupsAsync(
            new AttachLoadBalancerTargetGroupsRequest()
            {
                AutoScalingGroupName = autoScalingGroupName,
                TargetGroupARNs = new List<string>() { targetGroupArn }
            });
    }

    /// <summary>
    /// Wait until an EC2 instance is in a specified state.
    /// </summary>
    /// <param name="instanceId">The instance Id.</param>
    /// <param name="stateName">The state to wait for.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> WaitForInstanceState(string instanceId,
InstanceStateName stateName)
    {
        var request = new DescribeInstancesRequest
        {
            InstanceIds = new List<string> { instanceId }
        };

        // Wait until the instance is in the specified state.
        var hasState = false;
        do
        {
            // Wait 5 seconds.
            Thread.Sleep(5000);

            // Check for the desired state.

```

```

        var response = await _amazonEc2.DescribeInstancesAsync(request);
        var instance = response.Reservations[0].Instances[0];
        hasState = instance.State.Name == stateName;
        Console.WriteLine(". ");
    } while (!hasState);

    return hasState;
}
}

```

Elastic Load Balancing のアクションをラップするクラスを作成します。

```

/// <summary>
/// Encapsulates Elastic Load Balancer actions.
/// </summary>
public class ElasticLoadBalancerWrapper
{
    private readonly IAmazonElasticLoadBalancingV2 _amazonElasticLoadBalancingV2;
    private string? _endpoint = null;
    private readonly string _targetGroupName = "";
    private readonly string _loadBalancerName = "";
    HttpClient _httpClient = new();

    public string TargetGroupName => _targetGroupName;
    public string LoadBalancerName => _loadBalancerName;

    /// <summary>
    /// Constructor for the Elastic Load Balancer wrapper.
    /// </summary>
    /// <param name="amazonElasticLoadBalancingV2">The injected load balancing v2
client.</param>
    /// <param name="configuration">The injected configuration.</param>
    public ElasticLoadBalancerWrapper(
        IAmazonElasticLoadBalancingV2 amazonElasticLoadBalancingV2,
        IConfiguration configuration)
    {
        _amazonElasticLoadBalancingV2 = amazonElasticLoadBalancingV2;
        var prefix = configuration["resourcePrefix"];
        _targetGroupName = prefix + "-tg";
        _loadBalancerName = prefix + "-lb";
    }
}

```

```

    /// <summary>
    /// Get the HTTP Endpoint of a load balancer by its name.
    /// </summary>
    /// <param name="loadBalancerName">The name of the load balancer.</param>
    /// <returns>The HTTP endpoint.</returns>
    public async Task<string> GetEndpointForLoadBalancerByName(string
loadBalancerName)
    {
        if (_endpoint == null)
        {
            var endpointResponse =
                await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeLoadBalancersAsync(
                    new DescribeLoadBalancersRequest()
                    {
                        Names = new List<string>() { loadBalancerName }
                    });
            _endpoint = endpointResponse.LoadBalancers[0].DNSName;
        }

        return _endpoint;
    }

    /// <summary>
    /// Return the GET response for an endpoint as text.
    /// </summary>
    /// <param name="endpoint">The endpoint for the request.</param>
    /// <returns>The request response.</returns>
    public async Task<string> GetEndPointResponse(string endpoint)
    {
        var endpointResponse = await _httpClient.GetAsync($"http://{endpoint}");
        var textResponse = await endpointResponse.Content.ReadAsStringAsync();
        return textResponse!;
    }

    /// <summary>
    /// Get the target health for a group by name.
    /// </summary>
    /// <param name="groupName">The name of the group.</param>
    /// <returns>The collection of health descriptions.</returns>
    public async Task<List<TargetHealthDescription>>
CheckTargetHealthForGroup(string groupName)
    {
        List<TargetHealthDescription> result = null!;

```



```

        try
        {
            var groupResponse =
                await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeTargetGroupsAsync(
                    new DescribeTargetGroupsRequest()
                    {
                        Names = new List<string>() { groupName }
                    });
            var healthResponse =
                await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeTargetHealthAsync(
                    new DescribeTargetHealthRequest()
                    {
                        TargetGroupArn =
groupResponse.TargetGroups[0].TargetGroupArn
                    });
            ;
            result = healthResponse.TargetHealthDescriptions;
        }
        catch (TargetGroupNotFoundException)
        {
            Console.WriteLine($"Target group {groupName} not found.");
        }
        return result;
    }

    /// <summary>
    /// Create an Elastic Load Balancing target group. The target group specifies
    how the load balancer forwards
    /// requests to instances in the group and how instance health is checked.
    ///
    /// To speed up this demo, the health check is configured with shortened times
    and lower thresholds. In production,
    /// you might want to decrease the sensitivity of your health checks to avoid
    unwanted failures.
    /// </summary>
    /// <param name="groupName">The name for the group.</param>
    /// <param name="protocol">The protocol, such as HTTP.</param>
    /// <param name="port">The port to use to forward requests, such as 80.</param>
    /// <param name="vpcId">The Id of the Vpc in which the load balancer exists.</
param>
    /// <returns>The new TargetGroup object.</returns>
    public async Task<TargetGroup> CreateTargetGroupOnVpc(string groupName,
        ProtocolEnum protocol, int port, string vpcId)
    {

```

```

        var createResponse = await
        _amazonElasticLoadBalancingV2.CreateTargetGroupAsync(
            new CreateTargetGroupRequest()
            {
                Name = groupName,
                Protocol = protocol,
                Port = port,
                HealthCheckPath = "/healthcheck",
                HealthCheckIntervalSeconds = 10,
                HealthCheckTimeoutSeconds = 5,
                HealthyThresholdCount = 2,
                UnhealthyThresholdCount = 2,
                VpcId = vpcId
            });
        var targetGroup = createResponse.TargetGroups[0];
        return targetGroup;
    }

    /// <summary>
    /// Create an Elastic Load Balancing load balancer that uses the specified
    subnets
    /// and forwards requests to the specified target group.
    /// </summary>
    /// <param name="name">The name for the new load balancer.</param>
    /// <param name="subnetIds">Subnets for the load balancer.</param>
    /// <param name="targetGroup">Target group for forwarded requests.</param>
    /// <returns>The new LoadBalancer object.</returns>
    public async Task<LoadBalancer> CreateLoadBalancerAndListener(string name,
        List<string> subnetIds, TargetGroup targetGroup)
    {
        var createLbResponse = await
        _amazonElasticLoadBalancingV2.CreateLoadBalancerAsync(
            new CreateLoadBalancerRequest()
            {
                Name = name,
                Subnets = subnetIds
            });
        var loadBalancerArn = createLbResponse.LoadBalancers[0].LoadBalancerArn;

        // Wait for load balancer to be available.
        var loadBalancerReady = false;
        while (!loadBalancerReady)
        {
            try

```

```

        {
            var describeResponse =
                await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeLoadBalancersAsync(
                    new DescribeLoadBalancersRequest()
                    {
                        Names = new List<string>() { name }
                    });

            var loadBalancerState =
describeResponse.LoadBalancers[0].State.Code;

            loadBalancerReady = loadBalancerState ==
LoadBalancerStateEnum.Active;
        }
        catch (LoadBalancerNotFoundException)
        {
            loadBalancerReady = false;
        }
        Thread.Sleep(10000);
    }
    // Create the listener.
    await _amazonElasticLoadBalancingV2.CreateListenerAsync(
        new CreateListenerRequest()
        {
            LoadBalancerArn = loadBalancerArn,
            Protocol = targetGroup.Protocol,
            Port = targetGroup.Port,
            DefaultActions = new List<Action>()
            {
                new Action()
                {
                    Type = ActionTypeEnum.Forward,
                    TargetGroupArn = targetGroup.TargetGroupArn
                }
            }
        });
    return createLbResponse.LoadBalancers[0];
}

/// <summary>
/// Verify this computer can successfully send a GET request to the
/// load balancer endpoint.
/// </summary>
/// <param name="endpoint">The endpoint to check.</param>

```

```

    /// <returns>True if successful.</returns>
    public async Task<bool> VerifyLoadBalancerEndpoint(string endpoint)
    {
        var success = false;
        var retries = 3;
        while (!success && retries > 0)
        {
            try
            {
                var endpointResponse = await _httpClient.GetAsync($"http://{
{endpoint}");
                Console.WriteLine($"Response: {endpointResponse.StatusCode}.");

                if (endpointResponse.IsSuccessStatusCode)
                {
                    success = true;
                }
                else
                {
                    retries = 0;
                }
            }
            catch (HttpRequestException)
            {
                Console.WriteLine("Connection error, retrying...");
                retries--;
                Thread.Sleep(10000);
            }
        }

        return success;
    }

    /// <summary>
    /// Delete a load balancer by its specified name.
    /// </summary>
    /// <param name="name">The name of the load balancer to delete.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task DeleteLoadBalancerByName(string name)
    {
        try
        {
            var describeLoadBalancerResponse =
                await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeLoadBalancersAsync(

```

```

        new DescribeLoadBalancersRequest()
        {
            Names = new List<string>() { name }
        });
    var lbArn =
describeLoadBalancerResponse.LoadBalancers[0].LoadBalancerArn;
    await _amazonElasticLoadBalancingV2.DeleteLoadBalancerAsync(
        new DeleteLoadBalancerRequest()
        {
            LoadBalancerArn = lbArn
        }
    );
}
catch (LoadBalancerNotFoundException)
{
    Console.WriteLine($"Load balancer {name} not found.");
}
}

/// <summary>
/// Delete a TargetGroup by its specified name.
/// </summary>
/// <param name="groupName">Name of the group to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task DeleteTargetGroupByName(string groupName)
{
    var done = false;
    while (!done)
    {
        try
        {
            var groupResponse =
                await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeTargetGroupsAsync(
                    new DescribeTargetGroupsRequest()
                    {
                        Names = new List<string>() { groupName }
                    });

            var targetArn = groupResponse.TargetGroups[0].TargetGroupArn;
            await _amazonElasticLoadBalancingV2.DeleteTargetGroupAsync(
                new DeleteTargetGroupRequest() { TargetGroupArn = targetArn });
            Console.WriteLine($"Deleted load balancing target group
{groupName}.");
            done = true;
        }
        catch (TargetGroupNotFoundException)
        {
            Console.WriteLine($"Target group {groupName} not found.");
        }
    }
}

```

```

    }
    catch (TargetGroupNotFoundException)
    {
        Console.WriteLine(
            $"Target group {groupName} not found, could not delete.");
        done = true;
    }
    catch (ResourceInUseException)
    {
        Console.WriteLine("Target group not yet released, waiting...");
        Thread.Sleep(10000);
    }
}
}
}

```

DynamoDB を使用してレコメンデーションサービスをシミュレートするクラスを作成します。

```

/// <summary>
/// Encapsulates a DynamoDB table to use as a service that recommends books, movies,
/// and songs.
/// </summary>
public class Recommendations
{
    private readonly IAmazonDynamoDB _amazonDynamoDb;
    private readonly DynamoDBContext _context;
    private readonly string _tableName;

    public string TableName => _tableName;

    /// <summary>
    /// Constructor for the Recommendations service.
    /// </summary>
    /// <param name="amazonDynamoDb">The injected DynamoDb client.</param>
    /// <param name="configuration">The injected configuration.</param>
    public Recommendations(IAmazonDynamoDB amazonDynamoDb, IConfiguration
configuration)
    {
        _amazonDynamoDb = amazonDynamoDb;
        _context = new DynamoDBContext(_amazonDynamoDb);
        _tableName = configuration["databaseName"]!;
    }
}

```

```
/// <summary>
/// Create the DynamoDb table with a specified name.
/// </summary>
/// <param name="tableName">The name for the table.</param>
/// <returns>True when ready.</returns>
public async Task<bool> CreateDatabaseWithName(string tableName)
{
    try
    {
        Console.WriteLine($"Creating table {tableName}...");
        var createRequest = new CreateTableRequest()
        {
            TableName = tableName,
            AttributeDefinitions = new List<AttributeDefinition>()
            {
                new AttributeDefinition()
                {
                    AttributeName = "MediaType",
                    AttributeType = ScalarAttributeType.S
                },
                new AttributeDefinition()
                {
                    AttributeName = "ItemId",
                    AttributeType = ScalarAttributeType.N
                }
            },
            KeySchema = new List<KeySchemaElement>()
            {
                new KeySchemaElement()
                {
                    AttributeName = "MediaType",
                    KeyType = KeyType.HASH
                },
                new KeySchemaElement()
                {
                    AttributeName = "ItemId",
                    KeyType = KeyType.RANGE
                }
            },
            ProvisionedThroughput = new ProvisionedThroughput()
            {
                ReadCapacityUnits = 5,
                WriteCapacityUnits = 5
            }
        }
    }
}
```

```

        }
    };
    await _amazonDynamoDb.CreateTableAsync(createRequest);

    // Wait until the table is ACTIVE and then report success.
    Console.WriteLine("\nWaiting for table to become active...");

    var request = new DescribeTableRequest
    {
        TableName = tableName
    };

    TableStatus status;
    do
    {
        Thread.Sleep(2000);

        var describeTableResponse = await
        _amazonDynamoDb.DescribeTableAsync(request);
        status = describeTableResponse.Table.TableStatus;

        Console.WriteLine(".");
    }
    while (status != "ACTIVE");

    return status == TableStatus.ACTIVE;
}
catch (ResourceInUseException)
{
    Console.WriteLine($"Table {tableName} already exists.");
    return false;
}
}

/// <summary>
/// Populate the database table with data from a specified path.
/// </summary>
/// <param name="databaseTableName">The name of the table.</param>
/// <param name="recommendationsPath">The path of the recommendations data.</
param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task PopulateDatabase(string databaseTableName, string
recommendationsPath)
{

```



```

        var recommendationsText = await File.ReadAllTextAsync(recommendationsPath);
        var records =
            JsonSerializer.Deserialize<RecommendationModel[]>(recommendationsText);
        var batchWrite = _context.CreateBatchWrite<RecommendationModel>();

        foreach (var record in records!)
        {
            batchWrite.AddPutItem(record);
        }

        await batchWrite.ExecuteAsync();
    }

    /// <summary>
    /// Delete the recommendation table by name.
    /// </summary>
    /// <param name="tableName">The name of the recommendation table.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task DestroyDatabaseByName(string tableName)
    {
        try
        {
            await _amazonDynamoDb.DeleteTableAsync(
                new DeleteTableRequest() { TableName = tableName });
            Console.WriteLine($"Table {tableName} was deleted.");
        }
        catch (ResourceNotFoundException)
        {
            Console.WriteLine($"Table {tableName} not found");
        }
    }
}

```

Systems Manager のアクションをラップするクラスを作成します。

```

/// <summary>
/// Encapsulates Systems Manager parameter operations. This example uses these
parameters
/// to drive the demonstration of resilient architecture, such as failure of a
dependency or
/// how the service responds to a health check.
/// </summary>

```

```

public class SmParameterWrapper
{
    private readonly IAmazonSimpleSystemsManagement _amazonSimpleSystemsManagement;

    private readonly string _tableParameter = "doc-example-resilient-architecture-
table";
    private readonly string _failureResponseParameter = "doc-example-resilient-
architecture-failure-response";
    private readonly string _healthCheckParameter = "doc-example-resilient-
architecture-health-check";
    private readonly string _tableName = "";

    public string TableParameter => _tableParameter;
    public string TableName => _tableName;
    public string HealthCheckParameter => _healthCheckParameter;
    public string FailureResponseParameter => _failureResponseParameter;

    /// <summary>
    /// Constructor for the SmParameterWrapper.
    /// </summary>
    /// <param name="amazonSimpleSystemsManagement">The injected Simple Systems
Management client.</param>
    /// <param name="configuration">The injected configuration.</param>
    public SmParameterWrapper(IAmazonSimpleSystemsManagement
amazonSimpleSystemsManagement, IConfiguration configuration)
    {
        _amazonSimpleSystemsManagement = amazonSimpleSystemsManagement;
        _tableName = configuration["databaseName"]!;
    }

    /// <summary>
    /// Reset the Systems Manager parameters to starting values for the demo.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task Reset()
    {
        await this.PutParameterByName(_tableParameter, _tableName);
        await this.PutParameterByName(_failureResponseParameter, "none");
        await this.PutParameterByName(_healthCheckParameter, "shallow");
    }

    /// <summary>
    /// Set the value of a named Systems Manager parameter.
    /// </summary>

```

```
/// <param name="name">The name of the parameter.</param>
/// <param name="value">The value to set.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task PutParameterByName(string name, string value)
{
    await _amazonSimpleSystemsManagement.PutParameterAsync(
        new PutParameterRequest() { Name = name, Value = value, Overwrite =
true });
}
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。

- [AttachLoadBalancerTargetGroups](#)
- [CreateAutoScalingGroup](#)
- [CreateInstanceProfile](#)
- [CreateLaunchTemplate](#)
- [CreateListener](#)
- [CreateLoadBalancer](#)
- [CreateTargetGroup](#)
- [DeleteAutoScalingGroup](#)
- [DeleteInstanceProfile](#)
- [DeleteLaunchTemplate](#)
- [DeleteLoadBalancer](#)
- [DeleteTargetGroup](#)
- [DescribeAutoScalingGroups](#)
- [DescribeAvailabilityZones](#)
- [DescribeIamInstanceProfileAssociations](#)
- [DescribeInstances](#)
- [DescribeLoadBalancers](#)
- [DescribeSubnets](#)
- [DescribeTargetGroups](#)

- [DescribeVpcs](#)
- [RebootInstances](#)
- [ReplacelamInstanceProfileAssociation](#)
- [TerminateInstanceInAutoScalingGroup](#)
- [UpdateAutoScalingGroup](#)

を使用した Amazon ECS の例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon ECS AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)
- [シナリオ](#)

アクション

ListClusters

次のコード例は、ListClusters を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List cluster ARNs available.
/// </summary>
/// <returns>The ARN list of clusters.</returns>
public async Task<List<string>> GetClusterARNsAsync()
{
    Console.WriteLine("Getting a list of all the clusters in your AWS
account...");
    List<string> clusterArnList = new List<string>();
    // Get a list of all the clusters in your AWS account
    try
    {
        var listClustersResponse = _ecsClient.Paginators.ListClusters(new
ListClustersRequest
        {
        });

        var clusterArns = listClustersResponse.ClusterArns;

        // Print the ARNs of the clusters
        await foreach (var clusterArn in clusterArns)
        {
            clusterArnList.Add(clusterArn);
        }

        if (clusterArnList.Count == 0)
        {
            _logger.LogWarning("No clusters found in your AWS account.");
        }
        return clusterArnList;
    }
    catch (Exception e)
    {
        _logger.LogError($"An error occurred while getting a list of all the
clusters in your AWS account. {e.InnerException}");
        throw new Exception($"An error occurred while getting a list of all the
clusters in your AWS account. {e.InnerException}");
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListClusters](#)」を参照してください。

ListServices

次のコード例は、ListServices を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List service ARNs available.
/// </summary>
/// <param name="clusterARN">The arn of the ECS cluster.</param>
/// <returns>The ARN list of services in given cluster.</returns>
public async Task<List<string>> GetServiceARNsAsync(string clusterARN)
{
    List<string> serviceArns = new List<string>();

    var request = new ListServicesRequest
    {
        Cluster = clusterARN
    };
    // Call the ListServices API operation and get the list of service ARNs
    var serviceList = _ecsClient.Paginators.ListServices(request);

    await foreach (var serviceARN in serviceList.ServiceArns)
    {
        if (serviceARN is null)
            continue;

        serviceArns.Add(serviceARN);
    }

    if (serviceArns.Count == 0)
    {
        _logger.LogWarning($"No services found in cluster {clusterARN} .");
    }
}
```

```
    }  
  
    return serviceArns;  
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListServices](#)」を参照してください。

ListTasks

次のコード例は、ListTasks を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>  
/// List task ARNs available.  
/// </summary>  
/// <param name="clusterARN">The arn of the ECS cluster.</param>  
/// <returns>The ARN list of tasks in given cluster.</returns>  
public async Task<List<string>> GetTaskARNsAsync(string clusterARN)  
{  
    // Set up the request to describe the tasks in the service  
    var listTasksRequest = new ListTasksRequest  
    {  
        Cluster = clusterARN  
    };  
    List<string> taskArns = new List<string>();  
  
    // Call the ListTasks API operation and get the list of task ARNs  
    var tasks = _ecsClient.Paginators.ListTasks(listTasksRequest);  
  
    await foreach (var task in tasks.TaskArns)  
    {  
        if (task is null)
```

```
        continue;

        taskArns.Add(task);
    }

    if (taskArns.Count == 0)
    {
        _logger.LogWarning("No tasks found in cluster: " + clusterARN);
    }

    return taskArns;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListTasks](#)」を参照してください。

シナリオ

クラスター、サービス、タスクの ARN 情報を取得する

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- すべてのクラスターのリストを取得する。
- クラスターのサービスを取得する。
- クラスターのタスクを取得する。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

コマンドプロンプトからインタラクティブなシナリオを実行します。

```
using Amazon.ECS;
using ECSActions;
```



```

using Microsoft.Extensions.Hosting;
using Microsoft.Extensions.Logging;
using Microsoft.Extensions.Logging.Console;
using Microsoft.Extensions.Logging.Debug;

namespace ECSScenario;

public class ECSScenario
{
    /*
        Before running this .NET code example, set up your development environment,
        including your credentials.

        This .NET example performs the following tasks:
        1. List ECS Cluster ARNs.
        2. List services in every cluster
        3. List Task ARNs in every cluster.
    */

    private static ILogger logger = null!;
    private static ECSWrapper _ecsWrapper = null!;

    static async Task Main(string[] args)
    {
        // Set up dependency injection for the Amazon service.
        using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
            .ConfigureLogging(logging =>
                logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
                    .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
LogLevel.Information)
                    .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
            .Build();

        ILoggerFactory loggerFactory = LoggerFactory.Create(builder =>
        {
            builder.AddConsole();
        });

        logger = LoggerFactory.Create(builder => { builder.AddConsole(); })
            .CreateLogger<ECSScenario>();

        var loggerECSWrapper = LoggerFactory.Create(builder =>
        { builder.AddConsole(); })

```

```

        .CreateLogger<ECSWrapper>());

    var amazonECSClient = new AmazonECSClient();

    _ecsWrapper = new ECSWrapper(amazonECSClient, loggerECSWarpper);

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("Welcome to the Amazon ECS example scenario.");
    Console.WriteLine(new string('-', 80));

    try
    {
        await ListClusterARNs();
        await ListServiceARNs();
        await ListTaskARNs();

    }
    catch (Exception ex)
    {
        logger.LogError(ex, "There was a problem executing the scenario.");
    }
}

/// <summary>
/// List ECS Cluster ARNs
/// </summary>
private static async Task ListClusterARNs()
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine($"1. List Cluster ARNs from ECS.");
    var arns = await _ecsWrapper.GetClusterARNsAsync();

    foreach (var arn in arns)
    {
        Console.WriteLine($"Cluster arn: {arn}");
        Console.WriteLine($"Cluster name: {arn.Split("/").Last()}");
    }

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
}

/// <summary>
/// List services in every cluster

```

```

    /// </summary>
    private static async Task ListServiceARNs()
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"2. List Service ARNs in every cluster.");
        var clusterARNs = await _ecsWrapper.GetClusterARNsAsync();

        foreach (var clusterARN in clusterARNs)
        {
            Console.WriteLine($"Getting services for cluster name:
{clusterARN.Split("/").Last()}");
            Console.WriteLine(new string('.', 5));

            var serviceARNs = await _ecsWrapper.GetServiceARNsAsync(clusterARN);

            foreach (var serviceARN in serviceARNs)
            {
                Console.WriteLine($"Service arn: {serviceARN}");
                Console.WriteLine($"Service name: {serviceARN.Split("/").Last()}");
            }
        }

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// List tasks in every cluster
    /// </summary>
    private static async Task ListTaskARNs()
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"3. List Task ARNs in every cluster.");
        var clusterARNs = await _ecsWrapper.GetClusterARNsAsync();

        foreach (var clusterARN in clusterARNs)
        {
            Console.WriteLine($"Getting tasks for cluster name:
{clusterARN.Split("/").Last()}");
            Console.WriteLine(new string('.', 5));

            var taskARNs = await _ecsWrapper.GetTaskARNsAsync(clusterARN);

```

```

        foreach (var taskARN in taskARNs)
        {
            Console.WriteLine($"Task arn: {taskARN}");
        }
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
}

```

Amazon ECS アクションを管理するためにシナリオによって呼び出されるラッパーメソッド。

```

using Amazon.ECS;
using Amazon.ECS.Model;
using Microsoft.Extensions.Logging;

namespace ECSActions;

public class ECSWrapper
{
    private readonly AmazonECSClient _ecsClient;
    private readonly ILogger<ECSWrapper> _logger;

    /// <summary>
    /// Constructor for the ECS wrapper.
    /// </summary>
    /// <param name="ecsClient">The injected ECS client.</param>
    /// <param name="logger">The injected logger for the wrapper.</param>
    public ECSWrapper(AmazonECSClient ecsClient, ILogger<ECSWrapper> logger)

    {
        _logger = logger;
        _ecsClient = ecsClient;
    }

    /// <summary>
    /// List cluster ARNs available.
    /// </summary>
    /// <returns>The ARN list of clusters.</returns>
    public async Task<List<string>> GetClusterARNsAsync()
    {

```

```

        Console.WriteLine("Getting a list of all the clusters in your AWS
account...");
        List<string> clusterArnList = new List<string>();
        // Get a list of all the clusters in your AWS account
        try
        {

            var listClustersResponse = _ecsClient.Paginators.ListClusters(new
ListClustersRequest
            {
            });

            var clusterArns = listClustersResponse.ClusterArns;

            // Print the ARNs of the clusters
            await foreach (var clusterArn in clusterArns)
            {
                clusterArnList.Add(clusterArn);
            }

            if (clusterArnList.Count == 0)
            {
                _logger.LogWarning("No clusters found in your AWS account.");
            }
            return clusterArnList;
        }
        catch (Exception e)
        {
            _logger.LogError($"An error occurred while getting a list of all the
clusters in your AWS account. {e.InnerException}");
            throw new Exception($"An error occurred while getting a list of all the
clusters in your AWS account. {e.InnerException}");
        }
    }

    /// <summary>
    /// List service ARNs available.
    /// </summary>
    /// <param name="clusterARN">The arn of the ECS cluster.</param>
    /// <returns>The ARN list of services in given cluster.</returns>
    public async Task<List<string>> GetServiceARNsAsync(string clusterARN)
    {
        List<string> serviceArns = new List<string>();
    }

```

```

    var request = new ListServicesRequest
    {
        Cluster = clusterARN
    };
    // Call the ListServices API operation and get the list of service ARNs
    var serviceList = _ecsClient.Paginators.ListServices(request);

    await foreach (var serviceARN in serviceList.ServiceArns)
    {
        if (serviceARN is null)
            continue;

        serviceArns.Add(serviceARN);
    }

    if (serviceArns.Count == 0)
    {
        _logger.LogWarning($"No services found in cluster {clusterARN} .");
    }

    return serviceArns;
}

/// <summary>
/// List task ARNs available.
/// </summary>
/// <param name="clusterARN">The arn of the ECS cluster.</param>
/// <returns>The ARN list of tasks in given cluster.</returns>
public async Task<List<string>> GetTaskARNsAsync(string clusterARN)
{
    // Set up the request to describe the tasks in the service
    var listTasksRequest = new ListTasksRequest
    {
        Cluster = clusterARN
    };
    List<string> taskArns = new List<string>();

    // Call the ListTasks API operation and get the list of task ARNs
    var tasks = _ecsClient.Paginators.ListTasks(listTasksRequest);

    await foreach (var task in tasks.TaskArns)
    {
        if (task is null)
            continue;

```

```
        taskArns.Add(task);
    }

    if (taskArns.Count == 0)
    {
        _logger.LogWarning("No tasks found in cluster: " + clusterARN);
    }

    return taskArns;
}
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
 - [ListClusters](#)
 - [ListServices](#)
 - [ListTasks](#)

を使用した Elastic Load Balancing - バージョン 2 の例 SDK for .NET

次のコード例は、Elastic Load Balancing - バージョン 2 AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)

- [シナリオ](#)

アクション

CreateListener

次のコード例は、CreateListener を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Create an Elastic Load Balancing load balancer that uses the specified
subnets
/// and forwards requests to the specified target group.
/// </summary>
/// <param name="name">The name for the new load balancer.</param>
/// <param name="subnetIds">Subnets for the load balancer.</param>
/// <param name="targetGroup">Target group for forwarded requests.</param>
/// <returns>The new LoadBalancer object.</returns>
public async Task<LoadBalancer> CreateLoadBalancerAndListener(string name,
List<string> subnetIds, TargetGroup targetGroup)
{
    var createLbResponse = await
_amazonElasticLoadBalancingV2.CreateLoadBalancerAsync(
    new CreateLoadBalancerRequest()
    {
        Name = name,
        Subnets = subnetIds
    });
    var loadBalancerArn = createLbResponse.LoadBalancers[0].LoadBalancerArn;

    // Wait for load balancer to be available.
    var loadBalancerReady = false;
    while (!loadBalancerReady)
    {
```



```
try
{
    var describeResponse =
        await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeLoadBalancersAsync(
            new DescribeLoadBalancersRequest()
            {
                Names = new List<string>() { name }
            });

    var loadBalancerState =
describeResponse.LoadBalancers[0].State.Code;

    loadBalancerReady = loadBalancerState ==
LoadBalancerStateEnum.Active;
}
catch (LoadBalancerNotFoundException)
{
    loadBalancerReady = false;
}
Thread.Sleep(10000);
}
// Create the listener.
await _amazonElasticLoadBalancingV2.CreateListenerAsync(
    new CreateListenerRequest()
    {
        LoadBalancerArn = loadBalancerArn,
        Protocol = targetGroup.Protocol,
        Port = targetGroup.Port,
        DefaultActions = new List<Action>()
        {
            new Action()
            {
                Type = ActionTypeEnum.Forward,
                TargetGroupArn = targetGroup.TargetGroupArn
            }
        }
    });
return createLbResponse.LoadBalancers[0];
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateListener](#)」を参照してください。

CreateLoadBalancer

次のコード例は、CreateLoadBalancer を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Create an Elastic Load Balancing load balancer that uses the specified
subnets
/// and forwards requests to the specified target group.
/// </summary>
/// <param name="name">The name for the new load balancer.</param>
/// <param name="subnetIds">Subnets for the load balancer.</param>
/// <param name="targetGroup">Target group for forwarded requests.</param>
/// <returns>The new LoadBalancer object.</returns>
public async Task<LoadBalancer> CreateLoadBalancerAndListener(string name,
List<string> subnetIds, TargetGroup targetGroup)
{
    var createLbResponse = await
        _amazonElasticLoadBalancingV2.CreateLoadBalancerAsync(
            new CreateLoadBalancerRequest()
            {
                Name = name,
                Subnets = subnetIds
            });
    var loadBalancerArn = createLbResponse.LoadBalancers[0].LoadBalancerArn;

    // Wait for load balancer to be available.
    var loadBalancerReady = false;
    while (!loadBalancerReady)
    {
        try
        {
            var describeResponse =
                await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeLoadBalancersAsync(
                    new DescribeLoadBalancersRequest()
                    {
```

```

        Names = new List<string>() { name }
    });

    var loadBalancerState =
describeResponse.LoadBalancers[0].State.Code;

    loadBalancerReady = loadBalancerState ==
LoadBalancerStateEnum.Active;
    }
    catch (LoadBalancerNotFoundException)
    {
        loadBalancerReady = false;
    }
    Thread.Sleep(10000);
}
// Create the listener.
await _amazonElasticLoadBalancingV2.CreateListenerAsync(
    new CreateListenerRequest()
    {
        LoadBalancerArn = loadBalancerArn,
        Protocol = targetGroup.Protocol,
        Port = targetGroup.Port,
        DefaultActions = new List<Action>()
        {
            new Action()
            {
                Type = ActionTypeEnum.Forward,
                TargetGroupArn = targetGroup.TargetGroupArn
            }
        }
    });
return createLbResponse.LoadBalancers[0];
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateLoadBalancer](#)」を参照してください。

CreateTargetGroup

次のコード例は、CreateTargetGroup を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Create an Elastic Load Balancing target group. The target group specifies
how the load balancer forwards
/// requests to instances in the group and how instance health is checked.
///
/// To speed up this demo, the health check is configured with shortened times
and lower thresholds. In production,
/// you might want to decrease the sensitivity of your health checks to avoid
unwanted failures.
/// </summary>
/// <param name="groupName">The name for the group.</param>
/// <param name="protocol">The protocol, such as HTTP.</param>
/// <param name="port">The port to use to forward requests, such as 80.</param>
/// <param name="vpcId">The Id of the Vpc in which the load balancer exists.</
param>
/// <returns>The new TargetGroup object.</returns>
public async Task<TargetGroup> CreateTargetGroupOnVpc(string groupName,
ProtocolEnum protocol, int port, string vpcId)
{
    var createResponse = await
_amazonElasticLoadBalancingV2.CreateTargetGroupAsync(
    new CreateTargetGroupRequest()
    {
        Name = groupName,
        Protocol = protocol,
        Port = port,
        HealthCheckPath = "/healthcheck",
        HealthCheckIntervalSeconds = 10,
        HealthCheckTimeoutSeconds = 5,
        HealthyThresholdCount = 2,
        UnhealthyThresholdCount = 2,
        VpcId = vpcId
    });
    var targetGroup = createResponse.TargetGroups[0];
```

```
        return targetGroup;
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateTargetGroup](#)」を参照してください。

DeleteLoadBalancer

次のコード例は、DeleteLoadBalancer を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete a load balancer by its specified name.
/// </summary>
/// <param name="name">The name of the load balancer to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task DeleteLoadBalancerByName(string name)
{
    try
    {
        var describeLoadBalancerResponse =
            await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeLoadBalancersAsync(
                new DescribeLoadBalancersRequest()
                {
                    Names = new List<string>() { name }
                });
        var lbArn =
            describeLoadBalancerResponse.LoadBalancers[0].LoadBalancerArn;
        await _amazonElasticLoadBalancingV2.DeleteLoadBalancerAsync(
            new DeleteLoadBalancerRequest()
            {
                LoadBalancerArn = lbArn
            })
    }
}
```

```

        );
    }
    catch (LoadBalancerNotFoundException)
    {
        Console.WriteLine($"Load balancer {name} not found.");
    }
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteLoadBalancer](#)」を参照してください。

DeleteTargetGroup

次のコード例は、DeleteTargetGroup を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

/// <summary>
/// Delete a TargetGroup by its specified name.
/// </summary>
/// <param name="groupName">Name of the group to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task DeleteTargetGroupByName(string groupName)
{
    var done = false;
    while (!done)
    {
        try
        {
            var groupResponse =
                await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeTargetGroupsAsync(
                    new DescribeTargetGroupsRequest()
                    {
                        Names = new List<string>() { groupName }
                    }
                );
        }
        catch { }
    }
}

```

```

        });

        var targetArn = groupResponse.TargetGroups[0].TargetGroupArn;
        await _amazonElasticLoadBalancingV2.DeleteTargetGroupAsync(
            new DeleteTargetGroupRequest() { TargetGroupArn = targetArn });
        Console.WriteLine($"Deleted load balancing target group
{groupName}.");
        done = true;
    }
    catch (TargetGroupNotFoundException)
    {
        Console.WriteLine(
            $"Target group {groupName} not found, could not delete.");
        done = true;
    }
    catch (ResourceInUseException)
    {
        Console.WriteLine("Target group not yet released, waiting...");
        Thread.Sleep(10000);
    }
}
}

```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteTargetGroup](#)」を参照してください。

DescribeLoadBalancers

次のコード例は、DescribeLoadBalancers を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

/// <summary>
/// Get the HTTP Endpoint of a load balancer by its name.

```

```

    /// </summary>
    /// <param name="loadBalancerName">The name of the load balancer.</param>
    /// <returns>The HTTP endpoint.</returns>
    public async Task<string> GetEndpointForLoadBalancerByName(string
loadBalancerName)
    {
        if (_endpoint == null)
        {
            var endpointResponse =
                await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeLoadBalancersAsync(
                    new DescribeLoadBalancersRequest()
                    {
                        Names = new List<string>() { loadBalancerName }
                    });
            _endpoint = endpointResponse.LoadBalancers[0].DNSName;
        }

        return _endpoint;
    }

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeLoadBalancers](#)」を参照してください。

DescribeTargetHealth

次のコード例は、DescribeTargetHealth を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

    /// <summary>
    /// Get the target health for a group by name.
    /// </summary>
    /// <param name="groupName">The name of the group.</param>
    /// <returns>The collection of health descriptions.</returns>

```



```
public async Task<List<TargetHealthDescription>>
CheckTargetHealthForGroup(string groupName)
{
    List<TargetHealthDescription> result = null!;
    try
    {
        var groupResponse =
            await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeTargetGroupsAsync(
                new DescribeTargetGroupsRequest()
                {
                    Names = new List<string>() { groupName }
                });
        var healthResponse =
            await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeTargetHealthAsync(
                new DescribeTargetHealthRequest()
                {
                    TargetGroupArn =
groupResponse.TargetGroups[0].TargetGroupArn
                });
        ;
        result = healthResponse.TargetHealthDescriptions;
    }
    catch (TargetGroupNotFoundException)
    {
        Console.WriteLine($"Target group {groupName} not found.");
    }
    return result;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DescribeTargetHealth](#)」を参照してください。

シナリオ

レジリエントなサービスの構築と管理

次のコード例は、本、映画、曲のレコメンデーションを返す負荷分散型ウェブサービスの作成方法を示しています。この例は、障害に対するサービスの対応方法と、障害発生時の耐障害性を高めるためにサービスを再構築する方法を示しています。

- Amazon EC2 Auto Scaling グループを使用して、起動テンプレートに基づいて Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスを作成し、インスタンス数を所定の範囲内に維持します。
- Elastic Load Balancing で HTTP リクエストを処理して配信します。
- Auto Scaling グループ内のインスタンスの状態を監視し、正常なインスタンスにのみリクエストを転送します。
- 各 EC2 インスタンスで Python ウェブサーバーを実行して HTTP リクエストを処理します。ウェブサーバーはレコメンデーションとヘルスチェックを返します。
- Amazon DynamoDB テーブルを使用してレコメンデーションサービスをシミュレートできます。
- AWS Systems Manager パラメータを更新して、リクエストとヘルスチェックに対するウェブサーバーの応答を制御します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

コマンドプロンプトからインタラクティブなシナリオを実行します。

```
static async Task Main(string[] args)
{
    _configuration = new ConfigurationBuilder()
        .SetBasePath(Directory.GetCurrentDirectory())
        .AddJsonFile("settings.json") // Load settings from .json file.
        .AddJsonFile("settings.local.json",
            true) // Optionally, load local settings.
        .Build();

    // Set up dependency injection for the AWS services.
    using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
        .ConfigureLogging(logging =>
            logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
                .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
                    LogLevel.Information)
                .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
```

```

        .ConfigureServices((_, services) =>
            services.AddAWSService<IAmazonIdentityManagementService>()
                .AddAWSService<IAmazonDynamoDB>()
                .AddAWSService<IAmazonElasticLoadBalancingV2>()
                .AddAWSService<IAmazonSimpleSystemsManagement>()
                .AddAWSService<IAmazonAutoScaling>()
                .AddAWSService<IAmazonEC2>()
                .AddTransient<AutoScalerWrapper>()
                .AddTransient<ElasticLoadBalancerWrapper>()
                .AddTransient<SmParameterWrapper>()
                .AddTransient<Recommendations>()
                .AddSingleton<IConfiguration>(_configuration)
        )
        .Build();

ServicesSetup(host);
ResourcesSetup();

try
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("Welcome to the Resilient Architecture Example
Scenario.");
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    await Deploy(true);

    Console.WriteLine("Now let's begin the scenario.");
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    await Demo(true);

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("Finally, let's clean up our resources.");
    Console.WriteLine(new string('-', 80));

    await DestroyResources(true);

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("Resilient Architecture Example Scenario is
complete.");
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));

```

```

        Console.WriteLine($"There was a problem running the scenario:
{ex.Message}");
        await DestroyResources(true);
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
}

/// <summary>
/// Setup any common resources, also used for integration testing.
/// </summary>
public static void ResourcesSetup()
{
    _httpClient = new HttpClient();
}

/// <summary>
/// Populate the services for use within the console application.
/// </summary>
/// <param name="host">The services host.</param>
private static void ServicesSetup(IHost host)
{
    _elasticLoadBalancerWrapper =
host.Services.GetRequiredService<ElasticLoadBalancerWrapper>();
    _iamClient =
host.Services.GetRequiredService<IAmazonIdentityManagementService>();
    _recommendations = host.Services.GetRequiredService<Recommendations>();
    _autoScalerWrapper = host.Services.GetRequiredService<AutoScalerWrapper>();
    _smParameterWrapper =
host.Services.GetRequiredService<SmParameterWrapper>();
}

/// <summary>
/// Deploy necessary resources for the scenario.
/// </summary>
/// <param name="interactive">True to run as interactive.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public static async Task<bool> Deploy(bool interactive)
{
    var protocol = "HTTP";
    var port = 80;
    var sshPort = 22;

    Console.WriteLine(

```

```

        "\nFor this demo, we'll use the AWS SDK for .NET to create several AWS
resources\n" +
        "to set up a load-balanced web service endpoint and explore some ways to
make it resilient\n" +
        "against various kinds of failures.\n\n" +
        "Some of the resources create by this demo are:\n");

    Console.WriteLine(
        "\t* A DynamoDB table that the web service depends on to provide book,
movie, and song recommendations.");
    Console.WriteLine(
        "\t* An EC2 launch template that defines EC2 instances that each contain
a Python web server.");
    Console.WriteLine(
        "\t* An EC2 Auto Scaling group that manages EC2 instances across several
Availability Zones.");
    Console.WriteLine(
        "\t* An Elastic Load Balancing (ELB) load balancer that targets the Auto
Scaling group to distribute requests.");
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("Press Enter when you're ready to start deploying
resources.");
    if (interactive)
        Console.ReadLine();

    // Create and populate the DynamoDB table.
    var databaseTableName = _configuration["databaseName"];
    var recommendationsPath = Path.Join(_configuration["resourcePath"],
        "recommendations_objects.json");
    Console.WriteLine($"Creating and populating a DynamoDB table named
{databaseTableName}.");
    await _recommendations.CreateDatabaseWithName(databaseTableName);
    await _recommendations.PopulateDatabase(databaseTableName,
recommendationsPath);
    Console.WriteLine(new string('-', 80));

    // Create the EC2 Launch Template.

    Console.WriteLine(
        $"Creating an EC2 launch template that runs 'server_startup_script.sh'
when an instance starts.\n"
        + "\nThis script starts a Python web server defined in the `server.py`
script. The web server\n"

```

```

        + "listens to HTTP requests on port 80 and responds to requests to '/'
and to '/healthcheck'.\n"
        + "For demo purposes, this server is run as the root user. In
production, the best practice is to\n"
        + "run a web server, such as Apache, with least-privileged
credentials.");
    Console.WriteLine(
        "\nThe template also defines an IAM policy that each instance uses to
assume a role that grants\n"
        + "permissions to access the DynamoDB recommendation table and Systems
Manager parameters\n"
        + "that control the flow of the demo.");

    var startupScriptPath = Path.Join(_configuration["resourcePath"],
        "server_startup_script.sh");
    var instancePolicyPath = Path.Join(_configuration["resourcePath"],
        "instance_policy.json");
    await _autoScalerWrapper.CreateTemplate(startupScriptPath,
instancePolicyPath);
    Console.WriteLine(new string('-', 80));

    Console.WriteLine(
        "Creating an EC2 Auto Scaling group that maintains three EC2 instances,
each in a different\n"
        + "Availability Zone.\n");
    var zones = await _autoScalerWrapper.DescribeAvailabilityZones();
    await _autoScalerWrapper.CreateGroupOfSize(3, _autoScalerWrapper.GroupName,
zones);
    Console.WriteLine(new string('-', 80));

    Console.WriteLine(
        "At this point, you have EC2 instances created. Once each instance
starts, it listens for\n"
        + "HTTP requests. You can see these instances in the console or continue
with the demo.\n");

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("Press Enter when you're ready to continue.");
    if (interactive)
        Console.ReadLine();

    Console.WriteLine("Creating variables that control the flow of the demo.");
    await _smParameterWrapper.Reset();

```

```

        Console.WriteLine(
            "\nCreating an Elastic Load Balancing target group and load balancer.
The target group\n"
            + "defines how the load balancer connects to instances. The load
balancer provides a\n"
            + "single endpoint where clients connect and dispatches requests to
instances in the group.");

        var defaultVpc = await _autoScalerWrapper.GetDefaultVpc();
        var subnets = await
            _autoScalerWrapper.GetAllVpcSubnetsForZones(defaultVpc.VpcId, zones);
        var subnetIds = subnets.Select(s => s.SubnetId).ToList();
        var targetGroup = await
            _elasticLoadBalancerWrapper.CreateTargetGroupOnVpc(_elasticLoadBalancerWrapper.TargetGroupName,
            protocol, port, defaultVpc.VpcId);

        await
            _elasticLoadBalancerWrapper.CreateLoadBalancerAndListener(_elasticLoadBalancerWrapper.LoadBalancerName,
            subnetIds, targetGroup);
        await
            _autoScalerWrapper.AttachLoadBalancerToGroup(_autoScalerWrapper.GroupName,
            targetGroup.TargetGroupArn);
        Console.WriteLine("\nVerifying access to the load balancer endpoint...");
        var endPoint = await
            _elasticLoadBalancerWrapper.GetEndpointForLoadBalancerByName(_elasticLoadBalancerWrapper.LoadBalancerName);
        var loadBalancerAccess = await
            _elasticLoadBalancerWrapper.VerifyLoadBalancerEndpoint(endPoint);

        if (!loadBalancerAccess)
        {
            Console.WriteLine("\nCouldn't connect to the load balancer, verifying
that the port is open...");

            var ipString = await _httpClient.GetStringAsync("https://
checkip.amazonaws.com");
            ipString = ipString.Trim();

            var defaultSecurityGroup = await
                _autoScalerWrapper.GetDefaultSecurityGroupForVpc(defaultVpc);
            var portIsOpen =
                _autoScalerWrapper.VerifyInboundPortForGroup(defaultSecurityGroup, port, ipString);
            var sshPortIsOpen =
                _autoScalerWrapper.VerifyInboundPortForGroup(defaultSecurityGroup, sshPort,
                ipString);

```

```

        if (!portIsOpen)
        {
            Console.WriteLine(
                "\nFor this example to work, the default security group for your
default VPC must\n"
                + "allows access from this computer. You can either add it
automatically from this\n"
                + "example or add it yourself using the AWS Management Console.
\n");

            if (!interactive || GetYesNoResponse(
                "Do you want to add a rule to the security group to allow
inbound traffic from your computer's IP address?"))
            {
                await
                _autoScalerWrapper.OpenInboundPort(defaultSecurityGroup.GroupId, port, ipString);
            }

            if (!sshPortIsOpen)
            {
                if (!interactive || GetYesNoResponse(
                    "Do you want to add a rule to the security group to allow
inbound SSH traffic for debugging from your computer's IP address?"))
                {
                    await
                    _autoScalerWrapper.OpenInboundPort(defaultSecurityGroup.GroupId, sshPort,
                    ipString);
                }
            }

            loadBalancerAccess = await
            _elasticLoadBalancerWrapper.VerifyLoadBalancerEndpoint(endPoint);
        }

        if (loadBalancerAccess)
        {
            Console.WriteLine("Your load balancer is ready. You can access it by
browsing to:");
            Console.WriteLine($"http://{endPoint}\n");
        }
        else
        {
            Console.WriteLine(

```



```

        "\nCouldn't get a successful response from the load balancer
endpoint. Troubleshoot by\n"
        + "manually verifying that your VPC and security group are
configured correctly and that\n"
        + "you can successfully make a GET request to the load balancer
endpoint:\n");
        Console.WriteLine($"http://{endPoint}\n");
    }
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("Press Enter when you're ready to continue with the
demo.");
    if (interactive)
        Console.ReadLine();
    return true;
}

/// <summary>
/// Demonstrate the steps of the scenario.
/// </summary>
/// <param name="interactive">True to run as an interactive scenario.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public static async Task<bool> Demo(bool interactive)
{
    var ssmOnlyPolicy = Path.Join(_configuration["resourcePath"],
        "ssm_only_policy.json");

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("Resetting parameters to starting values for demo.");
    await _smParameterWrapper.Reset();

    Console.WriteLine("\nThis part of the demonstration shows how to toggle
different parts of the system\n" +
        "to create situations where the web service fails, and
shows how using a resilient\n" +
        "architecture can keep the web service running in spite of
these failures.");
    Console.WriteLine(new string('-', 88));
    Console.WriteLine("At the start, the load balancer endpoint returns
recommendations and reports that all targets are healthy.");
    if (interactive)
        await DemoActionChoices();

    Console.WriteLine($"The web service running on the EC2 instances gets
recommendations by querying a DynamoDB table.\n" +

```

```

        $"The table name is contained in a Systems Manager
parameter named '{_smParameterWrapper.TableParameter}'.\n" +
        $"To simulate a failure of the recommendation service,
let's set this parameter to name a non-existent table.\n");
        await
        _smParameterWrapper.PutParameterByName(_smParameterWrapper.TableParameter, "this-
is-not-a-table");

        Console.WriteLine("\nNow, sending a GET request to the load balancer
endpoint returns a failure code. But, the service reports as\n" +
        "healthy to the load balancer because shallow health
checks don't check for failure of the recommendation service.");
        if (interactive)
            await DemoActionChoices();

        Console.WriteLine("Instead of failing when the recommendation service fails,
the web service can return a static response.");
        Console.WriteLine("While this is not a perfect solution, it presents the
customer with a somewhat better experience than failure.");

        await
        _smParameterWrapper.PutParameterByName(_smParameterWrapper.FailureResponseParameter,
"static");

        Console.WriteLine("\nNow, sending a GET request to the load balancer
endpoint returns a static response.");
        Console.WriteLine("The service still reports as healthy because health
checks are still shallow.");
        if (interactive)
            await DemoActionChoices();

        Console.WriteLine("Let's reinstate the recommendation service.\n");
        await
        _smParameterWrapper.PutParameterByName(_smParameterWrapper.TableParameter,
        _smParameterWrapper.TableName);
        Console.WriteLine(
            "\nLet's also substitute bad credentials for one of the instances in the
target group so that it can't\n" +
            "access the DynamoDB recommendation table.\n"
        );
        await _autoScalerWrapper.CreateInstanceProfileWithName(
            _autoScalerWrapper.BadCredsPolicyName,
            _autoScalerWrapper.BadCredsRoleName,
            _autoScalerWrapper.BadCredsProfileName,
            ssmOnlyPolicy,

```

```

        new List<string> { "AmazonSSMManagedInstanceCore" }
    );
    var instances = await
_autoScalerWrapper.GetInstancesByGroupName(_autoScalerWrapper.GroupName);
    var badInstanceId = instances.First();
    var instanceProfile = await
_autoScalerWrapper.GetInstanceProfile(badInstanceId);
    Console.WriteLine(
        $"Replacing the profile for instance {badInstanceId} with a profile that
contains\n" +
        "bad credentials...\n"
    );
    await _autoScalerWrapper.ReplaceInstanceProfile(
        badInstanceId,
        _autoScalerWrapper.BadCredsProfileName,
        instanceProfile.AssociationId
    );
    Console.WriteLine(
        "Now, sending a GET request to the load balancer endpoint returns either
a recommendation or a static response,\n" +
        "depending on which instance is selected by the load balancer.\n"
    );
    if (interactive)
        await DemoActionChoices();

    Console.WriteLine("\nLet's implement a deep health check. For this demo, a
deep health check tests whether");
    Console.WriteLine("the web service can access the DynamoDB table that it
depends on for recommendations. Note that");
    Console.WriteLine("the deep health check is only for ELB routing and not for
Auto Scaling instance health.");
    Console.WriteLine("This kind of deep health check is not recommended for
Auto Scaling instance health, because it");
    Console.WriteLine("risks accidental termination of all instances in the Auto
Scaling group when a dependent service fails.");

    Console.WriteLine("\nBy implementing deep health checks, the load balancer
can detect when one of the instances is failing");
    Console.WriteLine("and take that instance out of rotation.");

    await
_smParameterWrapper.PutParameterByName(_smParameterWrapper.HealthCheckParameter,
"deep");

```

```
        Console.WriteLine($"\\nNow, checking target health indicates that the
instance with bad credentials ({badInstanceId})");
        Console.WriteLine("is unhealthy. Note that it might take a minute or two for
the load balancer to detect the unhealthy");
        Console.WriteLine("instance. Sending a GET request to the load balancer
endpoint always returns a recommendation, because");
        Console.WriteLine("the load balancer takes unhealthy instances out of its
rotation.");

        if (interactive)
            await DemoActionChoices();

        Console.WriteLine("\\nBecause the instances in this demo are controlled by an
auto scaler, the simplest way to fix an unhealthy");
        Console.WriteLine("instance is to terminate it and let the auto scaler start
a new instance to replace it.");

        await _autoScalerWrapper.TryTerminateInstanceById(badInstanceId);

        Console.WriteLine($"\\nEven while the instance is terminating and the new
instance is starting, sending a GET");
        Console.WriteLine("request to the web service continues to get a successful
recommendation response because");
        Console.WriteLine("starts and reports as healthy, it is included in the load
balancing rotation.");
        Console.WriteLine("Note that terminating and replacing an instance typically
takes several minutes, during which time you");
        Console.WriteLine("can see the changing health check status until the new
instance is running and healthy.");

        if (interactive)
            await DemoActionChoices();

        Console.WriteLine("\\nIf the recommendation service fails now, deep health
checks mean all instances report as unhealthy.");

        await
_smParameterWrapper.PutParameterByName(_smParameterWrapper.TableParameter, "this-
is-not-a-table");

        Console.WriteLine($"\\nWhen all instances are unhealthy, the load balancer
continues to route requests even to");
        Console.WriteLine("unhealthy instances, allowing them to fail open and
return a static response rather than fail");
```

```

        Console.WriteLine("closed and report failure to the customer.");

        if (interactive)
            await DemoActionChoices();
        await _smParameterWrapper.Reset();

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        return true;
    }

    /// <summary>
    /// Clean up the resources from the scenario.
    /// </summary>
    /// <param name="interactive">True to ask the user for cleanup.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public static async Task<bool> DestroyResources(bool interactive)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine(
            "To keep things tidy and to avoid unwanted charges on your account, we  

            can clean up all AWS resources\n" +
            "that were created for this demo."
        );

        if (!interactive || GetYesNoResponse("Do you want to clean up all demo  

            resources? (y/n) "))
        {
            await
                _elasticLoadBalancerWrapper.DeleteLoadBalancerByName(_elasticLoadBalancerWrapper.LoadBalancerName);
            await
                _elasticLoadBalancerWrapper.DeleteTargetGroupByName(_elasticLoadBalancerWrapper.TargetGroupName);
            await
                _autoScalerWrapper.TerminateAndDeleteAutoScalingGroupWithName(_autoScalerWrapper.GroupName);
            await
                _autoScalerWrapper.DeleteKeyPairByName(_autoScalerWrapper.KeyPairName);
            await
                _autoScalerWrapper.DeleteTemplateByName(_autoScalerWrapper.LaunchTemplateName);
            await _autoScalerWrapper.DeleteInstanceProfile(
                _autoScalerWrapper.BadCredsProfileName,
                _autoScalerWrapper.BadCredsRoleName
            );
            await
                _recommendations.DestroyDatabaseByName(_recommendations.TableName);
        }
    }

```

```
        else
        {
            Console.WriteLine(
                "Ok, we'll leave the resources intact.\n" +
                "Don't forget to delete them when you're done with them or you might incur unexpected charges."
            );
        }

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        return true;
    }
}
```

Auto Scaling と Amazon EC2 のアクションをラップするクラスを作成します。

```
/// <summary>
/// Encapsulates Amazon EC2 Auto Scaling and EC2 management methods.
/// </summary>
public class AutoScalerWrapper
{
    private readonly IAmazonAutoScaling _amazonAutoScaling;
    private readonly IAmazonEC2 _amazonEc2;
    private readonly IAmazonSimpleSystemsManagement _amazonSsm;
    private readonly IAmazonIdentityManagementService _amazonIam;
    private readonly ILogger<AutoScalerWrapper> _logger;

    private readonly string _instanceType = "";
    private readonly string _amiParam = "";
    private readonly string _launchTemplateName = "";
    private readonly string _groupName = "";
    private readonly string _instancePolicyName = "";
    private readonly string _instanceRoleName = "";
    private readonly string _instanceProfileName = "";
    private readonly string _badCredsProfileName = "";
    private readonly string _badCredsRoleName = "";
    private readonly string _badCredsPolicyName = "";
    private readonly string _keyPairName = "";

    public string GroupName => _groupName;
    public string KeyPairName => _keyPairName;
    public string LaunchTemplateName => _launchTemplateName;
    public string InstancePolicyName => _instancePolicyName;
}
```

```

public string BadCredsProfileName => _badCredsProfileName;
public string BadCredsRoleName => _badCredsRoleName;
public string BadCredsPolicyName => _badCredsPolicyName;

/// <summary>
/// Constructor for the AutoScalerWrapper.
/// </summary>
/// <param name="amazonAutoScaling">The injected AutoScaling client.</param>
/// <param name="amazonEc2">The injected EC2 client.</param>
/// <param name="amazonIam">The injected IAM client.</param>
/// <param name="amazonSsm">The injected SSM client.</param>
public AutoScalerWrapper(
    IAmazonAutoScaling amazonAutoScaling,
    IAmazonEC2 amazonEc2,
    IAmazonSimpleSystemsManagement amazonSsm,
    IAmazonIdentityManagementService amazonIam,
    IConfiguration configuration,
    ILogger<AutoScalerWrapper> logger)
{
    _amazonAutoScaling = amazonAutoScaling;
    _amazonEc2 = amazonEc2;
    _amazonSsm = amazonSsm;
    _amazonIam = amazonIam;
    _logger = logger;

    var prefix = configuration["resourcePrefix"];
    _instanceType = configuration["instanceType"];
    _amiParam = configuration["amiParam"];

    _launchTemplateName = prefix + "-template";
    _groupName = prefix + "-group";
    _instancePolicyName = prefix + "-pol";
    _instanceRoleName = prefix + "-role";
    _instanceProfileName = prefix + "-prof";
    _badCredsPolicyName = prefix + "-bc-pol";
    _badCredsRoleName = prefix + "-bc-role";
    _badCredsProfileName = prefix + "-bc-prof";
    _keyPairName = prefix + "-key-pair";
}

/// <summary>
/// Create a policy, role, and profile that is associated with instances with a
specified name.
/// An instance's associated profile defines a role that is assumed by the

```

```

    /// instance.The role has attached policies that specify the AWS permissions
    granted to
    /// clients that run on the instance.
    /// </summary>
    /// <param name="policyName">Name to use for the policy.</param>
    /// <param name="roleName">Name to use for the role.</param>
    /// <param name="profileName">Name to use for the profile.</param>
    /// <param name="ssmOnlyPolicyFile">Path to a policy file for SSM.</param>
    /// <param name="awsManagedPolicies">AWS Managed policies to be attached to the
    role.</param>
    /// <returns>The Arn of the profile.</returns>
    public async Task<string> CreateInstanceProfileWithName(
        string policyName,
        string roleName,
        string profileName,
        string ssmOnlyPolicyFile,
        List<string>? awsManagedPolicies = null)
    {

        var assumeRoleDoc = "{" +
            "\"Version\": \"2012-10-17\", " +
            "\"Statement\": [{" +
                "\"Effect\": \"Allow\", " +
                "\"Principal\": {" +
                "\"Service\": [" +
                    "\"ec2.amazonaws.com\"" +
                "]" +
                "}, " +
                "\"Action\": \"sts:AssumeRole\"" +
            "}] " +
            "};

        var policyDocument = await File.ReadAllTextAsync(ssmOnlyPolicyFile);

        var policyArn = "";

        try
        {
            var createPolicyResult = await _amazonIam.CreatePolicyAsync(
                new CreatePolicyRequest
                {
                    PolicyName = policyName,
                    PolicyDocument = policyDocument
                });

```



```
        policyArn = createPolicyResult.Policy.Arn;
    }
    catch (EntityAlreadyExistsException)
    {
        // The policy already exists, so we look it up to get the Arn.
        var policiesPaginator = _amazonIam.Paginators.ListPolicies(
            new ListPoliciesRequest()
            {
                Scope = PolicyScopeType.Local
            });
        // Get the entire list using the paginator.
        await foreach (var policy in policiesPaginator.Policies)
        {
            if (policy.PolicyName.Equals(policyName))
            {
                policyArn = policy.Arn;
            }
        }

        if (policyArn == null)
        {
            throw new InvalidOperationException("Policy not found");
        }
    }

    try
    {
        await _amazonIam.CreateRoleAsync(new CreateRoleRequest()
        {
            RoleName = roleName,
            AssumeRolePolicyDocument = assumeRoleDoc,
        });
        await _amazonIam.AttachRolePolicyAsync(new AttachRolePolicyRequest()
        {
            RoleName = roleName,
            PolicyArn = policyArn
        });
        if (awsManagedPolicies != null)
        {
            foreach (var awsPolicy in awsManagedPolicies)
            {
                await _amazonIam.AttachRolePolicyAsync(new
AttachRolePolicyRequest()
                {
```

```

        PolicyArn = $"arn:aws:iam::aws:policy/{awsPolicy}",
        RoleName = roleName
    });
    }
}
catch (EntityAlreadyExistsException)
{
    Console.WriteLine("Role already exists.");
}

string profileArn = "";
try
{
    var profileCreateResponse = await _amazonIam.CreateInstanceProfileAsync(
        new CreateInstanceProfileRequest()
        {
            InstanceProfileName = profileName
        });
    // Allow time for the profile to be ready.
    profileArn = profileCreateResponse.InstanceProfile.Arn;
    Thread.Sleep(10000);
    await _amazonIam.AddRoleToInstanceProfileAsync(
        new AddRoleToInstanceProfileRequest()
        {
            InstanceProfileName = profileName,
            RoleName = roleName
        });
}
catch (EntityAlreadyExistsException)
{
    Console.WriteLine("Policy already exists.");
    var profileGetResponse = await _amazonIam.GetInstanceProfileAsync(
        new GetInstanceProfileRequest()
        {
            InstanceProfileName = profileName
        });
    profileArn = profileGetResponse.InstanceProfile.Arn;
}
return profileArn;
}

///

```

```

    /// Create a new key pair and save the file.
    /// </summary>
    /// <param name="newKeyPairName">The name of the new key pair.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task CreateKeyPair(string newKeyPairName)
    {
        try
        {
            var keyResponse = await _amazonEc2.CreateKeyPairAsync(
                new CreateKeyPairRequest() { KeyName = newKeyPairName });
            await File.WriteAllTextAsync($"{newKeyPairName}.pem",
                keyResponse.KeyPair.KeyMaterial);
            Console.WriteLine($"Created key pair {newKeyPairName}.");
        }
        catch (AlreadyExistsException)
        {
            Console.WriteLine("Key pair already exists.");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Delete the key pair and file by name.
    /// </summary>
    /// <param name="deleteKeyPairName">The key pair to delete.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task DeleteKeyPairByName(string deleteKeyPairName)
    {
        try
        {
            await _amazonEc2.DeleteKeyPairAsync(
                new DeleteKeyPairRequest() { KeyName = deleteKeyPairName });
            File.Delete($"{deleteKeyPairName}.pem");
        }
        catch (FileNotFoundException)
        {
            Console.WriteLine($"Key pair {deleteKeyPairName} not found.");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Creates an Amazon EC2 launch template to use with Amazon EC2 Auto Scaling.
    /// The launch template specifies a Bash script in its user data field that runs
    after

```

```

    /// the instance is started. This script installs the Python packages and starts
    a Python
    /// web server on the instance.
    /// </summary>
    /// <param name="startupScriptPath">The path to a Bash script file that is
    run.</param>
    /// <param name="instancePolicyPath">The path to a permissions policy to create
    and attach to the profile.</param>
    /// <returns>The template object.</returns>
    public async Task<Amazon.EC2.Model.LaunchTemplate> CreateTemplate(string
    startupScriptPath, string instancePolicyPath)
    {
        try
        {
            await CreateKeyPair(_keyPairName);
            await CreateInstanceProfileWithName(_instancePolicyName,
            _instanceRoleName,
                _instanceProfileName, instancePolicyPath);

            var startServerText = await File.ReadAllTextAsync(startupScriptPath);
            var plainTextBytes =
            System.Text.Encoding.UTF8.GetBytes(startServerText);

            var amiLatest = await _amazonSsm.GetParameterAsync(
                new GetParameterRequest() { Name = _amiParam });
            var amiId = amiLatest.Parameter.Value;
            var launchTemplateResponse = await _amazonEc2.CreateLaunchTemplateAsync(
                new CreateLaunchTemplateRequest()
                {
                    LaunchTemplateName = _launchTemplateName,
                    LaunchTemplateData = new RequestLaunchTemplateData()
                    {
                        InstanceType = _instanceType,
                        ImageId = amiId,
                        IamInstanceProfile =
                            new
                                LaunchTemplateIamInstanceProfileSpecificationRequest()
                                {
                                    Name = _instanceProfileName
                                },
                        KeyName = _keyPairName,
                        UserData = System.Convert.ToBase64String(plainTextBytes)
                    }
                }
            );
        }
    }

```

```

        });
        return launchTemplateResponse.LaunchTemplate;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode ==
"InvalidLaunchTemplateName.AlreadyExistsException")
        {
            _logger.LogError($"Could not create the template, the name
{_launchTemplateName} already exists. " +
                $"Please try again with a unique name.");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError($"An error occurred while creating the template.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Get a list of Availability Zones in the AWS Region of the Amazon EC2 Client.
/// </summary>
/// <returns>A list of availability zones.</returns>
public async Task<List<string>> DescribeAvailabilityZones()
{
    try
    {
        var zoneResponse = await _amazonEc2.DescribeAvailabilityZonesAsync(
            new DescribeAvailabilityZonesRequest());
        return zoneResponse.AvailabilityZones.Select(z => z.ZoneName).ToList();
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        _logger.LogError($"An Amazon EC2 error occurred while listing
availability zones.: {ec2Exception.Message}");
        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {

```

```

        _logger.LogError($"An error occurred while listing availability zones.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Create an EC2 Auto Scaling group of a specified size and name.
/// </summary>
/// <param name="groupSize">The size for the group.</param>
/// <param name="groupName">The name for the group.</param>
/// <param name="availabilityZones">The availability zones for the group.</
param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task CreateGroupOfSize(int groupSize, string groupName,
List<string> availabilityZones)
{
    try
    {
        await _amazonAutoScaling.CreateAutoScalingGroupAsync(
            new CreateAutoScalingGroupRequest()
            {
                AutoScalingGroupName = groupName,
                AvailabilityZones = availabilityZones,
                LaunchTemplate =
                    new Amazon.AutoScaling.Model.LaunchTemplateSpecification()
                    {
                        LaunchTemplateName = _launchTemplateName,
                        Version = "$Default"
                    },
                MaxSize = groupSize,
                MinSize = groupSize
            });
        Console.WriteLine($"Created EC2 Auto Scaling group {groupName} with size
{groupSize}.");
    }
    catch (EntityAlreadyExistsException)
    {
        Console.WriteLine($"EC2 Auto Scaling group {groupName} already
exists.");
    }
}

/// <summary>

```

```

    /// Get the default VPC for the account.
    /// </summary>
    /// <returns>The default VPC object.</returns>
    public async Task<Vpc> GetDefaultVpc()
    {
        try
        {
            var vpcResponse = await _amazonEc2.DescribeVpcsAsync(
                new DescribeVpcsRequest()
                {
                    Filters = new List<Amazon.EC2.Model.Filter>()
                    {
                        new("is-default", new List<string>() { "true" })
                    }
                });
            return vpcResponse.Vpcs[0];
        }
        catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
        {
            if (ec2Exception.ErrorCode == "UnauthorizedOperation")
            {
                _logger.LogError(ec2Exception, $"You do not have the necessary
permissions to describe VPCs.");
            }

            throw;
        }
        catch (Exception ex)
        {
            _logger.LogError(ex, $"An error occurred while describing the vpcs.:
{ex.Message}");
            throw;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Get all the subnets for a Vpc in a set of availability zones.
    /// </summary>
    /// <param name="vpcId">The Id of the Vpc.</param>
    /// <param name="availabilityZones">The list of availability zones.</param>
    /// <returns>The collection of subnet objects.</returns>
    public async Task<List<Subnet>> GetAllVpcSubnetsForZones(string vpcId,
List<string> availabilityZones)
    {

```

```

    try
    {
        var subnets = new List<Subnet>();
        var subnetPaginator = _amazonEc2.Paginators.DescribeSubnets(
            new DescribeSubnetsRequest()
            {
                Filters = new List<Amazon.EC2.Model.Filter>()
                {
                    new("vpc-id", new List<string>() { vpcId }),
                    new("availability-zone", availabilityZones),
                    new("default-for-az", new List<string>() { "true" })
                }
            });

        // Get the entire list using the paginator.
        await foreach (var subnet in subnetPaginator.Subnets)
        {
            subnets.Add(subnet);
        }

        return subnets;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidVpcID.NotFound")
        {
            _logger.LogError(ec2Exception, $"The specified VPC ID {vpcId} does
not exist.");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(ex, $"An error occurred while describing the subnets.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Delete a launch template by name.
/// </summary>
/// <param name="templateName">The name of the template to delete.</param>

```



```

    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task DeleteTemplateByName(string templateName)
    {
        try
        {
            await _amazonEc2.DeleteLaunchTemplateAsync(
                new DeleteLaunchTemplateRequest()
                {
                    LaunchTemplateName = templateName
                });
        }
        catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
        {
            if (ec2Exception.ErrorCode ==
                "InvalidLaunchTemplateName.NotFoundException")
            {
                _logger.LogError(
                    $"Could not delete the template, the name {_launchTemplateName}
was not found.");
            }

            throw;
        }
        catch (Exception ex)
        {
            _logger.LogError($"An error occurred while deleting the template.:
{ex.Message}");
            throw;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Detaches a role from an instance profile, detaches policies from the role,
    /// and deletes all the resources.
    /// </summary>
    /// <param name="profileName">The name of the profile to delete.</param>
    /// <param name="roleName">The name of the role to delete.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task DeleteInstanceProfile(string profileName, string roleName)
    {
        try
        {
            await _amazonIam.RemoveRoleFromInstanceProfileAsync(
                new RemoveRoleFromInstanceProfileRequest()

```

```

        {
            InstanceProfileName = profileName,
            RoleName = roleName
        });
        await _amazonIam.DeleteInstanceProfileAsync(
            new DeleteInstanceProfileRequest() { InstanceProfileName =
profileName });
        var attachedPolicies = await _amazonIam.ListAttachedRolePoliciesAsync(
            new ListAttachedRolePoliciesRequest() { RoleName = roleName });
        foreach (var policy in attachedPolicies.AttachedPolicies)
        {
            await _amazonIam.DetachRolePolicyAsync(
                new DetachRolePolicyRequest()
                {
                    RoleName = roleName,
                    PolicyArn = policy.PolicyArn
                });
            // Delete the custom policies only.
            if (!policy.PolicyArn.StartsWith("arn:aws:iam::aws"))
            {
                await _amazonIam.DeletePolicyAsync(
                    new Amazon.IdentityManagement.Model.DeletePolicyRequest()
                    {
                        PolicyArn = policy.PolicyArn
                    });
            }
        }

        await _amazonIam.DeleteRoleAsync(
            new DeleteRoleRequest() { RoleName = roleName });
    }
    catch (NoSuchEntityException)
    {
        Console.WriteLine($"Instance profile {profileName} does not exist.");
    }
}

/// <summary>
/// Gets data about the instances in an EC2 Auto Scaling group by its group
name.
/// </summary>
/// <param name="group">The name of the auto scaling group.</param>
/// <returns>A collection of instance Ids.</returns>
public async Task<IEnumerable<string>> GetInstancesByGroupName(string group)

```

```

    {
        var instanceResponse = await
        _amazonAutoScaling.DescribeAutoScalingGroupsAsync(
            new DescribeAutoScalingGroupsRequest()
            {
                AutoScalingGroupNames = new List<string>() { group }
            });
        var instanceIds = instanceResponse.AutoScalingGroups.SelectMany(
            g => g.Instances.Select(i => i.InstanceId));
        return instanceIds;
    }

    /// <summary>
    /// Get the instance profile association data for an instance.
    /// </summary>
    /// <param name="instanceId">The Id of the instance.</param>
    /// <returns>Instance profile associations data.</returns>
    public async Task<IamInstanceProfileAssociation> GetInstanceProfile(string
instanceId)
    {
        try
        {
            var response = await
            _amazonEc2.DescribeIamInstanceProfileAssociationsAsync(
                new DescribeIamInstanceProfileAssociationsRequest()
                {
                    Filters = new List<Amazon.EC2.Model.Filter>()
                    {
                        new("instance-id", new List<string>() { instanceId })
                    },
                });
            return response.IamInstanceProfileAssociations[0];
        }
        catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
        {
            if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceID.NotFound")
            {
                _logger.LogError(ec2Exception, $"Instance {instanceId} not found");
            }

            throw;
        }
        catch (Exception ex)
        {

```

```

        _logger.LogError(ex, $"An error occurred while creating the template.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Replace the profile associated with a running instance. After the profile is
replaced, the instance
/// is rebooted to ensure that it uses the new profile. When the instance is
ready, Systems Manager is
/// used to restart the Python web server.
/// </summary>
/// <param name="instanceId">The Id of the instance to update.</param>
/// <param name="credsProfileName">The name of the new profile to associate with
the specified instance.</param>
/// <param name="associationId">The Id of the existing profile association for
the instance.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task ReplaceInstanceProfile(string instanceId, string
credsProfileName, string associationId)
{
    try
    {
        await _amazonEc2.ReplaceIamInstanceProfileAssociationAsync(
            new ReplaceIamInstanceProfileAssociationRequest()
            {
                AssociationId = associationId,
                IamInstanceProfile = new IamInstanceProfileSpecification()
                {
                    Name = credsProfileName
                }
            });
        // Allow time before resetting.
        Thread.Sleep(25000);

        await _amazonEc2.RebootInstancesAsync(
            new RebootInstancesRequest(new List<string>() { instanceId }));
        Thread.Sleep(25000);
        var instanceReady = false;
        var retries = 5;
        while (retries-- > 0 && !instanceReady)
        {
            var instancesPaginator =

```

```

        _amazonSsm.Paginators.DescribeInstanceInformation(
            new DescribeInstanceInformationRequest());
        // Get the entire list using the paginator.
        await foreach (var instance in
instancesPaginator.InstanceInformationList)
        {
            instanceReady = instance.InstanceId == instanceId;
            if (instanceReady)
            {
                break;
            }
        }
    }
    Console.WriteLine("Waiting for instance to be running.");
    await WaitForInstanceState(instanceId, InstanceStateName.Running);
    Console.WriteLine("Instance ready.");
    Console.WriteLine($"Sending restart command to instance {instanceId}");
    await _amazonSsm.SendCommandAsync(
        new SendCommandRequest()
        {
            InstanceIds = new List<string>() { instanceId },
            DocumentName = "AWS-RunShellScript",
            Parameters = new Dictionary<string, List<string>>()
            {
                {
                    "commands",
                    new List<string>() { "cd / && sudo python3 server.py
80" }
                }
            }
        });
    Console.WriteLine($"Restarted the web server on instance {instanceId}");
}
catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
{
    if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceID.NotFound")
    {
        _logger.LogError(ec2Exception, $"Instance {instanceId} not found");
    }

    throw;
}
catch (Exception ex)
{

```

```

        _logger.LogError(ex, $"An error occurred while replacing the template.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Try to terminate an instance by its Id.
/// </summary>
/// <param name="instanceId">The Id of the instance to terminate.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task TryTerminateInstanceById(string instanceId)
{
    var stopping = false;
    Console.WriteLine($"Stopping {instanceId}...");
    while (!stopping)
    {
        try
        {
            await _amazonAutoScaling.TerminateInstanceInAutoScalingGroupAsync(
                new TerminateInstanceInAutoScalingGroupRequest()
                {
                    InstanceId = instanceId,
                    ShouldDecrementDesiredCapacity = false
                });
            stopping = true;
        }
        catch (ScalingActivityInProgressException)
        {
            Console.WriteLine($"Scaling activity in progress for {instanceId}.
Waiting...");
            Thread.Sleep(10000);
        }
    }
}

/// <summary>
/// Tries to delete the EC2 Auto Scaling group. If the group is in use or in
progress,
/// waits and retries until the group is successfully deleted.
/// </summary>
/// <param name="groupName">The name of the group to try to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task TryDeleteGroupByName(string groupName)

```

```

{
    var stopped = false;
    while (!stopped)
    {
        try
        {
            await _amazonAutoScaling.DeleteAutoScalingGroupAsync(
                new DeleteAutoScalingGroupRequest()
                {
                    AutoScalingGroupName = groupName
                });
            stopped = true;
        }
        catch (Exception e)
            when ((e is ScalingActivityInProgressException)
                || (e is Amazon.AutoScaling.Model.ResourceInUseException))
        {
            Console.WriteLine($"Some instances are still running. Waiting...");
            Thread.Sleep(10000);
        }
    }
}

/// <summary>
/// Terminate instances and delete the Auto Scaling group by name.
/// </summary>
/// <param name="groupName">The name of the group to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task TerminateAndDeleteAutoScalingGroupWithName(string groupName)
{
    var describeGroupsResponse = await
        _amazonAutoScaling.DescribeAutoScalingGroupsAsync(
            new DescribeAutoScalingGroupsRequest()
            {
                AutoScalingGroupNames = new List<string>() { groupName }
            });
    if (describeGroupsResponse.AutoScalingGroups.Any())
    {
        // Update the size to 0.
        await _amazonAutoScaling.UpdateAutoScalingGroupAsync(
            new UpdateAutoScalingGroupRequest()
            {
                AutoScalingGroupName = groupName,
                MinSize = 0
            });
    }
}

```

```

        });
        var group = describeGroupsResponse.AutoScalingGroups[0];
        foreach (var instance in group.Instances)
        {
            await TryTerminateInstanceById(instance.InstanceId);
        }

        await TryDeleteGroupByName(groupName);
    }
    else
    {
        Console.WriteLine($"No groups found with name {groupName}.");
    }
}

/// <summary>
/// Get the default security group for a specified Vpc.
/// </summary>
/// <param name="vpc">The Vpc to search.</param>
/// <returns>The default security group.</returns>
public async Task<SecurityGroup> GetDefaultSecurityGroupForVpc(Vpc vpc)
{
    var groupResponse = await _amazonEc2.DescribeSecurityGroupsAsync(
        new DescribeSecurityGroupsRequest()
        {
            Filters = new List<Amazon.EC2.Model.Filter>()
            {
                new ("group-name", new List<string>() { "default" }),
                new ("vpc-id", new List<string>() { vpc.VpcId })
            }
        });
    return groupResponse.SecurityGroups[0];
}

/// <summary>
/// Verify the default security group of a Vpc allows ingress from the calling
computer.
/// This can be done by allowing ingress from this computer's IP address.
/// In some situations, such as connecting from a corporate network, you must
instead specify
/// a prefix list Id. You can also temporarily open the port to any IP address
while running this example.
/// If you do, be sure to remove public access when you're done.

```



```

/// </summary>
/// <param name="vpc">The group to check.</param>
/// <param name="port">The port to verify.</param>
/// <param name="ipAddress">This computer's IP address.</param>
/// <returns>True if the ip address is allowed on the group.</returns>
public bool VerifyInboundPortForGroup(SecurityGroup group, int port, string
ipAddress)
{
    var portIsOpen = false;
    foreach (var ipPermission in group.IpPermissions)
    {
        if (ipPermission.FromPort == port)
        {
            foreach (var ipRange in ipPermission.Ipv4Ranges)
            {
                var cidr = ipRange.CidrIp;
                if (cidr.StartsWith(ipAddress) || cidr == "0.0.0.0/0")
                {
                    portIsOpen = true;
                }
            }

            if (ipPermission.PrefixListIds.Any())
            {
                portIsOpen = true;
            }

            if (!portIsOpen)
            {
                Console.WriteLine("The inbound rule does not appear to be open
to either this computer's IP\n" +
                                "address, to all IP addresses (0.0.0.0/0), or
to a prefix list ID.");
            }
            else
            {
                break;
            }
        }
    }

    return portIsOpen;
}

```

```

    /// <summary>
    /// Add an ingress rule to the specified security group that allows access on
the
    /// specified port from the specified IP address.
    /// </summary>
    /// <param name="groupId">The Id of the security group to modify.</param>
    /// <param name="port">The port to open.</param>
    /// <param name="ipAddress">The IP address to allow access.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task OpenInboundPort(string groupId, int port, string ipAddress)
    {
        await _amazonEc2.AuthorizeSecurityGroupIngressAsync(
            new AuthorizeSecurityGroupIngressRequest()
            {
                GroupId = groupId,
                IpPermissions = new List<IpPermission>()
                {
                    new IpPermission()
                    {
                        FromPort = port,
                        ToPort = port,
                        IpProtocol = "tcp",
                        Ipv4Ranges = new List<IpRange>()
                        {
                            new IpRange() { CidrIp = $"{ipAddress}/32" }
                        }
                    }
                }
            });
    }

    /// <summary>
    /// Attaches an Elastic Load Balancing (ELB) target group to this EC2 Auto
Scaling group.
    /// The
    /// </summary>
    /// <param name="autoScalingGroupName">The name of the Auto Scaling group.</
param>
    /// <param name="targetGroupArn">The Arn for the target group.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task AttachLoadBalancerToGroup(string autoScalingGroupName, string
targetGroupArn)
    {
        await _amazonAutoScaling.AttachLoadBalancerTargetGroupsAsync(

```

```

        new AttachLoadBalancerTargetGroupsRequest()
        {
            AutoScalingGroupName = autoScalingGroupName,
            TargetGroupARNs = new List<string>() { targetGroupArn }
        });
    }

    /// <summary>
    /// Wait until an EC2 instance is in a specified state.
    /// </summary>
    /// <param name="instanceId">The instance Id.</param>
    /// <param name="stateName">The state to wait for.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> WaitForInstanceState(string instanceId,
InstanceStateName stateName)
    {
        var request = new DescribeInstancesRequest
        {
            InstanceIds = new List<string> { instanceId }
        };

        // Wait until the instance is in the specified state.
        var hasState = false;
        do
        {
            // Wait 5 seconds.
            Thread.Sleep(5000);

            // Check for the desired state.
            var response = await _amazonEc2.DescribeInstancesAsync(request);
            var instance = response.Reservations[0].Instances[0];
            hasState = instance.State.Name == stateName;
            Console.WriteLine(". ");
        } while (!hasState);

        return hasState;
    }
}

```

Elastic Load Balancing のアクションをラップするクラスを作成します。

```

/// <summary>
/// Encapsulates Elastic Load Balancer actions.
/// </summary>
public class ElasticLoadBalancerWrapper
{
    private readonly IAmazonElasticLoadBalancingV2 _amazonElasticLoadBalancingV2;
    private string? _endpoint = null;
    private readonly string _targetGroupName = "";
    private readonly string _loadBalancerName = "";
    HttpClient _httpClient = new();

    public string TargetGroupName => _targetGroupName;
    public string LoadBalancerName => _loadBalancerName;

    /// <summary>
    /// Constructor for the Elastic Load Balancer wrapper.
    /// </summary>
    /// <param name="amazonElasticLoadBalancingV2">The injected load balancing v2
client.</param>
    /// <param name="configuration">The injected configuration.</param>
    public ElasticLoadBalancerWrapper(
        IAmazonElasticLoadBalancingV2 amazonElasticLoadBalancingV2,
        IConfiguration configuration)
    {
        _amazonElasticLoadBalancingV2 = amazonElasticLoadBalancingV2;
        var prefix = configuration["resourcePrefix"];
        _targetGroupName = prefix + "-tg";
        _loadBalancerName = prefix + "-lb";
    }

    /// <summary>
    /// Get the HTTP Endpoint of a load balancer by its name.
    /// </summary>
    /// <param name="loadBalancerName">The name of the load balancer.</param>
    /// <returns>The HTTP endpoint.</returns>
    public async Task<string> GetEndpointForLoadBalancerByName(string
loadBalancerName)
    {
        if (_endpoint == null)
        {
            var endpointResponse =
                await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeLoadBalancersAsync(
                    new DescribeLoadBalancersRequest()

```

```

        {
            Names = new List<string>() { loadBalancerName }
        });
        _endpoint = endpointResponse.LoadBalancers[0].DNSName;
    }

    return _endpoint;
}

/// <summary>
/// Return the GET response for an endpoint as text.
/// </summary>
/// <param name="endpoint">The endpoint for the request.</param>
/// <returns>The request response.</returns>
public async Task<string> GetEndPointResponse(string endpoint)
{
    var endpointResponse = await _httpClient.GetAsync($"http://{endpoint}");
    var textResponse = await endpointResponse.Content.ReadAsStringAsync();
    return textResponse!;
}

/// <summary>
/// Get the target health for a group by name.
/// </summary>
/// <param name="groupName">The name of the group.</param>
/// <returns>The collection of health descriptions.</returns>
public async Task<List<TargetHealthDescription>>
CheckTargetHealthForGroup(string groupName)
{
    List<TargetHealthDescription> result = null!;
    try
    {
        var groupResponse =
            await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeTargetGroupsAsync(
                new DescribeTargetGroupsRequest()
                {
                    Names = new List<string>() { groupName }
                });
        var healthResponse =
            await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeTargetHealthAsync(
                new DescribeTargetHealthRequest()
                {
                    TargetGroupArn =
groupResponse.TargetGroups[0].TargetGroupArn

```

```

        });

        ;
        result = healthResponse.TargetHealthDescriptions;
    }
    catch (TargetGroupNotFoundException)
    {
        Console.WriteLine($"Target group {groupName} not found.");
    }
    return result;
}

/// <summary>
/// Create an Elastic Load Balancing target group. The target group specifies
how the load balancer forwards
/// requests to instances in the group and how instance health is checked.
///
/// To speed up this demo, the health check is configured with shortened times
and lower thresholds. In production,
/// you might want to decrease the sensitivity of your health checks to avoid
unwanted failures.
/// </summary>
/// <param name="groupName">The name for the group.</param>
/// <param name="protocol">The protocol, such as HTTP.</param>
/// <param name="port">The port to use to forward requests, such as 80.</param>
/// <param name="vpcId">The Id of the Vpc in which the load balancer exists.</
param>
/// <returns>The new TargetGroup object.</returns>
public async Task<TargetGroup> CreateTargetGroupOnVpc(string groupName,
ProtocolEnum protocol, int port, string vpcId)
{
    var createResponse = await
_amazonElasticLoadBalancingV2.CreateTargetGroupAsync(
    new CreateTargetGroupRequest()
    {
        Name = groupName,
        Protocol = protocol,
        Port = port,
        HealthCheckPath = "/healthcheck",
        HealthCheckIntervalSeconds = 10,
        HealthCheckTimeoutSeconds = 5,
        HealthyThresholdCount = 2,
        UnhealthyThresholdCount = 2,
        VpcId = vpcId
    });
}

```

```

        var targetGroup = createResponse.TargetGroups[0];
        return targetGroup;
    }

    /// <summary>
    /// Create an Elastic Load Balancing load balancer that uses the specified
subnets
    /// and forwards requests to the specified target group.
    /// </summary>
    /// <param name="name">The name for the new load balancer.</param>
    /// <param name="subnetIds">Subnets for the load balancer.</param>
    /// <param name="targetGroup">Target group for forwarded requests.</param>
    /// <returns>The new LoadBalancer object.</returns>
    public async Task<LoadBalancer> CreateLoadBalancerAndListener(string name,
List<string> subnetIds, TargetGroup targetGroup)
    {
        var createLbResponse = await
        _amazonElasticLoadBalancingV2.CreateLoadBalancerAsync(
            new CreateLoadBalancerRequest()
            {
                Name = name,
                Subnets = subnetIds
            });
        var loadBalancerArn = createLbResponse.LoadBalancers[0].LoadBalancerArn;

        // Wait for load balancer to be available.
        var loadBalancerReady = false;
        while (!loadBalancerReady)
        {
            try
            {
                var describeResponse =
                    await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeLoadBalancersAsync(
                        new DescribeLoadBalancersRequest()
                        {
                            Names = new List<string>() { name }
                        });

                var loadBalancerState =
describeResponse.LoadBalancers[0].State.Code;

                loadBalancerReady = loadBalancerState ==
LoadBalancerStateEnum.Active;
            }

```

```

        catch (LoadBalancerNotFoundException)
        {
            loadBalancerReady = false;
        }
        Thread.Sleep(10000);
    }
    // Create the listener.
    await _amazonElasticLoadBalancingV2.CreateListenerAsync(
        new CreateListenerRequest()
        {
            LoadBalancerArn = loadBalancerArn,
            Protocol = targetGroup.Protocol,
            Port = targetGroup.Port,
            DefaultActions = new List<Action>()
            {
                new Action()
                {
                    Type = ActionTypeEnum.Forward,
                    TargetGroupArn = targetGroup.TargetGroupArn
                }
            }
        });
    return createLbResponse.LoadBalancers[0];
}

/// <summary>
/// Verify this computer can successfully send a GET request to the
/// load balancer endpoint.
/// </summary>
/// <param name="endpoint">The endpoint to check.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> VerifyLoadBalancerEndpoint(string endpoint)
{
    var success = false;
    var retries = 3;
    while (!success && retries > 0)
    {
        try
        {
            var endpointResponse = await _httpClient.GetAsync($"http://{
{endpoint}");
            Console.WriteLine($"Response: {endpointResponse.StatusCode}.");

            if (endpointResponse.IsSuccessStatusCode)

```



```

        {
            success = true;
        }
        else
        {
            retries = 0;
        }
    }
    catch (HttpRequestException)
    {
        Console.WriteLine("Connection error, retrying...");
        retries--;
        Thread.Sleep(10000);
    }
}

return success;
}

/// <summary>
/// Delete a load balancer by its specified name.
/// </summary>
/// <param name="name">The name of the load balancer to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task DeleteLoadBalancerByName(string name)
{
    try
    {
        var describeLoadBalancerResponse =
            await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeLoadBalancersAsync(
                new DescribeLoadBalancersRequest()
                {
                    Names = new List<string>() { name }
                });
        var lbArn =
            describeLoadBalancerResponse.LoadBalancers[0].LoadBalancerArn;
        await _amazonElasticLoadBalancingV2.DeleteLoadBalancerAsync(
            new DeleteLoadBalancerRequest()
            {
                LoadBalancerArn = lbArn
            }
        );
    }
    catch (LoadBalancerNotFoundException)

```

```

        {
            Console.WriteLine($"Load balancer {name} not found.");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Delete a TargetGroup by its specified name.
    /// </summary>
    /// <param name="groupName">Name of the group to delete.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task DeleteTargetGroupByName(string groupName)
    {
        var done = false;
        while (!done)
        {
            try
            {
                var groupResponse =
                    await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeTargetGroupsAsync(
                        new DescribeTargetGroupsRequest()
                        {
                            Names = new List<string>() { groupName }
                        });

                var targetArn = groupResponse.TargetGroups[0].TargetGroupArn;
                await _amazonElasticLoadBalancingV2.DeleteTargetGroupAsync(
                    new DeleteTargetGroupRequest() { TargetGroupArn = targetArn });
                Console.WriteLine($"Deleted load balancing target group
{groupName}.");
                done = true;
            }
            catch (TargetGroupNotFoundException)
            {
                Console.WriteLine(
                    $"Target group {groupName} not found, could not delete.");
                done = true;
            }
            catch (ResourceInUseException)
            {
                Console.WriteLine("Target group not yet released, waiting...");
                Thread.Sleep(10000);
            }
        }
    }
}

```

```
}
```

DynamoDB を使用してレコメンデーションサービスをシミュレートするクラスを作成します。

```
/// <summary>
/// Encapsulates a DynamoDB table to use as a service that recommends books, movies,
/// and songs.
/// </summary>
public class Recommendations
{
    private readonly IAmazonDynamoDB _amazonDynamoDb;
    private readonly DynamoDBContext _context;
    private readonly string _tableName;

    public string TableName => _tableName;

    /// <summary>
    /// Constructor for the Recommendations service.
    /// </summary>
    /// <param name="amazonDynamoDb">The injected DynamoDb client.</param>
    /// <param name="configuration">The injected configuration.</param>
    public Recommendations(IAmazonDynamoDB amazonDynamoDb, IConfiguration
configuration)
    {
        _amazonDynamoDb = amazonDynamoDb;
        _context = new DynamoDBContext(_amazonDynamoDb);
        _tableName = configuration["databaseName"]!;
    }

    /// <summary>
    /// Create the DynamoDb table with a specified name.
    /// </summary>
    /// <param name="tableName">The name for the table.</param>
    /// <returns>True when ready.</returns>
    public async Task<bool> CreateDatabaseWithName(string tableName)
    {
        try
        {
            Console.WriteLine($"Creating table {tableName}...");
            var createRequest = new CreateTableRequest()
            {
                TableName = tableName,
```

```
AttributeDefinitions = new List<AttributeDefinition>()
{
    new AttributeDefinition()
    {
        AttributeName = "MediaType",
        AttributeType = ScalarAttributeType.S
    },
    new AttributeDefinition()
    {
        AttributeName = "ItemId",
        AttributeType = ScalarAttributeType.N
    }
},
KeySchema = new List<KeySchemaElement>()
{
    new KeySchemaElement()
    {
        AttributeName = "MediaType",
        KeyType = KeyType.HASH
    },
    new KeySchemaElement()
    {
        AttributeName = "ItemId",
        KeyType = KeyType.RANGE
    }
},
ProvisionedThroughput = new ProvisionedThroughput()
{
    ReadCapacityUnits = 5,
    WriteCapacityUnits = 5
}
};
await _amazonDynamoDb.CreateTableAsync(createRequest);

// Wait until the table is ACTIVE and then report success.
Console.WriteLine("\nWaiting for table to become active...");

var request = new DescribeTableRequest
{
    TableName = tableName
};

TableStatus status;
do
```

```

        {
            Thread.Sleep(2000);

            var describeTableResponse = await
            _amazonDynamoDb.DescribeTableAsync(request);
            status = describeTableResponse.Table.TableStatus;

            Console.Write(".");
        }
        while (status != "ACTIVE");

        return status == TableStatus.ACTIVE;
    }
    catch (ResourceInUseException)
    {
        Console.WriteLine($"Table {tableName} already exists.");
        return false;
    }
}

/// <summary>
/// Populate the database table with data from a specified path.
/// </summary>
/// <param name="databaseTableName">The name of the table.</param>
/// <param name="recommendationsPath">The path of the recommendations data.</
param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task PopulateDatabase(string databaseTableName, string
recommendationsPath)
{
    var recommendationsText = await File.ReadAllTextAsync(recommendationsPath);
    var records =
        JsonSerializer.Deserialize<RecommendationModel[]>(recommendationsText);
    var batchWrite = _context.CreateBatchWrite<RecommendationModel>();

    foreach (var record in records!)
    {
        batchWrite.AddPutItem(record);
    }

    await batchWrite.ExecuteAsync();
}

/// <summary>

```

```

    /// Delete the recommendation table by name.
    /// </summary>
    /// <param name="tableName">The name of the recommendation table.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task DestroyDatabaseByName(string tableName)
    {
        try
        {
            await _amazonDynamoDb.DeleteTableAsync(
                new DeleteTableRequest() { TableName = tableName });
            Console.WriteLine($"Table {tableName} was deleted.");
        }
        catch (ResourceNotFoundException)
        {
            Console.WriteLine($"Table {tableName} not found");
        }
    }
}

```

Systems Manager のアクションをラップするクラスを作成します。

```

    /// <summary>
    /// Encapsulates Systems Manager parameter operations. This example uses these
    /// parameters
    /// to drive the demonstration of resilient architecture, such as failure of a
    /// dependency or
    /// how the service responds to a health check.
    /// </summary>
    public class SmParameterWrapper
    {
        private readonly IAmazonSimpleSystemsManagement _amazonSimpleSystemsManagement;

        private readonly string _tableParameter = "doc-example-resilient-architecture-
table";
        private readonly string _failureResponseParameter = "doc-example-resilient-
architecture-failure-response";
        private readonly string _healthCheckParameter = "doc-example-resilient-
architecture-health-check";
        private readonly string _tableName = "";

        public string TableParameter => _tableParameter;
        public string TableName => _tableName;
    }

```

```

    public string HealthCheckParameter => _healthCheckParameter;
    public string FailureResponseParameter => _failureResponseParameter;

    /// <summary>
    /// Constructor for the SmParameterWrapper.
    /// </summary>
    /// <param name="amazonSimpleSystemsManagement">The injected Simple Systems
Management client.</param>
    /// <param name="configuration">The injected configuration.</param>
    public SmParameterWrapper(IAmazonSimpleSystemsManagement
amazonSimpleSystemsManagement, IConfiguration configuration)
    {
        _amazonSimpleSystemsManagement = amazonSimpleSystemsManagement;
        _tableName = configuration["databaseName"]!;
    }

    /// <summary>
    /// Reset the Systems Manager parameters to starting values for the demo.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task Reset()
    {
        await this.PutParameterByName(_tableParameter, _tableName);
        await this.PutParameterByName(_failureResponseParameter, "none");
        await this.PutParameterByName(_healthCheckParameter, "shallow");
    }

    /// <summary>
    /// Set the value of a named Systems Manager parameter.
    /// </summary>
    /// <param name="name">The name of the parameter.</param>
    /// <param name="value">The value to set.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task PutParameterByName(string name, string value)
    {
        await _amazonSimpleSystemsManagement.PutParameterAsync(
            new PutParameterRequest() { Name = name, Value = value, Overwrite =
true });
    }
}

```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
 - [AttachLoadBalancerTargetGroups](#)
 - [CreateAutoScalingGroup](#)
 - [CreateInstanceProfile](#)
 - [CreateLaunchTemplate](#)
 - [CreateListener](#)
 - [CreateLoadBalancer](#)
 - [CreateTargetGroup](#)
 - [DeleteAutoScalingGroup](#)
 - [DeleteInstanceProfile](#)
 - [DeleteLaunchTemplate](#)
 - [DeleteLoadBalancer](#)
 - [DeleteTargetGroup](#)
 - [DescribeAutoScalingGroups](#)
 - [DescribeAvailabilityZones](#)
 - [DescribeIamInstanceProfileAssociations](#)
 - [DescribeInstances](#)
 - [DescribeLoadBalancers](#)
 - [DescribeSubnets](#)
 - [DescribeTargetGroups](#)
 - [DescribeTargetHealth](#)
 - [DescribeVpcs](#)
 - [RebootInstances](#)
 - [ReplaceIamInstanceProfileAssociation](#)
 - [TerminateInstanceInAutoScalingGroup](#)
 - [UpdateAutoScalingGroup](#)

を使用した EventBridge の例 SDK for .NET

次のコード例は、EventBridge AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [はじめに](#)
- [基本](#)
- [アクション](#)

はじめに

Hello EventBridge

次のコード例は、EventBridge の使用を開始する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using Amazon.EventBridge;
using Amazon.EventBridge.Model;

namespace EventBridgeActions;
```

```
public static class HelloEventBridge
{
    static async Task Main(string[] args)
    {
        var eventBridgeClient = new AmazonEventBridgeClient();

        Console.WriteLine($"Hello Amazon EventBridge! Following are some of your
EventBuses:");
        Console.WriteLine();

        // You can use await and any of the async methods to get a response.
        // Let's get the first five event buses.
        var response = await eventBridgeClient.ListEventBusesAsync(
            new ListEventBusesRequest()
            {
                Limit = 5
            });

        foreach (var eventBus in response.EventBuses)
        {
            Console.WriteLine($"\\tEventBus: {eventBus.Name}");
            Console.WriteLine($"\\tArn: {eventBus.Arn}");
            Console.WriteLine($"\\tPolicy: {eventBus.Policy}");
            Console.WriteLine();
        }
    }
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListEventBuses](#)」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- ルールを作成して、ターゲットを追加する。
- ルールを有効化および無効化する。
- ルールとターゲットを一覧表示して更新する。

- イベントを送信して、リソースをクリーンアップする。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

サーバーレスサンプルリポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

```
public class EventBridgeScenario
{
    /*
        Before running this .NET code example, set up your development environment,
        including your credentials.

        This .NET example performs the following tasks with Amazon EventBridge:
        - Create a rule.
        - Add a target to a rule.
        - Enable and disable rules.
        - List rules and targets.
        - Update rules and targets.
        - Send events.
        - Delete the rule.
    */

    private static ILogger logger = null!;
    private static EventBridgeWrapper _eventBridgeWrapper = null!;
    private static IConfiguration _configuration = null!;

    private static IAMIdentityManagementService? _iamClient = null!;
    private static IAmazonSimpleNotificationService? _snsClient = null!;
    private static IAmazonS3 _s3Client = null!;

    static async Task Main(string[] args)
    {
        // Set up dependency injection for Amazon EventBridge.
        using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
            .ConfigureLogging(logging =>
```

```

        logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
            .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
LogLevel.Information)
            .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
        .ConfigureServices((_, services) =>
services.AddAWSService<IAmazonEventBridge>()
.AddAWSService<IAmazonIdentityManagementService>()
.AddAWSService<IAmazonS3>()
.AddAWSService<IAmazonSimpleNotificationService>()
.AddTransient<EventBridgeWrapper>()
)
        .Build();

_configuration = new ConfigurationBuilder()
    .SetBasePath(Directory.GetCurrentDirectory())
    .AddJsonFile("settings.json") // Load settings from .json file.
    .AddJsonFile("settings.local.json",
        true) // Optionally, load local settings.
    .Build();

logger = LoggerFactory.Create(builder => { builder.AddConsole(); })
    .CreateLogger<EventBridgeScenario>();

ServicesSetup(host);

string topicArn = "";
string roleArn = "";

Console.WriteLine(new string('-', 80));
Console.WriteLine("Welcome to the Amazon EventBridge example scenario.");
Console.WriteLine(new string('-', 80));

try
{
    roleArn = await CreateRole();

    await CreateBucketWithEventBridgeEvents();

    await AddEventRule(roleArn);

    await ListEventRules();

    topicArn = await CreateSnsTopic();

```

```

        var email = await SubscribeToSnsTopic(topicArn);

        await AddSnsTarget(topicArn);

        await ListTargets();

        await ListRulesForTarget(topicArn);

        await UploadS3File(_s3Client);

        await ChangeRuleState(false);

        await GetRuleState();

        await UpdateSnsEventRule(topicArn);

        await ChangeRuleState(true);

        await UploadS3File(_s3Client);

        await UpdateToCustomRule(topicArn);

        await TriggerCustomRule(email);

        await CleanupResources(topicArn);
    }
    catch (Exception ex)
    {
        logger.LogError(ex, "There was a problem executing the scenario.");
        await CleanupResources(topicArn);
    }
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("The Amazon EventBridge example scenario is complete.");
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
}

/// <summary>
/// Populate the services for use within the console application.
/// </summary>
/// <param name="host">The services host.</param>
private static void ServicesSetup(IHost host)
{
    _eventBridgeWrapper =
host.Services.GetRequiredService<EventBridgeWrapper>();

```

```

        _snsClient =
host.Services.GetRequiredService<IAmazonSimpleNotificationService>();
        _s3Client = host.Services.GetRequiredService<IAmazonS3>();
        _iamClient =
host.Services.GetRequiredService<IAmazonIdentityManagementService>();
    }

    /// <summary>
    /// Create a role to be used by EventBridge.
    /// </summary>
    /// <returns>The role Amazon Resource Name (ARN).</returns>
    public static async Task<string> CreateRole()
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Creating a role to use with EventBridge and attaching
managed policy AmazonEventBridgeFullAccess.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        var roleName = _configuration["roleName"];

        var assumeRolePolicy = "{" +
                                "\"Version\": \"2012-10-17\", \" +
                                "\"Statement\": [{\" +
                                "\"Effect\": \"Allow\", \" +
                                "\"Principal\": {\" +
                                \"$\"\"Service\": \"events.amazonaws.com\"\" +
                                \"}, \" +
                                "\"Action\": \"sts:AssumeRole\"\" +
                                \"}]\" +
                                "}";

        var roleResult = await _iamClient!.CreateRoleAsync(
            new CreateRoleRequest()
            {
                AssumeRolePolicyDocument = assumeRolePolicy,
                Path = "/",
                RoleName = roleName
            });

        await _iamClient.AttachRolePolicyAsync(
            new AttachRolePolicyRequest()
            {
                PolicyArn = "arn:aws:iam::aws:policy/AmazonEventBridgeFullAccess",
                RoleName = roleName
            });
    }

```

```
    });  
    // Allow time for the role to be ready.  
    Thread.Sleep(10000);  
    return roleResult.Role.Arn;  
}  
  
/// <summary>  
/// Create an Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) bucket with EventBridge  
events enabled.  
/// </summary>  
/// <returns>Async task.</returns>  
private static async Task CreateBucketWithEventBridgeEvents()  
{  
    Console.WriteLine(new string('-', 80));  
    Console.WriteLine("Creating an S3 bucket with EventBridge events enabled.");  
  
    var testBucketName = _configuration["testBucketName"];  
  
    var bucketExists = await  
Amazon.S3.Util.AmazonS3Util.DoesS3BucketExistV2Async(_s3Client,  
        testBucketName);  
  
    if (!bucketExists)  
    {  
        await _s3Client.PutBucketAsync(new PutBucketRequest()  
        {  
            BucketName = testBucketName,  
            UseClientRegion = true  
        });  
    }  
  
    await _s3Client.PutBucketNotificationAsync(new  
PutBucketNotificationRequest()  
    {  
        BucketName = testBucketName,  
        EventBridgeConfiguration = new EventBridgeConfiguration()  
    });  
  
    Console.WriteLine($"\\tAdded bucket {testBucketName} with EventBridge events  
enabled.");  
  
    Console.WriteLine(new string('-', 80));  
}
```

```
/// <summary>
/// Create and upload a file to an S3 bucket to trigger an event.
/// </summary>
/// <returns>Async task.</returns>
private static async Task UploadS3File(IAmazonS3 s3Client)
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("Uploading a file to the test bucket. This will trigger a
subscription email.");

    var testBucketName = _configuration["testBucketName"];

    var fileName = $"example_upload_{DateTime.UtcNow.Ticks}.txt";

    // Create the file if it does not already exist.
    if (!File.Exists(fileName))
    {
        await using StreamWriter sw = File.CreateText(fileName);
        await sw.WriteLineAsync(
            "This is a sample file for testing uploads.");
    }

    await s3Client.PutObjectAsync(new PutObjectRequest()
    {
        FilePath = fileName,
        BucketName = testBucketName
    });

    Console.WriteLine($"\\tPress Enter to continue.");
    Console.ReadLine();

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
}

/// <summary>
/// Create an Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) topic to use as an
EventBridge target.
/// </summary>
/// <returns>Async task.</returns>
private static async Task<string> CreateSnsTopic()
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine(
```



```

        "Creating an Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) topic for
        email subscriptions.");

        var topicName = _configuration["topicName"];

        string topicPolicy = "{" +
                                "\"Version\": \"2012-10-17\", " +
                                "\"Statement\": [{ " +
                                "\"Sid\": \"EventBridgePublishTopic\", " +
                                "\"Effect\": \"Allow\", " +
                                "\"Principal\": { " +
                                $"\"Service\": \"events.amazonaws.com\" " +
                                "}, " +
                                "\"Resource\": \"*\", " +
                                "\"Action\": \"sns:Publish\" " +
                                "}] " +
                                "}";

        var topicAttributes = new Dictionary<string, string>()
        {
            { "Policy", topicPolicy }
        };

        var topicResponse = await _snsClient!.CreateTopicAsync(new
        CreateTopicRequest()
        {
            Name = topicName,
            Attributes = topicAttributes
        });

        Console.WriteLine($"Added topic {topicName} for email subscriptions.");

        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        return topicResponse.TopicArn;
    }

    /// <summary>
    /// Subscribe a user email to an SNS topic.
    /// </summary>
    /// <param name="topicArn">The ARN of the SNS topic.</param>
    /// <returns>The user's email.</returns>
    private static async Task<string> SubscribeToSnsTopic(string topicArn)

```

```
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));

    string email = "";
    while (string.IsNullOrEmpty(email))
    {
        Console.WriteLine("Enter your email to subscribe to the Amazon SNS
topic:");
        email = Console.ReadLine()!;
    }

    var subscriptions = new List<string>();
    var paginatedSubscriptions =
_snsClient!.Paginators.ListSubscriptionsByTopic(
    new ListSubscriptionsByTopicRequest()
    {
        TopicArn = topicArn
    });

    // Get the entire list using the paginator.
    await foreach (var subscription in paginatedSubscriptions.Subscriptions)
    {
        subscriptions.Add(subscription.Endpoint);
    }

    if (subscriptions.Contains(email))
    {
        Console.WriteLine($"\\tYour email is already subscribed.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        return email;
    }

    await _snsClient.SubscribeAsync(new SubscribeRequest()
    {
        TopicArn = topicArn,
        Protocol = "email",
        Endpoint = email
    });

    Console.WriteLine($"Use the link in the email you received to confirm your
subscription, then press Enter to continue.");

    Console.ReadLine();
}
```

```

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        return email;
    }

    /// <summary>
    /// Add a rule which triggers when a file is uploaded to an S3 bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="roleArn">The ARN of the role used by EventBridge.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task AddEventRule(string roleArn)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Creating an EventBridge event that sends an email when an
Amazon S3 object is created.");

        var eventRuleName = _configuration["eventRuleName"];
        var testBucketName = _configuration["testBucketName"];

        await _eventBridgeWrapper.PutS3UploadRule(roleArn, eventRuleName,
testBucketName);
        Console.WriteLine($"\\tAdded event rule {eventRuleName} for bucket
{testBucketName}.");

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// Add an SNS target to the rule.
    /// </summary>
    /// <param name="topicArn">The ARN of the SNS topic.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task AddSnsTarget(string topicArn)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Adding a target to the rule to that sends an email when
the rule is triggered.");

        var eventRuleName = _configuration["eventRuleName"];
        var testBucketName = _configuration["testBucketName"];
        var topicName = _configuration["topicName"];
        await _eventBridgeWrapper.AddSnsTargetToRule(eventRuleName, topicArn);
        Console.WriteLine($"\\tAdded event rule {eventRuleName} with Amazon SNS
target {topicName} for bucket {testBucketName}.");
    }

```

```

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// List the event rules on the default event bus.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task ListEventRules()
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Current event rules:");

        var rules = await _eventBridgeWrapper.ListAllRulesForEventBus();
        rules.ForEach(r => Console.WriteLine($"{r.Name} Description:
{r.Description} State: {r.State}"));

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// Update the event target to use a transform.
    /// </summary>
    /// <param name="topicArn">The SNS topic ARN target to update.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task UpdateSnsEventRule(string topicArn)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Let's update the event target with a transform.");

        var eventRuleName = _configuration["eventRuleName"];
        var testBucketName = _configuration["testBucketName"];

        await
_eventBridgeWrapper.UpdateS3UploadRuleTargetWithTransform(eventRuleName, topicArn);
        Console.WriteLine($"{r.Name} Updated event rule {eventRuleName} with Amazon SNS
target {topicArn} for bucket {testBucketName}.");

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// Update the rule to use a custom event pattern.
    /// </summary>

```

```

    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task UpdateToCustomRule(string topicArn)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Updating the event pattern to be triggered by a custom
event instead.");

        var eventRuleName = _configuration["eventRuleName"];

        await _eventBridgeWrapper.UpdateCustomEventPattern(eventRuleName);

        Console.WriteLine($"\\tUpdated event rule {eventRuleName} to custom
pattern.");
        await _eventBridgeWrapper.UpdateCustomRuleTargetWithTransform(eventRuleName,
            topicArn);

        Console.WriteLine($"\\tUpdated event target {topicArn}.");

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// Send rule events for a custom rule using the user's email address.
    /// </summary>
    /// <param name="email">The email address to include.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task TriggerCustomRule(string email)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Sending an event to trigger the rule. This will trigger a
subscription email.");

        await _eventBridgeWrapper.PutCustomEmailEvent(email);

        Console.WriteLine($"\\tEvents have been sent. Press Enter to continue.");
        Console.ReadLine();

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// List all of the targets for a rule.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>

```

```

private static async Task ListTargets()
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("List all of the targets for a particular rule.");

    var eventRuleName = _configuration["eventRuleName"];
    var targets = await _eventBridgeWrapper.ListAllTargetsOnRule(eventRuleName);
    targets.ForEach(t => Console.WriteLine($"{t.Target: {t.Arn} Id: {t.Id} Input: {t.Input}"));

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
}

/// <summary>
/// List all of the rules for a particular target.
/// </summary>
/// <param name="topicArn">The ARN of the SNS topic.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
private static async Task ListRulesForTarget(string topicArn)
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("List all of the rules for a particular target.");

    var rules = await _eventBridgeWrapper.ListAllRuleNamesByTarget(topicArn);
    rules.ForEach(r => Console.WriteLine($"{r.Rule: {r}"));

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
}

/// <summary>
/// Enable or disable a particular rule.
/// </summary>
/// <param name="isEnabled">True to enable the rule, otherwise false.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
private static async Task ChangeRuleState(bool isEnabled)
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    var eventRuleName = _configuration["eventRuleName"];

    if (!isEnabled)
    {
        Console.WriteLine($"Disabling the rule: {eventRuleName}");
        await _eventBridgeWrapper.DisableRuleByName(eventRuleName);
    }
}

```

```

        else
        {
            Console.WriteLine($"Enabling the rule: {eventRuleName}");
            await _eventBridgeWrapper.EnableRuleByName(eventRuleName);
        }

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// Get the current state of the rule.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task GetRuleState()
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        var eventRuleName = _configuration["eventRuleName"];

        var state = await _eventBridgeWrapper.GetRuleStateByRuleName(eventRuleName);
        Console.WriteLine($"Rule {eventRuleName} is in current state {state}.");

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// Clean up the resources from the scenario.
    /// </summary>
    /// <param name="topicArn">The ARN of the SNS topic to clean up.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task CleanupResources(string topicArn)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"Clean up resources.");

        var eventRuleName = _configuration["eventRuleName"];
        if (GetYesNoResponse($"\\tDelete all targets and event rule {eventRuleName}?
(y/n)"))
        {
            Console.WriteLine($"\\tRemoving all targets from the event rule.");
            await _eventBridgeWrapper.RemoveAllTargetsFromRule(eventRuleName);

            Console.WriteLine($"\\tDeleting event rule.");
            await _eventBridgeWrapper.DeleteRuleByName(eventRuleName);
        }
    }

```

```

var topicName = _configuration["topicName"];
if (GetYesNoResponse($"\\tDelete Amazon SNS subscription topic {topicName}?
(y/n)"))
{
    Console.WriteLine($"\\tDeleting topic.");
    await _snsClient!.DeleteTopicAsync(new DeleteTopicRequest()
    {
        TopicArn = topicArn
    });
}

var bucketName = _configuration["testBucketName"];
if (GetYesNoResponse($"\\tDelete Amazon S3 bucket {bucketName}? (y/n)"))
{
    Console.WriteLine($"\\tDeleting bucket.");
    // Delete all objects in the bucket.
    var deleteList = await _s3Client.ListObjectsV2Async(new
ListObjectsV2Request()
    {
        BucketName = bucketName
    });
    await _s3Client.DeleteObjectsAsync(new DeleteObjectsRequest()
    {
        BucketName = bucketName,
        Objects = deleteList.S3Objects
            .Select(o => new KeyVersion { Key = o.Key }).ToList()
    });
    // Now delete the bucket.
    await _s3Client.DeleteBucketAsync(new DeleteBucketRequest()
    {
        BucketName = bucketName
    });
}

var roleName = _configuration["roleName"];
if (GetYesNoResponse($"\\tDelete role {roleName}? (y/n)"))
{
    Console.WriteLine($"\\tDetaching policy and deleting role.");

    await _iamClient!.DetachRolePolicyAsync(new DetachRolePolicyRequest()
    {
        RoleName = roleName,
        PolicyArn = "arn:aws:iam::aws:policy/AmazonEventBridgeFullAccess",

```



```

        });

        await _iamClient!.DeleteRoleAsync(new DeleteRoleRequest()
        {
            RoleName = roleName
        });
    }

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
}

/// <summary>
/// Helper method to get a yes or no response from the user.
/// </summary>
/// <param name="question">The question string to print on the console.</param>
/// <returns>True if the user responds with a yes.</returns>
private static bool GetYesNoResponse(string question)
{
    Console.WriteLine(question);
    var ynResponse = Console.ReadLine();
    var response = ynResponse != null &&
        ynResponse.Equals("y",
            StringComparison.InvariantCultureIgnoreCase);

    return response;
}
}

```

EventBridge オペレーションをラップするクラスを作成します。

```

/// <summary>
/// Wrapper for Amazon EventBridge operations.
/// </summary>
public class EventBridgeWrapper
{
    private readonly IAmazonEventBridge _amazonEventBridge;
    private readonly ILogger<EventBridgeWrapper> _logger;

    /// <summary>
    /// Constructor for the EventBridge wrapper.
    /// </summary>
    /// <param name="amazonEventBridge">The injected EventBridge client.</param>

```

```
/// <param name="logger">The injected logger for the wrapper.</param>
public EventBridgeWrapper(IAmazonEventBridge amazonEventBridge,
ILogger<EventBridgeWrapper> logger)

{
    _amazonEventBridge = amazonEventBridge;
    _logger = logger;
}

/// <summary>
/// Get the state for a rule by the rule name.
/// </summary>
/// <param name="ruleName">The name of the rule.</param>
/// <param name="eventBusName">The optional name of the event bus. If empty,
uses the default event bus.</param>
/// <returns>The state of the rule.</returns>
public async Task<RuleState> GetRuleStateByRuleName(string ruleName, string?
eventBusName = null)
{
    var ruleResponse = await _amazonEventBridge.DescribeRuleAsync(
        new DescribeRuleRequest()
        {
            Name = ruleName,
            EventBusName = eventBusName
        });
    return ruleResponse.State;
}

/// <summary>
/// Enable a particular rule on an event bus.
/// </summary>
/// <param name="ruleName">The name of the rule.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> EnableRuleByName(string ruleName)
{
    var ruleResponse = await _amazonEventBridge.EnableRuleAsync(
        new EnableRuleRequest()
        {
            Name = ruleName
        });
    return ruleResponse.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}

/// <summary>
```

```
/// Disable a particular rule on an event bus.
/// </summary>
/// <param name="ruleName">The name of the rule.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> DisableRuleByName(string ruleName)
{
    var ruleResponse = await _amazonEventBridge.DisableRuleAsync(
        new DisableRuleRequest()
        {
            Name = ruleName
        });
    return ruleResponse.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}

/// <summary>
/// List the rules on an event bus.
/// </summary>
/// <param name="eventBusArn">The optional ARN of the event bus. If empty, uses
the default event bus.</param>
/// <returns>The list of rules.</returns>
public async Task<List<Rule>> ListAllRulesForEventBus(string? eventBusArn =
null)
{
    var results = new List<Rule>();
    var request = new ListRulesRequest()
    {
        EventBusName = eventBusArn
    };
    // Get all of the pages of rules.
    ListRulesResponse response;
    do
    {
        response = await _amazonEventBridge.ListRulesAsync(request);
        results.AddRange(response.Rules);
        request.NextToken = response.NextToken;

    } while (response.NextToken is not null);

    return results;
}

/// <summary>
/// List all of the targets matching a rule by name.
/// </summary>
```

```
/// <param name="ruleName">The name of the rule.</param>
/// <returns>The list of targets.</returns>
public async Task<List<Target>> ListAllTargetsOnRule(string ruleName)
{
    var results = new List<Target>();
    var request = new ListTargetsByRuleRequest()
    {
        Rule = ruleName
    };
    ListTargetsByRuleResponse response;
    do
    {
        response = await _amazonEventBridge.ListTargetsByRuleAsync(request);
        results.AddRange(response.Targets);
        request.NextToken = response.NextToken;

    } while (response.NextToken is not null);

    return results;
}

/// <summary>
/// List names of all rules matching a target.
/// </summary>
/// <param name="targetArn">The ARN of the target.</param>
/// <returns>The list of rule names.</returns>
public async Task<List<string>> ListAllRuleNamesByTarget(string targetArn)
{
    var results = new List<string>();
    var request = new ListRuleNamesByTargetRequest()
    {
        TargetArn = targetArn
    };
    ListRuleNamesByTargetResponse response;
    do
    {
        response = await _amazonEventBridge.ListRuleNamesByTargetAsync(request);
        results.AddRange(response.RuleNames);
        request.NextToken = response.NextToken;

    } while (response.NextToken is not null);

    return results;
}
```

```

    /// <summary>
    /// Create a new event rule that triggers when an Amazon S3 object is created in
    a bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="roleArn">The ARN of the role.</param>
    /// <param name="ruleName">The name to give the rule.</param>
    /// <param name="bucketName">The name of the bucket to trigger the event.</
param>
    /// <returns>The ARN of the new rule.</returns>
    public async Task<string> PutS3UploadRule(string roleArn, string ruleName,
string bucketName)
    {
        string eventPattern = "{" +
            "\"source\": [\"aws.s3\"],\" +
            "\"detail-type\": [\"Object Created\"],\" +
            "\"detail\": {\" +
            \"bucket\": {\" +
            \"name\": [\"" + bucketName + "\"]\" +
            \"}\" +
            \"}\" +
            "\"}";

        var response = await _amazonEventBridge.PutRuleAsync(
            new PutRuleRequest()
            {
                Name = ruleName,
                Description = "Example S3 upload rule for EventBridge",
                RoleArn = roleArn,
                EventPattern = eventPattern
            });

        return response.RuleArn;
    }

    /// <summary>
    /// Update an Amazon S3 object created rule with a transform on the target.
    /// </summary>
    /// <param name="ruleName">The name of the rule.</param>
    /// <param name="targetArn">The ARN of the target.</param>
    /// <param name="eventBusArn">Optional event bus ARN. If empty, uses the default
event bus.</param>
    /// <returns>The ID of the target.</returns>

```

```

    public async Task<string> UpdateS3UploadRuleTargetWithTransform(string ruleName,
string targetArn, string? eventBusArn = null)
    {
        var targetID = Guid.NewGuid().ToString();

        var targets = new List<Target>
        {
            new Target()
            {
                Id = targetID,
                Arn = targetArn,
                InputTransformer = new InputTransformer()
                {
                    InputPathsMap = new Dictionary<string, string>()
                    {
                        {"bucket", "$.detail.bucket.name"},
                        {"time", "$.time"}
                    },
                    InputTemplate = "\"Notification: an object was uploaded to
bucket <bucket> at <time>.\\""
                }
            }
        };
        var response = await _amazonEventBridge.PutTargetsAsync(
            new PutTargetsRequest()
            {
                EventBusName = eventBusArn,
                Rule = ruleName,
                Targets = targets,
            });
        if (response.FailedEntryCount > 0)
        {
            response.FailedEntries.ForEach(e =>
            {
                _logger.LogError(
                    $"Failed to add target {e.TargetId}: {e.ErrorMessage}, code
{e.ErrorCode}");
            });
        }
        return targetID;
    }

    /// <summary>
    /// Update a custom rule with a transform on the target.

```

```

    /// </summary>
    /// <param name="ruleName">The name of the rule.</param>
    /// <param name="targetArn">The ARN of the target.</param>
    /// <param name="eventBusArn">Optional event bus ARN. If empty, uses the default
event bus.</param>
    /// <returns>The ID of the target.</returns>
    public async Task<string> UpdateCustomRuleTargetWithTransform(string ruleName,
string targetArn, string? eventBusArn = null)
    {
        var targetID = Guid.NewGuid().ToString();

        var targets = new List<Target>
        {
            new Target()
            {
                Id = targetID,
                Arn = targetArn,
                InputTransformer = new InputTransformer()
                {
                    InputTemplate = "\"Notification: sample event was received.\""
                }
            }
        };
        var response = await _amazonEventBridge.PutTargetsAsync(
            new PutTargetsRequest()
            {
                EventBusName = eventBusArn,
                Rule = ruleName,
                Targets = targets,
            });
        if (response.FailedEntryCount > 0)
        {
            response.FailedEntries.ForEach(e =>
            {
                _logger.LogError(
                    $"Failed to add target {e.TargetId}: {e.ErrorMessage}, code
{e.ErrorCode}");
            });
        }
        return targetID;
    }

    /// <summary>
    /// Add an event to the event bus that includes an email, message, and time.

```

```

    /// </summary>
    /// <param name="email">The email to use in the event detail of the custom
event.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public async Task<bool> PutCustomEmailEvent(string email)
    {
        var eventDetail = new
        {
            UserEmail = email,
            Message = "This event was generated by example code.",
            UtcTime = DateTime.UtcNow.ToString("g")
        };
        var response = await _amazonEventBridge.PutEventsAsync(
            new PutEventsRequest()
            {
                Entries = new List<PutEventsRequestEntry>()
                {
                    new PutEventsRequestEntry()
                    {
                        Source = "ExampleSource",
                        Detail = JsonSerializer.Serialize(eventDetail),
                        DetailType = "ExampleType"
                    }
                }
            });

        return response.FailedEntryCount == 0;
    }

    /// <summary>
    /// Update a rule to use a custom defined event pattern.
    /// </summary>
    /// <param name="ruleName">The name of the rule to update.</param>
    /// <returns>The ARN of the updated rule.</returns>
    public async Task<string> UpdateCustomEventPattern(string ruleName)
    {
        string customEventsPattern = "{" +
            "\"source\": [\"ExampleSource\"],\" +
            "\"detail-type\": [\"ExampleType\"]\" +
            "}";

        var response = await _amazonEventBridge.PutRuleAsync(
            new PutRuleRequest()
            {

```



```

        Name = ruleName,
        Description = "Custom test rule",
        EventPattern = customEventsPattern
    });

    return response.RuleArn;
}

/// <summary>
/// Add an Amazon SNS target topic to a rule.
/// </summary>
/// <param name="ruleName">The name of the rule to update.</param>
/// <param name="targetArn">The ARN of the Amazon SNS target.</param>
/// <param name="eventBusArn">The optional event bus name, uses default if
empty.</param>
/// <returns>The ID of the target.</returns>
public async Task<string> AddSnsTargetToRule(string ruleName, string targetArn,
string? eventBusArn = null)
{
    var targetID = Guid.NewGuid().ToString();

    // Create the list of targets and add a new target.
    var targets = new List<Target>
    {
        new Target()
        {
            Arn = targetArn,
            Id = targetID
        }
    };

    // Add the targets to the rule.
    var response = await _amazonEventBridge.PutTargetsAsync(
        new PutTargetsRequest()
        {
            EventBusName = eventBusArn,
            Rule = ruleName,
            Targets = targets,
        });

    if (response.FailedEntryCount > 0)
    {
        response.FailedEntries.ForEach(e =>
        {

```

```

        _logger.LogError(
            $"Failed to add target {e.TargetId}: {e.ErrorMessage}, code
{e.ErrorCode}");
    });
}

return targetID;
}

/// <summary>
/// Delete an event rule by name.
/// </summary>
/// <param name="ruleName">The name of the event rule.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> RemoveAllTargetsFromRule(string ruleName)
{
    var targetIds = new List<string>();
    var request = new ListTargetsByRuleRequest()
    {
        Rule = ruleName
    };
    ListTargetsByRuleResponse targetsResponse;
    do
    {
        targetsResponse = await
        _amazonEventBridge.ListTargetsByRuleAsync(request);
        targetIds.AddRange(targetsResponse.Targets.Select(t => t.Id));
        request.NextToken = targetsResponse.NextToken;
    } while (targetsResponse.NextToken is not null);

    var removeResponse = await _amazonEventBridge.RemoveTargetsAsync(
        new RemoveTargetsRequest()
        {
            Rule = ruleName,
            Ids = targetIds
        });

    if (removeResponse.FailedEntryCount > 0)
    {
        removeResponse.FailedEntries.ForEach(e =>
        {
            _logger.LogError(

```

```
        $"Failed to remove target {e.TargetId}: {e.ErrorMessage}, code  
        {e.ErrorCode}");  
    });  
}  
  
    return removeResponse.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;  
}  
  
    /// <summary>  
    /// Delete an event rule by name.  
    /// </summary>  
    /// <param name="ruleName">The name of the event rule.</param>  
    /// <returns>True if successful.</returns>  
    public async Task<bool> DeleteRuleByName(string ruleName)  
    {  
        var response = await _amazonEventBridge.DeleteRuleAsync(  
            new DeleteRuleRequest()  
            {  
                Name = ruleName  
            }  
        );  
  
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;  
    }  
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
 - [DeleteRule](#)
 - [DescribeRule](#)
 - [DisableRule](#)
 - [EnableRule](#)
 - [ListRuleNamesByTarget](#)
 - [ListRules](#)
 - [ListTargetsByRule](#)
 - [PutEvents](#)
 - [PutRule](#)
 - [PutTargets](#)

アクション

DeleteRule

次のコード例は、DeleteRule を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

その名前でルールを削除します。

```
/// <summary>
/// Delete an event rule by name.
/// </summary>
/// <param name="ruleName">The name of the event rule.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> DeleteRuleByName(string ruleName)
{
    var response = await _amazonEventBridge.DeleteRuleAsync(
        new DeleteRuleRequest()
        {
            Name = ruleName
        });

    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeleteRule](#)」を参照してください。

DescribeRule

次のコード例は、DescribeRule を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

ルールの説明を使用してルールの状態を取得します。

```
/// <summary>
/// Get the state for a rule by the rule name.
/// </summary>
/// <param name="ruleName">The name of the rule.</param>
/// <param name="eventBusName">The optional name of the event bus. If empty,
uses the default event bus.</param>
/// <returns>The state of the rule.</returns>
public async Task<RuleState> GetRuleStateByRuleName(string ruleName, string?
eventBusName = null)
{
    var ruleResponse = await _amazonEventBridge.DescribeRuleAsync(
        new DescribeRuleRequest()
        {
            Name = ruleName,
            EventBusName = eventBusName
        });
    return ruleResponse.State;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeRule](#)」を参照してください。

DisableRule

次のコード例は、DisableRule を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

そのルール名でルールを無効化します。

```
/// <summary>
/// Disable a particular rule on an event bus.
/// </summary>
/// <param name="ruleName">The name of the rule.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> DisableRuleByName(string ruleName)
{
    var ruleResponse = await _amazonEventBridge.DisableRuleAsync(
        new DisableRuleRequest()
        {
            Name = ruleName
        });
    return ruleResponse.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DisableRule](#)」を参照してください。

EnableRule

次のコード例は、EnableRule を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

そのルール名でルールを有効化します。

```
/// <summary>
/// Enable a particular rule on an event bus.
/// </summary>
/// <param name="ruleName">The name of the rule.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> EnableRuleByName(string ruleName)
{
    var ruleResponse = await _amazonEventBridge.EnableRuleAsync(
        new EnableRuleRequest()
        {
            Name = ruleName
        });
    return ruleResponse.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[EnableRule](#)」を参照してください。

ListRuleNamesByTarget

次のコード例は、ListRuleNamesByTarget を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

ターゲットを使用してすべてのルール名を一覧表示します。

```
/// <summary>
/// List names of all rules matching a target.
/// </summary>
/// <param name="targetArn">The ARN of the target.</param>
/// <returns>The list of rule names.</returns>
public async Task<List<string>> ListAllRuleNamesByTarget(string targetArn)
```

```

{
    var results = new List<string>();
    var request = new ListRuleNamesByTargetRequest()
    {
        TargetArn = targetArn
    };
    ListRuleNamesByTargetResponse response;
    do
    {
        response = await _amazonEventBridge.ListRuleNamesByTargetAsync(request);
        results.AddRange(response.RuleNames);
        request.NextToken = response.NextToken;

    } while (response.NextToken is not null);

    return results;
}

```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListRuleNamesByTarget](#)」を参照してください。

ListRules

次のコード例は、ListRules を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

イベントバスのルールをすべて一覧表示します。

```

/// <summary>
/// List the rules on an event bus.
/// </summary>
/// <param name="eventBusArn">The optional ARN of the event bus. If empty, uses
the default event bus.</param>
/// <returns>The list of rules.</returns>

```



```
public async Task<List<Rule>> ListAllRulesForEventBus(string? eventBusArn =
null)
{
    var results = new List<Rule>();
    var request = new ListRulesRequest()
    {
        EventBusName = eventBusArn
    };
    // Get all of the pages of rules.
    ListRulesResponse response;
    do
    {
        response = await _amazonEventBridge.ListRulesAsync(request);
        results.AddRange(response.Rules);
        request.NextToken = response.NextToken;

    } while (response.NextToken is not null);

    return results;
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListRules](#)」を参照してください。

ListTargetsByRule

次のコード例は、ListTargetsByRule を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

ルール名を使用してルールすべてのターゲットを一覧表示します。

```
/// <summary>
/// List all of the targets matching a rule by name.
```

```
/// </summary>
/// <param name="ruleName">The name of the rule.</param>
/// <returns>The list of targets.</returns>
public async Task<List<Target>> ListAllTargetsOnRule(string ruleName)
{
    var results = new List<Target>();
    var request = new ListTargetsByRuleRequest()
    {
        Rule = ruleName
    };
    ListTargetsByRuleResponse response;
    do
    {
        response = await _amazonEventBridge.ListTargetsByRuleAsync(request);
        results.AddRange(response.Targets);
        request.NextToken = response.NextToken;
    } while (response.NextToken is not null);

    return results;
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListTargetsByRule](#)」を参照してください。

PutEvents

次のコード例は、PutEvents を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

ルールのカスタムパターンに一致するイベントを送信します。

```
/// <summary>
```

```
/// Add an event to the event bus that includes an email, message, and time.
/// </summary>
/// <param name="email">The email to use in the event detail of the custom
event.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> PutCustomEmailEvent(string email)
{
    var eventDetail = new
    {
        UserEmail = email,
        Message = "This event was generated by example code.",
        UtcTime = DateTime.UtcNow.ToString("g")
    };
    var response = await _amazonEventBridge.PutEventsAsync(
        new PutEventsRequest()
        {
            Entries = new List<PutEventsRequestEntry>()
            {
                new PutEventsRequestEntry()
                {
                    Source = "ExampleSource",
                    Detail = JsonSerializer.Serialize(eventDetail),
                    DetailType = "ExampleType"
                }
            }
        });

    return response.FailedEntryCount == 0;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[PutEvents](#)」を参照してください。

PutRule

次のコード例は、PutRule を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

Amazon Simple Storage Service バケットにオブジェクトが追加されたときにトリガーするルールを作成します。

```

    /// <summary>
    /// Create a new event rule that triggers when an Amazon S3 object is created in
    a bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="roleArn">The ARN of the role.</param>
    /// <param name="ruleName">The name to give the rule.</param>
    /// <param name="bucketName">The name of the bucket to trigger the event.</
param>
    /// <returns>The ARN of the new rule.</returns>
    public async Task<string> PutS3UploadRule(string roleArn, string ruleName,
string bucketName)
    {
        string eventPattern = "{" +
            "\"source\": [\"aws.s3\"],\" +
            "\"detail-type\": [\"Object Created\"],\" +
            "\"detail\": {\" +
            \"bucket\": {\" +
            \"name\": [\"" + bucketName + "\"]\" +
            \"}\" +
            \"}\" +
            \"}\";

        var response = await _amazonEventBridge.PutRuleAsync(
            new PutRuleRequest()
            {
                Name = ruleName,
                Description = "Example S3 upload rule for EventBridge",
                RoleArn = roleArn,
                EventPattern = eventPattern
            });
    }

```

```
        return response.RuleArn;
    }
```

カスタムパターンを使用するルールを作成します。

```
/// <summary>
/// Update a rule to use a custom defined event pattern.
/// </summary>
/// <param name="ruleName">The name of the rule to update.</param>
/// <returns>The ARN of the updated rule.</returns>
public async Task<string> UpdateCustomEventPattern(string ruleName)
{
    string customEventsPattern = "{" +
                                   "\"source\": [\"ExampleSource\"],\" +
                                   \"detail-type\": [\"ExampleType\"]\" +
                                   "}";

    var response = await _amazonEventBridge.PutRuleAsync(
        new PutRuleRequest()
        {
            Name = ruleName,
            Description = "Custom test rule",
            EventPattern = customEventsPattern
        });

    return response.RuleArn;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[PutRule](#)」を参照してください。

PutTargets

次のコード例は、PutTargets を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

Amazon SNS トピックをルールターゲットとして追加します。

```
/// <summary>
/// Add an Amazon SNS target topic to a rule.
/// </summary>
/// <param name="ruleName">The name of the rule to update.</param>
/// <param name="targetArn">The ARN of the Amazon SNS target.</param>
/// <param name="eventBusArn">The optional event bus name, uses default if
empty.</param>
/// <returns>The ID of the target.</returns>
public async Task<string> AddSnsTargetToRule(string ruleName, string targetArn,
string? eventBusArn = null)
{
    var targetID = Guid.NewGuid().ToString();

    // Create the list of targets and add a new target.
    var targets = new List<Target>
    {
        new Target()
        {
            Arn = targetArn,
            Id = targetID
        }
    };

    // Add the targets to the rule.
    var response = await _amazonEventBridge.PutTargetsAsync(
        new PutTargetsRequest()
        {
            EventBusName = eventBusArn,
            Rule = ruleName,
            Targets = targets,
        });

    if (response.FailedEntryCount > 0)
```

```

    {
        response.FailedEntries.ForEach(e =>
        {
            _logger.LogError(
                $"Failed to add target {e.TargetId}: {e.ErrorMessage}, code
{e.ErrorCode}");
            });
        }

        return targetID;
    }

```

ルールのターゲットにインプットトランスフォーマーを追加します。

```

/// <summary>
/// Update an Amazon S3 object created rule with a transform on the target.
/// </summary>
/// <param name="ruleName">The name of the rule.</param>
/// <param name="targetArn">The ARN of the target.</param>
/// <param name="eventBusArn">Optional event bus ARN. If empty, uses the default
event bus.</param>
/// <returns>The ID of the target.</returns>
public async Task<string> UpdateS3UploadRuleTargetWithTransform(string ruleName,
string targetArn, string? eventBusArn = null)
{
    var targetID = Guid.NewGuid().ToString();

    var targets = new List<Target>
    {
        new Target()
        {
            Id = targetID,
            Arn = targetArn,
            InputTransformer = new InputTransformer()
            {
                InputPathsMap = new Dictionary<string, string>()
                {
                    {"bucket", "$.detail.bucket.name"},
                    {"time", "$.time"}
                },
                InputTemplate = $"\"Notification: an object was uploaded to
bucket <bucket> at <time>.\\"

```

```
        }
    }
};
var response = await _amazonEventBridge.PutTargetsAsync(
    new PutTargetsRequest()
    {
        EventBusName = eventBusArn,
        Rule = ruleName,
        Targets = targets,
    });
if (response.FailedEntryCount > 0)
{
    response.FailedEntries.ForEach(e =>
    {
        _logger.LogError(
            $"Failed to add target {e.TargetId}: {e.ErrorMessage}, code
{e.ErrorCode}");
    });
}
return targetID;
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[PutTargets](#)」を参照してください。

RemoveTargets

次のコード例は、RemoveTargets を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

ルール名を使用してルールのすべてのターゲットを削除します。

```
/// <summary>
/// Delete an event rule by name.
```



```
/// </summary>
/// <param name="ruleName">The name of the event rule.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> RemoveAllTargetsFromRule(string ruleName)
{
    var targetIds = new List<string>();
    var request = new ListTargetsByRuleRequest()
    {
        Rule = ruleName
    };
    ListTargetsByRuleResponse targetsResponse;
    do
    {
        targetsResponse = await
        _amazonEventBridge.ListTargetsByRuleAsync(request);
        targetIds.AddRange(targetsResponse.Targets.Select(t => t.Id));
        request.NextToken = targetsResponse.NextToken;
    } while (targetsResponse.NextToken is not null);

    var removeResponse = await _amazonEventBridge.RemoveTargetsAsync(
        new RemoveTargetsRequest()
        {
            Rule = ruleName,
            Ids = targetIds
        });

    if (removeResponse.FailedEntryCount > 0)
    {
        removeResponse.FailedEntries.ForEach(e =>
        {
            _logger.LogError(
                $"Failed to remove target {e.TargetId}: {e.ErrorMessage}, code
                {e.ErrorCode}");
        });
    }

    return removeResponse.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[RemoveTargets](#)」を参照してください。

を使用した EventBridge スケジューラの例 SDK for .NET

次のコード例は、EventBridge スケジューラ AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [はじめに](#)
- [アクション](#)
- [シナリオ](#)

はじめに

Hello EventBridge スケジューラ

次のコード例は、EventBridge スケジューラの使用を開始する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
public static class HelloScheduler
{
    static async Task Main(string[] args)
    {
```

```
// Use the AWS .NET Core Setup package to set up dependency injection for
the EventBridge Scheduler service.
// Use your AWS profile name, or leave it blank to use the default profile.
using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
    .ConfigureServices((_, services) =>
        services.AddAWSService<IAmazonScheduler>()
    ).Build();

// Now the client is available for injection.
var schedulerClient = host.Services.GetRequiredService<IAmazonScheduler>();

// You can use await and any of the async methods to get a response, or a
paginator to list schedules or groups.
var results = new List<ScheduleSummary>();
var paginateSchedules = schedulerClient.Paginators.ListSchedules(
    new ListSchedulesRequest());
Console.WriteLine(
    $"Hello AWS Scheduler! Let's list schedules in your account.");
// Get the entire list using the paginator.
await foreach (var schedule in paginateSchedules.Schedules)
{
    results.Add(schedule);
}
Console.WriteLine($"\\tTotal of {results.Count} schedule(s) available.");
results.ForEach(s => Console.WriteLine($"\\tSchedule: {s.Name}"));
}
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListSchedules](#)」を参照してください。

アクション

CreateSchedule

次のコード例は、CreateSchedule を使用する方法を説明しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Creates a new schedule in Amazon EventBridge Scheduler.
/// </summary>
/// <param name="name">The name of the schedule.</param>
/// <param name="scheduleExpression">The schedule expression that defines when
the schedule should run.</param>
/// <param name="scheduleGroupName">The name of the schedule group to which the
schedule should be added.</param>
/// <param name="deleteAfterCompletion">Indicates whether to delete the schedule
after completion.</param>
/// <param name="useFlexibleTimeWindow">Indicates whether to use a flexible time
window for the schedule.</param>
/// <param name="targetArn">ARN of the event target.</param>
/// <param name="roleArn">Execution Role ARN.</param>
/// <returns>True if the schedule was created successfully, false otherwise.</
returns>
public async Task<bool> CreateScheduleAsync(
    string name,
    string scheduleExpression,
    string scheduleGroupName,
    string targetArn,
    string roleArn,
    string input,
    bool deleteAfterCompletion = false,
    bool useFlexibleTimeWindow = false)
{
    try
    {
        int hoursToRun = 1;
        int flexibleTimeWindowMinutes = 10;

        var request = new CreateScheduleRequest
        {
            Name = name,
```

```

        ScheduleExpression = scheduleExpression,
        GroupName = scheduleGroupName,
        Target = new Target { Arn = targetArn, RoleArn = roleArn, Input =
input },

        ActionAfterCompletion = deleteAfterCompletion
            ? ActionAfterCompletion.DELETE
            : ActionAfterCompletion.NONE,
        StartDate = DateTime.UtcNow, // Ignored for one-time schedules.
        EndDate =
            DateTime.UtcNow
                .AddHours(hoursToRun) // Ignored for one-time schedules.
    };
    // Allow a flexible time window if the caller specifies it.
    request.FlexibleTimeWindow = new FlexibleTimeWindow
    {
        Mode = useFlexibleTimeWindow
            ? FlexibleTimeWindowMode.FLEXIBLE
            : FlexibleTimeWindowMode.OFF,
        MaximumWindowInMinutes = useFlexibleTimeWindow
            ? flexibleTimeWindowMinutes
            : null
    };

    var response = await _amazonScheduler.CreateScheduleAsync(request);

    Console.WriteLine($"Successfully created schedule '{name}' " +
        $"in schedule group '{scheduleGroupName}':
{response.ScheduleArn}.");
    return true;
}
catch (ConflictException ex)
{
    // If the name is not unique, a ConflictException will be thrown.
    _logger.LogError($"Failed to create schedule '{name}' due to a conflict.
{ex.Message}");
    return false;
}
catch (Exception ex)
{
    _logger.LogError($"An error occurred while creating schedule '{name}' "
+
        $"in schedule group '{scheduleGroupName}':
{ex.Message}");
    return false;
}

```

```
}  
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンス「[CreateSchedule](#)」を参照してください。

CreateScheduleGroup

次のコード例は、CreateScheduleGroup を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>  
/// Creates a new schedule group in Amazon EventBridge Scheduler.  
/// </summary>  
/// <param name="name">The name of the schedule group.</param>  
/// <returns>True if the schedule group was created successfully, false  
otherwise.</returns>  
public async Task<bool> CreateScheduleGroupAsync(string name)  
{  
    try  
    {  
        var request = new CreateScheduleGroupRequest { Name = name };  
  
        var response = await _amazonScheduler.CreateScheduleGroupAsync(request);  
  
        Console.WriteLine($"Successfully created schedule group '{name}':  
{response.ScheduleGroupArn}.");  
        return true;  
    }  
    catch (ConflictException ex)  
    {  
        // If the name is not unique, a ConflictException will be thrown.  
    }  
}
```

```

        _logger.LogError($"Failed to create schedule group '{name}' due to a
conflict. {ex.Message}");
        return false;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(
            $"An error occurred while creating schedule group '{name}':
{ex.Message}");
        return false;
    }
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateScheduleGroup](#)」を参照してください。

DeleteSchedule

次のコード例は、DeleteSchedule を使用する方法を説明しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

/// <summary>
/// Deletes an existing schedule from Amazon EventBridge Scheduler.
/// </summary>
/// <param name="name">The name of the schedule to delete.</param>
/// <param name="groupName">The group name of the schedule to delete.</param>
/// <returns>True if the schedule was deleted successfully, false otherwise.</
returns>
public async Task<bool> DeleteScheduleAsync(string name, string groupName)
{
    try
    {
        var request = new DeleteScheduleRequest

```

```
        {
            Name = name,
            GroupName = groupName
        };

        await _amazonScheduler.DeleteScheduleAsync(request);

        Console.WriteLine($"Successfully deleted schedule with name '{name}'.");
        return true;
    }
    catch (ResourceNotFoundException ex)
    {
        _logger.LogError(
            $"Failed to delete schedule with ID '{name}' because the resource
was not found: {ex.Message}");
        return true;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(
            $"An error occurred while deleting schedule with ID '{name}':
{ex.Message}");
        return false;
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteSchedule](#)」を参照してください。

DeleteScheduleGroup

次のコード例は、DeleteScheduleGroup を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。


```
/// <summary>
/// Deletes an existing schedule group from Amazon EventBridge Scheduler.
/// </summary>
/// <param name="name">The name of the schedule group to delete.</param>
/// <returns>True if the schedule group was deleted successfully, false
otherwise.</returns>
public async Task<bool> DeleteScheduleGroupAsync(string name)
{
    try
    {
        var request = new DeleteScheduleGroupRequest { Name = name };

        await _amazonScheduler.DeleteScheduleGroupAsync(request);

        Console.WriteLine($"Successfully deleted schedule group '{name}'.");
        return true;
    }
    catch (ResourceNotFoundException ex)
    {
        _logger.LogError(
            $"Failed to delete schedule group '{name}' because the resource was
not found: {ex.Message}");
        return true;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(
            $"An error occurred while deleting schedule group '{name}':
{ex.Message}");
        return false;
    }
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteScheduleGroup](#)」を参照してください。

シナリオ

予定されているイベント

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- 必要なリソースを使用して CloudFormation スタックをデプロイします。
- EventBridge スケジューラのスケジュールグループを作成します。
- 柔軟な時間枠で 1 回限りの EventBridge スケジューラのスケジュールを作成します。
- 指定されたレートで定期的な EventBridge スケジューラのスケジュールを作成します。
- EventBridge スケジューラのスケジュールとスケジュールグループを削除します。
- リソースをクリーンアップしてスタックを削除します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

シナリオを実行します。

```
using System.Text.RegularExpressions;
using Amazon.CloudFormation;
using Amazon.CloudFormation.Model;
using Amazon.Scheduler;
using Amazon.Scheduler.Model;
using Microsoft.Extensions.DependencyInjection;
using Microsoft.Extensions.Hosting;
using Microsoft.Extensions.Logging;
using Microsoft.Extensions.Logging.Console;
using Microsoft.Extensions.Logging.Debug;
using SchedulerActions;
using Exception = System.Exception;

namespace SchedulerScenario;

public class SchedulerWorkflow
{

```

```

/*
    Before running this .NET code example, set up your development environment,
    including your credentials.

    This .NET code example performs the following tasks for the Amazon EventBridge
    Scheduler workflow:

    1. Prepare the Application:
        - Prompt the user for an email address to use for the subscription for the
        SNS topic subscription.
        - Prompt the user for a name for the Cloud Formation stack.
        - Deploy the Cloud Formation template in resources/cfn_template.yaml for
        resource creation.
        - Store the outputs of the stack into variables for use in the scenario.
        - Create a schedule group for all schedules.

    2. Create one-time Schedule:
        - Create a one-time schedule to send an initial event.
        - Use a Flexible Time Window and set the schedule to delete after completion.
        - Wait for the user to receive the event email from SNS.

    3. Create a time-based schedule:
        - Prompt the user for how many X times per Y hours a recurring event should
        be scheduled.
        - Create the scheduled event for X times per hour for Y hours.
        - Wait for the user to receive the event email from SNS.
        - Delete the schedule when the user is finished.

    4. Clean up:
        - Prompt the user for y/n answer if they want to destroy the stack and clean
        up all resources.
        - Delete the schedule group.
        - Destroy the Cloud Formation stack and wait until the stack has been
        removed.
*/

public static ILogger<SchedulerWorkflow> _logger = null!;
public static SchedulerWrapper _schedulerWrapper = null!;
public static IAmazonCloudFormation _amazonCloudFormation = null!;

private static string _roleArn = null!;
private static string _snsTopicArn = null!;

public static bool _interactive = true;
private static string _stackName = "default-scheduler-scenario-stack-name";

```

```

private static string _scheduleGroupName = "scenario-schedules-group";
private static string _stackResourcePath = "../..../..../scenarios/
features/eventbridge_scheduler/resources/cfn_template.yaml";

public static async Task Main(string[] args)
{
    using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
        .ConfigureLogging(logging =>
            logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
            .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
LogLevel.Information)
            .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
        .ConfigureServices((_, services) =>
            services.AddAWSService<IAmazonScheduler>()
            .AddAWSService<IAmazonCloudFormation>()
            .AddTransient<SchedulerWrapper>()
        )
        .Build();

    if (!_interactive)
    {
        _logger = LoggerFactory.Create(builder => { builder.AddConsole(); })
            .CreateLogger<SchedulerWorkflow>();

        _schedulerWrapper =
host.Services.GetRequiredService<SchedulerWrapper>();
        _amazonCloudFormation =
host.Services.GetRequiredService<IAmazonCloudFormation>();
    }

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("Welcome to the Amazon EventBridge Scheduler Scenario.");
    Console.WriteLine(new string('-', 80));

    try
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        var prepareSuccess = await PrepareApplication();
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        if (prepareSuccess)
        {
            Console.WriteLine(new string('-', 80));
            await CreateOneTimeSchedule();
        }
    }
}

```

```

        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        await CreateRecurringSchedule();
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    await Cleanup();
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
}
catch (Exception ex)
{
    _logger.LogError(ex, "There was a problem with the scenario, initiating
cleanup...");
    _interactive = false;
    await Cleanup();
}

Console.WriteLine("Amazon EventBridge Scheduler scenario completed.");
}

/// <summary>
/// Prepares the application by creating the necessary resources.
/// </summary>
/// <returns>True if the application was prepared successfully.</returns>
public static async Task<bool> PrepareApplication()
{
    Console.WriteLine("Preparing the application...");
    try
    {
        // Prompt the user for an email address to use for the subscription.
        Console.WriteLine("\nThis example creates resources in a CloudFormation
stack, including an SNS topic" +
            "\nthat will be subscribed to the EventBridge Scheduler
events. " +
            "\n\nYou will need to confirm the subscription in order to
receive event emails. ");

        var emailAddress = PromptUserForEmail();

        // Prompt the user for a name for the CloudFormation stack
        _stackName = PromptUserForStackName();
    }
}

```

```

        // Deploy the CloudFormation stack
        var deploySuccess = await DeployCloudFormationStack(_stackName,
emailAddress);

        if (deploySuccess)
        {
            // Create a schedule group for all schedules
            await
_schedulerWrapper.CreateScheduleGroupAsync(_scheduleGroupName);

            Console.WriteLine("Application preparation complete.");
            return true;
        }
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(ex, "An error occurred while preparing the
application.");
    }
    Console.WriteLine("Application preparation failed.");
    return false;
}

/// <summary>
/// Deploys the CloudFormation stack with the necessary resources.
/// </summary>
/// <param name="stackName">The name of the CloudFormation stack.</param>
/// <param name="email">The email to use for the subscription.</param>
/// <returns>True if the stack was deployed successfully.</returns>
private static async Task<bool> DeployCloudFormationStack(string stackName,
string email)
{
    Console.WriteLine($"\\nDeploying CloudFormation stack: {stackName}");

    try
    {
        var request = new CreateStackRequest
        {
            StackName = stackName,
            TemplateBody = await File.ReadAllTextAsync(_stackResourcePath),
            Capabilities = { Capability.CAPABILITY_NAMED_IAM }
        };

        // If an email is provided, set the parameter.

```

```
        if (!string.IsNullOrEmpty(email))
        {
            request.Parameters = new List<Parameter>()
            {
                new() { ParameterKey = "email", ParameterValue = email }
            };
        }

        var response = await _amazonCloudFormation.CreateStackAsync(request);

        if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
        {
            Console.WriteLine($"CloudFormation stack creation started:
{stackName}");

            // Wait for the stack to be in CREATE_COMPLETE state
            bool stackCreated = await WaitForStackCompletion(response.StackId);

            if (stackCreated)
            {
                // Retrieve the output values
                var success = await GetStackOutputs(response.StackId);
                return success;
            }
            else
            {
                _logger.LogError($"CloudFormation stack creation failed:
{stackName}");
                return false;
            }
        }
        else
        {
            _logger.LogError($"Failed to create CloudFormation stack:
{stackName}");
            return false;
        }
    }
    catch (AlreadyExistsException)
    {
        _logger.LogWarning($"CloudFormation stack '{stackName}' already exists.
Please provide a unique name.");
        var newStackName = PromptUserForStackName();
        return await DeployCloudFormationStack(newStackName, email);
    }
}
```

```

    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(ex, $"An error occurred while deploying the
CloudFormation stack: {stackName}");
        return false;
    }
}

/// <summary>
/// Waits for the CloudFormation stack to be in the CREATE_COMPLETE state.
/// </summary>
/// <param name="client">The CloudFormation client.</param>
/// <param name="stackId">The ID of the CloudFormation stack.</param>
/// <returns>True if the stack was created successfully.</returns>
private static async Task<bool> WaitForStackCompletion(string stackId)
{
    int retryCount = 0;
    const int maxRetries = 10;
    const int retryDelay = 30000; // 30 seconds.

    while (retryCount < maxRetries)
    {
        var describeStacksRequest = new DescribeStacksRequest
        {
            StackName = stackId
        };

        var describeStacksResponse = await
_amazonCloudFormation.DescribeStacksAsync(describeStacksRequest);

        if (describeStacksResponse.Stacks.Count > 0)
        {
            if (describeStacksResponse.Stacks[0].StackStatus ==
StackStatus.CREATE_COMPLETE)
            {
                Console.WriteLine("CloudFormation stack creation complete.");
                return true;
            }
            if (describeStacksResponse.Stacks[0].StackStatus ==
StackStatus.CREATE_FAILED ||
                describeStacksResponse.Stacks[0].StackStatus ==
StackStatus.ROLLBACK_COMPLETE)
            {

```



```

        Console.WriteLine("CloudFormation stack creation failed.");
        return false;
    }
}

    Console.WriteLine("Waiting for CloudFormation stack creation to
complete...");
    await Task.Delay(retryDelay);
    retryCount++;
}

    _logger.LogError("Timed out waiting for CloudFormation stack creation to
complete.");
    return false;
}

/// <summary>
/// Retrieves the output values from the CloudFormation stack.
/// </summary>
/// <param name="stackId">The ID of the CloudFormation stack.</param>
private static async Task<bool> GetStackOutputs(string stackId)
{
    try
    {
        var describeStacksRequest = new DescribeStacksRequest { StackName =
stackId };

        var describeStacksResponse =
            await
            _amazonCloudFormation.DescribeStacksAsync(describeStacksRequest);

        if (describeStacksResponse.Stacks.Count > 0)
        {
            var stack = describeStacksResponse.Stacks[0];
            _roleArn = GetStackOutputValue(stack, "RoleARN");
            _snsTopicArn = GetStackOutputValue(stack, "SNSStopicARN");
            return true;
        }
        else
        {
            _logger.LogError($"No stack found for stack outputs: {stackId}");
            return false;
        }
    }
}

```

```

        catch (Exception ex)
        {
            _logger.LogError(
                ex, $"Failed to retrieve CloudFormation stack outputs: {stackId}");
            return false;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Get an output value by key from a CloudFormation stack.
    /// </summary>
    /// <param name="stack">The CloudFormation stack.</param>
    /// <param name="outputKey">The key of the output.</param>
    /// <returns>The value as a string.</returns>
    private static string GetStackOutputValue(Stack stack, string outputKey)
    {
        var output = stack.Outputs.First(o => o.OutputKey == outputKey);
        var outputValue = output.OutputValue;
        Console.WriteLine($"Stack output {outputKey}: {outputValue}");
        return outputValue;
    }

    /// <summary>
    /// Creates a one-time schedule to send an initial event.
    /// </summary>
    /// <returns>True if the one-time schedule was created successfully.</returns>
    public static async Task<bool> CreateOneTimeSchedule()
    {
        var scheduleName =
            PromptUserForResourceName("Enter a name for the one-time schedule:");

        Console.WriteLine($"Creating a one-time schedule named '{scheduleName}' " +
            $"\\nto send an initial event in 1 minute with a flexible
time window...");
        try
        {
            // Create a one-time schedule with a flexible time
            // window set to delete after completion.
            // You may also set a timezone instead of using UTC.
            var scheduledTime = DateTime.UtcNow.AddMinutes(1).ToString("s");

            var createSuccess = await _schedulerWrapper.CreateScheduleAsync(
                scheduleName,
                $"at({scheduledTime})",

```

```

        _scheduleGroupName,
        _snsTopicArn,
        _roleArn,
        $"One time scheduled event test from schedule {scheduleName}.",
        true,
        useFlexibleTimeWindow: true);

    Console.WriteLine($"Subscription email will receive an email from this
event.");
    Console.WriteLine($"You must confirm your subscription to receive event
emails.");

    Console.WriteLine($"One-time schedule '{scheduleName}' created
successfully.");
    return createSuccess;
}
catch (ResourceNotFoundException ex)
{
    _logger.LogError(ex, $"The target with ARN '{_snsTopicArn}' was not
found.");
    return false;
}
catch (Exception ex)
{
    _logger.LogError(ex, $"An error occurred while creating the one-time
schedule '{scheduleName}'.");
    return false;
}
}

/// <summary>
/// Create a recurring schedule to send events at a specified rate in minutes.
/// </summary>
/// <returns>True if the recurring schedule was created successfully.</returns>
public static async Task<bool> CreateRecurringSchedule()
{
    Console.WriteLine("Creating a recurring schedule to send events for one
hour...");

    try
    {
        // Prompt the user for a schedule name.
        var scheduleName =

```

```

        PromptUserForResourceName("Enter a name for the recurring schedule:
");

        // Prompt the user for the schedule rate (in minutes).
        var scheduleRateInMinutes =
            PromptUserForInteger("Enter the desired schedule rate (in minutes):
");

        // Create the recurring schedule.
        var createSuccess = await _schedulerWrapper.CreateScheduleAsync(
            scheduleName,
            $"rate({scheduleRateInMinutes} minutes)",
            _scheduleGroupName,
            _snsTopicArn,
            _roleArn,
            $"Recurrent event test from schedule {scheduleName}.");

        Console.WriteLine($"Subscription email will receive an email from this
event.");
        Console.WriteLine($"You must confirm your subscription to receive event
emails.");

        // Delete the schedule when the user is finished.
        if (!_interactive || GetYesNoResponse($"Are you ready to delete the
'{scheduleName}' schedule? (y/n)"))
        {
            await _schedulerWrapper.DeleteScheduleAsync(scheduleName,
            _scheduleGroupName);
        }

        return createSuccess;
    }
    catch (ResourceNotFoundException ex)
    {
        _logger.LogError(ex, $"The target with ARN '{_snsTopicArn}' was not
found.");
        return false;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(ex, "An error occurred while creating the recurring
schedule.");
        return false;
    }
}

```

```

    }

    /// <summary>
    /// Cleans up the resources created during the scenario.
    /// </summary>
    /// <returns>True if the cleanup was successful.</returns>
    public static async Task<bool> Cleanup()
    {
        // Prompt the user to confirm cleanup.
        var cleanup = !_interactive || GetYesNoResponse(
            "Do you want to delete all resources created by this scenario? (y/n) ");
        if (cleanup)
        {
            try
            {
                // Delete the schedule group.
                var groupDeleteSuccess = await
                _schedulerWrapper.DeleteScheduleGroupAsync(_scheduleGroupName);

                // Destroy the CloudFormation stack and wait for it to be removed.
                var stackDeleteSuccess = await DeleteCloudFormationStack(_stackName,
                false);

                return groupDeleteSuccess && stackDeleteSuccess;
            }
            catch (Exception ex)
            {
                _logger.LogError(ex,
                    "An error occurred while cleaning up the resources.");
                return false;
            }
        }
        _logger.LogInformation("EventBridge Scheduler scenario is complete.");
        return true;
    }

    /// <summary>
    /// Delete the resources in the stack and wait for confirmation.
    /// </summary>
    /// <param name="stackName">The name of the stack.</param>
    /// <param name="forceDelete">True to force delete the stack.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    private static async Task<bool> DeleteCloudFormationStack(string stackName, bool
    forceDelete)

```

```

{
    var request = new DeleteStackRequest
    {
        StackName = stackName,
    };

    if (forceDelete)
    {
        request.DeletionMode = DeletionMode.FORCE_DELETE_STACK;
    }

    await _amazonCloudFormation.DeleteStackAsync(request);
    Console.WriteLine($"CloudFormation stack '{_stackName}' is being deleted.
This may take a few minutes.");

    bool stackDeleted = await WaitForStackDeletion(_stackName, forceDelete);

    if (stackDeleted)
    {
        Console.WriteLine($"CloudFormation stack '{_stackName}' has been
deleted.");
        return true;
    }
    else
    {
        _logger.LogError($"Failed to delete CloudFormation stack
'{_stackName}'.");
        return false;
    }
}

/// <summary>
/// Wait for the stack to be deleted.
/// </summary>
/// <param name="stackName">The name of the stack.</param>
/// <param name="forceDelete">True to force delete the stack.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
private static async Task<bool> WaitForStackDeletion(string stackName, bool
forceDelete)
{
    int retryCount = 0;
    const int maxRetries = 10;
    const int retryDelay = 30000; // 30 seconds

```

```

        while (retryCount < maxRetries)
        {
            var describeStacksRequest = new DescribeStacksRequest
            {
                StackName = stackName
            };

            try
            {
                var describeStacksResponse = await
                _amazonCloudFormation.DescribeStacksAsync(describeStacksRequest);

                if (describeStacksResponse.Stacks.Count == 0 ||
                describeStacksResponse.Stacks[0].StackStatus == StackStatus.DELETE_COMPLETE)
                {
                    return true;
                }
                if (!forceDelete && describeStacksResponse.Stacks[0].StackStatus ==
                StackStatus.DELETE_FAILED)
                {
                    // Try one time to force delete.
                    return await DeleteCloudFormationStack(stackName, true);
                }
            }
            catch (AmazonCloudFormationException ex) when (ex.ErrorCode ==
            "ValidationError")
            {
                // Stack does not exist, so it has been successfully deleted.
                return true;
            }

            Console.WriteLine($"Waiting for CloudFormation stack '{stackName}' to be
            deleted...");
            await Task.Delay(retryDelay);
            retryCount++;
        }

        _logger.LogError($"Timed out waiting for CloudFormation stack '{stackName}'
        to be deleted.");
        return false;
    }

    /// <summary>
    /// Helper method to get a yes or no response from the user.

```

```

    /// </summary>
    /// <param name="question">The question string to print on the console.</param>
    /// <returns>True if the user responds with a yes.</returns>
    private static bool GetYesNoResponse(string question)
    {
        Console.WriteLine(question);
        var ynResponse = Console.ReadLine();
        var response = ynResponse != null && ynResponse.Equals("y",
StringComparison.InvariantCultureIgnoreCase);
        return response;
    }

    /// <summary>
    /// Prompt the user for a valid email address.
    /// </summary>
    /// <returns>The valid email address.</returns>
    private static string PromptUserForEmail()
    {
        if (!_interactive)
        {
            Console.WriteLine("Enter an email address to use for event
subscriptions: ");

            string email = Console.ReadLine()!;

            if (!IsValidEmail(email))
            {
                Console.WriteLine("Invalid email address. Please try again.");
                return PromptUserForEmail();
            }
            return email;
        }
        // Used when running without user prompts.
        return "";
    }

    /// <summary>
    /// Prompt the user for a non-empty stack name.
    /// </summary>
    /// <returns>The valid stack name</returns>
    private static string PromptUserForStackName()
    {
        Console.WriteLine("Enter a name for the AWS Cloud Formation Stack: ");
        if (!_interactive)

```



```

    {
        string stackName = Console.ReadLine(!);
        var regex = "[a-zA-Z][-a-zA-Z0-9]|arn:[-a-zA-Z0-9:/._+]";
        if (!Regex.IsMatch(stackName, regex))
        {
            Console.WriteLine(
                $"Invalid stack name. Please use a name that matches the pattern
{regex}.");
            return PromptUserForStackName();
        }

        return stackName;
    }
    // Used when running without user prompts.
    return _stackName;
}

/// <summary>
/// Prompt the user for a non-empty resource name.
/// </summary>
/// <returns>The valid stack name</returns>
private static string PromptUserForResourceName(string prompt)
{
    if (_interactive)
    {
        Console.WriteLine(prompt);
        string resourceName = Console.ReadLine(!);
        var regex = "[0-9a-zA-Z-_.]+";
        if (!Regex.IsMatch(resourceName, regex))
        {
            Console.WriteLine($"Invalid resource name. Please use a name that
matches the pattern {regex}.");
            return PromptUserForResourceName(prompt);
        }
        return resourceName!;
    }
    // Used when running without user prompts.
    return "resource-" + Guid.NewGuid();
}

/// <summary>
/// Prompt the user for a non-empty resource name.
/// </summary>
/// <returns>The valid stack name</returns>

```

```

private static int PromptUserForInteger(string prompt)
{
    if (_interactive)
    {
        Console.WriteLine(prompt);
        string stringResponse = Console.ReadLine();
        if (string.IsNullOrEmpty(stringResponse) ||
            !Int32.TryParse(stringResponse, out var intResponse))
        {
            Console.WriteLine($"Invalid integer. ");
            return PromptUserForInteger(prompt);
        }
        return intResponse!;
    }
    // Used when running without user prompts.
    return 1;
}

/// <summary>
/// Use System Mail to check for a valid email address.
/// </summary>
/// <param name="email">The string to verify.</param>
/// <returns>True if a valid email address.</returns>
private static bool IsValidEmail(string email)
{
    try
    {
        var mailAddress = new System.Net.Mail.MailAddress(email);
        return mailAddress.Address == email;
    }
    catch
    {
        // Invalid emails will cause an exception, return false.
        return false;
    }
}
}

```

サービスオペレーション用のラッパー

```

using Amazon.Scheduler;
using Amazon.Scheduler.Model;

```

```

using Microsoft.Extensions.Logging;

namespace SchedulerActions;

/// <summary>
/// Wrapper class for Amazon EventBridge Scheduler operations.
/// </summary>
public class SchedulerWrapper
{
    private readonly IAmazonScheduler _amazonScheduler;
    private readonly ILogger<SchedulerWrapper> _logger;

    /// <summary>
    /// Constructor for the SchedulerWrapper class.
    /// </summary>
    /// <param name="amazonScheduler">The injected EventBridge Scheduler client.</
param>
    /// <param name="logger">The injected logger.</param>
    public SchedulerWrapper(IAmazonScheduler amazonScheduler,
        ILogger<SchedulerWrapper> logger)
    {
        _amazonScheduler = amazonScheduler;
        _logger = logger;
    }

    /// <summary>
    /// Creates a new schedule in Amazon EventBridge Scheduler.
    /// </summary>
    /// <param name="name">The name of the schedule.</param>
    /// <param name="scheduleExpression">The schedule expression that defines when
the schedule should run.</param>
    /// <param name="scheduleGroupName">The name of the schedule group to which the
schedule should be added.</param>
    /// <param name="deleteAfterCompletion">Indicates whether to delete the schedule
after completion.</param>
    /// <param name="useFlexibleTimeWindow">Indicates whether to use a flexible time
window for the schedule.</param>
    /// <param name="targetArn">ARN of the event target.</param>
    /// <param name="roleArn">Execution Role ARN.</param>
    /// <returns>True if the schedule was created successfully, false otherwise.</
returns>
    public async Task<bool> CreateScheduleAsync(
        string name,
        string scheduleExpression,

```

```

        string scheduleGroupName,
        string targetArn,
        string roleArn,
        string input,
        bool deleteAfterCompletion = false,
        bool useFlexibleTimeWindow = false)
    {
        try
        {
            int hoursToRun = 1;
            int flexibleTimeWindowMinutes = 10;

            var request = new CreateScheduleRequest
            {
                Name = name,
                ScheduleExpression = scheduleExpression,
                GroupName = scheduleGroupName,
                Target = new Target { Arn = targetArn, RoleArn = roleArn, Input =
input },
                ActionAfterCompletion = deleteAfterCompletion
                    ? ActionAfterCompletion.DELETE
                    : ActionAfterCompletion.NONE,
                StartDate = DateTime.UtcNow, // Ignored for one-time schedules.
                EndDate =
                    DateTime.UtcNow
                        .AddHours(hoursToRun) // Ignored for one-time schedules.
            };
            // Allow a flexible time window if the caller specifies it.
            request.FlexibleTimeWindow = new FlexibleTimeWindow
            {
                Mode = useFlexibleTimeWindow
                    ? FlexibleTimeWindowMode.FLEXIBLE
                    : FlexibleTimeWindowMode.OFF,
                MaximumWindowInMinutes = useFlexibleTimeWindow
                    ? flexibleTimeWindowMinutes
                    : null
            };

            var response = await _amazonScheduler.CreateScheduleAsync(request);

            Console.WriteLine($"Successfully created schedule '{name}' " +
                              $"in schedule group '{scheduleGroupName}':
{response.ScheduleArn}.");
            return true;
        }
        catch { }
    }
}

```

```

    }
    catch (ConflictException ex)
    {
        // If the name is not unique, a ConflictException will be thrown.
        _logger.LogError($"Failed to create schedule '{name}' due to a conflict.
{ex.Message}");
        return false;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError($"An error occurred while creating schedule '{name}' "
+
                                $"in schedule group '{scheduleGroupName}':
{ex.Message}");
        return false;
    }
}

/// <summary>
/// Creates a new schedule group in Amazon EventBridge Scheduler.
/// </summary>
/// <param name="name">The name of the schedule group.</param>
/// <returns>True if the schedule group was created successfully, false
otherwise.</returns>
public async Task<bool> CreateScheduleGroupAsync(string name)
{
    try
    {
        var request = new CreateScheduleGroupRequest { Name = name };

        var response = await _amazonScheduler.CreateScheduleGroupAsync(request);

        Console.WriteLine($"Successfully created schedule group '{name}':
{response.ScheduleGroupArn}.");
        return true;
    }
    catch (ConflictException ex)
    {
        // If the name is not unique, a ConflictException will be thrown.
        _logger.LogError($"Failed to create schedule group '{name}' due to a
conflict. {ex.Message}");
        return false;
    }
}

```

```

        catch (Exception ex)
        {
            _logger.LogError(
                $"An error occurred while creating schedule group '{name}':
{ex.Message}");
            return false;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Deletes an existing schedule from Amazon EventBridge Scheduler.
    /// </summary>
    /// <param name="name">The name of the schedule to delete.</param>
    /// <param name="groupName">The group name of the schedule to delete.</param>
    /// <returns>True if the schedule was deleted successfully, false otherwise.</
returns>
    public async Task<bool> DeleteScheduleAsync(string name, string groupName)
    {
        try
        {
            var request = new DeleteScheduleRequest
            {
                Name = name,
                GroupName = groupName
            };

            await _amazonScheduler.DeleteScheduleAsync(request);

            Console.WriteLine($"Successfully deleted schedule with name '{name}'.");
            return true;
        }
        catch (ResourceNotFoundException ex)
        {
            _logger.LogError(
                $"Failed to delete schedule with ID '{name}' because the resource
was not found: {ex.Message}");
            return true;
        }
        catch (Exception ex)
        {
            _logger.LogError(
                $"An error occurred while deleting schedule with ID '{name}':
{ex.Message}");

```

```

        return false;
    }
}

/// <summary>
/// Deletes an existing schedule group from Amazon EventBridge Scheduler.
/// </summary>
/// <param name="name">The name of the schedule group to delete.</param>
/// <returns>True if the schedule group was deleted successfully, false
otherwise.</returns>
public async Task<bool> DeleteScheduleGroupAsync(string name)
{
    try
    {
        var request = new DeleteScheduleGroupRequest { Name = name };

        await _amazonScheduler.DeleteScheduleGroupAsync(request);

        Console.WriteLine($"Successfully deleted schedule group '{name}'.");
        return true;
    }
    catch (ResourceNotFoundException ex)
    {
        _logger.LogError(
            $"Failed to delete schedule group '{name}' because the resource was
not found: {ex.Message}");
        return true;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(
            $"An error occurred while deleting schedule group '{name}':
{ex.Message}");
        return false;
    }
}
}

```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。

- [CreateSchedule](#)

- [CreateScheduleGroup](#)
- [DeleteSchedule](#)
- [DeleteScheduleGroups](#)

を使用した Amazon Glacier の例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon Glacier AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [はじめに](#)
- [アクション](#)

はじめに

Hello Amazon Glacier

次のコード例は、Amazon Glacier の使用を開始する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using Amazon.Glacier;  
using Amazon.Glacier.Model;
```



```
namespace GlacierActions;

public static class HelloGlacier
{
    static async Task Main()
    {
        var glacierService = new AmazonGlacierClient();

        Console.WriteLine("Hello Amazon Glacier!");
        Console.WriteLine("Let's list your Glacier vaults:");

        // You can use await and any of the async methods to get a response.
        // Let's get the vaults using a paginator.
        var glacierVaultPaginator = glacierService.Paginators.ListVaults(
            new ListVaultsRequest { AccountId = "-" });

        await foreach (var vault in glacierVaultPaginator.VaultList)
        {
            Console.WriteLine($"{vault.CreationDate}:{vault.VaultName}, ARN:
{vault.VaultARN}");
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListVaults](#)」を参照してください。

アクション

AddTagsToVault

次のコード例は、AddTagsToVault を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

    /// <summary>
    /// Add tags to the items in an Amazon S3 Glacier vault.
    /// </summary>
    /// <param name="vaultName">The name of the vault to add tags to.</param>
    /// <param name="key">The name of the object to tag.</param>
    /// <param name="value">The tag value to add.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> AddTagsToVaultAsync(string vaultName, string key, string
value)
    {
        var request = new AddTagsToVaultRequest
        {
            Tags = new Dictionary<string, string>
            {
                { key, value },
            },
            AccountId = "-",
            VaultName = vaultName,
        };

        var response = await _glacierService.AddTagsToVaultAsync(request);
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.NoContent;
    }

```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[AddTagsToVault](#)」を参照してください。

CreateVault

次のコード例は、CreateVault を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

    /// <summary>

```

```

/// Create an Amazon S3 Glacier vault.
/// </summary>
/// <param name="vaultName">The name of the vault to create.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> CreateVaultAsync(string vaultName)
{
    var request = new CreateVaultRequest
    {
        // Setting the AccountId to "-" means that
        // the account associated with the current
        // account will be used.
        AccountId = "-",
        VaultName = vaultName,
    };

    var response = await _glacierService.CreateVaultAsync(request);

    Console.WriteLine($"Created {vaultName} at: {response.Location}");

    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.Created;
}

```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateVault](#)」を参照してください。

DescribeVault

次のコード例は、DescribeVault を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

/// <summary>
/// Describe an Amazon S3 Glacier vault.
/// </summary>

```

```
/// <param name="vaultName">The name of the vault to describe.</param>
/// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the vault.</returns>
public async Task<string> DescribeVaultAsync(string vaultName)
{
    var request = new DescribeVaultRequest
    {
        AccountId = "-",
        VaultName = vaultName,
    };

    var response = await _glacierService.DescribeVaultAsync(request);

    // Display the information about the vault.
    Console.WriteLine($"{response.VaultName}\tARN: {response.VaultARN}");
    Console.WriteLine($"Created on: {response.CreationDate}\tNumber of Archives:
{response.NumberOfArchives}\tSize (in bytes): {response.SizeInBytes}");
    if (response.LastInventoryDate != DateTime.MinValue)
    {
        Console.WriteLine($"Last inventory: {response.LastInventoryDate}");
    }

    return response.VaultARN;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DescribeVault](#)」を参照してください。

InitiateJob

次のコード例は、InitiateJob を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

ボールドからアーカイブを取得します。この例では ArchiveTransferManager クラスを使用しています。API の詳細については、「[ArchiveTransferManager](#)」を参照してください。

```
/// <summary>
/// Download an archive from an Amazon S3 Glacier vault using the Archive
/// Transfer Manager.
/// </summary>
/// <param name="vaultName">The name of the vault containing the object.</param>
/// <param name="archiveId">The Id of the archive to download.</param>
/// <param name="localFilePath">The local directory where the file will
/// be stored after download.</param>
/// <returns>Async Task.</returns>
public async Task<bool> DownloadArchiveWithArchiveManagerAsync(string vaultName,
string archiveId, string localFilePath)
{
    try
    {
        var manager = new ArchiveTransferManager(_glacierService);

        var options = new DownloadOptions
        {
            StreamTransferProgress = Progress!,
        };

        // Download an archive.
        Console.WriteLine("Initiating the archive retrieval job and then polling
SQS queue for the archive to be available.");
        Console.WriteLine("When the archive is available, downloading will
begin.");
        await manager.DownloadAsync(vaultName, archiveId, localFilePath,
options);

        return true;
    }
    catch (AmazonGlacierException ex)
    {
        Console.WriteLine(ex.Message);
        return false;
    }
}

/// <summary>
/// Event handler to track the progress of the Archive Transfer Manager.
```

```

/// </summary>
/// <param name="sender">The object that raised the event.</param>
/// <param name="args">The argument values from the object that raised the
/// event.</param>
static void Progress(object sender, StreamTransferProgressArgs args)
{
    if (args.PercentDone != _currentPercentage)
    {
        _currentPercentage = args.PercentDone;
        Console.WriteLine($"Downloaded {_currentPercentage}%");
    }
}

```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[InitiateJob](#)」を参照してください。

ListJobs

次のコード例は、ListJobs を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

/// <summary>
/// List Amazon S3 Glacier jobs.
/// </summary>
/// <param name="vaultName">The name of the vault to list jobs for.</param>
/// <returns>A list of Amazon S3 Glacier jobs.</returns>
public async Task<List<GlacierJobDescription>> ListJobsAsync(string vaultName)
{
    var request = new ListJobsRequest
    {
        // Using a hyphen "-" for the Account Id will
        // cause the SDK to use the Account Id associated
    }
}

```

```
        // with the current account.
        AccountId = "-",
        VaultName = vaultName,
    };

    var response = await _glacierService.ListJobsAsync(request);

    return response.JobList;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListJobs](#)」を参照してください。

ListTagsForVault

次のコード例は、ListTagsForVault を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List tags for an Amazon S3 Glacier vault.
/// </summary>
/// <param name="vaultName">The name of the vault to list tags for.</param>
/// <returns>A dictionary listing the tags attached to each object in the
/// vault and its tags.</returns>
public async Task<Dictionary<string, string>> ListTagsForVaultAsync(string
vaultName)
{
    var request = new ListTagsForVaultRequest
    {
        // Using a hyphen "-" for the Account Id will
        // cause the SDK to use the Account Id associated
        // with the default user.
    }
```

```
        AccountId = "-",
        VaultName = vaultName,
    };

    var response = await _glacierService.ListTagsForVaultAsync(request);

    return response.Tags;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListTagsForVault](#)」を参照してください。

ListVaults

次のコード例は、ListVaults を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List the Amazon S3 Glacier vaults associated with the current account.
/// </summary>
/// <returns>A list containing information about each vault.</returns>
public async Task<List<DescribeVaultOutput>> ListVaultsAsync()
{
    var glacierVaultPaginator = _glacierService.Paginators.ListVaults(
        new ListVaultsRequest { AccountId = "-" });
    var vaultList = new List<DescribeVaultOutput>();

    await foreach (var vault in glacierVaultPaginator.VaultList)
    {
        vaultList.Add(vault);
    }
}
```



```
        return vaultList;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListVaults](#)」を参照してください。

UploadArchive

次のコード例は、UploadArchive を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Upload an object to an Amazon S3 Glacier vault.
/// </summary>
/// <param name="vaultName">The name of the Amazon S3 Glacier vault to upload
/// the archive to.</param>
/// <param name="archiveFilePath">The file path of the archive to upload to the
vault.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<string> UploadArchiveWithArchiveManager(string vaultName,
string archiveFilePath)
{
    try
    {
        var manager = new ArchiveTransferManager(_glacierService);

        // Upload an archive.
        var response = await manager.UploadAsync(vaultName, "upload archive
test", archiveFilePath);
        return response.ArchiveId;
    }
    catch (AmazonGlacierException ex)
```

```
{  
    Console.WriteLine(ex.Message);  
    return string.Empty;  
}  
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[UploadArchive](#)」を参照してください。

AWS Glue を使用した の例 SDK for .NET

次のコード例は、AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています AWS Glue。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [はじめに](#)
- [基本](#)
- [アクション](#)

はじめに

こんにちは AWS Glueは

次のコード例は、AWS Glueの使用を開始する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
namespace GlueActions;

public class HelloGlue
{
    private static ILogger logger = null!;

    static async Task Main(string[] args)
    {
        // Set up dependency injection for AWS Glue.
        using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
            .ConfigureLogging(logging =>
                logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
                .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
LogLevel.Information)
                .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
            .ConfigureServices((_, services) =>
                services.AddAWSService<IAmazonGlue>()
                .AddTransient<GlueWrapper>()
            )
            .Build();

        logger = LoggerFactory.Create(builder => { builder.AddConsole(); })
            .CreateLogger<HelloGlue>();
        var glueClient = host.Services.GetRequiredService<IAmazonGlue>();

        var request = new ListJobsRequest();

        var jobNames = new List<string>();

        do
        {
            var response = await glueClient.ListJobsAsync(request);
            jobNames.AddRange(response.JobNames);
            request.NextToken = response.NextToken;
        }
```

```
    }  
    while (request.NextToken is not null);  
  
    Console.Clear();  
    Console.WriteLine("Hello, Glue. Let's list your existing Glue Jobs:");  
    if (jobNames.Count == 0)  
    {  
        Console.WriteLine("You don't have any AWS Glue jobs.");  
    }  
    else  
    {  
        jobNames.ForEach(Console.WriteLine);  
    }  
}  
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListJobs](#)」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- パブリック Amazon S3 バケットをクロールし、CSV 形式のメタデータのデータベースを生成するクローラーを作成します。
- のデータベースとテーブルに関する情報を一覧表示します AWS Glue Data Catalog。
- S3 バケットから CSV 形式のデータを抽出するジョブを作成し、そのデータを変換して JSON 形式の出力を別の S3 バケットにロードする。
- ジョブ実行に関する情報を一覧表示し、変換されたデータを表示してリソースをクリーンアップします。

詳細については、「[チュートリアル: AWS Glue Studio の開始方法](#)」を参照してください。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

シナリオで使用される AWS Glue 関数をラップするクラスを作成します。

```
using System.Net;

namespace GlueActions;

public class GlueWrapper
{
    private readonly IAmazonGlue _amazonGlue;

    /// <summary>
    /// Constructor for the AWS Glue actions wrapper.
    /// </summary>
    /// <param name="amazonGlue"></param>
    public GlueWrapper(IAmazonGlue amazonGlue)
    {
        _amazonGlue = amazonGlue;
    }

    /// <summary>
    /// Create an AWS Glue crawler.
    /// </summary>
    /// <param name="crawlerName">The name for the crawler.</param>
    /// <param name="crawlerDescription">A description of the crawler.</param>
    /// <param name="role">The AWS Identity and Access Management (IAM) role to
    /// be assumed by the crawler.</param>
    /// <param name="schedule">The schedule on which the crawler will be executed.</
param>
    /// <param name="s3Path">The path to the Amazon Simple Storage Service (Amazon
S3)
    /// bucket where the Python script has been stored.</param>
    /// <param name="dbName">The name to use for the database that will be
    /// created by the crawler.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
```

```
public async Task<bool> CreateCrawlerAsync(
    string crawlerName,
    string crawlerDescription,
    string role,
    string schedule,
    string s3Path,
    string dbName)
{
    var s3Target = new S3Target
    {
        Path = s3Path,
    };

    var targetList = new List<S3Target>
    {
        s3Target,
    };

    var targets = new CrawlerTargets
    {
        S3Targets = targetList,
    };

    var crawlerRequest = new CreateCrawlerRequest
    {
        DatabaseName = dbName,
        Name = crawlerName,
        Description = crawlerDescription,
        Targets = targets,
        Role = role,
        Schedule = schedule,
    };

    var response = await _amazonGlue.CreateCrawlerAsync(crawlerRequest);
    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}

/// <summary>
/// Create an AWS Glue job.
/// </summary>
/// <param name="jobName">The name of the job.</param>
/// <param name="roleName">The name of the IAM role to be assumed by
/// the job.</param>
```

```

    /// <param name="description">A description of the job.</param>
    /// <param name="scriptUrl">The URL to the script.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> CreateJobAsync(string dbName, string tableName, string
bucketUrl, string jobName, string roleName, string description, string scriptUrl)
    {
        var command = new JobCommand
        {
            PythonVersion = "3",
            Name = "glueetl",
            ScriptLocation = scriptUrl,
        };

        var arguments = new Dictionary<string, string>
        {
            { "--input_database", dbName },
            { "--input_table", tableName },
            { "--output_bucket_url", bucketUrl }
        };

        var request = new CreateJobRequest
        {
            Command = command,
            DefaultArguments = arguments,
            Description = description,
            GlueVersion = "3.0",
            Name = jobName,
            NumberOfWorkers = 10,
            Role = roleName,
            WorkerType = "G.1X"
        };

        var response = await _amazonGlue.CreateJobAsync(request);
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }

    /// <summary>
    /// Delete an AWS Glue crawler.
    /// </summary>
    /// <param name="crawlerName">The name of the crawler.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> DeleteCrawlerAsync(string crawlerName)
    {

```

```

        var response = await _amazonGlue.DeleteCrawlerAsync(new DeleteCrawlerRequest
{ Name = crawlerName });
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }

    /// <summary>
    /// Delete the AWS Glue database.
    /// </summary>
    /// <param name="dbName">The name of the database.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> DeleteDatabaseAsync(string dbName)
    {
        var response = await _amazonGlue.DeleteDatabaseAsync(new
DeleteDatabaseRequest { Name = dbName });
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }

    /// <summary>
    /// Delete an AWS Glue job.
    /// </summary>
    /// <param name="jobName">The name of the job.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> DeleteJobAsync(string jobName)
    {
        var response = await _amazonGlue.DeleteJobAsync(new DeleteJobRequest
{ JobName = jobName });
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }

    /// <summary>
    /// Delete a table from an AWS Glue database.
    /// </summary>
    /// <param name="tableName">The table to delete.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> DeleteTableAsync(string dbName, string tableName)
    {
        var response = await _amazonGlue.DeleteTableAsync(new DeleteTableRequest
{ Name = tableName, DatabaseName = dbName });
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }

```



```
/// <summary>
/// Get information about an AWS Glue crawler.
/// </summary>
/// <param name="crawlerName">The name of the crawler.</param>
/// <returns>A Crawler object describing the crawler.</returns>
public async Task<Crawler?> GetCrawlerAsync(string crawlerName)
{
    var crawlerRequest = new GetCrawlerRequest
    {
        Name = crawlerName,
    };

    var response = await _amazonGlue.GetCrawlerAsync(crawlerRequest);
    if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
    {
        var databaseName = response.Crawler.DatabaseName;
        Console.WriteLine($"{crawlerName} has the database {databaseName}");
        return response.Crawler;
    }

    Console.WriteLine($"No information regarding {crawlerName} could be
found.");
    return null;
}

/// <summary>
/// Get information about the state of an AWS Glue crawler.
/// </summary>
/// <param name="crawlerName">The name of the crawler.</param>
/// <returns>A value describing the state of the crawler.</returns>
public async Task<CrawlerState> GetCrawlerStateAsync(string crawlerName)
{
    var response = await _amazonGlue.GetCrawlerAsync(
        new GetCrawlerRequest { Name = crawlerName });
    return response.Crawler.State;
}

/// <summary>
/// Get information about an AWS Glue database.
/// </summary>
/// <param name="dbName">The name of the database.</param>
```

```

    /// <returns>A Database object containing information about the database.</
returns>
    public async Task<Database> GetDatabaseAsync(string dbName)
    {
        var databasesRequest = new GetDatabaseRequest
        {
            Name = dbName,
        };

        var response = await _amazonGlue.GetDatabaseAsync(databasesRequest);
        return response.Database;
    }

    /// <summary>
    /// Get information about a specific AWS Glue job run.
    /// </summary>
    /// <param name="jobName">The name of the job.</param>
    /// <param name="jobRunId">The Id of the job run.</param>
    /// <returns>A JobRun object with information about the job run.</returns>
    public async Task<JobRun> GetJobRunAsync(string jobName, string jobRunId)
    {
        var response = await _amazonGlue.GetJobRunAsync(new GetJobRunRequest
        { JobName = jobName, RunId = jobRunId });
        return response.JobRun;
    }

    /// <summary>
    /// Get information about all AWS Glue runs of a specific job.
    /// </summary>
    /// <param name="jobName">The name of the job.</param>
    /// <returns>A list of JobRun objects.</returns>
    public async Task<List<JobRun>> GetJobRunsAsync(string jobName)
    {
        var jobRuns = new List<JobRun>();

        var request = new GetJobRunsRequest
        {
            JobName = jobName,
        };

        // No need to loop to get all the log groups--the SDK does it for us behind
the scenes

```

```
var paginatorForJobRuns =
    _amazonGlue.Paginators.GetJobRuns(request);

await foreach (var response in paginatorForJobRuns.Responses)
{
    response.JobRuns.ForEach(jobRun =>
    {
        jobRuns.Add(jobRun);
    });
}

return jobRuns;
}

/// <summary>
/// Get a list of tables for an AWS Glue database.
/// </summary>
/// <param name="dbName">The name of the database.</param>
/// <returns>A list of Table objects.</returns>
public async Task<List<Table>> GetTablesAsync(string dbName)
{
    var request = new GetTablesRequest { DatabaseName = dbName };
    var tables = new List<Table>();

    // Get a paginator for listing the tables.
    var tablePaginator = _amazonGlue.Paginators.GetTables(request);

    await foreach (var response in tablePaginator.Responses)
    {
        tables.AddRange(response.TableList);
    }

    return tables;
}

/// <summary>
/// List AWS Glue jobs using a paginator.
/// </summary>
/// <returns>A list of AWS Glue job names.</returns>
public async Task<List<string>> ListJobsAsync()
{
    var jobNames = new List<string>();
```

```
        var listJobsPaginator = _amazonGlue.Paginators.ListJobs(new ListJobsRequest
{ MaxResults = 10 });
        await foreach (var response in listJobsPaginator.Responses)
        {
            jobNames.AddRange(response.JobNames);
        }

        return jobNames;
    }

    /// <summary>
    /// Start an AWS Glue crawler.
    /// </summary>
    /// <param name="crawlerName">The name of the crawler.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> StartCrawlerAsync(string crawlerName)
    {
        var crawlerRequest = new StartCrawlerRequest
        {
            Name = crawlerName,
        };

        var response = await _amazonGlue.StartCrawlerAsync(crawlerRequest);

        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }

    /// <summary>
    /// Start an AWS Glue job run.
    /// </summary>
    /// <param name="jobName">The name of the job.</param>
    /// <returns>A string representing the job run Id.</returns>
    public async Task<string> StartJobRunAsync(
        string jobName,
        string inputDatabase,
        string inputTable,
        string bucketName)
    {
        var request = new StartJobRunRequest
        {
            JobName = jobName,
```

```
        Arguments = new Dictionary<string, string>
        {
            {"--input_database", inputDatabase},
            {"--input_table", inputTable},
            {"--output_bucket_url", $"s3://{bucketName}/"}
        }
    };

    var response = await _amazonGlue.StartJobRunAsync(request);
    return response.JobRunId;
}

}
```

シナリオを実行するクラスを作成します。

```
global using Amazon.Glue;
global using GlueActions;
global using Microsoft.Extensions.Configuration;
global using Microsoft.Extensions.DependencyInjection;
global using Microsoft.Extensions.Hosting;
global using Microsoft.Extensions.Logging;
global using Microsoft.Extensions.Logging.Console;
global using Microsoft.Extensions.Logging.Debug;

using Amazon.Glue.Model;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;

namespace GlueBasics;

public class GlueBasics
{
    private static ILogger logger = null!;
    private static IConfiguration _configuration = null!;

    static async Task Main(string[] args)
    {
        // Set up dependency injection for AWS Glue.
```

```

using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
    .ConfigureLogging(logging =>
        logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
        .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
LogLevel.Information)
        .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
    .ConfigureServices((_, services) =>
        services.AddAWSService<IAmazonGlue>()
        .AddTransient<GlueWrapper>()
        .AddTransient<UiWrapper>()
        )
    .Build();

logger = LoggerFactory.Create(builder => { builder.AddConsole(); })
    .CreateLogger<GlueBasics>();

_configuration = new ConfigurationBuilder()
    .SetBasePath(Directory.GetCurrentDirectory())
    .AddJsonFile("settings.json") // Load settings from .json file.
    .AddJsonFile("settings.local.json",
        true) // Optionally load local settings.
    .Build();

// These values are stored in settings.json
// Once you have run the CDK script to deploy the resources,
// edit the file to set "BucketName", "RoleName", and "ScriptURL"
// to the appropriate values. Also set "CrawlerName" to the name
// you want to give the crawler when it is created.
string bucketName = _configuration["BucketName"]!;
string bucketUrl = _configuration["BucketUrl"]!;
string crawlerName = _configuration["CrawlerName"]!;
string roleName = _configuration["RoleName"]!;
string sourceData = _configuration["SourceData"]!;
string dbName = _configuration["DbName"]!;
string cron = _configuration["Cron"]!;
string scriptUrl = _configuration["ScriptURL"]!;
string jobName = _configuration["JobName"]!;

var wrapper = host.Services.GetRequiredService<GlueWrapper>();
var uiWrapper = host.Services.GetRequiredService<UiWrapper>();

uiWrapper.DisplayOverview();
uiWrapper.PressEnter();

```

```
// Create the crawler and wait for it to be ready.
uiWrapper.DisplayTitle("Create AWS Glue crawler");
Console.WriteLine("Let's begin by creating the AWS Glue crawler.");

var crawlerDescription = "Crawler created for the AWS Glue Basics
scenario.";
var crawlerCreated = await wrapper.CreateCrawlerAsync(crawlerName,
crawlerDescription, roleName, cron, sourceData, dbName);
if (crawlerCreated)
{
    Console.WriteLine($"The crawler: {crawlerName} has been created. Now
let's wait until it's ready.");
    CrawlerState crawlerState;
    do
    {
        crawlerState = await wrapper.GetCrawlerStateAsync(crawlerName);
    }
    while (crawlerState != "READY");
    Console.WriteLine($"The crawler {crawlerName} is now ready for use.");
}
else
{
    Console.WriteLine($"Couldn't create crawler {crawlerName}.");
    return; // Exit the application.
}

uiWrapper.DisplayTitle("Start AWS Glue crawler");
Console.WriteLine("Now let's wait until the crawler has successfully
started.");
var crawlerStarted = await wrapper.StartCrawlerAsync(crawlerName);
if (crawlerStarted)
{
    CrawlerState crawlerState;
    do
    {
        crawlerState = await wrapper.GetCrawlerStateAsync(crawlerName);
    }
    while (crawlerState != "READY");
    Console.WriteLine($"The crawler {crawlerName} is now ready for use.");
}
else
{
    Console.WriteLine($"Couldn't start the crawler {crawlerName}.");
    return; // Exit the application.
}
```

```
}

uiWrapper.PressEnter();

Console.WriteLine($"\\nLet's take a look at the database: {dbName}");
var database = await wrapper.GetDatabaseAsync(dbName);

if (database != null)
{
    uiWrapper.DisplayTitle($"{database.Name} Details");
    Console.WriteLine($"{database.Name} created on {database.CreateTime}");
    Console.WriteLine(database.Description);
}

uiWrapper.PressEnter();

var tables = await wrapper.GetTablesAsync(dbName);
if (tables.Count > 0)
{
    tables.ForEach(table =>
    {
        Console.WriteLine($"{table.Name}\\tCreated:
{table.CreateTime}\\tUpdated: {table.UpdateTime}");
    });
}

uiWrapper.PressEnter();

uiWrapper.DisplayTitle("Create AWS Glue job");
Console.WriteLine("Creating a new AWS Glue job.");
var description = "An AWS Glue job created using the AWS SDK for .NET";
await wrapper.CreateJobAsync(dbName, tables[0].Name, bucketUrl, jobName,
roleName, description, scriptUrl);

uiWrapper.PressEnter();

uiWrapper.DisplayTitle("Starting AWS Glue job");
Console.WriteLine("Starting the new AWS Glue job...");
var jobRunId = await wrapper.StartJobRunAsync(jobName, dbName,
tables[0].Name, bucketName);
var jobRunComplete = false;
var jobRun = new JobRun();
do
{
```



```
        jobRun = await wrapper.GetJobRunAsync(jobName, jobRunId);
        if (jobRun.JobRunState == "SUCCEEDED" || jobRun.JobRunState == "STOPPED"
||
            jobRun.JobRunState == "FAILED" || jobRun.JobRunState == "TIMEOUT")
        {
            jobRunComplete = true;
        }
    } while (!jobRunComplete);

    uiWrapper.DisplayTitle($"Data in {bucketName}");

    // Get the list of data stored in the S3 bucket.
    var s3Client = new AmazonS3Client();

    var response = await s3Client.ListObjectsAsync(new ListObjectsRequest
{ BucketName = bucketName });
    response.S3Objects.ForEach(s3Object =>
    {
        Console.WriteLine(s3Object.Key);
    });

    uiWrapper.DisplayTitle("AWS Glue jobs");
    var jobNames = await wrapper.ListJobsAsync();
    jobNames.ForEach(jobName =>
    {
        Console.WriteLine(jobName);
    });

    uiWrapper.PressEnter();

    uiWrapper.DisplayTitle("Get AWS Glue job run information");
    Console.WriteLine("Getting information about the AWS Glue job.");
    var jobRuns = await wrapper.GetJobRunsAsync(jobName);

    jobRuns.ForEach(jobRun =>
    {
        Console.WriteLine($"{jobRun.JobName}\t{jobRun.JobRunState}\t{jobRun.CompletedOn}");
    });

    uiWrapper.PressEnter();

    uiWrapper.DisplayTitle("Deleting resources");
    Console.WriteLine("Deleting the AWS Glue job used by the example.");
```

```

        await wrapper.DeleteJobAsync(jobName);

        Console.WriteLine("Deleting the tables from the database.");
        tables.ForEach(async table =>
        {
            await wrapper.DeleteTableAsync(dbName, table.Name);
        });

        Console.WriteLine("Deleting the database.");
        await wrapper.DeleteDatabaseAsync(dbName);

        Console.WriteLine("Deleting the AWS Glue crawler.");
        await wrapper.DeleteCrawlerAsync(crawlerName);

        Console.WriteLine("The AWS Glue scenario has completed.");
        uiWrapper.PressEnter();
    }
}

namespace GlueBasics;

public class UiWrapper
{
    public readonly string SepBar = new string('-', Console.WindowWidth);

    /// <summary>
    /// Show information about the scenario.
    /// </summary>
    public void DisplayOverview()
    {
        Console.Clear();
        DisplayTitle("Amazon Glue: get started with crawlers and jobs");

        Console.WriteLine("This example application does the following:");
        Console.WriteLine("\t 1. Create a crawler, pass it the IAM role and the URL
to the public S3 bucket that contains the source data");
        Console.WriteLine("\t 2. Start the crawler.");
        Console.WriteLine("\t 3. Get the database created by the crawler and the
tables in the database.");
        Console.WriteLine("\t 4. Create a job.");
        Console.WriteLine("\t 5. Start a job run.");
        Console.WriteLine("\t 6. Wait for the job run to complete.");
        Console.WriteLine("\t 7. Show the data stored in the bucket.");
    }
}

```

```

        Console.WriteLine("\t 8. List jobs for the account.");
        Console.WriteLine("\t 9. Get job run details for the job that was run.");
        Console.WriteLine("\t10. Delete the demo job.");
        Console.WriteLine("\t11. Delete the database and tables created for the
demo.");
        Console.WriteLine("\t12. Delete the crawler.");
    }

    /// <summary>
    /// Display a message and wait until the user presses enter.
    /// </summary>
    public void PressEnter()
    {
        Console.Write("\nPlease press <Enter> to continue. ");
        _ = Console.ReadLine();
    }

    /// <summary>
    /// Pad a string with spaces to center it on the console display.
    /// </summary>
    /// <param name="strToCenter">The string to center on the screen.</param>
    /// <returns>The string padded to make it center on the screen.</returns>
    public string CenterString(string strToCenter)
    {
        var padAmount = (Console.WindowWidth - strToCenter.Length) / 2;
        var leftPad = new string(' ', padAmount);
        return $"{leftPad}{strToCenter}";
    }

    /// <summary>
    /// Display a line of hyphens, the centered text of the title and another
    /// line of hyphens.
    /// </summary>
    /// <param name="strTitle">The string to be displayed.</param>
    public void DisplayTitle(string strTitle)
    {
        Console.WriteLine(SepBar);
        Console.WriteLine(CenterString(strTitle));
        Console.WriteLine(SepBar);
    }
}

```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
 - [CreateCrawler](#)
 - [CreateJob](#)
 - [DeleteCrawler](#)
 - [DeleteDatabase](#)
 - [DeleteJob](#)
 - [DeleteTable](#)
 - [GetCrawler](#)
 - [GetDatabase](#)
 - [GetDatabases](#)
 - [GetJob](#)
 - [GetJobRun](#)
 - [GetJobRuns](#)
 - [GetTables](#)
 - [ListJobs](#)
 - [StartCrawler](#)
 - [StartJobRun](#)

アクション

CreateCrawler

次のコード例は、CreateCrawler を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
```

```

    /// Create an AWS Glue crawler.
    /// </summary>
    /// <param name="crawlerName">The name for the crawler.</param>
    /// <param name="crawlerDescription">A description of the crawler.</param>
    /// <param name="role">The AWS Identity and Access Management (IAM) role to
    /// be assumed by the crawler.</param>
    /// <param name="schedule">The schedule on which the crawler will be executed.</
param>
    /// <param name="s3Path">The path to the Amazon Simple Storage Service (Amazon
S3)
    /// bucket where the Python script has been stored.</param>
    /// <param name="dbName">The name to use for the database that will be
    /// created by the crawler.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> CreateCrawlerAsync(
        string crawlerName,
        string crawlerDescription,
        string role,
        string schedule,
        string s3Path,
        string dbName)
    {
        var s3Target = new S3Target
        {
            Path = s3Path,
        };

        var targetList = new List<S3Target>
        {
            s3Target,
        };

        var targets = new CrawlerTargets
        {
            S3Targets = targetList,
        };

        var crawlerRequest = new CreateCrawlerRequest
        {
            DatabaseName = dbName,
            Name = crawlerName,
            Description = crawlerDescription,
            Targets = targets,
            Role = role,

```

```

        Schedule = schedule,
    };

    var response = await _amazonGlue.CreateCrawlerAsync(crawlerRequest);
    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateCrawler](#)」を参照してください。

CreateJob

次のコード例は、CreateJob を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

/// <summary>
/// Create an AWS Glue job.
/// </summary>
/// <param name="jobName">The name of the job.</param>
/// <param name="roleName">The name of the IAM role to be assumed by
/// the job.</param>
/// <param name="description">A description of the job.</param>
/// <param name="scriptUrl">The URL to the script.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> CreateJobAsync(string dbName, string tableName, string
bucketUrl, string jobName, string roleName, string description, string scriptUrl)
{
    var command = new JobCommand
    {
        PythonVersion = "3",
        Name = "glueetl",
        ScriptLocation = scriptUrl,
    }
}

```

```
};

var arguments = new Dictionary<string, string>
{
    { "--input_database", dbName },
    { "--input_table", tableName },
    { "--output_bucket_url", bucketUrl }
};

var request = new CreateJobRequest
{
    Command = command,
    DefaultArguments = arguments,
    Description = description,
    GlueVersion = "3.0",
    Name = jobName,
    NumberOfWorkers = 10,
    Role = roleName,
    WorkerType = "G.1X"
};

var response = await _amazonGlue.CreateJobAsync(request);
return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateJob](#)」を参照してください。

DeleteCrawler

次のコード例は、DeleteCrawler を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete an AWS Glue crawler.
/// </summary>
/// <param name="crawlerName">The name of the crawler.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteCrawlerAsync(string crawlerName)
{
    var response = await _amazonGlue.DeleteCrawlerAsync(new DeleteCrawlerRequest
    { Name = crawlerName });
    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteCrawler](#)」を参照してください。

DeleteDatabase

次のコード例は、DeleteDatabase を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete the AWS Glue database.
/// </summary>
/// <param name="dbName">The name of the database.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteDatabaseAsync(string dbName)
{
    var response = await _amazonGlue.DeleteDatabaseAsync(new
DeleteDatabaseRequest { Name = dbName });
    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```


- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteDatabase](#)」を参照してください。

DeleteJob

次のコード例は、DeleteJob を使用する方法を説明しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete an AWS Glue job.
/// </summary>
/// <param name="jobName">The name of the job.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteJobAsync(string jobName)
{
    var response = await _amazonGlue.DeleteJobAsync(new DeleteJobRequest
    { JobName = jobName });
    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteJob](#)」を参照してください。

DeleteTable

次のコード例は、DeleteTable を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete a table from an AWS Glue database.
/// </summary>
/// <param name="tableName">The table to delete.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteTableAsync(string dbName, string tableName)
{
    var response = await _amazonGlue.DeleteTableAsync(new DeleteTableRequest
    { Name = tableName, DatabaseName = dbName });
    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteTable](#)」を参照してください。

GetCrawler

次のコード例は、GetCrawler を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get information about an AWS Glue crawler.
```

```
/// </summary>
/// <param name="crawlerName">The name of the crawler.</param>
/// <returns>A Crawler object describing the crawler.</returns>
public async Task<Crawler?> GetCrawlerAsync(string crawlerName)
{
    var crawlerRequest = new GetCrawlerRequest
    {
        Name = crawlerName,
    };

    var response = await _amazonGlue.GetCrawlerAsync(crawlerRequest);
    if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
    {
        var databaseName = response.Crawler.DatabaseName;
        Console.WriteLine($"{crawlerName} has the database {databaseName}");
        return response.Crawler;
    }

    Console.WriteLine($"No information regarding {crawlerName} could be found.");
    return null;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetCrawler](#)」を参照してください。

GetDatabase

次のコード例は、GetDatabase を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
```

```
/// Get information about an AWS Glue database.
/// </summary>
/// <param name="dbName">The name of the database.</param>
/// <returns>A Database object containing information about the database.</
returns>
public async Task<Database> GetDatabaseAsync(string dbName)
{
    var databasesRequest = new GetDatabaseRequest
    {
        Name = dbName,
    };

    var response = await _amazonGlue.GetDatabaseAsync(databasesRequest);
    return response.Database;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetDatabase](#)」を参照してください。

GetJobRun

次のコード例は、GetJobRun を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get information about a specific AWS Glue job run.
/// </summary>
/// <param name="jobName">The name of the job.</param>
/// <param name="jobRunId">The Id of the job run.</param>
/// <returns>A JobRun object with information about the job run.</returns>
public async Task<JobRun> GetJobRunAsync(string jobName, string jobRunId)
{
```

```
var response = await _amazonGlue.GetJobRunAsync(new GetJobRunRequest
{ JobName = jobName, RunId = jobRunId });
return response.JobRun;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetJobRun](#)」を参照してください。

GetJobRuns

次のコード例は、GetJobRuns を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get information about all AWS Glue runs of a specific job.
/// </summary>
/// <param name="jobName">The name of the job.</param>
/// <returns>A list of JobRun objects.</returns>
public async Task<List<JobRun>> GetJobRunsAsync(string jobName)
{
    var jobRuns = new List<JobRun>();

    var request = new GetJobRunsRequest
    {
        JobName = jobName,
    };

    // No need to loop to get all the log groups--the SDK does it for us behind
    the scenes
    var paginatorForJobRuns =
        _amazonGlue.Paginate.GetJobRuns(request);
```

```
await foreach (var response in paginatorForJobRuns.Responses)
{
    response.JobRuns.ForEach(jobRun =>
    {
        jobRuns.Add(jobRun);
    });
}

return jobRuns;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetJobRuns](#)」を参照してください。

GetTables

次のコード例は、GetTables を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get a list of tables for an AWS Glue database.
/// </summary>
/// <param name="dbName">The name of the database.</param>
/// <returns>A list of Table objects.</returns>
public async Task<List<Table>> GetTablesAsync(string dbName)
{
    var request = new GetTablesRequest { DatabaseName = dbName };
    var tables = new List<Table>();

    // Get a paginator for listing the tables.
    var tablePaginator = _amazonGlue.Paginators.GetTables(request);
```

```
        await foreach (var response in tablePaginator.Responses)
        {
            tables.AddRange(response.TableList);
        }

        return tables;
    }
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetTables](#)」を参照してください。

ListJobs

次のコード例は、ListJobs を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List AWS Glue jobs using a paginator.
/// </summary>
/// <returns>A list of AWS Glue job names.</returns>
public async Task<List<string>> ListJobsAsync()
{
    var jobNames = new List<string>();

    var listJobsPaginator = _amazonGlue.Paginators.ListJobs(new ListJobsRequest
    { MaxResults = 10 });
    await foreach (var response in listJobsPaginator.Responses)
    {
        jobNames.AddRange(response.JobNames);
    }

    return jobNames;
}
```

```
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListJobs](#)」を参照してください。

StartCrawler

次のコード例は、StartCrawler を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Start an AWS Glue crawler.
/// </summary>
/// <param name="crawlerName">The name of the crawler.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> StartCrawlerAsync(string crawlerName)
{
    var crawlerRequest = new StartCrawlerRequest
    {
        Name = crawlerName,
    };

    var response = await _amazonGlue.StartCrawlerAsync(crawlerRequest);

    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[StartCrawler](#)」を参照してください。

StartJobRun

次のコード例は、StartJobRun を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Start an AWS Glue job run.
/// </summary>
/// <param name="jobName">The name of the job.</param>
/// <returns>A string representing the job run Id.</returns>
public async Task<string> StartJobRunAsync(
    string jobName,
    string inputDatabase,
    string inputTable,
    string bucketName)
{
    var request = new StartJobRunRequest
    {
        JobName = jobName,
        Arguments = new Dictionary<string, string>
        {
            {"--input_database", inputDatabase},
            {"--input_table", inputTable},
            {"--output_bucket_url", $"s3://{bucketName}/"}
        }
    };

    var response = await _amazonGlue.StartJobRunAsync(request);
    return response.JobRunId;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[StartJobRun](#)」を参照してください。

を使用した IAM の例 SDK for .NET

次のコード例は、IAM AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [はじめに](#)
- [基本](#)
- [アクション](#)
- [シナリオ](#)

はじめに

IAM へようこそ

次のコード例は、IAM の使用を開始する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
namespace IAMActions;
```

```
public class HelloIAM
{
    static async Task Main(string[] args)
    {
        // Getting started with AWS Identity and Access Management (IAM). List
        // the policies for the account.
        var iamClient = new AmazonIdentityManagementServiceClient();

        var listPoliciesPaginator = iamClient.Paginators.ListPolicies(new
ListPoliciesRequest());
        var policies = new List<ManagedPolicy>();

        await foreach (var response in listPoliciesPaginator.Responses)
        {
            policies.AddRange(response.Policies);
        }

        Console.WriteLine("Here are the policies defined for your account:\n");
        policies.ForEach(policy =>
        {
            Console.WriteLine($"Created:
{policy.CreateDate}\t{policy.PolicyName}\t{policy.Description}");
        });
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListPolicies](#)」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、ユーザーを作成してロールを割り当てる方法を示しています。

⚠ Warning

セキュリティリスクを避けるため、専用ソフトウェアを開発するときや実際のデータを扱うときは、IAM ユーザーを認証に使用しないでください。代わりに、[AWS IAM Identity Center](#) などの ID プロバイダーとのフェデレーションを使用してください。

- 権限のないユーザーを作成します。
- アカountの Amazon S3 バケットを一覧表示する権限を付与するロールを作成します。
- ユーザーがロールを引き受けられるようにポリシーを追加します。
- ロールを引き受け、一時的な認証情報を使用して S3 バケットを一覧表示し、リソースをクリーンアップします。

SDK for .NET

i Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
global using Amazon.IdentityManagement;
global using Amazon.S3;
global using Amazon.SecurityToken;
global using IAMActions;
global using IamScenariosCommon;
global using Microsoft.Extensions.DependencyInjection;
global using Microsoft.Extensions.Hosting;
global using Microsoft.Extensions.Logging;
global using Microsoft.Extensions.Logging.Console;
global using Microsoft.Extensions.Logging.Debug;

namespace IAMActions;

public class IAMWrapper
{
    private readonly IAmazonIdentityManagementService _IAMService;
```

```
/// <summary>
/// Constructor for the IAMWrapper class.
/// </summary>
/// <param name="IAMService">An IAM client object.</param>
public IAMWrapper(IAmazonIdentityManagementService IAMService)
{
    _IAMService = IAMService;
}

/// <summary>
/// Attach an IAM policy to a role.
/// </summary>
/// <param name="policyArn">The policy to attach.</param>
/// <param name="roleName">The role that the policy will be attached to.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> AttachRolePolicyAsync(string policyArn, string roleName)
{
    var response = await _IAMService.AttachRolePolicyAsync(new
AttachRolePolicyRequest
    {
        PolicyArn = policyArn,
        RoleName = roleName,
    });

    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}

/// <summary>
/// Create an IAM access key for a user.
/// </summary>
/// <param name="userName">The username for which to create the IAM access
/// key.</param>
/// <returns>The AccessKey.</returns>
public async Task<AccessKey> CreateAccessKeyAsync(string userName)
{
    var response = await _IAMService.CreateAccessKeyAsync(new
CreateAccessKeyRequest
    {
        UserName = userName,
    });

    return response.AccessKey;
}
```

```
}

/// <summary>
/// Create an IAM policy.
/// </summary>
/// <param name="policyName">The name to give the new IAM policy.</param>
/// <param name="policyDocument">The policy document for the new policy.</param>
/// <returns>The new IAM policy object.</returns>
public async Task<ManagedPolicy> CreatePolicyAsync(string policyName, string
policyDocument)
{
    var response = await _IAMService.CreatePolicyAsync(new CreatePolicyRequest
    {
        PolicyDocument = policyDocument,
        PolicyName = policyName,
    });

    return response.Policy;
}

/// <summary>
/// Create a new IAM role.
/// </summary>
/// <param name="roleName">The name of the IAM role.</param>
/// <param name="rolePolicyDocument">The name of the IAM policy document
/// for the new role.</param>
/// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the role.</returns>
public async Task<string> CreateRoleAsync(string roleName, string
rolePolicyDocument)
{
    var request = new CreateRoleRequest
    {
        RoleName = roleName,
        AssumeRolePolicyDocument = rolePolicyDocument,
    };

    var response = await _IAMService.CreateRoleAsync(request);
    return response.Role.Arn;
}

/// <summary>
```

```

    /// Create an IAM service-linked role.
    /// </summary>
    /// <param name="serviceName">The name of the AWS Service.</param>
    /// <param name="description">A description of the IAM service-linked role.</
param>
    /// <returns>The IAM role that was created.</returns>
    public async Task<Role> CreateServiceLinkedRoleAsync(string serviceName, string
description)
    {
        var request = new CreateServiceLinkedRoleRequest
        {
            AWSServiceName = serviceName,
            Description = description
        };

        var response = await _IAMService.CreateServiceLinkedRoleAsync(request);
        return response.Role;
    }

    /// <summary>
    /// Create an IAM user.
    /// </summary>
    /// <param name="userName">The username for the new IAM user.</param>
    /// <returns>The IAM user that was created.</returns>
    public async Task<User> CreateUserAsync(string userName)
    {
        var response = await _IAMService.CreateUserAsync(new CreateUserRequest
{ UserName = userName });
        return response.User;
    }

    /// <summary>
    /// Delete an IAM user's access key.
    /// </summary>
    /// <param name="accessKeyId">The Id for the IAM access key.</param>
    /// <param name="userName">The username of the user that owns the IAM
    /// access key.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> DeleteAccessKeyAsync(string accessKeyId, string
userName)
    {

```

```

        var response = await _IAMService.DeleteAccessKeyAsync(new
DeleteAccessKeyRequest
        {
            AccessKeyId = accessKeyId,
            UserName = userName,
        });

        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }

    /// <summary>
    /// Delete an IAM policy.
    /// </summary>
    /// <param name="policyArn">The Amazon Resource Name (ARN) of the policy to
    /// delete.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> DeletePolicyAsync(string policyArn)
    {
        var response = await _IAMService.DeletePolicyAsync(new DeletePolicyRequest
{ PolicyArn = policyArn });
        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }

    /// <summary>
    /// Delete an IAM role.
    /// </summary>
    /// <param name="roleName">The name of the IAM role to delete.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> DeleteRoleAsync(string roleName)
    {
        var response = await _IAMService.DeleteRoleAsync(new DeleteRoleRequest
{ RoleName = roleName });
        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }

    /// <summary>
    /// Delete an IAM role policy.
    /// </summary>
    /// <param name="roleName">The name of the IAM role.</param>
    /// <param name="policyName">The name of the IAM role policy to delete.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>

```



```
public async Task<bool> DeleteRolePolicyAsync(string roleName, string
policyName)
{
    var response = await _IAMService.DeleteRolePolicyAsync(new
DeleteRolePolicyRequest
    {
        PolicyName = policyName,
        RoleName = roleName,
    });

    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}

/// <summary>
/// Delete an IAM user.
/// </summary>
/// <param name="userName">The username of the IAM user to delete.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteUserAsync(string userName)
{
    var response = await _IAMService.DeleteUserAsync(new DeleteUserRequest
{ UserName = userName });

    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}

/// <summary>
/// Delete an IAM user policy.
/// </summary>
/// <param name="policyName">The name of the IAM policy to delete.</param>
/// <param name="userName">The username of the IAM user.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteUserPolicyAsync(string policyName, string
userName)
{
    var response = await _IAMService.DeleteUserPolicyAsync(new
DeleteUserPolicyRequest { PolicyName = policyName, UserName = userName });

    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}
```

```

    /// <summary>
    /// Detach an IAM policy from an IAM role.
    /// </summary>
    /// <param name="policyArn">The Amazon Resource Name (ARN) of the IAM policy.</
param>
    /// <param name="roleName">The name of the IAM role.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> DetachRolePolicyAsync(string policyArn, string roleName)
    {
        var response = await _IAMService.DetachRolePolicyAsync(new
DetachRolePolicyRequest
        {
            PolicyArn = policyArn,
            RoleName = roleName,
        });

        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }

    /// <summary>
    /// Gets the IAM password policy for an AWS account.
    /// </summary>
    /// <returns>The PasswordPolicy for the AWS account.</returns>
    public async Task<PasswordPolicy> GetAccountPasswordPolicyAsync()
    {
        var response = await _IAMService.GetAccountPasswordPolicyAsync(new
GetAccountPasswordPolicyRequest());
        return response.PasswordPolicy;
    }

    /// <summary>
    /// Get information about an IAM policy.
    /// </summary>
    /// <param name="policyArn">The IAM policy to retrieve information for.</param>
    /// <returns>The IAM policy.</returns>
    public async Task<ManagedPolicy> GetPolicyAsync(string policyArn)
    {
        var response = await _IAMService.GetPolicyAsync(new GetPolicyRequest
{ PolicyArn = policyArn });
        return response.Policy;
    }

```

```
/// <summary>
/// Get information about an IAM role.
/// </summary>
/// <param name="roleName">The name of the IAM role to retrieve information
/// for.</param>
/// <returns>The IAM role that was retrieved.</returns>
public async Task<Role> GetRoleAsync(string roleName)
{
    var response = await _IAMService.GetRoleAsync(new GetRoleRequest
    {
        RoleName = roleName,
    });

    return response.Role;
}

/// <summary>
/// Get information about an IAM user.
/// </summary>
/// <param name="userName">The username of the user.</param>
/// <returns>An IAM user object.</returns>
public async Task<User> GetUserAsync(string userName)
{
    var response = await _IAMService.GetUserAsync(new GetUserRequest { UserName
= userName });
    return response.User;
}

/// <summary>
/// List the IAM role policies that are attached to an IAM role.
/// </summary>
/// <param name="roleName">The IAM role to list IAM policies for.</param>
/// <returns>A list of the IAM policies attached to the IAM role.</returns>
public async Task<List<AttachedPolicyType>> ListAttachedRolePoliciesAsync(string
roleName)
{
    var attachedPolicies = new List<AttachedPolicyType>();
    var attachedRolePoliciesPaginator =
_IAMService.Paginators.ListAttachedRolePolicies(new ListAttachedRolePoliciesRequest
{ RoleName = roleName });
```

```
        await foreach (var response in attachedRolePoliciesPaginator.Responses)
        {
            attachedPolicies.AddRange(response.AttachedPolicies);
        }

        return attachedPolicies;
    }

    /// <summary>
    /// List IAM groups.
    /// </summary>
    /// <returns>A list of IAM groups.</returns>
    public async Task<List<Group>> ListGroupsAsync()
    {
        var groupsPaginator = _IAMService.Paginators.ListGroups(new
ListGroupsRequest());
        var groups = new List<Group>();

        await foreach (var response in groupsPaginator.Responses)
        {
            groups.AddRange(response.Groups);
        }

        return groups;
    }

    /// <summary>
    /// List IAM policies.
    /// </summary>
    /// <returns>A list of the IAM policies.</returns>
    public async Task<List<ManagedPolicy>> ListPoliciesAsync()
    {
        var listPoliciesPaginator = _IAMService.Paginators.ListPolicies(new
ListPoliciesRequest());
        var policies = new List<ManagedPolicy>();

        await foreach (var response in listPoliciesPaginator.Responses)
        {
            policies.AddRange(response.Policies);
        }
    }
}
```

```
        return policies;
    }

    /// <summary>
    /// List IAM role policies.
    /// </summary>
    /// <param name="roleName">The IAM role for which to list IAM policies.</param>
    /// <returns>A list of IAM policy names.</returns>
    public async Task<List<string>> ListRolePoliciesAsync(string roleName)
    {
        var listRolePoliciesPaginator = _IAMService.Paginators.ListRolePolicies(new
ListRolePoliciesRequest { RoleName = roleName });
        var policyNames = new List<string>();

        await foreach (var response in listRolePoliciesPaginator.Responses)
        {
            policyNames.AddRange(response.PolicyNames);
        }

        return policyNames;
    }

    /// <summary>
    /// List IAM roles.
    /// </summary>
    /// <returns>A list of IAM roles.</returns>
    public async Task<List<Role>> ListRolesAsync()
    {
        var listRolesPaginator = _IAMService.Paginators.ListRoles(new
ListRolesRequest());
        var roles = new List<Role>();

        await foreach (var response in listRolesPaginator.Responses)
        {
            roles.AddRange(response.Roles);
        }

        return roles;
    }

    /// <summary>
```

```

    /// List SAML authentication providers.
    /// </summary>
    /// <returns>A list of SAML providers.</returns>
    public async Task<List<SAMLProviderListEntry>> ListSAMLProvidersAsync()
    {
        var response = await _IAMService.ListSAMLProvidersAsync(new
ListSAMLProvidersRequest());
        return response.SAMLProviderList;
    }

    /// <summary>
    /// List IAM users.
    /// </summary>
    /// <returns>A list of IAM users.</returns>
    public async Task<List<User>> ListUsersAsync()
    {
        var listUsersPaginator = _IAMService.Paginators.ListUsers(new
ListUsersRequest());
        var users = new List<User>();

        await foreach (var response in listUsersPaginator.Responses)
        {
            users.AddRange(response.Users);
        }

        return users;
    }

    /// <summary>
    /// Update the inline policy document embedded in a role.
    /// </summary>
    /// <param name="policyName">The name of the policy to embed.</param>
    /// <param name="roleName">The name of the role to update.</param>
    /// <param name="policyDocument">The policy document that defines the role.</
param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> PutRolePolicyAsync(string policyName, string roleName,
string policyDocument)
    {
        var request = new PutRolePolicyRequest
        {
            PolicyName = policyName,

```

```

        RoleName = roleName,
        PolicyDocument = policyDocument
    };

    var response = await _IAMService.PutRolePolicyAsync(request);
    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}

/// <summary>
/// Add or update an inline policy document that is embedded in an IAM user.
/// </summary>
/// <param name="userName">The name of the IAM user.</param>
/// <param name="policyName">The name of the IAM policy.</param>
/// <param name="policyDocument">The policy document defining the IAM policy.</
param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> PutUserPolicyAsync(string userName, string policyName,
string policyDocument)
{
    var request = new PutUserPolicyRequest
    {
        UserName = userName,
        PolicyName = policyName,
        PolicyDocument = policyDocument
    };

    var response = await _IAMService.PutUserPolicyAsync(request);
    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}

/// <summary>
/// Wait for a new access key to be ready to use.
/// </summary>
/// <param name="accessKeyId">The Id of the access key.</param>
/// <returns>A boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> WaitUntilAccessKeyIsReady(string accessKeyId)
{
    var keyReady = false;

    do
    {
        try
        {

```

```

        var response = await _IAMService.GetAccessKeyLastUsedAsync(
            new GetAccessKeyLastUsedRequest { AccessKeyId = accessKeyId });
        if (response.UserName is not null)
        {
            keyReady = true;
        }
    }
    catch (NoSuchEntityException)
    {
        keyReady = false;
    }
} while (!keyReady);

return keyReady;
}
}

using Microsoft.Extensions.Configuration;

namespace IAMBasics;

public class IAMBasics
{
    private static ILogger logger = null!;

    static async Task Main(string[] args)
    {
        // Set up dependency injection for the AWS service.
        using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
            .ConfigureLogging(logging =>
                logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
                    .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
LogLevel.Information)
                        .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
            .ConfigureServices((_, services) =>
                services.AddAWSService<IAmazonIdentityManagementService>()
                    .AddTransient<IAMWrapper>()
                    .AddTransient<UIWrapper>()
                )
            .Build();

        logger = LoggerFactory.Create(builder => { builder.AddConsole(); })

```



```

        .CreateLogger<IAMBasics>());

IConfiguration configuration = new ConfigurationBuilder()
    .SetBasePath(Directory.GetCurrentDirectory())
    .AddJsonFile("settings.json") // Load test settings from .json file.
    .AddJsonFile("settings.local.json",
        true) // Optionally load local settings.
    .Build();

// Values needed for user, role, and policies.
string userName = configuration["UserName"]!;
string s3PolicyName = configuration["S3PolicyName"]!;
string roleName = configuration["RoleName"]!;

var iamWrapper = host.Services.GetRequiredService<IAMWrapper>();
var uiWrapper = host.Services.GetRequiredService<UIWrapper>();

uiWrapper.DisplayBasicsOverview();
uiWrapper.PressEnter();

// First create a user. By default, the new user has
// no permissions.
uiWrapper.DisplayTitle("Create User");
Console.WriteLine($"Creating a new user with user name: {userName}.");
var user = await iamWrapper.CreateUserAsync(userName);
var userArn = user.Arn;

Console.WriteLine($"Successfully created user: {userName} with ARN:
{userArn}.");
uiWrapper.WaitABit(15, "Now let's wait for the user to be ready for use.");

// Define a role policy document that allows the new user
// to assume the role.
string assumeRolePolicyDocument = "{" +
    "\"Version\": \"2012-10-17\", " +
    "\"Statement\": [{" +
        "\"Effect\": \"Allow\", " +
        "\"Principal\": {" +
            "\"AWS\": \"{userArn}\" " +
        "}, " +
        "\"Action\": \"sts:AssumeRole\" " +
    "}]}" +

```

```

    "});

    // Permissions to list all buckets.
    string policyDocument = "{" +
        "\"Version\": \"2012-10-17\", \" +
        \"Statement\" : [{" +
            \"Action\" : [\"s3:ListAllMyBuckets\"], \" +
            \"Effect\" : \"Allow\", \" +
            \"Resource\" : \"*\" +
        "}]\" +
    "};

    // Create an AccessKey for the user.
    uiWrapper.DisplayTitle("Create access key");
    Console.WriteLine("Now let's create an access key for the new user.");
    var accessKey = await iamWrapper.CreateAccessKeyAsync(userName);

    var accessKeyId = accessKey.AccessKeyId;
    var secretAccessKey = accessKey.SecretAccessKey;

    Console.WriteLine($"We have created the access key with Access key id: {accessKeyId}.");

    Console.WriteLine("Now let's wait until the IAM access key is ready to use.");
    var keyReady = await iamWrapper.WaitUntilAccessKeyIsReady(accessKeyId);

    // Now try listing the Amazon Simple Storage Service (Amazon S3)
    // buckets. This should fail at this point because the user doesn't
    // have permissions to perform this task.
    uiWrapper.DisplayTitle("Try to display Amazon S3 buckets");
    Console.WriteLine("Now let's try to display a list of the user's Amazon S3 buckets.");
    var s3Client1 = new AmazonS3Client(accessKeyId, secretAccessKey);
    var stsClient1 = new AmazonSecurityTokenServiceClient(accessKeyId, secretAccessKey);

    var s3Wrapper = new S3Wrapper(s3Client1, stsClient1);
    var buckets = await s3Wrapper.ListMyBucketsAsync();

    Console.WriteLine(buckets is null
        ? "As expected, the call to list the buckets has returned a null list."
        : "Something went wrong. This shouldn't have worked.");

```

```
uiWrapper.PressEnter();

uiWrapper.DisplayTitle("Create IAM role");
Console.WriteLine($"Creating the role: {roleName}");

// Creating an IAM role to allow listing the S3 buckets. A role name
// is not case sensitive and must be unique to the account for which it
// is created.
var roleArn = await iamWrapper.CreateRoleAsync(roleName,
assumeRolePolicyDocument);

uiWrapper.PressEnter();

// Create a policy with permissions to list S3 buckets.
uiWrapper.DisplayTitle("Create IAM policy");
Console.WriteLine($"Creating the policy: {s3PolicyName}");
Console.WriteLine("with permissions to list the Amazon S3 buckets for the
account.");
var policy = await iamWrapper.CreatePolicyAsync(s3PolicyName,
policyDocument);

// Wait 15 seconds for the IAM policy to be available.
uiWrapper.WaitABit(15, "Waiting for the policy to be available.");

// Attach the policy to the role you created earlier.
uiWrapper.DisplayTitle("Attach new IAM policy");
Console.WriteLine("Now let's attach the policy to the role.");
await iamWrapper.AttachRolePolicyAsync(policy.Arn, roleName);

// Wait 15 seconds for the role to be updated.
Console.WriteLine();
uiWrapper.WaitABit(15, "Waiting for the policy to be attached.");

// Use the AWS Security Token Service (AWS STS) to have the user
// assume the role we created.
var stsClient2 = new AmazonSecurityTokenServiceClient(accessKeyId,
secretAccessKey);

// Wait for the new credentials to become valid.
uiWrapper.WaitABit(10, "Waiting for the credentials to be valid.");

var assumedRoleCredentials = await s3Wrapper.AssumeS3RoleAsync("temporary-
session", roleArn);
```

```
// Try again to list the buckets using the client created with
// the new user's credentials. This time, it should work.
var s3Client2 = new AmazonS3Client(assumedRoleCredentials);

s3Wrapper.UpdateClients(s3Client2, stsClient2);

buckets = await s3Wrapper.ListMyBucketsAsync();

uiWrapper.DisplayTitle("List Amazon S3 buckets");
Console.WriteLine("This time we should have buckets to list.");
if (buckets is not null)
{
    buckets.ForEach(bucket =>
    {
        Console.WriteLine($"{bucket.BucketName} created:
{bucket.CreationDate}");
    });
}

uiWrapper.PressEnter();

// Now clean up all the resources used in the example.
uiWrapper.DisplayTitle("Clean up resources");
Console.WriteLine("Thank you for watching. The IAM Basics demo is
complete.");
Console.WriteLine("Please wait while we clean up the resources we
created.");

await iamWrapper.DetachRolePolicyAsync(policy.Arn, roleName);

await iamWrapper.DeletePolicyAsync(policy.Arn);

await iamWrapper.DeleteRoleAsync(roleName);

await iamWrapper.DeleteAccessKeyAsync(accessKeyId, userName);

await iamWrapper.DeleteUserAsync(userName);

uiWrapper.PressEnter();

Console.WriteLine("All done cleaning up our resources. Thank you for your
patience.");
}
}
```

```
namespace IamScenariosCommon;

using System.Net;

/// <summary>
/// A class to perform Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) actions for
/// the IAM Basics scenario.
/// </summary>
public class S3Wrapper
{
    private IAmazonS3 _s3Service;
    private IAmazonSecurityTokenService _stsService;

    /// <summary>
    /// Constructor for the S3Wrapper class.
    /// </summary>
    /// <param name="s3Service">An Amazon S3 client object.</param>
    /// <param name="stsService">An AWS Security Token Service (AWS STS)
    /// client object.</param>
    public S3Wrapper(IAmazonS3 s3Service, IAmazonSecurityTokenService stsService)
    {
        _s3Service = s3Service;
        _stsService = stsService;
    }

    /// <summary>
    /// Assumes an AWS Identity and Access Management (IAM) role that allows
    /// Amazon S3 access for the current session.
    /// </summary>
    /// <param name="roleSession">A string representing the current session.</param>
    /// <param name="roleToAssume">The name of the IAM role to assume.</param>
    /// <returns>Credentials for the newly assumed IAM role.</returns>
    public async Task<Credentials> AssumeS3RoleAsync(string roleSession, string
roleToAssume)
    {
        // Create the request to use with the AssumeRoleAsync call.
        var request = new AssumeRoleRequest()
        {
            RoleSessionName = roleSession,
            RoleArn = roleToAssume,
        };
    }
}
```

```
        var response = await _stsService.AssumeRoleAsync(request);

        return response.Credentials;
    }

    /// <summary>
    /// Delete an S3 bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="bucketName">Name of the S3 bucket to delete.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> DeleteBucketAsync(string bucketName)
    {
        var result = await _s3Service.DeleteBucketAsync(new DeleteBucketRequest
        { BucketName = bucketName });
        return result.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }

    /// <summary>
    /// List the buckets that are owned by the user's account.
    /// </summary>
    /// <returns>Async Task.</returns>
    public async Task<List<S3Bucket>?> ListMyBucketsAsync()
    {
        try
        {
            // Get the list of buckets accessible by the new user.
            var response = await _s3Service.ListBucketsAsync();

            return response.Buckets;
        }
        catch (AmazonS3Exception ex)
        {
            // Something else went wrong. Display the error message.
            Console.WriteLine($"Error: {ex.Message}");
            return null;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Create a new S3 bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="bucketName">The name for the new bucket.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating whether the action completed
```

```

    /// successfully.</returns>
    public async Task<bool> PutBucketAsync(string bucketName)
    {
        var response = await _s3Service.PutBucketAsync(new PutBucketRequest
        { BucketName = bucketName });
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }

    /// <summary>
    /// Update the client objects with new client objects. This is available
    /// because the scenario uses the methods of this class without and then
    /// with the proper permissions to list S3 buckets.
    /// </summary>
    /// <param name="s3Service">The Amazon S3 client object.</param>
    /// <param name="stsService">The AWS STS client object.</param>
    public void UpdateClients(IAmazonS3 s3Service, IAmazonSecurityTokenService
stsService)
    {
        _s3Service = s3Service;
        _stsService = stsService;
    }
}

namespace IamScenariosCommon;

public class UIWrapper
{
    public readonly string SepBar = new('-', Console.WindowWidth);

    /// <summary>
    /// Show information about the IAM Groups scenario.
    /// </summary>
    public void DisplayGroupsOverview()
    {
        Console.Clear();

        DisplayTitle("Welcome to the IAM Groups Demo");
        Console.WriteLine("This example application does the following:");
        Console.WriteLine("\t1. Creates an Amazon Identity and Access Management
(IAM) group.");
        Console.WriteLine("\t2. Adds an IAM policy to the IAM group giving it full
access to Amazon S3.");
        Console.WriteLine("\t3. Creates a new IAM user.");
    }
}

```

```

        Console.WriteLine("\t4. Creates an IAM access key for the user.");
        Console.WriteLine("\t5. Adds the user to the IAM group.");
        Console.WriteLine("\t6. Lists the buckets on the account.");
        Console.WriteLine("\t7. Proves that the user has full Amazon S3 access by
creating a bucket.");
        Console.WriteLine("\t8. List the buckets again to show the new bucket.");
        Console.WriteLine("\t9. Cleans up all the resources created.");
    }

    /// <summary>
    /// Show information about the IAM Basics scenario.
    /// </summary>
    public void DisplayBasicsOverview()
    {
        Console.Clear();

        DisplayTitle("Welcome to IAM Basics");
        Console.WriteLine("This example application does the following:");
        Console.WriteLine("\t1. Creates a user with no permissions.");
        Console.WriteLine("\t2. Creates a role and policy that grant
s3:ListAllMyBuckets permission.");
        Console.WriteLine("\t3. Grants the user permission to assume the role.");
        Console.WriteLine("\t4. Creates an S3 client object as the user and tries to
list buckets (this will fail).");
        Console.WriteLine("\t5. Gets temporary credentials by assuming the role.");
        Console.WriteLine("\t6. Creates a new S3 client object with the temporary
credentials and lists the buckets (this will succeed).");
        Console.WriteLine("\t7. Deletes all the resources.");
    }

    /// <summary>
    /// Display a message and wait until the user presses enter.
    /// </summary>
    public void PressEnter()
    {
        Console.Write("\nPress <Enter> to continue. ");
        _ = Console.ReadLine();
        Console.WriteLine();
    }

    /// <summary>
    /// Pad a string with spaces to center it on the console display.
    /// </summary>
    /// <param name="strToCenter">The string to be centered.</param>

```



```
/// <returns>The padded string.</returns>
public string CenterString(string strToCenter)
{
    var padAmount = (Console.WindowWidth - strToCenter.Length) / 2;
    var leftPad = new string(' ', padAmount);
    return $"{leftPad}{strToCenter}";
}

/// <summary>
/// Display a line of hyphens, the centered text of the title, and another
/// line of hyphens.
/// </summary>
/// <param name="strTitle">The string to be displayed.</param>
public void DisplayTitle(string strTitle)
{
    Console.WriteLine(SepBar);
    Console.WriteLine(CenterString(strTitle));
    Console.WriteLine(SepBar);
}

/// <summary>
/// Display a countdown and wait for a number of seconds.
/// </summary>
/// <param name="numSeconds">The number of seconds to wait.</param>
public void WaitABit(int numSeconds, string msg)
{
    Console.WriteLine(msg);

    // Wait for the requested number of seconds.
    for (int i = numSeconds; i > 0; i--)
    {
        System.Threading.Thread.Sleep(1000);
        Console.Write($"{i}...");
    }

    PressEnter();
}
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。

- [AttachRolePolicy](#)
- [CreateAccessKey](#)
- [CreatePolicy](#)
- [CreateRole](#)
- [CreateUser](#)
- [DeleteAccessKey](#)
- [DeletePolicy](#)
- [DeleteRole](#)
- [DeleteUser](#)
- [DeleteUserPolicy](#)
- [DetachRolePolicy](#)
- [PutUserPolicy](#)

アクション

AttachRolePolicy

次のコード例は、AttachRolePolicy を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Attach an IAM policy to a role.
/// </summary>
/// <param name="policyArn">The policy to attach.</param>
/// <param name="roleName">The role that the policy will be attached to.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> AttachRolePolicyAsync(string policyArn, string roleName)
{
```

```
var response = await _IAMService.AttachRolePolicyAsync(new
AttachRolePolicyRequest
{
    PolicyArn = policyArn,
    RoleName = roleName,
});

return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[AttachRolePolicy](#)」を参照してください。

CreateAccessKey

次のコード例は、CreateAccessKey を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Create an IAM access key for a user.
/// </summary>
/// <param name="userName">The username for which to create the IAM access
/// key.</param>
/// <returns>The AccessKey.</returns>
public async Task<AccessKey> CreateAccessKeyAsync(string userName)
{
    var response = await _IAMService.CreateAccessKeyAsync(new
CreateAccessKeyRequest
{
    UserName = userName,
});
}
```

```
        return response.AccessKey;
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateAccessKey](#)」を参照してください。

CreateInstanceProfile

次のコード例は、CreateInstanceProfile を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Create a policy, role, and profile that is associated with instances with a
specified name.
/// An instance's associated profile defines a role that is assumed by the
/// instance. The role has attached policies that specify the AWS permissions
granted to
/// clients that run on the instance.
/// </summary>
/// <param name="policyName">Name to use for the policy.</param>
/// <param name="roleName">Name to use for the role.</param>
/// <param name="profileName">Name to use for the profile.</param>
/// <param name="ssmOnlyPolicyFile">Path to a policy file for SSM.</param>
/// <param name="awsManagedPolicies">AWS Managed policies to be attached to the
role.</param>
/// <returns>The Arn of the profile.</returns>
public async Task<string> CreateInstanceProfileWithName(
    string policyName,
    string roleName,
    string profileName,
    string ssmOnlyPolicyFile,
```

```

List<string>? awsManagedPolicies = null)
{

    var assumeRoleDoc = "{" +
        "\"Version\": \"2012-10-17\", \" +
        "\"Statement\": [{\" +
            \"Effect\": \"Allow\", \" +
            \"Principal\": {\" +
            \"Service\": [\" +
                \"ec2.amazonaws.com\"\" +
            "]" +
            \"}, \" +
        "\"Action\": \"sts:AssumeRole\"\" +
        \"}]" +
    "};

    var policyDocument = await File.ReadAllTextAsync(ssmOnlyPolicyFile);

    var policyArn = "";

    try
    {
        var createPolicyResult = await _amazonIam.CreatePolicyAsync(
            new CreatePolicyRequest
            {
                PolicyName = policyName,
                PolicyDocument = policyDocument
            });
        policyArn = createPolicyResult.Policy.Arn;
    }
    catch (EntityAlreadyExistsException)
    {
        // The policy already exists, so we look it up to get the Arn.
        var policiesPaginator = _amazonIam.Paginators.ListPolicies(
            new ListPoliciesRequest()
            {
                Scope = PolicyScopeType.Local
            });
        // Get the entire list using the paginator.
        await foreach (var policy in policiesPaginator.Policies)
        {
            if (policy.PolicyName.Equals(policyName))
            {
                policyArn = policy.Arn;
            }
        }
    }
}

```

```

        }
    }

    if (policyArn == null)
    {
        throw new InvalidOperationException("Policy not found");
    }
}

try
{
    await _amazonIam.CreateRoleAsync(new CreateRoleRequest()
    {
        RoleName = roleName,
        AssumeRolePolicyDocument = assumeRoleDoc,
    });
    await _amazonIam.AttachRolePolicyAsync(new AttachRolePolicyRequest()
    {
        RoleName = roleName,
        PolicyArn = policyArn
    });
    if (awsManagedPolicies != null)
    {
        foreach (var awsPolicy in awsManagedPolicies)
        {
            await _amazonIam.AttachRolePolicyAsync(new
AttachRolePolicyRequest()
            {
                PolicyArn = $"arn:aws:iam::aws:policy/{awsPolicy}",
                RoleName = roleName
            });
        }
    }
}
catch (EntityAlreadyExistsException)
{
    Console.WriteLine("Role already exists.");
}

string profileArn = "";
try
{
    var profileCreateResponse = await _amazonIam.CreateInstanceProfileAsync(
        new CreateInstanceProfileRequest()

```

```
        {
            InstanceProfileName = profileName
        });
        // Allow time for the profile to be ready.
        profileArn = profileCreateResponse.InstanceProfile.Arn;
        Thread.Sleep(10000);
        await _amazonIam.AddRoleToInstanceProfileAsync(
            new AddRoleToInstanceProfileRequest()
            {
                InstanceProfileName = profileName,
                RoleName = roleName
            });
    }
    catch (EntityAlreadyExistsException)
    {
        Console.WriteLine("Policy already exists.");
        var profileGetResponse = await _amazonIam.GetInstanceProfileAsync(
            new GetInstanceProfileRequest()
            {
                InstanceProfileName = profileName
            });
        profileArn = profileGetResponse.InstanceProfile.Arn;
    }
    return profileArn;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CreateInstanceProfile](#)」を参照してください。

CreatePolicy

次のコード例は、CreatePolicy を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Create an IAM policy.
/// </summary>
/// <param name="policyName">The name to give the new IAM policy.</param>
/// <param name="policyDocument">The policy document for the new policy.</param>
/// <returns>The new IAM policy object.</returns>
public async Task<ManagedPolicy> CreatePolicyAsync(string policyName, string
policyDocument)
{
    var response = await _IAMService.CreatePolicyAsync(new CreatePolicyRequest
    {
        PolicyDocument = policyDocument,
        PolicyName = policyName,
    });

    return response.Policy;
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreatePolicy](#)」を参照してください。

CreateRole

次のコード例は、CreateRole を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Create a new IAM role.
/// </summary>
/// <param name="roleName">The name of the IAM role.</param>
/// <param name="rolePolicyDocument">The name of the IAM policy document
/// for the new role.</param>
```



```

    /// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the role.</returns>
    public async Task<string> CreateRoleAsync(string roleName, string
rolePolicyDocument)
    {
        var request = new CreateRoleRequest
        {
            RoleName = roleName,
            AssumeRolePolicyDocument = rolePolicyDocument,
        };

        var response = await _IAMService.CreateRoleAsync(request);
        return response.Role.Arn;
    }

```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateRole](#)」を参照してください。

CreateServiceLinkedRole

次のコード例は、CreateServiceLinkedRole を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

    /// <summary>
    /// Create an IAM service-linked role.
    /// </summary>
    /// <param name="serviceName">The name of the AWS Service.</param>
    /// <param name="description">A description of the IAM service-linked role.</
param>
    /// <returns>The IAM role that was created.</returns>
    public async Task<Role> CreateServiceLinkedRoleAsync(string serviceName, string
description)
    {

```

```
var request = new CreateServiceLinkedRoleRequest
{
    AWSServiceName = serviceName,
    Description = description
};

var response = await _IAMService.CreateServiceLinkedRoleAsync(request);
return response.Role;
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CreateServiceLinkedRole](#)」を参照してください。

CreateUser

次のコード例は、CreateUser を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Create an IAM user.
/// </summary>
/// <param name="userName">The username for the new IAM user.</param>
/// <returns>The IAM user that was created.</returns>
public async Task<User> CreateUserAsync(string userName)
{
    var response = await _IAMService.CreateUserAsync(new CreateUserRequest
    { UserName = userName });
    return response.User;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateUser](#)」を参照してください。

DeleteAccessKey

次のコード例は、DeleteAccessKey を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete an IAM user's access key.
/// </summary>
/// <param name="accessKeyId">The Id for the IAM access key.</param>
/// <param name="userName">The username of the user that owns the IAM
/// access key.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteAccessKeyAsync(string accessKeyId, string
userName)
{
    var response = await _IAMService.DeleteAccessKeyAsync(new
DeleteAccessKeyRequest
    {
        AccessKeyId = accessKeyId,
        UserName = userName,
    });

    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteAccessKey](#)」を参照してください。

DeleteInstanceProfile

次のコード例は、DeleteInstanceProfile を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Detaches a role from an instance profile, detaches policies from the role,
/// and deletes all the resources.
/// </summary>
/// <param name="profileName">The name of the profile to delete.</param>
/// <param name="roleName">The name of the role to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task DeleteInstanceProfile(string profileName, string roleName)
{
    try
    {
        await _amazonIam.RemoveRoleFromInstanceProfileAsync(
            new RemoveRoleFromInstanceProfileRequest()
            {
                InstanceProfileName = profileName,
                RoleName = roleName
            });
        await _amazonIam.DeleteInstanceProfileAsync(
            new DeleteInstanceProfileRequest() { InstanceProfileName =
profileName });
        var attachedPolicies = await _amazonIam.ListAttachedRolePoliciesAsync(
            new ListAttachedRolePoliciesRequest() { RoleName = roleName });
        foreach (var policy in attachedPolicies.AttachedPolicies)
        {
            await _amazonIam.DetachRolePolicyAsync(
                new DetachRolePolicyRequest()
                {
                    RoleName = roleName,
                    PolicyArn = policy.PolicyArn
                });
            // Delete the custom policies only.
        }
    }
}
```

```
        if (!policy.PolicyArn.StartsWith("arn:aws:iam::aws"))
        {
            await _amazonIam.DeletePolicyAsync(
                new Amazon.IdentityManagement.Model.DeletePolicyRequest()
                {
                    PolicyArn = policy.PolicyArn
                });
        }

        await _amazonIam.DeleteRoleAsync(
            new DeleteRoleRequest() { RoleName = roleName });
    }
    catch (NoSuchEntityException)
    {
        Console.WriteLine($"Instance profile {profileName} does not exist.");
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeleteInstanceProfile](#)」を参照してください。

DeletePolicy

次のコード例は、DeletePolicy を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete an IAM policy.
/// </summary>
/// <param name="policyArn">The Amazon Resource Name (ARN) of the policy to
/// delete.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
```

```
public async Task<bool> DeletePolicyAsync(string policyArn)
{
    var response = await _IAMService.DeletePolicyAsync(new DeletePolicyRequest
    { PolicyArn = policyArn });
    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeletePolicy](#)」を参照してください。

DeleteRole

次のコード例は、DeleteRole を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete an IAM role.
/// </summary>
/// <param name="roleName">The name of the IAM role to delete.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteRoleAsync(string roleName)
{
    var response = await _IAMService.DeleteRoleAsync(new DeleteRoleRequest
    { RoleName = roleName });
    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeleteRole](#)」を参照してください。

DeleteRolePolicy

次のコード例は、DeleteRolePolicy を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete an IAM role policy.
/// </summary>
/// <param name="roleName">The name of the IAM role.</param>
/// <param name="policyName">The name of the IAM role policy to delete.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteRolePolicyAsync(string roleName, string
policyName)
{
    var response = await _IAMService.DeleteRolePolicyAsync(new
DeleteRolePolicyRequest
    {
        PolicyName = policyName,
        RoleName = roleName,
    });

    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeleteRolePolicy](#)」を参照してください。

DeleteUser

次のコード例は、DeleteUser を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete an IAM user.
/// </summary>
/// <param name="userName">The username of the IAM user to delete.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteUserAsync(string userName)
{
    var response = await _IAMService.DeleteUserAsync(new DeleteUserRequest
    { UserName = userName });

    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteUser](#)」を参照してください。

DeleteUserPolicy

次のコード例は、DeleteUserPolicy を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete an IAM user policy.
```



```

    /// </summary>
    /// <param name="policyName">The name of the IAM policy to delete.</param>
    /// <param name="userName">The username of the IAM user.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> DeleteUserPolicyAsync(string policyName, string
userName)
    {
        var response = await _IAMService.DeleteUserPolicyAsync(new
DeleteUserPolicyRequest { PolicyName = policyName, UserName = userName });

        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }

```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteUserPolicy](#)」を参照してください。

DetachRolePolicy

次のコード例は、DetachRolePolicy を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

    /// <summary>
    /// Detach an IAM policy from an IAM role.
    /// </summary>
    /// <param name="policyArn">The Amazon Resource Name (ARN) of the IAM policy.</
param>
    /// <param name="roleName">The name of the IAM role.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> DetachRolePolicyAsync(string policyArn, string roleName)
    {
        var response = await _IAMService.DetachRolePolicyAsync(new
DetachRolePolicyRequest

```

```
{
    PolicyArn = policyArn,
    RoleName = roleName,
});

return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DetachRolePolicy](#)」を参照してください。

GetAccountPasswordPolicy

次のコード例は、GetAccountPasswordPolicy を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Gets the IAM password policy for an AWS account.
/// </summary>
/// <returns>The PasswordPolicy for the AWS account.</returns>
public async Task<PasswordPolicy> GetAccountPasswordPolicyAsync()
{
    var response = await _IAMService.GetAccountPasswordPolicyAsync(new
    GetAccountPasswordPolicyRequest());
    return response.PasswordPolicy;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[GetAccountPasswordPolicy](#)」を参照してください。

GetPolicy

次のコード例は、GetPolicy を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get information about an IAM policy.
/// </summary>
/// <param name="policyArn">The IAM policy to retrieve information for.</param>
/// <returns>The IAM policy.</returns>
public async Task<ManagedPolicy> GetPolicyAsync(string policyArn)
{
    var response = await _IAMService.GetPolicyAsync(new GetPolicyRequest
    { PolicyArn = policyArn });
    return response.Policy;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetPolicy](#)」を参照してください。

GetRole

次のコード例は、GetRole を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get information about an IAM role.
/// </summary>
/// <param name="roleName">The name of the IAM role to retrieve information
/// for.</param>
/// <returns>The IAM role that was retrieved.</returns>
public async Task<Role> GetRoleAsync(string roleName)
{
    var response = await _IAMService.GetRoleAsync(new GetRoleRequest
    {
        RoleName = roleName,
    });

    return response.Role;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[GetRole](#)」を参照してください。

GetUser

次のコード例は、GetUser を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get information about an IAM user.
/// </summary>
/// <param name="userName">The username of the user.</param>
/// <returns>An IAM user object.</returns>
public async Task<User> GetUserAsync(string userName)
{

```

```
var response = await _IAMService.GetUserAsync(new GetUserRequest { UserName
= userName });
return response.User;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[GetUser](#)」を参照してください。

ListAttachedRolePolicies

次のコード例は、ListAttachedRolePolicies を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List the IAM role policies that are attached to an IAM role.
/// </summary>
/// <param name="roleName">The IAM role to list IAM policies for.</param>
/// <returns>A list of the IAM policies attached to the IAM role.</returns>
public async Task<List<AttachedPolicyType>> ListAttachedRolePoliciesAsync(string
roleName)
{
    var attachedPolicies = new List<AttachedPolicyType>();
    var attachedRolePoliciesPaginator =
_IAMService.Paginators.ListAttachedRolePolicies(new ListAttachedRolePoliciesRequest
{ RoleName = roleName });

    await foreach (var response in attachedRolePoliciesPaginator.Responses)
    {
        attachedPolicies.AddRange(response.AttachedPolicies);
    }

    return attachedPolicies;
}
```

```
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListAttachedRolePolicies](#)」を参照してください。

ListGroups

次のコード例は、ListGroups を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List IAM groups.
/// </summary>
/// <returns>A list of IAM groups.</returns>
public async Task<List<Group>> ListGroupsAsync()
{
    var groupsPaginator = _IAMService.Paginators.ListGroups(new
ListGroupsRequest());
    var groups = new List<Group>();

    await foreach (var response in groupsPaginator.Responses)
    {
        groups.AddRange(response.Groups);
    }

    return groups;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListGroup](#)」を参照してください。

ListPolicies

次のコード例は、ListPolicies を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List IAM policies.
/// </summary>
/// <returns>A list of the IAM policies.</returns>
public async Task<List<ManagedPolicy>> ListPoliciesAsync()
{
    var listPoliciesPaginator = _IAMService.Paginators.ListPolicies(new
ListPoliciesRequest());
    var policies = new List<ManagedPolicy>();

    await foreach (var response in listPoliciesPaginator.Responses)
    {
        policies.AddRange(response.Policies);
    }

    return policies;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListPolicies](#)」を参照してください。

ListRolePolicies

次のコード例は、ListRolePolicies を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List IAM role policies.
/// </summary>
/// <param name="roleName">The IAM role for which to list IAM policies.</param>
/// <returns>A list of IAM policy names.</returns>
public async Task<List<string>> ListRolePoliciesAsync(string roleName)
{
    var listRolePoliciesPaginator = _IAMService.Paginators.ListRolePolicies(new
ListRolePoliciesRequest { RoleName = roleName });
    var policyNames = new List<string>();

    await foreach (var response in listRolePoliciesPaginator.Responses)
    {
        policyNames.AddRange(response.PolicyNames);
    }

    return policyNames;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListRolePolicies](#)」を参照してください。

ListRoles

次のコード例は、ListRoles を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List IAM roles.
/// </summary>
/// <returns>A list of IAM roles.</returns>
public async Task<List<Role>> ListRolesAsync()
{
    var listRolesPaginator = _IAMService.Paginators.ListRoles(new
ListRolesRequest());
    var roles = new List<Role>();

    await foreach (var response in listRolesPaginator.Responses)
    {
        roles.AddRange(response.Roles);
    }

    return roles;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListRoles](#)」を参照してください。

ListSAMLProviders

次のコード例は、ListSAMLProviders を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List SAML authentication providers.
/// </summary>
/// <returns>A list of SAML providers.</returns>
public async Task<List<SAMLProviderListEntry>> ListSAMLProvidersAsync()
{
    var response = await _IAMService.ListSAMLProvidersAsync(new
ListSAMLProvidersRequest());
    return response.SAMLProviderList;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListSAMLProviders](#)」を参照してください。

ListUsers

次のコード例は、ListUsers を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List IAM users.
/// </summary>
/// <returns>A list of IAM users.</returns>
```

```
public async Task<List<User>> ListUsersAsync()
{
    var listUsersPaginator = _IAMService.Paginators.ListUsers(new
ListUsersRequest());
    var users = new List<User>();

    await foreach (var response in listUsersPaginator.Responses)
    {
        users.AddRange(response.Users);
    }

    return users;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListUsers](#)」を参照してください。

PutRolePolicy

次のコード例は、PutRolePolicy を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Update the inline policy document embedded in a role.
/// </summary>
/// <param name="policyName">The name of the policy to embed.</param>
/// <param name="roleName">The name of the role to update.</param>
/// <param name="policyDocument">The policy document that defines the role.</
param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> PutRolePolicyAsync(string policyName, string roleName,
string policyDocument)
```

```
{
    var request = new PutRolePolicyRequest
    {
        PolicyName = policyName,
        RoleName = roleName,
        PolicyDocument = policyDocument
    };

    var response = await _IAMService.PutRolePolicyAsync(request);
    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[PutRolePolicy](#)」を参照してください。

シナリオ

レジリエントなサービスの構築と管理

次のコード例は、本、映画、曲のレコメンデーションを返す負荷分散型ウェブサービスの作成方法を示しています。この例は、障害に対するサービスの対応方法と、障害発生時の耐障害性を高めるためにサービスを再構築する方法を示しています。

- Amazon EC2 Auto Scaling グループを使用して、起動テンプレートに基づいて Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスを作成し、インスタンス数を所定の範囲内に維持します。
- Elastic Load Balancing で HTTP リクエストを処理して配信します。
- Auto Scaling グループ内のインスタンスの状態を監視し、正常なインスタンスにのみリクエストを転送します。
- 各 EC2 インスタンスで Python ウェブサーバーを実行して HTTP リクエストを処理します。ウェブサーバーはレコメンデーションとヘルスチェックを返します。
- Amazon DynamoDB テーブルを使用してレコメンデーションサービスをシミュレートできます。
- AWS Systems Manager パラメータを更新して、リクエストとヘルスチェックに対するウェブサーバーの応答を制御します。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

コマンドプロンプトからインタラクティブなシナリオを実行します。

```
static async Task Main(string[] args)
{
    _configuration = new ConfigurationBuilder()
        .SetBasePath(Directory.GetCurrentDirectory())
        .AddJsonFile("settings.json") // Load settings from .json file.
        .AddJsonFile("settings.local.json",
            true) // Optionally, load local settings.
        .Build();

    // Set up dependency injection for the AWS services.
    using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
        .ConfigureLogging(logging =>
            logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
                .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
                    LogLevel.Information)
                .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
        .ConfigureServices((_, services) =>
            services.AddAWSService<IAmazonIdentityManagementService>()
                .AddAWSService<IAmazonDynamoDB>()
                .AddAWSService<IAmazonElasticLoadBalancingV2>()
                .AddAWSService<IAmazonSimpleSystemsManagement>()
                .AddAWSService<IAmazonAutoScaling>()
                .AddAWSService<IAmazonEC2>()
                .AddTransient<AutoScalerWrapper>()
                .AddTransient<ElasticLoadBalancerWrapper>()
                .AddTransient<SmParameterWrapper>()
                .AddTransient<Recommendations>()
                .AddSingleton<IConfiguration>(_configuration)
            )
        .Build();

    ServicesSetup(host);
}
```

```

        ResourcesSetup();

        try
        {
            Console.WriteLine(new string('-', 80));
            Console.WriteLine("Welcome to the Resilient Architecture Example
Scenario.");
            Console.WriteLine(new string('-', 80));
            await Deploy(true);

            Console.WriteLine("Now let's begin the scenario.");
            Console.WriteLine(new string('-', 80));
            await Demo(true);

            Console.WriteLine(new string('-', 80));
            Console.WriteLine("Finally, let's clean up our resources.");
            Console.WriteLine(new string('-', 80));

            await DestroyResources(true);

            Console.WriteLine(new string('-', 80));
            Console.WriteLine("Resilient Architecture Example Scenario is
complete.");
            Console.WriteLine(new string('-', 80));
        }
        catch (Exception ex)
        {
            Console.WriteLine(new string('-', 80));
            Console.WriteLine($"There was a problem running the scenario:
{ex.Message}");
            await DestroyResources(true);
            Console.WriteLine(new string('-', 80));
        }
    }

    /// <summary>
    /// Setup any common resources, also used for integration testing.
    /// </summary>
    public static void ResourcesSetup()
    {
        _httpClient = new HttpClient();
    }

    /// <summary>

```

```

    /// Populate the services for use within the console application.
    /// </summary>
    /// <param name="host">The services host.</param>
    private static void ServicesSetup(IHost host)
    {
        _elasticLoadBalancerWrapper =
host.Services.GetRequiredService<ElasticLoadBalancerWrapper>();
        _iamClient =
host.Services.GetRequiredService<IAmazonIdentityManagementService>();
        _recommendations = host.Services.GetRequiredService<Recommendations>();
        _autoScalerWrapper = host.Services.GetRequiredService<AutoScalerWrapper>();
        _smParameterWrapper =
host.Services.GetRequiredService<SmParameterWrapper>();
    }

    /// <summary>
    /// Deploy necessary resources for the scenario.
    /// </summary>
    /// <param name="interactive">True to run as interactive.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public static async Task<bool> Deploy(bool interactive)
    {
        var protocol = "HTTP";
        var port = 80;
        var sshPort = 22;

        Console.WriteLine(
            "\nFor this demo, we'll use the AWS SDK for .NET to create several AWS
resources\n" +
            "to set up a load-balanced web service endpoint and explore some ways to
make it resilient\n" +
            "against various kinds of failures.\n\n" +
            "Some of the resources create by this demo are:\n");

        Console.WriteLine(
            "\t* A DynamoDB table that the web service depends on to provide book,
movie, and song recommendations.");
        Console.WriteLine(
            "\t* An EC2 launch template that defines EC2 instances that each contain
a Python web server.");
        Console.WriteLine(
            "\t* An EC2 Auto Scaling group that manages EC2 instances across several
Availability Zones.");
        Console.WriteLine(

```

```

        "\t* An Elastic Load Balancing (ELB) load balancer that targets the Auto
Scaling group to distribute requests.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Press Enter when you're ready to start deploying
resources.");
        if (interactive)
            Console.ReadLine();

        // Create and populate the DynamoDB table.
        var databaseTableName = _configuration["databaseName"];
        var recommendationsPath = Path.Join(_configuration["resourcePath"],
            "recommendations_objects.json");
        Console.WriteLine($"Creating and populating a DynamoDB table named
{databaseTableName}.");
        await _recommendations.CreateDatabaseWithName(databaseTableName);
        await _recommendations.PopulateDatabase(databaseTableName,
recommendationsPath);
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        // Create the EC2 Launch Template.

        Console.WriteLine(
            $"Creating an EC2 launch template that runs 'server_startup_script.sh'
when an instance starts.\n"
            + "\nThis script starts a Python web server defined in the `server.py`
script. The web server\n"
            + "listens to HTTP requests on port 80 and responds to requests to '/'
and to '/healthcheck'.\n"
            + "For demo purposes, this server is run as the root user. In
production, the best practice is to\n"
            + "run a web server, such as Apache, with least-privileged
credentials.");
        Console.WriteLine(
            "\nThe template also defines an IAM policy that each instance uses to
assume a role that grants\n"
            + "permissions to access the DynamoDB recommendation table and Systems
Manager parameters\n"
            + "that control the flow of the demo.");

        var startupScriptPath = Path.Join(_configuration["resourcePath"],
            "server_startup_script.sh");
        var instancePolicyPath = Path.Join(_configuration["resourcePath"],
            "instance_policy.json");

```



```

        await _autoScalerWrapper.CreateTemplate(startupScriptPath,
instancePolicyPath);
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        Console.WriteLine(
            "Creating an EC2 Auto Scaling group that maintains three EC2 instances,
each in a different\n"
            + "Availability Zone.\n");
        var zones = await _autoScalerWrapper.DescribeAvailabilityZones();
        await _autoScalerWrapper.CreateGroupOfSize(3, _autoScalerWrapper.GroupName,
zones);
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        Console.WriteLine(
            "At this point, you have EC2 instances created. Once each instance
starts, it listens for\n"
            + "HTTP requests. You can see these instances in the console or continue
with the demo.\n");

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Press Enter when you're ready to continue.");
        if (interactive)
            Console.ReadLine();

        Console.WriteLine("Creating variables that control the flow of the demo.");
        await _smParameterWrapper.Reset();

        Console.WriteLine(
            "\nCreating an Elastic Load Balancing target group and load balancer.
The target group\n"
            + "defines how the load balancer connects to instances. The load
balancer provides a\n"
            + "single endpoint where clients connect and dispatches requests to
instances in the group.");

        var defaultVpc = await _autoScalerWrapper.GetDefaultVpc();
        var subnets = await
_autoScalerWrapper.GetAllVpcSubnetsForZones(defaultVpc.VpcId, zones);
        var subnetIds = subnets.Select(s => s.SubnetId).ToList();
        var targetGroup = await
_elasticLoadBalancerWrapper.CreateTargetGroupOnVpc(_elasticLoadBalancerWrapper.TargetGroupN
protocol, port, defaultVpc.VpcId);

```

```

        await
        _elasticLoadBalancerWrapper.CreateLoadBalancerAndListener(_elasticLoadBalancerWrapper.LoadBalancerName,
        subnetIds, targetGroup);
        await
        _autoScalerWrapper.AttachLoadBalancerToGroup(_autoScalerWrapper.GroupName,
        targetGroup.TargetGroupArn);
        Console.WriteLine("\nVerifying access to the load balancer endpoint...");
        var endPoint = await
        _elasticLoadBalancerWrapper.GetEndpointForLoadBalancerByName(_elasticLoadBalancerWrapper.LoadBalancerName);
        var loadBalancerAccess = await
        _elasticLoadBalancerWrapper.VerifyLoadBalancerEndpoint(endPoint);

        if (!loadBalancerAccess)
        {
            Console.WriteLine("\nCouldn't connect to the load balancer, verifying
            that the port is open...");

            var ipString = await _httpClient.GetStringAsync("https://
            checkip.amazonaws.com");
            ipString = ipString.Trim();

            var defaultSecurityGroup = await
            _autoScalerWrapper.GetDefaultSecurityGroupForVpc(defaultVpc);
            var portIsOpen =
            _autoScalerWrapper.VerifyInboundPortForGroup(defaultSecurityGroup, port, ipString);
            var sshPortIsOpen =
            _autoScalerWrapper.VerifyInboundPortForGroup(defaultSecurityGroup, sshPort,
            ipString);

            if (!portIsOpen)
            {
                Console.WriteLine(
                    "\nFor this example to work, the default security group for your
                    default VPC must\n"
                    + "allows access from this computer. You can either add it
                    automatically from this\n"
                    + "example or add it yourself using the AWS Management Console.
                    \n");

                if (!interactive || GetYesNoResponse(
                    "Do you want to add a rule to the security group to allow
                    inbound traffic from your computer's IP address?"))
                {

```

```

        await
        _autoScalerWrapper.OpenInboundPort(defaultSecurityGroup.GroupId, port, ipString);
    }
}

if (!sshPortIsOpen)
{
    if (!interactive || GetYesNoResponse(
        "Do you want to add a rule to the security group to allow
inbound SSH traffic for debugging from your computer's IP address?"))
    {
        await
        _autoScalerWrapper.OpenInboundPort(defaultSecurityGroup.GroupId, sshPort,
ipString);
    }
}

loadBalancerAccess = await
_elasticLoadBalancerWrapper.VerifyLoadBalancerEndpoint(endPoint);
}

if (loadBalancerAccess)
{
    Console.WriteLine("Your load balancer is ready. You can access it by
browsing to:");
    Console.WriteLine($"http://{endPoint}\n");
}
else
{
    Console.WriteLine(
        "\nCouldn't get a successful response from the load balancer
endpoint. Troubleshoot by\n"
        + "manually verifying that your VPC and security group are
configured correctly and that\n"
        + "you can successfully make a GET request to the load balancer
endpoint:\n");
    Console.WriteLine($"http://{endPoint}\n");
}

Console.WriteLine(new string('-', 80));
Console.WriteLine("Press Enter when you're ready to continue with the
demo.");
if (interactive)
    Console.ReadLine();
return true;
}

```

```

/// <summary>
/// Demonstrate the steps of the scenario.
/// </summary>
/// <param name="interactive">True to run as an interactive scenario.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public static async Task<bool> Demo(bool interactive)
{
    var ssmOnlyPolicy = Path.Join(_configuration["resourcePath"],
        "ssm_only_policy.json");

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("Resetting parameters to starting values for demo.");
    await _smParameterWrapper.Reset();

    Console.WriteLine("\nThis part of the demonstration shows how to toggle
different parts of the system\n" +
        "to create situations where the web service fails, and
shows how using a resilient\n" +
        "architecture can keep the web service running in spite of
these failures.");
    Console.WriteLine(new string('-', 88));
    Console.WriteLine("At the start, the load balancer endpoint returns
recommendations and reports that all targets are healthy.");
    if (interactive)
        await DemoActionChoices();

    Console.WriteLine($"The web service running on the EC2 instances gets
recommendations by querying a DynamoDB table.\n" +
        $"The table name is contained in a Systems Manager
parameter named '{_smParameterWrapper.TableParameter}'.\n" +
        $"To simulate a failure of the recommendation service,
let's set this parameter to name a non-existent table.\n");
    await
_smParameterWrapper.PutParameterByName(_smParameterWrapper.TableParameter, "this-
is-not-a-table");
    Console.WriteLine("\nNow, sending a GET request to the load balancer
endpoint returns a failure code. But, the service reports as\n" +
        "healthy to the load balancer because shallow health
checks don't check for failure of the recommendation service.");
    if (interactive)
        await DemoActionChoices();
}

```

```

        Console.WriteLine("Instead of failing when the recommendation service fails,
the web service can return a static response.");
        Console.WriteLine("While this is not a perfect solution, it presents the
customer with a somewhat better experience than failure.");

        await
_smParameterWrapper.PutParameterByName(_smParameterWrapper.FailureResponseParameter,
"static");

        Console.WriteLine("\nNow, sending a GET request to the load balancer
endpoint returns a static response.");
        Console.WriteLine("The service still reports as healthy because health
checks are still shallow.");
        if (interactive)
            await DemoActionChoices();

        Console.WriteLine("Let's reinstate the recommendation service.\n");
        await
_smParameterWrapper.PutParameterByName(_smParameterWrapper.TableParameter,
_smParameterWrapper.TableName);
        Console.WriteLine(
            "\nLet's also substitute bad credentials for one of the instances in the
target group so that it can't\n" +
            "access the DynamoDB recommendation table.\n"
        );
        await _autoScalerWrapper.CreateInstanceProfileWithName(
            _autoScalerWrapper.BadCredsPolicyName,
            _autoScalerWrapper.BadCredsRoleName,
            _autoScalerWrapper.BadCredsProfileName,
            ssmOnlyPolicy,
            new List<string> { "AmazonSSMManagedInstanceCore" }
        );
        var instances = await
_autoScalerWrapper.GetInstancesByGroupName(_autoScalerWrapper.GroupName);
        var badInstanceId = instances.First();
        var instanceProfile = await
_autoScalerWrapper.GetInstanceProfile(badInstanceId);
        Console.WriteLine(
            $"Replacing the profile for instance {badInstanceId} with a profile that
contains\n" +
            "bad credentials...\n"
        );
        await _autoScalerWrapper.ReplaceInstanceProfile(
            badInstanceId,

```

```

        _autoScalerWrapper.BadCredsProfileName,
        instanceProfile.AssociationId
    );
    Console.WriteLine(
        "Now, sending a GET request to the load balancer endpoint returns either
a recommendation or a static response,\n" +
        "depending on which instance is selected by the load balancer.\n"
    );
    if (interactive)
        await DemoActionChoices();

    Console.WriteLine("\nLet's implement a deep health check. For this demo, a
deep health check tests whether");
    Console.WriteLine("the web service can access the DynamoDB table that it
depends on for recommendations. Note that");
    Console.WriteLine("the deep health check is only for ELB routing and not for
Auto Scaling instance health.");
    Console.WriteLine("This kind of deep health check is not recommended for
Auto Scaling instance health, because it");
    Console.WriteLine("risks accidental termination of all instances in the Auto
Scaling group when a dependent service fails.");

    Console.WriteLine("\nBy implementing deep health checks, the load balancer
can detect when one of the instances is failing");
    Console.WriteLine("and take that instance out of rotation.");

    await
_smParameterWrapper.PutParameterByName(_smParameterWrapper.HealthCheckParameter,
"deep");

    Console.WriteLine($"Now, checking target health indicates that the
instance with bad credentials ({badInstanceId})");
    Console.WriteLine("is unhealthy. Note that it might take a minute or two for
the load balancer to detect the unhealthy");
    Console.WriteLine("instance. Sending a GET request to the load balancer
endpoint always returns a recommendation, because");
    Console.WriteLine("the load balancer takes unhealthy instances out of its
rotation.");

    if (interactive)
        await DemoActionChoices();

    Console.WriteLine("\nBecause the instances in this demo are controlled by an
auto scaler, the simplest way to fix an unhealthy");

```

```

        Console.WriteLine("instance is to terminate it and let the auto scaler start
a new instance to replace it.");

        await _autoScalerWrapper.TryTerminateInstanceById(badInstanceId);

        Console.WriteLine($"\\nEven while the instance is terminating and the new
instance is starting, sending a GET");
        Console.WriteLine("request to the web service continues to get a successful
recommendation response because");
        Console.WriteLine("starts and reports as healthy, it is included in the load
balancing rotation.");
        Console.WriteLine("Note that terminating and replacing an instance typically
takes several minutes, during which time you");
        Console.WriteLine("can see the changing health check status until the new
instance is running and healthy.");

        if (interactive)
            await DemoActionChoices();

        Console.WriteLine("\\nIf the recommendation service fails now, deep health
checks mean all instances report as unhealthy.");

        await
_smParameterWrapper.PutParameterByName(_smParameterWrapper.TableParameter, "this-
is-not-a-table");

        Console.WriteLine($"\\nWhen all instances are unhealthy, the load balancer
continues to route requests even to");
        Console.WriteLine("unhealthy instances, allowing them to fail open and
return a static response rather than fail");
        Console.WriteLine("closed and report failure to the customer.");

        if (interactive)
            await DemoActionChoices();
        await _smParameterWrapper.Reset();

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        return true;
    }

    /// <summary>
    /// Clean up the resources from the scenario.
    /// </summary>
    /// <param name="interactive">True to ask the user for cleanup.</param>

```

```

/// <returns>Async task.</returns>
public static async Task<bool> DestroyResources(bool interactive)
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine(
        "To keep things tidy and to avoid unwanted charges on your account, we
can clean up all AWS resources\n" +
        "that were created for this demo."
    );

    if (!interactive || GetYesNoResponse("Do you want to clean up all demo
resources? (y/n) "))
    {
        await
_elasticLoadBalancerWrapper.DeleteLoadBalancerByName(_elasticLoadBalancerWrapper.LoadBalancerName);
        await
_elasticLoadBalancerWrapper.DeleteTargetGroupByName(_elasticLoadBalancerWrapper.TargetGroupName);
        await
_autoScalerWrapper.TerminateAndDeleteAutoScalingGroupWithName(_autoScalerWrapper.GroupName);
        await
_autoScalerWrapper.DeleteKeyPairByName(_autoScalerWrapper.KeyPairName);
        await
_autoScalerWrapper.DeleteTemplateByName(_autoScalerWrapper.LaunchTemplateName);
        await _autoScalerWrapper.DeleteInstanceProfile(
            _autoScalerWrapper.BadCredsProfileName,
            _autoScalerWrapper.BadCredsRoleName
        );
        await
_recommendations.DestroyDatabaseByName(_recommendations.TableName);
    }
    else
    {
        Console.WriteLine(
            "Ok, we'll leave the resources intact.\n" +
            "Don't forget to delete them when you're done with them or you might
incur unexpected charges."
        );
    }

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    return true;
}

```


Auto Scaling と Amazon EC2 のアクションをラップするクラスを作成します。

```

/// <summary>
/// Encapsulates Amazon EC2 Auto Scaling and EC2 management methods.
/// </summary>
public class AutoScalerWrapper
{
    private readonly IAmazonAutoScaling _amazonAutoScaling;
    private readonly IAmazonEC2 _amazonEc2;
    private readonly IAmazonSimpleSystemsManagement _amazonSsm;
    private readonly IAmazonIdentityManagementService _amazonIam;
    private readonly ILogger<AutoScalerWrapper> _logger;

    private readonly string _instanceType = "";
    private readonly string _amiParam = "";
    private readonly string _launchTemplateName = "";
    private readonly string _groupName = "";
    private readonly string _instancePolicyName = "";
    private readonly string _instanceRoleName = "";
    private readonly string _instanceProfileName = "";
    private readonly string _badCredsProfileName = "";
    private readonly string _badCredsRoleName = "";
    private readonly string _badCredsPolicyName = "";
    private readonly string _keyPairName = "";

    public string GroupName => _groupName;
    public string KeyPairName => _keyPairName;
    public string LaunchTemplateName => _launchTemplateName;
    public string InstancePolicyName => _instancePolicyName;
    public string BadCredsProfileName => _badCredsProfileName;
    public string BadCredsRoleName => _badCredsRoleName;
    public string BadCredsPolicyName => _badCredsPolicyName;

    /// <summary>
    /// Constructor for the AutoScalerWrapper.
    /// </summary>
    /// <param name="amazonAutoScaling">The injected AutoScaling client.</param>
    /// <param name="amazonEc2">The injected EC2 client.</param>
    /// <param name="amazonIam">The injected IAM client.</param>
    /// <param name="amazonSsm">The injected SSM client.</param>
    public AutoScalerWrapper(
        IAmazonAutoScaling amazonAutoScaling,
        IAmazonEC2 amazonEc2,
        IAmazonSimpleSystemsManagement amazonSsm,

```

```

    IAmazonIdentityManagementService amazonIam,
    IConfiguration configuration,
    ILogger<AutoScalerWrapper> logger)
{
    _amazonAutoScaling = amazonAutoScaling;
    _amazonEc2 = amazonEc2;
    _amazonSsm = amazonSsm;
    _amazonIam = amazonIam;
    _logger = logger;

    var prefix = configuration["resourcePrefix"];
    _instanceType = configuration["instanceType"];
    _amiParam = configuration["amiParam"];

    _launchTemplateName = prefix + "-template";
    _groupName = prefix + "-group";
    _instancePolicyName = prefix + "-pol";
    _instanceRoleName = prefix + "-role";
    _instanceProfileName = prefix + "-prof";
    _badCredsPolicyName = prefix + "-bc-pol";
    _badCredsRoleName = prefix + "-bc-role";
    _badCredsProfileName = prefix + "-bc-prof";
    _keyPairName = prefix + "-key-pair";
}

/// <summary>
/// Create a policy, role, and profile that is associated with instances with a
specified name.
/// An instance's associated profile defines a role that is assumed by the
/// instance. The role has attached policies that specify the AWS permissions
granted to
/// clients that run on the instance.
/// </summary>
/// <param name="policyName">Name to use for the policy.</param>
/// <param name="roleName">Name to use for the role.</param>
/// <param name="profileName">Name to use for the profile.</param>
/// <param name="ssmOnlyPolicyFile">Path to a policy file for SSM.</param>
/// <param name="awsManagedPolicies">AWS Managed policies to be attached to the
role.</param>
/// <returns>The Arn of the profile.</returns>
public async Task<string> CreateInstanceProfileWithName(
    string policyName,
    string roleName,
    string profileName,

```

```

    string ssmOnlyPolicyFile,
    List<string>? awsManagedPolicies = null)
{

    var assumeRoleDoc = "{" +
        "\"Version\": \"2012-10-17\", \" +
        "\"Statement\": [{\" +
            "\"Effect\": \"Allow\", \" +
            "\"Principal\": {\" +
            "\"Service\": [\" +
                \"ec2.amazonaws.com\"\" +
            "]" +
            \",\" +
            "\"Action\": \"sts:AssumeRole\"\" +
            \"]}\" +
        "}";

    var policyDocument = await File.ReadAllTextAsync(ssmOnlyPolicyFile);

    var policyArn = "";

    try
    {
        var createPolicyResult = await _amazonIam.CreatePolicyAsync(
            new CreatePolicyRequest
            {
                PolicyName = policyName,
                PolicyDocument = policyDocument
            });
        policyArn = createPolicyResult.Policy.Arn;
    }
    catch (EntityAlreadyExistsException)
    {
        // The policy already exists, so we look it up to get the Arn.
        var policiesPaginator = _amazonIam.Paginators.ListPolicies(
            new ListPoliciesRequest()
            {
                Scope = PolicyScopeType.Local
            });
        // Get the entire list using the paginator.
        await foreach (var policy in policiesPaginator.Policies)
        {
            if (policy.PolicyName.Equals(policyName))
            {

```

```

        policyArn = policy.Arn;
    }
}

if (policyArn == null)
{
    throw new InvalidOperationException("Policy not found");
}

try
{
    await _amazonIam.CreateRoleAsync(new CreateRoleRequest()
    {
        RoleName = roleName,
        AssumeRolePolicyDocument = assumeRoleDoc,
    });
    await _amazonIam.AttachRolePolicyAsync(new AttachRolePolicyRequest()
    {
        RoleName = roleName,
        PolicyArn = policyArn
    });
    if (awsManagedPolicies != null)
    {
        foreach (var awsPolicy in awsManagedPolicies)
        {
            await _amazonIam.AttachRolePolicyAsync(new
AttachRolePolicyRequest()
            {
                PolicyArn = $"arn:aws:iam::aws:policy/{awsPolicy}",
                RoleName = roleName
            });
        }
    }
}
catch (EntityAlreadyExistsException)
{
    Console.WriteLine("Role already exists.");
}

string profileArn = "";
try
{
    var profileCreateResponse = await _amazonIam.CreateInstanceProfileAsync(

```

```

        new CreateInstanceProfileRequest()
        {
            InstanceProfileName = profileName
        });
    // Allow time for the profile to be ready.
    profileArn = profileCreateResponse.InstanceProfile.Arn;
    Thread.Sleep(10000);
    await _amazonIam.AddRoleToInstanceProfileAsync(
        new AddRoleToInstanceProfileRequest()
        {
            InstanceProfileName = profileName,
            RoleName = roleName
        });

    }
    catch (EntityAlreadyExistsException)
    {
        Console.WriteLine("Policy already exists.");
        var profileGetResponse = await _amazonIam.GetInstanceProfileAsync(
            new GetInstanceProfileRequest()
            {
                InstanceProfileName = profileName
            });
        profileArn = profileGetResponse.InstanceProfile.Arn;
    }
    return profileArn;
}

/// <summary>
/// Create a new key pair and save the file.
/// </summary>
/// <param name="newKeyPairName">The name of the new key pair.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task CreateKeyPair(string newKeyPairName)
{
    try
    {
        var keyResponse = await _amazonEc2.CreateKeyPairAsync(
            new CreateKeyPairRequest() { KeyName = newKeyPairName });
        await File.WriteAllTextAsync($"{newKeyPairName}.pem",
            keyResponse.KeyPair.KeyMaterial);
        Console.WriteLine($"Created key pair {newKeyPairName}.");
    }
    catch (AlreadyExistsException)

```

```

        {
            Console.WriteLine("Key pair already exists.");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Delete the key pair and file by name.
    /// </summary>
    /// <param name="deleteKeyPairName">The key pair to delete.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task DeleteKeyPairByName(string deleteKeyPairName)
    {
        try
        {
            await _amazonEc2.DeleteKeyPairAsync(
                new DeleteKeyPairRequest() { KeyName = deleteKeyPairName });
            File.Delete($"{deleteKeyPairName}.pem");
        }
        catch (FileNotFoundException)
        {
            Console.WriteLine($"Key pair {deleteKeyPairName} not found.");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Creates an Amazon EC2 launch template to use with Amazon EC2 Auto Scaling.
    /// The launch template specifies a Bash script in its user data field that runs
    after
    /// the instance is started. This script installs the Python packages and starts
    a Python
    /// web server on the instance.
    /// </summary>
    /// <param name="startupScriptPath">The path to a Bash script file that is
    run.</param>
    /// <param name="instancePolicyPath">The path to a permissions policy to create
    and attach to the profile.</param>
    /// <returns>The template object.</returns>
    public async Task<Amazon.EC2.Model.LaunchTemplate> CreateTemplate(string
    startupScriptPath, string instancePolicyPath)
    {
        try
        {
            await CreateKeyPair(_keyPairName);

```

```

        await CreateInstanceProfileWithName(_instancePolicyName,
        _instanceRoleName,
            _instanceProfileName, instancePolicyPath);

        var startServerText = await File.ReadAllTextAsync(startupScriptPath);
        var plainTextBytes =
            System.Text.Encoding.UTF8.GetBytes(startServerText);

        var amiLatest = await _amazonSsm.GetParameterAsync(
            new GetParameterRequest() { Name = _amiParam });
        var amiId = amiLatest.Parameter.Value;
        var launchTemplateResponse = await _amazonEc2.CreateLaunchTemplateAsync(
            new CreateLaunchTemplateRequest()
            {
                LaunchTemplateName = _launchTemplateName,
                LaunchTemplateData = new RequestLaunchTemplateData()
                {
                    InstanceType = _instanceType,
                    ImageId = amiId,
                    IamInstanceProfile =
                        new
LaunchTemplateIamInstanceProfileSpecificationRequest()
                        {
                            Name = _instanceProfileName
                        },
                    KeyName = _keyPairName,
                    UserData = System.Convert.ToBase64String(plainTextBytes)
                }
            });
        return launchTemplateResponse.LaunchTemplate;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode ==
            "InvalidLaunchTemplateName.AlreadyExistsException")
        {
            _logger.LogError($"Could not create the template, the name
{_launchTemplateName} already exists. " +
                $"Please try again with a unique name.");
        }

        throw;
    }
}

```

```

        catch (Exception ex)
        {
            _logger.LogError($"An error occurred while creating the template.:
{ex.Message}");
            throw;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Get a list of Availability Zones in the AWS Region of the Amazon EC2 Client.
    /// </summary>
    /// <returns>A list of availability zones.</returns>
    public async Task<List<string>> DescribeAvailabilityZones()
    {
        try
        {
            var zoneResponse = await _amazonEc2.DescribeAvailabilityZonesAsync(
                new DescribeAvailabilityZonesRequest());
            return zoneResponse.AvailabilityZones.Select(z => z.ZoneName).ToList();
        }
        catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
        {
            _logger.LogError($"An Amazon EC2 error occurred while listing
availability zones.: {ec2Exception.Message}");
            throw;
        }
        catch (Exception ex)
        {
            _logger.LogError($"An error occurred while listing availability zones.:
{ex.Message}");
            throw;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Create an EC2 Auto Scaling group of a specified size and name.
    /// </summary>
    /// <param name="groupSize">The size for the group.</param>
    /// <param name="groupName">The name for the group.</param>
    /// <param name="availabilityZones">The availability zones for the group.</
param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task CreateGroupOfSize(int groupSize, string groupName,
List<string> availabilityZones)

```



```

    {
        try
        {
            await _amazonAutoScaling.CreateAutoScalingGroupAsync(
                new CreateAutoScalingGroupRequest()
                {
                    AutoScalingGroupName = groupName,
                    AvailabilityZones = availabilityZones,
                    LaunchTemplate =
                        new Amazon.AutoScaling.Model.LaunchTemplateSpecification()
                        {
                            LaunchTemplateName = _launchTemplateName,
                            Version = "$Default"
                        },
                    MaxSize = groupSize,
                    MinSize = groupSize
                });
            Console.WriteLine($"Created EC2 Auto Scaling group {groupName} with size {groupSize}.");
        }
        catch (EntityAlreadyExistsException)
        {
            Console.WriteLine($"EC2 Auto Scaling group {groupName} already exists.");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Get the default VPC for the account.
    /// </summary>
    /// <returns>The default VPC object.</returns>
    public async Task<Vpc> GetDefaultVpc()
    {
        try
        {
            var vpcResponse = await _amazonEc2.DescribeVpcsAsync(
                new DescribeVpcsRequest()
                {
                    Filters = new List<Amazon.EC2.Model.Filter>()
                    {
                        new("is-default", new List<string>() { "true" })
                    }
                });
            return vpcResponse.Vpcs[0];
        }
    }

```

```

    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "UnauthorizedOperation")
        {
            _logger.LogError(ec2Exception, $"You do not have the necessary
permissions to describe VPCs.");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(ex, $"An error occurred while describing the vpcs.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Get all the subnets for a Vpc in a set of availability zones.
/// </summary>
/// <param name="vpcId">The Id of the Vpc.</param>
/// <param name="availabilityZones">The list of availability zones.</param>
/// <returns>The collection of subnet objects.</returns>
public async Task<List<Subnet>> GetAllVpcSubnetsForZones(string vpcId,
List<string> availabilityZones)
{
    try
    {
        var subnets = new List<Subnet>();
        var subnetPaginator = _amazonEc2.Paginators.DescribeSubnets(
            new DescribeSubnetsRequest()
            {
                Filters = new List<Amazon.EC2.Model.Filter>()
                {
                    new("vpc-id", new List<string>() { vpcId }),
                    new("availability-zone", availabilityZones),
                    new("default-for-az", new List<string>() { "true" })
                }
            });

        // Get the entire list using the paginator.
        await foreach (var subnet in subnetPaginator.Subnets)

```

```

        {
            subnets.Add(subnet);
        }

        return subnets;
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidVpcID.NotFound")
        {
            _logger.LogError(ec2Exception, $"The specified VPC ID {vpcId} does
not exist.");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(ex, $"An error occurred while describing the subnets.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Delete a launch template by name.
/// </summary>
/// <param name="templateName">The name of the template to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task DeleteTemplateByName(string templateName)
{
    try
    {
        await _amazonEc2.DeleteLaunchTemplateAsync(
            new DeleteLaunchTemplateRequest()
            {
                LaunchTemplateName = templateName
            });
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode ==
"InvalidLaunchTemplateName.NotFoundException")
        {

```

```

        _logger.LogError(
            $"Could not delete the template, the name {_launchTemplateName}
was not found.");
    }

    throw;
}
catch (Exception ex)
{
    _logger.LogError($"An error occurred while deleting the template.:
{ex.Message}");
    throw;
}
}

/// <summary>
/// Detaches a role from an instance profile, detaches policies from the role,
/// and deletes all the resources.
/// </summary>
/// <param name="profileName">The name of the profile to delete.</param>
/// <param name="roleName">The name of the role to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task DeleteInstanceProfile(string profileName, string roleName)
{
    try
    {
        await _amazonIam.RemoveRoleFromInstanceProfileAsync(
            new RemoveRoleFromInstanceProfileRequest()
            {
                InstanceProfileName = profileName,
                RoleName = roleName
            });
        await _amazonIam.DeleteInstanceProfileAsync(
            new DeleteInstanceProfileRequest() { InstanceProfileName =
profileName });
        var attachedPolicies = await _amazonIam.ListAttachedRolePoliciesAsync(
            new ListAttachedRolePoliciesRequest() { RoleName = roleName });
        foreach (var policy in attachedPolicies.AttachedPolicies)
        {
            await _amazonIam.DetachRolePolicyAsync(
                new DetachRolePolicyRequest()
                {
                    RoleName = roleName,
                    PolicyArn = policy.PolicyArn
                }
            );
        }
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError($"An error occurred while deleting the instance profile.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}

```

```

        });
        // Delete the custom policies only.
        if (!policy.PolicyArn.StartsWith("arn:aws:iam::aws"))
        {
            await _amazonIam.DeletePolicyAsync(
                new Amazon.IdentityManagement.Model.DeletePolicyRequest()
                {
                    PolicyArn = policy.PolicyArn
                });
        }
    }

    await _amazonIam.DeleteRoleAsync(
        new DeleteRoleRequest() { RoleName = roleName });
}
catch (NoSuchEntityException)
{
    Console.WriteLine($"Instance profile {profileName} does not exist.");
}
}

/// <summary>
/// Gets data about the instances in an EC2 Auto Scaling group by its group
name.
/// </summary>
/// <param name="group">The name of the auto scaling group.</param>
/// <returns>A collection of instance Ids.</returns>
public async Task<IEnumerable<string>> GetInstancesByGroupName(string group)
{
    var instanceResponse = await
        _amazonAutoScaling.DescribeAutoScalingGroupsAsync(
            new DescribeAutoScalingGroupsRequest()
            {
                AutoScalingGroupNames = new List<string>() { group }
            });
    var instanceIds = instanceResponse.AutoScalingGroups.SelectMany(
        g => g.Instances.Select(i => i.InstanceId));
    return instanceIds;
}

/// <summary>
/// Get the instance profile association data for an instance.
/// </summary>
/// <param name="instanceId">The Id of the instance.</param>

```

```

    /// <returns>Instance profile associations data.</returns>
    public async Task<IamInstanceProfileAssociation> GetInstanceProfile(string
instanceId)
    {
        try
        {
            var response = await
_amazonEc2.DescribeIamInstanceProfileAssociationsAsync(
                new DescribeIamInstanceProfileAssociationsRequest()
                {
                    Filters = new List<Amazon.EC2.Model.Filter>()
                    {
                        new("instance-id", new List<string>() { instanceId })
                    },
                });
            return response.IamInstanceProfileAssociations[0];
        }
        catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
        {
            if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceID.NotFound")
            {
                _logger.LogError(ec2Exception, $"Instance {instanceId} not found");
            }

            throw;
        }
        catch (Exception ex)
        {
            _logger.LogError(ex, $"An error occurred while creating the template.:
{ex.Message}");
            throw;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Replace the profile associated with a running instance. After the profile is
replaced, the instance
    /// is rebooted to ensure that it uses the new profile. When the instance is
ready, Systems Manager is
    /// used to restart the Python web server.
    /// </summary>
    /// <param name="instanceId">The Id of the instance to update.</param>
    /// <param name="credsProfileName">The name of the new profile to associate with
the specified instance.</param>

```

```

    /// <param name="associationId">The Id of the existing profile association for
    the instance.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task ReplaceInstanceProfile(string instanceId, string
    credsProfileName, string associationId)
    {
        try
        {
            await _amazonEc2.ReplaceIamInstanceProfileAssociationAsync(
                new ReplaceIamInstanceProfileAssociationRequest()
                {
                    AssociationId = associationId,
                    IamInstanceProfile = new IamInstanceProfileSpecification()
                    {
                        Name = credsProfileName
                    }
                });
            // Allow time before resetting.
            Thread.Sleep(25000);

            await _amazonEc2.RebootInstancesAsync(
                new RebootInstancesRequest(new List<string>() { instanceId }));
            Thread.Sleep(25000);
            var instanceReady = false;
            var retries = 5;
            while (retries-- > 0 && !instanceReady)
            {
                var instancesPaginator =
                    _amazonSsm.Paginators.DescribeInstanceInformation(
                        new DescribeInstanceInformationRequest());
                // Get the entire list using the paginator.
                await foreach (var instance in
instancesPaginator.InstanceInformationList)
                {
                    instanceReady = instance.InstanceId == instanceId;
                    if (instanceReady)
                    {
                        break;
                    }
                }
            }
            Console.WriteLine("Waiting for instance to be running.");
            await WaitForInstanceState(instanceId, InstanceStateName.Running);
            Console.WriteLine("Instance ready.");

```

```

        Console.WriteLine($"Sending restart command to instance {instanceId}");
        await _amazonSsm.SendCommandAsync(
            new SendCommandRequest()
            {
                InstanceIds = new List<string>() { instanceId },
                DocumentName = "AWS-RunShellScript",
                Parameters = new Dictionary<string, List<string>>()
                {
                    {
                        "commands",
                        new List<string>() { "cd / && sudo python3 server.py"
80" }
                    }
                }
            });
        Console.WriteLine($"Restarted the web server on instance {instanceId}");
    }
    catch (AmazonEC2Exception ec2Exception)
    {
        if (ec2Exception.ErrorCode == "InvalidInstanceID.NotFound")
        {
            _logger.LogError(ec2Exception, $"Instance {instanceId} not found");
        }

        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        _logger.LogError(ex, $"An error occurred while replacing the template.:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Try to terminate an instance by its Id.
/// </summary>
/// <param name="instanceId">The Id of the instance to terminate.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task TryTerminateInstanceById(string instanceId)
{
    var stopping = false;
    Console.WriteLine($"Stopping {instanceId}...");
    while (!stopping)

```



```

        {
            try
            {
                await _amazonAutoScaling.TerminateInstanceInAutoScalingGroupAsync(
                    new TerminateInstanceInAutoScalingGroupRequest()
                    {
                        InstanceId = instanceId,
                        ShouldDecrementDesiredCapacity = false
                    });
                stopping = true;
            }
            catch (ScalingActivityInProgressException)
            {
                Console.WriteLine($"Scaling activity in progress for {instanceId}.
Waiting...");
                Thread.Sleep(10000);
            }
        }
    }

    /// <summary>
    /// Tries to delete the EC2 Auto Scaling group. If the group is in use or in
    progress,
    /// waits and retries until the group is successfully deleted.
    /// </summary>
    /// <param name="groupName">The name of the group to try to delete.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task TryDeleteGroupByName(string groupName)
    {
        var stopped = false;
        while (!stopped)
        {
            try
            {
                await _amazonAutoScaling.DeleteAutoScalingGroupAsync(
                    new DeleteAutoScalingGroupRequest()
                    {
                        AutoScalingGroupName = groupName
                    });
                stopped = true;
            }
            catch (Exception e)
                when ((e is ScalingActivityInProgressException)
                    || (e is Amazon.AutoScaling.Model.ResourceInUseException))
        }
    }

```

```

        {
            Console.WriteLine($"Some instances are still running. Waiting...");
            Thread.Sleep(10000);
        }
    }
}

/// <summary>
/// Terminate instances and delete the Auto Scaling group by name.
/// </summary>
/// <param name="groupName">The name of the group to delete.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task TerminateAndDeleteAutoScalingGroupWithName(string groupName)
{
    var describeGroupsResponse = await
        _amazonAutoScaling.DescribeAutoScalingGroupsAsync(
            new DescribeAutoScalingGroupsRequest()
            {
                AutoScalingGroupNames = new List<string>() { groupName }
            });
    if (describeGroupsResponse.AutoScalingGroups.Any())
    {
        // Update the size to 0.
        await _amazonAutoScaling.UpdateAutoScalingGroupAsync(
            new UpdateAutoScalingGroupRequest()
            {
                AutoScalingGroupName = groupName,
                MinSize = 0
            });
        var group = describeGroupsResponse.AutoScalingGroups[0];
        foreach (var instance in group.Instances)
        {
            await TryTerminateInstanceById(instance.InstanceId);
        }

        await TryDeleteGroupByName(groupName);
    }
    else
    {
        Console.WriteLine($"No groups found with name {groupName}.");
    }
}

```

```

    /// <summary>
    /// Get the default security group for a specified Vpc.
    /// </summary>
    /// <param name="vpc">The Vpc to search.</param>
    /// <returns>The default security group.</returns>
    public async Task<SecurityGroup> GetDefaultSecurityGroupForVpc(Vpc vpc)
    {
        var groupResponse = await _amazonEc2.DescribeSecurityGroupsAsync(
            new DescribeSecurityGroupsRequest()
            {
                Filters = new List<Amazon.EC2.Model.Filter>()
                {
                    new ("group-name", new List<string>() { "default" }),
                    new ("vpc-id", new List<string>() { vpc.VpcId })
                }
            });
        return groupResponse.SecurityGroups[0];
    }

    /// <summary>
    /// Verify the default security group of a Vpc allows ingress from the calling
    computer.
    /// This can be done by allowing ingress from this computer's IP address.
    /// In some situations, such as connecting from a corporate network, you must
    instead specify
    /// a prefix list Id. You can also temporarily open the port to any IP address
    while running this example.
    /// If you do, be sure to remove public access when you're done.
    /// </summary>
    /// <param name="vpc">The group to check.</param>
    /// <param name="port">The port to verify.</param>
    /// <param name="ipAddress">This computer's IP address.</param>
    /// <returns>True if the ip address is allowed on the group.</returns>
    public bool VerifyInboundPortForGroup(SecurityGroup group, int port, string
    ipAddress)
    {
        var portIsOpen = false;
        foreach (var ipPermission in group.IpPermissions)
        {
            if (ipPermission.FromPort == port)
            {
                foreach (var ipRange in ipPermission.Ipv4Ranges)
                {
                    var cidr = ipRange.CidrIp;

```

```

        if (cidr.StartsWith(ipAddress) || cidr == "0.0.0.0/0")
        {
            portIsOpen = true;
        }
    }

    if (ipPermission.PrefixListIds.Any())
    {
        portIsOpen = true;
    }

    if (!portIsOpen)
    {
        Console.WriteLine("The inbound rule does not appear to be open
to either this computer's IP\n" +
                                "address, to all IP addresses (0.0.0.0/0), or
to a prefix list ID.");
    }
    else
    {
        break;
    }
}

return portIsOpen;
}

/// <summary>
/// Add an ingress rule to the specified security group that allows access on
the
/// specified port from the specified IP address.
/// </summary>
/// <param name="groupId">The Id of the security group to modify.</param>
/// <param name="port">The port to open.</param>
/// <param name="ipAddress">The IP address to allow access.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task OpenInboundPort(string groupId, int port, string ipAddress)
{
    await _amazonEc2.AuthorizeSecurityGroupIngressAsync(
        new AuthorizeSecurityGroupIngressRequest()
        {
            GroupId = groupId,
            IpPermissions = new List<IpPermission>()

```

```

        {
            new IpPermission()
            {
                FromPort = port,
                ToPort = port,
                IpProtocol = "tcp",
                Ipv4Ranges = new List<IpRange>()
                {
                    new IpRange() { CidrIp = $"{ipAddress}/32" }
                }
            }
        });
    }

    /// <summary>
    /// Attaches an Elastic Load Balancing (ELB) target group to this EC2 Auto
    Scaling group.
    /// The
    /// </summary>
    /// <param name="autoScalingGroupName">The name of the Auto Scaling group.</
param>
    /// <param name="targetGroupArn">The Arn for the target group.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task AttachLoadBalancerToGroup(string autoScalingGroupName, string
targetGroupArn)
    {
        await _amazonAutoScaling.AttachLoadBalancerTargetGroupsAsync(
            new AttachLoadBalancerTargetGroupsRequest()
            {
                AutoScalingGroupName = autoScalingGroupName,
                TargetGroupARNs = new List<string>() { targetGroupArn }
            });
    }

    /// <summary>
    /// Wait until an EC2 instance is in a specified state.
    /// </summary>
    /// <param name="instanceId">The instance Id.</param>
    /// <param name="stateName">The state to wait for.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> WaitForInstanceState(string instanceId,
InstanceStateName stateName)
    {

```

```

    var request = new DescribeInstancesRequest
    {
        InstanceIds = new List<string> { instanceId }
    };

    // Wait until the instance is in the specified state.
    var hasState = false;
    do
    {
        // Wait 5 seconds.
        Thread.Sleep(5000);

        // Check for the desired state.
        var response = await _amazonEc2.DescribeInstancesAsync(request);
        var instance = response.Reservations[0].Instances[0];
        hasState = instance.State.Name == stateName;
        Console.Write(". ");
    } while (!hasState);

    return hasState;
}
}

```

Elastic Load Balancing のアクションをラップするクラスを作成します。

```

/// <summary>
/// Encapsulates Elastic Load Balancer actions.
/// </summary>
public class ElasticLoadBalancerWrapper
{
    private readonly IAmazonElasticLoadBalancingV2 _amazonElasticLoadBalancingV2;
    private string? _endpoint = null;
    private readonly string _targetGroupName = "";
    private readonly string _loadBalancerName = "";
    HttpClient _httpClient = new();

    public string TargetGroupName => _targetGroupName;
    public string LoadBalancerName => _loadBalancerName;

    /// <summary>
    /// Constructor for the Elastic Load Balancer wrapper.

```

```

    /// </summary>
    /// <param name="amazonElasticLoadBalancingV2">The injected load balancing v2
client.</param>
    /// <param name="configuration">The injected configuration.</param>
    public ElasticLoadBalancerWrapper(
        IAmazonElasticLoadBalancingV2 amazonElasticLoadBalancingV2,
        IConfiguration configuration)
    {
        _amazonElasticLoadBalancingV2 = amazonElasticLoadBalancingV2;
        var prefix = configuration["resourcePrefix"];
        _targetGroupName = prefix + "-tg";
        _loadBalancerName = prefix + "-lb";
    }

    /// <summary>
    /// Get the HTTP Endpoint of a load balancer by its name.
    /// </summary>
    /// <param name="loadBalancerName">The name of the load balancer.</param>
    /// <returns>The HTTP endpoint.</returns>
    public async Task<string> GetEndpointForLoadBalancerByName(string
loadBalancerName)
    {
        if (_endpoint == null)
        {
            var endpointResponse =
                await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeLoadBalancersAsync(
                    new DescribeLoadBalancersRequest()
                    {
                        Names = new List<string>() { loadBalancerName }
                    });
            _endpoint = endpointResponse.LoadBalancers[0].DNSName;
        }

        return _endpoint;
    }

    /// <summary>
    /// Return the GET response for an endpoint as text.
    /// </summary>
    /// <param name="endpoint">The endpoint for the request.</param>
    /// <returns>The request response.</returns>
    public async Task<string> GetEndPointResponse(string endpoint)
    {
        var endpointResponse = await _httpClient.GetAsync($"http://{endpoint}");
    }

```

```

        var textResponse = await endpointResponse.Content.ReadAsStringAsync();
        return textResponse!;
    }

    /// <summary>
    /// Get the target health for a group by name.
    /// </summary>
    /// <param name="groupName">The name of the group.</param>
    /// <returns>The collection of health descriptions.</returns>
    public async Task<List<TargetHealthDescription>>
CheckTargetHealthForGroup(string groupName)
    {
        List<TargetHealthDescription> result = null!;
        try
        {
            var groupResponse =
                await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeTargetGroupsAsync(
                    new DescribeTargetGroupsRequest()
                    {
                        Names = new List<string>() { groupName }
                    });
            var healthResponse =
                await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeTargetHealthAsync(
                    new DescribeTargetHealthRequest()
                    {
                        TargetGroupArn =
groupResponse.TargetGroups[0].TargetGroupArn
                    });
            ;
            result = healthResponse.TargetHealthDescriptions;
        }
        catch (TargetGroupNotFoundException)
        {
            Console.WriteLine($"Target group {groupName} not found.");
        }
        return result;
    }

    /// <summary>
    /// Create an Elastic Load Balancing target group. The target group specifies
    how the load balancer forwards
    /// requests to instances in the group and how instance health is checked.
    ///

```



```

    /// To speed up this demo, the health check is configured with shortened times
    and lower thresholds. In production,
    /// you might want to decrease the sensitivity of your health checks to avoid
    unwanted failures.
    /// </summary>
    /// <param name="groupName">The name for the group.</param>
    /// <param name="protocol">The protocol, such as HTTP.</param>
    /// <param name="port">The port to use to forward requests, such as 80.</param>
    /// <param name="vpcId">The Id of the Vpc in which the load balancer exists.</
param>
    /// <returns>The new TargetGroup object.</returns>
    public async Task<TargetGroup> CreateTargetGroupOnVpc(string groupName,
        ProtocolEnum protocol, int port, string vpcId)
    {
        var createResponse = await
        _amazonElasticLoadBalancingV2.CreateTargetGroupAsync(
            new CreateTargetGroupRequest()
            {
                Name = groupName,
                Protocol = protocol,
                Port = port,
                HealthCheckPath = "/healthcheck",
                HealthCheckIntervalSeconds = 10,
                HealthCheckTimeoutSeconds = 5,
                HealthyThresholdCount = 2,
                UnhealthyThresholdCount = 2,
                VpcId = vpcId
            });
        var targetGroup = createResponse.TargetGroups[0];
        return targetGroup;
    }

    /// <summary>
    /// Create an Elastic Load Balancing load balancer that uses the specified
    subnets
    /// and forwards requests to the specified target group.
    /// </summary>
    /// <param name="name">The name for the new load balancer.</param>
    /// <param name="subnetIds">Subnets for the load balancer.</param>
    /// <param name="targetGroup">Target group for forwarded requests.</param>
    /// <returns>The new LoadBalancer object.</returns>
    public async Task<LoadBalancer> CreateLoadBalancerAndListener(string name,
        List<string> subnetIds, TargetGroup targetGroup)
    {

```

```
var createLbResponse = await
_amazonElasticLoadBalancingV2.CreateLoadBalancerAsync(
    new CreateLoadBalancerRequest()
    {
        Name = name,
        Subnets = subnetIds
    });
var loadBalancerArn = createLbResponse.LoadBalancers[0].LoadBalancerArn;

// Wait for load balancer to be available.
var loadBalancerReady = false;
while (!loadBalancerReady)
{
    try
    {
        var describeResponse =
            await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeLoadBalancersAsync(
                new DescribeLoadBalancersRequest()
                {
                    Names = new List<string>() { name }
                });

        var loadBalancerState =
describeResponse.LoadBalancers[0].State.Code;

        loadBalancerReady = loadBalancerState ==
LoadBalancerStateEnum.Active;
    }
    catch (LoadBalancerNotFoundException)
    {
        loadBalancerReady = false;
    }
    Thread.Sleep(10000);
}
// Create the listener.
await _amazonElasticLoadBalancingV2.CreateListenerAsync(
    new CreateListenerRequest()
    {
        LoadBalancerArn = loadBalancerArn,
        Protocol = targetGroup.Protocol,
        Port = targetGroup.Port,
        DefaultActions = new List<Action>()
        {
            new Action()
```

```

        {
            Type = ActionTypeEnum.Forward,
            TargetGroupArn = targetGroup.TargetGroupArn
        }
    }
});
return createLbResponse.LoadBalancers[0];
}

/// <summary>
/// Verify this computer can successfully send a GET request to the
/// load balancer endpoint.
/// </summary>
/// <param name="endpoint">The endpoint to check.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> VerifyLoadBalancerEndpoint(string endpoint)
{
    var success = false;
    var retries = 3;
    while (!success && retries > 0)
    {
        try
        {
            var endpointResponse = await _httpClient.GetAsync($"http://{
{endpoint}");
            Console.WriteLine($"Response: {endpointResponse.StatusCode}.");

            if (endpointResponse.IsSuccessStatusCode)
            {
                success = true;
            }
            else
            {
                retries = 0;
            }
        }
        catch (HttpRequestException)
        {
            Console.WriteLine("Connection error, retrying...");
            retries--;
            Thread.Sleep(10000);
        }
    }
}

```

```

        return success;
    }

    /// <summary>
    /// Delete a load balancer by its specified name.
    /// </summary>
    /// <param name="name">The name of the load balancer to delete.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task DeleteLoadBalancerByName(string name)
    {
        try
        {
            var describeLoadBalancerResponse =
                await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeLoadBalancersAsync(
                    new DescribeLoadBalancersRequest()
                    {
                        Names = new List<string>() { name }
                    });
            var lbArn =
                describeLoadBalancerResponse.LoadBalancers[0].LoadBalancerArn;
            await _amazonElasticLoadBalancingV2.DeleteLoadBalancerAsync(
                new DeleteLoadBalancerRequest()
                {
                    LoadBalancerArn = lbArn
                }
            );
        }
        catch (LoadBalancerNotFoundException)
        {
            Console.WriteLine($"Load balancer {name} not found.");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Delete a TargetGroup by its specified name.
    /// </summary>
    /// <param name="groupName">Name of the group to delete.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task DeleteTargetGroupByName(string groupName)
    {
        var done = false;
        while (!done)
        {
            try

```

```

        {
            var groupResponse =
                await _amazonElasticLoadBalancingV2.DescribeTargetGroupsAsync(
                    new DescribeTargetGroupsRequest()
                    {
                        Names = new List<string>() { groupName }
                    });

            var targetArn = groupResponse.TargetGroups[0].TargetGroupArn;
            await _amazonElasticLoadBalancingV2.DeleteTargetGroupAsync(
                new DeleteTargetGroupRequest() { TargetGroupArn = targetArn });
            Console.WriteLine($"Deleted load balancing target group
{groupName}.");
            done = true;
        }
        catch (TargetGroupNotFoundException)
        {
            Console.WriteLine(
                $"Target group {groupName} not found, could not delete.");
            done = true;
        }
        catch (ResourceInUseException)
        {
            Console.WriteLine("Target group not yet released, waiting...");
            Thread.Sleep(10000);
        }
    }
}
}

```

DynamoDB を使用してレコメンデーションサービスをシミュレートするクラスを作成します。

```

/// <summary>
/// Encapsulates a DynamoDB table to use as a service that recommends books, movies,
/// and songs.
/// </summary>
public class Recommendations
{
    private readonly IAmazonDynamoDB _amazonDynamoDb;
    private readonly DynamoDBContext _context;
    private readonly string _tableName;
}

```

```

public string TableName => _tableName;

/// <summary>
/// Constructor for the Recommendations service.
/// </summary>
/// <param name="amazonDynamoDb">The injected DynamoDb client.</param>
/// <param name="configuration">The injected configuration.</param>
public Recommendations(IAmazonDynamoDB amazonDynamoDb, IConfiguration
configuration)
{
    _amazonDynamoDb = amazonDynamoDb;
    _context = new DynamoDBContext(_amazonDynamoDb);
    _tableName = configuration["databaseName"]!;
}

/// <summary>
/// Create the DynamoDb table with a specified name.
/// </summary>
/// <param name="tableName">The name for the table.</param>
/// <returns>True when ready.</returns>
public async Task<bool> CreateDatabaseWithName(string tableName)
{
    try
    {
        Console.WriteLine($"Creating table {tableName}...");
        var createRequest = new CreateTableRequest()
        {
            TableName = tableName,
            AttributeDefinitions = new List<AttributeDefinition>()
            {
                new AttributeDefinition()
                {
                    AttributeName = "MediaType",
                    AttributeType = ScalarAttributeType.S
                },
                new AttributeDefinition()
                {
                    AttributeName = "ItemId",
                    AttributeType = ScalarAttributeType.N
                }
            },
            KeySchema = new List<KeySchemaElement>()
            {
                new KeySchemaElement()

```

```
        {
            AttributeName = "MediaType",
            KeyType = KeyType.HASH
        },
        new KeySchemaElement()
        {
            AttributeName = "ItemId",
            KeyType = KeyType.RANGE
        }
    },
    ProvisionedThroughput = new ProvisionedThroughput()
    {
        ReadCapacityUnits = 5,
        WriteCapacityUnits = 5
    }
};
await _amazonDynamoDb.CreateTableAsync(createRequest);

// Wait until the table is ACTIVE and then report success.
Console.WriteLine("\nWaiting for table to become active...");

var request = new DescribeTableRequest
{
    TableName = tableName
};

TableStatus status;
do
{
    Thread.Sleep(2000);

    var describeTableResponse = await
        _amazonDynamoDb.DescribeTableAsync(request);
    status = describeTableResponse.Table.TableStatus;

    Console.WriteLine(".");
}
while (status != "ACTIVE");

return status == TableStatus.ACTIVE;
}
catch (ResourceInUseException)
{
    Console.WriteLine($"Table {tableName} already exists.");
}
```

```

        return false;
    }
}

/// <summary>
/// Populate the database table with data from a specified path.
/// </summary>
/// <param name="databaseTableName">The name of the table.</param>
/// <param name="recommendationsPath">The path of the recommendations data.</
param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task PopulateDatabase(string databaseTableName, string
recommendationsPath)
{
    var recommendationsText = await File.ReadAllTextAsync(recommendationsPath);
    var records =
        JsonSerializer.Deserialize<RecommendationModel[]>(recommendationsText);
    var batchWrite = _context.CreateBatchWrite<RecommendationModel>();

    foreach (var record in records!)
    {
        batchWrite.AddPutItem(record);
    }

    await batchWrite.ExecuteAsync();
}

/// <summary>
/// Delete the recommendation table by name.
/// </summary>
/// <param name="tableName">The name of the recommendation table.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task DestroyDatabaseByName(string tableName)
{
    try
    {
        await _amazonDynamoDb.DeleteTableAsync(
            new DeleteTableRequest() { TableName = tableName });
        Console.WriteLine($"Table {tableName} was deleted.");
    }
    catch (ResourceNotFoundException)
    {
        Console.WriteLine($"Table {tableName} not found");
    }
}

```



```
    }
}
```

Systems Manager のアクションをラップするクラスを作成します。

```
/// <summary>
/// Encapsulates Systems Manager parameter operations. This example uses these
/// parameters
/// to drive the demonstration of resilient architecture, such as failure of a
/// dependency or
/// how the service responds to a health check.
/// </summary>
public class SmParameterWrapper
{
    private readonly IAmazonSimpleSystemsManagement _amazonSimpleSystemsManagement;

    private readonly string _tableParameter = "doc-example-resilient-architecture-
table";
    private readonly string _failureResponseParameter = "doc-example-resilient-
architecture-failure-response";
    private readonly string _healthCheckParameter = "doc-example-resilient-
architecture-health-check";
    private readonly string _tableName = "";

    public string TableParameter => _tableParameter;
    public string TableName => _tableName;
    public string HealthCheckParameter => _healthCheckParameter;
    public string FailureResponseParameter => _failureResponseParameter;

    /// <summary>
    /// Constructor for the SmParameterWrapper.
    /// </summary>
    /// <param name="amazonSimpleSystemsManagement">The injected Simple Systems
Management client.</param>
    /// <param name="configuration">The injected configuration.</param>
    public SmParameterWrapper(IAmazonSimpleSystemsManagement
amazonSimpleSystemsManagement, IConfiguration configuration)
    {
        _amazonSimpleSystemsManagement = amazonSimpleSystemsManagement;
        _tableName = configuration["databaseName"]!;
    }
}
```

```
/// <summary>
/// Reset the Systems Manager parameters to starting values for the demo.
/// </summary>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task Reset()
{
    await this.PutParameterByName(_tableParameter, _tableName);
    await this.PutParameterByName(_failureResponseParameter, "none");
    await this.PutParameterByName(_healthCheckParameter, "shallow");
}

/// <summary>
/// Set the value of a named Systems Manager parameter.
/// </summary>
/// <param name="name">The name of the parameter.</param>
/// <param name="value">The value to set.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task PutParameterByName(string name, string value)
{
    await _amazonSimpleSystemsManagement.PutParameterAsync(
        new PutParameterRequest() { Name = name, Value = value, Overwrite =
true });
}
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
 - [AttachLoadBalancerTargetGroups](#)
 - [CreateAutoScalingGroup](#)
 - [CreateInstanceProfile](#)
 - [CreateLaunchTemplate](#)
 - [CreateListener](#)
 - [CreateLoadBalancer](#)
 - [CreateTargetGroup](#)
 - [DeleteAutoScalingGroup](#)
 - [DeleteInstanceProfile](#)
 - [DeleteLaunchTemplate](#)
 - [DeleteLoadBalancer](#)

- [DeleteTargetGroup](#)
- [DescribeAutoScalingGroups](#)
- [DescribeAvailabilityZones](#)
- [DescribeIamInstanceProfileAssociations](#)
- [DescribeInstances](#)
- [DescribeLoadBalancers](#)
- [DescribeSubnets](#)
- [DescribeTargetGroups](#)
- [DescribeTargetHealth](#)
- [DescribeVpcs](#)
- [RebootInstances](#)
- [ReplaceIamInstanceProfileAssociation](#)
- [TerminateInstanceInAutoScalingGroup](#)
- [UpdateAutoScalingGroup](#)

を使用した Amazon Keyspaces の例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon Keyspaces AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [はじめに](#)
- [基本](#)
- [アクション](#)

はじめに

Hello Amazon Keyspaces

次のコード例は、Amazon Keyspaces の使用を開始する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
namespace KeyspacesActions;

public class HelloKeyspaces
{
    private static ILogger logger = null!;

    static async Task Main(string[] args)
    {
        // Set up dependency injection for Amazon Keyspaces (for Apache Cassandra).
        using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
            .ConfigureLogging(logging =>
                logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
                .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
                    LogLevel.Information)
                .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
            .ConfigureServices((_, services) =>
                services.AddAWSService<IAmazonKeyspaces>()
                .AddTransient<KeyspacesWrapper>()
            )
            .Build();

        logger = LoggerFactory.Create(builder => { builder.AddConsole(); })
            .CreateLogger<HelloKeyspaces>();

        var keyspacesClient = host.Services.GetRequiredService<IAmazonKeyspaces>();
        var keyspacesWrapper = new KeyspacesWrapper(keyspacesClient);

        Console.WriteLine("Hello, Amazon Keyspaces! Let's list your keyspaces:");
```

```
        await keyspacesWrapper.ListKeyspaces();  
    }  
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListKeyspaces](#)」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- キースペースとテーブルを作成する。テーブルスキーマにはムービーデータが保存され、ポイントインタイムリカバリが有効になっています。
- SigV4 認証による安全な TLS 接続を使用してキースペースに接続します。
- テーブルに対してクエリを実行します。ムービーデータを追加、取得、更新します。
- テーブルを更新する。視聴したムービーを追跡する列を追加します。
- テーブルを以前の状態に戻し、リソースをクリーンアップします。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
global using System.Security.Cryptography.X509Certificates;  
global using Amazon.Keyspaces;  
global using Amazon.Keyspaces.Model;  
global using KeyspacesActions;  
global using KeyspacesScenario;  
global using Microsoft.Extensions.Configuration;  
global using Microsoft.Extensions.DependencyInjection;  
global using Microsoft.Extensions.Hosting;  
global using Microsoft.Extensions.Logging;
```

```
global using Microsoft.Extensions.Logging.Console;
global using Microsoft.Extensions.Logging.Debug;
global using Newtonsoft.Json;

namespace KeyspacesBasics;

/// <summary>
/// Amazon Keyspaces (for Apache Cassandra) scenario. Shows some of the basic
/// actions performed with Amazon Keyspaces.
/// </summary>
public class KeyspacesBasics
{
    private static ILogger logger = null!;

    static async Task Main(string[] args)
    {
        // Set up dependency injection for the Amazon service.
        using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
            .ConfigureLogging(logging =>
                logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
                    .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
                        LogLevel.Information)
                    .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
            .ConfigureServices((_, services) =>
                services.AddAWSService<IAmazonKeyspaces>()
                    .AddTransient<KeyspacesWrapper>()
                    .AddTransient<CassandraWrapper>()
                )
            .Build();

        logger = LoggerFactory.Create(builder => { builder.AddConsole(); })
            .CreateLogger<KeyspacesBasics>();

        var configuration = new ConfigurationBuilder()
            .SetBasePath(Directory.GetCurrentDirectory())
            .AddJsonFile("settings.json") // Load test settings from .json file.
            .AddJsonFile("settings.local.json",
                true) // Optionally load local settings.
            .Build();

        var keyspacesWrapper = host.Services.GetRequiredService<KeyspacesWrapper>();
        var uiMethods = new UiMethods();
```

```
var keySpaceName = configuration["KeyspaceName"];
var tableName = configuration["TableName"];

bool success; // Used to track the results of some operations.

uiMethods.DisplayOverview();
uiMethods.PressEnter();

// Create the keyspace.
var keySpaceArn = await keySpacesWrapper.CreateKeyspace(keySpaceName);

// Wait for the keyspace to be available. GetKeyspace results in a
// resource not found error until it is ready for use.
try
{
    var getKeySpaceArn = "";
    Console.WriteLine($"Created {keySpaceName}. Waiting for it to become
available. ");
    do
    {
        getKeySpaceArn = await keySpacesWrapper.GetKeyspace(keySpaceName);
        Console.WriteLine(". ");
    } while (getKeySpaceArn != keySpaceArn);
}
catch (ResourceNotFoundException)
{
    Console.WriteLine("Waiting for keyspace to be created.");
}

Console.WriteLine($"\\n\\nThe keyspace {keySpaceName} is ready for use.");

uiMethods.PressEnter();

// Create the table.
// First define the schema.
var allColumns = new List<ColumnDefinition>
{
    new ColumnDefinition { Name = "title", Type = "text" },
    new ColumnDefinition { Name = "year", Type = "int" },
    new ColumnDefinition { Name = "release_date", Type = "timestamp" },
    new ColumnDefinition { Name = "plot", Type = "text" },
};

var partitionKeys = new List<PartitionKey>
```

```
{
    new PartitionKey { Name = "year", },
    new PartitionKey { Name = "title" },
};

var tableSchema = new SchemaDefinition
{
    AllColumns = allColumns,
    PartitionKeys = partitionKeys,
};

var tableArn = await keyspacesWrapper.CreateTable(keyspaceName, tableSchema,
tableName);

// Wait for the table to be active.
try
{
    var resp = new GetTableResponse();
    Console.Write("Waiting for the new table to be active. ");
    do
    {
        try
        {
            resp = await keyspacesWrapper.GetTable(keyspaceName, tableName);
            Console.Write(".");
        }
        catch (ResourceNotFoundException)
        {
            Console.Write(".");
        }
    } while (resp.Status != TableStatus.ACTIVE);

    // Display the table's schema.
    Console.WriteLine($"\\nTable {tableName} has been created in
{keyspaceName}");
    Console.WriteLine("Let's take a look at the schema.");
    uiMethods.DisplayTitle("All columns");
    resp.SchemaDefinition.AllColumns.ForEach(column =>
    {
        Console.WriteLine($"{column.Name, -40}\\t{column.Type, -20}");
    });

    uiMethods.DisplayTitle("Cluster keys");
    resp.SchemaDefinition.ClusteringKeys.ForEach(clusterKey =>
```



```
{

Console.WriteLine($"{clusterKey.Name, -40}\t{clusterKey.OrderBy, -20}");
});

uiMethods.DisplayTitle("Partition keys");
resp.SchemaDefinition.PartitionKeys.ForEach(partitionKey =>
{
    Console.WriteLine($"{partitionKey.Name}");
});

uiMethods.PressEnter();
}
catch (ResourceNotFoundException ex)
{
    Console.WriteLine($"Error: {ex.Message}");
}

// Access Apache Cassandra using the Cassandra drive for C#.
var cassandraWrapper = host.Services.GetRequiredService<CassandraWrapper>();
var movieFilePath = configuration["MovieFile"];

Console.WriteLine("Let's add some movies to the table we created.");
var inserted = await cassandraWrapper.InsertIntoMovieTable(keyspaceName,
tableName, movieFilePath);

uiMethods.PressEnter();

Console.WriteLine("Added the following movies to the table:");
var rows = await cassandraWrapper.GetMovies(keyspaceName, tableName);
uiMethods.DisplayTitle("All Movies");

foreach (var row in rows)
{
    var title = row.GetValue<string>("title");
    var year = row.GetValue<int>("year");
    var plot = row.GetValue<string>("plot");
    var release_date = row.GetValue<DateTime>("release_date");
    Console.WriteLine($"{release_date}\t{title}\t{year}\n{plot}");
    Console.WriteLine(uiMethods.SepBar);
}

// Update the table schema
uiMethods.DisplayTitle("Update table schema");
```

```
Console.WriteLine("Now we will update the table to add a boolean field
called watched.");

// First save the current time as a UTC Date so the original
// table can be restored later.
var timeChanged = DateTime.UtcNow;

// Now update the schema.
var resourceArn = await keyspacesWrapper.UpdateTable(keyspaceName,
tableName);
uiMethods.PressEnter();

Console.WriteLine("Now let's mark some of the movies as watched.");

// Pick some files to mark as watched.
var movieToWatch = rows[2].GetValue<string>("title");
var watchedMovieYear = rows[2].GetValue<int>("year");
var changedRows = await cassandraWrapper.MarkMovieAsWatched(keyspaceName,
tableName, movieToWatch, watchedMovieYear);

movieToWatch = rows[6].GetValue<string>("title");
watchedMovieYear = rows[6].GetValue<int>("year");
changedRows = await cassandraWrapper.MarkMovieAsWatched(keyspaceName,
tableName, movieToWatch, watchedMovieYear);

movieToWatch = rows[9].GetValue<string>("title");
watchedMovieYear = rows[9].GetValue<int>("year");
changedRows = await cassandraWrapper.MarkMovieAsWatched(keyspaceName,
tableName, movieToWatch, watchedMovieYear);

movieToWatch = rows[10].GetValue<string>("title");
watchedMovieYear = rows[10].GetValue<int>("year");
changedRows = await cassandraWrapper.MarkMovieAsWatched(keyspaceName,
tableName, movieToWatch, watchedMovieYear);

movieToWatch = rows[13].GetValue<string>("title");
watchedMovieYear = rows[13].GetValue<int>("year");
changedRows = await cassandraWrapper.MarkMovieAsWatched(keyspaceName,
tableName, movieToWatch, watchedMovieYear);

uiMethods.DisplayTitle("Watched movies");
Console.WriteLine("These movies have been marked as watched:");
rows = await cassandraWrapper.GetWatchedMovies(keyspaceName, tableName);
foreach (var row in rows)
```

```

    {
        var title = row.GetValue<string>("title");
        var year = row.GetValue<int>("year");
        Console.WriteLine($"{title,-40}\t{year,8}");
    }
    uiMethods.PressEnter();

    Console.WriteLine("We can restore the table to its previous state but that
can take up to 20 minutes to complete.");
    string answer;
    do
    {
        Console.WriteLine("Do you want to restore the table? (y/n)");
        answer = Console.ReadLine();
    } while (answer.ToLower() != "y" && answer.ToLower() != "n");

    if (answer == "y")
    {
        var restoredTableName = $"{tableName}_restored";
        var restoredTableArn = await keyspacesWrapper.RestoreTable(
            keyspaceName,
            tableName,
            restoredTableName,
            timeChanged);
        // Loop and call GetTable until the table is gone. Once it has been
        // deleted completely, GetTable will raise a ResourceNotFoundException.
        bool wasRestored = false;

        try
        {
            do
            {
                var resp = await keyspacesWrapper.GetTable(keyspaceName,
restoredTableName);
                wasRestored = (resp.Status == TableStatus.ACTIVE);
            } while (!wasRestored);
        }
        catch (ResourceNotFoundException)
        {
            // If the restored table raised an error, it isn't
            // ready yet.
            Console.Write(".");
        }
    }
}

```

```

        uiMethods.DisplayTitle("Clean up resources.");

        // Delete the table.
        success = await keyspacesWrapper.DeleteTable(keyspaceName, tableName);

        Console.WriteLine($"Table {tableName} successfully deleted from
{keyspaceName}.");
        Console.WriteLine("Waiting for the table to be removed completely. ");

        // Loop and call GetTable until the table is gone. Once it has been
        // deleted completely, GetTable will raise a ResourceNotFoundException.
        bool wasDeleted = false;

        try
        {
            do
            {
                var resp = await keyspacesWrapper.GetTable(keyspaceName, tableName);
            } while (!wasDeleted);
        }
        catch (ResourceNotFoundException ex)
        {
            wasDeleted = true;
            Console.WriteLine($"{ex.Message} indicates that the table has been
deleted.");
        }

        // Delete the keyspace.
        success = await keyspacesWrapper.DeleteKeyspace(keyspaceName);
        Console.WriteLine("The keyspace has been deleted and the demo is now
complete.");
    }
}

```

```
namespace KeyspacesActions;
```

```

/// <summary>
/// Performs Amazon Keyspaces (for Apache Cassandra) actions.
/// </summary>
public class KeyspacesWrapper

```

```

{
    private readonly IAmazonKeyspaces _amazonKeyspaces;

    /// <summary>
    /// Constructor for the KeyspaceWrapper.
    /// </summary>
    /// <param name="amazonKeyspaces">An Amazon Keyspaces client object.</param>
    public KeyspacesWrapper(IAmazonKeyspaces amazonKeyspaces)
    {
        _amazonKeyspaces = amazonKeyspaces;
    }

    /// <summary>
    /// Create a new keyspace.
    /// </summary>
    /// <param name="keyspaceName">The name for the new keyspace.</param>
    /// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the new keyspace.</returns>
    public async Task<string> CreateKeyspace(string keyspaceName)
    {
        var response =
            await _amazonKeyspaces.CreateKeyspaceAsync(
                new CreateKeyspaceRequest { KeyspaceName = keyspaceName });
        return response.ResourceArn;
    }

    /// <summary>
    /// Create a new Amazon Keyspaces table.
    /// </summary>
    /// <param name="keyspaceName">The keyspace where the table will be created.</
param>
    /// <param name="schema">The schema for the new table.</param>
    /// <param name="tableName">The name of the new table.</param>
    /// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the new table.</returns>
    public async Task<string> CreateTable(string keyspaceName, SchemaDefinition
schema, string tableName)
    {
        var request = new CreateTableRequest
        {
            KeyspaceName = keyspaceName,
            SchemaDefinition = schema,
            TableName = tableName,
            PointInTimeRecovery = new PointInTimeRecovery { Status =
PointInTimeRecoveryStatus.ENABLED }

```

```

    };

    var response = await _amazonKeyspaces.CreateTableAsync(request);
    return response.ResourceArn;
}

/// <summary>
/// Delete an existing keyspace.
/// </summary>
/// <param name="keyspaceName"></param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteKeyspace(string keyspaceName)
{
    var response = await _amazonKeyspaces.DeleteKeyspaceAsync(
        new DeleteKeyspaceRequest { KeyspaceName = keyspaceName });
    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}

/// <summary>
/// Delete an Amazon Keyspaces table.
/// </summary>
/// <param name="keyspaceName">The keyspace containing the table.</param>
/// <param name="tableName">The name of the table to delete.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteTable(string keyspaceName, string tableName)
{
    var response = await _amazonKeyspaces.DeleteTableAsync(
        new DeleteTableRequest { KeyspaceName = keyspaceName, TableName =
tableName });
    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}

/// <summary>
/// Get data about a keyspace.
/// </summary>
/// <param name="keyspaceName">The name of the keyspace.</param>
/// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the keyspace.</returns>
public async Task<string> GetKeyspace(string keyspaceName)
{
    var response = await _amazonKeyspaces.GetKeyspaceAsync(
        new GetKeyspaceRequest { KeyspaceName = keyspaceName });

```

```

        return response.ResourceArn;
    }

    /// <summary>
    /// Get information about an Amazon Keyspaces table.
    /// </summary>
    /// <param name="keyspaceName">The keyspace containing the table.</param>
    /// <param name="tableName">The name of the Amazon Keyspaces table.</param>
    /// <returns>The response containing data about the table.</returns>
    public async Task<GetTableResponse> GetTable(string keyspaceName, string
tableName)
    {
        var response = await _amazonKeyspaces.GetTableAsync(
            new GetTableRequest { KeyspaceName = keyspaceName, TableName =
tableName });
        return response;
    }

    /// <summary>
    /// Lists all keyspaces for the account.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task ListKeyspaces()
    {
        var paginator = _amazonKeyspaces.Paginators.ListKeyspaces(new
ListKeyspacesRequest());

        Console.WriteLine("{0, -30}\t{1}", "Keyspace name", "Keyspace ARN");
        Console.WriteLine(new string('-', Console.WindowWidth));
        await foreach (var keyspace in paginator.Keyspaces)
        {
            Console.WriteLine($"{keyspace.KeyspaceName, -30}\t{keyspace.ResourceArn}");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Lists the Amazon Keyspaces tables in a keyspace.
    /// </summary>
    /// <param name="keyspaceName">The name of the keyspace.</param>
    /// <returns>A list of TableSummary objects.</returns>

```

```

    public async Task<List<TableSummary>> ListTables(string keyspaceName)
    {
        var response = await _amazonKeyspaces.ListTablesAsync(new ListTablesRequest
        { KeyspaceName = keyspaceName });
        response.Tables.ForEach(table =>
        {

Console.WriteLine($"{table.KeyspaceName}\t{table.TableName}\t{table.ResourceArn}");
        });

        return response.Tables;
    }

    /// <summary>
    /// Restores the specified table to the specified point in time.
    /// </summary>
    /// <param name="keyspaceName">The keyspace containing the table.</param>
    /// <param name="tableName">The name of the table to restore.</param>
    /// <param name="timestamp">The time to which the table will be restored.</
param>
    /// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the restored table.</returns>
    public async Task<string> RestoreTable(string keyspaceName, string tableName,
string restoredTableName, DateTime timestamp)
    {
        var request = new RestoreTableRequest
        {
            RestoreTimestamp = timestamp,
            SourceKeyspaceName = keyspaceName,
            SourceTableName = tableName,
            TargetKeyspaceName = keyspaceName,
            TargetTableName = restoredTableName
        };

        var response = await _amazonKeyspaces.RestoreTableAsync(request);
        return response.RestoredTableARN;
    }

    /// <summary>
    /// Updates the movie table to add a boolean column named watched.
    /// </summary>
    /// <param name="keyspaceName">The keyspace containing the table.</param>
    /// <param name="tableName">The name of the table to change.</param>

```



```

    /// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the updated table.</returns>
    public async Task<string> UpdateTable(string keyspaceName, string tableName)
    {
        var newColumn = new ColumnDefinition { Name = "watched", Type = "boolean" };
        var request = new UpdateTableRequest
        {
            KeyspaceName = keyspaceName,
            TableName = tableName,
            AddColumns = new List<ColumnDefinition> { newColumn }
        };
        var response = await _amazonKeyspaces.UpdateTableAsync(request);
        return response.ResourceArn;
    }
}

```

```

using System.Net;
using Cassandra;

namespace KeyspacesScenario;

/// <summary>
/// Class to perform CRUD methods on an Amazon Keyspaces (for Apache Cassandra)
/// database.
///
/// NOTE: This sample uses a plain text authenticator for example purposes only.
/// Recommended best practice is to use a SigV4 authentication plugin, if available.
/// </summary>
public class CassandraWrapper
{
    private readonly IConfiguration _configuration;
    private readonly string _localPathToFile;
    private const string _certLocation = "https://certs.secureserver.net/repository/sf-class2-root.crt";
    private const string _certFileName = "sf-class2-root.crt";
    private readonly X509Certificate2Collection _certCollection;
    private X509Certificate2 _amazoncert;
    private Cluster _cluster;

    // User name and password for the service.
    private string _userName = null!;

```

```

private string _pwd = null!;

public CassandraWrapper()
{
    _configuration = new ConfigurationBuilder()
        .SetBasePath(Directory.GetCurrentDirectory())
        .AddJsonFile("settings.json") // Load test settings from .json file.
        .AddJsonFile("settings.local.json",
            true) // Optionally load local settings.
        .Build();

    _localPathToFile = Path.GetTempPath();

    // Get the Starfield digital certificate and save it locally.
    var client = new WebClient();
    client.DownloadFile(_certLocation, $"{_localPathToFile}/{_certFileName}");

    //var httpClient = new HttpClient();
    //var httpResult = httpClient.Get(fileUrl);
    //using var resultStream = await httpResult.Content.ReadAsStreamAsync();
    //using var fileStream = File.Create(pathToSave);
    //resultStream.CopyTo(fileStream);

    _certCollection = new X509Certificate2Collection();
    _amazoncert = new X509Certificate2($"{_localPathToFile}/{_certFileName}");

    // Get the user name and password stored in the configuration file.
    _userName = _configuration["UserName"]!;
    _pwd = _configuration["Password"]!;

    // For a list of Service Endpoints for Amazon Keyspaces, see:
    // https://docs.aws.amazon.com/keyspaces/latest/devguide/
    programmatic.endpoints.html
    var awsEndpoint = _configuration["ServiceEndpoint"];

    _cluster = Cluster.Builder()
        .AddContactPoints(awsEndpoint)
        .WithPort(9142)
        .WithAuthProvider(new PlainTextAuthProvider(_userName, _pwd))
        .WithSSL(new SSLOptions().SetCertificateCollection(_certCollection))
        .WithQueryOptions(
            new QueryOptions()
                .SetConsistencyLevel(ConsistencyLevel.LocalQuorum)
                .SetSerialConsistencyLevel(ConsistencyLevel.LocalSerial))

```

```

        .Build();
    }

    /// <summary>
    /// Loads the contents of a JSON file into a list of movies to be
    /// added to the Apache Cassandra table.
    /// </summary>
    /// <param name="movieFileName">The full path to the JSON file.</param>
    /// <returns>A list of movie objects.</returns>
    public List<Movie> ImportMoviesFromJson(string movieFileName, int numToImport =
0)
    {
        if (!File.Exists(movieFileName))
        {
            return null!;
        }

        using var sr = new StreamReader(movieFileName);
        string json = sr.ReadToEnd();

        var allMovies = JsonConvert.DeserializeObject<List<Movie>>(json);

        // If numToImport = 0, return all movies in the collection.
        if (numToImport == 0)
        {
            // Now return the entire list of movies.
            return allMovies;
        }
        else
        {
            // Now return the first numToImport entries.
            return allMovies.GetRange(0, numToImport);
        }
    }

    /// <summary>
    /// Insert movies into the movie table.
    /// </summary>
    /// <param name="keyspaceName">The keyspace containing the table.</param>
    /// <param name="movieTableName">The Amazon Keyspaces table.</param>
    /// <param name="movieFilePath">The path to the resource file containing
    /// movie data to insert into the table.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>

```

```

    public async Task<bool> InsertIntoMovieTable(string keyspaceName, string
movieTableName, string movieFilePath, int numToImport = 20)
    {
        // Get some movie data from the movies.json file
        var movies = ImportMoviesFromJson(movieFilePath, numToImport);

        var session = _cluster.Connect(keyspaceName);

        string insertCql;

        RowSet rs;

        // Now we insert the numToImport movies into the table.
        foreach (var movie in movies)
        {
            // Escape single quote characters in the plot.
            insertCql = $"INSERT INTO {keyspaceName}.{movieTableName}
(title, year, release_date, plot) values($${movie.Title}$$, {movie.Year},
'{movie.Info.Release_Date.ToString("yyyy-MM-dd")} ', $${movie.Info.Plot}$$)";
            rs = await session.ExecuteAsync(new SimpleStatement(insertCql));
        }

        return true;
    }

    /// <summary>
    /// Gets all of the movies in the movies table.
    /// </summary>
    /// <param name="keyspaceName">The keyspace containing the table.</param>
    /// <param name="tableName">The name of the table.</param>
    /// <returns>A list of row objects containing movie data.</returns>
    public async Task<List<Row>> GetMovies(string keyspaceName, string tableName)
    {
        var session = _cluster.Connect();
        RowSet rs;
        try
        {
            rs = await session.ExecuteAsync(new SimpleStatement($"SELECT * FROM
{keyspaceName}.{tableName}"));

            // Extract the row data from the returned RowSet.
            var rows = rs.GetRows().ToList();
            return rows;
        }
    }

```

```

        catch (Exception ex)
        {
            Console.WriteLine(ex.Message);
            return null!;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Mark a movie in the movie table as watched.
    /// </summary>
    /// <param name="keyspaceName">The keyspace containing the table.</param>
    /// <param name="tableName">The name of the table.</param>
    /// <param name="title">The title of the movie to mark as watched.</param>
    /// <param name="year">The year the movie was released.</param>
    /// <returns>A set of rows containing the changed data.</returns>
    public async Task<List<Row>> MarkMovieAsWatched(string keyspaceName, string
tableName, string title, int year)
    {
        var session = _cluster.Connect();
        string updateCql = $"UPDATE {keyspaceName}.{tableName} SET watched=true
WHERE title = ${title} AND year = {year}";
        var rs = await session.ExecuteAsync(new SimpleStatement(updateCql));
        var rows = rs.GetRows().ToList();
        return rows;
    }

    /// <summary>
    /// Retrieve the movies in the movies table where watched is true.
    /// </summary>
    /// <param name="keyspaceName">The keyspace containing the table.</param>
    /// <param name="tableName">The name of the table.</param>
    /// <returns>A list of row objects containing information about movies
    /// where watched is true.</returns>
    public async Task<List<Row>> GetWatchedMovies(string keyspaceName, string
tableName)
    {
        var session = _cluster.Connect();
        RowSet rs;
        try
        {
            rs = await session.ExecuteAsync(new SimpleStatement($"SELECT title,
year, plot FROM {keyspaceName}.{tableName} WHERE watched = true ALLOW FILTERING"));

            // Extract the row data from the returned RowSet.

```

```
        var rows = rs.GetRows().ToList();
        return rows;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine(ex.Message);
        return null!;
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。

- [CreateKeyspace](#)
- [CreateTable](#)
- [DeleteKeyspace](#)
- [DeleteTable](#)
- [GetKeyspace](#)
- [GetTable](#)
- [ListKeyspaces](#)
- [ListTables](#)
- [RestoreTable](#)
- [UpdateTable](#)

アクション

CreateKeyspace

次のコード例は、CreateKeyspace を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Create a new keyspace.
/// </summary>
/// <param name="keyspaceName">The name for the new keyspace.</param>
/// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the new keyspace.</returns>
public async Task<string> CreateKeyspace(string keyspaceName)
{
    var response =
        await _amazonKeyspaces.CreateKeyspaceAsync(
            new CreateKeyspaceRequest { KeyspaceName = keyspaceName });
    return response.ResourceArn;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CreateKeyspace](#)」を参照してください。

CreateTable

次のコード例は、CreateTable を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Create a new Amazon Keyspaces table.
```

```

    /// </summary>
    /// <param name="keyspaceName">The keyspace where the table will be created.</param>
    /// <param name="schema">The schema for the new table.</param>
    /// <param name="tableName">The name of the new table.</param>
    /// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the new table.</returns>
    public async Task<string> CreateTable(string keyspaceName, SchemaDefinition
    schema, string tableName)
    {
        var request = new CreateTableRequest
        {
            KeyspaceName = keyspaceName,
            SchemaDefinition = schema,
            TableName = tableName,
            PointInTimeRecovery = new PointInTimeRecovery { Status =
PointInTimeRecoveryStatus.ENABLED }
        };

        var response = await _amazonKeyspaces.CreateTableAsync(request);
        return response.ResourceArn;
    }

```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateTable](#)」を参照してください。

DeleteKeyspace

次のコード例は、DeleteKeyspace を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

    /// <summary>
    /// Delete an existing keyspace.

```



```
/// </summary>
/// <param name="keyspaceName"></param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteKeyspace(string keyspaceName)
{
    var response = await _amazonKeyspaces.DeleteKeyspaceAsync(
        new DeleteKeyspaceRequest { KeyspaceName = keyspaceName });
    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeleteKeyspace](#)」を参照してください。

DeleteTable

次のコード例は、DeleteTable を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete an Amazon Keyspaces table.
/// </summary>
/// <param name="keyspaceName">The keyspace containing the table.</param>
/// <param name="tableName">The name of the table to delete.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteTable(string keyspaceName, string tableName)
{
    var response = await _amazonKeyspaces.DeleteTableAsync(
        new DeleteTableRequest { KeyspaceName = keyspaceName, TableName =
tableName });
    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteTable](#)」を参照してください。

GetKeyspace

次のコード例は、GetKeyspace を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get data about a keyspace.
/// </summary>
/// <param name="keyspaceName">The name of the keyspace.</param>
/// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the keyspace.</returns>
public async Task<string> GetKeyspace(string keyspaceName)
{
    var response = await _amazonKeyspaces.GetKeyspaceAsync(
        new GetKeyspaceRequest { KeyspaceName = keyspaceName });
    return response.ResourceArn;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[GetKeyspace](#)」を参照してください。

GetTable

次のコード例は、GetTable を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get information about an Amazon Keyspaces table.
/// </summary>
/// <param name="keyspaceName">The keyspace containing the table.</param>
/// <param name="tableName">The name of the Amazon Keyspaces table.</param>
/// <returns>The response containing data about the table.</returns>
public async Task<GetTableResponse> GetTable(string keyspaceName, string
tableName)
{
    var response = await _amazonKeyspaces.GetTableAsync(
        new GetTableRequest { KeyspaceName = keyspaceName, TableName =
tableName });
    return response;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetTable](#)」を参照してください。

ListKeyspaces

次のコード例は、ListKeyspaces を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

/// <summary>
/// Lists all keyspaces for the account.
/// </summary>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task ListKeyspaces()
{
    var paginator = _amazonKeyspaces.Paginators.ListKeyspaces(new
ListKeyspacesRequest());

    Console.WriteLine("{0, -30}\t{1}", "Keyspace name", "Keyspace ARN");
    Console.WriteLine(new string('-', Console.WindowWidth));
    await foreach (var keyspace in paginator.Keyspaces)
    {
        Console.WriteLine($"{keyspace.KeyspaceName, -30}\t{keyspace.ResourceArn}");
    }
}

```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListKeyspaces](#)」を参照してください。

ListTables

次のコード例は、ListTables を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

/// <summary>
/// Lists the Amazon Keyspaces tables in a keyspace.
/// </summary>
/// <param name="keyspaceName">The name of the keyspace.</param>
/// <returns>A list of TableSummary objects.</returns>
public async Task<List<TableSummary>> ListTables(string keyspaceName)

```

```
{
    var response = await _amazonKeyspaces.ListTablesAsync(new ListTablesRequest
    { KeyspaceName = keyspaceName });
    response.Tables.ForEach(table =>
    {
        Console.WriteLine($"{table.KeyspaceName}\t{table.TableName}\t{table.ResourceArn}");
    });

    return response.Tables;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListTables](#)」を参照してください。

RestoreTable

次のコード例は、RestoreTable を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Restores the specified table to the specified point in time.
/// </summary>
/// <param name="keyspaceName">The keyspace containing the table.</param>
/// <param name="tableName">The name of the table to restore.</param>
/// <param name="timestamp">The time to which the table will be restored.</
param>
/// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the restored table.</returns>
public async Task<string> RestoreTable(string keyspaceName, string tableName,
string restoredTableName, DateTime timestamp)
{
    var request = new RestoreTableRequest
```

```

    {
        RestoreTimestamp = timestamp,
        SourceKeyspaceName = keyspaceName,
        SourceTableName = tableName,
        TargetKeyspaceName = keyspaceName,
        TargetTableName = restoredTableName
    };

    var response = await _amazonKeyspaces.RestoreTableAsync(request);
    return response.RestoredTableARN;
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[RestoreTable](#)」を参照してください。

UpdateTable

次のコード例は、UpdateTable を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

/// <summary>
/// Updates the movie table to add a boolean column named watched.
/// </summary>
/// <param name="keyspaceName">The keyspace containing the table.</param>
/// <param name="tableName">The name of the table to change.</param>
/// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the updated table.</returns>
public async Task<string> UpdateTable(string keyspaceName, string tableName)
{
    var newColumn = new ColumnDefinition { Name = "watched", Type = "boolean" };
    var request = new UpdateTableRequest
    {
        KeyspaceName = keyspaceName,

```

```
        TableName = tableName,  
        AddColumns = new List<ColumnDefinition> { newColumn }  
    };  
    var response = await _amazonKeyspaces.UpdateTableAsync(request);  
    return response.ResourceArn;  
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[UpdateTable](#)」を参照してください。

を使用した Kinesis の例 SDK for .NET

次のコード例は、Kinesis AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)
- [サーバーレスサンプル](#)

アクション

AddTagsToStream

次のコード例は、AddTagsToStream を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Kinesis;
using Amazon.Kinesis.Model;

/// <summary>
/// This example shows how to apply key/value pairs to an Amazon Kinesis
/// stream.
/// </summary>
public class TagStream
{
    public static async Task Main()
    {
        IAmazonKinesis client = new AmazonKinesisClient();

        string streamName = "AmazonKinesisStream";
        var tags = new Dictionary<string, string>
        {
            { "Project", "Sample Kinesis Project" },
            { "Application", "Sample Kinesis App" },
        };

        var success = await ApplyTagsToStreamAsync(client, streamName, tags);

        if (success)
        {
            Console.WriteLine($"Taggs successfully added to {streamName}.");
        }
        else
        {
            Console.WriteLine("Tags were not added to the stream.");
        }
    }
}
```



```
/// <summary>
/// Applies the set of tags to the named Kinesis stream.
/// </summary>
/// <param name="client">The initialized Kinesis client.</param>
/// <param name="streamName">The name of the Kinesis stream to which
/// the tags will be attached.</param>
/// <param name="tags">A dictionary containing key/value pairs which
/// will be used to create the Kinesis tags.</param>
/// <returns>A Boolean value which represents the success or failure
/// of AddTagsToStreamAsync.</returns>
public static async Task<bool> ApplyTagsToStreamAsync(
    IAmazonKinesis client,
    string streamName,
    Dictionary<string, string> tags)
{
    var request = new AddTagsToStreamRequest
    {
        StreamName = streamName,
        Tags = tags,
    };

    var response = await client.AddTagsToStreamAsync(request);

    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[AddTagsToStream](#)」を参照してください。

CreateStream

次のコード例は、CreateStream を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Kinesis;
using Amazon.Kinesis.Model;

/// <summary>
/// This example shows how to create a new Amazon Kinesis stream.
/// </summary>
public class CreateStream
{
    public static async Task Main()
    {
        IAmazonKinesis client = new AmazonKinesisClient();

        string streamName = "AmazonKinesisStream";
        int shardCount = 1;

        var success = await CreateNewStreamAsync(client, streamName,
shardCount);
        if (success)
        {
            Console.WriteLine($"The stream, {streamName} successfully
created.");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Creates a new Kinesis stream.
    /// </summary>
    /// <param name="client">An initialized Kinesis client.</param>
    /// <param name="streamName">The name for the new stream.</param>
    /// <param name="shardCount">The number of shards the new stream will
    /// use. The throughput of the stream is a function of the number of
    /// shards; more shards are required for greater provisioned
```

```
        /// throughput.</param>
        /// <returns>A Boolean value indicating whether the stream was created.</returns>
        public static async Task<bool> CreateNewStreamAsync(IAmazonKinesis client,
            string streamName, int shardCount)
        {
            var request = new CreateStreamRequest
            {
                StreamName = streamName,
                ShardCount = shardCount,
            };

            var response = await client.CreateStreamAsync(request);

            return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
        }
    }
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateStream](#)」を参照してください。

DeleteStream

次のコード例は、DeleteStream を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Kinesis;
using Amazon.Kinesis.Model;

/// <summary>
```

```

    /// Shows how to delete an Amazon Kinesis stream.
    /// </summary>
    public class DeleteStream
    {
        public static async Task Main()
        {
            IAmazonKinesis client = new AmazonKinesisClient();
            string streamName = "AmazonKinesisStream";

            var success = await DeleteStreamAsync(client, streamName);

            if (success)
            {
                Console.WriteLine($"Stream, {streamName} successfully deleted.");
            }
            else
            {
                Console.WriteLine("Stream not deleted.");
            }
        }

        /// <summary>
        /// Deletes a Kinesis stream.
        /// </summary>
        /// <param name="client">An initialized Kinesis client object.</param>
        /// <param name="streamName">The name of the string to delete.</param>
        /// <returns>A Boolean value representing the success of the operation.</
returns>
        public static async Task<bool> DeleteStreamAsync(IAmazonKinesis client,
string streamName)
        {
            // If EnforceConsumerDeletion is true, any consumers
            // of this stream will also be deleted. If it is set
            // to false and this stream has any consumers, the
            // call will fail with a ResourceInUseException.
            var request = new DeleteStreamRequest
            {
                StreamName = streamName,
                EnforceConsumerDeletion = true,
            };

            var response = await client.DeleteStreamAsync(request);

            return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
        }
    }

```

```
}  
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeleteStream](#)」を参照してください。

DeregisterStreamConsumer

次のコード例は、DeregisterStreamConsumer を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;  
using System.Threading.Tasks;  
using Amazon.Kinesis;  
using Amazon.Kinesis.Model;  
  
/// <summary>  
/// Shows how to deregister a consumer from an Amazon Kinesis stream.  
/// </summary>  
public class DeregisterConsumer  
{  
    public static async Task Main(string[] args)  
    {  
        IAmazonKinesis client = new AmazonKinesisClient();  
  
        string streamARN = "arn:aws:kinesis:us-west-2:000000000000:stream/  
AmazonKinesisStream";  
        string consumerName = "CONSUMER_NAME";  
        string consumerARN = "arn:aws:kinesis:us-west-2:000000000000:stream/  
AmazonKinesisStream/consumer/CONSUMER_NAME:000000000000";
```

```

        var success = await DeregisterConsumerAsync(client, streamARN,
consumerARN, consumerName);

        if (success)
        {
            Console.WriteLine($"{consumerName} successfully deregistered.");
        }
        else
        {
            Console.WriteLine($"{consumerName} was not successfully
deregistered.");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Deregisters a consumer from a Kinesis stream.
    /// </summary>
    /// <param name="client">An initialized Kinesis client object.</param>
    /// <param name="streamARN">The ARN of a Kinesis stream.</param>
    /// <param name="consumerARN">The ARN of the consumer.</param>
    /// <param name="consumerName">The name of the consumer.</param>
    /// <returns>A Boolean value representing the success of the operation.</
returns>
    public static async Task<bool> DeregisterConsumerAsync(
        IAmazonKinesis client,
        string streamARN,
        string consumerARN,
        string consumerName)
    {
        var request = new DeregisterStreamConsumerRequest
        {
            StreamARN = streamARN,
            ConsumerARN = consumerARN,
            ConsumerName = consumerName,
        };

        var response = await client.DeregisterStreamConsumerAsync(request);

        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }
}

```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeregisterStreamConsumer](#)」を参照してください。

ListStreamConsumers

次のコード例は、ListStreamConsumers を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Kinesis;
using Amazon.Kinesis.Model;

/// <summary>
/// List the consumers of an Amazon Kinesis stream.
/// </summary>
public class ListConsumers
{
    public static async Task Main()
    {
        IAmazonKinesis client = new AmazonKinesisClient();

        string streamARN = "arn:aws:kinesis:us-east-2:000000000000:stream/AmazonKinesisStream";
        int maxResults = 10;

        var consumers = await ListConsumersAsync(client, streamARN, maxResults);

        if (consumers.Count > 0)
        {
            consumers
                .ForEach(c => Console.WriteLine($"Name: {c.ConsumerName} ARN: {c.ConsumerARN}"));
        }
    }
}
```

```
        else
        {
            Console.WriteLine("No consumers found.");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Retrieve a list of the consumers for a Kinesis stream.
    /// </summary>
    /// <param name="client">An initialized Kinesis client object.</param>
    /// <param name="streamARN">The ARN of the stream for which we want to
    /// retrieve a list of clients.</param>
    /// <param name="maxResults">The maximum number of results to return.</
param>
    /// <returns>A list of Consumer objects.</returns>
    public static async Task<List<Consumer>> ListConsumersAsync(IAmazonKinesis
client, string streamARN, int maxResults)
    {
        var request = new ListStreamConsumersRequest
        {
            StreamARN = streamARN,
            MaxResults = maxResults,
        };

        var response = await client.ListStreamConsumersAsync(request);

        return response.Consumers;
    }
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の [ListStreamConsumers](#) を参照してください。

ListStreams

次のコード例は、ListStreams を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Kinesis;
using Amazon.Kinesis.Model;

/// <summary>
/// Retrieves and displays a list of existing Amazon Kinesis streams.
/// </summary>
public class ListStreams
{
    public static async Task Main(string[] args)
    {
        IAmazonKinesis client = new AmazonKinesisClient();
        var response = await client.ListStreamsAsync(new ListStreamsRequest());

        List<string> streamNames = response.StreamNames;

        if (streamNames.Count > 0)
        {
            streamNames
                .ForEach(s => Console.WriteLine($"Stream name: {s}"));
        }
        else
        {
            Console.WriteLine("No streams were found.");
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListStreams](#)」を参照してください。

ListTagsForStream

次のコード例は、ListTagsForStream を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Kinesis;
using Amazon.Kinesis.Model;

/// <summary>
/// Shows how to list the tags that have been attached to an Amazon Kinesis
/// stream.
/// </summary>
public class ListTags
{
    public static async Task Main()
    {
        IAmazonKinesis client = new AmazonKinesisClient();
        string streamName = "AmazonKinesisStream";

        await ListTagsAsync(client, streamName);
    }

    /// <summary>
    /// List the tags attached to a Kinesis stream.
    /// </summary>
    /// <param name="client">An initialized Kinesis client object.</param>
    /// <param name="streamName">The name of the Kinesis stream for which you
    /// wish to display tags.</param>
    public static async Task ListTagsAsync(IAmazonKinesis client, string
streamName)
    {
        var request = new ListTagsForStreamRequest
        {
```

```

        StreamName = streamName,
        Limit = 10,
    };

    var response = await client.ListTagsForStreamAsync(request);
    DisplayTags(response.Tags);

    while (response.HasMoreTags)
    {
        request.ExclusiveStartTagKey = response.Tags[response.Tags.Count -
1].Key;
        response = await client.ListTagsForStreamAsync(request);
    }
}

/// <summary>
/// Displays the items in a list of Kinesis tags.
/// </summary>
/// <param name="tags">A list of the Tag objects to be displayed.</param>
public static void DisplayTags(List<Tag> tags)
{
    tags
        .ForEach(t => Console.WriteLine($"Key: {t.Key} Value: {t.Value}"));
}
}

```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListTagsForStream](#)」を参照してください。

RegisterStreamConsumer

次のコード例は、RegisterStreamConsumer を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Kinesis;
using Amazon.Kinesis.Model;

/// <summary>
/// This example shows how to register a consumer to an Amazon Kinesis
/// stream.
/// </summary>
public class RegisterConsumer
{
    public static async Task Main()
    {
        IAmazonKinesis client = new AmazonKinesisClient();
        string consumerName = "NEW_CONSUMER_NAME";
        string streamARN = "arn:aws:kinesis:us-east-2:000000000000:stream/
AmazonKinesisStream";

        var consumer = await RegisterConsumerAsync(client, consumerName,
streamARN);

        if (consumer is not null)
        {
            Console.WriteLine($"{consumer.ConsumerName}");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Registers the consumer to a Kinesis stream.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Kinesis client object.</param>
    /// <param name="consumerName">A string representing the consumer.</param>
    /// <param name="streamARN">The ARN of the stream.</param>
    /// <returns>A Consumer object that contains information about the
consumer.</returns>
    public static async Task<Consumer> RegisterConsumerAsync(IAmazonKinesis
client, string consumerName, string streamARN)
    {
        var request = new RegisterStreamConsumerRequest
        {
            ConsumerName = consumerName,
            StreamARN = streamARN,
        };
    }
}

```

```
        var response = await client.RegisterStreamConsumerAsync(request);  
        return response.Consumer;  
    }  
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ス RegisterStreamConsumer](#)」を参照してください。

サーバーレスサンプル

Kinesis トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例では、Kinesis ストリームからレコードを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る、Lambda 関数の実装方法を示しています。この関数は Kinesis ペイロードを取得し、それを Base64 からデコードして、そのレコードの内容をログ記録します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

.NET を使用した Lambda での Kinesis イベントの消費。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.  
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0  
using System.Text;  
using Amazon.Lambda.Core;  
using Amazon.Lambda.KinesisEvents;  
using AWS.Lambda.Powertools.Logging;  
  
// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted  
// into a .NET class.  
[assembly:  
    LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))  
]
```

```
namespace KinesisIntegrationSampleCode;

public class Function
{
    // Powertools Logger requires an environment variables against your function
    // POWERTOOLS_SERVICE_NAME
    [Logging(LogEvent = true)]
    public async Task FunctionHandler(KinesisEvent evnt, ILambdaContext context)
    {
        if (evnt.Records.Count == 0)
        {
            Logger.LogInformation("Empty Kinesis Event received");
            return;
        }

        foreach (var record in evnt.Records)
        {
            try
            {
                Logger.LogInformation($"Processed Event with EventId:
{record.EventId}");
                string data = await GetRecordDataAsync(record.Kinesis, context);
                Logger.LogInformation($"Data: {data}");
                // TODO: Do interesting work based on the new data
            }
            catch (Exception ex)
            {
                Logger.LogError($"An error occurred {ex.Message}");
                throw;
            }
        }
        Logger.LogInformation($"Successfully processed {evnt.Records.Count}
records.");
    }

    private async Task<string> GetRecordDataAsync(KinesisEvent.Record record,
ILambdaContext context)
    {
        byte[] bytes = record.Data.ToArray();
        string data = Encoding.UTF8.GetString(bytes);
        await Task.CompletedTask; //Placeholder for actual async work
        return data;
    }
}
```

```
}
```

Kinesis トリガーを使用した Lambda 関数でのバッチアイテム失敗のレポート

以下のコード例では、Kinesis ストリームからイベントを受け取る Lambda 関数のための、部分的なバッチレスポンスの実装方法を示しています。この関数は、レスポンスとしてバッチアイテムの失敗を報告し、対象のメッセージを後で再試行するよう Lambda に伝えます。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

.NET を使用した Lambda での Kinesis バッチアイテム失敗のレポート。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
using System.Text;
using System.Text.Json.Serialization;
using Amazon.Lambda.Core;
using Amazon.Lambda.KinesisEvents;
using AWS.Lambda.Powertools.Logging;

// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
// into a .NET class.
[assembly:
    LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace KinesisIntegration;

public class Function
{
    // Powertools Logger requires an environment variables against your function
    // POWERTOOLS_SERVICE_NAME
    [Logging(LogEvent = true)]
    public async Task<StreamsEventResponse> FunctionHandler(KinesisEvent evnt,
        ILambdaContext context)
    {
```

```

        if (evnt.Records.Count == 0)
        {
            Logger.LogInformation("Empty Kinesis Event received");
            return new StreamsEventResponse();
        }

        foreach (var record in evnt.Records)
        {
            try
            {
                Logger.LogInformation($"Processed Event with EventId:
{record.EventId}");
                string data = await GetRecordDataAsync(record.Kinesis, context);
                Logger.LogInformation($"Data: {data}");
                // TODO: Do interesting work based on the new data
            }
            catch (Exception ex)
            {
                Logger.LogError($"An error occurred {ex.Message}");
                /* Since we are working with streams, we can return the failed item
immediately.
                Lambda will immediately begin to retry processing from this
failed item onwards. */
                return new StreamsEventResponse
                {
                    BatchItemFailures = new
List<StreamsEventResponse.BatchItemFailure>
                {
                    new StreamsEventResponse.BatchItemFailure { ItemIdentifier =
record.Kinesis.SequenceNumber }
                }
            };
        }
        Logger.LogInformation($"Successfully processed {evnt.Records.Count}
records.");
        return new StreamsEventResponse();
    }

    private async Task<string> GetRecordDataAsync(KinesisEvent.Record record,
ILambdaContext context)
    {
        byte[] bytes = record.Data.ToArray();
        string data = Encoding.UTF8.GetString(bytes);
    }

```



```
        await Task.CompletedTask; //Placeholder for actual async work
        return data;
    }
}

public class StreamsEventResponse
{
    [JsonPropertyName("batchItemFailures")]
    public IList<BatchItemFailure> BatchItemFailures { get; set; }
    public class BatchItemFailure
    {
        [JsonPropertyName("itemIdentifier")]
        public string ItemIdentifier { get; set; }
    }
}
```

AWS KMS を使用した の例 SDK for .NET

次のコード例は、AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています AWS KMS。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)

アクション

CreateAlias

次のコード例は、CreateAlias を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.KeyManagementService;
using Amazon.KeyManagementService.Model;

/// <summary>
/// Creates an alias for an AWS Key Management Service (AWS KMS) key.
/// </summary>
public class CreateAlias
{
    public static async Task Main()
    {
        var client = new AmazonKeyManagementServiceClient();

        // The alias name must start with alias/ and can be
        // up to 256 alphanumeric characters long.
        var aliasName = "alias/ExampleAlias";

        // The value supplied as the TargetKeyId can be either
        // the key ID or key Amazon Resource Name (ARN) of the
        // AWS KMS key.
        var keyId = "1234abcd-12ab-34cd-56ef-1234567890ab";

        var request = new CreateAliasRequest
        {
            AliasName = aliasName,
            TargetKeyId = keyId,
        };

        var response = await client.CreateAliasAsync(request);

        if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
        {
            Console.WriteLine($"Alias, {aliasName}, successfully created.");
        }
    }
}
```

```
    }  
    else  
    {  
        Console.WriteLine($"Could not create alias.");  
    }  
}  
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの[CreateAlias](#)を参照してください。

CreateGrant

次のコード例は、CreateGrant を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
public static async Task Main()  
{  
    var client = new AmazonKeyManagementServiceClient();  
  
    // The identity that is given permission to perform the operations  
    // specified in the grant.  
    var grantee = "arn:aws:iam::111122223333:role/ExampleRole";  
  
    // The identifier of the AWS KMS key to which the grant applies. You  
    // can use the key ID or the Amazon Resource Name (ARN) of the KMS key.  
    var keyId = "7c9eccc2-38cb-4c4f-9db3-766ee8dd3ad4";  
  
    var request = new CreateGrantRequest  
    {  
        GranteePrincipal = grantee,  
        KeyId = keyId,  
    }  
}
```

```
        // A list of operations that the grant allows.
        Operations = new List<string>
        {
            "Encrypt",
            "Decrypt",
        },
    };

    var response = await client.CreateGrantAsync(request);

    string grantId = response.GrantId; // The unique identifier of the
grant.
    string grantToken = response.GrantToken; // The grant token.

    Console.WriteLine($"Id: {grantId}, Token: {grantToken}");
}
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの[CreateGrant](#)を参照してください。

CreateKey

次のコード例は、CreateKey を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.KeyManagementService;
using Amazon.KeyManagementService.Model;
```

```

/// <summary>
/// Shows how to create a new AWS Key Management Service (AWS KMS)
/// key.
/// </summary>
public class CreateKey
{
    public static async Task Main()
    {
        // Note that if you need to create a Key in an AWS Region
        // other than the Region defined for the default user, you need to
        // pass the Region to the client constructor.
        var client = new AmazonKeyManagementServiceClient();

        // The call to CreateKeyAsync will create a symmetrical AWS KMS
        // key. For more information about symmetrical and asymmetrical
        // keys, see:
        //
        // https://docs.aws.amazon.com/kms/latest/developerguide/symm-asymm-
choose.html
        var response = await client.CreateKeyAsync(new CreateKeyRequest());

        // The KeyMetadata object contains information about the new AWS KMS
key.
        KeyMetadata keyMetadata = response.KeyMetadata;

        if (keyMetadata is not null)
        {
            Console.WriteLine($"KMS Key: {keyMetadata.KeyId} was successfully
created.");
        }
        else
        {
            Console.WriteLine("Could not create KMS Key.");
        }
    }
}

```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateKey](#)」を参照してください。

DescribeKey

次のコード例は、DescribeKey を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.KeyManagementService;
using Amazon.KeyManagementService.Model;

/// <summary>
/// Retrieve information about an AWS Key Management Service (AWS KMS) key.
/// You can supply either the key Id or the key Amazon Resource Name (ARN)
/// to the DescribeKeyRequest KeyId property.
/// </summary>
public class DescribeKey
{
    public static async Task Main()
    {
        var keyId = "7c9eccc2-38cb-4c4f-9db3-766ee8dd3ad4";
        var request = new DescribeKeyRequest
        {
            KeyId = keyId,
        };

        var client = new AmazonKeyManagementServiceClient();

        var response = await client.DescribeKeyAsync(request);
        var metadata = response.KeyMetadata;

        Console.WriteLine($"{metadata.KeyId} created on:
{metadata.CreationDate}");
        Console.WriteLine($"State: {metadata.KeyState}");
        Console.WriteLine($"{metadata.Description}");
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの [DescribeKey](#) を参照してください。

DisableKey

次のコード例は、DisableKey を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.KeyManagementService;
using Amazon.KeyManagementService.Model;

/// <summary>
/// Disable an AWS Key Management Service (AWS KMS) key and then retrieve
/// the key's status to show that it has been disabled.
/// </summary>
public class DisableKey
{
    public static async Task Main()
    {
        var client = new AmazonKeyManagementServiceClient();

        // The identifier of the AWS KMS key to disable. You can use the
        // key Id or the Amazon Resource Name (ARN) of the AWS KMS key.
        var keyId = "1234abcd-12ab-34cd-56ef-1234567890ab";

        var request = new DisableKeyRequest
        {
            KeyId = keyId,
        };
    }
}
```

```
var response = await client.DisableKeyAsync(request);

if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
{
    // Retrieve information about the key to show that it has now
    // been disabled.
    var describeResponse = await client.DescribeKeyAsync(new
DescribeKeyRequest
    {
        KeyId = keyId,
    });
    Console.WriteLine($"{describeResponse.KeyMetadata.KeyId} - state:
{describeResponse.KeyMetadata.KeyState}");
}
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DisableKey](#)」を参照してください。

EnableKey

次のコード例は、EnableKey を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.KeyManagementService;
using Amazon.KeyManagementService.Model;

///  
<summary>
```



```
/// Enable an AWS Key Management Service (AWS KMS) key.
/// </summary>
public class EnableKey
{
    public static async Task Main()
    {
        var client = new AmazonKeyManagementServiceClient();

        // The identifier of the AWS KMS key to enable. You can use the
        // key Id or the Amazon Resource Name (ARN) of the AWS KMS key.
        var keyId = "1234abcd-12ab-34cd-56ef-1234567890ab";

        var request = new EnableKeyRequest
        {
            KeyId = keyId,
        };

        var response = await client.EnableKeyAsync(request);
        if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
        {
            // Retrieve information about the key to show that it has now
            // been enabled.
            var describeResponse = await client.DescribeKeyAsync(new
DescribeKeyRequest
            {
                KeyId = keyId,
            });
            Console.WriteLine($"{describeResponse.KeyMetadata.KeyId} - state:
{describeResponse.KeyMetadata.KeyState}");
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[EnableKey](#)」を参照してください。

ListAliases

次のコード例は、ListAliases を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.KeyManagementService;
using Amazon.KeyManagementService.Model;

/// <summary>
/// List the AWS Key Management Service (AWS KMS) aliases that have been defined
for
/// the keys in the same AWS Region as the default user. If you want to list
/// the aliases in a different Region, pass the Region to the client
/// constructor.
/// </summary>
public class ListAliases
{
    public static async Task Main()
    {
        var client = new AmazonKeyManagementServiceClient();
        var request = new ListAliasesRequest();
        var response = new ListAliasesResponse();

        do
        {
            response = await client.ListAliasesAsync(request);

            response.Aliases.ForEach(alias =>
            {
                Console.WriteLine($"Created: {alias.CreationDate} Last Update:
{alias.LastUpdatedDate} Name: {alias.AliasName}");
            });

            request.Marker = response.NextMarker;
        }
        while (response.Truncated);
    }
}
```

```
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListAliases](#)」を参照してください。

ListGrants

次のコード例は、ListGrants を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.KeyManagementService;
using Amazon.KeyManagementService.Model;

/// <summary>
/// List the AWS Key Management Service (AWS KMS) grants that are associated
with
/// a specific key.
/// </summary>
public class ListGrants
{
    public static async Task Main()
    {
        // The identifier of the AWS KMS key to disable. You can use the
        // key Id or the Amazon Resource Name (ARN) of the AWS KMS key.
        var keyId = "1234abcd-12ab-34cd-56ef-1234567890ab";
        var client = new AmazonKeyManagementServiceClient();
        var request = new ListGrantsRequest
        {
            KeyId = keyId,
        };
    }
}
```

```
var response = new ListGrantsResponse();

do
{
    response = await client.ListGrantsAsync(request);

    response.Grants.ForEach(grant =>
    {
        Console.WriteLine($"{grant.GrantId}");
    });

    request.Marker = response.NextMarker;
}
while (response.Truncated);
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListGrants](#)」を参照してください。

ListKeys

次のコード例は、ListKeys を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.KeyManagementService;
using Amazon.KeyManagementService.Model;

/// <summary>
```

```
/// List the AWS Key Managements Service (AWS KMS) keys for the AWS Region
/// of the default user. To list keys in another AWS Region, supply the Region
/// as a parameter to the client constructor.
/// </summary>
public class ListKeys
{
    public static async Task Main()
    {
        var client = new AmazonKeyManagementServiceClient();
        var request = new ListKeysRequest();
        var response = new ListKeysResponse();

        do
        {
            response = await client.ListKeysAsync(request);

            response.Keys.ForEach(key =>
            {
                Console.WriteLine($"ID: {key.KeyId}, {key.KeyArn}");
            });

            // Set the Marker property when response.Truncated is true
            // in order to get the next keys.
            request.Marker = response.NextMarker;
        }
        while (response.Truncated);
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListKeys](#)」を参照してください。

を使用した Lambda の例 SDK for .NET

次のコード例は、Lambda AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

AWS コミュニティへの貢献は、複数のチームが作成し、維持している例です AWS。フィードバックを提供するには、リンクされたリポジトリで提供されているメカニズムを使用します。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [はじめに](#)
- [基本](#)
- [アクション](#)
- [シナリオ](#)
- [サーバーレスサンプル](#)
- [AWS コミュニティへの貢献](#)

はじめに

Hello Lambda

次のコード例は、Lambda の使用を開始する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
namespace LambdaActions;
```

```
using Amazon.Lambda;

public class HelloLambda
{
    static async Task Main(string[] args)
    {
        var lambdaClient = new AmazonLambdaClient();

        Console.WriteLine("Hello AWS Lambda");
        Console.WriteLine("Let's get started with AWS Lambda by listing your  
existing Lambda functions:");

        var response = await lambdaClient.ListFunctionsAsync();
        response.Functions.ForEach(function =>
        {
            Console.WriteLine($"{function.FunctionName}\t{function.Description}");
        });
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListFunctions](#)」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- IAM ロールと Lambda 関数を作成し、ハンドラーコードをアップロードします。
- 1 つのパラメータで関数を呼び出して、結果を取得します。
- 関数コードを更新し、環境変数で設定します。
- 新しいパラメータで関数を呼び出して、結果を取得します。返された実行ログを表示します。
- アカウントの関数を一覧表示し、リソースをクリーンアップします。

詳細については、「[コンソールで Lambda 関数を作成する](#)」を参照してください。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

Lambda アクションを実行するメソッドを作成します。

```
namespace LambdaActions;

using Amazon.Lambda;
using Amazon.Lambda.Model;

/// <summary>
/// A class that implements AWS Lambda methods.
/// </summary>
public class LambdaWrapper
{
    private readonly IAmazonLambda _lambdaService;

    /// <summary>
    /// Constructor for the LambdaWrapper class.
    /// </summary>
    /// <param name="lambdaService">An initialized Lambda service client.</param>
    public LambdaWrapper(IAmazonLambda lambdaService)
    {
        _lambdaService = lambdaService;
    }

    /// <summary>
    /// Creates a new Lambda function.
    /// </summary>
    /// <param name="functionName">The name of the function.</param>
    /// <param name="s3Bucket">The Amazon Simple Storage Service (Amazon S3)
    /// bucket where the zip file containing the code is located.</param>
    /// <param name="s3Key">The Amazon S3 key of the zip file.</param>
    /// <param name="role">The Amazon Resource Name (ARN) of a role with the
    /// appropriate Lambda permissions.</param>
    /// <param name="handler">The name of the handler function.</param>
    /// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the newly created
    /// Lambda function.</returns>
```



```

public async Task<string> CreateLambdaFunctionAsync(
    string functionName,
    string s3Bucket,
    string s3Key,
    string role,
    string handler)
{
    // Defines the location for the function code.
    // S3Bucket - The S3 bucket where the file containing
    //             the source code is stored.
    // S3Key      - The name of the file containing the code.
    var functionCode = new FunctionCode
    {
        S3Bucket = s3Bucket,
        S3Key = s3Key,
    };

    var createFunctionRequest = new CreateFunctionRequest
    {
        FunctionName = functionName,
        Description = "Created by the Lambda .NET API",
        Code = functionCode,
        Handler = handler,
        Runtime = Runtime.Dotnet6,
        Role = role,
    };

    var reponse = await
_lambdaService.CreateFunctionAsync(createFunctionRequest);
    return reponse.FunctionArn;
}

/// <summary>
/// Delete an AWS Lambda function.
/// </summary>
/// <param name="functionName">The name of the Lambda function to
/// delete.</param>
/// <returns>A Boolean value that indicates the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteFunctionAsync(string functionName)
{
    var request = new DeleteFunctionRequest
    {
        FunctionName = functionName,
    };
}

```

```
};

var response = await _lambdaService.DeleteFunctionAsync(request);

// A return value of NoContent means that the request was processed.
// In this case, the function was deleted, and the return value
// is intentionally blank.
return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.NoContent;
}

/// <summary>
/// Gets information about a Lambda function.
/// </summary>
/// <param name="functionName">The name of the Lambda function for
/// which to retrieve information.</param>
/// <returns>Async Task.</returns>
public async Task<FunctionConfiguration> GetFunctionAsync(string functionName)
{
    var functionRequest = new GetFunctionRequest
    {
        FunctionName = functionName,
    };

    var response = await _lambdaService.GetFunctionAsync(functionRequest);
    return response.Configuration;
}

/// <summary>
/// Invoke a Lambda function.
/// </summary>
/// <param name="functionName">The name of the Lambda function to
/// invoke.</param>
/// <param name="parameters">The parameter values that will be passed to the
function.</param>
/// <returns>A System Threading Task.</returns>
public async Task<string> InvokeFunctionAsync(
    string functionName,
    string parameters)
{
    var payload = parameters;
    var request = new InvokeRequest
    {
```

```

        FunctionName = functionName,
        Payload = payload,
    };

    var response = await _lambdaService.InvokeAsync(request);
    MemoryStream stream = response.Payload;
    string returnValue = System.Text.Encoding.UTF8.GetString(stream.ToArray());
    return returnValue;
}

/// <summary>
/// Get a list of Lambda functions.
/// </summary>
/// <returns>A list of FunctionConfiguration objects.</returns>
public async Task<List<FunctionConfiguration>> ListFunctionsAsync()
{
    var functionList = new List<FunctionConfiguration>();

    var functionPaginator =
        _lambdaService.Paginators.ListFunctions(new ListFunctionsRequest());
    await foreach (var function in functionPaginator.Functions)
    {
        functionList.Add(function);
    }

    return functionList;
}

/// <summary>
/// Update an existing Lambda function.
/// </summary>
/// <param name="functionName">The name of the Lambda function to update.</
param>
/// <param name="bucketName">The bucket where the zip file containing
/// the Lambda function code is stored.</param>
/// <param name="key">The key name of the source code file.</param>
/// <returns>Async Task.</returns>
public async Task UpdateFunctionCodeAsync(
    string functionName,
    string bucketName,
    string key)
{

```

```

        var functionCodeRequest = new UpdateFunctionCodeRequest
        {
            FunctionName = functionName,
            Publish = true,
            S3Bucket = bucketName,
            S3Key = key,
        };

        var response = await
_lambdaService.UpdateFunctionCodeAsync(functionCodeRequest);
        Console.WriteLine($"The Function was last modified at
{response.LastModified}.");
    }

    /// <summary>
    /// Update the code of a Lambda function.
    /// </summary>
    /// <param name="functionName">The name of the function to update.</param>
    /// <param name="functionHandler">The code that performs the function's
actions.</param>
    /// <param name="environmentVariables">A dictionary of environment variables.</
param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> UpdateFunctionConfigurationAsync(
        string functionName,
        string functionHandler,
        Dictionary<string, string> environmentVariables)
    {
        var request = new UpdateFunctionConfigurationRequest
        {
            Handler = functionHandler,
            FunctionName = functionName,
            Environment = new Amazon.Lambda.Model.Environment { Variables =
environmentVariables },
        };

        var response = await
_lambdaService.UpdateFunctionConfigurationAsync(request);

        Console.WriteLine(response.LastModified);

        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }

```

```
}
```

シナリオを実行する関数を作成します。

```
global using System.Threading.Tasks;
global using Amazon.IdentityManagement;
global using Amazon.Lambda;
global using LambdaActions;
global using LambdaScenarioCommon;
global using Microsoft.Extensions.DependencyInjection;
global using Microsoft.Extensions.Hosting;
global using Microsoft.Extensions.Logging;
global using Microsoft.Extensions.Logging.Console;
global using Microsoft.Extensions.Logging.Debug;

using Amazon.Lambda.Model;
using Microsoft.Extensions.Configuration;

namespace LambdaBasics;

public class LambdaBasics
{
    private static ILogger logger = null!;

    static async Task Main(string[] args)
    {
        // Set up dependency injection for the Amazon service.
        using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
            .ConfigureLogging(logging =>
                logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
                    .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
                        LogLevel.Information)
                    .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
            .ConfigureServices((_, services) =>
                services.AddAWSService<IAmazonLambda>()
                    .AddAWSService<IAmazonIdentityManagementService>()
                    .AddTransient<LambdaWrapper>()
                    .AddTransient<LambdaRoleWrapper>())
```

```

        .AddTransient<UIWrapper>()
    )
    .Build();

var configuration = new ConfigurationBuilder()
    .SetBasePath(Directory.GetCurrentDirectory())
    .AddJsonFile("settings.json") // Load test settings from .json file.
    .AddJsonFile("settings.local.json",
        true) // Optionally load local settings.
    .Build();

logger = LoggerFactory.Create(builder => { builder.AddConsole(); })
    .CreateLogger<LambdaBasics>();

var lambdaWrapper = host.Services.GetRequiredService<LambdaWrapper>();
var lambdaRoleWrapper =
host.Services.GetRequiredService<LambdaRoleWrapper>();
var uiWrapper = host.Services.GetRequiredService<UIWrapper>();

string functionName = configuration["FunctionName"]!;
string roleName = configuration["RoleName"]!;
string policyDocument = "{" +
    "  \"Version\": \"2012-10-17\", " +
    "  \"Statement\": [ " +
    "    { " +
    "      \"Effect\": \"Allow\", " +
    "      \"Principal\": { " +
    "        \"Service\": \"lambda.amazonaws.com\" " +
    "      }, " +
    "      \"Action\": \"sts:AssumeRole\" " +
    "    } " +
    "  ] " +
    "}";

var incrementHandler = configuration["IncrementHandler"];
var calculatorHandler = configuration["CalculatorHandler"];
var bucketName = configuration["BucketName"];
var incrementKey = configuration["IncrementKey"];
var calculatorKey = configuration["CalculatorKey"];
var policyArn = configuration["PolicyArn"];

uiWrapper.DisplayLambdaBasicsOverview();

```

```
// Create the policy to use with the AWS Lambda functions and then attach
the
// policy to a new role.
var roleArn = await lambdaRoleWrapper.CreateLambdaRoleAsync(roleName,
policyDocument);

Console.WriteLine("Waiting for role to become active.");
uiWrapper.WaitABit(15, "Wait until the role is active before trying to use
it.");

// Attach the appropriate AWS Identity and Access Management (IAM) role
policy to the new role.
var success = await lambdaRoleWrapper.AttachLambdaRolePolicyAsync(policyArn,
roleName);
uiWrapper.WaitABit(10, "Allow time for the IAM policy to be attached to the
role.");

// Create the Lambda function using a zip file stored in an Amazon Simple
Storage Service
// (Amazon S3) bucket.
uiWrapper.DisplayTitle("Create Lambda Function");
Console.WriteLine($"Creating the AWS Lambda function: {functionName}.");
var lambdaArn = await lambdaWrapper.CreateLambdaFunctionAsync(
    functionName,
    bucketName,
    incrementKey,
    roleArn,
    incrementHandler);

Console.WriteLine("Waiting for the new function to be available.");
Console.WriteLine($"The AWS Lambda ARN is {lambdaArn}");

// Get the Lambda function.
Console.WriteLine($"Getting the {functionName} AWS Lambda function.");
FunctionConfiguration config;
do
{
    config = await lambdaWrapper.GetFunctionAsync(functionName);
    Console.WriteLine(".");
}
while (config.State != State.Active);

Console.WriteLine($"\\nThe function, {functionName} has been created.");
```

```
        Console.WriteLine($"The runtime of this Lambda function is
{config.Runtime}.");

        uiWrapper.PressEnter();

        // List the Lambda functions.
        uiWrapper.DisplayTitle("Listing all Lambda functions.");
        var functions = await lambdaWrapper.ListFunctionsAsync();
        DisplayFunctionList(functions);

        uiWrapper.DisplayTitle("Invoke increment function");
        Console.WriteLine("Now that it has been created, invoke the Lambda increment
function.");
        string? value;
        do
        {
            Console.Write("Enter a value to increment: ");
            value = Console.ReadLine();
        }
        while (string.IsNullOrEmpty(value));

        string functionParameters = "{" +
            "\"action\": \"increment\", " +
            "\"x\": \"" + value + "\"" +
            "}";
        var answer = await lambdaWrapper.InvokeFunctionAsync(functionName,
functionParameters);
        Console.WriteLine($"{value} + 1 = {answer}.");

        uiWrapper.DisplayTitle("Update function");
        Console.WriteLine("Now update the Lambda function code.");
        await lambdaWrapper.UpdateFunctionCodeAsync(functionName, bucketName,
calculatorKey);

        do
        {
            config = await lambdaWrapper.GetFunctionAsync(functionName);
            Console.Write(".");
        }
        while (config.LastUpdateStatus == LastUpdateStatus.InProgress);

        await lambdaWrapper.UpdateFunctionConfigurationAsync(
            functionName,
            calculatorHandler,
```



```

        new Dictionary<string, string> { { "LOG_LEVEL", "DEBUG" } });

    do
    {
        config = await lambdaWrapper.GetFunctionAsync(functionName);
        Console.Write(".");
    }
    while (config.LastUpdateStatus == LastUpdateStatus.InProgress);

    uiWrapper.DisplayTitle("Call updated function");
    Console.WriteLine("Now call the updated function...");

    bool done = false;

    do
    {
        string? opSelected;

        Console.WriteLine("Select the operation to perform:");
        Console.WriteLine("\t1. add");
        Console.WriteLine("\t2. subtract");
        Console.WriteLine("\t3. multiply");
        Console.WriteLine("\t4. divide");
        Console.WriteLine("\t0r enter \"q\" to quit.");
        Console.WriteLine("Enter the number (1, 2, 3, 4, or q) of the operation");
        you want to perform: ");
        do
        {
            Console.Write("Your choice? ");
            opSelected = Console.ReadLine();
        }
        while (opSelected == string.Empty);

        var operation = (opSelected) switch
        {
            "1" => "add",
            "2" => "subtract",
            "3" => "multiply",
            "4" => "divide",
            "q" => "quit",
            _ => "add",
        };

        if (operation == "quit")

```

```

        {
            done = true;
        }
        else
        {
            // Get two numbers and an action from the user.
            value = string.Empty;
            do
            {
                Console.Write("Enter the first value: ");
                value = Console.ReadLine();
            }
            while (value == string.Empty);

            string? value2;
            do
            {
                Console.Write("Enter a second value: ");
                value2 = Console.ReadLine();
            }
            while (value2 == string.Empty);

            functionParameters = "{" +
                "\"action\": \"" + operation + "\", " +
                "\"x\": \"" + value + "\", " +
                "\"y\": \"" + value2 + "\"" +
                "}";

            answer = await lambdaWrapper.InvokeFunctionAsync(functionName,
functionParameters);
            Console.WriteLine($"The answer when we {operation} the two numbers
is: {answer}.");
        }

        uiWrapper.PressEnter();
    } while (!done);

    // Delete the function created earlier.

    uiWrapper.DisplayTitle("Clean up resources");
    // Detach the IAM policy from the IAM role.
    Console.WriteLine("First detach the IAM policy from the role.");
    success = await lambdaRoleWrapper.DetachLambdaRolePolicyAsync(policyArn,
roleName);

```

```
        uiWrapper.WaitABit(15, "Let's wait for the policy to be fully detached from  
the role.");  
  
        Console.WriteLine("Delete the AWS Lambda function.");  
        success = await lambdaWrapper.DeleteFunctionAsync(functionName);  
        if (success)  
        {  
            Console.WriteLine($"The {functionName} function was deleted.");  
        }  
        else  
        {  
            Console.WriteLine($"Could not remove the function {functionName}");  
        }  
  
        // Now delete the IAM role created for use with the functions  
        // created by the application.  
        Console.WriteLine("Now we can delete the role that we created.");  
        success = await lambdaRoleWrapper.DeleteLambdaRoleAsync(roleName);  
        if (success)  
        {  
            Console.WriteLine("The role has been successfully removed.");  
        }  
        else  
        {  
            Console.WriteLine("Couldn't delete the role.");  
        }  
  
        Console.WriteLine("The Lambda Scenario is now complete.");  
        uiWrapper.PressEnter();  
  
        // Displays a formatted list of existing functions returned by the  
        // LambdaMethods.ListFunctions.  
        void DisplayFunctionList(List<FunctionConfiguration> functions)  
        {  
            functions.ForEach(functionConfig =>  
            {  
                Console.WriteLine($"{functionConfig.FunctionName}\t{functionConfig.Description}");  
            });  
        }  
    }  
}
```

```

namespace LambdaActions;

using Amazon.IdentityManagement;
using Amazon.IdentityManagement.Model;

public class LambdaRoleWrapper
{
    private readonly IAmazonIdentityManagementService _lambdaRoleService;

    public LambdaRoleWrapper(IAmazonIdentityManagementService lambdaRoleService)
    {
        _lambdaRoleService = lambdaRoleService;
    }

    /// <summary>
    /// Attach an AWS Identity and Access Management (IAM) role policy to the
    /// IAM role to be assumed by the AWS Lambda functions created for the scenario.
    /// </summary>
    /// <param name="policyArn">The Amazon Resource Name (ARN) of the IAM policy.</
param>
    /// <param name="roleName">The name of the IAM role to attach the IAM policy
to.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> AttachLambdaRolePolicyAsync(string policyArn, string
roleName)
    {
        var response = await _lambdaRoleService.AttachRolePolicyAsync(new
AttachRolePolicyRequest { PolicyArn = policyArn, RoleName = roleName });
        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }

    /// <summary>
    /// Create a new IAM role.
    /// </summary>
    /// <param name="roleName">The name of the IAM role to create.</param>
    /// <param name="policyDocument">The policy document for the new IAM role.</
param>
    /// <returns>A string representing the ARN for newly created role.</returns>
    public async Task<string> CreateLambdaRoleAsync(string roleName, string
policyDocument)
    {
        var request = new CreateRoleRequest
        {
            AssumeRolePolicyDocument = policyDocument,

```

```

        RoleName = roleName,
    };

    var response = await _lambdaRoleService.CreateRoleAsync(request);
    return response.Role.Arn;
}

/// <summary>
/// Deletes an IAM role.
/// </summary>
/// <param name="roleName">The name of the role to delete.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the operation.</returns>
public async Task<bool> DeleteLambdaRoleAsync(string roleName)
{
    var request = new DeleteRoleRequest
    {
        RoleName = roleName,
    };

    var response = await _lambdaRoleService.DeleteRoleAsync(request);
    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}

public async Task<bool> DetachLambdaRolePolicyAsync(string policyArn, string
roleName)
{
    var response = await _lambdaRoleService.DetachRolePolicyAsync(new
DetachRolePolicyRequest { PolicyArn = policyArn, RoleName = roleName });
    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}
}

namespace LambdaScenarioCommon;

public class UIWrapper
{
    public readonly string SepBar = new('-', Console.WindowWidth);

    /// <summary>
    /// Show information about the AWS Lambda Basics scenario.
    /// </summary>
    public void DisplayLambdaBasicsOverview()
    {

```

```

        Console.Clear();

        DisplayTitle("Welcome to AWS Lambda Basics");
        Console.WriteLine("This example application does the following:");
        Console.WriteLine("\t1. Creates an AWS Identity and Access Management (IAM)
role that will be assumed by the functions we create.");
        Console.WriteLine("\t2. Attaches an IAM role policy that has Lambda
permissions.");
        Console.WriteLine("\t3. Creates a Lambda function that increments the value
passed to it.");
        Console.WriteLine("\t4. Calls the increment function and passes a value.");
        Console.WriteLine("\t5. Updates the code so that the function is a simple
calculator.");
        Console.WriteLine("\t6. Calls the calculator function with the values
entered.");
        Console.WriteLine("\t7. Deletes the Lambda function.");
        Console.WriteLine("\t7. Detaches the IAM role policy.");
        Console.WriteLine("\t8. Deletes the IAM role.");
        PressEnter();
    }

    /// <summary>
    /// Display a message and wait until the user presses enter.
    /// </summary>
    public void PressEnter()
    {
        Console.Write("\nPress <Enter> to continue. ");
        _ = Console.ReadLine();
        Console.WriteLine();
    }

    /// <summary>
    /// Pad a string with spaces to center it on the console display.
    /// </summary>
    /// <param name="strToCenter">The string to be centered.</param>
    /// <returns>The padded string.</returns>
    public string CenterString(string strToCenter)
    {
        var padAmount = (Console.WindowWidth - strToCenter.Length) / 2;
        var leftPad = new string(' ', padAmount);
        return $"{leftPad}{strToCenter}";
    }

    /// <summary>

```

```

    /// Display a line of hyphens, the centered text of the title and another
    /// line of hyphens.
    /// </summary>
    /// <param name="strTitle">The string to be displayed.</param>
    public void DisplayTitle(string strTitle)
    {
        Console.WriteLine(SepBar);
        Console.WriteLine(CenterString(strTitle));
        Console.WriteLine(SepBar);
    }

    /// <summary>
    /// Display a countdown and wait for a number of seconds.
    /// </summary>
    /// <param name="numSeconds">The number of seconds to wait.</param>
    public void WaitABit(int numSeconds, string msg)
    {
        Console.WriteLine(msg);

        // Wait for the requested number of seconds.
        for (int i = numSeconds; i > 0; i--)
        {
            System.Threading.Thread.Sleep(1000);
            Console.Write($"{i}...");
        }

        PressEnter();
    }
}

```

数値をインクリメントする Lambda ハンドラーを定義します。

```

using Amazon.Lambda.Core;

// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
// into a .NET class.
[assembly:
    LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace LambdaIncrement;

```

```

public class Function
{
    /// <summary>
    /// A simple function increments the integer parameter.
    /// </summary>
    /// <param name="input">A JSON string containing an action, which must be
    /// "increment" and a string representing the value to increment.</param>
    /// <param name="context">The context object passed by Lambda containing
    /// information about invocation, function, and execution environment.</param>
    /// <returns>A string representing the incremented value of the parameter.</
returns>
    public int FunctionHandler(Dictionary<string, string> input, ILambdaContext
context)
    {
        if (input["action"] == "increment")
        {
            int inputValue = Convert.ToInt32(input["x"]);
            return inputValue + 1;
        }
        else
        {
            return 0;
        }
    }
}

```

算術演算を実行する 2 番目の Lambda ハンドラーを定義します。

```

using Amazon.Lambda.Core;

// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
into a .NET class.
[assembly:
    LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace LambdaCalculator;

public class Function
{

```



```
/// <summary>
/// A simple function that takes two number in string format and performs
/// the requested arithmetic function.
/// </summary>
/// <param name="input">JSON data containing an action, and x and y values.
/// Valid actions include: add, subtract, multiply, and divide.</param>
/// <param name="context">The context object passed by Lambda containing
/// information about invocation, function, and execution environment.</param>
/// <returns>A string representing the results of the calculation.</returns>
public int FunctionHandler(Dictionary<string, string> input, ILambdaContext
context)
{
    var action = input["action"];
    int x = Convert.ToInt32(input["x"]);
    int y = Convert.ToInt32(input["y"]);
    int result;
    switch (action)
    {
        case "add":
            result = x + y;
            break;
        case "subtract":
            result = x - y;
            break;
        case "multiply":
            result = x * y;
            break;
        case "divide":
            if (y == 0)
            {
                Console.Error.WriteLine("Divide by zero error.");
                result = 0;
            }
            else
            {
                result = x / y;
            }
            break;
        default:
            Console.Error.WriteLine($"{action} is not a valid operation.");
            result = 0;
            break;
    }
    return result;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
 - [CreateFunction](#)
 - [DeleteFunction](#)
 - [GetFunction](#)
 - [Invoke](#)
 - [ListFunctions](#)
 - [UpdateFunctionCode](#)
 - [UpdateFunctionConfiguration](#)

アクション

CreateFunction

次のコード例は、CreateFunction を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Creates a new Lambda function.
/// </summary>
/// <param name="functionName">The name of the function.</param>
/// <param name="s3Bucket">The Amazon Simple Storage Service (Amazon S3)
/// bucket where the zip file containing the code is located.</param>
/// <param name="s3Key">The Amazon S3 key of the zip file.</param>
/// <param name="role">The Amazon Resource Name (ARN) of a role with the
/// appropriate Lambda permissions.</param>
/// <param name="handler">The name of the handler function.</param>
/// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the newly created
```

```
/// Lambda function.</returns>
public async Task<string> CreateLambdaFunctionAsync(
    string functionName,
    string s3Bucket,
    string s3Key,
    string role,
    string handler)
{
    // Defines the location for the function code.
    // S3Bucket - The S3 bucket where the file containing
    //           the source code is stored.
    // S3Key     - The name of the file containing the code.
    var functionCode = new FunctionCode
    {
        S3Bucket = s3Bucket,
        S3Key = s3Key,
    };

    var createFunctionRequest = new CreateFunctionRequest
    {
        FunctionName = functionName,
        Description = "Created by the Lambda .NET API",
        Code = functionCode,
        Handler = handler,
        Runtime = Runtime.Dotnet6,
        Role = role,
    };

    var reponse = await
_lambdaService.CreateFunctionAsync(createFunctionRequest);
    return reponse.FunctionArn;
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateFunction](#)」を参照してください。

DeleteFunction

次のコード例は、DeleteFunction を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete an AWS Lambda function.
/// </summary>
/// <param name="functionName">The name of the Lambda function to
/// delete.</param>
/// <returns>A Boolean value that indicates the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteFunctionAsync(string functionName)
{
    var request = new DeleteFunctionRequest
    {
        FunctionName = functionName,
    };

    var response = await _lambdaService.DeleteFunctionAsync(request);

    // A return value of NoContent means that the request was processed.
    // In this case, the function was deleted, and the return value
    // is intentionally blank.
    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.NoContent;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteFunction](#)」を参照してください。

GetFunction

次のコード例は、GetFunction を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Gets information about a Lambda function.
/// </summary>
/// <param name="functionName">The name of the Lambda function for
/// which to retrieve information.</param>
/// <returns>Async Task.</returns>
public async Task<FunctionConfiguration> GetFunctionAsync(string functionName)
{
    var functionRequest = new GetFunctionRequest
    {
        FunctionName = functionName,
    };

    var response = await _lambdaService.GetFunctionAsync(functionRequest);
    return response.Configuration;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetFunction](#)」を参照してください。

Invoke

次のコード例は、Invoke を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Invoke a Lambda function.
/// </summary>
/// <param name="functionName">The name of the Lambda function to
/// invoke.</param>
/// <param name="parameters">The parameter values that will be passed to the
function.</param>
/// <returns>A System Threading Task.</returns>
public async Task<string> InvokeFunctionAsync(
    string functionName,
    string parameters)
{
    var payload = parameters;
    var request = new InvokeRequest
    {
        FunctionName = functionName,
        Payload = payload,
    };

    var response = await _lambdaService.InvokeAsync(request);
    MemoryStream stream = response.Payload;
    string returnValue = System.Text.Encoding.UTF8.GetString(stream.ToArray());
    return returnValue;
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[Invoke](#)」を参照してください。

ListFunctions

次のコード例は、ListFunctions を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get a list of Lambda functions.
/// </summary>
/// <returns>A list of FunctionConfiguration objects.</returns>
public async Task<List<FunctionConfiguration>> ListFunctionsAsync()
{
    var functionList = new List<FunctionConfiguration>();

    var functionPaginator =
        _lambdaService.Paginators.ListFunctions(new ListFunctionsRequest());
    await foreach (var function in functionPaginator.Functions)
    {
        functionList.Add(function);
    }

    return functionList;
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListFunctions](#)」を参照してください。

UpdateFunctionCode

次のコード例は、UpdateFunctionCode を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Update an existing Lambda function.
/// </summary>
/// <param name="functionName">The name of the Lambda function to update.</
param>
/// <param name="bucketName">The bucket where the zip file containing
```

```
/// the Lambda function code is stored.</param>
/// <param name="key">The key name of the source code file.</param>
/// <returns>Async Task.</returns>
public async Task UpdateFunctionCodeAsync(
    string functionName,
    string bucketName,
    string key)
{
    var functionCodeRequest = new UpdateFunctionCodeRequest
    {
        FunctionName = functionName,
        Publish = true,
        S3Bucket = bucketName,
        S3Key = key,
    };

    var response = await
_lambdaService.UpdateFunctionCodeAsync(functionCodeRequest);
    Console.WriteLine($"The Function was last modified at
{response.LastModified}.");
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[UpdateFunctionCode](#)」を参照してください。

UpdateFunctionConfiguration

次のコード例は、UpdateFunctionConfiguration を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Update the code of a Lambda function.
```



```
/// </summary>
/// <param name="functionName">The name of the function to update.</param>
/// <param name="functionHandler">The code that performs the function's
actions.</param>
/// <param name="environmentVariables">A dictionary of environment variables.</
param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> UpdateFunctionConfigurationAsync(
    string functionName,
    string functionHandler,
    Dictionary<string, string> environmentVariables)
{
    var request = new UpdateFunctionConfigurationRequest
    {
        Handler = functionHandler,
        FunctionName = functionName,
        Environment = new Amazon.Lambda.Model.Environment { Variables =
environmentVariables },
    };

    var response = await
_lambdaService.UpdateFunctionConfigurationAsync(request);

    Console.WriteLine(response.LastModified);

    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[UpdateFunctionConfiguration](#)」を参照してください。

シナリオ

サーバーレスアプリケーションを作成して写真を管理する

次のコード例では、ユーザーがラベルを使用して写真を管理できるサーバーレスアプリケーションを作成する方法について示しています。

SDK for .NET

Amazon Rekognition を使用して画像内のラベルを検出し、保存して後で取得できるようにする写真アセット管理アプリケーションの開発方法を示します。

完全なソースコードと設定および実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例のソースについて詳しくは、[AWS コミュニティ](#)でブログ投稿を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda
- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SNS

顧客からのフィードバックを分析するアプリケーションの作成

次のコード例は、顧客のコメントカードを分析し、元の言語から翻訳し、顧客の感情を判断して、翻訳されたテキストから音声ファイルを生成するアプリケーションの作成方法を示しています。

SDK for .NET

このサンプルアプリケーションは、顧客フィードバックカードを分析し、保存します。具体的には、ニューヨーク市の架空のホテルのニーズを満たします。このホテルでは、お客様からのフィードバックをさまざまな言語で書かれた実際のコメントカードの形で受け取ります。そのフィードバックは、ウェブクライアントを通じてアプリにアップロードされます。コメントカードの画像をアップロードされると、次の手順が発生します。

- テキストは Amazon Textract を使用して、画像から抽出されます。
- Amazon Comprehend は、抽出したテキストの感情とその言語を分析します。
- 抽出されたテキストは、Amazon Translate を使用して英語に翻訳されます。
- Amazon Polly は抽出したテキストから音声ファイルを合成します。

完全なアプリは AWS CDK を使用してデプロイすることができます。ソースコードとデプロイ手順については、[GitHub](#) のプロジェクトを参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Comprehend
- Lambda
- Amazon Polly
- Amazon Textract
- Amazon Translate

S3 Object Lambda でデータを変換する

次のコード例では、S3 Object Lambda でアプリケーションのデータを変換する方法を示しています。

SDK for .NET

オブジェクトがリクエストしたクライアントまたはアプリケーションのニーズに合うように、標準の S3 GET リクエストにカスタムコードを追加し、S3 から取得したリクエストされたオブジェクトを変更する方法を示しています。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Lambda
- Amazon S3

サーバーレスサンプル

Lambda 関数での Amazon RDS データベースへの接続

次のコード例は、RDS データベースに接続する Lambda 関数を実装する方法を示しています。この関数は、シンプルなデータベースリクエストを実行し、結果を返します。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

.NET を使用した Lambda 関数での Amazon RDS データベースへの接続。

```
using System.Data;
using System.Text.Json;
using Amazon.Lambda.APIGatewayEvents;
using Amazon.Lambda.Core;
using MySql.Data.MySqlClient;

// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
// into a .NET class.
[assembly:
    LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace aws_rds;

public class InputModel
{
    public string key1 { get; set; }
    public string key2 { get; set; }
}

public class Function
{
    /// <summary>
    /// Handles the Lambda function execution for connecting to RDS using IAM
    authentication.
    /// </summary>
    /// <param name="input">The input event data passed to the Lambda function</
param>
    /// <param name="context">The Lambda execution context that provides runtime
information</param>
    /// <returns>A response object containing the execution result</returns>

    public async Task<APIGatewayProxyResponse>
        FunctionHandler(APIGatewayProxyRequest request, ILambdaContext context)
```

```

{
    // Sample Input: {"body": "{\"key1\": \"20\", \"key2\": \"25\"}"}
    var input = JsonSerializer.Deserialize<InputModel>(request.Body);

    /// Obtain authentication token
    var authToken = RDSAuthTokenGenerator.GenerateAuthToken(
        Environment.GetEnvironmentVariable("RDS_ENDPOINT"),
        Convert.ToInt32(Environment.GetEnvironmentVariable("RDS_PORT")),
        Environment.GetEnvironmentVariable("RDS_USERNAME")
    );

    /// Build the Connection String with the Token
    string connectionString =
        $"Server={Environment.GetEnvironmentVariable("RDS_ENDPOINT")};" +
        $"Port={Environment.GetEnvironmentVariable("RDS_PORT")};" +
        $"Uid={Environment.GetEnvironmentVariable("RDS_USERNAME")};" +
        $"Pwd={authToken}";

    try
    {
        await using var connection = new MySqlConnection(connectionString);
        await connection.OpenAsync();

        const string sql = "SELECT @param1 + @param2 AS Sum";

        await using var command = new MySqlCommand(sql, connection);
        command.Parameters.AddWithValue("@param1", int.Parse(input.key1 ??
"0"));
        command.Parameters.AddWithValue("@param2", int.Parse(input.key2 ??
"0"));

        await using var reader = await command.ExecuteReaderAsync();
        if (await reader.ReadAsync())
        {
            int result = reader.GetInt32("Sum");

            //Sample Response: {"statusCode":200,"body":{"\"message\": \"The sum
is: 45\"},"isBase64Encoded":false}
            return new APIGatewayProxyResponse
            {
                StatusCode = 200,

```

```

        Body = JsonSerializer.Serialize(new { message = $"The sum is:
{result}" });
    };
}

}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine($"Error: {ex.Message}");
}

return new APIGatewayProxyResponse
{
    StatusCode = 500,
    Body = JsonSerializer.Serialize(new { error = "Internal server error" })
};
}
}

```

Kinesis トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例では、Kinesis ストリームからレコードを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る、Lambda 関数の実装方法を示しています。この関数は Kinesis ペイロードを取得し、それを Base64 からデコードして、そのレコードの内容をログ記録します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

.NET を使用した Lambda での Kinesis イベントの消費。

```

// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
using System.Text;
using Amazon.Lambda.Core;
using Amazon.Lambda.KinesisEvents;

```

```

using AWS.Lambda.Powertools.Logging;

// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
// into a .NET class.
[assembly:
    LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace KinesisIntegrationSampleCode;

public class Function
{
    // Powertools Logger requires an environment variables against your function
    // POWERTOOLS_SERVICE_NAME
    [Logging(LogEvent = true)]
    public async Task FunctionHandler(KinesisEvent evnt, ILambdaContext context)
    {
        if (evnt.Records.Count == 0)
        {
            Logger.LogInformation("Empty Kinesis Event received");
            return;
        }

        foreach (var record in evnt.Records)
        {
            try
            {
                Logger.LogInformation($"Processed Event with EventId:
{record.EventId}");
                string data = await GetRecordDataAsync(record.Kinesis, context);
                Logger.LogInformation($"Data: {data}");
                // TODO: Do interesting work based on the new data
            }
            catch (Exception ex)
            {
                Logger.LogError($"An error occurred {ex.Message}");
                throw;
            }
        }
        Logger.LogInformation($"Successfully processed {evnt.Records.Count}
records.");
    }

    private async Task<string> GetRecordDataAsync(KinesisEvent.Record record,
        ILambdaContext context)

```

```

    {
        byte[] bytes = record.Data.ToArray();
        string data = Encoding.UTF8.GetString(bytes);
        await Task.CompletedTask; //Placeholder for actual async work
        return data;
    }
}

```

DynamoDB トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、DynamoDB ストリームからレコードを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る、Lambda 関数の実装方法を示しています。関数は DynamoDB ペイロードを取得し、レコードの内容をログ記録します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

.NET を使用した Lambda での DynamoDB イベントの消費。

```

// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
using System.Text.Json;
using System.Text;
using Amazon.Lambda.Core;
using Amazon.Lambda.DynamoDBEvents;

// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
// into a .NET class.
[assembly:
    LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace AWSLambda_DDB;

public class Function
{
    public void FunctionHandler(DynamoDBEvent dynamoEvent, ILambdaContext context)

```



```
{
    context.Logger.LogInformation($"Beginning to process
{dynamoEvent.Records.Count} records...");

    foreach (var record in dynamoEvent.Records)
    {
        context.Logger.LogInformation($"Event ID: {record.EventID}");
        context.Logger.LogInformation($"Event Name: {record.EventName}");

        context.Logger.LogInformation(JsonSerializer.Serialize(record));
    }

    context.Logger.LogInformation("Stream processing complete.");
}
```

Amazon DocumentDB トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコードの例は、DocumentDB 変更ストリームからレコードを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る、Lambda 関数の実装方法を示しています。関数は DocumentDB ペイロードを取得し、レコードの内容をログ記録します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

.NET を使用した Lambda での Amazon DocumentDB イベントの消費。

```
using Amazon.Lambda.Core;
using System.Text.Json;
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Text.Json.Serialization;
//Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted into
a .NET class.
```

```
[assembly:
    LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace LambdaDocDb;

public class Function
{
    /// <summary>
    /// Lambda function entry point to process Amazon DocumentDB events.
    /// </summary>
    /// <param name="event">The Amazon DocumentDB event.</param>
    /// <param name="context">The Lambda context object.</param>
    /// <returns>A string to indicate successful processing.</returns>
    public string FunctionHandler(Event evnt, ILambdaContext context)
    {
        foreach (var record in evnt.Events)
        {
            ProcessDocumentDBEvent(record, context);
        }

        return "OK";
    }

    private void ProcessDocumentDBEvent(DocumentDBEventRecord record,
    ILambdaContext context)
    {
        var eventData = record.Event;
        var operationType = eventData.OperationType;
        var databaseName = eventData.Ns.Db;
        var collectionName = eventData.Ns.Coll;
        var fullDocument = JsonSerializer.Serialize(eventData.FullDocument, new
        JsonSerializerOptions { WriteIndented = true });

        context.Logger.LogLine($"Operation type: {operationType}");
        context.Logger.LogLine($"Database: {databaseName}");
        context.Logger.LogLine($"Collection: {collectionName}");
        context.Logger.LogLine($"Full document:\n{fullDocument}");
    }
}
```

```
public class Event
{
    [JsonPropertyName("eventSourceArn")]
    public string EventSourceArn { get; set; }

    [JsonPropertyName("events")]
    public List<DocumentDBEventRecord> Events { get; set; }

    [JsonPropertyName("eventSource")]
    public string EventSource { get; set; }
}

public class DocumentDBEventRecord
{
    [JsonPropertyName("event")]
    public EventData Event { get; set; }
}

public class EventData
{
    [JsonPropertyName("_id")]
    public IdData Id { get; set; }

    [JsonPropertyName("clusterTime")]
    public ClusterTime ClusterTime { get; set; }

    [JsonPropertyName("documentKey")]
    public DocumentKey DocumentKey { get; set; }

    [JsonPropertyName("fullDocument")]
    public Dictionary<string, object> FullDocument { get; set; }

    [JsonPropertyName("ns")]
    public Namespace Namespace { get; set; }

    [JsonPropertyName("operationType")]
    public string OperationType { get; set; }
}

public class IdData
{
    [JsonPropertyName("_data")]
    public string Data { get; set; }
}
```

```
public class ClusterTime
{
    [JsonPropertyName("$timestamp")]
    public Timestamp Timestamp { get; set; }
}

public class Timestamp
{
    [JsonPropertyName("t")]
    public long T { get; set; }

    [JsonPropertyName("i")]
    public int I { get; set; }
}

public class DocumentKey
{
    [JsonPropertyName("_id")]
    public Id Id { get; set; }
}

public class Id
{
    [JsonPropertyName("$oid")]
    public string Oid { get; set; }
}

public class Namespace
{
    [JsonPropertyName("db")]
    public string Db { get; set; }

    [JsonPropertyName("coll")]
    public string Coll { get; set; }
}
}
```

Amazon MSK トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、Amazon MSK クラスターからレコードを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る、Lambda 関数の実装方法を示しています。関数は MSK ペイロードを取得し、レコードの内容をログ記録します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

.NET を使用した Lambda での Amazon MSK イベントの消費。

```
using System.Text;
using Amazon.Lambda.Core;
using Amazon.Lambda.KafkaEvents;

// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
// into a .NET class.
[assembly:
    LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace MSKLambda;

public class Function
{
    /// <param name="input">The event for the Lambda function handler to process.</param>
    /// <param name="context">The ILambdaContext that provides methods for logging
    and describing the Lambda environment.</param>
    /// <returns></returns>
    public void FunctionHandler(KafkaEvent evnt, ILambdaContext context)
    {
        foreach (var record in evnt.Records)
        {
```

```
        Console.WriteLine("Key:" + record.Key);
        foreach (var eventRecord in record.Value)
        {
            var valueBytes = eventRecord.Value.ToArray();
            var valueText = Encoding.UTF8.GetString(valueBytes);

            Console.WriteLine("Message:" + valueText);
        }
    }
}
```

Amazon S3 トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、S3 バケットにオブジェクトをアップロードすることによってトリガーされるイベントを受け取る Lambda 関数を実装する方法を示しています。この関数は、イベントパラメータから S3 バケット名とオブジェクトキーを取得し、Amazon S3 API を呼び出してオブジェクトのコンテンツタイプを取得してログに記録します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を検索し、設定および実行の方法を確認してください。

.NET を使用して Lambda で S3 イベントを消費します。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Lambda.Core;
using Amazon.S3;
using System;
using Amazon.Lambda.S3Events;
using System.Web;
```

```
// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
// into a .NET class.
[assembly:
    LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSeriali

namespace S3Integration
{
    public class Function
    {
        private static AmazonS3Client _s3Client;
        public Function() : this(null)
        {
        }

        internal Function(AmazonS3Client s3Client)
        {
            _s3Client = s3Client ?? new AmazonS3Client();
        }

        public async Task<string> Handler(S3Event evt, ILambdaContext context)
        {
            try
            {
                if (evt.Records.Count <= 0)
                {
                    context.Logger.LogLine("Empty S3 Event received");
                    return string.Empty;
                }

                var bucket = evt.Records[0].S3.Bucket.Name;
                var key = HttpUtility.UrlDecode(evt.Records[0].S3.Object.Key);

                context.Logger.LogLine($"Request is for {bucket} and {key}");

                var objectResult = await _s3Client.GetObjectAsync(bucket, key);

                context.Logger.LogLine($"Returning {objectResult.Key}");

                return objectResult.Key;
            }
            catch (Exception e)
            {
                context.Logger.LogLine($"Error processing request - {e.Message}");
            }
        }
    }
}
```

```

        return string.Empty;
    }
}
}
}

```

Amazon SNS トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、SNS トピックからメッセージを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る Lambda 関数を実装する方法を示しています。この関数はイベントパラメータからメッセージを取得し、各メッセージの内容を記録します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を検索し、設定および実行する方法を確認してください。

.NET を使用した Lambda での SNS イベントの消費。

```

// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
using Amazon.Lambda.Core;
using Amazon.Lambda.SNSEvents;

// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
// into a .NET class.
[assembly: LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace SnsIntegration;

public class Function
{
    public async Task FunctionHandler(SNSEvent evnt, ILambdaContext context)
    {
        foreach (var record in evnt.Records)
        {

```



```
        await ProcessRecordAsync(record, context);
    }
    context.Logger.LogInformation("done");
}

private async Task ProcessRecordAsync(SNSEvent.SNSRecord record, ILambdaContext context)
{
    try
    {
        context.Logger.LogInformation($"Processed record {record.Sns.Message}");

        // TODO: Do interesting work based on the new message
        await Task.CompletedTask;
    }
    catch (Exception e)
    {
        //You can use Dead Letter Queue to handle failures. By configuring a
        //Lambda DLQ.
        context.Logger.LogError($"An error occurred");
        throw;
    }
}
}
```

Amazon SQS トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例では、SQS キューからメッセージを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る、Lambda 関数の実装方法を示しています。この関数はイベントパラメータからメッセージを取得し、各メッセージの内容を記録します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

.NET を使用した Lambda での SQS イベントの消費。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
using Amazon.Lambda.Core;
using Amazon.Lambda.SQSEvents;

// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
// into a .NET class.
[assembly: LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace SqsIntegrationSampleCode
{
    public async Task FunctionHandler(SQSEvent evnt, ILambdaContext context)
    {
        foreach (var message in evnt.Records)
        {
            await ProcessMessageAsync(message, context);
        }

        context.Logger.LogInformation("done");
    }

    private async Task ProcessMessageAsync(SQSEvent.SQSMessage message,
        ILambdaContext context)
    {
        try
        {
            context.Logger.LogInformation($"Processed message {message.Body}");

            // TODO: Do interesting work based on the new message
            await Task.CompletedTask;
        }
        catch (Exception e)
        {
            //You can use Dead Letter Queue to handle failures. By configuring a
            //Lambda DLQ.
            context.Logger.LogError($"An error occurred");
            throw;
        }
    }
}
```

Kinesis トリガーを使用した Lambda 関数でのバッチアイテム失敗のレポート

以下のコード例では、Kinesis ストリームからイベントを受け取る Lambda 関数のための、部分的なバッチレスポンスの実装方法を示しています。この関数は、レスポンスとしてバッチアイテムの失敗を報告し、対象のメッセージを後で再試行するよう Lambda に伝えます。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

.NET を使用した Lambda での Kinesis バッチアイテム失敗のレポート。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
using System.Text;
using System.Text.Json.Serialization;
using Amazon.Lambda.Core;
using Amazon.Lambda.KinesisEvents;
using AWS.Lambda.Powertools.Logging;

// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
// into a .NET class.
[assembly:
    LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace KinesisIntegration;

public class Function
{
    // Powertools Logger requires an environment variables against your function
    // POWERTOOLS_SERVICE_NAME
    [Logging(LogEvent = true)]
    public async Task<StreamsEventResponse> FunctionHandler(KinesisEvent evnt,
        ILambdaContext context)
    {
```

```

        if (evnt.Records.Count == 0)
        {
            Logger.LogInformation("Empty Kinesis Event received");
            return new StreamsEventResponse();
        }

        foreach (var record in evnt.Records)
        {
            try
            {
                Logger.LogInformation($"Processed Event with EventId:
{record.EventId}");
                string data = await GetRecordDataAsync(record.Kinesis, context);
                Logger.LogInformation($"Data: {data}");
                // TODO: Do interesting work based on the new data
            }
            catch (Exception ex)
            {
                Logger.LogError($"An error occurred {ex.Message}");
                /* Since we are working with streams, we can return the failed item
immediately.
                Lambda will immediately begin to retry processing from this
failed item onwards. */
                return new StreamsEventResponse
                {
                    BatchItemFailures = new
List<StreamsEventResponse.BatchItemFailure>
                {
                    new StreamsEventResponse.BatchItemFailure { ItemIdentifier =
record.Kinesis.SequenceNumber }
                }
            };
        }
        Logger.LogInformation($"Successfully processed {evnt.Records.Count}
records.");
        return new StreamsEventResponse();
    }

    private async Task<string> GetRecordDataAsync(KinesisEvent.Record record,
ILambdaContext context)
    {
        byte[] bytes = record.Data.ToArray();
        string data = Encoding.UTF8.GetString(bytes);
    }

```

```

        await Task.CompletedTask; //Placeholder for actual async work
        return data;
    }
}

public class StreamsEventResponse
{
    [JsonPropertyName("batchItemFailures")]
    public IList<BatchItemFailure> BatchItemFailures { get; set; }
    public class BatchItemFailure
    {
        [JsonPropertyName("itemIdentifier")]
        public string ItemIdentifier { get; set; }
    }
}

```

DynamoDB トリガーで Lambda 関数のバッチアイテムの失敗をレポートする

次のコード例は、DynamoDB ストリームからイベントを受け取る Lambda 関数の部分的なバッチレスポンスの実装方法を示しています。この関数は、レスポンスとしてバッチアイテムの失敗を報告し、対象のメッセージを後で再試行するよう Lambda に伝えます。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

.NET を使用した Lambda での DynamoDB のバッチアイテム失敗のレポート。

```

// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
using System.Text.Json;
using System.Text;
using Amazon.Lambda.Core;
using Amazon.Lambda.DynamoDBEvents;

// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
into a .NET class.

```

```
[assembly:
    LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace AWSLambda_DDB;

public class Function
{
    public StreamsEventResponse FunctionHandler(DynamoDBEvent dynamoEvent,
        ILambdaContext context)
    {
        context.Logger.LogInformation($"Beginning to process
        {dynamoEvent.Records.Count} records...");
        List<StreamsEventResponse.BatchItemFailure> batchItemFailures = new
        List<StreamsEventResponse.BatchItemFailure>();
        StreamsEventResponse streamsEventResponse = new StreamsEventResponse();

        foreach (var record in dynamoEvent.Records)
        {
            try
            {
                var sequenceNumber = record.Dynamodb.SequenceNumber;
                context.Logger.LogInformation(sequenceNumber);
            }
            catch (Exception ex)
            {
                context.Logger.LogError(ex.Message);
                batchItemFailures.Add(new StreamsEventResponse.BatchItemFailure()
                { ItemIdentifier = record.Dynamodb.SequenceNumber });
            }
        }

        if (batchItemFailures.Count > 0)
        {
            streamsEventResponse.BatchItemFailures = batchItemFailures;
        }

        context.Logger.LogInformation("Stream processing complete.");
        return streamsEventResponse;
    }
}
```

Amazon SQS トリガーを使用した Lambda 関数でのバッチアイテム失敗のレポート

以下のコード例では、SQS キューからイベントを受け取る Lambda 関数のための、部分的なバッチレスポンスの実装方法を示しています。この関数は、レスポンスとしてバッチアイテムの失敗を報告し、対象のメッセージを後で再試行するよう Lambda に伝えます。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

.NET を使用した Lambda での SQS バッチアイテム失敗のレポート。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
using Amazon.Lambda.Core;
using Amazon.Lambda.SQSEvents;

// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
// into a .NET class.
[assembly:
    LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer),
    namespace sqsSample;

public class Function
{
    public async Task<SQSBatchResponse> FunctionHandler(SQSEvent evnt,
        ILambdaContext context)
    {
        List<SQSBatchResponse.BatchItemFailure> batchItemFailures = new
        List<SQSBatchResponse.BatchItemFailure>();
        foreach(var message in evnt.Records)
        {
            try
            {
                //process your message
                await ProcessMessageAsync(message, context);
            }
            catch (System.Exception)
```

```
        {
            //Add failed message identifier to the batchItemFailures list
            batchItemFailures.Add(new
                SQSBatchResponse.BatchItemFailure{ItemIdentifier=message.MessageId});
        }
    }
    return new SQSBatchResponse(batchItemFailures);
}

private async Task ProcessMessageAsync(SQSEvent.SQSMessage message,
    ILambdaContext context)
{
    if (String.IsNullOrEmpty(message.Body))
    {
        throw new Exception("No Body in SQS Message.");
    }
    context.Logger.LogInformation($"Processed message {message.Body}");
    // TODO: Do interesting work based on the new message
    await Task.CompletedTask;
}
}
```

AWS コミュニティへの貢献

サーバーレスアプリケーションの構築とテスト

次のコード例は、Lambda および DynamoDB を備えた API Gateway を使用してサーバーレスアプリケーションを構築およびテストする方法を示しています。

SDK for .NET

.NET SDK を使用し、Lambda および DynamoDB を備えた API Gateway で構成されるサーバーレスアプリケーションを構築およびテストする方法を示します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda

を使用した MediaConvert の例 SDK for .NET

次のコード例は、MediaConvert AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [はじめに](#)
- [アクション](#)

はじめに

Hello MediaConvert

次のコード例は、AWS Elemental MediaConvertの使用を開始する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using Amazon.MediaConvert;
using Amazon.MediaConvert.Model;

namespace MediaConvertActions;

public static class HelloMediaConvert
{
    static async Task Main(string[] args)
    {
        // Create the client using the default profile.
```

```
var mediaConvertClient = new AmazonMediaConvertClient();

Console.WriteLine($"Hello AWS Elemental MediaConvert! Your MediaConvert Jobs are:");
Console.WriteLine();

// You can use await and any of the async methods to get a response.
// Let's get some MediaConvert jobs.
var response = await mediaConvertClient.ListJobsAsync(
    new ListJobsRequest()
    {
        MaxResults = 10
    }
);

foreach (var job in response.Jobs)
{
    Console.WriteLine($"\\tJob: {job.Id} status {job.Status}");
    Console.WriteLine();
}
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeEndpoints](#)」を参照してください。

アクション

CreateJob

次のコード例は、CreateJob を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

ファイルの場所、クライアント、ラッパーを設定します。

```

        // MediaConvert role Amazon Resource Name (ARN).
        // For information on creating this role, see
        // https://docs.aws.amazon.com/mediaconvert/latest/ug/creating-the-iam-role-in-mediaconvert-configured.html.
        var mediaConvertRole = _configuration["mediaConvertRoleARN"];

        // Include the file input and output locations in settings.json or
        settings.local.json.
        var fileInput = _configuration["fileInput"];
        var fileOutput = _configuration["fileOutput"];

        AmazonMediaConvertClient mcClient = new AmazonMediaConvertClient();

        var wrapper = new MediaConvertWrapper(mcClient);

```

```

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"Creating job for input file {fileInput}.");
        var jobId = await wrapper.CreateJob(mediaConvertRole!, fileInput!,
fileOutput!);
        Console.WriteLine($"Created job with Job ID: {jobId}");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

```

ラッパーメソッドを使用してジョブを作成し、ジョブ ID を返します。

```

    /// <summary>
    /// Create a job to convert a media file.
    /// </summary>
    /// <param name="mediaConvertRole">The Amazon Resource Name (ARN) of the media
    convert role, as specified here:
    /// https://docs.aws.amazon.com/mediaconvert/latest/ug/creating-the-iam-role-in-
    mediaconvert-configured.html</param>
    /// <param name="fileInput">The Amazon Simple Storage Service (Amazon S3)
    location of the input media file.</param>
    /// <param name="fileOutput">The Amazon S3 location for the output media file.</
    param>
    /// <returns>The ID of the new job.</returns>
    public async Task<string> CreateJob(string mediaConvertRole, string fileInput,
        string fileOutput)

```

```
{
    CreateJobRequest createJobRequest = new CreateJobRequest
    {
        Role = mediaConvertRole
    };

    createJobRequest.UserMetadata.Add("Customer", "Amazon");

    JobSettings jobSettings = new JobSettings
    {
        AdAvailOffset = 0,
        TimecodeConfig = new TimecodeConfig
        {
            Source = TimecodeSource.EMBEDDED
        }
    };
    createJobRequest.Settings = jobSettings;

    #region OutputGroup

    OutputGroup ofg = new OutputGroup
    {
        Name = "File Group",
        OutputGroupSettings = new OutputGroupSettings
        {
            Type = OutputGroupType.FILE_GROUP_SETTINGS,
            FileGroupSettings = new FileGroupSettings
            {
                Destination = fileOutput
            }
        }
    };

    Output output = new Output
    {
        NameModifier = "_1"
    };

    #region VideoDescription

    VideoDescription vdes = new VideoDescription
    {
        ScalingBehavior = ScalingBehavior.DEFAULT,
        TimecodeInsertion = VideoTimecodeInsertion.DISABLED,
```

```

        AntiAlias = AntiAlias.ENABLED,
        Sharpness = 50,
        AfdSignaling = AfdSignaling.NONE,
        DropFrameTimecode = DropFrameTimecode.ENABLED,
        RespondToAfd = RespondToAfd.NONE,
        ColorMetadata = ColorMetadata.INSERT,
        CodecSettings = new VideoCodecSettings
        {
            Codec = VideoCodec.H_264
        }
    };
    output.VideoDescription = vdes;

    H264Settings h264 = new H264Settings
    {
        InterlaceMode = H264InterlaceMode.PROGRESSIVE,
        NumberReferenceFrames = 3,
        Syntax = H264Syntax.DEFAULT,
        Softness = 0,
        GopClosedCadence = 1,
        GopSize = 90,
        Slices = 1,
        GopBReference = H264GopBReference.DISABLED,
        SlowPal = H264SlowPal.DISABLED,
        SpatialAdaptiveQuantization = H264SpatialAdaptiveQuantization.ENABLED,
        TemporalAdaptiveQuantization = H264TemporalAdaptiveQuantization.ENABLED,
        FlickerAdaptiveQuantization = H264FlickerAdaptiveQuantization.DISABLED,
        EntropyEncoding = H264EntropyEncoding.CABAC,
        Bitrate = 5000000,
        FramerateControl = H264FramerateControl.SPECIFIED,
        RateControlMode = H264RateControlMode.CBR,
        CodecProfile = H264CodecProfile.MAIN,
        Telecine = H264Telecine.NONE,
        MinIInterval = 0,
        AdaptiveQuantization = H264AdaptiveQuantization.HIGH,
        CodecLevel = H264CodecLevel.AUTO,
        FieldEncoding = H264FieldEncoding.PAFF,
        SceneChangeDetect = H264SceneChangeDetect.ENABLED,
        QualityTuningLevel = H264QualityTuningLevel.SINGLE_PASS,
        FramerateConversionAlgorithm =
            H264FramerateConversionAlgorithm.DUPLICATE_DROP,
        UnregisteredSeiTimecode = H264UnregisteredSeiTimecode.DISABLED,
        GopSizeUnits = H264GopSizeUnits.FRAMES,
        ParControl = H264ParControl.SPECIFIED,
    }

```

```

        NumberBFramesBetweenReferenceFrames = 2,
        RepeatPps = H264RepeatPps.DISABLED,
        FramerateNumerator = 30,
        FramerateDenominator = 1,
        ParNumerator = 1,
        ParDenominator = 1
    };
    output.VideoDescription.CodecSettings.H264Settings = h264;

#endregion VideoDescription

#region AudioDescription

AudioDescription ades = new AudioDescription
{
    LanguageCodeControl = AudioLanguageCodeControl.FOLLOW_INPUT,
    // This name matches one specified in the following Inputs.
    AudioSourceName = "Audio Selector 1",
    CodecSettings = new AudioCodecSettings
    {
        Codec = AudioCodec.AAC
    }
};

AacSettings aac = new AacSettings
{
    AudioDescriptionBroadcasterMix =
AacAudioDescriptionBroadcasterMix.NORMAL,
    RateControlMode = AacRateControlMode.CBR,
    CodecProfile = AacCodecProfile.LC,
    CodingMode = AacCodingMode.CODING_MODE_2_0,
    RawFormat = AacRawFormat.NONE,
    SampleRate = 48000,
    Specification = AacSpecification.MPEG4,
    Bitrate = 64000
};
ades.CodecSettings.AacSettings = aac;
output.AudioDescriptions.Add(ades);

#endregion AudioDescription

#region Mp4 Container

output.ContainerSettings = new ContainerSettings

```

```

{
    Container = ContainerType.MP4
};
Mp4Settings mp4 = new Mp4Settings
{
    CslgAtom = Mp4CslgAtom.INCLUDE,
    FreeSpaceBox = Mp4FreeSpaceBox.EXCLUDE,
    MoovPlacement = Mp4MoovPlacement.PROGRESSIVE_DOWNLOAD
};
output.ContainerSettings.Mp4Settings = mp4;

#endregion Mp4 Container

ofg.Outputs.Add(output);
createJobRequest.Settings.OutputGroups.Add(ofg);

#endregion OutputGroup

#region Input

Input input = new Input
{
    FilterEnable = InputFilterEnable.AUTO,
    PsiControl = InputPsiControl.USE_PSI,
    FilterStrength = 0,
    DeblockFilter = InputDeblockFilter.DISABLED,
    DenoiseFilter = InputDenoiseFilter.DISABLED,
    TimecodeSource = InputTimecodeSource.EMBEDDED,
    FileInput = fileInput
};

AudioSelector audsel = new AudioSelector
{
    Offset = 0,
    DefaultSelection = AudioDefaultSelection.NOT_DEFAULT,
    ProgramSelection = 1,
    SelectorType = AudioSelectorType.TRACK
};
audsel.Tracks.Add(1);
input.AudioSelectors.Add("Audio Selector 1", audsel);

input.VideoSelector = new VideoSelector
{
    ColorSpace = ColorSpace.FOLLOW

```

```
};

createJobRequest.Settings.Inputs.Add(input);

#endregion Input

CreateJobResponse createJobResponse =
    await _amazonMediaConvert.CreateJobAsync(createJobRequest);

var jobId = createJobResponse.Job.Id;

return jobId;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CreateJob](#)」を参照してください。

GetJob

次のコード例は、GetJob を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

ファイルの場所、クライアント、ラッパーを設定します。

```
// MediaConvert role Amazon Resource Name (ARN).
// For information on creating this role, see
// https://docs.aws.amazon.com/mediaconvert/latest/ug/creating-the-iam-role-
in-mediaconvert-configured.html.
var mediaConvertRole = _configuration["mediaConvertRoleARN"];

// Include the file input and output locations in settings.json or
settings.local.json.
```



```
var fileInput = _configuration["fileInput"];
var fileOutput = _configuration["fileOutput"];

AmazonMediaConvertClient mcClient = new AmazonMediaConvertClient();

var wrapper = new MediaConvertWrapper(mcClient);
```

ID でジョブを取得する。

```
Console.WriteLine(new string('-', 80));
Console.WriteLine($"Getting job information for Job ID {jobId}");
var job = await wrapper.GetJobById(jobId);
Console.WriteLine($"Job {job.Id} created on {job.CreatedAt:d} has status {job.Status}.");
Console.WriteLine(new string('-', 80));
```

```
/// <summary>
/// Get the job information for a job by its ID.
/// </summary>
/// <param name="jobId">The ID of the job.</param>
/// <returns>The Job object.</returns>
public async Task<Job> GetJobById(string jobId)
{
    var jobResponse = await _amazonMediaConvert.GetJobAsync(
        new GetJobRequest
        {
            Id = jobId
        });

    return jobResponse.Job;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[GetJob](#)」を参照してください。

ListJobs

次のコード例は、ListJobs を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

ファイルの場所、クライアント、ラッパーを設定します。

```
// MediaConvert role Amazon Resource Name (ARN).  
// For information on creating this role, see  
// https://docs.aws.amazon.com/mediaconvert/latest/ug/creating-the-iam-role-  
in-mediaconvert-configured.html.  
var mediaConvertRole = _configuration["mediaConvertRoleARN"];  
  
// Include the file input and output locations in settings.json or  
settings.local.json.  
var fileInput = _configuration["fileInput"];  
var fileOutput = _configuration["fileOutput"];  
  
AmazonMediaConvertClient mcClient = new AmazonMediaConvertClient();  
  
var wrapper = new MediaConvertWrapper(mcClient);
```

特定のステータスのジョブを一覧表示します。

```
Console.WriteLine(new string('-', 80));  
Console.WriteLine($"Listing all complete jobs.");  
var completeJobs = await wrapper.ListAllJobsByStatus(JobStatus.COMPLETE);  
completeJobs.ForEach(j =>  
{  
    Console.WriteLine($"Job {j.Id} created on {j.CreatedAt:d} has status  
{j.Status}.");  
});
```

ページネーターを使用してジョブを一覧表示します。

```
///  
/// <summary>
```

```
/// List all of the jobs with a particular status using a paginator.
/// </summary>
/// <param name="status">The status to use when listing jobs.</param>
/// <returns>The list of jobs matching the status.</returns>
public async Task<List<Job>> ListAllJobsByStatus(JobStatus? status = null)
{
    var returnedJobs = new List<Job>();

    var paginatedJobs = _amazonMediaConvert.Paginators.ListJobs(
        new ListJobsRequest
        {
            Status = status
        });

    // Get the entire list using the paginator.
    await foreach (var job in paginatedJobs.Jobs)
    {
        returnedJobs.Add(job);
    }

    return returnedJobs;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListJobs](#)」を参照してください。

を使用した Amazon MSK の例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon MSK AWS SDK for .NET でを使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [サーバーレスサンプル](#)

サーバーレスサンプル

Amazon MSK トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、Amazon MSK クラスターからレコードを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る、Lambda 関数の実装方法を示しています。関数は MSK ペイロードを取得し、レコードの内容をログ記録します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

.NET を使用した Lambda での Amazon MSK イベントの消費。

```
using System.Text;
using Amazon.Lambda.Core;
using Amazon.Lambda.KafkaEvents;

// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
// into a .NET class.
[assembly:
    LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace MSKLambda;

public class Function
{
    /// <param name="input">The event for the Lambda function handler to process.</param>
    /// <param name="context">The ILambdaContext that provides methods for logging
    and describing the Lambda environment.</param>
    /// <returns></returns>
    public void FunctionHandler(KafkaEvent evnt, ILambdaContext context)
    {
    }
```

```
        foreach (var record in evnt.Records)
        {
            Console.WriteLine("Key:" + record.Key);
            foreach (var eventRecord in record.Value)
            {
                var valueBytes = eventRecord.Value.ToArray();
                var valueText = Encoding.UTF8.GetString(valueBytes);

                Console.WriteLine("Message:" + valueText);
            }
        }
    }
}
```

を使用した Organizations の例 SDK for .NET

次のコード例は、Organizations AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)

アクション

AttachPolicy

次のコード例は、AttachPolicy を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Organizations;
using Amazon.Organizations.Model;

/// <summary>
/// Shows how to attach an AWS Organizations policy to an organization,
/// an organizational unit, or an account.
/// </summary>
public class AttachPolicy
{
    /// <summary>
    /// Initializes the Organizations client object and then calls the
    /// AttachPolicyAsync method to attach the policy to the root
    /// organization.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        IAmazonOrganizations client = new AmazonOrganizationsClient();
        var policyId = "p-000000000";
        var targetId = "r-0000";

        var request = new AttachPolicyRequest
        {
            PolicyId = policyId,
            TargetId = targetId,
        };

        var response = await client.AttachPolicyAsync(request);

        if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
        {
            Console.WriteLine($"Successfully attached Policy ID {policyId} to
Target ID: {targetId}.");
        }
    }
}
```

```
    }  
    else  
    {  
        Console.WriteLine("Was not successful in attaching the policy.");  
    }  
}  
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[AttachPolicy](#)」を参照してください。

CreateAccount

次のコード例は、CreateAccount を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;  
using System.Threading.Tasks;  
using Amazon.Organizations;  
using Amazon.Organizations.Model;  
  
/// <summary>  
/// Creates a new AWS Organizations account.  
/// </summary>  
public class CreateAccount  
{  
    /// <summary>  
    /// Initializes an Organizations client object and uses it to create  
    /// the new account with the name specified in accountName.  
    /// </summary>  
    public static async Task Main()  
    {
```

```
IAmazonOrganizations client = new AmazonOrganizationsClient();
var accountName = "ExampleAccount";
var email = "someone@example.com";

var request = new CreateAccountRequest
{
    AccountName = accountName,
    Email = email,
};

var response = await client.CreateAccountAsync(request);
var status = response.CreateAccountStatus;

Console.WriteLine($"The status of {status.AccountName} is
{status.State}.");
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateAccount](#)」を参照してください。

CreateOrganization

次のコード例は、CreateOrganization を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Organizations;
using Amazon.Organizations.Model;

/// <summary>
```



```
/// Creates an organization in AWS Organizations.
/// </summary>
public class CreateOrganization
{
    /// <summary>
    /// Creates an Organizations client object and then uses it to create
    /// a new organization with the default user as the administrator, and
    /// then displays information about the new organization.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        IAmazonOrganizations client = new AmazonOrganizationsClient();

        var response = await client.CreateOrganizationAsync(new
CreateOrganizationRequest
        {
            FeatureSet = "ALL",
        });

        Organization newOrg = response.Organization;

        Console.WriteLine($"Organization: {newOrg.Id} Main Account:
{newOrg.MasterAccountId}");
    }
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CreateOrganization](#)」を参照してください。

CreateOrganizationalUnit

次のコード例は、CreateOrganizationalUnit を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Organizations;
using Amazon.Organizations.Model;

/// <summary>
/// Creates a new organizational unit in AWS Organizations.
/// </summary>
public class CreateOrganizationalUnit
{
    /// <summary>
    /// Initializes an Organizations client object and then uses it to call
    /// the CreateOrganizationalUnit method. If the call succeeds, it
    /// displays information about the new organizational unit.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        // Create the client object using the default account.
        IAmazonOrganizations client = new AmazonOrganizationsClient();

        var orgUnitName = "ProductDevelopmentUnit";

        var request = new CreateOrganizationalUnitRequest
        {
            Name = orgUnitName,
            ParentId = "r-0000",
        };

        var response = await client.CreateOrganizationalUnitAsync(request);

        if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
        {
            Console.WriteLine($"Successfully created organizational unit:
{orgUnitName}.");
            Console.WriteLine($"Organizational unit {orgUnitName} Details");
            Console.WriteLine($"ARN: {response.OrganizationalUnit.Arn} Id:
{response.OrganizationalUnit.Id}");
        }
        else
        {
            Console.WriteLine("Could not create new organizational unit.");
        }
    }
}
```

```
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateOrganizationalUnit](#)」を参照してください。

CreatePolicy

次のコード例は、CreatePolicy を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Organizations;
using Amazon.Organizations.Model;

/// <summary>
/// Creates a new AWS Organizations Policy.
/// </summary>
public class CreatePolicy
{
    /// <summary>
    /// Initializes the AWS Organizations client object, uses it to
    /// create a new Organizations Policy, and then displays information
    /// about the newly created Policy.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        IAmazonOrganizations client = new AmazonOrganizationsClient();
        var policyContent = "{" +
            "  \"Version\": \"2012-10-17\", \" +
            "  \"Statement\" : [{\" +
            "    \"Action\" : [\"s3:*\"], \" +
```

```

        " \\"Effect\\" : \\"Allow\\"," +
        " \\"Resource\\" : \\"*\\\" +
        "]]" +
    "}}";

    try
    {
        var response = await client.CreatePolicyAsync(new
CreatePolicyRequest
        {
            Content = policyContent,
            Description = "Enables admins of attached accounts to delegate
all Amazon S3 permissions",
            Name = "AllowAllS3Actions",
            Type = "SERVICE_CONTROL_POLICY",
        });

        Policy policy = response.Policy;
        Console.WriteLine($"{policy.PolicySummary.Name} has the following
content: {policy.Content}");
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
}
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreatePolicy](#)」を参照してください。

DeleteOrganization

次のコード例は、DeleteOrganization を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Organizations;
using Amazon.Organizations.Model;

/// <summary>
/// Shows how to delete an existing organization using the AWS
/// Organizations Service.
/// </summary>
public class DeleteOrganization
{
    /// <summary>
    /// Initializes the Organizations client and then calls
    /// DeleteOrganizationAsync to delete the organization.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        // Create the client object using the default account.
        IAmazonOrganizations client = new AmazonOrganizationsClient();

        var response = await client.DeleteOrganizationAsync(new
DeleteOrganizationRequest());

        if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
        {
            Console.WriteLine("Successfully deleted organization.");
        }
        else
        {
            Console.WriteLine("Could not delete organization.");
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeleteOrganization](#)」を参照してください。

DeleteOrganizationalUnit

次のコード例は、DeleteOrganizationalUnit を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Organizations;
using Amazon.Organizations.Model;

/// <summary>
/// Shows how to delete an existing AWS Organizations organizational unit.
/// </summary>
public class DeleteOrganizationalUnit
{
    /// <summary>
    /// Initializes the Organizations client object and calls
    /// DeleteOrganizationalUnitAsync to delete the organizational unit
    /// with the selected ID.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        // Create the client object using the default account.
        IAmazonOrganizations client = new AmazonOrganizationsClient();

        var orgUnitId = "ou-0000-000000000";

        var request = new DeleteOrganizationalUnitRequest
        {
```

```
        OrganizationalUnitId = orgUnitId,
    };

    var response = await client.DeleteOrganizationalUnitAsync(request);

    if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
    {
        Console.WriteLine($"Successfully deleted the organizational unit
with ID: {orgUnitId}.");
    }
    else
    {
        Console.WriteLine($"Could not delete the organizational unit with
ID: {orgUnitId}.");
    }
}
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteOrganizationalUnit](#)」を参照してください。

DeletePolicy

次のコード例は、DeletePolicy を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Organizations;
using Amazon.Organizations.Model;

/// <summary>
```

```
/// Deletes an existing AWS Organizations policy.
/// </summary>
public class DeletePolicy
{
    /// <summary>
    /// Initializes the Organizations client object and then uses it to
    /// delete the policy with the specified policyId.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        // Create the client object using the default account.
        IAmazonOrganizations client = new AmazonOrganizationsClient();

        var policyId = "p-000000000";

        var request = new DeletePolicyRequest
        {
            PolicyId = policyId,
        };

        var response = await client.DeletePolicyAsync(request);

        if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
        {
            Console.WriteLine($"Successfully deleted Policy: {policyId}.");
        }
        else
        {
            Console.WriteLine($"Could not delete Policy: {policyId}.");
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeletePolicy](#)」を参照してください。

DetachPolicy

次のコード例は、DetachPolicy を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Organizations;
using Amazon.Organizations.Model;

/// <summary>
/// Shows how to detach a policy from an AWS Organizations organization,
/// organizational unit, or account.
/// </summary>
public class DetachPolicy
{
    /// <summary>
    /// Initializes the Organizations client object and uses it to call
    /// DetachPolicyAsync to detach the policy.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        // Create the client object using the default account.
        IAmazonOrganizations client = new AmazonOrganizationsClient();

        var policyId = "p-000000000";
        var targetId = "r-0000";

        var request = new DetachPolicyRequest
        {
            PolicyId = policyId,
            TargetId = targetId,
        };

        var response = await client.DetachPolicyAsync(request);

        if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
        {
```

```
        Console.WriteLine($"Successfully detached policy with Policy Id:
{policyId}.");
    }
    else
    {
        Console.WriteLine("Could not detach the policy.");
    }
}
}
```

- API の詳細については、[AWS SDK for .NET API リファレンス](#) の「DetachPolicy」を参照してください。

ListAccounts

次のコード例は、ListAccounts を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Organizations;
using Amazon.Organizations.Model;

/// <summary>
/// Uses the AWS Organizations service to list the accounts associated
/// with the default account.
/// </summary>
public class ListAccounts
{
    /// <summary>
    /// Creates the Organizations client and then calls its
    /// ListAccountsAsync method.

```

```
/// </summary>
public static async Task Main()
{
    // Create the client object using the default account.
    IAmazonOrganizations client = new AmazonOrganizationsClient();

    var request = new ListAccountsRequest
    {
        MaxResults = 5,
    };

    var response = new ListAccountsResponse();
    try
    {
        do
        {
            response = await client.ListAccountsAsync(request);
            response.Accounts.ForEach(a => DisplayAccounts(a));
            if (response.NextToken is not null)
            {
                request.NextToken = response.NextToken;
            }
        } while (response.NextToken is not null);
    }
    catch (AWSOrganizationsNotInUseException ex)
    {
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
}

/// <summary>
/// Displays information about an Organizations account.
/// </summary>
/// <param name="account">An Organizations account for which to display
/// information on the console.</param>
private static void DisplayAccounts(Account account)
{
    string accountInfo = $"{account.Id} {account.Name}\t{account.Status}";

    Console.WriteLine(accountInfo);
}
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListAccounts](#)」を参照してください。

ListOrganizationalUnitsForParent

次のコード例は、ListOrganizationalUnitsForParent を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Organizations;
using Amazon.Organizations.Model;

/// <summary>
/// Lists the AWS Organizations organizational units that belong to an
/// organization.
/// </summary>
public class ListOrganizationalUnitsForParent
{
    /// <summary>
    /// Initializes the Organizations client object and then uses it to
    /// call the ListOrganizationalUnitsForParentAsync method to retrieve
    /// the list of organizational units.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        // Create the client object using the default account.
        IAmazonOrganizations client = new AmazonOrganizationsClient();

        var parentId = "r-0000";

        var request = new ListOrganizationalUnitsForParentRequest
```

```

        {
            ParentId = parentId,
            MaxResults = 5,
        };

        var response = new ListOrganizationalUnitsForParentResponse();
        try
        {
            do
            {
                response = await
client.ListOrganizationalUnitsForParentAsync(request);
                response.OrganizationalUnits.ForEach(u =>
DisplayOrganizationalUnit(u));
                if (response.NextToken is not null)
                {
                    request.NextToken = response.NextToken;
                }
            }
            while (response.NextToken is not null);
        }
        catch (Exception ex)
        {
            Console.WriteLine(ex.Message);
        }
    }

    /// <summary>
    /// Displays information about an Organizations organizational unit.
    /// </summary>
    /// <param name="unit">The OrganizationalUnit for which to display
    /// information.</param>
    public static void DisplayOrganizationalUnit(OrganizationalUnit unit)
    {
        string accountInfo = $"{unit.Id} {unit.Name}\t{unit.Arn}";

        Console.WriteLine(accountInfo);
    }
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListOrganizationalUnitsForParent](#)」を参照してください。

ListPolicies

次のコード例は、ListPolicies を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Organizations;
using Amazon.Organizations.Model;

/// <summary>
/// Shows how to list the AWS Organizations policies associated with an
/// organization.
/// </summary>
public class ListPolicies
{
    /// <summary>
    /// Initializes an Organizations client object, and then calls its
    /// ListPoliciesAsync method.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        // Create the client object using the default account.
        IAmazonOrganizations client = new AmazonOrganizationsClient();

        // The value for the Filter parameter is required and must must be
        // one of the following:
        //     AISERVICES_OPT_OUT_POLICY
        //     BACKUP_POLICY
        //     SERVICE_CONTROL_POLICY
        //     TAG_POLICY
        var request = new ListPoliciesRequest
```

```
        {
            Filter = "SERVICE_CONTROL_POLICY",
            MaxResults = 5,
        };

        var response = new ListPoliciesResponse();
        try
        {
            do
            {
                response = await client.ListPoliciesAsync(request);
                response.Policies.ForEach(p => DisplayPolicies(p));
                if (response.NextToken is not null)
                {
                    request.NextToken = response.NextToken;
                }
            }
            while (response.NextToken is not null);
        }
        catch (AWSOrganizationsNotInUseException ex)
        {
            Console.WriteLine(ex.Message);
        }
    }

    /// <summary>
    /// Displays information about the Organizations policies associated
    /// with an organization.
    /// </summary>
    /// <param name="policy">An Organizations policy summary to display
    /// information on the console.</param>
    private static void DisplayPolicies(PolicySummary policy)
    {
        string policyInfo = $"{policy.Id} {policy.Name}\t{policy.Description}";

        Console.WriteLine(policyInfo);
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListPolicies](#)」を参照してください。

を使用した Partner Central の例 SDK for .NET

次のコード例は、Partner Central AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)

アクション

CreateOpportunity

次のコード例は、CreateOpportunity を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

オポチュニティを作成します。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// PDX-License-Identifier: Apache-2.0

using System;
using Newtonsoft.Json;
using Amazon;
using Amazon.Runtime;
using Amazon.PartnerCentralSelling;
using Amazon.PartnerCentralSelling.Model;

namespace AWSExample
{
    class Program
    {
        static readonly string catalogToUse = "AWS";
        static async Task Main(string[] args)
```



```
{
    // Initialize credentials from .aws/credentials file
    var credentials = new
Amazon.Runtime.CredentialManagement.SharedCredentialsFile();
    if (credentials.TryGetProfile("default", out var profile))
    {
        AWSCredentials awsCredentials =
profile.GetAWSCredentials(credentials);

        var client = new AmazonPartnerCentralSellingClient(awsCredentials);

        var request = new CreateOpportunityRequest
        {
            Catalog = catalogToUse,
            Origin = "Partner Referral",
            Customer = new Customer
            {
                Account = new Account
                {
                    Address = new Address
                    {
                        CountryCode = "US",
                        PostalCode = "99502",
                        StateOrRegion = "Alaska"
                    },
                    CompanyName = "TestCompanyName",
                    Duns = "123456789",
                    WebsiteUrl = "www.test.io",
                    Industry = "Automotive"
                },
                Contacts = new List<Contact>
                {
                    new Contact
                    {
                        Email = "test@test.io",
                        FirstName = "John ",
                        LastName = "Doe",
                        Phone = "+14444444444",
                        BusinessTitle = "test title"
                    }
                }
            },
            Lifecycle = new Lifecycle
            {
```

```

        ReviewStatus = "Submitted",
        TargetCloseDate = "2024-12-30"
    },
    Marketing = new Marketing
    {
        Source = "None"
    },
    OpportunityType = "Net New Business",
    PrimaryNeedsFromAws = new List<string> { "Co-Sell -
Architectural Validation" },
    Project = new Project
    {
        Title = "Moin Test UUID",
        CustomerBusinessProblem = "Sandbox is not working as
expected",

        CustomerUseCase = "AI Machine Learning and Analytics",
        DeliveryModels = new List<string> { "SaaS or PaaS" },
        ExpectedCustomerSpend = new List<ExpectedCustomerSpend>
        {
            new ExpectedCustomerSpend
            {
                Amount = "2000.0",
                CurrencyCode = "USD",
                Frequency = "Monthly",
                TargetCompany = "Ibexlabs"
            }
        },
        SalesActivities = new List<string> { "Initialized
discussions with customer" }
    }
};

try
{
    var response = await client.CreateOpportunityAsync(request);
    Console.WriteLine(response.HttpStatusCode);
    string formattedJson = JsonConvert.SerializeObject(response,
Formatting.Indented);
    Console.WriteLine(formattedJson);
}
catch (ValidationException ex)
{
    Console.WriteLine("Validation error: " + ex.Message);
}

```

```
        catch (AmazonPartnerCentralSellingException e)
        {
            Console.WriteLine("Failed:");
            Console.WriteLine(e.RequestId);
            Console.WriteLine(e.ErrorCode);
            Console.WriteLine(e.Message);
        }
    }
    else
    {
        Console.WriteLine("Profile not found.");
    }
}
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateOpportunity](#)」を参照してください。

GetOpportunity

次のコード例は、GetOpportunity を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

オポチュニティを取得します。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// PDX-License-Identifier: Apache-2.0

using System;
using Newtonsoft.Json;
using Amazon;
using Amazon.Runtime;
using Amazon.PartnerCentralSelling;
using Amazon.PartnerCentralSelling.Model;

namespace AWSExample
{
    class Program
    {
        static readonly string catalogToUse = "AWS";
        static readonly string identifier = "01111111";
```

```
static async Task Main(string[] args)
{
    // Initialize credentials from .aws/credentials file
    var credentials = new
Amazon.Runtime.CredentialManagement.SharedCredentialsFile();
    if (credentials.TryGetProfile("default", out var profile))
    {
        AWSCredentials awsCredentials =
profile.GetAWSCredentials(credentials);

        var client = new AmazonPartnerCentralSellingClient(awsCredentials);

        var request = new GetOpportunityRequest
        {
            Catalog = catalogToUse,
            Identifier = identifier
        };

        try {
            var response = await client.GetOpportunityAsync(request);
            Console.WriteLine(response.HttpStatusCode);
            string formattedJson = JsonConvert.SerializeObject(response,
Formatting.Indented);
            Console.WriteLine(formattedJson);
        } catch (ValidationException ex) {
            Console.WriteLine("Validation error: " + ex.Message);
        } catch (AmazonPartnerCentralSellingException e) {
            Console.WriteLine("Failed:");
            Console.WriteLine(e.RequestId);
            Console.WriteLine(e.ErrorCode);
            Console.WriteLine(e.Message);
        }
    }
    else
    {
        Console.WriteLine("Profile not found.");
    }
}
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetOpportunity](#)」を参照してください。

ListOpportunities

次のコード例は、ListOpportunities を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

オポチュニティを一覧表示します。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// PDX-License-Identifier: Apache-2.0

using System;
using Newtonsoft.Json;
using Amazon;
using Amazon.Runtime;
using Amazon.PartnerCentralSelling;
using Amazon.PartnerCentralSelling.Model;

namespace AWSExample
{
    class Program
    {
        static readonly string catalogToUse = "Sandbox";
        static async Task Main(string[] args)
        {
            // Initialize credentials from .aws/credentials file
            var credentials = new
Amazon.Runtime.CredentialManagement.SharedCredentialsFile();
            if (credentials.TryGetProfile("default", out var profile))
            {
                AWSCredentials awsCredentials =
profile.GetAWSCredentials(credentials);

                //var config = new AmazonPartnerCentralSellingConfig()
                //{
                //    ServiceURL = "https://partnercentral-selling.us-
east-1.api.aws",
                //};
                //var client = new AmazonPartnerCentralSellingClient(awsCredentials,
config);
```

```

        var client = new AmazonPartnerCentralSellingClient(awsCredentials);
        var request = new ListOpportunitiesRequest
        {
            Catalog = catalogToUse,
            MaxResults = 2
        };

        try {
            var response = await client.ListOpportunitiesAsync(request);
            Console.WriteLine(response.HttpStatusCode);
            foreach (var opportunity in response.OpportunitySummaries)
            {
                Console.WriteLine("Opportunity id: " + opportunity.Id);
            }
            string formattedJson =
                JsonConvert.SerializeObject(response.OpportunitySummaries, Formatting.Indented);
            Console.WriteLine(formattedJson);
        } catch (ValidationException ex) {
            Console.WriteLine("Validation error: " + ex.Message);
        } catch (AmazonPartnerCentralSellingException e) {
            Console.WriteLine("Failed:");
            Console.WriteLine(e.RequestId);
            Console.WriteLine(e.ErrorCode);
            Console.WriteLine(e.Message);
        }
    }
    else
    {
        Console.WriteLine("Profile not found.");
    }
}
}
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListOpportunities](#)」を参照してください。

を使用した Amazon Pinpoint の例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon Pinpoint AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)

アクション

SendMessage

次のコード例は、SendMessage を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

E メールメッセージを送信します。

```
using Amazon;
using Amazon.Pinpoint;
using Amazon.Pinpoint.Model;
using Microsoft.Extensions.Configuration;

namespace SendEmailMessage;

public class SendEmailMainClass
{
    public static async Task Main(string[] args)
    {
        var configuration = new ConfigurationBuilder()
            .SetBasePath(Directory.GetCurrentDirectory())
            .AddJsonFile("settings.json") // Load test settings from .json file.
```

```

        .AddJsonFile("settings.local.json",
            true) // Optionally load local settings.
        .Build();

// The AWS Region that you want to use to send the email. For a list of
// AWS Regions where the Amazon Pinpoint API is available, see
// https://docs.aws.amazon.com/pinpoint/latest/apireference/
string region = "us-east-1";

// The "From" address. This address has to be verified in Amazon Pinpoint
// in the region you're using to send email.
string senderAddress = configuration["SenderAddress"]!;

// The address on the "To" line. If your Amazon Pinpoint account is in
// the sandbox, this address also has to be verified.
string toAddress = configuration["ToAddress"]!;

// The Amazon Pinpoint project/application ID to use when you send this
message.
// Make sure that the SMS channel is enabled for the project or application
// that you choose.
string appId = configuration["AppId"]!;

try
{
    await SendEmailMessage(region, appId, toAddress, senderAddress);
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine("The message wasn't sent. Error message: " +
ex.Message);
}

}

public static async Task<MessageResponse> SendEmailMessage(
    string region, string appId, string toAddress, string senderAddress)
{
    var client = new
AmazonPinpointClient(RegionEndpoint.GetBySystemName(region));

    // The subject line of the email.
    string subject = "Amazon Pinpoint Email test";

    // The body of the email for recipients whose email clients don't

```



```

        // support HTML content.
        string textBody = @"Amazon Pinpoint Email Test (.NET)"
            + "\n-----"
            + "\nThis email was sent using the Amazon Pinpoint API
using the AWS SDK for .NET.";

        // The body of the email for recipients whose email clients support
        // HTML content.
        string htmlBody = @"<html>"
            + "<head></head>"
            + "<body>"
            + "\n  <h1>Amazon Pinpoint Email Test (AWS SDK for .NET)</
h1>"
            + "\n  <p>This email was sent using the "
            + "\n    <a href='https://aws.amazon.com/pinpoint/'>Amazon
Pinpoint</a> API "
            + "\n    using the <a href='https://aws.amazon.com/sdk-
for-net/'>AWS SDK for .NET</a>"
            + "\n  </p>"
            + "</body>"
            + "</html>";

        // The character encoding the you want to use for the subject line and
        // message body of the email.
        string charset = "UTF-8";

        var sendRequest = new SendMessagesRequest
        {
            ApplicationId = appId,
            MessageRequest = new MessageRequest
            {
                Addresses = new Dictionary<string, AddressConfiguration>
                {
                    {
                        toAddress,
                        new AddressConfiguration
                        {
                            ChannelType = ChannelType.EMAIL
                        }
                    }
                },
                MessageConfiguration = new DirectMessageConfiguration
                {
                    EmailMessage = new EmailMessage

```

```

        {
            FromAddress = senderAddress,
            SimpleEmail = new SimpleEmail
            {
                HtmlPart = new SimpleEmailPart
                {
                    Charset = charset,
                    Data = htmlBody
                },
                TextPart = new SimpleEmailPart
                {
                    Charset = charset,
                    Data = textBody
                },
                Subject = new SimpleEmailPart
                {
                    Charset = charset,
                    Data = subject
                }
            }
        }
    }
};
Console.WriteLine("Sending message...");
SendMessagesResponse response = await client.SendMessagesAsync(sendRequest);
Console.WriteLine("Message sent!");
return response.MessageResponse;
}
}

```

SMS メッセージを送信します。

```

using Amazon;
using Amazon.Pinpoint;
using Amazon.Pinpoint.Model;
using Microsoft.Extensions.Configuration;

namespace SendSmsMessage;

```

```
public class SendSmsMessageMainClass
{
    public static async Task Main(string[] args)
    {
        var configuration = new ConfigurationBuilder()
            .SetBasePath(Directory.GetCurrentDirectory())
            .AddJsonFile("settings.json") // Load test settings from .json file.
            .AddJsonFile("settings.local.json",
                true) // Optionally load local settings.
            .Build();

        // The AWS Region that you want to use to send the message. For a list of
        // AWS Regions where the Amazon Pinpoint API is available, see
        // https://docs.aws.amazon.com/pinpoint/latest/apireference/
        string region = "us-east-1";

        // The phone number or short code to send the message from. The phone number
        // or short code that you specify has to be associated with your Amazon
        Pinpoint
        // account. For best results, specify long codes in E.164 format.
        string originationNumber = configuration["OriginationNumber"]!;

        // The recipient's phone number. For best results, you should specify the
        // phone number in E.164 format.
        string destinationNumber = configuration["DestinationNumber"]!;

        // The Pinpoint project/ application ID to use when you send this message.
        // Make sure that the SMS channel is enabled for the project or application
        // that you choose.
        string appId = configuration["AppId"]!;

        // The type of SMS message that you want to send. If you plan to send
        // time-sensitive content, specify TRANSACTIONAL. If you plan to send
        // marketing-related content, specify PROMOTIONAL.
        MessageType messageType = MessageType.TRANSACTIONAL;

        // The registered keyword associated with the originating short code.
        string? registeredKeyword = configuration["RegisteredKeyword"];

        // The sender ID to use when sending the message. Support for sender ID
        // varies by country or region. For more information, see
        // https://docs.aws.amazon.com/pinpoint/latest/userguide/channels-sms-
        countries.html
        string? senderId = configuration["SenderId"];
```

```

        try
        {
            var response = await SendSmsMessage(region, appId, destinationNumber,
                originationNumber, registeredKeyword, senderId, messageType);
            Console.WriteLine($"Message sent to
{response.MessageResponse.Result.Count} recipient(s).");
            foreach (var messageResultValue in
                response.MessageResponse.Result.Select(r => r.Value))
            {
                Console.WriteLine($"{messageResultValue.MessageId} Status:
{messageResultValue.DeliveryStatus}");
            }
        }
        catch (Exception ex)
        {
            Console.WriteLine("The message wasn't sent. Error message: " +
ex.Message);
        }
    }

    public static async Task<SendMessagesResponse> SendSmsMessage(
        string region, string appId, string destinationNumber, string
originationNumber,
        string? keyword, string? senderId, MessageType messageType)
    {
        // The content of the SMS message.
        string message = "This message was sent through Amazon Pinpoint using" +
            " the AWS SDK for .NET. Reply STOP to opt out.";

        var client = new
AmazonPinpointClient(RegionEndpoint.GetBySystemName(region));

        SendMessagesRequest sendRequest = new SendMessagesRequest
        {
            ApplicationId = appId,
            MessageRequest = new MessageRequest
            {
                Addresses =
                    new Dictionary<string, AddressConfiguration>
                    {
                        {

```

```

        destinationNumber,
        new AddressConfiguration { ChannelType =
ChannelType.SMS }
    },
    MessageConfiguration = new DirectMessageConfiguration
    {
        SMSMessage = new SMSMessage
        {
            Body = message,
            MessageType = MessageType.TRANSACTIONAL,
            OriginationNumber = originationNumber,
            SenderId = senderId,
            Keyword = keyword
        }
    }
};
SendMessageResponse response = await client.SendMessageAsync(sendRequest);
return response;
}
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[SendMessage](#)」を参照してください。

を使用した Amazon Polly の例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon Polly AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)
- [シナリオ](#)

アクション

DeleteLexicon

次のコード例は、DeleteLexicon を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Polly;
using Amazon.Polly.Model;

/// <summary>
/// Deletes an existing Amazon Polly lexicon using the AWS SDK for .NET.
/// </summary>
public class DeleteLexicon
{
    public static async Task Main()
    {
        string lexiconName = "SampleLexicon";

        var client = new AmazonPollyClient();

        var success = await DeletePollyLexiconAsync(client, lexiconName);

        if (success)
        {
            Console.WriteLine($"Successfully deleted {lexiconName}.");
        }
    }
}
```

```
        else
        {
            Console.WriteLine($"Could not delete {lexiconName}.");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Deletes the named Amazon Polly lexicon.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon Polly client object.</param>
    /// <param name="lexiconName">The name of the Amazon Polly lexicon to
    /// delete.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the operation.</
returns>
    public static async Task<bool> DeletePollyLexiconAsync(
        AmazonPollyClient client,
        string lexiconName)
    {
        var deleteLexiconRequest = new DeleteLexiconRequest()
        {
            Name = lexiconName,
        };

        var response = await client.DeleteLexiconAsync(deleteLexiconRequest);

        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteLexicon](#)」を参照してください。

DescribeVoices

次のコード例は、DescribeVoices を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Polly;
using Amazon.Polly.Model;

public class DescribeVoices
{
    public static async Task Main()
    {
        var client = new AmazonPollyClient();

        var allVoicesRequest = new DescribeVoicesRequest();
        var enUsVoicesRequest = new DescribeVoicesRequest()
        {
            LanguageCode = "en-US",
        };

        try
        {
            string nextToken;
            do
            {
                var allVoicesResponse = await
client.DescribeVoicesAsync(allVoicesRequest);
                nextToken = allVoicesResponse.NextToken;
                allVoicesRequest.NextToken = nextToken;

                Console.WriteLine("\nAll voices: ");
                allVoicesResponse.Voices.ForEach(voice =>
                {
                    DisplayVoiceInfo(voice);
                });
            }
            while (nextToken is not null);
        }
    }
}
```



```
        do
        {
            var enUsVoicesResponse = await
client.DescribeVoicesAsync(enUsVoicesRequest);
            nextToken = enUsVoicesResponse.NextToken;
            enUsVoicesRequest.NextToken = nextToken;

            Console.WriteLine("\nen-US voices: ");
            enUsVoicesResponse.Voices.ForEach(voice =>
            {
                DisplayVoiceInfo(voice);
            });
        }
        while (nextToken is not null);
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine("Exception caught: " + ex.Message);
    }
}

public static void DisplayVoiceInfo(Voice voice)
{
    Console.WriteLine($" Name: {voice.Name}\tGender:
{voice.Gender}\tLanguageName: {voice.LanguageName}");
}
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeVoices](#)」を参照してください。

GetLexicon

次のコード例は、GetLexicon を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Polly;
using Amazon.Polly.Model;

/// <summary>
/// Retrieves information about a specific Amazon Polly lexicon.
/// </summary>
public class GetLexicon
{
    public static async Task Main(string[] args)
    {
        string lexiconName = "SampleLexicon";

        var client = new AmazonPollyClient();

        await GetPollyLexiconAsync(client, lexiconName);
    }

    public static async Task GetPollyLexiconAsync(AmazonPollyClient client,
string lexiconName)
    {
        var getLexiconRequest = new GetLexiconRequest()
        {
            Name = lexiconName,
        };

        try
        {
            var response = await client.GetLexiconAsync(getLexiconRequest);
            Console.WriteLine($"Lexicon:\n Name: {response.Lexicon.Name}");
            Console.WriteLine($"Content: {response.Lexicon.Content}");
        }
        catch (Exception ex)
```

```
        {  
            Console.WriteLine("Error: " + ex.Message);  
        }  
    }  
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetLexicon](#)」を参照してください。

ListLexicons

次のコード例は、ListLexicons を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;  
using System.Threading.Tasks;  
using Amazon.Polly;  
using Amazon.Polly.Model;  
  
/// <summary>  
/// Lists the Amazon Polly lexicons that have been defined. By default,  
/// lists the lexicons that are defined in the same AWS Region as the default  
/// user. To view Amazon Polly lexicons that are defined in a different AWS  
/// Region, supply it as a parameter to the Amazon Polly constructor.  
/// </summary>  
public class ListLexicons  
{  
    public static async Task Main()  
    {  
        var client = new AmazonPollyClient();  
        var request = new ListLexiconsRequest();
```

```
try
{
    Console.WriteLine("All voices: ");

    do
    {
        var response = await client.ListLexiconsAsync(request);
        request.NextToken = response.NextToken;

        response.Lexicons.ForEach(lexicon =>
        {
            var attributes = lexicon.Attributes;
            Console.WriteLine($"Name: {lexicon.Name}");
            Console.WriteLine($"\\tAlphabet: {attributes.Alphabet}");
            Console.WriteLine($"\\tLanguageCode:
{attributes.LanguageCode}");
            Console.WriteLine($"\\tLastModified:
{attributes.LastModified}");
            Console.WriteLine($"\\tLexemesCount:
{attributes.LexemesCount}");
            Console.WriteLine($"\\tLexiconArn: {attributes.LexiconArn}");
            Console.WriteLine($"\\tSize: {attributes.Size}");
        });
    }
    while (request.NextToken is not null);
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine($"Error: {ex.Message}");
}
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListLexicons](#)」を参照してください。

PutLexicon

次のコード例は、PutLexicon を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Polly;
using Amazon.Polly.Model;

/// <summary>
/// Creates a new Amazon Polly lexicon using the AWS SDK for .NET.
/// </summary>
public class PutLexicon
{
    public static async Task Main()
    {
        string lexiconContent = "<?xml version=\"1.0\" encoding=\"UTF-8\"?>" +
            "<lexicon version=\"1.0\" xmlns=\"http://www.w3.org/2005/01/" +
            "pronunciation-lexicon\" xmlns:xsi=\"http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance\" " +
            "xsi:schemaLocation=\"http://www.w3.org/2005/01/pronunciation-" +
            "lexicon http://www.w3.org/TR/2007/CR-pronunciation-lexicon-20071212/pls.xsd\" " +
            "alphabet=\"ipa\" xml:lang=\"en-US\">" +
            "<lexeme><grapheme>test1</grapheme><alias>test2</alias></lexeme>" +
            "</lexicon>";
        string lexiconName = "SampleLexicon";

        var client = new AmazonPollyClient();
        var putLexiconRequest = new PutLexiconRequest()
        {
            Name = lexiconName,
            Content = lexiconContent,
        };

        try
        {
            var response = await client.PutLexiconAsync(putLexiconRequest);
            if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
            {

```

```
        Console.WriteLine($"Successfully created Lexicon:
{lexiconName}.");
    }
    else
    {
        Console.WriteLine($"Could not create Lexicon: {lexiconName}.");
    }
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine("Exception caught: " + ex.Message);
}
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[PutLexicon](#)」を参照してください。

SynthesizeSpeech

次のコード例は、SynthesizeSpeech を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.IO;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Polly;
using Amazon.Polly.Model;

public class SynthesizeSpeech
{
    public static async Task Main()
```

```

    {
        string outputFileName = "speech.mp3";
        string text = "Twas brillig, and the slithy toves did gyre and gimbol in
the wabe";

        var client = new AmazonPollyClient();
        var response = await PollySynthesizeSpeech(client, text);

        WriteSpeechToStream(response.AudioStream, outputFileName);
    }

    /// <summary>
    /// Calls the Amazon Polly SynthesizeSpeechAsync method to convert text
    /// to speech.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The Amazon Polly client object used to connect
    /// to the Amazon Polly service.</param>
    /// <param name="text">The text to convert to speech.</param>
    /// <returns>A SynthesizeSpeechResponse object that includes an AudioStream
    /// object with the converted text.</returns>
    private static async Task<SynthesizeSpeechResponse>
PollySynthesizeSpeech(IAmazonPolly client, string text)
    {
        var synthesizeSpeechRequest = new SynthesizeSpeechRequest()
        {
            OutputFormat = OutputFormat.Mp3,
            VoiceId = VoiceId.Joanna,
            Text = text,
        };

        var synthesizeSpeechResponse =
            await client.SynthesizeSpeechAsync(synthesizeSpeechRequest);

        return synthesizeSpeechResponse;
    }

    /// <summary>
    /// Writes the AudioStream returned from the call to
    /// SynthesizeSpeechAsync to a file in MP3 format.
    /// </summary>
    /// <param name="audioStream">The AudioStream returned from the
    /// call to the SynthesizeSpeechAsync method.</param>
    /// <param name="outputFileName">The full path to the file in which to
    /// save the audio stream.</param>

```

```
private static void WriteSpeechToStream(Stream audioStream, string
outputFileName)
{
    var outputStream = new FileStream(
        outputFileName,
        FileMode.Create,
        FileAccess.Write);
    byte[] buffer = new byte[2 * 1024];
    int readBytes;

    while ((readBytes = audioStream.Read(buffer, 0, 2 * 1024)) > 0)
    {
        outputStream.Write(buffer, 0, readBytes);
    }

    // Flushes the buffer to avoid losing the last second or so of
    // the synthesized text.
    outputStream.Flush();
    Console.WriteLine($"Saved {outputFileName} to disk.");
}
}
```

AWS SDK を使用して Amazon Polly で音声マークを使用してテキストから音声を合成します。

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.IO;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Polly;
using Amazon.Polly.Model;

public class SynthesizeSpeechMarks
{
    public static async Task Main()
    {
        var client = new AmazonPollyClient();
        string outputFileName = "speechMarks.json";

        var synthesizeSpeechRequest = new SynthesizeSpeechRequest()
        {
            OutputFormat = OutputFormat.Json,
```



```
        SpeechMarkTypes = new List<string>
        {
            SpeechMarkType.Viseme,
            SpeechMarkType.Word,
        },
        VoiceId = VoiceId.Joanna,
        Text = "This is a sample text to be synthesized.",
    };

    try
    {
        using (var outputStream = new FileStream(outputFileName,
            FileMode.Create, FileAccess.Write))
        {
            var synthesizeSpeechResponse = await
client.SynthesizeSpeechAsync(synthesizeSpeechRequest);
            var buffer = new byte[2 * 1024];
            int readBytes;

            var inputStream = synthesizeSpeechResponse.AudioStream;
            while ((readBytes = inputStream.Read(buffer, 0, 2 * 1024)) > 0)
            {
                outputStream.Write(buffer, 0, readBytes);
            }
        }
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"Error: {ex.Message}");
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[SynthesizeSpeech](#)」を参照してください。

シナリオ

顧客からのフィードバックを分析するアプリケーションの作成

次のコード例は、顧客のコメントカードを分析し、元の言語から翻訳し、顧客の感情を判断して、翻訳されたテキストから音声ファイルを生成するアプリケーションの作成方法を示しています。

SDK for .NET

このサンプルアプリケーションは、顧客フィードバックカードを分析し、保存します。具体的には、ニューヨーク市の架空のホテルのニーズを満たします。このホテルでは、お客様からのフィードバックをさまざまな言語で書かれた実際のコメントカードの形で受け取ります。そのフィードバックは、ウェブクライアントを通じてアプリにアップロードされます。コメントカードの画像をアップロードされると、次の手順が発生します。

- テキストは Amazon Textract を使用して、画像から抽出されます。
- Amazon Comprehend は、抽出したテキストの感情とその言語を分析します。
- 抽出されたテキストは、Amazon Translate を使用して英語に翻訳されます。
- Amazon Polly は抽出したテキストから音声ファイルを合成します。

完全なアプリは AWS CDK を使用してデプロイすることができます。ソースコードとデプロイ手順については、[GitHub](#) のプロジェクトを参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Comprehend
- Lambda
- Amazon Polly
- Amazon Textract
- Amazon Translate

を使用した Amazon RDS の例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon RDS AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [はじめに](#)
- [基本](#)
- [アクション](#)
- [シナリオ](#)
- [サーバーレスサンプル](#)

はじめに

Hello Amazon RDS

次のコード例は、Amazon RDS の使用を開始する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.RDS;
using Amazon.RDS.Model;

namespace RDSActions;

public static class HelloRds
```

```
{
    static async Task Main(string[] args)
    {
        var rdsClient = new AmazonRDSClient();

        Console.WriteLine($"Hello Amazon RDS! Following are some of your DB instances:");
        Console.WriteLine();

        // You can use await and any of the async methods to get a response.
        // Let's get the first twenty DB instances.
        var response = await rdsClient.DescribeDBInstancesAsync(
            new DescribeDBInstancesRequest()
            {
                MaxRecords = 20 // Must be between 20 and 100.
            });

        foreach (var instance in response.DBInstances)
        {
            Console.WriteLine($"\\tDB name: {instance.DBName}");
            Console.WriteLine($"\\tArn: {instance.DBInstanceArn}");
            Console.WriteLine($"\\tIdentifier: {instance.DBInstanceIdentifier}");
            Console.WriteLine();
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeDBInstances](#)」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- カスタム DB パラメータグループを作成し、パラメータ値を設定します。
- パラメータグループを使用するように設定した DB インスタンスを作成します。DB インスタンスにはデータベースも含まれています。
- インスタンスのスナップショットを取得します。

- インスタンスとパラメータグループを削除します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

コマンドプロンプトからインタラクティブなシナリオを実行します。

```
/// <summary>
/// Scenario for RDS DB instance example.
/// </summary>
public class RDSInstanceScenario
{
    /*
        Before running this .NET code example, set up your development environment,
        including your credentials.

        This .NET example performs the following tasks:
        1. Returns a list of the available DB engine families using the
        DescribeDBEngineVersionsAsync method.
        2. Selects an engine family and creates a custom DB parameter group using the
        CreateDBParameterGroupAsync method.
        3. Gets the parameter groups using the DescribeDBParameterGroupsAsync method.
        4. Gets parameters in the group using the DescribeDBParameters method.
        5. Parses and displays parameters in the group.
        6. Modifies both the auto_increment_offset and auto_increment_increment
        parameters
           using the ModifyDBParameterGroupAsync method.
        7. Gets and displays the updated parameters using the DescribeDBParameters
        method with a source of "user".
        8. Gets a list of allowed engine versions using the
        DescribeDBEngineVersionsAsync method.
        9. Displays and selects from a list of micro instance classes available for the
        selected engine and version.
        10. Creates an RDS DB instance that contains a MySQL database and uses the
        parameter group
           using the CreateDBInstanceAsync method.
```

```

11. Waits for DB instance to be ready using the DescribeDBInstancesAsync method.
12. Prints out the connection endpoint string for the new DB instance.
13. Creates a snapshot of the DB instance using the CreateDBSnapshotAsync
method.
14. Waits for DB snapshot to be ready using the DescribeDBSnapshots method.
15. Deletes the DB instance using the DeleteDBInstanceAsync method.
16. Waits for DB instance to be deleted using the DescribeDbInstances method.
17. Deletes the parameter group using the DeleteDBParameterGroupAsync.
*/

private static readonly string sepBar = new('-', 80);
private static RDSWrapper rdsWrapper = null!;
private static ILogger logger = null!;
private static readonly string engine = "mysql";
static async Task Main(string[] args)
{
    // Set up dependency injection for the Amazon RDS service.
    using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
        .ConfigureLogging(logging =>
            logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
                .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
LogLevel.Information)
                .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
        .ConfigureServices((_, services) =>
            services.AddAWSService<IAmazonRDS>()
                .AddTransient<RDSWrapper>()
        )
        .Build();

    logger = LoggerFactory.Create(builder =>
    {
        builder.AddConsole();
    }).CreateLogger<RDSInstanceScenario>();

    rdsWrapper = host.Services.GetRequiredService<RDSWrapper>();

    Console.WriteLine(sepBar);
    Console.WriteLine(
        "Welcome to the Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) DB
instance scenario example.");
    Console.WriteLine(sepBar);

    try
    {

```

```
        var parameterGroupFamily = await ChooseParameterGroupFamily();

        var parameterGroup = await CreateDbParameterGroup(parameterGroupFamily);

        var parameters = await
DescribeParametersInGroup(parameterGroup.DBParameterGroupName,
            new List<string> { "auto_increment_offset",
"auto_increment_increment" });

        await ModifyParameters(parameterGroup.DBParameterGroupName, parameters);

        await DescribeUserSourceParameters(parameterGroup.DBParameterGroupName);

        var engineVersionChoice = await
ChooseDbEngineVersion(parameterGroupFamily);

        var instanceChoice = await ChooseDbInstanceClass(engine,
engineVersionChoice.EngineVersion);

        var newInstanceIdentifier = "Example-Instance-" + DateTime.Now.Ticks;

        var newInstance = await CreateRdsNewInstance(parameterGroup, engine,
engineVersionChoice.EngineVersion,
            instanceChoice.DBInstanceClass, newInstanceIdentifier);
        if (newInstance != null)
        {
            DisplayConnectionString(newInstance);

            await CreateSnapshot(newInstance);

            await DeleteRdsInstance(newInstance);
        }

        await DeleteParameterGroup(parameterGroup);

        Console.WriteLine("Scenario complete.");
        Console.WriteLine(sepBar);
    }
    catch (Exception ex)
    {
        logger.LogError(ex, "There was a problem executing the scenario.");
    }
}
```

```

    /// <summary>
    /// Choose the RDS DB parameter group family from a list of available options.
    /// </summary>
    /// <returns>The selected parameter group family.</returns>
    public static async Task<string> ChooseParameterGroupFamily()
    {
        Console.WriteLine(sepBar);
        // 1. Get a list of available engines.
        var engines = await rdsWrapper.DescribeDBEngineVersions(engine);

        Console.WriteLine("1. The following is a list of available DB parameter
group families:");
        int i = 1;
        var parameterGroupFamilies = engines.GroupBy(e =>
e.DBParameterGroupFamily).ToList();
        foreach (var parameterGroupFamily in parameterGroupFamilies)
        {
            // List the available parameter group families.
            Console.WriteLine(
                $"{t{i}. Family: {parameterGroupFamily.Key}");
            i++;
        }

        var choiceNumber = 0;
        while (choiceNumber < 1 || choiceNumber > parameterGroupFamilies.Count)
        {
            Console.WriteLine("Select an available DB parameter group family by
entering a number from the list above:");
            var choice = Console.ReadLine();
            Int32.TryParse(choice, out choiceNumber);
        }
        var parameterGroupFamilyChoice = parameterGroupFamilies[choiceNumber - 1];
        Console.WriteLine(sepBar);
        return parameterGroupFamilyChoice.Key;
    }

    /// <summary>
    /// Create and get information on a DB parameter group.
    /// </summary>
    /// <param name="dbParameterGroupFamily">The DBParameterGroupFamily for the new
DB parameter group.</param>
    /// <returns>The new DBParameterGroup.</returns>
    public static async Task<DBParameterGroup> CreateDbParameterGroup(string
dbParameterGroupFamily)

```



```

{
    Console.WriteLine(sepBar);
    Console.WriteLine($"2. Create new DB parameter group with family
{dbParameterGroupFamily}:");

    var parameterGroup = await rdsWrapper.CreateDBParameterGroup(
        "ExampleParameterGroup-" + DateTime.Now.Ticks,
        dbParameterGroupFamily, "New example parameter group");

    var groupInfo =
        await rdsWrapper.DescribeDBParameterGroups(parameterGroup
            .DBParameterGroupName);

    Console.WriteLine(
        $"3. New DB parameter group: \n\t{groupInfo[0].Description}, \n\tARN
{groupInfo[0].DBParameterGroupArn}");
    Console.WriteLine(sepBar);
    return parameterGroup;
}

/// <summary>
/// Get and describe parameters from a DBParameterGroup.
/// </summary>
/// <param name="parameterGroupName">Name of the DBParameterGroup.</param>
/// <param name="parameterNames">Optional specific names of parameters to
describe.</param>
/// <returns>The list of requested parameters.</returns>
public static async Task<List<Parameter>> DescribeParametersInGroup(string
parameterGroupName, List<string>? parameterNames = null)
{
    Console.WriteLine(sepBar);
    Console.WriteLine("4. Get some parameters from the group.");
    Console.WriteLine(sepBar);

    var parameters =
        await rdsWrapper.DescribeDBParameters(parameterGroupName);

    var matchingParameters =
        parameters.Where(p => parameterNames == null ||
parameterNames.Contains(p.ParameterName)).ToList();

    Console.WriteLine("5. Parameter information:");
    matchingParameters.ForEach(p =>
        Console.WriteLine(

```

```

        $"\\n\\tParameter: {p.ParameterName}." +
        $"\\n\\tDescription: {p.Description}." +
        $"\\n\\tAllowed Values: {p.AllowedValues}." +
        $"\\n\\tValue: {p.ParameterValue}."));

    Console.WriteLine(sepBar);

    return matchingParameters;
}

/// <summary>
/// Modify a parameter from a DBParameterGroup.
/// </summary>
/// <param name="parameterGroupName">Name of the DBParameterGroup.</param>
/// <param name="parameters">The parameters to modify.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public static async Task ModifyParameters(string parameterGroupName,
List<Parameter> parameters)
{
    Console.WriteLine(sepBar);
    Console.WriteLine("6. Modify some parameters in the group.");

    foreach (var p in parameters)
    {
        if (p.IsModifiable && p.DataType == "integer")
        {
            int newValue = 0;
            while (newValue == 0)
            {
                Console.WriteLine(
                    $"Enter a new value for {p.ParameterName} from the allowed
values {p.AllowedValues} ");

                var choice = Console.ReadLine();
                Int32.TryParse(choice, out newValue);
            }

            p.ParameterValue = newValue.ToString();
        }
    }

    await rdsWrapper.ModifyDBParameterGroup(parameterGroupName, parameters);

    Console.WriteLine(sepBar);
}

```

```

    }

    /// <summary>
    /// Describe the user source parameters in the group.
    /// </summary>
    /// <param name="parameterGroupName">Name of the DBParameterGroup.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public static async Task DescribeUserSourceParameters(string parameterGroupName)
    {
        Console.WriteLine(sepBar);
        Console.WriteLine("7. Describe user source parameters in the group.");

        var parameters =
            await rdsWrapper.DescribeDBParameters(parameterGroupName, "user");

        parameters.ForEach(p =>
            Console.WriteLine(
                $"{p.ParameterName}." +
                $"{p.Description}." +
                $"{p.AllowedValues}." +
                $"{p.ParameterValue}."));

        Console.WriteLine(sepBar);
    }

    /// <summary>
    /// Choose a DB engine version.
    /// </summary>
    /// <param name="dbParameterGroupFamily">DB parameter group family for engine
    choice.</param>
    /// <returns>The selected engine version.</returns>
    public static async Task<DBEngineVersion> ChooseDbEngineVersion(string
    dbParameterGroupFamily)
    {
        Console.WriteLine(sepBar);
        // Get a list of allowed engines.
        var allowedEngines =
            await rdsWrapper.DescribeDBEngineVersions(engine,
    dbParameterGroupFamily);

        Console.WriteLine($"Available DB engine versions for parameter group family
    {dbParameterGroupFamily}:");
    }

```

```

        int i = 1;
        foreach (var version in allowedEngines)
        {
            Console.WriteLine(
                $"\\t{i}. Engine: {version.Engine} Version
{version.EngineVersion}.");
            i++;
        }

        var choiceNumber = 0;
        while (choiceNumber < 1 || choiceNumber > allowedEngines.Count)
        {
            Console.WriteLine("8. Select an available DB engine version by entering
a number from the list above:");
            var choice = Console.ReadLine();
            Int32.TryParse(choice, out choiceNumber);
        }

        var engineChoice = allowedEngines[choiceNumber - 1];
        Console.WriteLine(sepBar);
        return engineChoice;
    }

    /// <summary>
    /// Choose a DB instance class for a particular engine and engine version.
    /// </summary>
    /// <param name="engine">DB engine for DB instance choice.</param>
    /// <param name="engineVersion">DB engine version for DB instance choice.</
param>
    /// <returns>The selected orderable DB instance option.</returns>
    public static async Task<OrderableDBInstanceOption> ChooseDbInstanceClass(string
engine, string engineVersion)
    {
        Console.WriteLine(sepBar);
        // Get a list of allowed DB instance classes.
        var allowedInstances =
            await rdsWrapper.DescribeOrderableDBInstanceOptions(engine,
engineVersion);

        Console.WriteLine($"8. Available micro DB instance classes for engine
{engine} and version {engineVersion}:");
        int i = 1;

        // Filter to micro instances for this example.

```

```

        allowedInstances = allowedInstances
            .Where(i => i.DBInstanceClass.Contains("micro")).ToList();

        foreach (var instance in allowedInstances)
        {
            Console.WriteLine(
                $"{i}. Instance class: {instance.DBInstanceClass} (storage type {instance.StorageType})");
            i++;
        }

        var choiceNumber = 0;
        while (choiceNumber < 1 || choiceNumber > allowedInstances.Count)
        {
            Console.WriteLine("9. Select an available DB instance class by entering a number from the list above:");
            var choice = Console.ReadLine();
            Int32.TryParse(choice, out choiceNumber);
        }

        var instanceChoice = allowedInstances[choiceNumber - 1];
        Console.WriteLine(sepBar);
        return instanceChoice;
    }

    /// <summary>
    /// Create a new RDS DB instance.
    /// </summary>
    /// <param name="parameterGroup">Parameter group to use for the DB instance.</param>
    /// <param name="engineName">Engine to use for the DB instance.</param>
    /// <param name="engineVersion">Engine version to use for the DB instance.</param>
    /// <param name="instanceClass">Instance class to use for the DB instance.</param>
    /// <param name="instanceIdentifier">Instance identifier to use for the DB instance.</param>
    /// <returns>The new DB instance.</returns>
    public static async Task<DBInstance?> CreateRdsNewInstance(DBParameterGroup parameterGroup,
        string engineName, string engineVersion, string instanceClass, string instanceIdentifier)
    {
        Console.WriteLine(sepBar);
    }

```

```
        Console.WriteLine($"10. Create a new DB instance with identifier
{instanceIdentifier}.");
        bool isInstanceReady = false;
        DBInstance newInstance;
        var instances = await rdsWrapper.DescribeDBInstances();
        isInstanceReady = instances.FirstOrDefault(i =>
            i.DBInstanceIdentifier == instanceIdentifier)?.DBInstanceStatus ==
"available";

        if (isInstanceReady)
        {
            Console.WriteLine("Instance already created.");
            newInstance = instances.First(i => i.DBInstanceIdentifier ==
instanceIdentifier);
        }
        else
        {
            Console.WriteLine("Please enter an admin user name:");
            var username = Console.ReadLine();

            Console.WriteLine("Please enter an admin password:");
            var password = Console.ReadLine();

            newInstance = await rdsWrapper.CreateDBInstance(
                "ExampleInstance",
                instanceIdentifier,
                parameterGroup.DBParameterGroupName,
                engineName,
                engineVersion,
                instanceClass,
                20,
                username,
                password
            );

            // 11. Wait for the DB instance to be ready.

            Console.WriteLine("11. Waiting for DB instance to be ready...");
            while (!isInstanceReady)
            {
                instances = await
rdsWrapper.DescribeDBInstances(instanceIdentifier);
                isInstanceReady = instances.FirstOrDefault()?.DBInstanceStatus ==
"available";
            }
        }
    }
}
```

```

        newInstance = instances.First();
        Thread.Sleep(30000);
    }
}

Console.WriteLine(sepBar);
return newInstance;
}

/// <summary>
/// Display a connection string for an RDS DB instance.
/// </summary>
/// <param name="instance">The DB instance to use to get a connection string.</
param>
public static void DisplayConnectionString(DBInstance instance)
{
    Console.WriteLine(sepBar);
    // Display the connection string.
    Console.WriteLine("12. New DB instance connection string: ");
    Console.WriteLine(
        $"{instance.Engine} -h {instance.Endpoint.Address} -P {instance.Endpoint.Port}
"
        + $"-u {instance.MasterUsername} -p [YOUR PASSWORD]\n");

    Console.WriteLine(sepBar);
}

/// <summary>
/// Create a snapshot from an RDS DB instance.
/// </summary>
/// <param name="instance">DB instance to use when creating a snapshot.</param>
/// <returns>The snapshot object.</returns>
public static async Task<DBSnapshot> CreateSnapshot(DBInstance instance)
{
    Console.WriteLine(sepBar);
    // Create a snapshot.
    Console.WriteLine($"13. Creating snapshot from DB instance
{instance.DBInstanceIdentifier}.");
    var snapshot = await
rdsWrapper.CreateDBSnapshot(instance.DBInstanceIdentifier, "ExampleSnapshot-" +
DateTime.Now.Ticks);

    // Wait for the snapshot to be available
    bool isSnapshotReady = false;

```

```

        Console.WriteLine($"14. Waiting for snapshot to be ready...");
        while (!isSnapshotReady)
        {
            var snapshots = await
rdsWrapper.DescribeDBSnapshots(instance.DBInstanceIdentifier);
            isSnapshotReady = snapshots.FirstOrDefault()?.Status == "available";
            snapshot = snapshots.First();
            Thread.Sleep(30000);
        }

        Console.WriteLine(
            $"Snapshot {snapshot.DBSnapshotIdentifier} status is
{snapshot.Status}.");
        Console.WriteLine(sepBar);
        return snapshot;
    }

    /// <summary>
    /// Delete an RDS DB instance.
    /// </summary>
    /// <param name="instance">The DB instance to delete.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public static async Task DeleteRdsInstance(DBInstance newInstance)
    {
        Console.WriteLine(sepBar);
        // Delete the DB instance.
        Console.WriteLine($"15. Delete the DB instance
{newInstance.DBInstanceIdentifier}.");
        await rdsWrapper.DeleteDBInstance(newInstance.DBInstanceIdentifier);

        // Wait for the DB instance to delete.
        Console.WriteLine($"16. Waiting for the DB instance to delete...");
        bool isInstanceDeleted = false;

        while (!isInstanceDeleted)
        {
            var instance = await rdsWrapper.DescribeDBInstances();
            isInstanceDeleted = instance.All(i => i.DBInstanceIdentifier !=
newInstance.DBInstanceIdentifier);
            Thread.Sleep(30000);
        }

        Console.WriteLine("DB instance deleted.");
    }

```



```

        Console.WriteLine(sepBar);
    }

    /// <summary>
    /// Delete a DB parameter group.
    /// </summary>
    /// <param name="parameterGroup">The parameter group to delete.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public static async Task DeleteParameterGroup(DBParameterGroup parameterGroup)
    {
        Console.WriteLine(sepBar);
        // Delete the parameter group.
        Console.WriteLine($"17. Delete the DB parameter group
{parameterGroup.DBParameterGroupName}.");
        await
rdsWrapper.DeleteDBParameterGroup(parameterGroup.DBParameterGroupName);

        Console.WriteLine(sepBar);
    }

```

DB インスタンスアクションのシナリオで使用するラッパーメソッド。

```

/// <summary>
/// Wrapper methods to use Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) with DB
instance operations.
/// </summary>
public partial class RDSWrapper
{
    private readonly IAmazonRDS _amazonRDS;
    public RDSWrapper(IAmazonRDS amazonRDS)
    {
        _amazonRDS = amazonRDS;
    }

    /// <summary>
    /// Get a list of DB engine versions for a particular DB engine.
    /// </summary>
    /// <param name="engine">Name of the engine.</param>
    /// <param name="dbParameterGroupFamily">Optional parameter group family name.</
param>

```

```

    /// <returns>List of DBEngineVersions.</returns>
    public async Task<List<DBEngineVersion>> DescribeDBEngineVersions(string engine,
        string dbParameterGroupFamily = null)
    {
        var response = await _amazonRDS.DescribeDBEngineVersionsAsync(
            new DescribeDBEngineVersionsRequest()
            {
                Engine = engine,
                DBParameterGroupFamily = dbParameterGroupFamily
            });
        return response.DBEngineVersions;
    }

    /// <summary>
    /// Get a list of orderable DB instance options for a specific
    /// engine and engine version.
    /// </summary>
    /// <param name="engine">Name of the engine.</param>
    /// <param name="engineVersion">Version of the engine.</param>
    /// <returns>List of OrderableDBInstanceOptions.</returns>
    public async Task<List<OrderableDBInstanceOption>>
        DescribeOrderableDBInstanceOptions(string engine, string engineVersion)
    {
        // Use a paginator to get a list of DB instance options.
        var results = new List<OrderableDBInstanceOption>();
        var paginateInstanceOptions =
            _amazonRDS.Paginators.DescribeOrderableDBInstanceOptions(
                new DescribeOrderableDBInstanceOptionsRequest()
                {
                    Engine = engine,
                    EngineVersion = engineVersion,
                });
        // Get the entire list using the paginator.
        await foreach (var instanceOptions in
            paginateInstanceOptions.OrderableDBInstanceOptions)
        {
            results.Add(instanceOptions);
        }
        return results;
    }

```

```

    /// <summary>
    /// Returns a list of DB instances.
    /// </summary>
    /// <param name="dbInstanceIdIdentifier">Optional name of a specific DB
instance.</param>
    /// <returns>List of DB instances.</returns>
    public async Task<List<DBInstance>> DescribeDBInstances(string
dbInstanceIdIdentifier = null)
    {
        var results = new List<DBInstance>();
        var instancesPaginator = _amazonRDS.Paginators.DescribeDBInstances(
            new DescribeDBInstancesRequest
            {
                DBInstanceIdIdentifier = dbInstanceIdIdentifier
            });
        // Get the entire list using the paginator.
        await foreach (var instances in instancesPaginator.DBInstances)
        {
            results.Add(instances);
        }
        return results;
    }

    /// <summary>
    /// Create an RDS DB instance with a particular set of properties. Use the
action DescribeDBInstancesAsync
    /// to determine when the DB instance is ready to use.
    /// </summary>
    /// <param name="dbName">Name for the DB instance.</param>
    /// <param name="dbInstanceIdIdentifier">DB instance identifier.</param>
    /// <param name="parameterGroupName">DB parameter group to associate with the
instance.</param>
    /// <param name="dbEngine">The engine for the DB instance.</param>
    /// <param name="dbEngineVersion">Version for the DB instance.</param>
    /// <param name="instanceClass">Class for the DB instance.</param>
    /// <param name="allocatedStorage">The amount of storage in gibibytes (GiB) to
allocate to the DB instance.</param>
    /// <param name="adminName">Admin user name.</param>
    /// <param name="adminPassword">Admin user password.</param>
    /// <returns>DB instance object.</returns>

```

```
public async Task<DBInstance> CreateDBInstance(string dbName, string
dbInstanceIdIdentifier,
    string parameterGroupName, string dbEngine, string dbEngineVersion,
    string instanceClass, int allocatedStorage, string adminName, string
adminPassword)
{
    var response = await _amazonRDS.CreateDBInstanceAsync(
        new CreateDBInstanceRequest()
        {
            DBName = dbName,
            DBInstanceIdIdentifier = dbInstanceIdIdentifier,
            DBParameterGroupName = parameterGroupName,
            Engine = dbEngine,
            EngineVersion = dbEngineVersion,
            DBInstanceClass = instanceClass,
            AllocatedStorage = allocatedStorage,
            MasterUsername = adminName,
            MasterUserPassword = adminPassword
        });

    return response.DBInstance;
}

/// <summary>
/// Delete a particular DB instance.
/// </summary>
/// <param name="dbInstanceIdIdentifier">DB instance identifier.</param>
/// <returns>DB instance object.</returns>
public async Task<DBInstance> DeleteDBInstance(string dbInstanceIdIdentifier)
{
    var response = await _amazonRDS.DeleteDBInstanceAsync(
        new DeleteDBInstanceRequest()
        {
            DBInstanceIdIdentifier = dbInstanceIdIdentifier,
            SkipFinalSnapshot = true,
            DeleteAutomatedBackups = true
        });

    return response.DBInstance;
}
```

DB パラメータグループのシナリオで使用するラッパーメソッド。

```
/// <summary>
/// Wrapper methods to use Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) with
/// parameter groups.
/// </summary>
public partial class RDSWrapper
{
    /// <summary>
    /// Get descriptions of DB parameter groups.
    /// </summary>
    /// <param name="name">Optional name of the DB parameter group to describe.</
param>
    /// <returns>The list of DB parameter group descriptions.</returns>
    public async Task<List<DBParameterGroup>> DescribeDBParameterGroups(string name
= null)
    {
        var response = await _amazonRDS.DescribeDBParameterGroupsAsync(
            new DescribeDBParameterGroupsRequest()
            {
                DBParameterGroupName = name
            });
        return response.DBParameterGroups;
    }

    /// <summary>
    /// Create a new DB parameter group. Use the action
DescribeDBParameterGroupsAsync
    /// to determine when the DB parameter group is ready to use.
    /// </summary>
    /// <param name="name">Name of the DB parameter group.</param>
    /// <param name="family">Family of the DB parameter group.</param>
    /// <param name="description">Description of the DB parameter group.</param>
    /// <returns>The new DB parameter group.</returns>
    public async Task<DBParameterGroup> CreateDBParameterGroup(
        string name, string family, string description)
    {

```

```

        var response = await _amazonRDS.CreateDBParameterGroupAsync(
            new CreateDBParameterGroupRequest()
            {
                DBParameterGroupName = name,
                DBParameterGroupFamily = family,
                Description = description
            });
        return response.DBParameterGroup;
    }

    /// <summary>
    /// Update a DB parameter group. Use the action DescribeDBParameterGroupsAsync
    /// to determine when the DB parameter group is ready to use.
    /// </summary>
    /// <param name="name">Name of the DB parameter group.</param>
    /// <param name="parameters">List of parameters. Maximum of 20 per request.</
param>
    /// <returns>The updated DB parameter group name.</returns>
    public async Task<string> ModifyDBParameterGroup(
        string name, List<Parameter> parameters)
    {
        var response = await _amazonRDS.ModifyDBParameterGroupAsync(
            new ModifyDBParameterGroupRequest()
            {
                DBParameterGroupName = name,
                Parameters = parameters,
            });
        return response.DBParameterGroupName;
    }

    /// <summary>
    /// Delete a DB parameter group. The group cannot be a default DB parameter
group
    /// or be associated with any DB instances.
    /// </summary>
    /// <param name="name">Name of the DB parameter group.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public async Task<bool> DeleteDBParameterGroup(string name)
    {
        var response = await _amazonRDS.DeleteDBParameterGroupAsync(

```

```

        new DeleteDBParameterGroupRequest()
        {
            DBParameterGroupName = name,
        });
    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}

/// <summary>
/// Get a list of DB parameters from a specific parameter group.
/// </summary>
/// <param name="dbParameterGroupName">Name of a specific DB parameter group.</
param>
/// <param name="source">Optional source for selecting parameters.</param>
/// <returns>List of parameter values.</returns>
public async Task<List<Parameter>> DescribeDBParameters(string
dbParameterGroupName, string source = null)
{
    var results = new List<Parameter>();
    var paginateParameters = _amazonRDS.Paginators.DescribeDBParameters(
        new DescribeDBParametersRequest()
        {
            DBParameterGroupName = dbParameterGroupName,
            Source = source
        });
    // Get the entire list using the paginator.
    await foreach (var parameters in paginateParameters.Parameters)
    {
        results.Add(parameters);
    }
    return results;
}

```

DB スナップショットアクションのシナリオで使用するラッパーメソッド。

```

/// <summary>
/// Wrapper methods to use Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) with
snapshots.
/// </summary>

```

```
public partial class RDSWrapper
{
    /// <summary>
    /// Create a snapshot of a DB instance.
    /// </summary>
    /// <param name="dbInstanceIdIdentifier">DB instance identifier.</param>
    /// <param name="snapshotIdentifier">Identifier for the snapshot.</param>
    /// <returns>DB snapshot object.</returns>
    public async Task<DBSnapshot> CreateDBSnapshot(string dbInstanceIdIdentifier,
string snapshotIdentifier)
    {
        var response = await _amazonRDS.CreateDBSnapshotAsync(
            new CreateDBSnapshotRequest()
            {
                DBSnapshotIdentifier = snapshotIdentifier,
                DBInstanceIdIdentifier = dbInstanceIdIdentifier
            });

        return response.DBSnapshot;
    }

    /// <summary>
    /// Return a list of DB snapshots for a particular DB instance.
    /// </summary>
    /// <param name="dbInstanceIdIdentifier">DB instance identifier.</param>
    /// <returns>List of DB snapshots.</returns>
    public async Task<List<DBSnapshot>> DescribeDBSnapshots(string
dbInstanceIdIdentifier)
    {
        var results = new List<DBSnapshot>();
        var snapshotsPaginator = _amazonRDS.Paginators.DescribeDBSnapshots(
            new DescribeDBSnapshotsRequest()
            {
                DBInstanceIdIdentifier = dbInstanceIdIdentifier
            });

        // Get the entire list using the paginator.
        await foreach (var snapshots in snapshotsPaginator.DBSnapshots)
        {
            results.Add(snapshots);
        }
    }
}
```



```
        return results;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
 - [CreateDBInstance](#)
 - [CreateDBParameterGroup](#)
 - [CreateDBSnapshot](#)
 - [DeleteDBInstance](#)
 - [DeleteDBParameterGroup](#)
 - [DescribeDBEngineVersions](#)
 - [DescribeDBInstances](#)
 - [DescribeDBParameterGroups](#)
 - [DescribeDBParameters](#)
 - [DescribeDBSnapshots](#)
 - [DescribeOrderableDBInstanceOptions](#)
 - [ModifyDBParameterGroup](#)

アクション

CreateDBInstance

次のコード例は、CreateDBInstance を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
```

```

    /// Create an RDS DB instance with a particular set of properties. Use the
    action DescribeDBInstancesAsync
    /// to determine when the DB instance is ready to use.
    /// </summary>
    /// <param name="dbName">Name for the DB instance.</param>
    /// <param name="dbInstanceIdentifier">DB instance identifier.</param>
    /// <param name="parameterGroupName">DB parameter group to associate with the
    instance.</param>
    /// <param name="dbEngine">The engine for the DB instance.</param>
    /// <param name="dbEngineVersion">Version for the DB instance.</param>
    /// <param name="instanceClass">Class for the DB instance.</param>
    /// <param name="allocatedStorage">The amount of storage in gibibytes (GiB) to
    allocate to the DB instance.</param>
    /// <param name="adminName">Admin user name.</param>
    /// <param name="adminPassword">Admin user password.</param>
    /// <returns>DB instance object.</returns>
    public async Task<DBInstance> CreateDBInstance(string dbName, string
    dbInstanceIdentifier,
        string parameterGroupName, string dbEngine, string dbEngineVersion,
        string instanceClass, int allocatedStorage, string adminName, string
    adminPassword)
    {
        var response = await _amazonRDS.CreateDBInstanceAsync(
            new CreateDBInstanceRequest()
            {
                DBName = dbName,
                DBInstanceIdentifier = dbInstanceIdentifier,
                DBParameterGroupName = parameterGroupName,
                Engine = dbEngine,
                EngineVersion = dbEngineVersion,
                DBInstanceClass = instanceClass,
                AllocatedStorage = allocatedStorage,
                MasterUsername = adminName,
                MasterUserPassword = adminPassword
            });

        return response.DBInstance;
    }

```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateDBInstance](#)」を参照してください。

CreateDBParameterGroup

次のコード例は、CreateDBParameterGroup を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Create a new DB parameter group. Use the action
DescribeDBParameterGroupsAsync
/// to determine when the DB parameter group is ready to use.
/// </summary>
/// <param name="name">Name of the DB parameter group.</param>
/// <param name="family">Family of the DB parameter group.</param>
/// <param name="description">Description of the DB parameter group.</param>
/// <returns>The new DB parameter group.</returns>
public async Task<DBParameterGroup> CreateDBParameterGroup(
    string name, string family, string description)
{
    var response = await _amazonRDS.CreateDBParameterGroupAsync(
        new CreateDBParameterGroupRequest()
        {
            DBParameterGroupName = name,
            DBParameterGroupFamily = family,
            Description = description
        });
    return response.DBParameterGroup;
}
```

- 詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CreateDBParameterGroup](#)」を参照してください。

CreateDBSnapshot

次のコード例は、CreateDBSnapshot を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Create a snapshot of a DB instance.
/// </summary>
/// <param name="dbInstanceIdentifier">DB instance identifier.</param>
/// <param name="snapshotIdentifier">Identifier for the snapshot.</param>
/// <returns>DB snapshot object.</returns>
public async Task<DBSnapshot> CreateDBSnapshot(string dbInstanceIdentifier,
string snapshotIdentifier)
{
    var response = await _amazonRDS.CreateDBSnapshotAsync(
        new CreateDBSnapshotRequest()
        {
            DBSnapshotIdentifier = snapshotIdentifier,
            DBInstanceIdentifier = dbInstanceIdentifier
        });

    return response.DBSnapshot;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CreateDBSnapshot](#)」を参照してください。

DeleteDBInstance

次のコード例は、DeleteDBInstance を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete a particular DB instance.
/// </summary>
/// <param name="dbInstanceIdentifier">DB instance identifier.</param>
/// <returns>DB instance object.</returns>
public async Task<DBInstance> DeleteDBInstance(string dbInstanceIdentifier)
{
    var response = await _amazonRDS.DeleteDBInstanceAsync(
        new DeleteDBInstanceRequest()
        {
            DBInstanceIdentifier = dbInstanceIdentifier,
            SkipFinalSnapshot = true,
            DeleteAutomatedBackups = true
        });

    return response.DBInstance;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteDBInstance](#)」を参照してください。

DeleteDBParameterGroup

次のコード例は、DeleteDBParameterGroup を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete a DB parameter group. The group cannot be a default DB parameter
group
/// or be associated with any DB instances.
/// </summary>
/// <param name="name">Name of the DB parameter group.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> DeleteDBParameterGroup(string name)
{
    var response = await _amazonRDS.DeleteDBParameterGroupAsync(
        new DeleteDBParameterGroupRequest()
        {
            DBParameterGroupName = name,
        });
    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```

- 詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeleteDBParameterGroup](#)」を参照してください。

DescribeDBEngineVersions

次のコード例は、DescribeDBEngineVersions を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get a list of DB engine versions for a particular DB engine.
/// </summary>
/// <param name="engine">Name of the engine.</param>
/// <param name="dbParameterGroupFamily">Optional parameter group family name.</
param>
/// <returns>List of DBEngineVersions.</returns>
public async Task<List<DBEngineVersion>> DescribeDBEngineVersions(string engine,
    string dbParameterGroupFamily = null)
{
    var response = await _amazonRDS.DescribeDBEngineVersionsAsync(
        new DescribeDBEngineVersionsRequest()
        {
            Engine = engine,
            DBParameterGroupFamily = dbParameterGroupFamily
        });
    return response.DBEngineVersions;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeDBEngineVersions](#)」を参照してください。

DescribeDBInstances

次のコード例は、DescribeDBInstances を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Returns a list of DB instances.
/// </summary>
/// <param name="dbInstanceIdentifier">Optional name of a specific DB
instance.</param>
/// <returns>List of DB instances.</returns>
public async Task<List<DBInstance>> DescribeDBInstances(string
dbInstanceIdentifier = null)
{
    var results = new List<DBInstance>();
    var instancesPaginator = _amazonRDS.Paginators.DescribeDBInstances(
        new DescribeDBInstancesRequest
        {
            DBInstanceIdentifier = dbInstanceIdentifier
        });
    // Get the entire list using the paginator.
    await foreach (var instances in instancesPaginator.DBInstances)
    {
        results.Add(instances);
    }
    return results;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeDBInstances](#)」を参照してください。

DescribeDBParameterGroups

次のコード例は、DescribeDBParameterGroups を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get descriptions of DB parameter groups.
/// </summary>
/// <param name="name">Optional name of the DB parameter group to describe.</
param>
/// <returns>The list of DB parameter group descriptions.</returns>
public async Task<List<DBParameterGroup>> DescribeDBParameterGroups(string name
= null)
{
    var response = await _amazonRDS.DescribeDBParameterGroupsAsync(
        new DescribeDBParameterGroupsRequest()
        {
            DBParameterGroupName = name
        });
    return response.DBParameterGroups;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DescribeDBParameterGroups](#)」を参照してください。

DescribeDBParameters

次のコード例は、DescribeDBParameters を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get a list of DB parameters from a specific parameter group.
/// </summary>
/// <param name="dbParameterGroupName">Name of a specific DB parameter group.</
param>
/// <param name="source">Optional source for selecting parameters.</param>
/// <returns>List of parameter values.</returns>
public async Task<List<Parameter>> DescribeDBParameters(string
dbParameterGroupName, string source = null)
{
    var results = new List<Parameter>();
    var paginateParameters = _amazonRDS.Paginators.DescribeDBParameters(
        new DescribeDBParametersRequest()
        {
            DBParameterGroupName = dbParameterGroupName,
            Source = source
        });
    // Get the entire list using the paginator.
    await foreach (var parameters in paginateParameters.Parameters)
    {
        results.Add(parameters);
    }
    return results;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DescribeDBParameters](#)」を参照してください。

DescribeDBSnapshots

次のコード例は、DescribeDBSnapshots を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Return a list of DB snapshots for a particular DB instance.
/// </summary>
/// <param name="dbInstanceIdentifier">DB instance identifier.</param>
/// <returns>List of DB snapshots.</returns>
public async Task<List<DBSnapshot>> DescribeDBSnapshots(string
dbInstanceIdentifier)
{
    var results = new List<DBSnapshot>();
    var snapshotsPaginator = _amazonRDS.Paginators.DescribeDBSnapshots(
        new DescribeDBSnapshotsRequest()
        {
            DBInstanceIdentifier = dbInstanceIdentifier
        });

    // Get the entire list using the paginator.
    await foreach (var snapshots in snapshotsPaginator.DBSnapshots)
    {
        results.Add(snapshots);
    }
    return results;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DescribeDBSnapshots](#)」を参照してください。

DescribeOrderableDBInstanceOptions

次のコード例は、DescribeOrderableDBInstanceOptions を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get a list of orderable DB instance options for a specific
/// engine and engine version.
/// </summary>
/// <param name="engine">Name of the engine.</param>
/// <param name="engineVersion">Version of the engine.</param>
/// <returns>List of OrderableDBInstanceOptions.</returns>
public async Task<List<OrderableDBInstanceOption>>
DescribeOrderableDBInstanceOptions(string engine, string engineVersion)
{
    // Use a paginator to get a list of DB instance options.
    var results = new List<OrderableDBInstanceOption>();
    var paginateInstanceOptions =
        _amazonRDS.Paginators.DescribeOrderableDBInstanceOptions(
            new DescribeOrderableDBInstanceOptionsRequest()
            {
                Engine = engine,
                EngineVersion = engineVersion,
            });
    // Get the entire list using the paginator.
    await foreach (var instanceOptions in
        paginateInstanceOptions.OrderableDBInstanceOptions)
    {
        results.Add(instanceOptions);
    }
    return results;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeOrderableDBInstanceOptions](#)」を参照してください。

ModifyDBParameterGroup

次のコード例は、ModifyDBParameterGroup を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Update a DB parameter group. Use the action DescribeDBParameterGroupsAsync
/// to determine when the DB parameter group is ready to use.
/// </summary>
/// <param name="name">Name of the DB parameter group.</param>
/// <param name="parameters">List of parameters. Maximum of 20 per request.</
param>
/// <returns>The updated DB parameter group name.</returns>
public async Task<string> ModifyDBParameterGroup(
    string name, List<Parameter> parameters)
{
    var response = await _amazonRDS.ModifyDBParameterGroupAsync(
        new ModifyDBParameterGroupRequest()
        {
            DBParameterGroupName = name,
            Parameters = parameters,
        });
    return response.DBParameterGroupName;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ModifyDBParameterGroup](#)」を参照してください。

シナリオ

Aurora Serverless 作業項目トラッカーの作成

次のコード例は、Amazon Aurora Serverless データベースの作業項目を追跡し、Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用してレポートを送信するウェブアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for .NET

を使用して AWS SDK for .NET、Amazon Aurora データベース内の作業項目を追跡し、Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用してレポートを E メールで送信するウェブアプリケーションを作成する方法を示します。この例では、React.js で構築されたフロントエンドを使用して RESTful .NET バックエンドと対話します。

- React ウェブアプリケーションを AWS サービスに統合します。
- Aurora テーブルの項目を一覧表示、更新、削除します。
- Amazon SES を使用して、フィルター処理された作業項目の E メールレポートを送信します。
- 含まれている AWS CloudFormation スクリプトを使用してサンプルリソースをデプロイおよび管理します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Aurora
- Amazon RDS
- Amazon RDS データサービス
- Amazon SES

サーバーレスサンプル

Lambda 関数での Amazon RDS データベースへの接続

次のコード例は、RDS データベースに接続する Lambda 関数を実装する方法を示しています。この関数は、シンプルなデータベースリクエストを実行し、結果を返します。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

.NET を使用した Lambda 関数での Amazon RDS データベースへの接続。

```
using System.Data;
using System.Text.Json;
using Amazon.Lambda.APIGatewayEvents;
using Amazon.Lambda.Core;
using MySql.Data.MySqlClient;

// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
// into a .NET class.
[assembly:
    LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace aws_rds;

public class InputModel
{
    public string key1 { get; set; }
    public string key2 { get; set; }
}

public class Function
{
    /// <summary>
    /// Handles the Lambda function execution for connecting to RDS using IAM
    authentication.
    /// </summary>
    /// <param name="input">The input event data passed to the Lambda function</
param>
    /// <param name="context">The Lambda execution context that provides runtime
information</param>
    /// <returns>A response object containing the execution result</returns>

    public async Task<APIGatewayProxyResponse>
    FunctionHandler(APIGatewayProxyRequest request, ILambdaContext context)
```

```

{
    // Sample Input: {"body": "{\"key1\": \"20\", \"key2\": \"25\"}"}
    var input = JsonSerializer.Deserialize<InputModel>(request.Body);

    /// Obtain authentication token
    var authToken = RDSAuthTokenGenerator.GenerateAuthToken(
        Environment.GetEnvironmentVariable("RDS_ENDPOINT"),
        Convert.ToInt32(Environment.GetEnvironmentVariable("RDS_PORT")),
        Environment.GetEnvironmentVariable("RDS_USERNAME")
    );

    /// Build the Connection String with the Token
    string connectionString =
        $"Server={Environment.GetEnvironmentVariable("RDS_ENDPOINT")};" +
        $"Port={Environment.GetEnvironmentVariable("RDS_PORT")};" +
        $"Uid={Environment.GetEnvironmentVariable("RDS_USERNAME")};" +
        $"Pwd={authToken}";

    try
    {
        await using var connection = new MySqlConnection(connectionString);
        await connection.OpenAsync();

        const string sql = "SELECT @param1 + @param2 AS Sum";

        await using var command = new MySqlCommand(sql, connection);
        command.Parameters.AddWithValue("@param1", int.Parse(input.key1 ??
"0"));
        command.Parameters.AddWithValue("@param2", int.Parse(input.key2 ??
"0"));

        await using var reader = await command.ExecuteReaderAsync();
        if (await reader.ReadAsync())
        {
            int result = reader.GetInt32("Sum");

            //Sample Response: {"statusCode":200,"body":{"\"message\": \"The sum
is: 45\"},"isBase64Encoded":false}
            return new APIGatewayProxyResponse
            {
                StatusCode = 200,

```



```
        Body = JsonSerializer.Serialize(new { message = $"The sum is:
{result}" });
    };
}

}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine($"Error: {ex.Message}");
}

return new APIGatewayProxyResponse
{
    StatusCode = 500,
    Body = JsonSerializer.Serialize(new { error = "Internal server error" });
};
}
}
```

を使用した Amazon RDS Data Service の例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon RDS Data Service AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [シナリオ](#)

シナリオ

Aurora Serverless 作業項目トラッカーの作成

次のコード例は、Amazon Aurora Serverless データベースの作業項目を追跡し、Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用してレポートを送信するウェブアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for .NET

を使用して AWS SDK for .NET 、Amazon Aurora データベース内の作業項目を追跡し、Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用してレポートを E メールで送信するウェブアプリケーションを作成する方法を示します。この例では、React.js で構築されたフロントエンドを使用して RESTful .NET バックエンドと対話します。

- React ウェブアプリケーションを AWS サービスに統合します。
- Aurora テーブルの項目を一覧表示、更新、削除します。
- Amazon SES を使用して、フィルター処理された作業項目の E メールレポートを送信します。
- 含まれている AWS CloudFormation スクリプトを使用してサンプルリソースをデプロイおよび管理します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Aurora
- Amazon RDS
- Amazon RDS データサービス
- Amazon SES

を使用した Amazon Rekognition の例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon Rekognition AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)
- [シナリオ](#)

アクション

CompareFaces

次のコード例は、CompareFaces を使用する方法を示しています。

詳細については、「[イメージ内の顔を比較する](#)」を参照してください。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.IO;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Rekognition;
using Amazon.Rekognition.Model;

/// <summary>
/// Uses the Amazon Rekognition Service to compare faces in two images.
/// </summary>
public class CompareFaces
{
    public static async Task Main()
    {
        float similarityThreshold = 70F;
        string sourceImage = "source.jpg";
```

```
string targetImage = "target.jpg";

var rekognitionClient = new AmazonRekognitionClient();

Amazon.Rekognition.Model.Image imageSource = new
Amazon.Rekognition.Model.Image();

try
{
    using FileStream fs = new FileStream(sourceImage, FileMode.Open,
    FileAccess.Read);
    byte[] data = new byte[fs.Length];
    fs.Read(data, 0, (int)fs.Length);
    imageSource.Bytes = new MemoryStream(data);
}
catch (Exception)
{
    Console.WriteLine($"Failed to load source image: {sourceImage}");
    return;
}

Amazon.Rekognition.Model.Image imageTarget = new
Amazon.Rekognition.Model.Image();

try
{
    using FileStream fs = new FileStream(targetImage, FileMode.Open,
    FileAccess.Read);
    byte[] data = new byte[fs.Length];
    data = new byte[fs.Length];
    fs.Read(data, 0, (int)fs.Length);
    imageTarget.Bytes = new MemoryStream(data);
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine($"Failed to load target image: {targetImage}");
    Console.WriteLine(ex.Message);
    return;
}

var compareFacesRequest = new CompareFacesRequest
{
    SourceImage = imageSource,
    TargetImage = imageTarget,
```

```

        SimilarityThreshold = similarityThreshold,
    };

    // Call operation
    var compareFacesResponse = await
    rekognitionClient.CompareFacesAsync(compareFacesRequest);

    // Display results
    compareFacesResponse.FaceMatches.ForEach(match =>
    {
        ComparedFace face = match.Face;
        BoundingBox position = face.BoundingBox;
        Console.WriteLine($"Face at {position.Left} {position.Top} matches
        with {match.Similarity}% confidence.");
    });

    Console.WriteLine($"Found {compareFacesResponse.UnmatchedFaces.Count}
    face(s) that did not match.");
    }
}

```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CompareFaces](#)」を参照してください。

CreateCollection

次のコード例は、CreateCollection を使用する方法を示しています。

詳細については、「[コレクションを作成する](#)」を参照してください。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
```

```
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Rekognition;
using Amazon.Rekognition.Model;

/// <summary>
/// Uses Amazon Rekognition to create a collection to which you can add
/// faces using the IndexFaces operation.
/// </summary>
public class CreateCollection
{
    public static async Task Main()
    {
        var rekognitionClient = new AmazonRekognitionClient();

        string collectionId = "MyCollection";
        Console.WriteLine("Creating collection: " + collectionId);

        var createCollectionRequest = new CreateCollectionRequest
        {
            CollectionId = collectionId,
        };

        CreateCollectionResponse createCollectionResponse = await
rekognitionClient.CreateCollectionAsync(createCollectionRequest);
        Console.WriteLine($"CollectionArn :
{createCollectionResponse.CollectionArn}");
        Console.WriteLine($"Status code :
{createCollectionResponse.StatusCode}");
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CreateCollection](#)」を参照してください。

DeleteCollection

次のコード例は、DeleteCollection を使用する方法を示しています。

詳細については、「[コレクションを削除する](#)」を参照してください。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Rekognition;
using Amazon.Rekognition.Model;

/// <summary>
/// Uses the Amazon Rekognition Service to delete an existing collection.
/// </summary>
public class DeleteCollection
{
    public static async Task Main()
    {
        var rekognitionClient = new AmazonRekognitionClient();

        string collectionId = "MyCollection";
        Console.WriteLine("Deleting collection: " + collectionId);

        var deleteCollectionRequest = new DeleteCollectionRequest()
        {
            CollectionId = collectionId,
        };

        var deleteCollectionResponse = await
            rekognitionClient.DeleteCollectionAsync(deleteCollectionRequest);
        Console.WriteLine($"{collectionId}:
{deleteCollectionResponse.StatusCode}");
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeleteCollection](#)」を参照してください。

DeleteFaces

次のコード例は、DeleteFaces を使用する方法を示しています。

詳細については、「[コレクションから顔を削除する](#)」を参照してください。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Rekognition;
using Amazon.Rekognition.Model;

/// <summary>
/// Uses the Amazon Rekognition Service to delete one or more faces from
/// a Rekognition collection.
/// </summary>
public class DeleteFaces
{
    public static async Task Main()
    {
        string collectionId = "MyCollection";
        var faces = new List<string> { "xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxxx" };

        var rekognitionClient = new AmazonRekognitionClient();

        var deleteFacesRequest = new DeleteFacesRequest()
        {
            CollectionId = collectionId,
            FaceIds = faces,
        };

        DeleteFacesResponse deleteFacesResponse = await
        rekognitionClient.DeleteFacesAsync(deleteFacesRequest);
        deleteFacesResponse.DeletedFaces.ForEach(face =>
        {
```



```
        Console.WriteLine($"FaceID: {face}");  
    });  
}  
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeleteFaces](#)」を参照してください。

DescribeCollection

次のコード例は、DescribeCollection を使用する方法を示しています。

詳細については、「[コレクションを定義する](#)」を参照してください。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;  
using System.Threading.Tasks;  
using Amazon.Rekognition;  
using Amazon.Rekognition.Model;  
  
/// <summary>  
/// Uses the Amazon Rekognition Service to describe the contents of a  
/// collection.  
/// </summary>  
public class DescribeCollection  
{  
    public static async Task Main()  
    {  
        var rekognitionClient = new AmazonRekognitionClient();  
  
        string collectionId = "MyCollection";  
        Console.WriteLine($"Describing collection: {collectionId}");  
    }  
}
```

```
var describeCollectionRequest = new DescribeCollectionRequest()
{
    CollectionId = collectionId,
};

var describeCollectionResponse = await
rekognitionClient.DescribeCollectionAsync(describeCollectionRequest);
Console.WriteLine($"Collection ARN:
{describeCollectionResponse.CollectionARN}");
Console.WriteLine($"Face count:
{describeCollectionResponse.FaceCount}");
Console.WriteLine($"Face model version:
{describeCollectionResponse.FaceModelVersion}");
Console.WriteLine($"Created:
{describeCollectionResponse.CreationTimestamp}");
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DescribeCollection](#)」を参照してください。

DetectFaces

次のコード例は、DetectFaces を使用する方法を示しています。

詳細については、「[イメージ内の顔を検出する](#)」を参照してください。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Rekognition;
using Amazon.Rekognition.Model;
```

```

/// <summary>
/// Uses the Amazon Rekognition Service to detect faces within an image
/// stored in an Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) bucket.
/// </summary>
public class DetectFaces
{
    public static async Task Main()
    {
        string photo = "input.jpg";
        string bucket = "amzn-s3-demo-bucket";

        var rekognitionClient = new AmazonRekognitionClient();

        var detectFacesRequest = new DetectFacesRequest()
        {
            Image = new Image()
            {
                S3Object = new S3Object()
                {
                    Name = photo,
                    Bucket = bucket,
                },
            },

            // Attributes can be "ALL" or "DEFAULT".
            // "DEFAULT": BoundingBox, Confidence, Landmarks, Pose, and Quality.
            // "ALL": See https://docs.aws.amazon.com/sdkfornet/v3/apidocs/
            // items/Rekognition/TFaceDetail.html
            Attributes = new List<string>() { "ALL" },
        };

        try
        {
            DetectFacesResponse detectFacesResponse = await
            rekognitionClient.DetectFacesAsync(detectFacesRequest);
            bool hasAll = detectFacesRequest.Attributes.Contains("ALL");
            foreach (FaceDetail face in detectFacesResponse.FaceDetails)
            {
                Console.WriteLine($"BoundingBox: top={face.BoundingBox.Left}
                left={face.BoundingBox.Top} width={face.BoundingBox.Width}
                height={face.BoundingBox.Height}");
                Console.WriteLine($"Confidence: {face.Confidence}");
                Console.WriteLine($"Landmarks: {face.Landmarks.Count}");
            }
        }
    }
}

```

```

        Console.WriteLine($"Pose: pitch={face.Pose.Pitch}
roll={face.Pose.Roll} yaw={face.Pose.Yaw}");
        Console.WriteLine($"Brightness:
{face.Quality.Brightness}\tSharpness: {face.Quality.Sharpness}");

        if (hasAll)
        {
            Console.WriteLine($"Estimated age is between
{face.AgeRange.Low} and {face.AgeRange.High} years old.");
        }
    }
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine(ex.Message);
}
}
}

```

イメージ内のすべての顔の境界ボックス情報を表示します。

```

using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Drawing;
using System.IO;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Rekognition;
using Amazon.Rekognition.Model;

/// <summary>
/// Uses the Amazon Rekognition Service to display the details of the
/// bounding boxes around the faces detected in an image.
/// </summary>
public class ImageOrientationBoundingBox
{
    public static async Task Main()
    {
        string photo = @"D:\Development\AWS-Examples\Rekognition\target.jpg"; //
"photo.jpg";

        var rekognitionClient = new AmazonRekognitionClient();
    }
}

```

```
var image = new Amazon.Rekognition.Model.Image();
try
{
    using var fs = new FileStream(photo, FileMode.Open,
FileAccess.Read);
    byte[] data = null;
    data = new byte[fs.Length];
    fs.Read(data, 0, (int)fs.Length);
    image.Bytes = new MemoryStream(data);
}
catch (Exception)
{
    Console.WriteLine("Failed to load file " + photo);
    return;
}

int height;
int width;

// Used to extract original photo width/height
using (var imageBitmap = new Bitmap(photo))
{
    height = imageBitmap.Height;
    width = imageBitmap.Width;
}

Console.WriteLine("Image Information:");
Console.WriteLine(photo);
Console.WriteLine("Image Height: " + height);
Console.WriteLine("Image Width: " + width);

try
{
    var detectFacesRequest = new DetectFacesRequest()
    {
        Image = image,
        Attributes = new List<string>() { "ALL" },
    };

    DetectFacesResponse detectFacesResponse = await
rekognitionClient.DetectFacesAsync(detectFacesRequest);
    detectFacesResponse.FaceDetails.ForEach(face =>
    {
```

```

        Console.WriteLine("Face:");
        ShowBoundingBoxPositions(
            height,
            width,
            face.BoundingBox,
            detectFacesResponse.OrientationCorrection);

        Console.WriteLine($"BoundingBox: top={face.BoundingBox.Left}
left={face.BoundingBox.Top} width={face.BoundingBox.Width}
height={face.BoundingBox.Height}");
        Console.WriteLine($"The detected face is estimated to be between
{face.AgeRange.Low} and {face.AgeRange.High} years old.\n");
    });
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine(ex.Message);
}
}

/// <summary>
/// Display the bounding box information for an image.
/// </summary>
/// <param name="imageHeight">The height of the image.</param>
/// <param name="imageWidth">The width of the image.</param>
/// <param name="box">The bounding box for a face found within the image.</
param>
/// <param name="rotation">The rotation of the face's bounding box.</param>
public static void ShowBoundingBoxPositions(int imageHeight, int imageWidth,
BoundingBox box, string rotation)
{
    float left;
    float top;

    if (rotation == null)
    {
        Console.WriteLine("No estimated orientation. Check Exif data.");
        return;
    }

    // Calculate face position based on image orientation.
    switch (rotation)
    {
        case "ROTATE_0":

```

```

        left = imageWidth * box.Left;
        top = imageHeight * box.Top;
        break;
    case "ROTATE_90":
        left = imageHeight * (1 - (box.Top + box.Height));
        top = imageWidth * box.Left;
        break;
    case "ROTATE_180":
        left = imageWidth - (imageWidth * (box.Left + box.Width));
        top = imageHeight * (1 - (box.Top + box.Height));
        break;
    case "ROTATE_270":
        left = imageHeight * box.Top;
        top = imageWidth * (1 - box.Left - box.Width);
        break;
    default:
        Console.WriteLine("No estimated orientation information. Check
Exif data.");
        return;
    }

    // Display face location information.
    Console.WriteLine($"Left: {left}");
    Console.WriteLine($"Top: {top}");
    Console.WriteLine($"Face Width: {imageWidth * box.Width}");
    Console.WriteLine($"Face Height: {imageHeight * box.Height}");
}
}

```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DetectFaces](#)」を参照してください。

DetectLabels

次のコード例は、DetectLabels を使用する方法を示しています。

詳細については、「[イメージ内のラベルを検出する](#)」を参照してください。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Rekognition;
using Amazon.Rekognition.Model;

/// <summary>
/// Uses the Amazon Rekognition Service to detect labels within an image
/// stored in an Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) bucket.
/// </summary>
public class DetectLabels
{
    public static async Task Main()
    {
        string photo = "del_river_02092020_01.jpg"; // "input.jpg";
        string bucket = "amzn-s3-demo-bucket"; // "bucket";

        var rekognitionClient = new AmazonRekognitionClient();

        var detectlabelsRequest = new DetectLabelsRequest
        {
            Image = new Image()
            {
                S3Object = new S3Object()
                {
                    Name = photo,
                    Bucket = bucket,
                },
            },
            MaxLabels = 10,
            MinConfidence = 75F,
        };

        try
        {
```



```

        DetectLabelsResponse detectLabelsResponse = await
rekognitionClient.DetectLabelsAsync(detectLabelsRequest);
        Console.WriteLine("Detected labels for " + photo);
        foreach (Label label in detectLabelsResponse.Labels)
        {
            Console.WriteLine($"Name: {label.Name} Confidence:
{label.Confidence}");
        }
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
}
}

```

コンピュータに保存されているイメージファイル内のラベルを検出します。

```

using System;
using System.IO;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Rekognition;
using Amazon.Rekognition.Model;

/// <summary>
/// Uses the Amazon Rekognition Service to detect labels within an image
/// stored locally.
/// </summary>
public class DetectLabelsLocalFile
{
    public static async Task Main()
    {
        string photo = "input.jpg";

        var image = new Amazon.Rekognition.Model.Image();
        try
        {
            using var fs = new FileStream(photo, FileMode.Open,
FileAccess.Read);
            byte[] data = null;
            data = new byte[fs.Length];

```

```
        fs.Read(data, 0, (int)fs.Length);
        image.Bytes = new MemoryStream(data);
    }
    catch (Exception)
    {
        Console.WriteLine("Failed to load file " + photo);
        return;
    }

    var rekognitionClient = new AmazonRekognitionClient();

    var detectLabelsRequest = new DetectLabelsRequest
    {
        Image = image,
        MaxLabels = 10,
        MinConfidence = 77F,
    };

    try
    {
        DetectLabelsResponse detectLabelsResponse = await
        rekognitionClient.DetectLabelsAsync(detectLabelsRequest);
        Console.WriteLine($"Detected labels for {photo}");
        foreach (Label label in detectLabelsResponse.Labels)
        {
            Console.WriteLine($"{label.Name}: {label.Confidence}");
        }
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DetectLabels](#)」を参照してください。

DetectModerationLabels

次のコード例は、DetectModerationLabels を使用する方法を示しています。

詳細については、「[不適切なイメージを検出する](#)」を参照してください。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Rekognition;
using Amazon.Rekognition.Model;

/// <summary>
/// Uses the Amazon Rekognition Service to detect unsafe content in a
/// JPEG or PNG format image.
/// </summary>
public class DetectModerationLabels
{
    public static async Task Main(string[] args)
    {
        string photo = "input.jpg";
        string bucket = "amzn-s3-demo-bucket";

        var rekognitionClient = new AmazonRekognitionClient();

        var detectModerationLabelsRequest = new DetectModerationLabelsRequest()
        {
            Image = new Image()
            {
                S3Object = new S3Object()
                {
                    Name = photo,
                    Bucket = bucket,
                },
            },
            MinConfidence = 60F,
        };

        try
```

```
{
    var detectModerationLabelsResponse = await
rekognitionClient.DetectModerationLabelsAsync(detectModerationLabelsRequest);
    Console.WriteLine("Detected labels for " + photo);
    foreach (ModerationLabel label in
detectModerationLabelsResponse.ModerationLabels)
    {
        Console.WriteLine($"Label: {label.Name}");
        Console.WriteLine($"Confidence: {label.Confidence}");
        Console.WriteLine($"Parent: {label.ParentName}");
    }
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine(ex.Message);
}
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DetectModerationLabels](#)」を参照してください。

DetectText

次のコード例は、DetectText を使用する方法を示しています。

詳細については、「[イメージ内のテキストを検出する](#)」を参照してください。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Rekognition;
using Amazon.Rekognition.Model;
```

```
/// <summary>
/// Uses the Amazon Rekognition Service to detect text in an image. The
/// example was created using the AWS SDK for .NET version 3.7 and .NET
/// Core 5.0.
/// </summary>
public class DetectText
{
    public static async Task Main()
    {
        string photo = "Dad_photographer.jpg"; // "input.jpg";
        string bucket = "amzn-s3-demo-bucket"; // "bucket";

        var rekognitionClient = new AmazonRekognitionClient();

        var detectTextRequest = new DetectTextRequest()
        {
            Image = new Image()
            {
                S3Object = new S3Object()
                {
                    Name = photo,
                    Bucket = bucket,
                },
            },
        };

        try
        {
            DetectTextResponse detectTextResponse = await
rekognitionClient.DetectTextAsync(detectTextRequest);
            Console.WriteLine($"Detected lines and words for {photo}");
            detectTextResponse.TextDetections.ForEach(text =>
            {
                Console.WriteLine($"Detected: {text.DetectedText}");
                Console.WriteLine($"Confidence: {text.Confidence}");
                Console.WriteLine($"Id : {text.Id}");
                Console.WriteLine($"Parent Id: {text.ParentId}");
                Console.WriteLine($"Type: {text.Type}");
            });
        }
        catch (Exception e)
        {
            Console.WriteLine(e.Message);
        }
    }
}
```

```
    }  
  }  
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DetectText](#)」を参照してください。

GetCelebrityInfo

次のコード例は、GetCelebrityInfo を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;  
using System.Threading.Tasks;  
using Amazon.Rekognition;  
using Amazon.Rekognition.Model;  
  
/// <summary>  
/// Shows how to use Amazon Rekognition to retrieve information about the  
/// celebrity identified by the supplied celebrity Id.  
/// </summary>  
public class CelebrityInfo  
{  
    public static async Task Main()  
    {  
        string celebId = "nnnnnnnnn";  
  
        var rekognitionClient = new AmazonRekognitionClient();  
  
        var celebrityInfoRequest = new GetCelebrityInfoRequest  
        {  
            Id = celebId,  

```

```
};

Console.WriteLine($"Getting information for celebrity: {celebId}");

var celebrityInfoResponse = await
rekognitionClient.GetCelebrityInfoAsync(celebrityInfoRequest);

// Display celebrity information.
Console.WriteLine($"celebrity name: {celebrityInfoResponse.Name}");
Console.WriteLine("Further information (if available):");
celebrityInfoResponse.Urls.ForEach(url =>
{
    Console.WriteLine(url);
});
}
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[GetCelebrityInfo](#)」を参照してください。

IndexFaces

次のコード例は、IndexFaces を使用する方法を示しています。

詳細については、「[コレクションに顔を追加する](#)」を参照してください。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Rekognition;
using Amazon.Rekognition.Model;
```

```
/// <summary>
/// Uses the Amazon Rekognition Service to detect faces in an image
/// that has been uploaded to an Amazon Simple Storage Service (Amazon S3)
/// bucket and then adds the information to a collection.
/// </summary>
public class AddFaces
{
    public static async Task Main()
    {
        string collectionId = "MyCollection2";
        string bucket = "amzn-s3-demo-bucket";
        string photo = "input.jpg";

        var rekognitionClient = new AmazonRekognitionClient();

        var image = new Image
        {
            S3Object = new S3Object
            {
                Bucket = bucket,
                Name = photo,
            },
        };

        var indexFacesRequest = new IndexFacesRequest
        {
            Image = image,
            CollectionId = collectionId,
            ExternalImageId = photo,
            DetectionAttributes = new List<string>() { "ALL" },
        };

        IndexFacesResponse indexFacesResponse = await
        rekognitionClient.IndexFacesAsync(indexFacesRequest);

        Console.WriteLine($"{photo} added");
        foreach (FaceRecord faceRecord in indexFacesResponse.FaceRecords)
        {
            Console.WriteLine($"Face detected: Faceid is
            {faceRecord.Face.FaceId}");
        }
    }
}
```


- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[IndexFaces](#)」を参照してください。

ListCollections

次のコード例は、ListCollections を使用する方法を示しています。

コレクションの詳細については、「[コレクションを一覧表示する](#)」を参照してください。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Rekognition;
using Amazon.Rekognition.Model;

/// <summary>
/// Uses Amazon Rekognition to list the collection IDs in the
/// current account.
/// </summary>
public class ListCollections
{
    public static async Task Main()
    {
        var rekognitionClient = new AmazonRekognitionClient();

        Console.WriteLine("Listing collections");
        int limit = 10;

        var listCollectionsRequest = new ListCollectionsRequest
        {
            MaxResults = limit,
        };
    }
}
```

```
var listCollectionsResponse = new ListCollectionsResponse();

do
{
    if (listCollectionsResponse is not null)
    {
        listCollectionsRequest.NextToken =
listCollectionsResponse.NextToken;
    }

    listCollectionsResponse = await
rekognitionClient.ListCollectionsAsync(listCollectionsRequest);

    listCollectionsResponse.CollectionIds.ForEach(id =>
    {
        Console.WriteLine(id);
    });
}
while (listCollectionsResponse.NextToken is not null);
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListCollections](#)」を参照してください。

ListFaces

次のコード例は、ListFaces を使用する方法を示しています。

詳細については、「[コレクションに顔を保存する](#)」を参照してください。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
```

```
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Rekognition;
using Amazon.Rekognition.Model;

/// <summary>
/// Uses the Amazon Rekognition Service to retrieve the list of faces
/// stored in a collection.
/// </summary>
public class ListFaces
{
    public static async Task Main()
    {
        string collectionId = "MyCollection2";

        var rekognitionClient = new AmazonRekognitionClient();

        var listFacesResponse = new ListFacesResponse();
        Console.WriteLine($"Faces in collection {collectionId}");

        var listFacesRequest = new ListFacesRequest
        {
            CollectionId = collectionId,
            MaxResults = 1,
        };

        do
        {
            listFacesResponse = await
rekognitionClient.ListFacesAsync(listFacesRequest);
            listFacesResponse.Faces.ForEach(face =>
            {
                Console.WriteLine(face.FaceId);
            });

            listFacesRequest.NextToken = listFacesResponse.NextToken;
        }
        while (!string.IsNullOrEmpty(listFacesResponse.NextToken));
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListFaces](#)」を参照してください。

RecognizeCelebrities

次のコード例は、RecognizeCelebrities を使用する方法を示しています。

詳細については、「[イメージ内で有名人を認識する](#)」を参照してください。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.IO;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Rekognition;
using Amazon.Rekognition.Model;

/// <summary>
/// Shows how to use Amazon Rekognition to identify celebrities in a photo.
/// </summary>
public class CelebritiesInImage
{
    public static async Task Main(string[] args)
    {
        string photo = "moviestars.jpg";

        var rekognitionClient = new AmazonRekognitionClient();

        var recognizeCelebritiesRequest = new RecognizeCelebritiesRequest();

        var img = new Amazon.Rekognition.Model.Image();
        byte[] data = null;
        try
        {
            using var fs = new FileStream(photo, FileMode.Open,
                FileAccess.Read);
```

```
        data = new byte[fs.Length];
        fs.Read(data, 0, (int)fs.Length);
    }
    catch (Exception)
    {
        Console.WriteLine($"Failed to load file {photo}");
        return;
    }

    img.Bytes = new MemoryStream(data);
    recognizeCelebritiesRequest.Image = img;

    Console.WriteLine($"Looking for celebrities in image {photo}\n");

    var recognizeCelebritiesResponse = await
rekognitionClient.RecognizeCelebritiesAsync(recognizeCelebritiesRequest);

    Console.WriteLine($"{recognizeCelebritiesResponse.CelebrityFaces.Count}
celebrity(s) were recognized.\n");
    recognizeCelebritiesResponse.CelebrityFaces.ForEach(celeb =>
    {
        Console.WriteLine($"Celebrity recognized: {celeb.Name}");
        Console.WriteLine($"Celebrity ID: {celeb.Id}");
        BoundingBox boundingBox = celeb.Face.BoundingBox;
        Console.WriteLine($"position: {boundingBox.Left}
{boundingBox.Top}");
        Console.WriteLine("Further information (if available):");
        celeb.UrlsWithMetadata.ForEach(url =>
        {
            Console.WriteLine(url);
        });
    });

    Console.WriteLine($"{recognizeCelebritiesResponse.UnrecognizedFaces.Count} face(s)
were unrecognized.");
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[RecognizeCelebrities](#)」を参照してください。

SearchFaces

次のコード例は、SearchFaces を使用する方法を示しています。

詳細については、[顔 \(フェイス ID\) を検索する](#) を参照してください。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Rekognition;
using Amazon.Rekognition.Model;

/// <summary>
/// Uses the Amazon Rekognition Service to find faces in an image that
/// match the face Id provided in the method request.
/// </summary>
public class SearchFacesMatchingId
{
    public static async Task Main()
    {
        string collectionId = "MyCollection";
        string faceId = "xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxxx";

        var rekognitionClient = new AmazonRekognitionClient();

        // Search collection for faces matching the face id.
        var searchFacesRequest = new SearchFacesRequest
        {
            CollectionId = collectionId,
            FaceId = faceId,
            FaceMatchThreshold = 70F,
            MaxFaces = 2,
        };

        SearchFacesResponse searchFacesResponse = await
            rekognitionClient.SearchFacesAsync(searchFacesRequest);
    }
}
```

```
        Console.WriteLine("Face matching faceId " + faceId);

        Console.WriteLine("Matche(s): ");
        searchFacesResponse.FaceMatches.ForEach(face =>
        {
            Console.WriteLine($"FaceId: {face.Face.FaceId} Similarity:
{face.Similarity}");
        });
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[SearchFaces](#)」を参照してください。

SearchFacesByImage

次のコード例は、SearchFacesByImage を使用する方法を示しています。

詳細については、「[顔を検索する \(イメージ\)](#)」を参照してください。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Rekognition;
using Amazon.Rekognition.Model;

/// <summary>
/// Uses the Amazon Rekognition Service to search for images matching those
/// in a collection.
/// </summary>
public class SearchFacesMatchingImage
```

```
{
    public static async Task Main()
    {
        string collectionId = "MyCollection";
        string bucket = "amzn-s3-demo-bucket";
        string photo = "input.jpg";

        var rekognitionClient = new AmazonRekognitionClient();

        // Get an image object from S3 bucket.
        var image = new Image()
        {
            S3Object = new S3Object()
            {
                Bucket = bucket,
                Name = photo,
            },
        };

        var searchFacesByImageRequest = new SearchFacesByImageRequest()
        {
            CollectionId = collectionId,
            Image = image,
            FaceMatchThreshold = 70F,
            MaxFaces = 2,
        };

        SearchFacesByImageResponse searchFacesByImageResponse = await
            rekognitionClient.SearchFacesByImageAsync(searchFacesByImageRequest);

        Console.WriteLine("Faces matching largest face in image from " + photo);
        searchFacesByImageResponse.FaceMatches.ForEach(face =>
        {
            Console.WriteLine($"FaceId: {face.Face.FaceId}, Similarity:
{face.Similarity}");
        });
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[SearchFacesByImage](#)」を参照してください。

シナリオ

サーバーレスアプリケーションを作成して写真を管理する

次のコード例では、ユーザーがラベルを使用して写真を管理できるサーバーレスアプリケーションを作成する方法について示しています。

SDK for .NET

Amazon Rekognition を使用して画像内のラベルを検出し、保存して後で取得できるようにする写真アセット管理アプリケーションの開発方法を示します。

完全なソースコードと設定および実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例のソースについて詳しくは、[AWS コミュニティ](#) でブログ投稿を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda
- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SNS

画像内のオブジェクトを検出する

次のコード例は、Amazon Rekognition を使用して画像内でカテゴリ別にオブジェクトを検出するアプリケーションを構築する方法を示しています。

SDK for .NET

Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットにあるイメージ内から、Amazon Rekognition を使用してカテゴリ別にオブジェクトを識別するアプリケーションを、Amazon Rekognition .NET API を使用して作成する方法を示します。アプリケーションは、Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用して、結果を記載した E メール通知を管理者に送信します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SES

を使用した Route 53 ドメイン登録の例 SDK for .NET

次のコード例は、Route 53 ドメイン登録 AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [はじめに](#)
- [基本](#)
- [アクション](#)

はじめに

ハロー Route 53 ドメイン登録

次のコード例は、Route 53 ドメイン登録の使用を開始する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
public static class HelloRoute53Domains
{
    static async Task Main(string[] args)
    {
        // Use the AWS .NET Core Setup package to set up dependency injection for
        the Amazon Route 53 domain registration service.
        // Use your AWS profile name, or leave it blank to use the default profile.
        using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
            .ConfigureServices((_, services) =>
                services.AddAWSService<IAmazonRoute53Domains>()
            ).Build();

        // Now the client is available for injection.
        var route53Client =
            host.Services.GetRequiredService<IAmazonRoute53Domains>();

        // You can use await and any of the async methods to get a response.
        var response = await route53Client.ListPricesAsync(new ListPricesRequest
        { Tld = "com" });
        Console.WriteLine($"Hello Amazon Route 53 Domains! Following are prices
        for .com domain operations:");
        var comPrices = response.Prices.FirstOrDefault();
        if (comPrices != null)
        {
            Console.WriteLine($"Registration: {comPrices.RegistrationPrice?.Price}
            {comPrices.RegistrationPrice?.Currency}");
            Console.WriteLine($"Renewal: {comPrices.RenewalPrice?.Price}
            {comPrices.RenewalPrice?.Currency}");
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListPrices](#)」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- 現在のドメインを一覧表示し、過去 1 年間の操作を一覧表示します。
- 過去 1 年間の請求記録とドメインタイプの価格を表示します。
- ドメインの候補を取得します。
- ドメインの可用性と移管可能性を確認します。
- オプションで、ドメイン登録をリクエストします。
- 操作の詳細を入手します。
- オプションで、ドメインの詳細を取得します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

コマンドプロンプトからインタラクティブなシナリオを実行します。

```
public static class Route53DomainScenario
{
    /*
        Before running this .NET code example, set up your development environment,
        including your credentials.

        This .NET example performs the following tasks:
        1. List current domains.
        2. List operations in the past year.
        3. View billing for the account in the past year.
```

```

        4. View prices for domain types.
        5. Get domain suggestions.
        6. Check domain availability.
        7. Check domain transferability.
        8. Optionally, request a domain registration.
        9. Get an operation detail.
        10. Optionally, get a domain detail.
    */

    private static Route53Wrapper _route53Wrapper = null!;
    private static IConfiguration _configuration = null!;

    static async Task Main(string[] args)
    {
        // Set up dependency injection for the Amazon service.
        using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
            .ConfigureLogging(logging =>
                logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
                    .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
LogLevel.Information)
                    .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
            .ConfigureServices((_, services) =>
                services.AddAWSService<IAmazonRoute53Domains>()
                    .AddTransient<Route53Wrapper>()
            )
            .Build();

        _configuration = new ConfigurationBuilder()
            .SetBasePath(Directory.GetCurrentDirectory())
            .AddJsonFile("settings.json") // Load settings from .json file.
            .AddJsonFile("settings.local.json",
                true) // Optionally, load local settings.
            .Build();

        var logger = LoggerFactory.Create(builder =>
        {
            builder.AddConsole();
        }).CreateLogger(typeof(Route53DomainScenario));

        _route53Wrapper = host.Services.GetRequiredService<Route53Wrapper>();

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Welcome to the Amazon Route 53 domains example
scenario.");
    }

```

```

        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        try
        {
            await ListDomains();
            await ListOperations();
            await ListBillingRecords();
            await ListPrices();
            await ListDomainSuggestions();
            await CheckDomainAvailability();
            await CheckDomainTransferability();
            var operationId = await RequestDomainRegistration();
            await GetOperationalDetail(operationId);
            await GetDomainDetails();
        }
        catch (Exception ex)
        {
            logger.LogError(ex, "There was a problem executing the scenario.");
        }

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("The Amazon Route 53 domains example scenario is
complete.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// List account registered domains.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task ListDomains()
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"1. List account domains.");
        var domains = await _route53Wrapper.ListDomains();
        for (int i = 0; i < domains.Count; i++)
        {
            Console.WriteLine($"  {i + 1}. {domains[i].DomainName}");
        }

        if (!domains.Any())
        {
            Console.WriteLine($"  No domains found in this account.");
        }
    }

```

```

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// List domain operations in the past year.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task ListOperations()
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"2. List account domain operations in the past year.");
        var operations = await _route53Wrapper.ListOperations(
            DateTime.Today.AddYears(-1));
        for (int i = 0; i < operations.Count; i++)
        {
            Console.WriteLine($"\\tOperation Id: {operations[i].OperationId}");
            Console.WriteLine($"\\tStatus: {operations[i].Status}");
            Console.WriteLine($"\\tDate: {operations[i].SubmittedDate}");
        }
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// List billing in the past year.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task ListBillingRecords()
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"3. View billing for the account in the past year.");
        var billingRecords = await _route53Wrapper.ViewBilling(
            DateTime.Today.AddYears(-1),
            DateTime.Today);
        for (int i = 0; i < billingRecords.Count; i++)
        {
            Console.WriteLine($"\\tBill Date:
{billingRecords[i].BillDate.ToShortDateString()}");
            Console.WriteLine($"\\tOperation: {billingRecords[i].Operation}");
            Console.WriteLine($"\\tPrice: {billingRecords[i].Price}");
        }
        if (!billingRecords.Any())
        {

```

```

        Console.WriteLine("\tNo billing records found in this account for the
past year.");
    }
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
}

/// <summary>
/// List prices for a few domain types.
/// </summary>
/// <returns>Async task.</returns>
private static async Task ListPrices()
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine($"4. View prices for domain types.");
    var domainTypes = new List<string> { "net", "com", "org", "co" };

    var prices = await _route53Wrapper.ListPrices(domainTypes);
    foreach (var pr in prices)
    {
        Console.WriteLine($"    \tName: {pr.Name}");
        Console.WriteLine($"    \tRegistration: {pr.RegistrationPrice?.Price}
{pr.RegistrationPrice?.Currency}");
        Console.WriteLine($"    \tRenewal: {pr.RenewalPrice?.Price}
{pr.RenewalPrice?.Currency}");
        Console.WriteLine($"    \tTransfer: {pr.TransferPrice?.Price}
{pr.TransferPrice?.Currency}");
        Console.WriteLine($"    \tChange Ownership: {pr.ChangeOwnershipPrice?.Price}
{pr.ChangeOwnershipPrice?.Currency}");
        Console.WriteLine($"    \tRestoration: {pr.RestorationPrice?.Price}
{pr.RestorationPrice?.Currency}");
        Console.WriteLine();
    }
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
}

/// <summary>
/// List domain suggestions for a domain name.
/// </summary>
/// <returns>Async task.</returns>
private static async Task ListDomainSuggestions()
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine($"5. Get domain suggestions.");
    string? domainName = null;

```



```

        while (domainName == null || string.IsNullOrEmpty(domainName))
        {
            Console.WriteLine($"Enter a domain name to get available domain
suggestions.");
            domainName = Console.ReadLine();
        }

        var suggestions = await _route53Wrapper.GetDomainSuggestions(domainName,
true, 5);
        foreach (var suggestion in suggestions)
        {
            Console.WriteLine($"\\tSuggestion Name: {suggestion.DomainName}");
            Console.WriteLine($"\\tAvailability: {suggestion.Availability}");
        }
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// Check availability for a domain name.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task CheckDomainAvailability()
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"6. Check domain availability.");
        string? domainName = null;
        while (domainName == null || string.IsNullOrEmpty(domainName))
        {
            Console.WriteLine($"Enter a domain name to check domain availability.");
            domainName = Console.ReadLine();
        }

        var availability = await
_route53Wrapper.CheckDomainAvailability(domainName);
        Console.WriteLine($"\\tAvailability: {availability}");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// Check transferability for a domain name.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task CheckDomainTransferability()
    {

```

```

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"7. Check domain transferability.");
        string? domainName = null;
        while (domainName == null || string.IsNullOrWhiteSpace(domainName))
        {
            Console.WriteLine($"Enter a domain name to check domain
transferability.");
            domainName = Console.ReadLine();
        }

        var transferability = await
_route53Wrapper.CheckDomainTransferability(domainName);
        Console.WriteLine($"Transferability: {transferability}");

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// Check transferability for a domain name.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task<string?> RequestDomainRegistration()
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"8. Optionally, request a domain registration.");

        Console.WriteLine($"Note: This example uses domain request settings in
settings.json.");
        Console.WriteLine($"To change the domain registration settings, set the
values in that file.");
        Console.WriteLine($"Remember, registering an actual domain will incur an
account billing cost.");
        Console.WriteLine($"Would you like to begin a domain registration? (y/
n)");
        var ynResponse = Console.ReadLine();
        if (ynResponse != null && ynResponse.Equals("y",
StringComparison.InvariantCultureIgnoreCase))
        {
            string domainName = _configuration["DomainName"];
            ContactDetail contact = new ContactDetail();
            contact.CountryCode =
CountryCode.FindValue(_configuration["Contact:CountryCode"]);
            contact.ContactType =
ContactType.FindValue(_configuration["Contact:ContactType"]);

```

```

        _configuration.GetSection("Contact").Bind(contact);

        var operationId = await _route53Wrapper.RegisterDomain(
            domainName,
            Convert.ToBoolean(_configuration["AutoRenew"]),
            Convert.ToInt32(_configuration["DurationInYears"]),
            contact);
        if (operationId != null)
        {
            Console.WriteLine(
                $"\\tRegistration requested. Operation Id: {operationId}");
        }

        return operationId;
    }

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    return null;
}

/// <summary>
/// Get details for an operation.
/// </summary>
/// <returns>Async task.</returns>
private static async Task GetOperationalDetail(string? operationId)
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine($"9. Get an operation detail.");

    var operationDetails =
        await _route53Wrapper.GetOperationDetail(operationId);

    Console.WriteLine(operationDetails);

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
}

/// <summary>
/// Optionally, get details for a registered domain.
/// </summary>
/// <returns>Async task.</returns>
private static async Task<string?> GetDomainDetails()
{

```

```

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"10. Get details on a domain.");

        Console.WriteLine($"\\tNote: you must have a registered domain to get
details.");
        Console.WriteLine($"\\tWould you like to get domain details? (y/n)");
        var ynResponse = Console.ReadLine();
        if (ynResponse != null && ynResponse.Equals("y",
StringComparison.InvariantCultureIgnoreCase))
        {
            string? domainName = null;
            while (domainName == null)
            {
                Console.WriteLine($"\\tEnter a domain name to get details.");
                domainName = Console.ReadLine();
            }

            var domainDetails = await _route53Wrapper.GetDomainDetail(domainName);
            Console.WriteLine(domainDetails);
        }

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        return null;
    }
}

```

Route 53 のドメイン登録アクションにシナリオが使用するラッパーメソッド。

```

public class Route53Wrapper
{
    private readonly IAmazonRoute53Domains _amazonRoute53Domains;
    private readonly ILogger<Route53Wrapper> _logger;
    public Route53Wrapper(IAmazonRoute53Domains amazonRoute53Domains,
ILogger<Route53Wrapper> logger)
    {
        _amazonRoute53Domains = amazonRoute53Domains;
        _logger = logger;
    }

    /// <summary>

```

```
/// List prices for domain type operations.
/// </summary>
/// <param name="domainTypes">Domain types to include in the results.</param>
/// <returns>The list of domain prices.</returns>
public async Task<List<DomainPrice>> ListPrices(List<string> domainTypes)
{
    var results = new List<DomainPrice>();
    var paginatePrices = _amazonRoute53Domains.Paginators.ListPrices(new
ListPricesRequest());
    // Get the entire list using the paginator.
    await foreach (var prices in paginatePrices.Prices)
    {
        results.Add(prices);
    }
    return results.Where(p => domainTypes.Contains(p.Name)).ToList();
}

/// <summary>
/// Check the availability of a domain name.
/// </summary>
/// <param name="domain">The domain to check for availability.</param>
/// <returns>An availability result string.</returns>
public async Task<string> CheckDomainAvailability(string domain)
{
    var result = await _amazonRoute53Domains.CheckDomainAvailabilityAsync(
        new CheckDomainAvailabilityRequest
        {
            DomainName = domain
        }
    );
    return result.Availability.Value;
}

/// <summary>
/// Check the transferability of a domain name.
/// </summary>
/// <param name="domain">The domain to check for transferability.</param>
/// <returns>A transferability result string.</returns>
public async Task<string> CheckDomainTransferability(string domain)
{
    var result = await _amazonRoute53Domains.CheckDomainTransferabilityAsync(
        new CheckDomainTransferabilityRequest
```

```

        {
            DomainName = domain
        }
    );
    return result.Transferability.Transferable.Value;
}

/// <summary>
/// Get a list of suggestions for a given domain.
/// </summary>
/// <param name="domain">The domain to check for suggestions.</param>
/// <param name="onlyAvailable">If true, only returns available domains.</param>
/// <param name="suggestionCount">The number of suggestions to return. Defaults
to the max of 50.</param>
/// <returns>A collection of domain suggestions.</returns>
public async Task<List<DomainSuggestion>> GetDomainSuggestions(string domain,
bool onlyAvailable, int suggestionCount = 50)
{
    var result = await _amazonRoute53Domains.GetDomainSuggestionsAsync(
        new GetDomainSuggestionsRequest
        {
            DomainName = domain,
            OnlyAvailable = onlyAvailable,
            SuggestionCount = suggestionCount
        }
    );
    return result.SuggestionsList;
}

/// <summary>
/// Get details for a domain action operation.
/// </summary>
/// <param name="operationId">The operational Id.</param>
/// <returns>A string describing the operational details.</returns>
public async Task<string> GetOperationDetail(string? operationId)
{
    if (operationId == null)
        return "Unable to get operational details because ID is null.";
    try
    {
        var operationDetails =
            await _amazonRoute53Domains.GetOperationDetailAsync(

```

```

        new GetOperationDetailRequest
        {
            OperationId = operationId
        }
    );

    var details = $"\\tOperation {operationId}:\\n" +
        $"\\tFor domain {operationDetails.DomainName} on
{operationDetails.SubmittedDate.ToShortDateString()}\\n" +
        $"\\tMessage is {operationDetails.Message}\\n" +
        $"\\tStatus is {operationDetails.Status}\\n";

    return details;
}
catch (AmazonRoute53DomainsException ex)
{
    return $"Unable to get operation details. Here's why: {ex.Message}.";
}
}

/// <summary>
/// Initiate a domain registration request.
/// </summary>
/// <param name="contact">Contact details.</param>
/// <param name="domainName">The domain name to register.</param>
/// <param name="autoRenew">True if the domain should automatically renew.</
param>
/// <param name="duration">The duration in years for the domain registration.</
param>
/// <returns>The operation Id.</returns>
public async Task<string?> RegisterDomain(string domainName, bool autoRenew, int
duration, ContactDetail contact)
{
    // This example uses the same contact information for admin, registrant, and
    tech contacts.
    try
    {
        var result = await _amazonRoute53Domains.RegisterDomainAsync(
            new RegisterDomainRequest()
            {
                AdminContact = contact,
                RegistrantContact = contact,
                TechContact = contact,
            }
        );
    }
    catch { }
}

```

```

        DomainName = domainName,
        AutoRenew = autoRenew,
        DurationInYears = duration,
        PrivacyProtectAdminContact = false,
        PrivacyProtectRegistrantContact = false,
        PrivacyProtectTechContact = false
    }
    );
    return result.OperationId;
}
catch (InvalidInputException)
{
    _logger.LogInformation($"Unable to request registration for domain
{domainName}");
    return null;
}
}

/// <summary>
/// View billing records for the account between a start and end date.
/// </summary>
/// <param name="startDate">The start date for billing results.</param>
/// <param name="endDate">The end date for billing results.</param>
/// <returns>A collection of billing records.</returns>
public async Task<List<BillingRecord>> ViewBilling(DateTime startDate, DateTime
endDate)
{
    var results = new List<BillingRecord>();
    var paginateBilling = _amazonRoute53Domains.Paginators.ViewBilling(
        new ViewBillingRequest()
        {
            Start = startDate,
            End = endDate
        });

    // Get the entire list using the paginator.
    await foreach (var billingRecords in paginateBilling.BillingRecords)
    {
        results.Add(billingRecords);
    }
    return results;
}

```



```
/// <summary>
/// List the domains for the account.
/// </summary>
/// <returns>A collection of domain summary records.</returns>
public async Task<List<DomainSummary>> ListDomains()
{
    var results = new List<DomainSummary>();
    var paginateDomains = _amazonRoute53Domains.Paginators.ListDomains(
        new ListDomainsRequest());

    // Get the entire list using the paginator.
    await foreach (var domain in paginateDomains.Domains)
    {
        results.Add(domain);
    }
    return results;
}

/// <summary>
/// List operations for the account that are submitted after a specified date.
/// </summary>
/// <returns>A collection of operation summary records.</returns>
public async Task<List<OperationSummary>> ListOperations(DateTime
submittedSince)
{
    var results = new List<OperationSummary>();
    var paginateOperations = _amazonRoute53Domains.Paginators.ListOperations(
        new ListOperationsRequest()
        {
            SubmittedSince = submittedSince
        });

    // Get the entire list using the paginator.
    await foreach (var operations in paginateOperations.Operations)
    {
        results.Add(operations);
    }
    return results;
}

/// <summary>
```

```

    /// Get details for a domain.
    /// </summary>
    /// <returns>A string with detail information about the domain.</returns>
    public async Task<string> GetDomainDetail(string domainName)
    {
        try
        {
            var result = await _amazonRoute53Domains.GetDomainDetailAsync(
                new GetDomainDetailRequest()
                {
                    DomainName = domainName
                });
            var details = $"\\tDomain {domainName}:\\n" +
                $"\\tCreated on {result.CreationDate.ToShortDateString()}.\\n" +
                $"\\tAdmin contact is {result.AdminContact.Email}.\\n" +
                $"\\tAuto-renew is {result.AutoRenew}.\\n";

            return details;
        }
        catch (InvalidInputException)
        {
            return $"Domain {domainName} was not found in your account.";
        }
    }
}

```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。

- [CheckDomainAvailability](#)
- [CheckDomainTransferability](#)
- [GetDomainDetail](#)
- [GetDomainSuggestions](#)
- [GetOperationDetail](#)
- [ListDomains](#)
- [ListOperations](#)
- [ListPrices](#)
- [RegisterDomain](#)

- [ViewBilling](#)

アクション

CheckDomainAvailability

次のコード例は、CheckDomainAvailability を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Check the availability of a domain name.
/// </summary>
/// <param name="domain">The domain to check for availability.</param>
/// <returns>An availability result string.</returns>
public async Task<string> CheckDomainAvailability(string domain)
{
    var result = await _amazonRoute53Domains.CheckDomainAvailabilityAsync(
        new CheckDomainAvailabilityRequest
        {
            DomainName = domain
        }
    );
    return result.Availability.Value;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CheckDomainAvailability](#)」を参照してください。

CheckDomainTransferability

次のコード例は、CheckDomainTransferability を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Check the transferability of a domain name.
/// </summary>
/// <param name="domain">The domain to check for transferability.</param>
/// <returns>A transferability result string.</returns>
public async Task<string> CheckDomainTransferability(string domain)
{
    var result = await _amazonRoute53Domains.CheckDomainTransferabilityAsync(
        new CheckDomainTransferabilityRequest
        {
            DomainName = domain
        }
    );
    return result.Transferability.Transferable.Value;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CheckDomainTransferability](#)」を参照してください。

GetDomainDetail

次のコード例は、GetDomainDetail を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get details for a domain.
/// </summary>
/// <returns>A string with detail information about the domain.</returns>
public async Task<string> GetDomainDetail(string domainName)
{
    try
    {
        var result = await _amazonRoute53Domains.GetDomainDetailAsync(
            new GetDomainDetailRequest()
            {
                DomainName = domainName
            });
        var details = $"\\tDomain {domainName}:\\n" +
            $"\\tCreated on {result.CreationDate.ToShortDateString()}.\\n" +
            $"\\tAdmin contact is {result.AdminContact.Email}.\\n" +
            $"\\tAuto-renew is {result.AutoRenew}.\\n";

        return details;
    }
    catch (InvalidInputException)
    {
        return $"Domain {domainName} was not found in your account.";
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetDomainDetail](#)」を参照してください。

GetDomainSuggestions

次のコード例は、GetDomainSuggestions を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get a list of suggestions for a given domain.
/// </summary>
/// <param name="domain">The domain to check for suggestions.</param>
/// <param name="onlyAvailable">If true, only returns available domains.</param>
/// <param name="suggestionCount">The number of suggestions to return. Defaults
to the max of 50.</param>
/// <returns>A collection of domain suggestions.</returns>
public async Task<List<DomainSuggestion>> GetDomainSuggestions(string domain,
bool onlyAvailable, int suggestionCount = 50)
{
    var result = await _amazonRoute53Domains.GetDomainSuggestionsAsync(
        new GetDomainSuggestionsRequest
        {
            DomainName = domain,
            OnlyAvailable = onlyAvailable,
            SuggestionCount = suggestionCount
        }
    );
    return result.SuggestionsList;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[GetDomainSuggestions](#)」を参照してください。

GetOperationDetail

次のコード例は、GetOperationDetail を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get details for a domain action operation.
/// </summary>
/// <param name="operationId">The operational Id.</param>
/// <returns>A string describing the operational details.</returns>
public async Task<string> GetOperationDetail(string? operationId)
{
    if (operationId == null)
        return "Unable to get operational details because ID is null.";
    try
    {
        var operationDetails =
            await _amazonRoute53Domains.GetOperationDetailAsync(
                new GetOperationDetailRequest
                {
                    OperationId = operationId
                }
            );

        var details = $"\\tOperation {operationId}:\\n" +
            $"\\tFor domain {operationDetails.DomainName} on"
            {operationDetails.SubmittedDate.ToShortDateString()}.\\n" +
            $"\\tMessage is {operationDetails.Message}.\\n" +
            $"\\tStatus is {operationDetails.Status}.\\n";

        return details;
    }
    catch (AmazonRoute53DomainsException ex)
    {
        return $"Unable to get operation details. Here's why: {ex.Message}.";
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[GetOperationDetail](#)」を参照してください。

ListDomains

次のコード例は、ListDomains を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List the domains for the account.
/// </summary>
/// <returns>A collection of domain summary records.</returns>
public async Task<List<DomainSummary>> ListDomains()
{
    var results = new List<DomainSummary>();
    var paginateDomains = _amazonRoute53Domains.Paginators.ListDomains(
        new ListDomainsRequest());

    // Get the entire list using the paginator.
    await foreach (var domain in paginateDomains.Domains)
    {
        results.Add(domain);
    }
    return results;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListDomains](#)」を参照してください。

ListOperations

次のコード例は、ListOperations を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List operations for the account that are submitted after a specified date.
/// </summary>
/// <returns>A collection of operation summary records.</returns>
public async Task<List<OperationSummary>> ListOperations(DateTime
submittedSince)
{
    var results = new List<OperationSummary>();
    var paginateOperations = _amazonRoute53Domains.Paginators.ListOperations(
        new ListOperationsRequest()
        {
            SubmittedSince = submittedSince
        });

    // Get the entire list using the paginator.
    await foreach (var operations in paginateOperations.Operations)
    {
        results.Add(operations);
    }
    return results;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListOperations](#)」を参照してください。

ListPrices

次のコード例は、ListPrices を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List prices for domain type operations.
/// </summary>
/// <param name="domainTypes">Domain types to include in the results.</param>
/// <returns>The list of domain prices.</returns>
public async Task<List<DomainPrice>> ListPrices(List<string> domainTypes)
{
    var results = new List<DomainPrice>();
    var paginatePrices = _amazonRoute53Domains.Paginators.ListPrices(new
ListPricesRequest());
    // Get the entire list using the paginator.
    await foreach (var prices in paginatePrices.Prices)
    {
        results.Add(prices);
    }
    return results.Where(p => domainTypes.Contains(p.Name)).ToList();
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListPrices](#)」を参照してください。

RegisterDomain

次のコード例は、RegisterDomain を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Initiate a domain registration request.
/// </summary>
/// <param name="contact">Contact details.</param>
/// <param name="domainName">The domain name to register.</param>
/// <param name="autoRenew">True if the domain should automatically renew.</
param>
/// <param name="duration">The duration in years for the domain registration.</
param>
/// <returns>The operation Id.</returns>
public async Task<string?> RegisterDomain(string domainName, bool autoRenew, int
duration, ContactDetail contact)
{
    // This example uses the same contact information for admin, registrant, and
    tech contacts.
    try
    {
        var result = await _amazonRoute53Domains.RegisterDomainAsync(
            new RegisterDomainRequest()
            {
                AdminContact = contact,
                RegistrantContact = contact,
                TechContact = contact,
                DomainName = domainName,
                AutoRenew = autoRenew,
                DurationInYears = duration,
                PrivacyProtectAdminContact = false,
                PrivacyProtectRegistrantContact = false,
                PrivacyProtectTechContact = false
            }
        );
        return result.OperationId;
    }
}
```

```
        catch (InvalidInputException)
        {
            _logger.LogInformation($"Unable to request registration for domain
{domainName}");
            return null;
        }
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[RegisterDomain](#)」を参照してください。

ViewBilling

次のコード例は、ViewBilling を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// View billing records for the account between a start and end date.
/// </summary>
/// <param name="startDate">The start date for billing results.</param>
/// <param name="endDate">The end date for billing results.</param>
/// <returns>A collection of billing records.</returns>
public async Task<List<BillingRecord>> ViewBilling(DateTime startDate, DateTime
endDate)
{
    var results = new List<BillingRecord>();
    var paginateBilling = _amazonRoute53Domains.Paginateors.ViewBilling(
        new ViewBillingRequest()
        {
            Start = startDate,
            End = endDate
        });
}
```

```
// Get the entire list using the paginator.  
await foreach (var billingRecords in paginateBilling.BillingRecords)  
{  
    results.Add(billingRecords);  
}  
return results;  
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ViewBilling](#)」を参照してください。

を使用した Amazon S3 の例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon S3 AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)
- [シナリオ](#)
- [サーバーレスサンプル](#)

アクション

CopyObject

次のコード例は、CopyObject を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

条件付きリクエストを使用してオブジェクトをコピーします。

```
/// <summary>
/// Copies an object from one Amazon S3 bucket to another with a conditional
request.
/// </summary>
/// <param name="sourceKey">The key of the source object to copy.</param>
/// <param name="destKey">The key of the destination object.</param>
/// <param name="sourceBucket">The source bucket of the object.</param>
/// <param name="destBucket">The destination bucket of the object.</param>
/// <param name="conditionType">The type of condition to apply, e.g.
'CopySourceIfMatch', 'CopySourceIfNoneMatch', 'CopySourceIfModifiedSince',
'CopySourceIfUnmodifiedSince'.</param>
/// <param name="conditionDateValue">The value to use for the condition for
dates.</param>
/// <param name="etagConditionalValue">The value to use for the condition for
etags.</param>
/// <returns>True if the conditional copy is successful, False otherwise.</
returns>
public async Task<bool> CopyObjectConditional(string sourceKey, string destKey,
string sourceBucket, string destBucket,
    S3ConditionType conditionType, DateTime? conditionDateValue = null, string?
etagConditionalValue = null)
{
    try
    {
        var copyObjectRequest = new CopyObjectRequest
        {
            DestinationBucket = destBucket,
            DestinationKey = destKey,
            SourceBucket = sourceBucket,
            SourceKey = sourceKey
        };

        switch (conditionType)
```

```

        {
            case S3ConditionType.IfMatch:
                copyObjectRequest.ETagToMatch = etagConditionalValue;
                break;
            case S3ConditionType.IfNoneMatch:
                copyObjectRequest.ETagToNotMatch = etagConditionalValue;
                break;
            case S3ConditionType.IfModifiedSince:
                copyObjectRequest.ModifiedSinceDateUtc =
conditionDateValue.GetValueOrDefault();
                break;
            case S3ConditionType.IfUnmodifiedSince:
                copyObjectRequest.UnmodifiedSinceDateUtc =
conditionDateValue.GetValueOrDefault();
                break;
            default:
                throw new ArgumentOutOfRangeException(nameof(conditionType),
conditionType, null);
        }

        await _amazonS3.CopyObjectAsync(copyObjectRequest);
        _logger.LogInformation($"Conditional copy successful for key {destKey}
in bucket {destBucket}.");
        return true;
    }
    catch (AmazonS3Exception e)
    {
        if (e.ErrorCode == "PreconditionFailed")
        {
            _logger.LogError("Conditional copy failed: Precondition failed");
        }
        else if (e.ErrorCode == "304")
        {
            _logger.LogError("Conditional copy failed: Object not modified");
        }
        else
        {
            _logger.LogError($"Unexpected error: {e.ErrorCode}");
            throw;
        }
        return false;
    }
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CopyObject](#)」を参照してください。

CreateBucket

次のコード例は、CreateBucket を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

オブジェクトロックを有効にしてバケットを作成します。

```
/// <summary>
/// Create a new Amazon S3 bucket with object lock actions.
/// </summary>
/// <param name="bucketName">The name of the bucket to create.</param>
/// <param name="enableObjectLock">True to enable object lock on the bucket.</
param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> CreateBucketWithObjectLock(string bucketName, bool
enableObjectLock)
{
    Console.WriteLine($"\\tCreating bucket {bucketName} with object lock
{enableObjectLock}.");
    try
    {
        var request = new PutBucketRequest
        {
            BucketName = bucketName,
            UseClientRegion = true,
            ObjectLockEnabledForBucket = enableObjectLock,
        };

        var response = await _amazonS3.PutBucketAsync(request);
```



```
        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (AmazonS3Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"Error creating bucket: '{ex.Message}'");
        return false;
    }
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CreateBucket](#)」を参照してください。

DeleteBucketCors

次の例は、DeleteBucketCors を使用する方法を説明しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Deletes a CORS configuration from an Amazon S3 bucket.
/// </summary>
/// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used
/// to delete the CORS configuration from the bucket.</param>
private static async Task DeleteCORSConfigurationAsync(AmazonS3Client
client)
{
    DeleteCORSConfigurationRequest request = new
DeleteCORSConfigurationRequest()
    {
        BucketName = BucketName,
    };
    await client.DeleteCORSConfigurationAsync(request);
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteBucketCors](#)」を参照してください。

DeleteBucketLifecycle

次のコード例は、DeleteBucketLifecycle を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// This method removes the Lifecycle configuration from the named
/// S3 bucket.
/// </summary>
/// <param name="client">The S3 client object used to call
/// the RemoveLifecycleConfigAsync method.</param>
/// <param name="bucketName">A string representing the name of the
/// S3 bucket from which the configuration will be removed.</param>
public static async Task RemoveLifecycleConfigAsync(IAmazonS3 client, string
bucketName)
{
    var request = new DeleteLifecycleConfigurationRequest()
    {
        BucketName = bucketName,
    };
    await client.DeleteLifecycleConfigurationAsync(request);
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeleteBucketLifecycle](#)」を参照してください。

DeleteObject

次のコード例は、DeleteObject を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

バージョニング非対応の S3 バケットからオブジェクトを削除します。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;

/// <summary>
/// This example shows how to delete an object from a non-versioned Amazon
/// Simple Storage Service (Amazon S3) bucket.
/// </summary>
public class DeleteObject
{
    /// <summary>
    /// The Main method initializes the necessary variables and then calls
    /// the DeleteObjectNonVersionedBucketAsync method to delete the object
    /// named by the keyName parameter.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        const string bucketName = "amzn-s3-demo-bucket";
        const string keyName = "testfile.txt";

        // If the Amazon S3 bucket is located in an AWS Region other than the
        // Region of the default account, define the AWS Region for the
        // Amazon S3 bucket in your call to the AmazonS3Client constructor.
        // For example RegionEndpoint.USWest2.
        IAmazonS3 client = new AmazonS3Client();
        await DeleteObjectNonVersionedBucketAsync(client, bucketName, keyName);
    }
}
```

```

    /// <summary>
    /// The DeleteObjectNonVersionedBucketAsync takes care of deleting the
    /// desired object from the named bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="client">An initialized Amazon S3 client used to delete
    /// an object from an Amazon S3 bucket.</param>
    /// <param name="bucketName">The name of the bucket from which the
    /// object will be deleted.</param>
    /// <param name="keyName">The name of the object to delete.</param>
    public static async Task DeleteObjectNonVersionedBucketAsync(IAmazonS3
client, string bucketName, string keyName)
    {
        try
        {
            var deleteObjectRequest = new DeleteObjectRequest
            {
                BucketName = bucketName,
                Key = keyName,
            };

            Console.WriteLine($"Deleting object: {keyName}");
            await client.DeleteObjectAsync(deleteObjectRequest);
            Console.WriteLine($"Object: {keyName} deleted from {bucketName}.");
        }
        catch (AmazonS3Exception ex)
        {
            Console.WriteLine($"Error encountered on server.
Message: '{ex.Message}' when deleting an object.");
        }
    }
}

```

バージョニングされた S3 バケットからオブジェクトを削除します。

```

using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;

/// <summary>
/// This example creates an object in an Amazon Simple Storage Service

```

```

/// (Amazon S3) bucket and then deletes the object version that was
/// created.
/// </summary>
public class DeleteObjectVersion
{
    public static async Task Main()
    {
        string bucketName = "amzn-s3-demo-bucket";
        string keyName = "versioned-object.txt";

        // If the AWS Region of the default user is different from the AWS
        // Region of the Amazon S3 bucket, pass the AWS Region of the
        // bucket region to the Amazon S3 client object's constructor.
        // Define it like this:
        //      RegionEndpoint bucketRegion = RegionEndpoint.USSouth1;
        IAmazonS3 client = new AmazonS3Client();

        await CreateAndDeleteObjectVersionAsync(client, bucketName, keyName);
    }

    /// <summary>
    /// This method creates and then deletes a versioned object.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used to
    /// create and delete the object.</param>
    /// <param name="bucketName">The name of the Amazon S3 bucket where the
    /// object will be created and deleted.</param>
    /// <param name="keyName">The key name of the object to create.</param>
    public static async Task CreateAndDeleteObjectVersionAsync(IAmazonS3 client,
string bucketName, string keyName)
    {
        try
        {
            // Add a sample object.
            string versionID = await PutAnObject(client, bucketName, keyName);

            // Delete the object by specifying an object key and a version ID.
            DeleteObjectRequest request = new DeleteObjectRequest()
            {
                BucketName = bucketName,
                Key = keyName,
                VersionId = versionID,
            };

```

```

        Console.WriteLine("Deleting an object");
        await client.DeleteObjectAsync(request);
    }
    catch (AmazonS3Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"Error: {ex.Message}");
    }
}

/// <summary>
/// This method is used to create the temporary Amazon S3 object.
/// </summary>
/// <param name="client">The initialized Amazon S3 object which will be used
/// to create the temporary Amazon S3 object.</param>
/// <param name="bucketName">The name of the Amazon S3 bucket where the
object
/// will be created.</param>
/// <param name="objectKey">The name of the Amazon S3 object co create.</
param>
/// <returns>The Version ID of the created object.</returns>
public static async Task<string> PutAnObject(IAmazonS3 client, string
bucketName, string objectKey)
{
    PutObjectRequest request = new PutObjectRequest()
    {
        BucketName = bucketName,
        Key = objectKey,
        ContentBody = "This is the content body!",
    };

    PutObjectResponse response = await client.PutObjectAsync(request);
    return response.VersionId;
}
}

```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteObject](#)」を参照してください。

DeleteObjects

次のコード例は、DeleteObjects を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

バージョニング非対応の S3 バケットから複数のオブジェクトを削除します。

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;

/// <summary>
/// This example shows how to delete multiple objects from an Amazon Simple
/// Storage Service (Amazon S3) bucket.
/// </summary>
public class DeleteMultipleObjects
{
    /// <summary>
    /// The Main method initializes the Amazon S3 client and the name of
    /// the bucket and then passes those values to MultiObjectDeleteAsync.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        const string bucketName = "amzn-s3-demo-bucket";

        // If the Amazon S3 bucket from which you wish to delete objects is not
        // located in the same AWS Region as the default user, define the
        // AWS Region for the Amazon S3 bucket as a parameter to the client
        // constructor.
        IAmazonS3 s3Client = new AmazonS3Client();

        await MultiObjectDeleteAsync(s3Client, bucketName);
    }

    /// <summary>
    /// This method uses the passed Amazon S3 client to first create and then
    /// delete three files from the named bucket.
    /// </summary>
}
```

```

call
    /// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used to
    /// Amazon S3 methods.</param>
    /// <param name="bucketName">The name of the Amazon S3 bucket where objects
    /// will be created and then deleted.</param>
    public static async Task MultiObjectDeleteAsync(IAmazonS3 client, string
bucketName)
    {
        // Create three sample objects which we will then delete.
        var keysAndVersions = await PutObjectsAsync(client, 3, bucketName);

        // Now perform the multi-object delete, passing the key names and
        // version IDs. Since we are working with a non-versioned bucket,
        // the object keys collection includes null version IDs.
        DeleteObjectsRequest multiObjectDeleteRequest = new DeleteObjectsRequest
        {
            BucketName = bucketName,
            Objects = keysAndVersions,
        };

        // You can add a specific object key to the delete request using the
        // AddKey method of the multiObjectDeleteRequest.
        try
        {
            DeleteObjectsResponse response = await
client.DeleteObjectsAsync(multiObjectDeleteRequest);
            Console.WriteLine("Successfully deleted all the {0} items",
response.DeletedObjects.Count);
        }
        catch (DeleteObjectsException e)
        {
            PrintDeletionErrorStatus(e);
        }
    }

    /// <summary>
    /// Prints the list of errors raised by the call to DeleteObjectsAsync.
    /// </summary>
    /// <param name="ex">A collection of exceptions returned by the call to
    /// DeleteObjectsAsync.</param>
    public static void PrintDeletionErrorStatus(DeleteObjectsException ex)
    {
        DeleteObjectsResponse errorResponse = ex.Response;
        Console.WriteLine("x {0}", errorResponse.DeletedObjects.Count);
    }

```



```

        Console.WriteLine($"Successfully deleted
{errorResponse.DeletedObjects.Count}.");
        Console.WriteLine($"No. of objects failed to delete =
{errorResponse.DeleteErrors.Count}");

        Console.WriteLine("Printing error data...");
        foreach (DeleteError deleteError in errorResponse.DeleteErrors)
        {
            Console.WriteLine($"Object Key:
{deleteError.Key}\t{deleteError.Code}\t{deleteError.Message}");
        }
    }

    /// <summary>
    /// This method creates simple text file objects that can be used in
    /// the delete method.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The Amazon S3 client used to call PutObjectAsync.</
param>
    /// <param name="number">The number of objects to create.</param>
    /// <param name="bucketName">The name of the bucket where the objects
    /// will be created.</param>
    /// <returns>A list of keys (object keys) and versions that the calling
    /// method will use to delete the newly created files.</returns>
    public static async Task<List<KeyVersion>> PutObjectsAsync(IAmazonS3 client,
int number, string bucketName)
    {
        List<KeyVersion> keys = new List<KeyVersion>();
        for (int i = 0; i < number; i++)
        {
            string key = "ExampleObject-" + new System.Random().Next();
            PutObjectRequest request = new PutObjectRequest
            {
                BucketName = bucketName,
                Key = key,
                ContentBody = "This is the content body!",
            };

            PutObjectResponse response = await client.PutObjectAsync(request);

            // For non-versioned bucket operations, we only need the
            // object key.
            KeyVersion keyVersion = new KeyVersion

```

```
        {
            Key = key,
        };
        keys.Add(keyVersion);
    }

    return keys;
}
}
```

バージョンングされた S3 バケットから複数のオブジェクトを削除します。

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;

/// <summary>
/// This example shows how to delete objects in a version-enabled Amazon
/// Simple StorageService (Amazon S3) bucket.
/// </summary>
public class DeleteMultipleObjects
{
    public static async Task Main()
    {
        string bucketName = "amzn-s3-demo-bucket";

        // If the AWS Region for your Amazon S3 bucket is different from
        // the AWS Region of the default user, define the AWS Region for
        // the Amazon S3 bucket and pass it to the client constructor
        // like this:
        // RegionEndpoint bucketRegion = RegionEndpoint.USSouth1;
        IAmazonS3 s3Client;

        s3Client = new AmazonS3Client();
        await DeleteMultipleObjectsFromVersionedBucketAsync(s3Client,
bucketName);
    }

    /// <summary>
```

```

    /// This method removes multiple versions and objects from a
    /// version-enabled Amazon S3 bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used to
call
    /// DeleteObjectVersionsAsync, DeleteObjectsAsync, and
    /// RemoveDeleteMarkersAsync.</param>
    /// <param name="bucketName">The name of the bucket from which to delete
    /// objects.</param>
    public static async Task
DeleteMultipleObjectsFromVersionedBucketAsync(IAmazonS3 client, string bucketName)
    {
        // Delete objects (specifying object version in the request).
        await DeleteObjectVersionsAsync(client, bucketName);

        // Delete objects (without specifying object version in the request).
        var deletedObjects = await DeleteObjectsAsync(client, bucketName);

        // Additional exercise - remove the delete markers Amazon S3 returned
from
        // the preceding response. This results in the objects reappearing
        // in the bucket (you can verify the appearance/disappearance of
        // objects in the console).
        await RemoveDeleteMarkersAsync(client, bucketName, deletedObjects);
    }

    /// <summary>
    /// Creates and then deletes non-versioned Amazon S3 objects and then
deletes
    /// them again. The method returns a list of the Amazon S3 objects deleted.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used to
call
    /// PubObjectsAsync and NonVersionedDeleteAsync.</param>
    /// <param name="bucketName">The name of the bucket where the objects
    /// will be created and then deleted.</param>
    /// <returns>A list of DeletedObjects.</returns>
    public static async Task<List<DeletedObject>> DeleteObjectsAsync(IAmazonS3
client, string bucketName)
    {
        // Upload the sample objects.
        var keysAndVersions2 = await PutObjectsAsync(client, bucketName, 3);

        // Delete objects using only keys. Amazon S3 creates a delete marker and

```

```

        // returns its version ID in the response.
        List<DeletedObject> deletedObjects = await
NonVersionedDeleteAsync(client, bucketName, keysAndVersions2);
        return deletedObjects;
    }

    /// <summary>
    /// This method creates several temporary objects and then deletes them.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The S3 client.</param>
    /// <param name="bucketName">Name of the bucket.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public static async Task DeleteObjectVersionsAsync(IAmazonS3 client, string
bucketName)
    {
        // Upload the sample objects.
        var keysAndVersions1 = await PutObjectsAsync(client, bucketName, 3);

        // Delete the specific object versions.
        await VersionedDeleteAsync(client, bucketName, keysAndVersions1);
    }

    /// <summary>
    /// Displays the list of information about deleted files to the console.
    /// </summary>
    /// <param name="e">Error information from the delete process.</param>
    private static void DisplayDeletionErrors(DeleteObjectsException e)
    {
        var errorResponse = e.Response;
        Console.WriteLine($"No. of objects successfully deleted =
{errorResponse.DeletedObjects.Count}");
        Console.WriteLine($"No. of objects failed to delete =
{errorResponse.DeleteErrors.Count}");
        Console.WriteLine("Printing error data...");
        foreach (var deleteError in errorResponse.DeleteErrors)
        {
            Console.WriteLine($"Object Key:
{deleteError.Key}\t{deleteError.Code}\t{deleteError.Message}");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Delete multiple objects from a version-enabled bucket.
    /// </summary>

```

```

    call
        /// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used to
    call
        /// DeleteObjectVersionsAsync, DeleteObjectsAsync, and
        /// RemoveDeleteMarkersAsync.</param>
        /// <param name="bucketName">The name of the bucket from which to delete
        /// objects.</param>
        /// <param name="keys">A list of key names for the objects to delete.</
param>
        private static async Task VersionedDeleteAsync(IAmazonS3 client, string
bucketName, List<KeyVersion> keys)
        {
            var multiObjectDeleteRequest = new DeleteObjectsRequest
            {
                BucketName = bucketName,
                Objects = keys, // This includes the object keys and specific
version IDs.
            };

            try
            {
                Console.WriteLine("Executing VersionedDelete...");
                DeleteObjectsResponse response = await
client.DeleteObjectsAsync(multiObjectDeleteRequest);
                Console.WriteLine($"Successfully deleted all the
{response.DeletedObjects.Count} items");
            }
            catch (DeleteObjectsException ex)
            {
                DisplayDeletionErrors(ex);
            }
        }

        /// <summary>
        /// Deletes multiple objects from a non-versioned Amazon S3 bucket.
        /// </summary>
        /// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used to
    call
        /// DeleteObjectVersionsAsync, DeleteObjectsAsync, and
        /// RemoveDeleteMarkersAsync.</param>
        /// <param name="bucketName">The name of the bucket from which to delete
        /// objects.</param>
        /// <param name="keys">A list of key names for the objects to delete.</
param>
        /// <returns>A list of the deleted objects.</returns>

```

```

        private static async Task<List<DeletedObject>>
NonVersionedDeleteAsync(IAmazonS3 client, string bucketName, List<KeyVersion> keys)
        {
            // Create a request that includes only the object key names.
            DeleteObjectsRequest multiObjectDeleteRequest = new
DeleteObjectsRequest();
            multiObjectDeleteRequest.BucketName = bucketName;

            foreach (var key in keys)
            {
                multiObjectDeleteRequest.AddKey(key.Key);
            }

            // Execute DeleteObjectsAsync.
            // The DeleteObjectsAsync method adds a delete marker for each
            // object deleted. You can verify that the objects were removed
            // using the Amazon S3 console.
            DeleteObjectsResponse response;
            try
            {
                Console.WriteLine("Executing NonVersionedDelete...");
                response = await
client.DeleteObjectsAsync(multiObjectDeleteRequest);
                Console.WriteLine("Successfully deleted all the {0} items",
response.DeletedObjects.Count);
            }
            catch (DeleteObjectsException ex)
            {
                DisplayDeletionErrors(ex);
                throw; // Some deletions failed. Investigate before continuing.
            }

            // This response contains the DeletedObjects list which we use to delete
            the delete markers.
            return response.DeletedObjects;
        }

        /// <summary>
        /// Deletes the markers left after deleting the temporary objects.
        /// </summary>
        /// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used to
call
        /// DeleteObjectVersionsAsync, DeleteObjectsAsync, and
        /// RemoveDeleteMarkersAsync.</param>

```

```

    /// <param name="bucketName">The name of the bucket from which to delete
    /// objects.</param>
    /// <param name="deletedObjects">A list of the objects that were deleted.</
param>
    private static async Task RemoveDeleteMarkersAsync(IAmazonS3 client, string
bucketName, List<DeletedObject> deletedObjects)
    {
        var keyVersionList = new List<KeyVersion>();

        foreach (var deletedObject in deletedObjects)
        {
            KeyVersion keyVersion = new KeyVersion
            {
                Key = deletedObject.Key,
                VersionId = deletedObject.DeleteMarkerVersionId,
            };
            keyVersionList.Add(keyVersion);
        }

        // Create another request to delete the delete markers.
        var multiObjectDeleteRequest = new DeleteObjectsRequest
        {
            BucketName = bucketName,
            Objects = keyVersionList,
        };

        // Now, delete the delete marker to bring your objects back to the
bucket.
        try
        {
            Console.WriteLine("Removing the delete markers .....");
            var deleteObjectResponse = await
client.DeleteObjectsAsync(multiObjectDeleteRequest);
            Console.WriteLine($"Successfully deleted the
{deleteObjectResponse.DeletedObjects.Count} delete markers");
        }
        catch (DeleteObjectsException ex)
        {
            DisplayDeletionErrors(ex);
        }
    }

    /// <summary>

```

```

    /// Create temporary Amazon S3 objects to show how object deletion works in
an
    /// Amazon S3 bucket with versioning enabled.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used to
call
    /// PutObjectAsync to create temporary objects for the example.</param>
    /// <param name="bucketName">A string representing the name of the S3
    /// bucket where we will create the temporary objects.</param>
    /// <param name="number">The number of temporary objects to create.</param>
    /// <returns>A list of the KeyVersion objects.</returns>
    private static async Task<List<KeyVersion>> PutObjectsAsync(IAmazonS3
client, string bucketName, int number)
    {
        var keys = new List<KeyVersion>();

        for (var i = 0; i < number; i++)
        {
            string key = "ObjectToDelete-" + new System.Random().Next();
            PutObjectRequest request = new PutObjectRequest
            {
                BucketName = bucketName,
                Key = key,
                ContentBody = "This is the content body!",
            };

            var response = await client.PutObjectAsync(request);
            KeyVersion keyVersion = new KeyVersion
            {
                Key = key,
                VersionId = response.VersionId,
            };

            keys.Add(keyVersion);
        }

        return keys;
    }
}

```


- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteObjects](#)」を参照してください。

GetBucketAcl

次のコード例は、GetBucketAcl を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get the access control list (ACL) for the new bucket.
/// </summary>
/// <param name="client">The initialized client object used to get the
/// access control list (ACL) of the bucket.</param>
/// <param name="newBucketName">The name of the newly created bucket.</
param>
/// <returns>An S3AccessControlList.</returns>
public static async Task<S3AccessControlList> GetACLForBucketAsync(IAmazonS3
client, string newBucketName)
{
    // Retrieve bucket ACL to show that the ACL was properly applied to
    // the new bucket.
    GetACLResponse getACLResponse = await client.GetACLAsync(new
GetACLRequest
    {
        BucketName = newBucketName,
    });

    return getACLResponse.AccessControlList;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetBucketAcl](#)」を参照してください。

GetBucketCors

次のコード例は、GetBucketCors を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Retrieve the CORS configuration applied to the Amazon S3 bucket.
/// </summary>
/// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used
/// to retrieve the CORS configuration.</param>
/// <returns>The created CORS configuration object.</returns>
private static async Task<CORSConfiguration>
RetrieveCORSConfigurationAsync(AmazonS3Client client)
{
    GetCORSConfigurationRequest request = new GetCORSConfigurationRequest()
    {
        BucketName = BucketName,
    };
    var response = await client.GetCORSConfigurationAsync(request);
    var configuration = response.Configuration;
    PrintCORSRules(configuration);
    return configuration;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetBucketCors](#)」を参照してください。

GetBucketEncryption

次のコード例は、GetBucketEncryption を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get and print the encryption settings of a bucket.
/// </summary>
/// <param name="bucketName">Name of the bucket.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public static async Task GetEncryptionSettings(string bucketName)
{
    // Check and print the bucket encryption settings.
    Console.WriteLine($"Getting encryption settings for bucket {bucketName}.");

    try
    {
        var settings =
            await _s3Client.GetBucketEncryptionAsync(
                new GetBucketEncryptionRequest() { BucketName = bucketName });

        foreach (var encryptionSettings in
            settings?.ServerSideEncryptionConfiguration?.ServerSideEncryptionRules!)
        {
            Console.WriteLine(
                $"{Environment.NewLine}\tAlgorithm:
{encryptionSettings.ServerSideEncryptionByDefault.ServerSideEncryptionAlgorithm}");
            Console.WriteLine(
                $"{Environment.NewLine}\tKey:
{encryptionSettings.ServerSideEncryptionByDefault.ServerSideEncryptionKeyManagementServiceK
            }
        }
    }
    catch (AmazonS3Exception ex)
    {
        Console.WriteLine(ex.ErrorCode == "InvalidBucketName"
            ? $"Bucket {bucketName} was not found."
            : ex.Message);
    }
}
```

```

        : $"Unable to get bucket encryption for bucket {bucketName},
{ex.Message}");
    }
}

```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[GetBucketEncryption](#)」を参照してください。

GetBucketLifecycleConfiguration

次のコード例は、GetBucketLifecycleConfiguration を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

    /// <summary>
    /// Returns a configuration object for the supplied bucket name.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The S3 client object used to call
    /// the GetLifecycleConfigurationAsync method.</param>
    /// <param name="bucketName">The name of the S3 bucket for which a
    /// configuration will be created.</param>
    /// <returns>Returns a new LifecycleConfiguration object.</returns>
    public static async Task<LifecycleConfiguration>
RetrieveLifecycleConfigAsync(IAmazonS3 client, string bucketName)
    {
        var request = new GetLifecycleConfigurationRequest()
        {
            BucketName = bucketName,
        };
        var response = await client.GetLifecycleConfigurationAsync(request);
        var configuration = response.Configuration;
        return configuration;
    }

```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[GetBucketLifecycleConfiguration](#)」を参照してください。

GetBucketWebsite

次のコード例は、GetBucketWebsite を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
// Get the website configuration.
GetBucketWebsiteRequest getRequest = new GetBucketWebsiteRequest()
{
    BucketName = bucketName,
};
GetBucketWebsiteResponse getResponse = await
client.GetBucketWebsiteAsync(getRequest);
Console.WriteLine($"Index document:
{getResponse.WebsiteConfiguration.IndexDocumentSuffix}");
Console.WriteLine($"Error document:
{getResponse.WebsiteConfiguration.ErrorDocument}");
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetBucketWebsite](#)」を参照してください。

GetObject

次のコード例は、GetObject を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

条件付きリクエストを使用してオブジェクトを取得します。

```
/// <summary>
/// Retrieves an object from Amazon S3 with a conditional request.
/// </summary>
/// <param name="objectKey">The key of the object to retrieve.</param>
/// <param name="sourceBucket">The source bucket of the object.</param>
/// <param name="conditionType">The type of condition: 'IfMatch', 'IfNoneMatch',
'IfModifiedSince', 'IfUnmodifiedSince'.</param>
/// <param name="conditionDateValue">The value to use for the condition for
dates.</param>
/// <param name="etagConditionalValue">The value to use for the condition for
etags.</param>
/// <returns>True if the conditional read is successful, False otherwise.</
returns>
public async Task<bool> GetObjectConditional(string objectKey, string
sourceBucket,
    S3ConditionType conditionType, DateTime? conditionDateValue = null, string?
etagConditionalValue = null)
{
    try
    {
        var getObjectRequest = new GetObjectRequest
        {
            BucketName = sourceBucket,
            Key = objectKey
        };

        switch (conditionType)
        {
            case S3ConditionType.IfMatch:
                getObjectRequest.EtagToMatch = etagConditionalValue;
                break;
            case S3ConditionType.IfNoneMatch:
                getObjectRequest.EtagToNotMatch = etagConditionalValue;
```

```

        break;
        case S3ConditionType.IfModifiedSince:
            getObjectRequest.ModifiedSinceDateUtc =
conditionDateValue.GetValueOrDefault();
            break;
        case S3ConditionType.IfUnmodifiedSince:
            getObjectRequest.UnmodifiedSinceDateUtc =
conditionDateValue.GetValueOrDefault();
            break;
        default:
            throw new ArgumentOutOfRangeException(nameof(conditionType),
conditionType, null);
    }

    var response = await _amazonS3.GetObjectAsync(getObjectRequest);
    var sampleBytes = new byte[20];
    await response.ResponseStream.ReadAsync(sampleBytes, 0, 20);
    _logger.LogInformation($"Conditional read successful. Here are the first
20 bytes of the object:\n{System.Text.Encoding.UTF8.GetString(sampleBytes)}");
    return true;
}
catch (AmazonS3Exception e)
{
    if (e.ErrorCode == "PreconditionFailed")
    {
        _logger.LogError("Conditional read failed: Precondition failed");
    }
    else if (e.ErrorCode == "NotModified")
    {
        _logger.LogError("Conditional read failed: Object not modified");
    }
    else
    {
        _logger.LogError($"Unexpected error: {e.ErrorCode}");
        throw;
    }
    return false;
}
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetObject](#)」を参照してください。

GetObjectLegalHold

次のコード例は、GetObjectLegalHold を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get the legal hold details for an S3 object.
/// </summary>
/// <param name="bucketName">The bucket of the object.</param>
/// <param name="objectKey">The object key.</param>
/// <returns>The object legal hold details.</returns>
public async Task<ObjectLockLegalHold> GetObjectLegalHold(string bucketName,
    string objectKey)
{
    try
    {
        var request = new GetObjectLegalHoldRequest()
        {
            BucketName = bucketName,
            Key = objectKey
        };

        var response = await _amazonS3.GetObjectLegalHoldAsync(request);
        Console.WriteLine($"\\tObject legal hold for {objectKey} in {bucketName}:
" +
            $"\\n\\tStatus: {response.LegalHold.Status}");
        return response.LegalHold;
    }
    catch (AmazonS3Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"\\tUnable to fetch legal hold: '{ex.Message}'");
        return new ObjectLockLegalHold();
    }
}
```


- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[GetObjectLegalHold](#)」を参照してください。

GetObjectLockConfiguration

次のコード例は、GetObjectLockConfiguration を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get the object lock configuration details for an S3 bucket.
/// </summary>
/// <param name="bucketName">The bucket to get details.</param>
/// <returns>The bucket's object lock configuration details.</returns>
public async Task<ObjectLockConfiguration>
GetBucketObjectLockConfiguration(string bucketName)
{
    try
    {
        var request = new GetObjectLockConfigurationRequest()
        {
            BucketName = bucketName
        };

        var response = await _amazonS3.GetObjectLockConfigurationAsync(request);
        Console.WriteLine($"{bucketName} object lock config for {bucketName} in
{bucketName}: " +
                        $"{response.ObjectLockConfiguration.ObjectLockEnabled}" +
                        $"{response.ObjectLockConfiguration.Rule?.DefaultRetention}");

        return response.ObjectLockConfiguration;
    }
    catch (AmazonS3Exception ex)
    {

```

```
        Console.WriteLine($"\\tUnable to fetch object lock config:
'{ex.Message}');
        return new ObjectLockConfiguration();
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetObjectLockConfiguration](#)」を参照してください。

GetObjectRetention

次のコード例は、GetObjectRetention を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get the retention period for an S3 object.
/// </summary>
/// <param name="bucketName">The bucket of the object.</param>
/// <param name="objectKey">The object key.</param>
/// <returns>The object retention details.</returns>
public async Task<ObjectLockRetention> GetObjectRetention(string bucketName,
    string objectKey)
{
    try
    {
        var request = new GetObjectRetentionRequest()
        {
            BucketName = bucketName,
            Key = objectKey
        };

        var response = await _amazonS3.GetObjectRetentionAsync(request);
    }
}
```

```

        Console.WriteLine($"\\tObject retention for {objectKey} in {bucketName}:
" +
        $"\\n\\t{response.Retention.Mode} until
{response.Retention.RetainUntilDate:d}.");
        return response.Retention;
    }
    catch (AmazonS3Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"\\tUnable to fetch object lock retention:
'{ex.Message}'");
        return new ObjectLockRetention();
    }
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetObjectRetention](#)」を参照してください。

ListBuckets

次のコード例は、ListBuckets を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

namespace ListBucketsExample
{
    using System;
    using System.Collections.Generic;
    using System.Threading.Tasks;
    using Amazon.S3;
    using Amazon.S3.Model;

    /// <summary>
    /// This example uses the AWS SDK for .NET to list the Amazon Simple Storage
    /// Service (Amazon S3) buckets belonging to the default account.

```

```

/// </summary>
public class ListBuckets
{
    private static IAmazonS3 _s3Client;

    /// <summary>
    /// Get a list of the buckets owned by the default user.
    /// </summary>
    /// <param name="client">An initialized Amazon S3 client object.</param>
    /// <returns>The response from the ListingBuckets call that contains a
    /// list of the buckets owned by the default user.</returns>
    public static async Task<ListBucketsResponse> GetBuckets(IAmazonS3 client)
    {
        return await client.ListBucketsAsync();
    }

    /// <summary>
    /// This method lists the name and creation date for the buckets in
    /// the passed List of S3 buckets.
    /// </summary>
    /// <param name="bucketList">A List of S3 bucket objects.</param>
    public static void DisplayBucketList(List<S3Bucket> bucketList)
    {
        bucketList
            .ForEach(b => Console.WriteLine($"Bucket name: {b.BucketName},
created on: {b.CreationDate}"));
    }

    public static async Task Main()
    {
        // The client uses the AWS Region of the default user.
        // If the Region where the buckets were created is different,
        // pass the Region to the client constructor. For example:
        // _s3Client = new AmazonS3Client(RegionEndpoint.USEast1);
        _s3Client = new AmazonS3Client();
        var response = await GetBuckets(_s3Client);
        DisplayBucketList(response.Buckets);
    }
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListBuckets](#)」を参照してください。

ListObjectVersions

次のコード例は、ListObjectVersions を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;

/// <summary>
/// This example lists the versions of the objects in a version enabled
/// Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) bucket.
/// </summary>
public class ListObjectVersions
{
    public static async Task Main()
    {
        string bucketName = "amzn-s3-demo-bucket";

        // If the AWS Region where your bucket is defined is different from
        // the AWS Region where the Amazon S3 bucket is defined, pass the
constant
        // for the AWS Region to the client constructor like this:
        //     var client = new AmazonS3Client(RegionEndpoint.USSouth1);
        IAmazonS3 client = new AmazonS3Client();
        await GetObjectListWithAllVersionsAsync(client, bucketName);
    }

    /// <summary>
    /// This method lists all versions of the objects within an Amazon S3
    /// version enabled bucket.
```

```

    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized client object used to call
    /// ListVersionsAsync.</param>
    /// <param name="bucketName">The name of the version enabled Amazon S3
bucket
    /// for which you want to list the versions of the contained objects.</
param>
    public static async Task GetObjectListWithAllVersionsAsync(IAmazonS3 client,
string bucketName)
    {
        try
        {
            // When you instantiate the ListVersionRequest, you can
            // optionally specify a key name prefix in the request
            // if you want a list of object versions of a specific object.

            // For this example we set a small limit in MaxKeys to return
            // a small list of versions.
            ListVersionsRequest request = new ListVersionsRequest()
            {
                BucketName = bucketName,
                MaxKeys = 2,
            };

            do
            {
                ListVersionsResponse response = await
client.ListVersionsAsync(request);

                // Process response.
                foreach (S3ObjectVersion entry in response.Versions)
                {
                    Console.WriteLine($"key: {entry.Key} size: {entry.Size}");
                }

                // If response is truncated, set the marker to get the next
                // set of keys.
                if (response.IsTruncated)
                {
                    request.KeyMarker = response.NextKeyMarker;
                    request.VersionIdMarker = response.NextVersionIdMarker;
                }
            }
            else
            {

```

```

        request = null;
    }
    }
    while (request != null);
}
catch (AmazonS3Exception ex)
{
    Console.WriteLine($"Error: '{ex.Message}'");
}
}
}

```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListObjectVersions](#)」を参照してください。

ListObjectsV2

次のコード例は、ListObjectsV2 を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

ページネーターを使用してオブジェクトを一覧表示します。

```

using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;

/// <summary>
/// The following example lists objects in an Amazon Simple Storage
/// Service (Amazon S3) bucket.
/// </summary>
public class ListObjectsPaginator

```

```
{
    private const string BucketName = "amzn-s3-demo-bucket";

    public static async Task Main()
    {
        IAmazonS3 s3Client = new AmazonS3Client();

        Console.WriteLine($"Listing the objects contained in {BucketName}:\n");
        await ListingObjectsAsync(s3Client, BucketName);
    }

    /// <summary>
    /// This method uses a paginator to retrieve the list of objects in an
    /// an Amazon S3 bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="client">An Amazon S3 client object.</param>
    /// <param name="bucketName">The name of the S3 bucket whose objects
    /// you want to list.</param>
    public static async Task ListingObjectsAsync(IAmazonS3 client, string
bucketName)
    {
        var listObjectsV2Paginator = client.Paginators.ListObjectsV2(new
ListObjectsV2Request
        {
            BucketName = bucketName,
        });

        await foreach (var response in listObjectsV2Paginator.Responses)
        {
            Console.WriteLine($"HttpStatusCode: {response.HttpStatusCode}");
            Console.WriteLine($"Number of Keys: {response.KeyCount}");
            foreach (var entry in response.S3Objects)
            {
                Console.WriteLine($"Key = {entry.Key} Size = {entry.Size}");
            }
        }
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListObjectsV2](#)」を参照してください。

PutBucketAccelerateConfiguration

次のコード例は、PutBucketAccelerateConfiguration を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;

/// <summary>
/// Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) Transfer Acceleration is a
/// bucket-level feature that enables you to perform faster data transfers
/// to Amazon S3. This example shows how to configure Transfer
/// Acceleration.
/// </summary>
public class TransferAcceleration
{
    /// <summary>
    /// The main method initializes the client object and sets the
    /// Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) bucket name before
    /// calling EnableAccelerationAsync.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        var s3Client = new AmazonS3Client();
        const string bucketName = "amzn-s3-demo-bucket";

        await EnableAccelerationAsync(s3Client, bucketName);
    }

    /// <summary>
    /// This method sets the configuration to enable transfer acceleration
    /// for the bucket referred to in the bucketName parameter.
    /// </summary>
    /// <param name="client">An Amazon S3 client used to enable the
```

```
/// acceleration on an Amazon S3 bucket.</param>
/// <param name="bucketName">The name of the Amazon S3 bucket for which the
/// method will be enabling acceleration.</param>
private static async Task EnableAccelerationAsync(AmazonS3Client client,
string bucketName)
{
    try
    {
        var putRequest = new PutBucketAccelerateConfigurationRequest
        {
            BucketName = bucketName,
            AccelerateConfiguration = new AccelerateConfiguration
            {
                Status = BucketAccelerateStatus.Enabled,
            },
        };
        await client.PutBucketAccelerateConfigurationAsync(putRequest);

        var getRequest = new GetBucketAccelerateConfigurationRequest
        {
            BucketName = bucketName,
        };
        var response = await
client.GetBucketAccelerateConfigurationAsync(getRequest);

        Console.WriteLine($"Acceleration state = '{response.Status}' ");
    }
    catch (AmazonS3Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"Error occurred. Message:'{ex.Message}' when
setting transfer acceleration");
    }
}
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[PutBucketAccelerateConfiguration](#)」を参照してください。

PutBucketAc1

次のコード例は、PutBucketAc1 を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Creates an Amazon S3 bucket with an ACL to control access to the
/// bucket and the objects stored in it.
/// </summary>
/// <param name="client">The initialized client object used to create
/// an Amazon S3 bucket, with an ACL applied to the bucket.
/// </param>
/// <param name="region">The AWS Region where the bucket will be created.</
param>
/// <param name="newBucketName">The name of the bucket to create.</param>
/// <returns>A boolean value indicating success or failure.</returns>
public static async Task<bool> CreateBucketUseCannedACLAsync(IAmazonS3
client, S3Region region, string newBucketName)
{
    try
    {
        // Create a new Amazon S3 bucket with Canned ACL.
        var putBucketRequest = new PutBucketRequest()
        {
            BucketName = newBucketName,
            BucketRegion = region,
            CannedACL = S3CannedACL.LogDeliveryWrite,
        };

        PutBucketResponse putBucketResponse = await
client.PutBucketAsync(putBucketRequest);

        return putBucketResponse.HttpStatusCode ==
System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (AmazonS3Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"Amazon S3 error: {ex.Message}");
    }
}
```

```
    }  
  
    return false;  
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[PutBucketAcl](#)」を参照してください。

PutBucketCors

次のコード例は、PutBucketCors を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>  
/// Add CORS configuration to the Amazon S3 bucket.  
/// </summary>  
/// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used  
/// to apply the CORS configuration to an Amazon S3 bucket.</param>  
/// <param name="configuration">The CORS configuration to apply.</param>  
private static async Task PutCORSConfigurationAsync(AmazonS3Client client,  
CORSConfiguration configuration)  
{  
    PutCORSConfigurationRequest request = new PutCORSConfigurationRequest()  
    {  
        BucketName = BucketName,  
        Configuration = configuration,  
    };  
  
    _ = await client.PutCORSConfigurationAsync(request);  
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[PutBucketCors](#)」を参照してください。

PutBucketEncryption

次のコード例は、PutBucketEncryption を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Set the bucket server side encryption to use AWSKMS with a customer-managed
key id.
/// </summary>
/// <param name="bucketName">Name of the bucket.</param>
/// <param name="kmsKeyId">The Id of the KMS Key.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public static async Task<bool> SetBucketServerSideEncryption(string bucketName,
string kmsKeyId)
{
    var serverSideEncryptionByDefault = new ServerSideEncryptionConfiguration
    {
        ServerSideEncryptionRules = new List<ServerSideEncryptionRule>
        {
            new ServerSideEncryptionRule
            {
                ServerSideEncryptionByDefault = new
ServerSideEncryptionByDefault
                {
                    ServerSideEncryptionAlgorithm =
ServerSideEncryptionMethod.AWSKMS,
                    ServerSideEncryptionKeyManagementServiceKeyId = kmsKeyId
                }
            }
        }
    }
}
```

```
    }  
};  
try  
{  
    var encryptionResponse = await _s3Client.PutBucketEncryptionAsync(new  
PutBucketEncryptionRequest  
    {  
        BucketName = bucketName,  
        ServerSideEncryptionConfiguration = serverSideEncryptionByDefault,  
    });  
  
    return encryptionResponse.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;  
}  
catch (AmazonS3Exception ex)  
{  
    Console.WriteLine(ex.ErrorCode == "AccessDenied"  
        ? $"This account does not have permission to set encryption on  
{bucketName}, please try again."  
        : $"Unable to set bucket encryption for bucket {bucketName},  
{ex.Message}");  
}  
return false;  
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[PutBucketEncryption](#)」を参照してください。

PutBucketLifecycleConfiguration

次のコード例は、PutBucketLifecycleConfiguration を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Adds lifecycle configuration information to the S3 bucket named in
/// the bucketName parameter.
/// </summary>
/// <param name="client">The S3 client used to call the
/// PutLifecycleConfigurationAsync method.</param>
/// <param name="bucketName">A string representing the S3 bucket to
/// which configuration information will be added.</param>
/// <param name="configuration">A LifecycleConfiguration object that
/// will be applied to the S3 bucket.</param>
public static async Task AddExampleLifecycleConfigAsync(IAmazonS3 client,
string bucketName, LifecycleConfiguration configuration)
{
    var request = new PutLifecycleConfigurationRequest()
    {
        BucketName = bucketName,
        Configuration = configuration,
    };
    var response = await client.PutLifecycleConfigurationAsync(request);
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[PutBucketLifecycleConfiguration](#)」を参照してください。

PutBucketLogging

次のコード例は、PutBucketLogging を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.IO;
using System.Threading.Tasks;
```

```

using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;
using Microsoft.Extensions.Configuration;

/// <summary>
/// This example shows how to enable logging on an Amazon Simple Storage
/// Service (Amazon S3) bucket. You need to have two Amazon S3 buckets for
/// this example. The first is the bucket for which you wish to enable
/// logging, and the second is the location where you want to store the
/// logs.
/// </summary>
public class ServerAccessLogging
{
    private static IConfiguration _configuration = null!;

    public static async Task Main()
    {
        LoadConfig();

        string bucketName = _configuration["BucketName"];
        string logBucketName = _configuration["LogBucketName"];
        string logObjectKeyPrefix = _configuration["LogObjectKeyPrefix"];
        string accountId = _configuration["AccountId"];

        // If the AWS Region defined for your default user is different
        // from the Region where your Amazon S3 bucket is located,
        // pass the Region name to the Amazon S3 client object's constructor.
        // For example: RegionEndpoint.USWest2 or RegionEndpoint.USEast2.
        IAmazonS3 client = new AmazonS3Client();

        try
        {
            // Update bucket policy for target bucket to allow delivery of logs
            to it.
            await SetBucketPolicyToAllowLogDelivery(
                client,
                bucketName,
                logBucketName,
                logObjectKeyPrefix,
                accountId);

            // Enable logging on the source bucket.
            await EnableLoggingAsync(
                client,

```



```

        bucketName,
        logBucketName,
        logObjectKeyPrefix);
    }
    catch (AmazonS3Exception e)
    {
        Console.WriteLine($"Error: {e.Message}");
    }
}

/// <summary>
/// This method grants appropriate permissions for logging to the
/// Amazon S3 bucket where the logs will be stored.
/// </summary>
/// <param name="client">The initialized Amazon S3 client which will be used
/// to apply the bucket policy.</param>
/// <param name="sourceBucketName">The name of the source bucket.</param>
/// <param name="logBucketName">The name of the bucket where logging
/// information will be stored.</param>
/// <param name="logPrefix">The logging prefix where the logs should be
delivered.</param>
/// <param name="accountId">The account id of the account where the source
bucket exists.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public static async Task SetBucketPolicyToAllowLogDelivery(
    IAmazonS3 client,
    string sourceBucketName,
    string logBucketName,
    string logPrefix,
    string accountId)
{
    var resourceArn = @""arn:aws:s3:::" + logBucketName + "/" + logPrefix +
@"*""";

    var newPolicy = @"{
        ""Statement"": [{
            ""Sid"": ""S3ServerAccessLogsPolicy"",
            ""Effect"": ""Allow"",
            ""Principal"": { ""Service"":
""logging.s3.amazonaws.com"" },
            ""Action"": [""s3:PutObject""],
            ""Resource"": ["" + resourceArn + @""],
            ""Condition"": {

```

```

        ""ArnLike"": { ""aws:SourceArn"": ""arn:aws:s3:::" +
sourceBucketName + @"""" },
        ""StringEquals"": { ""aws:SourceAccount"": """" +
accountId + @"""" }
    }
}]]
}";

    Console.WriteLine($"The policy to apply to bucket {logBucketName} to
enable logging.");
    Console.WriteLine(newPolicy);

    PutBucketPolicyRequest putRequest = new PutBucketPolicyRequest
    {
        BucketName = logBucketName,
        Policy = newPolicy,
    };
    await client.PutBucketPolicyAsync(putRequest);
    Console.WriteLine("Policy applied.");
}

/// <summary>
/// This method enables logging for an Amazon S3 bucket. Logs will be stored
/// in the bucket you selected for logging. Selected prefix
/// will be prepended to each log object.
/// </summary>
/// <param name="client">The initialized Amazon S3 client which will be used
/// to configure and apply logging to the selected Amazon S3 bucket.</param>
/// <param name="bucketName">The name of the Amazon S3 bucket for which you
/// wish to enable logging.</param>
/// <param name="logBucketName">The name of the Amazon S3 bucket where
logging
/// information will be stored.</param>
/// <param name="logObjectKeyPrefix">The prefix to prepend to each
/// object key.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public static async Task EnableLoggingAsync(
    IAmazonS3 client,
    string bucketName,
    string logBucketName,
    string logObjectKeyPrefix)
{
    Console.WriteLine($"Enabling logging for bucket {bucketName}.");
    var loggingConfig = new S3BucketLoggingConfig
    {

```

```
        TargetBucketName = logBucketName,
        TargetPrefix = logObjectKeyPrefix,
    };

    var putBucketLoggingRequest = new PutBucketLoggingRequest
    {
        BucketName = bucketName,
        LoggingConfig = loggingConfig,
    };
    await client.PutBucketLoggingAsync(putBucketLoggingRequest);
    Console.WriteLine($"Logging enabled.");
}

/// <summary>
/// Loads configuration from settings files.
/// </summary>
public static void LoadConfig()
{
    _configuration = new ConfigurationBuilder()
        .SetBasePath(Directory.GetCurrentDirectory())
        .AddJsonFile("settings.json") // Load settings from .json file.
        .AddJsonFile("settings.local.json", true) // Optionally, load local
settings.
        .Build();
}
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[PutBucketLogging](#)」を参照してください。

PutBucketNotificationConfiguration

次のコード例は、PutBucketNotificationConfiguration を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;

/// <summary>
/// This example shows how to enable notifications for an Amazon Simple
/// Storage Service (Amazon S3) bucket.
/// </summary>
public class EnableNotifications
{
    public static async Task Main()
    {
        const string bucketName = "amzn-s3-demo-bucket1";
        const string snsTopic = "arn:aws:sns:us-east-2:0123456789ab:bucket-
notify";
        const string sqsQueue = "arn:aws:sqs:us-
east-2:0123456789ab:Example_Queue";

        IAmazonS3 client = new AmazonS3Client(Amazon.RegionEndpoint.USEast2);
        await EnableNotificationAsync(client, bucketName, snsTopic, sqsQueue);
    }

    /// <summary>
    /// This method makes the call to the PutBucketNotificationAsync method.
    /// </summary>
    /// <param name="client">An initialized Amazon S3 client used to call
    /// the PutBucketNotificationAsync method.</param>
    /// <param name="bucketName">The name of the bucket for which
    /// notifications will be turned on.</param>
    /// <param name="snsTopic">The ARN for the Amazon Simple Notification
    /// Service (Amazon SNS) topic associated with the S3 bucket.</param>
    /// <param name="sqsQueue">The ARN of the Amazon Simple Queue Service
```

```

    /// (Amazon SQS) queue to which notifications will be pushed.</param>
    public static async Task EnableNotificationAsync(
        IAmazonS3 client,
        string bucketName,
        string snsTopic,
        string sqsQueue)
    {
        try
        {
            // The bucket for which we are setting up notifications.
            var request = new PutBucketNotificationRequest()
            {
                BucketName = bucketName,
            };

            // Defines the topic to use when sending a notification.
            var topicConfig = new TopicConfiguration()
            {
                Events = new List<EventType> { EventType.ObjectCreatedCopy },
                Topic = snsTopic,
            };
            request.TopicConfigurations = new List<TopicConfiguration>
            {
                topicConfig,
            };
            request.QueueConfigurations = new List<QueueConfiguration>
            {
                new QueueConfiguration()
                {
                    Events = new List<EventType> { EventType.ObjectCreatedPut },
                    Queue = sqsQueue,
                },
            };

            // Now apply the notification settings to the bucket.
            PutBucketNotificationResponse response = await
client.PutBucketNotificationAsync(request);
        }
        catch (AmazonS3Exception ex)
        {
            Console.WriteLine($"Error: {ex.Message}");
        }
    }
}

```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[PutBucketNotificationConfiguration](#)」を参照してください。

PutBucketWebsite

次のコード例は、PutBucketWebsite を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
// Put the website configuration.
PutBucketWebsiteRequest putRequest = new PutBucketWebsiteRequest()
{
    BucketName = bucketName,
    WebsiteConfiguration = new WebsiteConfiguration()
    {
        IndexDocumentSuffix = indexDocumentSuffix,
        ErrorDocument = errorDocument,
    },
};
PutBucketWebsiteResponse response = await
client.PutBucketWebsiteAsync(putRequest);
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「PutBucketWebsite」を参照してください。<https://docs.aws.amazon.com/goto/DotNetSDKV3/s3-2006-03-01/PutBucketWebsite>

PutObject

次のコード例は、PutObject を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

サーバー側の暗号化を使用してオブジェクトをアップロードします。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;

/// <summary>
/// This example shows how to upload an object to an Amazon Simple Storage
/// Service (Amazon S3) bucket with server-side encryption enabled.
/// </summary>
public class ServerSideEncryption
{
    public static async Task Main()
    {
        string bucketName = "amzn-s3-demo-bucket";
        string keyName = "samplefile.txt";

        // If the AWS Region defined for your default user is different
        // from the Region where your Amazon S3 bucket is located,
        // pass the Region name to the Amazon S3 client object's constructor.
        // For example: RegionEndpoint.USWest2.
        IAmazonS3 client = new AmazonS3Client();

        await WritingAnObjectAsync(client, bucketName, keyName);
    }

    /// <summary>
    /// Upload a sample object include a setting for encryption.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used to
    /// to upload a file and apply server-side encryption.</param>
    /// <param name="bucketName">The name of the Amazon S3 bucket where the
    /// encrypted object will reside.</param>
    /// <param name="keyName">The name for the object that you want to
```

```

    /// create in the supplied bucket.</param>
    public static async Task WritingAnObjectAsync(IAmazonS3 client, string
bucketName, string keyName)
    {
        try
        {
            var putRequest = new PutObjectRequest
            {
                BucketName = bucketName,
                Key = keyName,
                ContentBody = "sample text",
                ServerSideEncryptionMethod = ServerSideEncryptionMethod.AES256,
            };

            var putResponse = await client.PutObjectAsync(putRequest);

            // Determine the encryption state of an object.
            GetObjectMetadataRequest metadataRequest = new
GetObjectMetadataRequest
            {
                BucketName = bucketName,
                Key = keyName,
            };
            GetObjectMetadataResponse response = await
client.GetObjectMetadataAsync(metadataRequest);
            ServerSideEncryptionMethod objectEncryption =
response.ServerSideEncryptionMethod;

            Console.WriteLine($"Encryption method used: {0}",
objectEncryption.ToString());
        }
        catch (AmazonS3Exception ex)
        {
            Console.WriteLine($"Error: '{ex.Message}' when writing an object");
        }
    }
}

```

条件付きリクエストを使用してオブジェクトを配置します。

```
/// <summary>
```



```

    /// Uploads an object to Amazon S3 with a conditional request. Prevents
    /// overwrite using an IfNoneMatch condition for the object key.
    /// </summary>
    /// <param name="objectKey">The key of the object to upload.</param>
    /// <param name="bucket">The source bucket of the object.</param>
    /// <param name="content">The content to upload as a string.</param>
    /// <returns>The ETag if the conditional write is successful, empty otherwise.</
returns>
    public async Task<string> PutObjectConditional(string objectKey, string bucket,
string content)
    {
        try
        {
            var putObjectRequest = new PutObjectRequest
            {
                BucketName = bucket,
                Key = objectKey,
                ContentBody = content,
                IfNoneMatch = "*"
            };

            var putResult = await _amazonS3.PutObjectAsync(putObjectRequest);
            _logger.LogInformation($"Conditional write successful for key
{objectKey} in bucket {bucket}.");
            return putResult.ETag;
        }
        catch (AmazonS3Exception e)
        {
            if (e.ErrorCode == "PreconditionFailed")
            {
                _logger.LogError("Conditional write failed: Precondition failed");
            }
            else
            {
                _logger.LogError($"Unexpected error: {e.ErrorCode}");
                throw;
            }
            return string.Empty;
        }
    }
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[PutObject](#)」を参照してください。

PutObjectLegalHold

次のコード例は、PutObjectLegalHold を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Set or modify a legal hold on an object in an S3 bucket.
/// </summary>
/// <param name="bucketName">The bucket of the object.</param>
/// <param name="objectKey">The key of the object.</param>
/// <param name="holdStatus">The On or Off status for the legal hold.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> ModifyObjectLegalHold(string bucketName,
    string objectKey, ObjectLockLegalHoldStatus holdStatus)
{
    try
    {
        var request = new PutObjectLegalHoldRequest()
        {
            BucketName = bucketName,
            Key = objectKey,
            LegalHold = new ObjectLockLegalHold()
            {
                Status = holdStatus
            }
        };

        var response = await _amazonS3.PutObjectLegalHoldAsync(request);
        Console.WriteLine($"{objectKey} Modified legal hold for {objectKey} in {bucketName}.");
        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }
}
```

```
        catch (AmazonS3Exception ex)
        {
            Console.WriteLine($"\\tError modifying legal hold: '{ex.Message}'");
            return false;
        }
    }
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[PutObjectLegalHold](#)」を参照してください。

PutObjectLockConfiguration

次のコード例は、PutObjectLockConfiguration を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

バケットのオブジェクトロック設定を指定します。

```
/// <summary>
/// Enable object lock on an existing bucket.
/// </summary>
/// <param name="bucketName">The name of the bucket to modify.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> EnableObjectLockOnBucket(string bucketName)
{
    try
    {
        // First, enable Versioning on the bucket.
        await _amazonS3.PutBucketVersioningAsync(new
PutBucketVersioningRequest()
        {
            BucketName = bucketName,
            VersioningConfig = new S3BucketVersioningConfig()
            {
                EnableMfaDelete = false,
```

```

        Status = VersionStatus.Enabled
    }
});

var request = new PutObjectLockConfigurationRequest()
{
    BucketName = bucketName,
    ObjectLockConfiguration = new ObjectLockConfiguration()
    {
        ObjectLockEnabled = new ObjectLockEnabled("Enabled"),
    },
};

var response = await _amazonS3.PutObjectLockConfigurationAsync(request);
Console.WriteLine($"{bucketName}\tAdded an object lock policy to bucket
{bucketName}.");
return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}
catch (AmazonS3Exception ex)
{
    Console.WriteLine($"Error modifying object lock: '{ex.Message}'");
    return false;
}
}

```

バケットのデフォルトの保存期間を設定します。

```

/// <summary>
/// Set or modify a retention period on an S3 bucket.
/// </summary>
/// <param name="bucketName">The bucket to modify.</param>
/// <param name="retention">The retention mode.</param>
/// <param name="retainUntilDate">The date for retention until.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> ModifyBucketDefaultRetention(string bucketName, bool
enableObjectLock, ObjectLockRetentionMode retention, DateTime retainUntilDate)
{
    var enabledString = enableObjectLock ? "Enabled" : "Disabled";
    var timeDifference = retainUntilDate.Subtract(DateTime.Now);
    try
    {
        // First, enable Versioning on the bucket.
    }
}

```

```

        await _amazonS3.PutBucketVersioningAsync(new
PutBucketVersioningRequest()
    {
        BucketName = bucketName,
        VersioningConfig = new S3BucketVersioningConfig()
        {
            EnableMfaDelete = false,
            Status = VersionStatus.Enabled
        }
    });

var request = new PutObjectLockConfigurationRequest()
{
    BucketName = bucketName,
    ObjectLockConfiguration = new ObjectLockConfiguration()
    {
        ObjectLockEnabled = new ObjectLockEnabled(enabledString),
        Rule = new ObjectLockRule()
        {
            DefaultRetention = new DefaultRetention()
            {
                Mode = retention,
                Days = timeDifference.Days // Can be specified in days
or years but not both.
            }
        }
    }
};

var response = await _amazonS3.PutObjectLockConfigurationAsync(request);
Console.WriteLine($"\\tAdded a default retention to bucket
{bucketName}.");
return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}
catch (AmazonS3Exception ex)
{
    Console.WriteLine($"\\tError modifying object lock: '{ex.Message}'");
    return false;
}
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[PutObjectLockConfiguration](#)」を参照してください。

PutObjectRetention

次のコード例は、PutObjectRetention を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Set or modify a retention period on an object in an S3 bucket.
/// </summary>
/// <param name="bucketName">The bucket of the object.</param>
/// <param name="objectKey">The key of the object.</param>
/// <param name="retention">The retention mode.</param>
/// <param name="retainUntilDate">The date retention expires.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> ModifyObjectRetentionPeriod(string bucketName,
    string objectKey, ObjectLockRetentionMode retention, DateTime
retainUntilDate)
{
    try
    {
        var request = new PutObjectRetentionRequest()
        {
            BucketName = bucketName,
            Key = objectKey,
            Retention = new ObjectLockRetention()
            {
                Mode = retention,
                RetainUntilDate = retainUntilDate
            }
        };

        var response = await _amazonS3.PutObjectRetentionAsync(request);
```

```

        Console.WriteLine($"\\tSet retention for {objectKey} in {bucketName}
until {retainUntilDate:d}.");
        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (AmazonS3Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"\\tError modifying retention period:
'{ex.Message}'");
        return false;
    }
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[PutObjectRetention](#)」を参照してください。

RestoreObject

次のコード例は、RestoreObject を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;

/// <summary>
/// This example shows how to restore an archived object in an Amazon
/// Simple Storage Service (Amazon S3) bucket.
/// </summary>
public class RestoreArchivedObject
{
    public static void Main()

```

```

    {
        string bucketName = "amzn-s3-demo-bucket";
        string objectKey = "archived-object.txt";

        // Specify your bucket region (an example region is shown).
        RegionEndpoint bucketRegion = RegionEndpoint.USSouth1;

        IAmazonS3 client = new AmazonS3Client(bucketRegion);
        RestoreObjectAsync(client, bucketName, objectKey).Wait();
    }

    /// <summary>
    /// This method restores an archived object from an Amazon S3 bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used to
call
    /// RestoreObjectAsync.</param>
    /// <param name="bucketName">A string representing the name of the
    /// bucket where the object was located before it was archived.</param>
    /// <param name="objectKey">A string representing the name of the
    /// archived object to restore.</param>
    public static async Task RestoreObjectAsync(IAmazonS3 client, string
bucketName, string objectKey)
    {
        try
        {
            var restoreRequest = new RestoreObjectRequest
            {
                BucketName = bucketName,
                Key = objectKey,
                Days = 2,
            };
            RestoreObjectResponse response = await
client.RestoreObjectAsync(restoreRequest);

            // Check the status of the restoration.
            await CheckRestorationStatusAsync(client, bucketName, objectKey);
        }
        catch (AmazonS3Exception amazonS3Exception)
        {
            Console.WriteLine($"Error: {amazonS3Exception.Message}");
        }
    }
}

```



```
    /// <summary>
    /// This method retrieves the status of the object's restoration.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used to
call
    /// GetObjectMetadataAsync.</param>
    /// <param name="bucketName">A string representing the name of the Amazon
    /// S3 bucket which contains the archived object.</param>
    /// <param name="objectKey">A string representing the name of the
    /// archived object you want to restore.</param>
    public static async Task CheckRestorationStatusAsync(IAmazonS3 client,
string bucketName, string objectKey)
    {
        GetObjectMetadataRequest metadataRequest = new
GetObjectMetadataRequest()
        {
            BucketName = bucketName,
            Key = objectKey,
        };

        GetObjectMetadataResponse response = await
client.GetObjectMetadataAsync(metadataRequest);

        var restStatus = response.RestoreInProgress ? "in-progress" : "finished
or failed";
        Console.WriteLine($"Restoration status: {restStatus}");
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[RestoreObject](#)」を参照してください。

シナリオ

署名付き URL を作成する

次のコード例は、Amazon S3 の署名付き URL を作成し、オブジェクトをアップロードする方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

Amazon S3 アクションを期間限定で実行できる署名付き URL を生成します。

```
using System;
using Amazon;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;

public class GenPresignedUrl
{
    public static void Main()
    {
        const string bucketName = "amzn-s3-demo-bucket";
        const string objectKey = "sample.txt";

        // Specify how long the presigned URL lasts, in hours
        const double timeoutDuration = 12;

        // Specify the AWS Region of your Amazon S3 bucket. If it is
        // different from the Region defined for the default user,
        // pass the Region to the constructor for the client. For
        // example: new AmazonS3Client(RegionEndpoint.USEast1);

        // If using the Region us-east-1, and server-side encryption with AWS
        // KMS, you must specify Signature Version 4.
        // Region us-east-1 defaults to Signature Version 2 unless explicitly
        // set to Version 4 as shown below.
        // For more details, see https://docs.aws.amazon.com/AmazonS3/latest/
        // userguide/UsingAWSSDK.html#specify-signature-version
        // and https://docs.aws.amazon.com/sdkfornet/v3/apidocs/items/Amazon/
        // TAWSConfigsS3.html
        AWSConfigsS3.UseSignatureVersion4 = true;
        IAmazonS3 s3Client = new AmazonS3Client(RegionEndpoint.USEast1);

        string urlString = GeneratePresignedURL(s3Client, bucketName, objectKey,
        timeoutDuration);
    }
}
```

```
        Console.WriteLine($"The generated URL is: {urlString}.");
    }

    /// <summary>
    /// Generate a presigned URL that can be used to access the file named
    /// in the objectKey parameter for the amount of time specified in the
    /// duration parameter.
    /// </summary>
    /// <param name="client">An initialized S3 client object used to call
    /// the GetPresignedUrl method.</param>
    /// <param name="bucketName">The name of the S3 bucket containing the
    /// object for which to create the presigned URL.</param>
    /// <param name="objectKey">The name of the object to access with the
    /// presigned URL.</param>
    /// <param name="duration">The length of time for which the presigned
    /// URL will be valid.</param>
    /// <returns>A string representing the generated presigned URL.</returns>
    public static string GeneratePresignedURL(IAmazonS3 client, string
bucketName, string objectKey, double duration)
    {
        string urlString = string.Empty;
        try
        {
            var request = new GetPreSignedUrlRequest()
            {
                BucketName = bucketName,
                Key = objectKey,
                Expires = DateTime.UtcNow.AddHours(duration),
            };
            urlString = client.GetPreSignedURL(request);
        }
        catch (AmazonS3Exception ex)
        {
            Console.WriteLine($"Error: '{ex.Message}'");
        }

        return urlString;
    }
}
```

署名済み URL を生成し、その URL を使用してアップロードを実行します。

```
using System;
using System.IO;
using System.Net.Http;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;

/// <summary>
/// This example shows how to upload an object to an Amazon Simple Storage
/// Service (Amazon S3) bucket using a presigned URL. The code first
/// creates a presigned URL and then uses it to upload an object to an
/// Amazon S3 bucket using that URL.
/// </summary>
public class UploadUsingPresignedURL
{
    private static HttpClient httpClient = new HttpClient();

    public static async Task Main()
    {
        string bucketName = "amzn-s3-demo-bucket";
        string keyName = "samplefile.txt";
        string filePath = $"source\\{keyName}";

        // Specify how long the signed URL will be valid in hours.
        double timeoutDuration = 12;

        // Specify the AWS Region of your Amazon S3 bucket. If it is
        // different from the Region defined for the default user,
        // pass the Region to the constructor for the client. For
        // example: new AmazonS3Client(RegionEndpoint.USEast1);

        // If using the Region us-east-1, and server-side encryption with AWS
        KMS, you must specify Signature Version 4.
        // Region us-east-1 defaults to Signature Version 2 unless explicitly
        set to Version 4 as shown below.
        // For more details, see https://docs.aws.amazon.com/AmazonS3/latest/userguide/UsingAWSSDK.html#specify-signature-version
        // and https://docs.aws.amazon.com/sdkfornet/v3/apidocs/items/Amazon/TAWSConfigsS3.html
        AWSConfigsS3.UseSignatureVersion4 = true;
        IAmazonS3 client = new AmazonS3Client(RegionEndpoint.USEast1);
```

```

        var url = GeneratePreSignedURL(client, bucketName, keyName,
timeoutDuration);
        var success = await UploadObject(filePath, url);

        if (success)
        {
            Console.WriteLine("Upload succeeded.");
        }
        else
        {
            Console.WriteLine("Upload failed.");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Uploads an object to an Amazon S3 bucket using the presigned URL passed
in
    /// the url parameter.
    /// </summary>
    /// <param name="filePath">The path (including file name) to the local
    /// file you want to upload.</param>
    /// <param name="url">The presigned URL that will be used to upload the
    /// file to the Amazon S3 bucket.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success or failure of the
    /// operation, based on the HttpResponseMessage.</returns>
    public static async Task<bool> UploadObject(string filePath, string url)
    {
        using var streamContent = new StreamContent(
            new FileStream(filePath, FileMode.Open, FileAccess.Read));

        var response = await httpClient.PutAsync(url, streamContent);
        return response.IsSuccessStatusCode;
    }

    /// <summary>
    /// Generates a presigned URL which will be used to upload an object to
    /// an Amazon S3 bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used to
call
    /// GetPreSignedURL.</param>
    /// <param name="bucketName">The name of the Amazon S3 bucket to which the
    /// presigned URL will point.</param>

```

```
param>    /// <param name="objectKey">The name of the file that will be uploaded.</  
    /// <param name="duration">How long (in hours) the presigned URL will  
    /// be valid.</param>  
    /// <returns>The generated URL.</returns>  
    public static string GeneratePreSignedURL(  
        IAmazonS3 client,  
        string bucketName,  
        string objectKey,  
        double duration)  
    {  
        var request = new GetPreSignedUrlRequest  
        {  
            BucketName = bucketName,  
            Key = objectKey,  
            Verb = HttpVerb.PUT,  
            Expires = DateTime.UtcNow.AddHours(duration),  
        };  
  
        string url = client.GetPreSignedURL(request);  
        return url;  
    }  
}
```

サーバーレスアプリケーションを作成して写真を管理する

次のコード例では、ユーザーがラベルを使用して写真を管理できるサーバーレスアプリケーションを作成する方法について示しています。

SDK for .NET

Amazon Rekognition を使用して画像内のラベルを検出し、保存して後で取得できるようにする写真アセット管理アプリケーションの開発方法を示します。

完全なソースコードと設定および実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例のソースについて詳しくは、[AWS コミュニティ](#)でブログ投稿を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda
- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SNS

画像内のオブジェクトを検出する

次のコード例は、Amazon Rekognition を使用して画像内でカテゴリ別にオブジェクトを検出するアプリケーションを構築する方法を示しています。

SDK for .NET

Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットにあるイメージ内から、Amazon Rekognition を使用してカテゴリ別にオブジェクトを識別するアプリケーションを、Amazon Rekognition .NET API を使用して作成する方法を示します。アプリケーションは、Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用して、結果を記載した E メール通知を管理者に送信します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SES

暗号化の開始方法

次のコード例は、Amazon S3 オブジェクトの暗号化を開始する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.IO;
using System.Security.Cryptography;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;

/// <summary>
/// This example shows how to apply client encryption to an object in an
/// Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) bucket.
/// </summary>
public class SSEClientEncryption
{
    public static async Task Main()
    {
        string bucketName = "amzn-s3-demo-bucket";
        string keyName = "exampleobject.txt";
        string copyTargetKeyName = "examplecopy.txt";

        // If the AWS Region defined for your default user is different
        // from the Region where your Amazon S3 bucket is located,
        // pass the Region name to the Amazon S3 client object's constructor.
        // For example: RegionEndpoint.USWest2.
        IAmazonS3 client = new AmazonS3Client();

        try
        {
            // Create an encryption key.
            Aes aesEncryption = Aes.Create();
            aesEncryption.KeySize = 256;
            aesEncryption.GenerateKey();
            string base64Key = Convert.ToBase64String(aesEncryption.Key);

            // Upload the object.
```



```

        PutObjectRequest putObjectRequest = await UploadObjectAsync(client,
bucketName, keyName, base64Key);

        // Download the object and verify that its contents match what you
uploaded.
        await DownloadObjectAsync(client, bucketName, keyName, base64Key,
putObjectRequest);

        // Get object metadata and verify that the object uses AES-256
encryption.
        await GetObjectMetadataAsync(client, bucketName, keyName,
base64Key);

        // Copy both the source and target objects using server-side
encryption with
        // an encryption key.
        await CopyObjectAsync(client, bucketName, keyName,
copyTargetKeyName, aesEncryption, base64Key);
    }
    catch (AmazonS3Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"Error: {ex.Message}");
    }
}

/// <summary>
/// Uploads an object to an Amazon S3 bucket.
/// </summary>
/// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used to
call
/// PutObjectAsync.</param>
/// <param name="bucketName">The name of the Amazon S3 bucket to which the
/// object will be uploaded.</param>
/// <param name="keyName">The name of the object to upload to the Amazon S3
/// bucket.</param>
/// <param name="base64Key">The encryption key.</param>
/// <returns>The PutObjectRequest object for use by DownloadObjectAsync.</
returns>
public static async Task<PutObjectRequest> UploadObjectAsync(
    IAmazonS3 client,
    string bucketName,
    string keyName,
    string base64Key)
{

```

```

        PutObjectRequest putObjectRequest = new PutObjectRequest
        {
            BucketName = bucketName,
            Key = keyName,
            ContentBody = "sample text",
            ServerSideEncryptionCustomerMethod =
ServerSideEncryptionCustomerMethod.AES256,
            ServerSideEncryptionCustomerProvidedKey = base64Key,
        };
        PutObjectResponse putObjectResponse = await
client.PutObjectAsync(putObjectRequest);
        return putObjectRequest;
    }

    /// <summary>
    /// Downloads an encrypted object from an Amazon S3 bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used to
call
    /// GetObjectAsync.</param>
    /// <param name="bucketName">The name of the Amazon S3 bucket where the
object
    /// is located.</param>
    /// <param name="keyName">The name of the Amazon S3 object to download.</
param>
    /// <param name="base64Key">The encryption key used to encrypt the
    /// object.</param>
    /// <param name="putObjectRequest">The PutObjectRequest used to upload
    /// the object.</param>
    public static async Task DownloadObjectAsync(
        IAmazonS3 client,
        string bucketName,
        string keyName,
        string base64Key,
        PutObjectRequest putObjectRequest)
    {
        GetObjectRequest getObjectRequest = new GetObjectRequest
        {
            BucketName = bucketName,
            Key = keyName,

            // Provide encryption information for the object stored in Amazon
S3.

```

```

        ServerSideEncryptionCustomerMethod =
ServerSideEncryptionCustomerMethod.AES256,
        ServerSideEncryptionCustomerProvidedKey = base64Key,
    };

    using (GetObjectResponse getResponse = await
client.GetObjectAsync(getObjectRequest))
        using (StreamReader reader = new
StreamReader(getResponse.ResponseStream))
        {
            string content = reader.ReadToEnd();
            if (string.Compare(putObjectRequest.ContentBody, content) == 0)
            {
                Console.WriteLine("Object content is same as we uploaded");
            }
            else
            {
                Console.WriteLine("Error...Object content is not same.");
            }

            if (getResponse.ServerSideEncryptionCustomerMethod ==
ServerSideEncryptionCustomerMethod.AES256)
            {
                Console.WriteLine("Object encryption method is AES256, same as
we set");
            }
            else
            {
                Console.WriteLine("Error...Object encryption method is not the
same as AES256 we set");
            }
        }
    }

    /// <summary>
    /// Retrieves the metadata associated with an Amazon S3 object.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used
    /// to call GetObjectMetadataAsync.</param>
    /// <param name="bucketName">The name of the Amazon S3 bucket containing the
    /// object for which we want to retrieve metadata.</param>
    /// <param name="keyName">The name of the object for which we wish to
    /// retrieve the metadata.</param>
    /// <param name="base64Key">The encryption key associated with the

```

```

    /// object.</param>
    public static async Task GetObjectMetadataAsync(
        IAmazonS3 client,
        string bucketName,
        string keyName,
        string base64Key)
    {
        GetObjectMetadataRequest getObjectMetadataRequest = new
GetObjectMetadataRequest
        {
            BucketName = bucketName,
            Key = keyName,

            // The object stored in Amazon S3 is encrypted, so provide the
necessary encryption information.
            ServerSideEncryptionCustomerMethod =
ServerSideEncryptionCustomerMethod.AES256,
            ServerSideEncryptionCustomerProvidedKey = base64Key,
        };

        GetObjectMetadataResponse getObjectMetadataResponse = await
client.GetObjectMetadataAsync(getObjectMetadataRequest);
        Console.WriteLine("The object metadata show encryption method used is:
{0}", getObjectMetadataResponse.ServerSideEncryptionCustomerMethod);
    }

    /// <summary>
    /// Copies an encrypted object from one Amazon S3 bucket to another.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used to
call
    /// CopyObjectAsync.</param>
    /// <param name="bucketName">The Amazon S3 bucket containing the object
    /// to copy.</param>
    /// <param name="keyName">The name of the object to copy.</param>
    /// <param name="copyTargetKeyName">The Amazon S3 bucket to which the object
    /// will be copied.</param>
    /// <param name="aesEncryption">The encryption type to use.</param>
    /// <param name="base64Key">The encryption key to use.</param>
    public static async Task CopyObjectAsync(
        IAmazonS3 client,
        string bucketName,
        string keyName,
        string copyTargetKeyName,

```

```
Aes aesEncryption,
string base64Key)
{
    aesEncryption.GenerateKey();
    string copyBase64Key = Convert.ToBase64String(aesEncryption.Key);

    CopyObjectRequest copyRequest = new CopyObjectRequest
    {
        SourceBucket = bucketName,
        SourceKey = keyName,
        DestinationBucket = bucketName,
        DestinationKey = copyTargetKeyName,

        // Information about the source object's encryption.
        CopySourceServerSideEncryptionCustomerMethod =
ServerSideEncryptionCustomerMethod.AES256,
        CopySourceServerSideEncryptionCustomerProvidedKey = base64Key,

        // Information about the target object's encryption.
        ServerSideEncryptionCustomerMethod =
ServerSideEncryptionCustomerMethod.AES256,
        ServerSideEncryptionCustomerProvidedKey = copyBase64Key,
    };
    await client.CopyObjectAsync(copyRequest);
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。

- [CopyObject](#)
- [GetObject](#)
- [GetObjectMetadata](#)

タグの使用開始

次のコード例は、Amazon S3 オブジェクトのタグの使用を開始する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;

/// <summary>
/// This example shows how to work with tags in Amazon Simple Storage
/// Service (Amazon S3) objects.
/// </summary>
public class ObjectTag
{
    public static async Task Main()
    {
        string bucketName = "amzn-s3-demo-bucket";
        string keyName = "newobject.txt";
        string filePath = @"*** file path ***";

        // Specify your bucket region (an example region is shown).
        RegionEndpoint bucketRegion = RegionEndpoint.USSouth1;

        var client = new AmazonS3Client(bucketRegion);
        await PutObjectsWithTagsAsync(client, bucketName, keyName, filePath);
    }

    /// <summary>
    /// This method uploads an object with tags. It then shows the tag
    /// values, changes the tags, and shows the new tags.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The Initialized Amazon S3 client object used
    /// to call the methods to create and change an objects tags.</param>
    /// <param name="bucketName">A string representing the name of the
    /// bucket where the object will be stored.</param>
```

```

    /// <param name="keyName">A string representing the key name of the
    /// object to be tagged.</param>
    /// <param name="filePath">The directory location and file name of the
    /// object to be uploaded to the Amazon S3 bucket.</param>
    public static async Task PutObjectsWithTagsAsync(IAmazonS3 client, string
bucketName, string keyName, string filePath)
    {
        try
        {
            // Create an object with tags.
            var putRequest = new PutObjectRequest
            {
                BucketName = bucketName,
                Key = keyName,
                FilePath = filePath,
                TagSet = new List<Tag>
                {
                    new Tag { Key = "Keyx1", Value = "Value1" },
                    new Tag { Key = "Keyx2", Value = "Value2" },
                },
            };

            PutObjectResponse response = await
client.PutObjectAsync(putRequest);

            // Now retrieve the new object's tags.
            GetObjectTaggingRequest getTagsRequest = new
GetObjectTaggingRequest()
            {
                BucketName = bucketName,
                Key = keyName,
            };

            GetObjectTaggingResponse objectTags = await
client.GetObjectTaggingAsync(getTagsRequest);

            // Display the tag values.
            objectTags.Tagging
                .ForEach(t => Console.WriteLine($"Key: {t.Key}, Value:
{t.Value}"));

            Tagging newTagSet = new Tagging()
            {
                TagSet = new List<Tag>

```

```

        {
            new Tag { Key = "Key3", Value = "Value3" },
            new Tag { Key = "Key4", Value = "Value4" },
        },
    };

    PutObjectTaggingRequest putObjTagsRequest = new
PutObjectTaggingRequest()
    {
        BucketName = bucketName,
        Key = keyName,
        Tagging = newTagSet,
    };

    PutObjectTaggingResponse response2 = await
client.PutObjectTaggingAsync(putObjTagsRequest);

    // Retrieve the tags again and show the values.
    GetObjectTaggingRequest getTagsRequest2 = new
GetObjectTaggingRequest()
    {
        BucketName = bucketName,
        Key = keyName,
    };
    GetObjectTaggingResponse objectTags2 = await
client.GetObjectTaggingAsync(getTagsRequest2);

    objectTags2.Tagging
        .ForEach(t => Console.WriteLine($"Key: {t.Key}, Value:
{t.Value}"));
    }
    catch (AmazonS3Exception ex)
    {
        Console.WriteLine(
            $"Error: '{ex.Message}'");
    }
}
}

```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[GetObjectTagging](#)」を参照してください。

Amazon S3 オブジェクトをロックする

次のコード例は、S3 オブジェクトロック機能を実操作する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

Amazon S3 オブジェクトロック機能を示すインタラクティブなシナリオを実行します。

```
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;
using Microsoft.Extensions.Configuration;
using Microsoft.Extensions.DependencyInjection;
using Microsoft.Extensions.Hosting;
using Microsoft.Extensions.Logging;
using Microsoft.Extensions.Logging.Console;
using Microsoft.Extensions.Logging.Debug;

namespace S3ObjectLockScenario;

public static class S3ObjectLockWorkflow
{
    /*
        Before running this .NET code example, set up your development environment,
        including your credentials.

        This .NET example performs the following tasks:
        1. Create test Amazon Simple Storage Service (S3) buckets with different
        lock policies.
        2. Upload sample objects to each bucket.
        3. Set some Legal Hold and Retention Periods on objects and buckets.
        4. Investigate lock policies by viewing settings or attempting to delete or
        overwrite objects.
        5. Clean up objects and buckets.
    */

    public static S3ActionsWrapper _s3ActionsWrapper = null!;
```

```

public static IConfiguration _configuration = null!;
private static string _resourcePrefix = null!;
private static string noLockBucketName = null!;
private static string lockEnabledBucketName = null!;
private static string retentionAfterCreationBucketName = null!;
private static List<string> bucketNames = new List<string>();
private static List<string> fileNames = new List<string>();

public static async Task Main(string[] args)
{
    // Set up dependency injection for the Amazon service.
    using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
        .ConfigureLogging(logging =>
            logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
                .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
LogLevel.Information)
                .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
        .ConfigureServices((_, services) =>
            services.AddAWSService<IAmazonS3>()
                .AddTransient<S3ActionsWrapper>()
        )
        .Build();

    _configuration = new ConfigurationBuilder()
        .SetBasePath(Directory.GetCurrentDirectory())
        .AddJsonFile("settings.json") // Load settings from .json file.
        .AddJsonFile("settings.local.json",
            true) // Optionally, load local settings.
        .Build();

    ConfigurationSetup();

    ServicesSetup(host);

    try
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Welcome to the Amazon Simple Storage Service (S3)
Object Locking Feature Scenario.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        await Setup(true);

        await DemoActionChoices();
    }
}

```

```

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Cleaning up resources.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        await Cleanup(true);

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Amazon S3 Object Locking Scenario is complete.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"There was a problem: {ex.Message}");
        await Cleanup(true);
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
}

/// <summary>
/// Populate the services for use within the console application.
/// </summary>
/// <param name="host">The services host.</param>
private static void ServicesSetup(IHost host)
{
    _s3ActionsWrapper = host.Services.GetRequiredService<S3ActionsWrapper>();
}

/// <summary>
/// Any setup operations needed.
/// </summary>
public static void ConfigurationSetup()
{
    _resourcePrefix = _configuration["resourcePrefix"] ?? "dotnet-example";

    noLockBucketName = _resourcePrefix + "-no-lock";
    lockEnabledBucketName = _resourcePrefix + "-lock-enabled";
    retentionAfterCreationBucketName = _resourcePrefix + "-retention-after-creation";

    bucketNames.Add(noLockBucketName);
    bucketNames.Add(lockEnabledBucketName);
    bucketNames.Add(retentionAfterCreationBucketName);
}

```

```

// <summary>
/// Deploy necessary resources for the scenario.
/// </summary>
/// <param name="interactive">True to run as interactive.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public static async Task<bool> Setup(bool interactive)
{
    Console.WriteLine(
        "\nFor this scenario, we will use the AWS SDK for .NET to create several
S3\n" +
        "buckets and files to demonstrate working with S3 locking features.\n");

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("Press Enter when you are ready to start.");
    if (interactive)
        Console.ReadLine();

    Console.WriteLine("\nS3 buckets can be created either with or without object
lock enabled.");
    await _s3ActionsWrapper.CreateBucketWithObjectLock(noLockBucketName, false);
    await _s3ActionsWrapper.CreateBucketWithObjectLock(lockEnabledBucketName,
true);
    await
_s3ActionsWrapper.CreateBucketWithObjectLock(retentionAfterCreationBucketName,
false);

    Console.WriteLine("Press Enter to continue.");
    if (interactive)
        Console.ReadLine();

    Console.WriteLine("\nA bucket can be configured to use object locking with a
default retention period.");
    await
_s3ActionsWrapper.ModifyBucketDefaultRetention(retentionAfterCreationBucketName,
true,
        ObjectLockRetentionMode.Governance, DateTime.UtcNow.AddDays(1));

    Console.WriteLine("Press Enter to continue.");
    if (interactive)
        Console.ReadLine();

    Console.WriteLine("\nObject lock policies can also be added to existing
buckets.");
    await _s3ActionsWrapper.EnableObjectLockOnBucket(lockEnabledBucketName);

```

```
Console.WriteLine("Press Enter to continue.");
if (interactive)
    Console.ReadLine();

// Upload some files to the buckets.
Console.WriteLine("\nNow let's add some test files:");
var fileName = _configuration["exampleFileName"] ?? "exampleFile.txt";
int fileCount = 2;
// Create the file if it does not already exist.
if (!File.Exists(fileName))
{
    await using StreamWriter sw = File.CreateText(fileName);
    await sw.WriteLineAsync(
        "This is a sample file for uploading to a bucket.");
}

foreach (var bucketName in bucketNames)
{
    for (int i = 0; i < fileCount; i++)
    {
        var numberedFileName = Path.GetFileNameWithoutExtension(fileName) +
i + Path.GetExtension(fileName);
        fileNames.Add(numberedFileName);
        await _s3ActionsWrapper.UploadFileAsync(bucketName,
numberedFileName, fileName);
    }
}
Console.WriteLine("Press Enter to continue.");
if (interactive)
    Console.ReadLine();

if (!interactive)
    return true;
Console.WriteLine("\nNow we can set some object lock policies on individual
files:");
foreach (var bucketName in bucketNames)
{
    for (int i = 0; i < fileNames.Count; i++)
    {
        // No modifications to the objects in the first bucket.
        if (bucketName != bucketNames[0])
        {
            var exampleFileName = fileNames[i];
```

```

        switch (i)
        {
            case 0:
            {
                var question =
                    $"\\nWould you like to add a legal hold to
{exampleFileName} in {bucketName}? (y/n)";
                if (GetYesNoResponse(question))
                {
                    // Set a legal hold.
                    await
_s3ActionsWrapper.ModifyObjectLegalHold(bucketName, exampleFileName,
ObjectLockLegalHoldStatus.On);

                }
                break;
            }
            case 1:
            {
                var question =
                    $"\\nWould you like to add a 1 day Governance
retention period to {exampleFileName} in {bucketName}? (y/n)" +
                    "\\nReminder: Only a user with the
s3:BypassGovernanceRetention permission will be able to delete this file or its
bucket until the retention period has expired.";
                if (GetYesNoResponse(question))
                {
                    // Set a Governance mode retention period for 1
day.
                    await
_s3ActionsWrapper.ModifyObjectRetentionPeriod(
                        bucketName, exampleFileName,
                        ObjectLockRetentionMode.Governance,
                        DateTime.UtcNow.AddDays(1));
                }
                break;
            }
        }
    }
}
}
}
Console.WriteLine(new string('-', 80));
return true;
}

```

```

    /// <summary>
    /// List all of the current buckets and objects.
    /// </summary>
    /// <param name="interactive">True to run as interactive.</param>
    /// <returns>The list of buckets and objects.</returns>
    public static async Task<List<S3ObjectVersion>> ListBucketsAndObjects(bool
interactive)
    {
        var allObjects = new List<S3ObjectVersion>();
        foreach (var bucketName in bucketNames)
        {
            var objectsInBucket = await
_s3ActionsWrapper.ListBucketObjectsAndVersions(bucketName);
            foreach (var objectKey in objectsInBucket.Versions)
            {
                allObjects.Add(objectKey);
            }
        }

        if (interactive)
        {
            Console.WriteLine("\nCurrent buckets and objects:\n");
            int i = 0;
            foreach (var bucketObject in allObjects)
            {
                i++;
                Console.WriteLine(
                    $"{i}: {bucketObject.Key} \n\tBucket:
{bucketObject.BucketName}\n\tVersion: {bucketObject.VersionId}");
            }
        }

        return allObjects;
    }

    /// <summary>
    /// Present the user with the demo action choices.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public static async Task<bool> DemoActionChoices()
    {
        var choices = new string[]{
            "List all files in buckets.",

```

```

        "Attempt to delete a file.",
        "Attempt to delete a file with retention period bypass.",
        "Attempt to overwrite a file.",
        "View the object and bucket retention settings for a file.",
        "View the legal hold settings for a file.",
        "Finish the scenario."};

var choice = 0;
// Keep asking the user until they choose to move on.
while (choice != 6)
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    choice = GetChoiceResponse(
        "\nExplore the S3 locking features by selecting one of the following
choices:"
        , choices);
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    switch (choice)
    {
        case 0:
        {
            await ListBucketsAndObjects(true);
            break;
        }
        case 1:
        {
            Console.WriteLine("\nEnter the number of the object to
delete:");

            var allFiles = await ListBucketsAndObjects(true);
            var fileChoice = GetChoiceResponse(null, allFiles.Select(f
=> f.Key).ToArray());

            await
            _s3ActionsWrapper.DeleteObjectFromBucket(allFiles[fileChoice].BucketName,
allFiles[fileChoice].Key, false, allFiles[fileChoice].VersionId);
            break;
        }
        case 2:
        {
            Console.WriteLine("\nEnter the number of the object to
delete:");

            var allFiles = await ListBucketsAndObjects(true);
            var fileChoice = GetChoiceResponse(null, allFiles.Select(f
=> f.Key).ToArray());

```



```

        await
        _s3ActionsWrapper.DeleteObjectFromBucket(allFiles[fileChoice].BucketName,
allFiles[fileChoice].Key, true, allFiles[fileChoice].VersionId);
        break;
    }
    case 3:
    {
        var allFiles = await ListBucketsAndObjects(true);
        Console.WriteLine("\nEnter the number of the object to
overwrite:");
        var fileChoice = GetChoiceResponse(null, allFiles.Select(f
=> f.Key).ToArray());
        // Create the file if it does not already exist.
        if (!File.Exists(allFiles[fileChoice].Key))
        {
            await using StreamWriter sw =
File.CreateText(allFiles[fileChoice].Key);
            await sw.WriteLineAsync(
                "This is a sample file for uploading to a bucket.");
        }
        await
        _s3ActionsWrapper.UploadFileAsync(allFiles[fileChoice].BucketName,
allFiles[fileChoice].Key, allFiles[fileChoice].Key);
        break;
    }
    case 4:
    {
        var allFiles = await ListBucketsAndObjects(true);
        Console.WriteLine("\nEnter the number of the object and
bucket to view:");
        var fileChoice = GetChoiceResponse(null, allFiles.Select(f
=> f.Key).ToArray());
        await
        _s3ActionsWrapper.GetObjectRetention(allFiles[fileChoice].BucketName,
allFiles[fileChoice].Key);
        await
        _s3ActionsWrapper.GetBucketObjectLockConfiguration(allFiles[fileChoice].BucketName);
        break;
    }
    case 5:
    {
        var allFiles = await ListBucketsAndObjects(true);
        Console.WriteLine("\nEnter the number of the object to
view:");

```

```

        var fileChoice = GetChoiceResponse(null, allFiles.Select(f
=> f.Key).ToArray());
        await
_s3ActionsWrapper.GetObjectLegalHold(allFiles[fileChoice].BucketName,
allFiles[fileChoice].Key);
        break;
    }
}
return true;
}

// <summary>
/// Clean up the resources from the scenario.
/// </summary>
/// <param name="interactive">True to run as interactive.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public static async Task<bool> Cleanup(bool interactive)
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));

    if (!interactive || GetYesNoResponse("Do you want to clean up all files and
buckets? (y/n) "))
    {
        // Remove all locks and delete all buckets and objects.
        var allFiles = await ListBucketsAndObjects(false);
        foreach (var fileInfo in allFiles)
        {
            // Check for a legal hold.
            var legalHold = await
_s3ActionsWrapper.GetObjectLegalHold(fileInfo.BucketName, fileInfo.Key);
            if (legalHold?.Status?.Value == ObjectLockLegalHoldStatus.On)
            {
                await
_s3ActionsWrapper.ModifyObjectLegalHold(fileInfo.BucketName, fileInfo.Key,
ObjectLockLegalHoldStatus.Off);
            }

            // Check for a retention period.
            var retention = await
_s3ActionsWrapper.GetObjectRetention(fileInfo.BucketName, fileInfo.Key);
            var hasRetentionPeriod = retention?.Mode ==
ObjectLockRetentionMode.Governance && retention.RetainUntilDate >
DateTime.UtcNow.Date;

```

```

        await _s3ActionsWrapper.DeleteObjectFromBucket(fileInfo.BucketName,
fileInfo.Key, hasRetentionPeriod, fileInfo.VersionId);
    }

    foreach (var bucketName in bucketNames)
    {
        await _s3ActionsWrapper.DeleteBucketByName(bucketName);
    }

}
else
{
    Console.WriteLine(
        "Ok, we'll leave the resources intact.\n" +
        "Don't forget to delete them when you're done with them or you might
incur unexpected charges."
    );
}

Console.WriteLine(new string('-', 80));
return true;
}

/// <summary>
/// Helper method to get a yes or no response from the user.
/// </summary>
/// <param name="question">The question string to print on the console.</param>
/// <returns>True if the user responds with a yes.</returns>
private static bool GetYesNoResponse(string question)
{
    Console.WriteLine(question);
    var ynResponse = Console.ReadLine();
    var response = ynResponse != null && ynResponse.Equals("y",
StringComparison.InvariantCultureIgnoreCase);
    return response;
}

/// <summary>
/// Helper method to get a choice response from the user.
/// </summary>
/// <param name="question">The question string to print on the console.</param>
/// <param name="choices">The choices to print on the console.</param>
/// <returns>The index of the selected choice</returns>
private static int GetChoiceResponse(string? question, string[] choices)

```

```
{
    if (question != null)
    {
        Console.WriteLine(question);

        for (int i = 0; i < choices.Length; i++)
        {
            Console.WriteLine($"{i + 1}. {choices[i]}");
        }
    }

    var choiceNumber = 0;
    while (choiceNumber < 1 || choiceNumber > choices.Length)
    {
        var choice = Console.ReadLine();
        Int32.TryParse(choice, out choiceNumber);
    }

    return choiceNumber - 1;
}
```

S3 関数のラッパークラス。

```
using System.Net;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;
using Microsoft.Extensions.Configuration;

namespace S3ObjectLockScenario;

/// <summary>
/// Encapsulate the Amazon S3 operations.
/// </summary>
public class S3ActionsWrapper
{
    private readonly IAmazonS3 _amazonS3;

    /// <summary>
    /// Constructor for the S3ActionsWrapper.
    /// </summary>
```

```

    /// <param name="amazonS3">The injected S3 client.</param>
    public S3ActionsWrapper(IAmazonS3 amazonS3, IConfiguration configuration)
    {
        _amazonS3 = amazonS3;
    }

    /// <summary>
    /// Create a new Amazon S3 bucket with object lock actions.
    /// </summary>
    /// <param name="bucketName">The name of the bucket to create.</param>
    /// <param name="enableObjectLock">True to enable object lock on the bucket.</
param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public async Task<bool> CreateBucketWithObjectLock(string bucketName, bool
enableObjectLock)
    {
        Console.WriteLine($"\\tCreating bucket {bucketName} with object lock
{enableObjectLock}.");
        try
        {
            var request = new PutBucketRequest
            {
                BucketName = bucketName,
                UseClientRegion = true,
                ObjectLockEnabledForBucket = enableObjectLock,
            };

            var response = await _amazonS3.PutBucketAsync(request);

            return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
        }
        catch (AmazonS3Exception ex)
        {
            Console.WriteLine($"Error creating bucket: '{ex.Message}'");
            return false;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Enable object lock on an existing bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="bucketName">The name of the bucket to modify.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public async Task<bool> EnableObjectLockOnBucket(string bucketName)

```

```

    {
        try
        {
            // First, enable Versioning on the bucket.
            await _amazonS3.PutBucketVersioningAsync(new
PutBucketVersioningRequest()
            {
                BucketName = bucketName,
                VersioningConfig = new S3BucketVersioningConfig()
                {
                    EnableMfaDelete = false,
                    Status = VersionStatus.Enabled
                }
            });

            var request = new PutObjectLockConfigurationRequest()
            {
                BucketName = bucketName,
                ObjectLockConfiguration = new ObjectLockConfiguration()
                {
                    ObjectLockEnabled = new ObjectLockEnabled("Enabled"),
                },
            };

            var response = await _amazonS3.PutObjectLockConfigurationAsync(request);
            Console.WriteLine($"{Environment.NewLine}\tAdded an object lock policy to bucket
{bucketName}.");
            return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
        }
        catch (AmazonS3Exception ex)
        {
            Console.WriteLine($"Error modifying object lock: '{ex.Message}'");
            return false;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Set or modify a retention period on an object in an S3 bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="bucketName">The bucket of the object.</param>
    /// <param name="objectKey">The key of the object.</param>
    /// <param name="retention">The retention mode.</param>
    /// <param name="retainUntilDate">The date retention expires.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>

```

```

    public async Task<bool> ModifyObjectRetentionPeriod(string bucketName,
        string objectKey, ObjectLockRetentionMode retention, DateTime
retainUntilDate)
    {
        try
        {
            var request = new PutObjectRetentionRequest()
            {
                BucketName = bucketName,
                Key = objectKey,
                Retention = new ObjectLockRetention()
                {
                    Mode = retention,
                    RetainUntilDate = retainUntilDate
                }
            };

            var response = await _amazonS3.PutObjectRetentionAsync(request);
            Console.WriteLine($"{\tSet retention for {objectKey} in {bucketName}
until {retainUntilDate:d}."");
            return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
        }
        catch (AmazonS3Exception ex)
        {
            Console.WriteLine($"{\tError modifying retention period:
'{ex.Message}'");
            return false;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Set or modify a retention period on an S3 bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="bucketName">The bucket to modify.</param>
    /// <param name="retention">The retention mode.</param>
    /// <param name="retainUntilDate">The date for retention until.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public async Task<bool> ModifyBucketDefaultRetention(string bucketName, bool
enableObjectLock, ObjectLockRetentionMode retention, DateTime retainUntilDate)
    {
        var enabledString = enableObjectLock ? "Enabled" : "Disabled";
        var timeDifference = retainUntilDate.Subtract(DateTime.Now);
        try
        {

```

```

        // First, enable Versioning on the bucket.
        await _amazonS3.PutBucketVersioningAsync(new
PutBucketVersioningRequest()
        {
            BucketName = bucketName,
            VersioningConfig = new S3BucketVersioningConfig()
            {
                EnableMfaDelete = false,
                Status = VersionStatus.Enabled
            }
        });

        var request = new PutObjectLockConfigurationRequest()
        {
            BucketName = bucketName,
            ObjectLockConfiguration = new ObjectLockConfiguration()
            {
                ObjectLockEnabled = new ObjectLockEnabled(enabledString),
                Rule = new ObjectLockRule()
                {
                    DefaultRetention = new DefaultRetention()
                    {
                        Mode = retention,
                        Days = timeDifference.Days // Can be specified in days
or years but not both.
                    }
                }
            }
        };

        var response = await _amazonS3.PutObjectLockConfigurationAsync(request);
        Console.WriteLine($"\\tAdded a default retention to bucket
{bucketName}.");
        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (AmazonS3Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"\\tError modifying object lock: '{ex.Message}'");
        return false;
    }
}

/// <summary>
/// Get the retention period for an S3 object.

```



```

    /// </summary>
    /// <param name="bucketName">The bucket of the object.</param>
    /// <param name="objectKey">The object key.</param>
    /// <returns>The object retention details.</returns>
    public async Task<ObjectLockRetention> GetObjectRetention(string bucketName,
        string objectKey)
    {
        try
        {
            var request = new GetObjectRetentionRequest()
            {
                BucketName = bucketName,
                Key = objectKey
            };

            var response = await _amazonS3.GetObjectRetentionAsync(request);
            Console.WriteLine($"{Environment.NewLine}Object retention for {objectKey} in {bucketName}:
" +
                                $"{Environment.NewLine}{response.Retention.Mode} until
{response.Retention.RetainUntilDate:d}");
            return response.Retention;
        }
        catch (AmazonS3Exception ex)
        {
            Console.WriteLine($"{Environment.NewLine}Unable to fetch object lock retention:
'{ex.Message}'");
            return new ObjectLockRetention();
        }
    }

    /// <summary>
    /// Set or modify a legal hold on an object in an S3 bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="bucketName">The bucket of the object.</param>
    /// <param name="objectKey">The key of the object.</param>
    /// <param name="holdStatus">The On or Off status for the legal hold.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public async Task<bool> ModifyObjectLegalHold(string bucketName,
        string objectKey, ObjectLockLegalHoldStatus holdStatus)
    {
        try
        {
            var request = new PutObjectLegalHoldRequest()
            {

```

```

        BucketName = bucketName,
        Key = objectKey,
        LegalHold = new ObjectLockLegalHold()
        {
            Status = holdStatus
        }
    };

    var response = await _amazonS3.PutObjectLegalHoldAsync(request);
    Console.WriteLine($"\\tModified legal hold for {objectKey} in
{bucketName}.");
    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}
catch (AmazonS3Exception ex)
{
    Console.WriteLine($"\\tError modifying legal hold: '{ex.Message}'");
    return false;
}
}

/// <summary>
/// Get the legal hold details for an S3 object.
/// </summary>
/// <param name="bucketName">The bucket of the object.</param>
/// <param name="objectKey">The object key.</param>
/// <returns>The object legal hold details.</returns>
public async Task<ObjectLockLegalHold> GetObjectLegalHold(string bucketName,
    string objectKey)
{
    try
    {
        var request = new GetObjectLegalHoldRequest()
        {
            BucketName = bucketName,
            Key = objectKey
        };

        var response = await _amazonS3.GetObjectLegalHoldAsync(request);
        Console.WriteLine($"\\tObject legal hold for {objectKey} in {bucketName}:
" +
            $"\\n\\tStatus: {response.LegalHold.Status}");
        return response.LegalHold;
    }
    catch (AmazonS3Exception ex)

```

```

        {
            Console.WriteLine($"\\tUnable to fetch legal hold: '{ex.Message}'");
            return new ObjectLockLegalHold();
        }
    }

    /// <summary>
    /// Get the object lock configuration details for an S3 bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="bucketName">The bucket to get details.</param>
    /// <returns>The bucket's object lock configuration details.</returns>
    public async Task<ObjectLockConfiguration>
    GetBucketObjectLockConfiguration(string bucketName)
    {
        try
        {
            var request = new GetObjectLockConfigurationRequest()
            {
                BucketName = bucketName
            };

            var response = await _amazonS3.GetObjectLockConfigurationAsync(request);
            Console.WriteLine($"\\tBucket object lock config for {bucketName} in
{bucketName}: " +
                        $"\\n\\tEnabled:
{response.ObjectLockConfiguration.ObjectLockEnabled}" +
                        $"\\n\\tRule:
{response.ObjectLockConfiguration.Rule?.DefaultRetention}");

            return response.ObjectLockConfiguration;
        }
        catch (AmazonS3Exception ex)
        {
            Console.WriteLine($"\\tUnable to fetch object lock config:
'{ex.Message}'");
            return new ObjectLockConfiguration();
        }
    }

    /// <summary>
    /// Upload a file from the local computer to an Amazon S3 bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="bucketName">The Amazon S3 bucket to use.</param>
    /// <param name="objectName">The object to upload.</param>

```

```
    /// <param name="filePath">The path, including file name, of the object to
upload.</param>
    /// <returns>True if success.</returns>
    public async Task<bool> UploadFileAsync(string bucketName, string objectName,
string filePath)
    {
        var request = new PutObjectRequest
        {
            BucketName = bucketName,
            Key = objectName,
            FilePath = filePath,
            ChecksumAlgorithm = ChecksumAlgorithm.SHA256
        };

        var response = await _amazonS3.PutObjectAsync(request);
        if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
        {
            Console.WriteLine($"\\tSuccessfully uploaded {objectName} to
{bucketName}.");
            return true;
        }
        else
        {
            Console.WriteLine($"\\tCould not upload {objectName} to {bucketName}.");
            return false;
        }
    }

    /// <summary>
    /// List bucket objects and versions.
    /// </summary>
    /// <param name="bucketName">The Amazon S3 bucket to use.</param>
    /// <returns>The list of objects and versions.</returns>
    public async Task<ListVersionsResponse> ListBucketObjectsAndVersions(string
bucketName)
    {
        var request = new ListVersionsRequest()
        {
            BucketName = bucketName
        };

        var response = await _amazonS3.ListVersionsAsync(request);
        return response;
    }
}
```

```

    /// <summary>
    /// Delete an object from a specific bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="bucketName">The Amazon S3 bucket to use.</param>
    /// <param name="objectKey">The key of the object to delete.</param>
    /// <param name="hasRetention">True if the object has retention settings.</
param>
    /// <param name="versionId">Optional versionId.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public async Task<bool> DeleteObjectFromBucket(string bucketName, string
objectKey, bool hasRetention, string? versionId = null)
    {
        try
        {
            var request = new DeleteObjectRequest()
            {
                BucketName = bucketName,
                Key = objectKey,
                VersionId = versionId,
            };
            if (hasRetention)
            {
                // Set the BypassGovernanceRetention header
                // if the file has retention settings.
                request.BypassGovernanceRetention = true;
            }
            await _amazonS3.DeleteObjectAsync(request);
            Console.WriteLine(
                $"Deleted {objectKey} in {bucketName}.");
            return true;
        }
        catch (AmazonS3Exception ex)
        {
            Console.WriteLine($"Unable to delete object {objectKey} in bucket
{bucketName}: " + ex.Message);
            return false;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Delete a specific bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="bucketName">The Amazon S3 bucket to use.</param>

```

```
/// <param name="objectKey">The key of the object to delete.</param>
/// <param name="versionId">Optional versionId.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> DeleteBucketByName(string bucketName)
{
    try
    {
        var request = new DeleteBucketRequest() { BucketName = bucketName, };
        var response = await _amazonS3.DeleteBucketAsync(request);
        Console.WriteLine($"\\tDelete for {bucketName} complete.");
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (AmazonS3Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"\\tUnable to delete bucket {bucketName}: " +
ex.Message);
        return false;
    }
}
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
 - [GetObjectLegalHold](#)
 - [GetObjectLockConfiguration](#)
 - [GetObjectRetention](#)
 - [PutObjectLegalHold](#)
 - [PutObjectLockConfiguration](#)
 - [PutObjectRetention](#)

条件付きリクエストの実行

次のコード例は、Amazon S3 リクエストに前提条件を追加する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

Amazon S3 の条件付きリクエスト機能を示すインタラクティブなシナリオを実行します。

```
using Amazon.S3;
using Microsoft.Extensions.Configuration;
using Microsoft.Extensions.DependencyInjection;
using Microsoft.Extensions.Hosting;
using Microsoft.Extensions.Logging;
using Microsoft.Extensions.Logging.Console;
using Microsoft.Extensions.Logging.Debug;

namespace S3ConditionalRequestsScenario;

public static class S3ConditionalRequestsScenario
{
    /*
     * Before running this .NET code example, set up your development environment,
     * including your credentials.
     *
     * This example demonstrates the use of conditional requests for S3 operations.
     * You can use conditional requests to add preconditions to S3 read requests to
     * return or copy
     * an object based on its Entity tag (ETag), or last modified date.
     * You can use a conditional write requests to prevent overwrites by ensuring
     * there is no existing object with the same key.
     */

    public static S3ActionsWrapper _s3ActionsWrapper = null!;
    public static IConfiguration _configuration = null!;
    public static string _resourcePrefix = null!;
    public static string _sourceBucketName = null!;
    public static string _destinationBucketName = null!;
    public static string _sampleObjectKey = null!;
    public static string _sampleObjectEtag = null!;
    public static bool _interactive = true;
```

```

public static async Task Main(string[] args)
{
    // Set up dependency injection for the Amazon service.
    using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
        .ConfigureLogging(logging =>
            logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
                .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
LogLevel.Information)
                .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
        .ConfigureServices((_, services) =>
            services.AddAWSService<IAmazonS3>()
                .AddTransient<S3ActionsWrapper>()
        )
        .Build();

    _configuration = new ConfigurationBuilder()
        .SetBasePath(Directory.GetCurrentDirectory())
        .AddJsonFile("settings.json") // Load settings from .json file.
        .AddJsonFile("settings.local.json",
            true) // Optionally, load local settings.
        .Build();

    ServicesSetup(host);

    try
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Welcome to the Amazon Simple Storage Service (S3)
Conditional Requests Feature Scenario.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        ConfigurationSetup();
        _sampleObjectEtag = await Setup(_sourceBucketName,
            _destinationBucketName, _sampleObjectKey);

        await DisplayDemoChoices(_sourceBucketName, _destinationBucketName,
            _sampleObjectKey, _sampleObjectEtag, 0);

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Cleaning up resources.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        await Cleanup(true);
    }
}

```



```

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Amazon S3 Conditional Requests Feature Scenario is
complete.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"There was a problem: {ex.Message}");
        await CleanupScenario(_sourceBucketName, _destinationBucketName);
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
}

/// <summary>
/// Populate the services for use within the console application.
/// </summary>
/// <param name="host">The services host.</param>
private static void ServicesSetup(IHost host)
{
    _s3ActionsWrapper = host.Services.GetRequiredService<S3ActionsWrapper>();
}

/// <summary>
/// Any setup operations needed.
/// </summary>
public static void ConfigurationSetup()
{
    _resourcePrefix = _configuration["resourcePrefix"] ?? "dotnet-example";

    _sourceBucketName = _resourcePrefix + "-source";
    _destinationBucketName = _resourcePrefix + "-dest";
    _sampleObjectKey = _resourcePrefix + "-sample-object.txt";
}

/// <summary>
/// Sets up the scenario by creating a source and destination bucket, and
uploading a test file to the source bucket.
/// </summary>
/// <param name="sourceBucket">The name of the source bucket.</param>
/// <param name="destBucket">The name of the destination bucket.</param>
/// <param name="objectKey">The name of the test file to add to the source
bucket.</param>
/// <returns>The ETag of the uploaded test file.</returns>

```

```

    public static async Task<string> Setup(string sourceBucket, string destBucket,
string objectKey)
    {
        Console.WriteLine(
            "\nFor this scenario, we will use the AWS SDK for .NET to create several
S3\n" +
            "buckets and files to demonstrate working with S3 conditional requests.
\n" +
            "This example demonstrates the use of conditional requests for S3
operations.\r\n" +
            "You can use conditional requests to add preconditions to S3 read
requests to return or copy\r\n" +
            "an object based on its Entity tag (ETag), or last modified date. \r\n"
+
            "You can use a conditional write requests to prevent overwrites by
ensuring \r\n" +
            "there is no existing object with the same key. \r\n\r\n" +
            "This example will allow you to perform conditional reads\r\n" +
            "and writes that will succeed or fail based on your selected options.\r
\n\r\n" +
            "Sample buckets and a sample object will be created as part of the
example.");

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Press Enter when you are ready to start.");
        if (_interactive)
            Console.ReadLine();

        await _s3ActionsWrapper.CreateBucketWithName(sourceBucket);
        await _s3ActionsWrapper.CreateBucketWithName(destBucket);

        var eTag = await _s3ActionsWrapper.PutObjectConditional(objectKey,
sourceBucket,
            "Test file content.");

        return eTag;
    }

    /// <summary>
    /// Cleans up the scenario by deleting the source and destination buckets.
    /// </summary>
    /// <param name="sourceBucket">The name of the source bucket.</param>
    /// <param name="destBucket">The name of the destination bucket.</param>
    public static async Task CleanupScenario(string sourceBucket, string destBucket)

```

```

    {
        await _s3ActionsWrapper.CleanupBucketByName(sourceBucket);
        await _s3ActionsWrapper.CleanupBucketByName(destBucket);
    }

    /// <summary>
    /// Displays a list of the objects in the test buckets.
    /// </summary>
    /// <param name="sourceBucket">The name of the source bucket.</param>
    /// <param name="destBucket">The name of the destination bucket.</param>
    public static async Task DisplayBuckets(string sourceBucket, string destBucket)
    {
        await _s3ActionsWrapper.ListBucketContentsByName(sourceBucket);
        await _s3ActionsWrapper.ListBucketContentsByName(destBucket);
    }

    /// <summary>
    /// Displays the menu of conditional request options for the user.
    /// </summary>
    /// <param name="sourceBucket">The name of the source bucket.</param>
    /// <param name="destBucket">The name of the destination bucket.</param>
    /// <param name="objectKey">The key of the test object in the source bucket.</
param>
    /// <param name="etag">The ETag of the test object in the source bucket.</param>
    public static async Task DisplayDemoChoices(string sourceBucket, string
destBucket, string objectKey, string etag, int defaultChoice)
    {
        var actions = new[]
        {
            "Print a list of bucket items.",
            "Perform a conditional read.",
            "Perform a conditional copy.",
            "Perform a conditional write.",
            "Clean up and exit."
        };

        var conditions = new[]
        {
            "If-Match: using the object's ETag. This condition should succeed.",
            "If-None-Match: using the object's ETag. This condition should fail.",
            "If-Modified-Since: using yesterday's date. This condition should
succeed.",
            "If-Unmodified-Since: using yesterday's date. This condition should
fail."
        };
    }

```

```

};

var conditionTypes = new[]
{
    S3ConditionType.IfMatch,
    S3ConditionType.IfNoneMatch,
    S3ConditionType.IfModifiedSince,
    S3ConditionType.IfUnmodifiedSince,
};

var yesterdayDate = DateTime.UtcNow.AddDays(-1);

int choice;
while ((choice = GetChoiceResponse("\nExplore the S3 conditional request
features by selecting one of the following choices:", actions, defaultChoice)) !=
4)
{
    switch (choice)
    {
        case 0:
            Console.WriteLine("Listing the objects and buckets.");
            await DisplayBuckets(sourceBucket, destBucket);
            break;
        case 1:
            int conditionTypeIndex = GetChoiceResponse("Perform a
conditional read:", conditions, 1);
            if (conditionTypeIndex == 0 || conditionTypeIndex == 1)
            {
                await _s3ActionsWrapper.GetObjectConditional(objectKey,
sourceBucket, conditionTypes[conditionTypeIndex], null, _sampleObjectEtag);
            }
            else if (conditionTypeIndex == 2 || conditionTypeIndex == 3)
            {
                await _s3ActionsWrapper.GetObjectConditional(objectKey,
sourceBucket, conditionTypes[conditionTypeIndex], yesterdayDate);
            }
            break;
        case 2:
            int copyConditionTypeIndex = GetChoiceResponse("Perform a
conditional copy:", conditions, 1);
            string destKey = GetStringResponse("Enter an object key:",
"sampleObjectKey");
            if (copyConditionTypeIndex == 0 || copyConditionTypeIndex == 1)
            {

```

```

        await _s3ActionsWrapper.CopyObjectConditional(objectKey,
destKey, sourceBucket, destBucket, conditionTypes[copyConditionTypeIndex], null,
etag);
    }
    else if (copyConditionTypeIndex == 2 || copyConditionTypeIndex
== 3)
    {
        await _s3ActionsWrapper.CopyObjectConditional(objectKey,
destKey, sourceBucket, destBucket, conditionTypes[copyConditionTypeIndex],
yesterdayDate);
    }
    break;
case 3:
    Console.WriteLine("Perform a conditional write using IfNoneMatch
condition on the object key.");
    Console.WriteLine("If the key is a duplicate, the write will
fail.");
    string newObjectKey = GetStringResponse("Enter an object key:",
"newObjectKey");
    await _s3ActionsWrapper.PutObjectConditional(newObjectKey,
sourceBucket, "Conditional write example data.");
    break;
}

if (!_interactive)
{
    break;
}
}

Console.WriteLine("Proceeding to cleanup.");
}

// <summary>
/// Clean up the resources from the scenario.
/// </summary>
/// <param name="interactive">True to run as interactive.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public static async Task<bool> Cleanup(bool interactive)
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));

    if (!interactive || GetYesNoResponse("Do you want to clean up all files and
buckets? (y/n) "))

```

```

        {
            await _s3ActionsWrapper.CleanUpBucketByName(_sourceBucketName);
            await _s3ActionsWrapper.CleanUpBucketByName(_destinationBucketName);
        }
        else
        {
            Console.WriteLine(
                "Ok, we'll leave the resources intact.\n" +
                "Don't forget to delete them when you're done with them or you might
incur unexpected charges."
            );
        }

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        return true;
    }

    /// <summary>
    /// Helper method to get a yes or no response from the user.
    /// </summary>
    /// <param name="question">The question string to print on the console.</param>
    /// <returns>True if the user responds with a yes.</returns>
    private static bool GetYesNoResponse(string question)
    {
        Console.WriteLine(question);
        var ynResponse = Console.ReadLine();
        var response = ynResponse != null && ynResponse.Equals("y",
StringComparison.InvariantCultureIgnoreCase);
        return response;
    }

    /// <summary>
    /// Helper method to get a choice response from the user.
    /// </summary>
    /// <param name="question">The question string to print on the console.</param>
    /// <param name="choices">The choices to print on the console.</param>
    /// <returns>The index of the selected choice</returns>
    private static int GetChoiceResponse(string? question, string[] choices, int
defaultChoice)
    {
        if (question != null)
        {
            Console.WriteLine(question);

```

```

        for (int i = 0; i < choices.Length; i++)
        {
            Console.WriteLine($"{i + 1}. {choices[i]}");
        }
    }

    if (!_interactive)
        return defaultChoice;

    var choiceNumber = 0;
    while (choiceNumber < 1 || choiceNumber > choices.Length)
    {
        var choice = Console.ReadLine();
        Int32.TryParse(choice, out choiceNumber);
    }

    return choiceNumber - 1;
}

/// <summary>
/// Get a string response from the user.
/// </summary>
/// <param name="question">The question to print.</param>
/// <param name="defaultAnswer">A default answer to use when not interactive.</
param>
/// <returns>The string response.</returns>
public static string GetStringResponse(string? question, string defaultAnswer)
{
    string? answer = "";
    if (_interactive)
    {
        do
        {
            Console.WriteLine(question);
            answer = Console.ReadLine();
        } while (string.IsNullOrEmpty(answer));
    }
    else
    {
        answer = defaultAnswer;
    }

    return answer;
}

```

```
}  
}
```

S3 関数のラッパークラス。

```
using System.Net;  
using Amazon.S3;  
using Amazon.S3.Model;  
using Microsoft.Extensions.Logging;  
  
namespace S3ConditionalRequestsScenario;  
  
/// <summary>  
/// Encapsulate the Amazon S3 operations.  
/// </summary>  
public class S3ActionsWrapper  
{  
    private readonly IAmazonS3 _amazonS3;  
    private readonly ILogger<S3ActionsWrapper> _logger;  
  
    /// <summary>  
    /// Constructor for the S3ActionsWrapper.  
    /// </summary>  
    /// <param name="amazonS3">The injected S3 client.</param>  
    /// <param name="logger">The class logger.</param>  
    public S3ActionsWrapper(IAmazonS3 amazonS3, ILogger<S3ActionsWrapper> logger)  
    {  
        _amazonS3 = amazonS3;  
        _logger = logger;  
    }  
  
    /// <summary>  
    /// Retrieves an object from Amazon S3 with a conditional request.  
    /// </summary>  
    /// <param name="objectKey">The key of the object to retrieve.</param>  
    /// <param name="sourceBucket">The source bucket of the object.</param>  
    /// <param name="conditionType">The type of condition: 'IfMatch', 'IfNoneMatch',  
    'IfModifiedSince', 'IfUnmodifiedSince'.</param>  
    /// <param name="conditionDateValue">The value to use for the condition for  
    dates.</param>
```



```

    /// <param name="etagConditionalValue">The value to use for the condition for
    etags.</param>
    /// <returns>True if the conditional read is successful, False otherwise.</
returns>
    public async Task<bool> GetObjectConditional(string objectKey, string
sourceBucket,
        S3ConditionType conditionType, DateTime? conditionDateValue = null, string?
etagConditionalValue = null)
    {
        try
        {
            var getObjectRequest = new GetObjectRequest
            {
                BucketName = sourceBucket,
                Key = objectKey
            };

            switch (conditionType)
            {
                case S3ConditionType.IfMatch:
                    getObjectRequest.EtagToMatch = etagConditionalValue;
                    break;
                case S3ConditionType.IfNoneMatch:
                    getObjectRequest.EtagToNotMatch = etagConditionalValue;
                    break;
                case S3ConditionType.IfModifiedSince:
                    getObjectRequest.ModifiedSinceDateUtc =
conditionDateValue.GetValueOrDefault();
                    break;
                case S3ConditionType.IfUnmodifiedSince:
                    getObjectRequest.UnmodifiedSinceDateUtc =
conditionDateValue.GetValueOrDefault();
                    break;
                default:
                    throw new ArgumentOutOfRangeException(nameof(conditionType),
conditionType, null);
            }

            var response = await _amazonS3.GetObjectAsync(getObjectRequest);
            var sampleBytes = new byte[20];
            await response.ResponseStream.ReadAsync(sampleBytes, 0, 20);
            _logger.LogInformation($"Conditional read successful. Here are the first
20 bytes of the object:\n{System.Text.Encoding.UTF8.GetString(sampleBytes)}");
            return true;
        }
    }

```

```

    }
    catch (AmazonS3Exception e)
    {
        if (e.ErrorCode == "PreconditionFailed")
        {
            _logger.LogError("Conditional read failed: Precondition failed");
        }
        else if (e.ErrorCode == "NotModified")
        {
            _logger.LogError("Conditional read failed: Object not modified");
        }
        else
        {
            _logger.LogError($"Unexpected error: {e.ErrorCode}");
            throw;
        }
        return false;
    }
}

/// <summary>
/// Uploads an object to Amazon S3 with a conditional request. Prevents
overwrite using an IfNoneMatch condition for the object key.
/// </summary>
/// <param name="objectKey">The key of the object to upload.</param>
/// <param name="bucket">The source bucket of the object.</param>
/// <param name="content">The content to upload as a string.</param>
/// <returns>The ETag if the conditional write is successful, empty otherwise.</
returns>
    public async Task<string> PutObjectConditional(string objectKey, string bucket,
string content)
    {
        try
        {
            var putObjectRequest = new PutObjectRequest
            {
                BucketName = bucket,
                Key = objectKey,
                ContentBody = content,
                IfNoneMatch = "*"
            };

            var putResult = await _amazonS3.PutObjectAsync(putObjectRequest);

```

```

        _logger.LogInformation($"Conditional write successful for key
{objectKey} in bucket {bucket}.");
        return putResult.ETag;
    }
    catch (AmazonS3Exception e)
    {
        if (e.ErrorCode == "PreconditionFailed")
        {
            _logger.LogError("Conditional write failed: Precondition failed");
        }
        else
        {
            _logger.LogError($"Unexpected error: {e.ErrorCode}");
            throw;
        }
        return string.Empty;
    }
}

/// <summary>
/// Copies an object from one Amazon S3 bucket to another with a conditional
request.
/// </summary>
/// <param name="sourceKey">The key of the source object to copy.</param>
/// <param name="destKey">The key of the destination object.</param>
/// <param name="sourceBucket">The source bucket of the object.</param>
/// <param name="destBucket">The destination bucket of the object.</param>
/// <param name="conditionType">The type of condition to apply, e.g.
'CopySourceIfMatch', 'CopySourceIfNoneMatch', 'CopySourceIfModifiedSince',
'CopySourceIfUnmodifiedSince'.</param>
/// <param name="conditionDateValue">The value to use for the condition for
dates.</param>
/// <param name="etagConditionalValue">The value to use for the condition for
etags.</param>
/// <returns>True if the conditional copy is successful, False otherwise.</
returns>
public async Task<bool> CopyObjectConditional(string sourceKey, string destKey,
string sourceBucket, string destBucket,
    S3ConditionType conditionType, DateTime? conditionDateValue = null, string?
etagConditionalValue = null)
{
    try
    {
        var copyObjectRequest = new CopyObjectRequest

```

```

        {
            DestinationBucket = destBucket,
            DestinationKey = destKey,
            SourceBucket = sourceBucket,
            SourceKey = sourceKey
        };

        switch (conditionType)
        {
            case S3ConditionType.IfMatch:
                copyObjectRequest.ETagToMatch = etagConditionalValue;
                break;
            case S3ConditionType.IfNoneMatch:
                copyObjectRequest.ETagToNotMatch = etagConditionalValue;
                break;
            case S3ConditionType.IfModifiedSince:
                copyObjectRequest.ModifiedSinceDateUtc =
conditionDateValue.GetValueOrDefault();
                break;
            case S3ConditionType.IfUnmodifiedSince:
                copyObjectRequest.UnmodifiedSinceDateUtc =
conditionDateValue.GetValueOrDefault();
                break;
            default:
                throw new ArgumentOutOfRangeException(nameof(conditionType),
conditionType, null);
        }

        await _amazonS3.CopyObjectAsync(copyObjectRequest);
        _logger.LogInformation($"Conditional copy successful for key {destKey}
in bucket {destBucket}.");
        return true;
    }
    catch (AmazonS3Exception e)
    {
        if (e.ErrorCode == "PreconditionFailed")
        {
            _logger.LogError("Conditional copy failed: Precondition failed");
        }
        else if (e.ErrorCode == "304")
        {
            _logger.LogError("Conditional copy failed: Object not modified");
        }
        else
    
```

```

        {
            _logger.LogError($"Unexpected error: {e.ErrorCode}");
            throw;
        }
        return false;
    }
}

/// <summary>
/// Create a new Amazon S3 bucket with a specified name and check that the
bucket is ready.
/// </summary>
/// <param name="bucketName">The name of the bucket to create.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> CreateBucketWithName(string bucketName)
{
    Console.WriteLine($"\\tCreating bucket {bucketName}.");
    try
    {
        var request = new PutBucketRequest
        {
            BucketName = bucketName,
            UseClientRegion = true
        };

        await _amazonS3.PutBucketAsync(request);
        var bucketReady = false;
        var retries = 5;
        while (!bucketReady && retries > 0)
        {
            Thread.Sleep(5000);
            bucketReady = await
Amazon.S3.Util.AmazonS3Util.DoesS3BucketExistV2Async(_amazonS3, bucketName);
            retries--;
        }

        return bucketReady;
    }
    catch (BucketAlreadyExistsException ex)
    {
        Console.WriteLine($"Bucket already exists: '{ex.Message}'");
        return true;
    }
    catch (AmazonS3Exception ex)

```

```

        {
            Console.WriteLine($"Error creating bucket: '{ex.Message}'");
            return false;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Cleans up objects and deletes the bucket by name.
    /// </summary>
    /// <param name="bucketName">The name of the bucket.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public async Task CleanupBucketByName(string bucketName)
    {
        try
        {
            var listObjectsResponse = await _amazonS3.ListObjectsV2Async(new
ListObjectsV2Request { BucketName = bucketName });
            foreach (var obj in listObjectsResponse.S3Objects)
            {
                await _amazonS3.DeleteObjectAsync(new DeleteObjectRequest
{ BucketName = bucketName, Key = obj.Key });
            }
            await _amazonS3.DeleteBucketAsync(new DeleteBucketRequest { BucketName =
bucketName });
            Console.WriteLine($"Cleaned up bucket: {bucketName}.");
        }
        catch (AmazonS3Exception e)
        {
            if (e.ErrorCode == "NoSuchBucket")
            {
                Console.WriteLine($"Bucket {bucketName} does not exist, skipping
cleanup.");
            }
            else
            {
                Console.WriteLine($"Error deleting bucket: {e.ErrorCode}");
                throw;
            }
        }
    }

    /// <summary>
    /// List the contents of the bucket with their ETag.
    /// </summary>

```

```
/// <param name="bucketName">The name of the bucket.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task<List<S3Object>> ListBucketContentsByName(string bucketName)
{
    var results = new List<S3Object>();
    try
    {
        Console.WriteLine($"\\t Items in bucket {bucketName}");
        var listObjectsResponse = await _amazonS3.ListObjectsV2Async(new
ListObjectsV2Request { BucketName = bucketName });
        if (listObjectsResponse.S3Objects.Count == 0)
        {
            Console.WriteLine($"\\t\\tNo objects found.");
        }
        else
        {
            foreach (var obj in listObjectsResponse.S3Objects)
            {
                Console.WriteLine($"\\t\\t object: {obj.Key} ETag {obj.ETag}");
            }
        }
        results = listObjectsResponse.S3Objects;
    }
    catch (AmazonS3Exception e)
    {
        if (e.ErrorCode == "NoSuchBucket")
        {
            _logger.LogError($"Bucket {bucketName} does not exist.");
        }
        else
        {
            _logger.LogError($"Error listing bucket and objects:
{e.ErrorCode}");
            throw;
        }
    }

    return results;
}

/// <summary>
/// Delete an object from a specific bucket.
/// </summary>
```

```

    /// <param name="bucketName">The Amazon S3 bucket to use.</param>
    /// <param name="objectKey">The key of the object to delete.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public async Task<bool> DeleteObjectFromBucket(string bucketName, string
objectKey)
    {
        try
        {
            var request = new DeleteObjectRequest()
            {
                BucketName = bucketName,
                Key = objectKey
            };
            await _amazonS3.DeleteObjectAsync(request);
            Console.WriteLine($"Deleted {objectKey} in {bucketName}.");
            return true;
        }
        catch (AmazonS3Exception ex)
        {
            Console.WriteLine($"Unable to delete object {objectKey} in bucket
{bucketName}: " + ex.Message);
            return false;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Delete a specific bucket by deleting the objects and then the bucket itself.
    /// </summary>
    /// <param name="bucketName">The Amazon S3 bucket to use.</param>
    /// <param name="objectKey">The key of the object to delete.</param>
    /// <param name="versionId">Optional versionId.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public async Task<bool> CleanUpBucketByName(string bucketName)
    {
        try
        {
            var allFiles = await ListBucketContentsByName(bucketName);

            foreach (var fileInfo in allFiles)
            {
                await DeleteObjectFromBucket(fileInfo.BucketName, fileInfo.Key);
            }

            var request = new DeleteBucketRequest() { BucketName = bucketName, };

```



```
        var response = await _amazonS3.DeleteBucketAsync(request);
        Console.WriteLine($"\\tDelete for {bucketName} complete.");
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (AmazonS3Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"\\tUnable to delete bucket {bucketName}: " +
ex.Message);
        return false;
    }
}
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
 - [CopyObject](#)
 - [GetObject](#)
 - [PutObject](#)

アクセスコントロールリスト (ACL) の管理

次のコード例は、Amazon S3 バケットのアクセスコントロールリスト (ACL) を管理する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;
```

```

    /// <summary>
    /// This example shows how to manage Amazon Simple Storage Service
    /// (Amazon S3) access control lists (ACLs) to control Amazon S3 bucket
    /// access.
    /// </summary>
    public class ManageACLs
    {
        public static async Task Main()
        {
            string bucketName = "amzn-s3-demo-bucket1";
            string newBucketName = "amzn-s3-demo-bucket2";
            string keyName = "sample-object.txt";
            string emailAddress = "someone@example.com";

            // If the AWS Region where your bucket is located is different from
            // the Region defined for the default user, pass the Amazon S3 bucket's
            // name to the client constructor. It should look like this:
            // RegionEndpoint bucketRegion = RegionEndpoint.USEast1;
            IAmazonS3 client = new AmazonS3Client();

            await TestBucketObjectACLsAsync(client, bucketName, newBucketName,
keyName, emailAddress);
        }

        /// <summary>
        /// Creates a new Amazon S3 bucket with a canned ACL, then retrieves the ACL
        /// information and then adds a new ACL to one of the objects in the
        /// Amazon S3 bucket.
        /// </summary>
        /// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used to
call
        /// methods to create a bucket, get an ACL, and add a different ACL to
        /// one of the objects.</param>
        /// <param name="bucketName">A string representing the original Amazon S3
        /// bucket name.</param>
        /// <param name="newBucketName">A string representing the name of the
        /// new bucket that will be created.</param>
        /// <param name="keyName">A string representing the key name of an Amazon S3
        /// object for which we will change the ACL.</param>
        /// <param name="emailAddress">A string representing the email address
        /// belonging to the person to whom access to the Amazon S3 bucket will be
        /// granted.</param>
        public static async Task TestBucketObjectACLsAsync(

```

```

        IAmazonS3 client,
        string bucketName,
        string newBucketName,
        string keyName,
        string emailAddress)
    {
        try
        {
            // Create a new Amazon S3 bucket and specify canned ACL.
            var success = await CreateBucketWithCannedACLAsync(client,
newBucketName);

            // Get the ACL on a bucket.
            await GetBucketACLAsync(client, bucketName);

            // Add (replace) the ACL on an object in a bucket.
            await AddACLToExistingObjectAsync(client, bucketName, keyName,
emailAddress);
        }
        catch (AmazonS3Exception amazonS3Exception)
        {
            Console.WriteLine($"Exception: {amazonS3Exception.Message}");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Creates a new Amazon S3 bucket with a canned ACL attached.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized client object used to call
    /// PutBucketAsync.</param>
    /// <param name="newBucketName">A string representing the name of the
    /// new Amazon S3 bucket.</param>
    /// <returns>Returns a boolean value indicating success or failure.</
returns>
    public static async Task<bool> CreateBucketWithCannedACLAsync(IAmazonS3
client, string newBucketName)
    {
        var request = new PutBucketRequest()
        {
            BucketName = newBucketName,
            BucketRegion = S3Region.EUWest1,

            // Add a canned ACL.
            CannedACL = S3CannedACL.LogDeliveryWrite,

```

```

        };

        var response = await client.PutBucketAsync(request);
        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }

    /// <summary>
    /// Retrieves the ACL associated with the Amazon S3 bucket name in the
    /// bucketName parameter.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized client object used to call
    /// PutBucketAsync.</param>
    /// <param name="bucketName">The Amazon S3 bucket for which we want to get
the
    /// ACL list.</param>
    /// <returns>Returns an S3AccessControllist returned from the call to
    /// GetACLAsync.</returns>
    public static async Task<S3AccessControllist> GetBucketACLAsync(IAmazonS3
client, string bucketName)
    {
        GetACLResponse response = await client.GetACLAsync(new GetACLRequest
        {
            BucketName = bucketName,
        });

        return response.AccessControllist;
    }

    /// <summary>
    /// Adds a new ACL to an existing object in the Amazon S3 bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized client object used to call
    /// PutBucketAsync.</param>
    /// <param name="bucketName">A string representing the name of the Amazon S3
    /// bucket containing the object to which we want to apply a new ACL.</
param>
    /// <param name="keyName">A string representing the name of the object
    /// to which we want to apply the new ACL.</param>
    /// <param name="emailAddress">The email address of the person to whom
    /// we will be applying to whom access will be granted.</param>

```

```
public static async Task AddACLToExistingObjectAsync(IAmazonS3 client,
string bucketName, string keyName, string emailAddress)
{
    // Retrieve the ACL for an object.
    GetACLResponse aclResponse = await client.GetACLAsync(new GetACLRequest
    {
        BucketName = bucketName,
        Key = keyName,
    });

    S3AccessControlList acl = aclResponse.AccessControlList;

    // Retrieve the owner.
    Owner owner = acl.Owner;

    // Clear existing grants.
    acl.Grants.Clear();

    // Add a grant to reset the owner's full permission
    // (the previous clear statement removed all permissions).
    var fullControlGrant = new S3Grant
    {
        Grantee = new S3Grantee { CanonicalUser = acl.Owner.Id },
    };
    acl.AddGrant(fullControlGrant.Grantee, S3Permission.FULL_CONTROL);

    // Specify email to identify grantee for granting permissions.
    var grantUsingEmail = new S3Grant
    {
        Grantee = new S3Grantee { EmailAddress = emailAddress },
        Permission = S3Permission.WRITE_ACP,
    };

    // Specify log delivery group as grantee.
    var grantLogDeliveryGroup = new S3Grant
    {
        Grantee = new S3Grantee { URI = "http://acs.amazonaws.com/groups/s3/
LogDelivery" },
        Permission = S3Permission.WRITE,
    };

    // Create a new ACL.
    var newAcl = new S3AccessControlList
    {
```

```
        Grants = new List<S3Grant> { grantUsingEmail,
grantLogDeliveryGroup },
        Owner = owner,
    };

    // Set the new ACL. We're throwing away the response here.
    _ = await client.PutACLAsync(new PutACLRequest
    {
        BucketName = bucketName,
        Key = keyName,
        AccessControlList = newAcl,
    });
}

}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
 - [GetBucketAcl](#)
 - [GetObjectAcl](#)
 - [PutBucketAcl](#)
 - [PutObjectAcl](#)

マルチパートコピーを実行する

次のコード例は、Amazon S3 オブジェクトのマルチパートコピーを実行する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Threading.Tasks;
```

```

using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Model;

/// <summary>
/// This example shows how to perform a multi-part copy from one Amazon
/// Simple Storage Service (Amazon S3) bucket to another.
/// </summary>
public class MPUapiCopyObj
{
    private const string SourceBucket = "amzn-s3-demo-bucket1";
    private const string TargetBucket = "amzn-s3-demo-bucket2";
    private const string SourceObjectKey = "example.mov";
    private const string TargetObjectKey = "copied_video_file.mov";

    /// <summary>
    /// This method starts the multi-part upload.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        var s3Client = new AmazonS3Client();
        Console.WriteLine("Copying object...");
        await MPUCopyObjectAsync(s3Client);
    }

    /// <summary>
    /// This method uses the passed client object to perform a multipart
    /// copy operation.
    /// </summary>
    /// <param name="client">An Amazon S3 client object that will be used
    /// to perform the copy.</param>
    public static async Task MPUCopyObjectAsync(AmazonS3Client client)
    {
        // Create a list to store the copy part responses.
        var copyResponses = new List<CopyPartResponse>();

        // Setup information required to initiate the multipart upload.
        var initiateRequest = new InitiateMultipartUploadRequest
        {
            BucketName = TargetBucket,
            Key = TargetObjectKey,
        };

        // Initiate the upload.
        InitiateMultipartUploadResponse initResponse =

```

```
        await client.InitiateMultipartUploadAsync(initiateRequest);

// Save the upload ID.
string uploadId = initResponse.UploadId;

try
{
    // Get the size of the object.
    var metadataRequest = new GetObjectMetadataRequest
    {
        BucketName = SourceBucket,
        Key = SourceObjectKey,
    };

    GetObjectMetadataResponse metadataResponse =
        await client.GetObjectMetadataAsync(metadataRequest);
    var objectSize = metadataResponse.ContentLength; // Length in bytes.

    // Copy the parts.
    var partSize = 5 * (long)Math.Pow(2, 20); // Part size is 5 MB.

    long bytePosition = 0;
    for (int i = 1; bytePosition < objectSize; i++)
    {
        var copyRequest = new CopyPartRequest
        {
            DestinationBucket = TargetBucket,
            DestinationKey = TargetObjectKey,
            SourceBucket = SourceBucket,
            SourceKey = SourceObjectKey,
            UploadId = uploadId,
            FirstByte = bytePosition,
            LastByte = bytePosition + partSize - 1 >= objectSize ?
objectSize - 1 : bytePosition + partSize - 1,
            PartNumber = i,
        };

        copyResponses.Add(await client.CopyPartAsync(copyRequest));

        bytePosition += partSize;
    }

    // Set up to complete the copy.
    var completeRequest = new CompleteMultipartUploadRequest
```



```
        {
            BucketName = TargetBucket,
            Key = TargetObjectKey,
            UploadId = initResponse.UploadId,
        };
        completeRequest.AddPartETags(copyResponses);

        // Complete the copy.
        CompleteMultipartUploadResponse completeUploadResponse =
            await client.CompleteMultipartUploadAsync(completeRequest);
    }
    catch (AmazonS3Exception e)
    {
        Console.WriteLine($"Error encountered on server.
Message: '{e.Message}' when writing an object");
    }
    catch (Exception e)
    {
        Console.WriteLine($"Unknown encountered on server.
Message: '{e.Message}' when writing an object");
    }
}
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
 - [CompleteMultipartUpload](#)
 - [CreateMultipartUpload](#)
 - [GetObjectMetadata](#)
 - [UploadPartCopy](#)

S3 Object Lambda でデータを変換する

次のコード例では、S3 Object Lambda でアプリケーションのデータを変換する方法を示しています。

SDK for .NET

オブジェクトがリクエストしたクライアントまたはアプリケーションのニーズに合うように、標準の S3 GET リクエストにカスタムコードを追加し、S3 から取得したリクエストされたオブジェクトを変更する方法を示しています。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Lambda
- Amazon S3

大きなファイルをアップロードまたはダウンロードする

次のコード例は、Amazon S3 との間で大きなファイルをアップロードまたはダウンロードする方法を示しています。

詳細については、「[マルチパートアップロードを使用したオブジェクトのアップロード](#)」を参照してください。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

Amazon S3 TransferUtility を使用して、S3 バケットとの間でファイルを転送する関数を呼び出します。

```
global using System.Text;
global using Amazon.S3;
global using Amazon.S3.Model;
global using Amazon.S3.Transfer;
global using TransferUtilityBasics;

// This Amazon S3 client uses the default user credentials
```

```
// defined for this computer.
using Microsoft.Extensions.Configuration;

IAmazonS3 client = new AmazonS3Client();
var transferUtil = new TransferUtility(client);
IConfiguration _configuration;

_configuration = new ConfigurationBuilder()
    .SetBasePath(Directory.GetCurrentDirectory())
    .AddJsonFile("settings.json") // Load test settings from JSON file.
    .AddJsonFile("settings.local.json",
        true) // Optionally load local settings.
    .Build();

// Edit the values in settings.json to use an S3 bucket and files that
// exist on your AWS account and on the local computer where you
// run this scenario.
var bucketName = _configuration["BucketName"];
var localPath =
    $"{Environment.GetFolderPath(Environment.SpecialFolder.ApplicationData)}\
\TransferFolder";

DisplayInstructions();

PressEnter();

Console.WriteLine();

// Upload a single file to an S3 bucket.
DisplayTitle("Upload a single file");

var fileToUpload = _configuration["FileToUpload"];
Console.WriteLine($"Uploading {fileToUpload} to the S3 bucket, {bucketName}.");

var success = await TransferMethods.UploadSingleFileAsync(transferUtil, bucketName,
    fileToUpload, localPath);
if (success)
{
    Console.WriteLine($"Successfully uploaded the file, {fileToUpload} to
    {bucketName}.");
}

PressEnter();
```

```
// Upload a local directory to an S3 bucket.
DisplayTitle("Upload all files from a local directory");
Console.WriteLine("Upload all the files in a local folder to an S3 bucket.");
const string keyPrefix = "UploadFolder";
var uploadPath = $"{localPath}\\UploadFolder";

Console.WriteLine($"Uploading the files in {uploadPath} to {bucketName}");
DisplayTitle($"{uploadPath} files");
DisplayLocalFiles(uploadPath);
Console.WriteLine();

PressEnter();

success = await TransferMethods.UploadFullDirectoryAsync(transferUtil, bucketName,
    keyPrefix, uploadPath);
if (success)
{
    Console.WriteLine($"Successfully uploaded the files in {uploadPath} to
{bucketName}.");
    Console.WriteLine($"{bucketName} currently contains the following files:");
    await DisplayBucketFiles(client, bucketName, keyPrefix);
    Console.WriteLine();
}

PressEnter();

// Download a single file from an S3 bucket.
DisplayTitle("Download a single file");
Console.WriteLine("Now we will download a single file from an S3 bucket.");

var keyName = _configuration["FileToDownload"];

Console.WriteLine($"Downloading {keyName} from {bucketName}.");

success = await TransferMethods.DownloadSingleFileAsync(transferUtil, bucketName,
    keyName, localPath);
if (success)
{
    Console.WriteLine($"Successfully downloaded the file, {keyName} from
{bucketName}.");
}

PressEnter();
```

```
// Download the contents of a directory from an S3 bucket.
DisplayTitle("Download the contents of an S3 bucket");
var s3Path = _configuration["S3Path"];
var downloadPath = $"{localPath}\\{s3Path}";

Console.WriteLine($"Downloading the contents of {bucketName}\\{s3Path}");
Console.WriteLine($"{bucketName}\\{s3Path} contains the following files:");
await DisplayBucketFiles(client, bucketName, s3Path);
Console.WriteLine();

success = await TransferMethods.DownloadS3DirectoryAsync(transferUtil, bucketName,
    s3Path, downloadPath);
if (success)
{
    Console.WriteLine($"Downloaded the files in {bucketName} to {downloadPath}.");
    Console.WriteLine($"{downloadPath} now contains the following files:");
    DisplayLocalFiles(downloadPath);
}

Console.WriteLine("\nThe TransferUtility Basics application has completed.");
PressEnter();

// Displays the title for a section of the scenario.
static void DisplayTitle(string titleText)
{
    var sepBar = new string('-', Console.WindowWidth);

    Console.WriteLine(sepBar);
    Console.WriteLine(CenterText(titleText));
    Console.WriteLine(sepBar);
}

// Displays a description of the actions to be performed by the scenario.
static void DisplayInstructions()
{
    var sepBar = new string('-', Console.WindowWidth);

    DisplayTitle("Amazon S3 Transfer Utility Basics");
    Console.WriteLine("This program shows how to use the Amazon S3 Transfer
Utility.");
    Console.WriteLine("It performs the following actions:");
    Console.WriteLine("\t1. Upload a single object to an S3 bucket.");
    Console.WriteLine("\t2. Upload an entire directory from the local computer to an
\n\t S3 bucket.");
}
```

```

        Console.WriteLine("\t3. Download a single object from an S3 bucket.");
        Console.WriteLine("\t4. Download the objects in an S3 bucket to a local
directory.");
        Console.WriteLine($"\\n{sepBar}");
    }

    // Pauses the scenario.
    static void PressEnter()
    {
        Console.WriteLine("Press <Enter> to continue.");
        _ = Console.ReadLine();
        Console.WriteLine("\\n");
    }

    // Returns the string textToCenter, padded on the left with spaces
    // that center the text on the console display.
    static string CenterText(string textToCenter)
    {
        var centeredText = new StringBuilder();
        var screenWidth = Console.WindowWidth;
        centeredText.Append(new string(' ', (int)(screenWidth - textToCenter.Length) /
2));
        centeredText.Append(textToCenter);
        return centeredText.ToString();
    }

    // Displays a list of file names included in the specified path.
    static void DisplayLocalFiles(string localPath)
    {
        var fileList = Directory.GetFiles(localPath);
        if (fileList.Length > 0)
        {
            foreach (var fileName in fileList)
            {
                Console.WriteLine(fileName);
            }
        }
    }

    // Displays a list of the files in the specified S3 bucket and prefix.
    static async Task DisplayBucketFiles(IAmazonS3 client, string bucketName, string
s3Path)
    {
        ListObjectsV2Request request = new()

```

```

{
    BucketName = bucketName,
    Prefix = s3Path,
    MaxKeys = 5,
};

var response = new ListObjectsV2Response();

do
{
    response = await client.ListObjectsV2Async(request);

    response.S3Objects
        .ForEach(obj => Console.WriteLine($"{obj.Key}"));

    // If the response is truncated, set the request ContinuationToken
    // from the NextContinuationToken property of the response.
    request.ContinuationToken = response.NextContinuationToken;
} while (response.IsTruncated);
}

```

1つのファイルをアップロードします。

```

/// <summary>
/// Uploads a single file from the local computer to an S3 bucket.
/// </summary>
/// <param name="transferUtil">The transfer initialized TransferUtility
/// object.</param>
/// <param name="bucketName">The name of the S3 bucket where the file
/// will be stored.</param>
/// <param name="fileName">The name of the file to upload.</param>
/// <param name="localPath">The local path where the file is stored.</param>
/// <returns>A boolean value indicating the success of the action.</returns>
public static async Task<bool> UploadSingleFileAsync(
    TransferUtility transferUtil,
    string bucketName,
    string fileName,
    string localPath)
{
    if (File.Exists($"{localPath}\\{fileName}"))

```

```

        {
            try
            {
                await transferUtil.UploadAsync(new TransferUtilityUploadRequest
                {
                    BucketName = bucketName,
                    Key = fileName,
                    FilePath = $"{localPath}\\{fileName}",
                });

                return true;
            }
            catch (AmazonS3Exception s3Ex)
            {
                Console.WriteLine($"Could not upload {fileName} from {localPath}
because:");
                Console.WriteLine(s3Ex.Message);
                return false;
            }
        }
        else
        {
            Console.WriteLine($"{fileName} does not exist in {localPath}");
            return false;
        }
    }
}

```

ローカルディレクトリ全体をアップロードします。

```

/// <summary>
/// Uploads all the files in a local directory to a directory in an S3
/// bucket.
/// </summary>
/// <param name="transferUtil">The transfer initialized TransferUtility
/// object.</param>
/// <param name="bucketName">The name of the S3 bucket where the files
/// will be stored.</param>
/// <param name="keyPrefix">The key prefix is the S3 directory where
/// the files will be stored.</param>
/// <param name="localPath">The local directory that contains the files
/// to be uploaded.</param>

```



```
    /// <returns>A Boolean value representing the success of the action.</
returns>
    public static async Task<bool> UploadFullDirectoryAsync(
        TransferUtility transferUtil,
        string bucketName,
        string keyPrefix,
        string localPath)
    {
        if (Directory.Exists(localPath))
        {
            try
            {
                await transferUtil.UploadDirectoryAsync(new
TransferUtilityUploadDirectoryRequest
                {
                    BucketName = bucketName,
                    KeyPrefix = keyPrefix,
                    Directory = localPath,
                });

                return true;
            }
            catch (AmazonS3Exception s3Ex)
            {
                Console.WriteLine($"Can't upload the contents of {localPath}
because:");

                Console.WriteLine(s3Ex?.Message);
                return false;
            }
        }
        else
        {
            Console.WriteLine($"The directory {localPath} does not exist.");
            return false;
        }
    }
}
```

1つのファイルをダウンロードします。

```
/// <summary>
```

```

/// Download a single file from an S3 bucket to the local computer.
/// </summary>
/// <param name="transferUtil">The transfer initialized TransferUtility
/// object.</param>
/// <param name="bucketName">The name of the S3 bucket containing the
/// file to download.</param>
/// <param name="keyName">The name of the file to download.</param>
/// <param name="localPath">The path on the local computer where the
/// downloaded file will be saved.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the results of the action.</returns>
public static async Task<bool> DownloadSingleFileAsync(
    TransferUtility transferUtil,
    string bucketName,
    string keyName,
    string localPath)
{
    await transferUtil.DownloadAsync(new TransferUtilityDownloadRequest
    {
        BucketName = bucketName,
        Key = keyName,
        FilePath = $"{localPath}\\{keyName}",
    });

    return (File.Exists($"{localPath}\\{keyName}"));
}

```

S3 バケットの内容をダウンロードします。

```

/// <summary>
/// Downloads the contents of a directory in an S3 bucket to a
/// directory on the local computer.
/// </summary>
/// <param name="transferUtil">The transfer initialized TransferUtility
/// object.</param>
param>
/// <param name="bucketName">The bucket containing the files to download.</
param>
/// <param name="s3Path">The S3 directory where the files are located.</
param>
/// <param name="localPath">The local path to which the files will be
/// saved.</param>

```

```
    /// <returns>A Boolean value representing the success of the action.</
returns>
    public static async Task<bool> DownloadS3DirectoryAsync(
        TransferUtility transferUtil,
        string bucketName,
        string s3Path,
        string localPath)
    {
        int fileCount = 0;

        // If the directory doesn't exist, it will be created.
        if (Directory.Exists(s3Path))
        {
            var files = Directory.GetFiles(localPath);
            fileCount = files.Length;
        }

        await transferUtil.DownloadDirectoryAsync(new
TransferUtilityDownloadDirectoryRequest
        {
            BucketName = bucketName,
            LocalDirectory = localPath,
            S3Directory = s3Path,
        });

        if (Directory.Exists(localPath))
        {
            var files = Directory.GetFiles(localPath);
            if (files.Length > fileCount)
            {
                return true;
            }

            // No change in the number of files. Assume
            // the download failed.
            return false;
        }

        // The local directory doesn't exist. No files
        // were downloaded.
        return false;
    }
}
```

TransferUtility を使用してアップロードの進行状況を追跡します。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Transfer;

/// <summary>
/// This example shows how to track the progress of a multipart upload
/// using the Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) TransferUtility to
/// upload to an Amazon S3 bucket.
/// </summary>
public class TrackMPUUsingHighLevelAPI
{
    public static async Task Main()
    {
        string bucketName = "amzn-s3-demo-bucket";
        string keyName = "sample_pic.png";
        string path = "filepath/directory/";
        string filePath = $"{path}{keyName}";

        // If the AWS Region defined for your default user is different
        // from the Region where your Amazon S3 bucket is located,
        // pass the Region name to the Amazon S3 client object's constructor.
        // For example: RegionEndpoint.USWest2 or RegionEndpoint.USEast2.
        IAmazonS3 client = new AmazonS3Client();

        await TrackMPUAsync(client, bucketName, filePath, keyName);
    }

    /// <summary>
    /// Starts an Amazon S3 multipart upload and assigns an event handler to
    /// track the progress of the upload.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon S3 client object used to
    /// perform the multipart upload.</param>
    /// <param name="bucketName">The name of the bucket to which to upload
    /// the file.</param>
    /// <param name="filePath">The path, including the file name of the
    /// file to be uploaded to the Amazon S3 bucket.</param>
    /// <param name="keyName">The file name to be used in the
```

```

    /// destination Amazon S3 bucket.</param>
    public static async Task TrackMPUAsync(
        IAmazonS3 client,
        string bucketName,
        string filePath,
        string keyName)
    {
        try
        {
            var fileTransferUtility = new TransferUtility(client);

            // Use TransferUtilityUploadRequest to configure options.
            // In this example we subscribe to an event.
            var uploadRequest =
                new TransferUtilityUploadRequest
                {
                    BucketName = bucketName,
                    FilePath = filePath,
                    Key = keyName,
                };

            uploadRequest.UploadProgressEvent +=
                new EventHandler<UploadProgressArgs>(
                    UploadRequest_UploadPartProgressEvent);

            await fileTransferUtility.UploadAsync(uploadRequest);
            Console.WriteLine("Upload completed");
        }
        catch (AmazonS3Exception ex)
        {
            Console.WriteLine($"Error:: {ex.Message}");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Event handler to check the progress of the multipart upload.
    /// </summary>
    /// <param name="sender">The object that raised the event.</param>
    /// <param name="e">The object that contains multipart upload
    /// information.</param>
    public static void UploadRequest_UploadPartProgressEvent(object sender,
        UploadProgressArgs e)
    {
        // Process event.
    }

```

```
        Console.WriteLine($"{e.TransferredBytes}/{e.TotalBytes}");  
    }  
}
```

暗号化したオブジェクトをアップロードします。

```
using System;  
using System.Collections.Generic;  
using System.IO;  
using System.Security.Cryptography;  
using System.Threading.Tasks;  
using Amazon.S3;  
using Amazon.S3.Model;  
  
/// <summary>  
/// Uses the Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) low level API to  
/// perform a multipart upload to an Amazon S3 bucket.  
/// </summary>  
public class SSECLowLevelMPUCopyObject  
{  
    public static async Task Main()  
    {  
        string existingBucketName = "amzn-s3-demo-bucket";  
        string sourceKeyName = "sample_file.txt";  
        string targetKeyName = "sample_file_copy.txt";  
        string filePath = $"sample\\{targetKeyName}";  
  
        // If the AWS Region defined for your default user is different  
        // from the Region where your Amazon S3 bucket is located,  
        // pass the Region name to the Amazon S3 client object's constructor.  
        // For example: RegionEndpoint.USEast1.  
        IAmazonS3 client = new AmazonS3Client();  
  
        // Create the encryption key.  
        var base64Key = CreateEncryptionKey();  
  
        await CreateSampleObjUsingClientEncryptionKeyAsync(  
            client,  
            existingBucketName,  
            sourceKeyName,  
            filePath,  
            base64Key);  
    }  
}
```

```

        base64Key);
    }

    /// <summary>
    /// Creates the encryption key to use with the multipart upload.
    /// </summary>
    /// <returns>A string containing the base64-encoded key for encrypting
    /// the multipart upload.</returns>
    public static string CreateEncryptionKey()
    {
        Aes aesEncryption = Aes.Create();
        aesEncryption.KeySize = 256;
        aesEncryption.GenerateKey();
        string base64Key = Convert.ToBase64String(aesEncryption.Key);
        return base64Key;
    }

    /// <summary>
    /// Creates and uploads an object using a multipart upload.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon S3 object used to
    /// initialize and perform the multipart upload.</param>
    /// <param name="existingBucketName">The name of the bucket to which
    /// the object will be uploaded.</param>
    /// <param name="sourceKeyName">The source object name.</param>
    /// <param name="filePath">The location of the source object.</param>
    /// <param name="base64Key">The encryption key to use with the upload.</
param>
    public static async Task CreateSampleObjUsingClientEncryptionKeyAsync(
        IAmazonS3 client,
        string existingBucketName,
        string sourceKeyName,
        string filePath,
        string base64Key)
    {
        List<UploadPartResponse> uploadResponses = new
List<UploadPartResponse>();

        InitiateMultipartUploadRequest initiateRequest = new
InitiateMultipartUploadRequest
        {
            BucketName = existingBucketName,
            Key = sourceKeyName,

```

```

        ServerSideEncryptionCustomerMethod =
ServerSideEncryptionCustomerMethod.AES256,
        ServerSideEncryptionCustomerProvidedKey = base64Key,
    };

    InitiateMultipartUploadResponse initResponse =
        await client.InitiateMultipartUploadAsync(initiateRequest);

    long contentLength = new FileInfo(filePath).Length;
    long partSize = 5 * (long)Math.Pow(2, 20); // 5 MB

    try
    {
        long filePosition = 0;
        for (int i = 1; filePosition < contentLength; i++)
        {
            UploadPartRequest uploadRequest = new UploadPartRequest
            {
                BucketName = existingBucketName,
                Key = sourceKeyName,
                UploadId = initResponse.UploadId,
                PartNumber = i,
                PartSize = partSize,
                FilePosition = filePosition,
                FilePath = filePath,
                ServerSideEncryptionCustomerMethod =
ServerSideEncryptionCustomerMethod.AES256,
                ServerSideEncryptionCustomerProvidedKey = base64Key,
            };

            // Upload part and add response to our list.
            uploadResponses.Add(await
client.UploadPartAsync(uploadRequest));

            filePosition += partSize;
        }

        CompleteMultipartUploadRequest completeRequest = new
CompleteMultipartUploadRequest
        {
            BucketName = existingBucketName,
            Key = sourceKeyName,
            UploadId = initResponse.UploadId,
        };
    }

```



```

        completeRequest.AddPartETags(uploadResponses);

        CompleteMultipartUploadResponse completeUploadResponse =
            await client.CompleteMultipartUploadAsync(completeRequest);
    }
    catch (Exception exception)
    {
        Console.WriteLine($"Exception occurred: {exception.Message}");

        // If there was an error, abort the multipart upload.
        AbortMultipartUploadRequest abortMPURequest = new
        AbortMultipartUploadRequest
        {
            BucketName = existingBucketName,
            Key = sourceKeyName,
            UploadId = initResponse.UploadId,
        };

        await client.AbortMultipartUploadAsync(abortMPURequest);
    }
}

```

サーバーレスサンプル

Amazon S3 トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、S3 バケットにオブジェクトをアップロードすることによってトリガーされるイベントを受け取る Lambda 関数を実装する方法を示しています。この関数は、イベントパラメータから S3 バケット名とオブジェクトキーを取得し、Amazon S3 API を呼び出してオブジェクトのコンテンツタイプを取得してログに記録します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を検索し、設定および実行の方法を確認してください。

.NET を使用して Lambda で S3 イベントを消費します。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Lambda.Core;
using Amazon.S3;
using System;
using Amazon.Lambda.S3Events;
using System.Web;

// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
// into a .NET class.
[assembly: LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace S3Integration
{
    public class Function
    {
        private static AmazonS3Client _s3Client;
        public Function() : this(null)
        {
        }

        internal Function(AmazonS3Client s3Client)
        {
            _s3Client = s3Client ?? new AmazonS3Client();
        }

        public async Task<string> Handler(S3Event evt, ILambdaContext context)
        {
            try
            {
                if (evt.Records.Count <= 0)
                {
                    context.Logger.LogLine("Empty S3 Event received");
                    return string.Empty;
                }

                var bucket = evt.Records[0].S3.Bucket.Name;
                var key = HttpUtility.UrlDecode(evt.Records[0].S3.Object.Key);

                context.Logger.LogLine($"Request is for {bucket} and {key}");
            }
        }
    }
}
```

```
        var objectResult = await _s3Client.GetObjectAsync(bucket, key);

        context.Logger.LogLine($"Returning {objectResult.Key}");

        return objectResult.Key;
    }
    catch (Exception e)
    {
        context.Logger.LogLine($"Error processing request - {e.Message}");

        return string.Empty;
    }
}
}
```

を使用した SageMaker AI の例 SDK for .NET

次のコード例は、SageMaker AI AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [はじめに](#)
- [アクション](#)
- [シナリオ](#)

はじめに

Hello SageMaker AI

次のコード例は、SageMaker AI の使用を開始する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using Amazon.SageMaker;
using Amazon.SageMaker.Model;

namespace SageMakerActions;

public static class HelloSageMaker
{
    static async Task Main(string[] args)
    {
        var sageMakerClient = new AmazonSageMakerClient();

        Console.WriteLine($"Hello Amazon SageMaker! Let's list some of your notebook instances:");
        Console.WriteLine();

        // You can use await and any of the async methods to get a response.
        // Let's get the first five notebook instances.
        var response = await sageMakerClient.ListNotebookInstancesAsync(
            new ListNotebookInstancesRequest()
            {
                MaxResults = 5
            });

        if (!response.NotebookInstances.Any())
        {
            Console.WriteLine($"No notebook instances found.");
        }
    }
}
```

```

        Console.WriteLine("See https://docs.aws.amazon.com/sagemaker/latest/dg/
howitworks-create-ws.html to create one.");
    }

    foreach (var notebookInstance in response.NotebookInstances)
    {
        Console.WriteLine($"Instance:
{notebookInstance.NotebookInstanceName}");
        Console.WriteLine($"Arn: {notebookInstance.NotebookInstanceArn}");
        Console.WriteLine($"Creation Date:
{notebookInstance.CreationTime.ToShortDateString()}");
        Console.WriteLine();
    }
}
}

```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListNotebookInstances](#)」を参照してください。

アクション

CreatePipeline

次のコード例は、CreatePipeline を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

/// <summary>
/// Create a pipeline from a JSON definition, or update it if the pipeline
already exists.
/// </summary>
/// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the pipeline.</returns>
public async Task<string> SetupPipeline(string pipelineJson, string roleArn,
string name, string description, string displayName)

```

```
{
    try
    {
        var updateResponse = await _amazonSageMaker.UpdatePipelineAsync(
            new UpdatePipelineRequest()
            {
                PipelineDefinition = pipelineJson,
                PipelineDescription = description,
                PipelineDisplayName = displayName,
                PipelineName = name,
                RoleArn = roleArn
            });
        return updateResponse.PipelineArn;
    }
    catch (Amazon.SageMaker.Model.ResourceNotFoundException)
    {
        var createResponse = await _amazonSageMaker.CreatePipelineAsync(
            new CreatePipelineRequest()
            {
                PipelineDefinition = pipelineJson,
                PipelineDescription = description,
                PipelineDisplayName = displayName,
                PipelineName = name,
                RoleArn = roleArn
            });
        return createResponse.PipelineArn;
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreatePipeline](#)」を参照してください。

DeletePipeline

次のコード例は、DeletePipeline を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete a SageMaker pipeline by name.
/// </summary>
/// <param name="pipelineName">The name of the pipeline to delete.</param>
/// <returns>The ARN of the pipeline.</returns>
public async Task<string> DeletePipelineByName(string pipelineName)
{
    var deleteResponse = await _amazonSageMaker.DeletePipelineAsync(
        new DeletePipelineRequest()
        {
            PipelineName = pipelineName
        });

    return deleteResponse.PipelineArn;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeletePipeline](#)」を参照してください。

DescribePipelineExecution

次のコード例は、DescribePipelineExecution を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Check the status of a run.
/// </summary>
/// <param name="pipelineExecutionArn">The ARN.</param>
/// <returns>The status of the pipeline.</returns>
public async Task<PipelineExecutionStatus> CheckPipelineExecutionStatus(string
pipelineExecutionArn)
{
    var describeResponse = await
_amazonSageMaker.DescribePipelineExecutionAsync(
    new DescribePipelineExecutionRequest()
    {
        PipelineExecutionArn = pipelineExecutionArn
    });

    return describeResponse.PipelineExecutionStatus;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribePipelineExecution](#)」を参照してください。

StartPipelineExecution

次のコード例は、StartPipelineExecution を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Run a pipeline with input and output file locations.
/// </summary>
/// <param name="queueUrl">The URL for the queue to use for pipeline
callbacks.</param>
/// <param name="inputLocationUrl">The input location in Amazon Simple Storage
Service (Amazon S3).</param>
```



```

/// <param name="outputLocationUrl">The output location in Amazon S3.</param>
/// <param name="pipelineName">The name of the pipeline.</param>
/// <param name="executionRoleArn">The ARN of the role.</param>
/// <returns>The ARN of the pipeline run.</returns>
public async Task<string> ExecutePipeline(
    string queueUrl,
    string inputLocationUrl,
    string outputLocationUrl,
    string pipelineName,
    string executionRoleArn)
{
    var inputConfig = new VectorEnrichmentJobInputConfig()
    {
        DataSourceConfig = new()
        {
            S3Data = new VectorEnrichmentJobS3Data()
            {
                S3Uri = inputLocationUrl
            }
        },
        DocumentType = VectorEnrichmentJobDocumentType.CSV
    };

    var exportConfig = new ExportVectorEnrichmentJobOutputConfig()
    {
        S3Data = new VectorEnrichmentJobS3Data()
        {
            S3Uri = outputLocationUrl
        }
    };

    var jobConfig = new VectorEnrichmentJobConfig()
    {
        ReverseGeocodingConfig = new ReverseGeocodingConfig()
        {
            XAttributeName = "Longitude",
            YAttributeName = "Latitude"
        }
    };

#pragma warning disable SageMaker1002 // Property value does not match required
    pattern is allowed here to match the pipeline definition.
    var startExecutionResponse = await
        _amazonSageMaker.StartPipelineExecutionAsync(

```

```

        new StartPipelineExecutionRequest()
        {
            PipelineName = pipelineName,
            PipelineExecutionDisplayName = pipelineName + "-example-execution",
            PipelineParameters = new List<Parameter>()
            {
                new Parameter() { Name = "parameter_execution_role", Value =
executionRoleArn },
                new Parameter() { Name = "parameter_queue_url", Value =
queueUrl },
                new Parameter() { Name = "parameter_vej_input_config", Value =
JsonSerializer.Serialize(inputConfig) },
                new Parameter() { Name = "parameter_vej_export_config", Value =
JsonSerializer.Serialize(exportConfig) },
                new Parameter() { Name = "parameter_step_1_vej_config", Value =
JsonSerializer.Serialize(jobConfig) }
            }
        });
#pragma warning restore SageMaker1002
        return startExecutionResponse.PipelineExecutionArn;
    }

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[StartPipelineExecution](#)」を参照してください。

UpdatePipeline

次のコード例は、UpdatePipeline を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

/// <summary>
/// Create a pipeline from a JSON definition, or update it if the pipeline
already exists.

```

```
/// </summary>
/// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the pipeline.</returns>
public async Task<string> SetupPipeline(string pipelineJson, string roleArn,
string name, string description, string displayName)
{
    try
    {
        var updateResponse = await _amazonSageMaker.UpdatePipelineAsync(
            new UpdatePipelineRequest()
            {
                PipelineDefinition = pipelineJson,
                PipelineDescription = description,
                PipelineDisplayName = displayName,
                PipelineName = name,
                RoleArn = roleArn
            });
        return updateResponse.PipelineArn;
    }
    catch (Amazon.SageMaker.Model.ResourceNotFoundException)
    {
        var createResponse = await _amazonSageMaker.CreatePipelineAsync(
            new CreatePipelineRequest()
            {
                PipelineDefinition = pipelineJson,
                PipelineDescription = description,
                PipelineDisplayName = displayName,
                PipelineName = name,
                RoleArn = roleArn
            });
        return createResponse.PipelineArn;
    }
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[UpdatePipeline](#)」を参照してください。

シナリオ

地理空間ジョブとパイプラインの使用を開始する

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- パイプラインのリソースを設定します。
- 地理空間ジョブを実行するパイプラインを設定します。
- パイプラインの実行を開始します。
- ジョブ実行のステータスをモニタリングします。
- パイプラインの出力を表示します。
- リソースをクリーンアップします。

詳細については、[「Community.aws で SDK を使用して SageMaker パイプラインを作成および実行する AWS SDKs」](#)を参照してください。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

SageMaker AI オペレーションをラップするクラスを作成します。

```
using System.Text.Json;
using Amazon.SageMaker;
using Amazon.SageMaker.Model;
using Amazon.SageMakerGeospatial;
using Amazon.SageMakerGeospatial.Model;

namespace SageMakerActions;

/// <summary>
/// Wrapper class for Amazon SageMaker actions and logic.
/// </summary>
public class SageMakerWrapper
```

```

{
    private readonly IAmazonSageMaker _amazonSageMaker;
    public SageMakerWrapper(IAmazonSageMaker amazonSageMaker)
    {
        _amazonSageMaker = amazonSageMaker;
    }

    /// <summary>
    /// Create a pipeline from a JSON definition, or update it if the pipeline
    already exists.
    /// </summary>
    /// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the pipeline.</returns>
    public async Task<string> SetupPipeline(string pipelineJson, string roleArn,
string name, string description, string displayName)
    {
        try
        {
            var updateResponse = await _amazonSageMaker.UpdatePipelineAsync(
                new UpdatePipelineRequest()
                {
                    PipelineDefinition = pipelineJson,
                    PipelineDescription = description,
                    PipelineDisplayName = displayName,
                    PipelineName = name,
                    RoleArn = roleArn
                });
            return updateResponse.PipelineArn;
        }
        catch (Amazon.SageMaker.Model.ResourceNotFoundException)
        {
            var createResponse = await _amazonSageMaker.CreatePipelineAsync(
                new CreatePipelineRequest()
                {
                    PipelineDefinition = pipelineJson,
                    PipelineDescription = description,
                    PipelineDisplayName = displayName,
                    PipelineName = name,
                    RoleArn = roleArn
                });
            return createResponse.PipelineArn;
        }
    }
}

```

```

    /// <summary>
    /// Run a pipeline with input and output file locations.
    /// </summary>
    /// <param name="queueUrl">The URL for the queue to use for pipeline
callbacks.</param>
    /// <param name="inputLocationUrl">The input location in Amazon Simple Storage
Service (Amazon S3).</param>
    /// <param name="outputLocationUrl">The output location in Amazon S3.</param>
    /// <param name="pipelineName">The name of the pipeline.</param>
    /// <param name="executionRoleArn">The ARN of the role.</param>
    /// <returns>The ARN of the pipeline run.</returns>
    public async Task<string> ExecutePipeline(
        string queueUrl,
        string inputLocationUrl,
        string outputLocationUrl,
        string pipelineName,
        string executionRoleArn)
    {
        var inputConfig = new VectorEnrichmentJobInputConfig()
        {
            DataSourceConfig = new()
            {
                S3Data = new VectorEnrichmentJobS3Data()
                {
                    S3Uri = inputLocationUrl
                }
            },
            DocumentType = VectorEnrichmentJobDocumentType.CSV
        };

        var exportConfig = new ExportVectorEnrichmentJobOutputConfig()
        {
            S3Data = new VectorEnrichmentJobS3Data()
            {
                S3Uri = outputLocationUrl
            }
        };

        var jobConfig = new VectorEnrichmentJobConfig()
        {
            ReverseGeocodingConfig = new ReverseGeocodingConfig()
            {
                XAttributeName = "Longitude",
                YAttributeName = "Latitude"
            }
        }
    }

```

```

    }
};

#pragma warning disable SageMaker1002 // Property value does not match required
pattern is allowed here to match the pipeline definition.
    var startExecutionResponse = await
    _amazonSageMaker.StartPipelineExecutionAsync(
        new StartPipelineExecutionRequest()
        {
            PipelineName = pipelineName,
            PipelineExecutionDisplayName = pipelineName + "-example-execution",
            PipelineParameters = new List<Parameter>()
            {
                new Parameter() { Name = "parameter_execution_role", Value =
executionRoleArn },
                new Parameter() { Name = "parameter_queue_url", Value =
queueUrl },
                new Parameter() { Name = "parameter_vej_input_config", Value =
JsonSerializer.Serialize(inputConfig) },
                new Parameter() { Name = "parameter_vej_export_config", Value =
JsonSerializer.Serialize(exportConfig) },
                new Parameter() { Name = "parameter_step_1_vej_config", Value =
JsonSerializer.Serialize(jobConfig) }
            }
        });
    return startExecutionResponse.PipelineExecutionArn;
}

/// <summary>
/// Check the status of a run.
/// </summary>
/// <param name="pipelineExecutionArn">The ARN.</param>
/// <returns>The status of the pipeline.</returns>
public async Task<PipelineExecutionStatus> CheckPipelineExecutionStatus(string
pipelineExecutionArn)
{
    var describeResponse = await
    _amazonSageMaker.DescribePipelineExecutionAsync(
        new DescribePipelineExecutionRequest()
        {
            PipelineExecutionArn = pipelineExecutionArn
        });
}

```

```

        return describeResponse.PipelineExecutionStatus;
    }

    /// <summary>
    /// Delete a SageMaker pipeline by name.
    /// </summary>
    /// <param name="pipelineName">The name of the pipeline to delete.</param>
    /// <returns>The ARN of the pipeline.</returns>
    public async Task<string> DeletePipelineByName(string pipelineName)
    {
        var deleteResponse = await _amazonSageMaker.DeletePipelineAsync(
            new DeletePipelineRequest()
            {
                PipelineName = pipelineName
            });

        return deleteResponse.PipelineArn;
    }
}

```

SageMaker Ai パイプラインからのコールバックを処理する関数を作成します。

```

using System.Text.Json;
using Amazon.Lambda.Core;
using Amazon.Lambda.SQSEvents;
using Amazon.SageMaker;
using Amazon.SageMaker.Model;
using Amazon.SageMakerGeospatial;
using Amazon.SageMakerGeospatial.Model;

// Assembly attribute to enable the AWS Lambda function's JSON input to be converted
// into a .NET class.
[assembly:
    LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace SageMakerLambda;

/// <summary>
/// The AWS Lambda function handler for the Amazon SageMaker pipeline.
/// </summary>
public class SageMakerLambdaFunction

```



```

{
    /// <summary>
    /// Default constructor. This constructor is used by AWS Lambda to construct the
    instance. When invoked in a Lambda environment
    /// the AWS credentials will come from the AWS Identity and Access Management
    (IAM) role associated with the function. The AWS Region will be set to the
    /// Region that the Lambda function is running in.
    /// </summary>
    public SageMakerLambdaFunction()
    {
    }

    /// <summary>
    /// The AWS Lambda function handler that processes events from the SageMaker
    pipeline and starts a job or export.
    /// </summary>
    /// <param name="request">The custom SageMaker pipeline request object.</param>
    /// <param name="context">The Lambda context.</param>
    /// <returns>The dictionary of output parameters.</returns>
    public async Task<Dictionary<string, string>> FunctionHandler(PipelineRequest
    request, ILambdaContext context)
    {
        var geoSpatialClient = new AmazonSageMakerGeospatialClient();
        var sageMakerClient = new AmazonSageMakerClient();
        var responseDictionary = new Dictionary<string, string>();
        context.Logger.LogInformation("Function handler started with request: " +
    JsonSerializer.Serialize(request));
        if (request.Records != null && request.Records.Any())
        {
            context.Logger.LogInformation("Records found, this is a queue event.
    Processing the queue records.");
            foreach (var message in request.Records)
            {
                await ProcessMessageAsync(message, context, geoSpatialClient,
    sageMakerClient);
            }
        }
        else if (!string.IsNullOrEmpty(request.vej_export_config))
        {
            context.Logger.LogInformation("Export configuration found, this is an
    export. Start the Vector Enrichment Job (VEJ) export.");

            var outputConfig =
                JsonSerializer.Deserialize<ExportVectorEnrichmentJobOutputConfig>(

```

```

        request.vej_export_config);

        var exportResponse = await
geoSpatialClient.ExportVectorEnrichmentJobAsync(
    new ExportVectorEnrichmentJobRequest()
    {
        Arn = request.vej_arn,
        ExecutionRoleArn = request.Role,
        OutputConfig = outputConfig
    });
    context.Logger.LogInformation($"Export response:
{JsonSerializer.Serialize(exportResponse)}");
    responseDictionary = new Dictionary<string, string>
    {
        { "export_eoj_status", exportResponse.ExportStatus.ToString() },
        { "vej_arn", exportResponse.Arn }
    };
}
else if (!string.IsNullOrEmpty(request.vej_name))
{
    context.Logger.LogInformation("Vector Enrichment Job name found,
starting the job.");
    var inputConfig =
        JsonSerializer.Deserialize<VectorEnrichmentJobInputConfig>(
            request.vej_input_config);

    var jobConfig =
        JsonSerializer.Deserialize<VectorEnrichmentJobConfig>(
            request.vej_config);

    var jobResponse = await geoSpatialClient.StartVectorEnrichmentJobAsync(
        new StartVectorEnrichmentJobRequest()
        {
            ExecutionRoleArn = request.Role,
            InputConfig = inputConfig,
            Name = request.vej_name,
            JobConfig = jobConfig
        });
    context.Logger.LogInformation("Job response: " +
JsonSerializer.Serialize(jobResponse));
    responseDictionary = new Dictionary<string, string>
    {
        { "vej_arn", jobResponse.Arn },

```

```

        { "statusCode", jobResponse.HttpStatusCode.ToString() }
    };
}
return responseDictionary;
}

/// <summary>
/// Process a queue message and check the status of a SageMaker job.
/// </summary>
/// <param name="message">The queue message.</param>
/// <param name="context">The Lambda context.</param>
/// <param name="geoClient">The SageMaker GeoSpatial client.</param>
/// <param name="sageMakerClient">The SageMaker client.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
private async Task ProcessMessageAsync(SQSEvent.SQSMessage message,
ILambdaContext context,
    AmazonSageMakerGeospatialClient geoClient, AmazonSageMakerClient
sageMakerClient)
{
    context.Logger.LogInformation($"Processed message {message.Body}");

    // Get information about the SageMaker job.
    var payload = JsonSerializer.Deserialize<QueuePayload>(message.Body);
    context.Logger.LogInformation($"Payload token {payload!.token}");
    var token = payload.token;

    if (payload.arguments.ContainsKey("vej_arn"))
    {
        // Use the job ARN and the token to get the job status.
        var job_arn = payload.arguments["vej_arn"];
        context.Logger.LogInformation($"Token: {token}, arn {job_arn}");

        var jobInfo = geoClient.GetVectorEnrichmentJobAsync(
            new GetVectorEnrichmentJobRequest()
            {
                Arn = job_arn
            });
        context.Logger.LogInformation("Job info: " +
JsonSerializer.Serialize(jobInfo));
        if (jobInfo.Result.Status == VectorEnrichmentJobStatus.COMPLETED)
        {
            context.Logger.LogInformation($"Status completed, resuming
pipeline...");
            await sageMakerClient.SendPipelineExecutionStepSuccessAsync(

```

```

        new SendPipelineExecutionStepSuccessRequest()
        {
            CallbackToken = token,
            OutputParameters = new List<OutputParameter>()
            {
                new OutputParameter()
                { Name = "export_status", Value =
jobInfo.Result.Status }
            }
        });
    }
    else if (jobInfo.Result.Status == VectorEnrichmentJobStatus.FAILED)
    {
        context.Logger.LogInformation($"Status failed, stopping
pipeline...");
        await sageMakerClient.SendPipelineExecutionStepFailureAsync(
            new SendPipelineExecutionStepFailureRequest()
            {
                CallbackToken = token,
                FailureReason = jobInfo.Result.ErrorDetails.ErrorMessage
            });
    }
    else if (jobInfo.Result.Status == VectorEnrichmentJobStatus.IN_PROGRESS)
    {
        // Put this message back in the queue to reprocess later.
        context.Logger.LogInformation(
            $"Status still in progress, check back later.");
        throw new("Job still running.");
    }
}
}
}
}

```

コマンドプロンプトからインタラクティブなシナリオを実行します。

```

public static class PipelineWorkflow
{
    public static IAMazonIdentityManagementService _iamClient = null!;
    public static SageMakerWrapper _sageMakerWrapper = null!;
    public static IAMazonSQS _sqsClient = null!;
    public static IAMazonS3 _s3Client = null!;
    public static IAMazonLambda _lambdaClient = null!;
}

```

```

public static IConfiguration _configuration = null!;

public static string lambdaFunctionName = "SageMakerExampleFunction";
public static string sageMakerRoleName = "SageMakerExampleRole";
public static string lambdaRoleName = "SageMakerExampleLambdaRole";

private static string[] lambdaRolePolicies = null!;
private static string[] sageMakerRolePolicies = null!;

static async Task Main(string[] args)
{
    var options = new AWSOptions() { Region = RegionEndpoint.USSouth1 };
    // Set up dependency injection for the AWS service.
    using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
        .ConfigureLogging(logging =>
            logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
                .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
LogLevel.Information)
                .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
        .ConfigureServices((_, services) =>
            services.AddAWSService<IAmazonIdentityManagementService>(options)
                .AddAWSService<IAmazonEC2>(options)
                .AddAWSService<IAmazonSageMaker>(options)
                .AddAWSService<IAmazonSageMakerGeospatial>(options)
                .AddAWSService<IAmazonSQS>(options)
                .AddAWSService<IAmazonS3>(options)
                .AddAWSService<IAmazonLambda>(options)
                .AddTransient<SageMakerWrapper>()
        )
        .Build();

    _configuration = new ConfigurationBuilder()
        .SetBasePath(Directory.GetCurrentDirectory())
        .AddJsonFile("settings.json") // Load settings from .json file.
        .AddJsonFile("settings.local.json",
            true) // Optionally, load local settings.
        .Build();

    ServicesSetup(host);
    string queueUrl = "";
    string queueName = _configuration["queueName"];
    string bucketName = _configuration["bucketName"];
    var pipelineName = _configuration["pipelineName"];

```

```

    try
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine(
            "Welcome to the Amazon SageMaker pipeline example scenario.");
        Console.WriteLine(
            "\nThis example scenario will guide you through setting up and
running an" +
            "\nAmazon SageMaker pipeline. The pipeline uses an AWS Lambda
function and an" +
            "\nAmazon SQS Queue. It runs a vector enrichment reverse geocode job
to" +
            "\nreverse geocode addresses in an input file and store the results
in an export file.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine(
            "First, we will set up the roles, functions, and queue needed by the
SageMaker pipeline.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        var lambdaRoleArn = await CreateLambdaRole();
        var sageMakerRoleArn = await CreateSageMakerRole();
        var functionArn = await SetupLambda(lambdaRoleArn, true);
        queueUrl = await SetupQueue(queueName);
        await SetupBucket(bucketName);

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Now we can create and run our pipeline.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        await SetupPipeline(sageMakerRoleArn, functionArn, pipelineName);
        var executionArn = await ExecutePipeline(queueUrl, sageMakerRoleArn,
pipelineName, bucketName);
        await WaitForPipelineExecution(executionArn);

        await GetOutputResults(bucketName);

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("The pipeline has completed. To view the pipeline and
runs " +
            "in SageMaker Studio, follow these instructions:" +

```

```

        "\nhttps://docs.aws.amazon.com/sagemaker/latest/dg/
pipelines-studio.html");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Finally, let's clean up our resources.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        await CleanupResources(true, queueUrl, pipelineName, bucketName);

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("SageMaker pipeline scenario is complete.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"There was a problem running the scenario:
{ex.Message}");
        await CleanupResources(true, queueUrl, pipelineName, bucketName);
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
}

/// <summary>
/// Populate the services for use within the console application.
/// </summary>
/// <param name="host">The services host.</param>
private static void ServicesSetup(IHost host)
{
    _sageMakerWrapper = host.Services.GetRequiredService<SageMakerWrapper>();
    _iamClient =
host.Services.GetRequiredService<IAmazonIdentityManagementService>();
    _sqsClient = host.Services.GetRequiredService<IAmazonSQS>();
    _s3Client = host.Services.GetRequiredService<IAmazonS3>();
    _lambdaClient = host.Services.GetRequiredService<IAmazonLambda>();
}

/// <summary>
/// Set up AWS Lambda, either by updating an existing function or creating a new
function.
/// </summary>
/// <param name="roleArn">The role Amazon Resource Name (ARN) to use for the
Lambda function.</param>

```

```

/// <param name="askUser">True to ask the user before updating.</param>
/// <returns>The ARN of the function.</returns>
public static async Task<string> SetupLambda(string roleArn, bool askUser)
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("Setting up the Lambda function for the pipeline.");
    var handlerName =
        "SageMakerLambda::SageMakerLambda.SageMakerLambdaFunction::FunctionHandler";
    var functionArn = "";
    try
    {
        var functionInfo = await _lambdaClient.GetFunctionAsync(new
        GetFunctionRequest()
        {
            FunctionName = lambdaFunctionName
        });

        var updateFunction = true;
        if (askUser)
        {
            updateFunction = GetYesNoResponse(
                $"\\tThe Lambda function {lambdaFunctionName} already exists, do
you want to update it?");
        }

        if (updateFunction)
        {
            // Update the Lambda function.
            using var zipMemoryStream = new MemoryStream(await
            File.ReadAllBytesAsync("SageMakerLambda.zip"));
            await _lambdaClient.UpdateFunctionCodeAsync(
                new UpdateFunctionCodeRequest()
                {
                    FunctionName = lambdaFunctionName,
                    ZipFile = zipMemoryStream,
                });
        }

        functionArn = functionInfo.Configuration.FunctionArn;
    }
    catch (ResourceNotFoundException)
    {
        Console.WriteLine($"\\tThe Lambda function {lambdaFunctionName} was not
found, creating the new function.");
    }
}

```



```

        // Create the function if it does not already exist.
        using var zipMemoryStream = new MemoryStream(await
File.ReadAllBytesAsync("SageMakerLambda.zip"));
        var createResult = await _lambdaClient.CreateFunctionAsync(
            new CreateFunctionRequest()
            {
                FunctionName = lambdaFunctionName,
                Runtime = Runtime.Dotnet6,
                Description = "SageMaker example function.",
                Code = new FunctionCode()
                {
                    ZipFile = zipMemoryStream
                },
                Handler = handlerName,
                Role = roleArn,
                Timeout = 30
            });

        functionArn = createResult.FunctionArn;
    }

    Console.WriteLine($"\\tLambda ready with ARN {functionArn}.");
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    return functionArn;
}

/// <summary>
/// Create a role to be used by AWS Lambda. Does not create the role if it
already exists.
/// </summary>
/// <returns>The role ARN.</returns>
public static async Task<string> CreateLambdaRole()
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));

    lambdaRolePolicies = new string[]{
        "arn:aws:iam::aws:policy/AmazonSageMakerFullAccess",
        "arn:aws:iam::aws:policy/AmazonSQSFullAccess",
        "arn:aws:iam::aws:policy/service-role/" +
"AmazonSageMakerGeospatialFullAccess",
        "arn:aws:iam::aws:policy/service-role/" +
"AmazonSageMakerServiceCatalogProductsLambdaServiceRolePolicy",
    };
}

```

```

        "arn:aws:iam::aws:policy/service-role/" +
        "AWSLambdaSQSQueueExecutionRole"
    };

    var roleArn = await GetRoleArnIfExists(lambdaRoleName);
    if (!string.IsNullOrEmpty(roleArn))
    {
        return roleArn;
    }

    Console.WriteLine("\tCreating a role to for AWS Lambda to use.");

    var assumeRolePolicy = "{" +
        "\"Version\": \"2012-10-17\"," +
        "\"Statement\": [{" +
            "\"Effect\": \"Allow\"," +
            "\"Principal\": {" +
                "\"Service\": [" +
                    "\"sagemaker.amazonaws.com\"," +
                    "\"sagemaker-geospatial.amazonaws.com"
\"," +
                    "\"lambda.amazonaws.com\"," +
                    "\"s3.amazonaws.com\"" +
                "]" +
            }," +
            "\"Action\": \"sts:AssumeRole\"" +
        }]" +
    "};

    var roleResult = await _iamClient!.CreateRoleAsync(
        new CreateRoleRequest()
        {
            AssumeRolePolicyDocument = assumeRolePolicy,
            Path = "/",
            RoleName = lambdaRoleName
        });
    foreach (var policy in lambdaRolePolicies)
    {
        await _iamClient.AttachRolePolicyAsync(
            new AttachRolePolicyRequest()
            {
                PolicyArn = policy,
                RoleName = lambdaRoleName
            });
    }

```

```

    }

    // Allow time for the role to be ready.
    Thread.Sleep(10000);
    Console.WriteLine($"\\tRole ready with ARN {roleResult.Role.Arn}.");
    Console.WriteLine(new string('-', 80));

    return roleResult.Role.Arn;
}

/// <summary>
/// Create a role to be used by SageMaker.
/// </summary>
/// <returns>The role Amazon Resource Name (ARN).</returns>
public static async Task<string> CreateSageMakerRole()
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));

    sageMakerRolePolicies = new string[]{
        "arn:aws:iam::aws:policy/AmazonSageMakerFullAccess",
        "arn:aws:iam::aws:policy/AmazonSageMakerGeospatialFullAccess",
    };

    var roleArn = await GetRoleArnIfExists(sageMakerRoleName);
    if (!string.IsNullOrEmpty(roleArn))
    {
        return roleArn;
    }

    Console.WriteLine("\\tCreating a role to use with SageMaker.");

    var assumeRolePolicy = "{" +
        "\\\"Version\\\": \"2012-10-17\\\", \" +
        "\\\"Statement\\\": [{" +
            "\\\"Effect\\\": \"Allow\\\", \" +
            "\\\"Principal\\\": {\" +
                "\\\"Service\\\": [\" +
                    "\\\"sagemaker.amazonaws.com\\\", \" +
                    "\\\"sagemaker-geospatial.amazonaws.com\\\", \" +
                    "\\\"lambda.amazonaws.com\\\", \" +
                    "\\\"s3.amazonaws.com\\\"\" +
                "]" +
            "}" +

```

```

        "}," +
        "\"Action\": \"sts:AssumeRole\"\" +
        "}]\" +
        "\"";

var roleResult = await _iamClient!.CreateRoleAsync(
    new CreateRoleRequest()
    {
        AssumeRolePolicyDocument = assumeRolePolicy,
        Path = "/",
        RoleName = sageMakerRoleName
    });

foreach (var policy in sageMakerRolePolicies)
{
    await _iamClient.AttachRolePolicyAsync(
        new AttachRolePolicyRequest()
        {
            PolicyArn = policy,
            RoleName = sageMakerRoleName
        });
}

// Allow time for the role to be ready.
Thread.Sleep(10000);
Console.WriteLine($"\\tRole ready with ARN {roleResult.Role.Arn}.");
Console.WriteLine(new string('-', 80));
return roleResult.Role.Arn;
}

/// <summary>
/// Set up the SQS queue to use with the pipeline.
/// </summary>
/// <param name="queueName">The name for the queue.</param>
/// <returns>The URL for the queue.</returns>
public static async Task<string> SetupQueue(string queueName)
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine($"Setting up queue {queueName}.");

    try
    {
        var queueInfo = await _sqsClient.GetQueueUrlAsync(new
GetQueueUrlRequest()

```

```

        { QueueName = queueName });
        return queueInfo.QueueUrl;
    }
    catch (QueueDoesNotExistException)
    {
        var attrs = new Dictionary<string, string>
        {
            {
                QueueAttributeName.DelaySeconds,
                "5"
            },
            {
                QueueAttributeName.ReceiveMessageWaitTimeSeconds,
                "5"
            },
            {
                QueueAttributeName.VisibilityTimeout,
                "300"
            },
        };

        var request = new CreateQueueRequest
        {
            Attributes = attrs,
            QueueName = queueName,
        };

        var response = await _sqsClient.CreateQueueAsync(request);
        Thread.Sleep(10000);
        await ConnectLambda(response.QueueUrl);
        Console.WriteLine($"\\tQueue ready with Url {response.QueueUrl}.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        return response.QueueUrl;
    }
}

/// <summary>
/// Connect the queue to the Lambda function as an event source.
/// </summary>
/// <param name="queueUrl">The URL for the queue.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public static async Task ConnectLambda(string queueUrl)
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));

```

```

        Console.WriteLine($"Connecting the Lambda function and queue for the
pipeline.");

        var queueAttributes = await _sqsClient.GetQueueAttributesAsync(
            new GetQueueAttributesRequest() { QueueUrl = queueUrl, AttributeNames =
new List<string>() { "All" } });
        var queueArn = queueAttributes.QueueARN;

        var eventSource = await _lambdaClient.ListEventSourceMappingsAsync(
            new ListEventSourceMappingsRequest()
            {
                FunctionName = lambdaFunctionName
            });

        if (!eventSource.EventSourceMappings.Any())
        {
            // Only add the event source mapping if it does not already exist.
            await _lambdaClient.CreateEventSourceMappingAsync(
                new CreateEventSourceMappingRequest()
                {
                    EventSourceArn = queueArn,
                    FunctionName = lambdaFunctionName,
                    Enabled = true
                });
        }

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// Set up the bucket to use for pipeline input and output.
    /// </summary>
    /// <param name="bucketName">The name for the bucket.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public static async Task SetupBucket(string bucketName)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"Setting up bucket {bucketName}.");

        var bucketExists = await
Amazon.S3.Util.AmazonS3Util.DoesS3BucketExistV2Async(_s3Client,
            bucketName);

        if (!bucketExists)

```

```

    {
        await _s3Client.PutBucketAsync(new PutBucketRequest()
        {
            BucketName = bucketName,
            BucketRegion = S3Region.USWest2
        });

        Thread.Sleep(5000);

        await _s3Client.PutObjectAsync(new PutObjectRequest()
        {
            BucketName = bucketName,
            Key = "samplefiles/latlongtest.csv",
            FilePath = "latlongtest.csv"
        });
    }

    Console.WriteLine($"\\tBucket {bucketName} ready.");
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
}

/// <summary>
/// Display some results from the output directory.
/// </summary>
/// <param name="bucketName">The name for the bucket.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public static async Task<string> GetOutputResults(string bucketName)
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine($"Getting output results {bucketName}.");
    string outputKey = "";
    Thread.Sleep(15000);
    var outputFiles = await _s3Client.ListObjectsAsync(
        new ListObjectsRequest()
        {
            BucketName = bucketName,
            Prefix = "outputfiles/"
        });

    if (outputFiles.S3Objects.Any())
    {
        var sampleOutput = outputFiles.S3Objects.OrderBy(s =>
            s.LastModified).Last();
        Console.WriteLine($"\\tOutput file: {sampleOutput.Key}");
    }
}

```

```

        var outputSampleResponse = await _s3Client.GetObjectAsync(
            new GetObjectRequest()
            {
                BucketName = bucketName,
                Key = sampleOutput.Key
            });
        outputKey = sampleOutput.Key;
        StreamReader reader = new
StreamReader(outputSampleResponse.ResponseStream);
        await reader.ReadLineAsync();
        Console.WriteLine("\tOutput file contents: \n");
        for (int i = 0; i < 10; i++)
        {
            if (!reader.EndOfStream)
            {
                Console.WriteLine("\t" + await reader.ReadLineAsync());
            }
        }
    }

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    return outputKey;
}

/// <summary>
/// Create a pipeline from the example pipeline JSON
/// that includes the Lambda, callback, processing, and export jobs.
/// </summary>
/// <param name="roleArn">The ARN of the role for the pipeline.</param>
/// <param name="functionArn">The ARN of the Lambda function for the pipeline.</
param>
/// <param name="pipelineName">The name for the pipeline.</param>
/// <returns>The ARN of the pipeline.</returns>
    public static async Task<string> SetupPipeline(string roleArn, string
functionArn, string pipelineName)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"Setting up the pipeline.");

        var pipelineJson = await File.ReadAllTextAsync("GeoSpatialPipeline.json");

        // Add the correct function ARN instead of the placeholder.
        pipelineJson = pipelineJson.Replace("*FUNCTION_ARN*", functionArn);

```



```

        var pipelineArn = await _sageMakerWrapper.SetupPipeline(pipelineJson,
            roleArn, pipelineName,
            "sdk example pipeline", pipelineName);

        Console.WriteLine($"\\tPipeline set up with ARN {pipelineArn}.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        return pipelineArn;
    }

    /// <summary>
    /// Start a pipeline run with job configurations.
    /// </summary>
    /// <param name="queueUrl">The URL for the queue used in the pipeline.</param>
    /// <param name="roleArn">The ARN of the role.</param>
    /// <param name="pipelineName">The name of the pipeline.</param>
    /// <param name="bucketName">The name of the bucket.</param>
    /// <returns>The pipeline run ARN.</returns>
    public static async Task<string> ExecutePipeline(
        string queueUrl,
        string roleArn,
        string pipelineName,
        string bucketName)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"Starting pipeline execution.");

        var input = $"s3://{bucketName}/samplefiles/latlongtest.csv";
        var output = $"s3://{bucketName}/outputfiles/";

        var executionARN =
            await _sageMakerWrapper.ExecutePipeline(queueUrl, input, output,
                pipelineName, roleArn);

        Console.WriteLine($"\\tRun started with ARN {executionARN}.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        return executionARN;
    }

    /// <summary>
    /// Wait for a pipeline run to complete.
    /// </summary>
    /// <param name="executionArn">The pipeline run ARN.</param>

```

```

    /// <returns>Async task.</returns>
    public static async Task WaitForPipelineExecution(string executionArn)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"Waiting for pipeline to finish.");

        PipelineExecutionStatus status;
        do
        {
            status = await
_sageMakerWrapper.CheckPipelineExecutionStatus(executionArn);
            Thread.Sleep(30000);
            Console.WriteLine($"\\tStatus is {status}.");
        } while (status == PipelineExecutionStatus.Executing);

        Console.WriteLine($"\\tPipeline finished with status {status}.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// Clean up the resources from the scenario.
    /// </summary>
    /// <param name="askUser">True to ask the user for cleanup.</param>
    /// <param name="queueUrl">The URL of the queue to clean up.</param>
    /// <param name="pipelineName">The name of the pipeline.</param>
    /// <param name="bucketName">The name of the bucket.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public static async Task<bool> CleanupResources(
        bool askUser,
        string queueUrl,
        string pipelineName,
        string bucketName)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"Clean up resources.");

        if (!askUser || GetYesNoResponse($"\\tDelete pipeline {pipelineName}? (y/
n)"))
        {
            Console.WriteLine($"\\tDeleting pipeline.");
            // Delete the pipeline.
            await _sageMakerWrapper.DeletePipelineByName(pipelineName);
        }
    }

```

```

        if (!string.IsNullOrEmpty(queueUrl) && (!askUser ||
GetYesNoResponse($"\\tDelete queue {queueUrl}? (y/n)")))
        {
            Console.WriteLine($"\\tDeleting queue.");
            // Delete the queue.
            await _sqsClient.DeleteQueueAsync(new DeleteQueueRequest(queueUrl));
        }

        if (!askUser || GetYesNoResponse($"\\tDelete Amazon S3 bucket {bucketName}?
(y/n)"))
        {
            Console.WriteLine($"\\tDeleting bucket.");
            // Delete all objects in the bucket.
            var deleteList = await _s3Client.ListObjectsV2Async(new
ListObjectsV2Request()
            {
                BucketName = bucketName
            });
            if (deleteList.KeyCount > 0)
            {
                await _s3Client.DeleteObjectsAsync(new DeleteObjectsRequest()
                {
                    BucketName = bucketName,
                    Objects = deleteList.S3Objects
                        .Select(o => new KeyVersion { Key = o.Key }).ToList()
                });
            }

            // Now delete the bucket.
            await _s3Client.DeleteBucketAsync(new DeleteBucketRequest()
            {
                BucketName = bucketName
            });
        }

        if (!askUser || GetYesNoResponse($"\\tDelete lambda {lambdaFunctionName}? (y/
n)"))
        {
            Console.WriteLine($"\\tDeleting lambda function.");

            await _lambdaClient.DeleteFunctionAsync(new DeleteFunctionRequest()
            {
                FunctionName = lambdaFunctionName
            });
        }

```

```
    }

    if (!askUser || GetYesNoResponse($"\tDelete role {lambdaRoleName}? (y/n)"))
    {
        Console.WriteLine($" \tDetaching policies and deleting role.");

        foreach (var policy in lambdaRolePolicies)
        {
            await _iamClient!.DetachRolePolicyAsync(new
DetachRolePolicyRequest()
            {
                RoleName = lambdaRoleName,
                PolicyArn = policy
            });
        }

        await _iamClient!.DeleteRoleAsync(new DeleteRoleRequest()
        {
            RoleName = lambdaRoleName
        });
    }

    if (!askUser || GetYesNoResponse($" \tDelete role {sageMakerRoleName}? (y/
n)"))
    {
        Console.WriteLine($" \tDetaching policies and deleting role.");

        foreach (var policy in sageMakerRolePolicies)
        {
            await _iamClient!.DetachRolePolicyAsync(new
DetachRolePolicyRequest()
            {
                RoleName = sageMakerRoleName,
                PolicyArn = policy
            });
        }

        await _iamClient!.DeleteRoleAsync(new DeleteRoleRequest()
        {
            RoleName = sageMakerRoleName
        });
    }

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
```

```

        return true;
    }

    /// <summary>
    /// Helper method to get a role's ARN if it already exists.
    /// </summary>
    /// <param name="roleName">The name of the AWS Identity and Access Management
    (IAM) Role to look for.</param>
    /// <returns>The role ARN if it exists, otherwise an empty string.</returns>
    private static async Task<string> GetRoleArnIfExists(string roleName)
    {
        Console.WriteLine($"Checking for role named {roleName}.");

        try
        {
            var existingRole = await _iamClient.GetRoleAsync(new GetRoleRequest()
            {
                RoleName = roleName
            });
            return existingRole.Role.Arn;
        }
        catch (NoSuchEntityException)
        {
            return string.Empty;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Helper method to get a yes or no response from the user.
    /// </summary>
    /// <param name="question">The question string to print on the console.</param>
    /// <returns>True if the user responds with a yes.</returns>
    private static bool GetYesNoResponse(string question)
    {
        Console.WriteLine(question);
        var ynResponse = Console.ReadLine();
        var response = ynResponse != null &&
            ynResponse.Equals("y",
                StringComparison.InvariantCultureIgnoreCase);
        return response;
    }
}

```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
 - [CreatePipeline](#)
 - [DeletePipeline](#)
 - [DescribePipelineExecution](#)
 - [StartPipelineExecution](#)
 - [UpdatePipeline](#)

を使用した Secrets Manager の例 SDK for .NET

次のコード例は、Secrets Manager AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)

アクション

GetSecretValue

次のコード例は、GetSecretValue を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.IO;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.SecretsManager;
using Amazon.SecretsManager.Model;

/// <summary>
/// This example uses the Amazon Web Service Secrets Manager to retrieve
/// the secret value for the provided secret name.
/// </summary>
public class GetSecretValue
{
    /// <summary>
    /// The main method initializes the necessary values and then calls
    /// the GetSecretAsync and DecodeString methods to get the decoded
    /// secret value for the secret named in secretName.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        string secretName = "<{{MySecretName}}>";
        string secret;

        IAmazonSecretsManager client = new AmazonSecretsManagerClient();

        var response = await GetSecretAsync(client, secretName);

        if (response is not null)
        {
            secret = DecodeString(response);

            if (!string.IsNullOrEmpty(secret))
            {
                Console.WriteLine($"The decoded secret value is: {secret}.");
            }
            else
            {
                Console.WriteLine("No secret value was returned.");
            }
        }
    }

    /// <summary>
    /// Retrieves the secret value given the name of the secret to
```

```

    /// retrieve.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The client object used to retrieve the secret
    /// value for the given secret name.</param>
    /// <param name="secretName">The name of the secret value to retrieve.</
param>
    /// <returns>The GetSecretValueResponse object returned by
    /// GetSecretValueAsync.</returns>
    public static async Task<GetSecretValueResponse> GetSecretAsync(
        IAmazonSecretsManager client,
        string secretName)
    {
        GetSecretValueRequest request = new GetSecretValueRequest()
        {
            SecretId = secretName,
            VersionStage = "AWSCURRENT", // VersionStage defaults to AWSCURRENT
if unspecified.
        };

        GetSecretValueResponse response = null;

        // For the sake of simplicity, this example handles only the most
        // general SecretsManager exception.
        try
        {
            response = await client.GetSecretValueAsync(request);
        }
        catch (AmazonSecretsManagerException e)
        {
            Console.WriteLine($"Error: {e.Message}");
        }

        return response;
    }

    /// <summary>
    /// Decodes the secret returned by the call to GetSecretValueAsync and
    /// returns it to the calling program.
    /// </summary>
    /// <param name="response">A GetSecretValueResponse object containing
    /// the requested secret value returned by GetSecretValueAsync.</param>
    /// <returns>A string representing the decoded secret value.</returns>
    public static string DecodeString(GetSecretValueResponse response)
    {

```



```
// Decrypts secret using the associated AWS Key Management Service
// Customer Master Key (CMK.) Depending on whether the secret is a
// string or binary value, one of these fields will be populated.
if (response.SecretString is not null)
{
    var secret = response.SecretString;
    return secret;
}
else if (response.SecretBinary is not null)
{
    var memoryStream = response.SecretBinary;
    StreamReader reader = new StreamReader(memoryStream);
    string decodedBinarySecret =
System.Text.Encoding.UTF8.GetString(Convert.FromBase64String(reader.ReadToEnd()));
    return decodedBinarySecret;
}
else
{
    return string.Empty;
}
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetSecretValue](#)」を参照してください。

を使用した Amazon SES の例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon SES AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)
- [シナリオ](#)

アクション

CreateTemplate

次のコード例は、CreateTemplate を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Create an email template.
/// </summary>
/// <param name="name">Name of the template.</param>
/// <param name="subject">Email subject.</param>
/// <param name="text">Email body text.</param>
/// <param name="html">Email HTML body text.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> CreateEmailTemplateAsync(string name, string subject,
string text,
    string html)
{
    var success = false;
    try
    {
        var response = await _amazonSimpleEmailService.CreateTemplateAsync(
            new CreateTemplateRequest
            {
                Template = new Template
                {
                    TemplateName = name,
                    SubjectPart = subject,
```

```
        TextPart = text,
        HtmlPart = html
    }
    });
    success = response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine("CreateEmailTemplateAsync failed with exception: " +
ex.Message);
}

return success;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateTemplate](#)」を参照してください。

DeleteIdentity

次のコード例は、DeleteIdentity を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete an email identity.
/// </summary>
/// <param name="identityEmail">The identity email to delete.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> DeleteIdentityAsync(string identityEmail)
{
    var success = false;
```

```
try
{
    var response = await _amazonSimpleEmailService.DeleteIdentityAsync(
        new DeleteIdentityRequest
        {
            Identity = identityEmail
        });
    success = response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine("DeleteIdentityAsync failed with exception: " +
ex.Message);
}

return success;
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteIdentity](#)」を参照してください。

DeleteTemplate

次のコード例は、DeleteTemplate を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete an email template.
/// </summary>
/// <param name="templateName">Name of the template.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
```

```
public async Task<bool> DeleteEmailTemplateAsync(string templateName)
{
    var success = false;
    try
    {
        var response = await _amazonSimpleEmailService.DeleteTemplateAsync(
            new DeleteTemplateRequest
            {
                TemplateName = templateName
            });
        success = response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine("DeleteEmailTemplateAsync failed with exception: " +
            ex.Message);
    }

    return success;
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteTemplate](#)」を参照してください。

GetIdentityVerificationAttributes

次のコード例は、GetIdentityVerificationAttributes を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get identity verification status for an email.
```

```
/// </summary>
/// <returns>The verification status of the email.</returns>
public async Task<VerificationStatus> GetIdentityStatusAsync(string email)
{
    var result = VerificationStatus.TemporaryFailure;
    try
    {
        var response =
            await
                _amazonSimpleEmailService.GetIdentityVerificationAttributesAsync(
                    new GetIdentityVerificationAttributesRequest
                    {
                        Identities = new List<string> { email }
                    });

        if (response.VerificationAttributes.ContainsKey(email))
            result = response.VerificationAttributes[email].VerificationStatus;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine("GetIdentityStatusAsync failed with exception: " +
            ex.Message);
    }

    return result;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス。」の「[GetIdentityVerificationAttributes](#)」を参照してください。

GetSendQuota

次のコード例は、GetSendQuota を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get information on the current account's send quota.
/// </summary>
/// <returns>The send quota response data.</returns>
public async Task<GetSendQuotaResponse> GetSendQuotaAsync()
{
    var result = new GetSendQuotaResponse();
    try
    {
        var response = await _amazonSimpleEmailService.GetSendQuotaAsync(
            new GetSendQuotaRequest());
        result = response;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine("GetSendQuotaAsync failed with exception: " +
ex.Message);
    }

    return result;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[GetSendQuota](#)」を参照してください。

ListIdentities

次のコード例は、ListIdentities を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get the identities of a specified type for the current account.
/// </summary>
/// <param name="identityType">IdentityType to list.</param>
/// <returns>The list of identities.</returns>
public async Task<List<string>> ListIdentitiesAsync(IdentityType identityType)
{
    var result = new List<string>();
    try
    {
        var response = await _amazonSimpleEmailService.ListIdentitiesAsync(
            new ListIdentitiesRequest
            {
                IdentityType = identityType
            });
        result = response.Identities;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine("ListIdentitiesAsync failed with exception: " +
ex.Message);
    }

    return result;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListIdentities](#)」を参照してください。

ListTemplates

次のコード例は、ListTemplates を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List email templates for the current account.
/// </summary>
/// <returns>A list of template metadata.</returns>
public async Task<List<TemplateMetadata>> ListEmailTemplatesAsync()
{
    var result = new List<TemplateMetadata>();
    try
    {
        var response = await _amazonSimpleEmailService.ListTemplatesAsync(
            new ListTemplatesRequest());
        result = response.TemplatesMetadata;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine("ListEmailTemplatesAsync failed with exception: " +
ex.Message);
    }

    return result;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListTemplates](#)」を参照してください。

SendEmail

次のコード例は、SendEmail を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
///  Send an email by using Amazon SES.
/// </summary>
/// <param name="toAddresses">List of recipients.</param>
/// <param name="ccAddresses">List of cc recipients.</param>
/// <param name="bccAddresses">List of bcc recipients.</param>
/// <param name="bodyHtml">Body of the email in HTML.</param>
/// <param name="bodyText">Body of the email in plain text.</param>
/// <param name="subject">Subject line of the email.</param>
/// <param name="senderAddress">From address.</param>
/// <returns>The messageId of the email.</returns>
public async Task<string> SendEmailAsync(List<string> toAddresses,
    List<string> ccAddresses, List<string> bccAddresses,
    string bodyHtml, string bodyText, string subject, string senderAddress)
{
    var messageId = "";
    try
    {
        var response = await _amazonSimpleEmailService.SendEmailAsync(
            new SendEmailRequest
            {
                Destination = new Destination
                {
                    BccAddresses = bccAddresses,
                    CcAddresses = ccAddresses,
                    ToAddresses = toAddresses
                },
                Message = new Message
                {
                    Body = new Body
```

```
        {
            Html = new Content
            {
                Charset = "UTF-8",
                Data = bodyHtml
            },
            Text = new Content
            {
                Charset = "UTF-8",
                Data = bodyText
            }
        },
        Subject = new Content
        {
            Charset = "UTF-8",
            Data = subject
        }
    },
    Source = senderAddress
));
messageId = response.MessageId;
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine("SendEmailAsync failed with exception: " +
ex.Message);
}

return messageId;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[SendEmail](#)」を参照してください。

SendTemplatedEmail

次のコード例は、SendTemplatedEmail を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Send an email using a template.
/// </summary>
/// <param name="sender">Address of the sender.</param>
/// <param name="recipients">Addresses of the recipients.</param>
/// <param name="templateName">Name of the email template.</param>
/// <param name="templateDataObject">Data for the email template.</param>
/// <returns>The messageId of the email.</returns>
public async Task<string> SendTemplateEmailAsync(string sender, List<string>
recipients,
    string templateName, object templateDataObject)
{
    var messageId = "";
    try
    {
        // Template data should be serialized JSON from either a class or a
dynamic object.
        var templateData = JsonSerializer.Serialize(templateDataObject);

        var response = await _amazonSimpleEmailService.SendTemplatedEmailAsync(
            new SendTemplatedEmailRequest
            {
                Source = sender,
                Destination = new Destination
                {
                    ToAddresses = recipients
                },
                Template = templateName,
                TemplateData = templateData
            });
        messageId = response.MessageId;
    }
    catch (Exception ex)
```

```
{  
    Console.WriteLine("SendTemplateEmailAsync failed with exception: " +  
ex.Message);  
}  
  
    return messageId;  
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[SendTemplatedEmail](#)」を参照してください。

VerifyEmailIdentity

次のコード例は、VerifyEmailIdentity を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>  
/// Starts verification of an email identity. This request sends an email  
/// from Amazon SES to the specified email address. To complete  
/// verification, follow the instructions in the email.  
/// </summary>  
/// <param name="recipientEmailAddress">Email address to verify.</param>  
/// <returns>True if successful.</returns>  
public async Task<bool> VerifyEmailIdentityAsync(string recipientEmailAddress)  
{  
    var success = false;  
    try  
    {  
        var response = await _amazonSimpleEmailService.VerifyEmailIdentityAsync(  
            new VerifyEmailIdentityRequest  
            {  

```

```
        EmailAddress = recipientEmailAddress
    });

    success = response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine("VerifyEmailIdentityAsync failed with exception: " +
ex.Message);
}

return success;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[VerifyEmailIdentity](#)」を参照してください。

シナリオ

DynamoDB データを追跡するウェブアプリケーションを作成する

次のコード例は、Amazon DynamoDB テーブルの作業項目を追跡し、Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用してレポートを送信するウェブアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for .NET

Amazon DynamoDB .NET API を使用して、DynamoDB 作業データを追跡する動的ウェブアプリケーションを作成する方法を示しています。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- DynamoDB
- Amazon SES

Aurora Serverless 作業項目トラッカーの作成

次のコード例は、Amazon Aurora Serverless データベースの作業項目を追跡し、Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用してレポートを送信するウェブアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for .NET

を使用して AWS SDK for .NET 、Amazon Aurora データベース内の作業項目を追跡し、Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用してレポートを E メールで送信するウェブアプリケーションを作成する方法を示します。この例では、React.js で構築されたフロントエンドを使用して RESTful .NET バックエンドと対話します。

- React ウェブアプリケーションを AWS サービスに統合します。
- Aurora テーブルの項目を一覧表示、更新、削除します。
- Amazon SES を使用して、フィルター処理された作業項目の E メールレポートを送信します。
- 含まれている AWS CloudFormation スクリプトを使用してサンプルリソースをデプロイおよび管理します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Aurora
- Amazon RDS
- Amazon RDS データサービス
- Amazon SES

画像内のオブジェクトを検出する

次のコード例は、Amazon Rekognition を使用して画像内でカテゴリ別にオブジェクトを検出するアプリケーションを構築する方法を示しています。

SDK for .NET

Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットにあるイメージ内から、Amazon Rekognition を使用してカテゴリ別にオブジェクトを識別するアプリケーションを、Amazon

Rekognition .NET API を使用して作成する方法を示します。アプリケーションは、Amazon Simple Email Service (Amazon SES) を使用して、結果を記載した E メール通知を管理者に送信します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SES

を使用した Amazon SES API v2 の例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon SES API v2 AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)
- [シナリオ](#)

アクション

CreateContact

次のコード例は、CreateContact を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Creates a contact and adds it to the specified contact list.
/// </summary>
/// <param name="emailAddress">The email address of the contact.</param>
/// <param name="contactListName">The name of the contact list.</param>
/// <returns>The response from the CreateContact operation.</returns>
public async Task<bool> CreateContactAsync(string emailAddress, string
contactListName)
{
    var request = new CreateContactRequest
    {
        EmailAddress = emailAddress,
        ContactListName = contactListName
    };

    try
    {
        var response = await _sesClient.CreateContactAsync(request);
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (AlreadyExistsException ex)
    {
        Console.WriteLine($"Contact with email address {emailAddress} already
exists in the contact list {contactListName}.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
        return true;
    }
    catch (NotFoundException ex)
    {
        Console.WriteLine($"The contact list {contactListName} does not
exist.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (TooManyRequestsException ex)
```

```
{
    Console.WriteLine("Too many requests were made. Please try again
later.");
    Console.WriteLine(ex.Message);
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine($"An error occurred while creating the contact:
{ex.Message}");
}
return false;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CreateContact](#)」を参照してください。

CreateContactList

次のコード例は、CreateContactList を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Creates a contact list with the specified name.
/// </summary>
/// <param name="contactListName">The name of the contact list.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> CreateContactListAsync(string contactListName)
{
    var request = new CreateContactListRequest
    {
        ContactListName = contactListName
    };
};
```

```
try
{
    var response = await _sesClient.CreateContactListAsync(request);
    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
catch (AlreadyExistsException ex)
{
    Console.WriteLine($"Contact list with name {contactListName} already
exists.");
    Console.WriteLine(ex.Message);
    return true;
}
catch (LimitExceededException ex)
{
    Console.WriteLine("The limit for contact lists has been exceeded.");
    Console.WriteLine(ex.Message);
}
catch (TooManyRequestsException ex)
{
    Console.WriteLine("Too many requests were made. Please try again
later.");
    Console.WriteLine(ex.Message);
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine($"An error occurred while creating the contact list:
{ex.Message}");
}
return false;
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CreateContactList](#)」を参照してください。

CreateEmailIdentity

次のコード例は、CreateEmailIdentity を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Creates an email identity (email address or domain) and starts the
verification process.
/// </summary>
/// <param name="emailIdentity">The email address or domain to create and
verify.</param>
/// <returns>The response from the CreateEmailIdentity operation.</returns>
public async Task<CreateEmailIdentityResponse> CreateEmailIdentityAsync(string
emailIdentity)
{
    var request = new CreateEmailIdentityRequest
    {
        EmailIdentity = emailIdentity
    };

    try
    {
        var response = await _sesClient.CreateEmailIdentityAsync(request);
        return response;
    }
    catch (AlreadyExistsException ex)
    {
        Console.WriteLine($"Email identity {emailIdentity} already exists.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
        throw;
    }
    catch (ConcurrentModificationException ex)
    {
        Console.WriteLine($"The email identity {emailIdentity} is being modified
by another operation or thread.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
        throw;
    }
    catch (LimitExceededException ex)
```

```
{
    Console.WriteLine("The limit for email identities has been exceeded.");
    Console.WriteLine(ex.Message);
    throw;
}
catch (NotFoundException ex)
{
    Console.WriteLine($"The email identity {emailIdentity} does not
exist.");
    Console.WriteLine(ex.Message);
    throw;
}
catch (TooManyRequestsException ex)
{
    Console.WriteLine("Too many requests were made. Please try again
later.");
    Console.WriteLine(ex.Message);
    throw;
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine($"An error occurred while creating the email identity:
{ex.Message}");
    throw;
}
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CreateEmailIdentity](#)」を参照してください。

CreateEmailTemplate

次のコード例は、CreateEmailTemplate を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Creates an email template with the specified content.
/// </summary>
/// <param name="templateName">The name of the email template.</param>
/// <param name="subject">The subject of the email template.</param>
/// <param name="htmlContent">The HTML content of the email template.</param>
/// <param name="textContent">The text content of the email template.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> CreateEmailTemplateAsync(string templateName, string
subject, string htmlContent, string textContent)
{
    var request = new CreateEmailTemplateRequest
    {
        TemplateName = templateName,
        TemplateContent = new EmailTemplateContent
        {
            Subject = subject,
            Html = htmlContent,
            Text = textContent
        }
    };

    try
    {
        var response = await _sesClient.CreateEmailTemplateAsync(request);
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (AlreadyExistsException ex)
    {
        Console.WriteLine($"Email template with name {templateName} already
exists.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (LimitExceededException ex)
    {
        Console.WriteLine("The limit for email templates has been exceeded.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (TooManyRequestsException ex)
    {
        Console.WriteLine("Too many requests were made. Please try again
later.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
}
```

```
    }  
    catch (Exception ex)  
    {  
        Console.WriteLine($"An error occurred while creating the email template:  
{ex.Message}");  
    }  
  
    return false;  
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CreateEmailTemplate](#)」を参照してください。

DeleteContactList

次のコード例は、DeleteContactList を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>  
/// Deletes a contact list and all contacts within it.  
/// </summary>  
/// <param name="contactListName">The name of the contact list to delete.</  
param>  
/// <returns>True if successful.</returns>  
public async Task<bool> DeleteContactListAsync(string contactListName)  
{  
    var request = new DeleteContactListRequest  
    {  
        ContactListName = contactListName  
    };  
  
    try  
    {
```

```
        var response = await _sesClient.DeleteContactListAsync(request);
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (ConcurrentModificationException ex)
    {
        Console.WriteLine($"The contact list {contactListName} is being modified
by another operation or thread.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (NotFoundException ex)
    {
        Console.WriteLine($"The contact list {contactListName} does not
exist.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (TooManyRequestsException ex)
    {
        Console.WriteLine("Too many requests were made. Please try again
later.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"An error occurred while deleting the contact list:
{ex.Message}");
    }

    return false;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeleteContactList](#)」を参照してください。

DeleteEmailIdentity

次のコード例は、DeleteEmailIdentity を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Deletes an email identity (email address or domain).
/// </summary>
/// <param name="emailIdentity">The email address or domain to delete.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> DeleteEmailIdentityAsync(string emailIdentity)
{
    var request = new DeleteEmailIdentityRequest
    {
        EmailIdentity = emailIdentity
    };

    try
    {
        var response = await _sesClient.DeleteEmailIdentityAsync(request);
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (ConcurrentModificationException ex)
    {
        Console.WriteLine($"The email identity {emailIdentity} is being modified
by another operation or thread.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (NotFoundException ex)
    {
        Console.WriteLine($"The email identity {emailIdentity} does not
exist.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (TooManyRequestsException ex)
    {
        Console.WriteLine("Too many requests were made. Please try again
later.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
}
```

```
    }  
    catch (Exception ex)  
    {  
        Console.WriteLine($"An error occurred while deleting the email identity:  
{ex.Message}");  
    }  
  
    return false;  
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeleteEmailIdentity](#)」を参照してください。

DeleteEmailTemplate

次のコード例は、DeleteEmailTemplate を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>  
/// Deletes an email template.  
/// </summary>  
/// <param name="templateName">The name of the email template to delete.</param>  
/// <returns>True if successful.</returns>  
public async Task<bool> DeleteEmailTemplateAsync(string templateName)  
{  
    var request = new DeleteEmailTemplateRequest  
    {  
        TemplateName = templateName  
    };  
  
    try  
    {  
        var response = await _sesClient.DeleteEmailTemplateAsync(request);  
    }  
}
```

```
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (NotFoundException ex)
    {
        Console.WriteLine($"The email template {templateName} does not exist.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (TooManyRequestsException ex)
    {
        Console.WriteLine("Too many requests were made. Please try again later.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"An error occurred while deleting the email template: {ex.Message}");
    }

    return false;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeleteEmailTemplate](#)」を参照してください。

ListContacts

次のコード例は、ListContacts を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Lists the contacts in the specified contact list.
/// </summary>
```

```
/// <param name="contactListName">The name of the contact list.</param>
/// <returns>The list of contacts response from the ListContacts operation.</
returns>
public async Task<List<Contact>> ListContactsAsync(string contactListName)
{
    var request = new ListContactsRequest
    {
        ContactListName = contactListName
    };

    try
    {
        var response = await _sesClient.ListContactsAsync(request);
        return response.Contacts;
    }
    catch (NotFoundException ex)
    {
        Console.WriteLine($"The contact list {contactListName} does not
exist.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (TooManyRequestsException ex)
    {
        Console.WriteLine("Too many requests were made. Please try again
later.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"An error occurred while listing the contacts:
{ex.Message}");
    }

    return new List<Contact>();
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListContacts](#)」を参照してください。

SendEmail

次のコード例は、SendEmail を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Sends an email with the specified content and options.
/// </summary>
/// <param name="fromEmailAddress">The email address to send the email from.</
param>
/// <param name="toEmailAddresses">The email addresses to send the email to.</
param>
/// <param name="subject">The subject of the email.</param>
/// <param name="htmlContent">The HTML content of the email.</param>
/// <param name="textContent">The text content of the email.</param>
/// <param name="templateName">The name of the email template to use
(optional).</param>
/// <param name="templateData">The data to replace placeholders in the email
template (optional).</param>
/// <param name="contactListName">The name of the contact list for unsubscribe
functionality (optional).</param>
/// <returns>The MessageId response from the SendEmail operation.</returns>
public async Task<string> SendEmailAsync(string fromEmailAddress, List<string>
toEmailAddresses, string? subject,
    string? htmlContent, string? textContent, string? templateName = null,
string? templateData = null, string? contactListName = null)
{
    var request = new SendEmailRequest
    {
        FromEmailAddress = fromEmailAddress
    };

    if (toEmailAddresses.Any())
    {
        request.Destination = new Destination { ToAddresses =
toEmailAddresses };
    }

    if (!string.IsNullOrEmpty(templateName))
```

```
{
    request.Content = new EmailContent()
    {
        Template = new Template
        {
            TemplateName = templateName,
            TemplateData = templateData
        }
    };
}
else
{
    request.Content = new EmailContent
    {
        Simple = new Message
        {
            Subject = new Content { Data = subject },
            Body = new Body
            {
                Html = new Content { Data = htmlContent },
                Text = new Content { Data = textContent }
            }
        }
    };
}

if (!string.IsNullOrEmpty(contactListName))
{
    request.ListManagementOptions = new ListManagementOptions
    {
        ContactListName = contactListName
    };
}

try
{
    var response = await _sesClient.SendEmailAsync(request);
    return response.MessageId;
}
catch (AccountSuspendedException ex)
{
    Console.WriteLine("The account's ability to send email has been
permanently restricted.");
    Console.WriteLine(ex.Message);
}
```

```
    }
    catch (MailFromDomainNotVerifiedException ex)
    {
        Console.WriteLine("The sending domain is not verified.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (MessageRejectedException ex)
    {
        Console.WriteLine("The message content is invalid.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (SendingPausedException ex)
    {
        Console.WriteLine("The account's ability to send email is currently
paused.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (TooManyRequestsException ex)
    {
        Console.WriteLine("Too many requests were made. Please try again
later.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"An error occurred while sending the email:
{ex.Message}");
    }

    return string.Empty;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[SendEmail](#)」を参照してください。

シナリオ

ニュースレターのシナリオ

以下のコード例は、Amazon SES API v2 のニュースレターのシナリオを実行する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

シナリオを実行します。

```
using System.Diagnostics;
using System.Text.RegularExpressions;
using Amazon.SimpleEmailV2;
using Amazon.SimpleEmailV2.Model;
using Microsoft.Extensions.DependencyInjection;
using Microsoft.Extensions.Hosting;
using Microsoft.Extensions.Logging;
using Microsoft.Extensions.Logging.Console;
using Microsoft.Extensions.Logging.Debug;

namespace Sesev2Scenario;

public static class NewsletterWorkflow
{
    /*
        This scenario demonstrates how to use the Amazon Simple Email Service (SES) v2
        to send a coupon newsletter to a list of subscribers.
        The scenario performs the following tasks:

        1. Prepare the application:
            - Create a verified email identity for sending and replying to emails.
            - Create a contact list to store the subscribers' email addresses.
            - Create an email template for the coupon newsletter.

        2. Gather subscriber email addresses:
            - Prompt the user for a base email address.
            - Create 3 variants of the email address using subaddress extensions (e.g.,
            user+sesev-weekly-newsletter-1@example.com).
            - Add each variant as a contact to the contact list.
            - Send a welcome email to each new contact.

        3. Send the coupon newsletter:
            - Retrieve the list of contacts from the contact list.
```


- Send the coupon newsletter using the email template to each contact.
4. Monitor and review:
 - Provide instructions for the user to review the sending activity and metrics in the AWS console.
 5. Clean up resources:
 - Delete the contact list (which also deletes all contacts within it).
 - Delete the email template.
 - Optionally delete the verified email identity.

*/

```

public static SESv2Wrapper _sesv2Wrapper;
public static string? _baseEmailAddress = null;
public static string? _verifiedEmail = null;
private static string _contactListName = "weekly-coupons-newsletter";
private static string _templateName = "weekly-coupons";
private static string _subject = "Weekly Coupons Newsletter";
private static string _htmlContentFile = "coupon-newsletter.html";
private static string _textContentFile = "coupon-newsletter.txt";
private static string _htmlWelcomeFile = "welcome.html";
private static string _textWelcomeFile = "welcome.txt";
private static string _couponsDataFile = "sample_coupons.json";

// Relative location of the resources folder.
private static string _resourcesFilePathLocation = "../..../resources/";

public static async Task Main(string[] args)
{
    // Set up dependency injection for the Amazon service.
    using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
        .ConfigureLogging(logging =>
            logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
                .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
LogLevel.Information)
                .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
        .ConfigureServices((_, services) =>
            services.AddAWSService<IAmazonSimpleEmailServiceV2>()
                .AddTransient<SESV2Wrapper>()
        )
        .Build();

    ServicesSetup(host);

```

```

        try
        {
            Console.WriteLine(new string('-', 80));
            Console.WriteLine(new string('-', 80));
            Console.WriteLine("Welcome to the Amazon SES v2 Coupon Newsletter
Scenario.");
            Console.WriteLine("This scenario demonstrates how to use the Amazon
Simple Email Service (SES) v2 " +
                            "\r\nto send a coupon newsletter to a list of
subscribers.");

            // Prepare the application.
            var emailIdentity = await PrepareApplication();

            // Gather subscriber email addresses.
            await GatherSubscriberEmailAddresses(emailIdentity);

            // Send the coupon newsletter.
            await SendCouponNewsletter(emailIdentity);

            // Monitor and review.
            MonitorAndReview(true);

            // Clean up resources.
            await Cleanup(emailIdentity, true);

            Console.WriteLine(new string('-', 80));
            Console.WriteLine("Amazon SES v2 Coupon Newsletter scenario is
complete.");
            Console.WriteLine(new string('-', 80));
            Console.WriteLine(new string('-', 80));
        }
        catch (Exception ex)
        {
            Console.WriteLine($"An error occurred: {ex.Message}");
        }
    }

    /// <summary>
    /// Populate the services for use within the console application.
    /// </summary>
    /// <param name="host">The services host.</param>
    private static void ServicesSetup(IHost host)

```

```

{
    _sesv2Wrapper = host.Services.GetRequiredService<SESV2Wrapper>();
}

/// <summary>
/// Set up the resources for the scenario.
/// </summary>
/// <returns>The email address of the verified identity.</returns>
public static async Task<string?> PrepareApplication()
{
    var htmlContent = await File.ReadAllTextAsync(_resourcesFilePathLocation +
_htmlContentFile);
    var textContent = await File.ReadAllTextAsync(_resourcesFilePathLocation +
_textContentFile);

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("1. In this step, we will prepare the application:" +
        "\r\n - Create a verified email identity for sending and
replying to emails." +
        "\r\n - Create a contact list to store the subscribers'
email addresses." +
        "\r\n - Create an email template for the coupon
newsletter.\r\n");

    // Prompt the user for a verified email address.
    while (!IsEmail(_verifiedEmail))
    {
        Console.Write("Enter a verified email address or an email to verify: ");
        _verifiedEmail = Console.ReadLine();
    }

    try
    {
        // Create an email identity and start the verification process.
        await _sesv2Wrapper.CreateEmailIdentityAsync(_verifiedEmail);
        Console.WriteLine($"Identity {_verifiedEmail} created.");
    }
    catch (AlreadyExistsException)
    {
        Console.WriteLine($"Identity {_verifiedEmail} already exists.");
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"Error creating email identity: {ex.Message}");
    }
}

```

```

    }

    // Create a contact list.
    try
    {
        await _sesv2Wrapper.CreateContactListAsync(_contactListName);
        Console.WriteLine($"Contact list {_contactListName} created.");
    }
    catch (AlreadyExistsException)
    {
        Console.WriteLine($"Contact list {_contactListName} already exists.");
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"Error creating contact list: {ex.Message}");
    }

    // Create an email template.
    try
    {
        await _sesv2Wrapper.CreateEmailTemplateAsync(_templateName, _subject,
htmlContent, textContent);
        Console.WriteLine($"Email template {_templateName} created.");
    }
    catch (AlreadyExistsException)
    {
        Console.WriteLine($"Email template {_templateName} already exists.");
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"Error creating email template: {ex.Message}");
    }

    return _verifiedEmail;
}

/// <summary>
/// Generate subscriber addresses and send welcome emails.
/// </summary>
/// <param name="fromEmailAddress">The verified email address from
PrepareApplication.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public static async Task<bool> GatherSubscriberEmailAddresses(string
fromEmailAddress)

```

```

    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("2. In Step 2, we will gather subscriber email addresses:"
+
            "\r\n - Prompt the user for a base email address." +
            "\r\n - Create 3 variants of the email address using
subaddress extensions (e.g., user+ses-weekly-newsletter-1@example.com)." +
            "\r\n - Add each variant as a contact to the contact
list." +
            "\r\n - Send a welcome email to each new contact.\r\n");

        // Prompt the user for a base email address.
        while (!IsEmail(_baseEmailAddress))
        {
            Console.Write("Enter a base email address (e.g., user@example.com): ");
            _baseEmailAddress = Console.ReadLine();
        }

        // Create 3 variants of the email address using +ses-weekly-newsletter-1,
+ses-weekly-newsletter-2, etc.
        var baseEmailAddressParts = _baseEmailAddress!.Split("@");
        for (int i = 1; i <= 3; i++)
        {
            string emailAddress = $"{baseEmailAddressParts[0]}+ses-weekly-
newsletter-{i}@{baseEmailAddressParts[1]}";

            try
            {
                // Create a contact with the email address in the contact list.
                await _sesv2Wrapper.CreateContactAsync(emailAddress,
                _contactListName);
                Console.WriteLine($"Contact {emailAddress} added to the
                {_contactListName} contact list.");
            }
            catch (AlreadyExistsException)
            {
                Console.WriteLine($"Contact {emailAddress} already exists in the
                {_contactListName} contact list.");
            }
            catch (Exception ex)
            {
                Console.WriteLine($"Error creating contact {emailAddress}:
                {ex.Message}");
                return false;
            }
        }
    }

```

```

    }

    // Send a welcome email to the new contact.
    try
    {
        string subject = "Welcome to the Weekly Coupons Newsletter";
        string htmlContent = await
File.ReadAllTextAsync(_resourcesFilePathLocation + _htmlWelcomeFile);
        string textContent = await
File.ReadAllTextAsync(_resourcesFilePathLocation + _textWelcomeFile);

        await _sesv2Wrapper.SendEmailAsync(fromEmailAddress, new
List<string> { emailAddress }, subject, htmlContent, textContent);
        Console.WriteLine($"Welcome email sent to {emailAddress}.");
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"Error sending welcome email to {emailAddress}:
{ex.Message}");
        return false;
    }

    // Wait 2 seconds before sending the next email (if the account is in
the SES Sandbox).
    await Task.Delay(2000);
}

return true;
}

/// <summary>
/// Send the coupon newsletter to the subscribers in the contact list.
/// </summary>
/// <param name="fromEmailAddress">The verified email address from
PrepareApplication.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public static async Task<bool> SendCouponNewsletter(string fromEmailAddress)
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("3. In this step, we will send the coupon newsletter:" +
        "\r\n - Retrieve the list of contacts from the contact
list." +
        "\r\n - Send the coupon newsletter using the email
template to each contact.\r\n");

```

```

        // Retrieve the list of contacts from the contact list.
        var contacts = await _sesv2Wrapper.ListContactsAsync(_contactListName);
        if (!contacts.Any())
        {
            Console.WriteLine($"No contacts found in the {_contactListName} contact
list.");
            return false;
        }

        // Load the coupon data from the sample_coupons.json file.
        string couponsData = await File.ReadAllTextAsync(_resourcesFilePathLocation
+ _couponsDataFile);

        // Send the coupon newsletter to each contact using the email template.
        try
        {
            foreach (var contact in contacts)
            {
                // To use the Contact List for list management, send to only one
address at a time.
                await _sesv2Wrapper.SendEmailAsync(fromEmailAddress,
                    new List<string> { contact.EmailAddress },
                    null, null, null, _templateName, couponsData, _contactListName);
            }

            Console.WriteLine($"Coupon newsletter sent to contact list
{_contactListName}.");
        }
        catch (Exception ex)
        {
            Console.WriteLine($"Error sending coupon newsletter to contact list
{_contactListName}: {ex.Message}");
            return false;
        }

        return true;
    }

    /// <summary>
    /// Provide instructions for monitoring sending activity and metrics.
    /// </summary>
    /// <param name="interactive">True to run in interactive mode.</param>

```

```

    /// <returns>True if successful.</returns>
    public static bool MonitorAndReview(bool interactive)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("4. In step 4, we will monitor and review:" +
            "\r\n - Provide instructions for the user to review the
sending activity and metrics in the AWS console.\r\n");

        Console.WriteLine("Review your sending activity using the SES Homepage in
the AWS console.");
        Console.WriteLine("Press Enter to open the SES Homepage in your default
browser...");
        if (interactive)
        {
            Console.ReadLine();
            try
            {
                // Open the SES Homepage in the default browser.
                Process.Start(new ProcessStartInfo
                {
                    FileName = "https://console.aws.amazon.com/ses/home",
                    UseShellExecute = true
                });
            }
            catch (Exception ex)
            {
                Console.WriteLine($"Error opening the SES Homepage: {ex.Message}");
                return false;
            }
        }

        Console.WriteLine("Review the sending activity and email metrics, then press
Enter to continue...");
        if (interactive)
        {
            Console.ReadLine();
        }
        return true;
    }

    /// <summary>
    /// Clean up the resources used in the scenario.
    /// </summary>
    /// <param name="verifiedEmailAddress">The verified email address from
PrepareApplication.</param>
    /// <param name="interactive">True if interactive.</param>

```



```

    /// <returns>Async task.</returns>
    public static async Task<bool> Cleanup(string verifiedEmailAddress, bool
interactive)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("5. Finally, we clean up resources:" +
            "\r\n - Delete the contact list (which also deletes all
contacts within it)." +
            "\r\n - Delete the email template." +
            "\r\n - Optionally delete the verified email identity.\r
\n");

        Console.WriteLine("Cleaning up resources...");

        // Delete the contact list (this also deletes all contacts in the list).
        try
        {
            await _sesv2Wrapper.DeleteContactListAsync(_contactListName);
            Console.WriteLine($"Contact list {_contactListName} deleted.");
        }
        catch (NotFoundException)
        {
            Console.WriteLine($"Contact list {_contactListName} not found.");
        }
        catch (Exception ex)
        {
            Console.WriteLine($"Error deleting contact list {_contactListName}:
{ex.Message}");
            return false;
        }

        // Delete the email template.
        try
        {
            await _sesv2Wrapper.DeleteEmailTemplateAsync(_templateName);
            Console.WriteLine($"Email template {_templateName} deleted.");
        }
        catch (NotFoundException)
        {
            Console.WriteLine($"Email template {_templateName} not found.");
        }
        catch (Exception ex)
        {

```

```

        Console.WriteLine($"Error deleting email template {_templateName}:
{ex.Message}");
        return false;
    }

    // Ask the user if they want to delete the email identity.
    var deleteIdentity = !interactive ||
        GetYesNoResponse(
            $"Do you want to delete the email identity {verifiedEmailAddress}?
(y/n) ");
    if (deleteIdentity)
    {
        try
        {
            await _sesv2Wrapper.DeleteEmailIdentityAsync(verifiedEmailAddress);
            Console.WriteLine($"Email identity {verifiedEmailAddress}
deleted.");
        }
        catch (NotFoundException)
        {
            Console.WriteLine(
                $"Email identity {verifiedEmailAddress} not found.");
        }
        catch (Exception ex)
        {
            Console.WriteLine(
                $"Error deleting email identity {verifiedEmailAddress}:
{ex.Message}");
            return false;
        }
    }
    else
    {
        Console.WriteLine(
            $"Skipping deletion of email identity {verifiedEmailAddress}.");
    }

    return true;
}

/// <summary>
/// Helper method to get a yes or no response from the user.
/// </summary>
/// <param name="question">The question string to print on the console.</param>

```

```

    /// <returns>True if the user responds with a yes.</returns>
    private static bool GetYesNoResponse(string question)
    {
        Console.WriteLine(question);
        var ynResponse = Console.ReadLine();
        var response = ynResponse != null && ynResponse.Equals("y",
StringComparison.InvariantCultureIgnoreCase);
        return response;
    }

    /// <summary>
    /// Simple check to verify a string is an email address.
    /// </summary>
    /// <param name="email">The string to verify.</param>
    /// <returns>True if a valid email.</returns>
    private static bool IsEmail(string? email)
    {
        if (string.IsNullOrEmpty(email))
            return false;
        return Regex.IsMatch(email, @"^[^@\s]+@[^@\s]+\.[^@\s]+$",
RegexOptions.IgnoreCase);
    }
}

```

サービスオペレーション用のラッパー

```

using System.Net;
using Amazon.SimpleEmailV2;
using Amazon.SimpleEmailV2.Model;

namespace Sesev2Scenario;

/// <summary>
/// Wrapper class for Amazon Simple Email Service (SES) v2 operations.
/// </summary>
public class SESv2Wrapper
{
    private readonly IAmazonSimpleEmailServiceV2 _sesClient;

    /// <summary>
    /// Constructor for the SESv2Wrapper.

```

```
/// </summary>
/// <param name="sesClient">The injected SES v2 client.</param>
public SESv2Wrapper(IAmazonSimpleEmailServiceV2 sesClient)
{
    _sesClient = sesClient;
}

/// <summary>
/// Creates a contact and adds it to the specified contact list.
/// </summary>
/// <param name="emailAddress">The email address of the contact.</param>
/// <param name="contactListName">The name of the contact list.</param>
/// <returns>The response from the CreateContact operation.</returns>
public async Task<bool> CreateContactAsync(string emailAddress, string
contactListName)
{
    var request = new CreateContactRequest
    {
        EmailAddress = emailAddress,
        ContactListName = contactListName
    };

    try
    {
        var response = await _sesClient.CreateContactAsync(request);
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (AlreadyExistsException ex)
    {
        Console.WriteLine($"Contact with email address {emailAddress} already
exists in the contact list {contactListName}.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
        return true;
    }
    catch (NotFoundException ex)
    {
        Console.WriteLine($"The contact list {contactListName} does not
exist.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (TooManyRequestsException ex)
    {
        Console.WriteLine("Too many requests were made. Please try again
later.");
    }
}
```

```

        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"An error occurred while creating the contact:
{ex.Message}");
    }
    return false;
}

/// <summary>
/// Creates a contact list with the specified name.
/// </summary>
/// <param name="contactListName">The name of the contact list.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> CreateContactListAsync(string contactListName)
{
    var request = new CreateContactListRequest
    {
        ContactListName = contactListName
    };

    try
    {
        var response = await _sesClient.CreateContactListAsync(request);
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (AlreadyExistsException ex)
    {
        Console.WriteLine($"Contact list with name {contactListName} already
exists.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
        return true;
    }
    catch (LimitExceededException ex)
    {
        Console.WriteLine("The limit for contact lists has been exceeded.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (TooManyRequestsException ex)
    {
        Console.WriteLine("Too many requests were made. Please try again
later.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
}

```

```
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"An error occurred while creating the contact list:
{ex.Message}");
    }
    return false;
}

/// <summary>
/// Creates an email identity (email address or domain) and starts the
verification process.
/// </summary>
/// <param name="emailIdentity">The email address or domain to create and
verify.</param>
/// <returns>The response from the CreateEmailIdentity operation.</returns>
public async Task<CreateEmailIdentityResponse> CreateEmailIdentityAsync(string
emailIdentity)
{
    var request = new CreateEmailIdentityRequest
    {
        EmailIdentity = emailIdentity
    };

    try
    {
        var response = await _sesClient.CreateEmailIdentityAsync(request);
        return response;
    }
    catch (AlreadyExistsException ex)
    {
        Console.WriteLine($"Email identity {emailIdentity} already exists.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
        throw;
    }
    catch (ConcurrentModificationException ex)
    {
        Console.WriteLine($"The email identity {emailIdentity} is being modified
by another operation or thread.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
        throw;
    }
    catch (LimitExceededException ex)
    {

```

```

        Console.WriteLine("The limit for email identities has been exceeded.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
        throw;
    }
    catch (NotFoundException ex)
    {
        Console.WriteLine($"The email identity {emailIdentity} does not
exist.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
        throw;
    }
    catch (TooManyRequestsException ex)
    {
        Console.WriteLine("Too many requests were made. Please try again
later.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
        throw;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"An error occurred while creating the email identity:
{ex.Message}");
        throw;
    }
}

/// <summary>
/// Creates an email template with the specified content.
/// </summary>
/// <param name="templateName">The name of the email template.</param>
/// <param name="subject">The subject of the email template.</param>
/// <param name="htmlContent">The HTML content of the email template.</param>
/// <param name="textContent">The text content of the email template.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> CreateEmailTemplateAsync(string templateName, string
subject, string htmlContent, string textContent)
{
    var request = new CreateEmailTemplateRequest
    {
        TemplateName = templateName,
        TemplateContent = new EmailTemplateContent
        {
            Subject = subject,
            Html = htmlContent,

```

```

        Text = textContent
    }
};

try
{
    var response = await _sesClient.CreateEmailTemplateAsync(request);
    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
catch (AlreadyExistsException ex)
{
    Console.WriteLine($"Email template with name {templateName} already
exists.");
    Console.WriteLine(ex.Message);
}
catch (LimitExceededException ex)
{
    Console.WriteLine("The limit for email templates has been exceeded.");
    Console.WriteLine(ex.Message);
}
catch (TooManyRequestsException ex)
{
    Console.WriteLine("Too many requests were made. Please try again
later.");
    Console.WriteLine(ex.Message);
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine($"An error occurred while creating the email template:
{ex.Message}");
}

return false;
}

/// <summary>
/// Deletes a contact list and all contacts within it.
/// </summary>
/// <param name="contactListName">The name of the contact list to delete.</
param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> DeleteContactListAsync(string contactListName)
{
    var request = new DeleteContactListRequest

```



```

    {
        ContactListName = contactListName
    };

    try
    {
        var response = await _sesClient.DeleteContactListAsync(request);
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
    catch (ConcurrentModificationException ex)
    {
        Console.WriteLine($"The contact list {contactListName} is being modified
by another operation or thread.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (NotFoundException ex)
    {
        Console.WriteLine($"The contact list {contactListName} does not
exist.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (TooManyRequestsException ex)
    {
        Console.WriteLine("Too many requests were made. Please try again
later.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"An error occurred while deleting the contact list:
{ex.Message}");
    }

    return false;
}

/// <summary>
/// Deletes an email identity (email address or domain).
/// </summary>
/// <param name="emailIdentity">The email address or domain to delete.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> DeleteEmailIdentityAsync(string emailIdentity)
{
    var request = new DeleteEmailIdentityRequest

```

```

        {
            EmailIdentity = emailIdentity
        };

        try
        {
            var response = await _sesClient.DeleteEmailIdentityAsync(request);
            return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
        }
        catch (ConcurrentModificationException ex)
        {
            Console.WriteLine($"The email identity {emailIdentity} is being modified
by another operation or thread.");
            Console.WriteLine(ex.Message);
        }
        catch (NotFoundException ex)
        {
            Console.WriteLine($"The email identity {emailIdentity} does not
exist.");
            Console.WriteLine(ex.Message);
        }
        catch (TooManyRequestsException ex)
        {
            Console.WriteLine("Too many requests were made. Please try again
later.");
            Console.WriteLine(ex.Message);
        }
        catch (Exception ex)
        {
            Console.WriteLine($"An error occurred while deleting the email identity:
{ex.Message}");
        }

        return false;
    }

    /// <summary>
    /// Deletes an email template.
    /// </summary>
    /// <param name="templateName">The name of the email template to delete.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public async Task<bool> DeleteEmailTemplateAsync(string templateName)
    {
        var request = new DeleteEmailTemplateRequest

```

```

        {
            TemplateName = templateName
        };

        try
        {
            var response = await _sesClient.DeleteEmailTemplateAsync(request);
            return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
        }
        catch (NotFoundException ex)
        {
            Console.WriteLine($"The email template {templateName} does not exist.");
            Console.WriteLine(ex.Message);
        }
        catch (TooManyRequestsException ex)
        {
            Console.WriteLine("Too many requests were made. Please try again
later.");
            Console.WriteLine(ex.Message);
        }
        catch (Exception ex)
        {
            Console.WriteLine($"An error occurred while deleting the email template:
{ex.Message}");
        }

        return false;
    }

    /// <summary>
    /// Lists the contacts in the specified contact list.
    /// </summary>
    /// <param name="contactListName">The name of the contact list.</param>
    /// <returns>The list of contacts response from the ListContacts operation.</
returns>
    public async Task<List<Contact>> ListContactsAsync(string contactListName)
    {
        var request = new ListContactsRequest
        {
            ContactListName = contactListName
        };

        try
        {

```

```

        var response = await _sesClient.ListContactsAsync(request);
        return response.Contacts;
    }
    catch (NotFoundException ex)
    {
        Console.WriteLine($"The contact list {contactListName} does not
exist.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (TooManyRequestsException ex)
    {
        Console.WriteLine("Too many requests were made. Please try again
later.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"An error occurred while listing the contacts:
{ex.Message}");
    }

    return new List<Contact>();
}

/// <summary>
/// Sends an email with the specified content and options.
/// </summary>
/// <param name="fromEmailAddress">The email address to send the email from.</
param>
/// <param name="toEmailAddresses">The email addresses to send the email to.</
param>
/// <param name="subject">The subject of the email.</param>
/// <param name="htmlContent">The HTML content of the email.</param>
/// <param name="textContent">The text content of the email.</param>
/// <param name="templateName">The name of the email template to use
(optional).</param>
/// <param name="templateData">The data to replace placeholders in the email
template (optional).</param>
/// <param name="contactListName">The name of the contact list for unsubscribe
functionality (optional).</param>
/// <returns>The MessageId response from the SendEmail operation.</returns>
public async Task<string> SendEmailAsync(string fromEmailAddress, List<string>
toEmailAddresses, string? subject,

```

```
        string? htmlContent, string? textContent, string? templateName = null,
        string? templateData = null, string? contactListName = null)
    {
        var request = new SendEmailRequest
        {
            FromEmailAddress = fromEmailAddress
        };

        if (toEmailAddresses.Any())
        {
            request.Destination = new Destination { ToAddresses =
toEmailAddresses };
        }

        if (!string.IsNullOrEmpty(templateName))
        {
            request.Content = new EmailContent()
            {
                Template = new Template
                {
                    TemplateName = templateName,
                    TemplateData = templateData
                }
            };
        }
        else
        {
            request.Content = new EmailContent
            {
                Simple = new Message
                {
                    Subject = new Content { Data = subject },
                    Body = new Body
                    {
                        Html = new Content { Data = htmlContent },
                        Text = new Content { Data = textContent }
                    }
                }
            };
        }

        if (!string.IsNullOrEmpty(contactListName))
        {
            request.ListManagementOptions = new ListManagementOptions
```

```
        {
            ContactListName = contactListName
        };
    }

    try
    {
        var response = await _sesClient.SendEmailAsync(request);
        return response.MessageId;
    }
    catch (AccountSuspendedException ex)
    {
        Console.WriteLine("The account's ability to send email has been
permanently restricted.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (MailFromDomainNotVerifiedException ex)
    {
        Console.WriteLine("The sending domain is not verified.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (MessageRejectedException ex)
    {
        Console.WriteLine("The message content is invalid.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (SendingPausedException ex)
    {
        Console.WriteLine("The account's ability to send email is currently
paused.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (TooManyRequestsException ex)
    {
        Console.WriteLine("Too many requests were made. Please try again
later.");
        Console.WriteLine(ex.Message);
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"An error occurred while sending the email:
{ex.Message}");
    }
}
```

```
        return string.Empty;  
    }  
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
 - [CreateContact](#)
 - [CreateContactList](#)
 - [CreateEmailIdentity](#)
 - [CreateEmailTemplate](#)
 - [DeleteContactList](#)
 - [DeleteEmailIdentity](#)
 - [DeleteEmailTemplate](#)
 - [ListContacts](#)
 - [SendEmail.simple](#)
 - [SendEmail.template](#)

を使用した Amazon SNS の例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon SNS AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [はじめに](#)
- [アクション](#)

- [シナリオ](#)
- [サーバーレスサンプル](#)

はじめに

Hello Amazon SNS

次のコード例は、Amazon SNS の使用を開始する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using Amazon.SimpleNotificationService;
using Amazon.SimpleNotificationService.Model;

namespace SNSActions;

public static class HelloSNS
{
    static async Task Main(string[] args)
    {
        var snsClient = new AmazonSimpleNotificationServiceClient();

        Console.WriteLine($"Hello Amazon SNS! Following are some of your topics:");
        Console.WriteLine();

        // You can use await and any of the async methods to get a response.
        // Let's get a list of topics.
        var response = await snsClient.ListTopicsAsync(
            new ListTopicsRequest());

        foreach (var topic in response.Topics)
        {
            Console.WriteLine($"\\tTopic ARN: {topic.TopicArn}");
            Console.WriteLine();
        }
    }
}
```



```
    }  
  }  
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListTopics](#)」を参照してください。

アクション

CheckIfPhoneNumberIsOptedOut

次のコード例は、CheckIfPhoneNumberIsOptedOut を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;  
using System.Threading.Tasks;  
using Amazon.SimpleNotificationService;  
using Amazon.SimpleNotificationService.Model;  
  
/// <summary>  
/// This example shows how to use the Amazon Simple Notification Service  
/// (Amazon SNS) to check whether a phone number has been opted out.  
/// </summary>  
public class IsPhoneNumOptedOut  
{  
    public static async Task Main()  
    {  
        string phoneNumber = "+15551112222";  
  
        IAmazonSimpleNotificationService client = new  
AmazonSimpleNotificationServiceClient();  
  
        await CheckIfOptedOutAsync(client, phoneNumber);  
    }  
}
```

```

    }

    /// <summary>
    /// Checks to see if the supplied phone number has been opted out.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon SNS Client object used
    /// to check if the phone number has been opted out.</param>
    /// <param name="phoneNumber">A string representing the phone number
    /// to check.</param>
    public static async Task
    CheckIfOptedOutAsync(IAmazonSimpleNotificationService client, string phoneNumber)
    {
        var request = new CheckIfPhoneNumberIsOptedOutRequest
        {
            PhoneNumber = phoneNumber,
        };

        try
        {
            var response = await
            client.CheckIfPhoneNumberIsOptedOutAsync(request);

            if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
            {
                string optOutStatus = response.IsOptedOut ? "opted out" : "not
opted out.";
                Console.WriteLine($"The phone number: {phoneNumber} is
{optOutStatus}");
            }
        }
        catch (AuthorizationException ex)
        {
            Console.WriteLine($"{ex.Message}");
        }
    }
}

```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CheckIfPhoneNumberIsOptedOut](#)」を参照してください。

CreateTopic

次のコード例は、CreateTopic を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

トピックを作成して、個別の名前を付けます。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.SimpleNotificationService;
using Amazon.SimpleNotificationService.Model;

/// <summary>
/// This example shows how to use Amazon Simple Notification Service
/// (Amazon SNS) to add a new Amazon SNS topic.
/// </summary>
public class CreateSNSTopic
{
    public static async Task Main()
    {
        string topicName = "ExampleSNSTopic";

        IAmazonSimpleNotificationService client = new
AmazonSimpleNotificationServiceClient();

        var topicArn = await CreateSNSTopicAsync(client, topicName);
        Console.WriteLine($"New topic ARN: {topicArn}");
    }

    /// <summary>
    /// Creates a new SNS topic using the supplied topic name.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized SNS client object used to
    /// create the new topic.</param>
    /// <param name="topicName">A string representing the topic name.</param>
    /// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the created topic.</returns>
}
```

```

    public static async Task<string>
CreateSNSTopicAsync(IAmazonSimpleNotificationService client, string topicName)
    {
        var request = new CreateTopicRequest
        {
            Name = topicName,
        };

        var response = await client.CreateTopicAsync(request);

        return response.TopicArn;
    }
}

```

名前と特定の FIFO および重複除外属性を使用して新しいトピックを作成します。

```

/// <summary>
/// Create a new topic with a name and specific FIFO and de-duplication
attributes.
/// </summary>
/// <param name="topicName">The name for the topic.</param>
/// <param name="useFifoTopic">True to use a FIFO topic.</param>
/// <param name="useContentBasedDeduplication">True to use content-based de-
duplication.</param>
/// <returns>The ARN of the new topic.</returns>
public async Task<string> CreateTopicWithName(string topicName, bool
useFifoTopic, bool useContentBasedDeduplication)
{
    var createTopicRequest = new CreateTopicRequest()
    {
        Name = topicName,
    };

    if (useFifoTopic)
    {
        // Update the name if it is not correct for a FIFO topic.
        if (!topicName.EndsWith(".fifo"))
        {
            createTopicRequest.Name = topicName + ".fifo";
        }
    }
}

```

```
// Add the attributes from the method parameters.
createTopicRequest.Attributes = new Dictionary<string, string>
{
    { "FifoTopic", "true" }
};
if (useContentBasedDeduplication)
{
    createTopicRequest.Attributes.Add("ContentBasedDeduplication",
"true");
}

var createResponse = await
_amazonSNSClient.CreateTopicAsync(createTopicRequest);
return createResponse.TopicArn;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[CreateTopic](#)」を参照してください。

DeleteTopic

次のコード例は、DeleteTopic を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

トピック ARN でトピックを削除します。

```
/// <summary>
/// Delete a topic by its topic ARN.
/// </summary>
/// <param name="topicArn">The ARN of the topic.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> DeleteTopicByArn(string topicArn)
{
```

```
var deleteResponse = await _amazonSNSClient.DeleteTopicAsync(  
    new DeleteTopicRequest()  
    {  
        TopicArn = topicArn  
    });  
return deleteResponse.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;  
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeleteTopic](#)」を参照してください。

GetTopicAttributes

次のコード例は、GetTopicAttributes を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;  
using System.Collections.Generic;  
using System.Threading.Tasks;  
using Amazon.SimpleNotificationService;  
  
/// <summary>  
/// This example shows how to retrieve the attributes of an Amazon Simple  
/// Notification Service (Amazon SNS) topic.  
/// </summary>  
public class GetTopicAttributes  
{  
    public static async Task Main()  
    {  
        string topicArn = "arn:aws:sns:us-west-2:000000000000:ExampleSNSTopic";  
        IAmazonSimpleNotificationService client = new  
AmazonSimpleNotificationServiceClient();
```

```

        var attributes = await GetTopicAttributesAsync(client, topicArn);
        DisplayTopicAttributes(attributes);
    }

    /// <summary>
    /// Given the ARN of the Amazon SNS topic, this method retrieves the topic
    /// attributes.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon SNS client object used
    /// to retrieve the attributes for the Amazon SNS topic.</param>
    /// <param name="topicArn">The ARN of the topic for which to retrieve
    /// the attributes.</param>
    /// <returns>A Dictionary of topic attributes.</returns>
    public static async Task<Dictionary<string, string>>
GetTopicAttributesAsync(
    IAmazonSimpleNotificationService client,
    string topicArn)
    {
        var response = await client.GetTopicAttributesAsync(topicArn);

        return response.Attributes;
    }

    /// <summary>
    /// This method displays the attributes for an Amazon SNS topic.
    /// </summary>
    /// <param name="topicAttributes">A Dictionary containing the
    /// attributes for an Amazon SNS topic.</param>
    public static void DisplayTopicAttributes(Dictionary<string, string>
topicAttributes)
    {
        foreach (KeyValuePair<string, string> entry in topicAttributes)
        {
            Console.WriteLine($"{entry.Key}: {entry.Value}\n");
        }
    }
}

```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetTopicAttributes](#)」を参照してください。

ListSubscriptions

次のコード例は、ListSubscriptions を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.SimpleNotificationService;
using Amazon.SimpleNotificationService.Model;

/// <summary>
/// This example will retrieve a list of the existing Amazon Simple
/// Notification Service (Amazon SNS) subscriptions.
/// </summary>
public class ListSubscriptions
{
    public static async Task Main()
    {
        IAmazonSimpleNotificationService client = new
AmazonSimpleNotificationServiceClient();

        Console.WriteLine("Enter a topic ARN to list subscriptions for a
specific topic, " +
                           "or press Enter to list subscriptions for all
topics.");
        var topicArn = Console.ReadLine();
        Console.WriteLine();

        var subscriptions = await GetSubscriptionsListAsync(client, topicArn);

        DisplaySubscriptionList(subscriptions);
    }

    /// <summary>
```



```

    /// Gets a list of the existing Amazon SNS subscriptions, optionally by
    specifying a topic ARN.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon SNS client object used
    /// to obtain the list of subscriptions.</param>
    /// <param name="topicArn">The optional ARN of a specific topic. Defaults to
    null.</param>
    /// <returns>A list containing information about each subscription.</
returns>
    public static async Task<List<Subscription>>
    GetSubscriptionsListAsync(IAmazonSimpleNotificationService client, string topicArn
    = null)
    {
        var results = new List<Subscription>();

        if (!string.IsNullOrEmpty(topicArn))
        {
            var paginateByTopic = client.Paginators.ListSubscriptionsByTopic(
                new ListSubscriptionsByTopicRequest()
                {
                    TopicArn = topicArn,
                });

            // Get the entire list using the paginator.
            await foreach (var subscription in paginateByTopic.Subscriptions)
            {
                results.Add(subscription);
            }
        }
        else
        {
            var paginateAllSubscriptions =
            client.Paginators.ListSubscriptions(new ListSubscriptionsRequest());

            // Get the entire list using the paginator.
            await foreach (var subscription in
            paginateAllSubscriptions.Subscriptions)
            {
                results.Add(subscription);
            }
        }

        return results;
    }

```

```
/// <summary>
/// Display a list of Amazon SNS subscription information.
/// </summary>
/// <param name="subscriptionList">A list containing details for existing
/// Amazon SNS subscriptions.</param>
public static void DisplaySubscriptionList(List<Subscription>
subscriptionList)
{
    foreach (var subscription in subscriptionList)
    {
        Console.WriteLine($"Owner: {subscription.Owner}");
        Console.WriteLine($"Subscription ARN:
{subscription.SubscriptionArn}");
        Console.WriteLine($"Topic ARN: {subscription.TopicArn}");
        Console.WriteLine($"Endpoint: {subscription.Endpoint}");
        Console.WriteLine($"Protocol: {subscription.Protocol}");
        Console.WriteLine();
    }
}
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListSubscriptions](#)」を参照してください。

ListTopics

次のコード例は、ListTopics を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Collections.Generic;
```

```
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.SimpleNotificationService;
using Amazon.SimpleNotificationService.Model;

/// <summary>
/// Lists the Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS)
/// topics for the current account.
/// </summary>
public class ListSNSTopics
{
    public static async Task Main()
    {
        IAmazonSimpleNotificationService client = new
AmazonSimpleNotificationServiceClient();

        await GetTopicListAsync(client);
    }

    /// <summary>
    /// Retrieves the list of Amazon SNS topics in groups of up to 100
    /// topics.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon SNS client object used
    /// to retrieve the list of topics.</param>
    public static async Task GetTopicListAsync(IAmazonSimpleNotificationService
client)
    {
        // If there are more than 100 Amazon SNS topics, the call to
        // ListTopicsAsync will return a value to pass to the
        // method to retrieve the next 100 (or less) topics.
        string nextToken = string.Empty;

        do
        {
            var response = await client.ListTopicsAsync(nextToken);
            DisplayTopicsList(response.Topics);
            nextToken = response.NextToken;
        }
        while (!string.IsNullOrEmpty(nextToken));
    }

    /// <summary>
    /// Displays the list of Amazon SNS Topic ARNs.
    /// </summary>
```

```
/// <param name="topicList">The list of Topic ARNs.</param>
public static void DisplayTopicsList(List<Topic> topicList)
{
    foreach (var topic in topicList)
    {
        Console.WriteLine($"{topic.TopicArn}");
    }
}
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListTopics](#)」を参照してください。

Publish

次のコード例は、Publish を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

トピックへのメッセージの発行

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.SimpleNotificationService;
using Amazon.SimpleNotificationService.Model;

/// <summary>
/// This example publishes a message to an Amazon Simple Notification
/// Service (Amazon SNS) topic.
/// </summary>
public class PublishToSNSTopic
{
    public static async Task Main()
    {

```

```

        string topicArn = "arn:aws:sns:us-east-2:000000000000:ExampleSNSTopic";
        string messageText = "This is an example message to publish to the
ExampleSNSTopic.";

        IAmazonSimpleNotificationService client = new
AmazonSimpleNotificationServiceClient();

        await PublishToTopicAsync(client, topicArn, messageText);
    }

    /// <summary>
    /// Publishes a message to an Amazon SNS topic.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized client object used to publish
    /// to the Amazon SNS topic.</param>
    /// <param name="topicArn">The ARN of the topic.</param>
    /// <param name="messageText">The text of the message.</param>
    public static async Task PublishToTopicAsync(
        IAmazonSimpleNotificationService client,
        string topicArn,
        string messageText)
    {
        var request = new PublishRequest
        {
            TopicArn = topicArn,
            Message = messageText,
        };

        var response = await client.PublishAsync(request);

        Console.WriteLine($"Successfully published message ID:
{response.MessageId}");
    }
}

```

グループ、重複、属性のオプションを指定してトピックにメッセージを発行します。

```

    /// <summary>
    /// Publish messages using user settings.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>

```

```

public static async Task PublishMessages()
{
    Console.WriteLine("Now we can publish messages.");

    var keepSendingMessages = true;
    string? deduplicationId = null;
    string? toneAttribute = null;
    while (keepSendingMessages)
    {
        Console.WriteLine();
        var message = GetUserResponse("Enter a message to publish.", "This is a
sample message");

        if (_useFifoTopic)
        {
            Console.WriteLine("Because you are using a FIFO topic, you must set
a message group ID." +
                             "\r\nAll messages within the same group will be
received in the order " +
                             "they were published.");

            Console.WriteLine();
            var messageGroupId = GetUserResponse("Enter a message group ID for
this message:", "1");

            if (!_useContentBasedDeduplication)
            {
                Console.WriteLine("Because you are not using content-based
deduplication, " +
                                 "you must enter a deduplication ID.");

                Console.WriteLine("Enter a deduplication ID for this message.");
                deduplicationId = GetUserResponse("Enter a deduplication ID for
this message.", "1");
            }

            if (GetYesNoResponse("Add an attribute to this message?"))
            {
                Console.WriteLine("Enter a number for an attribute.");
                for (int i = 0; i < _tones.Length; i++)
                {
                    Console.WriteLine($"{i + 1}. {_tones[i]}");
                }
            }
        }
    }
}

```

```

        var selection = GetUserResponse("", "1");
        int.TryParse(selection, out var selectionNumber);

        if (selectionNumber > 0 && selectionNumber < _tones.Length)
        {
            toneAttribute = _tones[selectionNumber - 1];
        }

        var messageID = await SnsWrapper.PublishToTopicWithAttribute(
            _topicArn, message, "tone", toneAttribute, deduplicationId,
            messageGroupId);

        Console.WriteLine($"Message published with id {messageID}.");
    }

    keepSendingMessages = GetYesNoResponse("Send another message?", false);
}
}

```

ユーザーの選択を発行アクションに適用します。

```

    /// <summary>
    /// Publish a message to a topic with an attribute and optional deduplication
    and group IDs.
    /// </summary>
    /// <param name="topicArn">The ARN of the topic.</param>
    /// <param name="message">The message to publish.</param>
    /// <param name="attributeName">The optional attribute for the message.</param>
    /// <param name="attributeValue">The optional attribute value for the message.</
param>
    /// <param name="deduplicationId">The optional deduplication ID for the
message.</param>
    /// <param name="groupId">The optional group ID for the message.</param>
    /// <returns>The ID of the message published.</returns>
    public async Task<string> PublishToTopicWithAttribute(
        string topicArn,
        string message,
        string? attributeName = null,
        string? attributeValue = null,
        string? deduplicationId = null,
        string? groupId = null)

```

```
{
    var publishRequest = new PublishRequest()
    {
        TopicArn = topicArn,
        Message = message,
        MessageDeduplicationId = deduplicationId,
        MessageGroupId = groupId
    };

    if (attributeValue != null)
    {
        // Add the string attribute if it exists.
        publishRequest.MessageAttributes =
            new Dictionary<string, MessageAttributeValue>
            {
                { attributeName!, new MessageAttributeValue() { StringValue =
attributeValue, DataType = "String"} }
            };
    }

    var publishResponse = await _amazonSNSClient.PublishAsync(publishRequest);
    return publishResponse.MessageId;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[発行](#)」を参照してください。

Subscribe

次のコード例は、Subscribe を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

E メールアドレスをトピックにサブスクライブします。


```

    /// <summary>
    /// Creates a new subscription to a topic.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon SNS client object, used
    /// to create an Amazon SNS subscription.</param>
    /// <param name="topicArn">The ARN of the topic to subscribe to.</param>
    /// <returns>A SubscribeResponse object which includes the subscription
    /// ARN for the new subscription.</returns>
    public static async Task<SubscribeResponse> TopicSubscribeAsync(
        IAmazonSimpleNotificationService client,
        string topicArn)
    {
        SubscribeRequest request = new SubscribeRequest()
        {
            TopicArn = topicArn,
            ReturnSubscriptionArn = true,
            Protocol = "email",
            Endpoint = "recipient@example.com",
        };

        var response = await client.SubscribeAsync(request);

        return response;
    }

```

オプションのフィルターでトピックにキューをサブスクライブします。

```

    /// <summary>
    /// Subscribe a queue to a topic with optional filters.
    /// </summary>
    /// <param name="topicArn">The ARN of the topic.</param>
    /// <param name="useFifoTopic">The optional filtering policy for the
    subscription.</param>
    /// <param name="queueArn">The ARN of the queue.</param>
    /// <returns>The ARN of the new subscription.</returns>
    public async Task<string> SubscribeTopicWithFilter(string topicArn, string?
    filterPolicy, string queueArn)
    {
        var subscribeRequest = new SubscribeRequest()
        {

```

```

        TopicArn = topicArn,
        Protocol = "sqs",
        Endpoint = queueArn
    };

    if (!string.IsNullOrEmpty(filterPolicy))
    {
        subscribeRequest.Attributes = new Dictionary<string, string>
        { { "FilterPolicy", filterPolicy } };
    }

    var subscribeResponse = await
        _amazonSNSClient.SubscribeAsync(subscribeRequest);
    return subscribeResponse.SubscriptionArn;
}

```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[Subscribe](#)」を参照してください。

Unsubscribe

次のコード例は、Unsubscribe を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

サブスクリプション ARN でトピックからサブスクライブを解除します。

```

/// <summary>
/// Unsubscribe from a topic by a subscription ARN.
/// </summary>
/// <param name="subscriptionArn">The ARN of the subscription.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> UnsubscribeByArn(string subscriptionArn)
{
    var unsubscribeResponse = await _amazonSNSClient.UnsubscribeAsync(

```

```
        new UnsubscribeRequest()
        {
            SubscriptionArn = subscriptionArn
        });
    return unsubscribeResponse.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[Unsubscribe](#)」を参照してください。

シナリオ

Amazon SNS アプリケーションの構築

次のコード例は、サブスクリプションとパブリッシュ機能を持ち、メッセージを翻訳するアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for .NET

Amazon Simple Notification Service .NET API を使用して、サブスクリプションおよびパブリッシュ機能を持つウェブアプリケーションを作成する方法を説明します。さらに、このサンプルアプリケーションではメッセージを翻訳します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon SNS
- Amazon Translate

サーバーレスアプリケーションを作成して写真を管理する

次のコード例では、ユーザーがラベルを使用して写真を管理できるサーバーレスアプリケーションを作成する方法について示しています。

SDK for .NET

Amazon Rekognition を使用して画像内のラベルを検出し、保存して後で取得できるようにする写真アセット管理アプリケーションの開発方法を示します。

完全なソースコードと設定および実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例のソースについて詳しくは、[AWS コミュニティ](#)でブログ投稿を参照してください。

この例で使用されているサービス

- API ゲートウェイ
- DynamoDB
- Lambda
- Amazon Rekognition
- Amazon S3
- Amazon SNS

SMS テキストメッセージを発行する

次のコードサンプルは、Amazon SNS を使用して SMS メッセージを発行する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
namespace SNSMessageExample
{
    using System;
    using System.Threading.Tasks;
    using Amazon;
    using Amazon.SimpleNotificationService;
    using Amazon.SimpleNotificationService.Model;

    public class SNSMessage
    {
        private AmazonSimpleNotificationServiceClient snsClient;

        /// <summary>
        /// Initializes a new instance of the <see cref="SNSMessage"/> class.
    }
}
```

```
/// Constructs a new SNSMessage object initializing the Amazon Simple
/// Notification Service (Amazon SNS) client using the supplied
/// Region endpoint.
/// </summary>
/// <param name="regionEndpoint">The Amazon Region endpoint to use in
/// sending test messages with this object.</param>
public SNSMessage(RegionEndpoint regionEndpoint)
{
    snsClient = new AmazonSimpleNotificationServiceClient(regionEndpoint);
}

/// <summary>
/// Sends the SMS message passed in the text parameter to the phone number
/// in phoneNum.
/// </summary>
/// <param name="phoneNum">The ten-digit phone number to which the text
/// message will be sent.</param>
/// <param name="text">The text of the message to send.</param>
/// <returns>Async task.</returns>
public async Task SendTextMessageAsync(string phoneNum, string text)
{
    if (string.IsNullOrEmpty(phoneNum) || string.IsNullOrEmpty(text))
    {
        return;
    }

    // Now actually send the message.
    var request = new PublishRequest
    {
        Message = text,
        PhoneNumber = phoneNum,
    };

    try
    {
        var response = await snsClient.PublishAsync(request);
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"Error sending message: {ex}");
    }
}
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[Publish](#)」を参照してください。

メッセージをキューに発行する

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- トピック (FIFO または非 FIFO) を作成します。
- フィルターを適用するオプションを使用して、複数のキューをトピックにサブスクライブします。
- メッセージをトピックに発行します。
- 受信したメッセージのキューをポーリングします。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

コマンドプロンプトからインタラクティブなシナリオを実行します。

```
/// <summary>
/// Console application to run a feature scenario for topics and queues.
/// </summary>
public static class TopicsAndQueues
{
    private static bool _useFifoTopic = false;
    private static bool _useContentBasedDeduplication = false;
    private static string _topicName = null!;
    private static string _topicArn = null!;

    private static readonly int _queueCount = 2;
    private static readonly string[] _queueUrls = new string[_queueCount];
    private static readonly string[] _subscriptionArns = new string[_queueCount];
    private static readonly string[] _tones = { "cheerful", "funny", "serious",
"sincere" };
}
```

```

public static SNSWrapper SnsWrapper { get; set; } = null!;
public static SQSWrapper SqsWrapper { get; set; } = null!;
public static bool UseConsole { get; set; } = true;
static async Task Main(string[] args)
{
    // Set up dependency injection for Amazon EventBridge.
    using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
        .ConfigureLogging(logging =>
            logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
                .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
LogLevel.Information)
                .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
        .ConfigureServices((_, services) =>
            services.AddAWSService<IAmazonSQS>()
                .AddAWSService<IAmazonSimpleNotificationService>()
                .AddTransient<SNSWrapper>()
                .AddTransient<SQSWrapper>()
            )
        .Build();

    ServicesSetup(host);
    PrintDescription();

    await RunScenario();
}

/// <summary>
/// Populate the services for use within the console application.
/// </summary>
/// <param name="host">The services host.</param>
private static void ServicesSetup(IHost host)
{
    SnsWrapper = host.Services.GetRequiredService<SNSWrapper>();
    SqsWrapper = host.Services.GetRequiredService<SQSWrapper>();
}

/// <summary>
/// Run the scenario for working with topics and queues.
/// </summary>
/// <returns>True if successful.</returns>
public static async Task<bool> RunScenario()
{
    try

```

```

    {
        await SetupTopic();

        await SetupQueues();

        await PublishMessages();

        foreach (var queueUrl in _queueUrls)
        {
            var messages = await PollForMessages(queueUrl);
            if (messages.Any())
            {
                await DeleteMessages(queueUrl, messages);
            }
        }
        await CleanupResources();

        Console.WriteLine("Messaging with topics and queues scenario is
complete.");
        return true;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"There was a problem running the scenario:
{ex.Message}");
        await CleanupResources();
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        return false;
    }
}

/// <summary>
/// Print a description for the tasks in the scenario.
/// </summary>
/// <returns>Async task.</returns>
private static void PrintDescription()
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine($"Welcome to messaging with topics and queues.");

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine($"In this scenario, you will create an SNS topic and
subscribe {_queueCount} SQS queues to the topic." +

```



```

        $"\\r\\nYou can select from several options for configuring
the topic and the subscriptions for the 2 queues." +
        $"\\r\\nYou can then post to the topic and see the results
in the queues.\\r\\n");

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// Set up the SNS topic to be used with the queues.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task<string> SetupTopic()
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"SNS topics can be configured as FIFO (First-In-First-
Out)." +
            $"\\r\\nFIFO topics deliver messages in order and support
deduplication and message filtering." +
            $"\\r\\nYou can then post to the topic and see the results
in the queues.\\r\\n");

        _useFifoTopic = GetYesNoResponse("Would you like to work with FIFO
topics?");

        if (_useFifoTopic)
        {
            Console.WriteLine(new string('-', 80));
            _topicName = GetUserResponse("Enter a name for your SNS topic: ",
"example-topic");
            Console.WriteLine(
                "Because you have selected a FIFO topic, '.fifo' must be appended to
the topic name.\\r\\n");

            Console.WriteLine(new string('-', 80));
            Console.WriteLine($"Because you have chosen a FIFO topic, deduplication
is supported." +
                $"\\r\\nDeduplication IDs are either set in the message
or automatically generated " +
                $"\\r\\nfrom content using a hash function.\\r\\n" +
                $"\\r\\nIf a message is successfully published to an SNS
FIFO topic, any message " +
                $"\\r\\npublished and determined to have the same
deduplication ID, " +

```

```

        $"\\r\\nwithin the five-minute deduplication interval,
is accepted but not delivered.\\r\\n" +
        $"\\r\\nFor more information about deduplication, " +
        $"\\r\\nsee https://docs.aws.amazon.com/sns/latest/dg/
fifo-message-dedup.html.");

        _useContentBasedDeduplication = GetYesNoResponse("Use content-based
deduplication instead of entering a deduplication ID?");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    _topicArn = await SnsWrapper.CreateTopicWithName(_topicName, _useFifoTopic,
_useContentBasedDeduplication);

    Console.WriteLine($"Your new topic with the name {_topicName}" +
        $"\\r\\nand Amazon Resource Name (ARN) {_topicArn}" +
        $"\\r\\nhas been created.\\r\\n");

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    return _topicArn;
}

/// <summary>
/// Set up the queues.
/// </summary>
/// <returns>Async task.</returns>
private static async Task SetupQueues()
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine($"Now you will create {_queueCount} Amazon Simple Queue
Service (Amazon SQS) queues to subscribe to the topic.");

    // Repeat this section for each queue.
    for (int i = 0; i < _queueCount; i++)
    {
        var queueName = GetUserResponse("Enter a name for an Amazon SQS queue:
", $"example-queue-{i}");
        if (_useFifoTopic)
        {
            // Only explain this once.
            if (i == 0)
            {
                Console.WriteLine(

```

```

        "Because you have selected a FIFO topic, '.fifo' must be
        appended to the queue name.");
    }

    var queueUrl = await SqsWrapper.CreateQueueWithName(queueName,
        _useFifoTopic);

    _queueUrls[i] = queueUrl;

    Console.WriteLine($"Your new queue with the name {queueName}" +
        $"\r\nand queue URL {queueUrl}" +
        $"\r\nhas been created.\r\n");

    if (i == 0)
    {
        Console.WriteLine(
            $"The queue URL is used to retrieve the queue ARN,\r\n" +
            $"which is used to create a subscription.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    var queueArn = await SqsWrapper.GetQueueArnByUrl(queueUrl);

    if (i == 0)
    {
        Console.WriteLine(
            $"An AWS Identity and Access Management (IAM) policy must be
            attached to an SQS queue, enabling it to receive\r\n" +
            $"messages from an SNS topic");
    }

    await SqsWrapper.SetQueuePolicyForTopic(queueArn, _topicArn,
        queueUrl);

    await SetupFilters(i, queueArn, queueName);
}

Console.WriteLine(new string('-', 80));
}

/// <summary>
/// Set up filters with user options for a queue.
/// </summary>

```

```

    /// <param name="queueCount">The number of this queue.</param>
    /// <param name="queueArn">The ARN of the queue.</param>
    /// <param name="queueName">The name of the queue.</param>
    /// <returns>Async Task.</returns>
    public static async Task SetupFilters(int queueCount, string queueArn, string
queueName)
    {
        if (_useFifoTopic)
        {
            Console.WriteLine(new string('-', 80));
            // Only explain this once.
            if (queueCount == 0)
            {
                Console.WriteLine(
                    "Subscriptions to a FIFO topic can have filters." +
                    "If you add a filter to this subscription, then only the
filtered messages " +
                    "will be received in the queue.");

                Console.WriteLine(
                    "For information about message filtering, " +
                    "see https://docs.aws.amazon.com/sns/latest/dg/sns-message-
filtering.html");

                Console.WriteLine(
                    "For this example, you can filter messages by a " +
                    "TONE attribute.");
            }

            var useFilter = GetYesNoResponse($"Filter messages for {queueName}'s
subscription to the topic?");

            string? filterPolicy = null;
            if (useFilter)
            {
                filterPolicy = CreateFilterPolicy();
            }
            var subscriptionArn = await
SnsWrapper.SubscribeTopicWithFilter(_topicArn, filterPolicy,
queueArn);
            _subscriptionArns[queueCount] = subscriptionArn;

            Console.WriteLine(

```

```

        $"The queue {queueName} has been subscribed to the topic
{_topicName} " +
        $"with the subscription ARN {subscriptionArn}");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
}

/// <summary>
/// Use user input to create a filter policy for a subscription.
/// </summary>
/// <returns>The serialized filter policy.</returns>
public static string CreateFilterPolicy()
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine(
        $"You can filter messages by one or more of the following" +
        $"TONE attributes.");

    List<string> filterSelections = new List<string>();

    var selectionNumber = 0;
    do
    {
        Console.WriteLine(
            $"Enter a number to add a TONE filter, or enter 0 to stop adding
filters.");
        for (int i = 0; i < _tones.Length; i++)
        {
            Console.WriteLine($"\\t{i + 1}. {_tones[i]}");
        }

        var selection = GetUserResponse("", filterSelections.Any() ? "0" : "1");
        int.TryParse(selection, out selectionNumber);
        if (selectionNumber > 0 && !
filterSelections.Contains(_tones[selectionNumber - 1]))
        {
            filterSelections.Add(_tones[selectionNumber - 1]);
        }
    } while (selectionNumber != 0);

    var filters = new Dictionary<string, List<string>>
    {
        { "tone", filterSelections }
    };
};

```

```

        string filterPolicy = JsonSerializer.Serialize(filters);
        return filterPolicy;
    }

    /// <summary>
    /// Publish messages using user settings.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public static async Task PublishMessages()
    {
        Console.WriteLine("Now we can publish messages.");

        var keepSendingMessages = true;
        string? deduplicationId = null;
        string? toneAttribute = null;
        while (keepSendingMessages)
        {
            Console.WriteLine();
            var message = GetUserResponse("Enter a message to publish.", "This is a sample message");

            if (_useFifoTopic)
            {
                Console.WriteLine("Because you are using a FIFO topic, you must set a message group ID." +
                                   "\r\nAll messages within the same group will be received in the order " +
                                   "they were published.");

                Console.WriteLine();
                var messageGroupId = GetUserResponse("Enter a message group ID for this message:", "1");

                if (!_useContentBasedDeduplication)
                {
                    Console.WriteLine("Because you are not using content-based deduplication, " +
                                       "you must enter a deduplication ID.");

                    Console.WriteLine("Enter a deduplication ID for this message.");
                    deduplicationId = GetUserResponse("Enter a deduplication ID for this message.", "1");
                }
            }
        }
    }

```

```

        if (GetYesNoResponse("Add an attribute to this message?"))
        {
            Console.WriteLine("Enter a number for an attribute.");
            for (int i = 0; i < _tones.Length; i++)
            {
                Console.WriteLine($"{i + 1}. {_tones[i]}");
            }

            var selection = GetUserResponse("", "1");
            int.TryParse(selection, out var selectionNumber);

            if (selectionNumber > 0 && selectionNumber < _tones.Length)
            {
                toneAttribute = _tones[selectionNumber - 1];
            }
        }

        var messageID = await SnsWrapper.PublishToTopicWithAttribute(
            _topicArn, message, "tone", toneAttribute, deduplicationId,
messageGroupId);

        Console.WriteLine($"Message published with id {messageID}.");
    }

    keepSendingMessages = GetYesNoResponse("Send another message?", false);
}

}

/// <summary>
/// Poll for the published messages to see the results of the user's choices.
/// </summary>
/// <returns>Async task.</returns>
public static async Task<List<Message>> PollForMessages(string queueUrl)
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine($"Now the SQS queue at {queueUrl} will be polled to
retrieve the messages." +
        "\r\nPress any key to continue.");
    if (UseConsole)
    {
        Console.ReadLine();
    }

    var moreMessages = true;

```

```

        var messages = new List<Message>();
        while (moreMessages)
        {
            var newMessages = await SqsWrapper.ReceiveMessagesByUrl(queueUrl, 10);

            moreMessages = newMessages.Any();
            if (moreMessages)
            {
                messages.AddRange(newMessages);
            }
        }

        Console.WriteLine($"{messages.Count} message(s) were received by the queue
at {queueUrl}.");

        foreach (var message in messages)
        {
            Console.WriteLine("\tMessage:" +
                              $"{"\n\t{message.Body}"}");
        }

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        return messages;
    }

    /// <summary>
    /// Delete the message using handles in a batch.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public static async Task DeleteMessages(string queueUrl, List<Message> messages)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Now we can delete the messages in this queue in a
batch.");
        await SqsWrapper.DeleteMessageBatchByUrl(queueUrl, messages);
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// Clean up the resources from the scenario.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task CleanupResources()
    {

```



```
Console.WriteLine(new string('-', 80));
Console.WriteLine($"Clean up resources.");

try
{
    foreach (var queueUrl in _queueUrls)
    {
        if (!string.IsNullOrEmpty(queueUrl))
        {
            var deleteQueue =
                GetYesNoResponse($"Delete queue with url {queueUrl}?");
            if (deleteQueue)
            {
                await SqsWrapper.DeleteQueueByUrl(queueUrl);
            }
        }
    }

    foreach (var subscriptionArn in _subscriptionArns)
    {
        if (!string.IsNullOrEmpty(subscriptionArn))
        {
            await SnsWrapper.UnsubscribeByArn(subscriptionArn);
        }
    }

    var deleteTopic = GetYesNoResponse($"Delete topic {_topicName}?");
    if (deleteTopic)
    {
        await SnsWrapper.DeleteTopicByArn(_topicArn);
    }
}
catch (Exception ex)
{
    Console.WriteLine($"Unable to clean up resources. Here's why:
{ex.Message}.");
}

Console.WriteLine(new string('-', 80));
}

/// <summary>
/// Helper method to get a yes or no response from the user.
/// </summary>
```

```

    /// <param name="question">The question string to print on the console.</param>
    /// <param name="defaultAnswer">Optional default answer to use.</param>
    /// <returns>True if the user responds with a yes.</returns>
    private static bool GetYesNoResponse(string question, bool defaultAnswer = true)
    {
        if (UseConsole)
        {
            Console.WriteLine(question);
            var ynResponse = Console.ReadLine();
            var response = ynResponse != null &&
                ynResponse.Equals("y",
                    StringComparison.InvariantCultureIgnoreCase);

            return response;
        }
        // If not using the console, use the default.
        return defaultAnswer;
    }

    /// <summary>
    /// Helper method to get a string response from the user through the console.
    /// </summary>
    /// <param name="question">The question string to print on the console.</param>
    /// <param name="defaultAnswer">Optional default answer to use.</param>
    /// <returns>True if the user responds with a yes.</returns>
    private static string GetUserResponse(string question, string defaultAnswer)
    {
        if (UseConsole)
        {
            var response = "";
            while (string.IsNullOrEmpty(response))
            {
                Console.WriteLine(question);
                response = Console.ReadLine();
            }
            return response;
        }
        // If not using the console, use the default.
        return defaultAnswer;
    }
}

```

Amazon SQS オペレーションをラップするクラスを作成します。

```
/// <summary>
/// Wrapper for Amazon Simple Queue Service (SQS) operations.
/// </summary>
public class SQSWrapper
{
    private readonly IAmazonSQS _amazonSQSClient;

    /// <summary>
    /// Constructor for the Amazon SQS wrapper.
    /// </summary>
    /// <param name="amazonSQS">The injected Amazon SQS client.</param>
    public SQSWrapper(IAmazonSQS amazonSQS)
    {
        _amazonSQSClient = amazonSQS;
    }

    /// <summary>
    /// Create a queue with a specific name.
    /// </summary>
    /// <param name="queueName">The name for the queue.</param>
    /// <param name="useFifoQueue">True to use a FIFO queue.</param>
    /// <returns>The url for the queue.</returns>
    public async Task<string> CreateQueueWithName(string queueName, bool
useFifoQueue)
    {
        int maxMessage = 256 * 1024;
        var queueAttributes = new Dictionary<string, string>
        {
            {
                QueueAttributeName.MaximumMessageSize,
                maxMessage.ToString()
            }
        };

        var createQueueRequest = new CreateQueueRequest()
        {
            QueueName = queueName,
            Attributes = queueAttributes
        };

        if (useFifoQueue)
        {
```

```

        // Update the name if it is not correct for a FIFO queue.
        if (!queueName.EndsWith(".fifo"))
        {
            createQueueRequest.QueueName = queueName + ".fifo";
        }

        // Add an attribute for a FIFO queue.
        createQueueRequest.Attributes.Add(
            QueueAttributeName.FifoQueue, "true");
    }

    var createResponse = await _amazonSQSClient.CreateQueueAsync(
        new CreateQueueRequest()
        {
            QueueName = queueName
        });
    return createResponse.QueueUrl;
}

/// <summary>
/// Get the ARN for a queue from its URL.
/// </summary>
/// <param name="queueUrl">The URL of the queue.</param>
/// <returns>The ARN of the queue.</returns>
public async Task<string> GetQueueArnByUrl(string queueUrl)
{
    var getAttributesRequest = new GetQueueAttributesRequest()
    {
        QueueUrl = queueUrl,
        AttributeNames = new List<string>() { QueueAttributeName.QueueArn }
    };

    var getAttributesResponse = await _amazonSQSClient.GetQueueAttributesAsync(
        getAttributesRequest);

    return getAttributesResponse.QueueARN;
}

/// <summary>
/// Set the policy attribute of a queue for a topic.
/// </summary>
/// <param name="queueArn">The ARN of the queue.</param>
/// <param name="topicArn">The ARN of the topic.</param>
/// <param name="queueUrl">The url for the queue.</param>

```

```

    /// <returns>True if successful.</returns>
    public async Task<bool> SetQueuePolicyForTopic(string queueArn, string topicArn,
string queueUrl)
    {
        var queuePolicy = "{" +
            "\"Version\": \"2012-10-17\", " +
            "\"Statement\": [{" +
                "\"Effect\": \"Allow\", " +
                "\"Principal\": { " +
                    "\"Service\": " +
                        "\"sns.amazonaws.com\"" +
                    "}, " +
                "\"Action\": \"sqs:SendMessage\", " +
                "\"Resource\": \"{queueArn}\", " +
                "\"Condition\": { " +
                    "\"ArnEquals\": { " +
                        "\"aws:SourceArn\": \"{topicArn}\""
+
                    "}" +
                "}" +
            "}] " +
        "};

        var attributesResponse = await _amazonSQSClient.SetQueueAttributesAsync(
            new SetQueueAttributesRequest()
            {
                QueueUrl = queueUrl,
                Attributes = new Dictionary<string, string>() { { "Policy",
queuePolicy } }
            });
        return attributesResponse.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }

    /// <summary>
    /// Receive messages from a queue by its URL.
    /// </summary>
    /// <param name="queueUrl">The url of the queue.</param>
    /// <returns>The list of messages.</returns>
    public async Task<List<Message>> ReceiveMessagesByUrl(string queueUrl, int
maxMessages)
    {
        // Setting WaitTimeSeconds to non-zero enables long polling.
        // For information about long polling, see
        // https://docs.aws.amazon.com/AWSSimpleQueueService/latest/
SQSDeveloperGuide/sqs-short-and-long-polling.html

```

```

        var messageResponse = await _amazonSQSClient.ReceiveMessageAsync(
            new ReceiveMessageRequest()
            {
                QueueUrl = queueUrl,
                MaxNumberOfMessages = maxMessages,
                WaitTimeSeconds = 1
            });
        return messageResponse.Messages;
    }

    /// <summary>
    /// Delete a batch of messages from a queue by its url.
    /// </summary>
    /// <param name="queueUrl">The url of the queue.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public async Task<bool> DeleteMessageBatchByUrl(string queueUrl, List<Message>
messages)
    {
        var deleteRequest = new DeleteMessageBatchRequest()
        {
            QueueUrl = queueUrl,
            Entries = new List<DeleteMessageBatchRequestEntry>()
        };
        foreach (var message in messages)
        {
            deleteRequest.Entries.Add(new DeleteMessageBatchRequestEntry()
            {
                ReceiptHandle = message.ReceiptHandle,
                Id = message.MessageId
            });
        }

        var deleteResponse = await
        _amazonSQSClient.DeleteMessageBatchAsync(deleteRequest);

        return deleteResponse.Failed.Any();
    }

    /// <summary>
    /// Delete a queue by its URL.
    /// </summary>
    /// <param name="queueUrl">The url of the queue.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public async Task<bool> DeleteQueueByUrl(string queueUrl)

```

```

    {
        var deleteResponse = await _amazonSQSClient.DeleteQueueAsync(
            new DeleteQueueRequest()
            {
                QueueUrl = queueUrl
            });
        return deleteResponse.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
}

```

Amazon SNS オペレーションをラップするクラスを作成します。

```

/// <summary>
/// Wrapper for Amazon Simple Notification Service (SNS) operations.
/// </summary>
public class SNSWrapper
{
    private readonly IAmazonSimpleNotificationService _amazonSNSClient;

    /// <summary>
    /// Constructor for the Amazon SNS wrapper.
    /// </summary>
    /// <param name="amazonSQS">The injected Amazon SNS client.</param>
    public SNSWrapper(IAmazonSimpleNotificationService amazonSNS)
    {
        _amazonSNSClient = amazonSNS;
    }

    /// <summary>
    /// Create a new topic with a name and specific FIFO and de-duplication
    attributes.
    /// </summary>
    /// <param name="topicName">The name for the topic.</param>
    /// <param name="useFifoTopic">True to use a FIFO topic.</param>
    /// <param name="useContentBasedDeduplication">True to use content-based de-
    duplication.</param>
    /// <returns>The ARN of the new topic.</returns>
    public async Task<string> CreateTopicWithName(string topicName, bool
    useFifoTopic, bool useContentBasedDeduplication)
    {
        var createTopicRequest = new CreateTopicRequest()

```

```

        {
            Name = topicName,
        };

        if (useFifoTopic)
        {
            // Update the name if it is not correct for a FIFO topic.
            if (!topicName.EndsWith(".fifo"))
            {
                createTopicRequest.Name = topicName + ".fifo";
            }

            // Add the attributes from the method parameters.
            createTopicRequest.Attributes = new Dictionary<string, string>
            {
                { "FifoTopic", "true" }
            };
            if (useContentBasedDeduplication)
            {
                createTopicRequest.Attributes.Add("ContentBasedDeduplication",
"true");
            }
        }

        var createResponse = await
_amazonSNSClient.CreateTopicAsync(createTopicRequest);
        return createResponse.TopicArn;
    }

    /// <summary>
    /// Subscribe a queue to a topic with optional filters.
    /// </summary>
    /// <param name="topicArn">The ARN of the topic.</param>
    /// <param name="useFifoTopic">The optional filtering policy for the
subscription.</param>
    /// <param name="queueArn">The ARN of the queue.</param>
    /// <returns>The ARN of the new subscription.</returns>
    public async Task<string> SubscribeTopicWithFilter(string topicArn, string?
filterPolicy, string queueArn)
    {
        var subscribeRequest = new SubscribeRequest()
        {
            TopicArn = topicArn,
            Protocol = "sqs",

```



```

        Endpoint = queueArn
    };

    if (!string.IsNullOrEmpty(filterPolicy))
    {
        subscribeRequest.Attributes = new Dictionary<string, string>
        { { "FilterPolicy", filterPolicy } };
    }

    var subscribeResponse = await
    _amazonSNSClient.SubscribeAsync(subscribeRequest);
    return subscribeResponse.SubscriptionArn;
}

/// <summary>
/// Publish a message to a topic with an attribute and optional deduplication
and group IDs.
/// </summary>
/// <param name="topicArn">The ARN of the topic.</param>
/// <param name="message">The message to publish.</param>
/// <param name="attributeName">The optional attribute for the message.</param>
/// <param name="attributeValue">The optional attribute value for the message.</
param>
/// <param name="deduplicationId">The optional deduplication ID for the
message.</param>
/// <param name="groupId">The optional group ID for the message.</param>
/// <returns>The ID of the message published.</returns>
public async Task<string> PublishToTopicWithAttribute(
    string topicArn,
    string message,
    string? attributeName = null,
    string? attributeValue = null,
    string? deduplicationId = null,
    string? groupId = null)
{
    var publishRequest = new PublishRequest()
    {
        TopicArn = topicArn,
        Message = message,
        MessageDeduplicationId = deduplicationId,
        MessageGroupId = groupId
    };

    if (attributeValue != null)

```

```

    {
        // Add the string attribute if it exists.
        publishRequest.MessageAttributes =
            new Dictionary<string, MessageAttributeValue>
            {
                { attributeName!, new MessageAttributeValue() { StringValue =
attributeValue, DataType = "String"} }
            };
    }

    var publishResponse = await _amazonSNSClient.PublishAsync(publishRequest);
    return publishResponse.MessageId;
}

/// <summary>
/// Unsubscribe from a topic by a subscription ARN.
/// </summary>
/// <param name="subscriptionArn">The ARN of the subscription.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> UnsubscribeByArn(string subscriptionArn)
{
    var unsubscribeResponse = await _amazonSNSClient.UnsubscribeAsync(
        new UnsubscribeRequest()
        {
            SubscriptionArn = subscriptionArn
        });
    return unsubscribeResponse.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}

/// <summary>
/// Delete a topic by its topic ARN.
/// </summary>
/// <param name="topicArn">The ARN of the topic.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> DeleteTopicByArn(string topicArn)
{
    var deleteResponse = await _amazonSNSClient.DeleteTopicAsync(
        new DeleteTopicRequest()
        {
            TopicArn = topicArn
        });
    return deleteResponse.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}

```

```
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
 - [CreateQueue](#)
 - [CreateTopic](#)
 - [DeleteMessageBatch](#)
 - [DeleteQueue](#)
 - [DeleteTopic](#)
 - [GetQueueAttributes](#)
 - [Publish](#)
 - [ReceiveMessage](#)
 - [SetQueueAttributes](#)
 - [Subscribe](#)
 - [Unsubscribe](#)

サーバーレスサンプル

Amazon SNS トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例は、SNS トピックからメッセージを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る Lambda 関数を実装する方法を示しています。この関数はイベントパラメータからメッセージを取得し、各メッセージの内容を記録します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を検索し、設定および実行する方法を確認してください。

.NET を使用した Lambda での SNS イベントの消費。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
```

```
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
using Amazon.Lambda.Core;
using Amazon.Lambda.SNSEvents;

// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
// into a .NET class.
[assembly: LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace SnsIntegration;

public class Function
{
    public async Task FunctionHandler(SNSEvent evnt, ILambdaContext context)
    {
        foreach (var record in evnt.Records)
        {
            await ProcessRecordAsync(record, context);
        }
        context.Logger.LogInformation("done");
    }

    private async Task ProcessRecordAsync(SNSEvent.SNSRecord record, ILambdaContext context)
    {
        try
        {
            context.Logger.LogInformation($"Processed record {record.Sns.Message}");

            // TODO: Do interesting work based on the new message
            await Task.CompletedTask;
        }
        catch (Exception e)
        {
            //You can use Dead Letter Queue to handle failures. By configuring a
            //Lambda DLQ.
            context.Logger.LogError($"An error occurred");
            throw;
        }
    }
}
```

を使用した Amazon SQS の例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon SQS AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [はじめに](#)
- [アクション](#)
- [シナリオ](#)
- [サーバーレスサンプル](#)

はじめに

Hello Amazon SQS

次のコード例は、Amazon SQS の使用を開始する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using Amazon.SQS;
```

```
using Amazon.SQS.Model;

namespace SQSActions;

public static class HelloSQS
{
    static async Task Main(string[] args)
    {
        var sqsClient = new AmazonSQSClient();

        Console.WriteLine($"Hello Amazon SQS! Following are some of your queues:");
        Console.WriteLine();

        // You can use await and any of the async methods to get a response.
        // Let's get the first five queues.
        var response = await sqsClient.ListQueuesAsync(
            new ListQueuesRequest()
            {
                MaxResults = 5
            });

        foreach (var queue in response.QueueUrls)
        {
            Console.WriteLine($"\\tQueue Url: {queue}");
            Console.WriteLine();
        }
    }
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListQueues](#)」を参照してください。

アクション

CreateQueue

次のコード例は、CreateQueue を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

特定の名前を持つキューを作成します。

```
/// <summary>
/// Create a queue with a specific name.
/// </summary>
/// <param name="queueName">The name for the queue.</param>
/// <param name="useFifoQueue">True to use a FIFO queue.</param>
/// <returns>The url for the queue.</returns>
public async Task<string> CreateQueueWithName(string queueName, bool
useFifoQueue)
{
    int maxMessage = 256 * 1024;
    var queueAttributes = new Dictionary<string, string>
    {
        {
            QueueAttributeName.MaximumMessageSize,
            maxMessage.ToString()
        }
    };

    var createQueueRequest = new CreateQueueRequest()
    {
        QueueName = queueName,
        Attributes = queueAttributes
    };

    if (useFifoQueue)
    {
        // Update the name if it is not correct for a FIFO queue.
        if (!queueName.EndsWith(".fifo"))
        {
            createQueueRequest.QueueName = queueName + ".fifo";
        }

        // Add an attribute for a FIFO queue.
    }
}
```

```

        createQueueRequest.Attributes.Add(
            QueueAttributeName.FifoQueue, "true");
    }

    var createResponse = await _amazonSQSClient.CreateQueueAsync(
        new CreateQueueRequest()
        {
            QueueName = queueName
        });
    return createResponse.QueueUrl;
}

```

Amazon SQS キューを作成して、そこにメッセージを送信します。

```

using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon;
using Amazon.SQS;
using Amazon.SQS.Model;

public class CreateSendExample
{
    // Specify your AWS Region (an example Region is shown).
    private static readonly string QueueName = "Example_Queue";
    private static readonly RegionEndpoint ServiceRegion =
RegionEndpoint.USWest2;
    private static IAmazonSQS client;

    public static async Task Main()
    {
        client = new AmazonSQSClient(ServiceRegion);
        var createQueueResponse = await CreateQueue(client, QueueName);

        string queueUrl = createQueueResponse.QueueUrl;

        Dictionary<string, MessageAttributeValue> messageAttributes = new
Dictionary<string, MessageAttributeValue>
        {
            { "Title",    new MessageAttributeValue { DataType = "String",
StringValue = "The Whistler" } },

```



```

        { "Author", new MessageAttributeValue { DataType = "String",
StringValue = "John Grisham" } },
        { "WeeksOn", new MessageAttributeValue { DataType = "Number",
StringValue = "6" } },
    };

    string messageBody = "Information about current NY Times fiction
bestseller for week of 12/11/2016.";

    var sendMsgResponse = await SendMessage(client, queueUrl, messageBody,
messageAttributes);
    }

    /// <summary>
    /// Creates a new Amazon SQS queue using the queue name passed to it
    /// in queueName.
    /// </summary>
    /// <param name="client">An SQS client object used to send the message.</
param>
    /// <param name="queueName">A string representing the name of the queue
    /// to create.</param>
    /// <returns>A CreateQueueResponse that contains information about the
    /// newly created queue.</returns>
    public static async Task<CreateQueueResponse> CreateQueue(IAmazonSQS client,
string queueName)
    {
        var request = new CreateQueueRequest
        {
            QueueName = queueName,
            Attributes = new Dictionary<string, string>
            {
                { "DelaySeconds", "60" },
                { "MessageRetentionPeriod", "86400" },
            },
        };

        var response = await client.CreateQueueAsync(request);
        Console.WriteLine($"Created a queue with URL : {response.QueueUrl}");

        return response;
    }

    /// <summary>
    /// Sends a message to an SQS queue.

```

```
    /// </summary>
    /// <param name="client">An SQS client object used to send the message.</
param>
    /// <param name="queueUrl">The URL of the queue to which to send the
    /// message.</param>
    /// <param name="messageBody">A string representing the body of the
    /// message to be sent to the queue.</param>
    /// <param name="messageAttributes">Attributes for the message to be
    /// sent to the queue.</param>
    /// <returns>A SendMessageResponse object that contains information
    /// about the message that was sent.</returns>
    public static async Task<SendMessageResponse> SendMessage(
        IAmazonSQS client,
        string queueUrl,
        string messageBody,
        Dictionary<string, MessageAttributeValue> messageAttributes)
    {
        var sendMessageRequest = new SendMessageRequest
        {
            DelaySeconds = 10,
            MessageAttributes = messageAttributes,
            MessageBody = messageBody,
            QueueUrl = queueUrl,
        };

        var response = await client.SendMessageAsync(sendMessageRequest);
        Console.WriteLine($"Sent a message with id : {response.MessageId}");

        return response;
    }
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateQueue](#)」を参照してください。

DeleteMessage

次のコード例は、DeleteMessage を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

Amazon SQS キューからメッセージを受信し、メッセージを削除します。

```
public static async Task Main()
{
    // If the AWS Region you want to use is different from
    // the AWS Region defined for the default user, supply
    // the specify your AWS Region to the client constructor.
    var client = new AmazonSQSClient();
    string queueName = "Example_Queue";

    var queueUrl = await GetQueueUrl(client, queueName);
    Console.WriteLine($"The SQS queue's URL is {queueUrl}");

    var response = await ReceiveAndDeleteMessage(client, queueUrl);

    Console.WriteLine($"Message: {response.Messages[0]}");
}

/// <summary>
/// Retrieve the queue URL for the queue named in the queueName
/// property using the client object.
/// </summary>
/// <param name="client">The Amazon SQS client used to retrieve the
/// queue URL.</param>
/// <param name="queueName">A string representing name of the queue
/// for which to retrieve the URL.</param>
/// <returns>The URL of the queue.</returns>
public static async Task<string> GetQueueUrl(IAmazonSQS client, string
queueName)
{
    var request = new GetQueueUrlRequest
    {
        QueueName = queueName,
    };
};
```

```

        GetQueueUrlResponse response = await client.GetQueueUrlAsync(request);
        return response.QueueUrl;
    }

    /// <summary>
    /// Retrieves the message from the quque at the URL passed in the
    /// queueURL parameters using the client.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The SQS client used to retrieve a message.</param>
    /// <param name="queueUrl">The URL of the queue from which to retrieve
    /// a message.</param>
    /// <returns>The response from the call to ReceiveMessageAsync.</returns>
    public static async Task<ReceiveMessageResponse>
ReceiveAndDeleteMessage(IAmazonSQS client, string queueUrl)
    {
        // Receive a single message from the queue.
        var receiveMessageRequest = new ReceiveMessageRequest
        {
            AttributeNames = { "SentTimestamp" },
            MaxNumberOfMessages = 1,
            MessageAttributeNames = { "All" },
            QueueUrl = queueUrl,
            VisibilityTimeout = 0,
            WaitTimeSeconds = 0,
        };

        var receiveMessageResponse = await
client.ReceiveMessageAsync(receiveMessageRequest);

        // Delete the received message from the queue.
        var deleteMessageRequest = new DeleteMessageRequest
        {
            QueueUrl = queueUrl,
            ReceiptHandle = receiveMessageResponse.Messages[0].ReceiptHandle,
        };

        await client.DeleteMessageAsync(deleteMessageRequest);

        return receiveMessageResponse;
    }
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteMessage](#)」を参照してください。

DeleteMessageBatch

次のコード例は、DeleteMessageBatch を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete a batch of messages from a queue by its url.
/// </summary>
/// <param name="queueUrl">The url of the queue.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> DeleteMessageBatchByUrl(string queueUrl, List<Message>
messages)
{
    var deleteRequest = new DeleteMessageBatchRequest()
    {
        QueueUrl = queueUrl,
        Entries = new List<DeleteMessageBatchRequestEntry>()
    };
    foreach (var message in messages)
    {
        deleteRequest.Entries.Add(new DeleteMessageBatchRequestEntry()
        {
            ReceiptHandle = message.ReceiptHandle,
            Id = message.MessageId
        });
    }

    var deleteResponse = await
_amazonSQSClient.DeleteMessageBatchAsync(deleteRequest);

    return deleteResponse.Failed.Any();
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteMessageBatch](#)」を参照してください。

DeleteQueue

次のコード例は、DeleteQueue を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

URL を使用してキューを削除します。

```
/// <summary>
/// Delete a queue by its URL.
/// </summary>
/// <param name="queueUrl">The url of the queue.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> DeleteQueueByUrl(string queueUrl)
{
    var deleteResponse = await _amazonSQSClient.DeleteQueueAsync(
        new DeleteQueueRequest()
        {
            QueueUrl = queueUrl
        });
    return deleteResponse.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteQueue](#)」を参照してください。

GetQueueAttributes

次のコード例は、GetQueueAttributes を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get the ARN for a queue from its URL.
/// </summary>
/// <param name="queueUrl">The URL of the queue.</param>
/// <returns>The ARN of the queue.</returns>
public async Task<string> GetQueueArnByUrl(string queueUrl)
{
    var getAttributesRequest = new GetQueueAttributesRequest()
    {
        QueueUrl = queueUrl,
        AttributeNames = new List<string>() { QueueAttributeName.QueueArn }
    };

    var getAttributesResponse = await _amazonSQSClient.GetQueueAttributesAsync(
        getAttributesRequest);

    return getAttributesResponse.QueueARN;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[GetQueueAttributes](#)」を参照してください。

GetQueueUrl

次のコード例は、GetQueueUrl を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.SQS;
using Amazon.SQS.Model;

public class GetQueueUrl
{
    /// <summary>
    /// Initializes the Amazon SQS client object and then calls the
    /// GetQueueUrlAsync method to retrieve the URL of an Amazon SQS
    /// queue.
    /// </summary>
    public static async Task Main()
    {
        // If the Amazon SQS message queue is not in the same AWS Region as your
        // default user, you need to provide the AWS Region as a parameter to
the
        // client constructor.
        var client = new AmazonSQSClient();

        string queueName = "New-Example-Queue";

        try
        {
            var response = await client.GetQueueUrlAsync(queueName);

            if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
            {
                Console.WriteLine($"The URL for {queueName} is:
{response.QueueUrl}");
            }
        }
        catch (QueueDoesNotExistException ex)
        {
```



```

        Console.WriteLine(ex.Message);
        Console.WriteLine($"The queue {queueName} was not found.");
    }
}
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetQueueUrl](#)」を参照してください。

ReceiveMessage

次のコード例は、ReceiveMessage を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

URL を使用してキューからメッセージを受信します。

```

/// <summary>
/// Receive messages from a queue by its URL.
/// </summary>
/// <param name="queueUrl">The url of the queue.</param>
/// <returns>The list of messages.</returns>
public async Task<List<Message>> ReceiveMessagesByUrl(string queueUrl, int
maxMessages)
{
    // Setting WaitTimeSeconds to non-zero enables long polling.
    // For information about long polling, see
    // https://docs.aws.amazon.com/AWSSimpleQueueService/latest/
    SQSDeveloperGuide/sqs-short-and-long-polling.html
    var messageResponse = await _amazonSQSClient.ReceiveMessageAsync(
        new ReceiveMessageRequest()
        {
            QueueUrl = queueUrl,
            MaxNumberOfMessages = maxMessages,

```

```

        WaitTimeSeconds = 1
    });
    return messageResponse.Messages;
}

```

Amazon SQS キューからメッセージを受信し、メッセージを削除します。

```

public static async Task Main()
{
    // If the AWS Region you want to use is different from
    // the AWS Region defined for the default user, supply
    // the specify your AWS Region to the client constructor.
    var client = new AmazonSQSClient();
    string queueName = "Example_Queue";

    var queueUrl = await GetQueueUrl(client, queueName);
    Console.WriteLine($"The SQS queue's URL is {queueUrl}");

    var response = await ReceiveAndDeleteMessage(client, queueUrl);

    Console.WriteLine($"Message: {response.Messages[0]}");
}

/// <summary>
/// Retrieve the queue URL for the queue named in the queueName
/// property using the client object.
/// </summary>
/// <param name="client">The Amazon SQS client used to retrieve the
/// queue URL.</param>
/// <param name="queueName">A string representing name of the queue
/// for which to retrieve the URL.</param>
/// <returns>The URL of the queue.</returns>
public static async Task<string> GetQueueUrl(IAmazonSQS client, string
queueName)
{
    var request = new GetQueueUrlRequest
    {
        QueueName = queueName,
    };

    GetQueueUrlResponse response = await client.GetQueueUrlAsync(request);
    return response.QueueUrl;
}

```

```
    }

    /// <summary>
    /// Retrieves the message from the queue at the URL passed in the
    /// queueURL parameters using the client.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The SQS client used to retrieve a message.</param>
    /// <param name="queueUrl">The URL of the queue from which to retrieve
    /// a message.</param>
    /// <returns>The response from the call to ReceiveMessageAsync.</returns>
    public static async Task<ReceiveMessageResponse>
ReceiveAndDeleteMessage(IAmazonSQS client, string queueUrl)
    {
        // Receive a single message from the queue.
        var receiveMessageRequest = new ReceiveMessageRequest
        {
            AttributeNames = { "SentTimestamp" },
            MaxNumberOfMessages = 1,
            MessageAttributeNames = { "All" },
            QueueUrl = queueUrl,
            VisibilityTimeout = 0,
            WaitTimeSeconds = 0,
        };

        var receiveMessageResponse = await
client.ReceiveMessageAsync(receiveMessageRequest);

        // Delete the received message from the queue.
        var deleteMessageRequest = new DeleteMessageRequest
        {
            QueueUrl = queueUrl,
            ReceiptHandle = receiveMessageResponse.Messages[0].ReceiptHandle,
        };

        await client.DeleteMessageAsync(deleteMessageRequest);

        return receiveMessageResponse;
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ReceiveMessage](#)」を参照してください。

SendMessage

次のコード例は、SendMessage を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

Amazon SQS キューを作成して、そこにメッセージを送信します。

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon;
using Amazon.SQS;
using Amazon.SQS.Model;

public class CreateSendExample
{
    // Specify your AWS Region (an example Region is shown).
    private static readonly string QueueName = "Example_Queue";
    private static readonly RegionEndpoint ServiceRegion =
RegionEndpoint.USWest2;
    private static IAmazonSQS client;

    public static async Task Main()
    {
        client = new AmazonSQSClient(ServiceRegion);
        var createQueueResponse = await CreateQueue(client, QueueName);

        string queueUrl = createQueueResponse.QueueUrl;

        Dictionary<string, MessageAttributeValue> messageAttributes = new
Dictionary<string, MessageAttributeValue>
        {
```

```

        { "Title",    new MessageAttributeValue { DataType = "String",
StringValue = "The Whistler" } },
        { "Author",  new MessageAttributeValue { DataType = "String",
StringValue = "John Grisham" } },
        { "WeeksOn", new MessageAttributeValue { DataType = "Number",
StringValue = "6" } },
    };

    string messageBody = "Information about current NY Times fiction
bestseller for week of 12/11/2016.";

    var sendMsgResponse = await SendMessage(client, queueUrl, messageBody,
messageAttributes);
    }

    /// <summary>
    /// Creates a new Amazon SQS queue using the queue name passed to it
    /// in queueName.
    /// </summary>
    /// <param name="client">An SQS client object used to send the message.</
param>
    /// <param name="queueName">A string representing the name of the queue
    /// to create.</param>
    /// <returns>A CreateQueueResponse that contains information about the
    /// newly created queue.</returns>
    public static async Task<CreateQueueResponse> CreateQueue(IAmazonSQS client,
string queueName)
    {
        var request = new CreateQueueRequest
        {
            QueueName = queueName,
            Attributes = new Dictionary<string, string>
            {
                { "DelaySeconds", "60" },
                { "MessageRetentionPeriod", "86400" },
            },
        };

        var response = await client.CreateQueueAsync(request);
        Console.WriteLine($"Created a queue with URL : {response.QueueUrl}");

        return response;
    }

```

```

    /// <summary>
    /// Sends a message to an SQS queue.
    /// </summary>
    /// <param name="client">An SQS client object used to send the message.</
param>
    /// <param name="queueUrl">The URL of the queue to which to send the
    /// message.</param>
    /// <param name="messageBody">A string representing the body of the
    /// message to be sent to the queue.</param>
    /// <param name="messageAttributes">Attributes for the message to be
    /// sent to the queue.</param>
    /// <returns>A SendMessageResponse object that contains information
    /// about the message that was sent.</returns>
    public static async Task<SendMessageResponse> SendMessage(
        IAmazonSQS client,
        string queueUrl,
        string messageBody,
        Dictionary<string, MessageAttributeValue> messageAttributes)
    {
        var sendMessageRequest = new SendMessageRequest
        {
            DelaySeconds = 10,
            MessageAttributes = messageAttributes,
            MessageBody = messageBody,
            QueueUrl = queueUrl,
        };

        var response = await client.SendMessageAsync(sendMessageRequest);
        Console.WriteLine($"Sent a message with id : {response.MessageId}");

        return response;
    }
}

```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[SendMessage](#)」を参照してください。

SetQueueAttributes

次のコード例は、SetQueueAttributes を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

トピックのキューのポリシー属性を設定します。

```

/// <summary>
/// Set the policy attribute of a queue for a topic.
/// </summary>
/// <param name="queueArn">The ARN of the queue.</param>
/// <param name="topicArn">The ARN of the topic.</param>
/// <param name="queueUrl">The url for the queue.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> SetQueuePolicyForTopic(string queueArn, string topicArn,
string queueUrl)
{
    var queuePolicy = "{" +
        "\"Version\": \"2012-10-17\", " +
        "\"Statement\": [{" +
            "\"Effect\": \"Allow\", " +
            "\"Principal\": { " +
                "\"Service\": " +
                    "\"sns.amazonaws.com\" " +
                }, " +
            "\"Action\": \"sqs:SendMessage\", " +
            "\"Resource\": \"{queueArn}\", " +
            "\"Condition\": { " +
                "\"ArnEquals\": { " +
                    "\"aws:SourceArn\": \"{topicArn}\" " +
                }, " +
            }, " +
        "}] " +
    ";

    var attributesResponse = await _amazonSQSClient.SetQueueAttributesAsync(
        new SetQueueAttributesRequest()
        {
            QueueUrl = queueUrl,

```

```
        Attributes = new Dictionary<string, string>() { { "Policy",  
queuePolicy } }  
    });  
    return attributesResponse.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;  
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[SetQueueAttributes](#)」を参照してください。

シナリオ

メッセージをキューに発行する

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- トピック (FIFO または非 FIFO) を作成します。
- フィルターを適用するオプションを使用して、複数のキューをトピックにサブスクライブします。
- メッセージをトピックに発行します。
- 受信したメッセージのキューをポーリングします。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

コマンドプロンプトからインタラクティブなシナリオを実行します。

```
/// <summary>  
/// Console application to run a feature scenario for topics and queues.  
/// </summary>  
public static class TopicsAndQueues  
{  
    private static bool _useFifoTopic = false;  
    private static bool _useContentBasedDeduplication = false;  
    private static string _topicName = null!;
```



```

private static string _topicArn = null!;

private static readonly int _queueCount = 2;
private static readonly string[] _queueUrls = new string[_queueCount];
private static readonly string[] _subscriptionArns = new string[_queueCount];
private static readonly string[] _tones = { "cheerful", "funny", "serious",
"sincere" };
public static SNSWrapper SnsWrapper { get; set; } = null!;
public static SQSWrapper SqsWrapper { get; set; } = null!;
public static bool UseConsole { get; set; } = true;
static async Task Main(string[] args)
{
    // Set up dependency injection for Amazon EventBridge.
    using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
        .ConfigureLogging(logging =>
            logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
                .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
LogLevel.Information)
                .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
        .ConfigureServices((_, services) =>
            services.AddAWSService<IAmazonSQS>()
                .AddAWSService<IAmazonSimpleNotificationService>()
                .AddTransient<SNSWrapper>()
                .AddTransient<SQSWrapper>()
        )
        .Build();

    ServicesSetup(host);
    PrintDescription();

    await RunScenario();
}

/// <summary>
/// Populate the services for use within the console application.
/// </summary>
/// <param name="host">The services host.</param>
private static void ServicesSetup(IHost host)
{
    SnsWrapper = host.Services.GetRequiredService<SNSWrapper>();
    SqsWrapper = host.Services.GetRequiredService<SQSWrapper>();
}

```

```
/// <summary>
/// Run the scenario for working with topics and queues.
/// </summary>
/// <returns>True if successful.</returns>
public static async Task<bool> RunScenario()
{
    try
    {
        await SetupTopic();

        await SetupQueues();

        await PublishMessages();

        foreach (var queueUrl in _queueUrls)
        {
            var messages = await PollForMessages(queueUrl);
            if (messages.Any())
            {
                await DeleteMessages(queueUrl, messages);
            }
        }
        await CleanupResources();

        Console.WriteLine("Messaging with topics and queues scenario is
complete.");
        return true;
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"There was a problem running the scenario:
{ex.Message}");
        await CleanupResources();
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        return false;
    }
}

/// <summary>
/// Print a description for the tasks in the scenario.
/// </summary>
/// <returns>Async task.</returns>
private static void PrintDescription()
```

```

    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"Welcome to messaging with topics and queues.");

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"In this scenario, you will create an SNS topic and
subscribe {_queueCount} SQS queues to the topic." +
            $"\r\nYou can select from several options for configuring
the topic and the subscriptions for the 2 queues." +
            $"\r\nYou can then post to the topic and see the results
in the queues.\r\n");

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// Set up the SNS topic to be used with the queues.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task<string> SetupTopic()
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"SNS topics can be configured as FIFO (First-In-First-
Out)." +
            $"\r\nFIFO topics deliver messages in order and support
deduplication and message filtering." +
            $"\r\nYou can then post to the topic and see the results
in the queues.\r\n");

        _useFifoTopic = GetYesNoResponse("Would you like to work with FIFO
topics?");

        if (_useFifoTopic)
        {
            Console.WriteLine(new string('-', 80));
            _topicName = GetUserResponse("Enter a name for your SNS topic: ",
"example-topic");
            Console.WriteLine(
                "Because you have selected a FIFO topic, '.fifo' must be appended to
the topic name.\r\n");

            Console.WriteLine(new string('-', 80));
            Console.WriteLine($"Because you have chosen a FIFO topic, deduplication
is supported." +

```

```

        $"\\r\\nDeduplication IDs are either set in the message
or automatically generated " +
        $"\\r\\nfrom content using a hash function.\\r\\n" +
        $"\\r\\nIf a message is successfully published to an SNS
FIFO topic, any message " +
        $"\\r\\npublished and determined to have the same
deduplication ID, " +
        $"\\r\\nwithin the five-minute deduplication interval,
is accepted but not delivered.\\r\\n" +
        $"\\r\\nFor more information about deduplication, " +
        $"\\r\\nsee https://docs.aws.amazon.com/sns/latest/dg/
fifo-message-dedup.html.");

        _useContentBasedDeduplication = GetYesNoResponse("Use content-based
deduplication instead of entering a deduplication ID?");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    _topicArn = await SnsWrapper.CreateTopicWithName(_topicName, _useFifoTopic,
_useContentBasedDeduplication);

    Console.WriteLine($"Your new topic with the name {_topicName}" +
        $"\\r\\nand Amazon Resource Name (ARN) {_topicArn}" +
        $"\\r\\nhas been created.\\r\\n");

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    return _topicArn;
}

/// <summary>
/// Set up the queues.
/// </summary>
/// <returns>Async task.</returns>
private static async Task SetupQueues()
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine($"Now you will create {_queueCount} Amazon Simple Queue
Service (Amazon SQS) queues to subscribe to the topic.");

    // Repeat this section for each queue.
    for (int i = 0; i < _queueCount; i++)
    {
        var queueName = GetUserResponse("Enter a name for an Amazon SQS queue:
", $"example-queue-{i}");
    }
}

```

```
        if (_useFifoTopic)
        {
            // Only explain this once.
            if (i == 0)
            {
                Console.WriteLine(
                    "Because you have selected a FIFO topic, '.fifo' must be
appended to the queue name.");
            }

            var queueUrl = await SqsWrapper.CreateQueueWithName(queueName,
_useFifoTopic);

            _queueUrls[i] = queueUrl;

            Console.WriteLine($"Your new queue with the name {queueName}" +
                $"\r\nand queue URL {queueUrl}" +
                $"\r\nhas been created.\r\n");

            if (i == 0)
            {
                Console.WriteLine(
                    $"The queue URL is used to retrieve the queue ARN,\r\n" +
                    $"which is used to create a subscription.");
                Console.WriteLine(new string('-', 80));
            }

            var queueArn = await SqsWrapper.GetQueueArnByUrl(queueUrl);

            if (i == 0)
            {
                Console.WriteLine(
                    $"An AWS Identity and Access Management (IAM) policy must be
attached to an SQS queue, enabling it to receive\r\n" +
                    $"messages from an SNS topic");
            }

            await SqsWrapper.SetQueuePolicyForTopic(queueArn, _topicArn,
queueUrl);

            await SetupFilters(i, queueArn, queueName);
        }
    }
```

```

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// Set up filters with user options for a queue.
    /// </summary>
    /// <param name="queueCount">The number of this queue.</param>
    /// <param name="queueArn">The ARN of the queue.</param>
    /// <param name="queueName">The name of the queue.</param>
    /// <returns>Async Task.</returns>
    public static async Task SetupFilters(int queueCount, string queueArn, string
queueName)
    {
        if (_useFifoTopic)
        {
            Console.WriteLine(new string('-', 80));
            // Only explain this once.
            if (queueCount == 0)
            {
                Console.WriteLine(
                    "Subscriptions to a FIFO topic can have filters." +
                    "If you add a filter to this subscription, then only the
filtered messages " +
                    "will be received in the queue.");

                Console.WriteLine(
                    "For information about message filtering, " +
                    "see https://docs.aws.amazon.com/sns/latest/dg/sns-message-
filtering.html");

                Console.WriteLine(
                    "For this example, you can filter messages by a " +
                    "TONE attribute.");
            }

            var useFilter = GetYesNoResponse($"Filter messages for {queueName}'s
subscription to the topic?");

            string? filterPolicy = null;
            if (useFilter)
            {
                filterPolicy = CreateFilterPolicy();
            }

```

```

        var subscriptionArn = await
SnsWrapper.SubscribeTopicWithFilter(_topicArn, filterPolicy,
        queueArn);
        _subscriptionArns[queueCount] = subscriptionArn;

        Console.WriteLine(
            $"The queue {queueName} has been subscribed to the topic
{_topicName} " +
            $"with the subscription ARN {subscriptionArn}");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
}

/// <summary>
/// Use user input to create a filter policy for a subscription.
/// </summary>
/// <returns>The serialized filter policy.</returns>
public static string CreateFilterPolicy()
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine(
        $"You can filter messages by one or more of the following" +
        $"TONE attributes.");

    List<string> filterSelections = new List<string>();

    var selectionNumber = 0;
    do
    {
        Console.WriteLine(
            $"Enter a number to add a TONE filter, or enter 0 to stop adding
filters.");
        for (int i = 0; i < _tones.Length; i++)
        {
            Console.WriteLine($"\\t{i + 1}. {_tones[i]}");
        }

        var selection = GetUserResponse("", filterSelections.Any() ? "0" : "1");
        int.TryParse(selection, out selectionNumber);
        if (selectionNumber > 0 && !
filterSelections.Contains(_tones[selectionNumber - 1]))
        {
            filterSelections.Add(_tones[selectionNumber - 1]);
        }
    }
}

```

```

    } while (selectionNumber != 0);

    var filters = new Dictionary<string, List<string>>
    {
        { "tone", filterSelections }
    };
    string filterPolicy = JsonSerializer.Serialize(filters);
    return filterPolicy;
}

/// <summary>
/// Publish messages using user settings.
/// </summary>
/// <returns>Async task.</returns>
public static async Task PublishMessages()
{
    Console.WriteLine("Now we can publish messages.");

    var keepSendingMessages = true;
    string? deduplicationId = null;
    string? toneAttribute = null;
    while (keepSendingMessages)
    {
        Console.WriteLine();
        var message = GetUserResponse("Enter a message to publish.", "This is a sample message");

        if (_useFifoTopic)
        {
            Console.WriteLine("Because you are using a FIFO topic, you must set a message group ID." +
                               "\r\nAll messages within the same group will be received in the order " +
                               "they were published.");

            Console.WriteLine();
            var messageId = GetUserResponse("Enter a message group ID for this message:", "1");

            if (!_useContentBasedDeduplication)
            {
                Console.WriteLine("Because you are not using content-based deduplication, " +
                                   "you must enter a deduplication ID.");
            }
        }
    }
}

```



```

        Console.WriteLine("Enter a deduplication ID for this message.");
        deduplicationId = GetUserResponse("Enter a deduplication ID for
this message.", "1");
    }

    if (GetYesNoResponse("Add an attribute to this message?"))
    {
        Console.WriteLine("Enter a number for an attribute.");
        for (int i = 0; i < _tones.Length; i++)
        {
            Console.WriteLine($"{i + 1}. {_tones[i]}");
        }

        var selection = GetUserResponse("", "1");
        int.TryParse(selection, out var selectionNumber);

        if (selectionNumber > 0 && selectionNumber < _tones.Length)
        {
            toneAttribute = _tones[selectionNumber - 1];
        }
    }

    var messageId = await SnsWrapper.PublishToTopicWithAttribute(
        _topicArn, message, "tone", toneAttribute, deduplicationId,
messageGroupId);

    Console.WriteLine($"Message published with id {messageID}.");
}

keepSendingMessages = GetYesNoResponse("Send another message?", false);
}
}

/// <summary>
/// Poll for the published messages to see the results of the user's choices.
/// </summary>
/// <returns>Async task.</returns>
public static async Task<List<Message>> PollForMessages(string queueUrl)
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine($"Now the SQS queue at {queueUrl} will be polled to
retrieve the messages." +
        "\r\nPress any key to continue.");
}

```

```
        if (UseConsole)
        {
            Console.ReadLine();
        }

        var moreMessages = true;
        var messages = new List<Message>();
        while (moreMessages)
        {
            var newMessages = await SqsWrapper.ReceiveMessagesByUrl(queueUrl, 10);

            moreMessages = newMessages.Any();
            if (moreMessages)
            {
                messages.AddRange(newMessages);
            }
        }

        Console.WriteLine($"{messages.Count} message(s) were received by the queue
at {queueUrl}.");

        foreach (var message in messages)
        {
            Console.WriteLine("\tMessage:" +
                               $"{message.Body}");
        }

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        return messages;
    }

    /// <summary>
    /// Delete the message using handles in a batch.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>
    public static async Task DeleteMessages(string queueUrl, List<Message> messages)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("Now we can delete the messages in this queue in a
batch.");
        await SqsWrapper.DeleteMessageBatchByUrl(queueUrl, messages);
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
}
```

```
/// <summary>
/// Clean up the resources from the scenario.
/// </summary>
/// <returns>Async task.</returns>
private static async Task CleanupResources()
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine($"Clean up resources.");

    try
    {
        foreach (var queueUrl in _queueUrls)
        {
            if (!string.IsNullOrEmpty(queueUrl))
            {
                var deleteQueue =
                    GetYesNoResponse($"Delete queue with url {queueUrl}?");
                if (deleteQueue)
                {
                    await SqsWrapper.DeleteQueueByUrl(queueUrl);
                }
            }
        }

        foreach (var subscriptionArn in _subscriptionArns)
        {
            if (!string.IsNullOrEmpty(subscriptionArn))
            {
                await SnsWrapper.UnsubscribeByArn(subscriptionArn);
            }
        }

        var deleteTopic = GetYesNoResponse($"Delete topic {_topicName}?");
        if (deleteTopic)
        {
            await SnsWrapper.DeleteTopicByArn(_topicArn);
        }
    }
    catch (Exception ex)
    {
        Console.WriteLine($"Unable to clean up resources. Here's why:
{ex.Message}.");
    }
}
```

```

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// Helper method to get a yes or no response from the user.
    /// </summary>
    /// <param name="question">The question string to print on the console.</param>
    /// <param name="defaultAnswer">Optional default answer to use.</param>
    /// <returns>True if the user responds with a yes.</returns>
    private static bool GetYesNoResponse(string question, bool defaultAnswer = true)
    {
        if (UseConsole)
        {
            Console.WriteLine(question);
            var ynResponse = Console.ReadLine();
            var response = ynResponse != null &&
                ynResponse.Equals("y",
                    StringComparison.InvariantCultureIgnoreCase);

            return response;
        }
        // If not using the console, use the default.
        return defaultAnswer;
    }

    /// <summary>
    /// Helper method to get a string response from the user through the console.
    /// </summary>
    /// <param name="question">The question string to print on the console.</param>
    /// <param name="defaultAnswer">Optional default answer to use.</param>
    /// <returns>True if the user responds with a yes.</returns>
    private static string GetUserResponse(string question, string defaultAnswer)
    {
        if (UseConsole)
        {
            var response = "";
            while (string.IsNullOrEmpty(response))
            {
                Console.WriteLine(question);
                response = Console.ReadLine();
            }
            return response;
        }
        // If not using the console, use the default.
        return defaultAnswer;
    }

```

```
}  
}
```

Amazon SQS オペレーションをラップするクラスを作成します。

```
/// <summary>  
/// Wrapper for Amazon Simple Queue Service (SQS) operations.  
/// </summary>  
public class SQSWrapper  
{  
    private readonly IAmazonSQS _amazonSQSClient;  
  
    /// <summary>  
    /// Constructor for the Amazon SQS wrapper.  
    /// </summary>  
    /// <param name="amazonSQS">The injected Amazon SQS client.</param>  
    public SQSWrapper(IAmazonSQS amazonSQS)  
    {  
        _amazonSQSClient = amazonSQS;  
    }  
  
    /// <summary>  
    /// Create a queue with a specific name.  
    /// </summary>  
    /// <param name="queueName">The name for the queue.</param>  
    /// <param name="useFifoQueue">True to use a FIFO queue.</param>  
    /// <returns>The url for the queue.</returns>  
    public async Task<string> CreateQueueWithName(string queueName, bool  
useFifoQueue)  
    {  
        int maxMessage = 256 * 1024;  
        var queueAttributes = new Dictionary<string, string>  
        {  
            {  
                QueueAttributeName.MaximumMessageSize,  
                maxMessage.ToString()  
            }  
        };  
  
        var createQueueRequest = new CreateQueueRequest()  
        {
```

```

        QueueName = queueName,
        Attributes = queueAttributes
    };

    if (useFifoQueue)
    {
        // Update the name if it is not correct for a FIFO queue.
        if (!queueName.EndsWith(".fifo"))
        {
            createQueueRequest.QueueName = queueName + ".fifo";
        }

        // Add an attribute for a FIFO queue.
        createQueueRequest.Attributes.Add(
            QueueAttributeName.FifoQueue, "true");
    }

    var createResponse = await _amazonSQSClient.CreateQueueAsync(
        new CreateQueueRequest()
        {
            QueueName = queueName
        });
    return createResponse.QueueUrl;
}

/// <summary>
/// Get the ARN for a queue from its URL.
/// </summary>
/// <param name="queueUrl">The URL of the queue.</param>
/// <returns>The ARN of the queue.</returns>
public async Task<string> GetQueueArnByUrl(string queueUrl)
{
    var getAttributesRequest = new GetQueueAttributesRequest()
    {
        QueueUrl = queueUrl,
        AttributeNames = new List<string>() { QueueAttributeName.QueueArn }
    };

    var getAttributesResponse = await _amazonSQSClient.GetQueueAttributesAsync(
        getAttributesRequest);

    return getAttributesResponse.QueueARN;
}

```

```

    /// <summary>
    /// Set the policy attribute of a queue for a topic.
    /// </summary>
    /// <param name="queueArn">The ARN of the queue.</param>
    /// <param name="topicArn">The ARN of the topic.</param>
    /// <param name="queueUrl">The url for the queue.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public async Task<bool> SetQueuePolicyForTopic(string queueArn, string topicArn,
string queueUrl)
    {
        var queuePolicy = "{" +
            "\"Version\": \"2012-10-17\", " +
            "\"Statement\": [{" +
                "\"Effect\": \"Allow\", " +
                "\"Principal\": { " +
                    "\"Service\": " +
                        "\"sns.amazonaws.com\"" +
                    "}, " +
                "\"Action\": \"sqs:SendMessage\", " +
                "\"Resource\": \"{queueArn}\", " +
                "\"Condition\": { " +
                    "\"ArnEquals\": { " +
                        "\"aws:SourceArn\": \"{topicArn}\""
+
                    "}" +
                "}" +
            "}] " +
        "};

        var attributesResponse = await _amazonSQSClient.SetQueueAttributesAsync(
            new SetQueueAttributesRequest()
            {
                QueueUrl = queueUrl,
                Attributes = new Dictionary<string, string>() { { "Policy",
queuePolicy } }
            });
        return attributesResponse.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }

    /// <summary>
    /// Receive messages from a queue by its URL.
    /// </summary>
    /// <param name="queueUrl">The url of the queue.</param>
    /// <returns>The list of messages.</returns>

```

```

    public async Task<List<Message>> ReceiveMessagesByUrl(string queueUrl, int
maxMessages)
    {
        // Setting WaitTimeSeconds to non-zero enables long polling.
        // For information about long polling, see
        // https://docs.aws.amazon.com/AWSSimpleQueueService/latest/
SQSDeveloperGuide/sqs-short-and-long-polling.html
        var messageResponse = await _amazonSQSClient.ReceiveMessageAsync(
            new ReceiveMessageRequest()
            {
                QueueUrl = queueUrl,
                MaxNumberOfMessages = maxMessages,
                WaitTimeSeconds = 1
            });
        return messageResponse.Messages;
    }

    /// <summary>
    /// Delete a batch of messages from a queue by its url.
    /// </summary>
    /// <param name="queueUrl">The url of the queue.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public async Task<bool> DeleteMessageBatchByUrl(string queueUrl, List<Message>
messages)
    {
        var deleteRequest = new DeleteMessageBatchRequest()
        {
            QueueUrl = queueUrl,
            Entries = new List<DeleteMessageBatchRequestEntry>()
        };
        foreach (var message in messages)
        {
            deleteRequest.Entries.Add(new DeleteMessageBatchRequestEntry()
            {
                ReceiptHandle = message.ReceiptHandle,
                Id = message.MessageId
            });
        }

        var deleteResponse = await
_amazonSQSClient.DeleteMessageBatchAsync(deleteRequest);

        return deleteResponse.Failed.Any();
    }

```



```

    /// <summary>
    /// Delete a queue by its URL.
    /// </summary>
    /// <param name="queueUrl">The url of the queue.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public async Task<bool> DeleteQueueByUrl(string queueUrl)
    {
        var deleteResponse = await _amazonSQSClient.DeleteQueueAsync(
            new DeleteQueueRequest()
            {
                QueueUrl = queueUrl
            });
        return deleteResponse.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
}

```

Amazon SNS オペレーションをラップするクラスを作成します。

```

    /// <summary>
    /// Wrapper for Amazon Simple Notification Service (SNS) operations.
    /// </summary>
    public class SNSWrapper
    {
        private readonly IAmazonSimpleNotificationService _amazonSNSClient;

        /// <summary>
        /// Constructor for the Amazon SNS wrapper.
        /// </summary>
        /// <param name="amazonSNS">The injected Amazon SNS client.</param>
        public SNSWrapper(IAmazonSimpleNotificationService amazonSNS)
        {
            _amazonSNSClient = amazonSNS;
        }

        /// <summary>
        /// Create a new topic with a name and specific FIFO and de-duplication
        attributes.
        /// </summary>
        /// <param name="topicName">The name for the topic.</param>
        /// <param name="useFifoTopic">True to use a FIFO topic.</param>

```

```

    /// <param name="useContentBasedDeduplication">True to use content-based de-
    duplication.</param>
    /// <returns>The ARN of the new topic.</returns>
    public async Task<string> CreateTopicWithName(string topicName, bool
    useFifoTopic, bool useContentBasedDeduplication)
    {
        var createTopicRequest = new CreateTopicRequest()
        {
            Name = topicName,
        };

        if (useFifoTopic)
        {
            // Update the name if it is not correct for a FIFO topic.
            if (!topicName.EndsWith(".fifo"))
            {
                createTopicRequest.Name = topicName + ".fifo";
            }

            // Add the attributes from the method parameters.
            createTopicRequest.Attributes = new Dictionary<string, string>
            {
                { "FifoTopic", "true" }
            };
            if (useContentBasedDeduplication)
            {
                createTopicRequest.Attributes.Add("ContentBasedDeduplication",
"true");
            }
        }

        var createResponse = await
        _amazonSNSClient.CreateTopicAsync(createTopicRequest);
        return createResponse.TopicArn;
    }

    /// <summary>
    /// Subscribe a queue to a topic with optional filters.
    /// </summary>
    /// <param name="topicArn">The ARN of the topic.</param>
    /// <param name="useFifoTopic">The optional filtering policy for the
    subscription.</param>
    /// <param name="queueArn">The ARN of the queue.</param>
    /// <returns>The ARN of the new subscription.</returns>

```

```

    public async Task<string> SubscribeTopicWithFilter(string topicArn, string?
filterPolicy, string queueArn)
    {
        var subscribeRequest = new SubscribeRequest()
        {
            TopicArn = topicArn,
            Protocol = "sqs",
            Endpoint = queueArn
        };

        if (!string.IsNullOrEmpty(filterPolicy))
        {
            subscribeRequest.Attributes = new Dictionary<string, string>
{ { "FilterPolicy", filterPolicy } };
        }

        var subscribeResponse = await
_amazonSNSClient.SubscribeAsync(subscribeRequest);
        return subscribeResponse.SubscriptionArn;
    }

    /// <summary>
    /// Publish a message to a topic with an attribute and optional deduplication
and group IDs.
    /// </summary>
    /// <param name="topicArn">The ARN of the topic.</param>
    /// <param name="message">The message to publish.</param>
    /// <param name="attributeName">The optional attribute for the message.</param>
    /// <param name="attributeValue">The optional attribute value for the message.</
param>
    /// <param name="deduplicationId">The optional deduplication ID for the
message.</param>
    /// <param name="groupId">The optional group ID for the message.</param>
    /// <returns>The ID of the message published.</returns>
    public async Task<string> PublishToTopicWithAttribute(
        string topicArn,
        string message,
        string? attributeName = null,
        string? attributeValue = null,
        string? deduplicationId = null,
        string? groupId = null)
    {
        var publishRequest = new PublishRequest()
        {

```

```

        TopicArn = topicArn,
        Message = message,
        MessageDeduplicationId = deduplicationId,
        MessageGroupId = groupId
    };

    if (attributeValue != null)
    {
        // Add the string attribute if it exists.
        publishRequest.MessageAttributes =
            new Dictionary<string, MessageAttributeValue>
            {
                { attributeName!, new MessageAttributeValue() { StringValue =
attributeValue, DataType = "String"} }
            };
    }

    var publishResponse = await _amazonSNSClient.PublishAsync(publishRequest);
    return publishResponse.MessageId;
}

/// <summary>
/// Unsubscribe from a topic by a subscription ARN.
/// </summary>
/// <param name="subscriptionArn">The ARN of the subscription.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> UnsubscribeByArn(string subscriptionArn)
{
    var unsubscribeResponse = await _amazonSNSClient.UnsubscribeAsync(
        new UnsubscribeRequest()
        {
            SubscriptionArn = subscriptionArn
        });
    return unsubscribeResponse.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}

/// <summary>
/// Delete a topic by its topic ARN.
/// </summary>
/// <param name="topicArn">The ARN of the topic.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> DeleteTopicByArn(string topicArn)
{

```

```
        var deleteResponse = await _amazonSNSClient.DeleteTopicAsync(  
            new DeleteTopicRequest()  
            {  
                TopicArn = topicArn  
            });  
        return deleteResponse.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;  
    }  
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
 - [CreateQueue](#)
 - [CreateTopic](#)
 - [DeleteMessageBatch](#)
 - [DeleteQueue](#)
 - [DeleteTopic](#)
 - [GetQueueAttributes](#)
 - [Publish](#)
 - [ReceiveMessage](#)
 - [SetQueueAttributes](#)
 - [Subscribe](#)
 - [Unsubscribe](#)

Amazon SQS で .NET の AWS メッセージ処理フレームワークを使用する

次のコード例は、Message Processing Framework for .NET を使用して Amazon SQS AWS メッセージを発行および受信するアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for .NET

Message AWS Processing Framework for .NET のチュートリアルを提供します。このチュートリアルでは、ユーザーが Amazon SQS メッセージを発行できるウェブアプリケーションと、メッセージを受信するコマンドラインアプリケーションを作成します。

完全なソースコードとセットアップと実行の手順については、AWS SDK for .NET デベロッパーガイドの[チュートリアル全体](#)と [GitHub](#) の例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon SQS

サーバーレスサンプル

Amazon SQS トリガーから Lambda 関数を呼び出す

次のコード例では、SQS キューからメッセージを受信することによってトリガーされるイベントを受け取る、Lambda 関数の実装方法を示しています。この関数はイベントパラメータからメッセージを取得し、各メッセージの内容を記録します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

.NET を使用した Lambda での SQS イベントの消費。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
using Amazon.Lambda.Core;
using Amazon.Lambda.SQSEvents;

// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
// into a .NET class.
[assembly: LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]

namespace SqsIntegrationSampleCode
{
    public async Task FunctionHandler(SQSEvent evnt, ILambdaContext context)
    {
        foreach (var message in evnt.Records)
        {
            await ProcessMessageAsync(message, context);
        }
    }
}
```

```
        context.Logger.LogInformation("done");
    }

    private async Task ProcessMessageAsync(SQSEvent.SQSMessage message,
        ILambdaContext context)
    {
        try
        {
            context.Logger.LogInformation($"Processed message {message.Body}");

            // TODO: Do interesting work based on the new message
            await Task.CompletedTask;
        }
        catch (Exception e)
        {
            //You can use Dead Letter Queue to handle failures. By configuring a
            Lambda DLQ.
            context.Logger.LogError($"An error occurred");
            throw;
        }
    }
}
```

Amazon SQS トリガーを使用した Lambda 関数でのバッチアイテム失敗のレポート

以下のコード例では、SQS キューからイベントを受け取る Lambda 関数のための、部分的なバッチレスポンスの実装方法を示しています。この関数は、レスポンスとしてバッチアイテムの失敗を報告し、対象のメッセージを後で再試行するよう Lambda に伝えます。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。[サーバーレスサンプル](#)リポジトリで完全な例を見つけて、設定と実行の方法を確認してください。

.NET を使用した Lambda での SQS バッチアイテム失敗のレポート。

```
// Copyright Amazon.com, Inc. or its affiliates. All Rights Reserved.
// SPDX-License-Identifier: Apache-2.0
using Amazon.Lambda.Core;
using Amazon.Lambda.SQSEvents;

// Assembly attribute to enable the Lambda function's JSON input to be converted
// into a .NET class.
[assembly:
    LambdaSerializer(typeof(Amazon.Lambda.Serialization.SystemTextJson.DefaultLambdaJsonSerializer))]
namespace sqsSample;

public class Function
{
    public async Task<SQSBatchResponse> FunctionHandler(SQSEvent evnt,
        ILambdaContext context)
    {
        List<SQSBatchResponse.BatchItemFailure> batchItemFailures = new
        List<SQSBatchResponse.BatchItemFailure>();
        foreach(var message in evnt.Records)
        {
            try
            {
                //process your message
                await ProcessMessageAsync(message, context);
            }
            catch (System.Exception)
            {
                //Add failed message identifier to the batchItemFailures list
                batchItemFailures.Add(new
                SQSBatchResponse.BatchItemFailure{ItemIdentifier=message.MessageId});
            }
        }
        return new SQSBatchResponse(batchItemFailures);
    }

    private async Task ProcessMessageAsync(SQSEvent.SQSMessage message,
        ILambdaContext context)
    {
        if (String.IsNullOrEmpty(message.Body))
        {
            throw new Exception("No Body in SQS Message.");
        }
        context.Logger.LogInformation($"Processed message {message.Body}");
    }
}
```



```
        // TODO: Do interesting work based on the new message
        await Task.CompletedTask;
    }
}
```

を使用した Step Functions の例 SDK for .NET

次のコード例は、Step Functions AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [はじめに](#)
- [基本](#)
- [アクション](#)

はじめに

Hello Step Functions

次のコード例は、Step Functions の使用を開始する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
namespace StepFunctionsActions;

using Amazon.StepFunctions;
using Amazon.StepFunctions.Model;

public class HelloStepFunctions
{
    static async Task Main()
    {
        var stepFunctionsClient = new AmazonStepFunctionsClient();

        Console.Clear();
        Console.WriteLine("Welcome to AWS Step Functions");
        Console.WriteLine("Let's list up to 10 of your state machines:");
        var stateMachineListRequest = new ListStateMachinesRequest { MaxResults =
10 };

        // Get information for up to 10 Step Functions state machines.
        var response = await
stepFunctionsClient.ListStateMachinesAsync(stateMachineListRequest);

        if (response.StateMachines.Count > 0)
        {
            response.StateMachines.ForEach(stateMachine =>
            {
                Console.WriteLine($"State Machine Name: {stateMachine.Name}\tAmazon
Resource Name (ARN): {stateMachine.StateMachineArn}");
            });
        }
        else
        {
            Console.WriteLine("\tNo state machines were found.");
        }
    }
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListStateMachines](#)」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- アクティビティを作成します。
- 以前に作成したアクティビティをステップとして含む Amazon States Language 定義からステートマシンを作成します。
- ステートマシンを実行し、ユーザー入力でアクティビティに応答します。
- 実行が完了したら最終ステータスと出力を取得して、リソースをクリーンアップします。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

コマンドプロンプトからインタラクティブなシナリオを実行します。

```
global using System.Text.Json;
global using Amazon.StepFunctions;
global using Microsoft.Extensions.Configuration;
global using Microsoft.Extensions.DependencyInjection;
global using Microsoft.Extensions.Hosting;
global using Microsoft.Extensions.Logging;
global using Microsoft.Extensions.Logging.Console;
global using Microsoft.Extensions.Logging.Debug;
global using StepFunctionsActions;
global using LogLevel = Microsoft.Extensions.Logging.LogLevel;

using Amazon.IdentityManagement;
using Amazon.IdentityManagement.Model;
using Amazon.StepFunctions.Model;

namespace StepFunctionsBasics;
```

```
public class StepFunctionsBasics
{
    private static ILogger _logger = null!;
    private static IConfigurationRoot _configuration = null!;
    private static IAMazonIdentityManagementService _iamService = null!;

    static async Task Main(string[] args)
    {
        // Set up dependency injection for AWS Step Functions.
        using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
            .ConfigureLogging(logging =>
                logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
                    .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
                        LogLevel.Information)
                    .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
            .ConfigureServices((_, services) =>
                services.AddAWSService<IAmazonStepFunctions>()
                    .AddAWSService<IAmazonIdentityManagementService>()
                    .AddTransient<StepFunctionsWrapper>()
            )
            .Build();

        _logger = LoggerFactory.Create(builder => { builder.AddConsole(); })
            .CreateLogger<StepFunctionsBasics>();

        // Load configuration settings.
        _configuration = new ConfigurationBuilder()
            .SetBasePath(Directory.GetCurrentDirectory())
            .AddJsonFile("settings.json") // Load test settings from .json file.
            .AddJsonFile("settings.local.json",
                true) // Optionally load local settings.
            .Build();

        var activityName = _configuration["ActivityName"];
        var stateMachineName = _configuration["StateMachineName"];

        var roleName = _configuration["RoleName"];
        var repoBaseDir = _configuration["RepoBaseDir"];
        var jsonFilePath = _configuration["JsonFilePath"];
        var jsonFileName = _configuration["JsonFileName"];

        var uiMethods = new UiMethods();
    }
}
```

```
var stepFunctionsWrapper =
host.Services.GetRequiredService<StepFunctionsWrapper>();

_iamService =
host.Services.GetRequiredService<IAmazonIdentityManagementService>();

// Load definition for the state machine from a JSON file.
var stateDefinitionJson = File.ReadAllText($"{repoBaseDir}{jsonFilePath}
{jsonFileName}");

Console.Clear();
uiMethods.DisplayOverview();
uiMethods.PressEnter();

uiMethods.DisplayTitle("Create activity");
Console.WriteLine("Let's start by creating an activity.");
string activityArn;
string stateMachineArn;

// Check to see if the activity already exists.
var activityList = await stepFunctionsWrapper.ListActivitiesAsync();
var existingActivity = activityList.FirstOrDefault(activity => activity.Name
== activityName);
if (existingActivity is not null)
{
    activityArn = existingActivity.ActivityArn;
    Console.WriteLine($"Activity, {activityName}, already exists.");
}
else
{
    activityArn = await stepFunctionsWrapper.CreateActivity(activityName);
}

// Swap the placeholder in the JSON file with the Amazon Resource Name (ARN)
// of the recently created activity.
var stateDefinition =
stateDefinitionJson.Replace($"{{DOC_EXAMPLE_ACTIVITY_ARN}}", activityArn);

uiMethods.DisplayTitle("Create state machine");
Console.WriteLine("Now we'll create a state machine.");

// Find or create an IAM role that can be assumed by Step Functions.
var role = await GetOrCreateStateMachineRole(roleName);
```

```

        // See if the state machine already exists.
        var stateMachineList = await stepFunctionsWrapper.ListStateMachinesAsync();
        var existingStateMachine =
            stateMachineList.FirstOrDefault(stateMachine => stateMachine.Name ==
stateMachineName);
        if (existingStateMachine is not null)
        {
            Console.WriteLine($"State machine, {stateMachineName}, already
exists.");
            stateMachineArn = existingStateMachine.StateMachineArn;
        }
        else
        {
            // Create the state machine.
            stateMachineArn =
                await stepFunctionsWrapper.CreateStateMachine(stateMachineName,
stateDefinition, role.Arn);
            uiMethods.PressEnter();
        }

        Console.WriteLine("The state machine has been created.");
        var describeStateMachineResponse = await
stepFunctionsWrapper.DescribeStateMachineAsync(stateMachineArn);

        Console.WriteLine($"{describeStateMachineResponse.Name}\t{describeStateMachineResponse.Stat
Console.WriteLine($"Current status: {describeStateMachineResponse.Status}");
        Console.WriteLine($"Amazon Resource Name (ARN) of the role assumed by the
state machine: {describeStateMachineResponse.RoleArn}");

        var userName = string.Empty;
        Console.Write("Before we start the state machine, tell me what should
ChatSFN call you? ");
        userName = Console.ReadLine();

        // Keep asking until the user enters a string value.
        while (string.IsNullOrEmpty(userName))
        {
            Console.Write("Enter your name: ");
            userName = Console.ReadLine();
        }

        var executionJson = @"{"name": "" + userName + @""}";

```

```

        // Start the state machine execution.
        Console.WriteLine("Now we'll start execution of the state machine.");
        var executionArn = await
stepFunctionsWrapper.StartExecutionAsync(executionJson, stateMachineArn);
        Console.WriteLine("State machine started.");

        Console.WriteLine($"Thank you, {userName}. Now let's get started...");
        uiMethods.PressEnter();

        uiMethods.DisplayTitle("ChatSFN");

        var isDone = false;
        var response = new GetActivityTaskResponse();
        var taskToken = string.Empty;
        var userChoice = string.Empty;

        while (!isDone)
        {
            response = await stepFunctionsWrapper.GetActivityTaskAsync(activityArn,
"MvpWorker");
            taskToken = response.TaskToken;

            // Parse the returned JSON string.
            var taskJsonResponse = JsonDocument.Parse(response.Input);
            var taskJsonObject = taskJsonResponse.RootElement;
            var message = taskJsonObject.GetProperty("message").GetString();
            var actions =
taskJsonObject.GetProperty("actions").EnumerateArray().Select(x =>
x.ToString()).ToList();
            Console.WriteLine($"\\n{message}\\n");

            // Prompt the user for another choice.
            Console.WriteLine("ChatSFN: What would you like me to do?");
            actions.ForEach(action => Console.WriteLine($"\\t{action}"));
            Console.WriteLine($"\\n{userName}, tell me your choice: ");
            userChoice = Console.ReadLine();
            if (userChoice?.ToLower() == "done")
            {
                isDone = true;
            }

            Console.WriteLine($"You have selected: {userChoice}");
            var jsonResponse = @"{""action"": "" + userChoice + @""}";

```

```
        await stepFunctionsWrapper.SendTaskSuccessAsync(taskToken,
jsonResponse);
    }

    await stepFunctionsWrapper.StopExecution(executionArn);
    Console.WriteLine("Now we will wait for the execution to stop.");
    DescribeExecutionResponse executionResponse;
    do
    {
        executionResponse = await
stepFunctionsWrapper.DescribeExecutionAsync(executionArn);
    } while (executionResponse.Status == ExecutionStatus.RUNNING);

    Console.WriteLine("State machine stopped.");
    uiMethods.PressEnter();

    uiMethods.DisplayTitle("State machine executions");
    Console.WriteLine("Now let's take a look at the execution values for the
state machine.");

    // List the executions.
    var executions = await
stepFunctionsWrapper.ListExecutionsAsync(stateMachineArn);

    uiMethods.DisplayTitle("Step function execution values");
    executions.ForEach(execution =>
    {
        Console.WriteLine($"{execution.Name}\t{execution.StartDate} to
{execution.StopDate}");
    });

    uiMethods.PressEnter();

    // Now delete the state machine and the activity.
    uiMethods.DisplayTitle("Clean up resources");
    Console.WriteLine("Deleting the state machine...");

    await stepFunctionsWrapper.DeleteStateMachine(stateMachineArn);
    Console.WriteLine("State machine deleted.");

    Console.WriteLine("Deleting the activity...");
    await stepFunctionsWrapper.DeleteActivity(activityArn);
    Console.WriteLine("Activity deleted.");
```



```
        Console.WriteLine("The Amazon Step Functions scenario is now complete.");
    }

    static async Task<Role> GetOrCreateStateMachineRole(string roleName)
    {
        // Define the policy document for the role.
        var stateMachineRolePolicy = @"{
            ""Version"": ""2012-10-17"",
            ""Statement"": [{
                ""Sid"": "",
                ""Effect"": ""Allow"",
                ""Principal"": {
                    ""Service"": ""states.amazonaws.com""},
                ""Action"": ""sts:AssumeRole""}]}}";

        var role = new Role();
        var roleExists = false;

        try
        {
            var getRoleResponse = await _iamService.GetRoleAsync(new GetRoleRequest
            { RoleName = roleName });
            roleExists = true;
            role = getRoleResponse.Role;
        }
        catch (NoSuchEntityException)
        {
            // The role doesn't exist. Create it.
            Console.WriteLine($"Role, {roleName} doesn't exist. Creating it...");
        }

        if (!roleExists)
        {
            var request = new CreateRoleRequest
            {
                RoleName = roleName,
                AssumeRolePolicyDocument = stateMachineRolePolicy,
            };

            var createRoleResponse = await _iamService.CreateRoleAsync(request);
            role = createRoleResponse.Role;
        }

        return role;
    }
}
```

```
    }  
}  
  
namespace StepFunctionsBasics;  
  
/// <summary>  
/// Some useful methods to make screen display easier.  
/// </summary>  
public class UiMethods  
{  
    private readonly string _sepBar = new('-', Console.WindowWidth);  
  
    /// <summary>  
    /// Show information about the scenario.  
    /// </summary>  
    public void DisplayOverview()  
    {  
        Console.Clear();  
        DisplayTitle("Welcome to the AWS Step Functions Demo");  
  
        Console.WriteLine("This example application will do the following:");  
        Console.WriteLine("\t 1. Create an activity.");  
        Console.WriteLine("\t 2. Create a state machine.");  
        Console.WriteLine("\t 3. Start an execution.");  
        Console.WriteLine("\t 4. Run the worker, then stop it.");  
        Console.WriteLine("\t 5. List executions.");  
        Console.WriteLine("\t 6. Clean up the resources created for the example.");  
    }  
  
    /// <summary>  
    /// Display a message and wait until the user presses enter.  
    /// </summary>  
    public void PressEnter()  
    {  
        Console.Write("\nPress <Enter> to continue.");  
        _ = Console.ReadLine();  
    }  
  
    /// <summary>  
    /// Pad a string with spaces to center it on the console display.  
    /// </summary>  
    /// <param name="strToCenter"></param>  
    /// <returns></returns>
```

```

private string CenterString(string strToCenter)
{
    var padAmount = (Console.WindowWidth - strToCenter.Length) / 2;
    var leftPad = new string(' ', padAmount);
    return $"{leftPad}{strToCenter}";
}

/// <summary>
/// Display a line of hyphens, the centered text of the title, and another
/// line of hyphens.
/// </summary>
/// <param name="strTitle">The string to be displayed.</param>
public void DisplayTitle(string strTitle)
{
    Console.WriteLine(_sepBar);
    Console.WriteLine(CenterString(strTitle));
    Console.WriteLine(_sepBar);
}
}

```

ステートマシンとアクティビティアクションをラップするクラスを定義します。

```

namespace StepFunctionsActions;

using Amazon.StepFunctions;
using Amazon.StepFunctions.Model;

/// <summary>
/// Wrapper that performs AWS Step Functions actions.
/// </summary>
public class StepFunctionsWrapper
{
    private readonly IAmazonStepFunctions _amazonStepFunctions;

    /// <summary>
    /// The constructor for the StepFunctionsWrapper. Initializes the
    /// client object passed to it.
    /// </summary>
    /// <param name="amazonStepFunctions">An initialized Step Functions client
    object.</param>

```

```
public StepFunctionsWrapper(IAmazonStepFunctions amazonStepFunctions)
{
    _amazonStepFunctions = amazonStepFunctions;
}

/// <summary>
/// Create a Step Functions activity using the supplied name.
/// </summary>
/// <param name="activityName">The name for the new Step Functions activity.</param>
/// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) for the new activity.</returns>
public async Task<string> CreateActivity(string activityName)
{
    var response = await _amazonStepFunctions.CreateActivityAsync(new
CreateActivityRequest { Name = activityName });
    return response.ActivityArn;
}

/// <summary>
/// Create a Step Functions state machine.
/// </summary>
/// <param name="stateMachineName">Name for the new Step Functions state
/// machine.</param>
/// <param name="definition">A JSON string that defines the Step Functions
/// state machine.</param>
/// <param name="roleArn">The Amazon Resource Name (ARN) of the role.</param>
/// <returns></returns>
public async Task<string> CreateStateMachine(string stateMachineName, string
definition, string roleArn)
{
    var request = new CreateStateMachineRequest
    {
        Name = stateMachineName,
        Definition = definition,
        RoleArn = roleArn
    };

    var response =
        await _amazonStepFunctions.CreateStateMachineAsync(request);
    return response.StateMachineArn;
}
```

```
/// <summary>
/// Delete a Step Machine activity.
/// </summary>
/// <param name="activityArn">The Amazon Resource Name (ARN) of
/// the activity.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteActivity(string activityArn)
{
    var response = await _amazonStepFunctions.DeleteActivityAsync(new
DeleteActivityRequest { ActivityArn = activityArn });
    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}

/// <summary>
/// Delete a Step Functions state machine.
/// </summary>
/// <param name="stateMachineArn">The Amazon Resource Name (ARN) of the
/// state machine.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteStateMachine(string stateMachineArn)
{
    var response = await _amazonStepFunctions.DeleteStateMachineAsync(new
DeleteStateMachineRequest
    { StateMachineArn = stateMachineArn });
    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}

/// <summary>
/// Retrieve information about the specified Step Functions execution.
/// </summary>
/// <param name="executionArn">The Amazon Resource Name (ARN) of the
/// Step Functions execution.</param>
/// <returns>The API response returned by the API.</returns>
public async Task<DescribeExecutionResponse> DescribeExecutionAsync(string
executionArn)
{
    var response = await _amazonStepFunctions.DescribeExecutionAsync(new
DescribeExecutionRequest { ExecutionArn = executionArn });
    return response;
}
```

```

    /// <summary>
    /// Retrieve information about the specified Step Functions state machine.
    /// </summary>
    /// <param name="StateMachineArn">The Amazon Resource Name (ARN) of the
    /// Step Functions state machine to retrieve.</param>
    /// <returns>Information about the specified Step Functions state machine.</
returns>
    public async Task<DescribeStateMachineResponse> DescribeStateMachineAsync(string
StateMachineArn)
    {
        var response = await _amazonStepFunctions.DescribeStateMachineAsync(new
DescribeStateMachineRequest { StateMachineArn = StateMachineArn });
        return response;
    }

    /// <summary>
    /// Retrieve a task with the specified Step Functions activity
    /// with the specified Amazon Resource Name (ARN).
    /// </summary>
    /// <param name="activityArn">The Amazon Resource Name (ARN) of
    /// the Step Functions activity.</param>
    /// <param name="workerName">The name of the Step Functions worker.</param>
    /// <returns>The response from the Step Functions activity.</returns>
    public async Task<GetActivityTaskResponse> GetActivityTaskAsync(string
activityArn, string workerName)
    {
        var response = await _amazonStepFunctions.GetActivityTaskAsync(new
GetActivityTaskRequest
        { ActivityArn = activityArn, WorkerName = workerName });
        return response;
    }

    /// <summary>
    /// List the Step Functions activities for the current account.
    /// </summary>
    /// <returns>A list of ActivityListItem.</returns>
    public async Task<List<ActivityListItem>> ListActivitiesAsync()
    {
        var request = new ListActivitiesRequest();
        var activities = new List<ActivityListItem>();

        do

```

```
{
    var response = await _amazonStepFunctions.ListActivitiesAsync(request);

    if (response.NextToken is not null)
    {
        request.NextToken = response.NextToken;
    }

    activities.AddRange(response.Activities);
}
while (request.NextToken is not null);

return activities;
}

/// <summary>
/// Retrieve information about executions of a Step Functions
/// state machine.
/// </summary>
/// <param name="stateMachineArn">The Amazon Resource Name (ARN) of the
/// Step Functions state machine.</param>
/// <returns>A list of ExecutionListItem objects.</returns>
public async Task<List<ExecutionListItem>> ListExecutionsAsync(string
stateMachineArn)
{
    var executions = new List<ExecutionListItem>();
    ListExecutionsResponse response;
    var request = new ListExecutionsRequest { StateMachineArn =
stateMachineArn };

    do
    {
        response = await _amazonStepFunctions.ListExecutionsAsync(request);
        executions.AddRange(response.Executions);
        if (response.NextToken is not null)
        {
            request.NextToken = response.NextToken;
        }
    } while (response.NextToken is not null);

    return executions;
}
```

```

    /// <summary>
    /// Retrieve a list of Step Functions state machines.
    /// </summary>
    /// <returns>A list of StateMachineListItem objects.</returns>
    public async Task<List<StateMachineListItem>> ListStateMachinesAsync()
    {
        var stateMachines = new List<StateMachineListItem>();
        var listStateMachinesPaginator =
            _amazonStepFunctions.Paginators.ListStateMachines(new
ListStateMachinesRequest());

        await foreach (var response in listStateMachinesPaginator.Responses)
        {
            stateMachines.AddRange(response.StateMachines);
        }

        return stateMachines;
    }

    /// <summary>
    /// Indicate that the Step Functions task, indicated by the
    /// task token, has completed successfully.
    /// </summary>
    /// <param name="taskToken">Identifies the task.</param>
    /// <param name="taskResponse">The response received from executing the task.</
param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> SendTaskSuccessAsync(string taskToken, string
taskResponse)
    {
        var response = await _amazonStepFunctions.SendTaskSuccessAsync(new
SendTaskSuccessRequest
        { TaskToken = taskToken, Output = taskResponse });

        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }

    /// <summary>
    /// Start execution of an AWS Step Functions state machine.
    /// </summary>
    /// <param name="executionName">The name to use for the execution.</param>

```



```

    /// <param name="executionJson">The JSON string to pass for execution.</param>
    /// <param name="stateMachineArn">The Amazon Resource Name (ARN) of the
    /// Step Functions state machine.</param>
    /// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the AWS Step Functions
    /// execution.</returns>
    public async Task<string> StartExecutionAsync(string executionJson, string
stateMachineArn)
    {
        var executionRequest = new StartExecutionRequest
        {
            Input = executionJson,
            StateMachineArn = stateMachineArn
        };

        var response = await
_amazonStepFunctions.StartExecutionAsync(executionRequest);
        return response.ExecutionArn;
    }

    /// <summary>
    /// Stop execution of a Step Functions workflow.
    /// </summary>
    /// <param name="executionArn">The Amazon Resource Name (ARN) of
    /// the Step Functions execution to stop.</param>
    /// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
    public async Task<bool> StopExecution(string executionArn)
    {
        var response =
            await _amazonStepFunctions.StopExecutionAsync(new StopExecutionRequest
{ ExecutionArn = executionArn });
        return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
    }
}

```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。
- [CreateActivity](#)

- [CreateStateMachine](#)
- [DeleteActivity](#)
- [DeleteStateMachine](#)
- [DescribeExecution](#)
- [DescribeStateMachine](#)
- [GetActivityTask](#)
- [ListActivities](#)
- [ListStateMachines](#)
- [SendTaskSuccess](#)
- [StartExecution](#)
- [StopExecution](#)

アクション

CreateActivity

次のコード例は、CreateActivity を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Create a Step Functions activity using the supplied name.
/// </summary>
/// <param name="activityName">The name for the new Step Functions activity.</
param>
/// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) for the new activity.</returns>
public async Task<string> CreateActivity(string activityName)
{
    var response = await _amazonStepFunctions.CreateActivityAsync(new
CreateActivityRequest { Name = activityName });
    return response.ActivityArn;
}
```

```
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateActivity](#)」を参照してください。

CreateStateMachine

次のコード例は、CreateStateMachine を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Create a Step Functions state machine.
/// </summary>
/// <param name="stateMachineName">Name for the new Step Functions state
/// machine.</param>
/// <param name="definition">A JSON string that defines the Step Functions
/// state machine.</param>
/// <param name="roleArn">The Amazon Resource Name (ARN) of the role.</param>
/// <returns></returns>
public async Task<string> CreateStateMachine(string stateMachineName, string
definition, string roleArn)
{
    var request = new CreateStateMachineRequest
    {
        Name = stateMachineName,
        Definition = definition,
        RoleArn = roleArn
    };

    var response =
        await _amazonStepFunctions.CreateStateMachineAsync(request);
    return response.StateMachineArn;
}
```

```
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateStateMachine](#)」を参照してください。

DeleteActivity

次のコード例は、DeleteActivity を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete a Step Machine activity.
/// </summary>
/// <param name="activityArn">The Amazon Resource Name (ARN) of
/// the activity.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteActivity(string activityArn)
{
    var response = await _amazonStepFunctions.DeleteActivityAsync(new
DeleteActivityRequest { ActivityArn = activityArn });
    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteActivity](#)」を参照してください。

DeleteStateMachine

次のコード例は、DeleteStateMachine を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete a Step Functions state machine.
/// </summary>
/// <param name="stateMachineArn">The Amazon Resource Name (ARN) of the
/// state machine.</param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> DeleteStateMachine(string stateMachineArn)
{
    var response = await _amazonStepFunctions.DeleteStateMachineAsync(new
DeleteStateMachineRequest
    { StateMachineArn = stateMachineArn });
    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteStateMachine](#)」を参照してください。

DescribeExecution

次のコード例は、DescribeExecution を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
```

```

    /// Retrieve information about the specified Step Functions execution.
    /// </summary>
    /// <param name="executionArn">The Amazon Resource Name (ARN) of the
    /// Step Functions execution.</param>
    /// <returns>The API response returned by the API.</returns>
    public async Task<DescribeExecutionResponse> DescribeExecutionAsync(string
    executionArn)
    {
        var response = await _amazonStepFunctions.DescribeExecutionAsync(new
    DescribeExecutionRequest { ExecutionArn = executionArn });
        return response;
    }

```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeExecution](#)」を参照してください。

DescribeStateMachine

次のコード例は、DescribeStateMachine を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

    /// <summary>
    /// Retrieve information about the specified Step Functions state machine.
    /// </summary>
    /// <param name="StateMachineArn">The Amazon Resource Name (ARN) of the
    /// Step Functions state machine to retrieve.</param>
    /// <returns>Information about the specified Step Functions state machine.</
    returns>
    public async Task<DescribeStateMachineResponse> DescribeStateMachineAsync(string
    StateMachineArn)
    {

```

```
var response = await _amazonStepFunctions.DescribeStateMachineAsync(new
DescribeStateMachineRequest { StateMachineArn = StateMachineArn });
return response;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeStateMachine](#)」を参照してください。

GetActivityTask

次のコード例は、GetActivityTask を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Retrieve a task with the specified Step Functions activity
/// with the specified Amazon Resource Name (ARN).
/// </summary>
/// <param name="activityArn">The Amazon Resource Name (ARN) of
/// the Step Functions activity.</param>
/// <param name="workerName">The name of the Step Functions worker.</param>
/// <returns>The response from the Step Functions activity.</returns>
public async Task<GetActivityTaskResponse> GetActivityTaskAsync(string
activityArn, string workerName)
{
    var response = await _amazonStepFunctions.GetActivityTaskAsync(new
GetActivityTaskRequest
    { ActivityArn = activityArn, WorkerName = workerName });
    return response;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetActivityTask](#)」を参照してください。

ListActivities

次のコード例は、ListActivities を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List the Step Functions activities for the current account.
/// </summary>
/// <returns>A list of ActivityListItem.</returns>
public async Task<List<ActivityListItem>> ListActivitiesAsync()
{
    var request = new ListActivitiesRequest();
    var activities = new List<ActivityListItem>();

    do
    {
        var response = await _amazonStepFunctions.ListActivitiesAsync(request);

        if (response.NextToken is not null)
        {
            request.NextToken = response.NextToken;
        }

        activities.AddRange(response.Activities);
    }
    while (request.NextToken is not null);

    return activities;
}
```


- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListActivities](#)」を参照してください。

ListExecutions

次のコード例は、ListExecutions を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Retrieve information about executions of a Step Functions
/// state machine.
/// </summary>
/// <param name="stateMachineArn">The Amazon Resource Name (ARN) of the
/// Step Functions state machine.</param>
/// <returns>A list of ExecutionListItem objects.</returns>
public async Task<List<ExecutionListItem>> ListExecutionsAsync(string
stateMachineArn)
{
    var executions = new List<ExecutionListItem>();
    ListExecutionsResponse response;
    var request = new ListExecutionsRequest { StateMachineArn =
stateMachineArn };

    do
    {
        response = await _amazonStepFunctions.ListExecutionsAsync(request);
        executions.AddRange(response.Executions);
        if (response.NextToken is not null)
        {
            request.NextToken = response.NextToken;
        }
    } while (response.NextToken is not null);

    return executions;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListExecutions](#)」を参照してください。

ListStateMachines

次のコード例は、ListStateMachines を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Retrieve a list of Step Functions state machines.
/// </summary>
/// <returns>A list of StateMachineListItem objects.</returns>
public async Task<List<StateMachineListItem>> ListStateMachinesAsync()
{
    var stateMachines = new List<StateMachineListItem>();
    var listStateMachinesPaginator =
        _amazonStepFunctions.Paginators.ListStateMachines(new
ListStateMachinesRequest());

    await foreach (var response in listStateMachinesPaginator.Responses)
    {
        stateMachines.AddRange(response.StateMachines);
    }

    return stateMachines;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListStateMachines](#)」を参照してください。

SendTaskSuccess

次のコード例は、SendTaskSuccess を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Indicate that the Step Functions task, indicated by the
/// task token, has completed successfully.
/// </summary>
/// <param name="taskToken">Identifies the task.</param>
/// <param name="taskResponse">The response received from executing the task.</
param>
/// <returns>A Boolean value indicating the success of the action.</returns>
public async Task<bool> SendTaskSuccessAsync(string taskToken, string
taskResponse)
{
    var response = await _amazonStepFunctions.SendTaskSuccessAsync(new
SendTaskSuccessRequest
    { TaskToken = taskToken, Output = taskResponse });

    return response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[SendTaskSuccess](#)」を参照してください。

StartExecution

次のコード例は、StartExecution を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Start execution of an AWS Step Functions state machine.
/// </summary>
/// <param name="executionName">The name to use for the execution.</param>
/// <param name="executionJson">The JSON string to pass for execution.</param>
/// <param name="stateMachineArn">The Amazon Resource Name (ARN) of the
/// Step Functions state machine.</param>
/// <returns>The Amazon Resource Name (ARN) of the AWS Step Functions
/// execution.</returns>
public async Task<string> StartExecutionAsync(string executionJson, string
stateMachineArn)
{
    var executionRequest = new StartExecutionRequest
    {
        Input = executionJson,
        StateMachineArn = stateMachineArn
    };

    var response = await
_amazonStepFunctions.StartExecutionAsync(executionRequest);
    return response.ExecutionArn;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[StartExecution](#)」を参照してください。

AWS STS を使用した の例 SDK for .NET

次のコード例は、AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています AWS STS。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)

アクション

AssumeRole

次のコード例は、AssumeRole を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon;
using Amazon.SecurityToken;
using Amazon.SecurityToken.Model;

namespace AssumeRoleExample
{
    class AssumeRole
    {
        /// <summary>
        /// This example shows how to use the AWS Security Token
        /// Service (AWS STS) to assume an IAM role.
        ///
        /// NOTE: It is important that the role that will be assumed has a
        /// trust relationship with the account that will assume the role.
        ///
```

```

    /// Before you run the example, you need to create the role you want to
    /// assume and have it trust the IAM account that will assume that role.
    ///
    /// See https://docs.aws.amazon.com/IAM/latest/UserGuide/
id_roles_create.html
    /// for help in working with roles.
    /// </summary>

    // A region property may be used if the profile or credentials loaded do not
    // specify a region,
    // or to use a specific region.
    private static readonly RegionEndpoint REGION = RegionEndpoint.USSouth2;

    static async Task Main()
    {
        // Create the SecurityToken client and then display the identity of the
        // default user.
        var roleArnToAssume = "arn:aws:iam::123456789012:role/testAssumeRole";

        var client = new
Amazon.SecurityToken.AmazonSecurityTokenServiceClient(REGION);

        // Get and display the information about the identity of the default
user.

        var callerIdRequest = new GetCallerIdentityRequest();
        var caller = await client.GetCallerIdentityAsync(callerIdRequest);
        Console.WriteLine($"Original Caller: {caller.Arn}");

        // Create the request to use with the AssumeRoleAsync call.
        var assumeRoleReq = new AssumeRoleRequest()
        {
            DurationSeconds = 1600,
            RoleSessionName = "Session1",
            RoleArn = roleArnToAssume
        };

        var assumeRoleRes = await client.AssumeRoleAsync(assumeRoleReq);

        // Now create a new client based on the credentials of the caller
        // assuming the role.
        var client2 = new AmazonSecurityTokenServiceClient(credentials:
assumeRoleRes.Credentials, REGION);

```

```
// Get and display information about the caller that has assumed the
defined role.
var caller2 = await client2.GetCallerIdentityAsync(callerIdRequest);
Console.WriteLine($"AssumedRole Caller: {caller2.Arn}");
    }
}
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[AssumeRole](#)」を参照してください。

サポート を使用した の例 SDK for .NET

次のコード例は、AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています サポート。

基本 は、重要なオペレーションをサービス内で実行する方法を示すコード例です。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [はじめに](#)
- [基本](#)
- [アクション](#)

はじめに

こんにちは サポートは

次のコード例は、 サポートの使用を開始する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using Amazon.AWSSupport;
using Microsoft.Extensions.DependencyInjection;
using Microsoft.Extensions.Hosting;

public static class HelloSupport
{
    static async Task Main(string[] args)
    {
        // Use the AWS .NET Core Setup package to set up dependency injection for
        the AWS Support service.
        // Use your AWS profile name, or leave it blank to use the default profile.
        // You must have one of the following AWS Support plans: Business,
        Enterprise On-Ramp, or Enterprise. Otherwise, an exception will be thrown.
        using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
            .ConfigureServices((_, services) =>
                services.AddAWSService<IAmazonAWSSupport>()
            ).Build();

        // Now the client is available for injection.
        var supportClient = host.Services.GetRequiredService<IAmazonAWSSupport>();

        // You can use await and any of the async methods to get a response.
        var response = await supportClient.DescribeServicesAsync();
        Console.WriteLine($"\\tHello AWS Support! There are {response.Services.Count}
        services available.");
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeServices](#)」を参照してください。

基本

基本を学ぶ

次のコード例は、以下の操作方法を示しています。

- ケースの利用可能なサービスと重要度レベルを取得して表示します。
- 選択したサービス、カテゴリ、重要度レベルを使用してサポートケースを作成する方法
- 当日のオープンケースのリストを取得して表示する方法
- 新しいケースに添付セットとコミュニケーションを追加する方法
- ケースの新しい添付ファイルとコミュニケーションについて説明する方法
- ケースを解決する方法
- 当日の解決済みケースのリストを取得して表示します。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

コマンドプロンプトからインタラクティブなシナリオを実行します。

```
/// <summary>
/// Hello AWS Support example.
/// </summary>
public static class SupportCaseScenario
{
    /*
    Before running this .NET code example, set up your development environment,
    including your credentials.

    To use the AWS Support API, you must have one of the following AWS Support
    plans: Business, Enterprise On-Ramp, or Enterprise.

    This .NET example performs the following tasks:
    1. Get and display services. Select a service from the list.
    2. Select a category from the selected service.
```

```

3. Get and display severity levels and select a severity level from the list.
4. Create a support case using the selected service, category, and severity
level.
5. Get and display a list of open support cases for the current day.
6. Create an attachment set with a sample text file to add to the case.
7. Add a communication with the attachment to the support case.
8. List the communications of the support case.
9. Describe the attachment set.
10. Resolve the support case.
11. Get a list of resolved cases for the current day.
*/

private static SupportWrapper _supportWrapper = null!;

static async Task Main(string[] args)
{
    // Set up dependency injection for the AWS Support service.
    // Use your AWS profile name, or leave it blank to use the default profile.
    using var host = Host.CreateDefaultBuilder(args)
        .ConfigureLogging(logging =>
            logging.AddFilter("System", LogLevel.Debug)
                .AddFilter<DebugLoggerProvider>("Microsoft",
LogLevel.Information)
                .AddFilter<ConsoleLoggerProvider>("Microsoft", LogLevel.Trace))
        .ConfigureServices((_, services) =>
            services.AddAWSService<IAmazonAWSSupport>(new AWSOptions() { Profile
= "default" }))
        .AddTransient<SupportWrapper>()
        )
        .Build();

    var logger = LoggerFactory.Create(builder =>
    {
        builder.AddConsole();
    }).CreateLogger(typeof(SupportCaseScenario));

    _supportWrapper = host.Services.GetRequiredService<SupportWrapper>();

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine("Welcome to the AWS Support case example scenario.");
    Console.WriteLine(new string('-', 80));

    try
    {

```

```
        var apiSupported = await _supportWrapper.VerifySubscription();
        if (!apiSupported)
        {
            logger.LogError("You must have a Business, Enterprise On-Ramp, or
Enterprise Support " +
                            "plan to use the AWS Support API. \n\tPlease
upgrade your subscription to run these examples.");
            return;
        }

        var service = await DisplayAndSelectServices();

        var category = DisplayAndSelectCategories(service);

        var severityLevel = await DisplayAndSelectSeverity();

        var caseId = await CreateSupportCase(service, category, severityLevel);

        await DescribeTodayOpenCases();

        var attachmentSetId = await CreateAttachmentSet();

        await AddCommunicationToCase(attachmentSetId, caseId);

        var attachmentId = await ListCommunicationsForCase(caseId);

        await DescribeCaseAttachment(attachmentId);

        await ResolveCase(caseId);

        await DescribeTodayResolvedCases();

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine("AWS Support case example scenario complete.");
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
    catch (Exception ex)
    {
        logger.LogError(ex, "There was a problem executing the scenario.");
    }
}

/// <summary>
```

```

    /// List some available services from AWS Support, and select a service for the
    example.
    /// </summary>
    /// <returns>The selected service.</returns>
    private static async Task<Service> DisplayAndSelectServices()
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        var services = await _supportWrapper.DescribeServices();
        Console.WriteLine($"AWS Support client returned {services.Count}
services.");

        Console.WriteLine($"1. Displaying first 10 services:");
        for (int i = 0; i < 10 && i < services.Count; i++)
        {
            Console.WriteLine($"\\t{i + 1}. {services[i].Name}");
        }

        var choiceNumber = 0;
        while (choiceNumber < 1 || choiceNumber > services.Count)
        {
            Console.WriteLine(
                "Select an example support service by entering a number from the
preceding list:");
            var choice = Console.ReadLine();
            Int32.TryParse(choice, out choiceNumber);
        }
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        return services[choiceNumber - 1];
    }

    /// <summary>
    /// List the available categories for a service and select a category for the
    example.
    /// </summary>
    /// <param name="service">Service to use for displaying categories.</param>
    /// <returns>The selected category.</returns>
    private static Category DisplayAndSelectCategories(Service service)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        Console.WriteLine($"2. Available support categories for Service
\\{service.Name}\\":");
        for (int i = 0; i < service.Categories.Count; i++)

```

```

    {
        Console.WriteLine($"{t{i + 1}. {service.Categories[i].Name}");
    }

    var choiceNumber = 0;
    while (choiceNumber < 1 || choiceNumber > service.Categories.Count)
    {
        Console.WriteLine(
            "Select an example support category by entering a number from the
preceding list:");
        var choice = Console.ReadLine();
        Int32.TryParse(choice, out choiceNumber);
    }

    Console.WriteLine(new string('-', 80));

    return service.Categories[choiceNumber - 1];
}

/// <summary>
/// List available severity levels from AWS Support, and select a level for the
example.
/// </summary>
/// <returns>The selected severity level.</returns>
private static async Task<SeverityLevel> DisplayAndSelectSeverity()
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    var severityLevels = await _supportWrapper.DescribeSeverityLevels();

    Console.WriteLine($"3. Get and display available severity levels:");
    for (int i = 0; i < 10 && i < severityLevels.Count; i++)
    {
        Console.WriteLine($"{t{i + 1}. {severityLevels[i].Name}");
    }

    var choiceNumber = 0;
    while (choiceNumber < 1 || choiceNumber > severityLevels.Count)
    {
        Console.WriteLine(
            "Select an example severity level by entering a number from the
preceding list:");
        var choice = Console.ReadLine();
        Int32.TryParse(choice, out choiceNumber);
    }
}

```

```

        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        return severityLevels[choiceNumber - 1];
    }

    /// <summary>
    /// Create an example support case.
    /// </summary>
    /// <param name="service">Service to use for the new case.</param>
    /// <param name="category">Category to use for the new case.</param>
    /// <param name="severity">Severity to use for the new case.</param>
    /// <returns>The caseId of the new support case.</returns>
    private static async Task<string> CreateSupportCase(Service service,
        Category category, SeverityLevel severity)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"4. Create an example support case" +
            $" with the following settings:" +
            $" \n\tService: {service.Name}, Category: {category.Name}
" +
            $"and Severity Level: {severity.Name}.");
        var caseId = await _supportWrapper.CreateCase(service.Code, category.Code,
            severity.Code,
            "Example case for testing, ignore.", "This is my example support
            case.");

        Console.WriteLine($" \tNew case created with ID {caseId}");

        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        return caseId;
    }

    /// <summary>
    /// List open cases for the current day.
    /// </summary>
    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task DescribeTodayOpenCases()
    {
        Console.WriteLine($"5. List the open support cases for the current day.");
        // Describe the cases. If it is empty, try again and allow time for the new
        case to appear.
        List<CaseDetails> currentOpenCases = null!;
        while (currentOpenCases == null || currentOpenCases.Count == 0)

```

```

    {
        Thread.Sleep(1000);
        currentOpenCases = await _supportWrapper.DescribeCases(
            new List<string>(),
            null,
            false,
            false,
            DateTime.UtcNow.Date,
            DateTime.UtcNow);
    }

    foreach (var openCase in currentOpenCases)
    {
        Console.WriteLine($"\\tCase: {openCase.CaseId} created
{openCase.TimeCreated}");
    }

    Console.WriteLine(new string('-', 80));
}

/// <summary>
/// Create an attachment set for a support case.
/// </summary>
/// <returns>The attachment set id.</returns>
private static async Task<string> CreateAttachmentSet()
{
    Console.WriteLine(new string('-', 80));
    Console.WriteLine($"6. Create an attachment set for a support case.");
    var fileName = "example_attachment.txt";

    // Create the file if it does not already exist.
    if (!File.Exists(fileName))
    {
        await using StreamWriter sw = File.CreateText(fileName);
        await sw.WriteLineAsync(
            "This is a sample file for attachment to a support case.");
    }

    await using var ms = new MemoryStream(await
File.ReadAllBytesAsync(fileName));

    var attachmentSetId = await _supportWrapper.AddAttachmentToSet(
        ms,
        fileName);
}

```

```

        Console.WriteLine($"\\tNew attachment set created with id: \\n
\\t{attachmentSetId.Substring(0, 65)}...");

        Console.WriteLine(new string('-', 80));

        return attachmentSetId;
    }

    /// <summary>
    /// Add an attachment set and communication to a case.
    /// </summary>
    /// <param name="attachmentSetId">Id of the attachment set.</param>
    /// <param name="caseId">Id of the case to receive the attachment set.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task AddCommunicationToCase(string attachmentSetId, string
caseId)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"7. Add attachment set and communication to {caseId}.");

        await _supportWrapper.AddCommunicationToCase(
            caseId,
            "This is an example communication added to a support case.",
            attachmentSetId);

        Console.WriteLine($"\\tNew attachment set and communication added to
{caseId}");

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// List the communications for a case.
    /// </summary>
    /// <param name="caseId">Id of the case to describe.</param>
    /// <returns>An attachment id.</returns>
    private static async Task<string> ListCommunicationsForCase(string caseId)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"8. List communications for case {caseId}.");

        var communications = await _supportWrapper.DescribeCommunications(caseId);
        var attachmentId = "";
    }

```



```

        foreach (var communication in communications)
        {
            Console.WriteLine(
                $"\\tCommunication created on: {communication.TimeCreated} has
{communication.AttachmentSet.Count} attachments.");
            if (communication.AttachmentSet.Any())
            {
                attachmentId = communication.AttachmentSet.First().AttachmentId;
            }
        }

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        return attachmentId;
    }

    /// <summary>
    /// Describe an attachment by id.
    /// </summary>
    /// <param name="attachmentId">Id of the attachment to describe.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task DescribeCaseAttachment(string attachmentId)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"9. Describe the attachment set.");

        var attachment = await _supportWrapper.DescribeAttachment(attachmentId);
        var data = Encoding.ASCII.GetString(attachment.Data.ToArray());
        Console.WriteLine($"\\tAttachment includes {attachment.FileName} with data:
\\n\\t{data}");

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// Resolve the support case.
    /// </summary>
    /// <param name="caseId">Id of the case to resolve.</param>
    /// <returns>Async task.</returns>
    private static async Task ResolveCase(string caseId)
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"10. Resolve case {caseId}.");

        var status = await _supportWrapper.ResolveCase(caseId);
    }

```

```

        Console.WriteLine($"\\tCase {caseId} has final status {status}");

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }

    /// <summary>
    /// List resolved cases for the current day.
    /// </summary>
    /// <returns>Async Task.</returns>
    private static async Task DescribeTodayResolvedCases()
    {
        Console.WriteLine(new string('-', 80));
        Console.WriteLine($"11. List the resolved support cases for the current
day.");
        var currentCases = await _supportWrapper.DescribeCases(
            new List<string>(),
            null,
            false,
            true,
            DateTime.UtcNow.Date,
            DateTime.UtcNow);

        foreach (var currentCase in currentCases)
        {
            if (currentCase.Status == "resolved")
            {
                Console.WriteLine(
                    $"\\tCase: {currentCase.CaseId}: status {currentCase.Status}");
            }
        }

        Console.WriteLine(new string('-', 80));
    }
}

```

サポート アクションのシナリオで使用するラッパーメソッド。

```

/// <summary>
/// Wrapper methods to use AWS Support for working with support cases.
/// </summary>
public class SupportWrapper

```

```

{
    private readonly IAmazonAWSSupport _amazonSupport;
    public SupportWrapper(IAmazonAWSSupport amazonSupport)
    {
        _amazonSupport = amazonSupport;
    }

    /// <summary>
    /// Get the descriptions of AWS services.
    /// </summary>
    /// <param name="name">Optional language for services.
    /// Currently Chinese ("zh"), English ("en"), Japanese ("ja") and Korean ("ko")
are supported.</param>
    /// <returns>The list of AWS service descriptions.</returns>
    public async Task<List<Service>> DescribeServices(string language = "en")
    {
        var response = await _amazonSupport.DescribeServicesAsync(
            new DescribeServicesRequest()
            {
                Language = language
            });
        return response.Services;
    }

    /// <summary>
    /// Get the descriptions of support severity levels.
    /// </summary>
    /// <param name="name">Optional language for severity levels.
    /// Currently Chinese ("zh"), English ("en"), Japanese ("ja") and Korean ("ko")
are supported.</param>
    /// <returns>The list of support severity levels.</returns>
    public async Task<List<SeverityLevel>> DescribeSeverityLevels(string language =
"en")
    {
        var response = await _amazonSupport.DescribeSeverityLevelsAsync(
            new DescribeSeverityLevelsRequest()
            {
                Language = language
            });
        return response.SeverityLevels;
    }
}

```

```

    /// <summary>
    /// Create a new support case.
    /// </summary>
    /// <param name="serviceCode">Service code for the new case.</param>
    /// <param name="categoryCode">Category for the new case.</param>
    /// <param name="severityCode">Severity code for the new case.</param>
    /// <param name="subject">Subject of the new case.</param>
    /// <param name="body">Body text of the new case.</param>
    /// <param name="language">Optional language support for your case.
    /// Currently Chinese ("zh"), English ("en"), Japanese ("ja") and Korean ("ko")
are supported.</param>
    /// <param name="attachmentSetId">Optional Id for an attachment set for the new
case.</param>
    /// <param name="issueType">Optional issue type for the new case. Options are
"customer-service" or "technical".</param>
    /// <returns>The caseId of the new support case.</returns>
    public async Task<string> CreateCase(string serviceCode, string categoryCode,
        string severityCode, string subject,
        string body, string language = "en", string? attachmentSetId = null, string
issueType = "customer-service")
    {
        var response = await _amazonSupport.CreateCaseAsync(
            new CreateCaseRequest()
            {
                ServiceCode = serviceCode,
                CategoryCode = categoryCode,
                SeverityCode = severityCode,
                Subject = subject,
                Language = language,
                AttachmentSetId = attachmentSetId,
                IssueType = issueType,
                CommunicationBody = body
            });
        return response.CaseId;
    }

    /// <summary>
    /// Add an attachment to a set, or create a new attachment set if one does not
exist.

```

```
/// </summary>
/// <param name="data">The data for the attachment.</param>
/// <param name="fileName">The file name for the attachment.</param>
/// <param name="attachmentSetId">Optional setId for the attachment. Creates a
new attachment set if empty.</param>
/// <returns>The setId of the attachment.</returns>
public async Task<string> AddAttachmentToSet(MemoryStream data, string fileName,
string? attachmentSetId = null)
{
    var response = await _amazonSupport.AddAttachmentsToSetAsync(
        new AddAttachmentsToSetRequest
        {
            AttachmentSetId = attachmentSetId,
            Attachments = new List<Attachment>
            {
                new Attachment
                {
                    Data = data,
                    FileName = fileName
                }
            }
        });
    return response.AttachmentSetId;
}

/// <summary>
/// Get description of a specific attachment.
/// </summary>
/// <param name="attachmentId">Id of the attachment, usually fetched by
describing the communications of a case.</param>
/// <returns>The attachment object.</returns>
public async Task<Attachment> DescribeAttachment(string attachmentId)
{
    var response = await _amazonSupport.DescribeAttachmentAsync(
        new DescribeAttachmentRequest()
        {
            AttachmentId = attachmentId
        });
    return response.Attachment;
}
```

```

    /// <summary>
    /// Add communication to a case, including optional attachment set ID and CC
    email addresses.
    /// </summary>
    /// <param name="caseId">Id for the support case.</param>
    /// <param name="body">Body text of the communication.</param>
    /// <param name="attachmentSetId">Optional Id for an attachment set.</param>
    /// <param name="ccEmailAddresses">Optional list of CC email addresses.</param>
    /// <returns>True if successful.</returns>
    public async Task<bool> AddCommunicationToCase(string caseId, string body,
        string? attachmentSetId = null, List<string>? ccEmailAddresses = null)
    {
        var response = await _amazonSupport.AddCommunicationToCaseAsync(
            new AddCommunicationToCaseRequest()
            {
                CaseId = caseId,
                CommunicationBody = body,
                AttachmentSetId = attachmentSetId,
                CcEmailAddresses = ccEmailAddresses
            });
        return response.Result;
    }

```

```

    /// <summary>
    /// Describe the communications for a case, optionally with a date filter.
    /// </summary>
    /// <param name="caseId">The ID of the support case.</param>
    /// <param name="afterTime">The optional start date for a filtered search.</
    param>
    /// <param name="beforeTime">The optional end date for a filtered search.</
    param>
    /// <returns>The list of communications for the case.</returns>
    public async Task<List<Communication>> DescribeCommunications(string caseId,
        DateTime? afterTime = null, DateTime? beforeTime = null)
    {
        var results = new List<Communication>();
        var paginateCommunications =
            _amazonSupport.Paginators.DescribeCommunications(
                new DescribeCommunicationsRequest()
                {
                    CaseId = caseId,

```

```

        AfterTime = afterTime?.ToString("s"),
        BeforeTime = beforeTime?.ToString("s")
    });
    // Get the entire list using the paginator.
    await foreach (var communications in paginateCommunications.Communications)
    {
        results.Add(communications);
    }
    return results;
}

/// <summary>
/// Get case details for a list of case ids, optionally with date filters.
/// </summary>
/// <param name="caseIds">The list of case IDs.</param>
/// <param name="displayId">Optional display ID.</param>
/// <param name="includeCommunication">True to include communication. Defaults
to true.</param>
/// <param name="includeResolvedCases">True to include resolved cases. Defaults
to false.</param>
/// <param name="afterTime">The optional start date for a filtered search.</
param>
/// <param name="beforeTime">The optional end date for a filtered search.</
param>
/// <param name="language">Optional language support for your case.
/// Currently Chinese ("zh"), English ("en"), Japanese ("ja") and Korean ("ko")
are supported.</param>
/// <returns>A list of CaseDetails.</returns>
public async Task<List<CaseDetails>> DescribeCases(List<string> caseIds, string?
displayId = null, bool includeCommunication = true,
    bool includeResolvedCases = false, DateTime? afterTime = null, DateTime?
beforeTime = null,
    string language = "en")
{
    var results = new List<CaseDetails>();
    var paginateCases = _amazonSupport.Paginators.DescribeCases(
        new DescribeCasesRequest()
        {
            CaseIdList = caseIds,
            DisplayId = displayId,
            IncludeCommunications = includeCommunication,
            IncludeResolvedCases = includeResolvedCases,

```

```
        AfterTime = afterTime?.ToString("s"),
        BeforeTime = beforeTime?.ToString("s"),
        Language = language
    });
    // Get the entire list using the paginator.
    await foreach (var cases in paginateCases.Cases)
    {
        results.Add(cases);
    }
    return results;
}

/// <summary>
/// Resolve a support case by caseId.
/// </summary>
/// <param name="caseId">Id for the support case.</param>
/// <returns>The final status of the case after resolving.</returns>
public async Task<string> ResolveCase(string caseId)
{
    var response = await _amazonSupport.ResolveCaseAsync(
        new ResolveCaseRequest()
        {
            CaseId = caseId
        });
    return response.FinalCaseStatus;
}

/// <summary>
/// Verify the support level for AWS Support API access.
/// </summary>
/// <returns>True if the subscription level supports API access.</returns>
public async Task<bool> VerifySubscription()
{
    try
    {
        var response = await _amazonSupport.DescribeServicesAsync(
            new DescribeServicesRequest()
            {
                Language = "en"
            });
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
}
```



```
    }  
    catch (Amazon.AWSSupport.AmazonAWSSupportException ex)  
    {  
        if (ex.ErrorCode == "SubscriptionRequiredException")  
        {  
            return false;  
        }  
        else throw;  
    }  
}  
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の以下のトピックを参照してください。

- [AddAttachmentsToSet](#)
- [AddCommunicationToCase](#)
- [CreateCase](#)
- [DescribeAttachment](#)
- [DescribeCases](#)
- [DescribeCommunications](#)
- [DescribeServices](#)
- [DescribeSeverityLevels](#)
- [ResolveCase](#)

アクション

AddAttachmentsToSet

次のコード例は、AddAttachmentsToSet を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Add an attachment to a set, or create a new attachment set if one does not
exist.
/// </summary>
/// <param name="data">The data for the attachment.</param>
/// <param name="fileName">The file name for the attachment.</param>
/// <param name="attachmentSetId">Optional setId for the attachment. Creates a
new attachment set if empty.</param>
/// <returns>The setId of the attachment.</returns>
public async Task<string> AddAttachmentToSet(MemoryStream data, string fileName,
string? attachmentSetId = null)
{
    var response = await _amazonSupport.AddAttachmentsToSetAsync(
        new AddAttachmentsToSetRequest
        {
            AttachmentSetId = attachmentSetId,
            Attachments = new List<Attachment>
            {
                new Attachment
                {
                    Data = data,
                    FileName = fileName
                }
            }
        });
    return response.AttachmentSetId;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[AddAttachmentsToSet](#)」を参照してください。

AddCommunicationToCase

次のコード例は、AddCommunicationToCase を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Add communication to a case, including optional attachment set ID and CC
email addresses.
/// </summary>
/// <param name="caseId">Id for the support case.</param>
/// <param name="body">Body text of the communication.</param>
/// <param name="attachmentSetId">Optional Id for an attachment set.</param>
/// <param name="ccEmailAddresses">Optional list of CC email addresses.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> AddCommunicationToCase(string caseId, string body,
    string? attachmentSetId = null, List<string>? ccEmailAddresses = null)
{
    var response = await _amazonSupport.AddCommunicationToCaseAsync(
        new AddCommunicationToCaseRequest()
        {
            CaseId = caseId,
            CommunicationBody = body,
            AttachmentSetId = attachmentSetId,
            CcEmailAddresses = ccEmailAddresses
        });
    return response.Result;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[AddCommunicationToCase](#)」を参照してください。

CreateCase

次のコード例は、CreateCase を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Create a new support case.
/// </summary>
/// <param name="serviceCode">Service code for the new case.</param>
/// <param name="categoryCode">Category for the new case.</param>
/// <param name="severityCode">Severity code for the new case.</param>
/// <param name="subject">Subject of the new case.</param>
/// <param name="body">Body text of the new case.</param>
/// <param name="language">Optional language support for your case.
/// Currently Chinese ("zh"), English ("en"), Japanese ("ja") and Korean ("ko")
are supported.</param>
/// <param name="attachmentSetId">Optional Id for an attachment set for the new
case.</param>
/// <param name="issueType">Optional issue type for the new case. Options are
"customer-service" or "technical".</param>
/// <returns>The caseId of the new support case.</returns>
public async Task<string> CreateCase(string serviceCode, string categoryCode,
    string severityCode, string subject,
    string body, string language = "en", string? attachmentSetId = null, string
issueType = "customer-service")
{
    var response = await _amazonSupport.CreateCaseAsync(
        new CreateCaseRequest()
        {
            ServiceCode = serviceCode,
            CategoryCode = categoryCode,
            SeverityCode = severityCode,
            Subject = subject,
            Language = language,
            AttachmentSetId = attachmentSetId,
            IssueType = issueType,
            CommunicationBody = body
        });
}
```

```
        return response.CaseId;
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[CreateCase](#)」を参照してください。

DescribeAttachment

次のコード例は、DescribeAttachment を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get description of a specific attachment.
/// </summary>
/// <param name="attachmentId">Id of the attachment, usually fetched by
describing the communications of a case.</param>
/// <returns>The attachment object.</returns>
public async Task<Attachment> DescribeAttachment(string attachmentId)
{
    var response = await _amazonSupport.DescribeAttachmentAsync(
        new DescribeAttachmentRequest()
        {
            AttachmentId = attachmentId
        });
    return response.Attachment;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeAttachment](#)」を参照してください。

DescribeCases

次のコード例は、DescribeCases を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get case details for a list of case ids, optionally with date filters.
/// </summary>
/// <param name="caseIds">The list of case IDs.</param>
/// <param name="displayId">Optional display ID.</param>
/// <param name="includeCommunication">True to include communication. Defaults
to true.</param>
/// <param name="includeResolvedCases">True to include resolved cases. Defaults
to false.</param>
/// <param name="afterTime">The optional start date for a filtered search.</
param>
/// <param name="beforeTime">The optional end date for a filtered search.</
param>
/// <param name="language">Optional language support for your case.
/// Currently Chinese ("zh"), English ("en"), Japanese ("ja") and Korean ("ko")
are supported.</param>
/// <returns>A list of CaseDetails.</returns>
public async Task<List<CaseDetails>> DescribeCases(List<string> caseIds, string?
displayId = null, bool includeCommunication = true,
    bool includeResolvedCases = false, DateTime? afterTime = null, DateTime?
beforeTime = null,
    string language = "en")
{
    var results = new List<CaseDetails>();
    var paginateCases = _amazonSupport.Paginators.DescribeCases(
        new DescribeCasesRequest()
        {
            CaseIdList = caseIds,
            DisplayId = displayId,
            IncludeCommunications = includeCommunication,
```

```

        IncludeResolvedCases = includeResolvedCases,
        AfterTime = afterTime?.ToString("s"),
        BeforeTime = beforeTime?.ToString("s"),
        Language = language
    });
    // Get the entire list using the paginator.
    await foreach (var cases in paginateCases.Cases)
    {
        results.Add(cases);
    }
    return results;
}

```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeCases](#)」を参照してください。

DescribeCommunications

次のコード例は、DescribeCommunications を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

/// <summary>
/// Describe the communications for a case, optionally with a date filter.
/// </summary>
/// <param name="caseId">The ID of the support case.</param>
/// <param name="afterTime">The optional start date for a filtered search.</
param>
/// <param name="beforeTime">The optional end date for a filtered search.</
param>
/// <returns>The list of communications for the case.</returns>

```

```
public async Task<List<Communication>> DescribeCommunications(string caseId,
DateTime? afterTime = null, DateTime? beforeTime = null)
{
    var results = new List<Communication>();
    var paginateCommunications =
    _amazonSupport.Paginators.DescribeCommunications(
        new DescribeCommunicationsRequest()
        {
            CaseId = caseId,
            AfterTime = afterTime?.ToString("s"),
            BeforeTime = beforeTime?.ToString("s")
        });
    // Get the entire list using the paginator.
    await foreach (var communications in paginateCommunications.Communications)
    {
        results.Add(communications);
    }
    return results;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeCommunications](#)」を参照してください。

DescribeServices

次のコード例は、DescribeServices を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get the descriptions of AWS services.
/// </summary>
```



```
/// <param name="name">Optional language for services.  
/// Currently Chinese ("zh"), English ("en"), Japanese ("ja") and Korean ("ko")  
are supported.</param>  
/// <returns>The list of AWS service descriptions.</returns>  
public async Task<List<Service>> DescribeServices(string language = "en")  
{  
    var response = await _amazonSupport.DescribeServicesAsync(  
        new DescribeServicesRequest()  
        {  
            Language = language  
        });  
    return response.Services;  
}
```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeServices](#)」を参照してください。

DescribeSeverityLevels

次のコード例は、DescribeSeverityLevels を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>  
/// Get the descriptions of support severity levels.  
/// </summary>  
/// <param name="name">Optional language for severity levels.  
/// Currently Chinese ("zh"), English ("en"), Japanese ("ja") and Korean ("ko")  
are supported.</param>  
/// <returns>The list of support severity levels.</returns>  
public async Task<List<SeverityLevel>> DescribeSeverityLevels(string language =  
"en")
```

```
{
    var response = await _amazonSupport.DescribeSeverityLevelsAsync(
        new DescribeSeverityLevelsRequest()
        {
            Language = language
        });
    return response.SeverityLevels;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeSeverityLevels](#)」を参照してください。

ResolveCase

次のコード例は、ResolveCase を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Resolve a support case by caseId.
/// </summary>
/// <param name="caseId">Id for the support case.</param>
/// <returns>The final status of the case after resolving.</returns>
public async Task<string> ResolveCase(string caseId)
{
    var response = await _amazonSupport.ResolveCaseAsync(
        new ResolveCaseRequest()
        {
            CaseId = caseId
        });
    return response.FinalCaseStatus;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ResolveCase](#)」を参照してください。

を使用した Amazon Textract の例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon Textract AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コンテキスト内でコードを設定および実行する方法の手順を確認できます。

トピック

- [シナリオ](#)

シナリオ

顧客からのフィードバックを分析するアプリケーションの作成

次のコード例は、顧客のコメントカードを分析し、元の言語から翻訳し、顧客の感情を判断して、翻訳されたテキストから音声ファイルを生成するアプリケーションの作成方法を示しています。

SDK for .NET

このサンプルアプリケーションは、顧客フィードバックカードを分析し、保存します。具体的には、ニューヨーク市の架空のホテルのニーズを満たします。このホテルでは、お客様からのフィードバックをさまざまな言語で書かれた実際のコメントカードの形で受け取ります。そのフィードバックは、ウェブクライアントを通じてアプリにアップロードされます。コメントカードの画像をアップロードされると、次の手順が発生します。

- テキストは Amazon Textract を使用して、画像から抽出されます。
- Amazon Comprehend は、抽出したテキストの感情とその言語を分析します。
- 抽出されたテキストは、Amazon Translate を使用して英語に翻訳されます。
- Amazon Polly は抽出したテキストから音声ファイルを合成します。

完全なアプリは AWS CDK を使用してデプロイすることができます。ソースコードとデプロイ手順については、[GitHub](#) のプロジェクトを参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Comprehend
- Lambda
- Amazon Polly
- Amazon Textract
- Amazon Translate

を使用した Amazon Transcribe の例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon Transcribe AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能を呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)

アクション

CreateVocabulary

次のコード例は、CreateVocabulary を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Create a custom vocabulary using a list of phrases. Custom vocabularies
/// improve transcription accuracy for one or more specific words.
/// </summary>
/// <param name="languageCode">The language code of the vocabulary.</param>
/// <param name="phrases">Phrases to use in the vocabulary.</param>
/// <param name="vocabularyName">Name for the vocabulary.</param>
/// <returns>The state of the custom vocabulary.</returns>
public async Task<VocabularyState> CreateCustomVocabulary(LanguageCode
languageCode,
    List<string> phrases, string vocabularyName)
{
    var response = await _amazonTranscribeService.CreateVocabularyAsync(
        new CreateVocabularyRequest
        {
            LanguageCode = languageCode,
            Phrases = phrases,
            VocabularyName = vocabularyName
        });
    return response.VocabularyState;
}
```

- APIの詳細については、[AWS SDK for .NET API リファレンス](#)の「CreateVocabulary」を参照してください。

DeleteMedicalTranscriptionJob

次のコード例は、DeleteMedicalTranscriptionJob を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete a medical transcription job. Also deletes the transcript associated
with the job.
/// </summary>
/// <param name="jobName">Name of the medical transcription job to delete.</
param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> DeleteMedicalTranscriptionJob(string jobName)
{
    var response = await
        _amazonTranscribeService.DeleteMedicalTranscriptionJobAsync(
            new DeleteMedicalTranscriptionJobRequest()
            {
                MedicalTranscriptionJobName = jobName
            });
    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```

- APIの詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeleteMedicalTranscriptionJob](#)」を参照してください。

DeleteTranscriptionJob

次のコード例は、DeleteTranscriptionJob を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete a transcription job. Also deletes the transcript associated with the
job.
/// </summary>
/// <param name="jobName">Name of the transcription job to delete.</param>
```

```
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> DeleteTranscriptionJob(string jobName)
{
    var response = await _amazonTranscribeService.DeleteTranscriptionJobAsync(
        new DeleteTranscriptionJobRequest()
        {
            TranscriptionJobName = jobName
        });
    return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[DeleteTranscriptionJob](#)」を参照してください。

DeleteVocabulary

次のコード例は、DeleteVocabulary を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Delete an existing custom vocabulary.
/// </summary>
/// <param name="vocabularyName">Name of the vocabulary to delete.</param>
/// <returns>True if successful.</returns>
public async Task<bool> DeleteCustomVocabulary(string vocabularyName)
{
    var response = await _amazonTranscribeService.DeleteVocabularyAsync(
        new DeleteVocabularyRequest
        {
            VocabularyName = vocabularyName
        });
}
```

```
        return response.HttpStatusCode == HttpStatusCode.OK;
    }
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DeleteVocabulary](#)」を参照してください。

GetTranscriptionJob

次のコード例は、GetTranscriptionJob を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get details about a transcription job.
/// </summary>
/// <param name="jobName">A unique name for the transcription job.</param>
/// <returns>A TranscriptionJob instance with information on the requested
job.</returns>
public async Task<TranscriptionJob> GetTranscriptionJob(string jobName)
{
    var response = await _amazonTranscribeService.GetTranscriptionJobAsync(
        new GetTranscriptionJobRequest()
        {
            TranscriptionJobName = jobName
        });
    return response.TranscriptionJob;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetTranscriptionJob](#)」を参照してください。

GetVocabulary

次のコード例は、GetVocabulary を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Get information about a custom vocabulary.
/// </summary>
/// <param name="vocabularyName">Name of the vocabulary.</param>
/// <returns>The state of the custom vocabulary.</returns>
public async Task<VocabularyState> GetCustomVocabulary(string vocabularyName)
{
    var response = await _amazonTranscribeService.GetVocabularyAsync(
        new GetVocabularyRequest()
        {
            VocabularyName = vocabularyName
        });
    return response.VocabularyState;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[GetVocabulary](#)」を参照してください。

ListMedicalTranscriptionJobs

次のコード例は、ListMedicalTranscriptionJobs を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List medical transcription jobs, optionally with a name filter.
/// </summary>
/// <param name="jobNameContains">Optional name filter for the medical
transcription jobs.</param>
/// <returns>A list of summaries about medical transcription jobs.</returns>
public async Task<List<MedicalTranscriptionJobSummary>>
ListMedicalTranscriptionJobs(
    string? jobNameContains = null)
{
    var response = await
_amazonTranscribeService.ListMedicalTranscriptionJobsAsync(
    new ListMedicalTranscriptionJobsRequest()
    {
        JobNameContains = jobNameContains
    });
    return response.MedicalTranscriptionJobSummaries;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListMedicalTranscriptionJobs](#)」を参照してください。

ListTranscriptionJobs

次のコード例は、ListTranscriptionJobs を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List transcription jobs, optionally with a name filter.
/// </summary>
/// <param name="jobNameContains">Optional name filter for the transcription
jobs.</param>
/// <returns>A list of transcription job summaries.</returns>
public async Task<List<TranscriptionJobSummary>> ListTranscriptionJobs(string?
jobNameContains = null)
{
    var response = await _amazonTranscribeService.ListTranscriptionJobsAsync(
        new ListTranscriptionJobsRequest()
        {
            JobNameContains = jobNameContains
        });
    return response.TranscriptionJobSummaries;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[ListTranscriptionJobs](#)」を参照してください。

ListVocabularies

次のコード例は、ListVocabularies を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// List custom vocabularies for the current account. Optionally specify a name
/// filter and a specific state to filter the vocabularies list.
/// </summary>
/// <param name="nameContains">Optional string the vocabulary name must
contain.</param>
/// <param name="stateEquals">Optional state of the vocabulary.</param>
/// <returns>List of information about the vocabularies.</returns>
public async Task<List<VocabularyInfo>> ListCustomVocabularies(string?
nameContains = null,
    VocabularyState? stateEquals = null)
{
    var response = await _amazonTranscribeService.ListVocabulariesAsync(
        new ListVocabulariesRequest()
        {
            NameContains = nameContains,
            StateEquals = stateEquals
        });
    return response.Vocabularies;
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListVocabularies](#)」を参照してください。

StartMedicalTranscriptionJob

次のコード例は、StartMedicalTranscriptionJob を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

 Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Start a medical transcription job for a media file. This method returns
/// as soon as the job is started.
/// </summary>
/// <param name="jobName">A unique name for the medical transcription job.</
param>
/// <param name="mediaFileUri">The URI of the media file, typically an Amazon S3
location.</param>
/// <param name="mediaFormat">The format of the media file.</param>
/// <param name="outputBucketName">Location for the output, typically an Amazon
S3 location.</param>
/// <param name="transcriptionType">Conversation or dictation transcription
type.</param>
/// <returns>A MedicalTransactionJob instance with information on the new job.</
returns>
public async Task<MedicalTranscriptionJob> StartMedicalTranscriptionJob(
    string jobName, string mediaFileUri,
    MediaFormat mediaFormat, string outputBucketName,
    Amazon.TranscribeService.Type transcriptionType)
{
    var response = await
        _amazonTranscribeService.StartMedicalTranscriptionJobAsync(
            new StartMedicalTranscriptionJobRequest()
            {
                MedicalTranscriptionJobName = jobName,
                Media = new Media()
                {
                    MediaFileUri = mediaFileUri
                },
                MediaFormat = mediaFormat,
                LanguageCode =
                    LanguageCode
```

```

        .EnUS, // The value must be en-US for medical
transcriptions.
        OutputBucketName = outputBucketName,
        OutputKey =
            jobName, // The value is a key used to fetch the output of the
transcription.
        Specialty = Specialty.PRIMARYCARE, // The value PRIMARYCARE must be
set.
        Type = transcriptionType
    });
    return response.MedicalTranscriptionJob;
}

```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[StartMedicalTranscriptionJob](#)」を参照してください。

StartTranscriptionJob

次のコード例は、StartTranscriptionJob を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```

/// <summary>
/// Start a transcription job for a media file. This method returns
/// as soon as the job is started.
/// </summary>
/// <param name="jobName">A unique name for the transcription job.</param>
/// <param name="mediaFileUri">The URI of the media file, typically an Amazon S3
location.</param>
/// <param name="mediaFormat">The format of the media file.</param>
/// <param name="languageCode">The language code of the media file, such as en-
US.</param>

```

```
/// <param name="vocabularyName">Optional name of a custom vocabulary.</param>
/// <returns>A TranscriptionJob instance with information on the new job.</
returns>
    public async Task<TranscriptionJob> StartTranscriptionJob(string jobName, string
mediaFileUri,
    MediaFormat mediaFormat, LanguageCode languageCode, string? vocabularyName)
    {
        var response = await _amazonTranscribeService.StartTranscriptionJobAsync(
            new StartTranscriptionJobRequest()
            {
                TranscriptionJobName = jobName,
                Media = new Media()
                {
                    MediaFileUri = mediaFileUri
                },
                MediaFormat = mediaFormat,
                LanguageCode = languageCode,
                Settings = vocabularyName != null ? new Settings()
                {
                    VocabularyName = vocabularyName
                } : null
            });
        return response.TranscriptionJob;
    }
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[StartTranscriptionJob](#)」を参照してください。

UpdateVocabulary

次のコード例は、UpdateVocabulary を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
/// <summary>
/// Update a custom vocabulary with new values. Update overwrites all existing
information.
/// </summary>
/// <param name="languageCode">The language code of the vocabulary.</param>
/// <param name="phrases">Phrases to use in the vocabulary.</param>
/// <param name="vocabularyName">Name for the vocabulary.</param>
/// <returns>The state of the custom vocabulary.</returns>
public async Task<VocabularyState> UpdateCustomVocabulary(LanguageCode
languageCode,
    List<string> phrases, string vocabularyName)
{
    var response = await _amazonTranscribeService.UpdateVocabularyAsync(
        new UpdateVocabularyRequest()
        {
            LanguageCode = languageCode,
            Phrases = phrases,
            VocabularyName = vocabularyName
        });
    return response.VocabularyState;
}
```

- API の詳細については、「AWS SDK for .NET API リファレンス」の「[UpdateVocabulary](#)」を参照してください。

を使用した Amazon Translate の例 SDK for .NET

次のコード例は、Amazon Translate AWS SDK for .NET で を使用してアクションを実行し、一般的なシナリオを実装する方法を示しています。

アクションはより大きなプログラムからのコードの抜粋であり、コンテキスト内で実行する必要があります。アクションは個々のサービス機能呼び出す方法を示していますが、コンテキスト内のアクションは、関連するシナリオで確認できます。

シナリオは、1 つのサービス内から、または他の AWS のサービスと組み合わせて複数の関数を呼び出し、特定のタスクを実行する方法を示すコード例です。

各例には完全なソースコードへのリンクが含まれており、コードの設定方法と実行方法に関する手順を確認できます。

トピック

- [アクション](#)
- [シナリオ](#)

アクション

DescribeTextTranslationJob

次のコード例は、DescribeTextTranslationJob を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Translate;
using Amazon.Translate.Model;

/// <summary>
/// The following example shows how to retrieve the details of
/// a text translation job using Amazon Translate.
/// </summary>
public class DescribeTextTranslation
{
    public static async Task Main()
    {
        var client = new AmazonTranslateClient();

        // The Job Id is generated when the text translation job is started
        // with a call to the StartTextTranslationJob method.
        var jobId = "1234567890abcdef01234567890abcde";
```

```

        var request = new DescribeTextTranslationJobRequest
        {
            JobId = jobId,
        };

        var jobProperties = await DescribeTranslationJobAsync(client, request);

        DisplayTranslationJobDetails(jobProperties);
    }

    /// <summary>
    /// Retrieve information about an Amazon Translate text translation job.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon Translate client object.</
param>
    /// <param name="request">The DescribeTextTranslationJobRequest object.</
param>
    /// <returns>The TextTranslationJobProperties object containing
    /// information about the text translation job..</returns>
    public static async Task<TextTranslationJobProperties>
DescribeTranslationJobAsync(
    AmazonTranslateClient client,
    DescribeTextTranslationJobRequest request)
    {
        var response = await client.DescribeTextTranslationJobAsync(request);
        if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
        {
            return response.TextTranslationJobProperties;
        }
        else
        {
            return null;
        }
    }

    /// <summary>
    /// Displays the properties of the text translation job.
    /// </summary>
    /// <param name="jobProperties">The properties of the text translation
    /// job returned by the call to DescribeTextTranslationJobAsync.</param>
    public static void DisplayTranslationJobDetails(TextTranslationJobProperties
jobProperties)
    {
        if (jobProperties is null)

```

```
        {
            Console.WriteLine("No text translation job properties found.");
            return;
        }

        // Display the details of the text translation job.
        Console.WriteLine($"{jobProperties.JobId}: {jobProperties.JobName}");
    }
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[DescribeTextTranslationJob](#)」を参照してください。

ListTextTranslationJobs

次のコード例は、ListTextTranslationJobs を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Translate;
using Amazon.Translate.Model;

/// <summary>
/// List Amazon Translate translation jobs, along with details about each job.
/// </summary>
public class ListTranslationJobs
{
    public static async Task Main()
    {
        var client = new AmazonTranslateClient();
```

```

        var filter = new TextTranslationJobFilter
        {
            JobStatus = "COMPLETED",
        };

        var request = new ListTextTranslationJobsRequest
        {
            MaxResults = 10,
            Filter = filter,
        };

        await ListJobsAsync(client, request);
    }

    /// <summary>
    /// List Amazon Translate text translation jobs.
    /// </summary>
    /// <param name="client">The initialized Amazon Translate client object.</
param>
    /// <param name="request">An Amazon Translate
    /// ListTextTranslationJobsRequest object detailing which text
    /// translation jobs are of interest.</param>
    public static async Task ListJobsAsync(
        AmazonTranslateClient client,
        ListTextTranslationJobsRequest request)
    {
        ListTextTranslationJobsResponse response;

        do
        {
            response = await client.ListTextTranslationJobsAsync(request);

            ShowTranslationJobDetails(response.TextTranslationJobPropertiesList);

            request.NextToken = response.NextToken;
        }
        while (response.NextToken is not null);
    }

    /// <summary>
    /// List existing translation job details.
    /// </summary>
    /// <param name="properties">A list of Amazon Translate text
    /// translation jobs.</param>

```

```
public static void
ShowTranslationJobDetails(List<TextTranslationJobProperties> properties)
{
    properties.ForEach(prop =>
    {
        Console.WriteLine($"{prop.JobId}: {prop.JobName}");
        Console.WriteLine($"Status: {prop.JobStatus}");
        Console.WriteLine($"Submitted time: {prop.SubmittedTime}");
    });
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[ListTextTranslationJobs](#)」を参照してください。

StartTextTranslationJob

次のコード例は、StartTextTranslationJob を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.Collections.Generic;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Translate;
using Amazon.Translate.Model;

/// <summary>
/// This example shows how to use Amazon Translate to process the files in
/// an Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) bucket. The translated results
/// will also be stored in an Amazon S3 bucket.
/// </summary>
public class BatchTranslate
```

```
{
    public static async Task Main()
    {
        var contentType = "text/plain";

        // Set this variable to an S3 bucket location with a folder."
        // Input files must be in a folder and not at the bucket root."
        var s3InputUri = "s3://amzn-s3-demo-bucket1/FOLDER/";
        var s3OutputUri = "s3://amzn-s3-demo-bucket2/";

        // This role must have permissions to read the source bucket and to read
and
        // write to the destination bucket where the translated text will be
        stored.
        var dataAccessRoleArn = "arn:aws:iam::0123456789ab:role/
S3TranslateRole";

        var client = new AmazonTranslateClient();

        var inputConfig = new InputDataConfig
        {
            ContentType = contentType,
            S3Uri = s3InputUri,
        };

        var outputConfig = new OutputDataConfig
        {
            S3Uri = s3OutputUri,
        };

        var request = new StartTextTranslationJobRequest
        {
            JobName = "ExampleTranslationJob",
            DataAccessRoleArn = dataAccessRoleArn,
            InputDataConfig = inputConfig,
            OutputDataConfig = outputConfig,
            SourceLanguageCode = "en",
            TargetLanguageCodes = new List<string> { "fr" },
        };

        var response = await StartTextTranslationAsync(client, request);

        if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
        {
```

```

        Console.WriteLine($"{response.JobId}: {response.JobStatus}");
    }
}

/// <summary>
/// Start the Amazon Translate text translation job.
/// </summary>
/// <param name="client">The initialized AmazonTranslateClient object.</
param>
/// <param name="request">The request object that includes details such
/// as source and destination bucket names and the IAM Role that will
/// be used to access the buckets.</param>
/// <returns>The StartTextTranslationResponse object that includes the
/// details of the request response.</returns>
public static async Task<StartTextTranslationJobResponse>
StartTextTranslationAsync(AmazonTranslateClient client,
StartTextTranslationJobRequest request)
{
    var response = await client.StartTextTranslationJobAsync(request);
    return response;
}
}

```

- APIの詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[StartTextTranslationJob](#)」を参照してください。

StopTextTranslationJob

次のコード例は、StopTextTranslationJob を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
```

```

using System.Threading.Tasks;
using Amazon.Translate;
using Amazon.Translate.Model;

/// <summary>
/// Shows how to stop a running Amazon Translation Service text translation
/// job.
/// </summary>
public class StopTextTranslationJob
{
    public static async Task Main()
    {
        var client = new AmazonTranslateClient();
        var jobId = "1234567890abcdef01234567890abcde";

        var request = new StopTextTranslationJobRequest
        {
            JobId = jobId,
        };

        await StopTranslationJobAsync(client, request);
    }

    /// <summary>
    /// Sends a request to stop a text translation job.
    /// </summary>
    /// <param name="client">Initialized AmazonTrnslateClient object.</param>
    /// <param name="request">The request object to be passed to the
    /// StopTextJobAsync method.</param>
    public static async Task StopTranslationJobAsync(
        AmazonTranslateClient client,
        StopTextTranslationJobRequest request)
    {
        var response = await client.StopTextTranslationJobAsync(request);
        if (response.HttpStatusCode == System.Net.HttpStatusCode.OK)
        {
            Console.WriteLine($"{response.JobId} as status:
{response.JobStatus}");
        }
    }
}

```


- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[StopTextTranslationJob](#)」を参照してください。

TranslateText

次のコード例は、TranslateText を使用する方法を示しています。

SDK for .NET

Note

GitHub には、その他のリソースもあります。用例一覧を検索し、[AWS コード例リポジトリ](#)での設定と実行の方法を確認してください。

```
using System;
using System.IO;
using System.Threading.Tasks;
using Amazon.S3;
using Amazon.S3.Transfer;
using Amazon.Translate;
using Amazon.Translate.Model;

/// <summary>
/// Take text from a file stored a Amazon Simple Storage Service (Amazon S3)
/// object and translate it using the Amazon Transfer Service.
/// </summary>
public class TranslateText
{
    public static async Task Main()
    {
        // If the region you want to use is different from the region
        // defined for the default user, supply it as a parameter to the
        // Amazon Translate client object constructor.
        var client = new AmazonTranslateClient();

        // Set the source language to "auto" to request Amazon Translate to
        // automatically detect te language of the source text.

        // You can get a list of the languages supposed by Amazon Translate
        // in the Amazon Translate Developer's Guide here:
        // https://docs.aws.amazon.com/translate/latest/dg/what-is.html
```

```

        string srcLang = "en"; // English.
        string destLang = "fr"; // French.

        // The Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) bucket where the
        // source text file is stored.
        string srcBucket = "amzn-s3-demo-bucket";
        string srcTextFile = "source.txt";

        var srcText = await GetSourceTextAsync(srcBucket, srcTextFile);
        var destText = await TranslatingTextAsync(client, srcLang, destLang,
srcText);

        ShowText(srcText, destText);
    }

    /// <summary>
    /// Use the Amazon S3 TransferUtility to retrieve the text to translate
    /// from an object in an S3 bucket.
    /// </summary>
    /// <param name="srcBucket">The name of the S3 bucket where the
    /// text is stored.
    /// </param>
    /// <param name="srcTextFile">The key of the S3 object that
    /// contains the text to translate.</param>
    /// <returns>A string representing the source text.</returns>
    public static async Task<string> GetSourceTextAsync(string srcBucket, string
srcTextFile)
    {
        string srcText = string.Empty;

        var s3Client = new AmazonS3Client();
        TransferUtility utility = new TransferUtility(s3Client);

        using var stream = await utility.OpenStreamAsync(srcBucket,
srcTextFile);

        StreamReader file = new System.IO.StreamReader(stream);

        srcText = file.ReadToEnd();
        return srcText;
    }

    /// <summary>
    /// Use the Amazon Translate Service to translate the document from the

```

```
/// source language to the specified destination language.
/// </summary>
/// <param name="client">The Amazon Translate Service client used to
/// perform the translation.</param>
/// <param name="srcLang">The language of the source text.</param>
/// <param name="destLang">The destination language for the translated
/// text.</param>
/// <param name="text">A string representing the text to ranslate.</param>
/// <returns>The text that has been translated to the destination
/// language.</returns>
public static async Task<string> TranslatingTextAsync(AmazonTranslateClient
client, string srcLang, string destLang, string text)
{
    var request = new TranslateTextRequest
    {
        SourceLanguageCode = srcLang,
        TargetLanguageCode = destLang,
        Text = text,
    };

    var response = await client.TranslateTextAsync(request);

    return response.TranslatedText;
}

/// <summary>
/// Show the original text followed by the translated text.
/// </summary>
/// <param name="srcText">The original text to be translated.</param>
/// <param name="destText">The translated text.</param>
public static void ShowText(string srcText, string destText)
{
    Console.WriteLine("Source text:");
    Console.WriteLine(srcText);
    Console.WriteLine();
    Console.WriteLine("Translated text:");
    Console.WriteLine(destText);
}
}
```

- API の詳細については、AWS SDK for .NET API リファレンスの「[TranslateText](#)」を参照してください。

シナリオ

Amazon SNS アプリケーションの構築

次のコード例は、サブスクリプションとパブリッシュ機能を持ち、メッセージを翻訳するアプリケーションを作成する方法を示しています。

SDK for .NET

Amazon Simple Notification Service .NET API を使用して、サブスクリプションおよびパブリッシュ機能を持つウェブアプリケーションを作成する方法を説明します。さらに、このサンプルアプリケーションではメッセージを翻訳します。

完全なソースコードとセットアップおよび実行の手順については、[GitHub](#) で完全な例を参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon SNS
- Amazon Translate

顧客からのフィードバックを分析するアプリケーションの作成

次のコード例は、顧客のコメントカードを分析し、元の言語から翻訳し、顧客の感情を判断して、翻訳されたテキストから音声ファイルを生成するアプリケーションの作成方法を示しています。

SDK for .NET

このサンプルアプリケーションは、顧客フィードバックカードを分析し、保存します。具体的には、ニューヨーク市の架空のホテルのニーズを満たします。このホテルでは、お客様からのフィードバックをさまざまな言語で書かれた実際のコメントカードの形で受け取ります。そのフィードバックは、ウェブクライアントを通じてアプリにアップロードされます。コメントカードの画像をアップロードされると、次の手順が発生します。

- テキストは Amazon Textract を使用して、画像から抽出されます。
- Amazon Comprehend は、抽出したテキストの感情とその言語を分析します。
- 抽出されたテキストは、Amazon Translate を使用して英語に翻訳されます。

- Amazon Polly は抽出したテキストから音声ファイルを合成します。

完全なアプリは AWS CDK を使用してデプロイすることができます。ソースコードとデプロイ手順については、[GitHub](#) のプロジェクトを参照してください。

この例で使用されているサービス

- Amazon Comprehend
- Lambda
- Amazon Polly
- Amazon Textract
- Amazon Translate

この AWS 製品またはサービスのセキュリティ

クラウドセキュリティは Amazon Web Services (AWS) の最優先事項です。AWS のお客様は、セキュリティを非常に重視する組織の要件を満たせるように構築されたデータセンターとネットワークアーキテクチャーから利点を得ます。セキュリティは、AWS とお客様の間の責任共有です。[責任共有モデル](#)では、これをクラウドのセキュリティおよびクラウド内のセキュリティとして説明しています。

クラウドのセキュリティ – AWS クラウドで提供されるすべてのサービスを実行するインフラストラクチャ AWS を保護し、安全に使用できるサービスを提供します。における当社のセキュリティ責任は最優先事項であり AWS、当社のセキュリティの有効性は、[AWS コンプライアンスプログラムの一環としてサードパーティーの監査者によって定期的にテストおよび検証されます](#)。

クラウド内のセキュリティ – お客様の責任は、使用している AWS サービス、データの機密性、組織の要件、適用される法律や規制などのその他の要因によって決まります。

この AWS 製品またはサービスは、サポートする特定の Amazon Web Services (AWS) サービスを通じて[責任共有モデル](#)に従います。AWS サービスセキュリティ情報については、[AWS 「サービスセキュリティドキュメント」 ページ](#)と[AWS 、コンプライアンスプログラムによる AWS コンプライアンスの取り組みの対象となるサービス](#)を参照してください。

トピック

- [この AWS 製品またはサービスのデータ保護](#)
- [Identity and Access Management](#)
- [この AWS 製品またはサービスのコンプライアンス検証](#)
- [この AWS 製品またはサービスの耐障害性](#)
- [この AWS 製品またはサービスのインフラストラクチャセキュリティ](#)
- [で最小 TLS バージョンを適用する AWS SDK for .NET](#)
- [Amazon S3 暗号化クライアントの移行 \(V1 から V2\)](#)
- [Amazon S3 暗号化クライアントの移行 \(V2 から V4\)](#)

この AWS 製品またはサービスのデータ保護

責任 AWS [共有モデル](#)、この AWS 製品またはサービスのデータ保護に適用されます。このモデルで説明されているように、AWS はすべての を実行するグローバルインフラストラクチャを保護する

責任があります AWS クラウド。ユーザーは、このインフラストラクチャでホストされるコンテンツに対する管理を維持する責任があります。また、使用する「AWS のサービス」のセキュリティ設定と管理タスクもユーザーの責任となります。データプライバシーの詳細については、[データプライバシーに関するよくある質問](#)を参照してください。欧州でのデータ保護の詳細については、AWS セキュリティブログに投稿された「[AWS 責任共有モデルおよび GDPR](#)」のブログ記事を参照してください。

データ保護の目的で、認証情報を保護し AWS アカウント、AWS IAM Identity Center または AWS Identity and Access Management (IAM) を使用して個々のユーザーを設定することをお勧めします。この方法により、それぞれのジョブを遂行するために必要な権限のみが各ユーザーに付与されます。また、次の方法でデータを保護することもお勧めします:

- 各アカウントで多要素認証 (MFA) を使用します。
- SSL/TLS を使用して AWS リソースと通信します。TLS 1.2 は必須ですが、TLS 1.3 を推奨します。
- で API とユーザーアクティビティのログ記録を設定します AWS CloudTrail。CloudTrail 証跡を使用して AWS アクティビティをキャプチャする方法については、「AWS CloudTrail ユーザーガイド」の[CloudTrail 証跡の使用](#)を参照してください。
- AWS 暗号化ソリューションと、内のすべてのデフォルトのセキュリティコントロールを使用します AWS のサービス。
- Amazon Macie などの高度な管理されたセキュリティサービスを使用します。これらは、Amazon S3 に保存されている機密データの検出と保護を支援します。
- コマンドラインインターフェイスまたは API AWS を介して にアクセスするときに FIPS 140-3 検証済み暗号化モジュールが必要な場合は、FIPS エンドポイントを使用します。利用可能な FIPS エンドポイントの詳細については、「[連邦情報処理規格 \(FIPS\) 140-3](#)」を参照してください。

お客様の E メールアドレスなどの極秘または機密情報を、タグ、または [名前] フィールドなどの自由形式のテキストフィールドに含めないことを強くお勧めします。これは、コンソール、API、AWS CLI または SDK を使用して、この AWS 製品またはサービスまたは他の AWS のサービスを使用する場合も同様です。AWS SDKs タグ、または名前に使用される自由記述のテキストフィールドに入力したデータは、請求または診断ログに使用される場合があります。外部サーバーに URL を提供する場合、そのサーバーへのリクエストを検証できるように、認証情報を URL に含めないことを強くお勧めします。

Identity and Access Management

AWS Identity and Access Management (IAM) は、管理者が AWS リソースへのアクセスを安全に制御 AWS のサービス するのに役立つ です。IAM 管理者は、誰を認証 (サインイン) し、誰に AWS リソースの使用を許可する (アクセス許可を付与する) かを制御します。IAM は、追加料金なしで使用できる AWS のサービス です。

トピック

- [オーディエンス](#)
- [アイデンティティを使用した認証](#)
- [ポリシーを使用したアクセスの管理](#)
- [IAM AWS のサービス の操作方法](#)
- [AWS ID とアクセスのトラブルシューティング](#)

オーディエンス

AWS Identity and Access Management (IAM) の使用方法は、 で行う作業によって異なります AWS。

サービスユーザー – AWS のサービス を使用してジョブを実行する場合、管理者から必要な認証情報とアクセス許可が提供されます。さらに多くの AWS 機能を使用して作業を行う場合は、追加のアクセス許可が必要になる場合があります。アクセスの管理方法を理解すると、管理者に適切なアクセス許可をリクエストするのに役に立ちます。の機能にアクセスできない場合は AWS、AWS のサービス [AWS ID とアクセスのトラブルシューティング](#)「」または使用している のユーザーガイドを参照してください。

サービス管理者 – 社内の AWS リソースを担当している場合は、通常、 へのフルアクセスがあります AWS。サービスユーザーがどの AWS 機能やリソースにアクセスするかを決めるのは管理者の仕事です。その後、IAM 管理者にリクエストを送信して、サービスユーザーの権限を変更する必要があります。このページの情報を点検して、IAM の基本概念を理解してください。会社で IAM を使用する方法の詳細については AWS、使用している AWS のサービス のユーザーガイドを参照してください。

IAM 管理者 - 管理者は、AWSへのアクセスを管理するポリシーの書き込み方法の詳細について確認する場合があります。IAM で使用できる AWS アイデンティティベースのポリシーの例を表示するには、AWS のサービス 使用している のユーザーガイドを参照してください。

アイデンティティを使用した認証

認証は、ID 認証情報 AWS を使用して にサインインする方法です。、IAM ユーザー AWS アカウントのルートユーザー、または IAM ロールを引き受けることで認証される必要があります。

AWS IAM Identity Center (IAM Identity Center)、シングルサインオン認証、Google/Facebook 認証情報などの ID ソースからの認証情報を使用して、フェデレーテッド ID としてサインインできます。サインインの詳細については、「AWS サインイン ユーザーガイド」の「[AWS アカウントにサインインする方法](#)」を参照してください。

プログラムによるアクセスの場合、 は SDK と CLI AWS を提供してリクエストを暗号化して署名します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[API リクエストに対するAWS 署名バージョン 4](#)」を参照してください。

AWS アカウント ルートユーザー

を作成するときは AWS アカウント、すべての AWS のサービス および リソースへの完全なアクセス権を持つ AWS アカウント ルートユーザーと呼ばれる 1 つのサインインアイデンティティから始めます。日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザー認証情報を必要とするタスクについては、「IAM ユーザーガイド」の「[ルートユーザー認証情報が必要なタスク](#)」を参照してください。

フェデレーテッドアイデンティティ

ベストプラクティスとして、人間のユーザーが一時的な認証情報 AWS のサービス を使用して にアクセスするには、ID プロバイダーとのフェデレーションを使用する必要があります。

フェデレーテッド ID は、エンタープライズディレクトリ、ウェブ ID プロバイダー、または ID Directory Service ソースの認証情報 AWS のサービス を使用して にアクセスするユーザーです。フェデレーテッドアイデンティティは、一時的な認証情報を提供するロールを引き受けます。

アクセスを一元管理する場合は、AWS IAM Identity Centerをお勧めします。詳細については、「AWS IAM Identity Center ユーザーガイド」の「[IAM アイデンティティセンターとは](#)」を参照してください。

IAM ユーザーとグループ

[IAM ユーザー](#)は、特定の個人やアプリケーションに対する特定のアクセス許可を持つアイデンティティです。長期認証情報を持つ IAM ユーザーの代わりに一時的な認証情報を使用することをお勧め

します。詳細については、IAM ユーザーガイドの「[ID プロバイダーとのフェデレーションを使用してにアクセスする必要がある AWS](#)」を参照してください。

[IAM グループ](#)は、IAM ユーザーの集合を指定し、大量のユーザーに対するアクセス許可の管理を容易にします。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM ユーザーに関するユースケース](#)」を参照してください。

IAM ロール

[IAM ロール](#)は、特定のアクセス許可を持つアイデンティティであり、一時的な認証情報を提供します。ユーザーから [IAM ロール \(コンソール\)](#) に切り替えるか、または [API オペレーション](#) を呼び出すことで、[ロール](#) を引き受けることができます。AWS CLI AWS 詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[ロールを引き受けるための各種方法](#)」を参照してください。

IAM ロールは、フェデレーションユーザーアクセス、一時的な IAM ユーザーのアクセス許可、クロスアカウントアクセス、クロスサービスアクセス、および Amazon EC2 で実行するアプリケーションに役立ちます。詳細については、IAM ユーザーガイドの [IAM でのクロスアカウントリソースアクセス](#) を参照してください。

ポリシーを使用したアクセスの管理

でアクセスを制御する AWS には、ポリシーを作成し、ID AWS またはリソースにアタッチします。ポリシーは、アイデンティティまたはリソースに関連付けられている場合のアクセス許可を定義します。は、プリンシパルがリクエストを行うときにこれらのポリシー AWS を評価します。ほとんどのポリシーは JSON ドキュメント AWS としてに保存されます。JSON ポリシードキュメントの詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[JSON ポリシー概要](#)」を参照してください。

管理者は、ポリシーを使用して、どのプリンシパルがどのリソースに対して、どのような条件でアクションを実行できるかを定義することで、誰が何にアクセスできるかを指定します。

デフォルトでは、ユーザーやロールにアクセス許可はありません。IAM 管理者は IAM ポリシーを作成してロールに追加し、このロールをユーザーが引き受けられるようにします。IAM ポリシーは、オペレーションの実行方法を問わず、アクセス許可を定義します。

アイデンティティベースのポリシー

アイデンティティベースのポリシーは、アイデンティティ (ユーザー、グループ、またはロール) にアタッチできる JSON アクセス許可ポリシードキュメントです。これらのポリシーは、アイデンティティがどのリソースに対してどのような条件下でどのようなアクションを実行できるかを制御し

ます。アイデンティティベースポリシーの作成方法については、IAM ユーザーガイドの [カスタマー管理ポリシーでカスタム IAM アクセス許可を定義する](#) を参照してください。

アイデンティティベースのポリシーは、インラインポリシー (単一の ID に直接埋め込む) または管理ポリシー (複数の ID にアタッチされたスタンドアロンポリシー) にすることができます。管理ポリシーとインラインポリシーのいずれかを選択する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「[管理ポリシーとインラインポリシーのいずれかを選択する](#)」を参照してください。

リソースベースのポリシー

リソースベースのポリシーは、リソースに添付する JSON ポリシードキュメントです。例としては、IAM ロール信頼ポリシーや Amazon S3 バケットポリシーなどがあります。リソースベースのポリシーをサポートするサービスでは、サービス管理者はポリシーを使用して特定のリソースへのアクセスを制御できます。リソースベースのポリシーでは、[プリンシパルを指定する](#) 必要があります。

リソースベースのポリシーは、そのサービス内にあるインラインポリシーです。リソースベースのポリシーでは、IAM の AWS マネージドポリシーを使用できません。

アクセスコントロールリスト (ACL)

アクセスコントロールリスト (ACL) は、どのプリンシパル (アカウントメンバー、ユーザー、またはロール) がリソースにアクセスするためのアクセス許可を持つかを制御します。ACL はリソースベースのポリシーに似ていますが、JSON ポリシードキュメント形式は使用しません。

Amazon S3、および Amazon VPC は AWS WAF、ACLs。ACL の詳細については、Amazon Simple Storage Service デベロッパーガイドの [アクセスコントロールリスト \(ACL\) の概要](#) を参照してください。

その他のポリシータイプ

AWS は、より一般的なポリシータイプによって付与されるアクセス許可の上限を設定できる追加のポリシータイプをサポートしています。

- アクセス許可の境界 – アイデンティティベースのポリシーで IAM エンティティに付与することのできるアクセス許可の数の上限を設定します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM エンティティのアクセス許可境界](#)」を参照してください。
- サービスコントロールポリシー (SCP) - AWS Organizations内の組織または組織単位の最大のアクセス許可を指定します。詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の「[サービスコントロールポリシー](#)」を参照してください。

- リソースコントロールポリシー (RCP) – は、アカウント内のリソースで利用できる最大数のアクセス許可を定義します。詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の「[リソースコントロールポリシー \(RCP\)](#)」を参照してください。
- セッションポリシー – ロールまたはフェデレーションユーザーの一時セッションを作成する際にパラメータとして渡される高度なポリシーです。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[セッションポリシー](#)」を参照してください。

複数のポリシータイプ

1 つのリクエストに複数のタイプのポリシーが適用されると、結果として作成されるアクセス許可を理解するのがさらに難しくなります。が複数のポリシータイプが関与する場合にリクエストを許可するかどうか AWS を決定する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「[ポリシー評価ロジック](#)」を参照してください。

IAM AWS のサービスの操作方法

ほとんどの IAM 機能と AWS のサービスの連携方法の概要については、「IAM ユーザーガイド」の[AWS「IAM と連携するのサービス」](#)を参照してください。

IAM AWS のサービスで特定の を使用する方法については、関連するサービスのユーザーガイドのセキュリティセクションを参照してください。

AWS ID とアクセスのトラブルシューティング

次の情報は、 および IAM の使用時に発生する可能性がある一般的な問題の診断 AWS と修復に役立ちます。

トピック

- [でアクションを実行する権限がありません AWS](#)
- [iam:PassRole を実行する権限がありません](#)
- [自分の 以外のユーザーに自分の AWS リソース AWS アカウント へのアクセスを許可したい](#)

でアクションを実行する権限がありません AWS

アクションを実行する権限がないというエラーが表示された場合は、そのアクションを実行できるようにポリシーを更新する必要があります。

次のエラー例は、mateojackson IAM ユーザーがコンソールを使用して、ある *my-example-widget* リソースに関する詳細情報を表示しようとしたことを想定して、その際に必要な *aws:GetWidget* アクセス許可を持っていない場合に発生するものです。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/mateojackson is not authorized to perform:
aws:GetWidget on resource: my-example-widget
```

この場合、*aws:GetWidget* アクションを使用して *my-example-widget* リソースへのアクセスを許可するように、mateojackson ユーザーのポリシーを更新する必要があります。

サポートが必要な場合は、AWS 管理者にお問い合わせください。サインイン認証情報を提供した担当者が管理者です。

iam:PassRole を実行する権限がありません

iam:PassRole アクションを実行する権限がないというエラーが表示された場合は、ポリシーを更新して AWS にロールを渡すことができるようにする必要があります。

一部の AWS のサービスでは、新しいサービスロールまたはサービスにリンクされたロールを作成する代わりに、既存のロールをそのサービスに渡すことができます。そのためには、サービスにロールを渡す権限が必要です。

以下の例のエラーは、marymajor という IAM ユーザーがコンソールを使用して AWS でアクションを実行しようとする場合に発生します。ただし、このアクションをサービスが実行するには、サービスロールから付与された権限が必要です。Mary には、ロールをサービスに渡すアクセス許可がありません。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/marymajor is not authorized to perform:
iam:PassRole
```

この場合、Mary のポリシーを更新してメアリーに *iam:PassRole* アクションの実行を許可する必要があります。

サポートが必要な場合は、AWS 管理者にお問い合わせください。サインイン資格情報を提供した担当者が管理者です。

自分の 以外のユーザーに自分の AWS リソース AWS アカウント へのアクセスを許可したい

他のアカウントのユーザーや組織外の人が、リソースにアクセスするために使用できるロールを作成できます。ロールの引き受けを委託するユーザーを指定できます。リソースベースのポリシーまた

はアクセスコントロールリスト (ACL) をサポートするサービスの場合、それらのポリシーを使用して、リソースへのアクセスを付与できます。

詳細については、以下を参照してください:

- がこれらの機能 AWS をサポートしているかどうかを確認するには、「」を参照してください [IAM AWS のサービスの操作方法](#)。
- 所有 AWS アカウント している のリソースへのアクセスを提供する方法については、「[IAM ユーザーガイド](#)」の「[所有 AWS アカウント している別の の IAM ユーザーへのアクセスを提供する](#)」を参照してください。
- リソースへのアクセスをサードパーティーに提供する方法については AWS アカウント、IAM ユーザーガイドの「[サードパーティー AWS アカウント が所有する へのアクセスを提供する](#)」を参照してください。
- ID フェデレーションを介してアクセスを提供する方法については、IAM ユーザーガイド の [外部で認証されたユーザー \(ID フェデレーション\) へのアクセスの許可](#) を参照してください。
- クロスアカウントアクセスにおけるロールとリソースベースのポリシーの使用法の違いについては、IAM ユーザーガイド の [IAM でのクロスアカウントのリソースへのアクセス](#) を参照してください。

この AWS 製品またはサービスのコンプライアンス検証

AWS のサービス が特定のコンプライアンスプログラムの範囲内にあるかどうかを確認するには、「コンプライアンス [AWS のサービス プログラムによるスコープ](#)」の「コンプライアンス」を参照して、関心のあるコンプライアンスプログラムを選択します。一般的な情報については、[AWS 「コンプライアンスプログラム」](#)を参照してください。

を使用して、サードパーティーの監査レポートをダウンロードできます AWS Artifact。詳細については、「[Downloading Reports in AWS Artifact](#)」を参照してください。

を使用する際のお客様のコンプライアンス責任 AWS のサービス は、お客様のデータの機密性、貴社のコンプライアンス目的、適用される法律および規制によって決まります。を使用する際のコンプライアンス責任の詳細については AWS のサービス、[AWS 「セキュリティドキュメント」](#)を参照してください。

この AWS 製品またはサービスは、サポートする特定の Amazon Web Services (AWS) サービスを通じて [責任共有モデル](#)に従います。AWS サービスセキュリティ情報については、[AWS 「サービスセキュリティドキュメント」 ページ](#)と [AWS 、コンプライアンスプログラムによる AWS コンプライアンスの取り組みの対象となるサービス](#)を参照してください。

この AWS 製品またはサービスの耐障害性

AWS グローバルインフラストラクチャは、AWS リージョン およびアベイラビリティゾーンを中心に構築されています。

AWS リージョン は、低レイテンシー、高スループット、および高度に冗長なネットワークで接続された複数の物理的に分離されたアベイラビリティゾーンを提供します。

アベイラビリティゾーンでは、ゾーン間で中断することなく自動的にフェールオーバーするアプリケーションとデータベースを設計および運用することができます。アベイラビリティゾーンは、従来の単一または複数のデータセンターインフラストラクチャよりも可用性、フォールトトレランス、および拡張性が優れています。

AWS リージョンとアベイラビリティゾーンの詳細については、[AWS 「グローバルインフラストラクチャ」](#) を参照してください。

この AWS 製品またはサービスは、サポートする特定の Amazon Web Services (AWS) サービスを通じて[責任共有モデル](#)に従います。AWS サービスセキュリティ情報については、[AWS 「サービスセキュリティドキュメント」](#) ページと[AWS、コンプライアンスプログラムによる AWS コンプライアンスの取り組みの対象となるサービス](#)を参照してください。

この AWS 製品またはサービスのインフラストラクチャセキュリティ

この AWS 製品またはサービスはマネージドサービスを使用するため、グローバルネットワークセキュリティによって AWS 保護されています。AWS セキュリティサービスと ガインフラストラクチャ AWS を保護する方法については、[AWS 「クラウドセキュリティ」](#) を参照してください。インフラストラクチャセキュリティのベストプラクティスを使用して AWS 環境を設計するには、「Security Pillar AWS Well-Architected Framework」の「[Infrastructure Protection](#)」を参照してください。

AWS 公開された API コールを使用して、ネットワーク経由でこの AWS 製品またはサービスにアクセスします。クライアントは次をサポートする必要があります。

- Transport Layer Security (TLS)。TLS 1.2 が必須で、TLS 1.3 をお勧めします。
- DHE (楕円ディフィー・ヘルマン鍵共有) や ECDHE (楕円曲線ディフィー・ヘルマン鍵共有) などの完全前方秘匿性 (PFS) による暗号スイート。これらのモードは Java 7 以降など、ほとんどの最新システムでサポートされています。

また、リクエストにはアクセスキー ID と、IAM プリンシパルに関連付けられているシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。または、[AWS Security Token Service](#) (AWS STS) を使用して、一時的なセキュリティ認証情報を生成し、リクエストに署名することもできます。

この AWS 製品またはサービスは、サポートする特定の Amazon Web Services (AWS) サービスを通じて[責任共有モデル](#)に従います。AWS サービスセキュリティ情報については、[AWS 「サービスセキュリティドキュメント」 ページ](#)と[AWS、コンプライアンスプログラムによる AWS コンプライアンスの取り組みの対象となるサービス](#)を参照してください。

で最小 TLS バージョンを適用する AWS SDK for .NET

AWS サービスと通信する際のセキュリティを強化するには、TLS 1.2 以降を使用する AWS SDK for .NET ように を設定する必要があります。

AWS SDK for .NET は、基盤となる .NET ランタイムを使用して、使用するセキュリティプロトコルを決定します。現行バージョンの .NET は、デフォルトでオペレーティングシステムがサポートする最新の設定済みプロトコルを使用します。この SDK の動作はアプリケーションで上書きできますが、上書きは推奨されません。

.NET Core

.NET Core は、デフォルトでオペレーティングシステムがサポートする最新の設定済みプロトコルを使用します。AWS SDK for .NET は、この動作を上書きする機構を提供していません。

バージョン 2.1 より前の .NET Core を使用している場合は、.NET Core バージョンをアップグレードすることを強くお勧めします。

オペレーティングシステムごとの固有の情報については、以下を参照してください。

Windows

Windows の最新のディストリビューションでは、TLS 1.2 のサポートが [デフォルトで有効](#)になっています。Windows 7 SP1 または Windows Server 2008 R2 SP1 上で実行している場合は、レジストリで TLS 1.2 のサポートが有効になっていることを確認する必要があります。詳細については、<https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows-server/security/tls/tls-registry-settings#tls-12> を参照してください。以前のディストリビューションを実行している場合は、オペレーティングシステムをアップグレードする必要があります。WindowsのTLS 1.3サポートについては、必要最小限のクライアントまたはサーバーのバージョンについて、最新のMicrosoftドキュメントを確認してください。

macOS

.NET Core 2.1 以降を実行している場合、TLS 1.2 はデフォルトで有効になっています。TLS 1.2 は [OS X Mavericks v10.9 以降](#) でサポートされています。.NET Core バージョン 2.1 以降では、より新しいバージョンの macOS が必要です。詳細については、<https://learn.microsoft.com/ja-jp/dotnet/core/install/windows?tabs=net80&pivots=os-macos> を参照してください。

.NET Core 1.0 を使用している場合、.NET Core は [OpenSSL を macOS で使用](#) します。この OpenSSL は別個にインストールする必要がある依存関係です。OpenSSL は、バージョン 1.0.1 で TLS 1.2 のサポートを追加し、バージョン 1.1.1 で TLS 1.3 のサポートを追加しました。。

Linux

Linux 上の .NET コアには OpenSSL が必要です。OpenSSL は、多くの Linux ディストリビューションにバンドルされていますが、別個にインストールすることもできます。OpenSSL は、バージョン 1.0.1 で TLS 1.2 のサポートを追加し、バージョン 1.1.1 で TLS 1.3 のサポートを追加しました。最新バージョンの .NET Core (2.1 以降) を使用していて、パッケージマネージャーをインストールしている場合は、通常、最新バージョンの OpenSSL がインストール済みです。

これを調べるには、ターミナルで **openssl version** を実行し、バージョンが 1.0.1 より新しいことを確認します。

特定のランタイムライブラリまたは .NET Framework の最小バージョンが必要です。

新しいバージョンの .NET Framework (4.7 以降) と新しいバージョンの Windows (クライアントの場合は Windows 8 以上、サーバーの場合は Windows Server 2012 以降) を実行している場合、TLS 1.2 はデフォルトで有効化され、使用されています。

オペレーティングシステム設定 (.NET Framework 3.5 ~ 4.5.2) を使用しない .NET Framework ランタイムを使用している場合、AWS SDK for .NET はサポートされているプロトコルに [TLS 1.1 および TLS 1.2 のサポートを追加](#) しようとします。.NET Framework 3.5 を使用している場合、これが成功するのは、次のように適切なホットパッチがインストールされている場合のみです。

- Windows 10 バージョン 1511 および Windows Server 2016 – [KB3156421](#)
- Windows 8.1 および Windows Server 2012 R2 – [KB3154520](#)
- Windows Server 2012 – [KB3154519](#)
- Windows 7 SP1 および Server 2008 R2 SP1 – [KB3154518](#)

⚠ Warning

2024 年 8 月 15 日以降、AWS SDK for .NET は .NET Framework 3.5 のサポートを終了し、.NET Framework の最小バージョンを 4.7.2 に変更します。詳細については、ブログ記事「[Important changes coming for .NET Framework 3.5 and 4.5 targets of the AWS SDK for .NET](#)」を参照してください。

アプリケーションを Windows 7 SP1 または Windows Server 2008 R2 SP1 上の新しい .NET Framework で実行している場合は、レジストリで TLS 1.2 のサポートが有効になっていることを確認する必要があります。詳細については、<https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows-server/security/tls/tls-registry-settings#tls-12> を参照してください。新しいバージョンの Windows の場合、これは [デフォルトで有効](#) になっています。

.NET Framework で TLS を使用するための詳細なベストプラクティスについては、Microsoft の記事 (<https://learn.microsoft.com/ja-jp/dotnet/framework/network-programming/tls>) を参照してください。

AWS Tools for PowerShell

[AWS Tools for PowerShell](#) AWS サービスへのすべての呼び出し AWS SDK for .NET に を使用します。環境の動作は、次のように、実行している Windows PowerShell のバージョンによって異なります。

Windows PowerShell 2.0 ~ 5.x

Windows PowerShell 2.0 ~ 5.x は .NET Framework で実行します。どの .NET ランタイム (2.0 または 4.0) が PowerShell で使用されているかは、次のコマンドで確認できます。

```
$PSVersionTable.CLRVersion
```

- .NET ランタイム 2.0 を使用している場合は、AWS SDK for .NET および .NET Framework 3.5 に関する前述の手順に従います。

⚠ Warning

2024 年 8 月 15 日以降、AWS SDK for .NET は .NET Framework 3.5 のサポートを終了し、.NET Framework の最小バージョンを 4.7.2 に変更します。詳細については、ブログ

記事「[Important changes coming for .NET Framework 3.5 and 4.5 targets of the AWS SDK for .NET](#)」を参照してください。

- .NET ランタイム 4.0 を使用している場合は、AWS SDK for .NET および .NET Framework 4+ に関する前述の手順に従います。

Windows PowerShell 6.0

Windows PowerShell 6.0 以降は、.NET Core で実行します。どのバージョンの .NET Core が使用されているかは、次のコマンドで確認できます。

```
[System.Reflection.Assembly]::GetEntryAssembly().GetCustomAttributes([System.Runtime.Versioning.FrameworkName], $true).FrameworkName
```

AWS SDK for .NET および .NET Core の関連バージョンについては、前述の手順に従ってください。

Xamarin

Xamarin については、<https://learn.microsoft.com/ja-jp/xamarin/cross-platform/app-fundamentals/transport-layer-security> の手順を参照してください。要約は、以下のとおりです。

Android の場合

- Android 5.0 以降が必要です。
- [プロジェクトのプロパティ]、[Android のオプション]: [HttpClient 実装] を [Android] に設定し、[SSL/TLS 実装] を [Native TLS 1.2+] に設定する必要があります。

iOS の場合

- iOS 7 以降が必要です。
- [プロジェクトのプロパティ]、[iOS ビルド]: [HttpClient 実装] を [NSURLSession] に設定する必要があります。

macOS の場合

- macOS 10.9 以降が必要です。

- [プロジェクトのオプション]、[ビルド]、[Mac ビルド]: [HttpClient 実装] を [NSURLSession] に設定する必要があります。

Unity

Unity 2018.2 以降を使用し、.NET 4.x Equivalent スクリプティングランタイムを使用する必要があります。これを設定するには、[Project Settings]、[Configuration]、[Player] の順に選択します。詳細については、<https://docs.unity3d.com/2019.1/Documentation/Manual/ScriptingRuntimeUpgrade.html> を参照してください。.NET 4.x Equivalent スクリプティングランタイムは、Mono または IL2CPP を実行するすべての Unity プラットフォームで TLS 1.2 のサポートを有効にします。

ブラウザ (Blazor WebAssembly 用)

WebAssembly は、サーバー上ではなくブラウザで実行され、ブラウザを使用して HTTP トラフィックを処理します。したがって、TLS のサポートはブラウザのサポートによって決まります。

Blazor WebAssembly は、ASP.NET Core 3.1 のプレビューで、<https://learn.microsoft.com/en-us/aspnet/core/blazor/supported-platforms> で説明されているように、WebAssembly をサポートするブラウザでのみサポートされています。すべてのメインストリームブラウザは、WebAssembly をサポートする前に TLS 1.2 をサポートしていました。これに該当するブラウザの場合、アプリを実行すると、アプリは TLS 1.2 経由で通信できます。

詳細と検証については、ブラウザのドキュメントを参照してください。

Amazon S3 暗号化クライアントの移行 (V1 から V2)

Note

V2 を使用していて V4 に移行する場合は、「」を参照してください [Amazon S3 暗号化クライアントの移行 \(V2 から V4\)](#)。

このトピックでは、アプリケーションで使用している Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) 暗号化クライアントをバージョン 1 (V1) からバージョン 2 (V2) に移行し、移行プロセス全体でアプリケーションの可用性を確保する方法について説明します。

V2 クライアントで暗号化されたオブジェクトは、V1 クライアントでは復号化できません。すべてのオブジェクトを一度に再暗号化する必要をなくして、新しいクライアントへの移行を容易にするため

に、「V1 移行用の」クライアントが提供されています。このクライアントは、V1 と V2 のどちらで暗号化されたオブジェクトでも復号化できますが、オブジェクトを暗号化する際には V1 互換形式のみを使用します。V2 クライアントは、(V1 オブジェクトのサポートが有効になっていれば) V1 と V2 のどちらで暗号化されたオブジェクトでも復号化できますが、オブジェクトの暗号化には V2 互換形式のみを使用します。

移行の概要

この移行は 3 つのフェーズを通じて行われます。各フェーズについては、後ほど詳しく説明します。次のフェーズを開始する前に、共有オブジェクトを使用するすべてのクライアントで各フェーズを完了させる必要があります。

1. 既存のクライアントを V1 移行用クライアントに更新して、新しい形式を読み取るようにします。最初にアプリケーションを更新して、V1 クライアントではなく V1 移行用クライアントに依存するようにします。V1 移行用クライアントを使用すると、新しい V2 クライアントで記述されたオブジェクトと V1 互換形式で記述されたオブジェクトを既存のコードで復号化できます。

Note

V1 移行用クライアントは、移行のみを目的として提供されています。V1 移行用クライアントに移行した後は、V2 クライアントへのアップグレードに進んでください。

2. V1 移行用クライアントを V2 クライアントに移行して、新しい形式を書き込むようにします。次に、アプリケーション内のすべての V1 移行用クライアントを V2 クライアントに置き換え、セキュリティプロファイルを V2AndLegacy に設定します。V2 クライアントでこのセキュリティプロファイルを設定すると、クライアントは V1 互換形式で暗号化されたオブジェクトを復号化できるようになります。
3. V2 クライアントを更新して V1 形式を読み取らないようにします。最後に、すべてのクライアントの V2 への移行が完了し、すべてのオブジェクトが V2 互換フォーマットで暗号化または再暗号化されたら、V2 セキュリティプロファイルを V2AndLegacy の代わりに V2 に設定します。こうすることで、V1 互換形式のオブジェクトが復号化されなくなります。

既存のクライアントを V1 移行用クライアントに更新して、新しい形式を読み取るようにする

V2 暗号化クライアントは、古いバージョンのクライアントではサポートされていない暗号化アルゴリズムを使用します。移行の最初のステップは、V1 復号化クライアントを更新して、新しい形式を読み取れるようにすることです。

V1 移行用クライアントを使用すると、V1 と V2 のどちらで暗号化されたオブジェクトでもアプリケーションで復号化できるようになります。このクライアントは、[Amazon.Extensions.S3.Encryption](#) NuGet パッケージの一部です。V1 移行用クライアントを使用するには、各アプリケーションで次の手順を実行します。

1. [Amazon.Extensions.S3.Encryption](#) パッケージへの新しい依存関係を構築します。プロジェクトが AWSSDK.S3 または AWSSDK.KeyManagementService パッケージに直接依存している場合は、これらの依存関係を更新または削除して、更新されたバージョンがこの新しいパッケージに取り込まれるようにする必要があります。
2. 該当する `using` ステートメントを、以下のように `Amazon.S3.Encryption` から `Amazon.Extensions.S3.Encryption` に変更します。

```
// using Amazon.S3.Encryption;  
using Amazon.Extensions.S3.Encryption;
```

3. アプリケーションを再構築して再デプロイします。

V1 移行用クライアントは V1 クライアントと完全に API 互換であるため、他のコード変更は必要ありません。

V1 移行用クライアントを V2 クライアントに移行して、新しい形式を書き込むようにする

V2 クライアントは、[Amazon.Extensions.S3.Encryption](#) NuGet パッケージの一部です。このクライアントを使用すると、V1 と V2 のどちらで暗号化されたオブジェクトでもアプリケーションで復号化できるようになりますが (そのように設定された場合)、オブジェクトの暗号化には V2 互換形式のみを使用します。

既存のクライアントを更新して新しい暗号化形式を読み取るようにした後で、アプリケーションが V2 暗号化および復号化クライアントを使用するように安全に更新できます。V2 クライアントを使用するには、各アプリケーションで次の手順を実行します。

1. `EncryptionMaterials` を `EncryptionMaterialsV2` に変更します。
 - a. KMS を使用する場合:
 - i. KMS キー ID を指定します。
 - ii. 使用している暗号化方法、すなわち `KmsType.KmsContext` を宣言します。
 - iii. このデータキーに関連付ける暗号化コンテキストを KMS に対して指定します。空の辞書を送信することはできますが (Amazon 暗号化コンテキストは引き続きマージされます)、追加のコンテキストを指定することをお勧めします。
 - b. ユーザー指定のキーラップ方式を使用する場合 (対称暗号化または非対称暗号化):
 - i. 暗号化マテリアルを含む AES または RSA インスタンスを指定します。
 - ii. 使用する暗号化アルゴリズム、すなわち `SymmetricAlgorithmType.AesGcm` または `AsymmetricAlgorithmType.RsaOaepSha1` を宣言します。
2. `AmazonS3CryptoConfiguration` を `AmazonS3CryptoConfigurationV2` に変更し、`SecurityProfile` プロパティを `SecurityProfile.V2AndLegacy` に設定します。
3. `AmazonS3EncryptionClient` を `AmazonS3EncryptionClientV2` に変更します。このクライアントは、前のステップで新たに変換された `AmazonS3CryptoConfigurationV2` および `EncryptionMaterialsV2` オブジェクトを受け取ります。

例: KMS から KMS+コンテキスト

移行前

```
using System.Security.Cryptography;
using Amazon.S3.Encryption;

var encryptionMaterial = new
    EncryptionMaterials("1234abcd-12ab-34cd-56ef-1234567890ab");
var configuration = new AmazonS3CryptoConfiguration()
{
    StorageMode = CryptoStorageMode.ObjectMetadata
};
var encryptionClient = new AmazonS3EncryptionClient(configuration, encryptionMaterial);
```

移行後

```
using System.Security.Cryptography;
```



```
using Amazon.Extensions.S3.Encryption;
using Amazon.Extensions.S3.Encryption.Primitives;

var encryptionContext = new Dictionary<string, string>();
var encryptionMaterial = new
    EncryptionMaterialsV2("1234abcd-12ab-34cd-56ef-1234567890ab", KmsType.KmsContext,
        encryptionContext);
var configuration = new AmazonS3CryptoConfigurationV2(SecurityProfile.V2AndLegacy)
{
    StorageMode = CryptoStorageMode.ObjectMetadata
};
var encryptionClient = new AmazonS3EncryptionClientV2(configuration,
    encryptionMaterial);
```

例: 対称アルゴリズム (AES-CBC から AES-GCM キーラップ)

StorageMode は ObjectMetadata または InstructionFile のいずれかになります。

移行前

```
using System.Security.Cryptography;
using Amazon.S3.Encryption;

var symmetricAlgorithm = Aes.Create();
var encryptionMaterial = new EncryptionMaterials(symmetricAlgorithm);
var configuration = new AmazonS3CryptoConfiguration()
{
    StorageMode = CryptoStorageMode.ObjectMetadata
};
var encryptionClient = new AmazonS3EncryptionClient(configuration, encryptionMaterial);
```

移行後

```
using System.Security.Cryptography;
using Amazon.Extensions.S3.Encryption;
using Amazon.Extensions.S3.Encryption.Primitives;

var symmetricAlgorithm = Aes.Create();
var encryptionMaterial = new EncryptionMaterialsV2(symmetricAlgorithm,
    SymmetricAlgorithmType.AesGcm);
var configuration = new AmazonS3CryptoConfigurationV2(SecurityProfile.V2AndLegacy)
{
```



```
StorageMode = CryptoStorageMode.ObjectMetadata
};
var encryptionClient = new AmazonS3EncryptionClientV2(configuration,
    encryptionMaterial);
```

Note

AES-GCM で復号化する場合は、復号化されたデータの使用を開始する前に、オブジェクト全体を最後まで読み取ってください。これは、オブジェクトが暗号化されていた時点から変更されていないことを確認するためのステップです。

例: 非対称アルゴリズム (RSA から RSA-OAEP-SHA1 キーラップ)

StorageMode は ObjectMetadata または InstructionFile のいずれかになります。

移行前

```
using System.Security.Cryptography;
using Amazon.S3.Encryption;

var asymmetricAlgorithm = RSA.Create();
var encryptionMaterial = new EncryptionMaterials(asymmetricAlgorithm);
var configuration = new AmazonS3CryptoConfiguration()
{
    StorageMode = CryptoStorageMode.ObjectMetadata
};
var encryptionClient = new AmazonS3EncryptionClient(configuration, encryptionMaterial);
```

移行後

```
using System.Security.Cryptography;
using Amazon.Extensions.S3.Encryption;
using Amazon.Extensions.S3.Encryption.Primitives;

var asymmetricAlgorithm = RSA.Create();
var encryptionMaterial = new EncryptionMaterialsV2(asymmetricAlgorithm,
    AsymmetricAlgorithmType.RsaOaepSha1);
var configuration = new AmazonS3CryptoConfigurationV2(SecurityProfile.V2AndLegacy)
{
    StorageMode = CryptoStorageMode.ObjectMetadata
```

```
};  
var encryptionClient = new AmazonS3EncryptionClientV2(configuration,  
    encryptionMaterial);
```

V2 クライアントを更新して V1 形式を読み取らないようにする

最終的に、すべてのオブジェクトが V2 クライアントを使用して暗号化または再暗号化されます。この変換が完了した後、次のスニペットに示すように SecurityProfile プロパティを SecurityProfile.V2 として、V2 クライアントの V1 互換性を無効にできます。

```
//var configuration = new AmazonS3CryptoConfigurationV2(SecurityProfile.V2AndLegacy);  
var configuration = new AmazonS3CryptoConfigurationV2(SecurityProfile.V2);
```

Amazon S3 暗号化クライアントの移行 (V2 から V4)

Note

V1 を使用していて V4 に移行する場合は、まず V2 に移行する必要があります。「[Amazon S3 暗号化クライアントの移行 \(V1 から V2\)](#)」を参照してください。

このトピックでは、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) 暗号化クライアントのバージョン 2 (V2) からバージョン 4 (V4) にアプリケーションを移行し、移行プロセス全体でアプリケーションの可用性を確保する方法について説明します。V4 は、AES-GCM をコンテンツ暗号化のキーコミットメントとして使用し、コミットメントポリシーを導入して、キー置換攻撃に対するセキュリティを強化します。

V4 クライアントは、[Amazon.Extensions.S3.Encryption](#) NuGet パッケージで使用できます。

Important

重大な変更: REQUIRE_ENCRYPT_REQUIRE_DECRYPT ポリシーで設定された V4 クライアントは V1 または V2 クライアントで暗号化されたオブジェクトを復号できません。キーコミットメントを使用して V4 で暗号化されたオブジェクトを復号できるのは、最新の V2 クライアントのみです。V4-encrypted REQUIRE_ENCRYPT_REQUIRE_DECRYPT ポリシーに移行する前に、キーコミットメントが有効になっている V4 クライアントを使用して既存のデータをすべて再暗号化する必要があります。

V4 の概念について

V4 は、AES-GCM をコンテンツ暗号化のキーコミットメントとして使用し、暗号化されたデータの保護を強化する主要なセキュリティ概念を紹介します。

コミットメントポリシー

コミットメントポリシーは、暗号化および復号オペレーション中に暗号化クライアントがキーコミットメントを処理する方法を制御します。V4 は 3 つのコミットメントポリシーをサポートしています。

FORBID_ENCRYPT_ALLOW_DECRYPT

暗号化: コミットメントなし

復号: コミットされていないオブジェクトを許可する

セキュリティ: コミットメントを強制せず、改ざんを許可する場合があります

互換性: すべての V2 および V4 実装は、このポリシーで暗号化されたオブジェクトを読み取ることができます

REQUIRE_ENCRYPT_ALLOW_DECRYPT

暗号化: キーコミットメントあり

復号: コミットするオブジェクトとコミットしないオブジェクトの両方を許可します

セキュリティ: 新しいオブジェクトはキー置換攻撃から保護され、古いオブジェクトは引き続き読み取り可能

互換性: V4 のみがこのポリシーをサポート

REQUIRE_ENCRYPT_REQUIRE_DECRYPT(V4 のデフォルト)

暗号化: キーコミットメントあり

復号: オブジェクトのみをコミットする

セキュリティ: セキュリティを最大化するための完全コミットメントの適用

互換性: V4 のみがこのポリシーをサポート

キーコミットメントを持つ AES GCM

V4 は、AES-GCM をコンテンツ暗号化のキーコミットメントとして使用し、セキュリティを強化します。

- 改ざん保護: 暗号化されたデータにキーを暗号化バインドすることで、キー置換攻撃から保護します。
- バージョンの互換性: キーコミットメントで暗号化されたオブジェクトは、V4 クライアント以降のバージョンでのみ復号できます。

Warning

本番環境でキーコミットメント暗号化を有効にする前に、オブジェクトの復号化が必要なすべてのアプリケーションが、V2 クライアントが廃止されるときに V4 以降にアップグレードされていることを確認してください。V2

既存のクライアントを更新して V4 形式を読み取る

V4 暗号化クライアントは、古いバージョンのクライアントがサポートしていない暗号化アルゴリズムを使用します。移行の最初のステップは、新しい V4 形式を読み取れるように V2 クライアントを更新することです。V4

NuGet パッケージの依存関係を更新する

V4 サポートを含む最新バージョンの [Amazon.Extensions.S3.Encryption](#) NuGet パッケージを使用するようにアプリケーションを更新します。各アプリケーションで次の手順を実行します。

1. 最新の [Amazon.Extensions.S3.Encryption](#) パッケージに更新します。プロジェクトが AWSSDK.S3 または AWSSDK.KeyManagementService パッケージに直接依存している場合は、これらの依存関係を更新または削除して、更新されたバージョンがこの新しいパッケージに取り込まれるようにする必要があります。
2. `using` ステートメントが正しい名前空間を参照していることを確認します。

```
using Amazon.Extensions.S3.Encryption;  
using Amazon.Extensions.S3.Encryption.Primitives;
```

3. アプリケーションを再構築して再デプロイします。

既存の V2 クライアントは、更新されたパッケージで引き続き動作し、V4 クライアントによって暗号化されたオブジェクトを復号できます (使用されるコミットメントポリシーによって異なります)。

アプリケーションの構築とデプロイ

NuGet パッケージの依存関係を更新した後:

1. すべての依存関係が正しく解決されるようにアプリケーションを構築します。
2. 開発環境でアプリケーションをテストして、既存の機能が引き続き機能することを確認します。
3. 更新されたアプリケーションを本番環境にデプロイします。

この更新により、既存の V2 クライアントは V4 クライアントによって暗号化されるオブジェクトを復号できるため、移行プロセス中の互換性が確保されます。

V4 クライアントへの移行

新しい暗号化形式を読み取るように既存のクライアントを更新した後、V4 暗号化および復号クライアントを使用するようにアプリケーションを安全に更新できます。V4 クライアントは、既存の暗号化されたオブジェクトとの互換性を維持しながら、キーコミットメントを通じてセキュリティを強化します。

4-Step移行プロセス

V2 から V4 への移行は、互換性とセキュリティを確保するための構造化された 4 ステップのプロセスに従います。各ステップは、次のステップに進む前にすべてのアプリケーションにデプロイする必要がある特定の設定を表します。

1. ステップ 0: V2 クライアント (開始点) - 既存の V2 実装
2. ステップ 1: V2 互換の V4 V2 - V2 互換の暗号化動作を維持しながら V4 クライアントに移行する V2-compatible
3. ステップ 2: キーコミットメント書き込み付き V4 - レガシーオブジェクトの復号化を許可しながら、キーコミットメントによる暗号化を開始する
4. ステップ 3: フルエンフォースメントを使用する V4 - 暗号化と復号の両方にキーコミットメントが必要です

ステップ 0: V2 クライアント (開始点)

これは、既存の V2 クライアント設定を表します。このステップでは、移行前の開始状態を示します。

```
using Amazon.Extensions.S3.Encryption;
using Amazon.Extensions.S3.Encryption.Primitives;
using Amazon.S3.Model;

// Step 0: V2 Client - Starting configuration
var encryptionContext = new Dictionary<string, string>();
var encryptionMaterial = new EncryptionMaterialsV2(kmsKeyId, KmsType.KmsContext,
    encryptionContext);

#pragma warning disable 0618
var configuration = new AmazonS3CryptoConfigurationV2(SecurityProfile.V2);
#pragma warning enable 0618

var encryptionClient = new AmazonS3EncryptionClientV2(configuration,
    encryptionMaterial);

// Use the client for PutObject and GetObject operations
await encryptionClient.PutObjectAsync(new PutObjectRequest
{
    BucketName = bucket,
    Key = objectKey,
    ContentBody = content
});
```

ステップ 1: V2 互換の V4 V2

V2 と同じ動作を維持しながら、V2V4 クライアントに移行します。このステップでは、FORBID_ENCRYPT_ALLOW_DECRYPTポリシーを使用してコミットメントなしで暗号化し、すべてのオブジェクトの復号を許可します。

```
using Amazon.Extensions.S3.Encryption;
using Amazon.Extensions.S3.Encryption.Primitives;
using Amazon.S3.Model;

// Step 1: V4 Client with V2 compatibility
var encryptionContext = new Dictionary<string, string>();
```

```
var encryptionMaterial = new EncryptionMaterialsV4(kmsKeyId, KmsType.KmsContext,
    encryptionContext);

var configuration = new AmazonS3CryptoConfigurationV4(
    SecurityProfile.V4,
    CommitmentPolicy.FORBID_ENCRYPT_ALLOW_DECRYPT,
    ContentEncryptionAlgorithm.AesGcm);

var encryptionClient = new AmazonS3EncryptionClientV4(configuration,
    encryptionMaterial);

// Use the client for PutObject and GetObject operations
await encryptionClient.PutObjectAsync(new PutObjectRequest
{
    BucketName = bucket,
    Key = objectKey,
    ContentBody = content
});
```

動作: コミットメントなしで暗号化し、コミットしているオブジェクトとコミットしていないオブジェクトの両方を復号できます。V2 の動作と同じです。

ステップ 2: キーコミットメント書き込みを含む V4

復号の下位互換性を維持しながら、キーコミットメントによる暗号化を開始します。このステップでは、`REQUIRE_ENCRYPT_ALLOW_DECRYPT`ポリシーを使用します。

Warning

ステップ 2 をデプロイする前に、キーコミットメントの暗号化を処理するために、すべてのリーダーがステップ 1 以降に更新されていることを確認します。

```
using Amazon.Extensions.S3.Encryption;
using Amazon.Extensions.S3.Encryption.Primitives;
using Amazon.S3.Model;

// Step 2: V4 Client with key commitment writes
var encryptionContext = new Dictionary<string, string>();
var encryptionMaterial = new EncryptionMaterialsV4(kmsKeyId, KmsType.KmsContext,
    encryptionContext);
```

```
var configuration = new AmazonS3CryptoConfigurationV4(
    SecurityProfile.V4,
    CommitmentPolicy.REQUIRE_ENCRYPT_ALLOW_DECRYPT,
    ContentEncryptionAlgorithm.AesGcmWithCommitment);

var encryptionClient = new AmazonS3EncryptionClientV4(configuration,
    encryptionMaterial);

// Use the client for PutObject and GetObject operations
await encryptionClient.PutObjectAsync(new PutObjectRequest
{
    BucketName = bucket,
    Key = objectKey,
    ContentBody = content
});
```

動作: コミットメントで暗号化し、コミットしているオブジェクトとコミットしていないオブジェクトの両方を復号できます。新しいオブジェクトは、キー置換攻撃から保護されます。

ステップ 3: フルエンフォースメントを使用する V4

暗号化と復号の両方にキーコミットメントが必要です。このステップでは、セキュリティを最大化するために REQUIRE_ENCRYPT_REQUIRE_DECRYPT ポリシーを使用します。

Warning

ステップ 3 をデプロイする前に、システム内のすべてのオブジェクトがキーコミットメントで再暗号化されていることを確認します (ステップ 2)。このステップでは、コミットメントなしで暗号化されたオブジェクトの復号に失敗します。

```
using Amazon.Extensions.S3.Encryption;
using Amazon.Extensions.S3.Encryption.Primitives;
using Amazon.S3.Model;

// Step 3: V4 Client with full key commitment enforcement
var encryptionContext = new Dictionary<string, string>();
var encryptionMaterial = new EncryptionMaterialsV4(kmsKeyId, KmsType.KmsContext,
    encryptionContext);
```



```
var configuration = new AmazonS3CryptoConfigurationV4(
    SecurityProfile.V4,
    CommitmentPolicy.REQUIRE_ENCRYPT_REQUIRE_DECRYPT,
    ContentEncryptionAlgorithm.AesGcmWithCommitment);

var encryptionClient = new AmazonS3EncryptionClientV4(configuration,
    encryptionMaterial);

// Use the client for PutObject and GetObject operations
await encryptionClient.PutObjectAsync(new PutObjectRequest
{
    BucketName = bucket,
    Key = objectKey,
    ContentBody = content
});
```

動作: コミットメントで暗号化し、コミットメントで暗号化されたオブジェクトのみを復号します。キー置換攻撃に対する最大セキュリティ。

その他の設定例

このセクションでは、移行中にさまざまなオプションを使用して V4 クライアントを設定するための追加の例を示します。

レガシーサポートの有効化

V4 クライアントが V1 および V2 クライアントによって暗号化されたオブジェクトを読み取れるようにするには、レガシー復号を許可するコミットメントポリシーでクライアントを設定します。

```
using Amazon.Extensions.S3.Encryption;
using Amazon.Extensions.S3.Encryption.Primitives;

// Configure V4 client to read V1/V2 objects
var configuration = new
    AmazonS3CryptoConfigurationV4(CommitmentPolicy.REQUIRE_ENCRYPT_ALLOW_DECRYPT)
{
    StorageMode = CryptoStorageMode.ObjectMetadata
};

// This configuration allows:
// - Encryption: With commitment (secure)
// - Decryption: Both V2 (non-committing) and V4 (committing) objects
```

新しいオブジェクトのセキュリティを強化して暗号化しながら、古いクライアントによって暗号化されたオブジェクトを復号する必要がある場合は、移行時にこの設定を使用します。

ストレージ方法の設定

V4 は、暗号化メタデータの 2 つのストレージ方法をサポートしています。ユースケースに最適な方法を選択します。

オブジェクトメタデータ (デフォルト)

```
var configuration = new
    AmazonS3CryptoConfigurationV4(CommitmentPolicy.REQUIRE_ENCRYPT_ALLOW_DECRYPT)
{
    StorageMode = CryptoStorageMode.ObjectMetadata
};
// Encryption metadata is stored in S3 object metadata
```

指示ファイル

```
var configuration = new
    AmazonS3CryptoConfigurationV4(CommitmentPolicy.REQUIRE_ENCRYPT_ALLOW_DECRYPT)
{
    StorageMode = CryptoStorageMode.InstructionFile
};
// Encryption metadata is stored in a separate S3 object (instruction file)
```

他の目的でオブジェクトメタデータを保持InstructionFileする必要がある場合や、メタデータサイズに制限があるオブジェクトを操作する場合は、 を使用します。

コミットメントポリシーの設定

セキュリティ要件と移行フェーズに基づいて、適切なコミットメントポリシーを選択します。

移行フェーズ (V2 互換性)

```
// For migration: encrypt without commitment, allow all decryption
var migrationConfig = new
    AmazonS3CryptoConfigurationV4(CommitmentPolicy.FORBID_ENCRYPT_ALLOW_DECRYPT);
```

移行フェーズ (推奨)

```
// For transition: encrypt with commitment, allow legacy decryption
var transitionConfig = new
    AmazonS3CryptoConfigurationV4(CommitmentPolicy.REQUIRE_ENCRYPT_ALLOW_DECRYPT);
```

完全なセキュリティフェーズ

```
// For maximum security: require commitment for both encryption and decryption
var secureConfig = new
    AmazonS3CryptoConfigurationV4(CommitmentPolicy.REQUIRE_ENCRYPT_REQUIRE_DECRYPT);
```

最初の移行FORBID_ENCRYPT_ALLOW_DECRYPT中に から開始し、移行フェーズREQUIRE_ENCRYPT_ALLOW_DECRYPTのために に移動し、最後にすべてのクライアントがアップグレードされ、すべてのオブジェクトがコミットメントで再暗号化されたREQUIRE_ENCRYPT_REQUIRE_DECRYPTときに を使用します。

AWS SDK for .NET に関する特別な考慮事項

このセクションでは、通常の設定または手順が適切でないか、十分でない特殊なケースに関する考慮事項について説明します。

トピック

- [AWS SDK for .NET 用にアセンブリを入手する](#)
- [アプリケーションでの認証情報とプロファイルへのアクセス](#)
- [Unity のサポートに関する特別な考慮事項](#)
- [Xamarin のサポートに関する特別な考慮事項](#)

AWS SDK for .NET 用にアセンブリを入手する

このトピックでは、プロジェクトに使用するために、AWSSDK アセンブリを入手して、ローカル (またはオンプレミス) に保存する方法について説明します。この方法は、SDK リファレンスの処理には推奨されませんが、一部の環境では必須です。

Note

SDK リファレンスを処理するには、各プロジェクトで必要とされる NuGet パッケージのみをダウンロードしてインストールする方法が推奨されます。その方法については、「[NuGet を使用して AWSSDK パッケージをインストールする](#)」を参照してください。

プロジェクトごとに NuGet パッケージをダウンロードしてインストールできないか、許可されていない場合は、次のオプションを使用します。

ZIP ファイルをダウンロードして抽出する

(この方法は、AWS SDK for .NET のリファレンスを処理するために[推奨される方法](#)ではありません。)

1. 次の ZIP ファイルのいずれかをダウンロードします。

- [aws-sdk-net8.0.zip](#) – .NET 8 以降をサポートするアセンブリ。

- [aws-sdk-netcoreapp3.1.zip](#)-.NET Core 3.1 以降をサポートするアセンブリ。
- [aws-sdk-netstandard2.0.zip](#)-.NET 標準 2.0 と 2.1 をサポートするアセンブリ。
- [aws-sdk-net45.zip](#)-.NET Framework 4.5 以降をサポートするアセンブリ。
- [aws-sdk-net35.zip](#)-.NET Framework 3.5 をサポートするアセンブリ。

 Warning

2024 年 8 月 15 日以降、AWS SDK for .NETは .NET Framework 3.5 のサポートを終了し、.NET Framework の最小バージョンを 4.7.2 に変更します。詳細については、ブログ記事「[Important changes coming for .NET Framework 3.5 and 4.5 targets of the AWS SDK for .NET](#)」を参照してください。

2. アセンブリをファイルシステム上の「ダウンロード」フォルダなどに展開します。場所は重要ではありません。このフォルダを書き留めます。
3. プロジェクトをセットアップしたら、「[NuGet を使用せずに AWSSDK アセンブリをインストールする](#)」の説明に従って、このフォルダから必要なアセンブリを取得します。

アプリケーションでの認証情報とプロファイルへのアクセス

認証情報を使用するための推奨方法は、「」で説明されているように、AWS SDK for .NET が認証情報を検索して取得できるようにすることで[認証情報とプロファイルの解決](#)。

ただし、プロファイルと認証情報をアクティブに取得し、AWS サービスクライアントの作成時にそれらの認証情報を明示的に使用するようアプリケーションを設定することもできます。

プロファイルと認証情報を能動的に取得するには、[Amazon.Runtime.CredentialManagement](#) 名前空間からクラスを使用します。

- AWS 認証情報ファイル形式 ([デフォルトの場所にある共有 AWS 認証情報ファイル](#)またはカスタム認証情報ファイル) を使用するファイル内のプロファイルを検索するには、[SharedCredentialsFile](#) クラスを使用します。簡潔にするために、本テキストではこの形式のファイルを単に認証情報ファイルと呼ぶ場合があります。
- SDK ストアでプロファイルを検索するには、[NetSDKCredentialsFile](#) クラスを使用します。
- 認証情報ファイルと SDK ストアの両方で検索するには、クラスプロパティの設定に応じて[CredentialProfileStoreChain](#) クラスを使用します。

このクラスを使用して、プロファイルを検索できます。また、このクラスを使用して、[AWSCredentialsFactory](#) クラス (次に説明) を使用する代わりに AWS、認証情報を直接リクエストすることもできます。

- プロファイルからさまざまなタイプの認証情報を取得または作成するには、[AWSCredentialsFactory](#) クラスを使用します。

以下のセクションでは、これらのクラスの例を示します。

クラス [CredentialProfileStoreChain](#) の例

[TryGetAWSCredentials](#) または [TryGetProfile](#) メソッドを使用して、[CredentialProfileStoreChain](#) クラスから認証情報またはプロファイルを取得できます。クラスの [ProfilesLocation](#) プロパティにより、次のようにメソッドの動作が決まります。

- [ProfilesLocation](#) が null または空の場合、プラットフォームがサポートしている場合は SDK ストアを検索し、デフォルトの場所で共有 AWS 認証情報ファイルを検索します。
- [ProfilesLocation](#) プロパティに値が含まれている場合は、プロパティで指定された認証情報ファイルを検索します。

SDK ストアまたは共有認証情報ファイルから AWS 認証情報を取得する

この例では、[CredentialProfileStoreChain](#) クラスを使用して認証情報を取得した後、その認証情報を使用して [AmazonS3Client](#) オブジェクトを作成する方法を示しています。認証情報は、SDK ストアまたはデフォルトの場所にある共有 AWS 認証情報ファイルから取得できます。

この例では、[Amazon.Runtime.AWSCredentials](#) クラスも使用します。

```
var chain = new CredentialProfileStoreChain();
AWSCredentials awsCredentials;
if (chain.TryGetAWSCredentials("some_profile", out awsCredentials))
{
    // Use awsCredentials to create an Amazon S3 service client
    using (var client = new AmazonS3Client(awsCredentials))
    {
        var response = await client.ListBucketsAsync();
        Console.WriteLine($"Number of buckets: {response.Buckets.Count}");
    }
}
```

SDK ストアまたは共有 AWS 認証情報ファイルからプロファイルを取得する

この例では、`CredentialProfileStoreChain` クラスを使用してプロファイルを取得する方法を示しています。認証情報は SDK ストアから取得することも、デフォルトの場所にある共有 AWS 認証情報ファイルから取得することもできます。

この例では、[CredentialProfile](#) クラスも使用します。

```
var chain = new CredentialProfileStoreChain();
CredentialProfile basicProfile;
if (chain.TryGetProfile("basic_profile", out basicProfile))
{
    // Use basicProfile
}
```

カスタム認証情報ファイルからの認証情報の取得

この例では、`CredentialProfileStoreChain` クラスを使用して認証情報を取得する方法を示しています。認証情報は、AWS 認証情報ファイル形式を使用するが、別の場所にあるファイルから取得されます。

この例では、[Amazon.Runtime.AWSCredentials](#) クラスも使用します。

```
var chain = new
    CredentialProfileStoreChain("c:\\Users\\sdkuser\\customCredentialsFile.ini");
AWSCredentials awsCredentials;
if (chain.TryGetAWSCredentials("basic_profile", out awsCredentials))
{
    // Use awsCredentials to create an AWS service client
}
```

クラス SharedCredentialsFile と AWSCredentialsFactory の例

SharedCredentialsFile クラスを使用した AmazonS3Client の作成

この例では、共有 AWS 認証情報ファイルでプロファイルを検索し、プロファイルから認証情報を作成し AWS、その認証情報を使用して [AmazonS3Client](#) オブジェクトを作成する方法を示します。この例では、[SharedCredentialsFile](#) クラスを使用します。

この例では、[CredentialProfile](#) クラスと [Amazon.Runtime.AWSCredentials](#) クラスも使用します。

```
CredentialProfile basicProfile;
AWSCredentials awsCredentials;
var sharedFile = new SharedCredentialsFile();
if (sharedFile.TryGetProfile("basic_profile", out basicProfile) &&
    AWSCredentialsFactory.TryGetAWSCredentials(basicProfile, sharedFile, out
    awsCredentials))
{
    // use awsCredentials to create an Amazon S3 service client
    using (var client = new AmazonS3Client(awsCredentials, basicProfile.Region))
    {
        var response = await client.ListBucketsAsync();
        Console.WriteLine($"Number of buckets: {response.Buckets.Count}");
    }
}
```

Note

[NetSDKCredentialsFile](#) クラスは、SharedCredentialsFile オブジェクトの代わりに新しい NetSDKCredentialsFile オブジェクトをインスタンス化する点を除けば、まったく同じ方法で使用できます。

Unity のサポートに関する特別な考慮事項

Unity アプリケーションに AWS SDK for .NET および [.NET Standard 2.0](#) を使用する際、アプリケーションは、NuGet を使用せず、AWS SDK for .NET アセンブリ (DLL ファイル) を直接参照します。この要件を考慮すると、実行する必要がある重要なアクションは次のとおりです。

- AWS SDK for .NET アセンブリを取得して、プロジェクトに適用する必要があります。これを行う方法については、トピック「[AWSSDK アセンブリを入手する](#)」の「[ZIP ファイルをダウンロードして抽出する](#)」を参照してください。
- AWSSDK.Core および使用する AWS サービスの DLL と同時に、Unity プロジェクトに次の DLL を含める必要があります。バージョン 3.5.109 の AWS SDK for .NET から開始すると、.NET Standard の ZIP ファイルにこれらの追加 DLL が含まれています。
 - [Microsoft.Bcl.AsyncInterfaces.dll](#)
 - [system.runtime.CompilerServices.unsafe.dll](#)

- [system.tasks.Extensions.dll](#)
- [IL2CPP](#) を使用して Unity プロジェクトをビルドする場合、コードのストリッピングが行われないようにするため、link.xml ファイルをアセットフォルダに追加する必要があります。link.xml ファイルには、使用しているすべての AWSSDK アセンブリがリストされている必要があり、各アセンブリには preserve="all" 属性が含まれている必要があります。以下のスニペットは、このファイルの例です。

```
<linker>
  <assembly fullname="AWSSDK.Core" preserve="all"/>
  <assembly fullname="AWSSDK.DynamoDBv2" preserve="all"/>
  <assembly fullname="AWSSDK.Lambda" preserve="all"/>
</linker>
```

Note

この要件に関連する重要な背景情報については、<https://aws.amazon.com/blogs/developer/referencing-the-aws-sdk-for-net-standard-2-0-from-unity-xamarin-or-uwp/> の記事を参照してください。

これらの特別な考慮事項に加えて、バージョン 3.5 の AWS SDK for .NET への Unity アプリケーションの移行については、[バージョン 3.5 の変更点](#) を参照してください。

Xamarin のサポートに関する特別な考慮事項

Xamarin プロジェクト (新規および既存) は、.NET Standard 2.0 を対象とする必要があります。

「[Xamarin.Forms での .NET Standard 2.0 のサポート](#)」および「[.NET 実装サポート](#)」を参照してください。

「[ポータブルクラスライブラリと Xamarin](#)」の情報も参照してください。

AWS SDK for .NET 用の API リファレンス。

AWS SDK for .NET は、AWS サービスにアクセスするために使用する API を提供します。API で使用できるクラスとメソッドを確認するには、[AWS SDK for .NET API リファレンス](#)を参照してください。

上記の全般的なリファレンスに加えて、[ガイダンス付きのコード例](#) セクションの以下の各例には、その例で使用されている特定のメソッドとクラスのリファレンスが含まれています。

API リファレンスのバージョンについて

前述の API リファレンスは、AWS SDK for .NETのバージョン 3.0 以降用です。

古いバージョンの SDK からの移行については、「[プロジェクトを移行する](#)」を参照してください。

以前のバージョンの SDK API リファレンスの廃止された内容については、以下の項目を参照してください。

- [AWS SDK for .NETAPI リファレンス V1 \(廃止\)](#)
- [AWS SDK for .NETAPI リファレンス V2 \(廃止\)](#)

廃止された AWS SDK for .NETAPI リファレンスを表示するには、それを抽出してウェブブラウザを設定する必要があります。次に示す手順は、これを行う方法の例です。これらは、Windows システムで Google Chrome ウェブブラウザを使用することに基づいています。特定のウェブブラウザとオペレーティングシステムに適応させます。

廃止された API リファレンス V1 を表示する

1. 廃止された AWS SDK for .NETAPI リファレンス V1 の ZIP ファイルをダウンロードします。デフォルトでは、ZIP ファイルの名前は sdkfornet-api-ref_v1_deprecated.zip です。この名前は、これらの手順全体で使用されます。
2. ZIP ファイルを任意のフォルダに配置します。これらの手順では、フォルダ名は C:\work\temp\api-refs\V1 と仮定されています。
3. ZIP ファイルを右クリックして、[すべて展開] を選択します。デフォルトの場所 (これらの手順では C:\work\temp\api-refs\V1\sdkfornet-api-ref_v1) を受け入れます。

4. C:\work\temp\api-refs\V1 フォルダに Google Chrome のショートカットを作成します。元のアプリケーションを移動しないように注意してください。
5. 新しいショートカットのプロパティで、以下のフィールドを設定します。
 - ターゲット: "*<path to the Google Chrome application>*" --disable-web-security --user-data-dir=C:\work\temp\api-refs\V1\data "C:\work\temp\api-refs\V1\sdkfornet-api-ref_v1\Index.html"
 - user-data-dir 引数には、環境に適したフォルダ名を使用します。フォルダが存在する必要はありません。
 - 開始: C:\work\temp\api-refs\V1
6. ショートカットに適切な名前を付けます。
7. ショートカットを開いて、古い API リファレンスを表示します。

廃止された API リファレンス V2 を表示する

1. 廃止された AWS SDK for .NET API リファレンス V2 の ZIP ファイルをダウンロードします。デフォルトでは、ZIP ファイルの名前は sdkfornet-api-ref_v2_deprecated.zip です。この名前は、これらの手順全体で使用されます。
2. ZIP ファイルを任意のフォルダに配置します。これらの手順では、フォルダ名は C:\work\temp\api-refs\V2 と仮定されています。
3. ZIP ファイルを右クリックして、[すべて展開] を選択します。デフォルトの場所 (これらの手順では C:\work\temp\api-refs\V2\sdkfornet-api-ref_v2) を受け入れます。
4. C:\work\temp\api-refs\V2 フォルダに Google Chrome のショートカットを作成します。元のアプリケーションを移動しないように注意してください。
5. 新しいショートカットのプロパティで、以下のフィールドを設定します。
 - ターゲット: "*<path to the Google Chrome application>*" --disable-web-security --user-data-dir=C:\work\temp\api-refs\V2\data "C:\work\temp\api-refs\V2\sdkfornet-api-ref_v2\Index.html"
 - user-data-dir 引数には、環境に適したフォルダ名を使用します。フォルダが存在する必要はありません。
 - 開始: C:\work\temp\api-refs\V2
6. ショートカットに適切な名前を付けます。

7. ショートカットを開いて、古い API リファレンスを表示します。

ドキュメント履歴

次の表は、AWS SDK for .NET デベロッパーガイドの前回リリースからの重要な変更点をまとめたものです。このドキュメントの更新に関する通知については、[RSS フィード](#)を購読してください。

変更	説明	日付
最新情報	.NET CLI 用の AWS デプロイツールのバージョン 2.0 に関する注記を追加しました。	2025 年 10 月 17 日
AWS OpsWorks	AWS OpsWorks がサポート終了になりました。ドキュメントから削除されました。	2025 年 9 月 16 日
最新情報	の V3 End-of-supportが発表されました AWS SDK for .NET。	2025 年 8 月 21 日
メッセージ処理フレームワーク	AWS Message Processing Framework for .NET が一般公開されました。	2025 年 5 月 5 日
最新情報	のバージョン 4 AWS SDK for .NET は一般利用可能です。詳細については、「 AWS SDK for .NET (V4) デベロッパーガイド 」、特に「 バージョン 4 への移行 」に関するトピックを参照してください。	2025 年 4 月 28 日
再試行とタイムアウト	非同期メソッド呼び出しにおける CancellationToken を使用したメソッドごとのタイムアウトに関する情報を含めました。	2025 年 4 月 9 日

[での .NET Aspire AWS との統合 AWS SDK for .NET](#)

AWS が .NET ASPIRE とどのように統合されているかに関する情報を に含めました AWS SDK for .NET。

2025 年 2 月 15 日

[可観測性](#)

オブザーバビリティに関する GA リリースを発表しました。

2025 年 2 月 10 日

[最新情報](#)

整合性保護のための新しいデフォルト動作に関する情報を追加しました。

2025 年 1 月 15 日

[S3 暗号化クライアント V4 の移行](#)

V2 から V4 への移行に関する情報を追加しました。

2024 年 12 月 9 日

[最新情報](#)

AWS SDK for .NET バージョン 4 の 4 番目のプレビューリリースに関する情報を追加しました。

2024 年 11 月 15 日

[可観測性](#)

にオブザーバビリティに関するプレビュー情報を追加しました。これにより AWS SDK for .NET、テレメトリデータの収集が可能になります。

2024 年 9 月 13 日

[の API リファレンス AWS SDK for .NET](#)

V1 および V2 の AWS SDK for .NET API リファレンスは廃止されました。この廃止に関する情報と、廃止されたリファレンスを取得して表示する方法について説明します。

2024 年 9 月 4 日

[最新情報](#)

AWS SDK for .NET バージョン 4 の最初のプレビューリリースに関する情報を追加しました。

2024 年 8 月 16 日

最新情報	.NET Framework サポートの今後の変更に関する情報を更新しました。	2024 年 6 月 20 日
最新情報	AWS Message Processing Framework for .NET のプレビューリリースに関する情報を追加しました。	2024 年 3 月 28 日
最新情報	.NET 8 のサポートに関する情報を含めました。	2024 年 2 月 23 日
最新情報	.NET Framework サポートの今後の変更に関する情報を含めました。	2024 年 2 月 18 日
AWSSDK アセンブリを入手する	.NET 8 以降をサポートするアセンブリに関する情報を含めました。	2024 年 1 月 8 日
AWS .NET のメッセージ処理フレームワーク	Message Processing Framework のベータリリリースに関する情報を含めました。	2023 年 12 月 10 日
Amazon DynamoDB NoSQL データベースの使用	ドキュメントとオブジェクト永続性プログラミングモデルに関する情報が更新されました。コールドスタートやスレッドプールの動作に起因する特定のレイテンシーやデッドロック状態を防ぐことができるようになりました。	2023 年 11 月 15 日

IAM ベストプラクティスの更新をさらに追加	IAM ベストプラクティスに沿ってガイドを更新しました。詳細については、「 IAM でのセキュリティのベストプラクティス 」を参照してください。	2023 年 10 月 5 日
AWSSDK アセンブリを入手する	廃止された AWS Tools for Windows インストーラ (つまり MSI) AWS SDK for .NET を使用して をインストールする情報を削除しました。	2023 年 9 月 25 日
IAM ベストプラクティスの更新	IAM ベストプラクティスに沿ってガイドを更新しました。詳細については、「 IAM でのセキュリティのベストプラクティス 」を参照してください。	2023 年 7 月 18 日
Lambda Annotations	AWS Lambda Annotations フレームワークが一般公開されました。	2023 年 7 月 17 日
最新情報	DynamoDB の分散キャッシュプロバイダのプレビューリリースに関する情報を追加しました。	2023 年 7 月 15 日
目次	目次が更新され、コード例が見つけやすくなりました。	2023 年 6 月 8 日
リージョン解像度	不足しているリージョン仕様を SDK が解決する方法についての情報を追加しました。	2023 年 3 月 14 日

MSI のSupport	AWS Tools for Windows インストーラのサポート終了に関する注意を追加しました。	2023 年 3 月 6 日
Lambda Annotations (プレビュー)	Annotations AWS Lambda フレームワークのプレビュー。	2022 年 9 月 22 日
アプリケーションを にデプロイする AWS	メインコンテンツを GitHub Pages サイト https://aws.github.io/aws-dotnet-deploy/ に移動しました	2022 年 6 月 28 日
EC2-Classic の廃止	EC2-Classic の廃止に関する注記を追加しました。	2022 年 4 月 13 日
を使用したシングルサインオン AWS SDK for .NET	AWS SDK for .NETを使用する際のシングルサインオン (SSO)に関する情報を追加しました。	2022 年 3 月 17 日
最小 TLS バージョンの適用	TLS 1.3 に関する情報を追加しました。	2022 年 3 月 16 日
AWS サービスの使用	GitHub で利用できるコード例のリストを含めました。	2022 年 2 月 28 日
SDK メトリクスの有効化	廃止されたSDK メトリクスの有効化についての情報を削除しました。	2022 年 1 月 20 日
アプリケーションを にデプロイする AWS	デプロイツールと同様のデプロイ機能を提供する AWS Toolkit for Visual Studio へのリファレンスを追加しました。 AWS	2021 年 10 月 26 日

AWS SDK for .NET バージョン 3 ガイドの統合	2 つの AWS SDK for .NET バージョン 3 開発者ガイド「V3」と「最新」は、「v3」URL の 1 つのガイドに統合されました。	2021 年 8 月 18 日
.NET Standard 1.3 からの移行	での .NET Standard 1.3 のサポート AWS SDK for .NET は終了しました。	2021 年 3 月 25 日
アプリケーションを にデプロイする AWS (プレビュー)	.NET CLI からアプリケーションをデプロイするために使用できる AWS デプロイツールに関するプレビュー情報を追加しました。	2021 年 3 月 15 日
のバージョン 3.5 AWS SDK for .NET	のバージョン 3.5 AWS SDK for .NET がリリースされました。	2020 年 8 月 25 日
ページネーター	多くのサービスクライアントにページネーターが追加され、API の結果のページ分割がより便利になりました。	2020 年 8 月 24 日
再試行とタイムアウト	再試行モードに関する情報を追加しました。	2020 年 8 月 20 日
S3 暗号化用 KMS キーの使用	S3 暗号化クライアントのバージョン 2 の使用例を更新しました。	2020 年 8 月 6 日
.NET Standard 1.3 からの移行	2020 年末での .NET Standard 1.3 のサポート終了に関する情報を追加しました。	2020 年 5 月 18 日

[クイックスタート](#)

AWS SDK for .NETについて紹介するため、基本的なセットアップとチュートリアルを含むクイックスタートセクションが追加されました。

[TLS 1.2 の適用](#)

SDK で TLS 1.2 を適用する方法についての情報を追加しました。